生物一般における、
心理と社会。
人間への適用。

IWAO OTSUKA

目次

見かけの良さを好むこと。
生物嫌いの生物。人間嫌いの人。
生物嫌悪の思想。人間嫌悪の思想。
人間嫌いの人。彼は、何になりたいか？
人間嫌いの人。彼の生き方。
人間嫌いの人。彼の生きがい。
人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その方法。
人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その心がけ。
女性優位社会における、社会研究者の、無能性。
男性優位社会における、社会研究者の、無能性。
生物の心理。その光明性。その暗黒性。
生物が共通に持つ心理。生物が共通に持つ意思。
生物。人間。彼ら自身の生涯を光明性で満たす方法。
自分自身の生涯を光明に変えるには。
生命のバトン。生命のリレー。生物の運命。
生物の権利。生物の倫理。生物の宿命。
生物の義務。生きること。
感情。情動。生命維持との関連。
生物社会の人工的な生成。
生物の倫理。移動生活様式中心社会の場合。
生物にとっての理想。その実現は、不可能である。
総論。生物にとっての理想。生物の本質。その両者の関係。
生物の本質。それらの主要な内容。
生物にとっての理想。その実現が不可能であること。
生物にとっての理想郷。
生物にとっての理想と、その主唱。
生物にとっての理想。それが持つ、生物にとっての効果。
生物にとっての、理想と、現実。
人間の本質。生物の本質。その両者の間における、同質性。
人間の身体。生物の身体。男女の性差。その根本的な規定要因。
生物の維持。その実現のための、前提条件。
生物における、基本的欲求。生物における、基本的傾向。
生物にとっての、生きやすさ。その内容分類。
良い存在。良い生物。良い人。良い異性。その分類。
友だち。その分類。
本書の内容。その最終的な目的。
社会的真実についての情報。それを、著書として、公開すること。その行為が持つ、危険性。
機密情報の公開。社会的真実の解明との関連。

社会的真実を、取得すること。そのために必要な行為。
人間の本質に、迫ること。そのために必要な、考え方。
生物。遺伝的子孫の有無。恋愛の有無。結婚の有無。それらの、以下の内容の発生との関連。社会的な優劣。社会的な厚遇と冷遇。社会的な差別や虐待。
親と子供との関係。生物の本質との関連。
人生における、生殖の本質視と、その隠ぺい。人間における、そうした行為の発生。生物の本質との関連。
人間と、他の生物との間における、断絶や、根本的な相違。それらの主張の、移動生活様式との関連。
人間社会の現実。上位者と下位者との関係。人間の下位者が持つ、家畜的な性質。
人間社会の真実に、到達すること。その方法。
人間は、世界社会レベルにおいて、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、不可能である。
密の生物。疎の生物。密の人。疎の人。
差別。それは、生物や人間の本質である。
血縁関係の分類。血縁制度の分類。
通貨高社会。通貨安社会。
通貨。言語。物理キーボードの文字キー配列。それらの統一や不統一と、既得権益との関連。
生物にとっての、物語。
物語における、感動。その発生の要因。生物にとっての場合。
生物にとっての物語。その内容の分類。
表層。基層。深層。それらの概念の、生物の本質との関連。
救助。援助。福祉。搾取。生物の本質との関連。
生物にとっての、社会的な羨望の対象。生物は、社会的上位者になりたい。
家畜的社会関係。対等的社会関係。それらの生成。生物社会の本質。
生物による、エビデンスの提示。その限界。
生物。その純物質的な本質。その利己性。その革新性。それらの純物質レベルでの実現。
生物における、悪行。
生物の本質を突くこと。それは、生物にとって、不快である。
社会的真実の解明。その効果的な手法。
血統や品種と、生物の本質。
自己顕示欲と、生物の本質。
気候変動。地球温暖化。生物との関連。
生物と愛情。

生物と、所有や占有や私有。
生物の欲求。その存在の至高性の確認。
生物と社会性。
生物と、休息や睡眠。
生物と、殺傷と、護衛や保護。
生物と支配。
生物と、生きやすさと、政治や、法律や、経済。
生物の感情と、生きやすさ。
生物と、生きやすさと、負荷。
生物の本質に基づいた、儒教に対する考察。
生物の本質に基づいた、ユダヤ教やキリスト教やイスラム教に対する考察。
生物の本質に基づいた、仏教に対する考察。
生物倫理。その内容が目指すべき、真の方向性。
生物と、地球温暖化。
無能な生物と、外部社会。
社会的存在としての、生物。
生物における、同質性と異質性の確保。
生物の生存維持における、優先性。
社会的下位者と、生物の原罪。
生物社会と、革命や民主制。
生物と、有能性。
生物と、評価。
生物と、反省や内省。
生物と、攻撃や防御。
生物と種。
生態学。その内容の根本的な変革。その必要性。
生物の生体。その操作。その加工。それらは、生物固有の権利である。
生物と秩序。生物と法律。
生物学や生態学における、人間や生物に対する、視点。男性優位社会の場合。
生物と集団。
生物と既得権益。その、資本主義や社会主義との関連。従来のマルクス主義に対する批判。その代替案の提案。
生物の経済学と、生物社会の改革との関連。従来の人間の経済学の、超越。
生物の共同体。その形成の基盤としての、生物の間における、共通性と統合性の存在。気体的な共同体と、液体的な共同体。
生物における、社会的な、優位性や上位性。生物における、社

会的な、劣位性や下位性。
生物における、有能性。
生物における、社会思想史。
西欧や北米における、社会思想の、特徴。
中国における、社会思想の、特徴。
生きやすさの無償提供。製品の無償提供。そうした行為が、生物に対してもたらす、効果。
高需要の生きやすさの、供給。そうした行為が、生物に対してもたらす、効果。
社会における、生きやすさの蓄積の、促進要因。資本主義の促進要因。社会の近代化の要因。
社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。
M.Weber.
社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。
G.Simmel.
社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。
E.Durkheim.
周囲との同化を拒絶する、生物や人間。彼らを待ち受ける、苛酷な運命。
社会の近代化。そのプロセスの把握。
社会変動の要因。
上位者による、社会支配。下位者による、それに対する束縛。それらの是非。
生物と、社会的な禁忌。
生物における、民主主義の基本。

血縁関係。親子関係。それらの、生物にとっての、根本的な重要性。

生物における、血縁関係と親子関係。
血縁関係。それは、生物の社会の中心である。
親と子供。その分類。
母性と父性。母権と父権。
母性・父性と、女性性・男性性との関係
子供と母性・父性関係の３類型
父性・母性とドライさ・ウェットさとの関連
母性、父性と液体、気体
父性・母性と子供の養育
母性、父性スキルの世代間伝達
母性と"かわいさ"指向
母性的組織と父性的組織
母権社会と父権社会

父の掟、母の掟
母権社会と、父権社会。社会的温室性との関連。社会的代表性との関連。
母性的国家と父性的国家
愛国心の違いと父性、母性
近代的自我と父性・母性
父性・母性と民主主義
母性的、父性的な、住宅やオフィス
母性的職業、父性的職業
密着操作、遠隔操作と、母性、父性
相互監視社会と父性、母性
慈愛、厳しさと父性、母性
温室。温室社会。温室集団。
温室社会。温室集団。それらの定義。
温室性の確保と、それに伴う、代表性の回避。
温室の提供者と享受者。彼らの間の上下関係。
温室内部からの社会支配。
温室性の確保。男性優位社会に支配される、女性優位社会の場合。
調和。調和主義。調和社会。調和集団。それらの特徴。その総合的な分析。
調和。生物や人間による、その実現。その、社会的な理想化。生物の本質との関連。
調和社会。調和集団。それらについての、概観。
調和社会。調和集団。それらにおける、調和の崩壊。
不調和者。調和社会における、社会への不適応者。彼らの特徴。
調和者。調和社会における、社会への適応者。彼らの特徴。
調和社会における、調和集団。その特徴。
調和社会。調和者が引き起こす、不調和。それらの発生の原因。
調和社会。その生きにくさの要因。
調和者。彼らの行動原理。
調和社会。調和集団。調和を保つ、意思決定プロセス。
調和社会。調和集団。それらの内部における、調和の破壊。その発生要因。
調和社会。調和集団。それらの内部における、嫌がらせの発生。そのプロセス。
調和社会。調和集団。それらの内部における、不調和状態の解決。そのプロセス。

子孫を後世に残す上で、重要なこと。
失敗人生。
将来的に無効化される行為。それを、自発的に実行すること。
人生を消費すること。
人生における、その他の生きがい。
ITと子孫。
社会的な有名さと子孫。
世代内の記憶と、子孫。
遺伝的子孫と遺伝子の交配。
人生と、お金。
子孫が、ゴミになる問題。
子孫を残せない人の問題。
権利としての、子孫の残存。
生きがいと、物品の買い支え。
子孫残存と、能力の必要性。
生きがいと、生活スタイルとの関連。
人生において、最も大切なこと。
資源の所有と非所有。その利点と欠点。
資源所有者の利点と欠点。
資源非所有者の利点と欠点。
資源所有者と資源非所有者との関係。
富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。
富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。
社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。
社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。
生物の社会。社会的な上下関係。それらの決定要因。
社会的上位者。
社会的下位者。
国家の本質。生物の本質との関係。
本文。国家の本質。生物の本質との関係。
生物の神経系の、コンピューターシミュレーションによる、リアルな再現。心理学や社会学への応用。
生物の、神経系と精神と社会。
神経系の研究。その内容分類。
生物の心理学。
神経系と、生物の個体。
生物の神経系と、生物の魂。
神経系と、性差。
神経細胞の学習能力。神経細胞の可塑性。シナプスの学習。シナプスの可塑性。

生物における、神経系の、位置付け。
神経系の社会学。その、プログラミング技術による、研究の実現。
生物の神経回路の実装と、それによる、生物の神経系の社会行動の再現。そのために、クリアすべき、課題。
ミニマム神経系。
  ミニマム神経系の社会学。
  ミニマム神経系の構成要素。
生物の社会。生物の神経系。それらのシミュレーション。
  生物神経系や、生物社会の、人工的な生成。マイクロニューロコンピュータの生成と、相互作用。実動プログラムソースコード生成の実践。それらの手順の概要。
  作成が必要な、神経系のシミュレーションプログラムの内容。その作成に当たって、考慮すべき点。
  神経系への、機能の実装。
  神経系プログラミング。その手法。
  神経系プログラミング。その初期に決定すべき、内容。
  神経系プログラミング。その例題の設定。
  （参考）論理回路における、関数モジュール。
  神経系のプログラミング。その開発における、適格者。
  神経系のシミュレーション言語。
  神経系シミュレーション。その、マルチプロセッシングによる、実現。
  神経回路網の配線。それらの、設計とデバッグの、容易化。路線バスの路線系統図の転用。
  神経系の動きの基盤をなす、生物の根源的な行動。
  神経系における、神経回路以外の表現の、必要性。
  神経回路の設計図。その凡例。
  神経系における、環境との入出力。その設計。
  神経回路の学習機能の設計における、注意事項。
  神経回路における、入出力の自動調節の、必要性。
  神経回路における、入出力の自動調節。神経回路における、必要な、構成要素。
  ある神経系から、別の神経系への、神経回路のコピー。そのメカニズムの設計。
  生物の神経系における、反転出力を行う能力の、欠如。
  神経系における、敵と味方との区別。そのメカニズムの設計。
  神経回路のプログラミング。その最初期段階の、実現。
  神経系における、学習と忘却。それらの、プログラミング

による、実現。
神経系における、神経回路の新規創出。そのための、神経系自身による、試行錯誤。神経系における、思考。それらの、プログラミングによる、実現。
神経系における、新規の神経回路の、自動生成。そのプロセス。
生物における、資源の入手と、障害物の除去。それらの、神経回路プログラミングによる、実現。
神経回路の実装に必要な、基本的な神経回路の、モジュール化。それらの、基本的なライブラリとしての、整備。
神経回路の設計の、自動化。その必要性。
神経回路の設計における、最上位の概念。それらの設定の必要性。
神経系における、存在中の環境を入れ替える能力。神経系における、環境の中を移動する能力。それらの、実装。
神経系における、環境を変動させる能力。その、実装。
神経系における、環境に対して、刻印を、行い、残す、能力。その、実装。
神経系における、環境との間で、信号や記号をやり取りする、能力。その、実装。
環境における、神経系に対して、任意のタイミングで、任意の入力刺激を発生する、能力。その、実装。
神経系における、権利関係。それらの、実装。
神経系による、他の存在における資源性の有無の、認識。その可能性の、実装。
神経系による、他の存在における生物性の有無の、発見や認識。その可能性の、実装。
神経回路の設計の、遺伝的な規定や決定。その実装。
神経系における、出力細胞。その働き。
生物の神経回路における、フィードバック機能の、実装。出力細胞による出力。その有効性の、神経系自身による、評価。その評価能力の実装。
生物の神経系における、資源の入手。その簡略化された、基本的なプロセス。
通信的空間。通信による移動。その実像。
神経回路のモジュール化の、必要性。
神経回路のプログラミング。その、python言語による、サンプルコード。

無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

はじめに

脳の活動を監視するヘルメットやヘアバンド。それらの存在による、良心の発生。
死後の世界は存在しない。神経系と、霊魂。
無宗教や無神論者の人でも救われること。その実現方法。
全ての神は、人造神である。
大自然は、人格を持たない。それは、神にはなり得ない。
本当の聖人。
人間の霊魂は、死後、消滅する。
神を信じなくても、罰は当たらない。
精神病としての宗教信仰。精神科医としての無神論者。
墓の本当の意義。
天国も、地獄も、存在しないこと。
無神論や無宗教の主張。それは、脳神経科学に基づいて行えば、良い。
生物や人間にとって、最も大切なこと。
生物の脳と、人間の脳は、共通であること。
善行を行う存在。それは、救われる必要がある。
人間が、神が存在しない条件下で、善行をすること。そのように持っていく方法。その確立。それが必要であること。
神や宗教無しで、人々に対して、善行を行う気を起こさせる方法。
神や宗教を、不要にすること。そのために、一番効果があること。それは、何か？
プラスの価値のある存在として、残りたいこと。
人間が救われるには、どうすれば良いか？
生き残れなければ、何もならないこと。
従来の神や宗教。それらの本当の存在意義。それらの代替となる存在としての、脳のスキャンニング。
考える神と、物理的な神経回路網の必要性。
無神論や無宗教は、地動説と似ている。
無神論を主張する人が少ない理由は？
自立や自助の思想としての、無神論。
相互扶助のコミュニティと、その統合のシンボル。
この世には、超人的な存在による加護は、無いこと。
生命は、皆、原罪を負っていること。
実証主義。証拠主義。それらによって、生きること。
創造主不要論
マルクス主義の衰退。科学的唯物論の今後の発展。
死と、救い。神や宗教の起源。
無限な生命を得たい思い。宗教のからくり。

宗教とセックス。
無神論によって、人間社会を上手く回すこと。機能主義的な無神論。
脳神経科学の発展と、宗教の消失。
現人神。それは、実現不可能である。
脳のスキャンニングによって、善人か悪人かを判定できるようにすること。
権力者への対応。
ずるい人、小賢しい人への対応。
遺伝学の発展と、無神論。
脳神経科学の進展と友達作りや、恋愛や、結婚への対応。
人間は、結局は、猿であり、動物の一種である。
人工装置が、神になること。
機能主義的生き方、人生観。無神論との関連。

歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

はじめに。本書の目的。
歴史の法則の解明。そのために必要な、主な視点。

（１）現状の課題
（２）歴史の法則の抽出手順。「歴史の部品」の割り出し。
（３）歴史の法則の抽出作業を行うこと。そのために必要な前提知識。
（４）歴史の法則の抽出作業。その実践。
（４．１）歴史書の文言。その言い換えの作業。
（４．２）歴史の法則や歴史の部品。それらの抜き出しと整理。その重要ポイント。

A. 勢力
B. 権益
C. 支配体制
D 生活
E. 変化
F. 指導者
G. 文化. 芸術. 科学
H. 宗教

（５）抽出した歴史部品。抽出した歴史法則。
（５．１）勢力の興亡のルート、コース
（５．２）文化発展のルート、コース
（５．３．１）進歩の法則
（５．３．２）後退の法則

資料編。

［参考］歴史書の文言の言い換え方。その内容を一般化する手法。
（参考）既存の歴史書。その記述の一般化。その事例。
生物性。人間性。汎用的なリスト。
生物性。人間性。汎用的なリスト。作成の方針。その説明。
生物性。人間性。汎用的なリスト。根本原理。
生物性。人間性。汎用的なリスト。詳細な内容の一覧。
追加の内容。2022年9月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装。液体性と気体性。男女の性差。それらの、神経回路への、実装の必要性。
追加の内容。2022年10月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装における、留意点。物理的力学の一環としての、生物的力学。生物の精神における傷や病。それらの神経回路による、表現。
追加内容。2022年10月初出。その2。生物的神経系における、神経細胞の独自暴走と、統合失調症の発症。
追加内容。2022年10月初出。その3。生物的神経系における発達障害と、気体性や液体性と、性差との、関連。生物における親子関係と、信頼の形成との、関連。神経回路における傷の治癒と、カウンセリングや心理療法との、関連。男女の恋愛感情における特性の、性差。
追加内容。2022年10月初出。その4。有性生殖における、魅力的な異性。その特質。生物一般における、魅力的な個体。その特質。
追加内容。2022年11月初出。生物における、圧力やストレスや欲求不満や葛藤や矛盾。生物における、社会的抑圧。生物における、親子関係の成立。生物力学は、物理的な力学の一環であること。液体性の生物と気体性の生物。生物の神経系における、言語と戦略立案との、共通性。生物の神経系における、意識と無意識。
追加内容。2022年11月初出。その2。生物や無生物における、資源管理。生物や無生物における、急所。気体性社会や液体性社会における、急所。
追加内容。2022年11月初出。その3。生物の有性生殖における、病気や障害の、分類。
追加内容。2023年1月下旬初出。神経回路における、フィードバック待機機能の実装。生物における恋愛。情報通信産業と、商業や交通物流産業との、共通性や同質性。
追加内容。2023年2月中旬初出。その1。生物における、自己複製や自己増殖。それらのプロセスの、コンピュータシミュレーションによる実装。

追加内容。2023年2月中旬初出。その2。生物的神経系プログラミングにおける、機能実装の進め方。
追加内容。2023年2月中旬初出。その3。物質や生物における、パラドックス。社会的パラドックスとしての、社会的な嘘つきや社会的な矛盾と、社会的な正しさの主張との関連。物質や生物の進化における、良好な進化と、不良な進化。そうした進化における、パラドックス。
追加内容。2023年2月下旬初出。その1。生物と資本主義。生物個体における、社会的資本の蓄積と、社会主義や共産主義との関連。
追加内容。2023年2月下旬初出。その2。物質や生物における、保存力の行使。女性的職業との関連。
追加内容。2023年3月上旬初出。生物における、配偶者選択のポリシー。液体性や気体性の、社会的強制。
追加内容。2023年3月中旬初出。生物的神経系におけるフィードバック機構の、コンピュータシミュレーション。そのソースコード。
追加内容。2023年4月下旬初出。生物的神経系のシミュレーションについての、Pythonのソースコードの追加。
追加内容。2023年5月中旬初出。生物における遺伝情報の、文字列や配列による表現。生物における、自己複製や自己増殖や減数分裂や有性生殖。それらの動作原理についてのシミュレーションプログラムの実装。
追加内容。2023年6月上旬初出。生物と社会的禁忌と社会的真実。真に役立つ科学理論の確立との関連。
追加内容。2023年6月中旬初出。生物と、社会的禁忌と、保存力や保存的思想。生物における性差の機能分化。その根本的な原因。
追加内容。2023年6月下旬初出。有性生殖の生物における、性的誘引力の根源。
追加内容。2023年7月下旬初出。有性生殖の生物における、生活水準の規定要因。保存性の生物が好む行動。生物にとってのユーザビリティ。
追加内容。2023年8月下旬初出。エネルギー的思想。気体的思想。保存的思想。液体的思想。それらの、生物的神経系による実現。それらの、神経回路による実現。男女の性差との関連。
追加内容。2024年1月中旬初出。女性における性的誘引力。それらをもたらす、女性の生体的機構。男性差別。その根源的な要因。
追加内容。2024年1月下旬。周囲からの働きかけに対する、保存性物質とエネルギー性物質の、反応。物質動作の、論理回路や神経回路やコンピュータプロセスとしての、表現。エネルギー性思想や保存性思想が、科学研究に対してもたらす、分析視点の歪み。生物の

神経回路における、逆転思考や反転思考。
追加内容。2024年2月上旬。生物の、活動一般や神経回路と神経細胞における、エネルギー性と保存性。生物の行動における性差との関連。
追加内容。2024年5月下旬。生物にとっての情報。それらの種類の分類。生物にとっての目的。生物にとっての生きやすさの実現と、生物における、自己制御や環境制御との関係について。
追加内容。2024年10月下旬。男女の性差。その本質についての、比喩を用いた、総合的な要約。
追加内容。2025年2月下旬。植物的な神経系と、動物的な神経系。それらの共通点と相違点についての、総合的な要約。植物的な神経系や神経回路の、コンピューターのマルチプロセスを利用することによる実現。
追加内容。2025年2月下旬。東洋医学における陰陽論。陰の思想内容が、保存力と引力に対応すること。陽の思想内容が、エネルギーや斥力に対応すること。それらの関連についての、総合的な要約。
追加内容。2025年4月下旬初出。資源獲得機能を備えた生物個体。その物理的運動の、マルチプロセッシングによるシミュレーションについて。Pythonのソースコードの追加。
追加内容。2025年6月上旬初出。女性による、男性に対する托卵行為の発生と、女性における、男性に対する、根本的な性的優位性。女性による、男性に対する、性的搾取や性的虐待の恒常的な発生。
追加内容。2025年6月上旬初出。統合失調症の患者の、精神的特質。彼らは、強度の、気体的思想やエネルギー的思想の持ち主であること。彼らは、強度に、男性的であること。彼らが社会的に忌み嫌われる理由について。
私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
参考文献。
私が執筆した全ての書籍。その一覧。
私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
私の略歴。

生物一般における、心理と社会。人間への適用。

大塚巌

サブタイトル。生物の本質。人間の本質。それらは同一である。

はじめに。生物は暗黒である。人間は暗黒である。

人間の存在。人間の本性。
それは、きれい事では済まされない。
それは、暗黒である。
筆者は、それについて、内容を分析し、結果をリストアップした。
筆者は、それについて、詳細を、暴露した。

その基盤には、次の内容が存在する。
生物の存在。生物の本質。その暗黒性。

（初出2008年9月。2020年7月。）

生物の存在。生物の本質。その暗黒性。

生物の暗黒性。その理由。

生物は、その存在が暗黒である。
生物は、その本性が暗黒である。

生物の暗黒性。
その理由。
それは、次の通りである。

（１）
生物は、次の内容を、必然的に内包する。
（Ａ）その生存の強制。
（Ｂ）その生存における苛酷さ。

生物は、生存の必要性を、遺伝的に強制されている。
「生存への圧力。」
生物は、それによって、仕方なく動く。
生物は、仕方なく、生き続ける。
生物は、好きで生きているのではない。
生物は、自分の意思で、自主的に生きているのではない。
生物は、その存在の存続を、強制されている。
その強制力は、生物本体に内蔵されている。
生物は、それからは、逃れることができない。
それは、生物にとって、宿命である。
生物は、それを、根源的に持つ。
生物は、以下を、代々にわたって、内蔵する。
「生存への圧力。」

生物は、以下の体質を内蔵する。
（Ａ）生存を強制される体質。
（Ｂ）それに対して、盲目的に従う体質。
奴隷体質。
操り人形のような体質。

生物にとって、その生存は、自分の意思に基づくものでは、全くない。
生物は、自主的な意思とは無関係に、生存を強制される。
そうした生物は、その存在そのものが暗黒である。

（２）
生物は、以下のことしか考えない。
（Ａ）自身。
（Ｂ）自身の子孫。
（Ｃ）それらの生存。
生物は、以下のことしか考えない。
（Ａ）自身。
（Ｂ）自身の子孫。
（Ｃ）それらの生存条件の向上。
生物は、他の生物のことは、考えない。
生物は、その本質において、利己的である。
生物は、その本質において、自己中心的である。
それは、生物の存在において、別の暗黒性をもたらす。

（３）
「資源。」
それは、生物が生き延びるために、必須である。
その数量は、限られている。
そのため、生物は、それらの資源を奪い合う。
魅力的な異性。生物にとっては、それも、資源として、捉えられる。
生物は、生存競争を繰り広げる。
それは、苛酷である。
そこでは、次の内容が、絶えず発生する。

（３－１）生物同士の支配と従属の関係。
（３－２）生物同士での殺し合いの関係。

それは、異種間でも、同種間でも、発生する。
生き残れない生物が、たくさん発生する。
それは、生物にとって、逃れられない宿命である。
それは、生物の存在において、別の暗黒性をもたらす。

（初出2020年7月。）

生存を強制する力。生存への圧力。生物への規制。

生物が、様々な暗黒性を持つこと。
それらの背景には、以下の存在がある。
（１）生存を強制する力。
（２）生存への圧力。

それらは、生物に対して、以下の実現を強制する。
「生存の持続。」
それらは、生物を、以下の側面において、束縛する。
（Ａ）その存在。
（Ｂ）その社会的行動。
それらは、生物固有である。
生物は、それらを、自身の中に、内蔵する。

それらの力や圧力は、以下の内容を、生成する。
「規制。」
「生物が持つ、固有の社会規範。」
生物は、それに、自動的に従う。
生物は、それに従うことを、絶えず強制されている。
生物は、それに対して、逆らうことができない。
生物は、それを、生まれつき、体内に、強制的に、埋め込まれている。
生物は、それを、子孫代々にわたって受け継ぐ。
それは、生物にとって、永遠に続く。
それは、生物固有である。
生物は、それを、自身の中に、内蔵する。
それは、次のように呼べる。
「生物への規制。」

（初出2020年7月。）

生物への規制。その性質。

「生物への規制。」
それは、次のような性質を持つ。
（１－１）生物固有の規制。
（１－２）生物が最初から持つ規制。
（１－３）生物が本来持つ規制。

（１－４）生物が根源的に持つ規制。
（１－５）生物を、生物として存在させること。そのための規制。

（２－１）生物を支配する規制。
（２－２）生物に対して強制力を持つ規制。

（初出2020年7月。）

生物への規制。その内容。

「生物への規制。」
その規制は、生物に対して、以下の内容を、強制する。
（１）
自身が生存している状態。
それを、無条件で、自動的に存続させること。
その生存の持続。
それを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物が、それらの受容を、一生、強制されること。
生物が、それらの受容を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物が、それらの受容を、自身の意図に反していても、強制されること。
（１－１）
死滅。
自殺。
それらの行為には、苦痛が伴うこと。
その苦痛を、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、その苦痛を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、その苦痛を、自身の意図に反していても、強制されること。

生物は、それらの行為を、なるべく回避すべきこと。

（１－２）
傷つき。
自傷。
それらの行為には、苦痛が伴うこと。

その苦痛を、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、その苦痛を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、その苦痛を、自身の意図に反していても、強制されること。

生物は、それらの行為を、なるべく回避すべきこと。

（２）
自身の子孫を生成すること。
そのために生殖行為をすること。
その生殖行為を、本能的に、自動的に行うこと。
その生殖行為の実行。
それを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、それらの行為の実行を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、それらの行為の実行を、自身の意図に反していても、強制されること。

（３）
自身の子孫を増やすこと。
自身の子孫の生存を確実にすること。
そのために、生存競争をすること。
そのために、生存条件を向上させること。
それらの行為を、本能的に、自動的に行うこと。
それらの行為の実行。
それを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、それらの行為の実行を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、それらの行為の実行を、自身の意図に反していても、強制されること。

（４）
その生存の持続。
その子孫の生成。
それらが、生物にとって、子孫代々にわたって、永久的に、自動化されること。
それらを、生物に対して、その子孫代々にわたって、永久的に、強制すること。
それらの受容。

それらの行為の実行。
それらを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、それらを、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、それらを、自身の意図に反していても、強制されること。

（５）
生物の存続。
その永久化。
永遠の生物。
その実現。
それが、生物にとって、自動化されること。
それを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、それらの受容を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、それらの受容を、自身の意図に反していても、強制されること。

（６）
それらの受容。
それらの行為の実行。
（６－１）
生物が、それらを行う場合。
生物が、それらを行わない場合。
それは、次のような、「結果の分岐」を、生物に対して、自動的にもたらす。
（６－１－１）生物は、それらをする。
すると、生物は、以下の結果を得る。
（Ａ）快感を覚えること。
（Ｂ）幸福感を得ること。
（Ｃ）正義感を得ること。
（Ｄ）優越感を得ること。
（Ｅ）有力感を得ること。

（６－１－２）生物は、それらをしない。
すると、生物は、以下の結果を得る。
（Ａ）不快感を覚えること。
（Ｂ）不幸感を得ること。
（Ｃ）罪悪感を得ること。
（Ｄ）劣等感を得ること。
（Ｅ）無力感を得ること。

（６－２）それらの感覚の取得。
それが、生物にとって、自動化されること。
それを、生まれつき、生物の中に、埋め込むこと。
生物は、それらの感覚の取得を、無意識のうちに、一方的に、強制されること。
生物は、それらの感覚の取得を、自身の意図に反していても、強制されること。

「生物への規制。」
それは、生物に対して、一方的に強制された規制である。
そして、生物は、その規制を、生まれつき内蔵している。
以下のことの実現。
それは、生物にとって、根本的に、困難である。
（１）その規制を、避けること。
（２）その規制を、無かったことにすること。
（３）その規制を、無視すること。

生物は、生きにくさを抱えている。
生きること。
それは、生物にとって、不快である。
しかし、生物は、生き続けるしかない。
生きること。
生物は、それを、生まれつき、強制されている。

（初出2020年7月。）

生物が、その一生を、充実させること。その条件。

生物が、その一生を、成功させること。
生物が、その一生を、充実させること。
生物が、その一生に、満足すること。

それらの実現。
その決め手は何か？

それは、以下である。
生物への規制。それに、適応すること。

それは、すなわち、以下である。
彼ら自身の子孫。それを、後世に残すこと。
（１）遺伝的子孫。
例。血縁がある子供。息子。娘。

（２）文化的子孫。
例１．血縁の無い弟子。
例２．彼ら自身の作品。
それらは、以下を、高いレベルで、実現すべきである。
例。新規性。独創性。完成度。品質。耐久性。

その場合、できれば、以下の条件を満たすことが、望ましい。
彼ら自身の子孫の全滅。それを防ぐこと。
（１）彼ら自身の子孫。それらの数を、多くすること。
それらを、複数生成すること。

（２）彼ら自身の子孫。それらの分布を、分散させること。
（２－１）空間的な分散。場所をずらすこと。
（２－２）時間的な分散。時期をずらすこと。
それらを、同時に実現すること。

（３）彼ら自身の子孫。それら各自の生存しやすさ。そのレベルを高めること。
例。能力の高さ。品質の高さ。

上記は、以下のために必要である。
彼ら自身の子孫。それらの永続しやすさ。その確実さ。その実現。

生物は、それらを実現する。
そうして、生物は、以下が可能になる。
（１）彼らの毎日の生活を、充実した気分で、送ること。
（２）彼らの一生を、満足して、終えること。

それは、人間も同様である。

人間が、その一生を、充実させること。
そのためには、上記のどれかを、実現すれば良い。

（初出2008年9月。2020年7月。）

生物が、救済されること。その条件。

生物は、以下の行為で、救済される。
自身の子孫を後世に残すこと。それに成功すること。
その試みを、生きている間にやり尽くすこと。
子孫は、以下の二種類である。
遺伝的子孫。文化的子孫。

その行為は、以下の内容である。生物への規制への適合。
これは、人間も同様である。
生物への規制への適合。
それが、以下を救済する。
生物の存在。生物の精神。
それに、以下は必要無い。神。

自身の子孫を後世に継承すること。そうして、自身の存在を永続させること。
これは、以下と同等である。
永遠の生物を得ること。
死後、天国に行くこと。

（初出2020年8月。）

生物は、宗教を必要とする。

生物は、以下を持つ。生きることへの意思。これは、植物も同様である。

生物は、生き続ける。
そのために、生物は、以下の（Ａ）の存在を必要とする。

（Ａ）
////
生物にとって、頼れる存在。
生物に対して、以下を与える存在。
保護。
加護。
安心。
生きる意思。
生きる勇気。

生物にとって、その依存の対象。
////

単独で生きて行くこと。
独力で生きて行くこと。
それは、生物にとって、困難である。
それは、生物にとって、不安である。
それは、生物にとって、恐怖である。

生物は、孤独である。
生物は、無力である。
生物は、何かに頼りたい。
それは、人間以外の動物も同様である。例。ひな鳥にとっての親鳥。

上記の（Ａ）の存在は、生物にとって、必要である。
それは、実在していなくても、必要である。
それは、実在不可能であっても、必要である。

生物は、それが存在しないと、心理的に不安である。
生物は、それが存在しないと、生きて行く勇気を持てない。
上記の（Ａ）の存在。それは、生物にとって、本質的に必要である。

それは、以下の発生の起源である。
宗教。その教義。

宗教。その原型は、生物の存在そのものにある。
それは、生物が共通に所持する。
それを持つ生物の種類は、人間に限定されない。それへの欲求は、生物にとって、不可避である。

Religion. Reliance. それらの言葉は、英語では、つづりが共通である。

例えば、人間は、以下の存在を想定した。
移動生活様式。絶対者。神。その信仰。
定住生活様式。前例。その保持者。古参者。それが書かれたデータ。経典。

生物にとっての、頼れる存在。
それを必要とする生物の種類は、人間に限定されない。

宗教。それは、以下の総称である。頼ること。頼る心理。頼る行為。
生物は、全て宗教を持つ。宗教は、人間の専売特許では無い。
宗教の対象を、人間に限定する行為。そうして、人間存在を、選民として捉える行為。
それは、生物一般にとって、以下の行為に当たる。それは、高慢である。それは、思い上がっている。

生物にとっての、頼れる存在。人間にとっての、頼れる存在。
遺伝学。神経科学。それらの科学者や無神論者。彼らは、上記の（Ａ）に相当する存在を、人々に対して、示す必要がある。そうでないと、人々は、精神的に耐えられない。
遺伝学。神経科学。それらと宗教との両立。それが必要である。

（初出2020年8月。）

生物への規制。人間への適用。

人間も、生物の一種として、絶えず、次の内容の支配下にある。
「生物が持つ、固有の社会規範。」
「生物への規制。」

例。人間の男性の場合。

男性は、女体を好む。
男性は、女体に対して、性的に誘引される。
男性は、以下を好む。
（１）女体を触ること。女体を犯すこと。
（２）女体の評価。そのランク付け。
しかし、それは、男性にとって、自発的行為ではない。

女体を好きになること。
男性は、それを、生まれつき、強制されている。

それは、生物への規制に基づく。

「生物への規制。」
それが、人間の生活において、次の内容を、絶えず、もたらしている。
苛酷さ。暗黒性。

その内容の、人間における事例。
それは、以下の内容である。
「人間への規制。」

筆者は、それを、以下のようにまとめた。

人間への規制。それらにおいて、特に暗黒である側面。それらの内容を、暗黒面に絞ったもの。それらの説明。それらの詳細なリスト。
（初出2008年9月。2020年7月。）

人間の本性の層化。

人間の本性や特性は、次の内容で、構成されている。
「以下のような層の堆積。」

↑上位の層
（４）人間の層（表層）
（３）動物の層
（２）生物の層
（１）物質の層（基層）
↓下位の層

人間の特性は、以下のようになる。
（１）物質としての特性。例。重量があること。
（２）生物としての特性。例。遺伝子を持つこと。呼吸をすること。
（３）動物としての特性。例。移動をすること。

次の内容を探すことはかなり難しい。
「他の動物に無い、人間独自の本性、特性。」

宗教で、次のような主張をすること。
「良心は、一般の動物には無い。良心は、人間にしかない。」

しかし、次のような内容の動画が、実際に存在する。
「猫同士が、餌の譲り合いをする。」
猫は、人間以外の動物である。
そこで、次の可能性が存在する。
「人間以外の動物にも、良心がある。」

この問題を解決するには、以下のことが必要である。
「人間以外の動物について、その社会心理を、解明すること。」
動き回る生物は、動物の中に、含める。例えば、昆虫。

（初出2019年9月。）

人間への規制。その暗黒面。

人間の暗黒面。そのリスト。10箇条。

人間の精神。それが本源的に持つ、暗黒面。
それは、人間にとって、本質的である。
それは、人間にとって、逃れることが難しい。
その内容を、10箇条へと、コンパクトにまとめてみた。
（１）快楽にはまること。
（１－１）安楽にはまること。楽をしようとすること。怠けること。手抜きをしようとすること。
（１－２）快感にはまること。気持ちいいことにはまること。セックスをすること。おいしい食物を沢山食べること。いい匂いをかぐこと。たばこや麻薬にはまること。
（２－１）違反すること。失敗すること。
（２－２）隠蔽すること。以下のことを、隠そうとすること。
自身の評判を落とすこと。失敗。違反。
（３）嫉妬すること。羨むこと。上に上がろうとする人の足を引っ張ること。
（４）自惚れること。高慢であること。
（５）他人を押しのけて、自身の宣伝をすること。自身を前面に押し出すこと。他人を支配すること。
（６）見捨てること。困っている人を助けないこと。他人を使い捨てること。
（７）裏切ること。寝返ること。密通すること。嘘をつくこと。
（８）配慮しないこと。嫌がらせをすること。意地悪すること。弱いものをいじめること。
（９）略奪すること。横取りをすること。
（１０）生物。人間。それらの殺傷を行うこと。有用なものの破壊を行うこと。
2008.09 初出

人間の暗黒面。その詳細な説明。

人間の暗黒面。問題意識。

筆者は、次のように考える。
「私は、人間に生まれてこなければ、よかった。」

生物として、その存在や精神が、酷すぎること。
人間の存在や精神は、汚過ぎる。
人間の存在や精神は、不良である。
人間の存在や精神は、ネガティブである。
人間の存在や精神は、本来的に汚染されている。
人間の存在や精神は、暗黒である。

生物や人間は、どんなところが酷いのか？

その存在が、矮小で、つまらないこと。
それは、以下の理由による。
「人間は、生物の一種である。」
それは、人間にとって、次のものである。
「宿命。それは、逃れられない。それは、悲惨である。」

それは、以下の内容を持つ。
「生物としての限界。」

その内容は、何か？

筆者は、以下の内容を、箇条書きにして、コンパクトにまとめてみた。
「生物や人間が持つ精神。

それが持つ、本源的な側面。
それが持つ、本質的で、逃れがたい側面。
その暗黒面。」

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間の本性は、不良性や暗黒性である。

「人間の存在や精神における、不良性や暗黒性。」
それは、どこに由来するか？
それは、次の通りである。
（１）生物であること。
（２）動物であること。

その根本問題は、他の種類の生物と共通である。
例えば、カブトムシのオスとメス。
それは、人間特有ではない。

次のように考えること。
（１）人間だけが、宗教的に原罪を持つ。
（２）人間だけが、救われる。
それは、次の内容の表れである。
「無知。思い上がりの心。」

生物や人間は、自身のことが一番目である。
生物や人間は、自身のことを、他者よりも、優先する。
生物や人間は、他者に対して酷い扱いをする。
生物や人間は、自身を有利にする。
そのため、生物や人間は、他者を平気で蹴落とす。

（初出2008年9月。2020年7月。）

生物として、成功すること。その条件。

生物としての成功。それは何か？
それは、以下の内容を、後世に残すことである。
（１）自身の遺伝的子孫。
（２）自身の文化的子孫。
生物は、それを残せた。その生物は、勝ち組である。
生物は、それを残せなかった。その生物は、負け組である。

人間も、こうした傾向を受け継ぐ。

以下の人々を、社会的に見下し、馬鹿にすること。
（１）結婚できない人。
（２）自身の子供を持てない人。

（初出2008年9月。2020年7月。）

自身の存続。その最優先。

男女は、両方とも、次のことの実現のために、何でもすること。
「自身の遺伝的子孫を、後世に残すこと。」

次のことに、懸命になること。
「自身の意見や価値観。それらを、文化的子孫として、後世に残すこと。」

食べる必要があること。
次のことを、遺伝的に義務付けられていること。
「生存状態の維持。」

それを、遺伝的に、強制されていること。

他人を平気で押しのけること。
男女とも、自身のことを最優先すること。
自己優先であること。

それは、性別では、次の通りである。

女性は、次の通りである。
（１）自己保身的。
（２）自己中心的。

男性は、次の通りである。
（１）自己拡大的。

仮に、人間が、次の状態になった、とする。
（１）彼は、生存競争に負けた。
（２）彼は、生存競争で、不利になった。

すると、その人間は、死ぬしかない。
そうした人間は、生きるしかばねになる。

（初出2008年9月。2020年7月。）

味方の数を増やすこと。敵を消すこと。

味方の数を増やすこと。
それは、次の存在である。
「有益な存在。」
（１）同質な存在。クローン。
（２）協力者。

敵を消すこと。
それは、次の存在である。
「有害な存在。」

（１）反対の存在。異質の存在。
（２）ライバル。

自身への同質者を受容すること。
互いに、仲間を作ること。
互いに、助け合うこと。

自身への異質者を拒絶すること。
それらを、冷たく拒否すること。
それらを、攻撃すること。
それらの存在を抹消すること。

人間にとって、他者は、以下の存在である。
（１－１）遺伝的な同質者。
（１－２）遺伝的な異質者。

（２－１）文化的な同質者。
（２－２）文化的な異質者。

異質者を消去すること。

異質者とは。以下の通りである。
（１）遺伝面や血縁面で遠い存在。例えば、人種が違う人。
（２）文化面で遠い存在。例えば、宗教や思想信条が違う人。
（２－１）生活面では、以下の通りである。
（２－１－１）移動生活様式。その人は、個人の自由独立を否定する。
（２－１－２）定住生活様式。その人は、定住集団内部の和合に対して、異を唱える。

他人と価値観を共有すること。
そうして、彼自身を拡張すること。そうして、気が大きくなること。
そうして、生き残りやすくなること。そうして、安心すること。
人間にとって、同じ価値観の共有者は、賛成者である。

自身への賛成者。彼らを受容すること。
互いに、仲間を作ること。

互いに、助け合うこと。

自身への反対者や批判者やライバルを拒絶すること。
それらを、冷たく拒否すること。
それらを、攻撃すること。
それらの存在を抹消すること。

人間にとって、他者は、以下の存在である。
（１－１）遺伝的な賛成者。
（１－２）遺伝的な反対者。

（２－１）文化的な賛成者。
（２－２）文化的な反対者。

（初出2008年9月。2020年7月。）

殺傷や破壊を行うこと。

生物や人間の殺傷を行うこと。
有用なものの破壊を行うこと。

次のことを平気で行うこと。
「殺害すること。抹殺。虐殺。抹消。消去。」
人間にとって、その対象は、次の存在である。
「自身にとって、都合の悪い存在。」

その殺害の分類は、次の通りである。
（１）生物の殺害。
（２）文化の抹消。
（３）情報の抹消。

それは、性別で見ると、次の通りである。
（１）男性は、次のことを平気で行う。
自己拡大に邪魔な人々を、殺害し、虐殺すること。

（２）女性は、次の（２－１）について、次の（２－２）を平気で行う。

（２－１）自己中心性を損ねる、自身にとって気にいらない人間。
（２－２－１）その人を、定住集団から追放すること。
（２－２－２）その人を、どこの集団にも入れなくさせること。
（２－２－３）その人を、死なせること。

人間社会では、それは、当然のこととみなされる。

次の（１）の状況で、次の（２）を行うこと。
それについて、何も言おうとしないこと。

（１）緊急時。戦争時。治安が悪い時。
（２）彼らが危ない敵とみなした相手を殺害すること。
それは、むしろ称賛される。
例えば、日本における、「関東大震災」時の朝鮮人虐殺。

都合の悪い文化財や、情報を、破壊し、抹消すること。
それが、有用であっても、そうすること。

上位者は、下位者を、勝手に殺害し、抹消する。
その上位者は、何も言われない。
例えば、日本の武士による農民の試し斬り。
例えば、アメリカの白人による黒人殺害。

仮に、上位者が下位者に対して、殺害や抹殺を命じた、とする。
すると、上位者は、何も言われない。
下位者は、その存在を処分される。

仮に、下位者が、同等の者か上位者を殺害した、とする。
すると、下位者は、上位者によって、処罰される。

（初出2008年9月。2020年7月。）

有能さや、有力さを誇示すること。

有能さや、有力さを誇示すること。

バトルを好むこと。
マウント合戦を好むこと。
次のことを好むこと。
「自身の力を誇示すること。」
勝ち負けにうるさいこと。
社会に認められるために、勝つこと。
勝てない場合、自身の子孫を残せないこと。

勝つこと。そうして、社会的に有能であると見なされること。そうして、社会的に上位になること。

それは、性別で見ると、次の通りである。
（１）男性は、有能さを誇示する。男性は、そうして、無能者をいじめる。
（２）女性は、上位性、中心性を誇示する。女性は、そうして、下位者や周辺者をいじめる。

自慢すること。
自己宣伝すること。

プライドが高いこと。
自惚れること。
高慢であること。
自画自賛すること。

次のことが、不快であること。
「他人から自慢されること。」
人間社会においては、自慢は、社会的批判の対象である。

批判されないようにすること。
そのため、表向き、謙虚であること。

無能や無力な場合。自慢が出来ないこと。そうして、卑屈になること。
失敗や敗北をすること。そうして、彼のプライドを傷付けること。
そうして落ち込むこと。
それらについて、自己嫌悪すること。
しかし、それは、次の表れである。
「本来持つ、隠れたプライドの高さ。」

仮に、人間にとって、自慢が可能な状況が回復した、とする。
それは、次のことである。
（１）成功し、勝利すること。そうして、社会的地位が再度向上すること。
（２）自慢が可能な状況が、思わず突然実現すること。
すると、人間は、謙虚な外面が外れる。人間は、自然に自慢する。

他人を押しのけて、自身について宣伝をすること。
自身の存在を、前面に押し出すこと。
他人を支配すること。

生得的に、次の視点を持つこと。

彼らは、有力者に対して、魅力を感じる。
彼らは、無力者に対して、魅力を感じない。

男性は、女性的女性に対して、性的魅力を感じる。
彼女は、社会における有力者である。
男性は、男性的女性に対して、性的魅力を感じない。
彼女は、社会における無力者である。

女性は、男性的男性に対して、性的魅力を感じる。
彼は、社会における有力者である。
女性は、女性的男性に対して、性的魅力を感じない。
彼は、社会における無力者である。

彼らは、魅力的になろうとする。
彼らは、有力者になろうとする。
彼らは、無力者になることを避ける。

（初出2008年9月。2020年7月。）

嫉妬すること。

嫉妬すること。
羨むこと。
上に上がろうとする人の足を、引っ張ること。
嫉妬心が強いこと。
次のことが不快であること。
「他人が良い思いをすること。」

他人の足を引っ張ること。
他人を、ライバルと見なして、攻撃すること。
他人の落ち度を見つけて、他人を引きずり落とすこと。
他人にダメージを与えること。
他人が、良い生活を送ることを不可能にすること。
他人に対して、不快な思いをさせること。
他人に対して、以下の行為をして、心理的ダメージを与えること。
（１）ストーカー行為。
（２）プライバシーの暴露。

他人を不幸にしようとすること。

もしも、他人が、手の届かないところに上昇したとする。
すると、人間は、その他人を、「天上の人」と見なす。
その他人を、全面的に称賛すること。
その他人の栄光にあずかろうとすること。
そのおこぼれをもらおうとすること。
そうした「栄光浴」を好むこと。

（初出2008年9月。2020年7月。）

特権や既得権益を、好むこと。

特権や既得権益を作ること。
それらを容認すること。

限られた、生存上の資源を取り合うこと。
それらを独占して、既得権益化すること。
その状態を排他的に維持すること。
そうして、社会的格差を作ること。
そうした状態を、永続化させること。
例えば、結婚のための、異性の取り合い。
例えば、不足する食糧の取り合い。

人間には、特権的な人がいる。
彼らは、最初から、存在する。
彼らは、何もしなくても良い。
彼らは、次の（１）において、次の（２）のことを、約束されている。
（１）自身の生存。自身の子孫を残すこと。
（２）とても上位であること。とても有利であること。
彼らは、上流定住集団のメンバーである。
彼らの存在を、平気で許すこと。
彼らの特権的待遇は、代々、平然と引き継がれる。
彼らは、例えば、以下の通りである。
（１）資産家。資本家。（地主。生産設備やインフラの所有者。）
（２）有力者の一家。王家。貴族。

既得権益を好むこと。

生物や人間は、血縁や家族で生きる。
生物や人間にとって、それは、定住集団となる。
そうした定住集団は、既得権益の維持を生みやすい。
それは、生物が持つ、暗黒の宿命である。

「特権や既得権益を持った人々。上位者。」
下位者は、彼らによって、虐げられる。
そうした下位者は、反乱を起こす。
下位者は、そうして、彼らを、潰す。
しかし、そうした下位者が、今度は、上位者になる。
そうした新たな上位者は、以下のものを、新たに、平気で、作り出す。
自身の特権や既得権益。
彼らは、それを、維持し始める。

そうした人間は、新たな上流定住集団を作る。
再び、それを永続化させようとすること。

（初出2008年9月。2020年7月。）

支配すること。

支配すること。

地位や権力を持とうとすること。
そうして、以下の内容を、優先的に通そうとすること。
自身の主張。自身の価値観。
そうして、反対者を抹殺すること。
反対者を集団から追放すること。

弾圧をすること。
弱い者いじめをすること。

以下の存在を、消去すること。
（１）彼らに反対する存在。
（２）彼らのライバル。

支配欲が強いこと。
親が、子供を支配する。
上位者が、下位者を支配する。
有力者が、無力者を支配する。
有能者が、無能者を支配する。
支配される人間は、支配者によって、奴隷や道具として、扱われる。
弱い者いじめを、平然として行うこと。
それを、しつこく行うこと。

ストレス発散をすること。
弱い者を、そのための道具にすること。
弱い者を、そのために、犠牲にすること。
それを、何とも思わないこと。
弱い者を虐殺して楽しむこと。

生きていくには、それを、受け入れるしかないこと。

（初出2008年9月。2020年7月。）

略奪すること。横取りをすること。

略奪すること。
横取りをすること。

自身の生物や立場の有利さを保つこと。
そのために、他人を平気で犠牲にすること。
そのために、他人に対して、奴隷労働をさせること。

他人の成功を勝手に自身の手柄にすること。
他人の持ち物を横取りし、奪うこと。
他人に自身の責任を負わせること。そうして、他人を、いけにえにすること。
以下の主張をすること。

「私は、この行為を、他人を助けるために、行った。」
しかし、それは、実際は、以下の内容の実現が最優先である。
（１）彼ら自身の利益。
（２）彼ら自身の名誉。

（初出2008年9月。2020年7月。）

嘘をつくこと。

違反すること。
失敗すること。

裏切ること。
寝返ること。
密通すること。
嘘をつくこと。
裏切りをすぐ行うこと。
自身の利益や都合を優先すること。
他人との約束。それを、守らないこと。
信頼できないこと。

人間が約束を守る理由。
「社会的に死なないため。」
（１）定住集団から追放されないため。
（２）社会的上位者に処罰や訴追をされないため。
（２－１）移動生活様式。天の絶対者によって、地獄に落とされないため。
（３）社会的信用を失わないため。

自身の保身が優先であること。
そのため、態度が、後ろ向きになること。
社会的に不利にならないために、しぶしぶ約束を守ること。

隠蔽すること。
次のことを、対外的に隠そうとすること。

（１）彼ら自身の評判を落とすこと。
（２）彼ら自身の起こした失敗。
（３）彼ら自身の起こした違反。

（初出2008年9月。2020年7月。）

保身すること。

保身すること。

責任を回避すること。
責任を転嫁すること。
自身の失敗の責任を、他人に擦り付けること。
自己擁護をすること。
言い訳をすること。
そのための弁論術を身に付けること。

本来、次の（１）の存在なのに、次の（２）のことを行うこと。
（１）強者。加害者。
（２）弱者を気取ること。被害者を気取ること。

そうして、次の内容を両立させること。
（１）支配。
（２）責任逃れ。

仮に、訴訟が起きた、とする。
すると、人間は、裁判を有利に進めようとする。

下位者に責任を押し付けること。

自身の立場を良くしようとすること。
次のことをしようとすること。

「社会的に評判の良いこと。」
良心的行動を、計算ずくで行うこと。
偽善者であること。

安全地帯にいようとすること。
次のようにすること。
「定住集団から、追放されないようにすること。」
自身の周囲の他者。彼らに対して、盛んに、気配りや、忖度をすること。
次のことを、回避すること。
「「弱い者いじめ」の標的になること。」
そのため、自身もいじめる側に回ること。

自身を、保護してもらおうとすること。
権威主義者であること。

メンタルが弱いこと。
権威にすがりつくこと。
権威に反対する者を、抹殺すること。

それは、性別で見ると、次の通りである。
（１）男性は、次の存在にすがりつく。
「絶対者としての、天の神。その宗教的指導者。」

（２）女性は、次の存在に、隷従する。
「古参者。」
彼らは、次の内容を持つ。
「前例。しきたり。知識。」

次に対して、弱いこと。
「おべんちゃら。取り入り。」

批判に弱いこと。
批判は、人間の保身を脅かす。
批判を避けること。
賛同を得たいこと。
批判者を、処罰し、虐殺し、消去すること。

批判者の存在を、ブロックすること。

次の人を、社会的に追放し、抹殺すること。

（１）違反者。
それは、次のことを守れない人である。
「移動生活様式。定住生活様式。それらの維持のための社会規範。」

彼らに対して、次のことを平気で行うこと。
「定住集団からの追放。」

その実行者は、以下のことを、予め知っている。
「追放された人が、生きていけないこと。」
その実行者は、冷酷で残酷である。

（２）異端者。異常者。
彼らに対して、次のことを行うこと。
尋問。隔離。処刑。
彼らを、弱者として、いじめること。

（３）無能者。病人。
彼らは、人間にとって、次の存在である。
「生存上の足を引っ張る存在。」
彼らを差別すること。

それは、性別で見ると、次の通りである。
（１）女性は、以下の人しか助けようとしない。
「同じ仲良し定住集団のメンバー。」
（２）男性は、以下の人しか助けようとしない。
「同じ宗教や価値観の人間同士。」

それに該当しない者。彼らは、敵として、扱われる。
彼らは、排除される。
彼らは、消去される。

（初出2008年9月。2020年7月。）

快楽にはまること。

快楽にはまること。
それは、次のような内容である。

（１）快感にはまること。
気持ちいいことにはまること。
セックスをすること。
おいしい食物を沢山食べること。
いい匂いをかごうとすること。
たばこや麻薬にはまること。

（２）安楽にはまること。
楽をしたいこと。
怠け者であること。
手抜きをすること。

苦労すること。そうすることで、初めて自身の子孫を残せること。
仕方なく、苦労すること。

（３）辛い思いを、下位者や無力者に対して、押し付けること。
下位者や無力者に対して、労働の義務を課すこと。
次のことを、悪いことと見なすこと。
「下位者や無力者が、働かないこと。」

下位者や無力者に向かって、次のように洗脳すること。
「人間は、労働すべきだ。」
上位者や有力者は、楽をして、遊んで暮らしている。
上位者や有力者は、それについて、何も言われない。。
そうした上位者や有力者は、却って、尊敬される。

生物や人間の本質は、次の通りである。
「遊んで楽すること。」
その実現のために、劣位者を犠牲にすること。
搾取すること。
女性は、男性の労働によって、遊んで暮らす。

（４）快感を求めること。不快な存在を避けること。
次のことをしないこと。
「不快で不都合な真実。その追求。」
その邪魔をすること。
それを、隠ぺいすること。
それを追求する者を、抹殺すること。

次のことのみを、受け入れること。
「きれいごと。快感を与える言葉。気持ちの良い言葉。褒め言葉。」
それは、例えば、次の通りである。
「天国。救い。」
そういうことばかり言おうとすること。
それは、例えば、次の人である。
「聖人。聖者。」
それは、生物としての限界である。

（５）気持ちの良いことのみをすること。
それは、例えば、以下の通りである。
「セックス。おいしい食事。ぜいたく。」

次のことしか受け入れないこと。
「気分が良くなること。」

次のことを、受け入れないこと。
「気分を害すること。」

次のことのみ受け入れること。
「彼ら自身の立場を良くすること。」

次のことを、受け入れないこと。
「彼ら自身の立場にとって、都合が悪いこと。」

（初出2008年9月。2020年7月。）

身勝手であること。

他人を、見捨てること。

他人を、見捨てること。
困っている人を助けないこと。
他人を、使い捨てること。
彼ら自身を優先すること。
彼ら自身が良ければ、他人の存在はどうでもよいこと。
人間にとって、他人はどうなってもよい。

次のことをすること。
（１）彼ら自身の生き残りを図ること。
（２）彼ら自身の立場を良くすること。
そのために、他人を犠牲にすること。

自身勝手であること。

（初出2008年9月。2020年7月。）

嫌がらせをすること。

他人に対して、配慮しないこと。
次のことをすること。
「他人が嫌がること。」

他人に対して、嫌がらせをすること。
他人に対して、意地悪をすること。
弱い者をいじめること。
それを、次の目的で行うこと。
（１）彼ら自身のストレスを、発散するため。
（２－１）ライバルに対して、ダメージを与えるため。
（２－２）ライバルの存在を、抹消するため。

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間の愛情。その限界。

「愛情。」
人間にとって、愛情は、次に限定される。
彼ら自身の定住集団の内部。それは、以下の存在である。
（１）それは、外部に対して、閉じている。
（２）それは、親しい。
（３）それは、彼らと、共通の利益を持つ。

それは、例えば、次の通りである。
（１）女性の愛情。
（２）親から子供への愛情。
（３）恋人同士の愛情。
（４）夫婦間の愛情。

それは、特権が無いと、授受できない。
その授受は、次のことが前提となる。
「同じ定住集団のメンバーであること。」

人間においては、次の内容は、稀薄である。
「「不特定他者」への愛情。」

それは、移動生活様式では、次を伴わないと、実行されない。
「天の絶対者による、宗教的な権威や罰則。」

それは、定住生活様式では、次の通りである。
それは、定住集団内部のメンバーに限定される。
それは、部外者の場合、以下の人に限定される。
「お客様。その人は、彼らにお金を出してくれる。」
仮に、その人が、彼らにお金を出せなくなった、とする。
すると、彼らは、その人に対して、途端に冷たくなる。

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間の慈善。その限界。

「慈善。」
それは、人間にとって、次の内容である。
「恵まれた上位者から、恵まれない下位者への、施し。」
それは、次の心に基づく。
「上位者による、下位者への憐れみ。」

それは、社会的な見下しである。
それは、ペットへの餌やりの一種である。

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間の良心。その限界。

「良心。」
それは、人間にとって、次の内容である。
（１）人助け。
（２）共感。

人助けは、社会的に称賛される。
共感は、対人関係的に歓迎される。

しかし、実際には、それらに対しては、返礼は、無い。
それらは、取られ損になりやすい。
それらを行う人は、以下の扱いを受ける。
（１）彼らは、たかられる。
（２）彼らは、むしり取られる。
（３）彼らは、捨てられる。
（４）彼らは、だまされる。

人間社会では、次のことは、存在しにくい。
「純粋で無垢な心による、人助け。」

共感の行為を、上位者によって、強制されやすいこと。

人助けは、無知な子供がやる。
彼は、思い切りだまされる。
彼は、痛い目に合う。
なので、彼は、二度とやらない。

良心的な行為。それは、以下の目的で行われる。

（１）
次のことを好まないこと。
「他人によって、嫌なことをされること。」
なので、人間は、彼ら自身も、他人に嫌なことをしない。
それは、お互い様である。
その社会行動は、いざという時の、保険の一種である。
その社会慣行を普及させること。
そうして、次の内容を確保すること。
「彼ら自身の精神の安定。」

それは、結局、人間にとって、次のことである。
「彼ら自身にとって、都合が良いこと。」

（２）

仮に、人間が、彼ら自身が困った、とする。すると、人間は、誰かに助けてもらいたい。
なので、人間は、困っている人を助ける。
それは、お互い様である。
その社会行動は、いざという時の、保険の一種である。
その社会慣行を普及させること。
そうして、次の内容を確保すること。
「彼ら自身の保全。」

それは、結局、人間にとって、次のことである。
「彼ら自身にとって、都合が良いこと。」

（３）
仮に、次の（３－１）の存在が、次の（３－２）のことを言った、とする。
そのことを、喜んで信じること。
そのことを、喜んで実行すること。

（３－１）権威ある存在。例えば、天の父なる神。
（３－２）「この行いは、良い行いだ。」

次の内容に従うこと。
「権威ある存在の言うこと。」

そうして、安心したいこと。
そうして、保身をしたいこと。

そうして、天国に行くこと。

（４）
以下の存在を、かわいそうに思うこと。
「下位者。それは、恵まれない。それは、困っている。」

そうした下位者に、次のことをすること。
「憐れみをかけること。救ってあげること。」

そうして、自身の上位性を確認したいこと。
そうして、プライドを上げたいこと。
そうして、マウントを取りたいこと。

（５）
定住集団内部で、周囲のご機嫌を取っておきたいこと。
彼ら自身が、定住集団内に残りたいこと。
彼ら自身が、定住集団から、追い出されないようにしたいこと。
彼ら自身が、安全地帯にいたいこと。

そのため、次のことをすること。
「集団内部での、助け合い。」
次のことを防ぐこと。
「定住集団から追放されること。」
そのため、人々の間に、次のことが起きること。
「人助けされたことへの返礼の義務化。贈答。」

（６）
次の行為をしたいこと。
「社会的に褒められる行為。」
そうして、自身の名声を上げること。
そうして、彼自身の立ち位置を有利にすること。

（７）
移動生活様式。
同じ価値観の人たち同士でのみ、助け合うこと。
他人と、持つ価値観が違う場合、互いを攻撃すること。
例えば、宗教や宗派の違い。

（初出2008年9月。2020年7月。）

見かけの良さを好むこと。

偽善を好むこと。
きれいごとを主張すること。

その醜悪な本性を、隠ぺいすること。
その存在を、美化すること。
見かけを良くすること。
化粧をすること。
きれいごとや理想を盛んに主張すること。
天国に行きたいこと。

そうしたきれいごとや理想は、実際には、実現不可能である。
それは、次の内容のためである。
「人間が持つ、醜悪な本性。」

そうしたきれいごとや理想は、例えば、次の通りである。
「人権の尊重。性差別反対。人種差別反対。」

実際には、逆のことばかりやっていること。
それらは、実現する見込みは無い。

（初出2008年9月。2020年7月。）

生物嫌いの生物。人間嫌いの人。

生物嫌悪の思想。人間嫌悪の思想。

生物嫌悪の思想。
それは、以下の内容である。
生物を嫌悪すること。その考えの内容を、主張すること。
生物の本質に対して、マイナスの評価や感情を、抱くこと。

人間嫌悪の思想。
それは、以下の内容である。
人間を嫌悪すること。その考えの内容を、主張すること。
人間の本質に対して、マイナスの評価や感情を、抱くこと。
人間は、生物の一種である。

人間憎悪の思想は、生物嫌悪の思想の一環である。

（2021年5月初出。）

人間嫌いの人。彼は、何になりたいか？

筆者は、次のように考える。
「人間は、男も女も、駄目な存在だ。」

筆者は、人間は、男も女も大嫌いである。

筆者は、人間として生まれてきて失敗だった。
筆者は、生物として生まれてきて失敗だった。
筆者は、自身について、次のように考える。
「私は、良くない。」

筆者は、以下の存在になりたい。
「生物以外の物質。」

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間嫌いの人。彼の生き方。

筆者は、人間が嫌いである。
筆者は、例えば、次のことを推奨する。
「社会的な引きこもり。」
「他人になるべく会わないこと。」

人間関係を最小限に抑える方法。

それは、何か？
それは、投資家生活である。
彼は、劣悪な人間存在を我慢する。
彼は、しばらく働く。
彼は、投資する。
彼は、そうして、お金を貯める。

彼は、生物の一種である。
彼は、何とか生きていく必要がある。
彼には、次のことの実現が、必須である。
「社会的サービスを利用すること。」

彼は、その際、対価を支払うのみにする。

彼は、嫌な人には、必要な対価を支払う。
そうすれば、その相手は、黙る。
彼は、人格的な接触はしない。
彼は、次のように考える。
「ぜいたくは、人生において、意味が無い。」

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間嫌いの人。彼の生きがい。

筆者は、人間が嫌いである。
筆者は、例えば、次のことを推奨する。

「人間嫌いの人。彼が、次のような生きがいを持つこと。」

彼の生きがいは、例えば、次の内容である。
「社会的真実を追求すること。その結果を、文化的子孫として、後世に残すこと。」

彼は、ネット上で、人間観察をやる。
彼は、人間の真実を、暗黒面を含めて、追求する。
彼は、それを、どんどん情報公開する。

彼は、そうして、次のことを行う。
「生物や人間への復讐。」

彼は、その結果、人間社会の中に、支持者がいなくなる。
それは、完全に孤独な闘いとなる。
彼は、社会的に孤立する。

彼は、気を遣う他人がいなくなる。
彼は、何を主張しても、怖くない。
彼は、社会的に無敵の人になる。

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その方法。

そうした社会的真実に近づく方法。
それは何か？
「彼が、その思想において、雑菌に感染すること。」
「彼が、その思想において、そうした雑菌への免疫を付けること。」

それは、以下の考えに接することである。
（１）それは、大量である。
（２）その内容は、雑多である。
（３）その内容は、互いに矛盾する。

彼は、その中から、次の内容を、自力で見つける。
「彼は、次のように考える。「その内容は、次の能力を持つ。」」
「人間社会における様々な現象を、上手に説明する力。」

（初出2008年9月。2020年7月。）

人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その心がけ。

そうした社会的真実に近づくこと。そのためには、彼には、ある心がけが必要である。
それは、以下の通りである。

（Ａ）態度。
（Ａ－１）以下の内容を採用すること。
正直であること。
自然であること。天然であること。

（Ａ－２）以下の内容を回避すること。
自分に都合の良いこと。利害。それらの重視。
人為的なこと。作為。操作。
不正。

（Ｂ）視点。
（Ｂ－１）以下の内容を採用すること。
公平であること。
客観的であること。
冷静であること。
多面的であること。
俯瞰的であること。
新しいこと。

（Ｂ－２）以下の内容を回避すること。
歪曲。
偏り。

以下の心がけが、特に重要である。

以下のことを、避けること。
（１）自身の保身。みんなの注目を集めること。自身の権益の拡大。それらを図ること。
（２）その実現のために、以下のことをすること。
（２－１）社会への適応を、優先すること。
（２－２）人間や社会。それらに対して、迎合すること。
（２－３）人間や社会が持つ、偏った価値観。それへと、染まること。
（２－４）その結果、自身の考えを、人為的に歪曲すること。
（２－５）その結果、次の内容を失うこと。
視点の公平さ。態度の正直さ。

（初出2008年9月。2020年7月。）

女性優位社会における、社会研究者の、無能性。

女性優位社会における、社会研究者の、無能性。
例。日本の社会学者の、無能性。
その発生の要因は、以下のような内容である。

１．
社会研究者。彼ら自身の、心理的傾向。
（１）
自己保身性が強過ぎること。
自己保身を最優先する研究ばかり行うこと。研究遂行における、上位者への忖度や媚びを、社会的真実の主張よりも、優先すること。上位者が喜ぶ内容の研究ばかり、行うこと。上位者が変わると、それに応じて、主張内容を、新たな上位者の意に沿う形へと、その都度、無意識のうちに、掌返しする形で、大幅に歪曲すること。上位者の政策を批判する研究発表を、自主規制して、社会的に抹消すること。
自己の安全確保を優先し過ぎること。退嬰性が強過ぎること。失敗

を、徹底的に恐れること。権威のある前例的学説のデッドコピーと、その訓詁学ばかり、行うこと。未知のリスクに溢れる、新機軸の探査的研究の実行を、安全第一の思考に基づいて、徹底的に回避すること。そのため、前例踏襲と前例改良の研究しか、出来ないこと。
自己が所属する定住集団としての学校や企業や役所や地域などへの所属の維持を、最優先し過ぎること。自己が所属する定住集団から追放される危険のある内容の研究を、徹底的に回避すること。そのため、研究内容決定の自由が、大幅に制限されること。そのために、社会的真実の解明を、過激過ぎるとして、嫌うこと。
（２）
同調や調和の重視が、強過ぎること。
周囲の意向や全体の意向に合わせた内容の研究しか、実行しようとしないこと。同調や調和を乱す異論を出すことを、徹底的に回避すること。異論提出の実行者を、研究者の定住集団内部から、勝手に追放すること。そのため、研究における、個人行動の自由が、大幅に制限されること。研究進行における、相互統制と相互監視と相互検閲が、行き過ぎること。
最新の流行に沿った研究しか、しないこと。主流に沿った研究しか、しないこと。
（３）
自己中心性が強過ぎること。
見栄を張り過ぎること。プラスの注目を浴びることを、最優先し過ぎること。恥をかくことを、恐れ過ぎること。そのために、外面的で表面的な効果の強い、華麗な綺麗事の研究ばかり遂行すること。そのために、社会的真実の解明を、地味過ぎるとして、疎かにすること。
高慢過ぎること。尊大過ぎること。専制支配の重視が、強過ぎること。
下位者に対する、研究上の専制支配を、容赦無く行うこと。下位者を、彼ら自身へと、隷従させることしか、出来ないこと。下位者による、彼ら自身の意思に反する内容の研究を、禁止することしか、出来ないこと。彼ら自身の意思に反する内容の研究を行った下位者を、冷遇したり追放したりすることしか、出来ないこと。
（４）
温室指向が強過ぎること。
安全で快適で楽な研究ばかり、やろうとすること。危ない作業や苦役や汚れ作業を伴う研究を、下位者や部外者へと、丸投げすること。その結果、リアルな社会的現実に接触する機会を、失うこと。
（５）

閉鎖性が強過ぎること。隠ぺい体質が強過ぎること。
部内者内部や縁故者内部だけで、研究の遂行を、固めてしまうこと。研究の進め方が、外部からの新鮮な風通しに、欠けること。
彼ら自身にとって不都合な内実を、外部に漏らさないことに、注意を払い過ぎること。内部告発的な研究が、出来ないこと。
（６）
嫉妬が強過ぎること。
研究を上手くやった周囲の研究者に嫉妬して、その研究の進行を、故意に邪魔して、その将来の芽を、ことごとく潰してしまうこと。
（７）
研究対象に対する一体感や融合感が、強過ぎること。
研究対象に対して、客観的な姿勢を、取れないこと。研究対象に対する、感情移入や共感の度合いが、強過ぎること。研究対象に対する、科学的態度を、取れないこと。研究対象を、愛玩の対象と、してしまうこと。研究の視点が、根本的に、非科学的であること。既存の科学的研究のデッドコピーは出来るが、科学的研究そのものは、全く出来ないこと。

２．
社会そのものの体質。
社会における、内部情報の機密性が、強過ぎること。
社会研究の遂行において取得が必要なエビデンスが、何でも、オフレコとされ、実質的に、取得禁止となること。

（2022年5月初出。）

男性優位社会における、社会研究者の、無能性。

彼らは、移動生活様式の採用によって、男性性の優位化と、女性性の抑圧とに、一応、成功している。
しかし。
彼らは、女性に対する、潜在的な恐怖心を、無意識のうちに、強く抱いている。
彼らは、女性の優位性を認めることが、精神的に、不可能である。
彼らは、女性優位社会の存在を認めることが、精神的に、不可能で

ある。

彼らは、移動生活様式の採用によって、家畜の飼育と屠殺を、常時、生活上の必要に迫られて、行っている。
彼らは、人間の存在を、家畜の存在と、峻別して考えることしか、出来ない。
彼らは、人間の存在を、他の生物の存在と、峻別して考えることしか、出来ない。
彼らは、人間を、生物の一員として捉えることが、精神的に、不可能である。
彼らは、人間の本質を、生物の本質へと包含して考えることが、精神的に、不可能である。
彼らは、人間と生物に共通する社会的価値感の把握が、精神的に、不可能である。
その結果。
彼らにおいては、生物の社会や人間の社会の把握の視点において、修復不可能な歪みが、常時、生じてしまう。
その結果。
客観性や論理性や科学性や分析性に優れた視点を持つことが、せっかく、出来ているにも関わらず。
彼らは、生物社会や人間社会の把握能力において、常時、永続的に、無能になってしまう。

（2022年5月初出。）

生物の心理。その光明性。その暗黒性。

生物が共通に持つ心理。生物が共通に持つ意思。

生物が共通に持つ心理。生物が共通に持つ意思。
その内容は、以下の通りである。

（Ａ）基本の心理。
（１）根幹。
私は、生きたい。

（２）その本能性。その消去不能性。
私は、なぜ生きたいと思うのか？
私は、そのことについて、良く分からない。
私は、気が付いたら、いつの間にか、自然とそう思うようになっている。
私は、生まれつき、そう思うようになっている。
私は、それを消す方法を、知らない。
それは、生物の本能である。

（３）自分自身の存在の保持。
私は、私自身を永続させたい。
私は、私自身の命を守りたい。
私は、健康でありたい。
私は、私自身の子孫が欲しい。

（４）自分自身の存在の拡大。
私は、私自身を拡大させたい。
私は、私自身の子孫をたくさん持ちたい。
私は、私自身の子孫を、普遍的に広めたい。
私は、成功したい。
私は、他者に受け入れられたい。
私は、他者に喜んでもらいたい。

（５）生きる手段の獲得。
（５－１）自分自身の努力。
私は、能力を高めたい。
私は、体調を良くしたい。

（５－２）助けてくれる他者の獲得。
私は、助けてくれる存在が欲しい。
私は、私自身の理解者が欲しい。
私は、友人が欲しい。
私は、頼れる存在が欲しい。

（Ｂ）生物の心理。そのサイクル。

それは、以下の（１）から、以下の（４）の間を、循環する。

（１）生存環境への直面。現実への直面。その厳しさ。その体感。その実感。
生きることは厳しい。
生きることは困難である。
生きることは大変である。
生きることは辛い。

（２）ネガティブな心理の発生。
私は、生きることを放棄したい。
私は、生きることを中止したい。
私は、生きることから逃避したい。
私は、死にたい。

（３）生きることへの再度の覚醒。
私は、死ぬのは怖い。
私は、死ぬのは嫌だ。
私は、とりあえず、生きよう。
私は、明日も、何とか生きよう。

（４）ポジティブな心理の発生。
（４－１）生きることの肯定。
生きることは、それ自体、良いことだ。

（４－２）未来への期待。
明日は、きっと良いことがある。明日に期待しよう。
生きることに希望を持とう。
生きることに期待を持とう。

（４－３）基本の心理の実現。そのイベントの発生。それによる、充足感の発生。
私は、生きていて良かった。
私は、充実している。
生きることは楽しい。
生きることは素晴らしい。

（初出2020年8月。）

生物。人間。彼ら自身の生涯を光明性で満たす方法。

生物や人間の本性は、暗黒である。
生物や人間は、彼ら自身の暗黒性を不快に感じる。生物や人間は、彼ら自身の暗黒性を打ち消そうとして、光明性を、必死になって指向する。生物や人間は、彼ら自身の生涯を、光明性で満たそうとする。生物は、本源的に、光明性を望む。
生物や人間にとって、暗黒性の実現は、容易で楽である。生物や人間にとって、光明性の実現は、苦しく困難である。
生物や人間にとって、暗黒性の実現可能性は、多大である。生物や人間にとって、光明性の実現可能性は、希少である。
生物や人間にとって、暗黒性の実現と持続は、日常化し、常態化する。生物や人間にとって、光明性の実現と持続は、一瞬で終わる。
生物や人間による、宗教や理想といった光明性の絶えざる追求。それは、以下の内容である。
彼ら自身の本性が暗黒であること。彼ら自身の日常が暗黒続きであること。それらの裏返しの内容であること。
生物や人間は、以下の（１）の存在を想定しないと、以下の（２）の状態に陥る。
（１）
絶対者や最高権威者。例。宗教における神。神格化された、理想の追求者や指導者。
それらの実在。それらによる、世界中の生物や人間に対する、絶えざる監視や統制。
（２）
光明性のある行動を、自主的に取ることが出来ないこと。
暗黒性に満ちた行動を、エンドレスに繰り返すこと。

生物。人間。彼ら自身の生涯を光明性で満たす方法。それは何か？
生物。人間。彼らの光明性の側面。彼らが、生涯において、光明性を見出すにはどうすればよいか？生物や人間が光明性を見出しやすくなる最良のノウハウや方法。それらは、以下の内容である。

////

（１）

生きやすさ。生物の生存にとってプラスであること。それらは、光明性につながる。
生きにくさ。死。生物の生存にとってマイナスであること。それらは、暗黒性につながる。
生物は、生きやすくなると、光明性を感じる。
光明性を得るには、生きやすさを求めれば良い。

（２）
生物。彼ら自身の子供。彼ら自身の子孫。彼ら自身の後継者。その存在。それらは、光明性につながる。
子無しであること。後継者の不在。それらは、暗黒性につながる。
生物は、彼ら自身の子供や子孫や後継者がいると、光明性を感じる。
光明性を得るには、彼ら自身の子供や子孫や後継者を生成し、育成すれば良い。

（３）
味方。支え。同類。それらは、光明性につながる。
敵。ライバル。無関心者。冷淡な傍観者。それらは、暗黒性につながる。
生物は、味方や同類と一緒にいると、光明性を感じる。生物は、支えがあると、光明性を感じる。
光明性を得るには、味方や支えを獲得すれば良い。

（４）
光。明るい領域。安全な領域。解決のやり方が分かっている領域。正確な予測や予報がある領域。それらは、光明性につながる。
闇。暗い領域。未知のリスキーな領域。危険な領域。解決のやり方が不明か皆無な領域。正確な予測や予報が無い領域。それらは、暗黒性につながる。
生物は、光の当たる、安全な領域にいると、光明性を感じる。生物は、解決方法を新たに発見し発明するか、解決方法が既に分かっていると、光明性を感じる。生物は、正確な予測や予報があると、光明性を感じる。
光明性を得るには、光や安全な領域にいれば良い。光明性を得るには、解決方法を得れば良い。光明性を得るには、正確な予測や予報を得れば良い。

（５）
成功。達成。それらは、光明性につながる。

失敗。不達。未達。それらは、暗黒性につながる。
生物は、成功し、達成すると、光明性を感じる。生物は、難易度のより高い課題について、成功し、達成を実現するほど、光明性を、より強く感じる。
光明性を得るには、成功し、達成すれば良い。

（６）
好きなこと。したいこと。それらは、光明性につながる。
嫌いなこと。嫌なこと。それらは、暗黒性につながる。
生物は、好きなことや、したいことをすると、光明性を感じる。
光明性を得るには、好きなことや、したいことを、実行すれば良い。

（７）
有能性。優位性。強さ。それらは、光明性につながる。
無能性。劣位性。弱さ。それらは、暗黒性につながる。
生物は、有能になり、強くなり、優位に立つと、光明性を感じる。
光明性を得るには、有能になり、強くなり、優位に立てば良い。

（８）
快感。快適さ。それらは、光明性につながる。
不快さ。それは、暗黒性につながる。
生物は、快感があると、光明性を感じる。生物は、快適だと、光明性を感じる。
光明性を得るには、快感や、快適さを得れば良い。
ある生物にとって快適な行動は、別の生物にとっては、不快であることが多い。

（９）
ポジティブさ。前向きであること。それらは、光明性につながる。
ネガティブさ。後ろ向きであること。それらは、暗黒性につながる。
生物は、ポジティブで前向きだと、光明性を感じる。
光明性を得るには、ポジティブで、前向きでいれば良い。

（１０）
合っていること。それは、光明性につながる。
違っていること。それは、暗黒性につながる。
生物は、合っていると、光明性を感じる。生物は、同意や合意が得られると、光明性を感じる。

光明性を得るには、同意や合意を得れば良い。

（１１）
温かいこと。それは、光明性につながる。
寒いこと。冷たいこと。暑いこと。それらは、暗黒性につながる。
生物は、温かいと、光明性を感じる。生物は、熱いと、強力な光明性を感じる。
光明性を得るには、温暖な気候の下で生きれば良い。

（１２）
セックス。絶頂。それらは、光明性につながる。
異性に振られること。それらは、暗黒性につながる。
生物は、好みの肉体の、気が合う異性とのセックスによる絶頂に、光明性を感じる。
光明性を得るには、好みの肉体の、気が合う異性とのセックスによる絶頂を実現すれば良い。

（１３）
生活水準の高さ。衣食住における十分さ。それらは、光明性につながる。
生活水準の低さ。衣食住における不足。それらは、暗黒性につながる。
生物は、生活水準が高く、十分に衣食住を満たせると、光明性を感じる。
光明性を得るには、高い生活水準や、十分な衣食住を得れば良い。

（１４）
良いこと。生物の生存にとってプラスになることをすること。生物の生存を助けること。それらは、光明性につながる。生物は、それらをすると、光明性を感じる。
悪いこと。生物の生存にとってマイナスになることをすること。生物の生存を妨害すること。生物を殺害すること。それらは、暗黒性につながる。生物は、それらをすると、暗黒性を感じる。
光明性を得るには、生物の生存にとってプラスになることをしたり、生物の生存を助ければ良い。

（１５）
問題が無いこと。それは、光明性につながる。
問題があること。それらは、暗黒性につながる。
生物は、問題を解決すると、ポジティブな光明性の世界に入ること

が出来る。
光明性を得るには、問題を解決すれば良い。

（１６）
笑み。幸せ。楽しみ。それらは、光明性につながる。
怒り。悲しみ。不幸。それらは、暗黒性につながる。
生物は、笑みがあると、光明性を感じる。生物は、幸せがあると、光明性を感じる。生物は、楽しみがあると、光明性を感じる。
光明性を得るには、笑みを忘れず、楽しく過ごし、幸せを掴めば良い。

（１７）
将来性。希望。それらは、光明性につながる。
将来性の無さ。希望の無さ。それらは、暗黒性につながる。
生物は、将来性があると、光明性を感じる。生物は、希望があると、光明性を感じる。
光明性を得るには、将来性や希望を得れば良い。

（１８）
完成させること。実現すること。課題をクリアすること。それらは、光明性につながる。
未完成のまま放置すること。実現できないこと。課題をクリア出来ないこと。それらは、暗黒性につながる。
生物は、完成させ、実現させ、クリアさせると、光明性を感じる。
光明性を得るには、完成し、実現し、課題をクリアすれば良い。

（１９）
願望が叶うこと。それらは、光明性につながる。
願望が叶わないこと。それらは、暗黒性につながる。
生物は、願望が叶うか、叶いそうだと、光明性を感じる。
光明性を得るには、願望を叶えれば良い。

（２０）
選ばれること。認められること。それらは、光明性につながる。
選ばれないこと。認められないこと。それらは、暗黒性につながる。
生物は、選ばれると、光明性を感じる。生物は、認められると、光明性を感じる。
光明性を得るには、選ばれ、認められれば良い。

（２１）
プラスの意味で注目されること。人気者になること。他者から必要とされること。需要があること。売れっ子になること。稼げること。輸出超過になること。財政的に黒字であること。財政的に食べていけること。生物が、彼ら自身の有能さを確認できること。生物は、そうなると、光明性を感じる。それらは、光明性につながる。
光明性を得るには、プラスの意味で注目され、人気を得て、他者から必要とされ、需要を獲得して、売れっ子になって、稼げて、輸出超過を実現できて、財政的な黒字を実現できて、財政的に食べていくことが出来て、彼ら自身の有能性を確認できるようにすれば良い。

（２２）
縄張りや権益を占有すること。それらは、光明性につながる。
縄張りや権益を得られなかったり、喪失すること。それらは、暗黒性につながる。
光明性を得るには、縄張りや権益を占有すれば良い。

（２３）
調和。それは、光明性につながる。
不調和。それは、暗黒性につながる。
生物は、調和を得ると、光明性を得やすい。生物は、意見や方針が周囲と合致すると、光明性を得やすい。
光明性を得るには、周囲との意見や方針の合致を得れば良い。
生物は、周囲を説得できそうな意見や方針を掲げると、光明性を得やすい。
光明性を得るには、調和を重視し、周囲を説得できそうな意見や方針を掲げれば良い。

（２４）
自然さ。それは、光明性につながる。
不自然さ。作為性。それは、暗黒性につながる。
光明性を得るには、自然に振る舞えば良い。

（２５）
健康であること。元気であること。無傷であること。それらは、光明性につながる。
病気であること。元気が無いこと。傷ついていること。それらは、暗黒性につながる。
光明性を得るには、健康で、元気で、無傷でいるようにすれば良

い。
光明性を得るには、病気や傷を治せば良い。

（２６）
リラックス。それは、光明性につながる。
緊張。ストレス。それは、暗黒性につながる。
光明性を得るには、リラックス出来るようにすれば良い。

（２７）
主導者の場合。
付いてくる他者がいると、光明性を得やすいこと。
誰も付いてこないと、光明性は得られないこと。
主導者が光明性を得るには、他者が付いてくるような主導性を発揮すれば良い。
従者の場合。
主導者と意見が合致すると、光明性を得やすいこと。
主導者と意見が合わないと、光明性は得られないこと。
従者が光明性を得るには、意見の合う主導者を見つけて、従うようにすれば良い。

（２８）
生物は、弱音を吐くと、光明性を得にくい。生物は、隠し事をすると、光明性を得にくい。生物は、憎悪をむき出しにすると、光明性を得にくい。生物は、他の生物を殺傷すると、光明性を得にくい。
生物は、ネガティブだと、光明性を得にくい。
でも、生物は、それらを抑止し続けることに耐えられなくなることもある。
うまく行かないことの連続がもたらす、ストレスの蓄積。周囲から圧力や危害を加えられることによる、ストレスの蓄積。自身が暗黒性に満ちた行動を実行したことに対する、自身に対する不快感や自責の念。
生物は、そうしたネガティブな内実を、外部に向かって、吐く必要がある。
生物や人間は、そのことで、内心のストレスや葛藤や傷を癒やすことが出来る。
信頼できる他者への、秘密の相談や告白。
例。宗教指導者への告解。カウンセラーへの秘密の相談や告白。配偶者や親子への秘密の相談や告白。友人への秘密の相談や告白。
生物は、悩みの打ち明けや告白を行うに足る信頼関係を、他者との間で構築できていると、光明性を得やすい。

同じ入力刺激について、常に同じ出力を吐き出すようにすること。
それが、信頼の源となる。
生物は、信頼があると、光明性を得やすい。
光明性を得るには、信頼を得れば良い。
生物は、内心のストレスや葛藤や傷が癒えると、光明性を得やすい。
光明性を得るには、以下の内容を実行すれば良い。信頼できる他者に対して、悩みを告白し相談すること。そのことで、内心のストレスや葛藤や傷を癒やすこと。

////

宗教や理想は、生物に光明性を見せてくれる思想や儀式である。宗教の祈りは、生物が光明性を追い求める姿を表している。
光明性の世界とは、生物にとっての天国である。生物は、その世界において、心の底からリラックスでき、快感に浸ることが出来る。

視覚を持たない生物。視覚が故障した生物。彼らは、光明性を直接は知らないが、それに相当する代わりの感覚を所持していると考えられる。

（2021年11月初出。）

自分自身の生涯を光明に変えるには。

生物は、自分自身の生涯を、光明に変えたい。
そのためには、生物は、以下の行為をすれば良い。

生物への規制に従うこと。

生物への規制。それへの適応を実現すること。
生物への規制。それへの適応を体現すること。

その実感を持つ体験をすること。それに成功すること。

例。
周囲の他者に貢献すること。
そうして、周囲の他者に受け入れられること。
そうして、自分自身の理解者を得ること。

例。
自分自身の子孫をたくさん持つこと。
自分自身の子孫を広めること。
自分自身の子孫の繁栄を見届けること。

その体験を得るために、一生懸命になれること。

自分自身の生物を賭ける対象。
自分自身の生物を打ち込む対象。
それらの対象を明確化できること。
それらの対象を得られること。

以下の実現を、最終的に可能にすること。

生物への規制。それへの適応。その実現。
生物への規制。それへの適応。その体現。

その実感で、自分自身の毎日を総括すること。
その実感で、一日の終わりを締めくくること。

その実感で、自分自身の生涯を総括すること。
その実感で、自分自身の生涯を締めくくること。

（初出2020年8月。）

生命のバトン。生命のリレー。生物の運命。

生物は、生殖を行う。
生物は、新旧の世代交代を行う。

それは、前の世代から、次の世代へと、生命のバトンを受け渡す形で行われる。
仮に、前の世代が、次の世代への生命のバトンの受け渡しに成功した、とする。
すると、前の世代は、安心して、老衰し、死ぬ。

それらは、以下のように表現可能である。
////
生命の継承。
生命のリレー。
////

以下の（１）は、以下の（２）を実現する。
以下の（１）は、それによって、以下の（３）が可能となる。
（１）生物。
（２－１）生命のリレーを実行すること。
（２－２）生命のリレーに成功すること。
（３）自分の一生を、充実した内容とすること。その実現。

それは、以下の行為の、一つの類型である。
生物への規制に従って生きること。

生物は、そのことで、以下の（４）の内容を、運命付けられている。
（４－１）生まれること。死ぬこと。
（４－２）若さを保てないこと。老衰すること。

それらは、生物にとって、強制されたものである。
それらは、以下の（５）のように表現可能である。
////
（５）生物の運命。
////
それらは、以下の内容の、一つの類型である。
生物への規制の、全ての生物への、例外なき強制。

（初出2020年8月。）

生物の権利。生物の倫理。生物の宿命。

（Ａ）生物の権利。

生物は、みんな、生物への規制に従って動こうとしている。

////
以下の（１）は、以下の（２）の内容を実現する。
以下の（１）は、そうして、以下の（３）を可能にする。
（１）生物。
（２）生物への規制に従って動くこと。
（３－１）幸せになること。その実現。
（３－２）明るい一生を送ること。その実現。

////
（１）生物への規制に従って生きること。
生物自身が、上記の（１）を選択する場合。
各々の生物は、次の（２）の事項を考慮する必要がある。
（２）他の生物の意思。
他の生物。彼らは、各々の生物の周囲に存在する。

////
以下の（１）だけでなく、以下の（２）も、以下の（３）の内容を実行する。
以下の（２）も、以下の（４）を実現しようとしている。
（１）生物自身。
（２）他の生物。
（３）生物への規制に従って動こうとする行為。
（４）幸せになること。明るい一生を送ること。

////
以下の（１）は、
以下の（２）を実行する上で、以下の（５）の態度が必要である。

（５）
以下の（３）における、以下の（４）の内容の尊重。

（１）各々の生物。
（２）自分自身が生きること。
（３）他の生物。
（４－１）生きる意思。
（４－２）送る一生。その内容の明るさ。
（４－３）生物への規制に従って生きること。それを容易に実現できる権利。

他の生物は、以下の権利を持つ。
（１）生物への規制に従って生きる権利。
（２）そうして、幸せに生きることができる権利。
（３）そうして、明るい一生を送ることができる権利。

生物同士は、そのことを互いに、ある程度配慮すべきである。
それは、以下の（７）のように表現可能である。
////
（７）生物の権利。
////

（Ｂ）生物の倫理。

////
生物の権利。
それは、例えば、以下の内容に相当する。
それは、以下の（３）の意識の原型である。
以下の（３）は、以下の（４）のために、存在する。

（４）
以下の（１）における、以下の（２）。それを実現すること。
（１）人間。それは、生物の一種である。
（２－１）他人を生存しやすくすること。
（３－１）人権意識。

（２－２）他の動植物を生存しやすくすること。
（３－２）環境保護の意識。

（２－３）他の動植物を安易に殺さないこと。

（３－３）殺生抑制の意識。

////
以下の（１）には、以下の（４）についての認識が必要である。

（４）
以下の（２）は、自分自身と同様に、以下の（３）を持っている。
（１）生物。
（２）他の生物。
（３）生きる意思。
（３－１）生物への規制に従って生きる意思。
（３－２）幸せに生きたい意思。
（３－３）明るい一生を送りたい意思。

////
各々の生物は、自分の生涯を賭けて、活動している。
そのため、以下の（１）同士では、以下の（２）が発生する。
それは、頻発する。
（１）異なる生物同士。
（２－１）互いに利害が反すること。
（２－２）そのため、互いに殺戮をし合うこと。

例。人間による殺虫剤の噴射。
例。ウィルスによる人間への感染と、人間の殺戮。

ある生物は、生物への規制に従って生きることができる。
一方、別の生物は、生物への規制から外れて生きるしかない。
こうした事態は頻発する。

ある生物は、生命のリレーの成功により、子孫繁栄を実現できる。
一方、別の生物は、自分のところで、生命のリレーが断絶する。

ある生物は、明るい一生を送ることができる。
一方、別の生物は、悲惨な一生を送るしかない。

ある生物は、豊かな一生を送ることができる。
一方、別の生物は、貧しい一生を送るしかない。

こうした事態は頻発する。それは、理不尽である。

こうした理不尽の発生。その頻度は、本来、少ない方が良い。

////
生物には、以下の性質がある。
自分自身の一生の明るさ。それを、極限まで追求する性質。

ある生物は、以下の内容を実行することで、それを実現する。
生物への規制に従って生きること。
その生物はそうして幸せになれる。それは、生物の光明性である。

その際、生物は、他の生物の一生を、平気で踏み台にして、犠牲にする。
それは、生物の暗黒性である。

それは、生物の生存に必要な資源は、限られているからである。

しかし、それだけではない。
以下の（１）は、以下の（３）の行為を、平気で行う。
以下の（１）は、それを、以下の（２）の実現のために、行う。
（１）生物。
（２－１）自分自身の快楽や、ぜいたく。
（３－１）他の生物を飢えさせること。

（２－２）自分自身の明るい一生。
（３－２）他の生物の一生を犠牲にすること。

生物は、基本的に、他の生物に配慮しない。
これは、別に人間に限ったことでは無い。

生物は、生きる際に、他の生物からの協力が必要である。
生物は、単独で生きることは難しい。
生物は、一見、単独で生きているように見える。
しかし、実際は、そうした生物も、他の生物から、助力を受けている。
それは、普通である。
それは、当然である。

例。両生類。爬虫類。彼らは、親から、卵の形で、栄養面での助力を受けている。

例。人間は、他の生物の身体を食べる。人間は、そうして栄養等を得ている。

以下の（１）は、以下の（３）を、必要とする。
それは、以下の（２）の実行において、必要である。
それは、必須である。
（１）生物。
（２）自分自身が生きること。
（３－１）他の生物への配慮。
（３－２）他の生物への共感。

しかし、それは、生物にとって、難しい。

////
以下の（１）の内容は、当然である。
（１－１）光明性を実現する生物。それは、多い方が良い。
（１－２）暗黒性に沈む生物。それは、少ない方が良い。

以下の（２）の実現は、上記の（１）のために、当然である。
（２－１）光明性を実現する生物。その増加。
（２－２）暗黒性に沈む生物。その減少。

上記の（２）は、以下の（５）のために、なるべく実現した方が良い。

（５）
以下の（３）にとって、以下の（４）を可能にすること。
（３）生物。
（４）自分自身が光明性を伴って生きること。

それは、以下の（６）のように表現可能である。
////
（６）生物の倫理。
////

（Ｃ）生物の自己矛盾。生物の宿命。

生物の倫理。
それは、生物にとって、必要である。
しかし、その実現は、難しい。

////
以下の（１）は、以下の（２）の実現について、以下の（３）の状態である。
（１）生物。
（２－１）自分自身が光明性を伴って生きること。
（３－１）一生懸命であること。

（２－２）他の生物の光明性の実現。
（３－２－１）配慮しないこと。
（３－２－２）そもそも配慮する能力に欠けていること。

それは、生物の暗黒性である。

////
以下の（１）は、以下の（４）の行為を実行する。
以下の（２）の目的達成のために。
以下の（３）に対して。

（１）生物。
（２）自分自身の一生の光明性の実現。
（３）他の生物の一生。他の生物が持つ、生命そのもの。
（４）平気で犠牲にすること。

それは、生物の暗黒性である。

////
以下の（１）は、一見、以下の（２）を実行しているように見える。
しかし、実際は、以下の（１）は、以下の（４）の内容で動いている。
以下の（３）の目的のために。
（１）生物。
（２）生物の倫理への配慮。そのために、高い理想を掲げること。
（３）自分自身の生命の光明性。それを更に増すこと。その実現。
（４）自己中心的な動機。

それは、生物の暗黒性である。

例。
人間による、高い理想を掲げた社会運動。性差別反対。人種差別撤廃。
それは、きれいごとの主張で終わりやすい。

////
以下の（１）は、以下の（２）を実行しようとする。
そのため、以下の（１）は、以下の（３）について、以下の（４）の状態に陥る。
（１）生物。
（２）自分自身の生物の光明性。その実現。
（３）自分自身の生物の暗黒性。そこから逃れること。
（４）その実現が困難であること。

それは、以下の（５）のように表現可能である。
////
（５－１）生物の自己矛盾。
（５－２）生物の宿命。
////

////
以下の（Ｄ）は、生物にとって、解決すべき、大きな課題である。
（Ｄ－１）生物からの暗黒性の消去。
（Ｄ－２）生物の光明性の普遍化。

生物の一種である人間は、上記の（Ｄ）を、未だに両立できていない。

以下の（１）は、以下の（３）の状態である。
以下の（２）である限り。
（１）生物。
（２）生きている状態。その持続。
（３）上記の（Ｄ）の両立。それが永遠に不可能であること。

（初出2020年8月。）

生物の義務。生きること。

////
以下の（１）にとって。
以下の（２）は、以下の（３）の内容である。
（１）生物。
（２）生きる行為。
（３）
それは、根本的に面倒である。
それは、根本的に苛酷である。
それは、根本的に困難である。

それでも、生物は、生きるしかない。

以下の（１）にとって。
以下の（２）は、以下の（３）の内容である。
（１）生物。
（２）生きる行為。
（３）それは、どうしても、やらなければならない。

それは、以下の（４）のように表現可能である。
////
（４）生物にとっての義務。
////

（初出2020年8月。）

感情。情動。生命維持との関連。

感情。情動。

生物の維持にとって、プラスかマイナスかを、生物自身が判定し、反応する仕組み。
それは、以下のような段階を踏む。

（１）
環境変動。
////
生物の身体。
//
その内部環境。
その外部環境。
////

それらの検知。

（２）
検知結果の知覚。
- 無意識的。
- 意識的。

（３）
生物にとっての価値。生物自身の生命維持にとっての効果。その評価。その数値。
- プラス。
- マイナス。

プラスは、光明性。それは、快感を生み出す。
マイナスは、暗黒性。それは、不快感を生み出す。

例。
安全。それは、プラスの価値である。
危険。それは、マイナスの価値である。

その数値の持つ、性質。

＝
- 大きいこと。
- 小さいこと。

＝
- 安定。
- 不安定。

＝
- 増進。
- 減退。

＝
- 閾値を超過すること。
- 閾値を超過しないこと。

（４）
生物が行う反応。

＝
- 働きかけを行うこと。攻撃。防御。
- 働きかけを行わないこと。静止。

＝
- 積極的。
- 消極的。

＝
- 表出。
- 抑制。抑圧。隠蔽。

例。
//
快感。生命維持にとって、プラスの環境変動。それらの検知。
不快感。生命維持にとって、マイナスの環境変動。それらの検知。
泣くこと。積極的な表出。環境変動の大きさが、閾値を超過したこと。プラスとマイナスの両方。例。嬉し泣き。
喜ぶこと。積極的な表出。生命維持にとって、プラスの環境変動が起きた場合。
怒ること。積極的な表出。生命維持にとって、マイナスの環境変動が起きた場合。働きかけを行うこと。攻撃。悲しみがベースになっていること。
静かに、悲しむこと。消極的な抑制。生命維持にとって、マイナス

の環境変動が起きた場合。働きかけを行わないこと。静止。
楽しむこと。積極的な表出。生命維持にとって、プラスの環境変動が起きた場合。働きかけを行うこと。攻撃。喜びがベースになっていること。
//

生命維持に敏感であるほど、その生物は、感情的になる。
生命維持に鈍感であるほど、その生物は、非感情的になる。

生命維持を重視するほど、その生物は、感情的になる。
生命維持を軽視するほど、その生物は、非感情的になる。

生命維持に熱心であるほど、その生物は、感情的になる。
生命維持に冷ややかであるほど、その生物は、非感情的になる。

生物は、自己保身的であるほど、感情的になる。
生物は、捨て身的であるほど、非感情的になる。

例。
女性は、自己保身性で動く。
男性は、捨て身で動く。
女性は、男性よりも、感情的になる。
男性は、女性よりも、非感情的になる。

（2021年12月初出。）

生物社会の人工的な生成。

マイクロニューロコンピュータ同士の相互作用によって、人工の小さな生物社会を作る試み。それは、神経社会学における、新機軸になる。

単一ニューロンと、それらの組み合わせで、ニューロコンピュータを作ること。もしくは、ニューロコンピュータベースの人工知能を、改造すること。

それらのニューロコンピュータ同士を相互作用させて、マイクロなニューロコンピュータ社会を作ること。

それらは、以下の内容の実現につながる。
//
生物社会の基盤を知ること。
人間と、人間以外の生物との、コミュニケーション。その方法の確立。その基礎を得ること。
//

その際には、以下の内容の実現が、重要である。
生物にとっての環境。その状態の検知。その結果数値。それが、生物の維持にとって、プラスかマイナスかを、生物自身が判定すること。その仕組みを、生物としてのマイクロニューロコンピュータの内部に、入れること。

（2021年12月初出。）

生物の倫理。移動生活様式中心社会の場合。

生物の倫理。
移動生活様式中心社会の場合。
絶対者が作った、秩序。それを、凡庸な一般者が、勝手に改変すること。それを禁じること。

例。
絶対者の神が作った、生物進化の秩序。それを、人間が勝手に改変すること。それを禁じること。
遺伝子工学。神経工学。それらに対する制限。
クローン人間の生成。その禁止。
人間活動がもたらす気候変動。それがもたらす、人間以外の生物の絶滅。その禁止。

ある生物が、絶対者によって、特別に選ばれた存在であること。その正当化。

ある生物が、他の生物よりも、社会的上位者であること。その正当化。
ある生物に対する扱いが、他の生物に対する扱いに比べて、格上であること。その正当化。
//
例。
人間が、他の生物よりも、上位の存在であること。その正当化。
//

生物が、他の類似の生物を、殺戮すること。その正当化。
//
例。
人間による、家畜の屠殺。その正当化。
//

そのため、ある生物が、以下の状況の発生を、回避すること。
//
彼ら自身の社会的格付け。それが、他の類似の生物に対する社会的格付けと、同格になること。
//

////
例。
ある生物が、彼ら自身の生殖行為を、表向き、否定すること。
ある生物が、彼ら自身が所有する、性的誘引力を、表向き、否定すること。

//
例。
人間の場合。
セックス。性欲。それらの否定や隠蔽。
性的誘惑の否定。売春の否定。

それらによる、以下の内容の実現。

家畜が、本能のままに、セックスすること。その肯定。
人間が、家畜と同様に、本能のままに、セックスすること。その否定。

人間と家畜との差別化。その正当化。

人間による、家畜の屠殺。その正当化。
////

（2021年12月初出。）

生物にとっての理想。その実現は、不可能である。

総論。生物にとっての理想。生物の本質。その両者の関係。

（１）
生物にとっての理想。

（２）
生物の本質。

上記の両者は、互いに相容れない。
上記の両者は、互いに対立する。

生物と人間との関係。
人間は、生物に含まれる。
人間は、生物の一種である。

生物にとっての理想。

生物は、その内容に対して、心理的に、強く惹きつけられる。

生物は、その内容に対して、心理的に、溺れる。
それは、麻薬中毒の症状と、同様である。

その内容へと耽溺した状態。
生物は、そこから心理的に逃れることが、出来ない。

生物にとっての理想。

その内容を、彼ら自身の手によって、真に実現すること。
そのことは、生物にとって、不可能であること。

彼ら自身における、そのような限界の存在。
生物は、それについて、そもそも気付くことが出来ない。

（初出2021年2月。）

生物の本質。それらの主要な内容。

生物の本質。
それらの主要な内容は、以下の通りである。

（Ａ）
優先的に、生存したいこと。
優先的に、自身の子孫を残したいこと。
それらの実現を、最優先すること。

社会的に有利になりたいこと。

社会的に不利になること。
そうした事態の発生を、避けたいこと。

自身の利益。
社会的に有利になるための手段。
それらを獲得すること。
その可能性が確保されていること。

（Ａ－１－１）
初期状態。
最初の状態。

（Ａ－１－２）
既に、時間が経過した後の状態。

（Ａ－２－１）
社会的に有利になるための手段。
それらを何も持たない状態。

（Ａ－２－２）
社会的に有利になるための手段。
それらを持っている状態。
その状態を、維持できること。

（Ａ－３－１）
社会的に有利になるための手段。
それらを獲得できる可能性があること。

（Ａ－３－１－１）
自身による、具体的な行動の実行。
その実現の可能性。
それが存在すること。

（Ａ－３－１－１－１）
自身に固有の才能を生かせること。
その実現の可能性。
それが存在すること。

（Ａ－３－１－１－２）
自身による努力や労力。
それらが、結果において、報われること。
その実現の可能性。
それが存在すること。

（Ａ－３－１－２）
それらを実現可能な、社会環境。
それが存在すること。

（Ａ－３－２）
社会的に有利になるための手段。
それらを獲得できる可能性が無いこと。

（Ａ－３－２－１）
自身による、具体的な行動の実行。
その実現の可能性。
それが存在しないこと。

（Ａ－３－２－１－１）
自身に固有の才能を生かせること。
その実現の可能性。
それが存在しないこと。

（Ａ－３－２－１－２）
自身による努力や労力。
それらが、結果において、報われること。
その実現の可能性。
それが存在しないこと。

（Ａ－３－２－２）
それらを実現可能な、社会環境。
それが存在しないこと。

例。
有能な遺伝子を所持していること。

生物が、上記の（Ａ－１－１）のタイミングにおいて、上記の（Ａ－２－２）の状態にあること。

例。
機会の平等が、社会的に確保されていること。
生物が、上記の（Ａ－１－１）のタイミングにおいて、上記の（Ａ－３－１）の状態にあること。

例。
結果の平等が、社会的に確保されていること。

///
生物が、上記の（Ａ－３－１）の状態にあること。
その結果、生物が、上記の（Ａ－１－２）のタイミングにおいて、上記の（Ａ－２－２）の状態にあること。

（Ｂ）
自身と同質な存在を、自身と異質な存在よりも、優先すること。
自身との間における、遺伝的な同一性。
自身との間における、文化的な同一性。
それらの保持者を、それらの非保持者よりも、優先すること。

（Ｃ）
立場や背景において、違う者同士。

遺伝的な属性。
文化的な属性。
それらの内容において、違う者同士。

彼らは、互いに、異なる理想を持つこと。
彼らは、互いに、同じ理想を持つことが出来ないこと。

（Ｄ）
生存していく上で、楽ができること。

自身にとって快いことだけを、していること。

それだけで、自身が、十分に生存できること。
それだけで、自身が、十分に子孫を残せること。

生存していく上で、苦労をしなくて済むこと。
生存していく上で、ハードな思いをしなくて済むこと。
生存していく上で、リスクを取らずに済むこと。

（Ｄ□１）
そうした状態を、確保できること。
その可能性があること。

（Ｄ□２）
そうした状態を、確保できること。
その可能性が無いこと。

（初出2021年2月。）

生物にとっての理想。その実現が不可能であること。

生物にとっての理想。
それは、例えば、以下のような内容である。

（１）
（１-１）
個人の自由。
相互の自由独立。
それは、男性にとっての理想である。
その内容は、女性の理想とは、相容れない。

（１-２）

全体の調和。
相互の一体性や共感の確保。
それは、女性にとっての理想である。
その内容は、男性の理想とは、相容れない。

それらは、以下のタイプに該当する。

生物の本質。
その（Ｃ）の内容に該当するタイプ。

（２）
平等。

（２－１）
（２－１－１）
特権を無くすこと。
既得権益を無くすこと。

それらは、以下のような存在にとっての理想である。

初期状態において、何も無い状態からスタートする者。
初期状態において、特権や既得権益を、持たない者。
現状において、特権や既得権益を、持たない者。
社会の下層からスタートする者。
社会の下層において生活している者。

その内容は、以下のような存在にとっての理想とは、相容れない。

初期状態において、特権や既得権益を、持っている者。
現状において、特権や既得権益を、持っている者。
社会の上層からスタートする者。
社会の上層において生活している者。

それは、以下のような内容である。

機会の平等。

特権や、既得権益。
それらのリセット。

それは、以下のタイプに該当する。

///
生物の本質。
その（Ａ）の内容に該当するタイプ。
（Ａ－１－１）および（Ａ－３－１）。

///
生物の本質。
その（Ｃ）の内容に該当するタイプ。

///
生物の本質。
その（Ｄ）の内容に該当するタイプ。
（Ｄ－１）。

（２－１－２）
特権の維持。
既得権益の維持。

それは、以下のタイプに該当する。

///
生物の本質。
その（Ａ－２－２）の内容に該当するタイプ。

///
生物の本質。
その（Ｃ）の内容に該当するタイプ。

それらは、以下のような存在にとっての理想である。

初期状態において、特権や既得権益を、持っている者。
現状において、特権や既得権益を、持っている者。
社会の上層からスタートする者。
社会の上層において生活している者。

その内容は、以下のような存在にとっての理想とは、相容れない。

初期状態において、何も無い状態からスタートする者。
初期状態において、特権や既得権益を、持たない者。
現状において、特権や既得権益を、持たない者。
社会の下層からスタートする者。
社会の下層において生活している者。

///
生物の本質。
その（Ｄ）の内容に該当するタイプ。
（Ｄ－１）。

（２－２）
差別の撤廃。
誰にでも、同じように振る舞うこと。

それ自身と同質な存在。
それ自身とは異質な存在。
その両者を、同じように扱うこと。

それは、以下の内容と、互いに相容れない。

生物の本質。
その（Ｂ）の内容に該当するタイプ。

（例）
///
経済的な格差。

権力面での格差。

///
遺伝的な差。

//
性差。
例。
男女。

//
外見的な特徴の差。
例。
人種。

///
文化の差。
例。
異文化の所有者。

（ 3 ）
正義。
正しさ。

それらは、以下の内容と、互いに相容れない。

生物の本質。
その（ C ）の内容に該当するタイプ。

例。
宗教的な正しさ。
主義的な正しさ。
政治的な正しさ。

（４）
平和。
和平。

それらは、以下の内容と、互いに相容れない。

生物の本質。
その（Ａ）の内容に該当するタイプ。

生物の本質。
その（Ｄ）の内容に該当するタイプ。

生物は、以下のような内容の実現を、目指す。
より良いポジションに就くこと。

そうしたポジションの数は、限られている。
生物は、互いに、その位置への着任を賭けて、争う。
生物において、相互の利害対立は、必然的に生じる。
そのため、生物において、相互の争いが絶えることは、無い。

相互の利害対立を抑止すること。
平和の実現。
生物にとって、その実現は、一時的なものに終わる。
生物にとって、その永続的な実現は、本質的に、難しい。

（５）
権利。

それらは、以下の内容と、互いに相容れない。

生物の本質。
その（Ａ）の内容に該当するタイプ。

生物は、以下の内容の実現を、目指す。
自身の意見や行為を、周囲に対して、通すこと。
それは、生物にとって、自身の利益を確保するために、必須である。

生物は、その実現を、自身の権利として、主張する。

そのためには、以下の内容の実現が、必要である。
自身の利益に反する意見。
その主張者。
そうした存在としての他者。

自身の利益に反する行為。
その実行者。
そうした存在としての他者。

それらの存在を、消すこと。
それらの存在を、潰すこと。
それらの存在を、抑え込むこと。
それらの存在の言動を、制限すること。
それらの存在の言動を、処罰すること。
それらの存在を、自身に対して、服従させること。

そのため、生物は、他者の権利を、容易に侵害する。

自身の権利。
他者の権利。
それらの両方を、尊重すること。

生物にとって、その実現は、本質的に、難しい。

（初出2021年2月。）

生物にとっての理想郷。

生物にとっての理想。
その内容が、真に実現された世界。
そうした世界は、生物によって、以下のように呼ばれている。

例。
天国。
天上の世界。
極楽浄土。
桃源郷。

（初出2021年2月。）

生物にとっての理想と、その主唱。

（１）
生物にとっての理想。
それらの実現を主唱する思想。

（２）
生物にとっての理想。
それらの実現を主唱する存在。

例。
（１）
宗教。

（２）
宗教家。

例。
（１）
イデオロギー。
例。
民主主義。
共産主義。
リベラリズム。

（２）
社会運動家。
イデオローグ。

（初出2021年2月。）

生物にとっての理想。それが持つ、生物にとっての効果。

生物にとっての理想。
生物が、その内容に対して、心理的に、強く惹きつけられること。
生物が、その内容に対して、心理的に、溺れること。
その原因。

（１）
理想の信奉により、以下の（Ａ）の内容を、実現させること。
その実現を、強く願望すること。
生物にとって、その実現は、一見した限りでは、あたかも可能であるかのように、思えること。

（Ａ）
生物にとって、楽な状態を、永遠に得ること。
生物にとって、快い状態を、永遠に得ること。

（２）
理想の信奉により、以下の（Ｂ）の内容から、逃れること。
その実現を、強く願望すること。
生物にとって、その実現は、一見した限りでは、あたかも可能であるかのように、思えること。

理想の信奉により、以下の（Ｂ）の内容を、克服すること。
その実現を、強く願望すること。

生物にとって、その実現は、一見した限りでは、あたかも可能であるかのように、思えること。

（Ｂ）
生物の本質がもたらす、苛酷な人生の現実。

（初出2021年2月。）

生物にとっての、理想と、現実。

現実の真相。
それについて、徹底的に、究明を行うこと。
それが、生物にとって、本来、必要である。
理想。その内容は、生物にとって、心地良く、快い。
現実。その内容は、生物にとって、苛酷であり、不快である。
生物は、心地良い、快い内容に対して、惹かれる。
生物は、苛酷な、不快な内容に対して、嫌悪感を持つ。
生物は、心地良い、快い内容を、専ら、追求する。
生物は、以下のような状況の発生を、徹底的に回避する。
//
苛酷な、不快な内容。
その解明。
それらの内容への直面。
//

そのような結果。
生物は、理想を、専ら、追求する。
生物は、現実逃避を、実行する。

真実。
それは、現実である。

真実を、知ること。
それは、以下の内容である。
苛酷な現実に、直面すること。

それは、以下の内容を、改めて認識することである。
//
苛酷な現実。
それが、生物にとって回避不能であること。
//

生物にとっての真実。
（１）
それは、生物自身が内包する、苛酷な特性である。
それは、生物の本質である。
それは、生物自身にとって、不快である。
しかし、それは、生物自身にとって、有用である。
それは、生物にとって、以下の内容である。
//
それは、生物の生存と存続の原動力である。
それは、生物の発展の原動力である。
それは、生物の進歩の原動力である。
//

（２）
それは、以下の内容についての実態である。
//
生物を取り巻く環境。
それらが内包する、生物にとっての、苛酷な生きにくさ。
//

生物は、真実を知ることを、回避する。
生物は、理想の追求に、傾く。

筆者は、以下の内容の実現を、主張する。
真実を追求すること。
それを、例え、以下のような場合でも、徹底的に実行すること。
//
そのことで、結果的に不快な思いを、多大に経験すること。
そのような状況の発生。
それが、予期される場合。
//

真実を知ること。

それを、理想の追求よりも、優先させること。

真実を知ること。
それは、生物にとって、当面は、不快である。
しかし、それは、結局、生物自身にとって、将来的に、必ず役に立つ。

真実を知ること。
苛酷な現実を知ること。
例。
男女の性差を、徹底的に解明すること。
男性による、女性の支配。
女性による、男性の支配。
それらの双方に内在する、苛酷な現実。
それを、徹底的に、明らかにすること。

真実を回避すること。
理想を追求すること。
例。
男女平等を唱えること。
性差別の撤廃を、唱えること。
男女の性差を否定すること。
男女の性差についての研究。
そのような研究を、禁止すること。
そのような研究の進展を、阻止すること。

（初出2021年3月。）

人間の本質。生物の本質。その両者の間における、同質性。

人間の身体。生物の身体。男女の性差。その根本的な規定要因。

生物の身体。
それは、生殖細胞の乗り物である。
それは、生殖細胞にとって、単なる道具である。

生物の存在における、生殖細胞が所有する、中心性や中枢性。
生物の存在における、生殖細胞が所有する、根本的な重要性や優先性。
そのことに対する認識。
それは、生物や人間の活動の理解にとって、根本的に重要である。
それは、生物や人間の性差の理解にとって、根本的に重要である。

生物の雄の身体。
それは、精子の乗り物である。
それは、精子にとって、単なる道具である。

生物の雌の身体。
それは、卵子の乗り物である。
それは、卵子にとって、単なる道具である。

人間の男性の身体。
それは、精子の乗り物である。
それは、精子にとって、単なる道具である。

人間の女性の身体。
それは、卵子の乗り物である。
それは、卵子にとって、単なる道具である。

男女の性差。
それらは、全て、精子と卵子の差に、根本的に由来する。

精子と卵子との受精。
生殖行為。
自己複製。
それらが、男女の生物活動のメインであること。

人間の男女における、高い知的能力や、高い運動能力。
それらの存在は、男女の生物活動にとって、あくまで副次的であること。

それらの内容は、生殖細胞の性質の反映に過ぎないこと。

生物における、性差の本質。
人間における、性差の本質。
それは、精子と卵子との、性質の差である。

人間の男女の性差。
その存在は、生物としての、有性生殖に基づく。
それは、精子と卵子が存在する限り、消去することは、不可能である。
それは、人間が、有性生殖を行う生物の一種である限り、消去することは、不可能である。

男女の性差を否定すること。
それは、男女の生物性の否定である。

男女の性差を否定する人々。
例。欧米や日韓における、リベラリズムの活動家たち。
彼らは、生物以外の存在になるしか無い。
彼らは、単性生殖の生物になるしか無い。

一部の生物が持つ、高度な知性。
一部の生物が持つ、高度な運動能力。
それらは、結局は、全て、以下の内容に過ぎない。
下記の内容を実現するための、単なる道具や手段。
その生物が、遺伝的子孫や文化的子孫を、後世に残すこと。

生物における高度な知性や運動能力。
それらは、その生物の本質では無い。

生物の本質。
それは、以下の（A1）の内容である。
（A1）
彼ら自身の存在の複製を、後世に残すこと。

人間における、極めて高度な知性。

それらは、人間の本質では無い。

人間の本質。
それは、以下の（A2）の内容である。
（A2）
生物の一種として、彼ら自身の存在の複製を、後世に残すこと。

人間による高度な知性の所持。
それは、以下の内容に過ぎない。
上記の（A2）の内容を実現するための手段の一つ。

ある生物が、仮に、高度な知性を所持している、とする。
そのことは、以下の場合、その生物にとって、全く価値が無い。
それを所持することで、下記の内容を、実現出来ない場合。
生物の一種として、彼ら自身の存在の複製を、後世に残すこと。

////
例。人間。
//
恒温動物であること。
彼ら自身の生存維持のため、絶えず、エネルギー源としての食料を、毎日、恒常的に、大量に、摂取し続ける必要があること。
そのことの、生物としての、根本的な効率の悪さ。
彼ら自身の生存維持のため、絶えず、彼ら自身の身体を、外部の物品やエネルギーの大量消費によって、保温したり、冷却したり、し続ける必要があること。
そのことの、生物としての、根本的な効率の悪さ。
//
知的な潜在能力は、高いこと。
しかし、以下の内容の実現が、生理的に不可能であること。
生存維持に必要な行動様式。その、短時間での学習。

その生存維持に必要な行動様式。その学習。
そのことに、膨大な時間と手間とコストが掛かること。

その子供の養育。
そのことに、無闇に、時間と手間とコストが掛かること。

//
それらの内容がもたらす、生物としての、根本的な効率の悪さ。

その度合いが、途方も無いこと。
その度合いが、とても深刻であること。

彼らによる、非効率で膨大な、生物維持活動。
その結果は、以下の内容である。
地球上に、無駄に、大きな気候変動をもたらすこと。
そして、結局は、彼ら自身の生物を維持出来ずに、自滅すること。
////

（2021年9月初出）

生物の維持。その実現のための、前提条件。

生物の維持。
彼ら自身の身体の維持。
生殖行動による、自己複製。後世に、彼ら自身の子孫を残すこと。

それらの実現の前提条件として、必須なもの。それは、以下の内容である。

（１）
機能的物資の獲得。エネルギー。水分。養分。栄養。
生物の維持にとって、最も重要な物資や資源。それらの、獲得。
そのために必要な能力や既得権益の獲得。
その結果、得られる、彼ら自身の社会的地位。その上位性の獲得。
そのことがもたらす、彼ら自身の、社会的優位性の、自己確認。その達成。
生物は、それらのためなら、何でもする。
闘争。攻撃。強奪。殺戮。専制支配。隷従。強制労働。苦役。

（２）
物理的存在としての、生物の身体。その居場所の獲得。
住むところ。
毎日、寝起きをして、暮らすところ。
配偶者や子供と、共同生活を送るところ。
生殖行為と、子供の養育行為を行うところ。

外敵から、身体を守るところ。
住処。巣。家。それらの、獲得。
そのことによる、彼ら自身の生活や、彼らの子供の生育環境の、安定。それらの、獲得。
生物は、そのために、必死になって働く。

（３）
脅威からの防衛。脅威に対する攻撃や反撃。

脅威。
それは、以下の内容である。

（３－１）
内部環境。
病気。疾患。例。癌。

（３－２）
外部環境。

（３－２－１）
無生物の無機環境。
過酷な気候。過酷な自然災害。干ばつ。洪水。火山の噴火。

（３－２－２）
他の生物たち。
敵。彼ら自身に危害を加えに来る相手。彼ら自身を殺しに来る相手。捕食者。
ライバル。彼ら自身の競争相手。彼ら自身の所有する既得権益を侵害する相手。

それらの脅威から、彼ら自身の身体を防御し、反撃し、攻撃すること。そのための物品や装備。
武器。鎧。兵器。要塞。

脅威と、性差。
雄。
それらの武器や兵器や装備の、開発者や製造者や使用者。

雌。
彼らは、自己保身のため、危ない武器や兵器を、雄に持たせて、雄

に戦わせる。
雌は、雄に対して、彼ら自身のことを、護衛させる。
彼ら自身の装備は、丸腰である。
生物は、丸腰状態の方が、危ない存在と見なされにくく、攻撃されにくい。
そのことは、彼ら自身の自己保身にとって、より有利である。
雌は、危ない物事を、全て、雄に押し付ける。
雌は、彼ら自身は、雄に護衛された状態で、安全地帯に滞留する。

例。
カブトムシの場合。
雄は、角を持つ。
雌は、角を持たない。

例。
人間の場合。
武装した男性が、丸腰の女性を、攻撃したり、強姦したりすること。
その可能性が、大きいこと。
そのことで、女性の心身が傷つくこと。
そのことで、女性が、想定外の妊娠をすること。
それらは、女性にとって、恐ろしいことである。

女性が、想定外の妊娠をした場合。
生まれて来た、彼ら自身の子供。
その子供を、自力で、経済的に苦労しながら、育てること。
その子供を、殺すこと。子殺し。
配偶者とは、違う男性。彼の子供を、配偶者の男性に、経済的に養育させること。托卵。

生物は、そのようにして、彼ら自身の生物を維持しつつ、彼ら自身の子孫の生成を行う。

（2022年1月初出。）

生物における、基本的欲求。生物における、

基本的傾向。

生物における、基本的欲求。それは、以下の内容である。

//////
要約。

生きやすさの実現。

生きやすさの持続や永続。
生存状態の持続。衣食住を確保すること。
生存状態の永続。子孫を、後世に残すこと。生殖。自己増殖。文化的作品の自作。

生きやすさの増大や拡大。
有能性の獲得。
資源や富や設備の蓄積。既得権益の蓄積。新たな領域の開拓。
生きやすさを阻害する要因の除去。脅威やライバルの存在を、除去すること。

//////
各論。

////

生存における、優位性や有利性。その保有を確認すること。
脅威やライバルに対して、打ち勝つこと。成功すること。有能性。
それらの保有を確認すること。
それらの水準の高さ。それを、他の生物に対して、示すこと。

既得権益を、たくさん所有していること。富裕であること。
それらの保有を確認すること。
それらの水準の高さ。それを、他の生物に対して、示すこと。

その結果。
他の生物から、上位者として扱われること。他の生物から、尊敬されること。
それらの保有を確認することが、絶えず必要であること。

その実現の容易性や、その実現の平易性。その実現の安全性。
それらの保有を確認すること。

それらの保有を確認することが出来ない場合。それらを喪失した場合。精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。
彼ら自身の能力上の長所を伸ばすこと。そのことで、生きやすさを、向上させること。
彼ら自身の能力上の欠点を無くすこと。そのことで、生きやすさの低下の発生を、防止すること。
それらの、飽くことなき追求。向上心を、所有すること。

////

生存における、利益の確保。生存における、損失の回避。
収支における、黒字の確保。収支における、赤字の回避。
それらの追求。
彼ら自身の衣食住の質や量を、少しでも多く、向上させること。食い扶持を、少しでも多く、稼ぐこと。
そのことで、彼ら自身の生活の質や量を、全力で向上させること。
そのことで、彼ら自身の生きやすさを、向上させること。

損失がもたらす、彼ら自身の衣食住の質や量の低下。損失がもたらす、彼ら自身の生活の質の低下。
それらがもたらす、彼ら自身の生きやすさの低下。
その発生を、全力で回避すること。

////

生存における、自己光明性。その保有を確認すること。
彼ら自身が、プラスの存在であること。
彼ら自身の内部に、光明を、宿していること。その光量。その発光の持続性や永続性。それらの保有を確認すること。
それらの水準の高さ。それを、他の生物に対して、示すこと。
他の生物にとって、光明を与える存在になること。他の生物にとって、生きやすさを与える存在になること。
生物同士の相互扶助や相互協力。生物同士の社会的分業。
そうした状況における、有用性や、有益性や、需要。
それらを所有していること。その保有を確認すること。
それらの水準の高さ。

それらにおける、独創性や、新規開拓性や、先進性。それらの水準の高さ。
それらにおける、安定性や、熟達性や、熟練性。それらの水準の高さ。
それを、他の生物に対して、示すこと。

その結果。
他の生物から、感謝されること。
他の生物から、必要とされること。他の生物からの需要があること。
他の生物から、頼られること。他の生物から、依存を受けること。
他の生物から、懐かれること。他の生物から、愛されること。
他の生物に対して、快感を与えること。他の生物を、快適にさせること。他の生物の気持ちを、満足させること。
それらについての、プラスのフィードバックを、他の生物から、受けること。
それらについての、プラスの評価を、他の生物から、受けること。

それらの保有を確認することが、絶えず必要であること。それらの保有を確認することを、絶えず求めること。
それらの保有を確認すること。その実現の容易性や、その実現の平易性。その実現の安全性。それらを、絶えず求めること。
それらの保有を確認することが出来ない場合。それらを喪失した場合。精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。

////

生存における、自己存在の肯定可能性。その保有を確認すること。
彼ら自身の存在。彼ら自身の生存状態そのもの。それらを、肯定可能であること。それらを、受容可能であること。
彼ら自身の生存価値。それらの高さ。自尊心。彼ら自身の尊厳性。
彼ら自身の威信。それらを、確保可能であること。
彼ら自身の生存における、有意味性や有意義性や重要性。それらを、確保可能であること。
彼ら自身の存在を、大事にすること。彼ら自身の存在を、大切にすること。
彼ら自身の健康に対して、気を遣うこと。
自殺や自傷を考える状態から、遠いこと。
それらの度合い。それらの保有を確認すること。
それらの水準の高さ。

他の生物から、肯定的な評価を受けること。他の生物から、重要視されること。他の生物から、尊敬されること。
それらは、その生物の内部に、光明をもたらすこと。
それらは、その生物にとって、生きるための原動力となること。
それらを、絶えず求めること。
それらの保有を確認することが出来ない場合。それらを喪失した場合。精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。

////

生存における、自己決定性と、自己実現性。その保有を確認すること。
生存における、自己の意思の貫徹可能性。その保有を確認すること。
物事を、彼ら自身の思い通りに、決定できること。
物事を、彼ら自身の思い通りに、実現できること。
彼ら自身の願いが、容易に、叶うこと。
彼ら自身の意見や意思が、容易に、通ること。
それらの保有を確認すること。
それらの水準の高さ。それを、他の生物に対して、示すこと。

その結果。
その生物は、社会において、絶対的存在になること。
それらを、絶えず求めること。
それらの保有を確認することが出来ない場合。それらを喪失した場合。精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。

////

彼ら自身の生きやすさを阻害する要因。
彼ら自身の存在を、否定する要因。
彼ら自身の優位性や光明性を、否定する要因。
彼ら自身の意思の貫通を、阻害する要因。
例。
脅威。ライバル。反抗者。抵抗者。邪魔者。

それらに対して、徹底的な批判や非難を、加えること。
それらを、徹底的に除去すること。それらを、徹底的に消去するこ

と。それらを、徹底的に撲滅すること。
それらを、徹底的に追放すること。
それらを、徹底的に抑圧すること。
それらの跡地を、彼ら自身の生きやすさを促進する要因によって、一方的に、上書きすること。
彼ら自身の生きやすさを阻害する価値観を、彼ら自身の生きやすさを促進する価値観によって、一方的に、上書きすること。
彼ら自身の生きやすさを阻害する他の生物の存在を、彼ら自身の生きやすさを促進する別の生物の存在によって、一方的に、上書きすること。
それらの実現。

それらの保有を確認すること。
その実現の容易性や、その実現の平易性。その実現の安全性。それらを、絶えず求めること。
それらの保有を確認することが出来ない場合。それらを喪失した場合。精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。

////

生存における、救いの希求。生存における、援助の希求。
生きやすさの欠如を、感じる場合。
生きていく上での苦しさを、感じる場合。
生きていく上での悩みを、感じる場合。
生きていく上での不安を、感じる場合。
生きていく上での不満を、感じる場合。
それらの原因。
今後の環境変動の不確実性。それが引き起こす、彼ら自身の、心の迷い。
彼ら自身の、生きていく上での能力不足。
周囲環境の不良性。その生物が所属する社会の不良性。
助力者の欠如。見守ってくれる者の欠如。心配してくれる者の欠如。孤独。
それらに気付くこと。

欲求の実現が出来ない場合。欲求が充足された状態を、喪失した場合。
生活が苦しくなること。
病気に罹患すること。

それらの結果。
精神的に落ち込み、ストレスを溜めること。強い不安を感じること。心が乱れること。
これ以上、生きていけないと、思い詰めること。
そうした、マイナスの状態から脱出するために、周囲に対して、救いや助けを、求めること。
そうした、マイナスの状態から脱出するために、周囲に対して、頼ること。

救いを求める対象。助けを求める対象。頼る対象。

生活の苦しさを、取り除く存在。
心の乱れを、取り除く存在。
心の不安を、取り除く存在。
心の迷いを、取り除く存在。
ストレスを、取り除く存在。
病気を、取り除く存在。
生活上の能力不足を、取り除く存在。
孤独を、取り除く存在。
不満を、取り除く存在。

生活の安定を、もたらす存在。
心の平安を、もたらす存在。

生きていく上での苦悩。
それらを打ち明ける相手となる、他者。
それらを傾聴してくれる、他者。
苦悩を相談する相手となる、他者。
例。カウンセラー。親友。配偶者。血縁関係者。恋愛の相手。

生きていく上での迷い。それらを解消してくれる、他者。
今後の進路を指南してくれる、他者。
例。指導者。アドバイザー。

生きていく上での能力不足。それらを解消してくれる、他者。例。養育者。教育者。教師。教材提供者。トレーナー。介護者。

生きていく上でのストレス。
それらを解消してくれる、他者。

それは、以下の内容である。

//
生活上の、息抜きや、気晴らしや、感動の機会。
それらを提供してくれる、他者。
例。エンターテイナー。音楽家。クリエイター。料理人。

生活上の不満の、捌け口。
それらを提供してくれる、他者。
例。サンドバッグ。いじめや虐待や差別を行う対象の、他者。
//

病気を治療してくれる、他者。
例。医者。看護師。薬剤師。
一緒に居てくれる、他者。居場所を提供してくれる、他者。
例。配偶者。血縁関係者。親友。仲間。共同体。団体。

そのような他者。
彼らは、以下のような共通性を持つ。

//

その１。
生きやすさの確保の面で、既に余裕がある、他の生物。
それは、有能者である。それは、既得権益の保持者である。
それは、社会的上位者である。
それは、権力者である。

その２。
生物の持つ能力的限界を、超越した存在。神。
それは、絶対者である。それは、全能者である。それは、超越者である。それは、神聖な者である。それは、悟りを開いた者である。
そうした存在と、生物とを、媒介する、他の生物。宗教指導者。

その３。
生きている上での、他の生物との共感。
生きている上での、趣味や嗜好の合致。
それらをもたらす存在。

共鳴者。
例。
作家。クリエイター。

その４。
性的快感。
それらをもたらす存在。
例。
配偶者。恋愛の相手。不倫の相手。
売春の相手。
アダルトビデオ。アダルトアニメ。アダルトゲーム。それらの制作者と出演者。

//

その５。
上記の存在によるアウトプット。それらの内容。
宗教。聖書。経典。説教集。
クリエイターの作品。文学作品。芸術作品。美術作品。コミック。アニメ。ゲーム。

////

生きやすさを、確保すること。それは、生物にとって、権力の源泉である。
生きやすさを増やすこと。それは、生物にとって、権力の増大である。
生きやすさを実現した者。それは、権力者である。
権力者。彼らは、以下のような生物である。有能者。既得権益の保持者。

////

他の生物との、生物としての共通性の感知。他の生物に対する、共感。
他の生物の体験を、彼ら自身の体験に置き換えて、考えること。
他の生物の生きやすさを奪うこと。そのことが、他の生物にもたらす不利益。
その発生を、彼ら自身の身に置き換えて、考えること。
そのことに対する、後ろめたさ。そのことに対する、罪の意識。そ

れらの発生。それらによって生じる、彼ら自身の心の曇り。
彼ら自身が、悪いことをしたとして、否定的な自己評価をすること。
それらを、無意識のうちに持つこと。

他の生物の生きやすさを促進すること。そのことが、他の生物にもたらす利益。
その発生を、彼ら自身の身に置き換えて、考えること。
それによって生じる、善良な心。それによって生じる、徳の心。それらによって、彼ら自身の心が、晴れること。
彼ら自身が、良いことをしたとして、肯定的な自己評価をすること。
それらを、無意識のうちに持つこと。

//////

//////

生物による、上記の様々な欲求の実現。
彼ら自身の生きやすさの実現。
彼ら自身の光明性の実現。
それは、以下の内容である。

生物社会において、社会的上位者になること。

その結果。
それは、以下の内容である。
他の生物から、生きやすさを、奪うこと。
他の生物を、一方的に、殺すこと。他の生物を、一方的に、傷付けること。
他の生物を、劣位に置くこと。
他の生物を、軽視すること。
他の生物に対して、一方的に、説教をすること。他の生物に対して、一方的に、教育をすること。
他の生物の意思を、通さないこと。他の生物の意思を、一方的に、変更すること。
他の生物の存在価値を、安易に、否定すること。他の生物の尊厳を、傷付けること。
他の生物を、彼ら自身の思い通りに、動かすこと。

上記の内容。それは、以下の内容である。
高慢になること。傲慢になること。尊大になること。
他の生物の生きやすさを、低下させること。
他の生物の、基本的欲求の実現を、阻害すること。
他の生物に対して、暗黒をもたらすこと。

上記の内容。それは、以下の内容である。
生物自身が本質的に持つ、暗黒性そのもの。生物自身が持つ、原罪。

彼らが、そうした暗黒性から逃れること。彼らが、そうした原罪から逃れること。
それは、彼ら自身の生きやすさを求める限り、本質的に、不可能である。
それは、彼ら自身の光明性を求める限り、本質的に、不可能である。

そうした本質的暗黒性を、彼ら自身の手で、軽減すること。彼ら自身の原罪を、彼ら自身の手で、軽減すること。
それらを実現する、具体的な方法。
それは、以下の内容である。

彼ら自身のせいで、暗黒に陥った、他の生物。
彼らに対して、心の底から謝罪すること。彼らに対して、罪を償うこと。
彼らにもたらした暗黒性。それを、低減させること。
その実現のための行動を、実際に起こすこと。
それは、以下の内容である。

彼ら自身の生きやすさの追求の度合い。それを、低減させること。
他の生物の生きやすさ。他の生物の光明性。それらの実現について、もう少し、きちんと配慮をすること。
それらについて、ただ祈念するのではなく、実際に、行動を起こすこと。
それらは、以下の内容である。

生物同士の、生きやすさの譲り合い。生物同士の、生きやすさの融通。
生物同士の、光明性の譲り合い。生物同士の、光明性の融通。

それらを、局所的で無く、普遍的に、実現すること。
それらを、一時的で無く、永続的に、実現すること。
それらを、表面的でなく、深く、実現すること。

それらの実現。
それは、生物自身にとって、本質的に、とても困難である。
それは、一部分だけで終わる。それは、長続きしない。それは、表面だけで、終わる。
それは、以下の内容のみで、終わる。
例。
安全地帯からの、無責任な同情の表明。
上から目線の憐れみに基づく、慈善活動。
形式的な、真心を伴わない、謝罪。
綺麗事の平等思想。その提示。

その理由。それは、以下の内容である。

////
（１）
社会的上位者が、社会的下位者に対して、頭を下げて、謝罪すること。それは、以下の内容である。
社会的上下関係の逆転や転覆。下剋上。下からの革命。それらを、社会的上位者自身が、自発的に、引き起こすこと。
そうした、社会的上下関係の逆転や転覆の発生。
そうした状況は、社会的上位者にとって、本質的に、不快であること。
その理由。

//
（１－１）
それは、今まで蓄積してきた既得権益を失うことを、意味する。
それは、社会的上位者にとって、生きやすさの喪失につながる。
それは、生物の基本的欲求に、反する。
社会的上位者は、その発生を、何としてでも避けたい。

//
（１－２）
そうした行為は、彼ら自身の社会的威信を、低下させる。

それは、彼ら自身の威厳を、傷付ける。
それは、彼ら自身の生きやすさを、低下させる。
それは、生物の基本的欲求に、反する。
社会的上位者は、その発生を、何としてでも避けたい。

謝罪がもたらす、そうした欠点。
それは、社会的上位者にとって、謝罪がもたらす以下の利点を、上回る。
悪いことをしたことに対する、後ろめたさの感覚。
その解消によって、彼ら自身の曇っていた心が、晴れること。

////

（２）
社会的下位者に対する、賠償の発生。
そのことが、社会的上位者に対してもたらす、経済的な損失。
それは、社会的上位者にとって、生きやすさの喪失につながる。
社会的上位者は、その発生を何としてでも避けたい。

////

（３）
彼ら自身が、生きやすさを譲った、他の生物。彼ら自身が、生きやすさを融通した、他の生物。
そうした他の生物は、彼ら自身にとって、以下の存在へと、変化する。
生きやすさにおける優位性や有利性の、新たな獲得者。
生きやすさにおける優位性や有利性を、新たに上昇させた者。
新たな潜在的ライバル。新たな潜在的脅威。
下剋上や、下からの革命を、新たに、引き起こす者。

////

上記の結果。
社会的上位者。
彼らは、そうした他の生物に対して、生きやすさを積極的に融通することを、一方的に中止する。
彼らは、そうした他の生物を、再び、抑圧する。
彼らは、そうした他の生物を、なかなか救わない。
彼らは、そうした他の生物に対して、再び、暗黒性をもたらす。

//////

光明。灯火。
それらは、それらの周囲を、相対的に、より暗黒にする。
それらは、それらの周囲の相対的な暗黒性を、より際立たせる。

そうした、相対的な暗黒性の深化。
それは、光明それ自身によって、もたらされる。

ある生物による、光明性の追求と実現。
それは、その周囲の生物を、相対的に、暗黒化させる。

その結果。
光明性は、それを追求した生物に対して、原罪を発生させる。
生物。それは、社会の中で生きる限り、相対的な存在である。
生物。それは、社会の中で生きる限り、優劣関係や上下関係から、逃れることは、不可能である。

その結果。
社会において、ある生物が、相対的に光明性を獲得すると、他の生物は、相対的に暗黒化する。
生物の社会そのもの。社会的な地位が保有する、本質的な相対性。
それらは、生物の持つ暗黒性の、源泉である。
それは、生物の持つ原罪の、源泉である。
それは、生物にとっての救いを、根本的に阻害する。

生物。それは、本質的に、救いを求める存在である。
生物。それは、本質的に、救われない存在である。
それらは、以下の内容である。

生物そのものが内包する、限界。
生物の、存在面における、矮小性。
生物の、存在面における、つまらなさ。
生物の、存在面における、不良性。
生物の、存在面における、未熟さ。

彼ら自身が、それらを、常に自覚すること。
彼ら自身が、それらを、常に自戒すること。

そのことは、生物の精神を、より成長させる。
そのことは、生物の社会を、より生きやすくする。

//////

（2022年2月初出。）

生物にとっての、生きやすさ。その内容分類。

（１）
生物を続けやすいこと。
生存状態を続けやすいこと。
保身の実現。

（２）
子孫を残しやすいこと。
遺伝的子孫。
文化的子孫。

（３）
生存の容易性。

（３－１）
生存上の困難。
その、少なさ。
その、乗り越えやすさ。

ストレス。
それは、以下のような内容である。
生存上の困難。
それに対する、直面。

（３－２）
生存上の困難。
それを、乗り越えること。
その実現。
その、容易さ。
そのための、助力の得やすさ。

（３－３）
生存上の困難。
その、回避しやすさ。
それに対する、耐えやすさ。

（３－４）
生存上における、負荷。
生存上における、負担。
生存上における、労力。
それらの、少なさ。

（４）
生存に必要な資源。

（４－１）
生存に必要な資源。
その所有。
その、多さ。
その、枯渇しにくさ。
その、所有しやすさ。
その、保持しやすさ。
その、持続しやすさ。

（４－２）
生存に必要な資源。
その獲得。
その実現。

そのためのチャレンジ。
その、しやすさ。
その、成功しやすさ。
その失敗時における、回復のしやすさ。

（５）
生存上の競争。
生存上の勝負。
それらにおける、勝ちやすさ。
それらにおける、負けにくさ。

（６）
（６－１－１）
生存上の優位性。
その、獲得しやすさ。
その、維持しやすさ。

（６－１－２）
生存上の劣位性。
その、回避しやすさ。

（６－２－１）
生存上の上位性。
その、獲得しやすさ。
その、維持しやすさ。

（６－２－２）
生存上の下位性。
その、回避しやすさ。

（７）
故障しにくさ。
故障の、直しやすさ。
故障からの、回復しやすさ。

（８）
生存上の助力。
その得やすさ。

（８－１）

生存上の助力者。
その得やすさ。

（８－２）
生存上の助力。
それを得るために支払う、対価。
その所持。
その面における、豊かさ。
その面における、富裕性。

（９）
生存の持続。
それに関する、将来展望。
その、持ちやすさ。

（９－１）
明るい将来。
その、描きやすさ。

（９－２）
将来に関する、夢や、希望や、光明。
それらの、持ちやすさ。

（１０）
生存に向けた行動。
その、起こしやすさ。

（１０－１）
積極性。
その、所持。

（１０－２）
推進力。
その多さ。
その効率の高さ。

（１０－３）
エネルギー。
その多さ。

その効率の高さ。
その持続性。

（１１）
生存に必要な能力。
その水準の高さ。

（１１－１）
困難への対応。
その能力の高さ。

（１１－２）
困難への対応。
そのノウハウの所有。
その豊かさ。

（１２）
生存の容易な環境。

（１２－１）
生存の容易な環境。
その、入手しやすさ。
その、持続させやすさ。
その場所への、定住しやすさ。

（１２－２）
生存の容易な環境。
その内部への、加入しやすさ。
その内部への、所属しやすさ。
その内部からの、追放されにくさ。

（１２－３）
生存の容易な環境
その内部への、定住。
その内部への、所属。
それらの持続性。
それらの永続性。
それらの安定性。

（１２－４）
生存の困難な環境。
その場所からの、脱出しやすさ。
生存の容易な環境。
その場所への、移動しやすさ。

（初出2021年4月。）

良い存在。良い生物。良い人。良い異性。その分類。

良い存在。
良い生物。
良い人。
良い異性。

それは、以下のような存在である。
それは、周囲の他者に対して、生きやすさを、配分してくれる。
それは、周囲の他者の生物を、続きやすくしてくれる。
それは、周囲の他者の子孫を、残しやすくしてくれる。

（初出2021年4月。）

友だち。その分類。

友だち。
それは、以下のような対人関係である。
それは、以下のような指標によって、表現される。

助け。
その輸出。

その輸入。

彼ら自身が、相手を、助けること。
相手が、彼ら自身を、助けてくれること。

それらの関係。
それを持つこと。

その、頻度の多さ。
その、長期の持続性。
その、収支バランスの良さ。
その、自主性の高さ。

（初出2021年4月。）

本書の内容。その最終的な目的。

本書の内容。
その最終的な目的。

それは、以下のような内容である。

生物の本質。
性差の本質。
それらを、突く内容。
それらの執筆と公開。

それらの内容は、いずれも、以下の一環である。

生物が取る、共通の社会的行動。
生物の社会の本質。
それらの内容のピックアップ。

人間の本質。
生物の本質。
それらの同質性。
それらの共通性。
それについての指摘。

社会的真実の追求。
それは、以下の内容に、迫ることである。
人間の本質。
生物の本質。

本書の内容。
その最終的な目的。
それは、以下のような内容である。

生物の本質。
人間の本質。
その両者が持つ、共通の暗黒性。

人間の本質。
その暗黒性。

それは、以下の内容である。
生物の本質。
その暗黒性。
その、一環。
その、一類型。

（初出2021年4月。）

社会的真実についての情報。それを、著書として、公開すること。その行為が持つ、危険

性。

社会的真実についての情報。
それを、著書として、公開すること。

生物の本質。
性差の本質。
それらを、突く行為。
例。
それらを、突く内容の書籍。
それを、執筆すること。
その内容を、公開すること。

それらの行為は、以下の内容である。
生物。
その一類型としての、人間。
彼らが持つ、社会的な禁忌。
それに対して、抵触すること。
その状況が、発生すること。
そのことが、不可避であること。

移動生活様式中心社会。
男性優位社会。
その生活の根幹を形成している、思想。
その前提。
それを、破壊すること。
人間と家畜とを区別すること。
そのことを、否定すること。
人間と、家畜との相互関係。
それらを、以下のように、扱うこと。
それらを、生物として、同一視すること。
それらを、生物として、共通視すること。
その主張の実行。

その結果。
移動生活様式者の人間。
彼らは、以下の行為が、精神的に不可能になる。
家畜を、殺すこと。

その結果。
移動生活様式者の人間。
彼らは、自然環境に、適応出来なくなる。
彼らは、生きていけなくなる。

女性社会。
女性優位社会。
それらの内実。
それを、分析すること。
その内容を、公開すること。
それは、以下の内容である。

それらの社会における、根本的な機密情報。
その内容を、暴露すること。
その実行。

それらの行為。
それは、上記の各々の社会にとって、以下の内容に、該当する。
重大な、社会的な禁忌。
その、容赦無い実行。

上記の各々の社会の人々による、以下の行為。
その筆者がもたらす、上記の結果。
それに対して、以下の行為を実行すること。
その筆者に対する、社会的な制裁。
その筆者に対する、社会的な処罰。

それらの容赦ない、即時の実行。

それは、結果的に、全世界的なものになる。

その筆者は、それに対して、備える必要がある。
その筆者は、その実施の可能性について、今のうちから、想定する必要がある。
その筆者は、以下の内容を、リストアップする必要がある。
その筆者が執筆した、電子書籍データ。
その、外部社会による、抹消。
それを防止するための、様々な手立て。

そうした社会的な制裁や処罰。
その実施。
例。
その筆者が、以下の事態の発生を被ること。
その可能性は、十分にある。

その筆者にとっての、第三者に当たる人々。
彼らは、その筆者の電子書籍の内容を、知った。
その筆者に対する、立ち合いと、監視。
彼らによる、それらの行為の実行。
その筆者が、その状況の下で、彼らから、以下の行為を、強要されること。
その筆者の電子書籍ファイル。
それらのデータを、外部アーカイブサイトから、完全に抹消すること。

その筆者の電子書籍の内容。
それは、その筆者の周囲の人々からは、例えば、以下のように、解釈される。
その内容は、以下のように捉えられる。
統合失調症の患者。
彼による、キチガイじみた、自生思考。
その蓄積物。
その産物。
その内容は、精神病者の妄想である。
その内容は、支離滅裂である。
その内容は、無意味である。
その内容は、役立たずである。
その内容は、社会的に有害である。
その内容は、即刻、人間世界全体から、消去されるべきである。

この患者に対しては、以下の対策が、講じられるべきである。
今後、彼自身の心の中において、こうした自生思考が、二度と起きないようにすること。

この患者は、精神科病院において、徹底的に、治療と更生を受けるべきである。

その結果。
予想される事態。

予想される結末。
その筆者。
彼は、その残りの生涯を、以下のように過ごす。
精神科病院の隔離病棟へと、入院を強制されること。
その場所において、以下のように、過ごすこと。
重症患者として、過ごすこと。
思想の自由を与えられずに、過ごすこと。
無意味に、過ごすこと。

例。
その筆者。
彼は、以下の事態の発生を被る可能性がある。
彼の実家。
彼の両親。
彼らは、以下の内容を、知った。
彼ら自身の子供が、電子書籍を執筆したこと。
その内容。
彼ら自身の子供に対する、立ち合いと、監視。
彼の両親による、それらの行為の実行。
その状況の下で、彼らから、以下の行為を、強要されること。
彼らの子供が、その状況の下で、彼らから、以下の行為を、強要されること。
彼らの子供が、執筆した電子書籍。
それらの内容が保存された、電子データとしてのファイル。
それらのデータを、外部アーカイブサイトから、完全に抹消すること。

そのことへの対策。

その筆者が所有するパソコン。
その内部に存在する、ファイルや、パスワードのデータ。
それらを、外部からのアクセス不能な状態にすること。
それらの存在を、隠ぺいすること。
それを、直ぐに、実行出来るようにすること。
その必要性が、とても大きいこと。

その筆者が作成した、電子書籍ファイル。
その登録先としての、アーカイブサイト。

そのサイトのパスワード。

その変更。
その消去。

そのサイトのアカウント。
その、更なる新規化。
その、複数化。

そのサイトのパスワード。
それを、パソコンでは消去すること。
それを、パソコンには、一切、覚え込ませないようにすること。

それらの行為を、定期的に、実行すること。

これらの電子書籍の存在。
これらの電子書籍の実在。
それを、目立たないように隠すこと。
それを、周囲の誰に対しても、生前は、告知しないようにすること。
例。
天文学者のコペルニクス。
彼は、過去において、天動説に反する地動説を、新たに唱えた。
彼と同じやり方をすること。

上記の内容の発生。
それは、以下の場合に、限られる。
その筆者。
彼が、ある程度、その名前が社会的に知られている場合。
彼が、社会的に影響力がある場合。

その筆者。
彼が、無名な場合。
彼が持つ社会的な影響力。
それが皆無である場合。

その筆者。
彼は、上記の心配を、あまりしなくて良い。
彼の書籍。
それらの読者は、いつまで経っても、ほぼ皆無である。
それらの内容は、社会的に、無関心のまま、放置される。

それらは、以下の状態になる。
それらは、そもそも、最初から存在しなかった。
それと、同様の状態。
その、持続。

彼は、その点では、以下の内容については、特に心配しなくて良い。
彼自身の書籍。
その執筆。
その内容の公開。
それに伴う、以下の内容の発生。
彼自身の生物における、危険。

（初出2021年4月。）

機密情報の公開。社会的真実の解明との関連。

社会的な上位者。
彼らは、社会を流通する情報を、平然として、盗聴する。
社会的な下位者。
彼らは、そうした情報を、社会的な上位者に対して、平然として、提供する。

ある生物が、社会的な優位性を、実現すること。
ある生物が、その有利な状態を、保持すること。
その実現にとって必要な、情報。

そのような情報。
その内容が公開された場合。
そのことは、その生物に対して、以下の副作用をもたらす。
それは、彼自身の社会的な弱点を、公開する。
それは、彼自身に対して、脆弱性をもたらす。

そのために、その生物にとって、以下の内容の実現が必須となる。
そのような情報。

その、取り扱いにおける、機密性。
それを、保持し続けること。
彼自身のプライバシー。
それらを、保護すること。

機密情報。
それは、以下のように、分類される。
個人的な情報。
社会的な情報。
集団的な情報。

その内容。
それらは、以下の内容の解明へと、直結する。
社会的真実。
その真相。

（Ａ）
個人ベースの機密情報。
個人ベースのプライバシー。
個人ベースの機密性。
それらの必要性や、その発生。

個人ベースの機密情報。
それは、個々人の人々が生成する。
個々人の頭脳の内部。
その場所においては、以下の内容が、存在しない。
その内容に関する、プライバシー。

人々は、それを、以下の（１）の目的で、提供する。
人々は、それを、以下の（２）の人物に対して、提供する。
人々は、それを、以下の（３）の形式で、提供する。

（１）
生活上のサービス。
それらの利用。
（２）
そうしたサービスを提供する他者。
（３）
互いに、契約を結ぶこと。

それは、高い水準のセキュリティを、必要とする。

そうした機密情報。
社会的なトップの上位者による、その盗聴。
その事実。
その暴露。

このような状況の発生。
それは、男性優位社会において、頻発する。
それは、移動生活様式において、頻発する。

例。
アメリカ。
スノーデン氏。
国家の上位者の行為に関する、実情。
彼による、その内容の暴露。

（Ｂ）
集団ベースの機密情報。

機密情報。
それらは、以下の場所ににおいて、流通する
人々が所属する、定住集団。
その内部。

所属定住集団ベースのプライバシー。
所属定住集団ベースの機密性。
それらの必要性。
その発生。

集団ベースの機密情報。
それは、所属定住集団内部の人々によって、生成される。
その場所においては、以下の内容が、存在しない。
その内容に関する、プライバシー。
彼らは、その内容を、以下の目的で、共有する。
定住生活様式上で生じる、様々な必要性。
それらの発生に対して、対処すること。
そのノウハウを、共有すること。
それらは。大量である。

それらの内容は、詳細である。
それは、以下の内容を、必要とする。
高い水準のセキュリティ。

そうした機密情報。
その暴露。

このような状況の発生。
それは、女性優位社会において、頻発する。
それは、定住生活様式において、頻発する。

例。
日本の中央官庁。
そこで働く、高級官僚たち。
彼らによる、以下の内容に関する、内部告発。
その内部で行われている、不正な行為。
その内部で行われている、不良な行為。

（初出2021年4月。）

社会的真実を、取得すること。そのために必要な行為。

既存の社会規範。
その内容を、破壊すること。
その内容に対して、違反すること。

既存の社会規範。
その守護者。
その存在。
それを、破壊すること。

既存の社会規範。
その守護者。
その意思。
その内容に対して、違反すること。

そうした行為を、繰り返すこと。
そうした行為を、沢山、行うこと。

社会的真実に近づくこと。
その実現。
そのためには、それらの実行が、必須であること。

既存の社会規範。
それは、以下の目的のために、生成されている。
以下の存在にとっての、不都合な社会的真実。
それらを隠ぺいすること。

社会的上位者。
社会的優位者。

既存の社会規範。
それに適応すること。
そのことで、社会的に昇進すること。
それらの内容を実現した者。

既存の社会規範。
それらの大本で作成した者。
例。
日本社会における、アメリカ。
彼らは、日本国憲法を、実質的に作成した。

社会的上位者。
社会的優位者。
彼らの意思。
その内容を、破壊すること。
その内容に対して、違反すること。
そうした行為を、繰り返すこと。
そうした行為を、沢山、行うこと。

社会的真実に近づくこと。

その実現。
そのためには、それらの実行が、必須であること。

（初出2021年4月。）

人間の本質に、迫ること。そのために必要な、考え方。

人間の本質に、迫ること。
そのために必要な、考え方。

それは、以下のような内容である。

以下のような行為を、実行すること。
人間と、他の生物とを、区別すること。
人間と、他の生物とを、差別すること。
そのように行動してはならない。

以下のように、思考すること。
人間は、他の生物に比べて、より優位である。
人間は、他の生物に比べて、より上位である。
人間は、他の生物に比べて、より選ばれた、特別な存在である。
そのように思考してはならない。

例。
人間と、家畜とを、区別すること。
人間と、家畜とを、差別すること。
そのように行動してはならない。

以下のように、思考すること。
人間は、家畜に比べて、より優位である。

人間は、家畜に比べて、より上位である。
人間は、家畜に比べて、選ばれた、特別な存在である。
そのように思考してはならない。

以下のように、思考すること。
人間は、家畜に比べて、より優位である。
人間は、家畜に比べて、より上位である。
人間は、家畜に比べて、選ばれた、特別な存在である。
そのように思考してはならない。

人間は、生物の一種である。

人間の本質。
人間性。
その内容は、生物の本質の一環である。
その内容は、他の生物の本質と、一致する。
その内容は、生物一般の本質と、一致する。
その内容は、他の生物の本質と、共通である。

人間の本質。
それを追求すること。
そのためには、以下の内容を、実行すれば良い。
生物の本質。
それを、追求すること。
その実行を、先んじて、実施すること。
その実行を、最優先すること。
その実行を、徹底的に、実施すること。

人間の本質に到達すること。
そのためには、以下の内容を、実現すれば良い。
様々な生物。
それらの間に共通する、基盤。
それらの間に共通する、本質。
生物の本質。
それに、到達すること。
そのためには、以下の内容を、実行すれば良い。
生物の本質。
それを、解明すること。
その実行を、先んじて、実施すること。
その実行を、最優先すること。

その実行を、徹底的に、実施すること。

人間の本質。
それは、以下の内容である。
生物に共通の本質。
その一類型。

人間にとっての理想。
それは、生物にとっての理想と、同一である。

人間が理想を追い求める場合。
人間は、以下の内容を、実現すべきである。
（１）
以下の行為を、回避すること。
人間固有の理想。
それを、追い求めること。
（２）
以下の行為を、最優先すること。
生物共通の理想。
それを、追い求めること。

人間は、生物の一類型である。
人間固有の理想。
それは、以下の地点に、存在する。
生物共通の理想。
その延長線上。

（初出2021年4月。）

生物。遺伝的子孫の有無。恋愛の有無。結婚の有無。それらの、以下の内容の発生との関連。社会的な優劣。社会的な厚遇と冷遇。社会的な差別や虐待。

生物の世界においては、以下のような状況が、本質的に発生する。

//
遺伝的子孫を残せる生物が、遺伝的子孫を残せない生物よりも、社会的に優位に立つこと。
恋愛カップルを形成出来る生物や、恋愛カップルを形成出来た生物が、恋愛カップルを形成出来ない生物よりも、社会的に優位に立つこと。
結婚できる生物や、結婚出来た生物が、結婚出来ない生物よりも、社会的に優位に立つこと。
遺伝的子孫を生成出来る生物や、遺伝的子孫を生成出来た生物が、遺伝的子孫を生成出来ない生物よりも、社会的に優位に立つこと。
//

//
遺伝的子孫を残せる生物が、社会的に厚遇されること。遺伝的子孫を残せない生物が、社会的に冷遇されること。
恋愛カップルを形成出来る生物や、恋愛カップルを形成出来た生物が、社会的に厚遇されること。恋愛カップルを形成出来ない生物が、社会的に冷遇されること。
結婚出来る生物や、結婚出来た生物が、社会的に厚遇されること。結婚出来ない生物が、社会的に冷遇されること。
遺伝的子孫を生成出来る生物や、遺伝的子孫を生成出来た生物が、社会的に厚遇されること。遺伝的子孫を生成出来ない生物が、社会的に冷遇されること。
//

//
遺伝的子孫を残せる生物が、遺伝的子孫を残せない生物を、社会的に差別し、虐待すること。
恋愛カップルを形成出来る生物や、恋愛カップルを形成出来た生物が、恋愛カップルを形成出来ない生物を、社会的に差別し、虐待すること。
結婚出来る生物や、結婚出来た生物が、結婚出来ない生物を、社会的に差別し、虐待すること。
遺伝的子孫を生成出来る生物や、遺伝的子孫を生成出来た生物が、遺伝的子孫を生成出来ない生物を、社会的に差別し、虐待すること。
//

例。日本政府。その、コロナウイルス感染症対策。子供のいる世帯に対して、手厚い助成金を与えたこと。子供のいない世帯や、結婚出来ていない世帯に対して、何も助成金を与えなかったこと。

（2021年12月初出。）

親と子供との関係。生物の本質との関連。

親子の間における、上下関係。
その生成。
その、次世代における、再生産。
その本質は、生物の本質に、基づいている。
親が、上位者であること。
子供が、下位者であること。
例。
キリスト教。
その絶対者の神。
そこにおける、父子の間の上下関係。
儒教。
そこにおける、以下の内容の、社会的な推奨。
子供による、親孝行。

子供の生成。
その時点。
親は、有力であること。
子供は、無力であること。

子供の生成。
子供の養育。
その時点。
親は、既に、自立していること。
子供は、未だに、自立していないこと。
子供が、親に対して、依存すること。
それは、以下の実現のために、必須である。
子供自身の生存。
子供自身による、その維持。

子供の生成。
その時点。
親は、生存に必要な資源を、持っていること。
子供は、生存に必要な資源を、持たないこと。
親は、その資源を、子供に対して、譲渡すること。
その譲渡。
それは、無償では無い。
その実現には、条件が付く。
例。
卵の栄養分。
養育の能力。
養育の知識。

そうした関係。
それらは、生涯にわたって永続すること。

上記の関係。
それらは、生物において、一般的に、観察可能である。
それらは、生物において、広範に、観察可能である。
人間の親子関係。
それは、その一例である。

（初出2021年4月。）

人生における、生殖の本質視と、その隠ぺい。人間における、そうした行為の発生。生物の本質との関連。

（１）
生殖行為。
それに対する、欲求。
その所有。
それは、人間においては、以下のような内容である。
それは、生涯にわたる。
それは、本質的である。
それは、連続的である。

人間は、上記の事項について、以下の行為を、実行する。
生殖行為。
それに対する、欲求。
その所有。

その、彼ら自身の内面における、実在。
その強固さ。
その強大さ。

それを、表向き、否定すること。
それを、隠ぺいすること。

そうした人間の特質。
それは、生物の本質と、深く関連する。

（２）
人間と、他の生物との共通性。
生殖における側面。

人生における、生殖の本質視。
生殖行為。
それに対する、欲求。
その所有。
それは、とても強い。
それは、生涯にわたって、続く。
それは、本質的である。
それは、連続的である。

彼ら自身の遺伝的子孫。
それらを、後世へと、残存させること。
その実現。
それに対する、本質的な欲求。
その実現の成功者。
彼らに対する、称賛。
その実現の失敗者。
彼らに対する、軽蔑。

そうした欲求。
その、遺伝的な、生身の身体への組み込み。

その欲求。
その存在を、直視すること。
その存在を、露骨に肯定すること。
それらの実行。

それらを回避すること。
それらを否定すること。

例。
生殖行為。
それを、淫行と呼ぶこと。
それを、表向きは、蔑むこと。

生殖行為。
性的欲求。
それらの回避。
それを実現する者。
彼らを、聖人と呼ぶこと。
彼らを、尊敬すること。

例。
配偶者以外の者との間の、生殖行為。
それを、姦淫と呼ぶこと。
それを、表向きは、蔑むこと。

配偶者以外の者との間の、生殖行為。
配偶者以外の者に対する、性的欲求。
それらの回避。
それを実現する者。
彼らを、貞淑であると、見なすこと。
彼らを、称賛すること。

（３）
人間と、他の生物との区別。
人間における、その心理の発生。
その、遺伝的な、生身の身体への埋め込み。

（３－１－１）
人生における、生殖の本質視。
生殖行為。
それに対する、欲求。
その所有。
それは、とても強い。
それは、生涯にわたって、続く。
それは、本質的である。
それは、連続的である。

（３－１－２）
彼ら自身の遺伝的子孫。
それらを、後世へと、残存させること。
その実現。
それに対する、本質的な欲求。
そうした欲求。
その、遺伝的な、生身の身体への組み込み。

（３－１－３）
配偶者以外との異性。
彼らとの間で行う、生殖行為。
その実現に対する、本質的な欲求。

（３－２）
////
上記の欲求。
その存在。
その実在。
その強大さ。

それを、直視すること。
それを、率直に肯定すること。

その欲求に忠実な行為。
それを、露骨に実践すること。
////

それらの行為。

それを、以下の内容と、見なすこと。
社会的な禁忌。

それらの行為。
それを、表向き、禁止すること。
それを、表向き、回避すること。
それを、表向き、否定すること。

（３－３）
他の種類の生物たち。
彼らについて、一方的に、以下のように、見なすこと。
////
彼らは、以下の内容を、実行する。

それらの欲求の存在。
それを、率直に肯定すること。

その欲求に忠実な行為。
それを、露骨に実践すること。
////

他の種類の生物たち。
彼らの取る、そうした行為。

それに対して、表向き、否定的な態度を取ること。

それに対して、表向き、以下の内容を、主張すること。

人間が持つ、以下の能力。
上記の行為の実行。
それを回避する能力。
その能力の存在。
それを、強調すること。

その結果、表向き、以下の内容を、主張すること。
人間が持つ、他の種類の生物たちに対する、優越性。

（３－４）
人間における、そうした行為の発生。

その原因。
それは、以下の内容である。

（３－４－１）
人間が、雑食性の生物であること。
彼ら自身の食糧。
その確保。
その必要量の多さ。
その必要性。
その発生。
それは、永続的である。
それは、持続的である。

その実現のために、以下の行為の実行が、不可避であること。

他の生物を、殺戮すること。
そのことに対する、心理的な抵抗。
そのことに対する、心理的な躊躇。
それらの存在。
その心理的矛盾。
それらの解決に対する、欲求。

他の生物を、殺戮すること。
その行為の正当化。
例。

動物。
魚類。
鳥類。

哺乳類。
それらは、人間に類似した存在である。
それらは、人間と同類の存在である。

野生動物。
例。
猪。
鹿。

飼育動物。

家畜。
例。
牛。
馬。

栽培植物。
それらの実。
それらの種。
例
穀類。
果樹類。

移動生活様式の場合。

家畜を飼育すること。
家畜を使役すること。
家畜を殺戮すること。

そのことに対する、心理的な抵抗。
そのことに対する、心理的な躊躇。

その存在、
その心理的矛盾。

それらの解決。
その実現に対する、欲求。
その行為。
そのことに対する、正当化。

（３－４－２）
生物の大半は、発情期を持つ。
一方、人間は、以下の内容の実現が、可能である。
年中、時間を問わずに、性的な発情を、行うこと。

その特徴。
その、人間における特有性。
その、人間における固有性。
その強さ。
その面での、以下の内容における、程度の強さ。

生物の中における、人間が持つ、特殊性。
それらの存在。

（３－４－２－１）
生殖行為中。
その行為そのものについて、以下の内容を実現すること。
感覚。知覚。思考。
それらに対する、心理的な集中。
そのために必要な、生存上の対応。

その結果、もたらされる、以下のような副作用。
それに対する、対応。
その必要性。

生殖行為中。
思考力。
身辺の防御を行う力。
それらが弱体化すること。
それに対する、対応。
その必要性。
その対策の、人間心理に対する、遺伝的な、埋め込み。

それは、以下のような内容である。

////
性的な発情のモード。
平常心のモード。
////
上記の両者を、区別すること。
上記の両者の混在を、回避すること。

（３－４－２－２）
生殖器官。
生殖行為。
それらに対する、露骨な直視。
そのことに対する、羞恥心。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－３）
発情期。
平常期。
それらの期間の実現。
そのことを、常時、両立させること。
それらの両者。
それらを、相互に、切り替えること。
それらの実現。
それは、常時である。
それは、瞬時である。
それらを、可能にすること。

（３－４－２－４）
生殖行為。
その結果。
それがもたらす、重大性。

それらに対する、重大な決心。
それらに対する、重大な決意。
人生における、その必要性。
その強力さ。
それらの発生。

そのことに対する、社会的な覚悟。
その必要性。

それらに対する、注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－５）
出産行為。
人間における、その危険性。
それらの発生。
そのことに対する、社会的覚悟。
その必要性。
それらに対する、注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－６）
子供の出生。
それがもたらす、以下の内容の発生。

（３－４－２－６－１）
親による、子供の養育。
その社会的な義務。
その状態が、長期間にわたって持、続すること。
それがもたらす、心理的な重圧。
それらの発生。
そのことに対する、社会的な覚悟。
その必要性。
それらへの注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－６－２）
親による、子供の養育。
その社会的な義務。
その放棄。
それが、もたらす、以下の内容。
その、程度の大きさ。

子供の人生における、ダメージ。

それが、片親によるものである場合。
それが、もたらす、以下の内容。
その、程度の大きさ。

もう一方の親。
その人生における、ダメージ。

それらの発生。
それに対する、社会的な回避。
それに対する、社会的な制限。
それに対する、社会的な制裁。
それらの必要性。
それらへの注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－６－３）
子供の養育。
それに必要な、人員。
それに必要な、労力。
人間における、それらの程度の多さ。
その作業において、以下の内容の実現が、必須であること。

双方の配偶者。
血縁関係者。
彼らの間における、共同作業。
彼らの間における、協力。
彼らの間における、相互扶助。
それらの実現。

（３－４－２－６－４）
子供の養育。
それに必要な、期間。
人間における、その長期性。
その作業において、以下の内容の実現が、必須であること。

双方の配偶者。
血縁関係者。
彼らの間における、共同作業。
彼らの間における、協力。
彼らの間における、相互扶助。
それらの実現。

その結果、以下の必要性が、双方の配偶者の間に、生じること。
彼ら自身の配偶者。
その人物との間において、以下の内容を、実現すること。

共同生活。
その長期間の、持続。
その必要性。

それがもたらす、以下の内容の発生。

双方の間における、良好な対人関係。
その維持。
その社会的な義務。

上記の状態が、長期間にわたって、持続すること。
それがもたらす、心理的な重圧。
それらの発生。
そのことに対する、社会的な覚悟。
その必要性。
それらに対する、注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－７）
配偶者との不仲。
その発生。
その持続。
それが、もたらす、以下内容。
その大きさ。

双方の配偶者。
彼ら自身の人生における、ダメージ。

その発生。
その原因が、一方の配偶者の側に、専ら、存在する場合。
それが、もたらす、以下の内容。

もう一方の配偶者。
その人物の人生における、ダメージ。
その大きさ。

それらの発生。
それに対する、社会的な回避。
それに対する、社会的な制限。
それに対する、社会的な制裁。
それらの必要性。
それらへの注意の喚起。
その心理の、遺伝的な、生体への埋め込み。

（３－４－２－８）
配偶者以外の異性。
彼らとの間における、生殖行為。
その実現。
それに対する、本質的な欲求。

ある生物。
その一類型としての人間。
彼らが、その欲求に対して、従った場合。
それが、率直だった場合。
それが、露骨だった場合。
それは、以下の内容に、該当する。

配偶者に対する、浮気。
そのことによる、配偶者に対する、裏切り。

それが、もたらす、以下の内容。

彼ら自身の結婚相手。
彼ら自身の交際相手。
上記の人物の人生における、ダメージ。
その程度の大きさ。

浮気。
その結果、以下の状況が、もたらされること。
庶子の誕生。
それが、以下の（Ａ）の内容に対してもたらす、以下の（Ｂ）の副作用。

（Ａ）
血縁の系統。
その正当性。
その喪失。

庶子の養育。
そのの責任の所在。
それらの確定。

（Ｂ）

社会的な混乱。
心理的な混乱。
それらの大きさ。

（初出2021年4月。）

人間と、他の生物との間における、断絶や、根本的な相違。それらの主張の、移動生活様式との関連。

（１）
//
人間と、他の生物との間における、断絶や、根本的な相違。
人間と、家畜との間における、断絶や、根本的な相違。

人間の特権性。

人間の上位性や、優位性。
他の生物の下位性や、劣位性。
//
それらを強調すること。

例。
//
ユダヤ教。
キリスト教。
イスラム教。
それらの宗教の教義。
//

（２）
他の生物には見られない、人間特有の高い知能。
それらを、強調すること。

（３）
ヒューマニズム。
人間特有の理想。
その実現を追求すること。
例。
人権。

上記の（１）。上記の（２）。上記の（３）。
そうした思想は、移動生活様式の社会において、頻発する。

そのことの背景。
移動生活様式。
それは、以下の内容である。
家畜の飼育。
家畜の放牧。
家畜の屠殺。
それらの行為を、毎日、繰り返すこと。
そうした生活を、何世代にもわたって、永続的に送ること。
それが、人々が、生きて行く上で、必須であること。

仮に、ある人物が、人間と家畜とを、同一視した場合。
その人物の精神が、崩壊すること。

（初出2021年3月。）

人間社会の現実。上位者と下位者との関係。人間の下位者が持つ、家畜的な性質。

人間社会。
その現実。
上位者は、下位者に対して、強制的に命令する。
上位者は、下位者の命運を、強制的に奪う。
上位者は、下位者を、強制的に労働させる。
上位者は、下位者を、搾取する。
上位者は、それらの行為によって得た富を、蓄積する。
上位者は、それらを、既得権益として、彼ら自身の子孫へと、受け

継ぐ。
上位者は、そのことで、彼ら自身の上位性を、永続させる。

それは、以下の内容である。
//
上位者が、下位者を、一方的に使役していること。
上位者が、下位者の意思や運命を、一方的に左右していること。
上位者が、下位者の生物を、一方的に、使い捨てていること。
人間社会において、下位者は、上位者の奴隷であること。
//

それらは、結局は、以下の内容である。
//
上位者の人間が、下位者の人間を、家畜扱いしていること。
人間社会において、下位者は、上位者の家畜であること。
//

そのことは、結局、以下の内容である。
//
（１）
人間による、家畜に対する扱い。
人間社会における、上位者による、下位者に対する扱い。
それらの内容が、同一であること。

（２）
人間たち。
彼ら自身よりも下位の人間。
彼ら自身の家畜。
彼ら自身による、それらの存在に対する扱い方。
そこにおける、差異や相違。
それが、それら両者の間で、特に存在しないこと。
//

そのことは、結局、以下の内容である。

（１）
人間。

（２）

他の生物。

例。
家畜。

上記の（１）。上記の（２）。
//
その両者の間に存在する、連続性。
その両者の間に存在する、同質性。
その両者の間に存在する、同一性。
//
それらの存在についての、動かぬ証拠。

（初出2021年3月。）

人間社会の真実に、到達すること。その方法。

人間社会の真実に、到達すること。
そのことの、簡単な、実現の方法。
それは、人間が、以下の内容に、気付くことである。
//
人間と、他の生物との間における、以下の内容の関連性。
その両者の間に存在する、連続性。
その両者の間に存在する、同質性。
その両者の間に存在する、同一性。
//

（１）
//
（１－１）
人間。他の生物。
それらの間における、根本的な相違。
それらの間における、根本的な断絶。

それらの存在を、強調すること。
（１－２）
人間特有の高い知能。
それを、強調すること。
（１－３）
人間特有の理想。
それを、追求すること。
//

上記の（１）。
それらの行為が、人間にとって、無意味であること。

人間が、それらの行為を続ける場合。

人間にとって、以下の内容の実現が、永久に不可能であること。
//
人間社会の真実に、到達すること。
人間性の本質に、到達すること。
//

（２）
上記の（１）の行為に代わって、新たに、次のような行為を、実行すること。

（２－１）
人間。
他の生物。
//
その両者の間における、断絶。
その両者の間における、相違。
//
それらが、存在しないこと。
そのことに、新たに、気付くこと。
そのことを、改めて、認識し直すこと。

人間。
他の生物。
//

その両者の間における、連続性。
その両者の間における、同質性。
その両者の間における、同一性。
//
それらが、明らかに、存在すること。
そのことに、新たに、気付くこと。
そのことを、改めて、認識し直すこと。

（２－２）
人間が、生物の一種であること。

人間の本質。
それが、以下の場所へと、完全に包摂されること。
//
生物の本質。
その内部。
//

//
人間の本質。生物の本質。
その両者は、同一であること。
その両者は、同質であること。
//
それらの内容を、肯定すること。

上記の（２）。
それらの行為は、人間にとって、以下の内容の実現のために、必須である。
//
人間社会の真実に、到達すること。
人間性の本質に、到達すること。
//

（初出2021年3月。）

人間は、世界社会レベルにおいて、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、不可能である。

(1)
移動生活様式。
そこでは、人間は、家畜を、日常的に、放牧し、飼育しながら、生活する。
人間は、家畜との存在面での類似性を、日常的に意識しながら、生活する。
人間は、そのことを、彼ら自身による生殖行為において、特に、実感する。
人間は、家畜を、日常的に殺戮しながら、生活する。
人間は、人間と、家畜を、存在面で、峻別する必要性に迫られる。
人間は、人間と、人間以外の生物を、峻別する必要性に迫られる。
人間は、人間を、生物の一環として捉えることが、不可能になる。
それゆえ、人間は、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、出来ない。

(2)
定住生活様式。
そこでは、人間は、植物の栽培と収穫を中心に、生活する。
人間は、人間と、人間以外の生物を、存在面で、敢えて峻別する必要が、薄い。
人間は、人間を、生物の一環として捉えることが、可能である。
しかし、その社会の内情は、内部情報が、機密扱いされて、非公開のままである。
それゆえ、人間は、その社会の内情について、分析を進めることが、出来ない。
それゆえ、人間は、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、出来ない。

人間の生活様式は、上記の二種類のみである。
それゆえ、人間は、世界社会レベルにおいて、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、出来ない。

（初出2021年5月）

密の生物。疎の生物。密の人。疎の人。

生物には、次の二種類がある。密の生物。疎の生物。
人間には、次の二種類がある。密の人。疎の人。
密の存在。それは、液体的性質を持つ。それは、狭い限定された領域に、高密度で、密集して、定着し、定住した状態で、存在する。
疎の存在。それは、気体的性質を持つ。それは、広い無限の領域に、低密度で、離散して、絶えず移動する状態で、存在する。
女性。彼らは、密の人である。彼らは、狭い限定された安全領域に、高密度で、密集して、定着し、定住した状態で、存在する。
男性。彼らは、疎の人である。彼らは、どのような危険が待っているか分からない、広い無限の領域に、低密度で、離散して、絶えず移動する状態で、存在する。
定住生活様式者。彼らは、密の人である。彼らは、一箇所に先祖代々永住して、集約的農業を営む。
移動生活様式者。彼らは、疎の人である。彼らは、多数の地点間を移動して、粗放的農業を営む。

大規模感染症への社会的な対策。例。コロナウイルス感染症。それは、密な行動を禁止し、疎な行動を推進する。
大規模感染症によるダメージ。それは、密の人において、大きく、疎の人において、小さい。
大規模感染症によるダメージ。性差との関連。例。コロナウイルス感染症。それは、女性において、大きく、男性において、小さい。
大規模感染症によるダメージ。生活内容の差との関連。例。コロナウイルス感染症。それは、定住生活様式において、大きく、移動生活様式において、小さい。

（初出2021年7月。）

差別。それは、生物や人間の本質である。

差別。それは、生物の本質である。その意識は、生物に、常駐し、消去不能である。

生物は、彼ら自身と、形質面で共通性や同一性の大きい存在を好む。
生物は、彼ら自身と、形質面で共通性や同一性の小さい存在を嫌う。
生物は、彼ら自身と、同質な者を好む。
生物は、彼ら自身と、異質な者を嫌う。
例。人種の違い。肌の色の違い。顔立ちの違い。

生物は、生存能力における、優位性や有能性を所持する存在を、好む。
生物は、生存能力における、劣位性や無能性を所持する存在を、嫌う。

生物。それは、以下のように行動する。
彼自身が、生存能力における、優位性、有能性を所持する存在である場合。生物は、そのことを積極的に認め、自己高揚に陥り、彼自身を肯定する。
他者が、彼自身と同様に、優位で有能である場合。生物は、そうした他者に対して、ライバル視を行い、対抗心を燃やす。
他者が、彼自身よりも、劣位で無能である場合。生物は、そうした他者に対して、見下しや侮蔑を行い、一方的に説教を行い、おもちゃ扱いや苛めを、公然と行う。
彼自身が、生存能力における、劣位性、無能性を所持する存在である場合。生物は、そのことを認めたがらず、自己嫌悪に陥り、彼自身を否定する。
他者が、彼自身と同様に、劣位で無能である場合。生物は、同族嫌悪に陥る。
彼自身が、生存能力における、劣位性、無能性を所持する存在である場合。生物は、新たに、彼自身が、生存能力における、優位性、有能性を所持する存在になりたいと、強く望み、努力を行う。その後、生物は、優位者、有能者に対して、挑戦しようとする。その挑戦が、失敗に終わると、彼自身は、無力感に苛まれて、気分的に鬱になる。
そこには、優位者と劣位者、有能者と無能者、それら両者の間において、差別が、公然と存在する。そうした差別は、生物の本質に基づく。そこでは、彼自身の生存しやすさや、生存能力の大小によって、全ての待遇が決まる。生物の一種としての人間も、そうした差

別意識を、公然と持つ。

生物の持つ、生殖における成功性や、優位性。それは、彼自身のコピーを、後世へと、なるべく沢山、生存上の優位性を保持した状態で、残すことである。

社会的生殖差別の分類。
男性の場合。自己拡大性への成功の度合い。
女性の場合。自己温存性への成功の度合い。
セックスの機会の獲得成功の有無。生殖への成功の有無。子孫の残存の度合いの大小。
生殖に成功した生物が、有能視され、優位となる。生殖に失敗した生物が、無能視され、劣位となる。
そこには、両者の間において、差別が、公然と存在する。そうした差別は、生物の本質に基づく。生物の一種としての人間も、そうした差別意識を、公然と持つ。

社会的性的不能者。それは、以下の内容の存在である。
////
同性愛者。異性との性交渉に興味が無い者。
性的魅力に欠ける者。それゆえ、異性から相手にされない者。
性行為を、上手に遂行できない者。それゆえ、異性から相手にされない者。
性行為に対して、恐怖を抱く者。
生身の異性に対して、性交渉をしない者。仮想の異性や、生身の異性の代用品に対して、性交渉をする者。
性行為からの超越を目指す者。
性的能力を失った者。例。手術による生殖細胞の摘出。高齢化による性的能力の喪失。
////

社会的性的不能者。彼らは、彼ら自身の生身のコピーを後世に残さない。彼らは、生物の本質に反した行動を取る。それゆえ、彼らは、社会的に、差別や嫌悪や見下しの対象になる。

移動生活様式における、男性が持つ、生活能力面での優位性と、女性が持つ、生活能力面での劣位性。例。欧米諸国。中東諸国。
定住生活様式における、女性が持つ、生活能力面での優位性と、男性が持つ、生活能力面での劣位性。例。中国、朝鮮、日本、ロシア。

そこには、両者の間において、差別が、公然と存在する。そうした差別は、生物の本質に基づく。生物の一種としての人間も、そうした差別意識を、公然と持つ。

（初出2021年7月。）

血縁関係の分類。血縁制度の分類。

血縁関係。

生物相互の、遺伝的な同一性。
生物相互の、遺伝的な同質性。
生物相互の、遺伝的な共通性。
生物相互の、遺伝的な調和。

二個体以上の生物。

彼らが、上記の内容に基づいて、社会関係を、形成すること。
彼らが、上記の内容に基づいて、縁故を、形成すること。
彼らが、上記の内容に基づいて、繋がりを、形成すること。
彼らが、上記の内容に基づいて、共同生活を、営むこと。
その生活集団。その生活ネットワーク。

彼らが、その場において、ずっと生活し続けること。
彼らが、その場において、ずっと居住し続けること。
その定住集団。その定住ネットワーク。
その制度化。
それが、血縁制度である。

血縁制度。
その分類。

////
(1)

血縁の把握。その視点。

(1-1)
極を作る場合。
集団。

(1-1-1)
父方中心。父系。

(1-1-2)
母方中心。母系。

(1-2)
極を作らない場合。
ネットワーク。

////
(2)
氏姓の系譜。その追跡。その長さ。

(2-1)
永代。

(2-2)
数代。それは、永続しない。

(2-3)
一代。

////
(3)
その場の権力者。その場の支配者。

(3-1)
父親。父権。移動生活様式。

(3-2)
母親。母権。定住生活様式。

////

(4)
血縁を、社会的に重視すること。
その度合い。
遺伝的繋がりを、社会的に重視すること。
その度合い。

血縁に基づく定住生活様式。
それを、社会的に重視すること。
その度合い。

(4-1)
絶対視。

(4-2)
重視。

(4-3)
軽視。
非血縁に基づく、共同の、定住生活様式。
それを、社会的に重視すること。

////
(5)
分析の対象となる、生物の社会。
その分類。

(5-1)
無性生殖。

(5-2)
有性生殖。

(5-2-1)
植物。

(5-2-2)
動物。
人間。

上記の内容に基づく、(5-2-2)人間社会の分類。
具体的な例。
中国。(1-1-1)集団。父系。(2-1)永代。(3-2)母親。(4-1)絶対視。
日本。(1-1-1)集団。父系。(2-2)数代。それは、永続しない。(3-2)母親。(4-3)軽視。
ロシア。(1-1-1)集団。父系。(2-3)一代。(3-2)母親。(4-3)重視。
タイ。(1-2)ネットワーク。(2-1)永代。(3-2)母親。(4-3)重視。

人種制度も、血縁制度の一環である。
民族制度も、血縁制度の一環である。
それらの形成は、人間相互の遺伝的な繋がりの濃淡に基づく。

（初出2021年5月。）

通貨高社会。通貨安社会。

通貨高社会。
それは、以下のような内容である。
//
稼げない社会。
生活費がかさむ社会。
通貨の保持者が楽な社会。
通貨の非保持者が苦しい社会。
//

通貨安社会。
それは、以下のような内容である。
//
稼げる社会。
生活費がかさまない社会。
通貨の保持者が苦しい社会。
通貨の非保持者が苦しくない社会。
//

通貨高社会が、通貨安社会へと、変化した場合。
社会的通貨による貯蓄で、富を築いていた者。彼らの富が、失われること。彼らの生活が、貧困化すること。
社会的通貨以外による貯蓄で、富を築いていた者。彼らの富が、維持されること。彼らの生活が、豊かなままであること。
社会的通貨による貯蓄から、社会的通貨以外による貯蓄への、事前の切り替えの実施。実体のある資産の、事前の蓄積。それらが、富の維持において、とても有効であること。

通貨安社会が、通貨高社会へと、変化した場合。
社会的通貨による貯蓄で、富を築いていた者。彼らの富が、増えること。

生物の行動の変化。それは、慣性の法則に従う。それは、生物にとって、直ぐには、変更不可能である。

通貨安社会が、通貨高社会へと、変化すること。その次に、通貨高社会が、通貨安社会へと、変化すること。
その場合。社会的通貨による貯蓄で、富を築く行為。その持続を、通貨危機の発生が徐々に迫っても、直ぐには、なかなか止められないこと。

通貨高社会の問題。
通貨高が、社会に与える影響。
通貨高貧乏。何を実行するにも、費用面で高く付くこと。そのため、経済的な競争力が全滅すること。稼げなくなること。高付加価値の製品しか、採算が合わなくなること。人々の購買力が低下して、商品の価格が安くなること。何も稼げない状態において、通貨安を避けるようになること。

女性優位社会が、支配者の男性優位社会によって、通貨高を強制されている場合。
例。アメリカによって、通貨高を強制されている、日本社会。
そのような女性優位社会においては、社会の人々が、自己保身第一で行動する。そのため、人々は、社会的上位者の男性優位社会の政策に、誰も批判や反抗を出来ずに、ひたすら従うだけである。そのような女性優位社会において、それらの批判や反抗は、強力な社会的タブーと化す。そのため、どんどん社会は、一方的に、高速に、衰退して行く。人々はどんどん貧しくなる。その社会は、自力では、復活が不可能である。

そのことに対する解決策。
社会の債務超過による、財政破綻がもたらす、大幅な通貨安の実現。
それに伴う輸出産業の国内製造拠点の復活。
その実現による、国際的に稼ぐ力の復活のみ。
それは、経済的危機の発生である。それは、経済的敗戦である。それは、経済的恥辱である。
女性優位社会の人々は、自己保身第一で、安全第一で、見栄っ張りである。そのため、誰も、自力で、その解決策を、採用することが出来ない。そのため、その人々は、どんどん経済的に追い詰められるのみ。
それは、社会の全面的な壊滅や、経済の全面的焦土化を、もたらす。
それは、以下の状況の再来である。
例。太平洋戦争における、日本の敗戦。

（2021年12月初出。）

通貨。言語。物理キーボードの文字キー配列。それらの統一や不統一と、既得権益との関連。

（Ａ）
通貨の不統一。言語の不統一。それらの発生原因の共通性。
//
通貨の両替容易性。
言語の学習困難性。言語の自動的な翻訳の困難性。
//

既得権益への指向との関連。
//
両替容易性。翻訳容易性。
学習困難性。
既得権益の確保。既得権益の喪失の阻止。
//

それら同士の、密接な関連。

（Ｂ）
物理キーボードの文字キー配列の、世界的な統一。その状態の永続。その発生原因。
//
文字キー配列の学習困難性。発音の、アルファベットによる表記の容易性。
//

その状態からの脱却方法。
//
キートップを自由に置換すること。その実現を可能にすること。
キー入力設計用のプログラミング言語を活用すること。その実現を可能にすること。例。AutoHotKey。
アルファベットからの脱却。その実現を可能にすること。
新たな別の文字キー配列の学習容易性。その実現を可能にすること。
//

既得権益への指向との関連。
//
学習困難性。
既得権益の確保。既得権益の喪失の阻止。
//
それら同士の、密接な関連。

既得権益者や既得権益確保手段からの解放。
既得権益者や既得権益確保手段の抹消や無力化。
それらは、以下の（１）にとって、以下の（２）を実現するために、本質的に必要である。
（１）
生物。彼らは、既得権益の保持の機会から、除外され、疎外されている。
（２）
彼らの生活の向上。彼らの社会的地位の向上。

既得権益確保手段としての通貨。
既得権益確保手段としての言語。
既得権益確保手段としての、物理キーボードの文字キー配列。

通貨における、既得権益確保手段としての性質。その性質の抹消。
（１）それは、全世界統一の通貨の誕生を、可能にする。
（２）それは、個人通貨の誕生を、可能にする。

言語における、既得権益確保手段としての性質。その性質の抹消。
（１）それは、全世界統一の言語の誕生を、可能にする。
（２）それは、個人言語の誕生を、可能にする。

物理キーボードの文字キー配列における、既得権益確保手段としての性質。その性質の抹消。
（１）それは、個人の文字キー配列の誕生を、可能にする。
（２）それは、全世界統一の文字キー配列の誕生を、可能にする。

（2021年12月初出。）

生物にとっての、物語。

物語。
それは、以下の内容である。

物質一般における、それらの状態の、時系列の変動。
物質一般が送る、生涯。
それらの内容についての記述。
その対象が、動物や人間である必要性は、特に、全く無い。

例。
日の出。
日の入り。
火山の噴火。

（１）

物質の性質。
無機物。
有機物。
生物。

（２）
（２－１）
生涯の期間。
無期限。
有期限。

（２－２）
寿命の存在。
有り。
無し。

（３）
状態の変動。

（３－１－１）
緊迫。
緊張。
非日常性。

（３－１－２）
緩慢。
柔和。
日常性。

（３－２）
起伏の大きさ。
波の大きさ。
突然性。
予知不可能性。
緩急のテンポの良さ。

（３－３）
飽きが来ないこと。
目新しさ。

複雑さ。
単調で無いこと。

（４）
感動があること。

（５）
状態の、生物にとっての良好さ。
快感。
心地よさ。
調和。
綺麗さ。
リラックス。
癒し。

（初出2021年4月。）

物語における、感動。その発生の要因。生物にとっての場合。

物語における、感動。
その発生の要因。
生物にとっての場合。

（１）
生物の存続の危機。
災害。事故。事件。危機。それらの発生。
生物の存続面における、劣位性や無能性。
その生物にとっての運命。
（１－１）
その逃れにくさ。

（１－２）
その乗り越え。

その克服。

（１－２－１）
そのための努力。
そのための創意工夫。

（１－２－１－１）
その内容の、目新しさ。
その内容における、刺激の大きさ。
その内容における、刺激の強さ。

（１－２－１－２）
その内容の、品質水準の高さ。
その内容の、完成度の高さ。
それらの実現のための、難易度の高さ。

（１－２－１－３）
その内容の、参考になる度合いの大きさ。

（１－２－２）
それがもたらす、カタルシスの強さ。

（２）
生物の存続レベルのアップの実現。
生き残ること。
子孫を生成し、後世に残すこと。
それらの実現。
それがもたらす、快感。
その快感の生成は、生物にとって、本質的である。

（３）
生物力の高さの表現。
有能性の表現。
その内容の提示が、なされていること。

（４）
生物にとっての、模範的な存在。
生物にとっての、模範的な生涯。
その内容の提示が、なされていること。

ある生物による、生物一般にとって、理想的な行動。
ある生物による、他の生物に対する、援助の行動。
その内容の提示が、なされていること。

（ 5 ）
社会的な羨望の対象。
社会的な上位者。
豊富な資源の所有者。
それに相当する生物。
その社会的行動の内実。
その生活の内実。
その内容の提示が、なされていること。

（初出2021年4月。）

生物にとっての物語。その内容の分類。

(1)
(1-1)
喜劇。
喜び。
生存にとって、プラスの感覚。
それを与えるイベントの発生。
その内容の描写。

(1-2)
悲劇。
悲しみ。
生存にとって、マイナスの感覚。
それを与えるイベントの発生。
その内容の描写。

(2)
(2-1)

快感。
(2-1-1)
生物存続に対する安心感や、安堵感。
平和さ。
日常性。
その描写。

(2-1-2)
生物存続に対する充実感。
その描写。
彼ら自身の子孫を増殖させる行為。
生殖行為。
それらを促す描写。
アダルトビデオ。
アダルトアニメ。

(2-2)
不快感。
生物存続に対する脅威。
その描写。
ホラー。
スプラッター。
それは、多大な刺激を、生物に対して、もたらす。
それは、充実感がある。

(3)
(3-1)
運命を、受容すること。
運命に、従うこと。
失敗。
負けること。

運命。
それは、生物に対して、以下の内容によって、もたらされる。
生物の社会における、根本的な不合理性。
その存在面における、巨大さ。

(3-2)
運命を、乗り越えること。
運命を、超越すること。

成功。
勝利。

(4)
(4-1)
リラックス。

(4-2)
緊張。
シリアスであること。

(5)
(5-1)
生存のために必要な感覚器官。
その行使。
それが、フル回転であること。
刺激が多いこと。
刺激が大きいこと。
目が覚める度合いが大きいこと。
緊張感が大きいこと。
重大事件の発生。
その描写。
それらの度合いの高さ。
それが、充実感を、生物に与える。

(5-2)
生存のために必要な感覚器官。
その行使。
それが、最低限の回転であること。
刺激が少ないこと。
刺激が小さいこと。
リラックスすること。
弛緩。
瞑想。
まどろみ。
それらの度合いの高さ。
それが、休息感を、生物に与える。

（初出2021年5月。）

表層。基層。深層。それらの概念の、生物の本質との関連。

////
表層。
//
基層。
深層。
////

それらの区別が、生物の本質を知る上で、必要である。

生物たち。
彼らの社会規範。
彼らの行動様式。
彼らの価値観。

表層と、基層との間において、双方が、内容面で、矛盾すること。
それらの発生。
それは、生物において、多発する。

例。
男性優位社会を、社会的上位者に戴いた状態。
その状態の、女性優位社会。

そうした女性優位社会の人々。
彼らは、表層では、男性的価値観を、盛んに主張すること。
しかし、彼らは、基層では、女性的価値観のみで、動くこと。

彼らは、表層では、男性的社会規範を、盛んに遵守しようとすること。
しかし、彼らは、基層では、女性的社会規範のみを、遵守すること。

表層で、男性的価値観を主張すること。
それ自体が、基層の女性的価値観の表れである。

表層で、男性的社会規範を遵守すること。
それ自体が、基層の女性的社会規範の表れである。

それらは、以下の内容である。
////
上位者に対して、媚びること。
上位者に対して、懐くこと。
上位者に対して、忖度すること。
上位者に対して、取り入ること。
//
そのことで、上位者から、庇護を受けやすくなること。
そのことで、自己保身の水準を、より高めることができること。
そのことで、社会的昇進を実現すること。
//
その結果、彼ら自身が、上位者になること。
その結果、彼らは、彼ら自身の社会に対して、専制支配者として、新たに君臨出来ること。
その結果、自己保身の水準を、最高レベルに引き上げること。

//
それらを実現したいこと。
その願望が、とても強いこと。
そうした事前の計算に従って、動くこと。
それを、社会のほとんど全員が、一斉に、相互に同調して、行うこと。
////

その女性優位社会にとっての上位者を、男性優位社会の人々と捉えること。
女性優位社会の人々。
彼らは、女性的価値観を行使して、上位者の男性的価値観に対して、媚びる。
その媚びの対象としての男性的価値観。

例。
民主主義。
自由主義。
討論の公開性。
個人の人権の尊重。

そのことで、彼ら自身の行為を、矛盾無く、説明できること。

（初出2021年5月。）

救助。援助。福祉。搾取。生物の本質との関連。

（Ａ）
救助。援助。

ある生物が、それ自身の生存を後回しにして、他の生物の生存を、優先させること。
ある生物が、他の生物を、救助すること。
その行為の実行。
それは、生物の生活を、楽にする。
それは、社会的に、称賛される。
それは、生物にとって、感動を呼ぶ。

それは、以下の内容の実現にとって、欠かせない。
生物による、物語の作成。
その結果がもたらす、社会的な成功。

それは、根本的に、高い社会的需要がある。

しかし、生物は、実際には、それを、ほとんど実行しない。
生物は、それ自身の生存を、最優先する。
生物は、そのために、他の生物の生存を、平然として、犠牲にする。
生物は、他の生物の生存を、後回しにする。
それは、生物の本質である。

他の生物の生存を優先させること。
それは、生物の本質に、反する。
生物は、その実行を、本質的に、回避する。
その理由は、以下の内容である。

その生物自身の生存を、優先して確保するため。

他の生物の生存を優先させること。
それは、その生物にとっては、赤字の事業である。

他の生物の生存を優先させること。
それは、他の生物にとって、以下の内容として、捉えられる。
上記の行為の実行者。その生物。
その生物に対して、搾取や収奪を、実行すること。
そのことで、他の生物自身が、生存上、楽が出来ること。
その実現のための、絶好の機会。
その到来。
他の生物は、その生物に対して、平然として、持ち逃げや、搾取を、行う。

他の生物の生存を優先させること。
それを実行する生物は、生きて行けず、死滅する。
それは、生物としては、失敗である。

他の生物の生存を優先させること。
それは、生物にとって、只の理想である。

他の生物の生存を優先させること。
その行為の実行。
それは、生物にとって、以下のように、利用される。
その生物自身の生存水準を、なりふり構わず、上げること。
その実現のための、自己宣伝。
その恰好の材料。

他の生物の生存を優先させること。
それは、生物によって、以下の形で、頻繁に利用される。
その行為の実行。
そのことで、その生物自身の存在を、理想化すること。
そのことで、その生物自身の存在を、社会的に上位へと上昇させること。
そのことで、以下の内容の実現を、可能にすること。
その生物が、他の社会的下位の生物から、搾取を行うこと。
それを可能にする、社会的な立場。
その生物が、それを、新たに獲得すること。

その結果、その生物が、そうした搾取を成功させること。
その実現のための道具。

（Ｂ）
搾取。
ある生物による、他の生物に対する、搾取や収奪。
それは、その生物にとって、以下の内容である。

その生物にとって、生存に必要な資源。
その入手を、より容易にすること。

その生物の、環境変動への適応。
その生物が、その実現のために、行う労苦。
その度合いを、軽減すること。

その生物の、環境変動への適応。
そのために必要な、能力。
その獲得。
その生物が、その実現のために、行う労苦。
それを、不要にすること。

それは、その生物を、より生存しやすくさせる。
社会的上位者の生物は、社会的下位者の生物に対して、公然と、搾取を行う。
その行為は、社会的に非難されない。
それは、それを実行する側の生物にとって、本質的に、望ましい。

（Ｃ）
社会福祉。
ある生物。
彼は、自力での生存が困難になった。
その生物に対する、他の生物による、以下の行為の実行。
その生物の生存の維持。
その実現のための、サポートや援助。
有能な生物による、無能な生物に対する、援助。
その内容は、以下のように、分類される。

（１）
遺伝的な親と、遺伝的な子孫との間における、以下の行為。
彼ら自身の生存の維持。
それに必要な、行為や資源。
それらの、一方から、他方への、融通。
子供による、親に対する援助。
親による、子供に対する援助。
（２）
遺伝的なつながりの無い生物の間における、以下の行為。
彼ら自身の生存の維持。
それに必要な、サポートや援助。
それらの、一方から、他方への、社会的な融通。

無能な生物。社会福祉の対象者。
それは、以下のように、分類される。
（１）
元は、有能だった者。
（１－１）
失敗して、無資源の状態に陥った、有能者。
彼には、以下の内容が、無い。
彼自身の生存性の向上。
その実現のために活用できる、手持ちの資源。

そのため、彼は、実質的に、無能である。
（１－２）
元は、健常者だった者。
新たに、病気持ちになった者。
新たに、障害持ちになった者。
そのことで、新たに、無能になった者。
（２）
最初からの無能者。
（２－１）
生まれた当初から、病気や障害を持っている、無能者。
（２－２）
健康だが、生まれつき、無能な者。
才能の無い者。
社会不適合者。

無能な生物。
その生物が、以下の内容を、豊富に所有している場合。
既得権益に相当する資源。

その生物が所属する、遺伝的な血縁定住集団。
その集団が、社会的上位の存在として、見なされている場合。
その集団が、既に、安定した、高い社会的地位を、確立している場合。

その生物は、以下の内容の実現が、十分に可能である。
仮に、自力での生存が、困難になった場合。
社会的上位者として、存在し続けること。
その実現。
その容易性の確保。

その生物は、社会福祉に頼る必要が無い。

社会福祉。
それは、社会的上位者にとっては、以下のように、捉えられる。
社会的下位者による、社会的上位者に対する、搾取。
社会的下位者による、社会的上位者からの、持ち逃げ。
社会的下位者による、社会的上位者に対する、対抗や反抗。
その社会的制度化。
その試み。
それは、女性優位社会では、社会的禁忌である。
その実行者は、女性優位社会では、公然として、以下の扱いを受ける。
社会的な否定。
社会的な攻撃。
周囲の他者によって、それらの行為の対象と、見なされること。
例。
日本社会。
生活保護受給の申請の行為。

男性優位社会。
そこでは、社会的上位者も、チャレンジを行う。
その結果、社会的上位者は、頻繁に失敗する。
そのことで、社会的上位者は、社会的下位に、一時的に転落する。

そうした状況の発生。
それが、その社会の中において、日常化する。

そこでは、以下の内容の実現が、必須である。
ある生物。
チャレンジへの失敗者。
彼自身が、その状態からの回復を行うこと。
彼自身が、その実現のため、社会福祉に一時的に頼ること。
その実現のための、社会的インフラ。
その確保。
その事前の用意。

女性優位社会。
彼らは、チャレンジの行為を、以下の内容として、捉える。
彼ら自身の保身を脅かす、危険な行為。
彼らは、チャレンジの実践を、社会的に禁止する。

彼らは、以下の内容の行為のみを、社会的に許可する。
安全な前例。
その踏襲を、専ら、行うこと。

社会福祉に頼ること。
それは、男性優位社会では、特に忌避されない。
それは、女性優位社会では、徹底的に忌避される。

社会福祉に頼ること。
その行為の実行者。

彼は、女性優位社会では、以下のような存在である。
彼は、社会的下位者である。
彼は、社会的無能者である。
彼は、社会的な侮蔑の対象である。

彼は、男性優位社会では、以下のような存在である。
チャレンジャー。
彼自身における成功。
その実現に至る過程。
彼は、その中途において、一時的に失敗した。
彼は、その時点では、社会的下位者である。

彼は、再び、新たなチャレンジを実行する。
彼は、そのことにより、社会的成功を収める。
彼は、社会的上位者になる。
そうした可能性を秘めた存在。

彼は、社会的には、ある程度、好意的に扱われる。

（初出2021年4月。）

生物にとっての、社会的な羨望の対象。生物は、社会的上位者になりたい。

社会的な羨望。
その対象者。
それは、以下のように、分類される。

（１）
社会的上位者。
名門血縁集団のメンバー。
国家元首。
（２）
社会における、資源の主要な占有者。
お金持ち。

そのような生物。
彼らの生活内容。
その活写。
彼らの生涯。
そこにおいて、彼ら自身が得る、様々な経験。
それらの内容。
その追体験。
視聴者が、そのことで、以下の内容を、実現すること。

社会的上位者。
資源の占有者。
あたかも、そうした存在になったような気分。
そうした気分に、一時的に、浸ること。

視聴者は、以下の内容の欲求を、強く持つ。
彼ら自身が、社会的上位者になること。
それは、実際は、実現不可能であっても良い。
それは、仮の形でも良い。
その実現を、必死になって、望むこと。

その実現のために、作られる物語。
それは、根本的に、高い社会的需要がある。

生物。
彼らは、以下の内容を、実現したい。
彼ら自身が、社会的上位者になること。

彼らは、以下の内容を、知りたい。
彼ら自身が、社会的上位者になる方法。

彼らは、以下の状態を、実現したい。

社会的上位者としての状態。
彼ら自身が、それを、生涯にわたって、続けること。

彼ら自身が、その状態を、子孫代々にわたって、残すこと。
それは、彼ら自身における、生涯の希望である。
それは、彼ら自身における、生涯の目標である。

社会的上位者は、以下のような社会的な構造物の上に乗って、動く。
社会的下位者たちが作る、肩車。
社会的下位者たちが、それを、いつ崩すか？
社会的下位者たちが、それを、いつ覆すか？
そのタイミングを、知ること。
その実現は、社会的上位者にとって、不可能である。

社会的下位者たちが、社会的上位者を、抹殺すること。
そのことで、社会的下位者たち自身が、社会的上位者になること。
社会的下位者たちが、その行為を、いつ実行するか？
そのタイミングを、知ること。
その実現は、社会的上位者にとって、不可能である。

社会的上位者は、その恐怖に、毎日怯えて、暮らす。

社会的下位者たち。
彼らが作る、社会的な肩車。
彼らが、それを、崩さないこと。
彼らが、それを、覆さないこと。
彼らが、それを、現状維持すること。

彼らが、上位者に対して、離反しないこと。
そうした状態の保持。

社会的上位者は、その実現のために、必死になって、行動する。

（初出2021年4月。）

HD

家畜的社会関係。対等的社会関係。それらの生成。生物社会の本質。

生物社会。その般的な法則。

社会的下位者は、社会的上位者によって、飼育されている。
社会的下位者は、社会的上位者の家畜である。
社会的下位者は、社会的上位者による搾取対象である。
社会的下位者は、社会的上位者の養分である。

その社会関係。それは、以下の内容である。

家畜的社会関係。

その社会関係の生成。
それは、生物社会において、以下の状況が起きる限り、不可避である。

社会的上位者と、社会的下位者との、地位的な分離が起きること。

社会的地位の分離。その原因。

（１）
環境適応能力。それらの有無。
有能性。／無能性。

個体間の能力差。
個体間の能力の多様性。

遺伝的な能力。
文化的な能力。

（２）
既得権益。

資源の所有。
設備の所有。
貨幣の所有。
それらの有無。

所有性。／非所有性。
占有性。／非占有性。
遺伝的な既得権益。文化的な既得権益。
権益者。所有者。占有者。／非権益者。借用者。召使い。

上記の原因がもたらす、結果。
それは、以下の内容である。

（１）
環境適応能力。
その、異なる生物間における、個体差。
それが、社会的地位の分離を、生成する。
それが、家畜的社会関係を、生成する。

無能者は、有能者によって、飼育されている。
無能者は、有能者の家畜である。
無能者は、有能者による搾取対象である。
無能者は、有能者の養分である。
無能者は、有能者の玩具である。

（２）
既得権益の占有。
その、異なる生物間における、個体差。
それが、社会的地位の分離を、生成する。
それが、家畜的社会関係を、生成する。

既得権益の非占有者は、既得権益の占有者によって、飼育されている。
既得権益の非占有者は、既得権益の占有者の家畜である。
既得権益の非占有者は、既得権益の占有者による搾取対象である。
既得権益の非占有者は、既得権益の占有者の養分である。
既得権益の非占有者は、既得権益の占有者の玩具である。

家畜的社会関係。
その多様な側面。
それは、以下の内容である。

（１）
経済的な側面。

（１－１）
投資家。／投資家による、投資先。企業家。

例。
資本主義。資金の投資。資産の貯蓄。

それは、以下の関係である。

飼育者。 / 家畜。
搾取者。 / 被搾取者。

企業家は、投資家によって、飼育されている。
企業家は、投資家の家畜である。
企業家は、投資家による搾取対象である。
企業家は、投資家の養分である。
企業家は、投資家の玩具である。

（ 1 - 2 ）
所有者。 / 借用者。

例。
資本主義。生産設備の用意。

それは、以下の関係である。
飼育者。 / 家畜。
搾取者。 / 被搾取者。

借用者は、所有者によって、飼育されている。
借用者は、所有者の家畜である。
借用者は、所有者による搾取対象である。
借用者は、所有者の養分である。
借用者は、所有者の玩具である。

例。
女性。生殖設備の所有者。人生投資家。 / 男性。生殖設備の借用者。企業家。
企業家の男性は、人生投資者の女性によって、飼育されている。
企業家の男性は、人生投資家の女性の家畜である。
企業家の男性は、人生投資家の女性による、経済的な搾取対象である。
企業家の男性は、人生投資家の女性の養分である。
企業家の男性は、人生投資家の女性の玩具である。

（ 2 ）
社会的な側面。

（２－１）
管理者。／管理を受ける者。

例。
企業。
政府機関。
学校。
血縁関係。

管理者。それは、社会的上位者である。
管理を受ける者。それは、社会的下位者である。
それらの管理の本質。
管理者による、管理を受ける者の支配。
その社会的制度化。
それに伴う、既得権益の発生。

管理を受ける者は、管理者によって、飼育されている。
管理を受ける者は、管理者の家畜である。
管理を受ける者は、管理者による搾取対象である。
管理を受ける者は、管理者の養分である。
管理を受ける者は、管理者の玩具である。

（２－２）
教育者。／教育を受ける者。

例。
企業。
政府機関。
学校。
血縁関係。

教育者。それは、社会的上位者である。
教育を受ける者。それは、社会的下位者である。

それらの教育の本質。
教育者による、教育を受ける者の支配。
その社会的制度化。
それに伴う、既得権益の発生。

教育を受ける者は、教育者によって、飼育されている。
教育を受ける者は、教育者の家畜である。
教育を受ける者は、教育者による搾取対象である。
教育を受ける者は、教育者の養分である。
教育を受ける者は、教育者の玩具である。

（２－３）
指導者。／指導を受ける者。

例。
社会的理想。例。社会主義。共産主義。リベラリズム。
宗教。例。キリスト教。イスラム教。仏教。
教育機関。例。大学。
運動競技のクラブ。例。野球。水泳。

指導者。それは、社会的上位者である。
指導を受ける者。それは、社会的下位者である。

それらの指導の本質。
指導者による、指導を受ける者の支配。
その社会的制度化。
それに伴う、既得権益の発生。

指導を受ける者は、指導者によって、飼育されている。
指導を受ける者は、指導者の家畜である。
指導を受ける者は、指導者による搾取対象である。
指導を受ける者は、指導者の養分である。
指導を受ける者は、指導者の玩具である。

（２－４）
選出者。／投票者。

例。
民主主義。

選出者。それは、社会的上位者である。
投票者。それは、社会的下位者である。

民主主義の本質。
被支配者による、支配者の選出。
社会的下位者による、社会的上位者の選出。
その社会的制度化。
それに伴う、既得権益の発生。

投票者は、選出者によって、飼育されている。
投票者は、選出者の家畜である。
投票者は、選出者による搾取対象である。
投票者は、選出者の養分である。
投票者は、選出者の玩具である。

（２－５）
インフルエンサー。／影響の受容者。

例。
SNS。

インフルエンサー。それは、社会的上位者である。
影響の受容者。それは、社会的下位者である。

SNSの本質。
影響の受容者による、インフルエンサーの支持。
被支配者による、支配者の支持。
社会的下位者による、社会的上位者の支持。
その社会的制度化。
それに伴う、既得権益の発生。

影響の受容者は、インフルエンサーによって、飼育されている。
影響の受容者は、インフルエンサーの家畜である。
影響の受容者は、インフルエンサーによる搾取対象である。
影響の受容者は、インフルエンサーの養分である。
影響の受容者は、インフルエンサーの玩具である。

家畜的社会関係。
その根本的な解消方法。
それは、以下の内容である。

対等的社会関係。
その構築。

それは、生物にとって、社会的な快適さを、もたらす。
それは、生物にとって、本質的に、望ましい。

対等的社会関係。
その具体的な構築方法。

それは、以下の内容である。

（１）
環境適応能力の個体差。

（１－１）
環境適応能力の個体差。それを、無くさない場合。それを、活かす場合。

（１－１－１）
異なる能力の所有者同士による、対等な、互酬的な、社会的分業の相互関係。
その生成。
それらの定期的な発生。
それらの恒常的な、永続的な発生。
それらの社会的制度化。

（１－１－２）
環境変動。
その定期的な発生。
それに伴う、有能者と無能者の、社会的な交替。

環境適応能力の面における、有能者。
彼らが、環境変動によって、新たに、無能者になること。

環境適応能力の面における、無能者。
彼らが、環境変動によって、新たに、有能者になること。

それらの定期的な発生。
それらの恒常的な、永続的な発生。
それらの社会的制度化。

例。
生物の活動がもたらす、気候変動。

（１－２）
環境適応能力の個体差。
既得権益の個体差。

遺伝的な個体差。
文化的な個体差。

それらを、社会的に、恒常的に、永続的に、無くすこと。

（２）
既得権益の個体差。

（２－１）
既得権益の個体差。
それを、無くさない場合。
それを、ある程度の期間、活かす場合。

既得権益の、定期的な初期化。
既得権益の、定期的な、社会的再分配。

例。
社会的革命。
それらの定期的な発生。
それらの恒常的な、永続的な発生。
それらの社会的制度化。

（２－２）

既得権益の個体差。それを、無くす場合。

既得権益の所有の、全面的な禁止。
あらゆる所有の、社会的な禁止。
その恒常化。
その永続化。
それらの社会的制度化。

（３）
上記の（１）と、上記の（２）の、組み合わせ。

突然変異。
未知の領域における、試行錯誤と失敗の繰り返し。
その最中における、偶然の成功。
発明。
発見。

それに伴う、以下の状況の発生。

無能者が、有能者になること。
既得権益を持たない者が、新たな権益を占有すること。
それらの定期的な発生。
それらの恒常的な、永続的な発生。
それらの社会的制度化。

例。
弱小だったウィルス。
彼らの、突然変異による、世界的な大増殖。
その発生。

例。
無産の人が、新たな金地金の鉱脈を、偶然に発見して、その占有者になること。
そのことで、彼が一定期間、良い暮らしをすること。

社会関係の対等化。
その社会的な実行。
それらは、定期的な、社会的ガーベジコレクションである。

（2021年12月初出。）

生物による、エビデンスの提示。その限界。

生物は、他者に対して、以下の内容しか、提示しない。

それ自身の生存への利益の確保。
その実現にとって、都合の良いエビデンス。

生物は、他者に対して、以下の内容については、提示を省略する。
それ自身にとって、都合の悪いエビデンス。

エビデンスの提示。
その徹底。
その実現のための、社会的な指示。
それは、役に立たない。

（初出2021年4月。）

生物。その純物質的な本質。その利己性。その革新性。それらの純物質レベルでの実現。

（１）
生物の場合。
それ自身の生存を指向すること。
それ自身の増殖を、指向すること。

それ自身の、存在面における永続性。

その実現を、指向すること。

以下の内容の実現を、指向すること。
それ自身のコピー。
それ自身にとっての子孫。
それらの生成。
それらの生存。
それらの増加。
それらの永続。

そうした性質を持つ物質。
それらは、種類を問わず、全て、生物と呼ぶことが可能である。
それは、特に、DNAに限定されない。

生物物質が、それ自身のコピーを生成すること。
その動作。
その行動。
それは、無意思である。
それは、自動的である。
それは、機械的である。
それは、無機質である。

生物物質のセルフコピー。
そこにおける、コピーのエラーの発生。
その発生は、自動的である。
その発生は、無機的である。
それは、生物物質にとって、以下の内容を、生み出す。
存在面における新規性。
それは、以下の内容である。
生物物質一般が持つ、革新性や創造性。
それらの起源。

生物物質。
それは、本質的に、創造的である。
それは、本質的に、革新的である。
それは、以下の場合においても、豊富に存在する。
生物物質が、自動的である場合。

生物物質。

例。
DNAの遺伝子。
その自己複製。
その自己増殖。
それは、自動的である。
それは、無機的である。
それは、意思を伴わない。

有性生殖の生物の雌雄。
例。
人間の男女。

その性差。
その発生。

異性に対する性的誘引力。
その発生。

それらの内容。
それが、事前に決定していること。
それは、事後的に、覆せないこと。
その発生。
それは、自動的であること。

その生殖行為。
その発生。
それは、自動的であること。

その生物自身の意思による、それらのコントロール。
それは、本質的に、不可能である。
それは、生物である以上、無くせない。
それは、生物である以上、回避出来ない。

生物物質は、全て、それ自身の存続を、最優先させる。
それは、自動的である。
それは、無機的である。
それは、物質レベルにおいて、本質的に、利己的である。

その存続。
その増殖。

その度合いの最大化。
その永続化。

その実現にとっての邪魔者。
その実現にとってのライバル。
そうした存在を、排除すること。
そうした存在を、抹消すること。

それは、生物にとって、本質的な利益に当たる。

その利益の確保。
その利益の追求。
生物は、それらを目的として、専ら、動く。

生物の、それ自身の、生存面における優位性。
生物は、それを、確認したがる。
生物は、それを、実感したがる。

生物における、そうした欲求の発生。
それは、自動的である。
それは、恒常的である。
それは、旺盛である。
それは、生物にとって、本質的である。

生物が持つ、利己性。
生物が持つ、誇り。
それは、その実現において、自動的である。

生物は、自動的な存在である。
その欲求や動作の根源は、自動的に生成される。
その欲求や動作の根源は、自動的に決定される。
人間は、生物の一種である。
人間は、自動的な存在である。
その欲求や動作の根源は、自動的に生成される。
その欲求や動作の根源は、自動的に決定される。

例。
食欲。
性欲。
生存面における優位性の確認についての欲求。

（２）
生物。
その進化。
それは、環境変動への適応である。

生物の進化。
その概念について、今まで取られて来た考え方。
それは、以下の内容である。
進化論。
生存競争。
自然淘汰。
優勝劣敗。
優れた生物のみが、生き残る。
生物は、進化するほど、優れた存在となる。
人間は、そうした進化における、最終形態である。
人間は、そうした進化における、完成形である。
人間は、そうした進化における、最高形態である。
人間は、そうした進化における、理想形である。
人間は、他の生物に比べて、より進化している。
人間は、他の生物に比べて、より優位である。

それらの考え方の根底にあるもの。
移動生活様式者。
その社会規範。
彼らは、人間と、家畜を、必死になって、分ける。
人間による、家畜の使役や殺戮。
その行為は、彼ら自身の生存のために必須である。
その行為の正当化。

それは、以下の内容の発生を防止するために、必須である。
彼ら自身の精神状態の不安定化。
彼ら自身の精神状態の崩壊。

その必須性が生じる理由。

生物の本質。
人間の本質。

その正しい把握にとって、必須の考え方。
それは、以下の内容である。

人間と、他の生物とは、同類である。
人間と、他の生物とは、仲間同士である。
人間と、他の生物を、分けてはいけない。

例。
人間と、家畜とは、同類である。
人間と、家畜とは、仲間同士である。
人間と、家畜を、分けてはいけない。

その考え方がもたらす、移動生活様式者における、問題点。
生物が、仲間同士で、相互に、殺戮の行為を、実行し合うこと。
それは、生物にとって、精神的に負担である。
それは、生物にとって、精神的に耐えられない。
それは、生物にとって、精神状態の不安定化をもたらす。
それは、生物にとって、精神状態の崩壊をもたらす。
生物は、その行為を、必死になって、回避する。

仮に、生物としての人間が、以下のように考えた場合。
人間と、家畜とは、同類である。
人間と、家畜とは、仲間同士である。

人間が、家畜を、殺戮すること。
それは、以下の内容に、相当する。
ある生物が、他の生物を、殺戮すること。
ある生物が、彼自身にとっての仲間を、殺戮すること。

それが、生物としての人間に対してもたらす結果。
彼ら自身の精神状態の不安定化。
彼ら自身の精神状態の崩壊。
彼ら自身における、精神的混乱の発生。

その結果。
以下の状況が、発生する。
彼らは、精神の正常性を、喪失する。

精神の正常性。

その保持は、以下の内容に、相当する。
彼ら自身が移動生活様式を存続すること。
その、前提条件。

彼らは、環境適応力を失う。
彼らは、死滅する。

移動生活様式者たち。
彼らにとって、その発生の回避が、必須である。

彼らは、その実現のために、以下の行為を、必須とする。
以下の内容の実現を、全面的に、諦めること。
生物の本質。
人間の本質。
生物や人間における、社会的真実。
それらの内容への、真の到達。
その試行。
その達成。

（３）
生存競争。
優勝劣敗。
ある時点における、優れた適応者。
彼が、別の時点において、そうである保証。
それは、全く存在しない。

環境変動は、大きい。
環境変動。
その結果は、常に、新しい。
その結果は、常に、未知である。
ある生物。
彼が、ある時点において、ある環境に適応している場合。
彼が、別の時点で、別の環境に適応できていること。
その保証は、全く存在しない。
ある生物。
彼が、ある時点において、優位になっている場合。
彼が、別の時点において、以前と同様に、優位になれること。

その保証は、全く存在しない。
ある生物。
彼が、ある時点において、理想形になっている場合。
彼が、別の時点において、以前と同様に、理想形になれること。
その保証は、全く存在しない。

それらの持続。
それは、一時的である。
それは、以下の期間内においてのみ、可能である。

環境変動の幅。
それが小さいこと。
その状態の持続する期間。

環境変動の結果。
その目新しさ。
それが小さいこと。
その状態の持続する期間。

それは、直ぐ終わる。
それは、儚い。

環境変動の結果。
生物物質における、環境適応の能力。
その、生物物質の間における、優劣。

ある時点における無能者。
彼が、別の時点において、有能者になること。
それは、日常的である。

ある時点における有能者。
彼が、別の時点において、無能者になること。
それは、日常的である。

ある時点における劣位者。
彼が、別の時点において、優位者になること。
それは、日常的である。

ある時点における優位者。
彼が、別の時点において、劣位者になること。
それは、日常的である。

一つの生物物質において、様々な側面が、セットで、常に、同居している。
一つの生物物質において、以下の両者が、セットで、常に、同居している。
有能な部分。
無能な部分。
生物物質は、ある面では、有能であり、別の面では、無能である。

全てにおいて、有能であること。
その状態を持続させること。
その実現は、生物物質にとって、難しい。

ある種の生物物質。
その構成要素。
ある部分の有能性。
ある部分の無能性。
それらの度合い。
それらの双方を、同時に測定した結果。
それらは、一つの生物物質において、環境変動に応じて、常に、入れ替わる。

無能性の淘汰。
その実現は、生物にとって、難しい。
自然淘汰。
それは、実際には、特に実現していない。

劣った生物は、普通に生き残る。
無能者である生物は、普通に生き残る。
以下の場合。

その生物。
彼は、先祖から、豊富な資源を、既得権益として受け継いでいる。
その結果。
彼は、社会的上位者として、引き続き、存在出来る。

その結果。
その生物は、以下の内容の実現が、可能である。
彼自身の生存のために、以下の行為を行うこと。
社会的下位者に対する搾取。
その行為を、平然として、行うこと。

その結果。
その生物は、以下の内容の実現が、可能である。
楽な生活を送ること。
容易に、生存し続けること。
彼自身の遺伝的子孫を、余裕を持って残すこと。

生物の進化。
生物の更なる高度化。
その実現は、以下の場合のみに、限られる。

それらの生物による、環境変動への適応。
その状態が、ある程度、持続した場合。

それは、以下の内容である。
環境変動。
それが、一定の幅の範囲内に収まっていること。
その状態の持続。
ある生物における、その状況への適応。
ある生物における、その能力の向上。

それは、以下の時点において、あっけなく崩壊する。
新たな環境変動。
それが、その幅を超えて発生すること。

ある特定の生物の優位性。
例。
人間の優位性。
それは、生物の歴史において、一時的である。
それは、新たな環境変動によって、容易に消失する。

新たな環境変動。

その内容は、生物にとって、根本的に、未知である。
それは、生物にとって、予測不可能である。

それは、既存の生物にとって、以下の内容である。
以下の内容の実現。
彼らが、それに対して、引き続き、適応すること。

その可能性の有無。
そのことについての、事前の情報。
そのことが、彼ら自身にとって、一切、不明であること。

環境変動。
それは、生物にとって、巨大過ぎる存在である。
生物は、環境変動の支配下に、一方的に置かれ続ける。
生物は、環境変動に対して、無力である。

ある生物が、他の生物に対して、優位性を持続させること。
それは、根本的に、難しい。
生物間における、優位性についての関係。
それは、
生物の自己複製。
その過程における、複製エラーの、自動的な発生。
そのことによる、以下の内容の発生。
その生物が、存在面において、新規化すること。

その結果。
それらの生物の間において、新たな優劣関係が発生する。

生物間における、優位性についての関係。
それは、そのことで、容易に入れ替わる。
例。
コロナウィルス。
それは、人間を、高確率で、死亡させる。
その新種の突然変異株。
それらが絶えず発生すること。

人間が、そのことに対して、有効な対策を打てずにいること。
人間が、それによって、生物維持の面において、翻弄され続けていること。

（初出2021年4月。）

生物における、悪行。

生物における、悪行。
それは、以下の内容である。

他の生物の存続を、脅かすこと。
他の生物の存続の水準を、劣化させること。
他の生物に、生存上の苦痛を与えること。

他の生物に対して、以下の行為を実行すること。
殺戮。
虐待。
脅迫。
暴力。
搾取。

それは、下記の（１）が、下記の（２）に対して、行う。
それは、下記の（２）を、下記の（３）の内容に、変える。
下記の（１）は、それを、下記の（４）の目的のために、行う。

（１）
ある生物。
優位者。
上位者。
有力者。

（２）
別の生物。
劣位者。
下位者。

無力者。

（３）
犠牲者。
生贄。
サンドバッグ。
道具。
おもちゃ。

（４）
（４－１）
鬱憤晴らし。
気晴らし。
遊び。

（４－２）
楽をすること。
生存上の苦労の押し付け。

（４－３）
彼ら自身の優位性。
彼ら自身の上位性。
彼ら自身の有力性。
それらの確認。

彼ら自身の所有する支配力。
その確認。

（４－４）
その行為の実行による、快感の獲得。
その行為の実行による、満足感の獲得。

例。
女性の悪行。
女性優位社会の人々の悪行。
定住生活様式者たちの悪行。
その内容は、社会的に隠蔽されている。
その内容は、知られていない。

（Ａ）
悪行の実行者。

（Ｂ）
悪行を受ける対象者。

定住集団内部における、調和の存在。
その認定。
上記の（Ｂ）が、それを乱したこと。
その認定。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。

上記の（Ｂ）に対して、以下の行為を、実行すること。
定住集団内部において、上記の（Ｂ）の存在や精神を、潰すこと。
上記の（Ｂ）を、定住集団から追放すること。
上記の（Ｂ）を、定住集団から締め出すこと。
上記の（Ｂ）を、その生存に必要な資源から、締め出すこと。
上記の（Ｂ）を、生きて行けなくすること。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
その実行が、恣意的であること。
その実行が、感情的であること。
その実行が、気分次第で、行われること。
その実行において、根拠が無いこと。
その実行に当たって、集団行動を取ること。

上記の（Ａ）。
彼らが、行動面で、一体化すること。
彼らが、行動面で、徒党を組むこと。
彼らが、そのことで、実行時の保身の度合いを、高めること。
彼らが、その実行に当たって、以下の内容を、強調すること。
実行者側の多数性。
実行者側の全会一致性。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
その実行に当たって、彼ら自身は、安全地帯に、問題無く、止まっていられること。
彼ら自身の保身。
彼ら自身による責任逃れ。
それらの実現が、最初から、問題無く、十分に可能であること。
彼らは、その実現可能性の有無を、事前に十分に検討すること。

彼らは、その実行内容に関して、関係者間で、事前に合意すること。
彼らは、その合意内容を、慣性の法則に従って、粛々と、予定通り、実行すること。
彼らは、その実行を、他の下位者に、やらせること。
その結果。
彼ら自身は、上記の（Ｂ）に対して、直接、手を下さないこと。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
彼らは、それを、無力な対象に対して、手加減無く、行うこと。

仮に、上記の（Ｂ）が、抵抗した場合。

（Ｂ－１）
上記の（Ｂ）による、上記の（Ａ）に対する抵抗。
その行為内容。

上記の（Ａ）は、上記の（Ｂ－１）自体を、以下の内容として、捉えること。
それは、上位者に対する批判に、相当する。
それは、社会規範に違反する。

上記の（Ａ）は、上記の（Ｂ－１）を、罪悪視する。
上記の（Ａ）は、上記の（Ｂ）を、罪悪視する。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
彼らは、それを、上記の（Ｂ）が無抵抗になるまで、徹底的に、実行すること。

上記の（Ｂ）が、以下のような存在である場合。
少数者。
単独者。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
彼らは、それを、そうした上記の（Ｂ）に対して、以下の形で、実行すること。
彼らは、多数派を形成すること。
数の面における、多数性。
そのことがもたらす、勢力面における優位性。
それらを、平然と活用すること。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
彼らは、それを、無慈悲に、平然と、行うこと。

集団内部における、一人を除く全員。
彼らが、完全に一体になること。
彼らが、完全に同調すること。
彼らは、残りの一人を、上記の（Ｂ）として、指定すること。
彼らは、その単独者を、その悪行（１）の実行の対象にすること。

悪行（１）。
上記の（Ａ）による、その実行。
その実行の木目が、細かいこと。
その実行において、重箱の隅を突くこと。
その実行の持続期間が、長いこと。
その実行が、いつまでも終わらないこと。
その実行において、隙が無いこと。
その実行が、徹底していること。
その実行において、容赦が無いこと。

悪行（１）。
その実行に対する、関係者に対する口止め。
それが、徹底していること。

その実行についての社会的真実。
その内容の、機密情報化。
その内容について、集団的なプライバシーを、確保すること。
それらが、徹底していること。

悪行（２）。
上記の（Ａ）による、悪行（１）の実行。
その内容の、集団内部における、機密情報化。
上記の（Ａ）による、その実施。

（Ｃ）
悪行（１）。
悪行（２）。
その双方の内部情報。
その公開者。
その内部告発者。

悪行（３）。
上記の（Ａ）が、上記の（Ｃ）に対して、苛酷な制裁や、厳罰を、下すこと。
上記の（Ａ）が、上記の（Ｃ）の存在を、社会的に抹消すること。
上記の（Ａ）が、それを、容赦無く、平然として、行うこと。
上記の（Ａ）が、それを、秘密裏に行うこと。
上記の（Ａ）が、その痕跡を、一切残さないこと。
上記の（Ａ）が、その後、平然として、綺麗な顔をしていること。
上記の（Ａ）が、悪行（３）の存在を、表面化させないこと。

悪行（１）。
悪行（２）。
悪行（３）。
上記の（Ａ）が、それらの実行に対して、問題無い振りをすること。

上記の（Ａ）が、それらの実行に対して、綺麗事を主張すること。
上記の（Ａ）が、それらの実行に対して、言い訳を主張すること。
上記の（Ａ）の態度が、それらにおいて、徹底していること。

悪行（１）。
悪行（２）。
悪行（３）。
それらの実行。
上記の（Ａ）が、そのことについて、以下の内容を、主張すること。
その、落ち度の無さ。
その、社会的な正当性。

上記の（Ａ）が、彼ら自身を、被害者とみなすこと。
上記の（Ａ）が、以下の内容を、主張すること。
上記の悪行の発生についての、大本の責任。
それが、上記の（Ｂ）に、があること。
上記の（Ｂ）に対して、責任の擦り付けを行うこと。
上記の（Ａ）による、そうした主張の声。
それが、大きいこと。
上記の（Ａ）は、その主張において、以下の存在を、バックに付けること。
社会的上位者。
社会的有力者。

上記の（Ａ）が、以下の内容を、主張すること。
彼ら自身が、有力な定住集団の、古参者であり、正式メンバーであること。
彼ら自身の、社会的な上位性。
彼ら自身の、社会的な正統性。
上記の（Ａ）が、上記の悪行の実行によって、それらを、誇示すること。

上記の（Ａ）が、上記の悪行の実行を、以下の用途に、活用すること。
上記の（Ａ）に対する、他の潜在的な批判者。
それに相当する、他のメンバー。
彼らに対する、見せしめ。

上記の（Ａ）が、そのことで、以下の内容を、実行すること。
彼ら自身に対する批判。
その発生。
それを、公然と抑止し、禁止すること。

上記の（Ａ）による、上記の悪行の実行。
上記の（Ａ）が、それについて、以下の対策を、実施すること。
その実行に対する批判者。
そうした人物が、発生しないようにすること。
そのために、以下の対策を、実施すること。
メンバー間における相互監視。
メンバー間における密告。
それらの活用を、徹底すること。

定住集団内部における、他のメンバーに対する、懐柔やガス抜き。
それらの活用を、徹底すること。

定住集団内部における、メンバー同士の社会関係において、以下の内容を、強化すること。
既存の調和の順守。
既存の調和に対する無批判性。
内部情報の機密性の保持。その順守。
それらの徹底の度合い。
それを、更に、深めようとしていること。

上記の（Ａ）による、上記の悪行の実行。
上記の（Ａ）が、それを、以下の内容の実現のために、使うこと。
定住集団内部における既得権益者。
彼らの立場の更なる強化。

上記の（Ａ）による、上記の悪行の実行。
上記の（Ａ）が、その実行によって、以下の内容を、強化すること。
定住集団内部の団結。
その度合い。
それを、更に、深めようとしていること。

上記の（Ａ）による、上記の悪行の実行。
その結果。

上記の（Ｂ）における、社会的な居場所の喪失。
上記の（Ｂ）における、社会的な居場所からの締め出し。
それによる、上記の（Ｂ）の、社会における生存可能性の喪失。
上記の（Ａ）は、それらを、目的として、上記の悪行を、実行すること。

生物の悪行。
その生成の根本的な原因。
それは、以下の内容である。

生物を取り巻く環境。
環境変動の大きさ。
それへの対処可能性の不確実さ。

環境変動が、新たに、絶えず、起きること。
その制御が、能力的に、不可能であること。
その変動結果に、従うしか無いこと。

環境変動に対する無力性を、絶えず、実感すること。

環境変動の予見可能性の低さ。
それが彼ら自身にもたらす、彼ら自身の生存の存続の実現への不安。

彼ら自身の生存の存続の実現の確実性を上げたいこと。
その確実性を、絶えず実感したいこと。
それにより、不安感を、絶えず払しょくしたいこと。

そのために、以下の内容を、絶えず確認したいこと。
彼ら自身の生存における、有能性。
彼ら自身の生存における、優位性。
彼ら自身の生存における、上位性。
彼ら自身の生存の確実性。
その所有。
その水準の上昇。
その既得権益化。
その維持。

そのために必要な、彼ら自身の、社会的な優位性。
そのために必要な、彼ら自身の、社会的な上位性。
それらを、絶えず、生成したいこと。
それらを、絶えず、直ぐに、確認したいこと。

その実現のための、他者の安易な道具化。

そうした欲求の所有。
それが、以下の内容を、生み出す。
生物による、悪行。

生物（Ａ）。
彼ら自身が持つ、生存面における優位性。
彼ら自身が持つ、生存面における上位性。
彼ら自身が、それらの確認をしたいこと。

そのための道具としての、劣位者（Ｂ）。
その存在。
生物（Ａ）自身が、それを、絶えず、作りたいこと。

劣位者（Ｂ）が、生物（Ａ）自身の優位性を脅かすこと。
劣位者（Ｂ）による、生物（Ａ）自身に対する、反抗や抵抗。
生物（Ａ）自身が、それを、許せないこと。
生物（Ａ）による、劣位者（Ｂ）への搾取。
生物（Ａ）は、それによって、利益を上げる。
生物（Ａ）は、そのことで、以下の内容の水準を、更に上げたいこと。
彼ら自身の生存。
その可能性。
その確実性。

生物（Ａ）は、以下の内容を、実現したい。
生物（Ａ）が、彼ら自身の生存を確実視すること。
生物（Ａ）が、そのことを可能にすること。
生物（Ａ）は、そのために、以下の内容の水準を、更に上げたいこと。
周囲の他者。

周囲環境。
それらに対する、コントロール能力。
それらに対する、支配力。

生物（Ａ）は、そのことを、何とかして、実現したいこと。

生物。
彼が、以下の内容を、得たいこと。
彼自身における、生存面での有能感。

その欲求の深さ。
その欲求の、底知れない、無限性。
その欲求の浅ましさ。
その欲求が、周囲の他者に対して与える、不快さ。
その欲求は、生物の本質に基づく。

生物の本質。
それは、悪である。
それは、不快である。

（初出2021年4月。）

生物の本質を突くこと。それは、生物にとって、不快である。

生物の本質を突くこと。
それは、以下の内容である。
生物にとっての急所を、付くこと。
生物にとっての急所を、思い切り、痛撃すること。

それは、生物にとって、根本的に、不快である。

人間の本質を突くこと。
それは、以下の内容である。

人間にとっての急所を、付くこと。
人間にとっての急所を、思い切り、痛撃すること。

それは、人間にとって、根本的に、不快である。

それらの不快な体験。
その防止方法。

生物の本質を、なるべく見ないこと。
人間の本質を、なるべく見ないこと。

生物の本質。
人間の本質。
それらに関する内容の記述。
それを、なるべく視聴しないこと。
それらに関する内容の記述への接触。
それを、なるべく遠ざけること。

代わりに、以下の内容を、生涯にわたって、視聴し続けること。
生物にとっての理想や天国や桃源郷。
人間にとっての理想や天国や桃源郷。

それは、生物にとって、根本的に、快い。
それは、人間にとって、根本的に、快い。

それは、生物の生存にとって、何の役にも立たない。
それは、人間の生存にとって、何の役にも立たない。

それは、生物にとって、只の麻薬である。
それは、人間にとって、只の麻薬である。

（初出2021年4月。）

社会的真実の解明。その効果的な手法。

社会的真実の解明。
その効果的な手法。
それは、以下の内容である。

（１）
社会的真実の解明。
そこにおいて、エビデンスの提示を、目指さないこと。

社会的真実の解明。
そこにおいては、エビデンスの提示を、目指してはいけない。

研究や調査において、エビデンスの収集や提示を、前提とすること。
それは、以下の用途には、役に立たない。
ある社会集団。
それが、以下の性質を、持つ場合。
集団内部を隠蔽すること。

そうした社会集団。
その社会規範。
その解明。
その明示。

その理由。
そうした社会集団についてのエビデンス。
その提供者は、内部告発者と見なされる。
その提供者は、集団内部で、秘密裏に、処罰される。
その提供者は、集団内部で、その存在を、抹消される。
それは、その提供者にとって、根本的に、有害である。

生物としての人間。
彼は、結局は、以下の内容しか、記述しないこと。
彼自身にとって、都合の良いエビデンス。
その限界を、知るべきであること。

社会的真実の解明。
そこでは、以下の態度が、必要である。
著述内容の詳細化を、目指さないこと。
著述内容の具体化を、目指さないこと。

（２）
社会的真実。
その効果的な解明。
その実現。
そこでは、以下の態度が、必要である。

以下の著述スタイルを、採用すること。
以下の著述上の視点を、採用すること。

（２－１）
関数化。
部品化。

（２－２）
総括化。
俯瞰化。
鳥瞰化。

（２－３）
生物外の視点。
生物を超越した視点。

（初出2021年4月。）

血統や品種と、生物の本質。

血統。
品種。

それは、以下の内容である。
////
(1)
祖先から続いている、子孫のつながり。
祖先から続いている、子孫の筋。

(1-1)
祖先から続いている、遺伝子の複製の連続性。
祖先から続いている、遺伝子の共通性。

(1-2)
祖先から続いている、後天的な教育内容の共通性。
////

血統。血筋。
品種。
それらの持続。
それらの永続。

生物や人間は、その内容の実現を、とても重視する。
それは、彼ら自身の子孫を、後世へと、残し続けることである。
それは、生物の本質である。

＝＝＝＝
血統の良さ。
その内容は、以下の(1)と、以下の(2)との、掛け合わせである。

(1)
(1-1)
家柄。

(1-2)
族。
属。
筋。

(1-3)

階級。

(1-4)
出身。
由緒。
出自。
生まれ。

(1-5)
格式。
門構え。

(1-6)
毛並み。
品種。

(2)
良好であること。
高貴であること。
立派であること。
上流であること。
有名であること。

＝＝＝＝
血統の良さ。
それは、以下のような個体によって、社会的に占有される。
それは、以下のような個体によって、代々、独占的に、排他的に、社会的に継承される。

////
社会的な上位者。
社会的な成功者。
社会的な有能者。
社会的な有力者。
社会的な有名者。
社会的な既得権益の占有者。
社会的な身分。その上流性。その高貴性。それらの保持者。

////

＝＝＝＝
血統書。家系図。
それは、以下の生物を対象として、記述される。
人間。競走馬。犬や猫などのペット。

血統。その概念。
その対象は、以下の生物に、限定される。
血液で動く、動物。

植物にも、名門の品種が、存在する。
例。
日本の水稲の一部の品種。
日本の苺の一部の品種。

動物や人間における、血統書。
植物における、品種証明。
それらは、以下の内容である。

生物における、以下の証明。
(1)
上位者特性所持証明。
上位者の特性。その所持についての証明。

(1-1)
上位者遺伝子所持証明。
上位者遺伝子。その所持についての証明。

(1-2)
上位者教育所持証明。
上位者が受ける教育。その所持についての証明。

それらは、具体的には、以下の内容である。

////
//
社会的な上位者。
社会的な成功者。

社会的な有能者。
社会的な有力者。
社会的な有名者。
社会的な既得権益の占有者。
社会的な身分。その上流性。その高貴性。それらの保持者。
//

(1)
彼ら自身の間で、独占的に維持されてきた、様々な特性。
彼ら自身の間で、独占的に受け継がれてきた、様々な特性。

(1-1)
彼ら自身の間で、受け継がれてきた、遺伝子。
彼ら自身の間で、受け継がれてきた、遺伝的子孫。

(1-2)
彼ら自身の間で、受け継がれてきた、後天的な教育内容。
彼ら自身の間で、受け継がれてきた、文化的子孫。
////

その所有者であること。
その証明書。その証明データ。
その所有者であること。

彼らが、彼ら自身の出自に、重きを置く場合。
名門性。
名家性。
その所有者であること。
その出身者であること。
その証明書。その証明データ。
その所有者であること。

（2021年5月初出。）

自己顕示欲と、生物の本質。

自己顕示欲は、自分自身は一角の存在であることを、周囲に対して見せびらかしたくなる欲求である。
自己顕示欲は、生物に付き物である。それは、生物の本質である。
生物が内蔵する、以下の性質。
彼ら自身の生存上の優位性を、その都度、いちいち確認したくなる性質。
その性質が、彼ら自身に、自己顕示欲を、もたらしている。
それは、生物に、アウトプットの面における、独創性や高い完成度をもたらす。
それは、彼ら自身の生存量の優位性を高めることにつながる。
しかし、自己顕示欲がもたらす浪費によって、生物は、かえって生活が苦しくなる。
それは、その生物の、生存上の優位性を、結果的に、損なってしまう。

（2021年9月初出）

気候変動。地球温暖化。生物との関連。

気候変動。
それは、生物に対して、未知の新たな環境への適応を、要求する。
それは、一部の生物にとっては、マイナスである。
それは、一部の生物にとっては、プラスである。
それは、一部の生物にとっては、特に影響が無い。

例。
地球温暖化。
冷涼な気候の下の生物は、衰退する。
例。西欧や北欧や北米のエリアにおける、人間や、その他の動植物。
熱帯の生物は、更に、隆盛する。
例。熱帯植物。

地球温暖化。
それは、生物によって、マイナスでもプラスでもある。

それは、悪いことではない。
例。
地球温暖化による、熱帯植物の隆盛。
それは、地球上の二酸化炭素を減らす。
それは、地球温暖化に、ブレーキを掛ける。
それは、地球上の酸素を増やす。
それは、生物を生きやすくする。
それは、生物にとって、とても良いことである。

地球温暖化を、一方的に、悪と見なす者。
それは、以下のような生物のみである。
//
冷涼な気候の下の生物。
例。西欧や北欧や北米のエリアにおける、人間。

とても低い海抜の下で暮らす、陸上の生物。
例。大洋の中の超低海抜の小さな島の下で暮らす、人間。
//

（2022年1月初出。）

生物と愛情。

愛情。
相手の生物に好意を抱くこと。その相手の生物を独占すること。

好意の相互性。両思い。独占の相互性。それらの実現。
そのことで、生物は、幸福になることが出来る。
例。
配偶者との恋愛や結婚。配偶者との共同で、遺伝的子孫を残すこと。
親友の生成。親友と共同で、文化的子孫を残すこと。

片思い。好意や愛情の一方通行。
その状態では、生物は、あまり幸福にはなれない。

生物が、彼ら自身の愛情を注ぐ、対象。
それは、以下の内容である。
//
彼ら自身が残したい、遺伝的子孫や、文化的子孫。
例。彼ら自身の子供。彼ら自身の教え子。彼ら自身の趣味や好みに合致した、書籍や音楽の内容。

彼ら自身を、有効に育て上げた、遺伝的祖先や、文化的祖先。
例。親。恩師。

彼ら自身の遺伝的子孫を共同で残したい、相手。
例。恋愛対象の、異性。配偶者。

彼ら自身の好みに合致した、遺伝的形質や、文化的形質を持つ、対象。
例。彼ら自身が好きな、異性。彼ら自身が好きな、絵画。
//

愛情と、性差。
男性の行動様式は、気体的である。
女性の行動様式は、液体的である。

男性の愛情は、気体的である。
それは、離散的である。
それは、広大な空間へと、拡がる。

女性の愛情は、液体的である。
それは、密着的である。
それは、狭い空間の内部に、集中する。

例。父の愛情。それは、気体的な愛情である。
例。キリスト教における、父なる神から、子への、愛情。

母の愛情。それは、液体的な愛情である。
例。日本社会における、母子癒着と、母子の愛着。

（2022年1月初出。）

生物と、所有や占有や私有。

生物は、より多くの対象を占有するほど、より生存の可能性が高まる。占有。そのことは、生物に、利益をもたらす。対象の占有状態。それは、既得権益である。占有への欲求は、生物同士の間に、占有の競争や、占有を巡る戦争を、絶えず引き起こす。
所有欲。対象を私物化することへの欲求。生物における、所有の対象。それは、以下の内容である。愛玩の対象。玩具。実用の対象。道具。
占有欲。縄張り意識や縄張り争い。占有の拡張への欲求。略奪や盗みや横取りへの欲求。占有の縮小の阻止への欲求。略奪阻止や盗難阻止や横取り阻止への欲求。横取り阻止への欲求。占有状態の永続化への欲求。既得権益への欲求。
ある対象に対する占有欲。その対象への片思い。それらが強いこと。それらの掛け合わせが、ストーカーを生み出す。あらゆる生物は、ストーカーになる可能性を持つ。
生物における、占有の対象。それは、以下の内容である。他の生物。物資。
ある生物が、他の生物を、私有すること。ある生物が、他の生物を、占有すること。それらの占有の対象。
例。子供。配偶者。恋愛相手。愛玩植物。愛玩動物。愛玩対象の人間。道具としての人間。奴隷。
例。日系企業の所有者が、その企業の従業員を、彼らの生涯にわたって、私有すること。日系の教育機関の師匠が、弟子を私有すること。日本の天皇家が、国民を私有すること。

（2022年2月初出。）

生物の欲求。その存在の至高性の確認。

あらゆる生物は、彼ら自身を、世界において、最高の存在であると、思い込む。
あらゆる生物は、自惚れを持つ。あらゆる生物は、誇りを持つ。
あらゆる生物は、彼ら自身の、生存における優位性や至高性を、絶

えず確認しようとする。それは、生物同士の間に、生存競争や、生き残るための戦争を、絶えず引き起こす。
人間の場合。
例。男性優位社会。ユダヤ人の選民意識。
例。女性優位社会。中国人の中華思想。
それらの所有者は、人間に限らない。それらは、全ての生物が、無意識のうちに、所有している。

（2022年2月初出。）

生物と社会性。

生物における、社会性の濃淡の度合い。それは、以下の内容である。
////
社会的相互作用の濃淡の度合い。
例。
社会的相互作用が濃いこと。それは、対人湿度の高さをもたらす。
社会的相互作用が淡いこと。それは、対人湿度の低さをもたらす。
//
社会的分業制の濃淡の度合い。そのことに基づく、相互依存性の濃淡の度合い。
例。
社会的分業が進むほど、生物同士の相互依存性が高まる。
//
社会的上下関係の濃淡の度合い。
例。
社会的上下関係を遵守する者。例。犬。
社会的上下関係から自由な者。例。猫。
////

（2022年2月初出。）

生物と、休息や睡眠。

生物は、活動を続けると、疲労する。生物は、活動を続けると、気力と体力を、消耗する。
生物は、活動を続けると、身体や精神が充電切れになる。
生物は、活動を続けると、眠くなる。
そうした生物には、休息や睡眠が必要である。
休息や睡眠を取れない生物。無理に活動し続ける生物。無理に覚醒し続ける生物。彼らは、やがて死ぬ。例。過労死。
生物は、生存し続けるために、休息や睡眠が必須である。
しかし、同時に、以下の内容についても、考慮が必要である。
休息や睡眠が多過ぎる生物。例。怠惰な生物。精神病者の生物。
彼らにおいては、各種の、生存に必要な活動が、進まない。
その結果。彼らは、環境に適応出来なくなり、衣食住を得られなくなり、やがて死んでしまう。
生物においては、休息や睡眠と、活動や覚醒との、バランスを取ることが必要である。
社会的上位者は、生活条件が良好なので、休息や睡眠を取りやすい。彼らの体調は、たいてい、良好である。
社会的上位者は、生活条件が劣悪なので、休息や睡眠を取りにくい。彼らの体調は、しばしば、不良である。

（2022年2月初出。）

生物と、殺傷と、護衛や保護。

殺傷。ある生物が、他の生物を、死なせたり、傷付けて弱らせたりすること。
生物による、殺傷の対象。脅威となる、他の生物。敵。彼ら自身の有能性や既得権益を脅かす、他の生物。ライバル。彼ら自身と、有能性や既得権益を競う、他の生物。彼ら自身の食糧となる、他の生物。

殺傷。その分類。
身体的殺傷。対象となる生物の身体を、物理的に死なせたり、傷付けること。
精神的殺傷。対象となる生物の精神を、狂わせたり、傷付けること。
社会的殺傷。対象となる生物を、社会的に絶命させたり、身体障害者や精神障害者にしたり、すること。

ある生物が、他の生物を殺傷すること。そのことが、その生物にとって、悪行や罪と感じられる理由。
ある生物が、他の生物の殺傷を嫌う理由。それは、以下の内容である。
////
そうした他の生物が、同じ生物としての共通性を持つこと。そうした他の生物の生き様に対して、ある生物が、共感すること。
そうした生物間の共通性。そうした生物間における、共感の発生の源泉。それこそが、生物の本質である。
生物の本質。それは、物質における、自発的な、存続や増殖である。それは、細胞を持つ動植物においては、水分や、養分や、排出物の、自発的な流動である。それは、生きやすさの追求である。
//
そうした他の生物が、殺傷の際に受ける痛み。その強さ。それを、ある生物が、あたかも、彼ら自身の痛みの様に感じて、心苦しくなること。
そうした他の生物が、殺傷の結果、死んだり、弱ったりすること。それを、ある生物が、あたかも、彼ら自身が、死んだり、弱ったりするように感じて、心苦しくなること。
////

ある生物における、他の生物に対する共感。その度合いが、極端に少ない場合。その生物は、他の生物を、無慈悲に殺傷する。そうした生物。それは、サイコパスである。
ある生物における、自己保身性や、自己中心性。その度合いが、極端に大きい場合。その生物は、他の生物を、無慈悲に殺傷する。そうした生物。それは、ナルシストである。
彼らは、男性にも、女性にも、共通に存在する。

生物は、彼ら自身よりも、より上位の有能さを持つ他の生物のことを、独力で、殺傷しようとしない。
なぜなら、そうした、より上位の生物に負けて、返り討ちされるか

ら。
そうした、より下位の生物は、徒党を組んで、そうした、より上位の他の生物を、社会的分業やチームワークによって、殺傷する。
例。社会的分業によって製造された銃を使って、虎を撃ち殺す、人間。
例。新興の有能な指導者を、軍隊を動員して暗殺する、その国の無能な最上位者。

護衛や保護。ある生物が、他の生物の命を、守ること。

生物による、護衛や保護の対象。味方となる、他の生物。社会的分業の協力相手となる、他の生物。非脅威の、無関係な第三者であって、彼ら自身の食糧にならない、他の生物。

護衛。他の生物が、ある生物よりも、有能性や既得権益において、より上位である場合。
例。女性優位社会。男性が、女性を、護衛すること。

保護。他の生物が、ある生物よりも、有能性や既得権益において、より下位である場合。
////
例。
男性優位社会。男性が、女性を、保護すること。
//
例。
彼ら自身のことを、以下の内容であると、勝手に思い込んだ、生物たち。
生物社会や地球環境における、覇者や選民。
そうした無力で無能な生物。彼らによる、自分勝手な、自然保護活動や、環境保護活動。
そうした生物。それは、欧米諸国の人間である。
そうした自然保護活動や環境保護活動。それらは、地球上の、ほんの少しの、大気変動や、地殻変動や、他の生物の大増殖によって、たちまちのうちに、全面的に無効化される。
それらの例。
火山の大噴火による気候の寒冷化。
大地震による大津波の襲来。
大きな隕石や惑星の、地球への衝突。
致死率の高いウィルスや細菌。彼らが、それらに、感染すること。
その、大流行。

////

（2022年2月初出。）

生物と支配。

支配する生物。それは、社会的上位者である。
支配される生物。それは、社会的下位者である。

支配。
社会的上位者が、社会的下位者の生殺与奪を、握ること。社会的上位者が、社会的下位者の権益を、搾取すること。それらの状態の持続。その状態を実現し、保持する力。その所有者は、権力者である。

権力者。彼らは、生物とは、必ずしも限らない。
例。無機的な環境。無機的な物質。大気や地殻。それらの、大きな変動。それらの、極端な状態での固定化。例。暴風。津波。洪水。干ばつ。酷寒。酷暑。
例。有機的な環境。有機的な化学物質。それらの、大きな変動。それらの、極端な状態での固定化。有機的な有毒ガスの大量発生。

上位者と下位者の間における、差異。その生起要因。それは、以下の内容である。有能性。既得権益。それらの質量の多寡。それらは、権力の源泉である。

上下関係。
社会的上位者。彼らは、次のうちの、いずれか、あるいは、両方である。有能者。既得権益の保持者。
社会的下位者。彼らは、次のうちの、いずれか、あるいは、両方である。無能者。既得権益を持たない者。

彼ら自身のことを、上位者と考える生物。彼らは、必ずしも、実際に上位者であるとは、限らない。

彼ら自身のことを、下位者と考える生物。彼らは、必ずしも、実際に下位者であるとは、限らない。
そうした上下関係の、リアルな評価。その決着の手段。それは、以下の内容である。競争。闘争。戦争。論争。決闘。競技。試合。勝負。そこには、公平な審判が必要である。
そうした公平な審判。
その遂行は、社会的な生物にとっては、独力では難しい。社会的な生物は、えこひいきをしがちである。例。日本の最高裁判所の裁判官。彼らは、以下の内容の判決を、頻繁に下す。日本の社会的最上位者。彼らに対して、意図的に、忖度を加えること。そうした内容。
その遂行は、非社会的な生物にとっては、独力で可能である。非社会的な生物は、えこひいきをしようとする動機に、欠けている。
例。人間社会から、追放され、隔離された、統合失調症の患者。
その遂行は、無機的な物質にとっては、独力で可能である。無機的な物質は、えこひいきをすることが、それ自身では、そもそも不可能である。例。無機的な物体。秤の重り。例。無機的な機械。秤。ストップウォッチ。温度計。
その遂行は、意思を持たない有機的な物質にとっては、独力で可能である。意思を持たない有機的な物質は、えこひいきをすることが、それ自身では、そもそも不可能である。例。リトマス試験紙。
そうした勝負の決着。
その結果により、新たな社会的上下関係が、確定する。勝者。彼らは、新たに上位者になる。敗者。彼らは、新たに下位者になる。
その結果により、新たな社会的支配関係が、生成する。新たな上位者。彼らは、新たに支配者になる。新たな下位者。彼らは、新たに従属者になる。
勇気。
社会的下位者が、社会的上位者に対して、歯向かうこと。その実現にとって必要な、動機づけの力。

男性優位社会における支配。移動生活様式における支配。それは、暴力支配である。
女性優位社会における支配。定住生活様式における支配。それは、専制支配である。

男性的支配。暴力支配。それは、気体的支配である。
例。台風やハリケーンがもたらす、暴風。それがもたらす、破壊的な被害。

例。太平洋戦争における、アメリカによる、日本に対する空爆。
例。男性優位社会における、男性による、女性に対する、性的暴力。
それは、以下のように分類可能である。身体的な暴力。精神的な暴力。

女性的支配。専制支配。それは、液体的支配である。
例。海底地震や海底火山噴火がもたらす、大きな津波。それが陸地にもたらす、壊滅的な被害。
例。大雨がもたらす、大きな洪水。それが陸地にもたらす、壊滅的な被害。
例。中国やロシアによる、属国の支配。
例。女性優位社会における、女性による、男性に対する、小遣い制の強制。
それは、以下のように分類可能である。身体的な専制。精神的な専制。

血縁関係における支配と従属の関係。それは、親子関係である。
例。男性優位社会における、父子関係。それは、父親による、子供に対する、気体的支配である。
例。女性優位社会における、母子関係。それは、母親による、子供に対する、液体的支配である。

その他の、支配の分類。
柔らかい支配と、硬い剛性の支配。融通が利く支配と、融通が利かない支配。
穏やかで平和な支配と、獰猛で戦闘的な支配。ハト派の支配と、タカ派の支配。
緩い支配と、きつい支配。安楽な支配と、苛酷な支配。
腰の低い支配と、高圧的な支配。
武力による支配と、事務や言論による支配と、技術による支配。武官による支配と、文官による支配と、技官による支配。
表向きの支配と、実質的な支配。顕在的な支配と、潜在的な支配。
表向きの代表者による支配と、裏方の黒幕による支配。女性優位社会における、男性による表向きの支配と、その男性の母親による実質的な支配。

既存の社会的上下関係を、意図的に、強化させること。それは、以下の内容である。

社会的差別。

既存の社会的上下関係を、意図的に、解体したり、弱体化させたりすること。
社会的平等の実現。
そうした理想。それは、以下の内容である。
既存の社会的上下関係を、意図的に、初期化すること。革命思想。
既存の社会的上下関係を、意図的に、無くすこと。無政府主義。
既存の社会的上下関係を、意図的に、交替可能にすること。民主主義。
既存の社会的上下関係を、意図的に、転覆させ、逆転させること。共産主義。
既存の社会的上下関係を、意図的に、平坦化すること。社会主義。
既存の社会的上下関係を、意図的に、目立たなくすること。慈善思想。リベラリズム。

ある生物が生成した、個人的な規範。それは、個人的正義である。
それらの内容は、以下の場合、生物の本質に照らして、妥当である。その規範が、以下の内容を、目指している場合。生物にとっての生きやすさ。その実現。
それらの内容は、以下の場合、生物の本質に照らして、妥当とは言えない。その規範が、以下の内容を、目指していない場合。生物にとっての生きやすさ。その実現。
それらの内容は、生物毎に、異なる。

社会的上位者が生成した、社会規範。それは、道徳である。それは、善である。それは、社会的正義である。
それらの内容は、以下の場合、生物の本質に照らして、妥当である。その社会的上位者が、以下の内容を、目指している場合。社会的下位者にとっての生きやすさ。その社会的な実現。
それらの内容は、以下の場合、生物の本質に照らして、妥当とは言えない。その社会的上位者が、以下の内容を、目指していない場合。社会的下位者にとっての生きやすさ。その社会的な実現。
それらの内容は、社会毎に、異なる。

（2022年2月初出。）

生物と、生きやすさと、政治や、法律や、経済。

////

政治。
複数の生物間における、生きやすさの配分の行為。
それらの配分は、上位者にとって有利であり、下位者にとって不利である。

権利。
各々の生物が持つ、生きやすさの配分の決定の権限。

地位。
各々の生物における、保持する権利のレベルの高さ。

上位者。
地位が高い生物。

下位者。
地位が低い生物。

階級。階層。
上位者の集合。下位者の集合。それらの、統計的な分離。

////

秩序。
複数の生物間における、生きやすさの配分における取り決めやルール。

慣習。
それらの内容の固定化や慣性化。

法律。
それらの内容の明文化。
それらの内容は、生物の基本的ルールや、生物への規制に基づく。

司法。
複数の生物間における、生きやすさの配分を巡る、争い。
それらの発生。
それらの調停。
それらの調停における、以下の内容の、その生物社会における、標準化。
生きやすさの配分の、基準。
その社会的な仕組み。

統治機構。
生物の間における、生きやすさの配分の決定。
その局面における、上位者による、意思の貫徹可能性。
その局面における、下位者による、意思の貫徹不能性。
その局面における、上位者による、下位者の支配。
その社会的な仕組み。
その社会的な、上下方向の積み重ね。

国家。
そうした統治機構が、以下の条件を満たす形で、成立したもの。
//
互いに、一定以上同質的な、多数の生物。
彼らの間において、成立したもの。
//
一定のサイズ以上で、成立したもの。
//

////

収支。

//
生きやすさの獲得。
生物が、その活動において費やしたコスト。
生物が、そのために消費した、エネルギーの質と量の大きさ。
//
その結果。
生物が、実際に獲得した、生きやすさの質と量の大きさ。
//

それらの差分。

利益。 / 損失。
収支のプラス。 / 収支のマイナス。
収支の黒字。 / 収支の赤字。

収支における、生物の理想。
利益の最大化。損失の最小化。

経済。
複数の生物による、生きやすさを確保するための活動。
複数の生物の間における、生きやすさの交換。
それらの活動。

貨幣。
生きやすさの交換のための、トークン。
複数の生物の間において、共通の価値を持つ、トークン。

協業。
複数の生物が、生きやすさの確保の行為を共同で行うこと。
彼らが、そうして確保した生きやすさを、共同で配分すること。

分業。
複数の生物が、各自の能力を最大限発揮できる分野に特化すること。
彼らが、その状態で、生きやすさの確保の行為を行うこと。
彼らが、そうして確保した生きやすさを、以下の内容と、交換すること。
彼らが、自力では確保や調達が困難な内容の、生きやすさ。

契約。
複数の生物の間における、生きやすさの配分や交換の取り決め。

////

民主制。
複数の生物間における、生きやすさの配分。
そのあり方を、以下の方法で、決めること。

男性優位社会の場合。移動生活様式の場合。
その生物社会における、全ての生物による多数決。

女性優位社会の場合。定住生活様式の場合。
その生物社会における、全ての生物による満場一致。

生きやすさの配分。
そのあり方の決定において、そこから排除される者を、出さないこと。

////

生物の理想。
生き続けること。
彼ら自身の存在や存続の度合いを、時間的、空間的に、最大化すること。
生きやすいこと。
確保可能な、生きやすさの質と量を、最大化すること。

生物社会の理想。
全ての生物が、生き続けることが出来ること。
全ての生物の生活水準が、生き続けるために、十分であること。
全ての生物が、彼ら自身の望む、生きやすさの質と量を、確保できること。

複数の生物の間において、生きやすさの配分が、正当になされること。
生きやすさの確保のために費やした、貢献。
生きやすさを確保する、能力、
生きやすさの確保のために費やした、努力。
生きやすさの確保のために費やした、負担。
全ての生物が、それらに見合った質と量の、生きやすさの配分を受けること。

全ての生物が、生きやすさの低下した状態から、回復出来ること。

生物の望む生きやすさの質と量。
それらは、生物によって、異なる。

欲深な生物。
生きやすさの配分において、大きな配分を望む生物。

清貧な生物。
生きやすさの配分において、少しの配分で満足する生物。

効率の悪い生物。
生物維持のために、多量の生きやすさを必要とする生物。

効率の良い生物。
生物維持のために、少量の生きやすさで十分行ける生物。

例。
人間。彼らは、以下の内容である。
欲深な生物。効率の悪い生物。

生きやすさを確保する能力。

遺伝的能力。遺伝子。
文化的能力。神経系における、神経細胞のシナプスの可塑性。

それら両者は、外部環境のあり方に依存する。
外部環境が苛酷であるほど、そうした能力は、より磨かれ、より高まる。

例。
ユダヤ人。
彼らは、確固とした土地の所有が社会的に許されて来なかった。
彼らの能力の高さ。彼らの社会的な影響力の大きさ。

////

下位者による、上位者に対する、従属。

それは、以下のように分類される。

隷従。
下位者が、上位者に対して、自発的に、従属すること。

権威。
上位者の持つ、そうした従属を引き起こす、力。
有能性。既得権益の大きさ。

反抗。異議申し立て。
下位者が、上位者に対して、自発的には、従属しないこと。

圧政。
上位者が、下位者に対して、従属を、強制すること。

寛容。
上位者が、下位者に対して、従属を、強制しないこと。

独裁。
一人の上位者が、生きやすさの配分の権限を、独り占めすること。

国家。
最上位者を頂点とする、多数の生物の間における、上下関係の連鎖や積み重ね。

////

争い。戦争。闘争。
複数の生物の間における、生きやすさの配分を巡る、利害の衝突。

平和。
それらの衝突が、生物の間において、収拾されること。その状態が続くこと。

秩序の発生。
その基本的な内容。
それは、複数の生物の間における、闘争の中止と、平和の実現であ

る。

男性優位社会の場合。移動生活様式の場合。
下位者が、上位者と契約すること。
下位者が、そうすることで、彼ら自身の個別の権限を、上位者へと、委譲すること。
例。
イギリス。社会契約論。

女性優位社会の場合。定住生活様式の場合。
上位者による、下位者の存在自体の、丸呑み。
下位者が、その実現を、上位者に対して、望むこと。
例。
中国。儒教。

////

最上位者の、望ましい振る舞い。その理想形。
上位者が、下位者のために、尽くすこと。
その内容は、現実には、あまり実在しない。
その実現は、現実には、生物の本質からは、難しい。

例。
男性優位社会。
欧米諸国。キリスト教における、聖人。

女性優位社会。
中国。韓国。儒教における、君子。

（2022年2月初出。）

生物の感情と、生きやすさ。

生物における、感情の上昇。
それは、生物における、生きやすさの上昇によって、起きる。
例。
喜び。楽しみ。

生物における、感情の下降。
それは、生物における、生きやすさの下降によって、起きる。
例。
悲しみ。哀しみ。抑うつ。

生きやすさが上昇しやすい生物。
感情が上昇しやすい生物。
彼らは、陽気である。
彼らの価値観は、プラスである。

生きやすさが下降しやすい生物。
感情が下降しやすい生物。
彼らは、陰気である。
彼らの価値観は、マイナスである。

生きやすさの水準が、急変すること。
環境が、生物に対してもたらす、刺激。
その内容が、急変すること。
それらは、生物に、驚きの感情を、もたらす。

生きやすさの水準が、急降下すること。
その可能性が急上昇すること。
それは、生物に、恐怖の感情を、もたらす。

生きやすさの水準が、低下したまま、上昇しないこと。
それは、生物に、病気をもたらす。

生きやすさの水準が、高いまま、低下しないこと。
それは、生物に、健康をもたらす。

生きやすさの水準が、安定していること。
それは、生物に、安心の感情を、もたらす。

生きやすさの水準が、不定であること。

それは、生物に、不安の感情を、もたらす。

ある生物に対して、他の生物や、他の無機物がもたらす、生きやすさ。
その水準が安定していること。
それは、ある生物に、それらに対する信頼の感情を、もたらす。

ある生物に対して、他の生物や、他の無機物がもたらす、生きやすさ。
その水準が不定であること。
それは、ある生物に、それらに対する不信の感情を、もたらす。

（2022年2月初出。）

生物と、生きやすさと、負荷。

生きやすさを確保するための活動。
それらが、生物に与える、負荷。

その水準が、低いこと。
それは、以下の内容である。
楽であること。

その水準が、高いこと。
それは、以下の内容である。
苦しいこと。疲れること。

上位者は、下位者に対して、負荷の高い活動を、一方的に、押し付ける。
上位者は、そのことで、一方的に、楽をする。
下位者は、そのことで、一方的に、苦しむ。
下位者は、そのことで、一方的に、疲れる。

生物に対する負荷の発生。
それが、一定の水準を超えた場合。

その生物は、身体が折れる。
その生物は、身体が傷つく。

その生物は、心が折れる。
その生物は、鬱病になる。

生物に対する負荷の発生。
その度合いを、低めること。
それは、身体の傷や身体の折れの治療にとって、効果的である。
それは、鬱病の治療にとって、効果的である。

矛盾。
互いに相反する内容の負荷。
それらが、同時に、ある生物に、与えられること。

上位者は、下位者に対して、矛盾した内容の活動を、一方的に、押し付ける。
上位者は、そのことで、一方的に、悩みから解放される。
下位者は、そのことで、一方的に、悩む。

生物に対する矛盾の発生。
それが、一定の水準を超えた場合。

その生物は、心が変になる。
その生物は、心が狂う。
その生物は、統合失調症になる。

生物に対する矛盾の発生。
その度合いを、低めること。
それは、統合失調症の治療にとって、効果的である。

（ 2022年2月初出。 ）

生物の本質に基づいた、儒教に対する考察。

儒教。それは、以下の内容である。
女性優位社会における、理想的な社会規範。その内容の分析。
女性優位社会における、理想的な社会的上位者。彼らの社会的性格。その内容の分析。
女性優位社会における、理想的な支配。理想的な専制支配。その内容の分析。

（2022年2月初出。）

生物の本質に基づいた、ユダヤ教やキリスト教やイスラム教に対する考察。

ユダヤ教やキリスト教やイスラム教。それは、以下の内容である。
男性優位社会における、理想的な社会規範。その内容の分析。
男性優位社会における、理想的な社会的上位者。絶対者。唯一神。彼らの社会的性格。その内容の分析。
男性優位社会における、理想的な支配。理想的な暴力支配。その内容の分析。

（2022年2月初出。）

生物の本質に基づいた、仏教に対する考察。

人間の一生は、苦であること。そうした思想。
その内容は、以下の（＊）を前提とすると、妥当である。
（＊）生物が所有する、本質的な暗黒性。
人間は、苦からの解脱が必要であること。一切の苦から解放された境地。悟りの境地。涅槃。その理想化。そうした思想。
その内容は、以下の（＊）を前提とすると、妥当である。
（＊）生物における、生きやすさの追求。その行為の、生物にとっての、根源的な必要性。

輪廻思想。ある生物が、別の生物へと、生まれ変わること。
その輪廻の条件。前世において、善行を行った生物。彼らは、より上位の生物へと、生まれ変わること。前世において、悪行を行った生物。彼らは、より下位の生物へと、生まれ変わること。
その思想は、以下の（＊）を前提とすると、全く、上手く説明できない。それは、大きな欠陥である。
（＊）生物における、遺伝子の存在。生物の身体や精神は、ある程度、先天的に決定されていて、不変であること。
（＊）生物の身体や精神が、死後、無に帰すること。

転生思想。ある生物が、その死後において、別の世界へと、転生すること。
その転生の条件。前世において、善行を行った生物。彼らは、上位の良い世界へと、移動すること。前世において、悪行を行った生物。彼らは、下位の苦しい世界へと、移動すること。
それらの思想は、以下の（＊）を前提とすると、全く、上手く説明できない。それは、大きな欠陥である。
（＊）生物の身体や精神が、死後、無に帰すること。

（2022年2月初出。）

生物倫理。その内容が目指すべき、真の方向性。

現行の、欧米諸国が先導する生物倫理。
その内容の、根本的な破壊と、新秩序の成立を、目指すこと。
その効果的な手段。
それは、以下の内容の実現である。
人間と、他の生物との間に、一線を引くこと。
その実現を、不可能にすること。
そのための効果的な説明を用意すること。
生物は、人間にとっての、上位概念であること。
人間の存在は、生物の存在によって、包含されること。

人間は、生物の一種であり、生物の一環であること。
人間と、他の生物とを、区別せず、同じ生物として、共通に捉えること。

生物の尊厳。
それは、以下の内容である。
生物を、生きにくくしてはならない。
生物を、殺傷してはならない。
他の生物を殺傷してはならない。
生物は、彼自身を殺傷してはならない。
自傷や自殺をしてはならない。

生物における、自殺や他殺。
生物における、自傷や他傷。
害をなす生物の殺傷。
害虫や害獣の殺傷。
戦争による、交戦相手の社会の人々の殺傷。

食糧に当たる、他の生物。
それらの生物を、殺傷すること。
魚類を、水揚げにより、殺傷すること。
家畜の屠殺。

ある生物による、他の生物に対する、搾取や収奪や酷使。

ある生物が、彼自身を、より生きやすくするために、他の生物を、より生きにくくすること。

ある生物が、彼自身を、生きにくさから解放するために、以下のような行為を実行すること。
彼自身の生活において、不摂生をすること。
彼自身の生物を、奪うこと。

生物による、そうした行為。
それらの行為は、生物の尊厳に反する。
それらの行為は、生物の間で、毎日、当たり前のように、行われている。
それらの行為は、人々の間で、毎日、当たり前のように、行われている。

生物は、脅威となる他の生物を殺さないと、彼ら自身が、死んでしまう。
生物は、他の生物を殺して食べないと、生きていけない。
女性は、男性を酷使しないと、彼ら自身が享受してきた、快適な温室生活を、保てない。

生物は、自他の生物の尊厳を傷つけないと、生きていけない。
生物の尊厳を、過剰に重視すること。
それは、生物にとって、意味が無い。
それは、生物にとって、飾り物の、役に立たない理想に過ぎない。

クローン生物。
生物のクローニング。
遺伝的クローニング。
双生児の出産。
文化的クローニング。
子供の教育。
女性優位社会における、文化的クローニングの恒常的な発生。
女性優位社会における、社会的な同調圧力。
それは、行動面におけるクローニングを、人々の間に、恒常的に、発生させる。
女性優位社会の人々は、文化的クローニングの行為を、普通に、社会ルールに合致した形で、日常的に行っている。
自己複製。
クローニング。
遺伝子の自己複製。
行動や文化の、複製。
それは、生物を、生物たらしめる行為である。
それは、生物にとって、普通であり、当たり前である。
それは、単性生殖か、有性生殖かの、違いだけである。
それらは、以下の内容である。
重大な病気への罹患などで、結婚出来なかった、有性生殖の生物。
彼らが、子孫を残すための、素晴らしい手段。
それらは、普通に、社会的に承認されるべきである。

男性優位社会の思想。
絶対者による、生物の創造。
絶対者による、生物における生殖ルールの、決定。

人間は、そのルールに違反してはいけないこと。
人間は、そのルールを改変してはいけないこと。
そうした思想。
それは、思想的な偏向である。
その思想は、女性優位社会の人々の心には、響かない。
その主張は、証拠が無い。
生物は、生殖ルールの、自己決定権を、生まれながらに、持つ。
生物たちが、彼ら自身の生きやすさを最大化すること。
生物たちが、その実現のために、彼ら自身の生殖ルールを、最適化すること。
それらの実現に対する、生物の権利。
その権利は、大切に保護されるべきである。

生物操作の技術の、積極的な開発。
生物活動の内容の、人為的な改変。
その推進に、歯止めが効かなくなること。
それを恐れて、技術開発の門を、勝手に閉じること。
それは、例えば、以下の内容である。
例。
高性能の、殺傷能力が強すぎる、兵器を、余りにも沢山作ってしまったこと。
そのため、大規模な本格的な戦争ができなくなったこと。
例。
セックス未経験の男女における、セックス行為への恐怖や不安。

それは、単に、未知への恐怖や不安に過ぎない。
それは、臆病者の妄想である。
それは、社会に前進をもたらさない。
それは、社会に停滞をもたらす。
それは、既得権益者の利益保護につながる。
例。
女性。
彼らは、生殖設備を、彼ら自身の身体の内部に、占有している。
彼らは、生殖における、既得権益者である。
彼らは、人工子宮の開発に対して、反対する。

それは、社会の改革を、阻害する。
それは、社会的に、有害である。

生物操作技術の利用。
先ずは、それについて、試行錯誤して、チャレンジすること。
その姿勢が、以下の内容の実現にとって、大切である。
生物の生きやすさにおける、前進。
その実現。
それは、人間ばかりでなく、他の生物にとっても、有意義である。
とにかく、色々、トライしてみること。
そのことが、大切である。
私は、その門を、開きたい。

（2022年2月初出。）

生物と、地球温暖化。

地球温暖化の防止。そのキャンペーンの、激化。
地球温暖化で困るのは、冷涼な気候の下で暮らしてきた生物だけである。
地球温暖化は、熱帯地域で暮らしてきた生物の、勢力拡大をもたらす。
それは、熱帯地域の生物にとっては、良いことである。
熱帯地域の生物は、地球温暖化を、積極的に推進するだろう。

（2022年2月初出。）

無能な生物と、外部社会。

生物や人間の社会において。
ある生物や人間が、無能な状態で、社会に出た場合。
そうした生物や人間には、ひたすら、虐待と搾取が待っている。

病気のせいで、すっかり無能な状態が続いている、生物や人間。

女性優位社会。定住生活様式。

彼らは、当分は、以下のような存在になることを、目指さざるを得ない。
社会に出ずに、引きこもり生活を送る者。

男性優位社会。移動生活様式。
彼らは、当分は、以下のような存在になることを、目指さざるを得ない。
社会的交際を避ける、孤独な単独行動者。

（2022年2月初出。）

社会的存在としての、生物。

生物は、以下の行動を、本質的に、指向する。
自己複製。自己増殖。
単独性を、指向しないこと。
単独では、存続しないこと。
生物は、その原初や原点において、本質的に、社会的存在である。
生物は、社会から逃げることが、本質的に、困難である。
生物は、その原初や原点において、本質的に、社会的上下関係を、内包する。
生物は、社会的上下関係から逃げることが、本質的に、困難である。

生物が、社会的上下関係から、解放される方法。
社会的同位者になること。同質者。社会的分業関係の異質者。
期間限定で、社会から脱出して、単独行動者になること。

（2022年2月初出。）

生物における、同質性と異質性の確保。

同質者。
同士。仲間。
それらは、生物に対して、以下のような感覚を生み出す。
自己拡張。

生物における、同質性の確保。
生物が、社会の中で、同質者を増やすこと。
例。
布教。宣伝。広告。営業。
それらは、生物にとって、以下の内容である。
自己増殖。自己複製。
それらは、生物の本質である。
それらは、生物にとって、根本的に望ましい。

それは、以下の内容と、同等である。
彼ら自身の文化的クローンを、増やすこと。
彼ら自身の文化的子孫を、増やすこと。

そうした生物。
彼らは、気分が上昇する。
彼らは、気持ちが大きくなる。
彼らは、安心する。
彼らは、明るくなる。

同質者は、以下のように、分類される。
//
遺伝的同質者。例。クローン。親子。
文化的同質者。例。同調者。同期者。類似者。同じ目的を持つ者。共有者。
上下関係における同質者。例。上位者同士。以下のような行動を行う者。上流の血統の維持。上流文化の維持。
//

純粋性。純血性。それらの確保。
一体性。融合性。調和。それらの確保。
それは、以下の内容である。
強い同質性。その確保と、維持。
それは、排他性を、生み出す。
それは、異質性の排除を、生み出す。
それは、異質者に対する差別を、生み出す。

上位者と同質な下位者は、上位者と異質な下位者よりも、より良好な水準の扱いを、上位者から、受ける。
上位者と異質な下位者は、上位者と同質な下位者よりも、より劣悪な水準の扱いを、上位者から、受ける。

雑種性。多様性。
それは、以下の内容である。
異質性の混入。
自己複製の不完全性。
自己増殖の不完全性。
それは、生物にとって、評価が低い。
しかし、それは、生物に、以下の能力を、新たに、もたらす。
多様に変転する環境。
その中で、生き抜く能力。
それは、生物にとって、本質的に、善である。
生物は、生殖において、それを、自動的に、実現する。
それは、以下の内容である。
有性生殖。

ライバル。
それは、以下の内容である。
互いに協力しない、同質者。
互いに、同じ権益獲得の獲得を目指す、同質者。
ある生物にとって、ネガティブな、同質者。

包含する者。上位互換者。
彼らは、同質者の間における、上位者である。

民族。
それは、以下の内容である。
遺伝的同質性と、文化的同質性との、両方の掛け合わせ。
そのことによって、同質者同士が、集合したもの。

種。品種。血統。血縁。
それは、以下の内容である。
遺伝的同質性によって、同質者同士が、集合したもの。

同位者。
それは、以下の内容である。
時間的に、空間的に、同じ立ち位置を、所有する者。
同期者。同郷者。同一水準の者。同一の評価を持つ者。同一の資格を持つ者。

生物は、同質者に対する協力を、異質者に対する協力よりも、優先する。
生物は、異質者に対する搾取や虐待を、同質者に対する搾取や虐待よりも、優先する。
生物は、生存維持における余裕が無くなった場合、同質者に対しても、搾取や虐待を、止むを得ず、行う。
生物は、異質者の抹消や殺戮を、同質者の抹消や殺戮よりも、優先する。
生物は、生存維持における余裕が無くなった場合、同質者も、止むを得ず、抹消し殺戮する。
生物は、同質者がライバルと化した場合、同質者も、止むを得ず、抹消し殺戮する。

（2022年2月初出。）

生物の生存維持における、優先性。

生物の生存維持における、優先性。
同質者が、異質者よりも、優先されること。
貴重性のある存在が、貴重性の無い存在よりも、優先されること。
女性が、男性よりも、優先されること。
将来性のある存在が、将来性の無い存在よりも、優先されること。
子供が、親よりも、優先されること。
上位者が、下位者よりも、優先されること。

（2022年2月初出。）

社会的下位者と、生物の原罪。

下位者は、ほとんどの場合、純然たる下位者では無い。
下位者の中における、指導者や中心者。
彼らは、相対的に上位者である。
下位者たちの中において、更に、相対的な上位者と、相対的な下位者が存在する。
相対的な上位者は、相対的な下位者を、虐待し、搾取する。
下位者は、以下の内容を、盛んに主張する。
"我々は、社会的に虐待され、搾取されている。"
しかし、彼らも、以下のような者を、平然と、虐待し、搾取している。
現在、彼ら自身よりも、より下位者に相当する者。
彼らの地位が少しでも上昇した場合。
彼らは、程無く、新たな下位者に対する虐待と搾取を、平然と、開始する。
彼らは、上位者と同様の原罪を、持つ。
生物の原罪から逃れられる者は、誰も存在しない。

（2022年2月初出。）

生物社会と、革命や民主制。

革命。
それは、以下の内容である。
上位者の一掃。
それは、以下の内容である。
//
有能者の一掃。
既得権益者の一掃。
//

それは、新たな上位者を、再び生み出すだけである。
社会的上下関係は、再び、新たに、確定する。
そこでは、新たな上位者による、新たな下位者への虐待と搾取が、

新たに、常態化する。
そのため、革命は、一回だけでなく、複数回、定期的に、繰り返し行われる必要がある。

革命は、既存の共産主義の理論では、一回しか不可能である。
それは、理論的欠陥である。

革命がもたらす、社会の急激な初期化。その弊害。
それは、以下の内容である。
//
有能者の一掃。
それは、社会を、無能者だらけにする。
それは、社会の品質の悪化につながる。
//
新たな最上位者の地位を巡る、新たな上位者同士の内部抗争。その激化。
それは、社会の運営を、混乱させ、劣化させる。
それは、社会の品質の悪化につながる。
//

それらの防止。
社会的上下移動の自由化。
社会的上下移動における、流動性の確保。
社会的上下移動の通路や配管。
その拡張。
その手段の一つが、民主制である。
民主政の社会。
社会的上位者は、その通路や配管を、上から詰まらせようとして、必死になる。
社会的下位者は、その通路や配管を、下から拡張しようとして、必死になる。

社会的上下移動。その流動性の確保。その自由化。そのための通路や配管の、社会的設置。
それは、以下のような社会では、根本的に、嫌われる。
移動そのものを嫌う社会。定住生活様式。女性優位社会。
そこでは、上下関係が、流動化が困難で、固定化する。
そこでは、下位者の不満が、逃げ場が無いため、蓄積し、爆発する。
そのため、定住生活様式や女性優位社会では、革命が、根本的に、

発生しやすい。

移動生活様式や、男性優位社会では、革命は、相対的に発生しにくい。
それらの社会においても、革命が起きる。
それは、以下の場合である。
有効な社会的上下移動が、実質的に不可能になった場合。
移動生活様式や、男性優位社会。
そこでは、以下のような状況が、発生しやすい。
機会の平等がもたらす、自由競争。
その場における、成功者。
社会的上下移動の自由性。その利点を、最大限に享受した者。
新たな富裕層。既得権益の新たな所有者。
そうした、富裕層の、既得権益の所有者たち。
彼らは、豊富な物量作戦を用いて、高額な教育費用を投じて、以下の行為を、実行する。
彼ら自身の無能な子孫を、ある程度、有能者に、無理矢理、仕立て上げること。
しかし、教育効果は、本来、有能な下位者の子孫に与えたほうが、社会的に、より高く得られやすい。
その方が、社会の品質は、より高まる。
富裕層の既得権益の所有者たち。
彼らは、彼ら自身の既得権益の力によって、以下の行為を実行する。
彼ら自身の無能な子孫へと、高等教育の機会を、独占させること。
彼ら自身の無能な子孫へと、上級の職業への就職の機会を、独占させること。
彼らは、そのことで、社会の品質を、故意に低下させている。
それは、社会的な害悪である。
彼らは、社会における高等教育の費用を、高騰させる。
彼らは、社会における、上級の職業への就職に必要な費用を、高騰させる。
彼らは、そのことで、以下の内容を、経済的に不可能にさせる。
下位者による、高等教育の費用の支払い。
下位者による、上級の職業への就職。
彼らは、下位者の有能な子孫を、教育の機会から、強引に締め出す。
彼らは、下位者を、社会的に上昇出来ないようにする。
そのことで、彼らは、上位者の立場を、後世の子孫へと、排他的に、独占的に、継承する。

その結果。
社会的上下移動の通路。
それは、表面的には開いているが、実質的には、閉じられたままとなる。
そこでは、社会的上下関係が、流動性をすっかり失い、固定化する。
そこでは、下位者の不満が、逃げ場が無いため、蓄積し、爆発する。
その結果、革命が、起きる。
例。
近い将来のアメリカ社会。

（2022年2月初出。）

生物と、有能性。

有能性。
それが発揮された、成果物。製品。演技。
それを発揮する、生物。製作者。演技者。有能者。
それらは、生きやすさを、向上させる。
それらは、生物に対して、快感を与える。
それらは、生物によって、高く評価される。
それらは、生物の社会の品質を向上させる。

無能性。
それが発揮された、成果物。製品。演技。
それを発揮する、生物。製作者。演技者。無能者。
それらは、生きやすさを、低下させる。
それらは、生物に対して、不快感を与える。
それらは、生物によって、低く評価される。
それらは、生物の社会の品質を低下させる。

女性優位社会における、有能者。
定住生活様式における、有能者。

彼らは、以下の能力の持ち主である。
//
連れ立って行動する、能力。
調和を生成し、維持する、能力。
前例を、丸呑みして習得する、能力。
//

男性優位社会における、有能者。
移動生活様式における、有能者。
彼らは、以下の能力の持ち主である。
//
独立的な個人行動を行う、能力。
攻撃的なチャレンジを行う、能力。
未知の領域において、最終的に成功する、能力。
//

（2022年2月初出。）

生物と、評価。

評価。
それは、以下の内容である。
//
ある生物。
彼自身の、環境適応における、有利不利。
その度合いについての、情報の把握。
彼自身の立ち位置の、上下方向における、測定結果。
その値についての、他の生物との、相対的な比較。
それらについての、フィードバックされた、結果の情報。
//

評価の対象。
//
ある生物。

彼自身が起こした、行動。その結果の、良し悪し。
彼自身が置かれている、環境。その状況の、良し悪し。
//

評価の行動。
例。
判断。決定。表現。批評。

相対評価。
それが成立するための前提条件。
比較対象が、存在すること。
比較対象は、他の生物が、同時に存在する場合、必ず存在すること。
比較対象は、社会において、必ず存在すること。
相対評価は、社会において、必ず、付き物である。
相対評価は、生物において、必ず、付き物である。

評価の、送信と受信。
受信した、評価についての情報。自己からの評価。他者からの評価。
送信した、評価についての情報。自己に対する評価。他者に対する評価。

評価反応。評価情報のフィードバック。
それは、生物にとって、必須の情報である。
それらが、存在すること。
それらが、受信可能であること。
それは、生物にとって、彼自身が生きていく上で、必須の条件である。

評価を、受信出来ない場合。
生物は、以下の内容が、分からなくなる。
彼自身の、環境における、周囲の状況。
彼自身の、社会における、立ち位置。
生物は、以下の内容の実行が、不可能になる。
彼自身の、環境適応における、有利不利。それについての、情報。
その把握。
その結果。

生物は、とても、不安になる。
生物は、気が狂いそうになる。

生物は、本質的に、評価を、とても欲しがる。
生物は、評価無しでは、生きていけない。

生物は、本質的に、良好な評価を、とても欲しがる。
生物は、良好な評価無しでは、生きていけない。

評価を行う者。
//
彼自身。
//
他者。
その分類。
上位者。 / 下位者。
当事者。 / 第三者。
//

評価の対象。
//
彼自身。
//
他者。
その分類。
上位者。 / 下位者。
当事者。 / 第三者。
//

評価の内容。
//
良好な評価。プラスの評価。
彼自身を取り巻く状況が、有利であること。有利性の確認。それについての、情報。
彼自身の立ち位置が、上位であること。上位性の確認。それについ

ての、情報。
彼自身が、生きやすくなっていること。生きやすさの確認。それについての、情報。
//
不良な評価。悪い評価。マイナスの評価。
彼自身を取り巻く状況が、不利であること。不利性の確認。それについての、情報。
彼自身の立ち位置が、下位であること。下位性の確認。それについての、情報。
彼自身が、生きにくくなっていること。生きにくさの確認。それについての、情報。
//

評価。その変動の有無。
////
新規であること。初回であること。 / 二回目以降であること。

二回目以降の場合。
変化があること。 / 変化が無いこと。現状維持。

変化ありの場合。
上昇。 / 下降。

評価。その内容の分類。

肯定。 / 否定。
受容。 / 拒絶。
好むこと。 / 嫌うこと。
共感。 / 非共感や、無視や、無関心。
同意。 / 異議申し立て。
称賛や賛美。 / 批判や非難。
従順。 / 嫉妬。
見栄。 / 恥辱。
勝ち。 / 負け。

それらは、以下の内容へと、収斂する。

有能性の獲得。 / 有能性の喪失。
権益の獲得。 / 権益の喪失。

それらは、以下の内容へと、収斂する。

生きやすさの獲得。 / 生きやすさの喪失。

それらは、生物に対して、以下の感覚を、もたらす。
快感。/ 不快感。

評価が上がった場合。
喜ぶこと。陽気になること。

評価が下がった場合。
悲しむこと。傷つくこと。落ち込むこと。

評価が不変の場合。
安心すること。

評価がいったん下がった後、再び、上昇した場合。
傷が癒やされること。回復すること。

評価が上がる可能性がある場合。
期待すること。

評価が下がる可能性がある場合。
不安になること。

評価の受容。
評価が上がること。
生きやすさの向上についての、情報。
それは、生物にとって、受容しやすい。

評価が下がること。
生きやすさの下降についての、情報。
それは、生物にとって、受容しにくい。
////

評価の変動。その要因。
ある生物。

彼自身が取った、行動。その結果。
成功。／失敗。

評価に対する行動。
それは、以下の内容である。
返礼。
互酬。

彼自身の評価。それを上げた他者。その他者に対する行動。
その他者の、生きやすさ。それを、故意に、上昇させること。
例。
感謝。利益の積極的な融通。

彼自身の評価。それを下げた他者。その他者に対する行動。
その他者の、生きやすさ。それを、故意に、下降させること。
例。
反撃。報復。復讐。返り討ち。
それらは、以下の内容である。
殺傷。虐待。
呪い。
悪口を言うこと。
悪い噂を流すこと。
邪魔すること。足を引っ張ること。
嫉妬すること。

上位者に対する評価。
評価者が、自己保身をしたい場合。例。評価者が、女性の場合。
それは、故意に、良好になる。

評価が行われる状況。
//
公開。他者の見ているところ。開放性。／非公開。他者の見ていないところ。機密性。
//
良好な環境。／不良な環境。
恵まれた環境。／劣悪な環境。
プラスの環境。／マイナスの環境。

温室環境。 / 苛酷な環境。
上位の環境。 / 下位の環境。
有利な環境。 / 不利な環境。
//

評価。
それは、以下の内容である。
//
自己存続。自己保身。自己拡大。自己増殖。
それらは、生物の本質的な行動である。
それらの、有効化と、無効化。
それらの、促進と抑制。その新たな必要性。
それらを確定する、外部情報。
//

それは、以下の内容である。
//
生物にとって、最も重要な、情報。
//

評価に対して、生起する感情。
それは、以下の内容である。
//
生物にとって、最も基本的な、感情。
//

評価の公正性。評価の客観性。
それらの確保。
それは、生物にとって、本質的に、難しい。
その理由。
生きやすさの向上。その私的な追求。
私利私欲。
生物毎の、生物維持における、独立性。
生物において、それらの度合いが、とても強いこと。

（2022年2月初出。）

生物と、反省や内省。

ある生物。
彼自身の取った行動。
その成功と失敗。

彼自身の立ち位置。
その上昇と下降。
それらの内容についての、振り返り。

彼自身が置かれている、状況。
その、正確な把握。

その実現にとって、必要な行動。
行動の一時停止。
静止。
休息。休憩。

その実現にとって、必要な態度。
冷静さ。
感情からの解放。
客観性。
俯瞰性。

（2022年2月初出。）

生物と、攻撃や防御。

生きやすさの増大を図ること。
生きやすさの減少の回避を図ること。
それらは、生物にとって、基本的な欲求である。

それらの実現にとって、脅威や障害になる存在。

敵。ライバル。
そうした、無機物。
そうした、他の生物。

攻撃。
それらを、先制的に、殲滅しようとすること。
防御。
それらから、彼自身の心身を、守ろうとすること。
反撃。
それらによる攻撃に対して、返しの攻撃をすること。
妥協。
それらと、何とかして、共存しようとすること。

物理的な、攻撃と防御。
例。
それらへの爆撃を行うこと。
それに対して、要塞を建設すること。

精神的な、攻撃と防御。
例。
それらについて、悪い噂を流すこと。
それに対して、耳を塞ぐこと。

攻撃と防御。
それらに、必要なもの。
武器。武装。

物理的な武器や武装。
例。刀剣。ミサイル。

精神的な武器や武装。
例。理論武装。

武装への対応を、外部から、強制的に、丸投げされること。
武装を、彼ら自身で、積極的に行うこと。
そのことで、彼ら自身は、攻撃によって、傷つきにくいこと。
そうした生物。
例。男性。

武装を、彼ら自身の外部へと、丸投げすること。
武装を、彼ら自身では、避けること。
そのことで、彼らの内部における調和を、図ること。
そのことで、以下の内容を、維持すること。
彼らの内部における、高い水準の生きやすさ。そうした、快適な現状。
そのことで、彼ら自身は、攻撃によって、容易に傷つくこと。
そのことで、彼ら自身は、精神的に、容易に、取り乱し、逆上すること。
そのことで、彼ら自身は、精神的な、傷の癒やしを、絶えず求めること。
そうした生物。
例。女性。温室集団における、生物たち。

（2022年2月初出。）

生物と種。

有性生殖の場合。
遺伝的な同質性。
それが確保された生物同士のみが、以下の内容を、実現出来ること。
配偶者の関係を作って、共同の遺伝的子孫を残すこと。
そうした仕組み。

現状の進化論の、徹底的な破壊。
種の起源についての、今までとは全く違う、新たな説明を考えること。

そのためには、種の分化の説明が出来れば、それで十分であること。

種の分化。
それは、遺伝子の自己複製時のエラーの発生による突然変異のみ

で、説明できる。
それ以外の特別な仕組みは、生物には、特に存在しない。

種の分化。
それは、意図的では無い。
それは、全て偶然であり、全自動的であり、機械的である。
種の系統の先端部分の種。
それらの内部においては、大きく変動する環境の下で、偶然に、遺伝子の自己複製のエラーが、続いて起きているだけである。
それらは、生物としては、特に、優れてはいない。

種の分化。
そのメカニズム。
それは、以下のプロセスによって、自動的に発生する。
遺伝子の自己複製の繰り返しの過程において。
遺伝情報のコピーのエラーの発生により、その前後における遺伝的同質性が、確保できなくなること。
遺伝子の同質性が、配偶者間で、確保できなくなること。
そのコンピューターによるシミュレーションが、可能である。

なぜ、配偶者間の遺伝的同質性が確保できないと、生物は、有性生殖に失敗するか？
配偶者間の遺伝的異質性が、有性生殖において許容される範囲。
それは、どの位、存在するのか？
そのメカニズムの解明が、重要である。

無性生殖と、有性生殖との、２系統の生殖方式。
それらは、なぜ、分化しているのか？
それらは、現在、どのようなメカニズムで、分化しているのか？
全ては、自動複製時のエラーの蓄積のみによって、説明出来る。

減数分裂の発生の起源。
男女の性差の起源。
それは、遺伝子の自動複製時のエラーの蓄積のみによって、説明出来る。
そのコンピューターシミュレーションによる実現が、重要である。

減数分裂。
同型配偶子から、異型配偶子の発生。
配偶子における、大小の格差の出現。

それらを、導出すること。
そのことは、遺伝子の自動複製時のエラーの蓄積のみによって、説明出来る。
そのコンピューターシミュレーションによる実現が、重要である。

自己複製の対象となる遺伝情報の数が、全数から半数へと、いきなり、減ること。
その際に、遺伝情報の半分が、ランダムに、自動的に、切り捨てられること。
それらの発生の起源。
それは、遺伝子の自動複製時のエラーの蓄積のみによって、説明出来る。
そのコンピューターシミュレーションによる実現が、重要である。

自己複製時の、遺伝情報の等分の分割。
その、遺伝情報の複製エラーによる、自動的な発生。
そのメカニズムの解明。
そのコンピューターシミュレーションによる実現が、重要である。

情報の自己複製。
その、自動的な発生。
情報の、遺伝情報化。
そのメカニズムの解明。
そのコンピューターシミュレーションによる実現が、重要である。

（2022年3月初出。）

生態学。その内容の根本的な変革。その必要性。

生態学。
それは、以下の内容である。
以下の内容を、新たに解明するための、知的な活動。
//
生物の生き様。
生物の分布。

//

生物界。
それは、閉鎖的な場では無い。
それは、開放的な場である。
それは、以下の内容を前提としている。
//
新たな存在による、外部からの侵入。
//

生物界。
それは、恒常性に基づくものでは無い。
それは、絶えず大きく変化する。
そうした大変動は、以下の内容の発生に基づく。
//
生物自身における、突然変異の発生。
外部環境における、変動の発生。
//

生物界。
それは、以下の内容では無い。
//
内部調和に基づく、静的な生態系。
//

それは、不調和で、動的に動く。
それは、以下の内容である。
////
生物間における、生きやすさの相互交換。
その実現のための、生態的市場。
//
生物間における、生きやすさの奪い合い。
その実現のための、生態的戦場。
////

生物の生き様。
それは、以下の視点に基づいて、捉える必要がある。
//
種単位の多様性では無く、個体単位の多様性に基づいた、視点。
//

突然変異や、生存における淘汰。
それらは、種単位では無く、個体単位で起きる。

生物の生き様。
それは、以下の視点に基づいて、捉える必要がある。
//
種単位の集団主義では無く、個体単位の個人主義に基づいた、視点。
//

生物の生き様。
その分析。
それは、遺伝的多様性と、文化的多様性との、双方を、対象とする。

生物の生き様。
その分析を実行するための、視点。
以下の（１）の視点から、以下の（２）の視点への、視点の移行。
その実現が、新たに必要である。
////
（１）
既得権益保有者の、視点。
それに基づく、生物の生き様における、以下の内容の実現。
現状維持。
そのような視点。
//
（２）
既得権益非保有者の、視点。
それに基づく、生物の生き様における、以下の内容の実現。
新規の革命。新規の現状破壊。新秩序の樹立。
そのような視点。
////

既得権益保有者。
欧米諸国の人々や研究者たち。

彼らは、人間のことを、以下のように、勝手に認識している。
//

生物界における、最高の有能者。
生物界における、最高の既得権益所有者。
生物界における、最上位者。
//

彼らは、以下の内容の実現を、最優先に考える。
//
彼ら自身が勝手に想定する、生物界における、人間の、そのように優越した地位。
そうした現状。
その維持。
//

彼らは、そうした現状を、以下のように、考える。
//
そうした現状を、そのまま静的に固定化したいこと。
そうした現状を、そのまま恒常性を持たせて、永続させたいこと。
//

彼らは、それらの目的の達成のために、以下の概念を生み出し、活用している。
//
生態系。
//

彼らは、上記の概念に基づき、以下の内容を、強力に指向し、推進し続けている。
//
生物の生き様。その現状の、保全と保護。
//

彼らは、人間のことを、以下のように、勝手に認識している。
//
最上位の万能者。
地球環境変動の制御を行う者。
生物界全体の制御を行う者。
他の生物とは明確に区別された、格上の者。
//

彼らは、以下の内容の実現を、心の底から恐れている。

////
人間以外の生物による、生物界の代替的な支配。
その新たな実現。
//
彼ら以外の地域の人々による、人間社会の代替的な支配。
その新たな実現。
////

生態系の保全。
生態系の保護。
それらの概念。
それらは、以下の内容である。
//
彼らが、彼ら自身の既得権益の維持のために、勝手に設定した内容。
彼らの都合を第一に考えた、自分勝手な、一方的な、内容。
そうした、恣意的な社会的なルール。
//

それらは、以下の内容に、基づいている。
彼ら自身の移動生活様式における、以下の行為の必須性。
//
家畜と、人間との、峻別。
人間と、人間以外の生物との、峻別。
//

それは、以下の内容である。
//
彼ら自身の移動生活様式がもたらす、根本的な、思考や価値観の歪み。
//

その点、彼らは、生物学や生態学において、永遠に、真実にたどり着くことが出来ない。
その点、彼らの生物学や生態学の理論は、永遠に、間違った状態を、持続する。

現状の生物学や生態学の理論に対して、真実をもたらすこと。
その実現のためには、第三者の俯瞰的な視点が、必須である。

私は、その視点を、提供したい。

既得権益保有者。
欧米諸国の人々や研究者たち。
彼らの、生物学や生態学に対する、上記のような視点。
それらは、以下の内容である。
//
単なる思い上がり。
妄想。
思考における、根本的な、修正不可能な、歪み。
//

生物界。
それは、以下の内容では無い。
//
外部に対して、閉じていること。
内部調和性や、恒常性を、持つこと。
生態系であること。
//

生物界。
それは、以下の内容である。
//
開放的であること。
自由であること。
内部の生物に対して、厳しく、容赦が無いこと。
その内部の状態が、絶えず激動すること。
//

生物界においては、以下の事象が、頻繁に発生する。
////
突然変異に基づく、新規の生物の出現。
様々な生物による、自由な出入り。
//
それらの頻度は、激しい。

例。
渡り鳥の大群。
飛翔性のバッタの大群。
彼らによる、広域移動と、特定エリアへの侵入。

例。
ウィルス。
新たな変異株のランダムで頻繁な出現。
////

生物界。
それは、以下の内容である。
////
生態的市場。
生物同士が、生きやすさを相互交換する、場所。
//
生態的戦場。
生物同士が、彼ら自身の生きやすさの向上や維持を賭けて、互いに恒常的に争い続ける、場所。
////

生物界においては、以下の内容が、連続的に発生する。
革命。
上位者と下位者の、交替。

生物界における、最上位者。
それは、人間では無い。
それは、生物でも無い。
それは、苛酷な無機環境である。

生物界の内部において、人間が最上位であること。
人間における、そのような、考え。
それは、以下の内容に、基づく。
//
人間における、他の生物に対する、無知。
人間における、環境探査能力の限界。
//

そうした探査を、より進めた場合。
以下の内容が、新たに判明すること。
その可能性。
それは、十分に高い。
//

人間以外の生物が、人間よりも優位であること。
//

生物界における、生物の優位性。
その指標。
それは、以下の内容である。
//
遺伝的子孫。
文化的子孫。
それらの数。
それらの存続しやすさ。
それらの増殖しやすさ。
それらの存続や増殖における、環境負荷の小ささ。
//

そうした点では、人間は、以下の内容である。
////
彼ら自身の生存の維持。
その実現における、環境負荷。
それが、やたらと大きい存在。
資源の無駄遣いばかりする存在。
//
彼ら自身の生存の維持。
その実現の能力において、無能な存在。
//
他の生物にとって、厄介で、迷惑な、存在。
////

人間が、他の生物に対して、優位であること。
そうした主張。
それは、上記の指標からは、決して正しくない。
生物界においては、むしろ、以下の存在が、より優位であり、より繁栄している。
//
例。
昆虫。
魚類。
藻類。
ウィルス。
//

生物界の内部における、存在する生物の入れ替わり。
その度合いは、激しい。

生物界における、人間の存在や繁栄。
それらが、以下の原因により、一時的なものに終わること。
その公算。
それは、とても高い。
////
無機環境が、大幅に変動すること。
//
他の、より有力な生物。
彼らが、突然変異により、新たに出現すること。
////

（2022年4月初出。）

生物の生体。その操作。その加工。それらは、生物固有の権利である。

生物の生体。
その操作。
その加工。
例。
生物の遺伝子。それらの操作。
生物の神経系。それらの操作。

それらは、正当化される。

ある生物が、他の生物の生体を、操作すること。
ある生物が、他の生物の生体を、加工すること。
それらは、結局は、以下の内容である。
//
ある生命物質による、他の生命物質に対する、物理的な、操作や改変。

//

それらは、単なる物理的現象である。
それらの行為の実行は、本来、どの生物にとっても、自由である。
それらは、生物固有の権利である。

それらの行為を実行するための知的な能力。
そうした能力を持った生物。
そうした生物は、人間に限らず、誰でも、生体操作の権利を有する。

生体のコントロール。
それらは、物理現象の一環である。
それらは、絶対者の存在を、特に必要としない。

生物の生体。それらの操作。
生物の遺伝子。それらの操作。
生物の神経系。それらの操作。
それらが持つ、明るい可能性。

それらは、以下の内容を、実現する。
////
生物における、種の制約。
生物における、行動上の制約。
それらを、取り払うこと。
生物を、それらから、解放すること。
//
生物の多様性を促進すること。
//
個々の生物の生きやすさを、向上させること。
//
新たなタイプの生物を、生み出すこと。
////

そうして生まれた、新たな生物。
彼らが、以下の内容となること。
//
既存の生物にとっての、新たな脅威。
//
その可能性は、とても大きい。

しかし。
それらは、同時に、以下の内容を、実現する。
//
地球上における、生物の生きやすさ。
その水準における、向上。
それが、確実に、促進されること。
//

例。
ある生物が、以下の（１）を、以下の（２）へと、新たに組み込むこと。
（１）
彼自身の遺伝子の、一部か、全部。
（２）
他の、より有能な生物。その遺伝子。

そのことで、彼自身の分身は、以下の内容を、実現する。
//
より、有能になること。
より、生き残りやすくなること。
//
それらは、彼自身にとって、良いことである。

生物の生体。それらの操作。
生物の遺伝子。それらの操作。
生物の神経系。それらの操作。
それらは、以下の内容を、もたらす。
//
生物たちの有り様。その自由化。
//

それらを実現するための、機会。
それは、全ての生物に対して、平等に開かれるべきである。

例。
ある人間が、以下の（１）を、以下の（２）へと、埋め込むこと。
（１）
彼自身の遺伝子の一部。

（２）
鰓で呼吸する魚類。彼らの遺伝子。

彼が、そのことで、以下の（１）に対して、以下の（２）を、新たに与えること。
（１）
彼自身の遺伝的子孫。
（２）
水中にずっと潜ったままで、生き続けること。
その実現を、可能にすること。
そうした能力。
水中生活者としての、能力。

例。
ある人間が、以下の（１）を、以下の（２）へと、埋め込むこと。
（１）
人間やイルカのような高い知能を持つ生物。
そうした生物の遺伝子。
それらの一部。
（２）
鰓で呼吸する魚類。彼らの遺伝子。

人間が、そのことで、以下の内容の生物を、新たに生み出すこと。
//
高い知能を備えた、魚類。
//

そうした、高い知能の魚類たち。
彼らに対して、人間が、彼自身の文化的子孫を、広めること。
そのことが、新たに可能になること。
そのことで、以下の内容が実現すること。
//
全ての人間が、死滅すること。
そのような状況が、実際に発生すること。
その後も、人間の文化的子孫が、他の生物の間で、問題無く、生き続けること。
//

生物の生体。
その操作。
その発展形。

例。
人間の社会。
妊娠の中絶。
胎児の間引き。
出産後の嬰児の間引き。

それらを、犯罪として扱うこと。
それは、男性優位社会固有の社会規範である。
それは、女性優位社会には、適用されない。

それらは、女性優位社会では、正当化される。
それらは、女性が本来生得的に所有する権限である。
それらの自由化。
それは、社会的に、明るい可能性を持つ。
胎児。
嬰児。
彼らは、文化的記憶を、ほとんど持たない。
彼らは、結局は、生まれていないのと、一緒である。

胎児。
嬰児。
女性優位社会において。
彼らは、女性の私的な所有物である。

胎児。
嬰児。
女性は、彼らに関して、以下の内容を所有する。
//
彼らの存在を、自由に処分できる権限。
//

それは、以下の内容である。
//
女性における、望まない妊娠に対する、基本的な対策。
//

それは、女性に対して、セックスの自由化を、もたらす。
それは、女性の権力の更なる強化に、繋がる。
それは、過剰な人口の削減に対する、切り札である。

例。
ある女性において。
彼女自身の出産後のしばらくの一定期間。
彼女自身が出産した嬰児。
その生殺与奪についての自由。
それについての権限。
そうした権限を、彼女自身に対して、認めること。

（2022年4月初出。）

生物と秩序。生物と法律。

生物は、誰でも、一定の法秩序に従って、動いている。
生物の行動は、無秩序では無い。

秩序。
その社会的な決定者。
それは、以下の者である。
//
彼自身のことを、社会的な上位者と見なす者。
//

秩序。
それは、本来、生物の各個体が、独自に所有している。
それは、生物固有の、パターン化された動作である。
それは、以下のような目的を、持つ。
//
より良い生きやすさの追求。
自己複製。自己増殖。
自己保身。自己の恒常性の維持。
//

秩序。
それは、実際には、生物の個体の数だけ、存在する。

秩序。
それは、以下の内容である。
//
生物の各個体特有の、パターン化された個性。
//

それらを、収集し、明文化し、体系化した、アウトプット。
それは、以下の内容である。
//
生物固有の、法律。
//

無秩序。
社会的アノミー。

それは、上位者の視点に、基づいている。
それは、下位者による、行動である。
その行動の内容。
それは、上位者の意に、沿わない。
それは、下位者自身の秩序に、沿っている。

それは、無知な観察者の視点に、基づいている。
それは、その観察の対象者による、行動である。
その行動の内容。
それは、観察者の意に、沿わない。
それは、観察の対象者自身の秩序に、沿っている。

（2022年4月初出。）

生物学や生態学における、人間や生物に対す

る、視点。男性優位社会の場合。

男性優位社会の人々。
彼らの、思考面における限界。
それは、以下の内容である。
////
人間と、それ以外の生物とを、区別すること。
人間を、それ以外の生物たちよりも、より上位へと、位置付けること。
それらの実行。それらの実現。
そのことに対して、必死になること。
そうした強迫観念に、絶えず囚われていること。
そのことにより、以下の内容が、彼ら自身の精神の中に、絶えず生じること。
//
生物学や生態学における、人間や生物に対する、視点。
その、根本的な、歪み。
その、根本的な、誤り。
////

彼ら自身による、それらの超越。
その根本的な方法。
それは、以下の内容である。
//
彼らが家畜として利用している、移動性の陸上動物たち。
それらにおける、人間との同質性。
その度合いを、大きく減らすこと。

例。
そうした陸上動物の知能。
それらを、遺伝子操作によって、大きく減らし、簡略化すること。
そうした陸上動物の感情。
それらを、遺伝子操作によって、極力、無くすこと。
そうした陸上動物。
彼らを、遺伝子操作によって、無感情なロボット化すること。
//

上記の内容の実現のために、必要なこと。
それは、以下の内容である。
//
そうした陸上動物の神経系の動作。
それらの探査と解明。
//

（2022年4月初出。）

生物と集団。

生物同士の相互作用。生物同士の近接性。物理的な相互作用や近接性。遠隔通信的な相互作用や近接性。それらが同時に成立した場合。生物同士において、集団が成立すること。
生物同士の集団形成における、契機や取っ掛かり。
同質者同士の、一体性や、融合性や、親密性や、調和。それらが、生物同士の間において、存在すること。
異質者同士の間における、生きやすさの相互融通や相互交換。その実現のための、相互協力や相互分業。それらの必要性。それらが、生物同士の間において、存在すること。

同質者の集団としての、コミュニティや、ゲマインシャフトや、第一次集団。
遺伝的同質者。同じ遺伝子の共有者。遺伝的先祖と、遺伝的子孫。生物の種。男性同士。女性同士。
文化的同質者。同じ文化の共有者。移動生活様式。定住生活様式。
遺伝的同質者と文化的同質者との掛け合わせの集団としての、民族。
遺伝的同質者の集団としての、血縁集団。その、以下の内容との掛け合わせとしての、家族。遺伝的異質者同士の、あるいは、異性の配偶者同士の、生殖の場。

異質者同士の協力のための集団としての、アソシエーションや、ゲゼルシャフトや、第二次集団。
遺伝的異質者同士の、あるいは、異性の配偶者同士の、生殖と、子

孫の養育の、場所。家族。

開放的な集団。部内者と部外者との区別が、緩いこと。部外者が、集団の内部へと、加入すること。その実現が、部内者への縁故を持たなくても、可能であるか、容易であること。移動生活様式の集団。男性優位社会における集団。気体的集団。
閉鎖的な集団。排他的な集団。部内者と部外者との区別が、厳しいこと。部外者が、集団の内部へと、加入すること。その実現が、部内者への縁故を持たない限り、不可能であるか、困難であること。定住生活様式の集団。女性優位社会における集団。液体的集団。

（2022年5月初出。）

生物と既得権益。その、資本主義や社会主義との関連。従来のマルクス主義に対する批判。その代替案の提案。

従来の政治学や経済学や社会学における、資本主義と社会主義。
それらの概念を、対立物として考えること。
例。従来のマルクス主義の信奉者。従来の資本主義の信奉者。
そうした思考は、頭が悪い。
それらは、概念分類としての出来が、悪い。
もっと出来の良い概念分類の思考が、十分に可能である。
そうした概念分類。私は、それを、試しに考案した。それは、以下のような内容である。

//////
既得権益。生きやすさの所有。生きやすさの貯蓄。例。資金。資源。設備。権利。権限。縁故。

既得権益。その種類。
資金がメインの場合。例。既存の資本主義社会。アメリカ。
社会的縁故がメインの場合。例。既存の社会主義社会。中国。

（１）
既得権益。その蓄積。その私有。
その、促進や増進。 vs. その、抑制。その、定期的な初期化。
その、自由化。 vs. その、規制や統制。
その蓄積や私有を、認めない場合。生物は、やる気を失う。生物の生活水準は、低下する。例。以前のソビエト連邦や中国。
その蓄積や私有を、認める場合。生物は、やる気を出す。生物の生活水準は、上昇する。例。欧米諸国。

既得権益。その蓄積。その私有。それらを、認めること。そのことが、生物にとって、本来的に望ましい。
例。社会主義国家としての中国における、改革開放政策への転換と、それがもたらした、高度経済成長。

上記の内容は、全世界的に、成立する。
それは、生物社会における、法則である。

（２）
既得権益。その蓄積。
その社会的格差。
その拡大。その現状維持。vs. その縮小。
その固定化。vs. その流動化。

その社会的分配。
その独占。 vs. その、ばら撒き。
その偏り。上位者への偏重。下位者への偏重。 vs. その平等性。

既得権益。その蓄積。
その再投資。その収集。その回収。
投資する者。収集する者。回収する者。彼らは、上位者となる。
投資される者。収集される者。回収される者。彼らは、下位者となる。

既得権益。その蓄積。
その能力。
有能者。彼らは、富裕になる。彼らは、有産者になる。彼らは、上

位者となる。
無能者。彼らは、貧困になる。彼らは、無産者になる。彼らは、下位者となる。

既得権益。その蓄積。
その多寡。それは、以下の内容を生み出す。
社会的上下関係。
既得権益を多く所有する者。彼らは、上位者となる。
既得権益を少なく所有する者。彼らは、下位者となる。

（３）
既得権益。その蓄積。
その現状維持。
既得権益を多く所有する者。上位者。その現状は、彼らにとって、望ましい。彼らは、その現状の、維持や強化を、指向する。
既得権益を少なく所有する者。下位者。その現状は、彼らにとって、望ましく無い。彼らは、その現状の、打破や弱体化を、指向する。
その現状維持に対する、賛否の態度。
それは、社会的な立場の違いによって、大きく異なる。
それは、社会的な立場の違いによって、大きく対立する。

社会的上下関係。その偏在。その固定化。その格差の拡大。その転覆不能化。
例。
資本主義国家としてのアメリカにおける、超富裕層の発生と、彼らによる、その現状の、維持や強化。その強力性。その強欲性。
社会主義国家としての中国における、超特権層の発生と、彼らによる、その現状の、維持や強化。その強力性。その強欲性。

それらの発生。その要因。
遺伝的な有能性。既得権益。それらの大量性。それらの上質性。それらの、一部の者による、先祖代々にわたる、排他的な占有。それらの現状維持。

それらの発生。それに対する賛否。
既得権益を多く所有する者。上位者。それは、彼らにとって、望ま

しい。彼らは、その、維持や永続化を、指向する。
既得権益を少なく所有する者。下位者。それは、彼らにとって、望ましく無い。彼らは、その打倒や、革命を、指向する。

それらの発生。
それは、社会において、不成長や停滞や衰退や滅亡を、生み出す。
それは、社会における生きやすさを、減らす。
それは、社会における生きにくさを、増やす。

それらの発生。
それは、生物にとって、本質的に、望ましくない。それは、生物にとって、本来的に、是正されるか、打倒されるべきである。
上記の内容は、全世界的に、成立する。
それは、生物社会における、法則である。

マルクスは、本来、上記の内容の定式化を行うべきであった。しかし、彼は、そのレベルには、到達しなかった。
彼は、そのままの状態で、以下のような内容を主張した。
//
既得権益。その蓄積や私有の、全面的な否定。
既得権益。その一回のみの初期化。例。プロレタリア革命の生起における、一回性。そのことへの固執。
その後、新たな上位者において発生する、既得権益の占有。そうした社会的格差の永続化。それらの容認。
//

マルクスと、その信奉者たちによる、それらの主張。
その内容は、以下のような視点から眺めた場合、根本的に、間違いである。
生物社会の法則からの、視点。

上記の内容は、本来は、以下のような内容であるべきである。
////
（１）
既得権益。その蓄積や私有の、肯定。

（２）
既得権益。その、一部の者による占有。その持続。その発生。そのことがもたらす、以下の状況。
//
社会的上下関係。その偏在。その固定化。その格差の拡大。その転覆不能化。
//
それらの発生の、排除。
それらの、定期的な、是正や初期化。

上記の（１）と（２）の内容の、社会的制度化。
その実現による、社会的生きやすさの、恒常的な確保。その、根本的な、必要性や重要性。
////

上記の内容の主張。
その内容は、以下のような視点から眺めた場合、根本的に、妥当である。
生物社会の法則からの、視点。
//////

（2022年5月初出。）

生物の経済学と、生物社会の改革との関連。従来の人間の経済学の、超越。

従来の、近代の西欧諸国の社会をモデルにして開発された、人間の経済学の理論。
例。マルクスの資本論。
それらは、人間の本質の基盤部分に潜む、生物の本質の内容を、あまり反映していない。
現実の、人間の経済活動の内容。
それらは、生物一般の経済活動のルールに従って、動いている。

従来の、西欧諸国の社会をモデルにして開発された、人間経済学の

理論。
私は、それらの基盤部分の内容を、生物の経済学として、最初から、書き直した。
それらは、以下の内容である。

＝＝＝＝

生物が、遺伝的子孫や文化的子孫を残すための、前提条件。
生存状態の維持。自己保身の持続。
生物においては、生体維持のコストが、絶えず定期的に掛かる。
そのコストを、絶えず、ねん出し続けること。
その余力の所有。
それが、生物にとっての、生存における、固定費用に当たる。

＝＝＝＝

生物における、生存状態の維持。生物における、彼ら自身の生体維持。
それらに必要な、消費物。それらに必要な、生きやすさそのもの。
（１）
エネルギー。栄養。ミネラル分。水分。
//
無機物から得る場合。
他の生物から得る場合。
//
（２－１）
それらの獲得のために必要な、費用。
（２－２）
それらの獲得とは無関係に。
その生物自身の生存状態の維持そのもののために。
生物自身の心身によって、その生存期間中において、恒常的に消費される物品の、費用。

＝＝＝＝

機能。
生きやすさが持つ、生物の生存に役立つ働きそのもの。
その働きの提供者。労働者。

＝＝＝＝

生体維持における収支。生存収支。
//
収支が赤字の場合。衰退。衰亡。貧困化。弱小化。
収支がプラスマイナスゼロの場合。自転車操業。
収支が黒字の場合。所得。繁栄。富裕化。強大化。
//

生きやすさ。その、自己生産。
生産設備と、生産資源の、自己所有が、前提となること。
//
収支が赤字の場合。持ち出し。
収支がプラスマイナスゼロの場合。自転車操業。
収支が黒字の場合。蓄積。
//

生きやすさ。その、他の生物からの取得。
生産における、外注。捕食。飼育。分業。
//
収支が赤字の場合。朝貢。
収支がプラスマイナスゼロの場合。対価交換。
収支が黒字の場合。収奪や搾取。
//

＝＝＝＝

生きやすさの取得の行為。
自己生産。
他の生物に対する外注。
（１）
他の生物を、生存させたまま、行う場合。
他の生物が、彼ら自身の生命そのものとは別に生み出す生産物の、
摂取や丸呑み。
例。分泌物。種を除いた果実分。樹液。乳製品。酪農。
上位者による、下位者の生産物の摂取の場合。栽培。飼育。

下位者による、上位者の生産物の摂取の場合。寄生。
（２）
他の生物の生命を奪う形で、行う場合。
他の生物の生体の、生きたままでの摂取や丸呑み。捕食。
（３）
他の生物の死体に集る形で、行う場合。
他の生物の死体の摂取や丸呑み。解体。ハゲタカのような行為。

＝＝＝＝

資本。
生物にとって、生きやすさを生み出すための、元手となる、財産。
それらは、生物にとって、結局は、以下の内容と、同じである。
既得権益。

資本。その定義。
（１）
生産資源。
（２）
生産設備。
（３）
生産設備の製造。そのために必要なコスト負担についての、所有資源や、所有設備における余力の発生と、その所有。
（４）
生産物における、生産余剰の発生。例。豊作。
（５）
消費物における、消費残余の発生。例。食べ残し。
（６）
生存収支における、黒字。その蓄積の結果の物品。例。金地金。兌換券。
（７）
生物の間で構築されている、彼ら自身が生きやすさを生み出すために必要な、協業関係のネットワーク。

＝＝＝＝

生きやすさの消費の行為。
//
消費能力の自前での保持。
他の生物に対する外注。
//

生きやすさの消費の後。
廃棄物の発生。その廃棄処理と、その廃棄コストへの支払いの必要性。

＝＝＝＝

生物と利害。

利益。
生物自身が所有する、生きやすさ。
生物自身が新たに獲得する、生きやすさ。
生物自身が新たに蓄積する、生きやすさ。
それらの質量の最大化を、絶えず追求すること。

損害。
生物自身が所有する、生きにくさ。
生物自身が新たに背負う、生きにくさ。
生物自身が新たに蓄積する、生きにくさ。
それらの質量の最小化を、絶えず追求すること。

それらは、生物の生涯における、最大目標である。
それらの目標は、生物において、彼ら自身の子孫代々へと、次々と、永続的に、伝達され、継承されていく。

＝＝＝＝

生物。
彼自身が豊かになる、条件。
彼自身が利益を得る、条件。
彼自身が既得権益を蓄積できる、条件。

それは、以下の内容である。

//
生きやすさの生産。その生産品は、製品である。
生きやすさの交換。その交換品は、商品である。
//

生物における、生きやすさの喪失。
//
（１）
製品が内蔵する生きやすさの、経年劣化による低減。
（２）
権益の所有者による、借用者からの、賃貸料の徴収。
そのことによる、所有者による、借用者からの、一方的な、生きやすさのはく奪。
（３）
有能者による、無能者に対する一方的なコントロールや操作や侵略の実施。
そのことによる、有能者による、無能者に対する、一方的な、生きやすさのはく奪や強奪。
//

＝＝＝＝

生物社会における、社会的停滞。
ある生物が、生きやすさを、自力で生産できる場合。
その生物が、その現状に十分に、満足している場合。
その生物による、生きやすさの交換は、起きにくい。
その生物による、他の生物に対する、更なる搾取や収奪は、起きにくい。

ある生物が、現状の生きやすさに、十分に満足している場合。
その生物による、更なる生産や消費や交換は、起きにくい。
その生物による、他の生物に対する、更なる搾取や収奪は、起きにくい。
その生物による、生産や交換における、有能性の、更なる向上は、起きにくい。
その生物による、生産や交換における、既得権益の蓄積度の、更なる向上は、起きにくい。
交通や通信の欠如。そのことがもたらす、新規情報の欠如。

例。
それらは、西欧諸国における、中世の社会的停滞を、引き起こした。

＝＝＝＝

生物社会における、産業革命と、近代化。
ある生物が、現状の生きやすさに、感覚的に、既に飽和した場合。
ある生物が、現状の生きやすさに、新たに不満を覚える場合。
その生物による、更なる生産や消費や交換が、起きやすい。
その生物による、他の生物に対する、更なる搾取や収奪が、起きやすい。
その生物による、生産や交換における、有能性の、更なる向上が、起きやすい。
その生物による、生きやすさにおける剰余の、大量発生が、起きやすい。
その生物による、生産や交換における、既得権益の蓄積度の、更なる向上が、起きやすい。
生物たちにおける、それらの心理的要因は、生物の社会に対して、変動や革命をもたらす。

ある生物が、現状の生きやすさに、感覚的に、既に飽和した場合。
限界効用の逓減が起きた場合。
交通や通信の発達。それらの手段を生み出す資源や設備の発達。
そのことによる、より広いエリアに関する新規情報の得やすさの向上。
そのことにより、新規の生きやすさを内包する権益の存在を、新たに知ること。
そうした、新規の、新鮮な感覚に満ちた生きやすさを、新たに、優先的に、入手し、確保したくなること。
そのことへの動機付けが、新たに急速に強まること。

ある生物が、現状の生きやすさに、新たに不満を覚える場合。
交通や通信の発達。それらの手段を生み出す資源や設備の発達。
そのことによる、より広いエリアに関する新規情報の得やすさの向上。
そのことにより、より上位の生きやすさを内包する資源の存在を、新たに知ること。
そのことにより、より上位の生きやすさを生産可能な設備の存在

を、新たに知ること。
そのことにより、生きやすさの確保において、より上位の、他者の存在を、新たに知ること。
そうした生きやすさを、更に向上させる手段を、新たに、優先的に、入手し、確保したくなること。

そのことによる、生産や交換における、有能性の、更なる向上。
例。
生産に必要な各種資源の得やすさの、鉱業や農業における、新たな向上。
農地における、農作物の収穫力の、新たな向上。
生産設備の開発における、工学的な技術革新。
生産した物品の相互交換を行うための、商業手段の、発達の促進。
そのことによる、生産や交換における、既得権益の蓄積度の、更なる向上。
例。既得権益の高度の蓄積者における、生きやすさにおける剰余の大量発生。
そのことがもたらす、彼ら自身における、新規の設備投資のしやすさの、大幅な向上。
それらの、発生。

交通や通信の発達。
そのことによる、行動の自由の獲得度の、新たな向上。
そのことによる、より広いエリアへの新規の進出しやすさ。その獲得度の、新たな向上。
男性優位の価値観に基づく、未知の領域に、積極的に、進出し、成功しようとする、チャレンジ精神。
その発揮しやすさの、新たな向上。
そのことによる、新規の発明や発見の生起の度合いの、新たな向上。
そのことによる、既存の常識に反する内容の、発明や発見の、生起の度合いの、新たな向上。

例。
それらは、西欧諸国における産業革命や近代化を、引き起こした。

＝＝＝＝

生きやすさを内包した、交換用途の物品。
それは、以下の内容である。商品。
その相互交換。それは、以下の内容である。商業。
交換資源。販売物品。
交換設備。販売店。
交換設備の製造。販売設備の構築。
交換トークンとしての貨幣や貴金属。それらの蓄積としての、資金。
交換を行う生物同士は、互いに、彼ら自身の交換相手の生物が所有しない属性を、備えている。
交換を行う生物同士は、互いに、異質である。
交換を行う生物同士は、互いに、社会的分業の関係に入る。
生物社会は、生きやすさの社会的交換についての、開かれた市場である。

＝＝＝＝

資源そのもの。生産設備そのもの。それらの生産。それらの産出。
それらの採取。それらの収集。
それらが、非生物の場合。それは、以下の内容である。工業。鉱業。
それらが、生物の場合。それは、以下の内容である。農業。

＝＝＝＝

所得。
他の生物に対する、生きやすさの提供。
その対価としての、生きやすさそのもの。
その対価としての、任意の種類の生きやすさを、自由に入手可能にするための兌換の貨幣。
それらの蓄積。

＝＝＝＝

資源。

生きやすさ。
それらの働きを内蔵する、物品や情報。
例。
生物が生きていくための栄養分を内蔵する、穀物。
冬季においても、穀物を栽培できるように、温室内部を温めるための、ボイラー用の石油。
穀物を栽培するために必要な、水。
その水利を実現する、生産設備としての、土木機械において。
それらの製造上の原料となる、鉄。
それらの製造工程において、鉄を溶解させる高熱を出すために必要な、石炭。
それらの製造に必要な、技術情報。

＝＝＝＝

設備。道具。
生きやすさ。
それらの、生産設備。例。食糧としての穀物を、栽培し生育させる、農地と、作業従事者。
それらの、取得設備。例。実った穀物を刈り取る、コンバインの機械と、作業従事者。
それらの、消費設備。例。口腔から摂取した穀物を、消化吸収する、生物としての人間の、胃腸。
それらの、交換設備。例。顧客の現金を、収穫された新年度の穀物と交換する、食品小売り店の、建物と小売業者とコンピューター。

＝＝＝＝

投資。
所有者が、借用者に対して、彼自身が所有する資源や設備の貸し出しを、行うこと。
その結果。
所有者が、借用者に対して、その賃貸料を、不労所得として得ること。
投資する者は、上位者であり、投資される者は、下位者である。
投資する者。投資家。投資される者。企業家。
例。
彼女自身が所有する生殖資源や生殖設備を、男性に対して貸し出す

女性。
彼女は、投資家であり、上位者である。
それらを女性から借り受けて、生涯にわたって、それらの賃貸料を、女性に対して支払う男性。
彼は、企業家であり、下位者である。

＝＝＝＝

資源。設備。
それらの所有。それらの提供。それらの借用。それらの生産。それらの消費。

所有者が、生産物の提供後も、生存し続ける場合。
（１）
所有者が、借用者よりも、上位者であるか、対等者である場合。
所有者は、借用者から、不労所得を得る。
借用者は、所有者に対して、支払いを行う。
（２）
所有者が、借用者よりも、下位者である場合。
所有者は、借用者によって、本来得られるはずの所得を、強奪され、没収され、搾取される。
借用者は、所有者に対して、踏み倒しを行う。
それは、所有者による、借用者に対する、朝貢である。

＝＝＝＝

生きやすさの生産者が本来、その消費者から得るべき、有償の対価。その無償化。
それは、以下の内容である。
（１）
施し。
上位者による、下位者に対する、彼自身の所得を一方的に与える、行為。
（２）
ボランティア。

ある生物による、他の対等者に対して、彼自身の所得を、彼自身の好意によって、他の対等者との合意の上で渡す、行為。
（３）
搾取。
上位者による、下位者に対する、下位者の所得を一方的に強奪する、行為。

＝＝＝＝

搾取。
その可能性。
それは、以下の存在によって、生じる。
生物同士の、社会的な上下関係。
それは、以下の存在によって、生じる。
（１）
生きやすさの生産における、有能さと無能さ。
（２）
既得権益。
資源や設備の所有の質量。それらの大きさ。
（３－１）
所有物の自己占有を持続させる能力の大きさ。自衛力。防御力。
他者に奪われないこと。
そのための対策や戦略を立てる力。
そのための武装力。
そのための、彼ら自身の仲間に該当する他の生物たちを、巧みに制御し操作する力。
（３－２）
他の生物の所有物を奪う能力の大きさ。攻撃力。侵入力。打倒力。
そのための対策や戦略を立てる力。
そのための武装力。
そのための、そのための、彼ら自身の仲間に該当する他の生物たちを、巧みに制御し操作する力。

＝＝＝＝

生物における、自己占有領域。
例。野鳥の縄張り。国家の領土。地主の領地。

＝＝＝＝

生物における、所有物。
それは、以下の内容である。
//
有能性。
既得権益。
//

＝＝＝＝

ある生物による、他の生物の、所有や占有。
ある生物が、他の生物を、以下のような形で、一方的に、使用し活用すること。
//
彼自身の生きやすさを、より効果的に生成するための道具として。
他の生物の自由意思を無視する形で。
//
それは、以下の内容である。
（１）
生涯にわたる所有。例。ペット。家畜。所属労働者。家来。奴隷。
（２）
一時的所有。時限的所有。例。雇用契約。契約労働者。

ある生物による、他の生物の所有。
所有する者は、上位者であり、所有される者は、下位者である。

＝＝＝＝

生物社会における、社会的上下関係の法則。生物の経済との関連。
//
生物の社会において、上位者は、下位者を、殺戮し、虐待し、搾取する。
//

それは、具体的には、以下の内容である。

（１）
殺戮。
他の生物の、生命そのものを、抹消すること。
相手の生物の生命そのものを、相手の生物の意思に反して、勝手に、一方的に、抹消すること。

（２）
虐待。
他の生物における生存の維持を、脅かし続けること。
相手の生物の、意思決定の自由を、奪うこと。故意に、相手の生物の心身を、傷めつけること。
相手の生物を、彼自身の私的なストレスの発散の道具とすること。
相手の生物の、彼自身に対する隷従の度合いを、増やすこと。
そのことで、相手の生物の、彼自身にとっての道具化の度合いを、より促進すること。

（３）
搾取。
それは、以下の内容である。
（３－１）
相手の生物との共同作業。
その結果、協業相手の生物が、本来所有を予定する、生きやすさの分量。
その分量について、実際に相手の生物に渡す分量を、本来渡すべき分量よりも、故意に、減らすこと。
ある生物が、他の、より下位者の生物を、彼自身の生きやすさを生成するために、一方的に、道具として、使用し活用すること。
その生物が。
他の、より下位者の生物に対して。
そうして得られた、生きやすさの剰余において。
それらの総量の中のごく一部のみを、下級労働への、形式的な褒賞や対価として、一方的に与えること。
そのことで、その生物が、他の生物に対して、生きやすさの搾取や収奪を、行うこと。
そのことで、その生物が、彼自身の生きやすさの剰余の更なる蓄積を、より大規模に行うことが、出来るようになること。
そのことで、その生物が、彼自身の生きやすさを、自分勝手に、より大幅に増やすことが、出来るようになること。

（３－２）
相手の生物との、生きやすさの交換。
生きやすさの価値。その相場についての情報の所持と欠如。それに基づく、相対的な社会的上下関係。
相手が所有する、生きやすさの価値。その対価を支払う能力の大小。それに基づく、相対的な社会的上下関係。
生きやすさの需要と供給。それらのバランスにおける、過度の傾斜や偏り。その対価の支払いの有利不利における、相対的な社会的上下関係。
生きやすさの交換行為における、心理的な経験値や慣れや強靭さの度合いの、大小。それに基づく、相対的な社会的上下関係。
生きやすさの交換における、前提としての、大元からの、社会的上下関係。例。彼らが、各自、所属する、社会階級や社会階層。それらの上下関係。
そうした、生きやすさの交換において。
ある生物は、彼自身の生きやすさを増やすために、以下の社会的行動を、実行する。
他の、より下位者の生物に対して、一方的に、以下の行動を取ること。
//
彼自身の商品を売り惜しむこと。
相手の商品を買い叩くこと。
相手から余計な利子や手数料を徴収すること。
//
相手に対して、上記のような不利な扱いをして、損害を与えること。
そのことで、その生物が、他の生物に対して、生きやすさの搾取や収奪を、行うこと。
そのことで、その生物が、彼自身の生きやすさの剰余の更なる蓄積を、より大規模に行うことが、出来るようになること。
そのことで、その生物が、彼自身の生きやすさを、自分勝手に、より大幅に増やすことが、出来るようになること。

＝＝＝＝

生物社会における、社会的上下関係が引き起こす、社会経済的な結

果。
それは、以下の内容である。

生物は、誰でも、彼ら自身の遺伝的子孫と文化的子孫を、自分勝手に、際限無く、増やしたい。
生物は、その実現のための前提条件をクリアするために、誰でも、彼ら自身の生きやすさを、自分勝手に、際限無く、増やしたい。
生物は、そのために、誰でも、より下位者の、他の生物に対して、搾取や収奪を、容赦なく、際限無く、繰り返す。
生物は、そのことで、誰でも、彼自身の生きやすさの蓄積を、際限無く、増やそうとする。
（１－１）
有能な生物は、そのことで、彼自身の生きやすさの所有の蓄積の、大幅な増加に成功する。
その結果。
彼は、社会的上位者になる。
彼は、そのことで、収奪や搾取の対象となる下位者を、より増やすことに、成功する。
彼は、そのことで、彼自身の生きやすさの所有の蓄積の、更なる大幅な増加に、永久に成功し続ける。環境変動が起きない限り。
（１－２）
無能な生物は、そのことで、彼自身の生きやすさの蓄積の、大幅な減少と喪失に直面する。
その結果。
彼は、生きやすさそのものの借用者になる。
彼は、生きやすさを生産する資源や設備の借用者になる。
その結果、彼は、社会的下位者になる。
彼は、そのことで、上位者による収奪や搾取の対象となる度合いが、より増加してしまう。
彼は、そのことで、彼自身の生きやすさの所有の蓄積の増加に、永久に失敗し続ける。環境変動が起きない限り。

（２）
それらの結果。
彼らの間に、社会的格差が、それらを、ひっくり返すことが困難な形で、次第に、確固たる状態で、生成される。
そうした社会的格差の固定化された状態。社会階級。社会階層。
そうした、社会的上下関係の変動における、流動性の欠如。
それは、社会的下位者の、子孫代々にわたる、社会的上位への昇進の途を、閉ざす。

それは、社会的下位者の、新たな生きやすさ獲得への、希望や動機づけやチャレンジ精神を、喪失させる。
それは、社会的上位者の、現状の生きやすさに対する、満足や驕りの心理を、生み出す。
それらは、社会的上位者の、子孫代々にわたる、現状の社会の現状維持を、望む心理を、生み出す。
それは、社会的上位者の、子孫代々にわたる、現状の社会的上位の永続的独占を、望む心理を、生み出す。
それは、社会的上位者による、社会的下位者の上位への新たな昇進を、徹底的に阻止しようとする心理を、生み出す。

（３）
それらの結果。
そうした社会的格差の固定化された状態。社会階級。社会階層。社会体制。
それは、その生物社会における、新規の変動を、停止させる。
それは、その生物社会から、新規の刺激を、抹消する。
それは、その生物社会から、社会的上位者における、彼ら自身の社会的地位の下降に対する緊張感を、抹消する。
それは、その生物社会全体における、停滞や衰退や閉塞や弛緩や飽和状態や低需要状態を、生み出す。
それは、その生物社会全体の、生きにくさを、増加させる。
それは、社会的下位者の生活水準を悪化させる。
それは、社会的下位者を、心理的に、どんどん追い詰める。
それは、社会的下位者に対して、以下のような心理を発生させる。
//
既存の社会体制の初期化への、強烈な願望。
社会革命への、強烈な願望。
そのことによる、彼ら自身による、社会的上位への昇進。
彼ら自身における、それらの実現への希望の、新たな取得。
//

それらは、社会的下位者たちにおいて、以下の社会的行動を、引き起こす。
//
社会的下位者同士の連帯。
そのことによる、社会的下位者たちの、社会的勢力の増大。
そのことによる、社会的下位者たちにおける、社会的上位者たちとの、駆け引き能力の、新たな獲得。
そのことによる、社会的下位者たちにおける、社会的上位者たちを

打倒するための戦略立案能力の、新たな獲得。
そのことによる、社会的下位者たちにおける、社会革命を実行する能力の、新たな獲得。
そのことによる、社会的下位者たちによる、社会革命の実行と、既存の社会的上位者における、有能性や既得権益の抹消の実行。
そのことによる、社会的下位者たちの、社会的上位への昇進の実現。
そのことによる、社会的下位者たちの、彼ら自身における、生きやすさの増進の実現。
//
そうした新たな社会的上位者による、新たな社会的下位者に対する、容赦無い、虐待と搾取の、新たな開始。
そうした新たな社会的上位者による、際限の無い、既得権益の蓄積の、新たな開始と、新たな実現。
そのことによる、社会的格差の出現と、その固定化の、再度の、新たな発生。
そのことによる、社会的上位者の、子孫代々にわたる、現状の社会的上位の永続的独占を、望む心理の、再度の、新たな発生。
そのことによる、社会的上位者による、社会的下位者の上位への新たな昇進を、徹底的に阻止しようとする心理の、再度の、新たな発生。
そのことによる、社会全体における、停滞や衰退や閉塞や飽和状態や低需要状態の、再度の、新たな発生。
そのことによる、社会全体の生きにくさの、再度の、新たな発生。
それらの発生の、必然性が、生物の本質に照らした場合、とても高いこと。
//

それらの、憂慮すべき事態。その常態化。
上記の内容に対する、社会経済的な対策。
それは、以下の内容である。

（No.1）
社会革命。
それは、従来の共産主義革命のように、一回だけ実施するのでは、社会的には、ほとんど無意味である。
それは、以下のように、実施されるべきである。
社会革命。その、生物社会における、定期化。
社会階級や社会階層や社会体制の初期化。それらの、生物社会における、定期化。

それらの、生物社会における、恒常化や社会制度化。
その実現が、生物社会の生きやすさを、絶えず維持するために、必須であること。

（ No.2 ）
社会的下位者たちの、社会的上位への昇進。
社会的上位者たちの、社会的下位への没落。
それらの、両方同時の実現の、可能性。
それらを、社会的に、常時、十分に高めておくこと。
そのことで、社会的な上下方向の流動を、絶えず確保し続けること。
そのことで、社会の活性化や、社会の風通しの良さを、絶えず実現し続けること。
そのことで、社会全体を、絶えず、生きやすくし続けること。
そのことで、無理な社会革命の発生を無くすこと。
そのことで、毎回の社会革命中の、社会の無駄な混乱を、未然に防止すること。
そのことで、毎回の社会革命後の、新たな上位者による、社会の生きにくさの、再発生の繰り返しを、未然に防止すること。
それらの実現が、良好な生物社会を、絶えず維持するために、必須であること。

（ 2022年5月初出。 ）

生物の共同体。その形成の基盤としての、生物の間における、共通性と統合性の存在。気体的な共同体と、液体的な共同体。

生物における、相互の共通性と統合性の本質的な重視と、共同体の形成。移動生活様式の場合。定住生活様式の場合。

共同体。その、従来の社会学における定義。

例。
R.M.マッキーヴァ—による、コミュニティの概念。それは、以下の

内容である。
共同生活の運営。common life.
人間の間における、彼ら自身の生活の、共有。生物の間における、彼ら自身の生涯の、共有。
空間的な共有。時間的な共有。
無目的性。汎用性。明確な目的がある場合は、それを、associationとして、区別していること。
それは、定義としては、狭すぎること。その理論内容は、交通や通信が未発達の、社会的な状態を反映した内容に、止まっていること。その定義内容の打破が、新たに必要であること。

例。
F.テンニースによる、ゲマインシャフトの概念。それは、以下の内容である。
本質意思による、人間の間の結合。
相互の愛情。相互の親密性。共通の思い出の所有。
そこでは、それらの成立の前提条件となる、生物の間における、愛情や親密性の生じる条件についての解明が、欠如していること。
それは、生物における、愛情や親密性による相互結合を生み出す、心理的な背景基盤についての、基本知識が欠如した状態で、打ち立てられた、古拙な理論であること。その理論内容の打破が、新たに必要であること。

私による、新たな定義。

共同体の起源。
生物の、集団やネットワークの形成における、契機。共通性。統合性。それらの掛け合わせ。commonness. unity.
commonnessには、庶民性という別の意味が存在するので、混同しないように、注意が必要であること。

共同体の定義。
複数の生物の間における、共通性や統合性の存在。彼らが、それらの存在に基づいて形成する、集団や組織やネットワークや全体社会。それらの総称。
複数の生物によって形成される、集団や組織やネットワークや全体社会。それらの中に、成員相互の共通性や統合性が、明確に存在すること。そうした、集団や組織やネットワークや全体社会の、総称。

生物の間における、共通性や統合性。それらに基づいて形成される、生物の共同体。それらは、以下の内容を、生物の間に、生み出す。相互の愛情。相互の親密性。共通の思い出の所有。
生物における、共同体の成立条件。生物相互の間で、共通属性や共通利害や共通関心や共通興味があること。そうした生物相互の間で、意思や意見の統合の可能性があること。
そうした統合の形態。それは、以下の内容である。単極の場合。集団。双極や多極の場合。ネットワーク。目的が有る場合。組織。

遺伝的な共通性。
血縁集団や血縁ネットワーク。
遺伝的な共通属性。種。性別。運動能力。知的能力。性格。

移動生活様式における、血縁集団。例。アラブ。トルコ。
定住生活様式における、血縁集団。例。中国。韓国。

文化的な共通性。
言語。利害。関心。興味。趣味。

生物の共同体。インフラにおける、その成立を可能にする、基盤。
物理的な存在位置の同一性や近隣性。人間社会における、村落や都市。
交通における、相互往来性の確保。
通信における、相互接続性の確保。
それらによる、空間や時間の、共同利用の可能性の、確保。

生物の共同体。それは、以下のように分類される。
空間。時間。
それら全ての共有を行う場合。
それらの部分的な共有を行う場合。

気体的な離散性。そうした性質で動く生物の場合。例。男性優位社会の人々。移動生活様式の人々。
個人主義。自由主義。多様性の重視。チャレンジ精神。それらの価値観の共有。
そのことによる、彼ら自身の存在内容における、相互の共通性と統合性の確保。
そのことによる、相互のスムーズな協業の実現。
彼らの社会関係は、時空間的に、心理的に、離散しているにも関わらず、共同体的であること。

それは、以下の内容である。
気体的な共同体。

液体的な、一体性や融合性。そうした性質で動く生物の場合。例。
女性優位社会の人々。
集団主義。相互統制主義。調和の重視。安全性を保証する前例の、蓄積と改良の、重視。それらの価値観の共有。
そのことによる、彼ら自身の存在内容における、相互の共通性と統合性の確保。
そのことによる、相互のスムーズな協業の実現。
彼らの社会関係は、時空間的に、心理的に、まとまり、一体化し、融合しており、それらの点において、根源的に、共同体的であること。
それは、以下の内容である。
液体的な共同体。

（2022年5月初出。）

生物における、社会的な、優位性や上位性。生物における、社会的な、劣位性や下位性。

生物における、社会的な、優位性や上位性。それは、以下の内容である。
有能性。既得権益。それらの所有における、豊潤性や富裕性。その度合いの、社会的に、相対的な、高さ。
生物における、社会的な、劣位性や下位性。それは、以下の内容である。
有能性。既得権益。それらの所有における、豊潤性や富裕性。その度合いの、社会的に、相対的な、低さ。

生物は、彼ら自身の所持する、社会的な優位性や上位性それ自体と、その事実を示す情報を、彼ら自身が、受容したがる。
例。
彼ら自身における、身体的な優等性や、身体的な標準性の、自己所有の受容。
彼ら自身における、身体的な優等感や、身体的な標準感に対する、

自己受容の積極的容認。
それらの例。人間の女性における、彼女自身の女体カーストの高さについての、自己受容の積極的容認。

生物は、彼ら自身の所持する、社会的な劣位性や下位性それ自体と、その事実を示す情報を、彼ら自身が、拒絶したがる。
例。
彼ら自身における、身体的な劣等性や、身体的な奇形性の、自己所有の拒絶。
彼ら自身における、身体的な劣等感や、身体的な奇形感に対する、自己受容の拒絶。
それらの例。人間の女性における、彼女自身の女体カーストの低さについての自己受容の拒絶。

生物は、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、公開し、それらの発信や誇示を促進したがる。
彼自身の所持する、社会的な優位性や上位性。それ自体。その事実を示す情報。
例。
レースクイーンの女性が、以下の内容の情報を、周囲の社会や全体社会に向けて、積極的に、SNS配信したがること。
彼女自身の優れた容姿についての写真画像。

生物は、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、隠ぺいし、それらの発信や誇示を回避したがる。
彼自身の所持する、社会的な劣位性や下位性。それ自体。その事実を示す情報。
例。
彼女自身の身体的特徴に劣等感を抱く、女性。
彼女が、以下の内容の実現を、拒絶すること。
彼女が、以下の内容の情報を、周囲の社会や全体社会に向けて、積極的にSNS配信すること。
彼女が、以下の内容の情報を、他者によって、周囲の社会や全体社会に向けて、勝手にSNS配信されること。
彼女自身の容姿についての写真画像。

＝＝＝

生物。彼ら自身が、発情期で無い場合。
彼らは、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、隠ぺいす

る。彼らは、それらの内容の、発信や誇示を、回避したがる。
彼ら自身が、性的発情中の状態であることを示す、情報。
彼ら自身の性的発情中における、彼ら自身の生体反応。それらの内容についての、情報。

生物。彼ら自身の発情期が、不定である場合。
彼らは、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、隠ぺいする。彼らは、それらの内容の、発信や誇示を、回避したがる。
彼ら自身が、性的発情中の状態であることを示す、情報。
彼ら自身の性的発情中における、彼ら自身の生体反応。それらの内容についての、情報。

例。
人間の女性が、周囲の視線が集中する満員電車の中で、彼女自身が痴漢に遭遇して、発情することを、嫌うこと。

＝＝＝

生物は、彼自身の所有する有能性の、他者への提供に対して、借用者から、対価や賃貸料を、強制的に、徴収しようとする。
生物は、彼自身の所有する物品や情報や権益の、他者への貸し出しに対して、借用者から、賃貸料を、強制的に、徴収しようとする。
生物は、彼自身の所有する物品や情報や権益の、他者への所有権移転に対して、購入者から、対価を、強制的に、徴収しようとする。

生物は、以下の内容を、嫌う。
彼自身の所有する有能性。
それらが、彼自身の許可無しに、他の生物によって、勝手に、使用されること。
その生物は、そうしたフリーライダーに対して、徹底的に抗戦しようとする。

生物は、以下の内容を、嫌う。
彼自身の所有する物品や情報や権益。
それらが、彼自身の許可無しに、他の生物から、勝手に、その表面を浸食されたり、その内部への侵入を受けること。
その生物は、そうした浸食者や侵入者に対して、徹底的に抗戦しようとする。

生物は、以下の内容を、確保したがる。

そうした、フリーライダーに対する抗戦。
そうした、強制浸食者や、強制侵入者に対する抗戦。
そうした抗戦における、彼自身の、防御有能性や反撃有能性。
そうした抗戦における、彼自身が保有する、防御や反撃のための資源や設備の、有効性。
生物は、以下の内容を、周囲に向けて、発信したがる。
それらの有能性の確保が既になされていること。

生物は、以下の内容を、打ち消し、周囲に向けて、隠ぺいしたがる。
そうした、フリーライダーに対する抗戦。
そうした、強制浸食者や、強制侵入者に対する抗戦。
そうした抗戦における、彼自身の、防御不能性や反撃不能性。
そうした抗戦における、彼自身が保有する、防御や反撃のための資源や設備の、無効性。

例。
人間の女性が、以下の内容を、嫌うこと。
彼女が、周囲の他者によって、彼女自身の身体を、彼女自身の許可無く、勝手に触られること。
人間の女性が、以下の内容を、周囲に対して知られること。彼女自身の、そのことに対する、防御不能性。
人間の女性が、そうした状況の発生を、嫌うこと。
それは、以下の内容と、同等である。
不動産物件の所有者が、彼ら自身の所有する不動産物件を、彼ら自身の許可無く、他者によって、その表面を触られたり、その内部侵入を受けること。

生物は、それらの心理的傾向を、社会的なルールとして、定めようとしたがる。
生物は、それらの心理的傾向に反する行為を行う他者を、社会的なルールへの違反者として、定めようとしたがる。

＝＝＝

生物は、他の生物に対して、奪取や搾取を、勝手に実行したがる。
その生物は、そのことで、彼自身の生きやすさを、自分勝手に、向上させる。

生物は、他の生物の所有する有能性を、勝手に使用したがる。

その生物は、そのことで、彼自身の生きやすさを、自分勝手に、向上させる。

上位者は、下位者の所有する有能性を、勝手に使用したがる。
その上位者は、そのことで、彼自身の上位性を、自分勝手に、周囲に向けて、誇示する。

生物は、他の生物の所有する物品や情報や権益を、浸食し、奪取したがる。
その生物は、そのことで、彼自身の生きやすさを、自分勝手に、向上させる。

上位者は、下位者の所有する物品や情報や権益を、強制的に、浸食し、奪取したがる。
その上位者は、そのことで、彼自身の上位性を、自分勝手に、周囲に向けて、誇示する。

例。
人間の場合。
筋力が弱い女性に対して、強制的に、性的行為を行う、筋力が強い男性。
例。
生物の場合。
女性は、一般的に、生殖設備の大半を自前で所有する機会を、生得的に確保している。
男性は、一般的に、生殖設備の大半を自前で所有する機会を、生得的に喪失している。
そうした女性一般が、そうした男性一般に対して、彼女自身が所有する生殖設備の貸し出しと引き換えに、彼自身に対して、経済的な朝貢の実行を、生涯にわたって、強制すること。
女性一般が、そうした行為の、社会的な容認や、社会的なルール化を、促進したがること。

そのことは、以下の内容と、同等である。
不動産物件の所有者が、彼ら自身の所有する物件についての賃貸料を、それらの借用者から、強制的に徴収すること。
不動産物件の所有者が、そうした行為の、社会的な容認や、社会的なルール化を、促進したがること。

その結論。
それらのことは、以下の内容と、同等である。
有能性や既得権益の所有者が、それらについての賃貸料を、それらの借用者から、強制的に徴収すること。
有能性や既得権益の所有者が、そうした行為の、社会的な容認や、社会的なルール化を、促進したがること。
上位者が、そうした行為の、社会的な容認や、社会的なルール化を、促進したがること。

有能性や既得権益の所有者。彼らは、彼ら自身の脅威やライバルの存在を、社会的に抹消しようとする。
生物が、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、公開し、発信し、誇示すること。
彼自身の所持する、社会的な優位性や上位性。それ自体。その事実を示す情報。
それは、彼自身の上位者やライバルの心理を、一方的に、刺激する。
それは、彼自身の上位者やライバルにおいて、彼自身に対する警戒心を、引き起こす。

その結果。
彼自身の上位者やライバルは、彼自身の存在を社会的に抹消する方向へと、動き出す。
そのことは、彼自身の生きやすさを、大きく損ねる。
彼は、彼自身において、その状況の発生を、回避しようとする。

その結果。
生物は、表向きは、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、隠ぺいし、それらの発信や誇示を回避しようとする。
彼自身の所持する、社会的な優位性や上位性。それ自体。その事実を示す情報。
生物は、彼自身の本心においては、以下の内容を、周囲の社会や全体社会に向けて、引き続き、公開し、発信し、誇示しようとする。
彼自身の所持する、社会的な優位性や上位性。それ自体。その事実を示す情報。

それら両者の意思の、彼自身の生涯における、配分の塩梅の調整の難しさ。
それは、生物における、その生涯にわたっての、継続的な課題であ

る。
それは、生物における、その子孫代々にわたっての、永遠の課題である。

ある生物が所有する、同一内容の、能力や権益。
それらは、その生物が存在する環境によって、有効であったり、無効であったりする。
例。
強力な、独創的論理的思考力。強力な、気体的思考力。
それは、移動生活様式において、有効である。それは、男性優位社会において、有効である。
それは、定住生活様式において、無効である。それは、女性優位社会において、無効である。
その能力の、所有者。
彼らは、移動生活様式における、有能者である。彼らは、男性優位社会における、有能者である。彼らは、それらの社会における、上位者である。
彼らは、定住生活様式における、無能者である。彼らは、男性優位社会における、無能者である。彼らは、それらの社会における、下位者である。
例。
強力な、同調的調和的思考力。強力な、液体的思考力。
それは、定住生活様式において、有効である。それは、女性優位社会において、有効である。
それは、移動生活様式において、無効である。それは、男性優位社会において、無効である。
その能力の、所有者。
彼らは、定住生活様式における、有能者である。彼らは、女性優位社会における、有能者である。彼らは、それらの社会における、上位者である。
彼らは、移動生活様式における、無能者である。彼らは、男性優位社会における、無能者である。彼らは、それらの社会における、下位者である。
例。
強力な、水利灌漑用の、ポンプ。
それは、水利が存在する環境において、有効である。
それは、水利が存在しない環境において、無効である。
その設備の所有者。
彼らは、水利が存在する環境の社会において、優位である。彼ら

は、それらの社会における、上位者である。
彼らは、水利が存在しない環境の社会においては、特に、優位では、全く無い。彼らは、それらの社会における上位者であるとは、言えない。

ある生物が、その生物が存在する環境を、彼自身によって、変更する場合。
その生物は、以下の内容に対する対処が、必要である。
その生物が所有する、能力や権益。それらの新たな有効化や無効化に対する備えを、予め完了させておくこと。
例。
人間による、大量の石炭や石油などの、エネルギー消費。それらがもたらす、地球における、気候温暖化。人間が、その発生に対する対策を、予め完了させておくこと。

（2022年5月初出。）

生物における、有能性。

生物における、生きやすさの確保しやすさ。
水分。栄養分。生活における、快適性。生活が、楽であること。生活における、危険や脅威の、回避しやすさ。それらの確保しやすさ。
生物における、自己保存や自己複製の、実現しやすさ。有性生殖の場合。それらの実現において、より有利な条件を所有している配偶者。そうした配偶者の、獲得しやすさ。
#生殖能力。子孫の残しやすさ。遺伝的子孫。文化的子孫。
#健康さ。病気の、回避や治癒の、しやすさ。長生きしやすさ。
#心身の能力。勢力の強さ。操縦性の良さ。機動性。詰めの強力さ。強靭さ。敏捷さ。持続性。エネルギー効率性。
##生理的基盤の良好性。内蔵機能の良好性。筋肉や骨や関節の良好性。運動能力。
##精神的能力。神経系の能力。知的能力。情緒的基盤の良好性。
#生きやすさの収支を、黒字化する能力。生きやすさの、自己生成能力。自己生成した生きやすさの、交換や販売の、能力。生きやすさの、労働による、獲得能力。生きやすさの、不労による、獲得能

力。生きやすさの消費における、節約能力。
#生きやすさの奪い合いのための、競争や闘争に、打ち勝つ能力。社会的上位者になる能力。獲得した社会的上位性を、維持する能力。獲得した社会的上位性を、子孫代々へと継承する、能力。

社会的な上位性。
それは、以下の内容により、構成される。
有能性。所有する既得権益の、豊潤性。

社会的上位性の実現においては、有能性が、より本質的である。
生物は、既得権益を失った場合、有能であれば、再び、既得権益を獲得出来て、社会的上位性を、取り戻すことが出来る。
生物は、無能な場合、いったん、既得権益を失うと、社会的上位性を、取り戻すことが、二度と出来ない。

（2022年5月初出。）

生物における、社会思想史。

生物の本質自体が生み出す、彼ら自身の社会生活における、根本的な不快感の、連続的発生。
それらは、以下の内容である。
様々な内容の、生物の原罪。
それらの克服や’超越を、何とかして実現すること。
そのことで、彼ら自身の社会生活を、抜本的に、快適化すること。
それは、以下の内容である。
社会的理想の実現。
そのための、様々な試行錯誤の連続。それらの時系列的発生。
それらの内容の、リアルタイムか回顧での、記録。

生物における、政治思想史。
生物における、社会思想。
それらの、社会的上下関係の領域に対する適用。
それらの時系列的発生。
それらの内容の、リアルタイムか回顧での、記録。

生物における、社会的理想。

生物が、彼ら自身の原罪を、抜本的に、克服し、超越すること。
そのことで、生物が、彼ら自身の社会生活を、抜本的に、快適化すること。
それらの実現をもたらすために、彼ら自身の社会生活において、優先的に採用すべきとされる、考え方や、行動の枠組み。

（2022年5月初出。）

西欧や北米における、社会思想の、特徴。

近代や現代の、西欧や北米における、社会思想の特徴。それらは、以下の内容である。

（１）
気体的思想。その思想は、以下の内容を反映している。移動生活様式。社会における、男性優位。

01　個人主義。自由主義。チャレンジ精神。上位者に対する、個人の自由や、個人の自主独立性の、確保。上位者に対する批判の、積極的な容認。
具体的な例。イギリスやフランスにおける、社会契約論。

02　理性や客観性や論理性の、重視。
具体的な例。ドイツやフランスにおける、理性重視の、哲学。

03　実証的な科学的精神の、重視。
具体的な例。プロテスタントの精神に基づく、産業革命と科学の、進展。

（２）
人間を、他の生物から、峻別すること。人間を、他の生物に対する、特別な選ばれた上位者として、扱うこと。そうした、強迫観念。
その思想は、以下の内容を反映している。
移動生活様式における、家畜の、飼育と屠殺の、日常生活における、常態化。
その結果。

日常的な屠殺対象としての家畜を、人間と近い生物と捉えることが、社会的禁忌であること。
具体的な例。旧約聖書における、天地創造のプロセスや、選民思想。それらの、社会的な信仰。

（３）
人間における、生物の原罪の超越と、そのための、社会的理想の実現の、追求。そうした、強迫観念。
例。上位者による、下位者に対する、虐待と搾取の常態化。そのことに対する、下位者における不満の感情や、上位者における負い目の感情。それらの社会的解決に対する、強い願望。
具体的な例。フランス革命。社会主義。民主主義。

（４）
貧しく苛酷な、周囲の生存環境がもたらす、以下の内容の社会的行為。架空の絶対者に対する、心理的な救助を求める、真摯な、願いや祈りと、社会的な恭順。そうした行為に対する、強迫観念。
具体的な例。キリスト教における、父なる唯一神の、信仰。宗教改革。
社会的な最上位者における、彼ら自身の、絶対者との同一視。
具体的な例。フランスやドイツやイギリスにおける、絶対王政。

（2022年5月初出。）

中国における、社会思想の、特徴。

古代から現代までの、中国における、社会思想の特徴。それらは、以下の内容である。

（１）
液体的思想。
その思想は、以下の内容を反映している。定住生活様式。社会における、女性優位。

01　調和主義。同調主義。全体主義。周囲の流れに沿って、周囲の流れに合わせて、生きること。周囲との、一体性や融和性の重視。閉鎖性や排他性。前例踏襲と前例改良。

具体的な例。道教。

02　関係や縁故の構築の重視。規制と統制と秩序の重視。社会的最上位者による、下位者に対する、社会的な操縦や制御。その心得。上位者に対する批判の、禁止。下位者による、上位者に対する、懐きや忠誠。上位者による、下位者の、温かな包含。そうした社会関係の重視。社会的上下関係に基づく、社会的儀礼の重視。
具体的な例。儒教。

（２）
他の勢力との間における、生きやすさの奪い合いにおいて、継続的に、有利性や優位性を、得ること。社会的な最上位性の、実現と維持。そのための戦略や知恵。
具体的な例。孫子の兵法。

（2022年5月初出。）

生きやすさの無償提供。製品の無償提供。そうした行為が、生物に対してもたらす、効果。

製品の無償提供。
それは、以下の内容である。
生きやすさの無償提供。
それは、以下のような効果を、もたらす。
その製品の、普及しやすさや、増殖のしやすさの、最大化。
その製品の、増殖しやすさや、生き残りやすさの、最大化。
その製品の製造者における、彼ら自身の子孫の、増殖しやすさや、生き残りやすさの、最大化。

（2022年5月初出。）

高需要の生きやすさの、供給。そうした行為

が、生物に対してもたらす、効果。

需要の高い、生きやすさ。
それらの、市場に対する、大量供給。
それらに対する、交換対価の、大量の受け取り。
それらの大量の蓄積。
それは、以下の内容である。
交換可能な生きやすさの、大量蓄積。
既得権益の大量蓄積。
独立性の強化。権力基盤の強化。社会的上位性の実現。

（2022年5月初出。）

社会における、生きやすさの蓄積の、促進要因。資本主義の促進要因。社会の近代化の要因。

（１）
男性優位社会の場合。気体的思想。
例。西欧社会の近代化。M.Weber. "プロテスタンティズムの倫理と、資本主義の精神。"

彼ら自身の社会が内包する、貧相性。その自覚を、持ったこと。
そうした状態からの脱却すること。そのために、絶えず、勤勉に働くこと。そのことで、豊潤性を得ること。その実現の必要があったこと。
勤勉性。
節約性。
個人主義。自由主義。独立性。自律性。それらの、感情的な死守。
合理性や客観性や科学性。
論理性。
未知領域に対する、探査性。
自己拡大性。

チャレンジ精神。批判の精神。
情緒表出の欠如。
弱肉強食の重視。
死後の世界において、快適で楽な暮らしを、したいこと。
そのために、現世において、絶対者の唯一神に対して、功徳を、出来るだけ積んでおきたいこと。
功徳の蓄積。それは、労働への対価の蓄積であること。
それらは、以下の内容へと、つながっていること。功利性の追求。
そうした内容の、独自の資本主義。理性的資本主義。

（２）
女性優位社会の場合。液体的思想。
例。近現代の中国における、華僑の精神。

彼ら自身の社会が内包する、豊潤性。その自覚を、持っていること。
勤勉性。
節約性。
実利性。
集団主義。全体主義。調和主義。それらの、感情的な死守。
しなやかさ。柔軟性。
縁故や関係の構築の重視。縁故や関係の無限拡大の重視。それらの実現のために必要な、共感性の重視。
権益配分における、部内者限定性や、閉鎖性や、排他性。
成功した前例の踏襲と蓄積に対する、飽く無き、情熱や固執。
情緒表出性。非合理性。根性論。精神主義。情熱性。
共存共栄の重視。

彼ら自身の生存の存続。彼ら自身の、更なる富裕化。
そのための、投資効果の最大化。そのための、投資効果の永続化。
それらの実現のために、手段を選ばずに、なりふり構わず、何でもやること。
それらの実現のために、時間や手間を、一切、惜しまないこと。
それらの実現のために、互いに、全ての時間や手間を、全力で捧げること。
そうした内容の、独自の資本主義。何でもやる資本主義。

（2022年6月初出。）

社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。M.Weber.

M.Weber.
理念型。
それらの提唱内容についての、私による、液体的思想や、生物本位の思想に基づく、批判と、修正。
それらは、以下の内容である。

M.Weber.
価値自由。
社会研究者が、社会分析を行う前提となる価値観を、自由に、選択できること。
社会研究者が、以下の内容の意識を、持つこと。
彼自身が、どの価値観に基づいて、社会分析を行っているか？
そのことについての、彼自身による、自覚。

それは、自由への指向に、基づいている。
それは、気体的思想のみに、大きく偏っている。
それは、正しくは、液体的思想への対応が、新たに必要である。
液体的思想の場合。
それは、以下の内容である。
価値への愛着。価値への一体融合化。
周囲の他者が抱く価値との、同調や調和の、確保。

価値自由。
それは、結局は、以下の内容である。
気体的思想が内包する価値に対する、愛着や一体融合化。
気体的思想が内包する価値に対する、隷従。

M.Weber.
官僚制。
明確な権限の分配。
官職における、ヒエラルヒーの原則。
文書主義の原則。
公私の分離。
職務遂行上の規則の習得の必要化と、そのための専門的訓練の実施。
職務の専業化の明確化。

その概念は、気体的思想で動く社会における、組織や集団に対してのみ、有効である。
液体的思想で動く社会における、官僚制。
それは、以下の内容である。

権限のアメーバ的な融合と分離の繰り返し。
官職における、局所的閉鎖的小集団と、それらを繋ぐネットワークの、同時形成の、原則。
文書非公開の原則。
公私の融合。
職務遂行上の前例の習得の必要化と、そのための汎用的訓練の実施。
職務における、融通性や柔軟性や融合性の確保。

M.Weber.
カリスマ的支配。合法的支配。伝統的支配。

伝統的支配。
古くからの、しきたりや、家柄や、血筋などが根拠になった、支配関係。
長い間に確立された、文化的様式。
それらに対する畏敬。それによって正当化された、支配。
例。中世ヨーロッパにおける、世襲貴族による、支配。

カリスマ的支配。
上位者個人が所有する、超人的な資質。それに対して、下位者が、自発的に、進んで服従すること。そのような支配関係。
ある上位者個人に備わった、非日常的な天与の資質。カリスマ。そ

れが持つ権威。
その上位者個人による、啓示や、英雄的行為や、指導者的資質の提示。
それらに対する、下位者による、全面的な、人格的な、帰依と信頼。
それらに基づく、支配。
例。預言者。呪術者。英雄。彼らによる、社会支配。

合法的支配。
法などの規則が根拠になった支配関係。
規則に対しての服従が、なされていること。
制定法規の妥当性に対する、信念。
合理的に作成された規則に依拠した、客観的な権限。
それらに基づいた、支配。

それらは、分類としては、要素還元の度合いにおいて、不徹底である。
それらは、正しくは、以下の内容であるべきである。

////
社会的上下関係の遵守。

上記の社会的行為の実行における、以下のような価値観の、重視。

// 伝統的支配。
伝統の保持。
慣性法則への依拠性。
遺伝的な、同質性や純粋性。文化的な、同質性や純粋性。
既得権益の保持。

// カリスマ的支配。
有能性。
個人性。
非日常性。
キャラクターの濃さ。

// 合法的支配。
根拠の明確性。
妥当性。

合理性。客観性。

////

上記の三つの支配類型は、同時に並存する。

西欧における、社会の近代化。
それは、男性優位社会の、移動生活様式の、気体的思想の、伝統に、忠実に基づいている。それは、伝統的支配の産物である。
それは、有能な個々人による、ブレークスルーに、依拠している。
それは、カリスマ的支配の産物である。
それは、合法的支配のみの産物では、決して無い。

M.Weber.
伝統的行為。情動的行為。目的合理的行為。価値合理的行為。

//
伝統的行為。行為の目的と手段が、共に習慣化している、行為。伝統的な慣行と慣習に基づく行為。
彼は、その概念の形成において、以下の両者が持つ対照的な内容を、彼自身の不注意によって、混同している。
西欧社会における、伝統的な、個人主義と自由主義のような気体的思想に基づく、移動生活様式。
女性優位社会における、前例踏襲と前例蓄積のような液体的思想に基づく、定住生活様式。

革新性。独創性。前例破壊性。
それは、気体的思想の社会における、伝統である。
それは、伝統の破壊では、少しも、無い。

伝統の破壊。
それは、以下の内容である。
気体的思想を、液体的思想によって、上書きすること。
液体的思想を、気体的思想によって、上書きすること。

//
情動的行為。行為の目的と手段が、感情によって決まる、行為。

その概念は、以下の内容である。合理性の追求は、情動的行為では無い、とする主張。
それは、生物的見地からは、妥当ではない。
合理性の追求。それは、気体的思想の実行を生得的に追求する、男性的な情動に、基づいている。
合理性は、情動性の一種である。
合理性を、情動性と切り離して考える、彼の概念。それは、内容的に、誤りである。

//
目的合理的行為。合理的な目的の、合理的な追求。
価値合理的行為。彼ら自身が、心情的に信奉する価値の実現。その目的化。その、合理的な追求。
それらの概念は、以下の内容である。不合理性に対する、軽蔑や偏見。
それは、生物的見地からは、妥当ではない。
それは、正しくは、以下のような内容であること。
生きやすさの向上につながる行為。それらは、合理性の有無に関わらず、全て、何らかの形で、生物にとって、環境適応的である。
例。
M.Weberのような、男性優位社会の男性における、液体的思想の実在に対する、拒絶や無視の、感情。
それらの感情は、不合理的であるが、そうした男性が、彼自身の精神を健康に保つ上では、必要であること。

M.Weber.
彼の思想においては、以下のような傾向が、根強い。
（１）
生物としての、社会的行為に対する動機付けの視点。そうした視点が、完全に欠如していること。
社会的行為における、生物的な基盤や、生物的な動機付け。
それは、以下のような内容である。
自己保存。自己複製。自己増殖。自己永続。それらの実現。生きやすさの獲得。生きやすさの実現。生きやすさの蓄積。生きやすさの占有。

（２）
気体的思想への、内容面での、根本的な偏り。液体的思想の、拒

絶。
それらは、生物社会一般や人間社会の把握において、内容の歪曲や、視野の狭窄を、もたらしている。
その思想内容の適用範囲は、気体的思想の社会へと、限定される。
その思想内容は、決して、普遍的では、あり得ない。

（2022年6月初出。）

社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。**G.Simmel.**

G.Simmel.
心的相互作用。
それは、生物的な見地からは、以下のような表現へと、書き換えられる。
神経系同士の相互作用。

G.Simmel.
社会化の形式。
人間相互が、相互に関わり合って、社会として、まとまりのある共同生活を、生み出している、反復的で原理的な、形式。

その内容は、生物的な見地からは、以下のような表現へと、書き換えられる。
神経系同士が、相互作用によって生成する、ネットワークとしての社会。その生成の形式。

社会化の形式。その、G.Simmelによる、提唱内容。
それらは、以下の内容である。
上下関係。闘争や競争。模倣。分業。派閥の形成。代表者の生成。
それらは、生物的な見地において、そのまま有効利用が可能な、優れた分析内容である。

G.Simmel.
形式社会学。
人間社会における、内容と形式とを、分離すること。そうした形式を、社会分析において、独自に優先して、取り扱うこと。そうした学問。
その内容は、生物的な見地からは、以下のような表現へと、書き換えられる。
神経系同士のネットワークや社会における、内容と形式とを、分離すること。そうした形式を、社会分析において、独自に優先して、取り扱うこと。そうした学問。
神経系同士のネットワークや社会における、内容。それは、情報である。

G.Simmel.
社会変動。社会の近代化。

//
G.Simmel.
同質的な融合状態から、異質的な統合状態へ。

それは、生物的な見地からは、適切である。
それは、以下の内容である。
各々の生物における、より高度な生きやすさの獲得の、追求。
彼らによる、そうした行為がもたらす、社会的分業の進展。

それは、液体的思想の見地からは、不適切である。
液体的思想の社会。女性優位社会。
そうした社会は、社会全体における、同質性や同調や調和を、最優先で、確保する。
そうした社会においては、同質的な融合状態が、上位であり、異質的な統合状態は、下位である。
そうした社会においては、社会全体の同質的な融合状態を、先ず確保する。そうした社会は、その範囲内において、社会的分業を、必要に応じて、かなりの程度まで、進展させる。
そうした液体的思想の社会は、気体的思想の社会と併存する形で、問題無く、繁栄し続けている。
//

//
G.Simmel.
有機的な運命共同体から、合理的な自発的集団へ。
それは、気体的思想の見地においてのみ、適切である。
それは、液体的思想の見地からは、不適切である。
液体的思想の社会。女性優位社会。
そうした社会においては、集団や全体社会が、それらのメンバーが互いに一体融合化して、まとまって動く、運命共同体で、あり続ける。
そうした社会においては、全体の同調や調和の確保が、最優先され、その範囲内で、合理性や、自発性が、発揮される。
そうした液体的思想の社会は、気体的思想の社会と併存する形で、問題無く、繁栄し続けている。
//

（2022年6月初出。）

社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。E.Durkheim.

//
E.Durkheim.
社会分業論。同質性に基づく機械的連帯から、異質性に基づく有機的連帯へ。

それは、生物的な見地からは、適切である。
それは、以下の内容である。
各々の生物における、より高度な生きやすさの獲得の、追求。
彼らによる、そうした行為がもたらす、社会的分業の進展。

それは、液体的思想の見地からは、不適切である。
液体的思想の社会。女性優位社会。
そうした社会は、社会全体における、同質性や同調や調和を、最優先で、確保する。

そうした社会においては、同質的な融合状態が、上位であり、異質的な統合状態は、下位である。
そうした社会においては、社会全体の同質的な融合状態を、先ず確保する。そうした社会は、その範囲内において、社会的分業を、必要に応じて、かなりの程度まで、進展させる。
そうした液体的思想の社会は、気体的思想の社会と併存する形で、問題無く、繁栄し続けている。
//

//
E.Durkheim.
集合意識。社会の、個人に対する外在性。社会による、個人に対する、外的拘束。
それらは、生物的な見地からは、適切である。
それは、以下の内容である。
生物の存在における、本質的な、複数性。
生物における、重要な本質は、自己複製と、自己増殖である。
その結果。
生物は、単体では、存在しない。
生物は、常に、複数、存在する。
その結果。
ある生物の周囲には、常に、他の生物が、外在する。
ある生物の存在は、そうした周囲の他の生物たちによって、外的に拘束される。
そうした複数の生物同士の相互作用のネットワーク。それが、生物の社会である。
その結果。
ある生物の周囲には、常に、生物の社会が、外在する。
ある生物の存在は、そうした生物の社会によって、外的に拘束される。

そうした各々の生物における神経系活動の、社会的結合体や、社会的集合体。それが、集合意識である。
//

//
E.Durkheim.
犯罪の概念。ある行為は、人々が、その内容を非難することで、初

めて、犯罪となること。
それは、生物的な見地からは、不適切である。
それは、以下の内容である。
ある生物に対して、彼ら自身の生きやすさを減価させる、行為。
ある生物に対して、生きにくさをもたらす、行為。
それらは、生物の本質において、犯罪である。
それらは、彼ら自身が、それを犯罪と呼ばなくても、既に、最初から、犯罪である。
//

//
E.Durkheim.
自殺の概念。人々の自殺率の高さは、人々が所属する集団の凝集性の低さに、比例すること。
それは、生物的な見地においては、以下の内容である。
単独行動する生物は、集団行動する生物よりも、孤立無援に陥りやすい。
単独行動する生物は、集団行動する生物よりも、生きやすさの確保において、詰みやすい。
単独行動する生物は、集団行動する生物よりも、将来の自己生存の見通しに関して、絶望しやすい。
その結果。
単独行動する生物は、集団行動する生物よりも、自殺しやすい。
単独行動する生物。例。気体的思想の所有者。精子。男性。移動生活様式の人々。男性優位社会の人々。
集団行動する生物。例。液体的思想の所有者。卵子。女性。定住生活様式の人々。女性優位社会の人々。
//

（2022年6月初出。）

周囲との同化を拒絶する、生物や人間。彼らを待ち受ける、苛酷な運命。

周囲との同化を拒絶する、生物。
彼らは、周囲の生物から、迫害され、抹消される。
その背景。
生物は、自己複製と、自己増殖によって、専ら、生き続ける。
生物は、彼ら自身と同質な生物を、自己と相同な存在と見なし、本質的に、好む。
生物は、彼ら自身と異質な生物を、自己と不相同な存在と見なし、本質的に、嫌う。
生物は、同質性を、本質的に、好む。
生物は、異質性を、本質的に、嫌う。
生物は、彼ら自身と同質化する生物を、本質的に、好む。
生物は、彼ら自身との同質化を拒否する生物を、本質的に、嫌う。

人間の場合。

例。
ドイツ人による、ユダヤ人に対する、迫害や、存在抹消の、試み。
ナチズム。
その根本的な発生原因。
ユダヤ人は、周囲のドイツ人に対する同化を、歴史的に、徹底的に、拒絶し続けたから。
ユダヤ人は、周囲の他民族に対する同化を、現在に至るまで、拒絶し続けているから。

例。
白色人種による、黒色人種や黄色人種に対する、迫害や、差別の、歴史。
その根本的な発生原因。
黒色人種や黄色人種は、以下の内容の実現が、現在に至るまで、遺伝的に不可能だから。
皮膚の色における、周囲の白色人種に対する、同化。

例。
欧米諸国による、ロシアや中国に対する、国際的な、迫害や差別の、試み。
その根本的な発生原因。
ロシアや中国は、定住生活様式で、液体的思想で、女性優位で、動く。

欧米諸国は、移動生活様式で、気体的思想で、男性優位で、動く。
ロシアや中国。
彼ら自身の、生活様式や思想における、欧米諸国に対する、同化。
それは、食糧確保の環境の側面において、今後も、根本的に、不可能であること。

結論。
人間の場合。
周囲の他者との同化を拒絶し続ける、個人。
彼は、周囲の他者から、迫害され、抹消される。
周囲の他者との同化を拒絶し続ける、人々。
彼らは、周囲の他者から、迫害され、抹消される。

（2022年6月初出。）

社会の近代化。そのプロセスの把握。

社会における、発展段階説。

（１）
男性優位社会。西欧の場合。液体的状態から、気体的状態への、移行。
例。K.Marx. 生産様式の発展段階。
それは、以下の複数の段階を、踏む。
//
アジア的生産様式。
古代的生産様式。 --- 奴隷制。
封建的生産様式。 --- 封建制。
近代ブルジョア的生産様式。 --- 資本制。
//

上記の内容についての、私による、問題点の指摘。

それは、以下の内容である。
液体的思想から、気体的思想への、歴史的発展。そうした発展に伴う、気体的思想の普遍化と、液体的思想の消滅。
それらの内容を、根拠無く、前提として、想定していること。
それは、正しくは、以下のような内容であること。
液体的思想と、気体的思想との、並立的分業状態の、永続。
それは、以下のような内容に、基づく。
有性生殖を行う、生物において。
生殖細胞としての、卵子と、精子との、並立状態の、永続。
生物としての、女性性と、男性性との、並立状態の、永続。

（２）
女性優位社会。日中韓の場合。液体的状態と、気体的状態との、並存。
それは、以下の複数の段階を、踏む。
//
気体的思想の社会における、初期的な新機軸の思想の、発見や発明。
気体的思想の社会から、液体的思想の社会への、それらのノウハウの、コピーと移転。
液体的思想の社会における、それらの内容の、高品質化。
液体的思想の社会における、それらの内容における、最高の完成度の実現。
液体的思想の社会における、それらの内容における、最終的な完成形の出力。
//

共同体の社会慣行。共同生活。

（１）
男性優位社会。気体的思想の社会。西欧の場合。
それらの、社会近代化に伴う、弱体化や、消滅。

（２）
女性優位社会。液体的思想の社会。日中韓の場合。
それらの、社会近代化の前後における、強固な存続。

（2022年6月初出。）

社会変動の要因。

（１）
無機的な環境変動。
降雨量の低下。それらがもたらす、陸上生物における、水分の確保に対する、世界規模の、新たな困難性。
太陽活動の変動。地球の火山の大噴火。気温の上昇や低下。それらがもたらす、生物における、食糧の確保に対する、世界規模の、新たな困難性。
地震や台風や津波。それらがもたらす、生物における、住居の確保に対する、世界規模の、新たな困難性。

（２）
生物的な環境変動。

生物における、以下の内容の実現に対する、上限の無い、強力な衝動の、存在。
//
彼ら自身における、生きやすさの向上。
彼ら自身における、社会的上位性の獲得。

彼ら自身が、いったん獲得し蓄積した、生きやすさ。既得権益の所有。それらの、持続や永続。
彼ら自身が、いったん獲得し蓄積した、社会的上位性。それらの、持続や永続。

彼ら自身における、生きやすさの向上。
彼ら自身における、社会的上位性の獲得。
彼ら自身が、それらの実現の容易性の欠如について、既存の社会に対して、不満を持った場合。
彼ら自身による、既得権益の所有者たちからの、既得権益の剥奪。
彼ら自身による、既存の社会的上位者たちの、追い落とし。
それらの実行による、以下の内容の実現。

彼ら自身における、生きやすさの、更なる向上。
彼ら自身における、社会的上位性の、更なる獲得。
//

（2022年6月初出。）

上位者による、社会支配。下位者による、それに対する束縛。それらの是非。

上位者による、恣意的な社会支配。絶対主義。
上位者による、個人的な社会支配。独裁。
下位者たちによる、そうした上位者に対する、束縛の実施。その実現可能性の、確保。その必要性の主張。
例。欧米諸国における、民主主義。

そうした主張に対する、反論と、賛成論。

有能な上位者による、恣意的で、個人的な、支配。
それは、社会における、下位者の生きやすさを、向上させる。
それは、社会的に、許容されるべきである。
無能な下位者たちによる、そうした上位者に対する、束縛の実施。
それは、社会における、下位者自身の生きやすさを、低下させる。
それは、社会的に、禁止されるべきである。

無能な上位者による、恣意的で、個人的な、支配。
それは、社会における、下位者の生きやすさを、低下させる。
それは、社会的に、禁止されるべきである。

下位者たちによる、上位者に対する、束縛の実施。その実現可能性の、確保。その成功についての、主張。
例。欧米諸国における、議会制民主主義の成功についての、社会的主張。

それは、実際には、以下のような内容である。
他の上位者たちによる、ライバルの上位者たちに対する、束縛の実施。その実現可能性の、確保。
そうした社会における、下位者たち。
彼らは、最初から、それらの蚊帳の外に置かれたままである。
彼らは、上位者たちに対する、束縛の機会を、実際には、確保出来ていない。
仮に、彼らが、ある上位者を、束縛したとしても、代わりに、別の上位者が、新たな支配者として、入れ替わりで、登場するだけである。
そうした社会の支配権は、限定された上位者たちの間の、持ち回りに、なっている。
そうした社会の支配権は、上位者たちの間において、循環的に、占有されている。
そうした社会の支配権。それは、下位者たちのところへは、実際には、なかなか降りて来ない。

（2022年6月初出。）

生物と、社会的な禁忌。

ある生物において。
彼自身にとっての同質者を、殺戮すること。その、社会的な禁止。
他の生物を、殺戮すること。他の生物の身体を、食糧として、利用する場合。他の生物の身体を、生活上の資源として、利用する場合。
例。殺生を禁じる、人間の仏教。
他の生物。彼らは、彼自身と同様に、生物である。そうした点において、彼らは、彼自身と、同質である。

彼自身にとっての同質者。その分類。

遺伝的な同質者。
--
彼自身にとっての、血縁関係者。親と子供と孫。兄弟姉妹。

血縁の無い者は、血縁の有る者よりも、より殺戮されやすい。
例。人間社会。
継子に対する、いじめや殺戮の、多発。
--
彼自身と近い種類の、他の生物。
例。人間にとっての、家畜。哺乳類の、動物や家畜。
彼らを殺戮する職業に就く者は、社会的な差別の対象となること。
例。日本の被差別集落。その住民たちは、牛馬の屠殺者である。彼らは、社会的に差別される。

彼自身と近い種類の、他の生物たち。
彼らを日常的に殺戮することで、生活を維持することが、必須である場合。
その行為の正当化が、彼自身の精神の安定化のために、どうしても必須であること。
そのための対策。
-
彼自身と、他の生物との同質性を、認めること。その、禁止。
彼自身と、他の生物との、同質性を連想させる行為。それらの、忌避。
彼自身と、他の生物の全てとを、峻別すること。彼自身を、他の生物の全てよりも、上位に置くこと。
-
例。
人間における、移動生活様式の社会。欧米諸国。中東諸国。
その生活様式において、以下の行為の維持が、必須であること。
家畜を、日常的に殺戮すること。そのことで、彼ら自身の生活を、維持し続けること。
そのための対策。
-
人間と、他の生物との同質性を、認めること。その、社会的な禁止。
人間を、生物一般へと、含めること。その、社会的な禁止。
-
人間と、他の生物との、同質性を連想させる、行為。それらの、社会的な忌避。
例。性差の認識や、性的誘引や、性行為の、表向きの忌避。
-
人間と、他の生物の全てとを、峻別すること。人間を、他の生物の全てよりも、上位に置くこと。

例。ユダヤ教やキリスト教やイスラム教。

文化的な同質者。同じ思想を信じる者。彼らを、殺戮すること。同士討ち。その、社会的な禁止。
文化的異質者は、文化的同質者よりも、殺戮されやすい。
例。人間社会。
宗教的な異教者や異端者に対する、殺戮行為の、頻発。

生物学的貴重者を、殺戮すること。女性を、殺戮すること。その、社会的な禁止。
男性は、女性よりも、殺戮されやすい。男性は、生物学的に非貴重である。女性は、生物学的に貴重である。

有性生殖の生物の場合。
性行為において。

遺伝的に近過ぎる者との間で、共同の遺伝的子孫を、作ろうとすること。その、社会的な禁止。
遺伝的な同質者との間で、性行為を、実行すること。近親相姦。その、社会的な禁止。
しかし。
遺伝的な同質者としての異性が、絶えず、性的な誘引を、無意識のうちに、周囲の他者に対して、実行し続けること。その他者自身が、その性的誘引に、負けること。
それは、以下の内容をもたらす。
その他者自身の本意に反する、近親相姦の実行。
例。人間社会における、近親相姦の、ある程度の、社会的な許容。

互換性の無い者との間で、共同の子孫を、作ろうとすること。その、遺伝的な禁止。その、文化的な禁止。

--

遺伝的に異質過ぎる者との間で、共同の遺伝的子孫を、作ろうとすること。遺伝的に遠過ぎる者との間で、共同の遺伝的子孫を、作ろうとすること。
例。遺伝的形質の異なる者。彼らは、彼自身との間で、遺伝的な互換性に欠けること。

例。人間社会。異なる人種の間における婚姻が、社会的に推奨されないこと。人間社会において、獣姦が、推奨されないこと。
--
文化的に異質過ぎる者との間で、共同の遺伝的子孫を、作ろうとすること。文化的に遠過ぎる者との間で、共同の遺伝的子孫を、作ろうとすること。
例。言語や習慣の異なる者。彼らは、彼自身との間で、文化的な互換性に欠けること。
例。人間社会。言語や習慣の異なる異民族の間における婚姻。それは、生活上の葛藤や困難を、生み出すこと。それは、社会的に推奨されないこと。

発情期が不定な生物の場合。
例。人間。
--
発情していない者を、強制的に発情させようとすること。その、社会的な禁止。
例。発情が推奨されない、公式的な、ビジネスライクな場面。
--
他者が、性的に冷静な状態である場合。
彼の面前において、性行為の話題を、いきなり持ち出すこと。彼の面前において、性行為の画像や映像や文章を、いきなり持ち出すこと。それらの、社会的な禁止。
--
発情している者に対して、強制的に発情を解除しようとすること。その、禁止。
性行為中に、相手に対して、性的に冷静な話題を、いきなり持ち出すこと。性行為中に、相手に対して、客観的な論理的話題を、いきなり持ち出すこと。それらの、社会的な禁止。
--

液体的思想で動く社会において、気体的思想を、社会的な禁忌として、抑圧すること。
女性優位で動く社会において、男性的思想を、社会的な禁忌として、抑圧すること。
例。人間社会。定住生活様式の社会。
日本や韓国や中国やロシアにおいて。個人主義。自由主義。内部情報の公開。上位者への批判の許容。それらの思想に対する、禁止や

抑圧や弾圧が、頻発すること。

気体的思想で動く社会において、液体的思想を、社会的な禁忌として、抑圧すること。男性優位で動く社会において、女性的思想を、社会的な禁忌として、抑圧すること。
例。人間社会。移動生活様式の社会。
欧米諸国において。全体主義。調和主義。それらの思想に対する、禁止や抑圧や弾圧が、頻発すること。
欧米諸国において。女性自身による、性的誘引力の行使や、妊娠中絶や、嬰児の殺戮。それらに対する、禁止や抑圧や弾圧が、頻発すること。

社会的禁忌が、生物に対してもたらす、作用。

その、良い作用。
生物が、精神的に、追い込まれずに済むこと。生物が、精神的に、狂わずに済むこと。

その、良くない作用。
-
社会的真実は、社会的禁忌の彼岸に、存在すること。
例。人間社会。
移動生活様式。その社会的禁忌。
人間を、生物一般へと、含めること。その、社会的な禁止。
社会的真実。
人間は、実際には、生物一般に、含まれること。人間は、実際には、生物一般と、同質であること。人間の神経系は、実際には、生物一般の神経系と、同質であること。
-
生物が、社会的禁忌の回避を遵守すること。
その結果。その生物が、社会的真実に対して、永遠に、到達不可能になること。
その結果。彼らが、生物の、心理や社会の、認識において、永遠に、間違った結果を、生み出し続けること。

例。人間社会。移動生活様式の人々。
具体例。欧米諸国。中東諸国。
彼らが、家畜を、日常的に殺戮すること。
彼らが、人間と、他の生物とを、精神的な必要に迫られて、根拠無

く、峻別し続けること。
その結果。彼らが、生物学や心理学や社会学において、間違った理論を、永遠に、生み出し続けること。
彼らにおける、そうした無能性の、永続。その、根本原因としての、そうした社会的禁忌。

例。人間社会。定住生活様式の人々。
具体例。中国。ロシア。日本。韓国。
彼らの殆どが、家畜を、日常的に殺戮せずに、済むこと。
彼らの殆どが、人間と、他の生物とを、峻別しないで済むこと。
それは、以下の内容を、生み出す。
生物学や心理学や社会学の、理論生成において。
定住生活様式の人々。
彼らの、移動生活様式の人々に対する、能力的な、優位性。
それが、永続的に、確保されること。

（2022年7月初出。）

生物における、民主主義の基本。

下位者による、上位者による虐待と搾取からの、自衛の確保。
そのための、有効な戦略。それらの、研究と実行。
それは、生物の社会における、民主主義の基本を、形成する。

（2022年7月初出。）

血縁関係。親子関係。それらの、生物にとっての、根本的な重要性。

生物における、血縁関係と親子関係。

血縁関係。
遺伝的な、共通性や同質性。
遺伝的な先行後行関係。先行者としての、先祖や親。後行者としての、子孫。それらの連鎖。それらの広がり。

親子関係。

親。
遺伝的な先行者。
遺伝子複製を行う者。その結果として、新たなクローン生物を生み出す者。
無性生殖。全面的なクローンの生成。
有性生殖。半面的なクローンの生成。

養育する者。
生存に必要な酸素や水分や養分。生存に必要な世話。それらを与える者。
生存に役立つ前例。その内容を、伝え教える者。
文化的な先行者。

子供。
遺伝的な後行者。
親による遺伝子複製。その結果として、新たに生まれる生物。

養育される者。
生存に必要な酸素や水分や養分。生存に必要な世話。それらを貰う者。
生存に役立つ前例。その内容を教わる者。
文化的な後行者。

遺伝子複製時の複製エラーに基づく、遺伝的な突然変異。
未知の領域への進出と、その場における試行錯誤。それらに基づく、文化的な発明や発見。

それらがもたらす、新規性や革新性や独創性。それらの、初めての保持者。
遺伝的な先行者。文化的な先行者。

有性生殖の場合。その性分化が、二類型の場合。
親は、以下のように分類される。
父親。男親。精子の保持者。非貴重者。勢力拡大者。自己捨て身性。自己拡大性。未知領域への進出。積極的なチャレンジ。そうした精神の伝達者。気体的行動様式の伝達者。移動生活様式様式における、生活主導者。そうした行動様式が持つ性質としての、父性。その保持者。
母親。女親。卵子の保持者。貴重者。勢力温存者。自己保身性。自己中心性。既知の安全領域への滞留。退嬰的な前例踏襲。そうした精神の伝達者。液体的行動様式の伝達者。定住生活様式様式における、生活主導者。そうした行動様式が持つ性質としての、母性。その保持者。

養育性についての視点。
親は、以下のように分類される。
生存に必要な酸素や水分や養分。養う行為。
それらを与える場合。子供が、自己成長時に、それらを必要とする場合。例。哺乳類の乳。爬虫類や両生類や昆虫類や魚類の、卵。
それらを与えない場合。子供が、自己成長時に、それらを必要としない場合。

生存に必要な世話。育てる行為。
それらを与える場合。子供が十分育つまでに、長期間、掛かる場合。例。哺乳類。
それらを与えない場合。子供が十分育つまでに、短期間で済む場合。例。爬虫類。

生存に役立つ前例。そうした行動様式。
その内容を、伝え教える場合。遺伝的な伝達。文化的な伝達。
文化的な伝達が必要な場合。
子供が、それらの内容を、遺伝的に、予め、十分には伝達されていない場合。例。人間。
その内容を、伝え教えない場合。遺伝的な伝達。文化的な伝達。

文化的な伝達が不要な場合。
子供が、それらの内容を、遺伝的に、予め、十分に伝達されている場合。例。ウミガメ。

（2022年5月初出。）

血縁関係。それは、生物の社会の中心である。

社会学においては、以下の内容についての着目が、もっと必要である。血縁関係の、生物の社会における、本質的な重要性。

血縁関係は、以下の内容である。遺伝的共通性や、遺伝的同一性を基盤とする、生物同士の社会的な結合。血縁関係は、生物の社会関係の基盤である。

血縁関係は、以下の内容の表れである。遺伝子の世代間伝達。それらの自動的な永続。

血縁関係が、生物の社会の中心に位置している。生物の社会では、血縁関係が一番重要である。

血縁関係内部における支配者が、社会の真の支配者となる。それは、以下のような存在である。子育てで主導権を握る存在。血縁者間における家計管理権限を掌握し、お金の出入りをコントロールする存在。例。日本の母親や祖母。
血縁関係から離れた企業機関の支配者は、社会の一番の支配者では無い。例。政府の代表者。大企業の代表者。

血縁を制する者が、社会を制する。

血縁集団や血縁ネットワークの分析。それらは、社会分析において、最も重要である。

相手との遺伝的共通性が、もたらす心理的効果。それは、以下のような内容である。気安さ。親しみやすさ。助け合い精神の芽生え。心理的な紐帯や結束の芽生え。包み隠さずに、本音を言い合えること。共通理解への至りやすさ。

血縁関係の発生や維持は、遺伝子の複製や、生殖行為と不可分である。それは、生物の基本である。

突然変異。それは、以下のような内容である。遺伝子の複製エラー。遺伝子の世代間伝達における、新規性や独創性の発現と、伝達内容の永続性の消滅。子供における、遺伝的形質の根本的な革新。親と子供との間における、遺伝的な断絶の発生。

血縁者。それは、以下のような存在である。親と子供。父親。母親。兄弟姉妹。息子と娘。祖父。祖母。親族は、親子以外の血縁者である。
血縁者同士の社会関係。それは、以下のような内容である。以前の世代の血縁者による、次世代の血縁者に対する養育。以前の世代の血縁者による、次世代の血縁者に対する支配。次世代の血縁者による、以前の世代の血縁者に対する介護。以前の世代の血縁者による、それらのことの、次世代の血縁者に対する強制。

配偶者。それは、以下のような存在である。有性生殖における、異性の相手。有性生殖における、子孫の遺伝子の共同保有者。
配偶者同士。それは、以下のような関係である。赤の他人同士が、恋愛感情や、遺伝的子孫の共有という共通利害で、結ばれている関係。姻族は、配偶者側の血縁者である。

生物が遺伝的子孫を残せる条件。それは、以下のような内容である。異性との相性の良さ。異性としての魅力の高さ。
（１）
男性の場合。稼ぐ能力の高さ。身体の強さ。問題を解決する知能の高さ。他者を支配する能力の高さ。健康さ。女性に対して、まめに気遣いして取り入る能力の高さ。
（２）
女性の場合。容貌やスタイルの良さ。周囲から注目され、場の中心に、華麗な花として鎮座し続ける能力の高さ。アイドルとしての能力の高さ。他者を支配する能力の高さ。健康さ。

血縁関係は、定住集団や定住ネットワークとの類似性を持つ。それ

は、以下のような内容である。強固な維持性や閉鎖性や排他性の存在。生物における、既得権益の世代間伝達や、世代間維持の基盤。
生物における、社会の権力構造の変わりにくさの基盤。

血縁関係には、有力な血縁関係と、無力な血縁関係とがある。
（１）
有力な血縁関係。それは、以下のような内容である。有能で優位な遺伝子の世代間伝達。それらの自動的な永続。
（２）
無力な血縁関係。それは、以下のような内容である。無能で劣位な遺伝子の世代間伝達。それらの自動的な永続。

血縁と家族との関係。家族とは、同居して共同生活を営んでいる血縁者と配偶者である。
血縁と世帯との関係。世帯とは、同一の生計を営んでいる血縁者と配偶者である。

（2021年12月初出。）

親と子供。その分類。

親と子供は以下のように分類される。

１．

（１－１）親そのもの。真の親。
（１－２）親代わり。親の代行者。仮の親。

（２－１）子供そのもの。真の子供。
（２－２）子供の代わり。子供の代行者。仮の子供。

２．

（１）先天的な親。血縁の親。生みの親。

（２）後天的な親。
（２－１）育ての親。養育の親。養子の里親。血縁の親と、非血縁の親の両方。
（２－２）庇いの親。助けの親。守護の親。血縁の親と、非血縁の親の両方。
（２－Ａ）非血縁の場合。マスター。ボス。司令官。

（１）先天的な子供。親にとって、血縁でつながった子供。

（２）後天的な子供。親にとって、血縁の子供と、非血縁の子供の両方。
（２－１）育ての対象。養育の対象。養子の里子。血縁の子供と、非血縁の子供の両方。
（２－２）庇いの対象。助けの対象。守護の対象。血縁の子供と、非血縁の子供の両方。
（２－Ａ）非血縁の場合。従者。弟子。

先天性、後天性と、性別との掛け合わせ。

先天的父親。後天的父親。
先天的母親。後天的母親。

後天性について。
後天的父親。父親代わり。例。移動生活様式の社会における天の父なる神。
後天的母親。母親代わり。例。定住生活様式の社会における地母神。

３．

親としての性質と、性別との掛け合わせ。

父性的父親。母性的父親。
父性的母親。母性的母親。

父性。それは、次の内容である。男性性の、親としての側面。生理的、心理的、社会的側面。

母性。それは、次の内容である。女性性の、親としての側面。生理的、心理的、社会的側面。

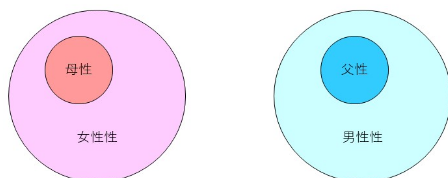


図 母性・父性と女性性・男性性の関係

父権。それは、次の内容である。父親の権力が強いこと。父性の社会的影響力が強いこと。
母権。それは、次の内容である。母親の権力が強いこと。母性の社会的影響力が強いこと。

父権社会。父親の権力が強い社会。父性の影響力が強い社会。
母権社会。母親の権力が強い社会。母性の影響力が強い社会。

定住生活様式中心社会。例。東アジア。ロシア。その社会は、母性的母親を中心として動く。
母性的母親。定住集団の社会の母親ないし母親役の人物。彼女は、精神が純粋に女性的である。彼女は、女性性の源泉である。母性的母親は、その社会の支配者である。母性的母親は、その社会の有能者、有力者、権力者である。彼女は、その社会を以下の内容になるように生成し構築する。女性優位社会。母権社会。調和社会。それは、フェミニズムにとっての理想郷である。
母性的父親。定住集団の社会の父親ないし父親役の人物。彼は、精神が女性化している。彼は、その社会の従属者である。彼は、その社会において、無能で役立たずの厄介者である。

移動生活様式中心社会。例。欧米諸国。その社会は、父性的父親を中心として動く。

父性的父親。移動生活様式の社会の父親ないし父親役の人物。彼は、精神が純粋に男性的である。彼は、男性性の源泉である。父性的父親は、その社会の支配者である。父性的父親は、その社会の有能者、有力者、権力者である。彼は、その社会を以下の内容になるように生成し構築する。男性優位社会。父権社会。非調和社会。それは、マスキュリズムにとっての理想郷である。
父性的母親。移動生活様式の社会の母親ないし母親役の人物。彼女は、精神が男性化している。彼女は、その社会の従属者である。彼女は、その社会において、無能で役立たずの厄介者である。

４．

親と子供の機能。

親が果たす機能。
子供を庇護すること。子供の面倒を見ること。子供を独り立ちするまで成長させること。子供を経済的、心理的、社会的に援助すること。子供を精神的に一生支配し続けること。子供に命令すること。子供の精神に対して一生影響を及ぼし続けること。子供が十分成長したのを見届けて、世代交代して、一生を終えること。

子が果たす機能。
親にとっての次世代となること。親による愛玩の対象となること。親に依存すること。そのことで、親の庇護欲を満足させること。親に忠誠を誓うこと。自立を果たすこと。親の夢や理想を実現させること。無事生き残ること。親に育ててもらった恩返しをすること。老後の親の面倒を見ること。

大人と子供。親と子供。この両者の区別が必要である。

大人。年齢が高いこと。肉体的に成熟していること。責任を取れること。判断力があること。経済的に自立していること。
親。子供を生み、育てていること。子供を庇える能力があること。

大人と親と子供の性質は、以下のように掛け合わせることができる。

大人的な大人。大人的な子供。子供的な大人。子供的な子供。
大人的な親。大人的な子供。子供的な親。子供的な子供。

親的な親。親的な子供。子供的な親。子供的な子供。
親的な大人。親的な子供。子供的な大人。子供的な子供。

大人と親の違いは何か？
大人。自立していること。助けや庇いを特に必要としないこと。
親。他人を生み育て、助け、庇うこと。それらが出来ること。

子供の特質とは何か？
子供。自立していないこと。育成や助けや庇いを必要とすること。

５．

親は、以下のように分類できる。

（１－１）慈しみの親。優しい親。慈父。慈母。
（１－２）厳しい親。子供をしごく親。子供を虐待する親。厳父。鬼父。厳母。鬼母。

（２－１）子供に深い関心を持つ親。子供に深い愛情を注ぐ親。子供に付きっ切りの親。
（２－２）子供に無関心な親。子供に対して薄情な親。子供を放任する親。

（３－１）子供の利益のために自身の人生を捧げる親。子供に尽くす親。
（３－２）子供を自身の利益のために利用する親。
（３－３）子供より自身の利益を優先する親。

子供は、以下のように分類できる。

（１－１）慈しみの子供。優しい子供。
（１－２）厳しい子供。親を虐待する子供。

（２－１）親に深い関心を持つ子供。親に深い愛情を注ぐ子供。親に付きっ切りの子供。
（２－２）親に無関心な子供。親に対して薄情な子供。親を放任する子供。

（３－１）親の利益のために自身の人生を捧げる子供。親に尽くす子供。
（３－２）親を自身の利益のために利用する子供。
（３－３）親より自身の利益を優先する子供。

（2020年11月初出。）

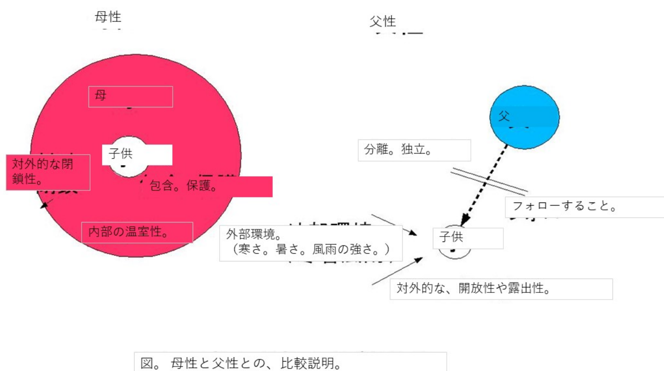
母性と父性。母権と父権。

母性本能。母親の本能。それは、子供の精神の液化を促す。それは、子供の精神の定住化を促す。
父性本能。父親の本能。それは、子供の精神の気化を促す。それは、子供の精神の移動化を促す。

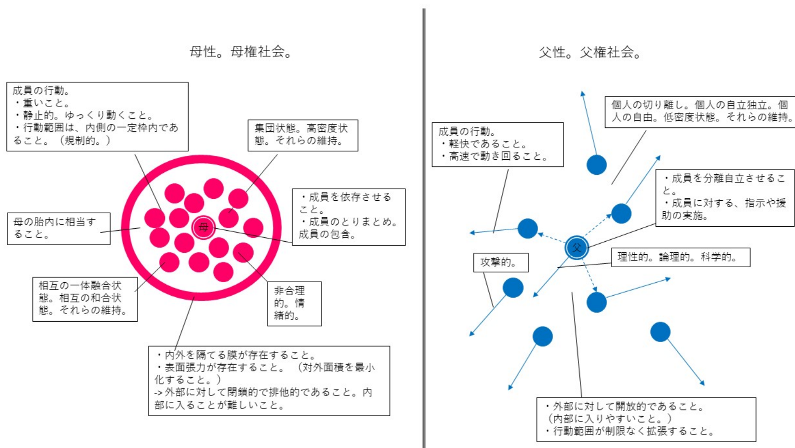
定住生活様式中心社会では、母性が子供を一生支配する。そこでは、父性は軽視される。
移動生活様式中心社会では、父性が子供を一生支配する。そこでは、母性は軽視される。

母性は、子供を親の中に包み込んで保護しつつ、経済的自立のための能力を、子供に付きっ切りで身に付けさせる。
父性は、子供を親から精神的に分離・独立させた上で、子供がうまく自活して行けるように、外からフォロー・援助を加える。

母性は"内部に閉じた"世界に子供を置く。それは、自身の子宮胎内相当の世界である。母性は、子供を対人面で、他者に癒着・依存させつつ、子供の経済的自立を図る性である。
父性は"外部へと開かれた"世界に子供を置こうとする。父性は、子供に対して、対人面での分離・独立を促す性である。



図。母性と父性との、比較説明。



この場合、子供の役を取るのは、実の子供とは限らず、学校なら下級生とか、職場なら部下とか、いろいろバリエーションがある。母性、父性の役回りは、血縁でつながった家庭のみに止まらず、学校、職場等において、広く存在する。
筆者は、両者の違いを、以下の簡単な表にまとめた。

番号	母性	父性
総括	[調和指向。] 子供が、他者と一体化し調和して生活することを促すこと。	[独立指向。] 子供が、他者から分離、独立して生活することを促すこと。
1	[内部閉鎖指向。]	[外部開放指向。]
1-1	[包容。包含。抱擁。]	[切開。] 子供を閉じ

	子供を、母親自身の中（子宮胎内）に相当する内部空間に、その全身を包み込む、抱く形で守ろうとすること。（子宮的思考。）	こめている閉鎖的な内部空間を切り裂き、子供を外部空間に置こうとすること。
1-2	[閉鎖性。排他性。内外区別。] 母親自身と子供のみからなる、外部に対して閉鎖的な空間を作ること。彼らのいる空間内部＝"母の胎内"と外部とを峻別し、外部からのアクセスをシャットアウトすること。	[開放性。内外非区別。] 子供を、外界に向かって開かれた、外部へのアクセスが可能な空間に置こうとすること。子供に、外界への扉を開くこと。彼らのいる空間と外部とは直接つながっていると考え、区別をしないこと。
1-3	[内部隠蔽。内部保護。] 子供を母親自身の中に包含した状態のまま保護し、引きこもって外出したがらない子供がそのまま中にいるのを許容する。内情を外部に漏らさず秘密にしようとすること。	[外部露出。公開性。] 外に不安で出たがらない子供を、強制的に連れ出して、外の空気に触れさせること。外部環境に直接さらさせよう、公開しようとすること。
1-4	[気候一定。温室。甘さ。] 母親自身の胎内相当の、温度一定で、体温程度の生温かい、ちょうど心地よい"ぬるま湯"的な温度の条件の良い、甘い環境＝"温室"に子供を置こうとすること。	[気候変動。厳しさ。] 外部気候の変動や風雨に直接さらされ、酷暑、酷寒となることもある、甘さの無い"厳しい"環境に子供を置こうとすること。
1-5	[安全域内滞留。] 今いる安全の確保された（内部）領域から子供を外に出さないように	[冒険。探検。] 外部の、（危険も含めて）何が待ち構えているか分からない未知の領域

	しようとすること。子供を危ない目に合わせないように気を付けること。	へと、子供を冒険・探検に（知的なものも含めて）連れて行こうとすること。
2	[接続指向。癒着指向。]	[切断指向。分離指向。]
2-1	[接続。] 子供と互いに密接につながろうとすること。	[切断・] 子供を突き放すこと。子供を自分から切り離して、一定の距離を置こうとすること。子供と母親との間に入って、両者の関係を切断すること。
2-2	[癒着。一体融合。] 子供と一体化すること。子供と互いにくっつき癒着するのを好み、相互の一体・融合感を重んじること。	[分離。] 子供に対して、互いに離れた、別々の存在であろうとすること。子供に、彼自身の独自の世界を大切にするように教えること。
2-3	[依存状態の持続。] 子供をいつまでも親に懐かせ、依存させたままでいようとすること。	[突き放し。] 子供を、父親自身から突き放し、父親から離れて、彼自身が、一人で自活できるようにすること。彼自身の心身は彼自身で守る態度を、子供に身につけさせること。
2-4	[サポート。ケア。] 子供の身の回りを手取り足取りサポートしケアすること。	[セルフケアの促進。] 子供が彼自身の面倒を彼自身で見るように、子供のセルフケアを促進させること。子供を離れて見守ること。
3	[同一指向。]	[差異指向。]
3-1	[平等。] 子供の間に格差ができないように、平等に扱おうとすること。子供別に格差	[差別化。] 子供別に、彼らが得意・不得意とする分野を判別・設定し、分野の違いに

	を作る場合は、好き嫌いによって、各子供に対する扱いに差を付けること。	応じて、各子供に対する扱いに差を付けること。
3-2	[非競争。画一性。] 子供の間で競争をさせず、仲良く横並びさせる（能力を画一化する）ことで、子供同士の心理的な一体感、同一性を確保すること。	[自由競争。個性化。] 子供同士で自由に競争をさせ、子供間での能力格差の発生を容認すること。子供同士が、互いに異なる個性、能力を持つことを認め合うように誘導すること。

ある生物は、母性だけ、父性だけ持っているのではなく、母性、父性を両方持っている。その割合が、女性では母性が多く、男性では父性が多くなる。
ある生物が母性的、父性的ということは、性別、年齢、親子にも必ずしも関係しない。つまり、女性（男性）だからといって母性的（父性的）とは限らず、年齢が高い（低い）から、親（子）だから母性・父性的（子供的）とも言えない。
例。人間の場合。
日本のようなウェットな雰囲気の、企業や政党の派閥においては、男性の上司、親方が、部下、手下に対して、一体感を重んじ、包容力のある母性的な態度を取ることが多い。
中高生の女の子のように、本来子供の役を取るはずの、比較的低年齢の人が、いつまで経っても娘のような感じで依存的で頼りない母親に代わって、母性的な包容力で家族を引っ張っていくケースもある。
日本のように、母性が優勢で、子供と父親の関わりが少なく、父性が不足している社会の場合。母性を担う母親が、父性を実行しないか、できない父親に代わって、ある程度父性の代行をする役割をするという側面も、存在する。（例。子供を外界へと連れ出すこと。子供を叱ること。）

[参考文献]
河合隼雄、母性社会日本の病理、1976、中央公論社
松本滋、父性的宗教・母性的宗教、1987、東京大学出版会

（初出2003年5月-2005年11月）

母性・父性と、女性性・男性性との関係

母性、父性は、それぞれ、女性、男性の、彼ら自身の子供を持った親としての側面を、表している。
その点、母性、父性は、それぞれ、女性性、男性性の、親としての、一部、一側面として捉えることができる。 母性が女性性に対応し、父性が男性性に対応する。
母性、父性は、それぞれ女性性、男性性の中に包含される、一部である。（下図参照。）

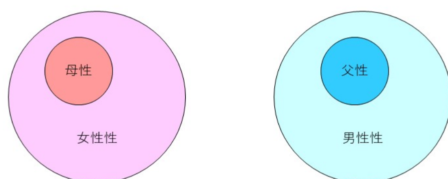


図 母性・父性と女性性・男性性の関係

子供を持った女性が母性を発揮し、同じく子供を持った男性が父性を発揮する。
女性、男性それぞれが、以下のような側面を持つ存在となった場合。
（１）庇護者としての側面。 無力な子供に頼られる存在。子供を十分に守るパワーを持つ存在。
（２）指導者、教育者としての側面。 何も知らない子供に対して、生きていくのに必要な、有用なノウハウを教える存在。
（３）制御者としての側面。 わがまま放題の子供に、きちんと言う

ことを聞かせ、コントロールし、制御する存在。
上記のような、子供を育てるのに必要な大人として成熟した存在となった場合。
彼らは、それぞれ、母性、父性を持ったことになる。

中には、母親らしい男性、父親らしい女性もいると考えられる。
その場合、そもそも、基盤、出発点として、そうした男性は女性タイプであり、そうした女性は男性タイプである。
そのため、彼らは、その親としての側面を取り出した場合に、それぞれ母性的、父性的となる。
また、そうした男性、女性は、男性、女性全体の中では、性同一性障害を持っている少数派として位置づけられる。

（初出2008年04月）

子供と母性・父性関係の３類型

[要旨] 子供と父性・母性との関係は、以下のように分けることが出来る。
（１）母子癒着型＝母親が子供を完全に内包し、その外側を父親が守るか、父親が母親に内包されるタイプ。
（２）父介在型＝父親が外周を守りつつ、母親と子供との間に割って入る中間的なタイプ。
（３）母子分離型＝父親が母親と子供の紐帯を完全に断ち切り、両者を分離するタイプ。

（１）が、社会において母性の力が強く、定住生活様式の社会に当てはまる。

家庭における、子供と母性と父性の関係は、以下の図の3類型に分かれる。

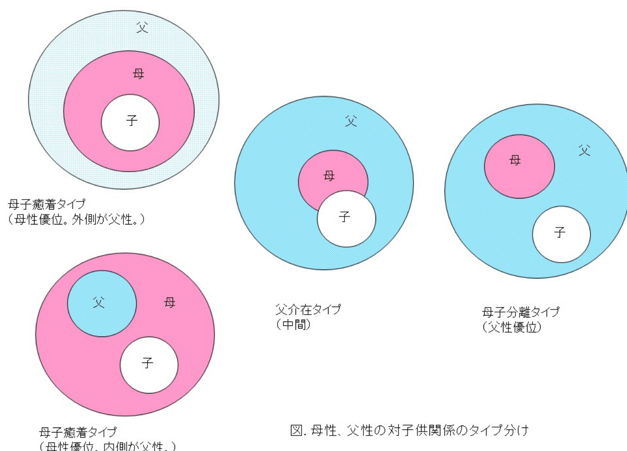


図. 母性、父性の対子供関係のタイプ分け

（１）母子癒着型。 母親が子供を完全に包み込んで守り、そのさらに外周を父親が守るタイプ。母親が完全に子供と癒着しており、父親がその間に割って入ることができず、外側から見守っているタイプ。（母性優位。外側が父性。）あるいは父親が子供同様母親に包み込まれて甘えているタイプ。（母性優位。内側が父性。）定住生活様式の社会では、このうち"母性優位で、内側が父性"の類型が多く見られる。

（２）父介在型。 父親が、母親と子供の間に割って入り、父親が直接子供に接触し、見る割合が高いタイプ。
（３）母子分離型。父親が母親と子供の紐帯を完全に断ち切り、両者を分離するタイプ。移動生活様式の社会では、この類型が多く見られる。

（１）の母子癒着型は、母親の力が強い、母権社会のタイプである。（３）の母子分離型は、父親の力が強い、父権社会のタイプである。

（初出2006年01月）

父性・母性とドライさ・ウェットさとの関連

ウェットな社会は、母性の力が強い母権社会と言える。ドライな社会は、父性の力が強い父権社会と言える。

母性は、親と子が相互に一体化し、依存し合うことを指向する点、親と子が相互にベタベタくっついて離れない"ウェット"な性質を持つ。その点、ウェットな社会は、母性の力が強い母権社会である。
父性は、親と子が、相互に分離独立することを指向する点、親と子が相互にバラバラに離れようとする"ドライ"な性質を持つ。その点、ドライな社会は、父性の力が強い父権社会である。

（初出2003年5月-2004年7月）

母性、父性と液体、気体

液体分子運動は、母性的に感じられる。気体分子運動は、父性的に感じられる。

母性的な行動様式は、液体分子運動として捉えられる。 液体分子運動では、各分子個体が互いにくっつき、一体化して、静的な受け身の集団を作り、集団が、その中に所属する各個体を包含し、守る形になっている。それは、母性の、自分の成員を一体的に包含し、外部から区別して守る性質に似ている。
父性的な行動様式は、気体分子運動として捉えられる。 気体分子運動では、各分子個体が、互いに独立、自立して、自分で自分を助け、守る形で、自由に動的に拡散し、動き回る。それは、父性の、自分の成員を積極的に自立、独立させて、未知の領域に進むように働きかける性質に似ている。
父性は、子供の行動の気体化を行い、母性は、子供の行動の液体化を行う。

（初出2008年1月）

父性・母性と子供の養育

従来、子育ての役割については、以下のように、考えられて来た。"子供を産み育てる性"は、専ら女性（母性）である。女性には、子どもを養育したい、という本能がある。女性は、"母性本能"を持つ。しかし、それらの考えについては、再検討が必要である。
（１）"子供を産む性"は、従来は、女性（母性）と考えられてきた。しかし、実際には、子供の誕生には、父親側の遺伝子の存在が必須であり、母親だけで産むことはできない。また、母親が子供を産む際に、父親は、母親と子供の安全を外側から守るという機能を果たしている。その点、子供は、男女（父母）共同で産むものと考えるべきである。
（２）"子供を育てる性"は、従来は、女性（母性）であると考えられてきた。確かに、幼児に対する授乳は、母親でないと不可能な面があり、そういう点では、女性の専権事項である。しかし、授乳の期間が終わると、父親の、育児に対する介入が可能となってくる。
子育てについて。
人間の場合。
例。父性の強い欧米社会では、子供が母親から引き離されて、個室で寝かされる慣習が存在する。これは、父性が、母子間の癒着関係の間に介入して、子供を母親から分離・独立させる働きをしている、と考えられる。それは、育児に父性が介入していることを示す好例である。ちなみに、母性の強い日本社会では、母親と子供が"川の字"状にくっついて寝る慣習となっている。
また、欧米社会では、子供の身の回りの世話に父親が関わる時間が、日本のように母親が専ら子供の面倒を見る社会に比べて、より多めであるとされる。（増田光吉"アメリカの家族・日本の家族"1969、NHK出版。）
子育てにおいて、子供と父親（母親）の結びつきが強いことと、社会が父性的（母性的）であることとの間には、大きな関係があると考えられる。

例。東アジアやロシアのように、子供の面倒を母親が専ら見る社会は、母性的、母権的であり、一方、欧米のように、子供の養育に父親の介入度が大きい社会は、父性的、父権的である。
彼ら自身の子供に大きく健康に賢く育ってほしいこと。そのためにできる限りの支援を子供に対してしたいこと。そうした子育ての衝動は、父親も母親も、親として共通に持っている
彼ら自身の子供と心の触れ合いを持ちたいこと。彼ら自身の持っているノウハウや価値観。それらの内容を、子供に伝えたいこと。それらの内容を、子どもと共有したいこと。そうした考えは、親なら男女を問わず、同じように内蔵している。
こうした子育て、子供との触れ合いを求める衝動。それは、"親としての本能"と呼べる。それは、親が男性であるか、女性であるかによって、"父性本能""母性本能"に分類される。
従来は、子供と近接して触れ合うタイプの接し方をする母性が、傍目からは子供にぴったりくっついているため、子供の世話を、よりかいがいしくしていると見られて来た。それゆえ、子育ては全世界において母性の専権事項と考えられやすかった。
しかし。欧米社会のように、父性の持つ、子供に対する独立、自立心の涵養を目指した子育てへの積極的介入が、育児における母子分離という形をとって、実際に行われている社会。そうした社会ががが存在すること。それも、また、事実である。
欧米社会のような父性的社会の場合。父親の管理、主導下で、母親が、子供の世話を家事雑事の一環として、父親（夫）に従属する形で行っている。その点では、子育ては、父性的社会においては、必ずしも母親の専権事項とは言えない。父性的社会においては、むしろ、子育てに対して父親の心理的な影響力が大きく働いている。そこでは、"父性本能"が強く働いている。
東アジアやロシアのように母親と子供が癒着するタイプの、母性の力が父性に比べて優勢な社会。そうした社会においては、もともと、子育ては母親が独占するものであり、父親は関係ない、とされてきた。それゆえ、そうした社会においては、子育ては母親の専権事項であるとする"母性本能"イデオロギーが、より受け入れられやすかった。
しかし。仮に、子育ては母親が行うものである、と考える場合。父性の支配下で家事労働の一環として行う父権社会。母親が子育て上の意思決定を独占する母権社会。それらの両者の社会においては、同じ母親による子育てといっても、"母性"の子育てに影響する度合い、濃密さに、相当の格差、違いがある。
母権社会における女性の地位保全という観点からは、母親にとっては、以下の行動を取ることが、より得策である。従来通り、子育て

の権限を手放さないこと。
そのことに、無頓着なまま、以下のような論調を、機械的に母権社会に当てはめようとする人たちが、多すぎる。
父権社会。母性の薄い社会。母性が子育てにおいて主導権を握れない社会。そうした社会の人々による、以下のような主張。"母親は子育ての雑事から解放されるべきだ。"

（初出2003年5月-2004年7月）

母性、父性スキルの世代間伝達

母性、父性は、女性性、男性性をベースにしつつ、子育て機能、スキルとして、新たに別途上乗せで、後天的に習得、獲得、世代間でバトンタッチすべきものである。しかし、それらは、場合によっては消失し、バトンミスの世代間連鎖が起きてしまう。以下の内容は、その際の対策について述べたものである。

いつまでも実質的に女のままで母になれない女性が、父性的社会の女性である。いつまでも実質的に男のままで父になれない男性が、母性的社会の男性である。
彼らは、以下のような行為を行う。
子供を生むだけで、積極的に育てようとしないこと。子どもと直接向きあおうとせず、もう一方の性に子育てを任せて、自分は子育てから逃げようとすること。
母性、父性は、女性性、男性性をベースにしつつ、子育て機能、スキルとして、新たに、別途上乗せで、後天的に習得、獲得、世代間でバトンタッチすべきものである。
定住生活様式中心社会の女性のように、強い母性を持つ女性が母親の場合。彼女自身による、母性のバトンタッチ。それは、娘に対してはスムーズに行く。ところが一方では、彼女は、息子の父性を消して、弱めてしまい、紛失してしまう。そこには、そうした副作用が、存在する。
移動生活様式中心社会の男性のように、強い父性を持つ男性が父親の場合。彼自身による、父性のバトンタッチ。それは、息子に対し

てはスムーズに行く。ところが一方では、彼は、娘の母性を消して、弱めてしまい、紛失してしまう。そこには、そうした副作用が、存在する。
移動生活様式中心社会の女性のように、父性の影響力が強く、母性消失の女性が母親である場合。次世代の子供である娘は、母性を受け取れない。その結果、母性のバトンミスが生じる。その結果、母性消失の世代間連鎖が起きる。
定住生活様式中心社会の男性のように、母性の影響力が強く、父性消失の男性が父親である場合。次世代の子供である息子は、父性を受け取れない。その結果、父性のバトンミスが生じる。その結果、父性消失の世代間連鎖が起きる。
こうしたバトンミスが起きた場合。誰か、他に、母性的女性、父性的男性をそれぞれモデルにして、母性、父性を受け取る必要が、生じる。
母性を消失した移動生活様式中心社会の女性。彼らは、母性の強い定住生活様式中心社会の母から、母性を受け取れば、良い。
父性を消失した定住生活様式中心社会の男性。彼らは、父性の強い移動生活様式中心社会の父から、父性を受け取れば、良い。
その場合の受け取り方。
例。フィクション、ノンフィクションの映画、アニメ、書籍とかから学ぶこと。実際に、生身の母性的女性、父性的男性から、講師、コーチになってもらって、学校形式で教えてもらうこと。
例。母性、父性、それぞれの学習用のコンピュータソフトを、用意すること。
母性スキル、父性スキル、それぞれのモデル学習が必要である。
その際、何のスキルをどのように習得すれば良いのかが、問題となる。また、例えば、母性の強い定住生活様式中心社会においては、母性スキルについては、作ることが出来るが、父性スキルについては、作ることが出来ない。

（初出2012年8月）

母性と"かわいさ"指向

母性は、彼ら自身よりも、小さい、か弱い存在を、彼ら自身の子供同様に、守ってあげたい、抱きしめたい、一体化したい、包み込みたいという、"かわいさ"指向と関係がある。そこには、抱きしめることについて心地良い、丸い、ソフトな存在を求める傾向が、ある。
父性は、対象 (子供、ロボットなど) を、外部環境がもたらす困難を切り裂き、打ち破ることができ、広大な環境空間の中を幅広く活躍できるだけの、スケールが大きく、強力で堅固な存在にしようとする、"強大な鋼鉄"指向と関係がある。

	[母性的態度]	[父性的態度]
全般	[かわいさへの指向。] かわいいもの (赤ん坊、小さなペットなど) の保育に、興味があること。	[強大な鋼鉄への指向。] 対象を、頑丈で鋭さを備えた強大なものに育てることに、興味があること。
1	[小ささ指向。] 小さいものを好むこと。	[大きさ指向。] スケールの大きい、壮大なものを好むこと。
2	[か弱さへの指向。] か弱いものを好むこと。	[強さへの指向。] 強いものを好むこと。
3	[細やかさへの指向。] 物事のきめ細かな把握を好むこと。手先の器用さを大事にすること。	[粗さへの指向。] 物事の大まかな把握を好むこと。
4	[円形指向。] 先の丸いものを好むこと。	[鋭角指向。] 先の尖った、鋭いものを好むこと。
5	[柔らかさへの指向。] 柔らかいものを好むこと。	[硬さや固さへの指向。] 硬い (固い) ものを好むこと。
→ 派生1	[特定性や限定性への指向。] 枝葉末節にこだわることを、好むこと。	[大局性や一般性への指向。] 大局的な物の見方を、好むこと。

"かわいい"もの。それは、以下の内容である。そのものや、その対象に接することで、彼ら自身の中に、母性を見るもの、あるいは、母を感じるもの。そうしたもの。彼ら自身が、その対象や、その相手の母になったかのような感じを抱くこと。そうした対象、相手の

こと。それらを、"かわいい"と称すること。
例。女子高生たちが中高年男性のことを、"あのおじさんは、かわいい。"と言う場合。彼らは、彼ら自身の中に"母"を見ている。彼らは、無意識のうちに、母になって、"おじさん"を包含し、抱きしめたい、守ってあげたい、といった気分になっている。

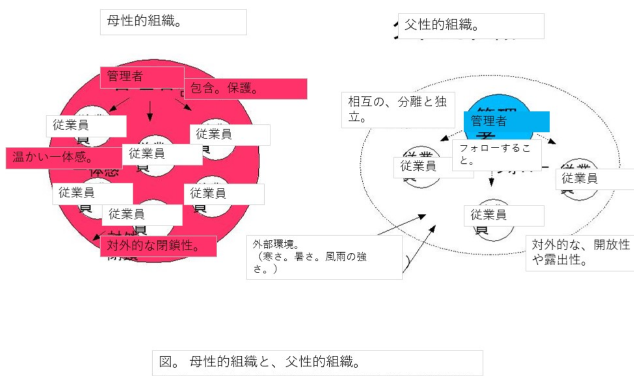
日本女性のような母性的女性。彼らは、"かわいい"という概念を発明した立役者である。日本のアニメ、コミック、フィギュアなどに見られる、"かわいい"、"萌える"、キャラクターデザインの発明に大きく貢献している。（いわゆる、"美少女"、"美少年"の、キャラクターデザイン。）これは、"かわいい独創"という言葉によって、表現できる。

（初出2003年5月-2004年7月）

母性的組織と父性的組織

母性的組織は、組織によって成員が"抱かれ、守られる"感覚を重んじる。組織が母であり、成員は子である。父性的組織では、組織に属する各成員が、互いに他者とは分離、独立した形で、父親代わりの管理者によるコントロールを受けながら、自由に目標を達成しようとする。
人間の場合。
会社や官庁といった、社会組織についても、母性と父性の区別が、当てはまる。
母性的組織は、それ自体が、一つの大きな"母的存在"として、成員の前に現れる。母性的組織に入ることは、"母の胎内"に入り込み、その中に抱かれることと同じ感覚を、成員に対して、与える。
母性的組織は、組織によって成員が"抱かれ、守られる"感覚を、重んじる。組織が母であり、成員は子である。母性的組織は、どこまでが、"母の胎内"に相当するか、範囲に明確な境界線を引こうとする。そのため、母性的組織は、組織の内と外を峻別しようとする。
母性的組織は、以下のような特徴を持つ。それらの内部における一体感を重要視し、それらの外部に対して、閉鎖的であること。それらの内部では、以下のような傾向がみられること。互いの、温か

い、時として"体温＝ぬるま湯"的な、一体融合、和合感を維持しようとすること。そのため、その成員に対して、同調性、協調性、組織全体への奉仕が重んじられること。その成員に対する、干渉の度合いが、著しいこと。
母性的組織の成員。彼らは、母としての組織によって、彼ら自身を完全に呑み込まれた状態となる。彼らは、組織に対して、全ての精力、エネルギーを吐き出し、それらを、組織に吸い取られる。この場合。その成員は、完全に、その組織へと、一体化する。その成員の全人格が、その組織へと、帰属し、没入する。彼らが、いったん、組織に入った場合。彼らは、その組織から、不要と見なされて排出される場合以外は、その組織から抜け出ることが、難しい。
父性的組織の場合。その組織に属する各成員は、互いに他者とは分離、独立した形で、父親代わりの管理者によるコントロールを受けながら自由に目標を達成しようとする。その組織は、その外部に向かって開かれており、内外の区別は緩い。その成員は、その組織の一員である前に、一個の独立した自由な個人であることを、保証される。その成員は、その組織から抜けることが、簡単である。



図。 母性的組織と、父性的組織。

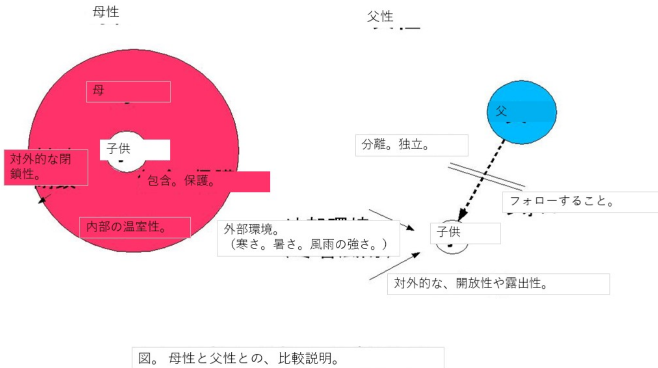
母性的組織では、その組織の管理者は、例え男性であっても、母親代わりの役割を、その成員に対して果たす。
父性的組織では、管理者は、父親代わりとなる。
例。
定住生活様式中心社会の企業や政府。その組織のあり方は、母性的である。移動生活様式中心社会の企業や政府。その組織のあり方は、父性的である。

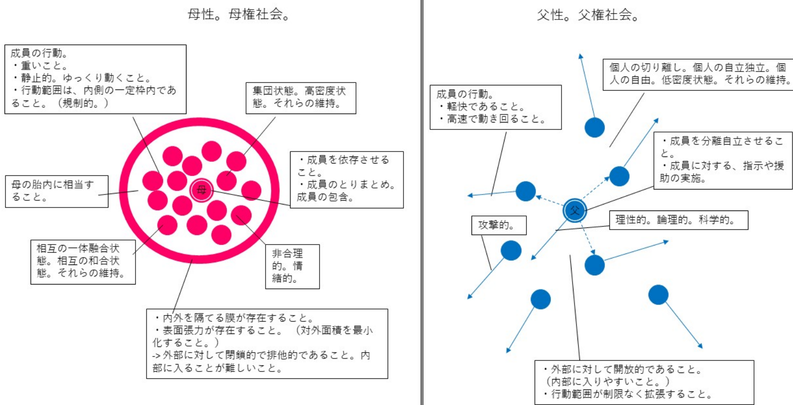
特定の目的を達成するための組織以外の、地域社会（例えば集落）のような、成員の要求を包括的に叶える社会集団である、コミュニティの場合。"母性的コミュニティ"、"父性的コミュニティ"という類型を、想定可能であること。
全体社会の場合。以下のような類型を、想定可能であること。
"母性的社会。（母性支配社会。母性優位社会。母権社会。）"（例えば、東アジアやロシアの社会。）
"父性的社会。（父性支配社会。父性優位社会。父権社会。）"（例えば、欧米社会。）
それらの性質は、母性的組織、父性的組織と共通である。

（初出2003年5月-2007年7月）

母権社会と父権社会

母性や母権社会は、その内外を区別し、その内部の一定枠内において、相互に一体化し、調和することを、指向する。その成員は、母の胎内に抱かれて、守られている。その母は、成員を依存させ、成員全体の取りまとめ、包含を行う。
父性や父権社会は、対外的に開かれており、個々の成員が相互に自立独立して、高速で動き回ることを、指向する。父は、成員を、母胎から分離して自立させ、必要な指示、援助を行う。





（初出2008年07月）

父の掟、母の掟

"父の掟"で動く社会が、移動生活様式中心社会であり、男性優位社会である。
"母の掟"で動く社会が、定住生活様式中心社会であり、女性優位社会である。
社会的な掟の供給源。それは、父だけのものではない。

母由来で作られた掟が、多く存在する。例。和合や所属の重視。排他性。
母の掟を、子供に埋め込むこと。それは、母のしつけである。それは、母性的母親、母性的父親によって行われる。父の掟を、子供に埋め込むこと。それは、父のしつけである。それは、父性的父親、父性的母親によって行われる。
河合隼雄は、こうした母性的母親、母性的父親を、それぞれ、土壌を扱う農耕社会由来とみなしている。彼は、それぞれのことを、土の母、土の父、と呼んでいる。彼は、一方、父性的母親、父性的父親を、天空と結びつきのある、遊牧社会由来とみなしている。彼は、それぞれのことを、天の母、天の父、と呼んでいる。
従来のフロイトやユングのような、西欧流の父の掟によって動く社会における、考え。それは、以下のような内容である。父が母子一体感を壊して、社会的規範を教えこむこと。こうした考えは、全世界的に通用する考えでは、無い。
日本社会のように、母の掟によって動く社会。そうした社会においては、母が、自ら、社会的規範を握っており、知っている。そうした社会においては、母が、メインの役割で、社会の掟を、子供に教え込むことが、行われている。そこでは、父の役割は、副次的なものとなっている。

（初出2014年04月）

母権社会と、父権社会。社会的温室性との関連。社会的代表性との関連。

母親の権力と権威によって、動く社会。それは、定住生活様式中心社会であり、女性優位社会であり、母権社会である。母親は、社会における温室性の、根源である。代表者は、温室内部に止まることを、許されず、外的脅威に直面することを、社会的に強いられる。母親は、社会における非代表性の、根源である。そうした社会では、温室に止まる支配者と、温室の外で動く代表者とは、別々である。そうした社会では、代表者は、見かけだけの上位者であり、真の上位者では無い。そうした社会の代表者。それは、父親である。そうした社会の真の支配者。それは、母親である。そうした社会は、強固な温室性を、その内部に保有する。

父親の権力と権威によって、動く社会。それは、移動生活様式中心社会であり、男性優位社会であり、父権社会である。父親は、社会における非温室性の、根源である。父親は、社会における代表性の、根源である。そうした社会では、支配者は、温室の外で動く代表者と、同一の存在である。そうした社会では、代表者は、すなわち、真の上位者である。そうした社会における、代表者と、真の支配者との、兼任者。それは、父親である。そうした社会における、母親。彼らには、社会的な上位性が、見かけ上も、実質的にも、何も存在しない。そうした社会においては、温室性が、根本的に欠如している。

母性的国家と父性的国家

組織における母性と父性との対比を、国家のレベルで考えた場合。国家が一人の巨大な母として立ち現れる、母性的国家。国家が一人の巨大な父として立ち現れる、父性的国家。それらの両者が、並立的に存在する。
その外部から、内部で何をやっているか、"カーテン"を引かれたように見えにくい、鎖国的で内閉的な、国家。国民同士の一体感や和合や一致団結を偏重し、規制や社会統制を好む、国家。そうした国家は、母性的である。
国民の自立、バラバラさを許容し、個人の自由を尊重するとともに、外部に対して開かれた、国家。そうした国家は、父性的である。

1980年代まで続いた、人間社会における、以下の二つの陣営の、世界的な対立。個人の自由と権利を重視する、欧米の自由主義陣営。国家集団全体の利益を優先する、ロシア、中国といった社会主義陣営。それらの自由主義陣営＝父性優位の陣営。それらの社会主義陣営＝母性優位の陣営。それらの対立は、それゆえ、父性と母性の対立として見ることが、可能である。
日本社会は、表向きは、父性的な自由主義陣営に属していた。しかし、その社会的実態は、国家による統制の行き届いた、官公庁や企業集団の存続を第一に考える、社会主義陣営に近い、母性的な体制であった。そのため、日本は、欧米から"日本異質論"を唱えられ、

対応に苦慮することになった。
かつての社会主義国のうち、中国や、ロシアや、北朝鮮は、皆、母性的な陣営へと、分類される。
欧米先進国への仲間入りを強く指向し、欧米と精神的に一体化したかに見える、日本。そうした日本について、その国民性を詳細に調べた場合。日本社会には、実際には、定住集団的で、涙もろい人間関係が、その根底に、色濃く存在している。その結果。日本は、母性的な陣営へと、分類される。母性的国家としての日本は、父性的な欧米国家の一員とは決して言えない。日本は、むしろ、中国や、ロシアや、北朝鮮の仲間に入る。

（初出2003年5月-2004年7月）

愛国心の違いと父性、母性

ドライで気体的な、父性的国家。
例。欧米諸国。
国民各自が自由にバラバラに独立して飛べる状態を、国家が、これまで通り保持してくれるようにすること。国家が、国民たちの自由を確保してくれること。その国民たちは、そうした状態を失わないようにするために、国家の維持に協力し、国家のために、命を投げ出そうとすること。それらが、父性的国家における、愛国心の源となっている。

ウェットで液体的な、母性的国家。
例。日本。中国。ロシア。
国民各自が、その国家の内部に入る形で所属すること。国民たちにとって、国家は、完全に一体融合化する対象であること。国民たちは、そうした国家と運命を共にすること。国民たちは、彼ら自身を規制する国家のために、進んで命を投げ出そうとすること。それらが、母性的国家における、愛国心の源となっている。

（初出2014年4月）

近代的自我と父性・母性

移動生活様式中心社会の西欧諸国における、自由主義、個人とプライバシーの尊重といった、ドライな近代的自我に合致している性質。それが父性である。
相互の一体融合感を重んじて、個人を集団に従属させることを好む、ウェットな母性。それは、西欧の近代的自我に反する存在である。それは、近代的自我を殺す存在である。
自立したバラバラな個人が、自由に動くこと。そのことを理想とする近代以降の西欧やアメリカ。そうした社会は、父性の強さが確立された社会である。
西欧近代に見られるような自我が、社会的に、確立していないこと。その社会における、個人の自立の程度が、未成熟で弱いこと。そうした、日本や、中国や、ロシアといった社会。それらの社会は、母性が優位であると言える。母性は、個人を集団の中に一体化させ、埋没させ、全体が一丸となって動くようにすることを得意とする。
西欧における、近代的自我の確立。それは、母性の抹殺と、女性の弱体化に、つながるものであった。
女性解放を目指す、欧米のフェミニズム。その思想は、本来であれば、以下のような内容を、目指すべきであった。母性の回復や強化を求めること。近代的自我が、所属集団の中へと、融解し溶けて、無くなること。個々人が、集団の中に、心地良く一体感をもって融合すること。
欧米のフェミニストたちは、母性の強い、ウェットな集団主義社会である、東アジアやロシアなどを模範とすべきだった。
現在の欧米フェミニズムのように、西欧近代的な確固とした自我を維持しつつ、女性性や母性を強めることを、主張すること。それらは、内容的に、互いに矛盾している。それらを同時に実現することは、本来、不可能なことである。そうした矛盾に、全く気が付いていないこと。それは、西欧フェミニストにおける、根本的な弱点である。
例。リベラル・フェミニズムのように、個人の自由を唱えながら、一方で女性の力の拡大を主張すること。その主張は、明らかに間違っている。その理由。本来、母性は、個人の自由よりも、その所属する集団への奉仕や調和を優先するものであるから。仮に、そうした女性たちが、個人の自由を重んじる、という主張を続ける場

合。そうした女性たちは、従来通り、ドライな父性による支配下で、抑圧されたまま、くすぶり続ける他、無い。
定住生活様式中心社会である、日本。その社会については、表向きには、男尊女卑であり、女性が差別されている、と主張されていること。しかし、その社会の実態は、実際には、以下のような内容であること。妻＝母が、家庭の財布の紐や、子供の教育の実権を、握っていること。妻が、夫を、"濡れ落ち葉"として、邪魔者扱いして、邪険に扱っていること。夫＝父が、家庭内部に、居場所を何も持つことが出来ないでいること。姑が、息子と嫁を、強権的に支配していること。そうした日本のような、母権社会の実態。欧米フェミニストたちは、そうした母権社会の実態を、もっとよく知るべきなのではなかろうか？
本来、それを助ける役目を果たす存在は、日本の女性学者やフェミニストたちであるべきである。しかし、彼らは、欧米フェミニストの作った理論を、そのまま日本に直輸入し、当てはめることに忙しい。彼ら自身は、母権社会の住人であるにも関わらず、日本社会の母性優位の実態について、疎い。それらは、皮肉な現実である。
個人の自立を目指す、西欧的近代性。その基盤をなす、父性中心の価値観。個我の集団への融解や一体化を目指す、母性的価値観。それらは、互いに相反する存在である。それらは、そのままでは、共存はあり得ない。この難しい共存の道を何とか考え出すこと。そのことが、性差心理学や、性差社会学の研究者にとって、今後、解決が求められる、最重要の課題である。

（初出2003年5月-2004年7月）

父性・母性と民主主義

民主主義の基盤をなす価値観。それらの生成については、母性と父性とでその担当する役割が異なっていると考えられる。
個人の自由や、個人の人権の、尊重。その実現には、個人が、ある程度自律性を持って、互いに分離して動き回ることが出来ることが、必要である。これは、母性の中には内在しない、価値観である。これは、母性によっては、生み出すことができない、価値観である。個人が全体に温かく包み込まれることを目指す、母性。それ

は、個人の、全体との調和や協調を、重視する。それは、個人の、全体のための奉仕や犠牲を、重視する。母性は、そうした価値観へと、専ら傾きがちである。個人の自由や、個人の人権の、尊重。その実現においては、ドライな父性の出番となる。その理由。父性は、個々人の間における、相互の分離や独立を、指向し、促進する。
個々人の間における、平等や協調。その実現については、ウェットな母性が、主導権を持っている。その理由。母性は、個々人の間における、非差別や同一視を、指向し、促進する。

（初出2003年5月-2004年7月）

母性的、父性的な、住宅やオフィス

定住生活様式中心社会の、住宅やオフィス。例。日本の、住宅やオフィス。その内部は、仕切りが無い大部屋である。その内部は、例え、仕切りはあっても、ふすまのように、薄かったり、すぐ取り外せるようになっている。その内部は、その外部に向かって、高い壁を作って、外界と隔てられている。そうした構造の住宅やオフィス。それらは、内部の成員間の一体感を重視し、対外的に閉鎖的である。それらは、そうした点で、母性的である。

定住生活様式中心社会の、住宅やオフィスは、母性的な特徴を、持っている。移動生活様式中心社会の住宅やオフィスは、父性的な特徴を、持っている。その理由。その中に入居する、個人や組織。それらが、それぞれ、母性的、父性的であるから。
母性的な、住宅やオフィス。それらは、その内部における、成員間の一体感を重視する。その内部は、仕切りがない大部屋である。その内部は、例え、仕切りはあっても、ふすまのように薄かったり、すぐ取り外せるようになっている。それらは、"みんな一緒"の作りとなっている。それらの内部において、各成員は、互いに他の成員の挙動を見ながら、仕事をしたり、居住する。その点、それらにお

いては、成員間のプライバシーが、無い。
父性的な、住宅やオフィス。それらは、その内部における、個々人の分離や独立を、重視する。それらの内部は、鍵付きの個室になっている。それらの内部は、机毎に、高い頑丈な衝立で仕切られている。それらは、各成員の独立性やプライバシーを重視する構造に、なっている。

母性的な、住宅やオフィス。それらは、その外部に向かって、閉じている。例。一戸建ての住宅。それらにおいては、その外部に向かって、高い壁や柵が張りめぐらされている。それらは、外界から隔てられている。それらは、部外者の侵入を許さない、閉鎖的な構造に、なっている。
父性的な、住宅やオフィス。それらは、その外部に向かって、開いている。例。一戸建ての住宅。それらにおいては、その外部に向かって、庭が、柵無しに、露出している。
母性的な、住宅やオフィス。それらは、その成員にとっては、それ自体、母の胎内に相当する。それらの内部においては、成員相互の温かい一体感に満ちた交流がある。それは、外部に向かって閉じた、部内者の世界に限定されたものである。
定住生活様式中心社会の、宗教施設。例。日本の神社。それらは、その建物や境内を、母の胎内に見立てている。

（初出2005年10月）

母性的職業、父性的職業

母性的職業。職員は、相手のことを温かく受容し、相手に対して、サポート、ケア、世話を行う。
父性的職業。職員は、相手に対して、相手の自立、独立を促進し、相手を突き放す。職員は、守るべき指針や、一人で生き抜いていくために必要な知識を、相手に対して、与える。職員は、法を守らなかった相手を処罰する。

母性的職業。職員は、相手を、心理的一体化の対象として、温かく受け入れ、手厚く世話、サポート、ケアする。職員は、他者と協調し調和して生きて行くために必要な知識を、相手に対して、与える。職員は、情緒的な見地から、感情に溢れた判断を、相手に対して、下す。職員は、調和を乱した相手を、処罰し、追放する。
母性的職業。それは、以下のような内容である。

（１）子供の、世話、サポート、ケアを、行うこと。保育士、幼稚園～小学校教諭。
（２）病人の、世話、サポート、ケア、介助を、行うこと。看護師。カウンセラー。介護福祉士。
（３）乗客の、世話、サポート、ケアを、行うこと。客室乗務員。
（４）家族の、世話、サポート、ケアを、行うこと。主婦。
（５）顧客に対して、くつろぎや、安息の場を、提供すること。旅館・ホテル職員。
（６）顧客の栄養摂取について、サポート、ケア、設計を、行うこと。栄養士。

父性的職業。職員は、相手の自立、独立を促進し、相手を突き放す。職員は、守るべき指針や一人で独立して生き抜いていくために必要な知識を、相手に対して、与える。職員は、客観的な見地から、冷静な診断を下す。職員は。法を守らなかった相手を、処罰する。
父性的職業。それは、以下のような内容である。
（１）顧客に対して、生活に必要な道具や、物資の操作方法を、教えること。教官。
（2a）顧客に対して、守るべき法令を、与えること。法律家。
（2b）顧客に対して、客観的な診断や審判を、下すこと。医者。審判員。裁判官。
（2b）顧客を、切開し手術して、直すこと。顧客に対して、懲罰を与え、更生させること。医者。裁判官。保護観察官。

（初出2005年11月）

密着操作、遠隔操作と、母性、父性

母性的社会。その社会においては、相手に対して密着しながら、相手を操作しようとする、密着操作が、メインとなる。
父性的社会。その社会においては、相手から離れて、リモコンやラジコンのように、相手に対して指令、命令を行う、遠隔操作がメインとなる。

（初出2013年10月）

相互監視社会と父性、母性

父性的社会の場合。相手を監視することで、相手より優位になろう、相手を支配しよう、とする動き。（例。アメリカ政府による、国民に対する盗聴。）相手の監視から自由になろうとする、動き。その社会内部において、それらの両者の動きが、互いに拮抗し、せめぎ合うこと。そのため、一方的な監視社会には、なりにくいこと。
母性的社会の場合。互いに相手を監視しようとする動き。そうした動きしか、その社会内部において、存在しないこと。監視から自由になろうとする動き。それが、余り、存在しないこと。そのため、相互監視社会や、相互牽制社会になること。

（初出2013年10月）

慈愛、厳しさと父性、母性

父性と母性は、以下のように分類される。

慈父。慈母。子供を優しく受け入れ認めること。

厳父。厳母。子供を厳しくしつけ叱ること。

父。子供を、親から切り離すこと。子供に対して、必要な指示を与えつつ、自由に、自己責任で行動させること。

母。子供を、親の範囲内へと、癒着させ包含すること。子供に対し

て、しつこく命令して、彼らの行動を束縛すること。

父親と母親の行動は、それぞれ、慈父と厳父、慈母と厳母を、兼ね備えたものになっている。彼らは、必要に応じて、両者を使い分けている。
従来。父親が、厳しさを、代表すること。母親が、慈愛を、代表すること。そのように、社会的に考えられてきたこと。
父親には、子供をあまり叱らず、行動の模範を自ら示して子供に提示し、それを受け入れた子供を誉める、慈父タイプが、存在する。
母親には、嫁いびりをする姑と同様に、子供に対して、常日頃から厳しく接し、𠮟責、駄目出しを繰り返す、厳母タイプが、存在する。
慈愛と厳しさ。それらは、母性と父性の一方のみに存在する、と考えてはいけないこと。それらは、母性と父性の両方において、存在する、と考えるべきであること。

（初出 2018年7月）

温室。温室社会。温室集団。

温室社会。温室集団。それらの定義。

その内部においてのみ、高度な生きやすさが、確保され、保証されていること。
そうした社会や集団。

その外部では、生きやすさは、ほとんど、確保されず、保証されないこと。
その内部と外部との間において、生きやすさの水準における、大きな格差が、存在すること。

その内部は、外部に対して、門戸を固く閉ざしていること。

高度な生きやすさを、享受出来る者。
それは、その内部メンバーに、限定されること。

その内部メンバー。
女性専用社会。女性集団。
女性優位社会。その社会集団。
女性たちと、彼らの支配下にある、娘と息子。
定住生活様式における、定住集団の定住民。
移動生活様式における、血縁定住集団の定住民。

温室性。その特徴。
//
高度な生きやすさが、確保されること。
安全性が、確保されること。
快適性が、確保されること。
調和が、確保されること。
平和が、確保されること。
負荷や負担が、低くて済むこと。楽であること。
特権性が、確保されること。社会的に優遇されること。

問題の解決。
温室性そのもの。その所有。その維持。その永続。
それらの実現に必要な、苦役や護衛の作業。
内部の者は、それらの作業を、何もやらなくて良いこと。
内部の者が、それらの作業を、外部の者に対して、一方的に丸投げ可能なこと。
//

（2022年2月初出。）

温室性の確保と、それに伴う、代表性の回避。

代表性の度合い。それは、非温室性の度合いに、比例する。

代表者。長。
それは、以下のような者である。
外部へと、直接、露出する者。
外部からの攻撃を、直接、受ける者。
その社会や集団の運営。それが失敗した時に、その責任を取る者。

外部への直接的な露出性。その度合い。
外部からの攻撃の受けやすさ。その度合い。
責任を取らされる度合い。
それらの度合いは、代表性が高まるほど、高まる。

それらの性質。
それは、以下の内容に、根本的に、違反する。
自己保身性。
温室性。
それらの実現。その保持。

その違反の度合い。
それは、代表性が、より高まるほど、より、高まる。

代表者の役割。
それは、女性に、根本的に、嫌われる。
女性は、代表者に、なろうとしない。

自己保身性の指向者。
温室性の指向者。
女性。
彼らは、ある社会的役割の代表性が、より高まるほど、その社会的役割の受諾を、より、避ける。

女性は、代表者の役割を、男性へと、全て、丸投げする。
女性は、そうして、自己保身性や温室性を、今まで通り、十分に確保し続ける。

（2022年3月初出。）

温室の提供者と享受者。彼らの間の上下関係。

男性。
温室性の提供者。
女性。
温室性の享受者。

男性は、女性に対して、温室性を提供出来ないと、以下の内容を実現出来ない。
その女性と結婚すること。
彼自身の遺伝的子孫を残すこと。
それらの実現に関する決定権は、女性が握っている。

温室性の提供者に対して求められる資質。
劣悪な環境を跳ね返す力。
危険な環境を生き延びる力。
強靭性。
耐久性。
環境適応の範囲の幅広さ。
経済的な稼ぎの高さ。
劣悪で危険な環境の下で、温室生活の領域を、何とかして確保し、実現する能力。

温室性の享受者に対して求められる資質。
温室性の提供を受けるに足る、正当性。
身体内部の所有設備の貴重性。
身体内部の所有設備の精巧性。
身体内部の所有設備の高価性。

温室性の提供者は、温室性の享受者よりも、生きやすさの確保しやすさの面で、格下である。
男性は、女性よりも、生きやすさの確保しやすさの面で、格下である。

その結果。
温室性の提供者は、温室性の享受者よりも、生物としては、格下である。

男性は、女性よりも、生物としては、格下である。

（2022年3月初出。）

温室内部からの社会支配。

女性優位社会における女性。
彼らは、社会の中核的な支配者である。
彼らは、社会の表面には、露出しない。
彼らは、温室内部からの社会支配を、行う。
彼らによる社会支配は、歴史の表舞台には、出てこない。
彼らによる社会支配は、真の支配者の名前を伏せて、行われる。
その結果。
彼らの社会は、表向きは、男性支配に見える。
彼らは、視野や興味が、温室内部のみに、専ら向いている。
彼らは、視野が、根本的に、局所的であり、狭い。

彼らは、外部の非温室領域へと、彼ら自身の代行者としての男性を、立てる。
例。
代行者。
代表者。
責任者。
長。
選挙の投票者。
武装者。

そうした男性たち。
彼らは、女性たちによって、温室内部から、定期的に追放される。
彼らは、温室性を、女性たちによって、剥奪されている。
彼らは、温室内部からの遠隔操作や遠隔支配を、絶えず、受け続ける。
彼らは、生育過程で、強力な母子癒着状態に置かれ続ける。
彼らは、生涯にわたって、彼ら自身の母親に対して、全く頭が上がらない。
彼らは、生涯にわたって、女性から、精神的な支配を受け続ける。

彼らは、温室内部の女性たちを護衛するため、それらの事実を、決して、表出しない。
彼らは、表向き、その社会の支配者として振る舞う。
例。
ロシアのプーチン大統領。
中国の習近平国家主席。

その結果。
男性優位社会の人々は、彼らのことを、社会の真の支配者であると、誤解する。

（2022年3月初出。）

温室性の確保。男性優位社会に支配される、女性優位社会の場合。

例。
日本は、男性優位社会のアメリカが保有する核の傘の下で、保護され続けている。
彼らは、そのことで、温室性を、確保し続けている。
彼らは、そうした男性優位社会による保護政策を、支持している。
彼らは、同時に、そうした男性優位社会によって、経済的に、抑圧され搾取されている。
彼らは、そうした不利益を、必死になって、我慢する。
彼らは、非武装主義に徹する。
彼らは、彼ら自身の武装には、慎重であり続ける。

（2022年3月初出。）

調和。調和主義。調和社会。調和集団。それらの特徴。その総合的な分析。

調和。生物や人間による、その実現。その、社会的な理想化。生物の本質との関連。

調和。
和合。
その存在。
その実現。
その、個人的な実現。
その、生理的な実現。
その、心理的な実現。
その、社会的な実現。
それに対する欲求。
その強さ。
その永続性。
その、生物の本質との関連。

調和。 / 非調和。
その両者の感覚の、生物における、発生の要因。
それは、以下の内容である。

同質性。 / 異質性。
同一性。 / 相違性。
賛成。称賛。 / 反対。批判。非難。
共感。 / 共感の欠如。無関心。切り捨て。
協力。協調。 / 協力しないこと。見捨てること。
温情。 / 容赦の無さ。
湿潤性。温暖性。 / 乾燥性。冷淡さ。

同調。 / 別行動を取ること。個人行動を取ること。
同期。 / 非同期。別々のタイミングで動くこと。
集合性。集中性。 / 離散性。
一緒であること。共同性。 / 別々であること。個別性。
相互に仲良しであること。 / 相互に対立していること。
仲間。友達。 / 敵。ライバル。
彼自身の生存を、助ける存在。 / 彼自身の生存を、妨げる存在。

彼自身の生存に、協力する存在。 / 彼自身の生存を、邪魔する存在。
彼自身の生存にとって、プラスになる存在。 / 彼自身の生存にとって、マイナスになる存在。
彼自身の生存にとって、有利になる存在。 / 彼自身の生存にとって、不利になる存在。
彼自身のことを、存続させる存在。 / 彼自身のことを、抹消する存在。

生物は、彼自身の存在を、存続させたい。
生物は、以下の存在を、好む。
彼自身の生存にとって、プラスになる存在。
生物は、以下の存在を、不快に感じる。
彼自身の生存にとって、マイナスになる存在。

調和は、以下の場合に実現する。
同質性。賛成性。同調性。仲良し。仲間。友人。
それらが、実現している場合。
空間的な実現。
時間的な実現。

調和の実現。
その欲求の生まれる背景。
生物の本質。
それは、以下の内容を、意味する。
遺伝子の複製。
それは、以下の内容を、意味する。
複製元と複製先との間における、同質性。
複製元と複製先との間における、同一性。
その実現。
それは、以下の内容を、意味する。
複製元と複製先との間における、調和。
その実現。

調和。
それは、以下の内容を、意味する。
生物にとって、以下の内容が実現されていること。
彼自身の生存の存続。
それにとって、プラスの状況。
それにとって、プラスの環境。

それらが、成立していること。
それは、生物にとって、根本的に好ましい。
それは、生物にとって、根本的に快い。

対立。
それは、以下の内容を、意味する。
生物にとって、以下の内容が実現されていること。
彼自身の生存の存続。
それにとって、マイナスの状況。
それにとって、マイナスの環境。
それらが、成立していること。
それは、生物にとって、根本的に好ましくない。
それは、生物にとって、根本的に不快である。

例。
人種差別。
白色。黒色。

ある二つの対象。
その両者における、以下の内容の成立。
その心理的な成立。
その社会的な成立。

異質性。対立性。
それらの感覚。
それらの知覚。
それらについての認知。
それらについての認識。
その成立。
生物における、その発生。
その、根本的な遺伝性。
その、根本的な先天性。
その、根本的な、除去不能性。

異質性。対立性。
それらが、生物にとって及ぼす、不快さ。
生物における、その発生。
その、根本的な遺伝性。

その、根本的な先天性。
その、根本的な、除去不能性。

異質性。
対立性。
それらが、生物にとって及ぼす、不快さ。
その生成。
それは、生物にとって、不可避である。
その感覚。
それは、彼ら自身が生物である限り、永続する。

ある社会。
そこにおいて、以下の状況が、発生していること。
一方が、その一方を身に付けていること。
他方が、他方を身に付けていること。
その場合。
その身への付け方。
それが、遺伝的である場合。
それを、本人自身が、決定出来ない場合。
ある社会。
そこにおいて、以下の状況が、発生していること。
上記の一方が、社会的上位者であること。
上記の他方が、社会的下位者であること。
その場合。

下記の（１）は、下記の（３）の行為を、実行する。
下記の（１）は、それを、下記の（２）に対して、実行する。
下記の（１）は、それを、下記の（４）の期間、実行する。

（１）
その社会的上位者。

（２）
その社会的下位者。

（３）
サンドバッグとして、扱うこと。
叩き続けること。

（４）

上記の（１）。
彼ら自身が生物である間。
その限り。

それは、以下の内容である。
差別。

差別。

彼ら自身が生物である間。
その限り。
彼らは、その行為を、永久に続ける。
彼らは、決して、相互に融和しない。

そうした差別。
その撤廃。
平等の実現。
その、彼ら自身による、実現。

彼ら自身が生物である間。
その限り。

それは、不可能である。

そうした理想。
その信仰。
その実現に対する、熱狂的な支持。

彼ら自身が生物である間。
その限り。

それは、無意味である。
それは、只の社会的なガス抜きである。
それは、只の社会的な麻薬である。

液体的行動。
女性的行動。
それは、調和を、実現する。

気体的行動。
男性的行動。
ウィルス的な行動。
湿潤性を嫌う行動。

それらは、非調和を、実現する。

相互に、非調和な行動を、取り合うこと。
そうした社会的行動。
それを、以下の内容と、見なすこと。

彼ら自身の社会。
そこにおける、理想的な社会規範。

その内容について、以下の行為を実行すること。
それを、共同で採用すること。
その実現。
その遵守。
そのために、社会的に、仲良く協力すること。
それを、社会的に、推進すること。

それは、実は、以下の内容である。
メタなレベルにおける、調和の実現。

気体的行動。
男性的行動。
ウィルス的な行動。
湿潤性を嫌う行動。

それらは、実は、以下の内容である。

メタなレベルにおける、調和の実現。
メタなレベルにおける、生物の本質の反映。

それは、メタなレベルにおいて、以下の内容と、同一である。
液体的行動。
女性的行動。

そのことは、以下の内容を、意味する。

以下の両者。
彼らの間における、メタなレベルでの同質性。
その成立。

気体。液体。
男性。女性。

それは、以下の現れである。
上記の両者。
彼ら自身が、共通に、生物であること。
その表れ。
彼ら自身が共通に持つ、生物の本質。
その、彼ら両者における、共通性。
その顕在化。
彼らの間における、調和の存在。

調和。
和合。
その実現に対して抱く、欲求。

調和。
和合。
その実現を、理想とすること。
それに対する、支持や賛成。
そうした心理。

生物における、それらの内在性。
それは、遺伝的である。
それは、取り消し不能である。
それは、永続的である。

生物が持つ、それらの本質的な強力性。
それは、以下の内容を、反映している。

生物が、海から生まれたこと。
生物が、水から生まれたこと。
生物が持つ、水としての性質。

生物が持つ、液体的な性質。
生物が持つ、水としての起源。
生物が持つ、液体としての起源。

（初出2021年4月）

調和社会。調和集団。それらについての、概観。

調和社会。
//
調和を指向する社会。

定住生活様式。
女性優位社会。
//

調和集団。
//
調和を指向する集団。

液体分子の集団。
定住生活様式における、定住集団。
女性集団。温室集団。
それらの内部。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。それらにおける、調和の崩壊。

//
内輪揉め。内部対立。
内部での不調和の発生。
内部での調和の崩壊。

仲違い。
裏切り。
気が合わないこと。
価値観の相違。
価値観の対立。
//

（2022年2月初出。）

不調和者。調和社会における、社会への不適応者。彼らの特徴。

////
突出者。調和を、乱す者。
気体分子。
精子。
男性。
男性優位な女性。
男性化した女性。

彼らの特徴。
//
有能過ぎること。
羨望や嫉妬を、引き起こすこと。
その存在が原因で、周囲の者の相対評価が下がること。

無能すぎること。
足手まといになること。
邪魔になること。
その存在が原因で、周囲の者の相対評価が下がること。

既得権益を、持ち過ぎていること。

度を過ぎた富裕者。
羨望や嫉妬を、引き起こすこと。
その存在が原因で、周囲の者の相対評価が下がること。

既得権益が、不足し過ぎていること。
貧困者。
足手まといになること。
邪魔になること。
その存在が原因で、周囲の者の相対評価が下がること。

異質であること。
相容れない思想や価値観の所有者。
相容れない外見や外観の所有者。

危険であること。
コントロールが効かない者。精神疾患の患者。
地位上昇への野心を、顕にする者。
相対評価の上昇への野心を、顕にする者。
内部告発を行う可能性がある者。
反抗する者。
異議申し立てをする者。

調和を守る能力が欠如していること。
皆と一緒に、一斉行動や同調行動をしようと、しないこと。
個人行動者。
抜け駆け行動者。
////

（2022年2月初出。）

調和者。調和社会における、社会への適応者。彼らの特徴。

////
調和者。
//
液体分子。

卵子。
女性。
女性優位な男性。
女性化した、男性。
//

調和者の特徴。
//
調和を好むこと。
調和を重視すること。
調和者を、重視すること。
他の調和者と、仲良くすること。
他の調和者と、同調行動をすること。

不調和者。
彼らの存在を、不快に、思うこと。
彼らの存在を、目障りに、思うこと。
彼らを、排除したくなること。
その首謀者。その友人たち。その同調者。

その排除の口実。
//
迷惑を掛ける、厄介者。
調和を乱す、邪魔者。
不調和を発生させる、有害者。
//
彼らの、意図的な排除。

そのことで、定住集団の内部における調和を、回復したいこと。
そのタイミングで、彼自身が、より有利になっていること。
そのタイミングで、彼自身についての相対評価が、より上位になっていること。
////

（2022年2月初出。）

調和社会における、調和集団。その特徴。

//
限定されたメンバーによって、構成されていること。
強固な排他性があること。
同質者以外を、排除すること。
メンバーが、相互に特別に仲良しであること。
そうした、小集団。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和者が引き起こす、不調和。それらの発生の原因。

//
主導権争い。
覇権争い。
上位者の地位を巡る争い。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。その生きにくさの要因。

//
定住の強制。
移動の不能性。
逃げ場が無いこと。
定住集団からの脱出の不能性。

定住集団が、生活インフラを、独占していること。
その結果。
定住集団から追放された場合。
生きていけないこと。死ぬこと。

排他性があること。
内部に、入れてもらえないこと。

個人行動の不能性。
抜け駆けの行動の禁止。
同調行動の強制。

相互監視の徹底。
個人のプライバシーの確保の不能性。

相対評価。その確認。
それらの恒常的な発生。
それらから逃げることの不能性。

仲良し定住集団を割ること。その行為の禁止。
機密性。
内部告発の禁止。
//

（2022年2月初出。）

調和者。彼らの行動原理。

//
相対評価を上げること。

脅威。ライバル。
自分より、評価が上位の者。有能者。既得権益の保持者。
彼らの相対評価を、故意に下げること。
そのことで、自分自身の相対評価を上げること。

自分より、評価が下位の者。
彼らの相対評価が上がることを、防ぐこと。
自分自身の相対評価を、上位で安定化させること。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。調和を保つ、意思決定プロセス。

//
利害関係者に対して、事前の利害調整を、行うこと。
利害関係者に対して、事前の了承を、取り付けること。
事前の了承を、個別に取り付けること。
事前の了承を、秘密裏に、非公開で、取り付けること。
事前の了承を、取り付ける者。限定された、一部の関係者。限定された、共通の利害の保持者。限定された、一定以上の上位者。
事前の了承を、取り付けた、内部関係者。彼らを、非公開の合議の場に、参集させること。
彼らの間で、事前の合意を、排他的に、秘密裏に、非公開で、満場一致で、行うこと。
その事前の合意内容や、事前合意者の情報を、機密情報化すること。その合意内容や合意者の情報について、漏洩が起きないようにすること。
事前合意における、多数性を、予め、確実に確保すること。
その後。
公開の場で、事前の合意内容を、あたかも、その場で、合議と、意思決定が、事後に、リアルタイムで行われているかのように、全員で演技すること。
形式のみの、公開討議の実施。事前のせりふ決定と、その場での、せりふの読み上げ。
少数の反対者の意見の、無視。少数の反対者の意見に対する、自己保身に基づく、言い逃れ。それらを、制限時間満了や終了時刻が来るまで、延々と続けること。その時間的な引き伸ばしを、行うこと。
そのことによる、事前の合意内容の、押し通し。
そのことによる、事前の合意内容の、既成事実化。
そのことによる、ライバルや反対者の、意思決定プロセスからの、秘密裏の排除。
事前の合意内容に基づく、社会統制を、反対者を含む、全員の合意や、全員の調和に基づく内容であるとして、正当化すること。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。それらの内部における、調和の破壊。その発生要因。

//
意見が割れること。集団が割れること。集団の一体性が、崩れること。
利害対立。
揉め事。
仲違い。喧嘩。
内部抗争。
派閥同士の争い。
ライバル。
それらの発生。
その常態化。
ストレスが溜まること。
ストレスの発散が、恒常的に、必要になること。

脅威やライバルについての、マイナスの情報。
相対評価がより上位のライバルについての、マイナスの情報。
相対評価がより下位のライバルについての、マイナスの情報。
仲が悪い抗争相手についての、マイナスの情報。
それらを、発信すること。

周囲に対して。
悪口を言うこと。
陰口を叩くこと。
黒い噂話を、流すこと。
中傷すること。
それらを、直接、面と向かって言うこと。そのことで、発信者が特定されること。それを避けること。
それらを、匿名で、行うこと。
それらを、機密性を保った状態で、行うこと。
個人が特定されることを、回避すること。
発信者についてのプライバシーの機密保持を、念押しすること。

そのことで、彼自身は、安全地帯に、留まること。
上位者に対する、密告を行うこと。
上位者が、相対評価におけるライバルに不利益を与えるように、仕組むこと。
上位者が、抗争の相手に不利益を与えるように、仕組むこと。

表面上は、相対評価におけるライバルと、仲良くすること。
表面上は、抗争相手と、仲良くすること。
そのことで、表面上は、定住集団内部の調和を、保つこと。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。それらの内部における、嫌がらせの発生。そのプロセス。

//
事前合意。事前の了承。それを取り付けるための、事前の個別の相談。
彼を、そのルートから、秘密裏のうちに、外すこと。
彼には、相談を、持ちかけないこと。

彼を、集団が占有するインフラへのアクセスが出来ないようにすること。

定住集団の内部の調和を乱す、悪者。
彼のことを、皆が、そのように、見なすようになること。
そのように、予め、仕組むこと。

定住集団に迷惑を掛ける、厄介者。
彼のことを、皆が、そのように、見なすようになること。
そのように、予め、仕組むこと。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。それらの内部における、不調和状態の解決。そのプロセス。

//
内部抗争。
調和を乱すこと。
彼自身が、その当事者となること。
そのことで、周囲に対して、迷惑を掛けること。
それを、嫌うこと。

和解を、望むこと。調和を取り戻すこと。それを、望むこと。
調停者を、望むこと。上位者。対等な第三者。公正な判断を下す能力を持つ者。

和解の実現。
相互の間の、そのままでは消せない、不調和。
相互の間のわだかまり。相互の間のしこり。
それらを、水に流して、消滅させること。
内部における、不調和の初期化。
内部における、調和の、再度の回復。

その結果。
仲違いや、争いが、振り出しに戻ること。
しばらくは、全員が、仲良しとなること。
しばらくは、集団内部における不調和が、表面化しないこと。
その後。
新たな仲違いや、新たな争いが、初期状態で、水面下で、秘密裏に、新たに開始されること。
//

（2022年2月初出。）

調和社会。調和集団。調和者の、社会行動における、動機。その内容分類。

//
動機。
相手の相対評価を下げること。
そのことで、自分自身の相対評価を上げること。
そのことで、より有利になること。
定住集団内部において。
主導権を握ること。
より上位者になること。
最上位者になること。
中心者になること。
最も自己保身性を実現しやすい者になること。
最も自己中心性を実現しやすい者になること。
最も生きやすい者になること。
そのことで、絶対者や、万能者になること。

定住集団内部において。
日本社会における天皇と、同等の存在になること。
専制支配者になること。
批判を一切受けない者になること。
称賛のみを受ける者になること。
最高の相対評価を受ける者になること。

下位者への転落に対する、恐怖心。
上位者による、虐待や搾取。その対象になること。その常態化。そのことに対する、恐怖心。
定住集団ぐるみでの、虐待や搾取。その対象になること。その常態化。そのことに対する、恐怖心。
定住集団から追放されること。そのことに対する、恐怖心。

定住集団内部における、下位者への転落。そのことを、避けること。
定住集団からの追放。そのことを、避けること。

上位者による、親しい下位者への、助太刀。

上位者への同調。上位者への忖度。
上位者にとって、元から気に入らない、他の定住民。
彼自身のライバルを、彼自身の上位者にとって、気に入らない存在へと、変化させること。そのように、予め仕組むこと。

そうした、上位者にとって気に入らない、他の定住民。
彼を、追い落とすこと。
彼を、いじめること。
彼を、心理的に攻撃すること。彼の精神を、潰すこと。
彼の生きやすさを、故意に、低下させること。
彼に対して、嫌がらせを行うこと。
彼を、インフラへのアクセスが出来ないようにすること。
そうした行為。
それを、彼を除いた残りの全員で、一致団結して、行うこと。

下位者に対する、専制支配を、行うこと。
反抗する下位者。異議申し立てを行う、下位者。
専制支配に対する、内部告発者。
彼を、追い落とすこと。
彼を、いじめること。
彼を、心理的に攻撃すること。彼の精神を、潰すこと。
彼の生きやすさを、故意に、低下させること。
彼に対して、嫌がらせを行うこと。
彼を、インフラへのアクセスが出来ないようにすること。
そうした行為。
それを、彼を除いた残りの全員で、一致団結して、行うこと。
//

（2022年2月初出。）

調和と、専制支配や独裁。

調和社会や、調和集団における、専制支配や、独裁。
女性優位社会における、専制支配や、独裁。
定住生活様式における、専制支配や、独裁。

それらの発生のメカニズム。
それは、以下の内容である。

女性優位社会の内部。
女性専用社会の内部。
女性の子宮の内部。
卵子の内部。
液体の内部。
例。
ロシアのマトリョーシカの人形の内部。

それらの内部における、一体性や融合性や調和の保持。
そのことは、それらに対して、以下の内容を、もたらす。
それらの内部が、同じ色へと、一斉に、例外無く、一気に、恒常的に、染まること。
そのことが、それらの内部の全てのメンバーに対して、相互に強制されること。

そうした、一体性や融合性や調和の基準を、決定する者。
調和社会。その社会の色を、決定する者。
その人物は、その社会における、最上位者である。
その人物は、その社会において、最上級の、有能性か、既得権益を、保有している。
その人物は、女性優位である。
その人物は、表向きは、その社会の代表者の男性であることが、多い。
しかし。
その人物は、実質的には、その男性を一心に育て上げた、母親である。

調和社会。
その社会は、その最上位者の意向へと、一気に、同じ色に染まる。
その社会は、その最上位者の意向と同じ色に、恒常的に、染まり続ける。
その社会のメンバーは、以下の内容を、無条件で、強制される。
最上位者の意向に合わせて、一色に染まること。
例外者の存在は、一切、許されない。
異議申し立てを行う者は、その社会の内部で、その存在を、強制的に抹消される。
これが、調和社会における、専制支配や独裁のプロセスである。

結論。
社会的な調和の追求は、専制支配を、必然的に、引き起こす。
調和社会や調和集団は、専制支配を、必然的に、引き起こす。
調和社会や調和集団。それらにおける最上位者は、必然的に、専制支配者や、独裁者となる。

（2022年3月初出。）

調和主義。それは、女性優位社会における、社会的価値観の中核である。

調和主義。
社会の内部における、全体的な調和の実現を、最優先にすること。
そうした、思想やイデオロギー。
それは、女性優位社会における社会的価値観の、中核である。
それは、女性の卵子の性質に由来する。
それは、液体的である。

女性優位社会。定住生活様式の社会。
それらの社会は、今後は、以下の方法で、社会運営を進めて行くべきである。
調和主義を、社会の前面に、明示的に押し出すこと。
それは、彼らの本質に適合している。
それは、彼らにとって、以下の内容である。
外部からの借り物でない、彼らの社会の内実を忠実に反映する、本物の思想。

女性優位社会においては、以下の（１）から、以下の（２）への移行が、新たに必要である。
（１）
従来の男性優位社会の社会理論を借用している状態。
（２）
調和主義の社会理論そのものを採用した状態。

例。
中国における、共産主義から、調和主義への、スムーズな移行。

男性優位社会の欧米諸国が使う、民主主義の概念。
それは、欧米社会に特化した内容になっている。
それは、そのままでは、汎用性に欠けている。
それは、現状では、出来の良い普遍的な概念では無い。
民主主義の内容。
それは、以下の内容へと、もう少し、改められるべきである。
より、汎用的で普遍的な、内容。
世界社会全体にとって、より適した、内容。

女性優位社会において、以下のような仕組みが、実現すること。
それは、従来の欧米の民主主義と同様の、社会的理想となる。
//
下位者の意思が、社会全体に対して、通りやすいこと。
それを、実現する仕組み。
//

民主主義。
社会的下位者の意思を、社会全体に通りやすくする、仕組み。
それは、男性優位社会でも、女性優位社会でも、共通に、成立する。
それは、男性優位社会でも、女性優位社会でも、社会が、そのメンバーにとって、より生きやすくなる上で、望ましい。
上位者による、下位者に対する、虐待や搾取。
それらは、無くすことは出来ない。
しかし、それらの度合いは、少し軽減できる。
そのことを実現するための、イデオロギー。

民主主義。
それは、男性優位社会と、女性優位社会とでは、その実現形態が、大きく異なる。

男性優位社会の民主主義。
自由主義的民主主義。
個人主義的民主主義。
上位者に対する、自由で明示的な、批判や、異議申し立て。それらの、許容。
社会における、自由な個人行動に基づく、以下の内容の、許容。

自由な意見の主張。意見の割れ。意見のバラバラさ。
下位者が、以下の人物を、選べること。
彼ら自身にとっての、望ましい上位者。

女性優位社会の民主主義。
調和主義的民主主義。
全体主義的民主主義。
社会全体の調和の形成に当たって、以下の社会的行為が、上位者によって、事前に行われること。
社会政策の決定における、下位者との事前合意。
それらの、確実な形成。
上位者による、下位者との間における、事前の、意見のヒヤリングの実施。
上位者が、下位者からの批判や不満の声を、非公開で聴くこと。
それらが、下位者全員に対して、行われること。
それらは、非公開の会合で、まとめて行われること。
その結果を元に、全員が合意出来る内容の政策を、調整役の上位者が、作成すること。
そのことで、社会政策の決定において、以下の内容tが、実現すること。
下位者の意思が、社会全体に対して、反映されること。
意見の満場一致が図られること。
社会全体の調和が、問題無く、維持されること。
例。
日本の伝統的な集落における、集団的な意思決定方法。
根回し。談合。

社会主義。
社会的下位者の生きやすさを、社会全体で確保する仕組み。
それは、社会的な転落に対する、セーフティーネットとして、機能する。
それは、社会的上位者にとっても、以下の場合には、必要となる。
彼自身が、社会的に、底辺まで転落した場合。
それは、調和主義においては、社会的上位者と社会的下位者との一体性や融和を、促進する。
それは、調和主義の社会において、有益である。

男性優位社会の社会主義。
北欧における、社会福祉政策。

女性優位社会の社会主義。
現代の中国における、共同富裕の政策。

（2022年3月初出。）

無機質主義。

無機質主義。その基本的な考え方。生物の無機質的な把握。

無機質主義。
その基本的な考え方。
それは、以下の内容である。

////
無機質物質を、指向すること。
生物の無機質的な把握を、指向すること。
無機質的な生物を、指向すること。
////

(1)
現物を、指向すること。
現実を、指向すること。
本質を、指向すること。

(2)
非人間を、指向すること。
非DNA生物を、指向すること。
機械を、指向すること。
金属を、指向すること。

無機質を、指向すること。
物質を、指向すること。
生物を、物質として捉えること。
物質としての生物を、指向すること。

(3)
要素還元を、指向すること。
無機質還元を、指向すること。

(4)
対人的な非コミュニケーションを、指向すること。
対人的な無コミュニケーションを、指向すること。
音声対話の拒絶を、指向すること。
対人接触の拒絶を、指向すること。

(5)
離散分布を、指向すること。
遠隔作業推進を、指向すること。
テレワーク推進を、指向すること。

相互に、無限遠な形で、存在すること。
その実現を、指向すること。
俯瞰を、指向すること。
鳥瞰を、指向すること。

(6)
無機質者を信頼すること。
DNA生物を信頼しないこと。

無機質者との接触。
それを、喜び、好み、楽しむこと。

DNA生物との接触。
それを、悲しみ、嫌い、苦痛に感じること。

無機質の物質同士の接続やコミュニケーションを、好むこと。

(7)
「ツール化」を、指向すること。
私自身が、私自身にとって、最良のツールとなること。

その実現を、指向すること。

私自身を含めた、生物物質一般。
それらの生存水準の向上。
私自身が、その実現のために、役立つこと。
その推進を、指向すること。

(8)
無機質の物質間を、直接接続すること。
そのことを、指向すること。

(8-1)
有線接続を、指向すること。

例。
有線lan。
有線ヘッドホン。
有線スピーカー。
有線キーボード。
有線マウス。
有線電源ケーブル。

有線は、高速で、つながる。
有線は、確実につながる。
有線は、有能であり、信用できる。
無線は、低速で、つながる。
無線は、接続が不安定である。
無線は、無能であり、信用できない。

(8-2)
無機質の物質を、直接操作すること。
そのことを、指向すること。

物理キーボードを、指向すること。

ソフトキーボード。
それは、信頼性に欠けている。
それは、頼りない。

物理マウスを、指向すること。

タッチパネル。
それは、お手付きばかり、引き起こす。
それは、静止操作が出来ない。
それは、信用できない。

(9)
音声を、以下の内容として、捉えること。
無機質物質による、私自身へのデータ伝達。
それを、推進すること。

音声を、以下の内容として、捉えること。
対人コミュニケーションの一環。
それを、拒絶すること。

(10)
以下の内容の実現を、指向すること。

(10-1)
充電池を、複数所持すること。
UPSを、所持すること。

(10-2)
重要データを、無機質物質として、捉えること。

重要データを、以下のような場所に、迂闊に預けないこと。
クラウド。
私自身にとって、手の届かない他者。
彼らが所有し、管理する場所。

重要データは、物理的に、必ず私自身で管理すること。
重要データを、ローカルに保存すること。
重要データを、多重地点で、同時に、保存すること。
重要データを、多重にバックアップする形で、保存すること。
電源のバックアップを、用意すること。

個人が提供するデータを、永年保存すること。

その実現を推進する団体。
彼らのことを、応援すること。

(10-3)
分散投資を、指向すること。
現物投資を、指向すること。
貴金属。
不動産。

(11)
現実を、指向すること。

「物品は、上手く動作すれば、それで十分良い。」
その考え方への指向。

物品に対する要求。
それは、以下の場合、私自身にとって、最良である。
以下の内容が、85パーセント程度、実現されていること。
以下の内容が、値段の割に、そこそこの程度で、実現されていること。

////
高精細性。
高円滑性。
高品質性。
高い完成度。
////

物品の包装。
それは、以下の内容を実現したものが、良い。
////
最低限であること。
安価であること。
デザイン無しであること。
飾り無しであること。
丈夫であること。
////

物品は、動作して、我々の生存水準の向上に役立てば、それで十分良い。

物品は、まともに動作しない場合、無価値である。
それは、いくら見かけが良くても、無価値である。
それは、いくらお金や時間や手間が掛かっていても、無価値である。

例。
コンピュータ・プログラムのソースコード。
それは、例え、未完成でも、不出来でも、上手く動作すれば、それで良い。
それは、十分に価値がある。

(12)
それは、以下の内容である。
極限の男性性の発現形態。
女性性にとっての、極限の対極性の発現形態。

（初出2021年5月。）

意識物質。意識の、無機質的な把握。

意識物質。

それは、神経系を持った、物質である。
それは、DNA生物に、限定されない。

神経系。

それは、DNA生物のニューロンに、限定されない。

電気回路を持つ物品。
電気信号で動く物品。
それらは、全て、神経系と呼べる。

電気製品は、電源を入れると、神経系を持った意識が宿る。

その点、電気製品は、意識物質の一種である。

この観点から、以下の内容を探ることが、新たに必要である。

////
意識物質間でのネットワーク構築。
意識物質同士の接続。

意識物質に対して、操作を、実行すること。
それによる、以下の実現。
//
意識物質とのコミュニケーション。
意識物質からの反応を、取得すること。
////

それらを、より望ましい形で、実現すること。
そのための方法。

（初出2021年5月。）

生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

本書の執筆目的。

筆者は、以下の内容を、本書執筆の目的としている。様々な分野を横断する、機能主義の統一理論。その確立。その実現。
筆者は、それを、生物の視点から構築した。

生物の分類。

生物。それは、以下のように分類できる。
（１）生物と似た物質。例。変質せず長持ちする、金地金。

（２）生物の構成要素。例。分子。有機化合物。
（３）生物。
（３－１）ウィルス。細胞。
（３－２）身体。（例。人間個人の身体。）
（３－３）身体の群れ。集団。社会。（例。人間の社会。）
（３－４）集団や社会の群れ。社会同士の相互作用や連合。（例。人間の国際連合。）

生物。それは、以下の二種類である。
（Ａ）遺伝的生物。遺伝的子孫。（息子。娘。）
（Ｂ）文化的生物。文化的子孫。（製品。建築物。機械。）

生物同士が作る社会そのものも、生物として捉えられる。
それらは、以下の用語で統一的に説明できる。
生物としての社会。

機能。

機能。生物の維持や発展に必要な働き。生きやすさの素。
機能主義。それは、機能の観点から、生物の生理や心理や社会を分析する。
機能主義の対象。それは、全ての生物である。それは、人間に限定されない。
機能主義の内容。それは、人間のみに限らず、生物の全てに当てはまる。
機能主義者としての性格。それは、人間のみに限らず、生物の全てが、持っている。人間は、生物の一種に過ぎない。

生きやすさの水準。

生きやすさの水準。
その水準の向上。それへの圧力。生きやすさ向上への圧力。
それが、出回る機能の質や量を、生物の社会において、向上させる。
それが、社会の近代化を、生物の社会において、生み出す。
それが、社会体制の一新を、生物の社会において、生み出す。

生きやすさの水準。それが高い状態。それを保持する社会。それは、以下の性質を持つ。
表_1

機能物質。

機能物質。
生物にとっての、生きていく上で必要な物質。
（１）酸素。水。栄養。
（２）情報。それは、外部環境の状態を示す。

機能の分類。

機能の分類。それは、例えば以下の通りである。例。生体内の機能分化。例。人間社会における産業の分類。

機能は、以下のように分類できる。
（１－１）正の機能。（生物の生存に役立つ働き。）
（１－２）逆の機能。（生物の生存を脅かす働き。）

（２－１）物理的機能。（物体・物質に組み込まれているもの。）
（２－２）生理的機能。（生物の生体の活動維持に必要なもの。栄養。）
（２－３）心理的機能（生物が、心理的に活力ある、元気な状態になること。その実現に必要なもの。）

（３－１）自然の機能。（石油、穀物など。天然資源。）
（３－２）人工の機能。
（３－２－１）加工品。例。道具、製品など。
（３－２－２）情報。ニュース配信など。

機能の分類。それは、以下の例の通りである。

機能の分類。
例。生物の生体の各臓器。それらが持つ機能。それは、以下のように分類される。
表_2

機能の分類。
例。社会における産業分類。
それらは、生体における機能分類の応用に当たる。

社会において、生成され、交換され、消費される、機能物質。
その基本は、生体同様である。酸素。水。栄養。情報。

社会における各種産業。それらは、生体における機能分類のどこかに当てはまる。
表_3

機能の分析。

機能の分析。製品が持つ、生きやすさ向上に役立つ機能。その内容。その分析。

生きやすさの視点からの機能の分析。
例。録画機。テレビ放送などの映像や音声。それを、外部メディアに録画する機能。外部メディアに録画された映像や音声。それを再生する機能。そうした機能を備えた装置。それは、家電製品の代表的な存在である。
録画機の機能。それは、どのように、利用者の生きやすさ向上に役立つか？筆者は、そうした視点からその機能を分類した。その結果は、以下のようになる。
表_4

機能の交換。機能の市場。

機能の交換。生物同士の機能の融通。
それは、以下の内容をもたらす。社会の発生。分業の発生。貨幣の発生。生きやすさの水準の向上。貧富の差の発生。
例。動物の体内における臓器の分化。そこでは、赤血球が、貨幣の役割を果たす。
例。人間の社会的分業。そこでは、金地金が、貨幣の役割を果たす。

機能の市場。機能の交換が行われる場所。
例。動物の体内の血管。そこでは、血液を通して、細胞間で、機能交換が行われる。
例。商業施設。そこでは、お金を通して、人間の間で、機能交換が行われる。

ユーザビリティ。

ユーザビリティ。機能の取り出しやすさ。
ある製品において、機能が豊富な場合。機能が取り出しにくいと、その製品は、機能しない。

社会の維持。体制の維持と転覆。

社会の維持。それは、以下の内容の実現のために行われる。個々の生物が、生存できる状態。その維持。
生物は、社会維持のために、体制変革や体制の革命を行う。
例。個人の頭脳の中の神経回路の書き換え。それによる思考の大幅な変化。それによる、新たな環境への適応。これは、個人の神経系における、体制の革命である。

体制。生物の間の指揮系統。生物の間の優劣関係。生物の間の上下関係。生物の間における、支配と従属の関係。

体制が、自分の生物の発展にとって都合が良いか、悪いか？それは、以下の質問と同じである。体制が、自分にとって機能的か、そうでないか？それは、生物毎に異なる。
生物は、自分の生物を脅かされる。すると、生物は、互いに蜂起して、反乱を起こす。
生物は、そうして体制転覆を行う。生物は、そうして、彼自身の生きやすさの水準を向上させようとする。それは、上手く行くこともあれば、失敗に終わることもある。また、体制が転覆した後の生活が、体制が転覆する前の生活よりも良い、とは限らない。それは、歴史が証明している。

体制転覆者。それは以下の二種類である。
（１）下位者や貧者の場合。
（２）上位者や富者の場合。

支配者の資格。いかに多くの生物に、生きる上で有効な機能を融通することができるか？それが、生物社会における、体制樹立や体制維持の決め手である。それが出来る指導者が、生物にとって、真の支配者となる資格を持つ。

生物と、救い。

生物の生活における、苛酷な現実と、救いの追求。

生物の生活における、苛酷な現実。

生物の生活における、苛酷な現実。
それは、以下のような内容である。

生物が生き延びる上での障害となる事象。

//
それが、大き過ぎること。
それが、多過ぎること。
その発生が、頻繁過ぎること。
//

それらは、以下の内容を、生成する。
生存のしにくさ。

生物にとっての、生存のしにくさ。
それは、以下のような内容である。

（１）
環境の厳しさ。
それらに対する対策の立案と実行。
その難しさ。

（２）
環境の変動の大きさ。
それらに対する追随。
その難しさ。

環境。
それは、以下のように、分類される。
（１）
無生物の、自然環境。
（２）
他の生物たちがもたらす、生物環境。

生存のしにくさ。
それは、生物にとって、以下のような内容である。
彼らの一生にわたって、絶えず付きまとう問題。
根本的な問題。

苛酷な現実。
それらを生み出す、根源。

（初出2021年3月。）

生物の生活における、救いの追求。

生物にとって、救いを得るためのの手段。
それらは、以下のような内容である。

（１）
絶対的生物。絶対者としての生物。
大いなる生物。偉大な生物。
例。神。

そのような存在を、苛酷な現実に耐えかねて、思わず、作り出すこと。
そのような存在に対して、心理的に依存すること。
そのような存在に対して、救いを求めること。

例。
宗教を信仰すること。

そうした存在。
それは、現実には、存在することが、困難である。

そうした存在。
それは、以下の内容である。
//
仮想の存在。
実体の無い存在。
//

//
そうした存在に、頼ること。

そうした存在に、救いを求めること。
//
そうした行為は、結局、意味が無い。

（２）
////
彼ら自身の子孫。
//
遺伝的子孫。
文化的子孫。
////
彼らが、それらを、何とかして、後世に残すこと。
そのことで、彼ら自身が、心理的に、救済されること。

それらの行為は、以下の内容に当たる。

（２－１）
生物の本質がもたらす、生物にとっての、内的な命令。
それらの命令は、生物にとって、以下のような内容である。
//
それを、回避すること。
それに対して、背くこと。
//
それらの実現。
それが、根本的に、不可能であること。

その結果。
生物は、以下の行為を、実行する。
//
それらの命令への、絶対的な追従や隷従。
//

それは、具体的には、以下のような内容である。
//
生殖行為。
セックス。
//

（２－２）

生物にとっての、一番確実な、救い。
その一類型。

（３）
快楽。
癒し。
休息。
気晴らし。
それらに当たる、様々な刺激。
それらに当たる、様々な体験。
それらを、絶えず、沢山、得ること。

そのことで、以下のような内容を、癒すこと。
//
彼ら自身が生存し続ける上において、感じ続けること。
苦労。
苦痛。
ストレス。
//

しかし、それらの行為は、結局は、対症療法に過ぎない。
それらの行為によって、以下の内容を、根本的に除去すること。
//
生存上の困難。
生存上の苦痛。
それらの根源。
それ自体。
//

その実現。
それは、不可能である。

（３－１）
快感。
楽しみ。
それらを、絶えず、沢山、体験すること。

例。
（３－１－１）
性的刺激を得ること。
セックス。オナニー。
それらを、沢山、実行すること。

（３－１－２）
美味しい食物や飲み物。
それらを、摂取すること。

（３－１－３）
綺麗なもの。
それらを、沢山、視聴すること。
例。
優れた美術品。
優れた景観。

（３－１－４）
強い快感を得られる薬物。
それらを、摂取すること。
例。
麻薬。
アルコール。

（３－２）
癒し。
それらを、絶えず、沢山、体験すること。
例。
（３－２－１）
心地よい香り。
それらを、嗅ぐこと。
例。
ハーブの香りを、楽しむこと。

（３－２－２）
心地よい触感。
心地よい温感。
それらを、楽しむこと。

例。
温かい布団の中に、入ること。

（３－２－３）
心地よい音楽。
心地よい映像。
それらを、視聴すること。
例。
ヒーリング音楽を、聴くこと。

（３－２－４）
愛玩対象を、手元に置くこと。
例。
ペットを飼育すること。

（３－３）
休息。
それらを、絶えず、沢山、体験すること。
例。
//
睡眠。
休憩。
それらを、十分に取得すること。
//

何もしないこと。
のんびり過ごすこと。
無用な刺激を、断つこと。
予定を、入れないこと。

（３－４）
気晴らし。
ストレスの発散。
それらを、絶えず、沢山、体験すること。
例。
////
浪費すること。
ギャンブルをすること。

旅行をすること。
過食すること。
物品を壊すこと。

//
弱者に対して、以下の行為を実行すること。
攻撃すること。
虐待すること。
いじめること。
////

（４）
彼ら自身の生きがい。
例。
趣味。
ライフワーク。
達成の対象。

彼らが、それらを、見つけること。

彼らが、それらへの、心理的な没入を、実行すること。
彼らが、それらに、打ち込むこと。
彼らが、それらに、彼ら自身の生涯を、捧げること。

彼らが、それらの行為によって、以下の内容を、実現すること。
彼らが、以下の内容を、彼ら自身の視界から、消去し、除外し、忘却すること。
//
彼ら自身が生存し続ける上での、苦労や苦痛。
//

それらの行為は、ある面では、以下の内容に、つながっている。
現実から、目を背けること。
現実から、逃避すること。

例。
（４－１）
彼ら自身にとっての理想。
それらの実現。

そのために、邁進し続けること。
例。
彼ら自身が、気に入った思想やイデオロギー。
彼ら自身にとっての、信心の対象。
その内容を主張すること。
その内容を信仰すること。
彼らが、それらを、生涯にわたって、継続すること。

（４－２）
//
彼ら自身にとって、興味ある対象。
彼ら自身にとって、気に入った対象。
彼ら自身にとって、もっと知りたい対象。
彼ら自身にとって、もっと習得したい対象。
//
それらの内実を、探査し続けること。
例。
歴史の探索。

それらの内実を、学習し続けること。
例。
語学学習。

それらと、交流し続けること。
例。
アイドルと、ファンとの間の、交流ミーティング。

（５）
彼ら自身にとって、達成したくなる対象。
それらの達成のために、日々、努力すること。
それらの達成のために、日々、鍛錬すること。

それらの達成。
そのことによって、彼ら自身の有能さを、証明すること。

彼ら自身が、そのことで、以下の内容を、実現すること。
//
生物の社会から、高い評価を受けること。

生物の社会の内部において、生き延びやすくなること。
//
そのことは、彼ら自身にとって、救いに当たる。

（５－Ａ）
彼ら自身にとって、達成したくなる対象。
例。
（５－Ａ－１）
彼ら自身の身体の健康。
それを、絶えず維持すること。
例。
長生きすること。

彼ら自身の身体的能力。
それを、向上させること。
例。
スポーツ。
ボディビル。

彼ら自身の身体の外観の良さ。
それを、向上させること。
例。
ダイエット。

（５－Ａ－２）
彼ら自身の知的能力。
それを、向上させること。

（５－Ａ－２－１）
知識の獲得。
前例の習得。
理解力の獲得。
記憶力の獲得。
高学歴を獲得すること。
高い技術水準を、獲得すること。

（５－Ａ－２－２）
探査能力の獲得。
独創性の獲得。

（５－Ｂ）
彼ら自身による、そうした行為の持続。
その結果。
それは、以下の内容である。

彼ら自身の有能さ。
それを、社会的にアピールすること。
彼ら自身が、そのことに、成功すること。

彼らが、高い社会的業績を、彼ら自身の生涯において、上げること。
彼ら自身が、そのことで、社会的に、認められること。
彼ら自身が、そのことで、社会的に、高い評価を受けること。

例。
（５－Ｂ－１）
有用性の高い、新たな発見や発明。
それらについて、成功すること。
（５－Ｂ－２）
最高の完成度の製品。
それらを、作り上げること。

（５－Ｃ）
そのことで、彼ら自身が、以下の内容を、獲得すること。
社会的な、生き延びやすさ。

それは、以下の内容に当たる。
生物にとっての、一番確実な、救い。
その一類型。

例。
（５－Ｃ－１）
高い収益を、獲得すること。
資金を、沢山、儲けること。
資源を、沢山、獲得すること。
富裕になること。
経済的に、楽になること。

（５－Ｃ－２）
高い社会的地位を、獲得すること。
その結果、以下の内容を、実現すること。

以下の行為を実行すること。
それが、容易になること。
周囲の下位者に対して、以下の行為を実行すること。
彼ら自身にとって都合の良い、命令。
それらを、下すこと。

その結果、以下の内容を、実現すること。
彼ら自身にとって脅威に当たる存在。
それらを、全て、社会的に排除すること。
そのことで、彼ら自身の生きやすさを、更に向上させること。

（５－Ｃ－３）
高い社会的名声を、獲得すること。
その結果、以下の内容を、実現すること。

（５－Ｃ－３－１）
彼ら自身の遺伝的子孫。
それらが、以下のような形で、後世に残りやすくなること。
それらは、より有能になる。
それらは、社会的に、より円滑な形で、扱われる。
それらは、社会的に、より優遇される。

彼ら自身にとっての、結婚相手。
//
その相手が、より有能になること。
その相手が、より優秀になること。
その相手が、社会的に、より上位になること。
//

上記のような結婚相手。
彼ら自身が、そうした相手を、より容易に、より簡単に、選びやすくなること。
例。
彼ら自身が、以下の相手と、結婚出来ること。
//

名門出身の相手。
高学歴の相手。
//

その結果。
彼ら自身の遺伝的子孫。
それらが、以下のような内容になること。
//
それらは、より有能になる。
それらは、より優秀になる。
それらは、社会的に、より優遇される。
//
彼ら自身の遺伝的子孫。
それらは、後世に、より残りやすくなる。
そのことは、彼ら自身にとって、救いに当たる。

（５－Ｃ－３－２）
彼ら自身の文化的子孫。
それらが、以下のような形で、後世に残りやすくなること。
それらは、より有能になる。
それらは、社会的に、より円滑な形で、扱われる。
それらは、社会的に、より優遇される。
//
彼ら自身の製品。
それらの流通。
それらの保存。
//
上記の内容を促進する行為。
それが、社会的に優先されやすくなること。
例。
彼ら自身の作品が、国宝に指定されること。

その結果。
彼ら自身の文化的子孫。
それらが、以下のような内容になること。
//
それらの知名度は、より向上する。
それらについての評価は、より向上する。
そうした高評価は、社会的に、より定着する。
それらは、新たに、貴重品として、扱われる。

それらは、より大切に、より丁重に、扱われる。
それらは、社会的に、より優遇される。
//
彼ら自身の文化的子孫。
それらは、後世に、より残りやすくなる。
そのことは、彼ら自身にとって、救いに当たる。

（６）
//
彼ら自身にとっての、有益な援助者。
彼ら自身にとっての、有力な支持者。
彼ら自身にとっての、有能な味方。
//
そうした存在と、交流し続けること。
そのことで、以下の内容を、得ること。
//
生活上の励み。
生活上のアドバイス。
//

そのことで、彼らが、以下の内容を、実現すること。
//
彼ら自身が生存し続ける上での障害。
それらを、何とか乗り越えること。
その実現に、成功すること。
//
例。
友だち。
仲間。

彼ら自身が所属する、仲良し定住集団。
そのメンバー同士。
例。
血縁定住集団の場合。
家族。

それらの行為は、以下の内容を、除去しやすくする。

//
生物にとっての、生存上の、困難や苦痛。
//

それらの行為は、以下の内容に当たる。
//
生物にとっての、より確実な、救い。
その一類型。
//

（７）
彼ら自身が生存し続ける上での、様々な障害。
それらの除去を、彼ら自身が、自力で、試みること。
そのことに、彼ら自身が、少しだけ、何とか成功すること。
彼らが、そうした成功を、毎回、少しずつ、蓄積すること。
それらについての有益な知見。
彼らが、それらの内容を、後世に存続する形で、記録すること。
彼らが、それらの内容を、彼らの間で、公開形式で、広く、大規模に、共有すること。

それらの行為は、以下の内容を、確実に、除去することができる。
//
生物にとっての、生存上の、困難や苦痛。
//

それらの行為は、以下の内容に当たる。
//
生物にとっての、一番確実な、救い。
その一類型。
//

例。
（７－１）
救命の活動や運動。
それらに、参加すること。
それらを、実践すること。
それらを、主導すること。
そのことで、彼らが、以下の内容を、実現すること。

//
彼ら自身が、以前に比べて、少しだけ、助かりやすくなること。
//

例。
医療。

（７－２）
社会改良の活動や運動。
それらに、参加すること。
それらを、実践すること。
それらを、主導すること。
そのことで、彼らが、以下の内容を、実現すること。
//
彼ら自身が、以前に比べて、少しだけ、生きやすくなること。
//

例。
社会福祉。

（７－３）
真実。リアルな現実。
それらの内実を、追求し続けること。
それらに、成功すること。
そのことで、彼らが、以下の内容を、実現すること。
//
彼ら自身が、生存し続ける上で、真に有益な情報。
それらを共有可能にする機会。
それらを、少しだけ、増やすこと。
//

例。
ジャーナリズム。

（７－４）
未知の領域。
その内実の解明。
それらを、試行すること。
それらに、成功すること。
そのことで、彼らが、以下の内容を、実現すること。

//
彼ら自身が、生存可能な、領域。
それらを、少しだけ、拡大すること。
//

例。
宇宙科学。脳神経科学。

（初出2021年3月。）

生物にとっての救い。その、内容面における限界。

生物にとって、救いをもたらす存在。
それらは、今のところ、生物によっては、上記の他には、何も考え出されていない。

彼ら自身が考え出した、彼ら自身に救いをもたらす存在。
それらは、以下の特徴を持つ。
それらの、内容面での、乏しさや、貧困さ。
それらの、内容面での、役に立たない度合いの高さ。

それは、生物が持つ、能力的な限界である。
それは、結局、以下の内容の現れである。
//
厳しい環境下における、生物の存在の矮小性。
//

（初出2021年3月。）

救いと、良心。

救いと良心との間には、根本的な関連が、存在する。
（Ａ）

良心的行為。その分類。
それは、以下のような内容である。

（１－１）
他の生物を、より生存しやすくする行為。
それを実行すること。

（１－２）
他の生物を、より生存しやすくするアイデア。
それを思索すること。

（１－３）
他の生物が、より生存しやすくなること。
そのことの実現。
それを祈願すること。

（２）
//
救助。
援助。
扶助。
//

困難な状況に置かれている他の生物。
それらを、助けること。
そのために、以下の行為を実行すること。
困難な現状。
それを打破すること。

（Ｂ）
//
良心的行為。
それに対する、ただ乗り。
それに対する、搾取。
//
それらの防止。
ある生物における良心。
それは、他の生物にとって、搾取の対象となる。
そのことの発生。

それは、生物の本質に基づいている。
それは、具体的には、以下のような内容である。
//
彼ら自身の生存しやすさ。
その向上。
それを、最優先すること。
そのために、他者を、その実現のための道具として、利用すること。
//

そのことの発生。
それは、防止できない。

こうした場合。
そのままでは、以下の状況が、発生する。
//
良心的行為を行う生物。
その存在。
それが、社会的に消滅すること。
//
そのことを、放置した場合。
そのことは、以下の状況を、生み出す。
//
社会における、生物の生存しにくさ。
それを、より酷くしてしまうこと。
//

そのことへの防止策。
ある生物による良心的行為。
それに対して、常に、それなりの社会的対価が、支払われること。
それが、常に、社会的に、報われること。
それが、常に、社会的に、補償されること。
それらの実現。

そのことは、以下の内容を実現するために、必須である。
//
生物たちが、より生き延びやすくなること。
//

そのことは、生物の本質に、とても適っている。

そのことは、結果的に、以下の内容を、実現する。
//
生物にとっての救い。
その実現の水準。
それを、社会的に、向上させること。
//
例。
有能な医者。
彼らは、人間の命を、根本的に、救助する。
そのことへの社会的な報酬。
それは、以下のような内容である。
彼らが、高給取りであること。
彼らが、社会的に、高い評価を獲得すること。
彼らが、社会的に、高い地位を、獲得すること。

（初出2021年3月。）

社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

社会的な良い者。社会的な不良者。その定義。

社会規範や、社会の価値観。
社会の支配者と支配層。

（１）社会的な良い者。
上記に対して、従順である者。
（２）社会的な不良者。
上記に対して、従順で無く、反抗する者。

ある人物の社会的な良し悪しを決める存在。
（１）それは、社会規範や社会の価値観と、その保持者である。

（２）それは、社会の支配者や支配層である。

社会において、不良な存在。それは、以下の通りである。
（１）社会規範や社会の価値観に対して反抗する存在。
（２）社会の支配者や支配層に対して反抗する存在。社会体制の打倒を図る存在。

（初出2021年1月）

社会的不良行為。その実行者としての不良者。

社会的不良行為。その実行者としての不良者。
それらは、以下のように分析可能である。

（１）
その社会の価値観から自由になること。それを実現する者。それを試行する者。
その社会の価値観から独立して、別の価値観で動くこと。それを実現する者。それを試行する者。

例。
移動生活様式中心社会。男性優位社会。男性的社会規範や価値観。それへの反抗者か非同調者。その社会において、女性優位の価値観で動こうとする者。
定住生活様式中心社会。女性優位社会。女性的社会規範や価値観。それへの反抗者か非同調者。その社会において、男性優位の価値観で動こうとする者。

（２）
その社会の支配体制。その社会の権力者や権力層。その社会の支配者や支配層。それへの反抗者。その社会の支配体制からの独立を試行する者。そうした独立領域の構築者。そうした独立領域の内部限定の支配者。そうした構築行為や支配行為の試行者。

例。
治外法権の独立王国。自治領。その構築者。その構築を試行する者。その内部限定の支配者。

（初出2021年1月）

社会的不良行為。性差がもたらす問題。

移動生活様式者の社会。それは、男性優位社会になる。それらの社会における女性。彼女は、社会的に、劣位者や不適合者や無能者になる。
定住生活様式者の社会。それは、女性優位社会になる。それらの社会における男性。彼は、社会的に、劣位者や不適合者や無能者になる。
彼らは、彼ら自身の意図に反して、生まれながらにして社会的な不良者になることを強制される。
彼らは、生まれたままの状態では、周囲の、社会に適合的な性の持ち主に対して、攻撃的な迷惑行動を実行する。
そこで、社会に適合的な性の持ち主は、そうした社会に不適合な性の持ち主に対して、その誕生直後から直ちに矯正教育を施し、社会的な無力化を強制的に徹底して行う。

（初出2021年1月）

社会的な不良者。その分類。

社会的な不良者。その分類は、以下の通りである。

（Ａ）
意図的な強がりを行う者。

（Ａ－１）
意図的な強がりを行う不良者。その意図。

社会に対して反抗して、以下の内容を誇示すること。
「私は、社会という強大な存在に対して反抗できるだけの力や意思の強さを所持している。」

そうすることで、彼ら自身が所持する物理的な強さや、意志の強さの誇示を行うこと。彼ら自身の強さの総合的な誇示を行うこと。強がること。突っ張ること。

（Ａ－２）
意図的な強がりを行う不良者。彼らが実践する反抗のタイプ。

（Ａ□２－１）
物理的な反抗。
その社会の支配者や支配層に対して、物理的攻撃を行うこと。物理的に暴力を振るうこと。その手段として、武器や肉体的な身体を利用すること。その目標達成のために、武器や肉体的な身体を強化し、鍛えることを目指すこと。

（Ａ□２－２）
意志的な反抗。
その社会の社会規範や価値観。その社会の支配者や支配層にとって都合良く構築されている法令。それらを、彼ら自身の意志の強さによって、敢えて破ること。敢えて違法行為を行うこと。その目標達成のために、意思の強さを強化し、鍛えることを目指すこと。

（Ａ－３）
意図的な強がりを行う不良者。その例。

社会を支配する国家権力や警察への反抗者や対立者。
反社会的勢力の構成メンバー。暴力団。暴走族。ギャング。過激派。

（Ｂ）
彼ら自身の意図に反して、社会の決まりを破る者。

（Ｂ－１）
意図せず不良になる者。その意図。

精神面や身体面において、障害や偏りや能力不足を、予め所持していること。それらが原因となって、どんなに努力しても、能力面で、社会の決まりを守れないこと。その結果、彼ら自身では意図していないのに、結果的に、社会に対して反抗すること。

（Ｂ－２）
意図せず不良になる者。彼らが実践する反抗のタイプ。

（Ｂ□２－１）
物理的な反抗。
その社会の人々に対して、意図せずに物理的攻撃を行うこと。物理的に暴力を振るうこと。その手段として、武器や肉体的な身体を、無意識のうちに利用すること。

（Ｂ□２－２）
意志的な反抗。
その社会の社会規範や価値観。その社会の決まり事。それらを、彼ら自身の意志の強さによって、意図せずに無意識のうちに破ること。意図せずに違法行為を行うこと。

（Ｂ－３）
意図せず不良になる者。その例。

（Ｂ－３□１）
精神障害者。

統合失調症の患者。
意図せずに陽性症状になって、幻聴や妄想に精神的に支配され、その内容に盲従して、周囲に対して攻撃的な迷惑行動を、強引に実行する者。

双極性障害の患者。
意図せずに躁状態になることで、周囲に対して、精神的に過度に高ぶった迷惑行動を、強引に実行する者。

発達障害者。
意図しない多動の症状によって、周囲に対して攻撃的な迷惑行動を、強引に実行する者。

（Ｂ－３□２）
認知症の高齢者。
認知症に基づく妄想や痴呆によって、周囲に対して攻撃的な迷惑行動を実行する高齢者。

（Ｂ－３□３）

帰国子女。

異文化の下で育った後に、そのまま自国に帰国した者。
彼らは、異文化を既に強固に身に付けている。
彼らは、その異文化に従って行動する。
彼らは、結果的に、周囲の自国の人々に対して、攻撃的な迷惑行動を実行する。
男性優位社会出身の帰国子女。彼らは、女性優位社会の集団内部において、気配りや忖度をせずに、周囲に対して個性的な主張や批判を行うことで、その場の調和を破る。

（Ｂ－３□４）
無能な者。不注意な者。

女性優位社会の学校において、運動会の団体競技の最中に、個人的な運動能力不足によって、その団体の競技得点や競技順位を大幅に低下させ、団体の足を引っ張ったとして虐められる、団体メンバー。
女性優位社会において、地域住民総出による感染症拡大への警戒の最中に、不注意な個人行動によって、その感染症に罹患し、周囲の地域住民に対して余計な不安を与えるとして、周囲の地域住民によって、長年住み慣れた自宅を追い出される者。

（初出2021年1月）

社会的な良い者。社会的な不良者。その二次元分類。

社会的な良い者。社会的な不良者。その二次元分類は、以下の通りである。

（１）
完全な良い者。
その社会の支配者や支配層。その社会の社会規範や価値観。その双方に対して従順な者。
例。女性優位社会の国策を主導する高級官僚。

（２）

完全な不良者。
その社会の支配者や支配層。その社会の社会規範や価値観。その双方に対して反抗する者。
例。抜け駆け行動が禁止されている女性優位社会において、男性的な個人行動で自分勝手に動き続け、社会の調和を乱し続ける結果、女性優位の価値観の人々から総攻撃を浴びて、止むを得ず国外退去する異質者。

（３）
不完全な不良者。部分的な不良者。良い者と不良者の兼務者。

（３－１）
その社会の現在の支配者や支配層には従順であるが、その社会の社会規範や価値観には反抗する者。
例。女性優位社会において、その社会の代表者に対して敬意と恭順の意を示しつつ、男性優位の民主主義の価値観を強引に主張し続ける、男性優位社会出身の外国人。

（３－２）
その社会の現在の支配者や支配層には反抗するが、その社会の社会規範や価値観には従順な者。
例。女性優位社会の伝統的な価値観を大っぴらに支持しつつ、示威的行為の一環として、国家権力としての警察への反逆行動を、表向き繰り返す、女性優位社会における暴力団のメンバー。彼らは、警察と同様の体質を持ち、警察と内通する。
例。女性優位社会の伝統的な価値観を内包しつつ、反体制をスローガンにして、国家権力や警察への反逆行動を繰り返す、女性優位社会における極左のメンバー。

（初出2021年1月）

真の良い者。真の不良者。

真の良い行為。真の不良行為。
それらは、以下の通りである。

（１）

真の良い行為。
人間一般を生存しやすくする行為。人間の子孫を、将来にわたって残存しやすくする行為。人間の生活を改善する行為。
（２）
真の不良行為。
人間一般を生存しにくくする行為。人間の子孫を、将来にわたって残存しにくくする行為。人間の生活を改悪する行為。

上記の内容に関して、以下の言説が成立する。

（１）
真の良い者。それは、真の良い行為の実践者である。
（２）
真の不良者。それは、真の不良行為の実践者である。

上記の内容に関して、以下の言説が成立する。

（１）
ある側面における真の良い者は、別の側面では、往々にして、真の不良者になっている。
純粋な真の良い者を探し出すことは、人間社会では、かなり難しい。
例。高給取りの医者は、人々の命を救うので、その面では、真の良い者である。しかし、その医者は、彼自身の金儲けを最優先して、人々を経済的に搾取する。彼は、その面では、真の不良者である。

（２）
社会の一部分にとっての真の良い者は、社会の他の部分にとっては、往々にして真の不良者である。
例。富裕層向けの政策を行う政治家は、富裕層の人々にとっては真の良い者だが、貧困層の人々にとっては、真の不良者である。
例。貧困層向けの政策を行う政治家は、貧困層の人々にとっては真の良い者だが、富裕層の人々にとっては、真の不良者である。

（３－１）
社会的な良い者が、真の良い者であるとは、必ずしも言えない。
社会的な良い者は、往々にして、真の不良者である。
例。女性優位社会において、社会や集団の調和を重視する伝統的な

社会的価値観を順守する模範的な人々は、社会的な良い者に該当する。しかし、彼らは、社会内部で調和を乱す障害者や異質者や遅滞者を、集団でいじめて自殺に追い込むことを当然視して、罪悪感を特に抱かない。彼らは、社会における人々の多様性を否定し、人々が生きにくい社会を生成する根本的原因を作っている。その点、彼らは、真の不良者である。

（３－２）
社会的な不良者が、真の不良者であるとは、必ずしも言えない。
社会的な不良者は、往々にして、真の良い者である。
例。女性優位社会において、個人で独創研究をする人々は、勝手な個人行動や抜け駆けをして、社会や集団の調和を乱すとして、社会的に嫌われる。彼らは、社会的な不良者に該当する。しかし、彼らは、人々の生活を向上させる革新的なアイデアを、個人的に生み出すことが出来る。その点、彼らは、真の良い者である。

（初出2021年1月）

生きがい。充実した人生。それらの源。

はじめに。内容の総括。

生物や人間にとって。
生きがいとは何か？
充実した人生とは何か？

それは、彼ら自身の子孫を持つことである。

生きがいとは、何か？

生物や人間にとって。

生きがい。
それは、以下の内容である。

（１）
生きる目的。

以下の質問についての、彼ら自身の回答。
「私自身は、何のために生きるか？」

人生や生活の目標や目的。生きる理由。
人生に幸せをもたらす源泉。

（２）
彼ら自身の好きなこと。
彼ら自身の楽しみなこと。
彼ら自身のやりたいこと。
そうした行動や行為や慣行。
その実行。

（３）
以下の事象が、人生において、発生しないこと。
本心ではやりたくない行為。
その行為を、生活のために、強制されること。

（４）
以下のように、感じない行為。
「それは、人生の無駄である。」

（５）
それをすると、彼ら自身の生活や気持ちが、充実すること。
それをすると、彼ら自身が、感情的に満足すること。

生きがいと生計。

生物や人間にとって。

生きがいは、以下の二種類に分類される。

（１）
仕事。労働。
彼ら自身にとって、生計を立てる対象。

（２）
趣味。
彼ら自身の生計と無関係の対象。
それについて、生計を立てなくて済むこと。

子孫とは何か？

子孫。アウトプット。
後世に残るもの。

生物や人間は、それらについて、以下の実現を、重視する。
それらを、彼ら自身で、生成すること。
それらの、社会における躍進ぶりを、彼ら自身の目で見届けること。

子孫にすることが不可能なもの。

生物や人間にとって。

後世に残らないもの。後世に残りにくいもの。そうした行為。

（１）
やっても、無効化されるもの。

例。
綺麗好きな人による、部屋の掃除。
それは、いくら実行しても、その成果は、時間が経過すると、汚れてしまう。
その行為は、無効化される。
例。
賽の河原の石積み。その行為。
それは、いくら実行しても、その成果は、時間が経過すると、関係者によって、強制的に崩されてしまう。
その行為は、無効化される。

（２）
やっても、別の新たなものによって、置き換えられるもの。
そのことで、絶滅するもの。
例。
コンピューターのシステムと、その運用。

（３）
やっても、死後に、彼ら自身の世界に持って行けないもの。
彼ら自身の死後、他者によって、処分されるもの。
例。
お金。それを稼ぐことのみに、人生の全てを費やすこと。

人生の教訓と、子孫の存在。

後世に残らないものよりも、後世に残るものを、優先して、生きがいにすること。
その方が、人生が、より幸せになること。
それは、生物の本質に合致する。

生物の本質に沿って生きること。
生物らしく生きること。
すると、人生において、幸せになれること。

生物や人間にとって。

後世に残るもの。それは、以下のものである。
子孫。

（１）
彼ら自身の子孫。
その生成。
その育成。
それらの行為に、奮闘して、成功すること。

（２）
彼ら自身そのものの子孫ではない存在。

（２－１）
彼ら自身と遺伝的なつながりのある、家族や親戚が生成した、遺伝的な子孫。

（２－２）
彼ら自身にとって共鳴対象となる、他者の子孫。
他者が作った、彼ら自身にとって共鳴できる、彼ら自身の趣味や生きがいの対象。
彼ら自身と直接には無関係な他人が作った、その他人にとっての子孫。
その場合でも、それを彼ら自身が気に入っていた場合、それが後世に残ると、うれしいこと。

（２－３）
他者の子孫。
養子。

それは、もともと、彼ら自身そのものの子孫ではない。
しかし、それは、彼ら自身にとって、その養育の過程で、以下の存在となる。
彼ら自身の価値観。
それを伝授可能な対象。

生物や人間にとっての生きがい。

以下の存在を、後世に残すこと。

（Ａ）
（Ａ－１）
彼ら自身の子孫。
（Ａ－２）
彼ら自身以外の子孫。
彼ら自身が共鳴する、他者の子孫。
彼ら自身と仲の良い友達の子孫。

（Ｂ）
（Ｂ－１）
遺伝的子孫。

（Ｂ－２）
文化的子孫。
///
彼ら自身の子孫の場合。

///
他者の子孫の場合。文化的な養子。

子孫を後世に残す上で、重要なこと。

生物や人間にとって。

（１）
子孫。
その後世への残りやすさ。
生存能力。
その程度の高さの確保。

そうした子孫が、以下の条件を満たすこと。
そうした子孫が、以下の内容を保持すること。

他の人々によって、ずっと、使い続けられる内容。
他の人々にとって、需要がある内容。
他の人々にとって、共鳴しやすい内容。
他の人々の間に、広まりやすい内容。

他の人々にとって、切実な課題。
それを満たし、解決する内容。

他の人々が、自主的に後世に受け継ぎたくなる内容。

そうしたことの実現。

そのために、子孫に対して、高水準の教育を与えること。

彼ら自身は、子孫を生み出す元の存在である。
そのために、彼ら自身に対して、高水準の教育を与えること。

（２）
子孫。後世に残したい対象。その生計を支えること。

（２－１）
そのアウトプットを、彼ら自身も購入して、買い支えをすること。
例。アニメのファンによる、好きなアニメのグッズの購入。

（２－２）
それを生み出すクリエイターのパトロンになること。
例。お金持ちの人による、クラシック音楽の作曲家への経済的な支援の行為。

失敗人生。

生物や人間にとって。

（１）
彼ら自身の意に沿わない他人。
彼らの子孫を後世に残すために、彼ら自身の人生を、無駄遣いすること。

その子孫を有利に残したい他人。
そうした他人によって、彼らの道具として、こき使われるだけで、毎日が終わること。
そうして、彼ら自身の意に沿わない強制労働をするだけの毎日を過ごすこと。
それだけで、彼ら自身の人生が終わってしまうこと。

他人の道具として終わる人生。
無駄な人生。
意味のない人生。

例。
日本で、一生、結婚して自身の遺伝的子孫を残すことのないまま、企業定住集団での強制労働の生活を続けること。

（２）
彼ら自身の興味の無いことに、自身の人生を、無駄に費やすこと。

内心では、余り興味が持てないこと。
外面的な目的のために、それに人生を費やすこと。

社会的な昇進のために、他人と、表面的に話題を合わせること。
社会的な見栄を張ること。

例。
業績をあげた有名な他人の子孫やアウトプット。
その内容をひたすら真似てなぞるだけで終わる人生。
栄光浴のみで終わる人生。

（３）
彼ら自身の遺伝的子孫の無能さが、明らかになること。
彼ら自身が、遺伝的子孫に対して、多くの投資や援助を費やしても、そうなること。

将来的に無効化される行為。それを、自発的に実行すること。人生を消費すること。

生物や人間。

彼らが、賽の河原で、石積みをすること。

どんなに実行しても、その結果が、無効化されるような行為。
彼らが、彼ら自身の人生において、そうした行為を、続けること。
彼らが、そうした行為を、自然に、自発的に行うこと。
その理由。

（Ａ）
彼らが、彼ら自身の生殖の相手を、獲得しようとしていること。
そのために、彼ら自身の性的魅力を、向上させようとしていること。
そのために、将来的に無効化される行為を、毎日にわたって、行うこと。
それは、以下の内容である。

例。
彼ら自身が持つ属性や能力。
それらにおいて、異性に受ける内容の部分を、向上させること。
彼ら自身の身体や外装。
それらについて、見栄えや、実力を、向上させること。
彼ら自身が持つ、お金を稼ぐ力を、向上させること。
そのために、高い学歴を確保すること。
そのことで、高収入の職を得ること。

（Ｂ）
彼らが、彼ら自身の生殖の相手を、既に獲得していること。
彼らが、彼ら自身の生殖の相手との間で、交際や結婚を、維持しようとしていること。
そのために、将来的に無効化される行為を、毎日にわたって、行う

こと。
それは、以下の内容である。

例。
相手の異性と、セックスすること。
相手の異性のために、お金を稼ぐこと。

相手の異性の生活を、互いに援助すること。
その例。
食事を作ること。
住居や衣類のクリーニングを行うこと。
生活上必要なアドバイスをすること。

（Ｃ）
彼らが、彼ら自身の遺伝的な子孫を、生成していること。

彼らが、彼ら自身の遺伝的な子孫を、養育し続けていること。
そうした行為は、彼ら自身の遺伝的な子孫が、独り立ち出来るまで、続ける必要があること。

そのための費用を、捻出し続けていること。
そのための資金を得るために、労働し続けていること。

その結果、将来、彼ら自身の遺伝的な子孫が、独り立ちに成功すること。
その結果、彼ら自身の遺伝的な子孫が、後世に残り続けることが、確実になること。

それが、実現する場合。
彼ら自身の労働のアウトプット。
それらの内容が、後世には、文化的子孫としては、何も残らない場合。
そのことは、彼ら自身にとっては、何も問題とならない。

上記の状況の実現のために、彼らは、将来的に無効化される行為を、毎日にわたって、喜んで行う。
それは、以下の内容である。

例。

自身の遺伝的子孫を、世話すること。
自身の遺伝的子孫の生活を、管理すること。
そのために、以下の内容のサービスを、毎日にわたって提供すること。
消費されて無くなる内容。
例。
食事を作ること。
クリーニングを行うこと。

自身の遺伝的子孫に対して、高い生存能力を、身に付けさせること。
自身の遺伝的子孫に対して、高いレベルの教育を、行うこと。
自身の遺伝的子孫に対して、高いレベルの教育を、受けさせること。
そのために生じる、経済的な必要。
それに応じて、教育費や生活費を、十分に稼ぐこと。
そのために、将来的に無効化される内容の労働を、毎日にわたって行うこと。

例。
消費されて無くなる飲食物などを、提供すること。
その例。
サービス業。

生成した物品や技術の内容が、古くなって陳腐化して、捨てられること。
その例。
製造業。

古くなった入力情報が、不要になって捨てられること。
その例。
事務職。

人生における、その他の生きがい。

生物や人間にとって。

（１）
子孫の生存持続への行動に付随する、別種の生きがい。
遺伝的子孫を得る行為の副産物。
性的欲求の充足。
セックス行為。
性的快感を得ること。
性的絶頂に達すること。
それらを、人生において、沢山経験すること。

（２－１）
子孫の生存持続への行動とは違う、別種の生きがい。
社会行動や社会生活によって、有意義な時間を過ごすこと。
社会的な生きがい。

例。その１。
気の合う親しい仲間や友人たちと、楽しい共同の活動をすること。
そうして、一緒に有意義な時間を過ごすこと。
その具体例。
オーケストラ演奏の楽団の活動。

例。その２。
気に入ったペットと、一緒に遊んで、有意義な時間を過ごすこと。
その具体例。
猫や犬を飼育すること。

例。その３。
好きな恋愛相手と、一緒に交際生活を続けて、有意義な時間を過ごすこと。
愛する配偶者と、一緒に夫婦生活を続けて、有意義な時間を過ごすこと。

例。その４。
血のつながった家族や親戚と、交流を継続して、有意義な時間を過ごすこと。

それらが抱える問題点。

問題点。その１。
社会活動や社会性の喪失による、生きがいの喪失。
その後、後世に何も残らないこと。

例。その１。
彼ら自身が活動していた団体の解散。
彼ら自身が活動していた団体からの、彼ら自身の引退や脱退。
そのことで、付き合う相手がいなくなること。
すると、途端に、有意義な時間を過ごせなくなること。
その具体例。
彼ら自身が長年勤務を続けた企業を、退職すること。
そのことで、付き合ってきた職場の仲間を失うこと。
そのことで、仕事による、彼ら自身のアウトプットを、出せなくなること。
その結果、社会的に孤立すること。

問題点。その２。
彼ら自身が、病気の発病や、心身の高齢化によって、活動能力を失うこと。
そのことで、有意義な時間を過ごせなくなること。
その後は、かつての楽しかった生活の追憶以外、何も前向きな内容が残らないこと。
そのまま、何も残らずに、死ぬこと。

（２－２）
子孫の生存持続への行動とは違う、別種の生きがい。
スポーツを生きがいにすること。
例。
身体の筋肉を鍛えること。
プロ野球選手や、国際的なオリンピック競技の選手として、活躍すること。

その特徴。
彼ら自身の身体動作が問題無く快調に出来る間は、人生が、とても充実すること。

その問題点。
彼ら自身の身体が故障すると、スポーツは満足に出来なくなるこ

と。
そのことで、生きがいを失うこと。
その場合、その人生や後世において、以下の内容を除いて、その他には、何も残らないこと。
競技における受賞などの記録。

（Ａ）
上記の問題点に対する、共通の解決策。
そうした問題は、予め、彼ら自身の子孫を、別途持っておくことで、解決できる。

彼ら自身の子孫の保持。
人生の生きがいを保つ上で、それは、必須である。

ITと子孫。

ITを使った文化的子孫は、それを記録したコンピューターシステムのサービス終了により、容易に消滅する。
例。
ブログサービスを利用して書かれた、ブログ記事。
それは、ブログサービスの終了によって、消滅し、後世には残らない。
例。
ソーシャルゲームのコンテンツ。
それは、ゲーム運営会社によるサービス終了により、容易に消滅する。
ゲームをプレイした記録は、そのままでは後世には残らない。

社会的な有名さと子孫。

子孫の生存と、社会的な有名さ。その限界。
文化的子孫は、以下のような危険を、抱えている。
後世において、参照する人がいなくなり、あっけなく忘れ去られること。
それは、その生成者が、生前の活躍中、どんなに社会的に有名であっても、そうであること。
例。
テレビでの活躍者。
引退したテレビ局アナウンサー。
かつてテレビで活躍していた芸能人。
彼らの出演したビデオ記録。

世代内の記憶と、子孫。

特定の人が生成した、名声ある文化的子孫。
それは、特定の世代の人々の間で共有される。
その世代の人々が、年老いて、死滅した場合。
それは、社会的に忘却されて、消滅する。
例。
かつての歌手の流行曲。
かつて流行したアニメ作品。

遺伝的子孫と遺伝子の交配。

遺伝的子孫は、後世になればなるほど、元の濃度が、どんどん薄くなってしまう。
それは、以下の原因による。
後世における、他人との間の遺伝子の交配。
その繰り返し。

その結果、遺伝的子孫は、その子孫らしさを喪失する。
それは、普通の他人と同様の存在になる。

人生と、お金。

お金。それは、投資の対象である。
それは、生きるために必要である。
人間は、それを沢山稼ぐと、生活が豊かになり、社会的に威張ることが出来る。
例。億万長者になることを指向し、それを達成した投資家。

しかし、人生においては、稼いだお金は、死後は無効になる。
なので、その人生は、彼ら自身の遺伝的子孫を残さない限り、不幸せになる。

一方、人間は、お金を持っていると、彼ら自身の子孫を、後世に、より残しやすくなる。
その理由。

（１）
男性は、女性に対して、お金を貢ぐ。
そのことで、男性は、女性との間で、セックス行為や結婚の機会を持ちやすくなる。
そうした男性は、そのことで、彼ら自身の遺伝的子孫を得やすくなる。

（２）
生物や人間は、彼ら自身の遺伝的子孫に対して、資金面で沢山投資を行う。
そのことで、彼らは、以下のことの実現が、容易に可能になる。
彼ら自身の遺伝的子孫。
その生存能力を、向上させること。

（３）
生物や人間は、彼ら自身に対して、資金面で沢山投資を行う。
そのことで、彼らは、彼ら自身が、以下の存在になる。
有能な文化的子孫。
それを、生成可能な存在。

その結果、そうした彼らは、以下のことの実現が、容易に可能になる。

彼ら自身の文化的子孫。
その生存能力を、向上させること。

子孫が、ゴミになる問題。

（１）
文化的子孫。
それは、アーカイブされたデータとしては、後世に残ること。
しかし、それは、現世や後世の人々からは、ほとんど参照されないこと。
それは、有効な活用用途の無い、ゴミのような存在であり続けること。
そうした文化的子孫のデータ。
例。アーカイブサイトに登録された、無名で無能な作者の電子書籍のデータ。

（２）
遺伝的子孫。
その世代間の遺伝子の継承自体は、何とか実現されること。
しかし、彼らは、無能で、社会の底辺に沈んだまま、冴えない生活を、代々に渡って、続けること。

子孫を残せない人の問題。

そもそも子孫が残せない境遇の人々の問題。
例。その１。
病気のせいで、遺伝的子孫も、文化的子孫も残せない、精神障害者。

（１）
遺伝的子孫についての問題。
病気への偏見のせいで、結婚できないこと。

そのことで、彼ら自身の遺伝的子孫を残せなくなること。

（２）
文化的子孫についての問題。
障害の影響で、無能になること。
そのことで、彼ら自身の、まともな文化的子孫や文化的アウトプットを、生涯にわたって、出せないままになること。

（３）
社会的な禁止についての問題。
社会からの隔離による、彼ら自身の子孫を残す行為の、生涯にわたる事実上の禁止。
そのことが、人生において起きること。
例。
精神病院の閉鎖病棟への隔離。

その社会的な救済が、必要であること。

権利としての、子孫の残存。

生物や人間。
彼ら自身の子孫を残すことが出来ること。
そのための機会が、人生において、確保されること。
そのための機会を、他者によって、一方的に奪われないこと。

それらは、生物や人間にとっての、基本的な権利である。

生きがいと、物品の買い支え。

生物や人間。

彼ら自身にとって好きなことや、好きな対象。
それを、社会的に存続させること。
それを、後世に残すこと。

例。その１。
彼ら自身が気に入った店やサービス。
そこに、定期的に出かけること。
そこに、頻繁にアクセスをすること。
そうして、その販売物品を購入すること。
そうして、その買い支えの行為を、実施すること。

その具体例。
美味しいラーメン店巡りをして、その店のラーメンを購入して、食べること。
彼ら自身が気に入ったゲームへの課金を、積極的にすること。

子孫残存と、能力の必要性。

後世に子孫を残すには、それなりの高い能力や才能が必要であること。
無能な人々は、そのままでは、子孫を残すことが難しい。

（１）
無能な人々は、以下の場合は、人間としての魅力に欠ける。

以下の内容を持たない場合。
既得権益のバックグラウンド。
例。
家柄。
資産。

彼らは、なかなか結婚できない。
彼らは、遺伝的子孫を残しにくい。

（２）
無能な人々は、以下のことの実現が、そのままでは、能力的に難しい。

以下の内容を、彼ら自身の文化的子孫に対して組み込むこと。
その内容が、後世の人々の間で、継承されること。
そのために必要な魅力。

生きがいと、生活スタイルとの関連。

生物や人間にとって。

（１）
（１－１）
移動生活様式者の生きがい。
彼ら自身のクリエイティブで独創的な成果を、後世に残すこと。

（１－２）
定住生活様式者の生きがい。
先祖の残した有益な前例やしきたりを、後世に伝承して残すこと。

（２）
人生途中における、生きがいのチェンジ。
そのための、彼ら自身の人生を賭けた試行錯誤。
それを、繰り返すこと。
そうした行為は、以下の内容の実現のために、必須である。
彼ら自身の子孫を、より良い品質で、よりたくさん残すこと。

（２－１）
それは、移動生活様式の社会において、容易である。
その社会は、そうしたチャレンジを容認する。

（２－２）
それは、定住生活様式の社会において、困難である。

その社会は、そうしたチャレンジを容認しない。
その社会は、以下の生き方のみを、許す。
一度決まった人生のレールの上を、一生走り続けること。

（３）
周囲の他人と異なる、独自の生きがいを持つこと。

（３－１）
それは、移動生活様式の社会において、容易である。
その社会は、以下の内容を、容認する。
人々の個性の多様性。
それに基づく、人々の生きがいの独自性。

（３－２）
それは、定住生活様式の社会において、困難である。
その社会は、そうした生きがいの独自性を容認しない。
その社会は、以下の生き方のみを、許す。
周囲の多数派の生きがい。
その内容。
それに合わせて、彼ら自身の趣味や生きがいを、生涯にわたって、絶えず変更し続けること。
そうした他律的な同調人生。
それを強制されること。

人生において、最も大切なこと。

生物や人間。

１。
彼らは、いつ死ぬか、分からない。
彼らは、彼ら自身が死ぬと、その瞬間から、彼ら自身の子孫を残すことが、不可能になる。

彼らは、いつ病気になって、倒れて動けなくなるか、分からない。
彼らは、彼ら自身が倒れて動けなくなると、その瞬間から、彼ら自身の子孫を残すことが、極めて困難になる。

彼らにとって、そうした瞬間は、いつやって来るか、その予測は、不可能である。

２。
そうした厳しい現実に対応するために、彼らにとって、出来ることは、何か？

それは、毎日の人生において、以下の内容の実現を、確実に実施することである。
（１）
人生上の悔いを残さないように、ベストを尽くすこと。
（２）
彼らが、その時点で出来ることや、やりたいこと。
それらを、全て、その都度、徹底的に、やり尽くすこと。
（３）
彼らの人生において、生きがいになること。
それらを、全て、その都度、徹底的に、叶えること。

２－１。
それらの具体的な内容。
それは、毎日の人生において、以下の内容の実現を、確実に実施することである。

彼ら自身の子孫。
それを、その都度、以下の状態で、生成し、育成すること。
それが、その時点において、今までで最良の生存能力を持っていること。

そのような、彼ら自身の子孫。
それを、後世に一番残りやすい形で、前もって、保存し、保全しておくこと。

２－２。
その発展例。
彼ら自身の子孫を残すことが、諸事情により、困難である場合。

彼ら自身が共鳴する他者の子孫。
それについて、以下の内容の実現が、確実になるように、協力する

こと。
それが、その都度、以下の状態になること。
それが、その時点において、今までで最良の生存能力を持っていること。

そうした他者の子孫を、後世に一番残りやすい形で、保存し、保全すること。
その実現に対して、協力すること。

３。
それらの達成と、その確認。
それが、以下の（１）において、以下の（２）になる。

（１）
彼らが過ごす、毎日の人生や生活。

（２）
彼ら自身にとっての、真の生きがい。

資源の所有と非所有。その利点と欠点。

資源所有者の利点と欠点。

手持ちの資源の拠出で、問題無く生計を立てて食べていけること。
そのため、資源があることに安住して、所有資源の拠出以外は何も働こうとしないこと。そのため、世界の文化の発展に寄与しないこと。
生計を立てるため、何かしら働いて、世界の文化の発展に寄与すること。そうする必要性や動機や原動力に欠けること。その結果、歴史の表舞台に立つことをしないこと。
資源所有者。資源の採掘と輸出を行うこと。資源の貸し出しを行うこと。そのことだけで生計を立てられること。それ以外について、働く必要がないこと。働かないこと。楽をすること。何もしないこ

と。そうしたことが可能なこと。そうしたプラス面を持つこと。そうした人たち。そうした国々。
怠け者であること。非生産的であること。アウトプットに欠けること。その結果、世界の文化発展に寄与しないこと。そのため、歴史に名を残さずに終わること。そうしたマイナス面を持つこと。そうした欠点は、資源所有症候群と呼べる。そうした人たち。そうした国々。
それは、次の通りである。
（１）天然資源の所有者。天然資源の所有国の人々。需要のある天然資源。石油。天然ガス。金属。それらの所有者や所有国。アラブ。ロシア。オーストラリア。
（２）不動産の所有者。不動産の貸し出しを行う者。土地所有者。地主。居住物件の大家。
（３）生産設備の所有者。生産設備の貸し出しを行う者。農場所有者。工場所有者。
（４）生殖資源所有者。女体。女性器。子宮。それらの所有者。それらの貸し出しを行う者。女性。
（５）資産所有者。配当生活者。株主。投資家。資産家。

（初出2020年12月）

資源非所有者の利点と欠点。

資源の非所有者。資源の利用者。その対価を、資源所有者へと拠出するために、働く必要がある人たち。働く人たち。苦行をする人たち。
自前で資源を持たないこと。資源を買ったり、借りる必要があること。そのために対価の持ち出しが必要なこと。そうした対価を獲得するために、絶えず働く必要があること。労働の苦行が必要なこと。働かないと、たちまち生活が苦しくなること。奴隷のような側面を持つこと。そうしたデメリットやマイナス面を持っていること。そうした欠点は、資源非所有症候群と呼べる。そうした人たち。そうした国々。
働き者であること。生産的であること。アウトプットを出すこと。その結果、世界の文化発展に寄与すること。そうして歴史に名を残すこと。そうしたプラス面を持つこと。そうした人たち。そうした国々。
それは、次の通りである。
（１）天然資源の非所有者。天然資源の非所有国の人々。需要のあ

る天然資源。石油。天然ガス。金属。それらの非所有者や非所有国。それらの買い手。西欧。日本。中国は、金属は豊富に産出するが、石油と天然ガスは、あまり産出しないので、その点では、資源の非所有国の側に回る。アメリカは、天然ガスを産出するが、産出コスト面で劣っており、その点では、資源の非所有国の側に回る。
（２）不動産の非所有者。土地の非所有者。居住物件の非所有者。賃貸人。
（３）生産設備の非所有者。生産設備の賃貸人。農場労働者。小作人。工場労働者。
（４）生殖資源の非所有者。女体。女性器。子宮。それらの非所有者。それらの賃貸人。男性。
（５）資産の非所有者。配当生活が不可能な者。配当を他の人に与える人。そのために働いて利益を生み出す必要がある人。株主依存の企業経営者。企業労働者。

（初出2020年12月）

資源所有者と資源非所有者との関係。

資源の所有者は、資源の非所有者に対して、資源を提供するかどうか決定する社会的権限を占有する。それは、決定的な社会的利点である。
資源の所有者は、資源の非所有者に対して、社会的に優位に立てる。
資源の所有者は、資源の非所有者を支配する。
資源の所有者は、資源の非所有者を搾取する。

資源の所有者や所有国は、社会的な上位者であり、社会的な支配者であり、社会的な権力者である。
資源の非所有者や非所有国は、社会的な下位者であり、社会的な従属者であり、社会的な権力を持たない者である。

資源の非所有者や非所有国が優位に立てる条件。それは、資源の供給が過剰であり、その資源を安く買い叩くことができる場合である。

資源の所有。それは所有者の所属する血縁定住集団内部で、独占的、排他的に継承され、既得権益になる。資源の非所有者とその子

孫は、そこから締め出され続ける。それは、社会的な差別である。そうした既得権益の破壊が、社会格差の固定化を防ぐため、定期的に必要である。

生殖資源の所有と非所有。それは、人間の精子と卵子が受精した時点で決まる。それは、人間の生涯にわたって、覆すことが困難である。生殖資源の所有者である女性が、社会的な厚遇を受けること。生殖資源の非所有者である男性が、社会的な冷遇を受けること。そうした社会的差別。それらは、彼等の生涯にわたって続き、解消することは困難である。

（初出2020年12月）

富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

人間は、みんな富裕になりたがる。人間は、みんな貧困になりたがらない。富裕な方が、生存確率や、遺伝的子孫が代々継続される確立が高まるからである。生物は、富裕になりたがる。それは、自身の子孫の後世への継承を第一目的として生きる生物として、当然の欲求である。
人間は、富裕になると、貧困者のために、富裕者自身のお金が使われることを嫌う。富裕者は、貧困者の経済的救助のために、富裕者自身のお金が使われることを望まない。人間は、富裕になると、富裕者と貧困者との経済的な格差とその持続を肯定する。人間は、富裕になっても、もっとお金が欲しくなる。人間の金銭に対する欲求は、無限である。人間は、いったん富裕になると、富裕な暮らしを維持したがる。人間は、彼自身の生活レベルの低下を望まない。
人間は、貧困になると、富裕者が、貧困者のために資金を出すことを望む。人間は、貧困になると、富裕者と貧困者との経済的な格差を否定する。貧困者は、富裕者の財産が没収され、貧困者の間で分配される、経済的な革命の発生を望む。

富裕者と貧困者の分離は、初期状態では、双方の遺伝的な能力差により発生する。遺伝的に能力がある者は、多く稼ぐ。遺伝的に能力が無い者は、あまり稼げない。遺伝的に能力がある者は、富裕者になる。遺伝的に能力が無い者は、貧困者になる。
人間は、既得権益を肯定する。多く稼ぐことで権益を得た富裕者は、それを守ることに一生懸命になる。既得権益を得た富裕者は、それを、彼自身の遺伝的子孫に、代々継承しようと、一生懸命になる。そうした富裕者は、彼自身の遺伝的子孫に、できるだけ高いレベルの後天的な教育を授けようとして、多額の資金を、教育費として拠出する。その方針が代々継承される。初期の富裕者が持っていた有能な遺伝子は、その子孫における遺伝的交配の繰り返しの結果、多くの場合失われ、子孫たちの遺伝的能力は、平凡になる。しかし、遺伝的能力の面で平凡化した子孫たちは、先祖からの既得権益の継承によって、その遺伝的能力の平凡さに見合わない富裕な暮らしを満喫する。遺伝的能力の面で平凡化した子孫たちは、高額の費用がかかる高等教育を代々受けることによって、その遺伝的能力の平凡さを、後天的に是正して、少しだけ有能になる。そのことで、そうした子孫たちは、一定の稼ぎを維持し、富裕な暮らしを満喫する。既得権益を持った富裕者同士が頻繁に結婚し、そうして、既得権益が子孫代々にわたって独占的に継承される。
人間は、遺伝的に有能な者と結婚したがる。その方が、遺伝的子孫の継承が行われやすいからである。遺伝的に有能な者は、他の遺伝的に有能な者と結婚することにより、遺伝的な有能さを、子孫代々継承する。それは、彼らの得る既得権益の子孫代々の継承をもたらす。それは、彼らにおいて、富裕な暮らしの子孫代々の継承をもたらす。
富裕者は、自身の資産を、税金によって没収されることを好まない。富裕者は、税金の低い国へ、彼自身の資産を移して、既得権益の維持を図る。
国は、それ自体、既得権益を有する富裕な上位者と、既得権益を持たない貧困な下位者とに分かれている。国が没収した税金は、多くの場合、富裕な上位者のために使われ、貧困な下位者には、なかなか回らない。
経済的な革命が起こり、以前の富裕者の資産が、貧困者の間で分配されても、しばらく経つと、その中で革命の主導者や、遺伝的に有能な者が、新たな富裕者として社会的に浮上し、一方、革命でのフォロワーや、遺伝的に無能な者は、新たな貧困者となって、社会的に沈み、再び新たな経済的な格差が生成する。人間は、既得権益を欲するので、そうした新たな富裕者は、再び彼自身の既得権益の保持に一生懸命になり、その結果、経済的な格差は、再び固定化さ

れる。これは、中国やロシアのような共産主義革命が起きた国で、そうなっている。
人間における遺伝的能力の優劣の格差は、解消することが、根本的に困難である。個人の間における遺伝子の違いそのものが、個人の間における能力面での格差の生成に直結する。そうした能力面での格差が、富裕者と貧困者との経済的な格差を生み出す初期の原動力となる。
富裕者の既得権益の維持された状態が長期化すると、遺伝的に能力のある者が、貧困者の状態に沈んだままになる。彼は、その生誕時に貧困者であると、その遺伝的有能性を発揮し、富裕者になることが不可能になる。彼が遺伝的有能性を発揮できないことは、社会的な損失である。彼が、遺伝的に能力があるのに富裕者になれないことは、社会的な不平等である。それらの発生は、社会において、極力回避されるべきである。
人間は富裕になりたがる。個人の間には、遺伝的な能力の格差が、恒常的に存在する。そのため、人間の社会においては、富裕者と貧困者の双方が恒常的に発生し、社会における経済的な格差の発生は不可避である。また、人間は既得権益の維持や継承を強力に指向するので、経済的な格差の子孫代々にわたる維持の発生も、社会的に不可避である。
富裕者の持つ既得権益の世代間継承の社会的な抑制。遺伝的に無能な富裕者を、強制的に貧困者に戻す社会的政策の恒常的な生成。遺伝的に有能な貧困者が富裕者になれる機会の恒常的な確保や、その促進。遺伝的に有能な貧困者を社会的に見つけ出して、高等教育を施す政策の恒常的な持続。それらが、社会における経済的な格差是正の中核である。
経済的な革命を行うことで、富裕者が蓄積した既得権益を初期化できる。そのことで、遺伝的に有能な貧困者が、新たに富裕になることができる。それは、社会的な平等を、一時的にもたらす。しかし、それは同時に、新たな富裕者による既得権益の維持と子孫代々の継承を、再び生み出し、それは、社会における経済的な格差を再生産する。そのため、人間の社会においては、経済的な革命が、定期的に、繰り返し必要となる。定期的な経済的な革命の社会制度化。それが、社会における経済的な格差是正の、もう一つの中核である。それは、富裕者と貧困者の格差が極大化したまま是正されないアメリカなどで積極的に導入すべきである。
人間が、誰でも、全員富裕になれること。彼らが、誰でも全員、既得権益を持てること。遺伝的に無能な人間でも、その実現が十分に可能であること。それらを実現する余裕が、彼らを取り巻く自然環境や社会環境に十分存在すること。それらが、社会的には、一番理

想的である。人間社会の究極的な目標は、それらの実現と持続である。

社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。

社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。

生物の社会。社会的な上下関係。それらの決定要因。

生物の社会。

社会的な上下関係。
それらの決定要因。
（１）
（１－１）
彼ら自身が所属する、階級。
彼ら自身が所属する、階層。
それらの高さと低さ。

（１－２）
彼ら自身が所有する、血筋。
彼ら自身が所属する血縁定住集団。
それが持つ、有利さ。
それらの良し悪し。

（２）
能力。

（２－１）
彼ら自身が所有する、個人の資質や努力。
それらの量の多さと少なさ。
それらの質の良し悪し。

（２－２）
彼ら自身の所有資源。
彼ら自身の既得権益。
それらがもたらす、カンフル剤としての、恩恵。
それは、以下のような内容である。
//
彼ら自身の能力。
その増加。
その可能性の増大。
//
（３）
リスクへの対応力。
以下の内容の多さと少なさ。
それらは、性差に当たる。

（３－１）
リスクを背負う指導性。
男性性。

（３－２）
リスクの回避しやすさ。
それがもたらす、自己保身のしやすさ。
女性性。

（４）
既得権益の大きさ。
彼ら自身が占有する資源。
その価値の大きさ。

彼ら自身が、資本や設備を、所有していること。
それがもたらす、以下の（１）に対する、以下の（２）の効果。
（１）
借用者としての下位者。

（２）
立場。
発言力。
支配力。
それらの強さ。

その獲得。

（５）
影響力。
発言力。
それらの大きさ。

（５－１）
情報を統制する手段の所有。
それらの有無。

（５－２）
マスコミを支配する手段。
それらの有無。

（６）
武力。

（６－１）
攻撃力。
ライバルや他者が持つ、資源や権益。
その奪取しやすさ。
それらの多さと少なさ。

（６－２）
防御力。

彼ら自身が所有する、資源や権益。
ライバルや他者による、それらの奪取。
その実現しにくさ。
それらの多さと少なさ。

（７）
周囲の他者に対する、搾取。
その、実現しやすさ。

周囲の他者に対する、たかり。
その、実現しやすさ。

それらの所持における、多さと少なさ。

社会的上位者。

（Ａ）
社会的上位者。彼らの分類。

（１）
能力。

（１－１）
能力者。
有能者。
個人の資質や努力の豊かさ。

所有資源。
既得権益。
それらの多さ。
それがもたらす、能力増加の容易さ。

成功すること。
努力が報われること。

有能感。
有力感。
それらを持つことが出来ること。

（１－２）
無能者。
取り巻く環境が、良好なこと。
そのため、以下の内容を実現することが、容易なこと。
//
無能さ。
本来の能力の無さ。
それらを、隠ぺいすること。
//

（２）
社会的地位。
その時系列的な変化。
その大小。

（２－１）
社会的上位の階層における滞留者。
//
名門であること。
血筋の良さ。
高貴さ。
//
それらを維持する者。

もともと有能であること。
病気に罹患しないこと。
上位の社会生活において必要となる、十分な能力。
それを保持した者。

（２－２）
社会的下位からの上昇者。

（２－２－１）
もともと有能であること。
大きく成功したこと。
それにより、以下の内容を、実現した場合。
//
経済的な収益。
地位。
それらを、上昇させること。
//

（２－２－２）
もともと無能であること。
そのことを補う、カンフル剤。
それは、以下の内容である。
//
所有資源。
既得権益。
//

それらが、豊富に供給された場合。

（Ｂ）
社会的上位者。
彼らの取る行動。

（１）
彼らの社会的地位。
その上昇中。

上昇しやすさの追求。

（２）
彼らの社会的地位。
その上昇後における、現状維持。
その上昇後における、下降の回避。

（２－１）
下位者を、上位に上がらせないこと。
その追求。
下位者に対して、以下の思想を実践すること。
//
生かさず、殺さず。
//
（２－２）
彼ら自身が所有する上位性。
それらの初期化。
その回避。

彼ら自身が所有する既得権益。
それらの初期化。
その回避。

社会の初期化。
その回避。

社会的革命。
その回避。

（２－３）

（Ａ）
彼ら自身の上位性。
それを支える足元の土台。
それを支える社会体制。
彼ら自身の高い地位。
それを下支えする、ヒエラルキー。
それを下支えする、下位者たち。
そのような下位者たちによる、上位者に対する、忠誠心の保持。

（Ｂ）
上記の（Ａ）。
それらが崩れること。
そのような下位者たちが、以下の内容を、実行すること。
上位者に対して、反乱や反抗を起こすこと。
上位者を、抹消しようとすること。
以下の内容を、実行すること。
//
上位者。
その生命の存続。
その血縁の存続。
それらを、断絶しようとすること。
//

上記の（Ｂ）。
それらの状況が、発生すること。
そのことが、上位者に対して、以下の精神状態を、もたらすこと。
//
そのことへの不安。
そのことへの疑心暗鬼の発生。
//

上位者が、そのために、以下の内容を、実行すること。
//
彼ら自身への不忠。
その存在を疑われる者。
そのような下位者に対して、以下の内容を、実行すること。
//
抹殺すること。

粛正すること。
左遷すること。
//
それらの行為を、全ての下位者に対して、徹底すること。

そのような上位者。
彼らは、下位者たちから、独裁者と呼ばれる。
彼らは、下位者たちから、恐れられる。
彼らは、下位者たちの忠誠心を、失う。
彼らは、以下の内容を、実行する。
//
下位者たちの恐怖の心。
それを、利用すること。
そのことで、下位者たちを、支配すること。
//

上記の（Ｂ）。
それらの状況が、発生すること。
その防止。
そのために、以下の内容を、実行すること。
（１）
彼ら自身への警護。
それを、強化すること。

（２）
下位者たちが、以下の内容を、実行すること。
//
上位者に対する、忠誠心。
それらを、これまで通り、保持し続けること。
//
そのことを、確実に実現すること。

そのために、彼ら自身が、以下の内容を、実行すること。
下位者たちに支持される行動。
それらを、ある程度、取り続けること。
それらは、以下のような内容である。
//
品行方正に振る舞うこと。

有能に振る舞うこと。
社会の改革者として、振る舞うこと。

有能な下位者たち。
それらの人物を、高く評価し続けること。

忠誠心の高い下位者たち。
それらの人物を、高く評価し続けること。
//

そのような上位者。
彼は、下位者たちから、以下のように、扱われる。
//
彼は、名君と呼ばれる。
彼は、慕われる。
//

そのような上位者。
彼は、以下の内容を、実行する。
//
下位者たちの忠誠心。
それを、利用すること。
そのことで、下位者たちを、支配すること。
//

（２－４）
絶対的な上位者として、振る舞うこと。
その傾向。
それが、強いこと。
例。
絶対王政。
その実現。
その維持。

社会的下位者。

（Ａ）

社会的下位者。
彼らの分類。

（１）
能力。

（１－１）
無能力者。
低能者。

個人の資質や努力。
それらの乏しさ。

所有資源。
既得権益。
それらの少なさ。
それがもたらす、能力増加の困難さ。

努力が報われないこと。
無力感。

（１－２）
有能者。

（１－２－１）
失敗したこと。
その結果、社会的に、転落したこと。

（１－２－２）
取り巻く環境が、悪いこと。
そのために、本来の能力の芽を出せないこと。

（２）
社会的地位。
その時系列的な変化。
その大小。

（２－１）
社会的下位の階層。
そこにおける、滞留者。

（２－２）
社会的上位からの転落者。

もともと有能であること。
大きく失敗したこと。
そのことで、以下の内容を、招いたこと。
経済的な損失。
地位の喪失。
そうした場合。

もともと無能であること。
そのことを補うカンフル剤。
それは、以下の内容である。
//
所有資源。
既得権益。
//
それが、枯渇したこと。
そうした場合。

もともと有能だったこと。
病気に罹患したこと。
そのことで、以下の内容を、招いたこと。
上位の社会生活に必要となる十分な能力。
それを喪失したこと。
そうした場合。

（Ｂ）
社会的下位者。
彼らの取る行動。

（１）
上昇を狙うこと。

（１－１）
彼ら自身が所有する、資源。
彼ら自身が所有する、権益。

それらの、新たな獲得。
そのために必要な心身の苦労。
それらを、進んで行うこと。

成功すること。
そのための、様々な、試行錯誤や、挑戦。
それらを、必死になって、繰り返すこと。
それらの実行や実現。
そのために必要な能力。
その獲得。

（１－１－１）
上昇のために必要な心身の苦労。
それらを、進んで行うこと。
例。
学業。
労働。

働きながら、学業や能力獲得に、励むこと。
そのために、寸暇を惜しむこと。
そのために、必死になること。
例。
苦学生。

（１－１－２）
上昇のために必要な心身の苦労。
それらを、避けること。

楽をして、上昇すること。
それらを、指向すること。

（１－２）
社会的な上下の階層。
それらの生成。
そのことについて、最初からのやり直しを、指向すること。

（１－２－１）
//
社会の初期化。

社会的な革命。
社会的な変動。
//
それらを、指向すること。

（１－２－２）
上位者が占有する、既得権益。
それらの初期化。
それらの無効化。
それらの実現を、指向すること。

彼ら自身では、それらを引き起こす能力に乏しいこと。

有能な、社会変革の指導者。
その誕生に対する期待。
そのことに対する、意識の強さ。

社会変革の指導者。
その活動に対する便乗。
そのことに対する、意識の強さ。

（１－３）
//
所属階層における、下位から上位への、一発逆転。
苦しい生活からの、一発逆転。
//
その実現を、狙うこと。

例。
//
ギャンブル。
投資を試行すること。
一攫千金を狙うこと。
//

（１－４）
上位者との結婚。
その実現に対する期待。

玉の輿を、狙うこと。

//
富裕な血筋。
良い血筋。
それらへの、参加。
//
その実現を、狙うこと。

上位者との結婚。
その可能性を、増大させること。

そのために、以下の内容を、向上させること。
彼ら自身の性的魅力。

そのために、以下の内容を、磨き上げること。
彼ら自身の生まれ持った、優れた容姿。

（１－５）
上位者との接触。
そのことを、積極的に試行すること。
それは、男女の性差と、関連する。

（１－５－１）
上位者への挑戦。
武力を上げること。
身体的な喧嘩。
武力行使を伴う喧嘩。
それらを、盛んに引き起こすこと。

それらの相手に対して、勝つこと。
その試行を、盛んに、実行すること。
男性性。

（１－５－２）
上位者への説得。
自己主張。
有能さのアピール。
それらを、盛んに試みること。
それらの相手に対して、そうした試みを、成功させること。
その試行を、盛んに、実行すること。
男性性。

（１－５－３）
//
上位者への取り入り。
上位者への忖度。
上位者への隷従。
//
それらの行為を、盛んに行うこと。
それらの行為を、しつこく繰り返すこと。
それによって、上位者が、彼女自身と懇意になること。。
そうした上位者が、彼女自身の地位を、引き上げること。
そのことを、実現させること。
そのことで、上昇の機会を得ようとすること。
女性性。

（２）
下位である現状。
それを、受容すること。
上昇の先送り。
それを行うこと。

そのような受容。
それに当たっての、基本的な態度。
//
少し肯定的な場合。
否定的で、渋々である場合。
//
（２－１）
彼ら自身の生活。
その内容。
それが、恵まれないこと。
それが、不遇であること。

そのような現状を、自覚すること。

（２－２）
現状に対する、諦め。
現状に対する、無力感。
現状に対して、何もしないこと。
現状に対して、無気力であること。

（２－３）
現状に対する、ささやかな満足。

（２－３－１）
//
小さな幸せ。
小さな楽しみ。
小さな生きがい。
//
それらを、見つけること。
それらを、少しずつ実現すること。
そのことによって、とりあえず、現状に満足すること。

（２－３－２）
同じ下位者の間で、気の合う者同士の仲間を作ること。
彼らとの間で、交流を楽しむこと。
そのことで、とりあえず、現状に満足すること。

（２－４）
現状に対する不満。
それを、保持すること。

（２－４－１）
社会への不平不満。
それを、貯めること。
下位者同士で、社会に対する愚痴を言い合うこと。
社会批判のデモに、参加すること。

（２－４－２）
社会への敵対心。
それを、保持すること。
周囲の社会を、拒絶すること。
社会との没交渉。
社会からの隔離。

（２－５）
現状に対して、絶望すること。
自己破滅。
自暴自棄。

自殺。
発狂。

（２－６）
苦しい生活の憂さ晴らし。
例。
飲酒。
ギャンブル。
セックス。

（３）
上位者への、心理的な依存。

（３－１）
上位者への忠誠心。
それを、保持すること。
上位者の利益のために、犠牲になること。
それを、望むこと。

（３－２）
上位者による救い。
それらを、求めること。
例。
絶対的な上位者。
神。
それらを、信仰すること。
それらに対して、救いを求めること。
宗教の信徒。

（４）
上位者に対する、搾取。
上位者へのたかりや、物乞い。
それらを行うこと。

（５）
行為の一方通行性。ストレスの発散。

彼ら自身が、上位者から、一方的に受けた行為。
その内容は、彼ら自身にとって、ストレスが溜まる。
それを、彼ら自身にとっての下位者に対して、一方的に行うこと。

そのことで、彼ら自身のストレスを発散すること。

例。
定住生活様式者。
彼ら自身が、古参者から、一方的に受けた行為。
その内容は、彼ら自身にとって、ストレスが溜まる。
それを、彼ら自身にとっての新参者に対して、一方的に行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを発散すること。

例。
親子関係。
彼ら自身が、親から、一方的に受けた行為。
その内容は、彼ら自身にとって、ストレスが溜まる。
それを、彼ら自身にとっての子供に対して、一方的に行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを発散すること。

（初出2021年3月。）

国家の本質。生物の本質との関係。

本文。国家の本質。生物の本質との関係。

個々の生物の間における、遺伝的な能力の差。
個々の生物の間における、後天的で文化的な、能力の差。
それらが、個々の生物に対してもたらす、有能性と無能性の関係。
それらが引き起こす、個々の生物の間における、環境適応力の優劣の関係。
それらの関係が生物にもたらす、以下のような関係。
//
個々の生物の間における、強弱の関係。
個々の生物の間における、上下の関係。

個々の生物の間における、正次と副次の関係。
個々の生物の間における、支配と従属の関係。
//

（Ａ）
上記の関係における、一定のルールの生成。

そのことにより、上記の諸関係について、以下の（１）の存在が、以下の（２）の行為の実行の意思を持つこと。

（１）
//
優位者の地位に就く生物たち。
強者の地位に就く生物たち。
上位者の地位に就く生物たち。
正の地位に就く生物たち。
//

（２）
//
上記の（Ａ）。
その社会的な承認。
その持続の正当化。そのための、取り決めの生成。
その破壊の、防止や禁止。そのための、取り決めの生成。
//

それらが、生物が国家を作り出す、原動力である。

個々の生物の間における、強弱の関係。
個々の生物の間における、上下の関係。
個々の生物の間における、正次と副次の関係。
個々の生物の間における、支配と従属の関係。
それらの発生は、生物による環境への適応上、不可避である。
ただし、それらの関係は、生物を取り巻く環境の変動によって、大きく入れ替わる。
それらの関係は、固定的では無い。

以下のような内容の主張は、成立しない。
//
古い環境における有能者は、新しい環境において、引き続き、有能である。
//

生物の間の強弱関係や、上下関係は、環境の変動に応じて、絶えず、変化する。
その変化を前提とした、生物の間における、優劣関係や、強弱関係や、上下関係の、交替や移譲を行うシステム。
そのシステムを、出来合いの社会的製品や社会的サービスとして、構築し、固定化したもの。
そうした交替や移譲の入れ物。
その都度、新たな優位者や上位者に当たる入居者を、選んで迎え入れる、不動産物件の一種。
それが、国家の制度である。

その例。
議会制度。
法令。例えば、憲法。

個々の生物の間における、上下関係。
個々の生物の間における、強弱関係。
個々の生物の間における、優劣関係。
それらは、社会の中で、恒常的に、永続的に、見られる。
国家の法令は、それらの関係の存在を前提とする。
国家の法令は、その時々の社会的強者が入居する、出来合いの、取り替え可能な、賃貸の物件である。

社会的な優位者や強者が、建国をする。
社会的な優位者や強者による、社会的な劣位者や弱者に対する、支配やコントロール。
それらを、その時々において、正当化すること。
そのための仕組み。
それが、国家である。

社会的な優位者や強者による、社会的な劣位者や弱者に対する、支配やコントロールの仕組み。
それらを、明文化して、整備したもの。
それが、国家の法令である。

国家の発生は、以下の内容を、定型化し、部品化し、製品化した。
//
環境の変動によって、社会的な優位者と、劣位者とが、入れ替わるあり方や仕組みや手順。
//

それは、作りつけの、不動産物件である。
それは、以下の内容の実施を円滑にする上での、根拠である。
//
優位者による、劣位者への支配。
//

税金。
それは、以下のような内容である。
以下の（１）の存在による、以下の（２）の存在に対する、以下の（３）の行為の実行。
（１）
社会的な優位者。
（２）
社会的な劣位者。
（３）
所有資源の、強制的な取り上げ。
所有資源に対する、強制的な搾取。

税金。
その配分は、上記の（１）が中心となって、行う。
その配分は、以下の形式で、行われる。
//
上記の（１）における、既得権益の新規所有や占有。それらの持続にとって、都合の良い形式。
上記の（２）にとって、異議申し立てをしにくい形式。
社会的な平等。その実現に関する、理想論の主張。そうした形式。
//

それは、以下の（４）の状況の発生に対して、以下の（５）の内容として、現れる。

（４）

上記の（ ２ ）が、上記の（ １ ）に対して、新たに力を付けること。
（ ５ ）
上記の（ １ ）が、上記の（ ４ ）の発生の芽を摘むこと。そのための手段。

それは、以下の内容として、現れる。
上記の（ １ ）による、上記の（ ２ ）に対する、口封じや封殺。そのための手段。

税金の使い道は、上記の（ １ ）によって決められる。
税金は、上記の（ １ ）にとって有利な形で使われる。
税金は、搾取を受けた上記の（ ２ ）の元には、少ししか返ってこない。

生物の世界において、優位者は、劣位者を、無償では助けない。
優位者は、劣位者に対して、援助の代償として、以下の内容を、当然のように要求する。
//
従順さ。
崇拝。
無反抗。
//

生物が、資源を所有している場合。
その生物は、能力面において、以下の内容を実現することが出来る。
//
その能力面での数量を、実際の量や規定の量よりも、増やすこと。
無能者が、有能者として、生活することが出来ること。
//

そのことで、以下の状況が、実現する。
//
本来、社会的な劣位者であるはずの者が、社会的な優位者として、生活できること。
本来、社会的な弱者であるはずの者が、社会的な強者として、生活できること。
本来、社会的な下位者であるはずの者が、社会的な上位者として、生活できること。

//

以下の（１）は、以下の（２）の場所において、以下の（３）として、以下の（４）のように扱われる。
（１）
生物が所有する資源。
（２）
その所有者たち。
彼らが所属する血縁定住集団。
その内部。
（３）
既得権益。
占有物。
（４）
代々、排他的に受け継がれること。
その実現。
その対象。

そのことで、以下のような状況が、永続する。
//
無能者が、有能者として、優雅に生活出来ること。
//

誰かが、社会的な革命によって、そうした所有資源の初期化を行った場合。
生物の間に存在する、本来の能力差。
それらによって、生物の間に、再び、別の内容の、以下の社会関係が、発生する。
//
社会的な強弱関係。
社会的な上下関係。
//

そうして生まれた、新たな、社会的な強者や、社会的な上位者。
彼らは、彼ら自身の有利な立場を、利用する。
彼らは、そのことで、以下の行為を、平然と行う。
//
資源。
それらの、彼ら自身への集積。

それらの、彼ら自身による占有。
//

以下の（ １ ）は、以下の（ ２ ）の場所において、再び、以下の（ ３ ）として、以下の（ ４ ）のように扱われる。
（ １ ）
新たな、社会的な強者や、社会的な上位者。
彼らが、新たに得た、資源。
（ ２ ）
新たな、社会的な強者や、社会的な上位者。
彼らが所属する血縁定住集団。
その内部。
（ ３ ）
既得権益。
占有物。
（ ４ ）
先祖代々、排他的に受け継がれること。
その実現の対象。

その結果、以下の（ １ ）の存在が、以下の（ ２ ）の条件で、以下の（ ３ ）の状況を実現する。
（ １ ）
資源の所有者や継承者。
（ ２ ）
それは、彼ら自身の能力の有無とは無関係に、成立する。
（ ３ ）
彼ら自身が、以下の社会的位置に、再び、君臨し続けること。
//
社会的な強者。
社会的な上位者。
//

生物にとって、能力主義は、一時的なものである。

国家。
それは、以下のような内容として、捉えることが可能である。
//
上記のような、生物本来の社会的な性質を、具現化し、制度化した内容。

//

政権交代。
それは、以下の（１）の存在が、以下の（２）の存在へと、入れ替わることである。
（１）
ある社会における、既存の、社会的な強者や社会的な上位者。
（２）
その社会において、新たに輩出した、別の社会的な強者や、別の社会的な上位者。

以下の（１）の存在は、以下の（２）において、以下の（３）の状態に置かれる。
（１）
無能者。

（２）
生物の社会。
それは、能力差を、前提とする。

（３）
社会的な下位の階層に、沈殿したままの状態。

以下の（１）の存在は、以下の（２）において、以下の（３）の状態に置かれる。
（１）
社会的な弱者。
社会的な下位者。

（２）
生物の社会。
それは、既得権益を、前提とする。

（３）
社会的な下位の階層に、沈殿したままの状態。

以下の（１）の発生により、以下の（２）の存在が、以下の（３）の存在になること。

その可能性。
それは、十分にある。

（１）
社会的な革命。社会の変動。
（２）
有能者。
彼らは、社会的に、下位に沈殿していた。
（３）
彼らが、社会の新たな指導者になること。
そのことで、彼らが、社会的な強さや優位性を、新たに得ること。

社会的な下位者たち。
彼らは、上記の可能性にかけようとして、必死になって努力する。
彼ら自身の中で、実際に、社会的な指導者となれる者。
彼ら自身の中で、そのことで、社会を支配する地位に、就任出来る者。
それは、残念ながら、あまり多くない。

そうした、社会的な上位者の入れ替え。
それは、起きても、結局は、一時的なものに過ぎない。
新たな社会の指導者たち。
彼らは、社会で上位に行くと、さっそく、以下の内容の行為を、当然のように、開始する。
//
彼ら自身の既得権益。
それらの蓄積。
それらの占有。
//

そうして、再び、以下のような関係が、新たに生成する。
//
社会的な強弱関係。
社会的な上下関係。
//

それらは、やがて、固定化する。

以下の（１）の存在は、以下の（２）の状況の下で、以下の（３）の実現のために、以下の（４）の行為を実行するしかない。

（１）
自前の資源の蓄積。
それらが十分に出来ていない者。
（２）
社会的な上位者による支配下。
（３）
十分な資源を得るための資力を、自前で得ること。
（４）
ずっと奴隷のように、強制労働に従事し続けること。

以下の（５）の存在は、上記の（１）の存在に対して、以下の（６）の行為を実行する。
（５）
社会的な上位者。
（６）
経済的な搾取を行うこと。
不十分な対価しか、渡そうとしないこと。

上記の（５）の存在は、以下の（７）に対して、以下の（９）の態度を取る。

（７）
上記の（１）の存在が、以下の（８）の行為を実行すること。
（８）
上記の（５）が占有する、既得権益。
それらの奪取のために、社会の秩序を覆すこと。
（９）
その実現を、とても恐れること。
その実現を、全力で阻止しようとすること。

そうした心理状態の発生源。
それは、以下の内容である。
//
生物における、彼ら自身の既得権益の、代々にわたる維持。
生物が、その永続を、至上目的とすること。
生物の本能そのもの。
生物の本質そのもの。
//

生物の神経系の、コンピューターシミュレーションによる、リアルな再現。心理学や社会学への応用。

生物の、神経系と精神と社会。

生物における、神経系。
それは、動的な、生きやすさの追求のための器官である。

精神や魂。
それらは、神経系の活動として、捉えられる。

神経系を持つ全ての生物は、精神や魂を持つ。
精神や魂を持つ生物。
それらは、人間に限定されない。

彼ら自身の行動結果についての自覚を持つ、全ての生物。
彼らは、意識を持つことが可能である。

彼ら自身の行動についての判断や決定や計画を行う、全ての生物。
彼らは、思考することが可能である。

彼ら自身の行動についての記憶とその再生を行う、全ての生物。
彼らは、学習することが可能である。

それらの生物は、皆、神経系を所有している。
それらの生物は、皆、知的である。
それらの生物は、人間に限定されない。

それらの生物の神経系と、人間の神経系との間に、本質的な差は、存在しない。

人間にとって、意思疎通が困難な生物。
そのような生物の神経系の活動について、内部検証をすること。
人間が、その行為を、何もしようとしないこと。
そうした現状において、人間が、そのような生物を、以下のように、勝手に見なすこと。
//
彼らは、機械的である。
彼らは、知的でない。
彼らは、原始的である。
//

それらの態度は、根本的に誤りである。

人間以外の生物。
彼らが所有する神経系。
それらの活動の、内部検証。
その実行による、以下の内容の実現。
//
人間が、それらの生物と、意思疎通すること。
人間が、それらの生物における、精神や社会の内実を、理解すること。
それらが、新たに、可能になること。
//
それらの実現が、今後の生物学や心理学や社会学において、根本的に重要である。

（2022年4月初出。）

神経系の研究。その内容分類。

神経系。それは、以下の２通りに、分類される。

生物の神経系。例。人間の神経系。
非生物の神経系。例。人造のニューロコンピュータ。神経系における、知的能力の部分のみの、抽出。人工知能の一種。

神経系の、研究。その三層構造。それは、以下の内容である。

生理学。神経系を成立させる生理的基盤の研究。
心理学。神経系単体の作動の研究。
社会学。神経系同士の相互作用の研究。

（2022年6月初出。）

生物の心理学。

生物の行動の目的。それは、以下の内容である。

自己保存。自己複製。自己増殖。自己子孫の永続。
生物にとっての、生きやすさの、確保や維持。

それらの実現のための、神経系の働きや挙動。それらの研究。
それらの実現のための、外部環境や内部環境との、入出力系の働きや挙動。それらの研究。
それらの固定性と可塑性。それらの有能性と無能性。それらの研究。

人間の心理は、生物一般の心理の原理によって、包含される。
人間。それは、高度な知的能力を所有する生物の、一種である。
他の生物が、どの程度、高度な知的能力を所有しているか？
それは、実際には、まだ、良く分かっていない。
他の生物の方が、人間よりも、より高度な知的能力を所有している、可能性。
そうした可能性は、十分に大きい。

そうした状況において、人間と、他の生物とを、強引に区別しようとすること。
それは、無意味である。

心理学の探究は、以下の段階を踏むべきである。
生物一般にとって、汎用的な内容の研究を、先ず、目指すこと。
その解明結果の内容を、人間に対して、適用すること。

例。
生物の心理学は、生理心理学とは、別物である。
生物の心理学は、以下の内容を、含む。
生物の神経系のコンピューターシミュレーション。
それによる、生物における、一般的で共通的な、心理の、解明。

例。
人格心理学。
////
A.Maslow. 人格の発展段階についての説明。
それは、彼自身の説明によれば、以下のような 5 段階を、踏む。

生理的欲求。
安全欲求。
所属と愛情への欲求。
自尊欲求。（承認欲求。）
自己実現欲求。

それらは、実際には、発展段階では、無い。
それらは、生物や人間の心理の内部に、同時並行で、共存し、併存する。
それらは、正しくは、人格についての、生存上の優先順位付けである。

具体例。
水分への欲求や、食欲を、一定以上の水準で、満たすこと。
それは、生物や人間にとって、最も優先順位が高い。

具体例。
聖者になること。

それは、生物や人間にとって、最低限の食欲を満たすことによって、初めて可能になる。
その、生存上の優先順位は、その点では、低い。
それは、生物や人間にとって、永続的な文化的子孫を残す上では、効果的である。
その、生存上の優先順位は、その点では、高い。

自己実現とは、遺伝的子孫や文化的子孫を残すことである。
遺伝的子孫を残すことは、性欲を満たすことで、実現する。

自尊欲求。
それは、社会的上位性の獲得に対する、欲求である。

具体例。
自己実現を、彼自身の食欲を満たすことで実現する、料理人。
////

例。
臨床心理学。
////
S.Freud. 精神分析。
彼自身による、人間の欲求についての研究内容。リピドーについての研究。
それらは、遺伝的子孫を成し、残すことへの欲求のみへと、大きく偏っている。
そこでは、以下の内容が、不足している。
生物や人間における、文化的子孫を生成し、残すことへの欲求。それらの強さに対する理解。

C.Jung. 分析心理学。
集合的無意識。
人間の無意識の奥底には、人類共通の素地が、存在すること。
それは、以下の内容である。
人間一般における、神経系の共通性。
それは、更に、以下の内容へと、拡張可能である。
生物一般における、神経系の共通性。
////

（2022年6月初出。）

神経系と、生物の個体。

アメーバ。粘菌。蟻。蜂。
高度な遺伝的同質性を共有する、異なる個体同士の協働。
そうした生物。
それらの、個々の個体を超えた働きは、神経系と相同である。

人間。
彼らは、相互の遺伝的同質性が、それほど高くない。
彼らの社会は、個々の個体を超えた働きを、特に持たない。

（2022年6月初出。）

生物の神経系と、生物の魂。

生物の魂。
それは、以下の内容である。
生物の神経系の、活動そのもの。
個々の神経細胞の発火活動の、集積体。

生物の神経系の、コンピューターシミュレーション。
それは、以下の内容である。
生物の魂の、コンピューターシミュレーション。
例。
人間の魂の、コンピューターシミュレーション。

（2022年6月初出。）

神経系と、性差。

神経系と、性差。
それは、以下の内容である。

男性。
彼ら自身における神経細胞同士の結合の値は、0か1かの両端に近い。
その値は、離散的で、論理的である。
それは、気体的思想を、出力として、生み出す。

女性。
彼ら自身における神経細胞同士の結合の値は、0と1との中間に近い。
その値は、融合的で、調和的である。
それは、液体的思想を、出力として、生み出す。

男性。
彼ら自身における神経系の入出力は、環境に対して、批判的である。
その入出力は、入力値と出力値が、対照的である。
それは、気体的思想を、出力として、生み出す。

女性。
彼ら自身における神経系の入出力は、環境に対して、融和的である。
その入出力は、入力値と出力値が、相同的である。
それは、液体的思想を、出力として、生み出す。

それらが、行動における、男女の性差を生み出している。

（2022年6月初出。）

神経細胞の学習能力。神経細胞の可塑性。シナプスの学習。シナプスの可塑性。

神経細胞。
それらの動きは、アメーバと、同様である。
それらは、学習能力を、所有する。
それらは、可塑性を、所有する。

シナプスの学習。シナプスの可塑性。
それらは、以下の内容である。

（１）
従来の、有力な学説。
D.Hebb.
シナプスの前細胞と後細胞が、同時に連続して頻繁に発火すると、シナプスの能力が増強されること。シナプスの学習。シナプスの可塑性。

それは、実際には、以下の内容である。
それぞれの神経細胞が、発火すること。
それは、それぞれの神経細胞に対して、以下の内容をもたらす。

それぞれの神経細胞における、発火能力の鍛錬。
それぞれの神経細胞における、発火能力の増強。
それぞれの神経細胞における、発火能力の学習。
それぞれの神経細胞における、発火能力の、プラスの可塑性。

それぞれの神経細胞における、発火能力。それは、以下の内容である。

前細胞から送信される神経伝達物質に対して、感応する能力。より少しの神経伝達物質によって、より多く、より大きく、発火する能力。

発火の頻度を向上させる能力。より多数回、発火する能力。
発火の大きさを向上させる能力。より大きく発火する能力。
後細胞に向けて、より多くの神経伝達物質を、より速く、より多数回、伝達する能力。
前細胞の発火能力と、後細胞の発火能力が、同時に、向上すること。それは、以下の内容を引き起こす。シナプスの増強。シナプスの学習。

それぞれの神経細胞が、発火しないこと。それは、それぞれの神経細胞に対して、以下の内容をもたらす。

それぞれの神経細胞における、発火能力の鍛錬の不足。
それぞれの神経細胞における、発火能力の低下。
それぞれの神経細胞における、発火能力の忘却。
それぞれの神経細胞における、発火能力の、マイナスの可塑性。

それらは、以下の内容と、同一である。

筋肉細胞における、筋力増強のメカニズム。
筋肉細胞における、筋力低下のメカニズム。
筋肉細胞における、筋力の可塑性のメカニズム。

シナプスの学習。シナプスの可塑性。
それらは、疑似相関に過ぎない。

シナプスの学習。シナプスの可塑性。
それらは、以下の内容である。

前細胞と、後細胞の、それぞれにおける、発火能力の学習と、発火能力の可塑性。
それらがもたらす、副次的な産物であること。

（２）
神経伝達物質の、特定の後細胞への伝達。その伝達先の新たな開発。その試行錯誤。シナプスの新規創出。シナプスの学習。

それは、以下の内容である。

送信先の開発。新たな後細胞に向けて、新たな触手を伸ばすこと。その行為の連続性。
受信元の開発。新たな前細胞に対して、新たな触手を伸ばして来るように、誘引を行うこと。その行為の連続性。

（３）
シナプスの無効化。
それは、以下の内容である。

前細胞による、後細胞への、いったん伸ばした触手の、自主的な、引っ込め行為。
前細胞による、後細胞への、神経伝達物質の送信の、自主的な、減退。
前細胞と、後細胞の、それぞれの、無効化。例。細胞死。

（2022年6月初出。）

生物における、神経系の、位置付け。

生物における、生存維持。
生存維持に必要な資源の、内部環境における、自動的な消費。
生存維持に必要な資源の、内部環境における、不足。その、自動的な発生。その警告の、自動的な通知。

生存維持に必要な資源の、外部環境からの輸入。その必要性の、自動的な発生。
生存維持に必要な資源の消費の後における、発生した廃棄物の、外部環境への排出。その必要性の、自動的な発生。
それらの行動を発現するための、設備や道具の、開発や所有や使用。それらの必要性。
それらの行動を実現するための、有能性の、所有。その、必要性。

それらの行動を発現するための、動機付けの、自動的な発生。その、必要性。

生存維持に必要な資源の、体内の内部環境における、蓄積。生物自身の、自己資源化。
生存維持に必要な資源の、外部環境における、蓄積。
生存維持に必要な資源。その内部環境における余剰分の、外部環境への、輸出。
その外部環境における余剰分の、新たな別の外部環境への、輸出。

生存維持にとって脅威となる、外部環境や内部環境の、変動。
それらの、回避や打倒や破壊や防止の、必要性。
そのための、局面打開や問題解決の、必要性。
それらの行動を実現するための、有能性の、所有。その、必要性。
それらの行動を発現するための、動機付けの、自動的な発生。

それらの実現のために必要な、外部環境や内部環境に対する、働きかけ。
その実現のための、生物における、体内の各種器官の、制御機構。
その実現のための、生物における、体内の各種デバイスの、オペレーティングシステム。
その実現のための、生物における、情報の操作と通信の、機構。
そうした機構やシステムとしての、生物の神経系。
その一類型としての、人間の神経系。

（2022年7月初出。）

神経系の社会学。その、プログラミング技術による、研究の実現。

神経系の社会学。その、プログラミング技術による、研究の実現。
その、前提条件。
それは、以下の内容である。
--
物理的な、移動や接触による、社会関係。その再現は、優先しない

こと。その理由。その実現は、困難であること。
通信による社会関係。その再現を、優先すること。その理由。その実現は、比較的、容易であること。
--

その研究において、実現すべき、基本的な、社会関係。それは、例えば、以下の内容である。

生きやすさの奪い合い。資源の取り合い。所有している既得権益の、防衛。
相互の意思疎通。通信信号のやり取り。
文化的子孫の、ある神経系から、別の神経系への、コピー。
生きやすさの、市場交換。
上下関係。支配と従属と抵抗と独立。社会的な格差。
仲間関係。協力関係。調和関係。同質者と異質者との、社会的な区別。
男女の性差。液体的思想と、気体的思想。温室生活。

その研究の、手順。
それは、以下の内容である。

その研究において、実現すべき、基本的な、社会関係。
第一段階。それらの実現に必要な、実装内容。その、事前の洗い出し。
第二段階。それらの具体的なシナリオ。その、事前の執筆。
第三段階。それらを実現する、詳細な神経回路。その、事前の設計。
第四段階。プログラミングによる、それらの動作の、実装。
それらを、一通り、行うこと。
それらの実現が、前提条件として、必要であること。

その後。
それらの社会関係の、シミュレーション。そのことによる、仮想的な、箱庭的な社会の、維持と繁殖と記録。
それらを、様々な条件を設定しながら、行うこと。
そのために、プログラムのパラメータを、その都度、いろいろ調整すること。

（2022年7月初出。）

生物の神経回路の実装と、それによる、生物の神経系の社会行動の再現。そのために、クリアすべき、課題。

コンピューターシミュレーションを活用した、生物の神経回路の実装。
それによる、生物の神経系の社会行動の再現。
そのために、クリアすべき、課題。

以下の内容の能力を、神経回路の内部において、実装する必要があること。

資源を、探査し発見する、能力。
資源を、吸収し消費する、能力。

--
相手が、非生物の場合。例。土砂。金属。河川。擁壁。
相手が、生物の場合。例。他の生物。

相手との、資源の奪い合い。そのための、戦闘や闘争の関係の、開始や継続。戦場としての、生物社会。

相手との戦闘や闘争において。
相手との上下関係の、認識と受容。例。ホッブズ的秩序の構築。
--
攻略や防御における、有能性や全能性。最終的な、攻略可能性。最終的な、防御可能性。それらの認識。
相手に対する、勝利宣言。相手に対する、支配。相手に対する、搾取。それらの実行。
--

攻略や防御における、無能性。最終的な、攻略不能性。最終的な、防御不能性。それらの認識。
相手に対する諦念の、発生。相手に対する、降伏。相手に対する、従属。それらの実行。
--
相手との上下関係の、認識をしない場合。相手との戦闘の継続。そのことによる、資源的消耗と、社会的衰退。
--

--
支配。
ある生物が、相手の生物に対して。
資源の争奪において、相手に対して、恒常的に、有能であること。
資源の争奪において、相手に対して、恒常的に、打ち勝つこと。
資源の獲得場所を、一方的に、占有出来ること。相手を、資源の獲得場所から、一方的に、排除出来ること。
資源の確保において、相手よりも、優先されること。
相手の資源を、一方的に、横取り出来ること。
相手の生殺与奪についての権限を、握ること。
相手を、一方的に、制御し、管理すること。
相手に対して、一方的に、指示し、命令し、言うことを聞かせることが、出来ること。
--
従属。
ある生物が、相手の生物に対して。
資源の争奪において、相手に対して、恒常的に、無能であること。
資源の争奪において、相手に対して、恒常的に、打ち負けること。
相手によって、資源の獲得場所から、一方的に、排除されること。
資源の確保において、相手よりも、後回しにされること。
彼自身の資源を、相手によって、一方的に、横取りされること。
相手によって、彼自身の生殺与奪についての権限を、握られること。
相手から、一方的に、制御され、管理されること。
相手から、一方的に、指示され、命令され、言うことを聞かされること。
--

相手に対する、彼自身との、同質性と異質性の、認識。
同質性。

遺伝的共通性。血縁関係があること。
文化的共通性。同一の行動様式を、学習していること。
神経系内部における、神経回路の構成の、共通性。

外観や外見の、共通性。
外観や外見の、遺伝的な決定。例。肌の色。
外観や外見の、文化的な決定。例。服飾。

同質性。
非敵対関係の場合。共存。友人関係や、仲間関係や、共同体の、構築。
敵対関係の場合。ライバルの殲滅。戦場としての、生物社会。

異質性。交渉や折衝。
--
非敵対関係の場合。共存。社会的交換。社会的分業。
開放的な市場関係。市場としての、生物社会。
閉鎖的なシステム関係。システムとしての、生物社会。
--
敵対関係の場合。敵の殲滅。戦場としての、生物社会。
--

相手に対する、信頼関係の、構築。

信頼。
不変性。恒常性。定常性。一貫性。
--
相手に対して、生きやすさを提供する行動において。
それらを、長期的に所有していること。
彼自身が、それについての認識を、持つこと。
相手が、それについての認識を、持つこと。
--
相手から、生きやすさを受け取る行動において。
それらを、長期的に所有していること。
彼自身が、それについての認識を、持つこと。
相手が、それについての認識を、持つこと。
--

信頼関係の分類。

--
短期的な信頼関係。長期的な信頼関係。
部分的な信頼関係。全面的な信頼関係。
プラスの信頼関係。マイナスの信頼関係。
--

相手に対する、信用の構築。
--
相手を、教師とみなすこと。
相手に、付いて行くこと。
相手の行為について、その真似をすること。
--

相手に対する、彼自身の神経回路の、自己複製。
遺伝的子孫。遺伝情報の複製に基づく、神経回路の複製。
文化的子孫。学習に基づく、神経回路の複製。例。古典的条件付け。

相手との、有性生殖。
異性の、認識。異性への、アプローチ。異性との性行為。
その結果。彼ら自身の遺伝的子孫の、生成と養育。

女性。液体的思想。
男性。気体的思想。
それらの、神経回路としての、構築。

（2022年8月初出。）

ミニマム神経系。

2020.10 初出

ミニマム神経系の社会学。

知的粒子。感情的粒子。知性や感情を持って動く簡易な生物の電子的な実現。その神経系は、ミニマムである。それは、最小単位の神経系である。
ミニマム神経系。minimum nervous system その社会学。それは、以下の内容である。コンピュータシミュレーションによって、ミニマムの神経系を作成すること。そうした神経系同士を、社会的に相互作用させること。

ミニマム神経系。それらの相互作用。その解明。その意義。
（１）神経系の本質を探ることができること。
（２）昆虫類や魚類のような単純な脳を持つ生物の精神を解明できること。特に、彼らの、他の生物との相互作用時の精神状態の変化を解明できること。
（３）人間のような複雑な脳を持つ生物について、その行動の原点をたどることができること。そうして、彼らの社会を、単純化されたモデルの形で、解明できること。
（４）慣性を守る生物の個体と、慣性を打破する生物の個体。それらの行動面での境界線や違いを、単純化されたモデルの形で知ることができること。

従来知見との違い。
（１）神経回路の社会学という呼び名。それは、既存のニューラルネットワーク技術の解説と変わらない。
（２）既存の神経社会学は、MRIでの生きた人間の脳スキャンによって、人間の社会行動と脳の活動との対応関係を探ろうとしている。そこには、神経回路網のことが出てこない。

ミニマム神経系の構成要素。

（１）入力。理性。感情。記憶。意思。出力。
（２）それぞれの内容を特徴づける形容詞。

（１－１）入力。
（１－１－１）感覚。知覚。受信すること。
（１－２）記憶。
（１－２－１）暗記。忘却。抑圧。呼び出し。

（１－３）感情。
（１－３－１）快感。不快感。
（１－３－２）好き。嫌い。
（１－４）理性。
（１－４－１）正しい。誤り。
（１－５）意思。
（１－５－１）乗り気であること。乗り気でないこと。
（１－６）出力。
（１－６－１）発信すること。（例。発声。）
（１－６－２）筋肉の動作を起こすこと。
（１－６－３）目や耳などを動かして、自身の周囲状況を注意すること。

（２－１）意味的なもの。エピソード的なもの。
（２－２）短期。長期。
（２－３）ポジティブ。ネガティブ。
（２－４）表層。深層。
（２－５）内部限定。外部への公開。

上記の（１）と（２）を掛け合わせることで、ミニマム神経系の行動が発現する。ある神経系の行動が、他の神経系と相互作用することで、ミニマム神経系の社会が発現する。

生物の社会。生物の神経系。それらのシミュレーション。

生物神経系や、生物社会の、人工的な生成。マイクロニューロコンピュータの生成と、相互作用。実動プログラムソースコード生成の実践。それらの手順の概要。

////
既存の神経回路のシミュレーターは、個体内部の大規模神経回路の再現を目指している。
それらは、複数個体同士の神経回路の相互作用を、想定していない。そこを、自作する必要がある。

単純に、多次元配列で、一番目を、個体番号にして、二番目を、ネットワークの各部分の番号にして、三番目を、ニューロンのidにする。
あるいは、pythonの配列で、低次の配列のリストを、１段階、高次の配列に順次取り込み、そのリストを、更に高次の配列に取り込む。

////
実現すべきこと。設計の要件。検討すべき課題。未知の不明な要件。その解決案の初期内容。
それらを、まずまとめて、電子書籍の内容へと執筆して、とりあえず公開すること。それを、最優先する。

////
（１）従来の生理的な脳内部位ベースの考察。
（２）筆者による機能ベースのマイクロ神経系モデルの考案や考察。
（１）よりも、（２）の方が、より有益であり、生物の神経系の本質の中核に、より容易に迫ることが出来る。

////
生物の行動を再現するには、個体内部の、受容器の感覚細胞と、出力器の筋肉細胞の挙動の再現が必要である。
既存の神経回路のシミュレーターは、それらの挙動の再現を、対象にしていない。その自作が必要である。
その場合、神経細胞についても、最初は、厳密な生理学的挙動を求めずに、概略的な挙動を自作する。
受容器と出力器の配列を作る。それを、個体レベルの配列に、取り込む。

////
神経細胞については、以下の３種類を考慮する必要がある。
固定不変接続。学習的な可塑接続。新規の接続先を試行錯誤で見つけてくる新規接続。

接続先の固定か、新規獲得か。
接続の太さの固定か、学習による可変性の確保か。
接続における、遺伝性と文化性。

それらの考慮が必要である。

現在の既存の神経回路のシミュレーターは、接続先は固定のみ。

接続先の新規獲得については、アメーバの動きとかを、参考にする必要がある。
それは、自動で、ランダムに、接続先の細胞を、試行錯誤的に選定することで、実現する。
接続先のリストを、以下の区別をそれぞれ付けて、神経細胞毎に作成する。
促進と抑制の別。太さの別。可塑性の有無の別。
神経細胞の発火の閾値を、神経細胞毎に設定し、作成する。
それらを、神経細胞別にリスト化する。
それらの神経細胞の属性の配列を、個体レベルの配列に、取り込む。

とりあえず試行錯誤的に接続したものの、生物自身の環境適応にとって、無効であったり、有害であったりする接続。
それらを、実質的に消去する過程の実装が必要である。
それは、神経系における、ガーベジコレクションである。

////
個体内部だけ考えていると、個体外部の環境変動を、考慮することが出来ない。
無機的環境変動。他個体の活動による環境変動。自個体の活動による環境変動。
それらを、それぞれ考慮することが、必要である。

////
個体による、物理移動を、考慮する必要がある。
個体の、現在位置を、設定する。
個体による、自発的な移動と静止。それらを実現する。
衣食住の欲求を満たすための行動。生殖の欲求を満たすための行動。それらの発現と実動。そのための移動と静止。

////
個体同士の相互作用。個体同士のコミュニケーション。

それらの発現と実動。
そのために使用される、言語や記号。その用意。
それらにおける、遺伝性と文化性。それら両方の存在を、前提とする。

////
生物が、生き続けたいと思う意思や精神の内在。
それを、小さな神経回路の中で、再現する必要がある。
自動性。自発性。
心臓の、自動的で連続的な、鼓動。生物活動における、無限ループ。
生物活動における、タスクの、自動の定期的な起動。
それは、以下の方法で、実現可能である。
プログラムの内部で、自動無限ループのルーチンを回し続けること。
プログラムの内部で、一定のフレームレートでの自動の定期的なタスク起動を実行すること。

////
生物の、生命維持のための感情を、設定し実現する必要がある。
快感と不快感。接近と回避。信頼感と不信感。安心と不安。
生物に対して、危険や不良性を知らせる、痛覚の存在。
それらを、神経細胞における、接合部のシナプスの促進と抑制の自動制御機構として、実現する。
生命維持にとっての、プラスとマイナス。その判定と、指示。
その仕組みを、神経回路に内蔵させる。

////
学習。
どういう場合に、促進的接合にして、どういう場合に、抑制的接合にするか。
それらを、決定する仕組み。
それを、神経回路内部に内蔵させる必要がある。
生物の神経系においては、興奮性や促進性の神経細胞と、抑制性の神経細胞が存在する。
神経系における、両者の個数の分布は、促進性の神経細胞が８０％であり、抑制性の神経細胞が２０％である。

促進性の神経細胞は、促進性のシナプスを形成する。抑制性の神経細胞は、抑制性のシナプスを形成する。
促進性の神経細胞の動きを、抑制性の神経細胞が抑える。
どういう場合に、接合が太くなることを促進し、どういう場合に、接合が太くなることを抑制するか。
それらを決定する仕組み。
それを、神経回路内部に内蔵させる必要がある。
当該の神経細胞による、自律的な、促進と抑制のシナプス結合の形成。他の司令役の神経細胞からの司令の伝達に基づく、従属的な、促進と抑制のシナプス結合の形成。

////
記憶。
記録の、物理的な書き込み。
忘却。思い出したいが、思い出せないこと。思い出さないように、抑圧すること。書き込みの不能性。書き込もうとしても、書き込みされないこと。いったん行われた書き込みの消滅。いったん行われた書き込みの検索不能性。
思い出しの行動。記憶の検索行動。
書き込み箇所の故障や死亡。認知症。

////
意識。無意識。
神経系の、活動状態や、活動内容。その内部分類。
生物自身が、自覚できる部分。生物自身が、自覚できない部分。
生物自身へのフィードバックがある部分。生物自身へのフィードバックが無い部分。
感覚や知覚の内容。それらの、顕在性と、潜在性。
それらは、神経系の別々の部分での活動になっている。
無意識での活動が先行し、意識が後から付いて来て、追認する。
環境に対する反応は、無意識での取り扱いが先行して、その内容を明示化したものが、意識となる。

////
思考。
感情に基づく、冷静さを欠いた思考。感情から中立な、冷静な思

考。論理的思考。
それらの区別が必要である。
正誤。快感と不快感。それらの区別に基づく、神経細胞のシナプスの促進と抑制。
それらの、固定的な、非学習的な、回路設定。それらの、学習による可塑性。
それらの事前の分類が必要である。
それらを区別する形での、神経回路の運用が必要である。
価値観の中枢の神経系か、内分泌系。神経系における、価値中枢。
生物の生存維持にとって、何が、より重要かを、判断し、決定し、司令する機構。それらの設定が必要である。
上位の価値中枢から、下位の感覚や記憶や思考や運動に、行動の司令の信号が降りてくる形を、試しに想定する。価値中枢と、感情や情動の中枢との関連。それらは、同一の存在かも知れない。

////
自個体が、無機物質や、他個体に、接触し、衝突すること。
無機物質や、他個体が、自個体に、接触し、衝突すること。
それらの物理運動。それらを、考慮する必要がある。
既存の分子運動のプログラムや、既存のアクションゲームを、参考にする。

////
生物の行動。その成功と失敗。その判断や判定の機構。その機構の、神経系における内在。その機構による、シナプスの促進と抑制のコントロール。
行動に対するフィードバックやフィードフォワードの制御の存在の重要性。
それは、専用の回路が存在する訳では無い。事前の記憶と、事後の感覚や知覚との照合によって、対応する。
フィードバックと、フィードフォワードの、親による子供の養育の過程での、習得。そのシミュレーションによる解明。

////
睡眠のシミュレーション。

生物の睡眠と、生物が、睡眠中に、夢を見ること。それらの、シミュレーションによる解明。
神経細胞は、頻繁に発火を繰り返していると、エネルギー欠乏状態になり、発火に必要なエネルギーが不足し、疲労し、元気が無くなる。
神経細胞は、そのままでは、発火が不可能になり、活動出来なくなる。
その状況に対処するため、体外環境の受容器からの入力を、一時的に遮断して、神経細胞に対して、酸素などのエネルギーの充電作業を、行うこと。
これが、睡眠である。
睡眠中は、体内環境から、発火に必要なエネルギーの充電や補給が行われる。
その作業は、沢山使い過ぎて、充電池が切れそうになったスマートフォンに対して、電源を遮断して、充電を行う作業と、同様である。
充電中の、神経細胞の活動がもたらす心的結果が、夢である。
それらの過程を、シミュレーションで実現する。

////
ある神経細胞の死。そのことが、周囲の神経細胞や、神経系全体にもたらす影響。そのシミュレーション。
神経細胞の生死の状態を、数値で表示する。死んでいる神経細胞の活動を、無効化する。

////
生命維持行動のシミュレーション。
彼ら自身の、身体の維持。そのシミュレーション。
エネルギーの獲得。養分の獲得。食糧の獲得。
食糧の消費。食糧が、獲得すると、環境中から、無くなること。
食糧が得られない状態が、一定時間続くと、生物が死ぬこと。
受容器。食糧があること。1。正の整数。食糧が無いこと。0。それぞれを、別々の細胞で、検知。
出力器。食糧の消費。環境中の数値を、0にすること。環境中の数値を、減らすこと。-1。一定のフレームレートで、それらの行動を起こすこと。
受容器で0が続くと、やがて死ぬこと。
生物の体内の栄養の蓄積量。食糧が得られると、増えること。一定

時間毎に、自動的に減ること。
栄養の蓄積が無くなると、飢餓になること。そのことによる、以下のような信号の発生。生命維持にとっての危険信号。それを、体内環境から、受信すること。
そして、死ぬこと。
食糧が無くなると、位置を、試行錯誤的に変えること。
数値を持つ環境を、複数個、用意すること。複数の環境に、番号やidを振ること。
体外環境。体内環境。それらの、区別をすること。
そうした行動を、神経系で、表現すること。

////
他の個体との、交渉や折衝。
他の個体との、権益を巡る争奪戦。
他の個体との、融和。
それらのシミュレーション。
複数の個体に、番号やidを振ること。
他個体の存在。そのことの、受容器と神経細胞による、検知や知覚。
生物と、非生物。
有機物質と、無機物質。
それらの区別を可能にすること。

////
性差のシミュレーション。
生物の、雄と雌の行動。それは、以下の内容である。
雄。気体的行動様式。気体分子運動シミュレーション。
雌。液体的行動様式。液体分子運動シミュレーション。
物理的な分子運動シミュレーションをそのまま使うことは、しない。
行動における、離散指向と、近接指向や一体化指向との相違で、実現する。
女性的個体。環境から0が来たら0を、1が来たら1を出力する確率。その数値が高い。
前例順守、前例同調の個体。
男性的個体。環境から0が来たら1を、1が来たら0を出力する確率。その数値が高い。
前例破壊と新秩序樹立の個体。

////
生殖行動のシミュレーション。
異性の発見。
性的誘引への、自動的な反応。
異性間の求愛と、その受容。セックス。
子孫の生成。

////
生物社会。
各生物の神経系の合計。総合合体結果としての全体社会。
それらの、リアルタイムでの表示。

////
作成に当たっては、いきなりコーディングには入らずに、事前に、可能な限り、設計を具体化し、その内容を詰めておく。
作成するデモの内容。

神経細胞の単体。
最低限の神経系の機能を備えた、生物。
神経細胞のリストと、それぞれの神経細胞の活動を、リアルタイムで表示する。
神経細胞に、番号やidを振る。
神経細胞の入力部分の単一の頭の部分。そこに、以下の内容を、色彩で、表示する。
その神経細胞の番号やidと、存在エリアと、促進性か抑制性かの別。
神経細胞の真ん中に、発火するかどうかを、ブロックで、色彩で、表示する。
神経細胞の出力部分に、以下の内容を、リスト形式で、色彩で、表示する。
接続する、次の神経細胞。それらの番号やidと、太さと、学習可能性の有無。
その接続の数。そのリアルタイムの増減。それを、リスト形式で表示する。
それらの神経細胞の表示を、リスト形式で、上下に並べて、表示する。

受容器。出力器。
神経細胞と同様に、それぞれに、番号やidを振る。
それらの真ん中に、活動するかどうかを、ブロックで表示する。
受容器の場合、マウスでクリックすると、活動する。
受容器の場合、出力部分に、以下の内容を、表示する。
接続する、次の神経細胞。それらの番号やid。
出力器の場合、活動すると、外部環境に、その活動の刻印を残すようにする。
その刻印内容を、番号やidとして、色彩として、表示する。

複数の神経細胞や、複数の神経系や、複数の生物。
それらの活動を俯瞰して、観察して、監視して、制御すること。
そのための、生物行動の実験用のコントローラー。
それらを設けること。

細胞同士の接続や、細胞毎の活動状態。
それらの、鳥瞰。
その、リアルタイムでのグラフィック表示。

////
最初は、グラフィック表示無しの、関数作成から始める。
受容器。神経細胞。出力器。外部環境。内部環境。
それらの動きを、プログラムベースで、一通り作り込むこと。
デモ表示は、それらの内容を実現した後で、その作成に取り掛かるようにする。

（2022年1月初出。）

作成が必要な、神経系のシミュレーションプログラムの内容。その作成に当たって、考慮すべき点。

////

神経細胞。
その種類の分類。促進ニューロンと、抑制ニューロン。
その機能の分割。受信部。集計部。判定部。発火部。送信部。
それぞれを、独立した関数か、プロセスにする。
関数間やプロセス間のデータ転送が、それぞれのプロセスにおいて、必要である。

外部環境は、リアルタイムで、その都度、一定のフレームレートで、データを受信部に送る。実際のプログラムでは、プログラム利用者によるボタン入力などで、入力データが発生したら、その都度、そのデータを、受信部に送る。
受信部は、発火イベントが起きたら、その都度、イベントと信号を、データを集計部に送る。前の細胞との接続の太さに従って、送信する信号の大きさや量を、変える。
集計部は、ベルトコンベアで、一定時間毎に、一定のフレームレートで、そこまでの集計結果を区切って、集計数値を、判定部に送る。体内時計を活用すること。体内時計を活用しない場合。その神経細胞における、前の抑制ニューロンとの接合部の増強が、そのままでは、不可能になること。
判定部は、集計数値が、発火イベントが起きる閾値に達したときのみ、イベントを発生させるため、発火を許可する信号を、時計的に、規則的に、発火部に送る。
発火部は、発火可能イベントが起きたら、そのイベントを受け取って、その都度、イベントと信号を、時計的に、規則的に、送信部に送る。
送信部は、送信イベントを受け取って、各送信先に、データを送る。それらは、送信先毎に、同一で共通のデータである。データは、以下の内容である。発火イベントの発生を示す、0か1かの、数値。神経細胞のそれ自身の種別が、促進ニューロンか、抑制ニューロンかの、種別情報の数値。0か1かの数値。

//

神経細胞における、発火の判定。そのメカニズム。そのタイミング。
神経系の各々の細胞内部の体内時計を利用すること。
一定の周期で、一定の時間間隔で、その時間感覚内の入力データを、促進入力と抑制入力とに分類して、それぞれ集計すること。
促進入力が抑制入力を、一定の閾値以上上回ったら、そのタイミングでは、発火すること。促進入力が抑制入力を、一定の閾値以上上

回らなかったら、そのタイミングでは、発火しないこと。
発火した場合。促進入力の受信部を増強すること。抑制入力の受信部を、低減するか、そのまま放置すること。
発火しなかった場合。抑制入力の受信部を、増強すること。促進入力の受信部を、低減するか、そのまま放置すること。
その結果。
各細胞における発火と非発火の発生は、体内時計に従って、時間的に規則的なものになること。
体内時計を持っている細胞。
体内時計を、それ自身では持たずに、他の体内時計を持っている細胞の時計情報を、流用し、活用する細胞。

//

シナプス。
それは、神経細胞同士の、接合部である。
前の細胞の送信部。次の細胞の受信部。それらの間における、発火信号データの伝達の有無。
次の細胞の受信部における、発火信号データの通過の有無に基づく、接合の増強と、接合の低減あるいは放置。
次の細胞の受信部における、次の細胞の発火の有無に基づく、接合の増強と、接合の低減あるいは放置。
それらの作用を統合する概念としての、接合部。

シナプスの可塑性。
ニューロン一般。次の細胞における発火の有無についての、次の細胞の発火部から次の細胞の受信部へのフィードバックデータの、次の細胞の受信部における、通信回線毎の個別の受信。

促進ニューロンの場合。前の細胞からの受信データにより、次の細胞も発火した場合。次の細胞の受信部における、受信数値の増加の学習。次の細胞における、促進刺激の受信数値の増幅。それが、毎回、全ての接合部において、行われること。
抑制ニューロンの場合。前の細胞からの受信データにより、次の細胞が発火しなかった場合。次の細胞の受信部における、受信数値の増加の学習。次の細胞における、抑制刺激の受信数値の増幅。それが、毎回、全ての接合部において、行われること。

抑制ニューロンでは、動きは、促進ニューロンの真逆となる。

前の細胞が、促進ニューロンの場合。次の細胞において、発火があった時のみ、それを、イベントとして、次の細胞の受信部が、受信する。
前の細胞が、促進ニューロンの場合。前の細胞からの発火受信による、次の細胞における発火が、長期間起きなかった場合。次の細胞の発火が抑制されると、次の細胞の受信部における、受信数値の減少の学習がなされる。次の細胞における、促進刺激の受信数値の削減。それが、毎回、全ての接合部において、行われること。

前の細胞が、抑制ニューロンであった場合。次の細胞の発火が抑制されると、受信数値の増加の学習がなされる。次の細胞における、抑制刺激の受信数値の増幅。それが、毎回、全ての接合部において、行われること。
前の細胞が、抑制ニューロンであった場合。抑制データを送信したにも関わらず、次の細胞の発火がなされると、受信数値の減少の学習がなされる。次の細胞における、抑制刺激の受信数値の削減。それが、毎回、全ての接合部において、行われること。

前の細胞が、促進ニューロンか、抑制ニューロンか。後の細胞が、発火したか、発火しなかったか。合計、４通りの考慮が必要。

学習。
シナプスの可塑性を用いて、神経細胞同士の接合の強度を、生物の環境適応の度合いがより高い形へと、自発的に変化させること。
可塑性のある神経細胞と、可塑性の無い神経細胞との、両方が、同時に存在すること。
生徒の信号出力。教師の手本の信号出力。その差を、埋めるように、神経系を、再構築すること。
機械学習のような、バックプロパゲーションの、複数の細胞レベルでの実現。それは、現実の神経系の動きを、反映しない。それは、現実の神経系の動きを、再現する上では、後回しとなる。別の効果的な、神経系の学習方法を、考案することが、必要である。

////

神経細胞の社会的分業。神経系のシステム。
神経系内部における、神経細胞同士の社会的分業。それは、神経系のシステムである。それらは、以下のような内容である。

//

記憶。
神経細胞同士の、後天的に形成された結合。それらの保持。それらを、維持するかどうかを、コントロールする、神経細胞。そのコントロールのメカニズムを、実装すること。
短期記憶。一時的な記憶。
長期記憶。持続的な記憶。促進性の長期記憶。抑制性の長期記憶。
促進ニューロンによる、記憶内容の増強。
抑制ニューロンによる、記憶内容の抑圧。
あるエリアの神経細胞が機能しなくなると、記憶の機能が、神経系の全般において、失われること。

//

思考。
神経細胞が、ある場所から、別の場所へと、移動すること。
ある神経細胞から、別の神経細胞へと、ランダムに触手が伸びること。
それは、アメーバの移動と、同様である。
その結果。新たな、神経細胞同士の接合部が、次々に、試験的に形成されること。
それは、新規のアイデアの思いつきに、相当すること。それは、思考である。
それらのメカニズムを、実装すること。
相互結合の変動がある神経細胞と、相互結合の変動が無い神経細胞との、両方が、同時に存在すること。

中継。媒介。遠距離の連絡。
社会分業制の神経系システムにおいて、離れた場所の、別々の機能を担う、神経系同士を、中継し、連絡する、神経細胞。

//

感情。情動。
生物における、基本的な環境適応の行動。それらを司る、生命維持にとって、最も重要な、神経細胞。
それは、神経系における中心司令部の神経細胞である。
周辺部の神経細胞に対して、促進と抑制のコントロールを行う、神経細胞。

それらの活動。そのコントロールのメカニズムを、実装すること。

脅威への直面。
感情に基づく行動の促進。脅威に対する恐怖によって、行動面で、慌てて取り乱しながら、急速に動くこと。それは、女性的である。
感情に基づく行動の抑制。脅威に対する冷静な観察。それらに基づく、攻撃と防御。それらを、行うこと。それは、男性的である。
それらの両方を、別々の神経細胞によって、備えること。

//

生命の基盤。
生物における、基本的な生命維持に直結する行動。
衣食住の確保。水分や栄養分の、体内への摂取。体内の不要物の排泄。
それらの行動を司る、神経細胞。
それらは、神経系の、最も中心部に存在する。それらは、神経系の基本部分である。

////

プログラミングにおける、設計と実装の方針。
プログラムの実装は、生物にとって、最も重要な部分から、行うこと。それは、生物基盤の神経系の部分である。

神経細胞の活動を、コンピュータの複数のプロセスの集合体として、表現すること。
Pythonのプログラミングにおける、マルチプロセッシングの機能。
それらを、活用すること。
細胞活動を、複数の機能に分割して、捉えること。各機能に、プロセスを割り当てること。
マルチプロセッシングにおける、プロセス間のデータ通信。
キュー。PIPE。メモリ共有。
データ通信の相手を、試行錯誤的に新規に生成することが、可能であること。シナプスの新規生成が、可能であること。
PIPEは、キューの、上位互換である。

外部環境の取る値の設定。その値を、手動で変化させることを可能

にすること。
標準入力からのデータ読み込み。キーボード。マウス。
ファイル経由でのデータ書き込みと、受容器によるデータ読み込み。
Python向けのTkinterのソフトウェアを利用して、テキストボックスやボタンなどのGUIベースの画面を生成して、その画面から、外部環境を制御するデータの入力をすること。
外部環境自体を、プロセス化すること。外部環境の制御のためのGUIを、プロセスとして起動すること。

ダミーの受信数値発生送信器を、別途作成して、神経細胞の動作のデバッグに使う。

各プロセスは、いったん起動したら、全て、そのまま放置すること。
各プロセスは、自殺できるようにすること。栄養不足による、細胞の死亡。寿命を迎えることによる、細胞の死亡。それらを、再現可能にすること。
各プロセスは、後から、追加の形で、生成できるようにすること。生物の誕生後における、新たな、神経細胞の生成や、神経細胞の分裂。それらを、再現可能にすること。

（2022年2月初出。）

神経系への、機能の実装。

神経系への、機能の実装。
神経系への、生きやすさを向上させる働きの、実装。
神経系自身の生きやすさ。
その神経系の利用者の、生きやすさ。
それらの、神経系への、実装。
神経系への、有能性の、実装。
それらの実現が、必要である。

一般的な神経系プログラミングにおける、実装が必要な機能的要件の、リスト。
それは、以下の内容である。
例。
一般的な心理学教科書の、目次。
私の書籍における、生きやすさと機能主義との関連に関する項目内容の、目次。

（2022年6月初出。）

神経系プログラミング。その手法。

神経系プログラミングの手法。
生物の神経系における、生物自身の環境適応に必要な、入出力の、規定。
その入出力を得るために必要な、神経系の神経回路網のパターンや、神経細胞の発火条件の、規定。
それらにおける、最も基本的なパターン。
それらの割り出しを、最優先で行うこと。

環境変動への対応に必要な、神経系の神経回路の可塑性の、規定。
それらの神経回路における、機能分化と、分業制の進展。それらの、実現。
それらの神経回路における、回路集積化の進展。その、実現。
それらの神経回路における、体内時計の利用の進展。その、実現。

それらの神経回路の設計方法は、従来の論理回路の設計方法と、基本的には、同様である。
それらの神経回路のプログラミングは、従来の論理回路のプログラミングと、基本的には、同様である。
それらの神経回路のプログラミング言語仕様は、従来の論理回路のプログラミング言語仕様と、基本的には、同様である。例。VHDL. Verilog.
それらの間における、相違。生物神経系独自の特性。それらは、以下の内容である。

神経細胞が、常時、生き続けていること。
その回路の配線において、可塑性があること。
その回路の活動が、時計的には、厳密に決まらないこと。

その回路の活動が、論理的で無いこと。
神経細胞同士の結合は、0から1の間における、任意の変動する値を取ること。
それらの結合は、促進と抑制との２種類であること。
神経細胞の発火は、0か1か、であること。
その回路の活動は、その点では、論理的であること。

生物としての行動を、自発的に行うこと。
彼自身が生き続けるための環境適応行動を、自発的に行うこと。
それらは、研究者が、いったん、事前設定をして、動作を開始させたら、その後は、全自動で、自発的に、いつまでも、動き続けること。
研究者が、それらの動作を停止させるには、それらを殺す必要が、あること。
研究者が、それらの動作を停止させるには、それらの魂を抹消する必要が、あること。
研究者が、それらの動作を停止させるには、それらの電源を落とす必要が、あること。

（2022年6月初出。）

神経系プログラミング。その初期に決定すべき、内容。

神経系プログラムの開発。それは、以下の内容である。
ゲームプログラムの開発。
神経系プログラムの実行。それは、以下の内容である。
ゲームプログラムの実行。
そうしたゲーム。それは、以下の内容である。
神経系それ自身が、自発的に自動的に遂行する、ゲーム。
ゲーマーとしての研究者にとっては、環境状況の初期設定と、生物の神経系の神経回路の初期設定のみが、可能であること。
ゲーマーとしての研究者にとっては、神経系それ自身によるゲーム

の遂行自体には、介入が不可能であること。

生物が、彼自身の環境適応のために、解決すべき問題。
彼自身における、課題設定。その、適切性と不適切性。

外部環境や内部環境の、モデリングや配置。それらの初期設定。
生物の神経系の、神経回路網の、モデリングや配置。それらの初期設定。

そうした初期設定。
それは、以下の内容である。

外部環境。その分類。
無機環境。定住する無機物。移動する無機物。
有機環境。他の生物。定住する生物。移動する生物。

移動性。その分類。
受動的浮遊性と、能動的行動性。
液体性と気体性。

それらの存在の有無。

それらの存在位置。

それらの存在の資源性。
それらの存在の設備性。

それらの存在の新規性。

それらの存在の、同質性や異質性。
それらの存在の、仲間性や協和性や融和性や、脅威性やライバル性や非融和性。

それらの存在の、有益性や有害性。

それらの存在に対する、優位性や劣位性。
それらの存在に対する、有利性や不利性。
それらの存在に対する、勝利や敗北の、可能性。

それらの存在に対して、打倒や抹消を行う、可能性。
それらの存在から、打倒や抹消を受ける、可能性。

それらの存在に対する、交渉。その可能性。

それらの存在に対する、協力。その可能性。
それらの存在に対する、協働。その可能性。

それらの存在に対する、価値観の一致。その可能性。

それらの存在に対する、融合。その可能性。
それらの存在に対する、同調や調和。その可能性。

それらの存在に対する、信頼。その可能性。
それらの存在に対する、安心。その可能性。

それらの存在に対する、不安。その可能性。
それらの存在に対する、恐怖。その可能性。
それらの存在の、回避。その可能性。
それらの存在からの、逃亡。その可能性。
それらの存在からの、離脱。その可能性。

それらの存在への、強制を行う、可能性。
それらの存在から、強制を受ける、可能性。

それらの存在からの、資源の、受信や受容の可能性。
それらの存在からの、資源の、奪取や接収や徴収の、可能性。
それらの存在から、資源を朝貢される、可能性。
それらの存在から、資源を慈恵される、可能性。
それらの存在からの、資源の、買取の、可能性。

それらの存在への、資源の送信の可能性。
それらの存在への、資源の、譲渡の、可能性。
それらの存在へ、資源を朝貢する、可能性。
それらの存在へ、資源を慈恵する、可能性。
それらの存在への、資源の、販売の、可能性。

それらの有無。

それらの、判定や計算。

外部環境や内部環境についての、状況の検知。
資源の、充足性と不足性。
内部環境の良好性や健康性の、有無。
外部環境の、良好性や快適性や温室性の、有無。
生存上の問題の、存在や発生の、有無。
それらの検知行為の、試行や実行の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの検知行為の、成功と失敗。

外部環境や内部環境に対する、働きかけ。
生きやすさの獲得のための設備の、所有の有無。
働きかけの行為の、事前計算と、本番実行と、事後反省。
行為の実行に伴う環境変動の、事前予測と、実行中の測定と、事後評価。
行為実行中の、視野の、広さと狭さ。
行為実行中の、注意の、集中性と分散性。
行為実行中の、補助ツールの、用意や使用の、有無。
行為の実行に対する、フィードバックの有無。

生きやすさをもたらす資源。
それらの、外部環境からの獲得と、外部環境からの抹消。
それらの行為がもたらす、外部環境の改変。
それらの行為の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの行為の、成功と失敗。

生きやすさをもたらす、手持ちの資源。
それらについて、外部環境による、強制的な、アクセスや奪取や抹消を、受けること。
それらの行為がもたらす、外部環境の改変。
それらの行為の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの行為の、成功と失敗。

生きやすさをもたらす、手持ちの資源。
それらの、外部環境との交換。そのための、外部環境との交渉。
それらの行為がもたらす、外部環境の改変。
それらの行為の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの行為の、成功と失敗。

それらの結果。
生きやすさをもたらす資源の、内部環境への付与。
生きやすさをもたらす資源の、内部での消費。
生きやすさをもたらす資源の、内部での蓄積。
生きやすさをもたらす資源の、内部環境からの喪失。
それらの行為がもたらす、内部環境の改変。
それらの行為の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの行為の、成功と失敗。

生きやすさをもたらす資源の、内部での生産。
その行為がもたらす、内部環境の改変。
生産した資源の、外部環境への付与。
生産した資源の、外部環境との交換。
それらの行為がもたらす、外部環境の改変。
それらの行為の、開始と続行と中断と中止と完了。
それらの行為の、成功と失敗。

外部環境としての、他の無機物。
外部環境としての、他の生物。

それらの結果。
生存の存続の、有無。
生存の水準の、向上と下降。

（2022年6月初出。）

神経系プログラミング。その例題の設定。

彼自身の体内における、飢餓状態の、検知。
彼自身の、水分や食糧の、獲得活動。
失敗時の試行錯誤の活動。
目標達成についての、認識。成功についての認識。

外部伝達情報の、外部環境への、物理的な刻印。情報のエンコード。
外部伝達情報の、外部環境からの、神経系内部への取得。情報のデコード。
他の生物との間における、生きやすさの奪い合いにおける、勝利。
他の生物との間における、生きやすさの獲得の高度化のための、相互協力。
他の生物との間における、生きやすさの、相互交換。
他の生物との間における、相互離散と、相互融和。
神経回路網における、分業化と専業化の、実現。

問題解決のために必要な、入出力。

状況検知のための、感覚や知覚の、入力センサー。
検知した状況を、彼自身の生存にとって、より有利に変えること。そのための、運動出力デバイス。
得た入力値を、彼自身の生存にとって望ましい出力値へと変換すること。そのための、中間の回路網。
それらを取得した値の、加工や変換。そのための、単位回路モジュール。

単位回路において、必要な、計算機能を実現するための、関数モジュール。

神経細胞の本体。
促進と抑制との、値の大きさ。それらの、合算と集計。その結果の、発火閾値との、比較。
発火の実行。発火の不実行。
発火の伝達。

神経細胞同士の結合の部位。シナプス。
発火の促進。発火の抑制。それらの値の、送受信。

プロパティの値を保存するための、メモリ。
プロパティの値を変更可能にするための、可塑性。

体内時計。

上記の関数モジュールにおける、必要なプロパティ。

神経細胞の本体。
発火の閾値。
発火の伝達速度。発火の伝達距離。

神経細胞同士の結合の部位。シナプス。
相互結合の相手。入出力器。神経細胞。
相互結合の太さ。発火の促進と抑制の送信における、値の大きさ。

（2022年6月初出。）

（参考）論理回路における、関数モジュール。

それらは、以下の内容である。

論理和。論理積。
肯定。否定。
排他的論理和。一致。

組み合わせ回路。
その出力が、その時点の入力の合計のみで決まる、回路。

順序回路。
その出力が、その時点の入力の合計のみでは決まらない、回路。
その出力が、過去の入力についての記憶内容の影響を受ける、回路。
以下のデバイスを、内包する、回路。
内部状態の保存のための、内部メモリ。

フリップフロップ。
順序回路における、記憶素子。

同期式。非同期式。

セレクタ。択一入力器。
マルチプレクサ。択一出力器。

混合器。
分配器。

カウンタ。加算器。
シフトレジスタ。桁の変更器。

（2022年6月初出。）

神経系のプログラミング。その開発における、適格者。

気体的思想の所有者は、分析は得意だが、結合や融合は、不得意である。
液体的思想の所有者は、結合や融合は得意だが、分析は、不得意である。
神経系。それは、神経細胞同士の、融通が効いた結合によって、動く。
神経系のシミュレーション。
ニューロコンピュータのプログラミング。
それらの完成の実現は、液体的思想の所有者の方が、気体的思想の所有者よりも、得意である。
それらの完成の実現は、女性の方が、男性よりも、得意である。

（2022年6月初出。）

神経系のシミュレーション言語。

神経系のシミュレーション。
そのための専用言語の開発。
それは、インタープリタの開発時の、エラーメッセージの記述などに、無駄に時間を取られてしまう。
それは、開発における時間の有効利用において、大きく劣る。

神経系のシミュレーション。
それは、既存の、プログラミング言語やスクリプト言語における、ライブラリの拡充によって、実現すべきである。
例。
pythonのクラスライブラリの形で、開発する方法。
pythonの辞書による、神経細胞の発火条件と、神経細胞同士の結合条件と、神経細胞同士の結合リストの、記述。

（2022年6月初出。）

神経系シミュレーション。その、マルチプロセッシングによる、実現。

神経系シミュレーション。その、高級プログラミング言語による、実現。

コンピュータプログラミングにおける、マルチプロセッシング機能の利用による、神経回路網のシミュレーション。
複数のプロセスの並行動作による、複数の神経細胞の並行動作のシミュレーション。

例。Python.
プロセスは、全て、mainルーチンで登録すること。
そうしたやり方しか、存在しないこと。

一つの神経細胞において、３つのサブプロセスが、必要である。それらは、以下の内容である。

神経伝達物質の集計。神経細胞自身の、発火。神経伝達物質の、特定の後細胞への伝達。

それぞれのプロセスは、for文で、連続登録するしか無い。

各々の神経細胞のプロパティの設定はどうするか？その方法は、以下の内容である。

その値を、事前に、外部ファイルなどで、設定すること。
そのデータを、自動で、辞書に読み込むこと。
その内容を、プロセス登録時に、各々のプロセスに対して、反映させること。
そうしたやり方しか、存在しないこと。

神経細胞とシナプスのプロパティは、全て、神経細胞単位で、管理すること。
シナプスの別扱いは、一切しないこと。
そうすることで、神経細胞のトータルな統合把握を、行うことができるようにすること。

シナプスの後細胞は、前細胞を、誘引する。
シナプスの後細胞は、前細胞に対する、選択と拒絶の行為は、特に行わない。
シナプス。
それは、以下のプロパティの数値の内容が決まることで、十分な働きを得ることが出来る。

前細胞における、選択した後細胞のid。
前細胞が、後細胞に対して送信する、伝達物質の分量。

そうした選択や送信の行為は、前細胞から後細胞への一方通行となる。
そうしたプロパティは、前細胞の側でのみ、管理すること。
それで、十分良い。

前細胞は、送信クライアントであり、後細胞は、受信サーバーである。

後細胞は、以下の行為を、ひたすら実行すること。

複数の不特定の前細胞から送られて来る神経伝達物質。それらの、総量。
そうした総量を、前細胞の区別を一切行わず、ひたすら合計すること。

それで、十分良い。

（2022年6月初出。）

神経回路網の配線。それらの、設計とデバッグの、容易化。路線バスの路線系統図の転用。

神経回路網の配線を、簡単に設計し、実際の動作をデバッグ出来る、環境の整備。
それらが、文字列のみで実現できること。それが、一番、簡単で、望ましい。
その実現のためには、以下の内容を、参考にすることが、望ましい。
交通や運輸の分野における、路線バスの、路線系統図。

系統名か、系統番号で、神経回路を、管理すること。

バスの路線系統が、神経回路の発火経路の系統に、対応する。
バス停留所名が、神経細胞名に、対応する。
バスの路線系統における、運転本数や運転頻度。それらが、神経回路の発火頻度に、対応する。

神経回路の系統は、発火の伝達経路の重複を、許可する。
神経回路の系統は、発火の伝達経路の循環を、許可する。

神経回路の総合的な運転本数は、各神経回路の系統の運転本数の、合計か、最大値である。
複数の神経細胞の間における、接続の太さ。それは、バス路線の停

留所間における、運転頻度の高さに、対応する。

好みの発火経路で、好みの経路の長さで、好みの発火頻度で、神経回路の系統を、設定できるようにすること。

神経回路の系統は、複数の神経細胞の名称の、一次元配列として、表現可能である。

例。python.
系統1 ＝ ['細胞１','細胞２','細胞３','細胞４']

配列の要素の並びの順番に合わせて、各要素に相当する名前の神経細胞が、順次、発火すること。

（2022年6月初出。）

神経系の動きの基盤をなす、生物の根源的な行動。

神経系の動きの基盤をなす、生物の根源的な行動。
それらは、以下の内容である。

水分の摂取。酸素の摂取。栄養分の摂取。エネルギーの摂取。
情報の取得。
体温の保持。
生殖。子孫の養育。
権益の取得。権益の、保持や防衛や奪取。
脅威の抹消。

（2022年6月初出。）

神経系における、神経回路以外の表現の、必要性。

神経系における、神経回路表現において。
生理的基盤の充足についての、神経系以外の器官についての表現が、基盤として必要であること。

環境の状態についての表現が、そのエリア毎に、必要であること。

資源。その有無と、蓄積の度合い。
例。水分。酸素。栄養分。情報。

気候。その、快適さや苛酷さの、度合い。
例。温度。湿度。日照。それらの、高さと低さ。

生物による、環境の改変。それについての表現が、必要であること。

出力器官による作動。その成功と失敗。
その結果、発生する、環境の改変。
それにより、環境が取る、新たな値。

環境。
外部環境。内部環境。
それぞれについての表現が必要であること。

（2022年6月初出。）

神経回路の設計図。その凡例。

神経細胞。

（１）
細胞における、神経伝達物質の、受信部分。

大きな丸印。

（２）
細胞の種類。

促進タイプ。プラス印。
抑制タイプ。マイナス印。

（３）
細胞の発火能力。

その程度が弱いこと。点線。低い数値。
その程度が中程度なこと。細線。中程度の数値。
その程度が強いこと。太線。高い数値。
その程度がとても強いこと。二重線。とても高い数値。

（４）
細胞における、神経伝達物質の、送信部分。

直線。分岐があること。後細胞の受信部分との、リンクの確立。

（５）
細胞における、神経伝達物質の送信能力。それは、結局は、細胞の発火能力の、一部分である。

その程度が弱いこと。点線。低い数値。
その程度が中程度なこと。細線。中程度の数値。
その程度が強いこと。太線。高い数値。
その程度がとても強いこと。二重線。とても高い数値。

（６）
細胞間のシナプスにおける、神経伝達物質の通行能力。通行量の多さ。通行の頻繁さ。通行の安定性。

その程度が弱いこと。点線。低い数値。

その程度が中程度なこと。細線。中程度の数値。
その程度が強いこと。太線。高い数値。
その程度がとても強いこと。二重線。とても高い数値。

（ 7 ）
細胞における、可塑性や固定性。

細胞自身の発火能力における、可塑性。
それが、有ること。C印。
それが、無いこと。無印。

細胞同士の結合における、可塑性。
それが、有ること。C印。
それが、無いこと。無印。

（ 8 ）
細胞における、記憶性や揮発性。

細胞自身の発火能力における、記憶性。
それが、有ること。M印。
それが、無いこと。無印。

細胞同士の結合における、記憶性。
それが、有ること。M印。
それが、無いこと。無印。

（2022年6月初出。）

神経系における、環境との入出力。その設計。

（Ａ）
神経細胞。神経回路。発火の伝達における、メインストリーム。
入力値。出力値。

アナログ値。デジタル値。

単一の値。複数の値。

混合無しの値。混合有りの値。
分配無しの値。分配有りの値。

条件無しの値。条件有りの値。
分岐無しの値。分岐有りの値。

記憶無しの値。記憶有りの値。

固定された値。可塑する値。

（Ｂ）
入力器官。出力器官。

（Ｂ－１）
入力器官。

（Ｂ－１－１）
物資の取得。物理的な資源の取得。
口腔による、水分や栄養分の、取得。
他の生物との物流における、受け取り。

（Ｂ－１－２）
情報の取得。情報的な資源の取得。
感覚器官による、感覚入力の取得。五感。
他の生物との通信における、受信。

（Ｂ－２）
出力器官。

（Ｂ－２－１）

位置の変更。移動。向きの変更。

（Ｂ－２－２）
環境の改変。
設備や道具。それらの使用。それらの操縦や制御。
それらは、以下の内容である。
--
減らすこと。削減。削除。抹消。
増やすこと。創出。増殖。排出。
変えること。加工。掘削。変形。切り裂き。刻印。
送ること。送信。送出。渡し。
受けること。受信。受容。受け取り。
運ぶこと。動かすこと。運搬。運輸。配送。配達。物資の流通。情報の流通。
--

（Ｃ）
貯蔵器官。記憶器官。
貯蔵の場所。記憶の場所。
既得権益。それらの貯蔵や記憶や蓄積。それらの場所の、確保や保持や占有や防衛。
例。
縄張り。プライバシー。私有権。

物資の、貯蔵や記憶や蓄積。取得した物資の蓄積。生産した物資の蓄積。それらの既得権益化。
情報の、貯蔵や記憶や蓄積。取得した情報の、記憶や蓄積。生産した情報の記憶や蓄積。それらの既得権益化。

（Ｄ）
調節器官。思考器官。試行錯誤の器官。学習器官。

可塑性を所有する、神経回路。
そうした神経回路における、結線や配線の、調節。
そうした神経回路における、結線や配線の、新規の創出。
そうした神経回路における、不要な、結線や配線の、無効化。

そうした神経回路における、有用な、結線や配線の、強化。
そうした神経回路における、有害な、結線や配線の、活用禁止。

そうした仕組みは、神経系それ自体では無く、その生理的基盤の部分に内蔵されている場合も、想定可能なこと。

（Ｅ）
環境。

外部環境。体外環境。
内部環境。体内環境。

物資の環境。
情報の環境。

それらの、生物の生存における、条件。
資源。その有無や蓄積の、度合い。
気候。その快適さや苛酷さの、度合い。

（2022年6月初出。）

神経回路の学習機能の設計における、注意事項。

神経回路の学習機能において。

神経細胞の発火能力の増大。シナプスにおける神経伝達物質の通過能力の増大。それら両者を、分けて考える必要があること。
それぞれの、初期値や、現状の値や、理想の値。
それらの値を、設計図の凡例において、図上に、パラメータ数値として記載可能にすること。
それぞれの値を、リアルタイムで、データとして取得し記録すること。それを、実際のプログラムにおいて、可能にすること。

シナプスにおける神経伝達物質の通過能力の増大。
シナプスの肥大。
それは、以下の内容である。
繰り返し、信号が繰り返し通ることにより、信号の通路の幅がより拡大し、通路の安定性や品質も向上すること。
そうした状態改善の記憶が、後細胞のシナプス部に局在する特定の化学物質の存在によって、局所的に行われること。

（2022年6月初出。）

神経回路における、入出力の自動調節の、必要性。

神経回路において、正しい入出力を得ること。
そのためには、単に、入出力の値を決定するだけでは、駄目であること。
そのためには、細胞の発火性能と、シナプス伝達性能を、上手く調節する必要があること。
最初から、手動で、その調節値を得ることは、困難であること。設計図を手動で描画しても、そのままでは上手く動かないこと。自動調節や自動学習が、必要であること。

教師無しで、自力で、試行錯誤によって正解にたどり着くこと。
教師に対する模倣を実行すること。
上記の内容の、いずれかの実現が、必要であること。

試行結果が成功か失敗かのフィードバックは、いずれの場合においても、その都度、必要であること。
教師無しの自己判断によるフィードバックと、教師によるフィードバックとを、別々に、両方共に、考えること。
教師に対する態度が、気体的か、液体的か、についての区別が必要であること。

成功か失敗かの判断には、個別の、その時々で異なる、教師の出現に相当するイベント発生が起きること。

フィードバック。神経系に対して、行動の結果、環境に起きた変化の全般を、知らせる仕組み。
教師。フィードバックにおける、特定の一種。神経系に対して、行動の結果が、成功か失敗かを、知らせる仕組み。行動の結果を、成功に導くための、手本や模範。その、全て。
教師の教えに気付く場合と、気付かずに暴走を続ける場合とが、両方、存在すること。
そうした仕組みが、神経系に、別途、内蔵されていること。
現代の人工知能における、深層学習の仕組み。その内容を、予め、参考にする必要があること。
深層学習。
それは、現状では、誤差逆伝搬（バックプロパゲーション）の手法に、依存していること。
それは、シナプスの伝達性能を、一つずつ、最適値になるように、繰り返し調節していること。
その調節のために、特定の数式を利用して、以下の技術を利用していること。
値の曲線における、底値の最適値。それを、自動的に検知する、技術。
その手法の内容は、現実の神経系における学習の実態とは、かなり、かけ離れていること。

成功。事前に思い描いていた理想と、事後の現実との、差分が無いこと。
失敗。事前に思い描いていた理想と、事後の現実との、マイナスの差分があること。
予想外の、別の成功。事前に思い描いていた理想と、事後の現実との、プラスの差分があること。

（2022年6月初出。）

神経回路における、入出力の自動調節。神経回路における、必要な、構成要素。

神経回路において、正しい入出力を得ること。そのために必要な、神経回路における、構成要素。

内部環境からの、資源不足に陥っている現状についての、報告や警告と、現状打破の行動を生起させるための、突き上げ。内部環境からの出力としての、-1の値の、神経回路の入力としての、取得。

意思。現状打破の行動を生起させるための、動機付け。起点となる神経細胞の発火への、動機付け。

意図。行動を起こしたことで、こうした結果を得たいという、予期や期待や理想。例。1の入力を、得たいこと。
意図の記憶。意図した予期内容の、神経回路内部における、貯蔵や記憶。例。1の入力を、得たいこと。そうした意図。
そのための、具体的な、初期の回路設計。

（１）
前例無しの場合。

初期の発火と、初期の出力。例。1を出力。

出力した内容の、神経回路内部における、貯蔵や記憶。例。1の出力を、行ったこと。
出力後、新たに得られた入力の取得。例。0の新たな入力の、新たな取得。
新たに得られた入力値の記憶。例。0の新たな入力を得たこと。その記憶。

照合。当初の意図内容と、得られた結果内容との、照合。意図した獲得入力。1。行動結果として取得した入力。0。
判定。
成功。意図通りの、良い結果が得られた場合。意図しない、良い結果が得られた場合。快感を得ること。安心すること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、強化すること。そのまま、その実行結果の神経回路を、保存し、増強すること。
失敗。良い結果が得られなかった場合。不快感を得ること。危機感を覚えること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、使用中止とすること。その実行結果の神経回路を、別の出力値を取るように、変更すること。
結果が、失敗に終わったことを、受容すること。内部環境からの、現状打破への突き上げの持続を、検知すること。

思考。試行錯誤。戦略立案。調節。
戦略リストの、自発的な導出。それらの内容の、神経回路内部における、記憶。
新たに取る値。その決定。そのことで、新たな、有効な変化が起きるかも知れないことを、期待すること。
動作内容が、一次元の場合。一次元の戦略。最も基本的な戦略。
それは、以下の内容である。

慣性的出力。反復同一出力。1。繰り返し、前回と同一内容の反復出力を行うこと。繰り返しの同一打鍵により、徐々に、状況を打開すること。
無出力。0。出力値を、無しに変更すること。趣向を変えて、何も出力しないことで、却って、状況を打開すること。
反転出力。-1。出力値を、プラスマイナスを正反対に変更すること。趣向を変えて、出力を正反対にすることで、一気に、状況を打開すること。

出力の促進。出力の増強。アクセル。2。出力値を、増強する方向へと変更すること。趣向を変えて、出力を増やすことで、より効果的に、状況を打開すること。
出力の抑制。出力の低減。ブレーキ。0.5。出力値を、低減する方向へと変更すること。趣向を変えて、出力を減らすことで、適正な出力の調整を得て、状況を打開すること。

どの戦略を選択したかについての、選択肢の記憶。
回路の実際の変更。回路のスイッチング。
新たな値を出力するために、自発的に、回路の付け替えや、追加や、無効化や、現状維持や、低減や、増強を、行うこと。
そのための、具体的な、新たな回路設計。

次回の発火と、次回の出力。例。-1を出力。

出力した内容の、神経回路内部における、貯蔵や記憶。例。-1の出力を、行ったこと。
出力後、新たに得られた入力の取得。例。1の新たな入力の、新たな取得。
新たに得られた入力値の記憶。例。1の新たな入力を得たこと。そ

の記憶。

照合。当初の意図内容と、得られた結果内容との、照合。意図した獲得入力。1。行動結果として取得した入力。1。
判定。
成功。意図通りの、良い結果が得られた場合。意図しない、良い結果が得られた場合。快感を得ること。安心すること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、強化すること。そのまま、その実行結果の神経回路を、保存し、増強すること。そうした、神経系の行動を、成功へと導く、神経回路のパターン。それは、前例である。
失敗。良い結果が得られなかった場合。不快感を得ること。危機感を覚えること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、使用中止とすること。その実行結果の神経回路を、別の出力値を取るように、変更すること。
結果が、成功に終わったことを、受容すること。そのことによる、内部環境からの、現状打破への突き上げの停止を、検知すること。選択した戦略を、思考において、今後、優先すること。

最初の、初心者としての、設計。
上記の時系列行動を、最低限の数の、神経細胞を用いて、一通り、実現すること。
最初は、手動で、順を追って、回路を修正すること。各段階における、必要な神経回路構成を、一通り、確定すること。
次に、そうした各段階を通しての、自動での回路修正を、神経回路内部で、自力で、可能にすること。

（２）
前例有りの場合。

教師。前例の所有者。前例の供給者。
例。
親。彼らは、彼らの子供に対して、生存維持に必要な行動様式を、教える。

生徒。前例の借用者。前例の受容者。
例。
子供。彼らは、彼らの親から、生存維持に必要な行動様式を、教えてもらう。

前例の模倣。前例の踏襲。
その、神経回路による、実現。

教師信号。
その内容は、教師の文化的子孫である。

学習。
教師からの、教師信号の送信。
生徒による、教師信号の受信。
そうした、教師信号のシーケンス。
生徒が、その内容を、彼自身の神経回路内部へと、新たに、コピーすること。
生徒が、そのコピーした回路を、自発的に、発火させること。
その出力結果に対して。
成功か失敗かの、判定と、フィードバック。
教師が、それらの内容を、生徒に、与えること。
フィードバック。それが、生徒に与える影響。
成功。意図通りの、良い結果が得られた場合。意図しない、良い結果が得られた場合。快感を得ること。安心すること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、強化すること。そのまま、その実行結果の神経回路を、保存し、増強すること。
失敗。良い結果が得られなかった場合。不快感を得ること。危機感を覚えること。そうした感覚の記憶を行うこと。その結果を導き出した思考回路を、使用中止とすること。その実行結果の神経回路を、教えられた出力値を取るように、更に変更すること。
それらは、いずれも、学習である。

成功した場合。
結果が、成功に終わったことを、受容すること。教師からの、更なる学習の停止の指示を、検知すること。
学習した成功戦略を、思考において、今後、優先すること。

前例の模倣。前例の踏襲。
その、神経回路による、実現。
それは、以下の内容である。
ある神経系から、別の神経系への、神経回路のコピー。そのメカニズム。

（2022年6月初出。）

ある神経系から、別の神経系への、神経回路のコピー。そのメカニズムの設計。

ある神経系から、別の神経系への、神経回路のコピー。
それは、以下の内容である。

（１）
遺伝的なコピー。
他の生物から、それらの区別についての参考情報を、前例として、遺伝的に取得し、子孫代々にわたって、継承すること。例。脅威の回避に関する、遺伝的に固定された、神経回路。その、親から子供への、遺伝的な継承。

（２）
後天的なコピー。文化的なコピー。
それは、以下の内容である。

（２－１）
出力器官のコントロールの成否が絡まない、神経回路のコピー。中間の神経細胞同士の結合のみが絡む、神経回路のコピー。それらは、実現が容易である。

例。
教師が、生徒に対して、入力刺激1と、入力刺激2とを、同時に、見せること。
教師が、生徒に対して、入力刺激1と、入力刺激2とを、時系列において、一つずつ、連続的に、見せること。
そのことにより、生徒の心理において、両者の入力刺激の間に、概念における結合が、生じること。

具体例。
古典的条件付け。 Иван Петрович Павлов.
教師が、生徒に対して、生得的な入力刺激1と、後天的な入力刺激2とを、同時に、見せること。

教師が、生徒に対して、生得的な入力刺激1と、後天的な入力刺激2とを、時系列において、一つずつ、連続的に、見せること。
そのことにより、生徒の心理において、両者の入力刺激の間に、概念における結合が、生じること。

具体例。
深層学習。
教師が、生徒に対して、画像1と、画像2とを、同時に、見せること。
教師が、生徒に対して、画像1と、画像2とを、時系列において、一つずつ、連続的に、見せること。
そのことにより、生徒の心理において、両者の画像の間に、概念における結合が、生じること。

（２－２）
出力器官のコントロールの成否が絡む、神経回路のコピー。それは、実現が困難である。それは、実現において、高度な神経回路を、必要とする。

例。
子供による、親に対する、観察学習。
その発生の、前提。
子供による、親に対する、刷り込み。 K. Lorenz.
生徒が、予め、適切な入出力を行う回路を、心の中に、何も確定していないこと。
入力1に対して、出力1を、順次、実行すること。そのことで、失敗すること。それらの内容を、教師が、生徒に対して、教示すること。
入力1に対して、出力2を、順次、実行すること。そのことで、成功すること。それらの内容を、教師が、生徒に対して、教示すること。
それらの教示内容を、生徒が、受信すること。
そのことにより、生徒の心理において、以下の結合が、生じること。
入力1と出力1との結合の、抑制や中止。
入力1と出力2との結合の、促進。
生徒が、入力1に対して、出力2を、順次、行うこと。そのことで、生徒が、最終的に、成功すること。それを、生徒自身が、確認する

こと。
そのことで、生徒が、以下のことを、行うこと。
入力1と、出力2との結合の、学習の強化。
入力1と、出力2との結合の、前例化。
実現するための、課題。
教師の神経回路が、生徒の神経回路に対して、必要な教示を行うこと。その実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。
生徒が、予め、教師の教示に対して、素直に従うこと。教師が、生徒から、予め、信頼されること。それらの実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。
教師と、生徒との、信頼関係の構築が、生徒の誕生直後から、もう、既に、開始されていること。例。最初期からの養育や教育の持続を前提としている、親子関係の、構築。それらの実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。

例。
オペラント条件付け。 B.F. Skinner.
生徒が、予め、適切な入出力を行う回路を、心の中に、何も確定していないこと。
生徒が、試しに、入力1に対して、出力1を、順次、実行すること。その結果。教師が、生徒に対して、失敗の結果を、強制的に与えること。例。罰を与えること。
生徒が、試しに、入力1に対して、出力2を、順次、実行すること。その結果。教師が、生徒に対して、成功の結果を、強制的に与えること。例。褒美を与えること。
そのことにより、生徒の心理において、以下の結合が、生じること。
入力1と出力1との結合の、抑制や中止。
入力1と出力2との結合の、促進。
生徒が、入力1に対して、出力2を、順次、行うこと。そのことで、生徒が、最終的に、成功すること。それを、生徒自身が、確認すること。
そのことで、生徒が、以下のことを、行うこと。
入力1と、出力2との結合の、学習の強化。
入力1と、出力2との結合の、前例化。
実現するための、課題。
教師の神経回路が、生徒の神経回路に対して、臨機応変に、成功や失敗の結果を、提示し、強制すること。その実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。

例。
自主的な学習。自律的な学習。
生徒が、予め、適切な入出力を行う回路を、心の中に、何も確定していないこと。
教師が、生徒に対して、望ましい入出力内容の候補を、予め、いくつか、参考情報として、参照可能な形で、提供しておくこと。
生徒が、試しに、入力1に対して、出力1を、順次、自発的に、実行すること。その結果。生徒が、失敗すること。生徒が、そのことに、自力で、自発的に、気付くこと。
生徒が、試しに、入力1に対して、出力2を、順次、自発的に、実行すること。その結果。生徒が、成功すること。生徒が、そのことに、自力で、自発的に、気付くこと。
そのことにより、生徒の心理において、以下の結合が、生じること。
入力1と出力1との結合の、抑制や中止。
入力1と出力2との結合の、促進。
生徒が、入力1に対して、出力2を、順次、行うこと。そのことで、生徒が、最終的に、成功すること。それを、生徒自身が、確認すること。
そのことで、生徒が、以下のことを、行うこと。
入力1と、出力2との結合の、学習の強化。
入力1と、出力2との結合の、前例化。
実現するための、課題。
生徒の神経回路が、教師が予め提供した参考情報を、自力で参照すること。その実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。
生徒の神経回路が、結果における、成功や失敗を、自力で認識すること。その実現に必要な、回路設計。その、事前の決定。

（2022年6月初出。）

生物の神経系における、反転出力を行う能力の、欠如。

神経細胞に、促進タイプと、抑制タイプしか、存在しない場合。
神経系は、反転出力を行う能力を、そのままでは、持つことが出来ない。

例。
生物の神経系。

類似の例。
アクセルとブレーキしか無い自動車。そうした自動車は、バックをすることが、出来ない。そうした自動車は、前進と停止しか、出来ない。

生物の神経系は、反転や後退の出力が、基本的に、出来ない。生物は、そのままでは、前進と停止しか、出来ない。生物の視覚は、一方のみに向いていて、反対側を見ることが、出来ない。
生物における、反転や後退の、行動。それは、実際には、前進と回転や転回の、組み合わせである。

神経系が、反転出力を行う能力を持つために、必要なこと。
それは、以下の内容である。
神経細胞が、促進タイプと、抑制タイプから、構成されること。そうした、従来の考え。それを、捨てること。
その代わりに、以下の考えを、新たに導入すること。
神経細胞が、プラスタイプと、マイナスタイプから、構成されること。
神経細胞が、加算タイプと、減算タイプから、構成されること。
神経回路が、マイナス値を、自力で算出することが出来ること。

（2022年6月初出。）

神経系における、敵と味方との区別。そのメカニズムの設計。

外部環境における、存在。
それらは、以下のように、分類される。

脅威。敵。生存維持の行動を、失敗させる存在。
味方。生存維持の行動を、成功させる存在。

第三者。傍観者。生存維持の行動に対して、何も介入しない存在。

それらは、以下のように、分類される。

無機物。
他の生物。

単独の存在。
集合や集団や組織としての存在。
集合。バラバラな存在の、寄せ集め。
集団。それらの存在の間に、相互作用や、まとまりが、存在すること。
組織。それらが、集団行動において、明確な方向性を、持つこと。

それらの区別を、神経系の単体で、一通り、行うこと。
それらの区別を、神経回路の設計によって、一通り、可能にすること。
その、実現の方法。
それは、以下の内容である。

他の生物から、それらの区別についての参考情報を、前例として、取得し、蓄積すること。例。脅威の回避に関する、遺伝的に固定された、神経回路。その、親から子供への、遺伝的な継承。

それらの区別についての、自力での、試行錯誤の経験を、積み重ねること。そのことによって、それらの区別についての前例を、自律的に、後天的に、蓄積すること。

（2022年6月初出。）

神経回路のプログラミング。その最初期段階の、実現。

生物の神経系。神経回路。それらの、高級プログラミング言語によ

る、実現。
それは、以下の内容である。
高級プログラミング言語における、マルチプロセッシング機能の活用。
終わることの無い、それぞれのマルチプロセス。それらの間の交信の、持続的な自動発生。それらの、実装。
それは、以下の内容である。
無限ループを内蔵する、それぞれのマルチプロセス。それらの間の交信の、持続的な自動発生。それらの、実装。

神経回路のプログラミング。その最初期段階。
それは、次の方法で行くことが、望ましい。
構成要素。
入力用の環境変数。入力器官の感覚細胞。介在する神経細胞。出力器官の運動細胞。出力用の環境変数。

研究者が、最初の一回のみ、設定できる対象。各細胞の動作。
研究者が、その都度、設定変更できる対象。環境変数のみ。
現状の各細胞のパラメータ数値を、任意のタイミングで、外部へと取得し保存すること。その実現が必要であること。

（１）
環境変数。入力用。
それらは、以下の内容である。
配列の数値。

（２）
入力細胞。
それは、以下の内容である。
一定の間隔で、スリープすること。スリープから目覚めた時点で、予め指定した環境変数の数値を、その都度、新たに取得すること。その数値を、キューの形で、神経細胞に、送信すること。送信後、その数値を、その都度、クリアすること。

（３）
神経細胞。
それは、以下の内容である。

神経伝達物質の集計部。発火判定と発火部。発火の結果の送信部。
体内時計のタイマー。

集計において。
プログラミングにおいて、以下の２つの方法の、いずれかを、採用すること。
--
（３－１）
別プロセスを利用する方法。
予め、別プロセスの、体内時計に相当するタイマーを利用して、集計の時間帯を区切ること。
その別プロセスにおいて、スリープ処理と、計測完了イベントの発生処理を、実現すること。
そうして区切った時間帯の間に集まった、神経伝達物質の総量を、時間帯毎に、合計すること。
キューの中身を、全て取り出して、集計すること。
その合計値が、一定以上であれば、発火すること。
神経伝達物質の集積は、時間帯毎に、クリアすること。
神経伝達物質の集積は、発火の後に、クリアすること。
それらの、キューの読み出し完了処理による、実現。
キューの中身は、全て取り出した時点において、自動的に、空になり、初期化されること。
（３－２）
スリープタイマーを利用する方法。
一定の間隔で、スリープすること。
スリープから目覚めた時点で、キューの中身を、全て取り出して、集計すること。
その集計の結果が、発火に必要な閾値を超えたら、発火すること。
キューの中身は、全て取り出した時点において、自動的に、空になり、初期化されること。
--

その後。
発火によって、後細胞に、キューの形式で、数値を、送信すること。キューにおいては、後細胞のIDを、指定すること。

（４）
出力細胞。
それは、以下の内容である。
神経細胞から受信した数値を、その都度、新たに取得すること。その数値を、予め指定した環境変数に、その都度、新たに書き込むこと。

（５）
環境変数。出力用。
それらは、以下の内容である。
配列の数値。

（2022年7月初出。）

神経系における、学習と忘却。それらの、プログラミングによる、実現。

神経系における、学習と忘却。
それは、以下の内容である。

ある前細胞における、後細胞へと送信する数値の、全体的な、合計値。
その送信の流れの増減を、その時々において、蓄積すること。
その値が増えた場合。送信する数値を、増やすこと。
その値が、減るか、ゼロが続いた場合。送信する数値を、減らすこと。
そうした前細胞。神経細胞と、出力細胞。

そうした挙動は、以下の関係と、同様である。
移動距離と、速度と、加速度との、関係。
流量と、流速と、流れの加速度との、関係。

速度は、時間当たりの、移動距離である。
加速度は、時間当たりの、速度である。

流速は、時間当たりの、流量である。
流れの加速度は、時間当たりの、流速である。

流れが、恒常的に、自動発生し続ける、流体。
そうした流体において。
流れの加速度の効果が、流量や流速に対して、自動的に、加算されること。
流れの幅の、その時々の流量に合わせた、自動的な、拡大や縮小が、起きること。
それらの挙動の、自動計算。

そうした動きの、神経回路内部の、前細胞における、再現。
前細胞において。
単位時間当たりの、複数回の発火がもたらす、神経伝達物質の発生量。
その、発生速度と、発生加速度を、計算すること。
その発生加速度の値を、発生量に、その都度、加算すること。

それは、以下の内容である。
神経伝達物質の流量の学習。

短期記憶と、長期記憶。それらを、区別した形で、再現すること。

神経伝達物質の流量の学習。その結果における、持続性。
その持続性が短い場合。短期記憶。
その持続性が長い場合。長期記憶。

神経伝達物質の流量。その計測に用いる、単位時間。
その長さが、とても短い場合。短期記憶。
その長さが、十分に長い場合。長期記憶。
上記の２つを、神経細胞における、神経伝達物質の流量の学習部分に対して、同時並行的に、両方とも、実装すること。

神経伝達物質の流量。
その単位時間毎の、計測。
その計測に用いる、単位時間そのものの、計測。
その実現に必要な、タイマー。短期のタイマー。長期のタイマー。
それらの、プログラミングによる、実現。
それは、以下の内容である。
別プロセスを利用する方法。
予め、別プロセスの、体内時計に相当するタイマーを利用して、計測の時間帯を区切ること。その別プロセスにおいて、スリープ処理

と、計測完了イベントの発生処理を、実現すること。
その、区切った時間帯の間に集まった、神経伝達物質の総量を、時間帯毎に、合計すること。
合計値の加速度に応じて、神経伝達物質の流量の学習を行うこと。
合計値の加速度の値を、神経伝達物質の流量に対して、その都度、加算すること。それは、その加算値のキューへの追加によって、実現すること。
その加算後の値を、新たな神経伝達物質の流量の値として、新たに設定すること。
そうした、タイマー処理や、集計処理や、加算処理を、短期と長期の 2 種類について、同時並行で、実施すること。
長期記憶の場合。
長期にわたる、集計処理や、加算処理。それらを、集計対象の時間帯を、少しずつずらしながら、行うこと。それらを、短期間毎に、多数回にわたって、漸進的に、行うこと。
発火毎の、神経伝達物質の流量の、値。それらの値の配列において、末尾に新規の値を追加すると共に、先頭の値を削除すること。
その配列内部の値を、その都度、全て、合計すること。
そうした合計値の加速度を、その都度、算出すること。その値を、神経伝達物質の流量の値へと、その都度、加算すること。それは、その加算値のキューへの追加によって、実現すること。

別プロセスを利用する場合。神経細胞内部における、スリープ処理。そうした処理は、正確な時間計測の妨げになるため、全面的に、採用不可能であること。

神経系における、学習と忘却。
それは、以下の内容を、含む。

必要な刺激の不足時における対応。入力に対する感受性の、増強。その、自発的で、自動的な、実現。入力に対する出力を、増強すること。
必要な刺激の過剰時における対応。入力に対する感受性の、低減。その、自発的で、自動的な、実現。入力に対する出力を、低減すること。

刺激に対する慣れの発生。入力に対する出力が、安定化すること。
刺激に対する馴れの発生。刺激に対して、満足し過ぎて、飽きること。その結果、発火による出力が、減退すること。入力に対する出

力が、減退すること。

神経系における、学習と忘却。
それは、結局は、以下の内容である。

神経細胞の、鍛錬と減衰。

神経細胞の鍛錬。
それは、以下の内容である。
発火の感受性の、増強。発火の閾値を、下げること。
発火の頻度の、増強。タイマー間隔を、短くすること。
神経伝達物質の送信における、伝達量の増強。発火により、送信する値の、増強。

神経細胞の減衰。
それは、以下の内容である。
発火の感受性の、低減。発火の閾値を、上げること。
発火の頻度の、低減。タイマー間隔を、長くすること。
神経伝達物質の送信における、伝達量の低減。発火により、送信する値の、低減。

上記の内容の、python言語による、サンプルコード。
ソースコード_1

神経系における、慣れ。
それは、以下の内容である。

生物の生存維持に直結する、入力刺激。その刺激に対する慣れや飽き。それらは、生じにくい。
生物の生存維持に直結しない、入力刺激。その刺激に対する慣れや飽き。それらは、生じやすい。
それらの実現には、以下の内容が、必要である。
ある入力刺激が、生物の生存維持に直結する度合い。その判定の機構。その、神経系内部における、実装。
それは、以下の内容である。
情動。快感。不快感。それらを発生させる機構。その、神経系内部における、実装。

それは、以下の内容の実現を、予め、必要とする。
価値観。生物の生存維持に直結する行動を生み出す、司令塔。その、神経系内部における、実装。
それは、以下の内容である。
生物の内部環境の状態を、神経系に対して、リアルタイムで通知すること。そうした機能を実現する、入力細胞。

（2022年7月初出。）

神経系における、神経回路の新規創出。そのための、神経系自身による、試行錯誤。神経系における、思考。それらの、プログラミングによる、実現。

神経系における、神経回路の新規創出。
それは、以下の内容である。
前細胞と、後細胞との、新規の結合。
その、神経細胞自身による、自動的で自発的な、生成。
その実現のための、神経細胞自身による、自動的で自発的な、調節。
それは、以下の内容である。
神経系における、思考。

その結果。
神経回路における、未開の回路が、新たに生成されること。
神経回路における、短絡回路が、新たに生成されること。
神経回路の発火の流れが、大幅にショートカットされること。
その結果。
神経回路の発火のスムーズな流れを妨げる、回路上のボトルネックが、解消されること。
神経回路の発火のスムーズな流れを妨げる、回路上の障害が、解消されること。
神経回路の発火の流れにおける、大局的な、効率や効果が、大幅に改善されること。

それは、以下の内容である。
神経回路の、ブレークスルー。

画期的な、未知の、新発見や新発明。

その他の、考慮すべき事項。
調節細胞。調節回路。
それらの存在が、メインの神経回路とは別に、新たに必要であること。
その可能性。

（2022年7月初出。）

神経系における、新規の神経回路の、自動生成。そのプロセス。

神経細胞の可塑性についての、新たに考慮すべき、別の側面。
それは、以下の内容である。
神経細胞同士の、新たな結合。神経系における、新規の神経回路の、自動生成。
今までに無い、神経細胞同士の、新たな組み合わせ。その、生成。
そのプロセスは、以下の内容である。

神経細胞同士の、組み合わせの候補。その候補の、その時点における、自動的な、発見と抽出。
それは、以下の３通りの内容を、いずれも、許容すること。
--
神経細胞の、それ自身への、新たな結合。神経細胞の、それ自身における、円環回路の生成。
既に結合が存在する神経細胞への、新たな、重複している、結合。
未だ結合が存在しない神経細胞への、新たな、重複していない、結合。
--

神経細胞は、以下のような行為の実行が、能力的に、不可能である。
--
今までに無い、神経細胞同士の、新たな組み合わせ。

その候補の、その時点における、自動的な、漏れや重複の無い、発見と抽出。
--

神経細胞の、行為。それは、以下の内容である。
--
その行為の、自動性。
その行為における、根本的な、知能の低さや、頭の悪さ。
その行為が、無定見で、何でも有りなこと。
その行為の、不完全性。
その行為の、非定期性や、無計画性。
それらの容認。
そうした行為の、気ままな、繰り返し。
--

それらの候補の有効性を、一つずつ、思い付きに任せて、いい加減な順序で、行き当たりばったりで、藻掻きながら、試すこと。
結合の相手の選択における、試行錯誤的性質や、ランダム性。

結合の相手を、新たに、探索し、選択する、行為。その発生の原因。その分析。
生存の維持。生きやすさを向上させること。その必要性に、何らかの形で、迫られること。

抑止すべき入力。抑制すべき入力。不快な感覚をもたらす入力。生きやすさを低下させる入力。
内部環境や外部環境における、生存維持に対する赤信号や警告の、新たな発生や、発生の持続。
例。病的な感覚。苦痛の感覚。不足の感覚。空腹感。渇水感。過度の、寒さや暑さの、感覚。恐怖感。不利性や敗北や劣位性の、感覚。それらの、新たな発生や、発生の持続。
そうした赤信号や警告を、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入の、持続。
そうした警告を解除すること。その必要性の発生。
障壁の突破。障害物の除去。問題解決。
--
抑止すべき出力。抑制すべき出力。不快な結果をもたらす出力。生きやすさを低下させる出力。

内部環境や外部環境における、生存維持に対する赤信号や警告を、新たな発生させ、増進させる、出力。

解放すべき入力。促進すべき入力。快感をもたらす入力。生きやすさを向上させる入力。
内部環境や外部環境における、生存維持に対する青信号やOKサインの、新たな発生や、発生の持続。
例。健康的な感覚。悦楽の感覚。充足の感覚。満腹感。潤いの感覚。温室的な感覚。安心感。有利性や勝利や優位性の、感覚。それらの、新たな発生や、発生の持続。
そうした青信号やOKサインを、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入の、持続。
そうしたOKサインを、発令させ、存続させること。その必要性の発生。
促進物や促進剤の、入手や設置や追加。天国的状態の永続。それらにおける限界の、突破。
--
解放すべき入力。促進すべき入力。快い結果をもたらす出力。生きやすさを向上させる出力。
内部環境や外部環境における、生存維持に対する青信号やOKサインを、新たな発生させ、増進させる、出力。

それらの実現のために、少しでも有効そうな結合を、試行錯誤的に、定期的に、持続的に、生成し続けること。
結合相手を探す範囲を、試行錯誤の結果に基づいて、順次、絞ること。

新たな結合が、新たに得られた瞬間。それは、以下の内容である。
思考における、閃き。

結合における、試行錯誤。そのプロセス。
可能な結合を、一つずつ、ランダムな順序で、試すこと。その結果の良し悪しを、一つずつ、確認し、記憶すること。
その時点において、良い結果をもたらした結合。その結合を、促進すること。そのために、別の、促進タイプの神経細胞を、別途、新

たに援用すること。
その時点において、悪い結果をもたらした結合。その結合を、抑制すること。そのために、別の、抑制タイプの神経細胞を、別途、新たに援用すること。
--
それらの中で、比較的良好だった結果をもたらした結合を、更に、深堀りすること。
あるいは。
それらの中で、一見して失敗だった結果の中から、偶然に、次の望ましい結合の相手を、見出すこと。
--
それらの実行の最中において、偶然に、大きく成功すること。

結合における、成功。
それは、以下の内容である。
--
内部環境や外部環境における、生存維持に対する赤信号や警告の、新たな発生や、発生の持続。
そうした警告の発生を、結果的に、解除出来たこと。
そうした赤信号や警告を、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入が、止まったこと。
--
内部環境や外部環境における、生存維持に対する青信号やOKサインの、新たな発生や、発生の持続。
そうしたOKサインの発生を、結果的に、生起させ、常設させることが、出来たこと。
そうした青信号やOKサインを、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入が、永続していること。
--
その結果、有効な結合が、新たに得られたこと。

結合における、失敗。
それは、以下の内容である。
--
内部環境や外部環境における、生存維持に対する赤信号や警告の、

新たな発生や、発生の持続。
そうした警告の発生を、結果的に、解除出来なかったこと。
そうした赤信号や警告を、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入が、永続していること。
--
内部環境や外部環境における、生存維持に対する青信号やOKサインの、新たな発生や、発生の持続。
そうしたOKサインの発生を、結果的に、生起させ、常設させることが、出来なかったこと。
そうした青信号やOKサインを、リレー形式で伝達する、神経細胞。そうした神経細胞としての、前細胞。そうした前細胞からの、神経伝達物質の流入が、止まったこと。
--
その結果、有効な結合が、新たに得られなかったこと。

初期状態における成功が、後から、失敗へと、変化すること。
--
初期状態では、快い結果をもたらしていた出力が、後から、不快な感覚の入力を、新たにもたらすようになること。
例。排尿が、身体にもたらす、快感。その副作用。アンモニアの臭いがもたらす不快感。尿の水分により、衣服が濡れて、熱が身体から奪われることにより、生物が、風邪を引くこと。
例。覚せい剤の服用がもたらす、天国的な恍惚感。その副作用が、後からもたらす、幻覚などの苦しみ。
--
初期状態では、不快な結果をもたらしていた出力が、後から、快い感覚の入力を、新たにもたらすようになること。
例。苦い薬を、苦労して、呑み込むこと。その結果、生物の身体が、健康になり、苦痛の感覚から解放されること。
--

成功や失敗に対する、慣れ。
--
初期状態における成功が、後から、色褪せること。成功の反復がもたらす、飽き。
例。特定の好みの異性との性行為がもたらす、天国的な恍惚感。そ

の反復の結果。その異性に対して、段々、飽きが来ること。その結果。その異性との性行為において、快感が欠如するようになること。
--
初期状態における失敗が、後から、色褪せること。失敗の反復がもたらす、免疫の獲得。
例。初見の戦争映画が、もたらす、強い恐怖感。その反復の結果。戦争に対して、免疫が生成されること。戦争が怖くなくなること。
--

それらの実現に必要な、初期の、神経回路。
その設計には、シナリオの執筆が、有効である。その手法の内容は、以下の場合と、類似している。パソコンのソフトウェアについての、設計段階における、機能的要件の洗い出し。

シナリオの例。No.1.
ある生物は、体内からの、強い空腹感に、襲われた。彼は、地点１で、地面を掘ったが、食物は見つからなかった。彼は、地点２で、地面を掘ったが、食物は見つからなかった。彼は、地点３で、地面を掘ったところ、食物が見つかり、彼は、それを食べた。その結果、彼の空腹感は、収まった。
それに対応する、神経回路の例。
入力細胞１。内部環境からの、空腹感の、値の入力。
出力細胞１。地点１で、地面を掘り、食事を取ろうとする、出力。
出力細胞２。地点２で、地面を掘り、食事を取ろうとする、出力。
出力細胞３。地点３で、地面を掘り、食事を取ろうとする、出力。
中間細胞１。それは、初期状態では、入力細胞１からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。その結果。失敗。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞２とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞２による出力を、得ること。その結果。失敗。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞３とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞３による出力を、得ること。その結果。成功。内部環境における空腹状態が、値として、新たに、無効化されること。その結果。入力細胞１からの、空腹感の入力が、途絶える

こと。

シナリオの例。No.2.
ある生物は、屋外での、強い寒さに、襲われた。彼は、地点１に移動したが、寒いままだった。彼は、地点２に移動したが、寒いままだった。彼は、地点３に移動したところ、そこは、温かかった。その結果、彼の寒さは、収まった。
それに対応する、神経回路の例。
入力細胞１。外部環境からの、寒さの感覚の、値の入力。
出力細胞１。地点１に移動する、出力。
出力細胞２。地点２に移動する、出力。
出力細胞３。地点３に移動する、出力。
中間細胞１。それは、初期状態では、入力細胞１からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。その結果。失敗。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞２とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞２による出力を、得ること。その結果。失敗。
中間細胞１が、入力細胞１と、出力細胞３とを、新たに、繋ぐこと。その結果。出力細胞３による出力を、得ること。その結果。成功。外部環境における寒さが、値として、新たに、無効化されること。その結果。入力細胞１からの、寒さの感覚の入力が、途絶えること。

上記の２つのシナリオ。それらの表面的な内容は、大きく異なる。それらの実現に必要な、神経回路。それらの中身は、ほぼ相似である。

上記の内容の、python言語による、サンプルコード。
ソースコード_2

シナリオの例。No.3.
生物における、古典的条件付け。

ある生物が、居た。
その生物は、水分の不足によって、のどが渇いていた。

次の瞬間。その場で、水が出ると同時に、青い光が出た。
その生物は、口を開けて、待望の水を、飲んだ。その生物は、同時に、青い光を目に焼き付けた。
その生物は、水が出ることと、青い光の発光との相関を、学習した。
その結果。
次に、青い光が、単独で光った瞬間。
その生物は、水が出ることを、同時に予期して、口を開けた。

それに対応する、神経回路の例。
入力細胞１。内部環境からの、渇水感の、値の入力。
入力細胞２。外部環境からの、水分の摂取の、値の入力。
入力細胞３。外部環境からの、出水の感知の、値の入力。
入力細胞４。外部環境からの、青い光の発光の感知の、値の入力。
出力細胞１。口を開けて、水分を摂取しようとする、出力。それは、外部環境に対して、入力細胞２を活性化させる刻印を、施す。それは、外部環境における値を、入力細胞２を活性化させる値へと、新たに、変化させる。
出力細胞２。生理的プロセス１を、動作させる、出力。
中間細胞１。それは、初期状態では、入力細胞１からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞２。それは、初期状態では、入力細胞２からの入力を、取得する。その結果。それは、出力細胞２を、動作させる。
中間細胞３。それは、初期状態では、入力細胞３からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞４。それは、初期状態では、入力細胞４からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
神経系の外部における、内部デバイスのプロセスについての、表現。
生理的プロセス１。それは、外部環境からの水分の補給を受けて、内部環境における渇水感を、低減させる。その結果。それは、入力細胞１からの入力を、不活性化する。

古典的条件付けの段階。第一段階。
中間細胞３が、入力細胞３と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。
その結果。以下の状況が、新たに、発生すること。

入力細胞３の、活性化。その結果。中間細胞３が、活性化すること。その結果。中間細胞３が、出力細胞１を、活性化させること。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。その結果。最終的に、渇水感の除去に、成功すること。

古典的条件付けの段階。第二段階。
入力細胞３と、入力細胞４とが、同時に、活性化すること。
その結果。中間細胞３と、中間細胞４とが、新たに、相互に、繋がること。
その結果。中間細胞４が、入力細胞４と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。入力細胞４の活性化により、新たに、出力細胞１による出力を、得ること。その結果。最終的に、渇水感の除去に、成功すること。

あるいは。
入力細胞４が、活性化すること。
その結果。中間細胞４が、入力細胞４と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。入力細胞４の活性化により、新たに、出力細胞１による出力を、得ること。その結果。最終的に、渇水感の除去に、成功すること。
そのことのみが、単独で発生すること。

古典的条件付けの段階。第三段階。
入力細胞４の活性化。その結果。中間細胞４が、活性化すること。その結果。中間細胞４が、出力細胞１を、活性化させること。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。その結果。最終的に、渇水感の除去に、成功すること。

生物における、オペラント条件付け。
それは、以下の内容である。
古典的条件付けにおいて。
環境からの入力に対して、出力することを、単に、待ち切れなくなったこと。
環境からの入力に対して、出力することを、単に、自制出来なくなったこと。
環境からの入力に対する出力が、単に、時系列的に、複数化した形で、入れ替え可能な形で、順序化しただけであること。

環境からの入力に対する出力が、単に、複雑化しただけであること。

生物における、オペラント条件付け。
それは、結局、環境からの入力に対する、自動的な、学習出力であること。
それは、結局、古典的条件付けと、同様であること。

生物における、古典的条件付け。
その発展形。
それは、以下の内容である。

生物の間における、情報の伝達。
生物の間における、文化的子孫の受け渡し。
それらの、シナリオの例。No.4.

生物１は、水分の不足によって、のどが渇いていた。
次の瞬間。その場で、水が出ると同時に、青い光が出た。
生物１は、口を開けて、待望の水を、飲んだ。生物１は、同時に、青い光を目に焼き付けた。
生物１は、水が出ることと、青い光の発光との相関を、学習した。

その後。
生物２が、生物１と、同時に、居た。彼らは、互いに、味方同士だった。
生物２は、生物１との間で、予め、意思疎通が可能だった。それは、以下の内容である。生物２が、生物１からの合図を、感知出来ること。
生物２は、水分の不足によって、のどが渇いていた。
次の瞬間。その場で、青い光が出た。
生物１は、生物２に対して、すかさず、合図を送った。生物２は、その合図を、感知した。
生物２は、口を開けた。
次の瞬間。その場で、水が出た。
生物２は、待望の水を、飲んだ。生物２は、同時に、青い光を目に焼き付けた。
生物２は、水が出ることと、青い光の発光との相関を、学習した。

それに対応する、神経回路の例。

入力細胞１。内部環境からの、渇水感の、値の入力。
入力細胞２。外部環境からの、水分の摂取の、値の入力。
入力細胞３。外部環境からの、出水の感知の、値の入力。
入力細胞４。外部環境からの、青い光の発光の感知の、値の入力。
入力細胞５。外部環境からの、交信の受信の、値の入力。
出力細胞１。口を開けて、水分を摂取しようとする、出力。それは、外部環境に対して、入力細胞２を活性化させる刻印を、施す。それは、外部環境における値を、入力細胞２を活性化させる値へと、新たに、変化させる。
出力細胞２。生理的プロセス１を、動作させる、出力。
出力細胞３。外部環境への、交信の送信の、値の出力。
中間細胞１。それは、初期状態では、入力細胞１からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞２。それは、初期状態では、入力細胞２からの入力を、取得する。その結果。それは、出力細胞２を、動作させる。
中間細胞３。それは、初期状態では、入力細胞３からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞４。それは、初期状態では、入力細胞４からの入力を、取得するのみである。それは、初期状態では、どの出力細胞にも、繋がっていない。
中間細胞群５。それらは、初期状態では、入力細胞５からの入力を、取得し、分析し、解釈する。それらは、初期状態では、中間細胞群６に、繋がっている。
中間細胞群６。それらは、初期状態では、出力細胞３への出力を、計算する。その結果。それらは、出力細胞３を、動作させる。
神経系の外部における、内部デバイスのプロセスについての、表現。
生理的プロセス１。それは、外部環境からの水分の補給を受けて、内部環境における渇水感を、低減させる。その結果。それは、入力細胞１からの入力を、不活性化する。

中間細胞群５。それらの詳細な構成。
中間細胞群６。それらの詳細な構成。
それらの内容の実現においては、事前の場合分けによる、詳細な分類が、必要である。
それらの内容は、結局は、以下の項目の内容に、依存する。

生物の社会。
その実現が、新たに、可能になること。
それは、以下の状況の発生によって、起きる。
ある生物が、他の生物と、仲良くなること。
ある生物が、他の生物と、敵対すること。
それらの実現が、新たに、可能になること。
それは、以下の状況の発生によって、起きる。
--
ある生物による、周囲の対象物への情報伝達。
ある生物による、周囲の対象物との意思疎通。
ある生物による、周囲の対象物との交信。
周囲の対象物。非生物。他の生物。
それらの実現が、新たに、可能になること。
それは、以下の状況の発生によって、起きる。
生物の神経系が、通信機能を、備えること。
生物の神経系が、交信専用の、入力細胞と、出力細胞と、中間細胞を、持つことが出来ること。
それらは、以下の状況の発生によって、自動的に起きる。
神経回路における、余剰の細胞の、発生。
それは、以下の状況の発生によって、自動的に起きる。
生物の神経系における、細胞数の増加。
--

--
生物の神経系は、周囲の対象物について、それらが、非生物か、生物かを、予め、識別出来ない。
周囲の対象物が、非生物か、生物かの、識別。
生物の神経系は、その識別を、遺伝的な適応か、文化的な適応かの、いずれかの繰り返しによって、初めて、実現する。
その神経回路が、固定回路の場合。その識別を、遺伝的な突然変異の繰り返しによって、実現すること。
その神経回路が、可塑的回路の場合。その識別を、文化的な学習の繰り返しによって、実現すること。例。教師による、生徒に対する教育。親による、子供に対する教育。
-
その識別は、生物の神経系にとって、それほど重要では無い。
その識別は、生物の神経系にとって、その生死に直結しない。
その識別は、生物の神経系にとって、どうでも良い。
それらの内容における、重要な例外。

生物が、外部環境における生きやすさを、判断する場合。生物が、その外部環境が、生物が生存できる環境かどうかを、判断する場合。
生物が、有機物の食糧を、確保する場合。
その識別は、生物の神経系にとって、とても重要である。
その識別は、生物の神経系にとって、その生死に直結する。
--

--
生物の神経系は、周囲の対象物について、それらが、脅威か、安全かを、予め、識別出来ない。
生物の神経系は、周囲の対象物について、それらが、敵か、味方かを、予め、識別出来ない。
周囲の対象物が、脅威か、安全かの、識別。
周囲の対象物が、敵か、味方かの、識別。
生物の神経系は、その識別を、遺伝的な適応か、文化的な適応かの、いずれかの繰り返しによって、初めて、実現する。
その神経回路が、固定回路の場合。その識別を、遺伝的な突然変異の繰り返しによって、実現すること。
その神経回路が、可塑的回路の場合。その識別を、文化的な学習の繰り返しによって、実現すること。例。教師による、生徒に対する教育。親による、子供に対する教育。
-
その識別は、生物の神経系にとって、本質的に重要である。
その識別は、生物の神経系にとって、その生死に直結する。
--
ある生物による、彼自身にとっての、敵と味方との、識別。
ある生物による、彼自身にとっての、脅威と安全の、識別。
その実現が、新たに、可能になること。
それは、以下の状況の発生によって、起きる。
-
ある生物において。
周囲の対象物。非生物。他の生物。
その対象物が、彼自身を、保障するか、攻撃するか。それらの識別。
その対象物が、彼自身の生存維持を、促進するか、阻害するか。それらの識別。
その実現が、新たに、可能になること。
それは、以下の状況の発生によって、起きる。
-

ある生物において。
周囲の対象物。非生物。他の生物。
その対象物が、彼自身の所有資源を、増やすか、減らすか。それらの識別。
その対象物が、彼自身の存在自体を、存続させるか、抹消するか。それらの識別。
その対象物が、彼自身を、安心させるか、不安にさせるか。それらの識別。
その実現が、新たに、可能になること。
それらは、以下の状況の発生によって、自動的に起きる。
生物における、資源の所有を蓄積する機能の、新たな保有。その発生。
神経回路における、資源の所有を管理する機能の、新たな保有。その発生。
神経回路における、資源の会計管理機能の、新たな保有。その発生。
それは、以下の状況の発生によって、自動的に起きる。
生物の神経系における、体内の水分や栄養分の、計測回路の、新たな保有。
生物の神経系における、体内の水分や栄養分の、記憶回路の、新たな保有。
生物の神経系における、体外の所有財産の、計測回路の、新たな保有。
生物の神経系における、体外の所有財産の、記憶回路の、新たな保有。

--

--

ある生物において。
周囲の対象物。非生物。他の生物。
その対象物が、彼自身によって圧倒されるか、彼自身を圧倒するか。それらの識別。
その対象物が、彼自身に従属するか、彼自身を支配するか。それらの識別。
その対象物が、彼自身に負けるか、彼自身に勝つか。それらの識別。
その対象物が、彼自身より少ないか、彼自身より多いか。それらの識別。例。既得権益の所有。
その対象物が、彼自身より弱いか、彼自身より強いか。それらの識

別。
その対象物が、彼自身より小さいか、彼自身より大きいか。それらの識別。
その対象物が、彼自身より無能か、彼自身より有能か。それらの識別。
その対象物が、彼自身より劣位か、彼自身より優位か。それらの識別。
その対象物が、彼自身より下位か、彼自身より上位か。それらの識別。
その対象物が、彼自身より不利か、彼自身より有利か。それらの識別。
彼自身が、その対象物に対する生殺与奪を、握っているか。あるいは。その対象物が、彼自身に対する生殺与奪を、握っているか。それらの識別。
その対象物が、前者の場合。その対象物は、彼自身にとって、下位者である。
その対象物が、後者の場合。その対象物は、彼自身にとって、上位者である。

ある生物において。
--
周囲の対象物。
それは、彼自身にとって、以下のように、分類される。
非生物。他の生物。
上位者。下位者。
--
その対象物に対して、彼自身の保身を、重視するか、軽視するか。それらの判断。
その対象物に対して、彼自身の保身を、最優先するか、後回しにするか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、従属するか、独立するか、支配するか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、融合するか、分離するか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、宥和するか、攻撃するか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、調和するか、調和しないか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、依存するか、自立するか。それら

の判断。
彼自身が、その対象物に対して、朝貢するか、搾取するか。それらの判断。
彼自身が、その対象物に対して、忍従するか、虐待するか。それらの判断。
後者の場合。
彼自身が、その対象物によって、結果的に、反撃されるか、反撃されないか。それらの判断。
彼自身が、その対象物によって、結果的に、圧倒されるか、圧倒されないか。それらの判断。

それらの結果としての、彼自身の出力。
それは、以下の２通りである。
--
彼自身における、上記の判断が、自明である場合。
あるいは。
彼自身の自己保身を、重視し、最優先する場合。
液体的出力。液体的思想。液体的反応。
例。卵子。女性。
周囲の対象物に対して。
その対象物の出力結果に従って、彼自身の値を、他律的に変化させて、出力すること。
その対象物との上下関係に従って、彼自身の値を、他律的に変化させて、出力すること。
-
周囲の上位者に対して。
彼自身が、その上位者によって、一方的に、呑み込まれること。
彼自身が、その上位者によって、一方的に、併合されること。
彼自身が、その上位者に対して、隷従すること。
彼自身が、その上位者の出力結果を、全面的に肯定すること。
彼自身が、その上位者の出力結果を、全面的に丸呑みすること。
彼自身が、その上位者の出力結果に対して、全面的に、媚び、懐き、忖度すること。
彼自身の出力を、その上位者の出力結果によって、全面的に上書きすること。
例。
その上位者の出力がFalseだった場合。彼自身が、いつでも、Falseを出力すること。
その上位者の出力がTrueだった場合。彼自身が、いつでも、Trueを出力すること。

-
周囲の下位者に対して。
彼自身が、その下位者を、一方的に、呑み込むこと。
彼自身が、その下位者を、一方的に、併合すること。
彼自身が、その下位者に対して、専制支配をすること。

彼自身が、その下位者の出力結果を、全面的に否定すること。
彼自身が、その下位者の出力結果を、全面的に排除すること。
あるいは。
彼自身が、その下位者の出力結果を、彼自身が好きな値によって、全面的に上書きすること。

例。
その下位者の出力がTrueだった場合。彼自身が、Falseを出力すること。
その下位者の出力がFalseだった場合。彼自身が、Trueを出力すること。
あるいは。
その下位者の出力結果に関わらず、彼自身が好きな値を、専制的に、強制的に、出力すること。
--
彼自身における、上記の判断が、自明で無い場合。
あるいは。
彼自身の自己保身を、軽視し、後回しにする場合。
気体的出力。気体的思想。気体的反応。
例。精子。男性。
周囲の対象物に対して、終始、分離独立的に、自由に、振る舞うこと。
その対象物の出力結果に関わらず、彼自身が好きな値を、出来るだけ、自律的に、出力すること。
その対象物が、彼自身よりも上位である場合も、彼自身が好きな値を、出来るだけ、自律的に、出力すること。
--

上記の検討内容を、踏まえた場合。
中間細胞群５。それらは、入力細胞５からの入力を、取得し、分析し、解釈する。それらの最小構成。
中間細胞群６。それらは、出力細胞３への出力を、計算する。それらの最小構成。

それらは、いずれも、以下の入力の存在を、別途、必須とする。
--
周囲の対象物との、相対的な上下関係。
他の生物との、相対的な上下関係。
その評価を見積もる数値。その値の入力。
例。
入力値がプラスの場合。周囲の対象物や生物が、彼自身よりも、上位者であること。
入力値がマイナスの場合。周囲の対象物や生物が、彼自身よりも、下位者であること。

その、外部環境からの、入力。
その入力を得るための、入力細胞。
入力細胞６。
--
周囲の対象物との、敵か味方かの、関係。
他の生物との、敵か味方かの、関係。
その評価を見積もる数値。その値の入力。
例。
入力値がプラスの場合。周囲の対象物や生物が、彼自身にとって、味方であること。
入力値がマイナスの場合。周囲の対象物や生物が、彼自身にとって、敵であること。

その、外部環境からの、入力。
その入力を得るための、入力細胞。
入力細胞７。
--
彼自身の、自己保身の度合い。その数値。
例。
入力値が大きい場合。彼自身が、女性優位な場合。彼自身の自己保身を、重視すること。液体的出力を行うこと。
入力値が小さい場合。彼自身が、男性優位な場合。彼自身の自己保身を、軽視すること。気体的出力を行うこと。

その、内部環境からの、入力。
その入力を得るための、入力細胞。
入力細胞８。
--

中間細胞群５。中間細胞群６。
それらによる、出力細胞３への出力値。
その値は、以下の３つの入力値の全てを、掛け合わせ調整した値となる。
--
入力細胞５からの入力値。
入力細胞６からの入力値。
入力細胞７からの入力値。
入力細胞８からの入力値。
--

例。
入力細胞５からの入力が、Trueだった場合。
入力細胞６からの入力が、1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身よりも、上位者であること。
入力細胞７からの入力が、1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身にとって、味方であること。
入力細胞８からの入力が、0だった場合。気体的出力を行うこと。
出力細胞３への出力値は、彼自身の好きな、TrueかFalseかの、任意の値となる。

例。
入力細胞５からの入力が、Trueだった場合。
入力細胞６からの入力が、1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身よりも、上位者であること。
入力細胞７からの入力が、1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身にとって、味方であること。
入力細胞８からの入力が、1だった場合。液体的出力を行うこと。
出力細胞３への出力値は、True一択となる。

例。
入力細胞５からの入力が、Trueだった場合。
入力細胞６からの入力が、-1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身よりも、下位者であること。
入力細胞７からの入力が、1だった場合。周囲の対象物や生物が、彼自身にとって、味方であること。
入力細胞８からの入力が、1だった場合。液体的出力を行うこと。
出力細胞３への出力値は、彼自身の好きな、TrueかFalseかの、任意の値となる。

シナリオの例。No.4.
その内容の改訂。

生物２において。
前提条件。
例。
生物１が、生物２よりも、上位者である場合。
生物１が、生物２にとって、味方である場合。
生物２が、女性優位である場合。

シナリオの要点。その再掲。

生物２は、水分の不足によって、のどが渇いていた。
次の瞬間。その場で、青い光が出た。
生物１は、生物２に対して、すかさず、合図を送った。生物２は、その合図を、感知した。
生物２は、その合図に従って、すかさず、口を開けた。
次の瞬間。その場で、水が出た。
生物２は、口を開けた状態で、待望の水を、飲んだ。生物２は、同時に、青い光を目に焼き付けた。

入力細胞１。内部環境からの、渇水感の、値の入力。
入力細胞２。外部環境からの、水分の摂取の、値の入力。
入力細胞３。外部環境からの、出水の感知の、値の入力。
入力細胞４。外部環境からの、青い光の発光の感知の、値の入力。
入力細胞５。外部環境からの、交信の受信の、値の入力。
入力細胞６。外部環境からの、彼自身の、周囲の対象物との、上下関係についての、値の入力。
入力細胞７。外部環境からの、彼自身の、周囲の対象物との、敵味方の関係についての、値の入力。
入力細胞８。外部環境からの、彼自身の性別についての、値の入力。

上記の内容を踏まえた、全体的な、神経回路の挙動。

古典的条件付けの段階。第一段階。事前の学習。
中間細胞３が、入力細胞３と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。
その結果。以下の状況が、新たに、発生すること。
入力細胞３の、活性化。その結果。中間細胞３が、活性化すること。その結果。中間細胞３が、出力細胞１を、活性化させること。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。その結果。最終的に、渇水感の除去に、成功すること。

古典的条件付けの段階。第二段階。他の生物からの、参考情報の受信と、その活用。

入力細胞５が、活性化すること。
それに伴って、引き続き、入力細胞６と、入力細胞７と、入力細胞８が、活性化すること。
その結果。
出力細胞５による出力を、得ること。
その結果。
出力細胞１による出力を、得ること。

入力細胞３と、入力細胞４とが、同時に、活性化すること。
その結果。中間細胞３と、中間細胞４とが、新たに、相互に、繋がること。
その結果。中間細胞４が、入力細胞４と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。入力細胞４の活性化により、新たに、出力細胞１による出力が可能になること。

あるいは。
入力細胞４が、活性化すること。
その結果。中間細胞４が、入力細胞４と、出力細胞１とを、新たに、繋ぐこと。その結果。入力細胞４の活性化により、新たに、出力細胞１による出力が可能になること。
そのことのみが、単独で発生すること。

それらの結果。入力細胞２と入力細胞１が、相次いで、活性化されること。
その結果。渇水感の除去に、最終的に、成功すること。

古典的条件付けの段階。第三段階。
入力細胞４の活性化。その結果。中間細胞４が、活性化すること。
その結果。中間細胞４が、出力細胞１を、活性化させること。その結果。出力細胞１による出力を、得ること。
その結果。入力細胞２と入力細胞１が、相次いで、活性化されること。
その結果。渇水感の除去に、最終的に、成功すること。

上記の内容の実現において。必要な、追加の措置。

生物１から生物２への、作用の伝達。
生物１から生物２への、情報の伝達。
それらを、神経回路で実現するために、必要な前提条件。
それは、以下の内容である。

生物１における、自主性を、考慮する場合。
生物１における、生物２の存在に対する、認識の、自主的な、発生。
生物１における、生物２の存在に対する、関心や興味の、自主的な、発生。
生物１における、生物２に対する、作用伝達の意思の、自主的な、発生。
生物１における、生物２に対する、情報伝達の意思の、自主的な、発生。
それらの、神経回路における、実現の必要性。

生物１における、自主性を、考慮しない場合。
生物２による、生物１に対する、一方的な、観察や盗撮や盗聴。それらの、生物２における、自主的な、発生。
それらの、神経回路における、実現の必要性。

（2022年7月初出。）

生物における、資源の入手と、障害物の除去。それらの、神経回路プログラミングによる、実現。

ある生物。
彼自身の生存維持にとっての、脅威や障害物。彼自身による、その除去。その行為の、実装。
そのための、彼自身において必要な、能力的な基盤。
彼自身が、脅威や障害物を、特別な存在として、認識すること。その能力の、実装。
そのための、具体的な手順。それは、以下の内容である。

--
初期の実装内容。No.1.
ある生物。
彼自身における、資源入手の、新たな必要性。その状況発生の、実装。
本来、その場所では、必要な資源が、難なく手に入ること。彼自身が、その体験を、予め、学習し、記憶すること。その能力。その実装が、前提として、必要であること。
必要な資源を入手するための、特定の、手続き。彼自身が、その内容を、予め、学習し、記憶すること。その能力。その実装が、前提として、必要であること。
その場所において、必要な資源が、手に入らなくなったこと。彼自身が、その状況発生を、新たに検知すること。その能力の、実装。
彼自身が、障害物の存在について、新たに認識を得ること。その能力の、実装。資源は、無くなったのではなく、何者かに邪魔されて、入手出来なくなっていること。彼自身が、そのことを検知すること。その能力の、実装。
彼自身が、障害物の除去を、試みること。その能力の、実装。
一定の制限時間の経過後。彼自身の資源が、そのままでは、尽きること。その時点において、彼自身が、障害物の除去に、成功しているか、失敗していること。その結果。彼自身が、生存し続けるか、死ぬこと。そうした状況発生の、実装。
--

--
初期の実装内容。No.2.
ある生物。
彼自身における、資源入手の、新たな必要性。その状況発生の、実装。
必要な資源が、難なく手に入る場所。
彼自身が、その発見を、自力で行うこと。その能力の、実装。

彼自身が、その情報を、予め、知らないこと。彼自身が、必要な資源の在処を求めて、彷徨うこと。その能力の、実装。
必要な資源を入手するための、特定の、手続き。彼自身が、その内容を、予め、学習し、記憶すること。その実装が、前提として、必要であること。
その場所において、必要な資源が、手に入らないこと。彼自身が、その状況発生を、新たに検知すること。その能力の、実装。
彼自身が、障害物の存在について、新たに認識を得ること。その能力の、実装。資源は、無いのではなく、何者かに邪魔されて、入手出来なくなっていること。彼自身が、そのことを検知すること。その能力の、実装。
彼自身が、障害物の除去を、試みること。その能力の、実装。
彼自身が、その場所における障害物の除去を諦めて、他の場所への移転を、新たに、試みること。そのための、判断能力の、実装。そのための、移転開始能力の、実装。
一定の制限時間の経過後。彼自身の資源が、そのままでは、尽きること。その時点において、彼自身が、障害物の除去に、成功しているか、失敗していること。その時点において、彼自身が、資源の獲得に、成功しているか、失敗していること。その結果。彼自身が、生存し続けるか、死ぬこと。そうした状況発生の、実装。
--

--
初期の実装内容。No.3.
ある生物にとって。
脅威や障害物が、無機物である場合。
脅威や障害物が、他の生物である場合。
他の生物は、別の生物による、存在除去の試みに対して、相互に、抵抗すること。
他の生物は、別の生物による、資源奪取の試みに対して、相互に、抵抗すること。

複数の生物。
彼らの間における、資源の奪い合い。そうした状況発生の、実装。
彼らの間における、能力差。彼らの間における、所有資源量の差。そうした状況発生の、実装。

彼らの間における、勝敗の発生。
無能者が、有能者によって、倒されること。その再現。
その実現の前提となる、基盤。

彼ら自身が、生きやすさの奪い合いのために用いる、資源エネルギー。それらの分量の、事前の見積もり。その、実装。
それらの、彼ら自身の私有環境における、蓄積と消費と喪失。それらの、再現。その、実装。

その結果。
彼らの間における、上下関係の発生。その固定化。その流動化。そうした状況発生の、実装。

上下関係。
それは、以下の内容に基づく。
-
有能性。
既得権益の蓄積性。
それらの所有の多寡。
-

有能性。それは、性能の良さである。
それは、以下の内容である。
-
出力値の高さ。
出力頻度の高さ。
内部回路の動作効率の高さ。
学習性の高さ。
対応可能な幅の広さ。
-

既得権益の蓄積性。
それは、以下の内容である。
-
資源の所有。その質や量の、多さ。
例。水分。栄養分。情報。他の生物。

資源を取得するための設備の、所有。その質や量の、多さ。
例。資源を貯蔵する、私的空間。

彼自身が蓄積する、資源や設備の、防衛。その能力の、高さ。

他の生物が蓄積する、資源や設備の、奪取。その能力の、高さ。

-

--

ある生物。
彼自身において、脅威や障害物は、無機物でも、他の生物でも、初期状態においては、一緒であること。
その後。
より詳細な状況分類に応じて、彼自身の反応内容が、変化すること。その能力の、実装。
それは、例えば、以下の内容である。

--
初期の実装内容。No.4.
ある生物。
脅威や障害物が、彼自身にとって、同質者であること。彼自身が、そのことを、検知すること。その能力の、実装。
彼が、彼自身にとっての同質者と、仲間になること。彼が、彼自身にとっての同質者との間で、資源を、仲良く、分け合うこと。その能力の、実装。

脅威や障害物が、彼自身にとって、異質者であること。彼自身が、そのことを、検知すること。その能力の、実装。
彼が、彼自身にとっての異質者を、排除すること。その能力の、実装。

それらの能力の基盤。その実装が、必要であること。
それは、以下の内容である。
対象物の、彼自身との、同質性や異質性。彼自身が、それらの度合いを、その都度、計算すること。その能力の、実装。
--

（2022年7月初出。）

神経回路の実装に必要な、基本的な神経回路の、モジュール化。それらの、基本的なライブラリとしての、整備。

神経回路の実装に必要な、基本的な神経回路の、モジュール化。それらの、基本的なライブラリとしての、整備。
それらは、以下の内容に、対応する。
高級プログラミング言語における、基本的な関数ライブラリの、整備。

＝＝＝
汎用的な機能。

地点の移動を行うこと。
--
シーケンシャルな移動。シーケンスの、事前の、策定と記憶。ランダムな移動。
計画的な移動。計画の、事前の、策定と記憶。無計画な、衝動的な、移動。
出張すること。ホームに戻ること。
--

環境。
--
外部環境。内部環境。
--

環境に対する、読み取りや見積もりを、行うこと。
--
距離。所要時間。種類や種別。物理的な分量。精神的な負荷。不快な度合。苛酷な度合。危険な度合。未知である度合。
注入が必要な資源の、種類と分量。
読み取りや見積もりの種類毎に、出力細胞を、予め、個別に用意すること。
--

環境に対する加工を、行うこと。
--
改変。維持。
取得。吸入。吸引。掘削。カット。コピー。注入。投入。ペースト。除去。抹消。追加。置換。変形。開墾。移転。新規の空白の挿入。属性の変更。初期化。復元。
--

加工の種類毎に、出力細胞を、予め、個別に用意すること。
--

彼自身の神経系に対する、読み取りや見積もりを、行うこと。
--
能力。活動水準。健康な度合。元気な度合。暇な度合。
--

彼自身の神経系に対する加工を、行うこと。
--
学習。忘却。発見や発明。
--

対象に対する、読み取りや、見積もりの、内容。
--
外部環境。内部環境。彼自身の神経系。
--
物理的性質の、大小。
化学的性質の、大小。
--

取った行動に対する、反応やフィードバックを、得ること。
--
成功。失敗。未解決。
進捗有り。プラスの進捗。マイナスの進捗。進捗無し。
それらの、度合。
--

取っている行動や、既に取った行動についての、段階やステージを、得ること。
取っている行動や、既に取った行動についての、段階やステージを、決めること。
--
開始。処理中。中断。再開。完了。放棄。
--

実行中の行為。その成功の可能性の大小を、判断すること。

その判断に必要なフィードバックを、得ること。
進捗の有無。進捗のプラスとマイナス。進捗の度合いの大小。それらについての情報。
その収集のための情報入力器官を、動かすこと。
そのための入力細胞を、空けて、フィードバック専用に、発火可能にすること。

実行中の行為を、持続するか、中止するかを、判断すること。
その判断基準を、予め、持つこと。

相手が居る場合。
相手に比べて有利である場合。持続すること。
相手に比べて不利である場合。中止すること。
そうした、有利性や不利性の、判断を、行うこと。
そうした、有利性や不利性についての、判断基準を、予め、持つこと。

有利性。不利性。それらの生成の原因。
--
彼自身と相手との間における、有能性の、大小。
彼自身と相手との間における、性能の優劣の、相対評価。
彼自身と相手との間における、既得権益の、大小。
--

中止する場合。
-
その地点を放棄して、別の地点に移動すること。
その地点で、そのまま、待機して、様子見をすること。空きの順番を待つこと。行為の相手が居る場合。その地点で、相手との間における、上下関係の、主観的な締結を行うこと。そのことにより、上位者から、融通を、少しだけ受けること。
-

持続する場合。
-
実行中の行為に注入する内的資源を、増やすか、そのまま現状維持するか、減らすかを、判断すること。
実行中の行為に注入する内的資源を、増やすか、そのまま現状維持

するか、減らすかについて、新たに、更新された決定を、実施すること。
-

＝＝＝
生物特有の機能。

内部環境において、資源の、恒常的な消費を、行うこと。
内部環境において、資源不足の状態に、定期的に、陥ること。
内部環境において、資源不足の警告が、定期的に、発生が開始すること。
資源不足の警告は、資源が、十分に充足されるまで、際限無く、続くこと。
外部環境から、資源を取得する必要に、定期的に、迫られること。
資源不足の状態が続いた場合。衰退し続け、最終的に、死ぬこと。
そのプロセスが、とても苦痛であること。

外部環境から、資源の吸入を行うこと。

資源の吸入口を見つけること。
資源の吸入口における、障害の有無を、検知すること。
--
障害が有る場合。
障害物。それは、以下の内容である。吸入口を塞ぐ、物品。岩石などの無機物。他のライバルの生物。
障害を、除去すること。
障害物を、除去すること。
物体移動のための運動出力器官を、動かすこと。
そのための出力細胞を、発火させること。
その行為を、障害物の除去への成功の可能性の大小を逐次判断しつつ、障害物の除去が可能と考えている間は、障害物の除去が完了するまで、繰り返すこと。
--
障害が無い場合。
資源の吸入口に、資源吸入器官の入口を合わせること。
資源の吸入処理を、実行すること。
--

資源の吸入失敗を、検知すること。
資源の吸入失敗の原因を、検知すること。
--
資源が枯渇していること。
吸入処理に対する障害が、存在していること。
-
外的な障害が存在すること。障害物。吸入処理を新たに邪魔する、岩石などの無機物。吸入処理を新たに邪魔する、他のライバルの生物。
内的な障害が存在すること。資源吸入器官の故障。
-
--
資源の吸入の行為中における障害を、除去すること。
外的な障害物を、除去すること。
物体移動のための運動出力器官を、動かすこと。
そのための出力細胞を、発火させること。その行為を、
障害物の除去への成功の可能性の大小を逐次判断しつつ、障害物の除去が可能と考えている間は、障害物の除去が完了するまで、繰り返すこと。

資源の吸入の、成功裏での完了を、検知すること。
資源の吸入の、失敗裏での完了を、検知すること。
その地点と、その資源の吸入口についての、具体的な情報を、それぞれ記憶すること。

その失敗完了の決断後。
その地点を放棄して、別の地点に移動すること。
その地点で、そのまま、待機して、様子見をすること。空きの順番を待つこと。その地点で、障害物との間における、上下関係の、主観的な締結を行うこと。そのことにより、上位者から、分け前を、少しだけ貰うこと。

＝＝＝
研究者用の、補助的な機能。
--
現状の神経回路の、スナップショットや、バックアップ。
以前の神経回路の、復元。
神経回路データの、好き放題の、改変。その結果の、現状の神経回

路への、反映。
任意の神経回路に対する、教師付きの学習の、強制。
--

（2022年7月初出。）

神経回路の設計の、自動化。その必要性。

神経回路の初期設定の、自動化。
細胞の一覧。入力細胞の一覧。中間細胞の一覧。出力細胞の一覧。それらの、辞書データ。
内部環境の一覧。それらの、辞書データ。
外部環境の一覧。それらの、辞書データ。
結合路線の一覧。それらの、辞書データ。その内部に、複数の配列を、含むこと。

上記の、一覧の情報から、実際の神経回路の稼働に必要な設定を、自動的に実行すること。そのための関数の設定。
実際の神経回路の稼働の開始。その、自動的な実行。

出力細胞。タイプ分け。値そのものの出力。加算と減算の出力。強度の出力。
外部環境。複数の神経系からの出力に対応すること。データ集計と記憶のサーバーとして動くこと。複数のプロセスの組み合わせとして、動くこと。地点毎に、別々の資源管理がなされること。

内部環境。外部環境。それらの環境における、資源の管理。その、マルチプロセスとしての実現の必要性。

資源管理の種類。
有限である場合。無限である場合。
障害がある場合。障害が無い場合。
取得に必要なエネルギーの分量。

占有者がいる場合。占有者がいない場合。

（2022年7月初出。）

神経回路の設計における、最上位の概念。それらの設定の必要性。

上記の内容の実現において、前提となる、必要な枠組み。
それは、以下の内容である。

最上位の概念。
それは、以下の内容である。
存在。オブジェクト。
資源それ自体。
資源を消費する、存在。

物理的な、存在。物理的な、オブジェクト。
資源が配布されている場所。資源の入手口。水飲み場。
資源。酸素や水分や栄養分。
それらの、消費者や占有者。物理的な、生物や無機物。

通信的な、存在。通信的な、オブジェクト。
資源が配布されている場所。サーバー。
資源。サーバー上における、情報。
それらの、消費者や占有者。サーバーのクライアント。サーバーの所有者。

予め、資源を占有する、存在。予め、資源に覆い被さる、存在。資源を私有する、存在。資源を管理する、存在。既得権益を所有する、存在。
予め、資源を占有していない、存在。予め、資源から離れている、存在。予め、資源から遠ざけられている、存在。既得権益を所有しない、存在。

生物。
彼自身。

他の生物。
それらは、神経系よりも、更に上位の概念であること。
それらは、神経系を包含する、更に上位の概念であること。
物理的な場合。生身の身体。
通信的な場合。仮想的なキャラクター。

非生物。
物理的な場合。土砂や岩石。障害物。
通信的な場合。ファイアウォール。ボトルネック。

資源を入手する能力。資源を入手するに際して、競合相手を退ける、能力。
--
総合的な有能性。
相手の存在を、無効化する、能力。相手の存在を、無かったことにする、能力。相手を、抹消する、能力。相手を、撃退する、能力。相手を、撥ね退ける、能力。相手を、破壊する、能力。
相手に対して、攻め入る、能力。相手を、彼自身にとっての資源化する、能力。相手を、彼自身に対して、従属させる、能力。相手を、彼自身にとっての家畜化する、能力。相手を、飼い慣らす、能力。
--
物理的な、有能性。
重量と速度と加速度。資源の入手口から、相手を退かせること。
そのための、相互の、衝突や体当たり。その際に、相手を撥ね退ける、能力。
生物。体重。エネルギーの大きさ。動きの速さ。精神的な強靭性。
非生物。無機物。重さ。エネルギーの大きさ。動きの速さ。
--
通信的な、有能性。
相手を、沈黙させること。相手を、消滅させること。相手による情報取得の試みを、無効化すること。相手の情報を、無効化すること。
そのための、相互の、衝突や攻撃。その際に、相手を黙らせる、能力。
例。DDos攻撃。マルウェアによる攻撃。
生物。
通信の妨害。
通信の傍受。
通信の強制。一方的な、大量で高頻度の、送信。一方的な説教。

通信の強制切断。一方的な受信拒否。一方的な聞き取り拒否。
それらを実施する能力。それらを保持する能力。

非生物。無機物。
通信障害を発生させる能力。
例。雷などによる、通信電波障害。地震などによる、通信回線の切断。
それらを実施する能力。それらを保持する能力。
--
知的な有能性。資源の入手口から、相手を退かせること。そのための戦略を、構築し、実行する能力。
--

攻撃。資源の奪取。資源としての情報の、奪取。
セキュリティ。資源の防衛。資源としての情報の、防衛。

気体的思想や、液体的思想。それらとの関連性。
それは、以下の内容である。

気体的思想に基づく、競合相手の、撃退や無効化。
競合相手を、弾き飛ばすこと。
気体分子運動シミュレーションの応用。

液体的思想に基づく、競合相手の、撃退や無効化。
競合相手を、丸呑みすること。競合相手を、包含すること。競合相手を、専制支配すること。
競合相手を、排すること。競合相手を、除外すること。競合相手を、内部から追放すること。
液体分子運動シミュレーションの応用。

神経系動作のシミュレーションにおいて。
気体分子運動。液体分子運動。それらのシミュレーションのプログラムとの、統合を、最終的に行うこと。その実現が、必須であること。

（2022年7月初出。）

神経系における、存在中の環境を入れ替える能力。神経

系における、環境の中を移動する能力。それらの、実装。

神経系が存在可能な環境について、予め、番号を振って、配列化すること。環境番号を、設定すること。
神経系の出力細胞において、現在存在中の環境番号を、新たな別の番号へと変更することを、可能にすること。
例。空間移動。
神経系の出力細胞において、現在存在中の環境番号を、隣接する、新たな次の番号へと、次々に変更することを、可能にすること。

環境番号。
既に存在する番号。例。別領域への転進。
新たに拡張的に生成する番号。例。新領域が、新たに、開拓可能になること。
新たに収縮的に喪失する番号。例。既存領域の喪失。既存領域が、新たに、存在不可能になること。

（2022年8月初出。）

神経系における、環境を変動させる能力。その、実装。

環境変数。
その環境が持つ、固有の値。

環境の読み取り。
環境変数の値の参照を、行うこと。

環境変動。環境への書き込み。
環境変数の値の置換を、行うこと。
環境変数に対して、加算や減算を、行うこと。
環境変数を、無効化すること。

環境変数の変更の有無についての、フィードバック。
環境変数の変更の、成功や失敗についての、フィードバック。

それらを、環境から、得ること。

（2022年8月初出。）

神経系における、環境に対して、刻印を、行い、残す、能力。その、実装。

環境変動。環境への書き込み。
書き込んだ値を、長期間にわたって、その環境中において、保持可能にすること。
それは、以下の内容である。
刻印。
例。
硬質の金属への、絵柄や、記号の、彫刻。
他の神経系への、神経回路の、複写。

（2022年8月初出。）

神経系における、環境との間で、信号や記号をやり取りする、能力。その、実装。

情報。
神経系にとっての、全ての入力刺激。
環境からの、全ての表現。

信号。
神経系にとって、彼自身の生存維持に直結する、入力刺激。神経系にとって有意味な、入力刺激。
神経系にとって、彼自身の生存維持に直結する、環境表現。神経系にとって有意味な、環境表現。

その、環境からの、読み取り。その、環境からの、受信。
その、環境への、書き込み。その、環境への、送信。
例。
他の神経系との、信号の交信。

記号。
ある信号情報の、短縮や圧縮や、冗長化や、別の表現への置き換え。それらの結果。
例。
他の神経系との間で交わされる記号の、その神経系内部における、解釈。その能力の、学習。

（2022年8月初出。）

環境における、神経系に対して、任意のタイミングで、任意の入力刺激を発生する、能力。その、実装。

その環境の、自動プロセス化。
その自動プロセスにおける、トリガー設定能力の、実装。
その自動プロセスにおける、そのトリガーを引く能力の、実装。
その実装において。
そのトリガーを、自発的に、自動的に、任意のタイミングで、任意の回数で、任意の間隔で、任意の強度で、引く能力の、実装。
その自動プロセスにおける、タイミング設定のための、時刻設定の能力の、実装。

例。
古典的条件付けにおける、本来の入力刺激とは別の、新たな入力刺激の、同時の発生。
その発生タイミングの、研究者による、自由な、設定や制御の、可能化。

（2022年8月初出。）

神経系における、権利関係。それらの、実装。

存在。
それは、以下の内容である。
--
生物。
非生物。無機物。例。土砂。水流。
--

権利。
それは、以下の内容である。
--
ある存在が、ある資源を、好きな時に、自由に入手出来ること。その可能性を保有すること。
ある存在が、ある資源の入手口に対して、好きな時に、自由にアクセス出来ること。その可能性を保有すること。
--

権利を取得すること。
ある存在が、ある資源を、好きな時に、自由に入手出来る状況。その存在が、それを、新たに確保すること。
ある存在が、ある資源の入手口に対して、好きな時に、自由にアクセス出来ること。その存在が、それを、新たに確保すること。

権利を持っていること。
ある存在が、ある資源を、好きな時に、自由に入手出来る状況。その存在が、それを確保していること。
ある存在が、ある資源の入手口に対して、好きな時に、自由にアクセス出来ること。その存在が、それを確保していること。

権利の、獲得と喪失。
ある存在が、彼自身のの権利を、他者によって、奪われること。
ある存在が、他の存在の権利を、一方的に奪うこと。
例。急に発生した土石流が、真水の取水口を、一方的に塞ぐこと。

ある存在が、他の存在に対して、彼自身の権利を、双方の合意に基づいて、移譲すること。

ある存在が、他の存在の権利を、先方の同意に基づいて、得ること。
双方の合意において。
需給の強弱における、優劣関係や、上下関係が、両者の間に、存在すること。
交渉能力における、優劣関係や、上下関係が、両者の間に、存在すること。
例。
リアルタイムの情報収集に用いる設備の保有。その、豊かさや富裕性における、優劣関係や、上下関係が、両者の間に、存在すること。
心理的な押しの強さにおける、優劣関係や、上下関係が、両者の間に、存在すること。

権利における、社会的上下関係。

社会的な上位性。
ある存在が、他の存在の権利を、一方的に奪うこと。その存在が、その可能性を、有すること。

社会的な下位性。
ある存在が、彼自身の権利を、他の存在によって、一方的に奪われること。その存在が、その可能性を、有すること。

下位者が、彼自身のの権利を、上位者によって、奪われること。
上位者が、下位者の権利を、一方的に奪うこと。

そうした可能性の、発生要因。
権利を奪取する可能性。上位性。その、発生要因。
--
有能性。
既得権益の、高度な蓄積。例。資源採取のための、高性能な設備の、保有。
--

権利を奪取される可能性。下位性。その、発生要因。
--
無能性。
既得権益の、低度な蓄積。例。資源採取のための、設備そのもの

の、非保有。
--

個人による、権利の保証。
ある存在。彼自身の権利。その、私的な、防衛。
その存在が、そのための能力を、有すること。
その存在が、そのための既得権益を、有すること。

社会による、権利の保証。
例。人間の国家による、人権の保証。
それは、以下の内容である。
--
社会による、個人の権利の、保証。
社会による、集団の権利の、保証。
社会による、社会の権利の、保証。
--

社会のルールを、生成する存在。
それは、以下の内容である。
--
その社会における、上位者。
彼らにおいては、以下の場合が、存在する。彼らが、その社会における、少数派である場合。
--
その社会における、多数派。
--

社会的ルールによる、権利の保証。
それは、以下の内容である。

上位者による、下位者の権利の、保証。
上位者による、下位者に対する、権利の、付与。

その社会の多数派による、その社会のメンバーの権利の、保証。
その社会の多数派による、その社会のメンバーに対する、権利の、付与。

現状の、民主主義。
ある社会において、上位者と、下位者とが、相互に、入れ替わるこ

と。
ある社会において、多数派と、少数派とが、相互に、入れ替わること。
ある社会において、少数派が、上位者になることが、出来ること。
それらの可能性が、その社会の上位者の力によって、確保されていること。
それらの可能性が、その社会の多数派の力によって、確保されていること。
多数性の確認方法。個人による、意思表示。その実現のための、個人による投票の、実施。それらの投票数の累積の度合。

神経系における、権利関係。それらの、実装。
ある神経系における、権利の、獲得と喪失。それらの、実装。
それは、以下の内容の、下位概念である。
ある存在における、権利の、獲得と喪失。それらの、実装。

存在。
それは、以下の内容である。
--
生物。
非生物。無機物。例。土砂。水流。
--

ある存在が、他の存在を、資源の入手口から、押し退けること。
ある存在が、他の存在を、現在の居場所から、押し退けること。
その存在が、そのことを実現するための、力を、備えていること。
そうした力の源泉。
それは、以下の内容である。
--
有能性。例。強靭性や瞬発力が、高いこと。
既得権益の、高度な所有性。例。高性能なブルドーザーの、私有。
--

有能性。保有する既得権益。それらの両者を合算した数値。
それらの数値を、各々の存在毎に、リアルタイムで算出すること。
それらの数値を、二つの存在同士で、リアルタイムで衝突させること。
その数値が、より大きかった存在が、その数値が、より小さかった存在を、資源の入手口から、押し退けること。

その数値が、より大きかった存在が、資源の入手口を、取得すること。
その数値が、より小さかった存在が、資源の入手口を、喪失すること。

双方の衝突において、勢力が均衡している場合。
そのままでは、双方の衝突が、いつまでも終わらず、決着しないこと。
そのことへの対策。
疲労の概念を、導入すること。
衝突攻撃能力における、消耗や疲労。例。筋力面や精神面での、負荷の蓄積による、疲労。
衝突防御能力における、消耗や疲労。例。コンクリートの、強度面での疲労。

疲労の蓄積の結果。
衝突能力が、時系列的に、低下して行くこと。
その結果。
双方の、衝突における均衡が、破れること。
資源の入手における、勝敗が、決すること。

（2022年7月初出。）

神経系による、他の存在における資源性の有無の、認識。その可能性の、実装。

ある生物の生存維持における、資源の摂取の必要性。
それは、以下の内容である。
例。真水。塩分。栄養のある有機物。それらの摂取。
それらの実現のための、前提となる、能力。
それは、以下の内容である。
例。真水。塩分。栄養のある有機物。それらの発見。それらの、判別と選定。それらの、吸入や吸収。
それらは、以下の行為により、獲得される。
--

遺伝的な試行錯誤。突然変異の繰り返し。
文化的な試行錯誤。チャレンジ行為と、失敗学習の、繰り返し。
遺伝的な情報伝達。遺伝子の自己複製による、親から子供への、先天的な情報伝達。
文化的な情報伝達。学校における、教師から生徒への、後天的な情報伝達。
--

それらの能力を獲得した、神経回路。その実装。
特定の入力刺激を、特定の資源の実在を示す信号として、認識すること。
そうした知的能力の、神経回路による、実現。

（2022年7月初出。）

神経系による、他の存在における生物性の有無の、発見や認識。その可能性の、実装。

生物。
それは、以下の内容である。
--
無機物を支配する、物理法則。
そうした法則に逆らって動く、存在。
そうした存在を、発見し、認識する、能力。
例。
重力の法則に逆らって動く、存在。
低所から、高所へと伸びる、樹木。
低所から、高所へと飛び立つ、鳥類。
--
有機的な栄養分を内蔵する、存在。
自己資源化がなされた、生体。
例。
タンパク質を内蔵する、牛や馬の、生体。
--

ある存在における、そうした性質の保有。
ある神経系による、そうした内容の、発見や認識。
特定の神経回路による、そうした知的能力の、実装。

（2022年7月初出。）

神経回路の設計の、遺伝的な規定や決定。その実装。

神経回路の設計に関わる、遺伝子配列。それらの情報内容の、規定や決定。
特定の遺伝子配列情報から、特定の神経回路の設計内容への、自動的な変換。その、最小限のプロセスの、解明。
それらの内容について、最も簡易なモデルを、作成し、実装すること。

神経回路の設計の、遺伝的な変更。その実装。
神経回路の設計に関わる遺伝子配列。それらの情報内容の、自己複製エラーに基づく、突然変異。

（2022年7月初出。）

神経系における、出力細胞。その働き。

神経系における、出力細胞。
その機能。
環境に対する、出力を行うこと。物理的な出力。通信的な出力。
そのことで、環境を、彼自身にとって、より生きやすい内容へと、変化させること。
外部環境に対する出力細胞ばかりでなく、内部環境に対する出力細胞も、必要であること。
例。生物の口腔内部での、水分や栄養分の吸収のための、筋肉運動。

（2022年8月初出。）

生物の神経回路における、フィードバック機能の、実装。

出力細胞による出力が、有効だったかどうかは、その出力細胞には判断不能であること。
その判定は、その出力に対する環境からの反応を受け取った入力細胞を経由して、中間細胞のどれかが、判定すること。
それらの、具体的な作動プロセス。
神経回路における、汎用的な、フィードバック機能の、実装。
その実現に必要な、予備知識。制御工学についての、作為的な数学理論を伴わない、基盤的な知識。

基本的な、フィードバック機能。
それは、以下の内容である。
--
ある出力値について、その出力の結果において、事前に期待する、新たな入力値を、予め、初期設定し、記憶すること。
出力値を、その都度、別途、前回の出力値として、記憶すること。
前回の出力値と、それに対応する新たな入力値とを、比較すること。
新たな入力値が、期待外れだった場合は、出力値を、新たな値へと、修正すること。
その、修正済みの出力値の出力を、新たに行うこと。
あるいは。期待する入力値の値を、新たな値へと、修正し、新たに記憶し直すこと。

上記の内容を、恒常的に繰り返すこと。
--

生物の神経回路における、必要な、フィードバック機能。
それは、以下の内容である。
--
期待される、入力細胞における、入力値。期待される、外部環境における、出力値。
それは、以下の内容を、実現すること。
生きやすさの輸出入において、黒字化が実現すること。現在所有している生きやすさが、更に増大すること。現在所有している生きやすさが、現状維持されること。

内部環境における、現在所有している、手持ちの資源。それが、更に増大すること。それが、減少しないこと。内部環境から、それらの事実を示す出力値が、送られてくること。
そうした新たな、外部環境からの入力値を、予め、初期設定し、記憶すること。

出力値を、その都度、別途、前回の出力値として、記憶すること。
前回の出力値と、それに対応する新たな入力値とを、比較すること。

新たな入力値。
その大きさは、以下の内容を示す値へと、変換されること。
マグニチュード。インパクト。

新たな入力値の取得において。
内部環境からの、生きやすさの水準を示す数値が、改善されたか、改悪されたかを、判定すること。
それが改善された場合。それは、期待に沿っていること。
それが改悪された場合。それは、期待外れであること。

それらの判定を担う中間細胞が、その判定結果を、次の中間細胞へと、通知すること。
その判定には、以下の二種類が、あること。

（１）
前回の出力値が、適切であったかか、不適切であったかを、示すこと。
その判定結果は、発火の有無を示す、1か0かで、示されること。
（２）
前回の出力値が、超過であったかか、過少であったかを、示すこと。
その判定結果は、発火の有無を示す、1か0かで、示されること。

新たな入力値が、期待外れだった場合は、出力値を、新たな値へと、修正し調節すること。
その修正や調節における、ガイドライン。

新たな入力値が、大き過ぎる場合。新たな出力値を、より小さい値へと、抑制すること。抑制タイプの中間細胞が、動作すること。

新たな入力値が、小さ過ぎる場合。新たな出力値を、より大きい値へと、促進すること。促進タイプの中間細胞が、動作すること。
新たな入力値が、丁度良い場合。新たな出力値を、修正しないこと。

その、修正済みの出力値の出力を、新たに行うこと。

あるいは。
内部環境からの、生きやすさの水準を示す数値が、改善されたか、改悪されたかを、判定する基準。
その基準値を、見直すこと。その基準値を、新たな値へと、修正し、新たに記憶し直すこと。
その基準値のクリアが、容易過ぎる場合。その基準値を、より厳しくすること。
その基準値のクリアが、困難過ぎる場合。その基準値を、より緩めること。
その基準値のクリアが、妥当で適切である場合。その基準値を、特に変更しないこと。

それらの判定を担う中間細胞が、その判定結果を、次の中間細胞へと、通知すること。
その判定には、以下の二種類が、あること。

（１）
前回の基準値が、適切であったかか、不適切であったかを、示すこと。
その判定結果は、発火の有無を示す、1か0かで、示されること。
（２）
前回の基準値が、超過であったかか、過少であったかを、示すこと。
その判定結果は、発火の有無を示す、1か0かで、示されること。

前回の基準値が、期待外れだった場合は、基準値を、新たな値へと、修正し調節すること。
その修正や調節における、ガイドライン。

前回の基準値が、困難過ぎる場合。新たな基準値を、より実現容易な値へと、抑制すること。抑制タイプの中間細胞が、動作するこ

と。
前回の基準値が、容易過ぎる場合。新たな基準値を、より実現困難な値へと、促進すること。促進タイプの中間細胞が、動作すること。
前回の基準値が、丁度良い場合。新たな基準値を、修正しないこと。

その、修正済みの基準値の設定を、新たに行うこと。

それらの結果に基づいて。
予期し、期待する、外部環境からの入力値の値を、新たな値へと、修正し、新たに記憶し直すこと。

（2022年8月初出。）

出力細胞による出力。その有効性の、神経系自身による、評価。その評価能力の実装。

出力細胞による出力は、相手の環境が所有する有能性の強弱によって、有効になったり、無効になったり、効力が、強くなったり弱くなったりすること。
それらは、環境が、外部環境の場合も、内部環境の場合も、無生物の場合も、生物の場合も、全て、共通であること。
その有能性の、分類。物理的な有能性。通信的な有能性。
それらの決定要因。
物理の場合。質量。作動エネルギー量。速度。加速度。
通信の場合。データ量。作動エネルギー量。データ速度。データ加速度。
例。出力細胞による出力は、相手の環境が所有する強靭性や俊敏性の強弱によって、有効になったり、無効になったり、効力が、強くなったり弱くなったりすること。
その例。相手に対する、打ち出しや吸入や刻印は、相手が軟弱な地盤の場合は、有効になり、相手が強固な岩盤の場合は、無効になること。
その例。相手に対する、打ち出しや吸入や刻印は、相手が愚鈍な場

合は、有効になり、相手が俊敏な場合は、無効になること。
例。移動の出力は、相手の地形の平面性や立体性の次第で、有効になったり無効になったり、効力が、強くなったり弱くなったりすること。
それらの、具体的な作動プロセス。
出力細胞による、出力。その出力の質量。その出力の速度。その出力の加速度。その出力の持つエネルギー量の、計算。
その出力の、環境との、衝突。その発生の、判定。
それらの衝突時。
環境による、出力。その出力の質量。その出力の速度。その出力の加速度。その出力の持つエネルギー量の、計算。
それらは、環境が、外部環境の場合も、内部環境の場合も、無生物の場合も、生物の場合も、全て、共通であること。
それらの衝突後。
その生物と、環境との、双方の、物理的な反応。その、計算。その結果の、シミュレーション世界における、記憶や記録。
それらの物理的な反応の、内容。位置の移動。変形。
その結果内容の、入力細胞による、感知。その、可否。その感知が、可能である場合。その値。
その値の、入力細胞から、中間細胞への、転送。
中間細胞による、状況の判定。出力を続けるかどうかの、判定。
中間細胞による、新たな出力内容の、決定。
出力の続行。
出力の一時停止。
出力の、完全な中止。

出力続行の場合。
--
出力頻度の、増大か、減少か、現状維持。
--
出力タイミングの、調節。その、定常化。その、変動。
--
出力内容の、増大か、減少か、現状維持。
前回と同様の内容。内容の強化。内容の弱化。内容の、慣性化と繰り返し。
前回とは異なる内容の、新たな別途の出力。
--
出力の、液体性と気体性。
液体性。環境における、定常的な、不動や定住。環境における、位置の不変性。環境との、一体融合化。環境との、調和。環境の、丸

呑み。環境に対する、表面張力の行使。環境に対する、閉鎖性や排外性。
気体性。環境における、定常的な移動。環境における、位置の、自発的な変動性。環境との、分離独立化。環境に対する、機動的な攻撃。環境に対する、開放性。
それらは、以下の内容の、反映である。生物における、男女の性差。
--

中間細胞による、新たな出力内容の、出力細胞への、送信。

（2022年8月初出。）

生物の神経系における、資源の入手。その簡略化された、基本的なプロセス。

生物における、資源の入手。その簡略化された、基本的なプロセス。
資源の探査。そのための、空間移動。その試行。中間細胞。出力細胞。外部環境に対して。
その移動の、その時々における、成功の感知。入力細胞。中間細胞。フィードバック。外部環境に対して。
資源の存在の感知。入力細胞。中間細胞。外部環境に対して。
資源の入手の、開始。その試行。中間細胞。出力細胞。外部環境に対して。
資源の入手における障害物の、存在の感知。入力細胞。中間細胞。外部環境に対して。
その障害物の除去の、試行。中間細胞。出力細胞。外部環境に対して。
その除去の、成功の感知。入力細胞。中間細胞。フィードバック。外部環境に対して。
資源の入手の、開始。その試行。中間細胞。出力細胞。外部環境に対して。
その開始の、成功の感知。フィードバック。外部環境に対して。
資源の入手の、続行。その試行。中間細胞。出力細胞。外部環境に対して。
その結果。外部環境における資源量を、減らすこと。中間細胞。出

力細胞。外部環境に対して。資源量についての、マイナス演算の、打ち出し。
資源を入手中であることの、その時々における、感知。入力細胞。中間細胞。フィードバック。内部環境に対して。外部環境に対して。
資源の入手の、完了。その感知。入力細胞。中間細胞。内部環境に対して。
例。牛馬や鳥による、水飲み場での、飲水の行為。
例。人間による、石油タンクから、石油ポンプを用いて、石油を吸い出す、行為。
例。人間による、パソコンの内蔵記憶装置から、外部メモリを用いて、データを吸い出す、行為。

（2022年8月初出。）

通信的空間。通信による移動。その実像。

通信による移動は、物理的移動の一種であること。
通信による移動。
それは、以下の（１）から、以下の（２）への、物理的移動であること。
（１）
情報が刻まれていた、送信元の、以前の記憶装置。その、物理的位置。
（２）
新たに情報が刻まれる、受信先の、次の記憶装置。その、物理的位置。

そうした移動が起きる空間としての、通信的空間。
そうした通信的空間は、結局は、物理的空間の一種であること。

（2022年8月初出。）

神経回路のモジュール化の、必要性。

神経回路のモジュール化が、必要であること。
その実現による、神経回路の各部分における、普遍的な共通化が、必要であること。

例。
入力細胞から、中間細胞への、情報伝達の、送信部分。
入力値の、マグニチュードやインパクトに基づく、修正の、付与。

例。
中間細胞から、出力細胞への、発火伝達の、送信部分。
それらは、共通に、以下の機能を、持つこと。
前回の出力値に対する、フィードバックの付与。

（2022年8月初出。）

神経回路のプログラミング。その、**python**言語による、サンプルコード。

ソースコード_1

ソースコード_2

無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

はじめに

この本は、エッセイ形式でまとめられています。
各記事は、筆者が執筆した順番に並んでいます。

どこから読み始めてもOKです。

脳の活動を監視するヘルメットやヘアバンド。それらの存在による、良心の発生。

人間の内心を、外部から、うかがい知ること。
それは、現状では、難しい。

ある人が、殺人や詐欺のような邪悪な意図を抱いている場合。
仮に、彼が、周囲に対して、外観的に、良い人の振りをした、とする。
すると、周囲の人々は、以下のように思ってしまう。

「この人は、別に悪い人ではない。」

そのため、人間は、どうしても、以下のことを行いがちである。
周囲から見えないところで、隠れて、悪いことをすること。

そうした人間の内心を、絶えず監視すること。
そのことで、人間が、悪いことをしないように、導くこと。
そのような役割を果たす存在。
人間が、そのように考え出した存在。
それが、宗教における、神である。

今までの人間。
彼らは、以下の内容の実現を、毎日、必死になって、試みて来た。
神によって、絶えず、彼ら自身の内心を、見守られていること。
そのように、思い込むこと。
そのことで、悪いことをしないようにしようとする自制心が、働くこと。
そうした、外在的な、仮想の力ある存在に頼ること。
そのことで、彼ら自身の良心を、維持しようとしてきたこと。

しかし、神は、あくまで、人間が仮想的に作り出した、ご都合主義の産物である。
それは、実際に存在するわけでは無い。
それは、あくまで、信心する限り有効な代物である。
人間の宗教心が、科学の発達によって、薄まった場合。
その効力は、急激になくなると考えられる。
そうなった場合。
神という、外部の監視者。
それを失った人間は、以下のことの実現が、そのままでは難しくなると考えられる。
彼ら自身の内心において、良心を維持すること。

科学の時代になった場合。
人間の内心を、監視すること。
そのことで、人間の良心を、維持すること。
そのための仕組みとして、何が考えられるだろうか？

考え得る可能性の一つ。
人間の脳における、特定箇所から全体への活動。
その内容を読み取る、以下のような存在。
MRI。
脳血流のパターンを読み取る装置。
神経回路の活動を読み取る装置。

そのような機械や、ハードウェアを、活用すること。
人間の脳の活動を監視する、ハードウェア。
それを、極力、小型化し、省電力化すること。
それは、例えば、以下のような装備を伴うハードウェアであること。
例。
軽いヘルメットや、ヘアバンド。
太陽電池や、軽量の充電池。

そうしたハードウェアを、個人が、いつでもどこでも、絶えず着用すること。
例。
彼が寝ている間。

そのことを、以下の存在によって、義務付けること。
人類において普遍的に通用する、法律。

人間の脳活動を、測定し、監視する機能。
それを内蔵する、ヘルメットや、ヘアバンド。
人間が、それらを、常に着用すること。

そのことで、以下の内容の実現が、可能になる。
人間が、ある特定の考えを抱いた場合。
そのことを、自動的にチェックすること。
その旨を、以下のようなハードウェアに、表示すること。
例。
ヘルメットに装着されたランプ。
遠隔地に存在するモニタ。

人間が、それらの利用によって、他人の心理状態を、無線経由で、常に、監視すること。

人間が、嘘をついた場合。
その際に、脳の活動上に現れる、特異なサイン。
それを、脳の活動を監視するヘルメットが、読み取ること。
そのことを、ランプや、電波などを用いて、周囲の人々に対して、表示すること。
そうすることで、以下の内容を、周囲の人々に対して、通知し、警告すること。
嘘つきの人間が、彼ら自身の直ぐ近くに、存在すること。

嘘発見器。
それは、従来は、皮膚を、測定していた。
それが、直接、人間の脳活動を、測定すること。
そのことが、新たに可能になること。
そのことで、嘘つきの人間を発見する際の精度を、大幅に向上させること。

人殺しや、詐欺。
そのような、邪悪で、危険な考え。

それらの持ち主。
彼らが、そうした邪悪な考えを持った瞬間に、彼らの脳の活動上に現れる、特徴的なサインや、パターン。
それらを、彼らの頭部に装着されたヘルメットが、読み取ること。
そのことで、周囲の人々に対して、以下の情報を、公然と知らせること。
「この人は、悪い人です！」
そうした情報が、インターネットや電話の向こう側に存在する取引相手に対しても、正しく通知されること。
そのように、情報システムを、構築し、維持すること。

怒って興奮していること。
そうした心理状態になっている人物。
彼の内心を、ヘルメットで検知すること。
そのことで、周囲の人々が、以下の情報を、ランプの点灯や、特定電波の発信によって、リモートで、分かるようにすること。
「この人は、とても機嫌が悪いです。
あなたが、この人に近づいた場合、あなたは、きっと、とても酷い目に遭います！」

犯罪を、人知れず犯していること。
そして、そのことについて、素知らぬ顔をしていること。
その事実が、周囲の人々に対して、ばれること。
そうしたことが起きると、困ること。
その発生について、とても不安であること。
そうした内心を、ヘルメットで特別に感知すること。
そのことで、周囲の人々が、以下の情報を、リモートの状態で、理解すること。
「この人は、隠れて悪いことをしている、犯罪者です！」

脳内を監視する情報。
GPSがもたらす位置情報。
それらを組み合わせて、周囲の人々に対して、以下のような通知を、行うこと。
「悪いことをして、なおかつ、そのことを、隠したがっている人。
そうした悪人が、この町内にいます！」
そうした情報を、周囲の人々にとって、判別可能にすること。

人助けをする気持ち。
平和な気持ち。
そうした、良い考えの持ち主。
彼が、そうした良好な考えを持っていること。
そのことを、彼の脳活動から、読み取ること。
そして、周囲の人々に対して、以下のような情報を通知すること。
「この人は、危険人物ではありません。
安心して下さい。
この人は、とても良い考えの持ち主です！」

そのことで、彼の元に、良心や善意のポイントが、貯まること。
もしも、ある人物の元に、そうしたポイントが、たくさん貯まった場合。
その人物について、以下の通知を、周囲の人々に対して、行うこと。
「その人物は、人徳の高い聖者です。」

脳の活動を監視するヘルメット。
それが、人間の脳内の心理状態を測定し、チェックすること。
そのことで、それが、人間の内心の監視者として機能すること。
その結果、それが、人間に対して、良心の発生を促すようになること。
そのことで、従来の見張り役である神が要らなくなること。
その結果、宗教も要らなくなること。

脳科学の進展。
そのことで、人間は、神と宗教を、克服することができる。
それは、一種の科学革命である。

全ての人間に対して、ヘルメット装着を義務づけること。
その実現によって、以下のことが可能になる。
ヘルメットを装着していない人間。
彼らがそうした行動をすること自体、以下のことの表れであること。
彼らが、その内心において悪意を抱いていること。
そのため、彼らは、そのままでは、ヘルメットを装着することが、できないこと。
彼らは、そうした行動を取ることで、以下の事実を、周囲の人々に

対して、示していること。
「私は、実は、危険人物です！」
そのように、彼らの内心を割り出すこと。

その場合、以下のことを考慮する必要がある。
プライバシーとの兼ね合い。
個人の脳の活動の全てを、洗いざらい、外部に対して、ヘルメット経由で公開すること。
それは、プライバシーの侵害を引き起こす。

自分の内心の考えが、皆外部に漏れてしまうこと。
そのことを考えて苦しむ、統合失調症の患者。
彼らが抱える問題と同様の問題。
それらが、ヘルメット着用者に起きてしまうこと。
そのことが、十分に予想されること。

そのため、少なくとも、予め、以下の内容を実現すること。
ヘルメットの機能を、当初は、以下のような内容へと、絞ること。
個人が、その内心に、悪意を抱いていること。
そのことを、外部に通知し、摘発する機能。

そうした形で、ヘルメットを、新たに製作すること。

（2008年9月初出）

死後の世界は存在しない。神経系と、霊魂。

霊魂は、以下のような存在である。
神経系が活動している状態。
神経回路上を通る、電気的なインパルス。
それらの発火や伝達。
それらの集合体。

霊魂については、以下の内容が実現可能である。

その存在を、個別の神経回路の活動へと、バラバラに分解して、考えること。

その点、以下の内容の主張が、十分に可能である。

霊魂が、人間だけでなく、神経系を持つ動物一般において、広く存在すること。

例。
カナブンのような昆虫。
神経系が、彼らの頭部に、内蔵されていること。
そのため、彼らの体内において、魂が、確実に存在すること。

霊魂が、人間だけでなく、電化製品一般において、広く存在すること。
例。
テレビやパソコンのような、電化製品。
それらの内部に存在する電気回路の上を、電流が生きて通って、流れていること。
その点では、それらも、電源が入っている間は、生きていること。
その意味では、それらは、魂を持っていること。

死ぬということ。
それは、以下のことと同一である。
神経系や電気系統。
それらの上を、インパルスや電流が流れなくなること。
それらを内蔵する存在の内部において、電気が消えること。

電気製品は、そのコンセントを抜く度に、死ぬ。
その製品に、内蔵バッテリーが存在する場合。
その内蔵バッテリーも同時に抜くこと。
そのことで、その製品を、完全に死亡させること。
その製品の魂を、完全に消すこと。
そうしたことが、可能である。

動物や人間の場合。
それらの神経系に酸素が送られなくなること。
それらの脳が、物理的に破壊されること。
上記のいずれかの事象が、発生すること。

その結果、それらの神経系が不活性化すること。
そのことで、それらの内部において、電気的なインパルスが伝達しなくなること。
その結果、それらが、冷たくなり、動かなくなること。
その時点で、それらが、死んだことになること。

魂は、電気的な存在であること。
生命や人間や電化製品が、死んだ場合。
魂は、その時点において、その場で消滅すること。

以下のことは、あり得ない。
魂が、独りでに、天に昇ること。
そのことから、以下のことが言える。
死後の世界は、天国も、地獄も、共に存在しないこと。

死んだ人の霊魂は、どこにあるか？
それは、どこにも存在しない。
それは、神経系の活動の停止と同時に、その場で消滅した。

死後の世界の存在。
そのことを前提とした、世界の諸宗教。
それらは、以下の内容へと、改められるべきである。
死後の世界を存在しないものとした、現世完結の内容。

（2008年9月初出）

無宗教や無神論者の人でも救われること。その実現方法。

無宗教者。
無神論者。
彼らは、以下の行為を、日々実践する。

他人の生存の役に立つこと。
それは、労働でも何でも良い。

無宗教者。
無神論者。
彼らは、以下の内容を、日記やレシピとして、文書化する。

（１）
「具体的に、こういうことをしたら、他の人の役に立ち、喜ばれた。」

そうした善行のノウハウ。

（２）
「これは、人が生存していく上で、重要である。
私は、それを、残したい。」

そのように思うこと。
彼ら自身における、そうした信念や教訓。

（３）
「人間は、具体的に、こういうことをしたら、良い。」

そうした、ビジネス上のノウハウ。

（３－１）
その行為は、他人にも自分にも利益になる。

（３－２）
その行為は、需要がある。

（３－３）
その行為は、社会的に害悪を生み出さない。

無宗教者。
無神論者。
彼らは、上記の文書について、以下の行為を実行する。

（１）
それを、彼ら自身の遺伝的子孫へと、代々伝えること。

（２）
彼ら自身と関係の深い他者。
彼ら自身にとって、思い入れのある、組織や、集団。
例。
企業。
官庁。
それを、それらの構成員によって、代々受け継いでもらうこと。

（３）
後世にデータを残してくれる、信頼の置ける機関や施設。
例。
日本の国立国会図書館。
それを、それらの存在へと送付して、後世に残すこと。

その人は、例え、無宗教者や無神論者であっても、後世の社会から讃えられ、救われる。

彼ら自身の考えや、創意工夫やノウハウ。
それらが、後世にずっと残り続けること。
それは、半ば、以下のことと、同じことになる。

永遠の命を得たこと。

無宗教者や無神論者。
彼らは、そうして、永遠の命を、得る。

彼らは、そうして、救われる。

彼らは、そうして、天国に行ったことと同じ効果を、得る。

（2014年4月 初出）

全ての神は、人造神である。

今まで出てきた、宗教の神。
それらは、全て人が考え出したものである。
それらは、人間の知能の枠内を、出ていない。

その点、それら、宗教の神は、皆、人造神と呼べる。

それらの神は、総じて、人間臭いものに転化せざるを得ない。
それらの神は、人間の作成物の範疇を、出ていない。

（2014年4月 初出）

大自然は、人格を持たない。それは、神にはなり得ない。

大自然の猛威。
それらは、人間側の事情を一切考慮せずに、人間をひたすら翻弄する。

大自然は、そもそも、人格を持たない、物理化学的な存在である。
それらは、人格を持つ神とは無縁の存在である。

人間は、大自然を、あたかも天の神であるかのように、人格化してきた。

人間は、大自然を、何とか、以下の存在へと、転化させようとしてきた。

彼ら自身と、対話できる存在。
人間は、大自然について、以下のように思い込もうとしてきた。

「大自然は、私たちと、対話してくれる。」

しかし、それらの試みは、ほとんど意味が無い。

仮に、人間が、大自然の産物を、顕微鏡などで、いじって分析した、とする。
すると、人間は、それに対応する結果を、得ることができる。
それは、正に、以下のように呼ぶことが、出来る。

「大自然と人間との、真の対話。」

（2014年4月 初出）

本当の聖人。

ある人間を救う存在は、他の人間である。
それは、神みたいな作り物の存在では無い。

現世は、救いの無い社会です。
だから、あなたは、私のことを、何とか救って下さい。

そのように、人造神に祈るだけであること。
それでは、その人は、本当の聖人にはなれない。

「現世が、どうしたら、救いの得られる社会になるのか？」
そのノウハウを、自ら試行錯誤して生み出すこと。
その内容を、彼自身の人生において、実践すること。
そうした行為の実践者。
彼こそが、本当の聖人である。

その言説は、例え、彼自身が、どの宗教に属さない場合でも、彼自身に対して、当てはまる。

（2014年4月 初出）

人間の霊魂は、死後、消滅する。

人間の霊魂。
その実体は、脳のニューロン群の電気発火活動の集まり、である。

心臓が停止すること。
そのことで、脳に酸素が行かなくなること。
その結果、脳のニューロン群や、神経細胞群は、発火に必要なエネルギーを、断たれる。
それらは、発火することを、停止して行く。
それらは、最後には、どの細胞も発火しなくなり、死んでしまう。

その時点で、人間の霊魂は、どこにも行かずに、その人の脳の中で消滅する。

死んだ人の霊魂は、天国にも地獄にも行かない。

天国や地獄。
それらは、以下のような時代において、人間が勝手に創り出した概念に過ぎない。
脳の中のニューロン群の働き。
それらが、一般的に、知られていなかった時代。

霊魂は、ただ消え去るのみである。

（2014年4月 初出）

神を信じなくても、罰は当たらない。

神を信じなくても、罰は当たらない。

神は、そもそも、以下のような存在である。

人間が作り出した、実体の無い存在。
神は、存在しない。
そのため、以下の事象の発生は、あり得ない。

神が、何らかの働きを、人間に対して、もたらすこと。

むしろ問題なのは、以下の人々による、以下の行為である。
宗教を信ずることで、既得権益を得ている人々。
彼らによる、神を信じない人に対する、攻撃。
彼らによる、神を信じない人に対する、援助の打ち切り。

これが、以下のことの正体である。
「人は、神を信じないと、罰が当たる。」

（2014年4月 初出）

精神病としての宗教信仰。精神科医としての無神論者。

精神病としての宗教信仰。
その精神病には、ほとんど全ての人々が、罹患する。
彼らは、以下の形で、一生を過ごす。

全く治癒しない状態を、そのまま持続させること。

精神病者としての、宗教信仰者。

彼らは、以下のような説明を、真面目に信じる。
客観的な現実や真実にそぐわない、まがい物の説明。

彼らは、頼れる存在を、勝手に考え出す。
彼らは、そうした存在を、勝手に信仰する。
そうした存在は、架空である。
その実在は、不可能である。

彼らは、頼れる存在が、とても欲しい。
彼らは、その確保を最優先する。

彼らは、真実と向き合うことを避ける。

その真実。
それは、以下である。

頼れる、大いなる存在。
絶対者。
神。
それは、そもそも実在不可能である。

頼れる祖先。
それは、もう地球上から消滅している。
それは、何も力を持たない。

頼れる現人神。
それは、結局は、無力な人間である。

人々は、同じ信仰対象を持つ者同士で、連帯し、相互扶助する。
宗教を信仰しない者は、その場から追い出され、孤立し、生きていけない。

彼らは、違う信仰を持つ者同士で、攻撃し合う。
宗教戦争は、人々の間で、絶えず勃発している。

彼らは、以下の視点を、欠いている。
合理性。
客観性。
理性。
冷静さ。
大局的な視点。

そのことは、以下の事実の、動かぬ証拠である。

彼らが、精神病であること。

この精神病を治癒させる治療法。
それは、今のところ、存在しない。

この精神病には、万人が罹患する。
この精神病においては、罹患している状態が、普通である。
この精神病において、治癒することは、異常である。
仮に誰かが、治癒したとする。
すると、彼は、人間社会から、異常者扱いされる。
彼は、多数派の精神病者から、社会追放の迫害を受ける。

この精神病から、無事に治癒した者。
それは、無神論者である。

世界中に、無神論者の共同体が、必要である。
無神論者は、もっと社会的な力を持つべきである。
無神論者は、以下のような存在として、社会的に活躍すべきである。

人々を宗教から治癒させる、精神科医。
無神論者は、精神科医として、以下の方法を、一刻も早く探し出すべきである。
精神病としての宗教を、治療する方法。

それは、以下の存在を、人々に向けて提案することである。
合理的で、科学的な、実証可能な、頼れる存在。

そのアイデアの種は、以下の学説の中に、存在する。
遺伝学。
神経科学。
無神論者は、精神科医による処方箋として、以下のことを行うべきである。
遺伝学と、神経科学。
その両者を、社会に対して、徹底的に普及させること。

どうすれば、人々が持つ、以下の欲求を、満たせるか？
頼れる存在に対する依頼心。
無神論者は、それを、必死に研究すべきである。

死後の魂の救済。
それについての、合理的な説明。
その内容を考えること。
それも、上記の治療の一環として、必要である。

魂は、神経の活動が停止すると、消滅する。
死後の天国は、そもそも存在しない。

人々は、以下の内容に関して、とても心配である。
「私自身は、死ぬと、どうなるのか？」

そのため、人々は、そのことについて、一生懸命に、何かしらの説明を付けたがる。
人々は、そうした説明を、あたかも酸素のように、必死になって、欲しがる。

死後の天国を、欲しがること。
それ自体が、精神病の症状である。
それは、以下の症状と、同種である。

例。
糖分を必死になって欲しがる、糖尿病患者。
そうした症状。

宗教の信仰。
人間社会では、その病気に対して、万人が罹患している。
人間社会では、罹患していない健康者が、異常者扱いされる。
なので、宗教は、社会的に問題にならない。
それだけのことである。
宗教の信仰は、精神異常の状態である。
宗教の信仰は、合理性や実証性を欠いている。
それは、社会的に有害である。
それは、精神病である。

（2020年8月 初出）

墓の本当の意義。

墓は、以下のような存在である。
生前のその人やその家族の行い。
それらを、後世に残すこと。
そのための一環としての、物質的なモニュメント。

人間の霊魂は、人間が死ぬと、その瞬間に、消失する。
例えば、以下のように、考えること。
「墓には、ご先祖様の霊が宿っている。」

それは、普通に考えて、あり得ない、頭の悪い考え方である。

ご先祖様の人骨を、保存しておくこと。
そうして、それを、後でDNA解析すること。
その結果、予想外の有効な遺伝子が、発見されること。
そうした可能性は、あり得る。

ただし、その場合、以下のことを考慮する必要がある。
人骨は、物理的な存在であること。
それは、只の化学物質であること。
それ自体を拝んでも、何も出て来ないこと。

「成仏。」

それは、考えても、意味が無いこと。

以下のことを、実現すること。
墓は、そのためにある。

（１）
生前のその人を、もう一度思い出すこと。

その人のことを、私自身の頭の中に、蘇らせること。
そうして、その人のことを、偲ぶこと。

（２）
そうすることで、墓参りした人が、以下の内容を思い出すこと。
故人の残した、人間が生きていく上で有効な、教訓。

（３）
そうすることで、墓参りした人が、以下の内容を、頭の中で活性化させること。
故人の残した、生活上のノウハウや、仕事上のノウハウ

（４）
そうすることで、墓参りした人に対して、以下の内容を与えること。
生きる勇気や知恵。

なので、仮に、関係者の誰かが、墓に対して、以下の仕組みを、構築しておいた、とする。
そうした故人の教訓を、一緒に記録すること。
そのことで、その内容を、随時、閲覧できるようにしておくこと。
すると、皆は、積極的に、墓参りするようになるだろう。

（2014年4月 初出）

天国も、地獄も、存在しないこと。

人間の霊魂。
脳神経系の電気活動。
それらは、人間が死ぬと、停止する。
それらは、そのまま消滅する。

そのため、人間において、死後の世界は、存在しない。

なので、天国も、地獄も、存在しない。

ある人間の死後、存在し続けるもの。
それは、以下の内容だけである。

（１）
その人がセックスして生み育てた遺伝的な複製。
遺伝的子孫たち。

（２）
その人の文化的子孫たち。

（２－１）
その人が生前に、他人に対して伝えた、各種のノウハウ。

（２－２）
その人の生前の動向を記録した、ドキュメント。

死後、人間は、天国にも、地獄にも、行かない。
しかし、あえて言えば、それは、以下の通りになる。

（１）
ある人の生前の言動。
それが記録されて、後世に伝わること。

（２－１）
それにより、その人が、後世において、良い行為をした人だとして、讃えられること。
その場合、その人は、天国に行ったことと同等の状態になる。

（２－２）
それにより、その人が、後世において、憎悪や抹消の対象になること。
その場合、その人は、地獄に行ったことと同等の状態になる。

（2014年4月 初出）

無神論や無宗教の主張。それは、脳神経科学

に基づいて行えば、良い。

昔。
神や宗教の概念。
それらを、人間が発明したこと。
その際、脳神経科学はほとんど発達していなかった。
そのため、脳の中は、ブラックボックスと同じ状態であった。

そのため、人間は、以下のように、勝手に解釈し、想像した。
人間自身の中には、霊魂が宿ること。

人間の死後、その霊魂が、身体から抜け出すこと。
その霊魂は、天国や地獄といった仮想世界に出向くこと。

現在、急速に研究が進んでいる脳神経科学。
それらの知見からは、以下のことが言える。

霊魂や精神。
それらの実体は、以下の通りである。
脳の中の神経細胞同士が形成した、神経回路網。
その中で発生する、インパルスや発火。
それらが引き起こす、神経細胞間における、伝達現象。

それは、電気現象の一種である。

人間の脳は、以下の存在と、同じである。
テレビ。
それは、電源コンセントを抜くと、画面が消えてしまうこと。

脳に対して、酸素が送られなくなること。
脳が破損すること。
仮に、それらの事象が、発生した、とする。
すると、以下の事象が発生する。
神経回路網が、死んだり、破壊されたりすること。

（１）
それは、脳死になる。

（２）
それは、以下の事象の発生につながる。
人格や記憶などの精神現象の変化。

霊魂。
それは、脳神経系の活動そのものである。
人間が死ぬこと。
そのことで、脳の神経細胞が死滅して、発火しなくなること。
すると、霊魂は、ちょうど電源を切ったテレビのように、その場で消滅すること。
霊魂は、死後は、存在し得ない。

霊魂は、身体からは、抜け出せない。
霊魂を残すこと。
そのためには、以下の行為を実行するしかない。
MRIのような機械を、経由させること。
そのことで、その活動状態を、外部へとコピーすること。

それは、言わば、身体霊である。
天国や地獄。
それらの存在場所は、遠く離れた、どこかの空間が、想定される。
霊魂は、そうした遠隔地の天国や地獄へと行く手段や方法を、持たない。
そのことは、例え、天国や地獄が存在したとしても、そのようになる。

天国や地獄。
それらは、以下のような存在である。
地球上や宇宙上のどこからでも、便利にアクセスできる、クラウドサービス。
それは、もしも、それらが、存在すれば、そうなる。
しかし、霊魂は、その場所へは、飛んで行くことが出来ない。
そのため、結局、それらは、存在しない。

もしも、今後、仮に、以下の内容の装置が出来た、とする。
それは、以下のような存在になる。
人造の天国。
人造の地獄。
人間の脳の神経回路網。

それらの内容を、外部へと、コピーすること。
そして、そのコピーデータを、クラウドサービス上に置くこと。
そして、その中身の良し悪しを、判定すること。
それらの動作を、一通り実行すること。
そうして、最終目標の達成に成功すること。
そうした一連の動きを行う、装置。

身体から独立した霊魂。
天国。
地獄。
それらは、現状では、いずれも、存在し得ない。

また、人間の脳と、他の生物の脳とを、比較した場合。
それらは、発達部位の点では、異なっている。
しかし、それらは、基本的な作りの点において、共通性が多い。

これは、以下の説明によって、解釈をすることが、出来る。
同じ起源を持つ、生体。
元は単純な作りだった、生体。
それらが、突然変異を繰り返すこと。
それらが、そのことで、次第に、別々の、複雑で多様な種類になってきたこと。

人間の脳の生成。
それが、創造主の神によって、作られたこと。
そのように主張すること。
そうした主張は、以下の説明に比べて、説明の手間の大きさや、実証性において、大きく劣る。
遺伝学による説明。
それは、生命が持つ、遺伝的なメカニズムによって、作られたこと。

霊魂。
その存在は、以下のことをしなくても、特に問題なく、説明し、解釈することが、できる。
以下の存在を、持ち出すこと。
神のような、創造主。

それは、以下のことを示す。

神の概念。
それは、もはや不要になっていること。
例。
ヤハウェ。
それは、人間が、彼自身の頭の中において、勝手に生み出した、父親代わりの、便利な人造の神である。
それは、脳の中身が分からなかった時代においては、沢山活用されてきた。
脳の解明が更に進むこと。
そうした未来が、実現されること。
その時、神の概念は、その使命を終えるだろう。

神。
宗教。
それらの存在。
それは、以下の事象の進展によって、消され、否定される。
脳神経科学。
遺伝学。
それらの発達。

（2014年4月 初出）

生物や人間にとって、最も大切なこと。

彼ら自身の生きた証拠。
それらが、後世に残ること。
そのことは、生物や、その一種の人間にとって、最も大切なことである。

それらは、以下のように分類される。
彼ら自身が生成した、生きた生体としての、子供や孫。
彼ら自身の遺伝子のコピー。
図書館などで保存される、彼ら自身による自筆の原稿。
彼ら自身の文化的コピー。

報道機関のニュース記録。
彼ら自身が、カメラを利用して撮影した、映像記録。

イベントのコピー。

隠遁者。
ひきこもりの人。
彼らも、以下の行為を実行することで、彼ら自身の生きた証拠を、後世に残せること。
彼ら自身の思索を記録に残し、その内容を、文書保存機関に対して、送付すること。

死後の世界が存在すること。
そのように考える思想。
宗教。
それは、人々による以下の行為（１）を、以下の言説（２）の主張によって、邪魔している。

人々が、彼ら自身が生きている間に、彼ら自身が生きた証拠を、作ること。

「現世よりも、来世を、より重視せよ。」

それは、人々の人生における幸せの実現にとって、大きな問題である。

（2014年4月 初出）

生物の脳と、人間の脳は、共通であること。

解剖図を観察すること。
生物の脳。
人間の脳。
その両者の間において、本質的な違いは、見られないこと。
その両者は、同型であること。

例。

イルカ。

人間の脳。
それは、生物の脳の一種である。
人間を、他の生物との間で、その出来栄えの点において、一線を引くこと。
それは、困難である。

人間だけを特別扱いし、選民扱いすること。
そうした、既存の、宗教や人造神。
例。
キリスト教。
それらは、そのことだけで、既に間違っている。

（2014年4月 初出）

善行を行う存在。それは、救われる必要がある。

善行を行う人々。
彼らにとって、以下の内容の実現が、必要である。
彼ら自身が、何らかの手段によって、救われること。

悪行を行う人々。
彼らにとって、以下の内容の実現が、必要である。
彼ら自身が、何らかの手段によって、罰せられること。

それらが、実現しない場合。
以下の事象が発生する。
人間社会のモラルが崩壊すること。

人間の脳の中の状態。
その実態は、現状では、簡単な内容しか、分からない。
そのため、以下の内容が、外部からは、判断できないこと。
誰が、本当の善人なのか？
誰が、本当の悪人なのか？
この問題を解決すること。

人間は、その実現のために、以下の概念を、考え出した。
人造の概念としての、神の概念。

神は、善行を行う人を、常に見守ること。
神は、悪行を行う人を、常に監視すること。

人間は、以下の内容を実現しようとした。
人々の考えを、そうした方向へと、持って行くこと。
そうして、一人一人の個人の行動を、コントロールすること。

しかし、仮に、以下の事象が起きた、とする。
脳スキャンの技術が、進歩すること。
そのことで、以下の内容が、観察可能になること。

人の善意。
人の悪意。
それらの、脳における、存在部位。
それらの、脳における、活動状態。

それらの内容が、判明した場合。
上記の、'神による見張り'という考え。
それらは、不要になる。

善行を行う、チンパンジーやイルカ。
彼らが、救われること。
その実現が、必要である。

働き者の蟻。
彼らが、救われること。
その実現が、必要である。
生物の脳。
それらが、善意や悪意の機能を、持っていること。
それらの仕組みは、種によって、単純だったり、複雑だったりすること。
そうした可能性は、大いにあり得る。

それについては、以下の行為は不要である。
神の概念を、持ち出すこと。
それについては、以下の行為が実行されれば、それだけで十分である。

脳スキャン。
そうした日が、近い将来、到来する。
そのことは、以下の点において、人間よりも、より早く実現可能である。
それらの脳が、単純であること。
それらの仕組みが、分かりやすいこと。

（2014年4月 初出）

人間が、神が存在しない条件下で、善行をすること。そのように持っていく方法。その確立。それが必要であること。

親切で良い人。
それを、神の存在無しで、生み出すこと。
それが、人間社会にとって、必要である。

従来、宗教者や、宗教の信者の中においては、以下の理由で入信する人が、多かった。

既存の信者の振る舞い。
それが、親切で、良心的であったこと。
一般人が、そのことに対して、感銘を受けたこと。
その宗教における、詳しい教義。
一般人は、その内容を、良く知らなかった。
しかし、一般人は、先ほどのような、良好な感銘を受けたことで、感動的になった。
彼らは、そうした感情に基づいて、積極的な態度で、その宗教に、入信した。

宗教者や信者。
彼らが、善行をすること。
そこでは、往々にして、以下の事象が多く発生している。
彼らの間において、以下の意識が後ろに存在すること。

ある人が、良いことをしているかどうか？その行動の内容を、神が

常に見張っていること。
その人が、良いことをしない場合。
その人は、死後において、天国に行くことが出来ないこと。

そうした考え方は、以下の傾向を持つ。

彼らは、以下のように考える。
「私は、神によって、常に見張られている。
なので、私は、神の機嫌を取るために、良いことをしよう。」

その考えは、他律的である。

彼らは、以下のように考える。
「私は、死後、天国で、永久に、良い思いをしたい。」
その考えは、以下の内容に該当する。
快楽主義。
その表向きの隠ぺい。

彼らは、以下のように考えている訳では無さそうである。
心の底から、善行をしたいと考えていること。
そうした確固たる意思に基づいて、善行をしていること。

善行を生み出す人。
そうした存在が、社会的に必須であること。
そのことは、以下の点において、避けられないこと。
人間社会の日々の営み。
それは、彼らの努力に、かかっていること。

しかし、人間は、本当は、以下のような仕組みを、そろそろ作るべきではないだろうか？

人々が、自発的に、善行を実行出来ること。
そのように、人々の気持ちを、後押しすること。
そのための、社会的な仕組み。
その実現において、以下の概念を、一切、持ち出さないで、済ませること。
神。
そのことで、人々を、以下の観念から、解放すること。
神による監視。

神による、死後の人々に対する審判。
その場において、神が、死後の人々を、以下の目的のために、一方的に、恣意的に、選別すること。
天国への入所。
その許可を与えること。
そうした入所者が、天国において、永遠の快楽を入手すること。
彼らが、それを、特権的に、享受し続けること。
そうした、快適な生活の永続。
その将来的な実現。
そのためには、人生において、善行を沢山行うことが、必要なこと。
人々が、現世の暮らしにおいて、そうしたハイクラスな生活の実現について、憧れること。
人々が、そのために、現世において、神に迎合する形で、偽善的に、善行に励むこと。

そうして、以下の内容を、実現すること。
人々による善行。
その自発的な発生。
その実現を促す、社会的な仕組み。
それが、宗教よりも、より優れた効能を、保有すること。

（2014年4月 初出）

神や宗教無しで、人々に対して、善行を行う気を起こさせる方法。

神や宗教無しで、人々に対して、善行を行う気を起こさせること。
それには、以下のような単純な事実を、人々に提示すること。
その実現には、それだけで、良い。

親切な良い人。
他人の生存に貢献する人。
そうした人の方が、冷酷残忍な人よりも、後世に生き残りやすいこと。

親切な良い人の方が、恋愛において、相手が離れて行きにくいこと。
そのことは、その人にとって、望ましい結婚の機会の増大に結びつきやすいこと。
それゆえ、その人は、自身の子供を、持ちやすいこと。
その結果、その人は、自身の遺伝的コピーを、後世に残しやすいこと。

もしも同じ能力を持つ場合。
もしも同じ職場にいる場合。
親切で良い人の方が、冷酷残忍な人よりも、生き残りやすいこと。
親切な人は、職が、より長続きすること。
その人は、そのことで、自身の生活にとって必要な資金を、より蓄積しやすいこと。

他人の生存に対して、貢献すること。
そうした行為を積極的に行う人。
そうした人は、そうでない人に比べて、より賞を取りやすいこと。
そうした彼らの功績。
それらは、後世へと、より良く伝わりやすいこと。

他人の生存に貢献することをした人。
そうした人は、そうでない人に比べて、より大きな報酬を受け取りやすいこと。
そのことで、彼らは、経済的に、より大きな余裕が出来ること。
その結果、彼らは、自身の子孫を、後世へと、より残しやすくなること。

親切な良い人であること。
他人に対して、貢献する人であること。
そうした人は、以下の内容を、後世へと、より良く残しやすいこと。
その人自身の、遺伝的子孫や、文化的子孫。

他人の役に立つこと。
善人であること。
その人の人生において、それらの程度が、より大きくなること。
そのことで、その人の生きた証が、後世において、より良く残りやすくなること。
そのことが生物学的に証明されること。

それが、可能であれば良いこと。
そのことが、実証された場合。
人々は、自然に、善行に励むようになること。
そのことは、たとえ、人々が、神や宗教のことを、全く考慮しない場合でも、容易に実現すること。

冷酷で、残忍な人。
そうした人は、その酷い行いによって、歴史上に、その名を残すこと。
それは、マイナス価値のスティグマの付いた、反面教師として、残ること。
そのため、その人は、人間社会が存続する間、ずっと悪人扱いされること。
そのことは、以下の内容の実現につながること。
そうした事態を避けたい人々。
彼らは、一生懸命に、善行をすること。

このようにして、神や宗教は、不要になること。

（2014年4月 初出）

神や宗教を、不要にすること。そのために、一番効果があること。それは、何か？

他人の役に立つこと。
そうした行為を、実行すること。
企業が、それを、怠っている場合。
その企業は、徐々に衰退して、滅びてしまうこと。

企業が、衰退しないこと。
そのためには、企業には、以下の行為が必要であること。
他人の役に立ち続けること。

他者の生存に役立つこと。
そうした行為を、より多く行うこと。
そのことで、以下の存在が、より生き残りやすくなること。

その人や、その遺伝的、文化的子孫。
そうした仕組み。
それを社会的に作り上げること。
それが、以下の内容を不要にするためには、一番効果があること。

その人自身にとって、有利な生き残りの方法。
それを、神頼みの形で、模索すること。
そうした人生のあり方。
神や宗教そのもの。

（2014年4月 初出）

プラスの価値のある存在として、残りたいこと。

仮に、ある人が、以下の行為をした、とする。

人の生存を、危機に陥れること。
人が生き残れなくなること。
そうした行為をすること。

すると、その人は、以下のような存在として、後世に残ってしまう。
マイナスの価値の付いた存在。
反面教師。
例。
ナチスドイツ。
ヒトラー。

以下の（１）の方が、以下の（２）よりも、より良いこと。
人間は、以下の（１）の方を、その人自身の人生において、より望むこと。

（１）
プラスの価値を持つ存在として、後世に残ること。

（２）
マイナスの価値を持つ存在として、後世に残ること。

それは、以下の内容となる。
人間が、良心を働かせること。
人間が、善行を行うこと。
そうした行為の原動力。
それらの力は、神や宗教を持ち出すこと無く、生成可能であること。

（2014年4月 初出）

人間が救われるには、どうすれば良いか？

人間が救われること。
そのためには、以下の行為は、特にしなくて良い。
難しい宗教的な修行。

そのために、必要な行為。
それは、以下の内容を、何かしら実践して、成果を上げることである。
他人の生存の役に立つこと。
他者の生活を、楽にすること。

そのようにして、他者の生活を、楽にすること。
その実現に貢献した人々。
彼らは、彼ら自身が困った時に、他者からの援助を、より受けやすくなること。
彼らは、そうして、より救われやすくなること。
彼らは、後世まで、プラスの価値ある存在として、名を残すことが出来ること。
彼らは、その点でも、救われること。

上記の教訓は、以下の古いことわざの内容へと、集約されていること。

「情けは、人のためならず。」

（2014年4月 初出）

生き残れなければ、何もならないこと。

人間は、有機物質の一種である。

その存在は、以下のような変化の過程の上にある。
地球上における、生命誕生。
その瞬間からずっと続く、遺伝的な変化。

そうした遺伝的変化。
それは、より良くなる進化とは、必ずしも言えないこと。

人間が、生命として、一時的に盛大な勢力を誇ること。
そのことは、以下の内容が、結果的に実現しない場合、全く無意味であること。
後世において、生き残ること。
それは、以下の実例を見ることで、明らかになること。
例。
恐竜。
それは、一時的に、とても繁栄したこと。
それは、その後、絶滅したこと。

現代の人類。
それが、以下の存在であったかどうかについて、結論付けること。
生命の頂点に立つ、完成形としての存在。
それは、後世の地球や宇宙が決めることである。

人間の脳。
それは、遺伝的な変異の過程において、偶然、大幅に、大規模になり、高機能になったこと。
そのおかげで、人間は、一時的に成功したように見えること。
それが、生命にとって、最善な解なのかどうかについての、判定結果。
それは、ずっと時を経ないと、分からないこと。

（2014年4月 初出）

従来の神や宗教。それらの本当の存在意義。それらの代替となる存在としての、脳のスキャンニング。

従来の神や宗教。
それらの本当の存在意義。
それは、以下の内容の実現が、社会的に必要なためである。

以下の（１）の人について、以下の（２）を行うこと。
そのための仕組み。

（１）
貧乏で、無力で、無名で、気が小さいこと。
しかし、善意があって、徳があること。
心が清いこと。
そうした人。

（２）
それは、彼らを救済すること。
それは、彼らの功績を讃えること。
それは、彼らを評価すること。
それは、彼らの存在を後世に残すこと。

そのままでは、上記の（１）の人は、その存在を、後世へと残すことが出来ない。

既存の人造神や宗教。
それらは、まさに、この働きや仕組みを、以下のアイデアによって、見かけ上、実現している。
彼らを、死後の天国へと、招き入れること。
それが見かけ上であること。
その理由。
天国は、実際には、以下の存在であること。
それは、仮想的であること。
それは、実態が無いこと。

上記の（１）の人を、救済し、評価すること。
人間社会には、現状、その手段が無いこと。
そのため、人々は、宗教における天国の概念によって、一時的に、お茶を濁していること。

悪人についても、同様であること。
彼の脳内における実態。
それは、外部からは、なかなか分かりにくいこと。
そのため、人々は、悪人のことを、罰しにくいこと。
人々は、以下の思想によって、お茶を濁していること。
宗教が持つ、以下の思想。
悪人は、地獄に落ちること。

無神論。
それは、以下の仕組みを用意しなくてはならない。
上記の神や宗教。
それらを代替する仕組み。

人間社会は、何らかの形で、以下の（１）の人に対して、以下の（２）を実行する必要がある。

（１）
善意を心の中で持っている人。
心の綺麗な人。

（２）
現世ないし後世において、報いること。

心の清さ。
心の綺麗さ。
善意。
良心。
それらは、脳において、どの部位の中に、宿っているか？それを同定すること。
脳を、MRIのような装置を用いて、定期的にスキャンすること。
そうして、心の清さや、心の綺麗さについての診断を、行うこと。
そうして、上記の（１）の人に対して、以下の文書を、発行すること。
善意や良心の存在が、脳内において、確認されたこと。

それを証明する、証明書。
そうして、上記の（１）の人に対して、感謝状を発行すること。
なおかつ、それらを、本人のDNAや脳自体と一緒に、後世に残すこと。
そうしたことが、社会的に必要になってくること。

善行。
それは、以下の効果を持つ、何らかの行為であること。
周囲の人々を、より生きやすくすること。
人々の生存力を、高めること。
そのような効果。

脳の神経回路網における、配線のつながりの状態。
善行は、それを、浄化し、清めること。
そのように解釈をする仕組み。
そのような善行や良心によって、浄化され、清められていること。
そうした状態の脳。
それ自体を診断評価できるようにすること。
そのための仕組み。
それらが必要である。

脳の中の善意と悪意。
善行と悪行。
それらの存在を、MRIのような装置を利用して、スキャンし、測定し、記録すること。
それを可能にする仕組み。
そうして、それらの存在を、讃えるか、罰すること。
それを可能にする仕組み。
それらが必要であること。
市中に存在する、名も無き聖人。
彼らの脳。
その内容の素晴らしさを、他の人が讃えること。
それを可能にする仕組み。
その神経回路網のコピーを、後世に残すこと。
それを可能にする仕組み。
それらが必要であること。

この世は、人間の欲望まみれであること。
それは、不快なことだらけであること。
なので、せめて、彼ら自身は、善行を、人知れず、積み重ねたいこ

と。
彼ら自身は、そうして、死後、天国において、楽しく暮らしたいこと。
それらが、今までの、名も無き善人における、人生のパターンであったこと。
今後は、彼ら自身の脳の善行の度合いを、機会がある毎に、スキャンし、測定し、診断すること。
それは、善人度の診断であること。
そうして、以下の内容を、その都度、確認すること。
彼ら自身が、善人であること。
そうして、その記録が、後世に残るようになること。
それらが、これからの、名も無き善人における、人生のパターンとなること。

脳の診断記録において、以下の内容を、本人の意思に応じて、選べるようにすること。
その内容を、プライバシーを付けて、機密にするか？それとも、その内容を、公開するか？
こうした脳スキャン。
それは、以下の用途にも、使うことが可能であること。
犯罪の被疑者。
彼自身が、本当に犯罪を犯したかどうか、同定すること。
それは、以下の内容の実現において、社会的に、有用であること。
冤罪を無くすこと。
真の犯罪者を捕まえること。
政治家などの権力者に対して、その真意を、正すこと。

従来の神や宗教。
それらが持つ、もう一つの存在意義。
それは、人間が、以下の内容の実現を望むこと。
彼ら自身と似た、より大いなる存在。
そうした存在によって、彼ら自身が、守られること。
人間は、そうした存在を、人造神の形で、作り上げたこと。

一人の人間を超えた、大きな存在であること。
神は、そうした点において、人間の国家や、人間の全体社会に、似ていること。
両者の相違点。
それは、以下の内容であること。
神は、以下の行為を許さないこと。

人間の生きやすさを脅かす、悪行。
そうした悪行の例。
手抜き。
怠け。
殺し合い。

そのような、人間の生きやすさを脅かす悪行。
そうした行為を許さないこと。
そのための仕組み。
それを、神の概念を持ち出さずに、人間自身で考え出すこと。
その実現のための、様々な試行錯誤。
無神論が、それらを、サポートすること。
そうしたことが、人間の社会において、必要であること。

（2014年4月 初出）

考える神と、物理的な神経回路網の必要性。

既存のキリスト教やイスラム教。
そこでは、神は、以下のような存在となっている。
神は、一人一人の個別の人間の心に対して、アドバイスをすること。
神は、一人一人の個別の人間との間で、対話すること。

これは、以下の内容を、示している。
神が、思考をしていること。

ある存在が、思考をすること。
その実現においては、何らかの形で、以下のような仕組みが、必要である。
物理的な神経回路。
物理的な論理回路。

つまり、神は、以下の内容の実現を、必須とする。
彼自身が、思考すること。
その実現のために、以下の仕組みを、彼自身の手で、実現しなければならないこと。

以下の（１）の内容を、以下の（２）の領域の内部において、生成し、所持すること。

（１）
物理的な、巨大な、神経回路や、論理回路。
それらの回路は、以下のような機能を、含むこと。
一人一人の人間。
彼らの存在を、個別に認識すること。
そのことを可能にする機能。
例。
視覚回路。

（２）
地球上、あるいは宇宙空間のどこか。

それらの実現は、物理法則の範囲内において、果たして、可能か？
その可能性は、とても少ない。
よって、以下のことが、言える。
「神は、存在しない。」

（2014年4月 初出）

無神論や無宗教は、地動説と似ている。

無神論や無宗教。
それらは、以下の点において、地動説と、似ている。
それは、正しい説でありながら、社会一般に、直ぐには、受け入れられなかったこと。
それは、大きな抵抗を伴って、人間社会に、迎えられたこと。

地球と、他の天体との関係。
それは、以前は、天動説によって、専ら説明されていたこと。
天動説。
それは、キリスト教などの宗教によって、支持されていたこと。
一般人も、その内容を、広く受け入れていたこと。
一般人は、その内容を、疑いのないものとして、信じていたこと。

そこに、コペルニクスが、地動説を、新たに打ち出した。
彼自身の学説が、社会に与える影響。
コペルニクスが、それを恐れたこと。
彼が、そのため、生前著書の発表をしなかったこと。
その後、キリスト教の教会は、地動説を唱えた者を、弾圧したこと。

社会における、人々の考え。
その内容が、天動説から、地動説へと、新たに切り替わること。
そのことが実現するまでの期間において、人々の間に、大きな抵抗が存在したこと。

天動説から地動説への切り替え。
それは、180度の転回であったこと。
それは、以下のように呼ばれたこと。
「コペルニクス的転回。」
有神論から無神論への切り替え。
それは、上記と同様に、180度の転回であること。

今の人間社会における現状。
有神論が、未だに、圧倒的に優勢であること。
無神論は、社会的に、虐げられた状態にあること。

こうした現状を変える、社会的な契機。
それは、以下の内容の実現であること。
分子遺伝学において、生命の解明が、進むこと。
それと同時に、脳神経科学において、人間の心や魂の解明が、進むこと。
これらは、以下の力を持つこと。
有神論から、無神論への、180度転回。
それを、成し遂げること。
その実現を可能にする、原動力。

（2014年4月 初出）

無神論を主張する人が少ない理由は？

現状において、無神論を主張する人が、少ないこと。
その理由。
誰かが、無神論を主張した場合。
その人は、社会的に疎外されること。
その人は、孤立の道を、歩まなければならないこと。

皆が、宗教について、以下の行為を取ること。
その内容について、彼らの内心の半分において、胡散臭いと、思っていること。
それにも関わらず、その内容を、少なくとも、見かけ上においては、信じていること。
そうした様子を、周囲に対して、見せること。
その理由。
宗教が、人間社会の共同体の根幹を、今なお掌握し続けていること。

宗教を信じない場合。
今の人間は、社会的に生きていけないこと。
宗教を信じない自由。
それは、今の社会には、あまり無いこと。
そのことは、以下の人間社会において、顕著であること。
キリスト教。
イスラム教。
それらの宗教を信じる、国や社会。

日本人。
彼らの態度は、一見すると、無宗教に見えること。
その実態。
彼らは、以下の内容を、何でも信じること。
彼ら自身にとって、信じられると感じられる宗教。
人々が、神社にも、仏教の寺院にも、キリスト教会にも、参拝すること。
その社会は、多宗教を同時に信仰する社会であること。
何でも良いので、何かしら宗教を信じること。
そうでない場合。
その人は、他者から爪はじきされ、社会的に居場所が無くなること。

日本社会。
それは、キリスト教やイスラム教を信じる国や社会と、結局は、同じであること。

無神論の人間同士が、協力すること。
彼らが、宗教の布教みたいな感じで、無神論を、社会に広く流布させること。
そのことで、彼らが、無神論を、社会的に認めさせること。
その実現のための、社会的な機関や団体の存在。
それらが、必要であること。
世界の無神論者同士が、手を取り合って、協力機関を作ること。
そのことで、彼らの存在を、社会に認めさせること。
それらの実現が、必要であること。

（2014年4月 初出）

自立や自助の思想としての、無神論。

神は、以下のような存在として、人間が作り上げたものである。
人間の願望や依頼心を叶えてくれる、仮想の存在。

その点、宗教は、以下のように、表現できる。
「願望や依頼心の体系。」

人間は、常日頃、例えば、以下のような願望や依頼心を、持っている。

（１－１）
彼自身のことを、助けて欲しいこと。
彼自身のことを、守って欲しいこと。

（１－２）
彼自身のことを、見つめて欲しいこと。
彼自身のことを、見守って欲しいこと。

（２）

彼自身に対して、永遠の命を、与えて欲しいこと。

人々は、以下のような存在を欲している。
彼ら自身の願望や依頼心。
それらを、叶えてくれる存在。

それは、以下の二つを兼ね備えた存在である。

（１）
彼ら自身を超越していること。
「大いなる存在。」
「オールマイティな存在。」

（２）
人間と相似の性質。
彼ら自身と相似の性質。
それらを、備えていること。
「超人。」

人々は、そうした存在の実在を、望むこと。

それは、以下のような存在であること。

マイナス面を持たない存在。
完璧な存在。
パワーがある存在。
超越した能力を持つ存在。
強力な存在。

それは、逆に言えば、以下のような事象の現れであること。
人間の存在が、以下のような内容であること。

マイナス面が多い存在。
不完全な存在。
弱い存在。

人間は、その現実に対応して、以下のような欲求を、抱くこと。
彼ら自身が持つ、そうした不良の側面。
それらを、補正したいと、思うこと。

そのために、神のような存在を、欲すること。

無神論。
それは、結局、こうした神の存在を、否定すること。
無神論。
それは、以下のような行き方であること。

（１）
人間が、何かに頼らずに、彼ら自身だけで、何とかやっていくこと。
そうしようとする、行き方。

（２）
人間が、彼ら自身で、彼ら自身の生存のための解決策を、見つけて行くこと。
そうしようとする、行き方。

無神論。
それは、上記の点において、以下の内容を持つ存在であること。
自立や自助のための思想。

（2014年4月 初出）

相互扶助のコミュニティと、その統合のシンボル。

神や宗教を求める人。
そうした人は、実際には、以下のような人のことである。
どこかの相互扶助のコミュニティに入ること。
その実現を、強く望むこと。
そうした心理的傾向を、強く持つこと。
それは、以下のような動機に基づくこと。
コミュニティやグループに入ること。
そのことで、安寧や安心を得ること。
そのことを、実現したいと思うこと。
そうした考え方。

その実現によって、その人にとっては、以下の効果が、望めること。

他のグループメンバーが、いざという時、その人自身のことを、助けてくれること。

その人自身が、いざという時、救われること。
そのことで、その人自身が、皆の待っているところに行けること。

そうした相互扶助のコミュニティ。
その内容は、以下のような場合が多いこと。
その統合のシンボルとして、救い主の神を、設定していること。
それが、宗教であること。

そうした、統合のシンボル。
その内実が、神の代わりに、偉人であること。
その頻度が、多いこと。
無神論の場合。
そこでは、例えば、偉人が、その統合のシンボルとなること。

戦前の日本。
それは、以下のような社会であったこと。
生身の人間が、そのまま、神として、扱われていたこと。
それは、以下のように、呼ばれていたこと。
「現人神。」

無神論の場合。
偉人は、あくまで等身大の人間であること。
偉人は、超能力などは、持たないこと。
偉人には、それなりに限界があること。
無神論での偉人。
それは、以下のように捉えられること。
「偉人。
彼が、神になること。
それは、あり得ない。」

偉人にも、欠陥や限界が、存在すること。
そのため、偉人は、統合のシンボルとしては、適切では無いこと。

そうした考えが当然存在すること。
その場合。
人間にとっての理想となる概念。
それが、統合のシンボルとなること。
例。
永遠。
高潔。
そうした抽象概念。
そうしたキーワード。
それらが、以下の内容として、一番適切であること。
無神論のコミュニティにおける、統合のシンボル。

人間にとっての理想。
それを掲げ、その実現を追求すること。
それは、以下の内容に、該当すること。
無神論。
それが主流の時代。
そうした場に存在する、相互扶助のためのコミュニティ。
その理想的なあり方。

（2014年4月 初出）

この世には、超人的な存在による加護は、無いこと。

無神論。
それは、以下のような思想であること。

（１）
神のような超人的な存在。
それらによる加護。
それが無い存在。
等身大であること。
小さいこと。
弱いこと。
欠点だらけであること。
そうした存在。
そうした存在としての人間。

それを、そのまま見つめ、受け入れること。
そうした思想。

（ 2 ）
人間だけで、何とかやっていくこと。
そのためのアイデア。
それを、皆で考え出して行くこと。
そのための思想。

人間社会を動かす存在。
それは、結局は、人間であること。
社会をうまく動かすこと。
そのためには、仮想の存在には、頼れないこと。
そのためには、人間の知恵だけで、何とか回すしか無いこと。

コンピュータなど。
それらは、人間の知恵の産物であること。
コンピュータが持つ限界。
それは、そっくりそのまま、人間の限界であること。

こうした事実。
この世において、以下の内容が、実在しないこと。
超人的な存在による、加護。
その冷厳な事実。
人間は、結局、彼ら自身だけで、何とかするしか無いこと。
その冷厳な事実。

それらを、人間が率直に受け入れること。
それは、以下の内容である。
人間による、無神論の受容。
その本格的な開始。

（ 2014年4月 初出 ）

生命は、皆、原罪を負っていること。

キリスト教などの宗教。
それらは、以下の事象を想定すること。
人間は、もともと罪を持った存在であること。
その罪を、救い主が、身代わりになって、背負ったこと。

こうした原罪相当のもの。
それは、以下の事象に、起因していること。
人間が、生命であること。
そのことは、言い換えれば、以下の内容になること。
生命は、皆、原罪を背負っていること。

生命。
それは、生きるために、必ず、以下の行為をすること。
何かを、食べること。
何かを、保温すること。
子作りをすること。
生命は、そのために、必ず、以下のことをすること。
生命は、そうした行為をしない場合、生きていけないこと。

何か、彼ら自身にとって、負担や負荷になること。
労働。
例。
餌を取ること。
住居を維持すること。

それは、生命にとって、とても辛いことであること。

生命は、快楽に、ふけりがちであること。
例。
子作りをする時。
食事の時。

生命は、そうして、本業の労働を、忘れがちになること。
生命は、そのことで、より、生きにくくなること。

生命は、辛い負荷や労働について、手抜きをしたくなること。
生命は、そのために、以下のような不良な行為を、ついついやってしまうこと。

例。
ずるいこと。
仲間を殺傷すること。

こうした辛さ。
一種の中毒。
そうした辛さを回避するための、手抜きや違反の行為。
それは、以下のような内容として、捉えられること。
生命にとっての原罪。

原罪。
それは、人間だけにあるのではないこと。
生命。
それらは、皆、普遍的に、原罪を持っていること。

（2014年4月 初出）

実証主義。証拠主義。それらによって、生きること。

無神論。
無宗教。
それらは、以下のような内容のみを、採用すること。
実物の証拠。
データで説明可能な説明。
それは、以下のような生き方であること。
実証主義。
証拠主義。

神。
人間は、それに対して、以下のような思いを、抱く。
「もしも、それが実在したら、それは、私たちにとって、とても良い。」
しかし、それは、あくまで空想上の産物である。
それが、実際に存在していること。
その証拠。

それは、今まで、特に得られていない。

そうした証拠の無い存在としての、神。
それを認めない生き方。
そうした、実証主義や、証拠主義に基づく、生き方。
それは、以下の内容に、該当する。
無神論の生き方。

（2014年5月 初出）

創造主不要論

生命や人間の造作。
それらは、とても精巧で良く出来ている。
なので、それらは、以下のような存在による産物である。
何か、偉大な存在。
人間を超えた存在。
そのような考え方。
それは、以前から、存在する。
それは、以下のような考えへと、結びついてきた。
キリスト教などの宗教。
それらにおける、以下のような考え。
以下のような存在を、予め想定すること。
創造主。

そうした、創造主。
その実体。
それは、未だに、確認されていない。
その間に、分子遺伝学や、脳神経科学が、進歩した。
人間や生物の造作。
その仕組み。
それらが、以下の思考法によって、容易に解明されてしまうこと。
神や創造主。
そうした存在を、特に、前提としないこと。
そうした考え方。
そのことが、次第に、分かってきた。

神や創造主。
それらの概念。
それは、不要なものとなってきている。

（2014年5月 初出）

マルクス主義の衰退。科学的唯物論の今後の発展。

昔は、人間社会において、マルクス主義が流行した。
中国やロシアなどの国々が、その思想を、こぞって導入した。
しかし、それは、あまり上手く行かないことが、判明した。
そのため、人々の間では、一時の熱は、すっかり冷めてしまった。
現状は、そのように見える。

マルクス主義。
それは、宗教を、否定した。
それは、史的唯物論を、唱えた。

その理由。
それは、以下の通りである。

キリスト教などの宗教指導者。
その信者としての、王族や貴族。
彼らは、特権的な地位を利用して、貧富の格差を作り出した。
彼らは、そのことで、社会を歪ませていた。
彼らの行為。
彼ら自身の存在。
それらを、糾弾すること。
そのことが、社会的に、必要とされた。

史的唯物論の提唱。
その理由は、少なくとも、以下の内容では無い。
宗教そのものの理論。
それが、根本的に、間違っていたこと。

中国や旧ソ連。

それらの社会の内部。
マルクス主義。
それ自体。
それは、そこでは、あたかも、宗教のような存在になっている。
それは、絶対無謬の理論として、信仰されている。

唯物論。
それは、以下の内容から、解放されるべきである。
従来のマルクス主義。
その史的唯物論。
それがもたらす、内容面での制約。
唯物論。
それは、今後、以下のような「科学的唯物論」として、発展していくべきだ。
「この世の存在は、人間の心も含めて、全て、物質や、物的存在である。
世界のあらゆる存在は、そうして説明できる。」

（2014年5月 初出）

死と、救い。神や宗教の起源。

生命や人間にとっては、死ぬことが、何よりも怖い。
彼らは、死ぬ時、彼ら自身を襲う断末魔を、恐れる。
彼らは、以下の事象の発生を、恐れる。
彼ら自身が死んだ後。
彼ら自身の存在が、無に帰すること。
彼らは、そのことに対して、耐えられない。
彼らは、そのことについて、救いを求める。
そうした恐怖。
そうした、救いを求める心理。
その内容は、例えば、以下の楽曲において、良く示されている。
R.シュトラウスの交響詩。
「死と変容。」
そうした心理を実感すること。
それは、その視聴によって、容易に実現可能となる。

彼らは、その際に、以下の存在を、彼ら自身の手で、予め予想した。
彼らは、その存在を、仮に設定した。
彼ら自身を救ってくれる存在。
頼れる存在。
彼らは、それを、以下のように、名付けた。
神。

別の解釈。
彼ら自身が生まれた時。
その時点で、彼ら自身の先祖が、以下の存在を、既に、仮設定していた。
彼ら自身のことを、救ってくれる存在。
神。
そのため、彼ら自身も、その存在を、信じることにした。

彼らのそうした心理。
それは、以下の内容に該当する。
神や宗教。
それらの起源。
人間における、彼ら自身の死への恐怖。
人間における、以下のような欲求。
「私は、誰かによって、救われたい。」
そのように、強く感じること。
それらが、神や宗教を、創出した。
その点、人間は、本源的に、神や宗教を、必要としている。

そうした存在。
彼ら自身を救ってくれる存在。
頼れる存在。
無神論や無宗教は、それを否定する。
神。
人間や生物は、死の恐怖から逃れるために、勝手に、その存在を、設定した。
神は、元々は、存在しない。
なので、以下の（１）の方が、以下の（２）よりも、内容面で、より自然である。
（１）
神を否定する思想。
（２）

神を肯定する思想。

彼らが、彼ら自身の遺伝的な子孫を、既に産んでいる場合。
その条件下において、彼ら自身が、死んだ場合。
彼ら自身の遺伝的な半身。
それは、その子孫へと、問題無く、受け継がれている。
そのため、以下の事象の発生は、起こらない。
彼ら自身が、無に帰すること。

彼らが、何かしら文化的な業績を挙げている場合。
その条件下において、彼ら自身が、死んだ場合。
彼ら自身の業績は、後世の人々や生命によって、問題無く、受け継がれている。
そのため、以下の事象の発生は、起こらない。
彼ら自身が、無に帰すること。

宗教や神を、克服すること。
そのために、人間にとって、予め用意すべきこと。
それは、以下の内容である。
彼ら自身が、いつ死んでも大丈夫なようにすること。
それは、以下の（１）について、以下の（２）を実現することである。

（１）
遺伝的な子孫。
文化的な子孫。
それらは、優れている。
それらは、後世に残りやすい。

（２）
それらを、彼ら自身の存命中に、予め沢山作っておくこと。

（2014年5月 初出）

無限な生命を得たい思い。宗教のからくり。

生命や人間。
それらは、有限な存在である。
彼らは、彼ら自身では、以下の内容を実現できない。
彼ら自身が、無限な存在になること。
しかし、彼らは、どうしても、そうした存在になりたい。
人間や生命。
それらと相似の心理。
それを持つ存在。
超能力を持つ存在。
無謬で、無傷の存在。
無限な存在。
そうした存在を、仮に設定すること。
それを、以下のように呼ぶこと。
神。
その導きにより、彼ら自身も、無限の生命を得られること。
そのように、彼ら自身を、確信させること。
そうした、心理的導入のからくり。
それが、宗教である。
そのからくりを作り上げた者。
それが、宗教の教祖である。

そのからくりに従って、以下のように信じている者。
「私自身も、無限な存在になることが、出来る。」
それが、その宗教の信者である。

（2014年5月 初出）

宗教とセックス。

人間は、以下の行為を、必死に実行してきた。
以下のように、思い込むこと。
「私たちは、他の生命や動物よりも、優れた存在である。」
人間は、その内容が実現するように、努力してきた。

しかし、人間は、実際には、以下の行為を、無自覚のうちに、繰り返し実行する。
彼ら自身の遺伝的子孫。

その生成を行うこと。
セックス。
その予備行為。
オナニー。
そうした行為を実行している間。
普通の動物並みに、発情すること。
人間は、以下のような存在へと、変化する。
他の動物との間における、レベルの違い。
それが、特に、何も無いこと。
動物並みであること。
そうした存在。
人間は、そのことを、どうしても実感する。

そこで、人間は、以下の（１）の行為について、以下の（２）の態度を取る。

（１）
セックス。
オナニー。

（２）
「それは、淫らである。
それは、卑猥である。」
そのように、主張すること。
そのことで、そうした行為自体を、全面的に、蔑むこと。

人間は、本当は、彼ら自身も、セックスが大好きである。
人間は、心の底では、その行為を、実行したくて、仕方が無い。
しかし、人間は、表面上は、清楚ぶる。
人間は、以下のような素振りを、ことさら示そうとする。
「私は、セックスには、関心が無い。」

そうしたセックスへの欲求を克服すること。
人間は、その実現を、求道する。
それが出来た者。
人間は、そうした他者を、神に近い存在として、尊敬する。

神代わりの存在。
そうした存在としての、宗教者。
彼らは、以下の行為を、信者から、求められる。

以下の状態を、彼ら自身の自制心によって、実現すること。
セックスへの欲求。
それを、何らかの形で、恒常的に、乗り越えていること。

無宗教。
無神論。
そこでは、以下のような考えに基づいて、行動すれば良い。
上記とは逆の考えを、取ること。

「私は、動物や生命よりも、優れた存在である。」
そう思おうとすること。
そうした先入観。
宗教のくびき。

人間が、そこから解放されること。
人間が、素直に、以下のような欲求を、解放すること。
彼ら自身が内蔵する、セックスへの欲求。
そうすることで、人間が、より素の人間のあり方へと、近づくこと。
以下のような図式に近づくこと。
「人間。
それは、すなわち、生命そのものである。」
無神論は、それらを実現していけば、それで良い。

それが、生命である人間にとって、一番健全なあり方である。

その際、以下のことに留意する必要がある。
セックスの最中。
人間は、外敵に対して、無防備になること。
人間は、そうして、弱くなってしまうこと。
なので、そういう点では、人間には、以下の態度が必要である。
セックスに対して、心理的に溺れ過ぎること。
その抑制。
例。
彼ら自身の性欲を抑制する薬。
それらを飲むこと。
その実例。
ドグマチール。

（2014年5月 初出）

無神論によって、人間社会を上手く回すこと。機能主義的な無神論。

人間は、今まで、以下のように、考えがちであった。

「超人的な神。
そうした存在が、実在すること。
だから、私たちの生活は、正しく律せられるのだ。
そうして、社会が上手く回るのだ。」

実際には、以下の事象が発生している。
神は、存在しないこと。
そのことを前提として、人間社会を、人間自身の手だけで、上手く動かさなくてはならないこと。
それが、既に、毎日のように起きていること。

神の存在を、仮定しないこと。
その状態で、以下の内容を実現すること。
社会が、上手く回ること。
人間は、そのために、以下の方法を採用するしかない。
人間各自が、以下の内容を、実現すること。
以下の行為。
その繰り返し。
それを、徹底すること。

（１）
他の人の生存に役立つような、生産物や、機能。
互いに、それらを、十分に供給し合うこと。

（２）
他者からの、生産物や機能の供給。
それに対して、必要十分な対価を、支払うこと。

上記の内容は、以下の考えに該当する。

人間や生命。

それらの生存に役立つ働き。
機能。

そうした、機能の提供。
それらを中心に物事を考えること。
機能主義的な無神論。

（2014年5月 初出）

脳神経科学の発展と、宗教の消失。

従来のキリスト教などの宗教。
そこにおける、人間の霊魂などについての議論。
それらは、以下のような状態で、専ら、行われてきた。
人間の心を司る、脳。
それに関する、根本的な知識。
それらの取得に関して、あまり満足でない状態。

その脳に関する、新たな科学的知見。
それらが、現在、着実に蓄積されつつある。
人間の意識や霊魂。
それらに相当する、脳活動の中身。
それらは、従来は、ブラックボックスだった。
それらが、だんだん明らかになりつつある。
この流れは、今後、更に加速する。

人間の意識や霊魂。
その実体を明らかにすること。
そのための有効な手段としての、脳神経科学。
それらが発展すること。
その結果、以下の事態は、次第に、解消していくこと。
従来、存続してきた、以下の状態。
人間の意識や霊魂。
それらの内容が、具体的証拠に基づかずに、宗教家の願望だけによって、語られ続けること。

人間や生命。
それらの生体の神秘。
それらは、従来、以下のように、言われてきた。
神による創造。
その賜物。
遺伝学や分子生物学の発展。
その発展により、以下の内容の実現が、可能になっている。
上記の神秘。
それを、神の概念を持ち出さずに、語ること。
それを、完全に、物質ベースで、語ること。
世界は、そうした方向に向かっている。

人間や生命。
それらの心。
それらの意識。
それらの霊魂。
それらの神秘。
従来の宗教は、それらを特別視してきた。
それらについても、上記と同様に、以下の内容の実現が、可能になっている。
上記の神秘。
それを、脳神経科学によって、物質ベースで、解明して行くこと。
世界は、そうした方向に向かっている。

その結果、宗教は、その足場を失う。
宗教は、消失や消滅の方向へと向かう。

（2014年5月 初出）

現人神。それは、実現不可能である。

戦前の日本。
その社会では、天皇は、現人神として扱われた。
天皇は、崇拝の対象であった。

戦後、以下のような宣言がなされた。
「天皇は、人間である。」

しかし、それは、アメリカなどの意向に沿うものであった。
日本が持つ、以下のような国民性。
それは、相互の一体感を偏重する。
それは、非合理的である。
それは、非科学的である。
それらの内容は、戦前と変わらず、一貫して維持されている。

そのため、今後の事態の推移によっては、以下の可能性が、十分にある。
事態の例。
アメリカの衰退。
天皇が、再び、現人神として、崇められること。
人々が、そうした現人神を、崇めること。
人々が、そうした行為を、国内の支配者によって、強要されること。
そうした事態が、到来すること。

そうした事態を防止すること。
そのために、以下の内容を実現する必要がある。

天皇が、生命の一種であること。
それは、猿やイルカなどと、同様であること。

その証拠を、明らかにしておくこと。

天皇の精子を、取得すること。
その遺伝情報を、全て解読すること。
それを、記録し、保存し、解析すること。

天皇の脳の活動。
そのスキャン映像。
それを、保存し、解析すること。

そうすることで、以下のことを、科学的に証明すること。
「現人神。
それは、実現不可能である。」

（2014年5月 初出）

脳のスキャンニングによって、善人か悪人かを判定できるようにすること。

ある人が善人か悪人かを、見極めること。
それは、外見からだけでは難しい。
見栄張りな人間。
上辺だけ調子の良い態度。
それを取りたがる人間。
上辺を取り繕っている、ずるい人間。
そうした人間も、相当いるからである。

人間の脳の中身を直接スキャンすること。
そうして、以下の内容を判定することが出来れば、この問題は解決する。
「彼は、善人か？彼は、悪人か？彼は、他人の役に立とうとしている人か？彼は、彼自身の利益ばかりを考えている人か？
定期的に脳診断を受けること。
そうして、以下の内容を、医者に指摘してもらい、治療を受けるようになること。

「あなたの人格や人柄。
それは、改善した。
それについては、以下の部分が、以下のように、悪くなった。」

それが実現する時。
それは、そう遠くない将来、やってくる。

その診断記録を、データとして、後世まで受け継ぐこと。
そのことで、以下の内容が、遺伝学的に分かるようになること。

「Ｘさんの血筋の人。
彼らの間には、善人が多い。
Ｙさんの血筋の人。
彼らの間には、ずるい人が多い。」

ある人が、善人か悪人かのどちらであったか？その脳診断の結果。
それが、永久的に、後世まで残ること。
それが実現すれば、人間は悪いことをしなくなる。

その際には、以下の事象の発生に対して、対処する必要がある。
ずるい人。
彼が、以下のように振る舞うこと。
彼自身の診断記録データ。
それを偽造すること。
そのことで、善人の振りをすること。

そうしたデータ偽造をチェックする仕組み。
それが必要となること。
それを、予め作成しておくこと。

（2015年12月 初出）

権力者への対応。

人間は誰でも権力を持ちたがる。
人間は、以下の人々を欲しがる。
自分のことをほめてくれる人。
自分に従ってくれる人。
対人関係での賛同者や味方。
自分の著作物の内容に賛同してくれる人。

権力は、社会を動かす上ではどうしても必要なものである。
しかし、それは、誰でも持てる訳ではない。
そのリソースには限界がある。
そこで、権力は、できれば、以下の人に任せたいものである。
有能で、人柄の良い、行動力のある人。

どのような領域でも、以下のことの実現が必要である。

（１）
善政を行う人が、そうでない人よりも、後世に名を残しやすくすること。

（２）
悪政を行う可能性のある人を、脳スキャンで判定して除外出来るよ

うにすること。

そうなると、以下のことが起きてくるのでは無いだろうか。
以下の存在に、権力が集中すること。
脳スキャンの結果で善人悪人の判定を行う人や機関。

以前のキリスト教など。
そこでは、以下の想定がされていた。
天国に行くか地獄に行くかの審判をする者。
それが神だ。
そうした審判、判定を下す者が、最上位に位置する。

その審判者や判定者。
それが、脳神経科学者になる可能性。
それが、将来的に高い。

これまでの宗教の本質。
それは、以下の内容である。

（１）
いかに、社会的に有益な人に好待遇を与えるか？

（２）
いかに、社会的に有害な人に劣悪な待遇を与えるか？

これまでの宗教者は、死後の世界という概念を採用してきた。
それは、以下の内容の実現を、想定する。

（１）
有益な人を、天国に行かせること。

（２）
有害な人を、地獄に行かせること。

それは、以下の内容の実現を、想定する。

（１）
社会的に有益な人を、増やすこと。

（２）
社会的に有害な人を、減らすこと。

その役割は、脳神経科学者に行くことになるだろう。

ある人の有益性や有害性。
その判定を行う存在としての脳神経科学者。
彼らが、新たな権力者となる可能性。
それが高い。

（2015年12月 初出）

ずるい人、小賢しい人への対応。

ずるい人。
小賢しい人。
上手く立ち回ろうとする人。
彼らは、いつの世にも、いるものだ。

しかし、これについては、以下のことも考えられる。

上手く立ち回ろうとすること。
自分のことばかり考えていること。
そうした人が、あることに秀でていて有能である場合。
その人は、結果的に、社会に有益な結果をもたらすこともある。

以下の三つの内容は、別々の次元に成り立つ。

（１）
有益。
有害。

（２）
有能。
無能。

（３）

善人。
悪人。

例。
根は良い人。
しかし、失敗ばかり引き起こして、社会的に有害で無能な人。

例。
ずるく、自己中心的な、良くない人。
しかし、有能な人。
彼は、社会を上手く回すために欠かせない能力を、豊富に持つ。

こうした多次元の人物評価や判定。
それを、脳のスキャンニングによって、行うこと。
善人で、有能で、有益な人。
彼の評価が、トップに来ること。
そのような診断法。
それを開発すべきである。

有能だが、性格に問題のある人。
彼の評価のランクを、ダウンさせること。
彼の評価が、トップにならないようにすること。
しかし、彼は、ある程度、社会的に評価されること。
それらのことが実現されれば良い。

(2015年12月 初出)

遺伝学の発展と、無神論。

遺伝学が発達した。
そのことで、無神論が受け入れられる素地が、整ってきた。

例えば、生物学者のR.ドーキンスが、無神論の書籍を出版している。
それは、以下の内容である。
生物の創造を、全て遺伝子の働きに帰すること。
そのことで、神的存在を伴わずに、生物や人間の誕生を説明できる

こと。
その実現。

ただし、霊魂の存在。
その説明については、遺伝学だけでは不足である。
それには、脳神経科学の発展が必要である。

（2016年1月 初出）

脳神経科学の進展と友達作りや、恋愛や、結婚への対応。

脳神経科学が進展すること。
そのことで、以下のことを検知できるようになる。
ある人が、誰か他の同性か異性を好きになったこと。

その人自身が好きな相手。
その人自身が恋をしている相手。
その相手が、視界に現れた場合。
その時、独特な、脳内の神経系の活動が見られること。
そのことを、相手に対して、無線によって、伝えられるようにすること。
そこで、相手側にも同じ反応が見られた場合。
互いに恋人候補で有力だということが分かること。
それらが実現する。

互いに相手の許可を得て、脳のスキャンニングを実施すること。
そのことで、互いの価値観などを、脳をスキャンした映像から分析して、検証すること。
そうして、互いに、彼ら自身に合った恋愛や結婚の相手であるかどうかを、詳細に判断できること。
その実現。
それも、可能になる。

そうすることで、離婚も減らせる。

これは、友達作りにも応用可能である。

（2016年1月 初出）

人間は、結局は、猿であり、動物の一種である。

人間は、どんなに崇高なことを主張しても、結局は、猿の一種である。
人間は、動物並みの存在である。

見栄張り。
縄張り争い。
権力の獲得。
弱者の蹴落とし。
セックス相手の奪い合い。

人間は、それらに余念が無い。

人間には救いは無い。
人間は、死後、単に脳活動が終わるだけで、何も起こらない。
魂の昇天。
それは、ありえない。

彼ら自身の存命中に、お金を貯めること。
彼ら自身の心が綺麗なことを、脳スキャンで実証すること。
彼ら自身の精子や卵子。
それらの遺伝子を、分析し、保存すること。
人間は、そうして、自力で救われないといけない。

（2016年1月 初出）

人工装置が、神になること。

脳神経科学の発達。

それにより、近い将来、以下の機械や装置が出てくる。
人間が頭の中で考えている言葉。
内声。
それを文字に起こして、外部出力するデバイス。
その機械。
その装置。

こうした内声文字起こしの装置。
それを頭に装着すること。
そのことで、人間は、彼ら自身の思考が、全て表沙汰になる。

装置を装着した人間。
仮に、彼らが、少しでも悪い考えが出した、とする。
すると、そのことは、たちまち周囲に露見する。

そうすることで、皆、良い考えしか持てなくなる。
装着した人間は、否が応でも、良い人にならざるを得ない。

内声文字起こし装置。
それは、悪人を存在できなくする。
それは、究極の存在である。
人工装置が、神になる。

そこでは、キリスト教などの宗教が無くても、以下の世界を、実現できる。
善意と愛に溢れた世界。

人間の内声は、そのまま肉声に出る。
人間に肉声を出させて、内声と照合すること。
それにより、以下の内容の実現が、可能になる。
まがい物の装置。
それらを排除すること。

権力者の悪辣な内心などが、全て露わになる。

一方、それは、以下の症状と似た感じになる。
統合失調症患者の陽性症状。

統合失調症に罹患していない健常者。
彼らが統合失調症の世界を体験すること。

上記の装置は、そのために役に立つ。

（2016年10月 初出）

機能主義的生き方、人生観。無神論との関連。

人は生き物である。
人は、変転する厳しい環境の中、何とか生き残って、増殖する必要がある。

変化する環境の中で生き残ること。
その実現。
そのために、人は、以下の内容を、その都度入手する必要がある。

生命として生き残ること。
それに役立つ働きや効果。
生命の維持や繁殖に役立つ働き。
機能。

生物の本質。
生き延びたいという、生への衝動。
それと、機能とは、密接に結びついている。

人は、一人では生きられない。

人は、一人だけでは、以下の内容は賄えない。
環境適応に必要な、全ての働き。
全ての機能。

人は、一人だけでは、以下の実現は難しい。
衣食住に必要な働き。
機能。
それらを、自前で、十分に用意すること。

例。

絶海の孤島に一人取り残された人。
彼は、これからどう暮らしていけばよいか、途方に暮れる。

そこでは、以下の人々との共同、協力がどうしても必要である。
環境適応に必要な他の働き。
他の機能。
それらを持つ人。

人は、他の人から、機能を融通してもらう必要がある。

個人の、完全な自主独立。
個人の、外部社会からの、完全な引きこもり。
それらは不可能である。
人間は、相互依存、互助の生き物である。

環境適応に有効な機能。
それらを、互いに他人に提供し合って生きること。
それが、機能主義的な生き方の基本である。

人は、本来、他人の役に立たないと、以下の内容は実現できない。
その人自身が必要としている機能を、他人から、返礼として貰うこと。
人は、互助的な生き物である。
一方的な持ち出しは、不平等な搾取である。
それは、許されない。

人が生きていくには、以下の実現が不可欠である。
他の人の役に立つ働きをすること。
他の人にとって環境適応に有効な働きを提供すること。
これが、労働である。

他人の役に立つこと。
人助けをすること。
それが、人が生きていくための条件である。

人は、他人の役に立たないと、返礼の物資、お金が貰えない。
そうでない人は、生活できない。
それが、人間社会の原則である。
他人の役に十分立っているのに、貧しくて生活できない人。

そういう人々がいること。
それはおかしい。
他人の役に全然立っていないのに、ぜいたくな暮らしができる人。
そういう人々がいること。
それは、社会のあり方が間違っている。

人は、他人の役に立つ。
そのことで、人は、他人から存在を認められる。
人は、他人から返しの援助を受けやすくなる。
その結果、人は、生き延びやすくなる。

人間は、誰でも、以下の（１）を体験すると、以下の（２）の状態になる。

（１）
他人の役に立つこと。
そのことで、他人から、以下のように言われること。
「ありがとう！」

（２）
彼自身が良いことをしたと感じること。
そのことで、彼自身の気持ちが良くなること。
そうした状態。

これは、人類に共通した心理である。
それは、人間の神経系の根幹を占めている。

人間には、いつしか、以下の生体が遺伝的に備わるようになった。
他人の役に立つこと。
それを快感と見なす神経回路。
こうした感覚は、人間が生き延びていく上で、遺伝的、本能的な根拠を持つ。

他人のためになることをすること。
そのことで、他人の返しの援助を得やすくすること。
そうすることで、彼自身を生き延びやすくすること。
それが、以下の生き方である。
変転する環境の中でうまく立ち回ることの出来る生き方。
賢い生き方。

必要な時に必要な機能を手に入れることができること。
それが、人間が生きていくための条件である。
常日頃、他人に必要な機能を、他人が必要とするタイミングで提供できること。
それが、以下を実現する極意である。
他人から、返しの機能を確実に手に入れやすくすること。

人間が、彼自身の居場所において、物資に恵まれ、豊かになる条件。
それは、以下の実現が第一である。
彼自身と他人に役立つ機能を提供すること。
彼自身と他人に役立つ機能。
それらを質量面で多く提供すること。
それを実現するほど、更に、彼自身と他人の役に立つこと。
そうして、返礼としての物資をより多く貰えること。
そうして、より生き延びやすくなること。
それが、本来の姿である。

株式や原油、貴金属とかへの投機。
それで金儲けをして豊かになろうとすること。
そういう生き方。
それは、極力避けるべき生き方である。
なぜなら、それらの行為自体、何ら、以下の内容を生み出さないからである。
人々にとって役に立つ、有益な機能。
人間は、以下の内容を実行すべきである。
人々の役に立つ、製品やサービス提供。
それに結びつく仕事。

人間には、以下の生活が、望ましい。
環境適応に有効な機能。
それを、互いに、他人に提供し合って生きること。
個人単位間での、機能の輸出、輸入。
それを行うこと。

彼自身の生成した、有効な機能を、他者に対して、できるだけよく提供し、輸出すること。
それが、彼自身のコピーやアウトプットを、より増殖させ、繁殖さ

せることにつながる。
それは、結局は、彼自身のためになる。

輸出入において、輸出超過になること。
それは、人に貰うより、与える方が多いこと。
生存力に余裕があり、自立できている証拠である。
それは、よいことである。

輸出入において、輸入超過になること。
それは、他人のお荷物になっている証拠である。
人々は、その状態から早く抜け出す必要がある。

彼ら自身が他人に対して提供できる有効な機能は何か？人々は、日夜、それを絶えず考え、生み出して行く必要がある。

本来、各人にとって、機能の出入りは、資金の出入りと同じである。
それは、最低限収支とんとんか、望ましくは、輸出超過や、黒字になる必要がある。
なぜなら、不意の事故などで、機能を生み出せない体になってしまうこと。
そして、輸入超過の状態になること。
そうした可能性がある。
そうなった時に、以下の方法で食いつなぐ必要があるからである。
手持ちの既存の黒字分や、預金の消化。

人々が、彼ら自身の機能を、輸出超過や、黒字にすること。
そのためには、人々は、絶えず、他人が必要とする機能を提供し続ける必要がある。

他人に有効な機能を出さずに、他人から貰ってばかりの場合。
機能の輸出入の収支は、赤字になってしまう。
人は、こうした一方的な機能の提供を好まない。
人は、互助的な生き物である。
機能の収支の赤字の持続。
それは、結局その人が生きて行けなくなることにつながる。

他人に有効な機能を提供しない生活。
他人から機能をただ受け取り、奪うだけの生活。
そうした生活をする人は、略奪者である。

彼らは、人々の機能提供の相互助け合い、融通を崩す。
彼らは、人々が生きにくい社会を作り出す。
これは、極力排除しなければいけない。

他人の役に何ら立っていないのに、リッチな生活をすること。
それは、泥棒、寄生虫と同じである。
それは、病的である。
一方、他人の役にたくさん立っているのに、生活が苦しい人。
その存在も問題である。
こうした状態の人が発生しないように、以下のように社会をコントロールすべきである。
他人の役にたくさん立っている人がリッチな生活を送れること。
役に立たない人はとりあえず最低限の生活ができるようにすること。

人の役に立たないと、生活できない、お金は貰えないということ。
それが、一大原則である。

以下の（１）を実行しないと、以下の（２）を実現できない社会。

（１）
人が生存していくのに有効な機能。
それを提供すること。

（２）
提供した機能に対する返礼の物資。
それを貰い、蓄積すること。
その結果、生きていけること。

そうした社会が、本来あるべき社会の姿である。
社会は、、そういう姿に保つべきである。
「働かざる者、食うべからず。」
そうした精神が必要である。

他人と機能のやりとりをする場合。
相手側が、彼自身の欲する機能をそのまま持っていること。
それは、稀である。

他人と機能のやりとり、交換。
それを円滑にするには、貨幣、お金が必要である。

それは、互いの交換する機能の価値を、共通の尺度で数値化したものである。

人は、お金があればあるほど、必要な機能を手に入れやすくなる。
そして、人は、より生存しやすくなる。
それは、確かに、事実である。

お金さえ儲かればよい。
お金が全て。
そうした考え。
それは誤りである。
大切なのは、お金それ自体では無い。
大切なのは、お金と交換で手に入れる機能の方である。
例え、人が、お金をいくら持っていても、いざと言う時に、必要な機能と交換してもらえないと、何にもならない。
それは、衣食住に必要な働きである。

人が機能不足で困っている時に、機能を融通してくれる相手。
それは、常日頃、彼自身が親切に、協力し、相互援助していた相手や友人であること。
そのことが多い。
そういう点で、友人の存在は、不時の機能の獲得にとって、不可欠である。
持つべきものはお金ではなく、友達である。

一般に、ビジネスは、以下の内容とみなされる。
相手に機能を提供すること。
そして、その分の対価をきっちり貰うこと。
そして、利益を得る、儲けるもの。

他人から対価をなるべく多く巻き上げて、金持ちになること。
それが自己目的化してしまう人。
そうした人がが多い。
他人に対して提供する機能そのものに目が行かないこと。
機能提供の対価として支払われるお金に目が行ってしまうこと。
そのため、目先の利益確定に目が囚われること。
そうして、以下の内容の実現が、おろそかになること。
彼自身が提供する機能。
それらの品質の確保や、向上。
それらが発生する。

儲かるなら、低品質の機能で構わないとする見方。
それが広まることになってしまう。

人々の間に行き交う機能の品質。
それが低下する。
人々の環境適応の水準。
それは低くなる。
人々はより生き延びにくくなる。
これは、まずいことである。

そこで必要なのは、見方、スタンスを変えることである。

人の役に立つこと。
人々の環境適応水準を向上させること。
それらに資する、よりよい機能。
それを周囲に向けて生み出していくこと。
それを実行しようとする心構え。
それを、まず根底で持つことである。

その心構えが、日常の仕事の中で、以下の内容を生み出す原動力になる。
人々がより生き延びやすくなるのに役立つ、新たなアイデア。
それは、新たなビジネスチャンスに直結する。
そうしたビジネスを推進すること。
人々は、それで、以下の（１）と、以下の（２）を同時に実現可能である。

（１）
周囲の人々の生活水準を向上させること。

（２）
彼ら自身も、周囲の人々から対価を貰うこと。
そうして、金持ちになり、豊かになること。

金儲けには、こちらの考え方の方が重要である。
その人は、単なる金の亡者のように、周囲の人々から一方的に金を巻き上げるのではない。
その人は、他人の役に立った上で儲けている。
なので、彼は、他人からは、以下のように、称賛を受ける。
「ありがとう。

助かった。」
彼は、周囲や社会に受け入れられる。
そうして、彼は、なおかつ、金持ちになれる。
彼は、また、以下を実現できる。
周囲の人々の頭に、彼ら自身を、プラスの価値あるものとして、売り込むこと。
彼ら自身の文化的子孫を、周囲の人々の頭の間に残すこと。
上記の考え方は、これらの実現にもつながる。

他人の役に立つこと。
それは、以下の効果も持つ。
自分の分身を他人の間に広めやすくなる効果。

人間は生き物である。
なので、人間は、絶えず、自己増殖を図ろうとする。

人は、以下の（１）について、以下の（２）を実現しようとする。

（１）
彼自身のアウトプット。
彼自身の分身。

（２）
彼自身の生きた証とすること。
できるだけ長く残すこと。
できるだけ、広範囲に広めること。

これが実現した場合。
人生は成功である。

一方、彼自身のアウトプットが途絶え、広まらずに消滅した場合。
人生は失敗である。

////
成功した人生。
彼自身とその分身の、外部世界への拡大や増殖。
それをうまく果たした人生。

失敗した人生。
彼自身とその分身の拡大や増殖。

それに失敗した人生。

////
ただし、この人生の成功と失敗は、長い目で見ないと分からない。

場合によっては、以下のことが起きる。

（１）
本人が死んだ後で、その功績が発掘されて、有名になって世界中に広まること。

（２）
本人が生きている間は、成功者として恵まれた人生を送ること。
しかし、死後、急速に忘れられて、消えてしまうこと。
死後、批判の対象になって、汚名を残すこと。

各人が生成する機能。
それも、その人にとっては、以下の内容である。
彼自身の分身。
彼自身のコピー。
彼自身の生きた証。

各人が生成する機能を、彼自身の分身や、彼自身の生きた証として、残すこと。
それには、以下を実現する必要がある。

（１）
質を最上級にすること。
質をできるだけ高めること。

（２）
量を最大化すること。
できるだけ広範囲に広めること。

こうした意図から良質の機能がたくさん社会に出回ること。
それが、以下の実現につながる。
人々を社会の中で生きやすくすること。

彼自身の生成した機能。
それをできるだけ長生きさせよう、広めようとする欲求。

それは、生物として自己増殖しようとする欲求である。
それは、極めて利己的な自分勝手な欲求である。
しかし、その利己性が、結果的に、以下をもたらす。
社会に流通する機能の質量の向上。
社会の発展に貢献すること。

他人の役に立つこと。
他人に対して有益な機能を提供し続けること。
それが、彼自身のアウトプットやコピーを他人のもとに広める自己増殖につながる。
それは、結局は、生き物としての成功につながる。
他人の役に立つこと。
それは、結局は、彼自身のためになる。

他人に必要とされること。
他人にとって必要な機能を提供できること。
それが、人間にとっての生きがいである。
それは、以下の内容である。

（１）
他人に対して、必要な機能を提供できること。
それで、対価が得られること。
その対価で、以下の内容を手に入れることができること。
彼自身が生き延びていく上で必要な物資。
その結果、より生き延びやすくなること。

（２）
他人、周囲へと、彼自身の分身である自作の製品のコピーを広める機会が増えること。
その結果、自己増殖につながること。

他人に、必要な機能を提供できないこと。
他人から不要、お荷物と見なされること。
それは、以下の内容になる。
生きていく価値が無いこと。
存在価値が無いこと。
人生の失敗。

人間が、仕事で給与稼ぎに一生懸命になること。
それは、人が、単に、彼自身の生活を豊かにしたいというだけでは

ない。
人は、その過程で、以下の内容を、人生目標にするからである。

（１）
いかに、他人に必要とされる、価値ある人間となるか？

（２）
いかに、他人に必要な機能をてきぱき提供できる、有能な人間とみなされるか？

（３）
そうして、いかに周囲から高い価値を与えられるか？

それらに、その人の人生の成功がかかっているからである。
その人の有能さ。
それが後世まで語り継がれた場合。
彼は、歴史上の人物として、彼自身の存在を、死後もずっと人々の間に広めることが出来る。
彼は、文化的な自己増殖に成功したことになる。

高い機能提供能力を持っている有能者。
そのように見なされること。
それは、以下のような周囲の評価につながる。

「我々は、あの人には、生きていて貰わないと困る。」

「我々には、あの人の存在が、必要だ。」

「我々は、あの人がいると、助かる。」

「我々は、あの人を、バックアップ、サポートしよう。
そうして、彼に、その持てる能力を、十分発揮してもらおう。」

そうした評価。
それは、以下の実現につながる。
彼自身が生きていく上での必要な援助やサポート。
それを周囲からより得やすくなること。
より生き延びやすくなること。

それはまた、以下の実現につながる。
よりよい機能提供。
そのためにはどうすればよいか、人より物事がよく見えること。
社会や組織で高い指導的な地位を約束されること。
周囲の人たちを、彼自身の言うことを聞く分身、部下として使うこと。
それが可能になること。
その点、周囲に彼自身の教えが広まりやすくなること。
そうして、自己増殖に成功すること。

人が周囲から褒められると喜ぶこと。
それは、本質的には、以下のような有能感を持てるからである。
「私は、他人に必要とされた。
私は、他人の役に立った。」
その有能さ。
それは、以下の実現につながる。
彼自身を生き延びやすくすること。

機能主義者の人生訓。
それは、以下の内容になる。

「他人に必要とされる人間。
プラスの価値のある人間。
そうした人間になりなさい。」

「他人に必要な機能。
それを提供できる人間。
有能な人間。
そうした人間になりなさい。」

人は、死後天国に行くために、善行をしようとする。
しかし、本来、善行は、そういうものではない。
善行は、社会を、彼自身や他人にとって生きやすくするために行うものである。
社会が生きやすくなること。
そのことで、人が、以下を図りやすくすること。
生物としての自己保存、自己増殖。
それが、善行の効果である。
善行は、天国の存在など仮定しなくても、生き物としての人間に

とっては、行うべき根拠が十分ある。

善行や隣人愛。
その動機。
それは、以下の内容でも、全然構わない。
自己保存や自己増殖。
それらを有利にしようとする自己中心的なもの。
善行は、彼自身の利益のために行うものである。
それは、以下の内容である。
「情けは人のためならず。
彼自身のためである。」
その動機が自己中心的でも、結果として、以下の内容につながれば、それで良い。
人間が相互に生き延びやすくなること。

彼自身を無にすること。
彼自身を犠牲にすること。
そうして、他人のために尽くそうとすること。
そのように、わざわざ苦闘すること。
それは全然必要無い。
そういう行き方。
それは生き物として不自然である。
善行者は、「偽善者」で全然構わない。

愛。
それは、機能主義の観点からは、以下の内容である。
互いに相手の役に立とうとすること。
それは、第一に彼ら自身の生活維持のためである。
それは、天国に行くためのものではない。
困っている人への共感。
「そうした事態は、明日は、我が身に起きるかも知れない。」
それに伴う、解決策の提示や実行。
それが、以下の中身である。
機能主義的な愛。

彼自身や他人の役に立つ機能。
それを十分提供できるようになること。
それには、以下が必要である。
それなりの情報やノウハウ。
その取得。

その学習。

人間にとって教育がなぜ必要か？それは、以下の理由である。

人間が、以下の能力を身に付けるため。

彼自身が生きていくために必要な機能生成能力。

人間が、他人の役に十分立つだけの機能を提供できる能力。

彼自身や他人の環境適応の役に立たない勉強。
それは、しても仕方がないし、意味がない。

教育を、人間を能力面でふるい分けするための道具として使うこと。
それは、本来の用法からすれば間違いである。
教育の本来の用法。
それは、以下のものである。
人間に、変転する環境下で生き延びるノウハウを与えること。
生き延びていく上で役立つこと。
それを教えること。
それが、学校教育の基本である。

生きていくために必要な機能。
その獲得。
それは、複数の人間の間で、取り合いになることがある。

彼自身の生成した機能。
それを、他者の間に広める場合。
それは、類似した機能をを生成する他者との競争になる。

機能への引換となる貨幣を多く持つ金持ち。
彼らが、機能を独占して所有する事態。
それも起こる。

貧乏人。
それは、必要な機能を手に入れられない人のことである。

一部の人間による機能の独占。

それは、本来、互助的な生き物である人間の本性になじまない。
機能は、できるだけ、必要とされる人々へと、必要最低限、平等に分配される必要がある。

病気などで、他者に機能を提供できず、そのため返しの貨幣も貰えずに貧乏でいる人。
その人も、以下の可能性、能力を秘めている。
ひとたび病気が治った場合。
十分な教育を受けた場合。
他者に対して、有用な機能を提供できるようになること。

なので、社会は、以下の（１）の人に対して、以下の（２）を実行する必要がある。

（１）
現状では、生活保護などで、他者から機能を一方的に貰いっぱなしになっている人。

（２）
最低限の機能を融通して、生き延びてもらうこと。
以下の可能性が大きく存在する。
当世代の親は、病気などのため、能力的に駄目である。
しかし、次世代の子供は優秀である。

経済的な稼ぎ。
社会的地位。
それらに囚われ過ぎること。
それは駄目である。
いくら稼いでも、出世しても、彼自身のことを後世にずっと残せなかったら、人間としては何もならない。

人間には、永遠の命が必要である。
それを、宗教への信心によって得ようとすること。
それは誤りであり、ミスリードである。
宗教は、天国の存在に頼っている。
それは、人間が、勝手に想像し、作り上げたものである。
それは、本来存在しないものである。
それは、実効性が無い。

彼自身の遺伝的、文化的子孫。
その後世への永代的な受け継ぎ。
それを実現すること。
それが、人間にとっての実際の永遠の命に当たる。
彼自身の遺伝的、文化的子孫。
それが後世へとより受け継がれること。
それを、生き残りやすくすること。
そのためには、以下の内容が必要である。
それらの子孫がより機能的であること。
子孫は、変転する環境に対して適応的であるほど、すなわち機能的なほど、後世に受け継がれ、生き残りやすい。
人間が永遠の命を得ること。
そのためには、以下の行為が有効である。
機能主義を信じ、実行すること。

（2005年 初出）

歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

はじめに。本書の目的。

歴史。
それは、以下の内容である。

（１）
生物の歴史。
生物の生きた証。
生物の生きた痕跡。
その探索と発見。

（２）
過去の生物。
その姿。

その社会。
その実態。
その解明。
その結果を、現代社会との間で比較すること。

それは、生物の興隆と衰亡の繰り返しとなっている。
例。
恐竜の歴史。
人類の歴史。

生物は、歴史を学ぶ。
生物は、それにより、以下の内容を理解することができる。

私は、どうすれば興隆できるか？
私は、どうすれば覇権を取れるか？
私は、どうすると衰亡してしまうか？

生物は、それを学ぶ。
生物は、そうして生きる。

過去に存在した、生きやすかった社会の事例。
過去に存在した、生き辛かった社会の事例。
生物は、それを参考にして、生きる。

本書は、以下の内容について、まとめている。

歴史の法則の解明。
そのために必要な、主な視点。

体制。
文化。

興隆の条件。
衰亡の条件。

体制側にとっての歴史。
支配される側にとっての歴史。

歴史の法則の解明。そのために必要な、主な視点。

（１）現状の課題

現代社会では、歴史が、高校などの授業で教えられている。
それは、以下の内容である。
史実の年代。
活躍人物の固有名詞。
それらの機械的暗記。
そのオンパレード。

現代社会では、歴史が、大学などで研究されている。
それは、以下の内容である。
史料の新発見。
史実の新発見。
史実の確定。
史実の解釈。
それらのオンパレード。

一般的で、系統的で、簡易明快な、歴史法則。
それらは、まだ明らかにされていない。
しかし、本来は、系統的な歴史の把握が必要である。
それは、以下の内容を実現する。

教えられる大量の歴史や史実。
その基盤にある共通の法則やルート。
それらを予め整理すること。
それを、人々に対して提示すること。
そのことで、初学者でも、以下のことを実現可能にすること。
歴史のエッセンスを、たちどころに把握できるようにすること。

歴史や史実を、共通のコースやルートをたどりながら、把握できるようにすること。
そのことで、史実を、頭のなかで整理しやすくすること。

現代の、リアルタイムでの、一人ひとりの生き方。
歴史は、その把握につながる。

歴史。
それは、以下の内容である。
生き方の法則。

人々は、彼ら自身の人生の法則を知るために、歴史を学ぶ。
そのことが、人々にとって容易になる必要がある。

それは、以下の内容を実施することで、可能になる。
歴史の法則の抽出手順。
「歴史の部品。」
その割り出し方法。
その割り出しの手順。
その解明。
その整理。
その体系化。

（２）歴史の法則の抽出手順。「歴史の部品」の割り出し。

最初に、以下のような、歴史に関する文書を、完成させること。
大まかで、全体を鳥瞰する記述内容の、小さなパンフレット。
その内容においては、歴史史実を、つまみ食いの形で、一般化した形で、引用すること。

次に、歴史書の記述を一般化して、その記述を整理して、マインドマップ等に集約すること。

最終的には、歴史を、共通の規格化された部品、パーツとして、捉えること。
歴史を、「歴史の部品」の集合体として、捉えること。

「歴史の部品」としての、ブロック部品や、マイクロ部品。
それらの組み合わせとして、歴史を表現すること。

たどるコースや、ルートの典型化や、可視化。
そのことを、「歴史の部品」を組み合わせることで、可能にすること。

（３）歴史の法則の抽出作業を行うこと。そのために必要な前提知識。

（３－１）
大まかな、枝葉末節に入らない、世界史の知識。
それは、高校の世界史教科書レベルが適当であること。

（３－２）
心理学。
社会学。
それらは、いわゆる行動科学であること。
それらの基礎的な知識。

人間個人。
社会。
それらの仕組みについての理解が、前もって必要であること。

（３－３）
経営学の基礎的な知識。
国家や民族の経営についての理解。
それらが、前もって必要であること。
それらは、企業経営との間において、共通点が多い。

（３－４）
地政学や、軍事学についての基礎的な知識。
歴史は、攻めたり、滅ぼしたりの繰り返しであること。
それは、会社乗っ取りのように、非武装での攻撃や、せん滅を、含む。

（４）歴史の法則の抽出作業。その実践。

（４．１）歴史書の文言。その言い換えの作業。

歴史書の文言。
それは、現状では、固有名詞のオンパレードになっていること。
それを、より一般的、普遍的な内容に言い換えること。
固有名詞を消すこと。
その手法は、本書の資料編に記載されている。

一般化や普遍化を行った歴史書の内容。
そこから、共通のコースやルートを、抽出すること。

（４．２）歴史の法則や歴史の部品。それらの抜き出しと整理。その重要ポイント。

抽出結果から歴史の法則や、歴史の部品を導出すること。
そのための整理ポイントを明らかにすること。

そのために、少なくとも、以下の点に着目すること。
筆者は、それらを、以下の手順で得た。
高校向けの世界史の教科書。
その全体を俯瞰すること。
そこから、時代を超越して普遍的に見られる事項を、抽出すること。

A. 勢力

A1.
勢力。

///
拡大。
繁栄。
衰退。

地図上で、一定の勢いや力を持つ人々の集まり。
その勢いの拡大や、縮小や、消長。
それらのタイプや原因。
上記について説明すること。

人々の集まりとしては、以下について言及すること。

（１）
民族。人種。
（２）
政権。
（３）
企業などの集団や組織。

どのような原因で、それらの勢力が、伸張し、繁栄し、衰退し、滅亡したかについて、説明すること。

（１）
私たちの勢いが、拡大すること。
それは、良いことである。

（２）
私たちの勢いが、縮小すること。
私たちが、滅亡すること。
それらは、悪いことである。

そうしたことを説明すること。

（目標）

以下についての、歴史上の知見。
それを与えること。

（１）
どうすれば、人々は、勢力を伸ばし、繁栄し、その繁栄を維持できるか？

（２）
どうすれば、人々は、衰退から立ち直れるか？

（Ａ）
整理。
繁栄の条件。

（１）
商業。

（１－１）
交易や、貿易を、しやすいこと。
交通の要衝であり、市場を開きやすいこと。
例。
中国。北宋の都。開封市。

（２）
資源の確保。

（２－１）
彼ら自身の領土の内部に、鉱物や石油などの、有用な資源を、潤沢に保持していること。
それら資源を、容易に採掘できること。

（２－２）
彼ら自身の風土が、植物の栽培に、適していること。
例。
稲。
小麦。

（２－３）

彼ら自身の風土が、以下の用途に適していること。
動物の飼育。
魚の漁や養殖。

例。
家畜。
養殖魚。

（３）
工芸。

（３－１）
有用なツール。
ハードウェア。
ソフトウェア。
それらのプロダクト。
それらを、彼ら自身の内部で、保有していること。

それらの製造能力がある人々。
そうしたメンバーが、彼ら自身の内部に、たくさんいること。

（３－２）
売り物になる美術工芸品や、文芸や、音楽など。
それらの作成能力がある人々。
そうしたメンバーが、彼ら自身の内部に、たくさんいること。

（４）
情報の確保。

（４－１）
新しい、重要な情報や、ニュース。
それらを、入手したり、発信したりしやすい位置にいること。

（５）
モチベーションの確保。

（５－１）
進んで働くモチベーション。
それらを、人々が持ちやすいこと。

自発的な労力の提供。
その行為が報われる社会であること。

（６）
変革の確保。

（６－１）
人々が、以下の行為を、積極的に行いやすいこと。
今まで無かった方向へと進むこと。
チャレンジすること。
変革をすること。

社会的な停滞や弛みの、防止。

B. 権益

B1.
権益。

///
資源。
領土。
人材。

持っていると、その持ち主の生活レベル向上に役立つもの。
生きていくうえで、持ち主に対して、必要な様々な利益をもたらすもの。
資源。物資。人材。領土。情報網。
その利益のタイプや特徴。
それらについて説明すること。

（１）
権益の取得や、奪取。
（２）
権益の維持。
（３）

権益の消滅。

それらのきっかけ。
そのために取られた政策内容。
その分類。
それらについて、説明すること。

（目標）
どういう風にすると、人々は、権益を得やすいか？
どういう風にすると、人々は、権益を守りやすいか？
どういう風にすると、人々は、権益を失いやすいか？
それらについての歴史上の知見を与えること。

（Ａ）
整理。
権益の取得。

（１）
権益取得の方法。

（１－１）
権益のありかについて、その権益の第一発見者や、発明者となること。
先行者として、ライバルに気づかれないうちに、その権益の存在に対して、唾を付けること。
それらを、全て彼ら自身の領土化すること。

（１－２）
武力や、外交力を用いて、既に権益を確保しているライバルを攻略して、その権益を横取りすること。

B2.
侵略。

///
侵略が起きる原因と、その進行プロセスについて、説明すること。

原因。例。

侵略される側。
豊富な天然資源など。
そのような魅力的な既得権益。
それらを保持している割に、軍事力や武装が、弱いこと。

侵略する側。
その社会が、不振で、行き詰っていること。
その打開のために、他国の権益に目を付けること。
あるいは、新たに勃興した勢力が、さらに伸張するために、既存の権益奪取に目を付けること。

彼ら自身は、いかに侵略を進めたか？
彼ら自身は、いかに他国の侵略を防御したか？
それらのノウハウについて説明すること。

（目標）
彼ら自身は、どうすれば他国の権益を奪取できるか？
彼ら自身は、どうすれば他国に権益を横取りされずに済むか？
それらのノウハウについて、歴史上の知見を与えること。

（Ａ）
整理。
権益の奪取。
その維持。

（１）
権益の奪取。

（１－１）
強大な武力を用いて、現在の権益保持者である他国を攻撃し、陥落させること。
そのことで、他国の権益を奪うこと。

（１－２）
巧みな外交力を用いて、現在の権益保持者である他国を追い詰め、その逃げ場を無くして、他国を屈服させること。

そのことで、他国の権益を奪うこと。

（１－３）
潤沢な資金力を用いて、現在の権益保持者である他国に対して、権益売却を持ちかけ、権益を買い取ること。

（２）
権益の維持。

（２－１）
自衛や、反攻の武力を用いて、彼ら自身の権益を狙う他国の攻撃を、封じ込めること。

（２－２）
外交力を駆使して、彼ら自身の権益を狙う他国の戦略行使を、封じ込めること。
他国に追い詰められないように、逃げ場や、余地を、彼ら自身の内部において、確実に用意しておくこと。

（２－３）
経済的に困窮して、彼ら自身の権益を他国に売り渡すこと。
そうしたことをしないで済むように、資金面での蓄えを、彼ら自身の内部において、確実に用意しておくこと。

C. 支配体制

C1.
支配。

///
支配層や権力層と、被支配層との関係。
そうした関係が、国家などにおいて、どのように構築され、維持され、揺らぎ、消滅したか？
それらについて、説明すること。

どういうタイプの人たちが、支配層や権力層として、君臨したの

か？
その支配が長期にわたった理由。
その支配が短期に終わった理由。
それらについて、説明すること。

（目標）
人々は、どうすれば支配者や権力者になれるか？
人々は、どうすれば支配を長期化できるか？
それらについての歴史上の知見を与えること。

（Ａ）
整理。
支配。

///
権力の獲得。
その維持。
その強化。

（１）
支配者になるコツ。

（１－１）
社会の中に、彼ら自身のベースとなる居場所や基地を、確保すること。

（１－２）
彼ら自身の行動に賛同、助言してくれる協力者や、友人や、参謀。
それらを確保すること。

（１－３）
こうすれば上手く行くという、彼ら自身の戦略や、ビジョン。
それらを、確保すること。

（１－４）
彼ら自身にとって防波堤になってくれる、パトロンや、有力者など。
それらを、確保すること。

（１－５）

彼ら自身のために下働きしてくれる人たち。
それらを、確保すること。

そうした人たちが、彼ら自身のために、自発的に働いてくれるようにすること。

（１－６）
彼ら自身の上を行く者に対抗できるように、絶えず能力を磨くこと。

（２）
支配者となるために必要な力。
（２－１－１）
知力。

///
理解力。
記憶力。
戦略上のアイデアを創造する力。

（２－１－２）
統率力。

///
リーダーシップ。
人心を掌握する力。

（２－１－３）
コミュニケーションを行う力。
情報収集を行う力。

（２－１－４）
実行力。
行動力。

（２－２－１）
財力。

///
資産の力。

予算を確保する力。

（２－２－２）
武力。

///
武術や、武器装備を、充実させる力。
攻撃力。
防御力。

（２－２－３）
縁故の力。

///
血縁。
地縁。
学閥。

（２－２－４）
体力。

///
運動能力の充実。
健康の維持。

（３）
支配長期化のコツ。

（３－１）
いったん支配が安定したら、その状態を保持し続けて、あまり動かさないようにすること。
体制を確立すること。

（３－２）
反乱が起きないようにすること。
それは、以下の行為である。

（３－２－１）
人々を、生活面で充足させ、不満が出ないように、し続けること。

（３－２－１－１）
人々への経済面でのバラマキを、適宜行うこと。

（３－２－２）
人々の内政への不満を、抑圧すること。

（３－２－２－１）
武力や、警察力を、整備すること。
それらを活用して、反抗する者を、常時取り締まること。
人々に対して、見せしめを活用すること。

（３－２－３）
人々の内政への不満を、ガス抜きすること。

（３－２－３－１）
彼ら自身の外部に、仮想敵国を作ること。
そのことで、人々の注意をそちらに向けさせること。

（３－２－３－２）
社会における、被支配者側の人々。
彼らを、分断し、互いに攻撃させること。
そのことで、彼らの戦力を消耗させること。
そうした彼らの戦力は、本来、支配者側への反抗へと、向かうはずであること。

（３－２－４）
周囲の状況の変化を、素早く察知すること。
それに応じた社会の変革を、俊敏に、継続的に行うこと。
あるいは、その振りをすること。

（３－２－５）
支配者側内部での主導権争いや、内紛や、対立。
それらの発生による、支配者側の弱体化。
それを、避けること。

（４）
支配者と被支配者との関係。

（４－１）

既存の権力関係や、支配関係。
既得権益。

（４－１－１）
支配者側。
私たちは、それらを、維持、強化したい。

（４－１－２）
被支配者側。

（４－１－２－１）
私たちは、それらを、打破し、弱体化したい。

（４－１－２－２）
私たちは、自分たちも支配者側の一員に入れてもらいたい。
私たちは、そうして、それらを享受したい。

C2.
体制。
混乱。

///
国家などの仕組みや、体制。
それらが、どのように構築され、維持され、揺らぎ、消滅したか？
それらについて、説明すること。

どのような社会の仕組みが、人々によって、受け入れられたか？
どのような社会の仕組みが、人々から嫌がられたか？
どのような社会の仕組みに対して、人々は、反乱を起こしたか？
それらについて、実例をもとに、その理由について、タイプ分けを行って、説明すること。

どのような原因で、社会が混乱したか？
どのような原因で、その混乱が収まったか？
それらについて、タイプ分けを行って、説明すること。

（目標）
人々の社会がうまく回るために、どのような仕組みを作ればよい

か？
それについての歴史上の知見。
それを、人々に対して、与えること。

（Ａ）
整理。
混乱の防止。

（１）
災害。
（１－１－１）
天災。
（１－１－２）
人災。

（１－２－１）
災害の予防。
災害が起きた後の、迅速な対応。
それらを心がけること。

（１－２－２）
災害によって、社会が混乱しないようにすること。

（１－２－２－１）
予め災害発生のシミュレーションを、徹底すること。

（１－２－２－２）
災害が起きてしまったら、とりあえず、以下のことを行うこと。
復旧すること。
新しい整備や整地を、行うこと。
それらの計画を、迅速に立案し、実行に移すこと。

（２）
政策一般。
（２－１）
人々が心理的混乱を起こさないように、対処すること。

（２－１－１）
政策の内容が、朝令暮改にならないように、気を付けること。

（２－１－２）
政策が、人々にとって過酷になり過ぎないように、気を付けること。

D 生活

D1.
富裕と貧困。

///
どのような場合に、どのようなプロセスで、国家や人々が、富裕になり、貧困に陥り、貧困から抜け出したか？
それらの原因や理由について、説明すること。

なぜ、人々の間に、経済格差や所得格差が生まれ、拡大、縮小していったか？
それらの原因や理由について、説明すること。

（目標）
どうすれば、人々は、富裕になれるか？
どうすれば、人々は、貧困から抜け出せるか？
どうすれば、社会的な格差を、無くせるか？
それらについての歴史上の知見を、与えること。

（Ａ）
整理。
富裕になるやり方。

（１）
教育。

（１－１）
彼ら自身の持つ、稼ぐ能力を、新たに学習によって、後天的に身に付けること。

（１－２）

彼ら自身の持つ、先天的な天賦の才能を、発見しやすくすること。

（２）
ライバルの活用。

（２－１）
ライバルとの競争力を、身に付けること。

（２－１－１）
ライバルのノウハウを、内偵により取得すること。
そうすることで、ライバルに対して、追い付けるようにすること。

（２－１－２）
ライバルが持っていない独自のノウハウ。
それらを、発見し、実用化すること。

（Ｂ）
整理。
格差をなくすやり方。

（１）
格差をなくすこと。

（１－１）
上位に就いた者が、何もせずに怠けているか、間違ったことばかりしている場合。
その上位者が、直ぐに下位へと、落ちやすいこと。
それらの実現を容易にする社会制度を、作ること。

既得権益者の維持や固定化。
それらを、実行しにくくすること。

（１－２）
彼ら自身が、いったん下位へと落ちても、努力と才能があれば、容易に這い上がりやすいこと。
そうした社会制度を、作ること。

（１－３）
社会の内部を、時々かき回して、その新陳代謝を行うこと。

D2.
自由、権利と圧政。

///
どのようなプロセスで、人々は、自由や権利を得たか？
どのようなプロセスで、人々は、得た自由や権利を維持したか？
どのようなプロセスで、人々は、得た自由や権利を失ったか？
それらについて、説明すること。

どのようなプロセスで、圧政が生じたか？
それは、どのようにして続いたか？
それは、どのようにして打破されたか？
それらについて、説明すること。

（目標）
ポイント。

（１）
人々は、どうすれば、自由や権利を獲得し、それらを維持できるか？

（２）
人々は、どうすると、せっかく得た自由や権利を、失ってしまうか？

（３）
人々から、自由や権利を、上手に奪うには、どうしたら効果的か？

それらについての歴史上の知見を、人々に対して、与えること。

（Ａ）
整理。
自由の獲得。

（１）
自由の獲得。

（１－１）

彼ら自身の能力を、周囲に対して、認めさせること。

（１－２）
彼ら自身の居場所や、縄張りや、専門分野を、取得すること。

（１－３）
彼ら自身のプライバシーを、確保すること。
彼ら自身の領域について、その錠前と鍵を、自前で、用意すること。

他者が入って来ることが出来ない、独自の空間。
それらを、作ること。

（１－４）
彼ら自身の技能や計画を、ブラックボックス化すること。
それらに対して、上位者が、容易に手出しが出来ないようにすること。

（１－５）
武器を持って、自衛すること。

（２）
自由の喪失。

（２－１）
自活できる能力を、失うこと。

（２－２）
彼ら自身の居場所や縄張りを、失うこと。
彼ら自身の専門分野が、無効になること。

（２－３）
彼ら自身のプライバシーを失うこと。
彼ら自身の領域において、他者の侵入を許すこと。

（２－４）
彼ら自身の秘匿する、技術情報や計画の情報。
それらが、外部に流出すること。

（２－５）

自衛の武器を、失うこと。

（３）
自由の剥奪。

（３－１）
個人の自衛をはるかに凌ぐ、強大な武力や警察力を持つこと。
それらの力を行使して、個人のプライバシーや秘匿技術を、強制的に奪うこと。
それらの実現を、可能にすること。

（３－２）
社会の制度。
個人の運命。
それらを、自身の思うままに変えられる独裁体制。
それらを、作り上げること。

例。
ドイツ。
ヒトラーのナチズム。

（３－３）
個々人の行為に対する許認可権限。
それらを、確立すること。

（４）
圧政。

（４－１）
権力者。
権力側の人々。
彼らは、支配下の人々を、強制的に自分の色に染め上げる。

権力者。権力側の人々。
彼らは、そのことを、以下のように、見なす。
彼ら自身が、その社会を支配している、証拠。

例。
中国。
清による、漢民族への、辮髪の強制。

E. 変化

E1.
改革。
変革。

保守。
革新。

///
社会における、立場の違う、様々な人々。
社会の仕組みを、彼ら自身にとって、より良い形に変えようとすること。
そのための、複数勢力間における、せめぎ合い。
そのあり方。
その経過。
それらについて、説明すること。

（１）
社会変革の主導権。
それらを握った勢力のタイプ。

例。
保守勢力。
革新勢力。
彼ら自身の社会的なバックグラウンド。
彼ら自身の職業。
それらの種類の違い。

彼らは、どのようにして、社会変革の主導権を、握ったのか？
それらについて説明すること。

（２）

社会変革。
それは、改革か？
それは、革新的なのか？
それは、復古なのか？

それらは、いかなる原因で、、発生したのか？
それらは、どういうタイプの人物や集団由来で、発生したのか？
それらについて、説明すること。

（３）
社会変革のプロセス。
それらは、どのように進行したか？
それらは、いかなる原因で、成功し、失敗したか？
それらについて、説明すること。

（目標）
人々は、どうすれば、社会の仕組みを、うまく変えられるか？
それらについての歴史上の知見を、人々に対して、与えること。

（Ａ）
整理。
変革の分類。

（１）
（１－１）
その変革は、社会上層部が起こしたか？
例。
権力。
資本。
それらを持つ層。

（１－２）
その変革は、社会下層部が起こしたか？
例。
労働者。
資産の無い層。

（２）
（２－１）
その変革は、今までにない、新しい領域に入るタイプか？

その変革は、革新的か？

（２－２）
その変革は、元いた領域へと戻るタイプか？
その変革は、保守的か？

（３）
（３－１）
その変革は、自主的で、自発的で、内発的なものか？

（３－２）
その変革は、外部の他の勢力から、強制されたものか？
例。
他国。

（４）
（４－１）
その変革は、人々によって、受け入れられたか？

（４－２）
その変革は、人々によって、不満を持たれ、拒絶されたか？

（４－Ａ）
（４－Ａ－１）
その変革は、人々を、自由に解放するものか？

（４－Ａ－２）
その変革は、人々を、より束縛するものか？
その変革は、人々に対して、より忍従を強いるものか？

（４－Ｂ）
（４－Ｂ－１）
その変革は、人々の生活を、豊かにするものか？

（４－Ｂ－２）
その変革は、人々の生活を、貧しくするものか？

E2.
反乱や革命。

///
反乱や革命が起きる、原因。
その背景に当たる、社会的な問題。
例。
貧困。
圧政。圧制。

反乱や革命が進行する、プロセス。

それらについて説明すること。

（１）
反乱は、どのような形で始まり、拡大したか？
その反乱の指導者は、どういうタイプだったか？

（２）
その反乱に対して、支配側は、どのように、火消しに動いたか？
その反乱は、どのように、平定されたか？

（３）
体制の転覆。
それは、どのように行われたか？

（４）
革命。
その結果、従来の支配層は、どのような運命をたどったか？
その結果、どのように、支配層が入れ替わったか？

それらを、法則の形で説明すること。

（目標）
どうすれば、既存の問題多い支配層を、打倒できるか？
どうすれば、新たな勢力や政権を、樹立できるか？

それらについての歴史上の知見を与えること。

（Ａ）
整理。
反乱の原因。

原因は、以下の内容にあること。

（１）
不満。
（２）
統率の不足。

（１）
不満

（１－１）
低い地位。
悪い扱い。

（１－１－１）
今までに比べて、彼ら自身の地位が低くなったこと。
今までに比べて、彼ら自身の扱いが悪くなったこと。

彼ら自身の地位が、低いままであること。
彼ら自身の扱いが、悪いままであること。

（１－２）
低い生活水準。
貧困。

（１－２－１）
彼ら自身の生活水準が、低くなったこと。
彼ら自身の生活水準が、低いままであること。

彼ら自身の生活が、苦しいこと。
彼ら自身の生活に対して、不満があること。

（１－２－１－１）
天災による、器物の破壊。

天候不良による、生育不良。
それらの発生。

例。
風水害。
火山の爆発。

（１－２－１－２）
上位者による、搾取。
それらの発生。

（１－２－１－３）
戦乱による、器物の破壊。
それらの発生。

（１－３）
不自由。

（１－３－１）
強すぎる秩序。
抑圧。
圧政。
その社会を、引き締め過ぎであること。
その社会において、自由が無いこと。

（１－４）
不正。

（１－４－１）
不正の横行。
悪法。
社会が、それらのなすがままになること。

（２）
統率の不足。

（２－１）
無警察状態。

（２－１－１）
弱すぎる秩序。
混乱。
アノミー。
その社会の中で、人々が、好き勝手に、やりたい放題であること。
放任。

（２－１－２）
上位者が、頼りないこと。
上位者に、統率力がないこと。
そこへと付け入る隙が、あること。

（Ｂ）
整理。
下位者から上位者への転換。

（１）
反乱の指導者が、権力者に変わること。

下位勢力における、中心的な人物。
彼ら自身が、上位者になること。

（２）
歴史は、繰り返すこと。
新たな反乱の指導者が、再び、生まれること。

例。
中国における、王朝交代。

（C）
整理。
自治領の内部における、権力構造。

///
人々が、外部権力者からの自治を、勝ち取った場合。

今度は、その自治領の内部において、以下の内容が、発生すること。
メンバー間における、支配と従属の関係。
メンバー間における、上下関係。

その発生は、不可避であること。

例。
中世ヨーロッパ。
都市の自治。

F. 指導者

（１）
指導者の役割。

（１－１）
反乱や革命を、主導すること。

（１－２）
体制を、構築し、維持すること。

（１－３）
支配すること。

（２）
指導者のタイプ。

社会の指導者が、個人である場合。
例。
王。首相。大統領。

社会の指導者が、集団組織である場合。

例。
政府。
中央官庁。

それらのタイプについて、説明すること。

指導者における、以下のあり方について、タイプ分けを行って、説明すること。

（２－１）
人心を掌握する手法。

（２－２）
知性のあり方。

（２－３）
運動性。
実行力。
それらのあり方。

（２－４）
出身のあり方。
その、社会的なバックグラウンド。
その、所属する社会階層。

（目標）
どのようなタイプの人が、歴史に名を残す指導者に、なれるのか？
人々は、自身が、指導者になるために、どういう資質を、身につければよいか？
それらについての知見を与えること。

（Ａ）
整理。
指導者の条件。

///
歴史上の指導者の場合。
その実例。

（１）
「私は、皆さんの不満を解消する。」
そのように、人々に対して約束すること。

（２）
統率力があること。

（３）
率先して実行すること。

自ら、率先して動くこと。
他人を動かすこと。

（４）
人々の願いを、集約すること。
それらの落とし所を、見つけること。

（５）
人的資源を、動員できること。
賛同者を、多数持つこと。
それらが、可能であること。

（５－１）
その主張内容が、賛同されやすいこと。

（５－２－１）
その人柄や性格が、人々にとって、惹かれやすいこと。
例。
温かいこと。
思いやりがあること。

（５－２－２）
その人柄や性格が、冷酷であること。
しかし、それらが、人々にとって、怖くて、拒絶出来ないものであること。

G. 文化. 芸術. 科学

今まで価値があるとされてきた、考え方やアイデア。
それらの実現方法。
それらには、どのようなものがあるか？
それらを、タイプ分けをして、説明すること。

人間は、なぜ、それらのものを、価値あるものとしてきたのか？
人間の感覚や、知覚や、記憶や、感情のあり方。
人間の脳の仕組み。
それらとの関連。
それらについて、分類して、説明すること。

それらが生まれた、自然環境や自然風土との関連。
それらについて、分類して、説明すること。

（Ａ）
整理。
歴史に残る文化や、芸術や、科学や、技術。

（１）
今までに無い、オリジナルな新境地を切り開いたこと。

例。
ダーウィンの提唱した、進化論。

（２）
今までの技術などに磨きをかけて、高度に完成させたこと。

例。
中国。
景徳鎮の陶器。

（３）
様々な分野に股をかけた、集大成を行ったこと。

例。

中国。
司馬遷の執筆した、「史記」。
その内容。

H. 宗教

今まで、どのような超越者や神が、人間によって、求められてきたか？
それらを、分類すること。
それぞれのタイプについて、その興亡を、その原因とともに、説明すること。

（１）
超越者の種類。
それらを、分析し、分類すること。

例。
唯一神の宗教。
多神教。

（２）
なぜ、そのタイプの超越者や神が、過去に求められて来たのか？
その理由を、説明すること。

（Ａ）
整理。
超越者に求められる、存在上の資質。

（１）
人々が、道に迷った時。
人々に対して、正しい道や、寄るべき道を、指し示してくれる存在。

（２）
人々にとって、以下の存在であること。
彼ら自身を、ありのままに受け入れてくれる存在。
彼ら自身を、包含してくれる存在。

（３）
人々にとって、以下の存在であること。
彼ら自身が、弱いこと。
そうした彼ら自身を、守ってくれる存在。
そうした彼ら自身を、強くしてくれる存在。
そうした彼ら自身に対して、力を与えてくれる存在。

（４）
人々にとって、以下の存在であること。
彼ら自身が間違っていること。
そうした彼ら自身を、矯正してくれる存在。

（５）
人々にとって、以下の存在であること。
彼ら自身を、災害や不幸から、守ってくれる存在。

（５）抽出した歴史部品。抽出した歴史法則。

（５．１）勢力の興亡のルート、コース

勢力。それは、以下の存在であること。
例。
個人。
集団や団体。
派閥。
企業。
国家。

民族。

国家の経営。民族の経営。企業の経営。
それらの間における、類似性。
それらを、参考にすること。

コース毎、ルート毎に、以下の内容を、明らかにすること。
そのコースやルートは、なぜ生じたか？

その原因となる要因。
それらの掛け合わせ。
それらを、行うこと。

歴史の体系化。
歴史の俯瞰視。
それらを、可能にすること。

コースを追う対象に当たる主体。
それらを、予め、決めておくこと。
そうした主体の候補。
国。
民族。
派閥。
企業。
主義。
権力者。その血統。その後継者。
経営者。その血統。その後継者。
一般人。

それらが身に付けた、実際の固有名詞。
それらを、史実として、明らかにすること。

------ここから
注意点。
その内容は、基本的に、上から下へと、流れること。

コースの繰り返し。
コースの飛ばし。

コースの循環。
それらがあること。

///
権力の側面。

[1.発生]

A1.
発生。
結成。
設立。

///
個人が、アイデアを思いついて、その共鳴者との間で、企画や事業を、起こすこと。
それは、しばしば反体制的であること。

A2.
勃興。

///
そのように、彼ら自身が、新たに興した、企画や事業。
それらが、うまく行くこと。

[2.成長]

A3.
成長。

///
そうした企画や事業。
それらが、次第に伸びて行くこと。

A4.
発展。

///
そうした企画や事業。
それらが、幅広く展開していくこと。

[3.上昇]

A5.
勢力の拡大。

///
そうした企画や事業。
それらを行う共鳴者。
それらを行う自集団。
それらの勢力が、大きくなること。

A5b.
拡張。

///
そうした企画や事業。
それらが、より大きく膨らみ、広がっていくこと。

A6.
建国。

///
彼ら自身が持つ、国家としての仕組みや法制。
それらの内容を整備して、そのことを、その内外に向けて、アピールすること。

A7.
自治。

///
周囲の大きな権力者から、距離を置くこと。
彼ら自身だけで、とりあえず、繁栄への道順を考え、それを樹立すること。

A7b.
自主独立。

///
周囲の権力者からの影響力。
それらを排して、彼ら自身の力で、独立を成し遂げること。

[4.攻撃]

B1.
移動。

///
彼ら自身が、もっと条件の良いところを見つけようとして、今いる位置から動くこと。

B2.
侵入。

///
既に他者がいる、条件の良い位置。
彼ら自身が、そこに入り込むこと。

B3.
圧迫。

///
彼ら自身が、既にいる他者に対して、心理的に、社会的に、圧力をかけること。

C1.
衝突。

///
彼ら自身が、既存勢力との間で、小競り合いをすること。

C2.

戦争。

///
彼ら自身が、既存勢力との間で、大規模な戦闘に入ること。

[5.奪取、防衛]

C3a.
革命。

///
彼ら自身が、既存の支配体制を覆すこと。
そのことで、彼ら自身が、新たな支配者へと、転化すること。

C3b.
復古。
反動。

///
彼ら自身が、以前の支配体制を、もう一度復活させること。

C3c.
クーデター。

///
彼ら自身が、武力による奇襲攻撃で、非合法的に、政権を奪取すること。

C3d.
乗っ取ること。

///
彼ら自身が、新興勢力として、トップの座に就く。
その際に、彼ら自身が、既存の体制の下位部分を、そのまま活かすこと。

C3e.
防御。

防衛。
阻止。

///
彼ら自身が、以下の内容の実現を阻止すること。
新興勢力による、体制転覆の試み。

そうすることで、彼ら自身が、以前の支配体制を、維持すること。

[6.登頂]

D1.
勝利。

///
彼ら自身が、戦闘で、決定的に有利になること。
そのことで、彼ら自身が、相手を負かして、降参させること。

D2.
定住。
移住。

///
彼ら自身が、以下の土地に、新たに移り住むこと。
彼ら自身が、既存勢力から新たに奪った、条件の良い土地。

D3.
権益の取得。

///
彼ら自身が、以下の内容を、我が物にすること。
それらを所有していると、社会的に有利になるもの。
権益。

例。
資源の掘削。
その権利。

D4a.

買収。
併合。

///
相手を、彼ら自身の元へと、併せ呑み込むこと。

D4b.
相手をせん滅すること。

///
彼ら自身に対して、従わない相手。
それらを、徹底的に滅ぼすこと。

D4c.
占領。

///
相手の領土を、軍事力や資金力に物を言わせて、彼ら自身のものにすること。

D4da.
植民地化。

///
彼ら自身の勢力下に置いた、元は他者の領土であった土地。
そこから、彼ら自身の利益を、吸い上げること。

D4db.
自国化。
所有。

///
彼ら自身が、元は他者の領土であった土地を、我が物にすること。

D4dc.
統一。

///

群雄割拠していた諸勢力を、彼ら自身の元へと、一本化すること。

D4e.
支配。

///
彼ら自身が、相手を、支配すること。
彼ら自身が、相手を、こき使うこと。

D4f.
搾取。

///
彼ら自身が、以下の存在から、利益を吸い出して、我が物にすること。
彼ら自身が支配している相手。

[7.絶頂]

E1.
繁栄。

///
彼ら自身が、その勢力において、盛んであること。
彼ら自身が、その状態を、維持し続けること。

E2.
独占。
寡占。

///
彼ら自身が、権益などを、他者を寄せ付けず、彼ら自身だけで利用できるようにすること。

E3.
黒字。

///
彼ら自身が、繁栄すること。
彼ら自身が、その収支がプラスの状態を、維持すること。

F1.
権益の維持。

///
彼ら自身が、得た権益を、保持し続けること。

F2.
連合。
同盟。
協調。

///
彼ら自身が、他の大きな勢力との間で、意見の一致を図り、一緒に動こうとすること。

[8.下降]

G1.
腐敗。

///
彼ら自身の勢力の内部において、賄賂などが横行すること。
そのことで、彼ら自身が、機能不全を引き起こすこと。

G2.
乱れ。

///
彼ら自身の内部において、法秩序が乱れて、各自が勝手に行動すること。

G3.
分裂。

///
彼ら自身の内部において、意見の相違が出ること。

彼ら自身の内部において、まとまりを維持すること。
それが、難しくなること。

H1.
陰り。

///
彼ら自身の勢力が、かつての輝きを失って、力量面で低下していくこと。

H2.
赤字。

///
彼ら自身が、収支において、マイナスの状態に陥ること。

H3.
衰退。

///
彼ら自身の勢力が、衰えること。

[9.高度の維持や、再上昇。それらの試み。]

I1.
改革。

///
彼ら自身の勢力の内部において、腐敗し、ダメになった部分。

彼ら自身が、それを刷新して、新たな繁栄に向かおうとすること。

I2.
立て直し。

///
彼ら自身の衰えた勢力を、もう一度元に戻そうとすること。
彼ら自身の繁栄を、取り戻そうとすること。

I3.
防御。
防衛。
阻止。

///
敵の勢力による、体制転覆の試み。
彼ら自身が、それを、阻止すること。
そのことで、彼ら自身が、以前の支配体制を、維持しようとすること。

[10.縮退]

J1.
権益を手放すこと。

///
彼ら自身が、財政面などにおいて、苦しくなること。
そのことで、彼ら自身が、彼ら自身が持っていた権益を、他勢力へと手放すこと。

J2.
売却。

///
彼ら自身が、財政面などにおいて、苦しくなること。
そのことで、彼ら自身が、彼ら自身が持っていた資産を、他勢力へと手放すこと。

J3.
縮小。

///
彼ら自身の勢力が、小さくなること。

K1.
敗北。

///
彼ら自身が、他勢力との戦闘において、負けること。

K2.
逃走。

///
彼ら自身が、今まで住んでいたところ。
彼ら自身が、今まで居留していたところ。
彼ら自身が、そこから、逃げ出すこと。

[11.終了]

L1.
滅亡。
倒産。

///
彼ら自身の事業。
彼ら自身の集団。
それらが、立ち行かなくなること。
それらが解散して、バラバラになること。

L2.
破壊。
崩壊。

///
彼ら自身が、彼ら自身で構築した、仕組み。
それらが、崩れて、無くなること。

[12.下界。そこでの再度の生活。]

M1.
被支配。

///
支配を受ける側。
使われる側。
彼ら自身が、そうした立場に回ること。

M2.
抵抗。
反抗。
反乱。

///
彼ら自身が、支配者に対して、反対の意思を示す行動を、起こすこと。

A.に戻ること。

上記の各項目について、それぞれ、主要な要因を立てること。

----ここまで

[まとめ。歴史の法則。登山モデル。逆U字曲線モデル。]

上記の法則では、彼ら自身は、以下の内容において、逆U字を形成

する。
その勢力の強さ。
その地位の高さ。

（１）
彼ら自身は、最初は、規模が小さく、その地位が低いこと。

（２）
彼ら自身は、次第に規模が大きくなって、その地位が上昇すること。

（３）
彼ら自身は、既存勢力を破って、絶頂期に入ること。

（４）
彼ら自身は、その後、たがが緩んで、改革を何度か行い、盛り返すこと。

（５）
彼ら自身は、次第に、その力を弱めていくこと。

（６）
彼ら自身は、以下の存在に対して、敗れること。
新たに力を付けてきた、別の新興勢力。

（７）
彼ら自身は、再び、小さい存在へと、戻ること。

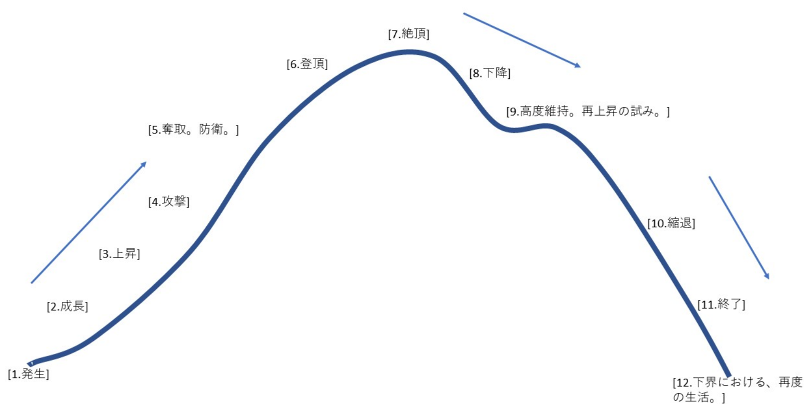
歴史は、上記のプロセスの繰り返しとなる。

彼ら自身が、途中で改革に成功した場合。
彼ら自身は、その地位や勢力を維持できること。
そうしたことも、発生する。

彼ら自身による、一連の動き。
それらは、登山や下山として、捉えることが出来る。
それは、以下のように名付けることが出来る。
「歴史の法則の登山モデル。」

彼ら自身による、一連の動き。

それらは、図にすると、以下のように、逆U字曲線になる。
それは、以下のように名付けることが出来る。
「歴史の法則の逆U字曲線モデル。」



図。　勢力の興亡の、ルートとコース。

[歴史の法則。史実への当てはめ。]

例。太平天国の乱。
19世紀後半。
東アジアの中国。

M1.被支配。
農民層は、清朝によって、支配されていた。

→M2.抵抗。
彼ら自身の間では、清朝圧政への不満が高まった。

→A1.発生。
洪秀全が、彼自身のことを、キリストの弟と称して、仲間を募った。

→A2.勃興。
拝上帝会。

→A3.成長

→A4.発展

→A5b.拡張

→A6.建国。
彼ら自身は、太平天国を建国した。

→C1.衝突。
彼ら自身は、清朝との間で、衝突を引き起こした。

→D1.勝利。

→D4c.占領。
彼ら自身は、南京を、天京と称した。

→G2.乱れ。
彼ら自身は、内輪もめを、引き起こした。

→C1.衝突。
彼ら自身は、清朝の漢人官僚の郷勇らとの間で、衝突を引き起こした。

→K1.敗北。

→K2.逃走。

→C1.衝突。
彼ら自身は、諸外国の常勝軍らとの間で、衝突を引き起こした。

→K1.敗北。

→L1.滅亡。
彼ら自身は、首謀者の処刑によって、滅亡した。

→M1.被支配。
彼ら自身の中における、残存者。
彼らは、以下の存在によって、支配された。
既存の権力者。清朝。諸外国。

（５．２）文化発展のルート、コース

科学。
技術。
芸術。
美術。

それらの向上や発展。
それらの廃れ。

それらの推移を、段階を追って、辿ること。
そのことを、可能にすること。

それは、基本的に、上から下へと、流れること。

それは、以下の内容を、含むこと。
コースの繰り返し。
コースの飛ばし。
コースの循環。

[1.暗中模索]

A1.
探検。
冒険。

///
未踏の領域。
未知の領域。
それらの中へと、挑んでみること。

A2.
実験。
研究。
試行錯誤。

///
上手く行くものが無いか、いろいろ試してみること。

[2.光明の発見]

B1.
独創的な発明や発見。

///
今までに無い、有益な事象。
それらを、見つけること。

[3.上昇]

C1.
改良。

///
発見し、発明した対象。
それらを、以下の内容へと、変えること。
人々にとって、より利用しやすい形。

[4.登頂]

D1.
完成。
完璧化。

///
それ以上、改良の余地が無いところまで、その対象を、磨き上げること。

D2.
集大成。

///
異なる分野の完成品同士を、一つにまとめ上げること。

[5.名声の獲得]

E1.
普及。

///
それらが、人々の間において、広く普及し、流行すること。

E2.
伝播。

///
それらが、今まで、それらのことを知らなかった国や人々へと、伝わること。

[6.下降]

F1.
旧式化。
陳腐化。

///
それらとは別の、新たな発見や発明。
それらが、上記の内容の発生により、輝きを失うこと。

F2.
不使用。

///
それらが、人々の間において、使われなくなること。

[7.終了]

G1.
忘却。

///
それらが、人々の記憶から、忘れ去られて行くこと。

G2.
消滅。

///
それらが、市場などから、消えること。

[8.保存]

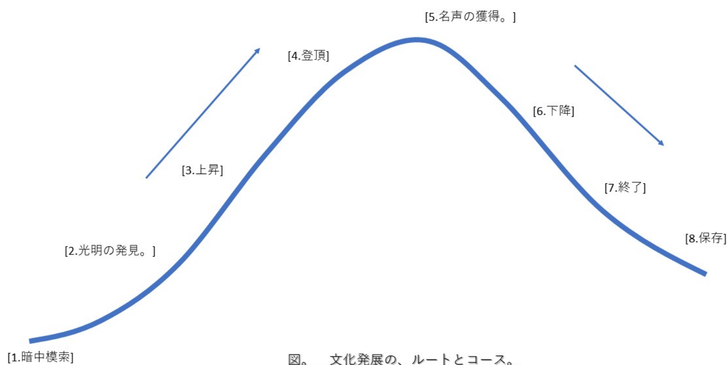
H1.
遺産化。
遺跡化。

///
それらが、過去のものとなること。
それらが、博物館などに入ること。
それらが、遺産として、展示されること。

[まとめ。文化発展の法則。登山モデル。逆U字曲線モデル。]

上記の一連の動き。
それらは、登山や下山として、捉えることが出来る。
それは、以下のように名付けることが出来る。
「文化発展の登山モデル。」

上記の一連の動き。
それらは、図にすると、以下のように、逆U字曲線になる。
それは、以下のように名付けることが出来る。
「文化発展の逆U字曲線モデル。」



図。　文化発展の、ルートとコース。

[文化発展の法則。史実への当てはめ。]

コース例。
飛行機。

A2.研究。試行錯誤。

→B1.発明。
ライト兄弟による発明。
20世紀初め。

→D1.完成。

→C1.改良。
その、軍用機への転用。
第一次世界大戦中。

→D1.完成。

→E1.普及。

→F1.旧式化。陳腐化。

→B1.発明。

ジェット機の開発。
第二次世界大戦中。

→D1.完成。→E1.普及。

→F1.旧式化。陳腐化。

→C1.改良。
ジャンボ機の開発。
その、民間大量輸送への対応。
第二次世界大戦後。

→D1.完成。完璧化。

（５．３．１）進歩の法則

歴史には、以下の内容が、求められる。

進歩の法則。
その解明。
時代に応じて、良くなる方向へと変化する事案。
それを整理すること。
そのことで、今後の歴史の予想を、可能にすること。
人々は、どのような未来を期待すれば良いか？
それを明らかにすること。

戻し。
停滞。
それらが、存在すること。

以下の事案が、人間の歴史を、前進や進歩の方向へと、動かす。

（１）

A1.
生存の水準。
生活水準。
それらの向上。

B1.
人々にとって生存可能な、世界領域。
その拡大。

///
例。
地球探検。
宇宙進出。

C1.
時間的な効率。
空間的な効率。
性能。
それらの向上。

///
例。
車の高速化。

D1.
社会的な分業化。
社会的な専門化。
それらの進展。

E1.
資源調達の手法。
資源分配の手法。
それらの進展。

///
例。
鉄鉱石。
石油。

F1.

ネットワークの発展。

///
公開情報に対して、任意の人が、アクセス可能になること。

G1.
資本やインフラの蓄積。

///
人々の生活が、豊かになること。

H1.
自由度の向上。

///
例。
暮らし。
対人関係。

（５．３．２）後退の法則

後退の法則。
その解明。
時代に応じて、悪くなる方向へと、変化する事案。
それらを整理して、今後の歴史の予想を可能にすること。
人々は、どのような未来を避けるべきか？
それを明らかにすること。

以下の事案が起きる場合、人間は、歴史的に後退する。

（１）

A1.
有限資源の枯渇。

///
例。
石油。
金属。
食糧。
水。
それらの枯渇。

実例。
世界の食糧危機。

B1.
生存環境の悪化。

///
例。
二酸化炭素の増大。
それがもたらす、地球の温暖化。

C1.
人々の死亡。
子孫の枯渇。

///
例。

日本。中国。
それらの国々における、少子高齢化。

疫病。
食糧不足。
それらの発生による、人々の一斉の死。

D1.
人間が持つ今までの能力。
それらを超える、対象やイベント。
それらの出現。

///
例。
放射能汚染。
巨大隕石。
巨大台風。
巨大地震。

高致死率の新たな伝染病。

実例。
中世ヨーロッパ。
ペストの流行。

E1.
生活格差の増大。

///
所得面において、富める者と、貧しい者との格差。
それが拡大すると、その国が滅ぶこと。

E2.
世襲の横行など。
それらによる、社会階層の固定化。
それらがもたらす、社会の停滞化。

///
上位階層者と、下位階層者との間。
社会的地位の面における、彼らの入れ替わり。
それが無くなると、国が滅ぶこと。

F1.
自由の喪失。

///
例。
官僚制。
武力。
それらによる、権力者の支配の進行。

実例。
ローマ帝国末期。
皇帝の中央集権化。

G1.
前例踏襲。
退嬰的思考。
それらの横行。

未知への探検。
その実践の減少。

資料編。

［参考］歴史書の文言の言い換え方。その内容を一般化する手法。

時代によらない一般法則の抽出。
そのためには、以下の内容の実現が必要である。

「歴史は、繰り返すこと。」
そのことを、史実の一般化によって、明らかにすること。
そのために、固有名詞を、一般名詞へと、修正すること。

（Ａ）
言い換え前。→言い換え後。

上級。中級。下級。
強弱。
人権の有無。

それらの概念と、文言の内容を、掛け合わせること。

（１）
帝国。→国家。

（１－１）
前の帝国。→以前の国家。

（２）
民族。→自民族。周辺の民族。他民族。別の民族。

（２－１）
世界を形成。→独自の世界を形成。

（３－１）
国王。皇帝。→トップの権力者。

（３－２）
諸侯。→地方の権力者。

（３－３）
貴族。→以前からの有力者。

（３－４）
武士。騎士。→軍人。武装の政府雇用者。

（４）
文官。→非武装の政府雇用者。

（５）
農民。→農業従事者。

（５－１）
富農。→経済力ある農業従事者。

（５－２）
貧農。→経済力無い農業従事者。

（６－１）
市民。→都市住民。

（６－２）
民衆。→一般人。

（７－１）
王朝。王国。→国家。その血縁や血統による支配。

（７－２）
荘園。→旧来の、農業領地の経営。

（８－１）
固有名詞。→省略するか、一般化すること。場合によっては、カッコ書きで残すこと。

（８－２）
固有の用語。→できるだけ一般化すること。

（９－１）
地名。→国内地方。国内の一部地域。自国。他国。世界の他領域。全世界。

（９－２）
宗教名。→ 自宗教。自宗派。他宗教。他宗派。

（１０）
XXの東西南北。→XXの周辺部。

固有名詞。
その実例。

イクター。→分与地。

十字軍。→宗教的な軍事行動。

（参考）既存の歴史書。その記述の一般化。その事例。

［参考］実際の世界史の教科書の内容。その一般化。その例。

元の教科書。
木村靖二、佐藤次高、岸本美緒「詳説世界史B」山川出版社。2012年。

-------ここから------

事例１. P.122「ゲルマン人の大移動」

XX人の大移動。

以北のAAには、以前から、YY人が、広く住み着いていた。
YY海沿岸を現住地とするXX人は、YY人を隣接方向へと圧迫しながら、その勢力を拡大していった。

XX人は次の時代には、YY川からZZ海沿岸至るまでの広大な地域に広がり、既存の巨大国家と境を接するようになった。

その頃のXX人は、数十の部族にわかれ、各部族が、一人の単独権力者や、数人の合同での権力者を、持っていた。
上位で特権がある者と、中位の者と、下位で人権が無い者との間で、身分差がすでに発生していたが、重要な決定は、上位と中位の身分の人々からなる、成年男性で自由な人々の全体集会である、YY会が、行った。
農業がおもな生活の手段となり、人口が増えてくると、耕地が不足し、これが民族移動の内的要因となった。
そのため、次の時代になると、彼らはYY川の下流の領域まで広がり、巨大国家の下級役人、傭兵、小作人として、平和的に巨大国家内に移住する者も、多くなった。
同時にXX人の社会では、小部族が、軍事的指導者であるトップ権力者のもとにまとめられて、大部族へと成長した。

次の時代、別系統の人種民族のMM人が、NN川を超えて隣接地域に進み、XX人の一派であるYY人の大半を征服し、さらにその隣接地域のXX人であるZZ人を、圧迫した。
そこで、ZZ人は、YY年に移動を始め、翌年にはYY川を渡って、既存の巨大国家領内に移住した。
それをきっかけに、他のXX人の諸部族も、大規模な移動を開始し、約YY年におよぶXX人の大移動が、始まった。
XX人に属するYY人は、YY年、巨大国家の首都を略奪した後、YY地域とYY地域に移動して、建国した。
YY人はYY地域に、またYY人はYY地域に、YY人はYY地域に、それぞれ建国した。
YY人はYYの島に渡り、のち、次の時代までの間に、複数の連合国家を建てた。

XX人の移動。
XX人の移動は、単に武力による侵入ではなく、家族ぐるみの移動であった。

一方、別系統の人種民族のYY人は、次の時代に、トップ権力者YYが、YY地域を中心に、別の巨大国家を建てた。
しかし、YY年における、YYの戦いで、隣接する別の、元巨大国家YYの片割れとXX人との連合軍に敗れ、トップ権力者YYの死後、その巨大国家は崩壊した。

この混乱の中、元巨大国家YYの片割れは、XX人の傭兵隊長YYによって、滅ぼされた。

トップ権力者YYのもとで、YY人の支配から脱出したYY人は、YY半島に移動して、元あった別のYY人の国家（血統支配）を倒し、ここに建国したこと。
YY年、YY地域に、国家（血統支配）YYが建てられたのを最後に、民族大移動の波は、一応の終息をみた。
先住民YY人は、今日のYY、YY、YY、およびYY半島に追いやられたが、その後もなお、独自の文化を保ち続けた。

事例２. P140-141 「ヨーロッパ中世都市の成立」「都市の自治と市民たち」

自治権の獲得　要点整理

p140。下部。

タイプ１

都市住民は、最初、権力者（領主）の保護と支配を受けていた。

トリガー。
都市住民自身の産業（商工業）が発達すること。

都市住民は、権力者に対して、権力者（領主）支配からの自由と自治を求め始めた。

都市住民は、権力者（領主）を倒して、自治都市国家を樹立した。

都市住民は、別の権力者（皇帝）から認定を受けて、自治権を獲得した。
都市住民は、既存の中級権力者（諸侯）と同じ地位に立った。

都市住民は、自治都市国家同士の都市同盟を生成した。

p141。下部。

都市住民は、自治都市周囲を城壁で囲って、防衛した。

自由のない下層の人間（農奴）が、自由を求めて、都市に流れ込んだ。

都市住民は、自分で行政組織を作って、自治に当たった。

最初は、規模の大きな業者が、市政を独占していた。

中規模の別業種の業者たちが、不満を持って、組織を分離した。彼らは、前の市政独占していた業者たちと抗争しながら、市政への参加を実現していった。

p142。上部。

市政に参加できるのは、経営者だけで、労働者は参加の資格が無かった。

行政組織は、自由競争を禁じて、細かい規制を敷いた。

都市住民は、市政に参加できる経営者たち以外の参加資格の無い人々を、活動から締め出した。

経営者層の地位は安定したが、経済や技術の自由な発展を阻害した。

上層都市住民は、権力者（皇帝）に融資して、その地位を左右した。

上層都市住民は、権力者（教皇）を自分の一族から輩出するようになった。

p141。中部。

タイプ2

都市住民が、権力者（国王）との結びつきが強かった。

権力者の権力の伸張と共に、都市が、権力者の行政の中心地として

成長していく。

-------ここまで------

生物性。人間性。汎用的なリスト。

生物性。人間性。汎用的なリスト。作成の方針。その説明。

リストを作成する上での基本的な考え方や方針

人間は、生物や動物の一種である。
人間性は、「生物性」や「動物性」に含まれる。
他種の生物も、人の心と似たような心を、持っている。
それは、人間より単純化されている。
それは、根本的なところでは、人間と共通する。

人間性や生物性。
それは、以下の場所に入っている。
人間や生物（動物）の脳。その基底的なところ。
人間は、他の動物や生物よりも上等な存在ではない。
それらは、対等である。
それらは、同じ遺伝子によって身体を構築されている。
それらは、セックスする点で同じである。

人間の脳の容量や発達度は高い。
しかし、それは、あくまで生物の特質の一つに過ぎない。
それは、以下の例と同じレベルである。
例。

植物は、光合成ができる。
鳥や昆虫は、空を自由に飛べる。

人間は、他の動物より自分が高等な存在であると主張する。
人間は、そのため、以下の性質を隠ぺいし、否定してきた。
自己の生物性。自己の動物性。

例。
セックスにおぼれることを罪悪視すること。
神に選ばれた、知的存在、理性的存在であること。
それを表に出そうと一生懸命になること。
それは、西欧の思想史を見れば一目瞭然である。

そうした化けの皮は、以下の行為によって、容易にはがれてしまう。
現実の人間の行動。その観察。

セックスや美食の快楽に溺れること。
自己宣伝。周囲への布教の押しつけをすること。
他人を、自分の思い通りに支配すること。
それらに一生懸命なこと。
それは、すぐ露見してしまう。

人間を知ること。
そのためには、以下の行為が必要である。
その根源的な生物性や動物性。
それらを、全面的に追求し、解明すること。

そうした生物性や動物性。
それ自体を、肯定し追認すること。
それらは、生き物の一種として当然の、逃れがたい性質である。
そのように認識すること。

人間はニューロコンピュータである。
それは、単なる計算機ではない。
それは、以下の内容の計算機である。
生物としての生存や増殖。
それへの動機、モチベーション。
それらが付いたコンピュータ。

そこには、そうした動機を司る、中央司令室がある。

脳神経系が生きている現世。
それが全てである。
脳神経系が作動しなくなった場合。
その時点で、実質的な生は終わる。
来世は存在しない。

人間の子供。
彼らは、行動上のリミッターを学習していない。
彼らの行動は、以下の通りである。
人間の生物性。人間の動物性。人間の本性。
それらのデパートであること。
子供を観察すること。
そのことで、人間の生物性や本性についての、豊富な知見を得ることができる。

インターネットの匿名掲示板。
それは、以下の内容である。
行動上のリミッターが外れた人間。
その生物性。その動物性。その本性。
それらのデパートであること。
匿名掲示板を観察すること。
そのことで、人間の生物性や本性についての、豊富な知見を得ることができる。

生物性のリスト。
そこでは、人間を、例として、あげている。
人間の代わりに、鳥や虫と読み替えること。
その場合でも、根本的なところは通じるはずである。

人間は、自分も他人も、こういうものである。
人間は、良くも悪くも、こういうものである。

そのように割り切って、受け入れる覚悟。
それが必要である。

理想像との関連。

生物的欲求リスト。
人間の抱く理想。
両者の間には、次の三種類の場合分けが可能である。

(1)
リストにあげられた欲求が実現すること。
それが、そのまま人間にとって理想的な状態となる。

(2)
リストにあげられた欲求。その中のかなりの部分。
それを、そのまま露骨に追求しようとすること。
それは、他者からは、欲深と見られる。
それは、他者にとって、マイナス評価の対象になる。

(3)
リストにあげられた欲求。
それを、そのまま自分一人だけで追求しようとすること。
他者は、それを、以下のように見なす。
彼は、自分のことばかり考えている。
彼は、自己中心的である。
それは、他者にとって、マイナス評価の対象になる。

(2)について。

(2-1)
以下のように主張すること。
「私には、そういう欲望はありません。」
そうして、うわべをとりつくろうこと。
それが行われる。
見かけ上、欲求を抑えた状態になること。
それが、人間にとって理想的となる。

(2-2)
こうした欲求や欲望に囚われた状態。
それを超越すること。
欲求や欲望から自由になること。
それは、より高みに上った、理想的な状態である。
そう考えること。

そうした欲求や欲望を克服した存在。
「神聖な」理想的存在。
それになろうとすること。
欲求の超克。
それらが、人間にとって理想的となる。

(3)について。
欲求を、自分一人だけで満たすのではないこと。
欲求を、周囲の他人や皆が満たせるようにすること。
その実現に向けて、努力しようとすること。
自己中心的な欲求実現からの脱却。
それらが、人間にとって理想的となる。

生物性。人間性。汎用的なリスト。根本原理。

生物。人間。
それらは、以下の内容を実行する。

(1)
生きること。自分を、残し、殖やすこと。
そのためには何でもすること。
生き残るためには手段を選ばないこと。
死や絶滅を恐れること。

(2)
生きるために必要な欲求。
それを充足しようとすること。
不足した欲求。
それを、買い物などで手に入れようとすること。

生物性。人間性。汎用的なリスト。詳細な内容の一覧。

Ａ．コントロールの追求
Ａ１．意思の実現
自分の意思が、その通りに実現することを望むこと。

－１
＝＝＝＝
物事。
それが自分の思い通りになること。
それへの欲求。

////
周囲の状況。
それが自分の思い通りになること。
そうなるようにすること。

////
自分の思い通りに、自由自在に動き回れること。
それを望むこと。

////
自分の意見を通すこと。
そうしようとすること。
わがままであること。

////
自己実現。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
権利の保持。
権利の行使。
それへの欲求。

////
自分の生活にとって必要なこと。
それを思い通りに実行すること。
その権利。
それを確保、保持しようとすること。

－３
＝＝＝＝
権限、権益の保持、行使への欲求

////
自分で、自由に意思決定する権限。
それを実現できる権限。
それを確保、保持しようとすること。

////
自分に利益をもたらす権益。
それを確保、保持しようとすること。
既得権益。
それを手放さないこと。
それを持ち続けること。
そうしようとすること。

－４
＝＝＝＝
権力への欲求

////
周囲の他者。
彼らを、自分の思い通りに、自由に動かすこと。
それを可能にする力。
それを持つこと。
それを好むこと。

－５
＝＝＝＝
好き嫌いの貫徹への欲求

////

好き嫌いをすること。

////
自分の好きなもの。
それを手に入れようとすること。

////
自分の嫌いなもの。
それを拒絶すること。

－６
＝＝＝＝
為政者への欲求

////
リーダー。
彼は、自分に都合の良いようにしてくれる。
彼は、うまく社会を動かしてくれる。
彼が出現すること。
それを望むこと。

////
リーダー。
彼は、自分の意思を、うまく実現してくれる。
彼が出現すること。
それを望むこと。

////
リーダー。
彼は、自分の利益を、うまく代弁してくれる。
彼が出現すること。
それを望むこと。

////
リーダー。
彼は、いざというときに責任も取ってくれる。
彼が出現すること。
それを望むこと。

Ａ２．コントロール、管理の追求

自他をコントロール、管理しようとすること。

－１
＝＝＝＝
他人のコントロール、管理

////
自分の言うこと。
他人が、それを聞くこと。
それを喜ぶこと。
他人が、自分の言うとおりにすること。
それを喜ぶこと。

////
自分の言うこと。
それを、他人に対して、聞かせようとすること。
他人の行動。
それを、自分の思い通りにすること。
それを、コントロールすること。
それを管理すること。
そうしようとすること。

－２
＝＝＝＝
自由

////
自由があること。
それをうれしく思うこと。

////
他人に束縛されないこと。
他人にコントロールされないこと。
それらがうれしいこと。

////
好きな地点に動き回れること。
好きな地点に移動できること。
それらを好むこと。

－３
＝＝＝＝
自律

////
自分のことを自分で律することができること。
それを望むこと。

Ａ３．自立
他者の支援。
それを受けないこと。
自分の力で立とうとすること。

一人で食べていけること。
一人で生活していけること。
それらを望むこと。

－１
＝＝＝＝
経済的、精神的、身体的自立への欲求

////
経済的に黒字になること。
経済的に、自立すること。
そうしようとすること。

////
精神的に、親や教師から、自立すること。
そうしようとすること。

////
身体面で、自力で起き上がること。
自力で歩けること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
自分、自己、自我の確立

////

自分自身。
それをしっかり持とうとすること。

////
自分のアイデンティティ。
それを確立しようとすること。

Ａ４．所有
自分の持ち物。
自分の財産。
それらを持とうとすること。

－１
＝＝＝＝
所有への欲求

////
自分が占有できる対象。
それを持とうとすること。

－２
＝＝＝＝
奪取、略奪、横取り
仮に、他人が、以下のものを持っていた、とする。
良いもの。
資源。
資産。
それらを横取りしようとすること。
それらを奪おうとすること。
それらにたかろうとすること。

－３
＝＝＝＝
持ち物、貴重品の守衛、防衛

////
持ち物を他人に奪取されないこと。
それらをガードしようとすること。
それらを守ろうとすること。
セキュリティに敏感であること。

////
貴重な存在。
貴重品。
値打ち品。
それらを、他人に取られないように、守ろうとすること。

////
自分の所有する土地、領土。
それらを、他人に奪われないように、防衛すること。

－４
＝＝＝＝
持ち物の有効活用

////
自分の所有物を、有効に利用し、活用しようとすること。

////
自分の所有物。
それらが使えない状態。
それらが使い物にならない状態。
遊休状態。
そうした状態を嫌うこと。

－５
＝＝＝＝
名前への欲求

////
自分に名前や呼び名があること。
それを望むこと。

////
自分が、名無しであること。
自分が、無機質な番号記号で呼ばれること。
それらを嫌がること。

////
自分の名前が決まっていること。

それを望むこと。
自分の呼び名がころころ変わること。
それを嫌うこと。

////
次のことを望むこと。
自分について、次の内容が付くこと。
自分の名前。
自分の呼び名。
その内容は、肯定的である。
その内容は、良い意味である。
次のことを嫌うこと。
自分について、次の内容が付くこと。
自分の名前。
自分の呼び名。
その内容は、否定的である。
その内容は、悪い意味である。

////
相手の名前。
それを知ろうとすること。
それは、物資を含む。

////
相手に対して、名前を付けること。
そうしようとすること。
それは、物資を含む。

Ａ５．プライバシー
プライバシー。
私的空間。
私的時間。
それらを保とうとすること。

自分だけの縄張り。
それを持とうとすること。

－１
＝＝＝＝
プライバシー、秘密の保持

////
私的な空間や時間。
それらは、他人に侵されない。
それらは、自分だけのものである。
それらを保とうとすること。

////
自分の秘密。
それが漏れないこと。
そうなるように、気を遣うこと。

////
次のことを嫌がること。
相手に興味本位で覗かれること。

－２
＝＝＝＝
隠蔽、嘘

////
次のことを、対外的に隠そうとすること。
自分の評判を落とす物事。
失敗。
違反。
そのために嘘をつこうとすること。

－３
＝＝＝＝
覗き、密通

////
他人のプライバシー。
それを覗き見しようとすること。

////
他人の情報を、興味本位で、得ようとすること。

////
他人の秘密を、暴こうとすること。

////
他人の秘密情報。
それを、こっそり横流ししようとすること。

Ｂ．メリットの追求
Ｂ１．有利さの追求
自分が有利になることを望むこと。

-1
＝＝＝＝
生存条件の有利化への要求

////
自分の生存条件。
それを、できるだけ良くすること。
有利になろうとすること。

-2
＝＝＝＝
自己主張、自己宣伝

////
自己主張をすること。
自分の意見を通そうとすること。
他人を押しのけて、自分を宣伝し、アピールすること。
プレゼンテーションをすること。

////
自分が前面に出ること。
自分が押し出しが強いこと。
それを望むこと。

////
自分が目立つこと。
自分が脚光を浴びること。
それを望むこと。

-3
＝＝＝＝

自己都合

////
自分にとって都合のよいこと。
それを求めること。

////
自分にとって都合のよいこと。
それを、いつまでも覚えていること。
それを望むこと。

////
自分にとって都合の悪いこと。
自分が不利になること。
それらを、避け、忘れること。
それらについて、見て見ぬふりをすること。
それらを隠すこと。
そうしようとすること。

////
自分にとって都合のいいこと。
他人がそれを嫌がった場合。
それを、そのまま実行すること。
そうしようとすること。

Ｂ２．利益の追求
利益。
黒字。
それらを追求すること。

持ち出しを嫌うこと。

－１
＝＝＝＝
利益、儲けの追求、損失の回避

////
次のことをしようとすること。
自分にとって、利益や、儲けや、黒字になること。
次のことをしないこと。

自分にとって、得にならないこと。
次のことを避けようとすること。
損すること。
赤字を出すこと。

////
特権を持つ人。
彼との間で、縁故を作ること。
彼に、利得を融通してもらうこと。
そうしようとすること。

////
仮に、他人が困っていた、とする。
その他人は、自分にとって、利益にならない。
彼を見捨てること。
彼に対して、見て見ぬふりをすること。
彼を助けないこと。

////
無駄なコストを、カットしようとすること。

////
他人を消耗品として扱うこと。
彼を、使い捨てること。

Ｂ３．成功の追求
成功しようとすること。

－１
＝＝＝＝
成功の追求、失敗の回避

////
成功しようとすること。
うまく行くことを望むこと。
失敗を避けること。

////
成功して、有利な立場になること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
達成の追求

////
自分の到達したい目標へと、思い通りに到達できること。
それを望むこと。

Ｂ４．能力の獲得
次の能力を得ようとすること。
それは、次のことの実現に必要である。
物事に成功すること。
物事を有利に成し遂げること。

－１
＝＝＝＝
能力の獲得を追求

////
生存すること。
競争に勝つこと。
成功すること。
そのために有利となる、次の能力を得ようとすること。
学力。
学歴。
資格。

Ｂ５．リスクテイキング、冒険
大きな利益や成功を得ること。
そのために、あえて危険を冒そうとすること。

－１
＝＝＝＝
挑戦

////
大きな利益や成功を得ること。
脚光を浴びること。
そのために、あえて次のことをしようとすること。

危険を冒すこと。
困難なことに挑戦すること。

Ｂ６．是正
自分の長所。
自分の優れた点。
自分の有利な点。
それらを伸ばすこと。
自分の短所。
自分の病気。
自分の劣った点。
自分の不利な点。
それらを無くそうとすること。

－１
＝＝＝＝
長所の認識、伸ばし、補強

////
自分の長所はどこか？そのことを認識しようとすること。
自分の長所。
それを、できるだけ伸ばし、補強しようとすること。

－２
＝＝＝＝
短所、欠点、欠陥減らし

////
自分の能力における、欠点や欠陥。
それらを減らすように、努力すること。

－３
＝＝＝＝
病気、故障の予防、治療を追求

////
病気。
生存を妨げる事物。
いけない事物。
直したい事物。

壊れて動かない事物。
不足していて、補いたい事物。
生存していく上で更に満たすべきもの。
それらが存在する状態。

////
病気にならないようにしようとすること。
病気を治そうとすること。
死なないようにしようとすること。
障害が残らないようにしようとすること。

－ 4
＝＝＝＝
改良、改正、直し

////
自分の状態を、今までよりも、さらに良くすること。
それらを、正しく直すこと。
そのことで、自分の立場を、より有利にしようとすること。

－ 5
＝＝＝＝
合理化、生産性向上

////
物事の効率。
生産性。
自分の有利さ。
それらをより向上させること。
人員や物品の配置。
それらを、より合理的なものにしようとすること。

////
人員の整理。
労働の強化。
新規技術の導入。
それらをしようとすること。

////
列車に乗る時。

製品を作る時。
それらが、高速に、安価に、実現することを好むこと。

Ｂ７．効率、スピードの追求
効率やスピードを向上させようとすること。

－１
＝＝＝＝
効率の追求

////
物事の効率が高いことを好むこと。
効率を高めようとすること。

－２
＝＝＝＝
スピードの追求

////
物事のスピードが速いことを好むこと。
スピードを速めようとすること。

－３
＝＝＝＝
スローさの許容

////
効率向上のために支払う犠牲。
それが大きい場合。
あえて効率を向上させないこと。
スローなままで良いとすること。

Ｃ．上位の追求
Ｃ１．対決、勝負、戦争
敵やライバルと、次のことをすること。
対決。
勝負。
戦争。

－１

＝＝＝＝
対決、勝負

////
ライバル。
敵。
彼らと、勝敗をかけて、対戦しようとすること。

////
苛酷な現実。
それと対峙し、対決しようとすること。

－２
＝＝＝＝
競争

////
生存競争をすること。
限られた椅子にありつこうとすること。

////
ライバルを、蹴落とし、押さえつけ、抹殺しようとすること。
ライバルを、敵視すること。
ライバルに対して、意地悪をすること。

////
自分だけが生き残ろうとすること。

－３
＝＝＝＝
反対者への攻撃、戦争、反対者の抹殺

////
自分と反対意見の人間。
彼を攻撃すること。
彼を、立ち上がれなくすること。
戦争すること。
そうして、敵を滅ぼそうとすること。

////

自分と反対の意見。
それらを、訂正し、抹殺しようとすること。

－４
＝＝＝＝
勝利、優越の追求、敗北の回避

////
強くなろうとすること。
相手に勝とうとすること。
相手に対して、優越しようとすること。

////
相手に負けまいとすること。
負けず嫌いであること。

////
自分より弱い者。
自分に負けた者。
彼らををいじめ、支配しようとすること。

////
自分の周囲を、自分より無能な人間で固めようとすること。

－５
＝＝＝＝
逃げ、責任回避

////
苛酷で、不利な状況。
そこから逃げ出そうとすること。

////
失敗した場合。
責任を回避しようとすること。
責任を、他者になすりつけること。
（例。
弱者。
部下。）自分は、責任から逃れようとすること。

－６
＝＝＝＝
仲直り、調停、仲裁

////
敵やライバルと、自己の利益のため、仲直りしようとすること。
（例。
これ以上戦うこと。
それは、自分にとって、得策でない。
相手と仲直りして、手を組むこと。
それは、自分にとって、利点が大きい。）

////
仲直りすること。
そのために、次のことを求めること。
第三者による、調停や仲裁。

－７
＝＝＝＝
恩赦、慈悲

////
仮に、他人が、自分に対して、負けを認め、許しを請うてきた、とする。
彼に対して、慈悲を感じること。
彼を恩赦すること。

－８
＝＝＝＝
殺傷、破壊

////
生物や人間の殺傷を行うこと。
有用なものの破壊を行うこと。

Ｃ２．上下関係の構築。
支配。

力の差による上下関係を作ろうとすること。
その力は、勝敗を分ける。

支配しようとすること。

－１
＝＝＝＝
上位に立つこと。
支配すること。
優位。
それらの追求。

////
自分が上位に立つこと。
周囲を、自分の思い通りになるように、支配すること。
優位に立とうとすること。
自分を権威付けようとすること。

////
自分が上位に立つこと。
劣った下位の人間。
彼を見下そうとすること。
劣悪な境遇の弱者。
彼を憐れむこと。

////
自分が下位に立つこと。
それを避けようとすること。

////
以下のように考えようとすること。
自分は優れている。
他人は、自分より劣っている。
自分は、優位である。
他人は、劣位である。

////
自分より優れている他者。
その存在を我慢することができないこと。
彼を、ライバルとして、敵視し、潰そうとすること。

－２

＝＝＝＝
優遇の追求

////
自分が上位に立つこと。
自分が、周囲よりも優遇されること。
それらを望むこと。

＝＝＝＝
弱者の差別。
弱い者いじめ。
弱者への不利な条件の押しつけ。
責任転嫁。

////
弱者を差別すること。
弱者をいじめること。

////
弱い者。
彼を、サンドバッグ代わりにすること。
彼を、フラストレーションの捌け口とすること。
彼を、道具として攻撃すること。

////
弱者に対して、不利な条件を一方的に押しつけること。
自分は、好条件を維持しようとすること。

////
弱者に責任を転嫁すること。
自分は、安全地帯に逃げること。
自分は、高みの見物を決め込もうとすること。

////
弱者に配慮しないこと。
弱者の嫌がることをすること。
弱者に対して、意地悪すること。

＝＝＝＝
弱者、子分の守護、養育 vs 見せしめ、切り捨て

////
自分より弱い者。
自分に忠実な者。
自分に頼ってくる者。
彼らを守り、養おうとすること。
彼らは、自分の子供のような存在である。

////
反抗する弱者。
自分の思い通りに動かない弱者。
彼らに対して、重い罰を与えること。
反抗する弱者。
彼らを、見せしめにすること。

////
弱者を、自分の都合で、恣意的に、切り捨てること。

////
末端の弱者。
彼の存在は、自分にとって都合が悪い。
彼を、とかげのしっぽ切りすること。
自分は、そうして、責任を逃れること。

－５
＝＝＝＝
嫉妬

////
妬むこと。
羨むこと。
上に上がろうとする人の足を引っ張ること。

////
自分より上位にいる者。
自分より上位に上がろうとする者。
彼らを、妬んで、叩いて、引きずり下ろそうとすること。

－６
＝＝＝＝
依頼心、依存心、服従、忠誠

////
自分より強い者。
自分よりも大きな存在。
彼らに頼り、依存しようとすること。
彼らに守ってもらおうとすること。
頼りとなる存在。
神の存在。
それらを作り出すこと。
大きな社会組織。
それに対して、頼ろうとすること。
自分を守ってくれる者。
彼に対して、忠誠を誓うこと。

////
大いなる者。
彼によって、見守られること。
彼によって、庇護されること。
それらを望むこと。
大いなる者。
彼による保護。
それを求めること。

－７
＝＝＝＝
不利さ、劣位の受け入れ

////
自分が弱いこと。
自分が不利であること。
それらを、しぶしぶ認めること。

////
強者に対して、自己の運命を任せること。

Ｃ３．対等、平等、公平
対等さ。

平等。
公平さ。
それらを望むこと。

－１
＝＝＝＝
対等

////
自分が不利な状態にある場合。
相手と対等な扱いを受けること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
平等

////
自分が不当に差別されること。
それを嫌うこと。

－３
＝＝＝＝
公平

////
不公平を享受する状態。
自分が、その状態に置かれた場合。
不満を漏らすこと。
公平な扱いを望むこと。

Ｃ４．向上
今までの自分に飽きたらないこと。
更に上を目指そうとすること。

－１
＝＝＝＝
向上

////

上に上がろうとすること。

////
自分の能力や知識。
それらを、更に向上させようとすること。

////
よりよい者になろうとすること。

////
下落することを避けようとすること。

－２
＝＝＝＝
改革、改正、改良

////
現状に飽きたらないこと。
状況や状態を、更によりよくしようとすること。

－３
＝＝＝＝
反転、名誉挽回

////
悪い結果を反転すること。
名誉を挽回しようとすること。

Ｄ．第三者の視点の追求
Ｄ１．判定
判定やテストを求めること。

－１
＝＝＝＝
自己への判定

////
テストを受けようとすること。
自分は、テストで何点を取ったか？自分の成績は、どの程度か？自分のランクは、どの程度か？それらについて、次の結果を知ろうと

すること。
第三者による、客観的で、冷静な、判定。

////
他者と対立している場合。
自分の方が合っているか？自分の方が正しいか？それらを、第三者によって、判定してもらおうとすること。
裁判。
審判。
それらの場において、判決を求めること。

－２
＝＝＝＝
他人の判定

////
他人を、自分の思うままに自由に判定すること。
賞罰についての人事評価。
そのコントロール。
それらを、自在にできるようにしようとすること。

Ｄ２．評価、価値付け
評価されること。
それを求めること。
高評価を求めること。
低評価を嫌うこと。

－１
＝＝＝＝
自分への高評価の追求、格好付け

////
褒められよう、とすること。
賞賛されよう、とすること。
プラスに評価されることを望むこと。

////
自分に対する評判や評価。
それらをを、よくしようとすること。
自分をよく見せようとすること。

////
化粧すること。
シェイプアップすること。

////
きれいごと。
理想論。
それらを言うこと。
見かけ上、良心的に振る舞おうとすること。
格好を付けようとすること。
良い子のように振る舞うこと。

////
仲良しであること。
それを言うこと。
人徳があること。
それを言うこと。

－2
＝＝＝＝
自信、プライド、自慢

////
自信を持とうとすること。

////
自惚れること。
高いプライドを持つこと。
高慢になること。
他人を見下すことを好むこと。

////
自慢すること。
威張ること。
傲慢になること。

////
自分に対して、高い評価を付けること。
それに陶酔すること。

ナルシストであること。

////
他者が、自分に対して、高い評価を付けてくれない場合。
それに対して、我慢できないこと。

－３
＝＝＝＝
自己の社会における認知、価値を追求

////
自分が周囲～社会に認められることを望むこと。
無視されることを嫌うこと。

////
自分が、周囲や社会において、必要とされること。
それを望むこと。
不要とされることを嫌うこと。

////
自分が、周囲や社会において、「価値あるもの」とされること。
それを望むこと。
無価値とされることを嫌うこと。

////
自分が、周囲から、有能であると思われること。
それを望むこと。
無能と思われることを嫌うこと。

////
自分が、社会の中で、メジャーになること。
主流になること。
それを望むこと。

－４
＝＝＝＝
選民、特別扱いの要求

////
自分のことを、選ばれた存在として、見なすこと。

特権。
特別に扱われること。
VIPとして扱われること。
それらを好むこと。

////
自然を支配する原理。
それを司る者。
神。
その概念を、自分たち人間に似せた形で作ること。
次のように考えたがること。
神は、自分たちを、一等に選んだ。
次のように考えたがること。
自然界は、自分たち人間を中心にして、回っている。

－5
＝＝＝＝
埋没、無視の回避、目立ちへの欲求

////
自分が周囲に埋没すること。
自分の存在を無視されること。
それらを嫌がること。
目立とうとすること。

－6
＝＝＝＝
重要視への欲求

////
自分が他者から重用されること。
自分が重要視されること。
それらを望むこと。
他者から軽んじられた場合。
それについて、怒ること。

////
自分のことを重要視すること。
他者のことを軽んじること。

－７
＝＝＝＝
栄誉、賞賛への欲求

////
栄誉や勲章を求めること。
他人に讃えられることを好むこと。

－８
＝＝＝＝
批判。
否定。
マイナス評価。
非難。
それらの回避。

////
他者から、批判、否定されること。
他者から、マイナス評価を受けること。
それらを不快に感じること。
それらについて、怒ったり、泣いたりすること。

////
他者から、批判、否定されること。
他者から、マイナス評価をされること。
それらを避けようとすること。

////
周囲から非難されること。
それを避けようとすること。
自分の周囲を、イエスマンだけで、固めようとすること。

－９
＝＝＝＝
恥の回避

////
周囲の注目する中で、失敗すること。
そうして、恥をかくこと。
それらを嫌うこと。

－１０
＝＝＝＝
屈辱の回避

////
周囲から、自分のプライドを打ち砕かれること。
そうした屈辱的な扱いを受けること。
それらを嫌うこと。

－１１
＝＝＝＝
大切に扱われることへの欲求、おもちゃ扱いの回避

////
自分が、周囲から、おもちゃ扱いされること。
自分が、周囲から、もてあそばれること。
それらを嫌うこと。
自分が、周囲によって、きちんと心を込めて、大切に扱ってもらうこと。
それを望むこと。

Ｄ３．承認
承認を求めること。

－１
＝＝＝＝
承認、賛成、認可、反映への欲求

////
自分が望んでいること。
自分の意見。
それらが、周囲から認められること。
それらが、認可されること。
それらが、周囲に反映されること。
それらの実現を望むこと。

////
自分の意見が、周囲から、賛成されること。
それを好むこと。

////
自分の意見が、周囲から、否定され、拒絶されること。
それを嫌うこと。
周囲が、自分にとって、イエスマンであること。
それを好むこと。

Ｅ．返しの追求
Ｅ１．反応、応答
反応や応答を望むこと。

－１
＝＝＝＝
相手への反応、応答

////
相手が、自分に対してしたこと。
それに対して、反応しようとすること。
あるいは、反応を返そうとすること。

－２
＝＝＝＝
自分（のしたこと）への反応、応答の要求

////
自分のしたこと。
それに対して、周囲から、反応、応答があること。
それを望むこと。

////
自分のしたこと。
それに対して、次のことが気になること。
周囲から、どのような反応や応答が来るか？それを、何度も確認しようとすること。
（例えば、掲示板。
自分は、そこに、書き込みをした。）
－３
＝＝＝＝
相手の無視

////
相手が、自分にとって、都合が悪かった場合。
自分が、相手に対して、興味が無かった場合。
相手を無視すること。
相手に対して、返答しないこと。

Ｅ２．フィードバック
相手から、自分に対して、されたこと。
それを、相手に対して、返そうとすること。

－１
＝＝＝＝
お返し、フィードバック、応酬、報復

////
やり返すこと。
お返しをすること。
フィードバックすること。
贈答の返しをすること。
相手から、便宜を図ってもらった場合。
自分も、相手に対して、便宜を図ること。

////
応酬すること。
報復すること。
復讐や仕返しをすること。

－２
＝＝＝＝
見返りの要求

////
自分が、他者にしたこと。
それに対する見返り。
それを、他者に対して、求めること。

////
他者にとって、何か役に立つこと。
自分が、それを他者に対して、してあげた場合。
その対価として、他者から、何か同等のことをしてもらうこと。

それを望むこと。

－３
＝＝＝＝
感謝

////
他者にとって、何か役立つこと。
自分が、それを他者に対して、してあげた場合。
以下のように、思うこと。
そのことについて、他者から、感謝されたい。
他者に対して、以下の内容を、要求すること。
自分に対する感謝の言葉。

////
他者に感謝されるとうれしく思うこと。

////
他者から、何か自分に役立つことをされた場合。
それをうれしく思うこと。
他者に対して、感謝しようとすること。

Ｆ．知ることの追求
Ｆ１．情報
情報を欲しがること。

－１
＝＝＝＝
情報、ニュースへの欲求

////
次の情報を得ようとすること。
それを知ろうとすること。
それは、自分の生存にとって、必要である。
それは、自分の生存にとって、有利になる。
ニュースを見ること。
天気予報を見ること。
有効な情報を持っていそうな人。
彼に近づこうとすること。
彼と、知り合いになろうとすること。

周囲の物事に対して、興味本位で首を突っ込むこと。
冷やかすこと。

////
自分にとって未知の土地や分野や領域。
そこに進む場合。
事前に情報収集をしようとすること。

 - 2
＝＝＝＝
展望への欲求

////
周囲が広く見渡せる展望。
眺望。
将来への展望。
それらがあることを望むこと。
高所に登ることを望むこと。

 - 3
＝＝＝＝
コミュニケーションへの欲求

////
他者から、自己の保存に有益な情報を引き出すこと。
そのため、他者と、互いにコミュニケーションを取ろうとすること。

 - 4
＝＝＝＝
情報の正しさ、訂正への欲求

////
次のことを確認した場合、それを訂正したくなること。
間違った情報。
それが、周囲に流れていること。

 - 5
＝＝＝＝
情報の流布への欲求

////
重大ニュース。
それは、自分がいち早く手に入れた。
それは、自分しか知らない。
他者や他の集団についての秘密。
自分が興味ある関心事。
そうした情報。
それらを、誰かに話したくなること。
それらを、周囲に対して、知らせ、広めたくなること。
そのため、周囲の他者に対して、盛んにコミュニケーションを取ろうとすること。

Ｆ２．確認
見ようとすること。

確認しようとすること。

－１
＝＝＝＝
可視、可聴への欲求

////
ちゃんと見えること。
ちゃんと聞こえること。
それらを望むこと。

////
回りが見えないこと。
先が見えないこと。
それらを嫌がること。

////
不透明。
不明瞭。
不可視。
そうした状況を嫌がること。

////
次のことを嫌がること。

ピントがぼやけていること。

 - 2
＝＝＝＝
確かさへの欲求

////
確実であることを望むこと。

////
次のことを嫌うこと。
浮くこと。

////
支えがきちんとあること。
それを望むこと。
次のことを嫌うこと。
足場が沈むこと。
足場がふらつくこと。

 - 3
＝＝＝＝
合致、正確への欲求

////
ぴったり合致することを望むこと。

////
ずれることを嫌うこと。

 - 4
＝＝＝＝
証明への欲求

////
次のことを、立証し、証明しようとすること。
自分の考えが正しいこと。
相手の考えが間違っていること。

 - 5

＝＝＝＝
質問、疑問解決への欲求

////
次のことを嫌うこと。
分からないこと。
知らないこと。
それらを、その状態のまま放っておくこと。

////
分からないこと。
知らないこと。
それらについて、質問すること。
その答えを得ようとすること。
その内容を、確かめようとすること。

////
疑問を解決しようとすること。

Ｆ３．理解
理解しようとすること。

－1
＝＝＝＝
理解への欲求

////
分かろうとすること。

////
入ってくる情報。
自分を取り巻く周囲の状況。
それらを理解しようとすること。

////
理解できない状態を嫌がること。

////
理解できない状況。
そこから抜け出そうとすること。

それを理解できるまで、努力すること。
それを理解できない場合、その場を逃げ出すこと。

－２
＝＝＝＝
原因、対策究明への欲求

////
起こった物事に対して、その原因を究明しようとすること。
次の答えを得ようとすること。
それは、なぜ起こったのか？

////
解明した原因。
それに対して、対策を立てようとすること。
（例えば、事故。）
－３
＝＝＝＝
意味付けへの欲求

////
起こった物事に対して、次の内容を、何かしら見いだそうとすること。
そのことが持つ意味や意義。
それは、どういうものか？
－４
＝＝＝＝
関連付けへの欲求

////
次の内容を、何かしら見いだそうとすること。
起こった物事同士。
それらの関連づけ。

－５
＝＝＝＝
合理的説明への欲求

////
起こった物事について、何らかの説明ができること。

それを望むこと。

////
起こった物事についての、もっともらしい合理的な説明。
それが可能なこと。
それを望むこと。
それは、後付けで構わない。

Ｆ４．刺激
刺激を求めること。

日常のままでは、退屈すること。
気分転換がしたくなること。

日常では体験できないこと。
それを体験しようとすること。

非日常的な出来事や事件。
それらに対して、興味を抱くこと。

－1
＝＝＝＝
退屈

////
日常の状態がずっと続いた場合。
退屈すること。
新たな刺激を求めたくなること。

－2
＝＝＝＝
珍事、緊急事、事件の追求

////
珍事。
緊急事。
事件。
それらが起きることを求めること。
それらは、日常では、めったに起こらない。

－３
＝＝＝＝
旅行

////
以下の土地や地方や地域。
自分は、そこには、日頃、あまり入らないし、行かない。
そこに、入ろうとすること。
そこに、行こうとすること。
旅行しようとすること。
自分は、新たな刺激を、求めたい。

－４
＝＝＝＝
散歩

////
近所の地域、地区。
自分は、日頃、そこに、あまり入らないか、行かない。
あるいは、自分は、逆に、そこに、行き慣れた。
そこに、改めて、入ろう、行こうとすること。
自分は、小さな刺激を求めたい。
自分は、そこに、いつもとは違う時間帯に、行きたい。

Ｆ５．新規性（新しさ）
新しいもの。
新しいこと。
それらを好むこと。

新品を好むこと。
中古を嫌うこと。

先行者。
最初の発見者。
最初の発明者。
それらになろうとすること。

未知の領域を、探検、研究すること。
それを解明しようとすること。

未体験のこと。
それを、新たに体験し、経験しようとすること。

行ったことのない地域。
そこに行ってみようとすること。

－１
＝＝＝＝
探検、発見

////
未知の分野。
未知の領域。
そこに、いち早く入ること。
そうして、以下の内容を発見しようとすること。
新事実。
それには、まだ誰も到達していない。
それは、重要である。

－２
＝＝＝＝
発明

////
次の内容のアイデアを考案すること。
それは、まだ誰も考えついていない。
それは、新しい。
それは、社会的に有用である。
そうして、次の内容を得ようとすること。
発明者としての栄誉。

－３
＝＝＝＝
特許

////
次のような発見、発明の成果。
自分は、それを、他者に先駆けて、いち早く成し遂げた。
それによって、食べて行き、儲けられるようにしようとすること。

////
先行者利益を確保しようとすること。
先行者である自分が負ったリスク。
それへの見返りを求めること。

 - 4
＝＝＝＝
体験

////
未だ体験していないこと。
それを、体験してみようとすること。

////
新しい経験を好むこと。

 - 5
＝＝＝＝
旅行

////
次の土地や地域に行こうとすること。
旅行しようとすること。
自分は、そこに行ったことがない。
自分は、そこに入ったことがない。

 - 6
＝＝＝＝
検索

////
自分にとって未知のこと。
それを、検索すること。
そうして、その情報を得ようとすること。

////
インターネットの検索エンジン。
それを使用すること。
そうして、次の内容を探そうとすること。
自分が欲しい情報。

それは、ネット上に存在する。

－７
＝＝＝＝
新品、未使用の追求

////
手に入れる物品。
それが、新品であること。
それを、誰も使っていないこと。
それが、中古でないこと。
それらを求めること。

－８
＝＝＝＝
ネタバレの回避

////
未知で、未体験のゾーンの内容。
自分は、それを、これから見ようとしている。
それについて、以下のことを、回避しようとすること。
それが、先に分かってしまうこと。
そうして、自分の体験において、新しさがなくなってしまうこと。

－９
＝＝＝＝
慣れ、飽き

////
ずっと同じ刺激に出会っている場合。
それに慣れて、飽きること。
新たな刺激を求めること。

Ｆ６．記憶、記録、知識
自分が見知った内容。
それを記憶し、記録しようとすること。

知識を持とうとすること。

－１

＝＝＝＝
記憶

////
得た情報。
それを記憶すること。
それを覚えること。
それを暗記すること。
自分の頭の中。
メモ。

 - 2
＝＝＝＝
記録

////
情報。
それをメモしようとすること。
それを記録しようとすること。

////
記録したい事柄。
それを撮影し、録画し、録音しようとすること。
カメラ。
レコーダー。

 - 3
＝＝＝＝
知識

////
得た情報。
それを、知識として蓄積し、有効に活用しようとすること。

////
知識を、たくさん持とうとすること。
高度な、深い知識。
それらを得ようとすること。

 - 4

＝＝＝＝
学習

////
学習しようとすること。

////
物事を、実践によって、覚えようとすること。
それが、しっかり自分の身に付くこと。
それが、体に染みこむこと。
そうした実践を、それが実現するまで、何度でも行うこと。

－５
＝＝＝＝
過去、しきたり、前例への指向

////
過去の経験。
しきたりや前例。
既に得られた知見。
それらの保守を重んじること。

Ｇ．運動、活動の追求
Ｇ１．運動
運動をしようとすること。

－１
＝＝＝＝
自己身体運動の追求

////
自分の身体を動かそうとすること。

////
自分の身体が、自分の思い通りに動いてくれること。
それを望むこと。
身体が不自由になること。
それを嫌うこと。

////

筋肉。
心肺。
それらを鍛えようとすること。
それらは、身体を動かすために、必要である。

－２
＝＝＝＝
社会運動、潮流生成の追求

////
他人や社会を動かすこと。
そうして、次の内容を作ろうとすること。
新たなムーブメント。
新たな流れ。

Ｇ２．操作
物事を、自分の思い通りにしようとすること。
それを操作しようとすること。
それを動かそうとすること。

－１
＝＝＝＝
操作、操縦

////
機械。
人間。
それらを、自分の思い通りに動かすこと。
そうして、必要な機能の出力を得ること。
それらを望むこと。
（例。
パソコン。
自動車。
飛行機。）
－２
＝＝＝＝
持ち運び、運送、輸送

////
物資。

人間。
それらを、自分の望む地点へ運ぶこと。
それを望むこと。

－３
＝＝＝＝
加工

////
物資を、次の内容に加工しようと望むこと。
その形状や材質は、自分が望んだものである。
化学変化を利用すること。

////
人や組織を、自分の望む体質に変化させようとすること。

Ｈ．生存条件の向上の追求
Ｈ１．良好な環境の追求
以下の環境や状態を追求、維持しようとすること。
それは、自分の生存にとって、良好である。
（例えば、衣食住。）
－１
＝＝＝＝
いい生活の追求

////
いい生活をしようとすること。
ぜいたくをしようとすること。

////
何もしないこと。
働かないこと。
それで、生きて行けること。
それらの実現を望むこと。
多額の収入が入ってくること。
生活環境が恵まれていること。
それらの実現を望むこと。

////
生活物資を手に入れること。

それに必要な手だて。
お金。
それらを、よりたくさん手に入れようとすること。
儲けようとすること。
より多くの資金を、得ようとすること。
資本主義。

////
死後、天国でいい思いをしようとすること。
そのために、現世で善行を積もうとすること。

－１ｂ
＝＝＝＝
現状維持、保守

////
今の生活にそこそこ満足している場合。
その現状を変えようとしないこと。
今までの状態を維持しようとすること。
保守的となること。

－２
＝＝＝＝
快感、心地よさ、いい思いの追求

////
快い思いをしようとすること。
楽で、楽しい思いをしようとすること。
何が快いか？何が楽か？それは、たいてい生得的に決まっている。
セックス。
味覚。

////
安楽な生活を望むこと。

////
いい思い。
楽であること。
快いこと。
美味しいこと。

それらをしようとすること。

////
セックスしようとすること。
性的快感。
性的絶頂。
それらを得ようとすること。
オナニーをすること。

////
心地よさを得ようとすること。
（例。
音楽。
きれいなメロディー。
それらを聞くこと。）

////
居心地の良さ。
それを得ようとすること。
（例。
自分の部屋。
冷暖房を入れること。
クッションを、椅子に置くこと。）

////
美しいもの。
きれいなもの。
それらを手に入れようとすること。
自分が美しくなること。
自分がきれいになること。
それらを実現すること。

////
感覚を楽しむこと。

－３
＝＝＝＝
衛生状態の追求

////

清潔を望むこと。
不潔。
病原菌の蔓延。
それらを避けること。

////
身体を洗うこと。
歯を磨くこと。

////
掃除をすること。

 - 4
＝＝＝＝
整理、整頓の追求

////
きれいに片付けられた状態。
整理された状態。
それらを、良いと見なすこと。

 - 5
＝＝＝＝
苦労、辛さの回避。怠惰。手抜き。

////
苦労を避けようとすること。
楽をしようとすること。
怠惰であろうとすること。
だらだらしようとすること。
働かなくても済むこと。
それらを、良いと見なすこと。

////
次の作業について、手抜きをしようとすること。
自分は、それを、そのままやると、苦労する。

 - 6
＝＝＝＝
負担、フラストレーション、ストレス、決断の回避

////
心理的負担。
身体的負担。
フラストレーション。
ストレス。
決断。
それらを避けようとすること。

－６ｂ
＝＝＝＝
負担、ストレス等の回避が不能な時。憂さ晴らし。

////
負担が回避できなかった場合。
不快感を感じること。
それを、どこかで発散しようとすること。
（自分のためているストレス。
それを、以下の形で、他者に対して、転嫁すること。
例。
掲示板荒らし。
車の暴走。
それらの行為は、他者に対して、負担をかける。）
－６ｃ
＝＝＝＝
気分転換、気晴らし

////
負担やストレス。
それらがかかる状態。
退屈な日常。
それらが続いた場合。
何か、別のことをしようとすること。
それで、以下のことを実現しようとすること。
気分を一新させること。
気分を転換すること。
気晴らしすること。

－７
＝＝＝＝

現実逃避

////
辛い場合。
生きることを止めようとすること。
自殺しようとすること。

////
辛い場合。
現実から逃避しようとすること。

－８
＝＝＝＝
休養、休暇、睡眠、落ち着き

////
疲れた場合。
休もうとすること。
休暇。
休養。
それらを取ろうとすること。

////
睡眠を取ろうとすること。

////
仕事など。
それらが、いったん落ち着くこと。
一段落すること。
それらを好むこと。

－９
＝＝＝＝
遊びへの欲求

////
日頃の責務から解放されること。
ゲームなどを、気楽に楽しむこと。
リラックスした雰囲気。
娯楽的な喜び。

気晴らし。
それらを味わおうとすること。

////
相手を自分のおもちゃにしようとすること。
相手にいたずらをしようとすること。
相手をわざと困らせて、反応を楽しもうとすること。

－９ｂ
＝＝＝＝
快楽への欲求

////
快楽にはまること。

////
安楽にはまること。
楽をしようとすること。
怠けること。
手抜きをしようとすること。

////
快感にはまること。
気持ちいいことにはまること。
セックスをすること。
おいしい食物を沢山食べること。
いい匂いをかごうとすること。
たばこや麻薬にはまること。

－１０
＝＝＝＝
本音発露、ガス抜き、発散への欲求

////
自分の本心を隠すこと。
見かけや建前のきれい事を言うこと。
それらについて、疲れること。

////

自分の内に秘めた本音、本心。
それらを、誰かに話してさらけ出すこと。
そうして、以下のことを実現すること。
スッキリすること。
閉塞感を打破すること。
解放感を味わうこと。
ガス抜きをすること。

////
自分の本心を話せること。
自分の本心を、他者に対して、打ち明けられること。
カウンセリング。
話し相手のカウンセラー。
それらの存在を求めること。

////
内心に溜った、ストレスや、モヤモヤした感じ。
それを、誰かに向けて発散すること。
その話を、誰かに聞いてもらうこと。
それを実現すること。

－１１
＝＝＝＝
便利さへの欲求

////
便利であること。
利便性。
それらを望むこと。

////
必要な物資や人材。
それらが、手に入ること。
それは、短時間で、手間をかけずに、すぐに実現すること。
それらを望むこと。

////
コンビニエンスストアの利用を好むこと。

－１２

＝＝＝＝
安定への欲求

////
手に入れた良好な環境。
それが、続くこと。
それは、そのまま覆らずに、長期にわたって、安定して、実現すること。
それらを望むこと。

Ｈ２．安全、安心、セキュリティ
安全、安心を求めること。

－１
＝＝＝＝
安全、安心への欲求

////
心休まること。
平安。
平和。
それらを求めること。

－２
＝＝＝＝
自己保身、防御への欲求

////
自分が、安全領域に止まれること。
それを望むこと。

////
自分の保身が図られること。
それを望むこと。

－２ｂ
＝＝＝＝
退嬰

////

新しいこと。
未知のこと。
危険かも知れないこと。
失敗するかも知れないこと。
それらの実行。
それを怖がり、避けようとすること。

////
今までやってきて成功したこと。
既に安全が保証されていること。
実績のあること。
それらのみを、実行しようとすること。

 - 3
＝＝＝＝
危険の回避

////
危険なこと。
それを回避しようとすること。

 - 4
＝＝＝＝
害毒の回避

////
自分に取って害毒のあること。
それを回避しようとすること。

 - 5
＝＝＝＝
傷の回避

////
自分に傷がつくこと。
それを回避しようとすること。

 - 6
＝＝＝＝
責任の回避

////
責任を逃れようとすること。

－７
＝＝＝＝
保証への欲求

////
保証。
保障。
それらがあること。
それを望むこと。

////
大丈夫であること。
それを望むこと。

－８
＝＝＝＝
予防、危機への備え、保険の追求

////
危機。
クラッシュ。
それらのために備えること。
保険をかけること。
それらは、いざというとき、やってくる。

－９
＝＝＝＝
相互救助、援助の追求

////
互いに助け合うこと。
より安心して生活できる社会。
それを実現しようとすること。

Ｈ３．信用、信頼
信用。

信頼。
それらを求めること。

他人に対して、信用を要求すること。
自分は、自己都合で変節すること。

 - 1
＝＝＝＝
信用、信頼への欲求

////
信用、信頼のある相手を求めること。

////
取り決め。
契約。
約束。
それらが守られること。
それを望むこと。

 - 2
＝＝＝＝
変節、鞍替え、寝返り、裏切り

////
より有利な条件へと、鞍替えすること。

////
今までの相手を捨てること。
より有利な取引の条件。
それを出してきた相手へと変えること。

////
自分勝手であること。

 - 3
＝＝＝＝
不信の回避、嘘つき

////

相手が、自分に対して信頼を失うこと。
それを恐れること。

////
自分に都合の悪い点。
自分が持つ矛盾点。
相手に対して、それがばれないようにすること。
相手に対して、嘘をついて、それを隠そうとすること。

－４
＝＝＝＝
自信への欲求

////
自分に自信を持とうとすること。
自分自身を信頼すること。
それを可能にしようとすること。
自分に自信を付けること。
それを望むこと。

Ｈ４．品質
品質の高さ。
それを求めること。

－１
＝＝＝＝
品質への欲求

////
高品質の物品。
高品質の成果物。
それらを求めること。
低品質な状態。
手抜き。
それらを嫌がること。

－２
＝＝＝＝
本物、オリジナルへの欲求

////
物品を入手する場合。
本物。
リアル。
真正品。
オリジナル。
それらを求めること。
偽物。
模造品。
コピー。
それらを嫌がること。

－３
＝＝＝＝
自然、天然への欲求

////
自然物。
天然物。
それらを求めること。
人工物。
養殖物。
それらを嫌がること。
例。
食品。
宝飾品。

－４
＝＝＝＝
純粋、純正、正規への欲求

////
純粋なもの。
それを求めること。
不純物が入ったもの。
それを嫌がること。

////
純正なもの。
正規なもの。

それらを求めること。
非正規なもの。
それらを嫌がること。

Ｈ５．規範。
秩序。

規範。
秩序。
それらを求めること。

－１
＝＝＝＝
暮らしやすさの追求

////
自分が暮らしやすくなること。
それを実現すること。
自分が暮らす社会。
それを、自分にとって、暮らしやすく改良すること。
それを実現すること。

－２
＝＝＝＝
掟、法律、罰への欲求

////
次のような行いについて、その内容を集めること。
それらの行いは、社会を、より暮らしにくくする。
それらの行いを、社会的に、禁止し、制限すること。
そうした法律や律法や掟を作ること。
仮に、人々が、それを破った、とする。
すると、それは、社会を、より暮らしにくくする。
社会を暮らしやすくすること。
社会を、そうなるように制御すること。
それを望むこと。
掟を破った者を罰すること。

////
社会において、一定の秩序が存在すること。

それを望むこと。
無法状態を嫌うこと。

－３
＝＝＝＝
違反への欲求

////
厳しすぎる規則。
それに対して、息苦しさを感じること。
それを、破ろうとすること。
それに違反しようとすること。

////
違反すること。
それによって、次の内容をアピールしようとすること。
社会に対して、刃向かうことができること。
それができる、強大な存在であること。

－４
＝＝＝＝
現状打破、破壊への欲求

////
社会の現状について、次第に満足できなくなること。
それを打ち破ろうとすること。
それを破壊しようとすること。

Ｈ６．問題解決
問題に対処、解決しようとすること。

－１
＝＝＝＝
問題の解明

////
うまく行かない点。
それを見つけ出そうとすること。

////

問題点を解明しようとすること。

－２
＝＝＝＝
原因の解明

////
問題の原因。
それを探ろうとすること。
それを見つけ出そうとすること。

－３
＝＝＝＝
解決策、対策の解明

////
問題を解決する対応策。
それを探ろうとすること。
それを見つけ出そうとすること。

－４
＝＝＝＝
解決策、対策の実施

////
問題を解決する対応策。
それを実施すること。
そして、問題を最終的に解決すること。
それを望むこと。

－５
＝＝＝＝
対策の実施。効果の確認。

////
対応策の実施。
問題は、それによって、本当に解決したか？その効果を確認しようとすること。

Ｈ７．元気、活気、やる気（モチベーション）、パワフルさの追求

現実に対して、積極的に対処して行こうとすること。
それを可能にする、元気やパワーや、やる気。
それらを持とうとすること。

－１
＝＝＝＝
元気さ、活発さ、健康の追求

////
元気であろうとすること。
活発であろうとすること。

////
健康であろうとすること。
病気にかからないこと。
それを心がけること。

////
自分より元気な他人。
彼から、力を分けて貰おうとすること。

－２
＝＝＝＝
積極性

////
物事に積極的に対処すること。
それを望ましいと考えること。
それを実行しようとすること。
そのための力を得ようとすること。

－３
＝＝＝＝
若々しさの追求

////
いつまでも、若々しくありたいと望むこと。
いつまでも、老けたくないと望むこと。

////

自分を若く見せること。
そうしようとすること。

－４
＝＝＝＝
パワフルさの追求

////
物事をどんどん解決していくこと。
それを実行する力にあふれていること。
そうした力がみなぎった存在。
それになろうとすること。
そのための力を得ようとすること。

Ｉ．クッションの追求
Ｉ１．クッション
和らげてくれるもの。
それを求めること。

－１
＝＝＝＝
緩衝への欲求。衝撃の回避。

////
衝撃を和らげてくれるもの。
それを求めること。
衝撃を嫌うこと。

////
クッション。
緩衝してくれるもの。
それらを求めること。

////
柔らかさ。
フワフワなこと。
それらを求めること。

////
自分を受け止めてくれるもの。

それを求めること。

－２
＝＝＝＝
受容への欲求

////
受け入れられること。
それを求めること。

////
拒絶されること。
それを嫌うこと。

Ｉ２．配慮
配慮を求めること。

次のことを、望むこと。
自分にとって嫌なこと。
他人は、それを、自分に対して、しないでほしい。

次のことを、望むこと。
自分にとって、うれしいこと。
他人は、それを、自分に対して、積極的に、してほしい。

－１
＝＝＝＝
きめ細かな対応、配慮への欲求

////
きめ細かな対応、配慮。
それが、自分に対して、なされること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
必要な配慮労力、コストの最小化

////
配慮への労力やコスト。

それらが最低限ですむようにすること。

////
次のような配慮を、しないこと。
それは、自分にとって、利益にならない。

－３
＝＝＝＝
自分に対する配慮の他者への反映

////
自分が他人からされたら嫌なこと。
それを、他人に対してすること。
それを避けようとすること。

////
自分が他人からされたらうれしいこと。
それを、他人に対してしようとすること。

Ｉ３．福祉、保障、救い、セーフティーネット
福祉。
保障。
救い。
それらを求めること。

－１
＝＝＝＝
福祉、救いへの欲求

////
仮に、自分が、悪い状態になった、とする。
そして、助け、救いが、自分にとって必要になった、とする。
その時に、他人によって、助けてもらえること。
あるいは、他人によって、救われること。
それらを望むこと。

////
仮に、自分では、どうしようもなくなった、とする。
その時に、最低限生きていけること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
社会的転落の回避。保障、セーフティーネットへの欲求。

////
自分が、社会的に転落すること。
そのことで、自分が、望みのない人生を送ること。
自分がそうなること。
それを回避できること。
それを望むこと。

////
次のような保障やセーフティーネットの存在。
それらは、自分を、社会的落下から、助けてくれる。
それらを望むこと。

Ｊ．保存の追求
Ｊ１．保存、保持
自分にとって望ましいもの。
それを保持、保存しようとすること。

－１
＝＝＝＝
自己の生体保持

////
自分の、生体としての存在。
それを、生理的に、保存し、保持しようとすること。

////
死を恐れること。
死を回避しようとすること。
不老不死を望むこと。

////
生き続けようとすること。

－（呼吸。）酸素を取ろうとすること。
呼吸しようとすること。

-（水分。食事。栄養の摂取。）

水分。
食事。
栄養。
それらを摂ろうとすること。

-（排泄。廃棄。）
不要物を、排泄し、捨てようとすること。

-（体温の維持。）
体温を保持しようとすること。
暑さ。
寒さ。
それらを避けようとすること。

-（清潔さの維持。衛生の維持。）
清潔さ。
衛生。
それらを保とうとすること。

////
過酷な外部環境。
それに自分が直接露出すること。
それを防ごうとすること。
直接風雨に当たらないようにすること。
中や奥に入っていようとすること。
家を持とうとすること。

- 2
＝＝＝＝
貯蔵、保存、記憶

////
自分の生んだ利益。
それらを蓄積しようとすること。

////
将来の有事。

それに備えて、次の内容を貯めようとすること。
例。
資産。
資金。
食料。

////
入手した品物。
購入した商品。
それらの機能や商品価値。
それらが保全されること。
そのために、それらを保存しようとすること。

////
入手した有用な情報。
それらが、失われないようにすること。
そのために、それらを、保存し、記憶しようとすること。

////
自分にとって都合のいいこと。
それをいつまでも覚えていること。
それを望むこと。

////
前回の望ましい状態。
前回のやりかけの状態。
それらが、再開時に保持されていること。
それを望むこと。

－３
＝＝＝＝
忘却

////
記憶したことを忘れること。

////
自分にとって都合の悪いこと。
それを忘れること。
それを、意識の片隅に追いやること。

そうしようとすること。

Ｊ２．自己存続
自分の存在、業績。
それを後世に残すこと。
そうしようとすること。

－１
＝＝＝＝
自己保存、残存、永遠の命への欲求

////
自分の存在の永続。
それを望むこと。
自分のことが、後世において、忘れ去られること。
それを恐れること。

////
自分の業績や成果。
それが、後世に残ること。
それが、時代を超えて、生き続け、保存されること。
それを望むこと。

－２
＝＝＝＝
後継への欲求

////
自分の後継者。
それが現れること。
それを望むこと。

////
自分が師匠となること。
自分が、有能な弟子を育てること。
それを望むこと。

Ｋ．増殖の追求
Ｋ１．自己複製、増殖
自分のコピー。

それを作ろうとすること。
それを増やそうとすること。
それを、後世に残そうとすること。

－１
＝＝＝＝
子作り（セックス）、自己増殖

////
自分のコピー。
それを増やそうとすること。
それを、後世に残そうとすること。

////
子供や子孫。
それらを作ろうとすること。
セックスしようとすること。
作る子供の数。
それをたくさん作ること。
逆に、それを絞ること。
そのことで、子供を、より良い条件で、育てること。
そうしようとすること。

－２
＝＝＝＝
子供への伝達、継承

////
自分を親と見なすこと。
親の形質。
それを、子供に受け継がせること。
そうしようとすること。

////
自分の価値観。
それを、子供に受け継がせること。
そうしようとすること。

////
したかったこと。

しかし、実際には、できなかったこと。
その内容を、子供に託すこと。

－３
＝＝＝＝
親からの受け継ぎ。親からの継承。その世代間連鎖。

////
親から伝達された行動。
それを、そのまま、子供に対して、しようとすること。

////
子供の育て方。
その一定の内容。
仮に、親が、子供に対して、それをした、とする。
すると、子供は、その子供に対して、同じ育て方をする。
（親が子供を虐待すること。
親が、子供を、一方的に叱ること。
子供は、その子供に対して、同様の育児をすること。
虐待。
叱りつけ。）

////
後天的行動。
それが、世代間で、連鎖すること。
それが、世代間で、受け継がれること。
（それは、遺伝子と同様である。）

////
行動の伝達。
それが、生物種をまたぐこと。
生物種のアイデンティティ。
それは、後天的であること。
（ヒョウの子供を、犬が育てること。
すると、ヒョウの子供は、次のように思うこと。
自分は、犬である。
彼は、犬そっくりな行動をすること。）

////
自分の子供。

それを、自分の後継者にすること。
それを好むこと。
世襲を好むこと。

－４
＝＝＝＝
自分の子供の記録、宣伝

////
自分の子供の成長。
それを記録に取ろうとすること。

////
自分の子供の記録。
自分の子供の動静。
親が、それらを、作成すること。
親が、それらを、他人に見てもらおうとすること。

////
自分の子供。
それを宣伝しようとすること。

////
自分の作った製品。
それを周囲に宣伝すること。

Ｋ２．自己拡大
自分の存在。
それを社会に広めようとすること。

－１
＝＝＝＝
有名への欲求

////
有名になろうとすること。
自分の存在。
それを広めようとすること。

－２

＝＝＝＝
自己表現。自己の布教。自己宣伝。

////
自分自身のアイデア。
それを、他者に向かって表現すること。
そうしようとすること。

////
自分の遺伝的形質。
自分の後天的で文化的な形質。
それらを、他人に対して、以下のように、働きかけること。
他人が、それを、受け継ぐこと。
それらを、他人の間に、広め、布教し、宣伝すること。
そうしようとすること。

////
自分が他人に教えたこと。
それを、他人がその通りに実践すること。
他人が、それを、更に他の人々に伝えること。
それらを、うれしく感じること。
自分が他人に教えたこと。
それを、他人がやらないこと。
他人が、それを忘れること。
そのことについて、がっかりすること。

////
自分の教え。
それが、他人の間に広まること。
それを、うれしく感じること。

////
自分の作ったプロダクト。
それが、他人に見てもらえること。
それが、プラスの評価を受けること。
それが、他人に、受け入れられること。
それを、うれしく感じること。

－２ｂ
＝＝＝＝

表現の注入

////
自分が表現したいこと。
それを、次の中へと、入力し、注入しようとすること。
コンピュータ。
他人の頭脳。

 - 3
＝＝＝＝
理解者の増殖。同類の増殖。その実現への欲求。

////
自分と意見が合う人。
自分を理解してくれる人。
それが見つかること。
それが増えること。
それを、うれしく感じること。
自分の同類。
それは、自分にとってプラスとなる。
それが見つかること。
それが増えること。
それを、うれしく感じること。

 - 4
＝＝＝＝
共通点への欲求

////
他者。
彼は、自分と共通点がある。
彼の存在を、探そうとすること。

////
他者。
彼は、自分と共通点がある。
彼の存在が見つかること。
それを、うれしく感じること。

 - 5

＝＝＝＝
事業等の拡大や成長への欲求

////
自分が立ち上げた事業。
その規模や利益。
それが、大きくなること。
それが、成長すること。
それらを望むこと。

Ｋ３．仲間、同類
仲間を欲しがること。

－１
＝＝＝＝
同類、賛成者の優遇

////
自分の同類。
それを求めること。

////
他者。
彼は、次の内容について、自分と同じである。
属性。
例えば、人種。
価値観。
例えば、宗教。
そうした他者を、優遇すること。
気の合う者同士。
彼らだけで、仲間を作ること。
他者。
彼は、次の内容について、自分と同じである。
興味。
趣味。
そうした他者と、仲良くすること。

////
他者。
彼は、自分と同意見である。

彼は、自分に対して、賛同する。
そうした他者を、好むこと。
自分への賛同者。
自分への賛成者。
彼らを好み、優遇すること。

 - 2
＝＝＝＝
異類、反対者。その差別、排除、冷遇、抹殺。

////
他者。
彼は、次の内容について、自分と違う。
彼は、それについて、自分に反する。
属性。
例えば、人種。
価値観。
例えば、宗教。
そうした他者に対して、以下のことを行うこと。
差別。
排除。
冷遇。
攻撃。
せん滅。

////
自分に反対されること。
それを嫌うこと。
反対者を避けること。

 - 3
＝＝＝＝
味方、援軍への欲求

////
自分の味方、援軍。
それを増やそうとすること。

 - 4
＝＝＝＝

受容、好感への欲求

////
自分のこと。
それが、他者に受け入れられること。
それが、他者に好かれること。
それらを望むこと。

////
他者。
彼は、自分のことを受け入れてくれる。
そうした他者の存在。
それを求めること。

－５
＝＝＝＝
同意、共感への欲求。否定の回避。

////
自分が同意、共感されること。
それを望むこと。

////
他者。
彼は、自分に同意し、共感してくれる。
そうした他者の存在。
それを求めること。

////
自分への同意、共感。
それが得られないこと。
それについて、がっかりすること。
それについて、怒ること。

////
自分のことを否定されること。
それを嫌がること。
それを避けようとすること。

－５ｂ

＝＝＝＝
合意への欲求

////
相手と合意にこぎ着けること。
それを望むこと。

－６
＝＝＝＝
所属への欲求

////
仲間。
彼らは、自分を受け入れてくれる。
彼らの中に入ること。
そうしていようとすること。

－７
＝＝＝＝
助け合い、援助、救護

////
生存条件。
それを、自分にとって、よりよいものにすること。
そのために、次の内容を実行すること。
他者と、互いに助け合うこと。
他者と、サービスを融通し合うこと。
そうしようとすること。

////
他者のために役立つこと。
そのことで、自分も、他者によって、助けてもらえること。
例。
有事。

////
他者を助けること。
そのことで、自己宣伝をすること。

////

助け合い。
それを、次のことを実現するために、行うこと。
自分の私的な利益。

- 8
＝＝＝＝
養育、サポート、子供返り、親的存在への欲求

////
無力な自分。
それを、大きく育ててくれる存在。
それを、自分が成人するまで行ってくれる存在。
（例。大人の養育者。親。）
それを求めること。

////
以下の内容を、他者に求めること。
無条件の支持。
献身的な協力。

////
以下の内容を、他者に求めること。
無償の愛情。
以下の内容を、望むこと。
自分は、それを、他者によって、注がれたい。

////
以下の内容を、望むこと。
自分は、他者に対して、甘えたい。

////
以下の内容を、他者に求めること。
自分のことを、いつも見守って欲しい。
自分と、ずっと一緒にいて欲しい。
自分のことを、裏切らずに、愛し続けて欲しい。

////
次の存在を求めること。
それは、自分をしっかりサポートしてくれる。
それは、大きい。

－８ｂ
＝＝＝＝
故郷、よりどころへの欲求

////
故郷。
ふるさと。
自分は、それらが、欲しい。
自分は、そこに、帰りたい。
そう望むこと。

////
心のよりどころ。
それを求めること。

－９
＝＝＝＝
相互補完、分業への欲求

////
自分が劣っているところ。
自分が弱いところ。
それを、他者と、互いに補填し合うこと。
自分の得意なこと。
それを伸ばすこと。
そうしようとすること。
分業すること。

////
自分にないものを持っている存在と、相互補完、分業しようとすること。
そのために、異質な相手と仲良くしようとすること。

－１０
＝＝＝＝
意思疎通、コミュニケーションへの欲求

////
周囲の仲間。

彼らと、円滑な一体感を保つこと。
そのために、彼らと、意思疎通を図ること。
そのために、仲間と、コミュニケーションを取ること。
そうしようとすること。

－１１
＝＝＝＝
まとめ上げ、組織化への欲求

////
周囲の仲間。
彼らは、仲が良い。
彼らは、同類同士である。
彼らを、まとめ上げること。
彼らを組織化すること。
彼らに、大きな力を発揮させること。
それらを望むこと。

Ｌ．欲求の抑制
////
超越

Ｌ１．欲求、欲望の抑制
自分や他人。
彼らは、欲求、欲望に囚われている。
そうした状態。
それを、不快に感じること。
それを、改善すること。
そうしようとすること。

欲求、欲望の発現。
それを抑えようとすること。

－１
＝＝＝＝
表面的な取り繕い

////
本心では、欲が深いこと。
見かけ上、以下のように、見せかけること。

自分には、欲が無い。
そのように振る舞うこと。
そうしようとすること。

－２
＝＝＝＝
本心からの反省、抑止

////
自分は、欲深であること。
それを反省すること。
欲の露出。
それをできるだけ抑えること。
そうしようとすること。

Ｌ２．欲求、欲望の超越
欲求。
欲望。
それらに囚われた状態。
そこから逃れること。
そこから自由になること。
そうしようとすること。

欲求。
欲望。
それらが、自分の内面に潜む状態。
それを克服すること。
それを超越すること。
そうしようとすること。

－１
＝＝＝＝
神聖な存在への憧れ。修行。

////
欲求。
欲望。
それらを超越、克服すること。
それを実現した存在。
神聖な存在、良き存在。

神や仏のような存在。
それらに憧れること。
それらになろうとすること。
そのために、様々な修行を行うこと。
聖人になること。
それらを望むこと。

Ｌ３．自己中心的な欲求の実現。そこからの脱却。
自分一人だけの欲求。
その実現。
他者が、それを、ひたすら追求すること。
それを、不快に感じること。
それを、以下のように感じること。
彼は、自分のことばかり考えている。
彼は、自己中心的である。

自分の欲。
それをとりあえず抑えること。
他人にとって、プラスになること。
それをすること。
それを望ましいと思うこと。
それに憧れること。
それを実行すること。
そうしようとすること。

-1
＝＝＝＝
役立ち、貢献への憧れ

////
自分の欲求。
それだけを、自己中心的に実現すること。
それを否定すること。
自分以外の他者。
その欲求。
それを実現すること。
それに対して、目を向けること。
そうしようとすること。

////

他者。
みんな。
社会。
それらのために、自分を役立てること。
それに対して、憧れること。
それを、実行すること。
そうしようとすること。

////
人のためになること。
それをすること。
次のように考えること。
それは、自分にとって、望ましい。

////
自分の周囲。
その社会や組織。
それらをうまく機能させること。
それに対して、貢献できること。
それに対して、憧れること。
それを実行すること。
それを望むこと。

（以上　作成　2008年9月～2018年5月）

追加の内容。2022年9月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装。液体性と気体性。男女の性差。それらの、神経回路への、実装の必要性。

植物の心理学と社会学。
植物は、心理を所有する。植物は、社会的相互作用を行う。
植物の行動は、一般的な動物に比べて、タイムスパンが、とても長い。植物は、一般的動物から見ると、静止しているようにしか見えない。
しかし。
長期のタイムスパンへと、分析視点を変更した場合。
植物は、一般的な動物と同様に、行動し、社会的相互作用を行っている。
例。
植物が、光や水分や障害物に対して、屈曲などの反応を、ゆっくり行うこと。
植物が、受粉や種子の形成による、遺伝的子孫の生成を、ゆっくり行うこと。
植物同士が、枝葉を伸ばすことで、互いに、光合成に適した住処の、奪い合いを行っていること。それは、植物同士における、資源の奪い合いであること。

植物は、一般的な動物と同様に、移動生活様式者と、定住生活様式者へと、分類されること。
移動生活様式者の植物。
例。根を持たない植物。ミドリムシ。藻類。浮草。
例。雄蕊。
それは、一般的な動物における、精子や男性に、相当する。

定住生活様式者の植物。
例。根を持つ植物。草木。
例。雌蕊。
それは、一般的な動物における、卵子や女性に、相当する。

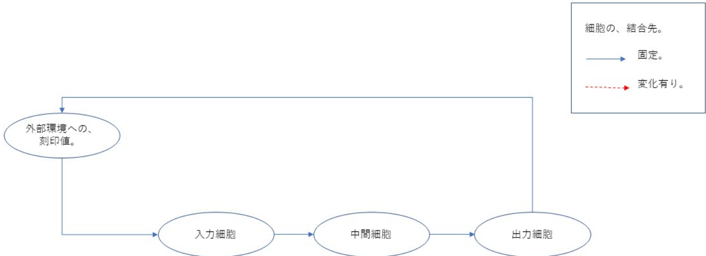
一般的な動物にとっての、植物の行動の、分析方法。
分析目標に該当する植物に対して、長時間の撮影を、行うこと。
撮影した動画の、早送りと早戻しを、行うこと。
そのことで、植物行動における、長時間のタイムスパン性を、克服すること。

植物における、神経系。植物における、神経細胞。植物における、

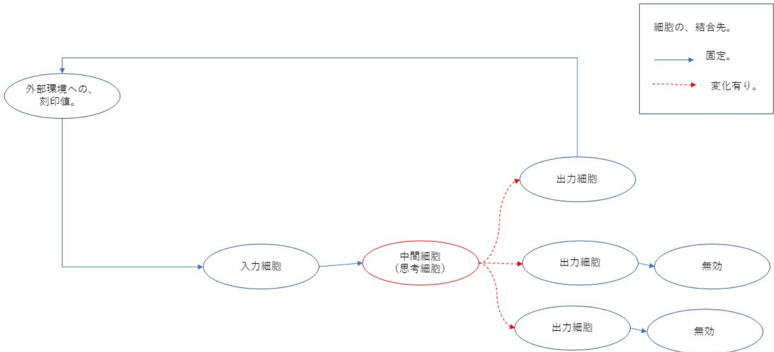
神経伝達物質。成長ホルモンとの関連。
それらの解明が、新たに、必要であること。

神経回路図の、描画の、必要性。

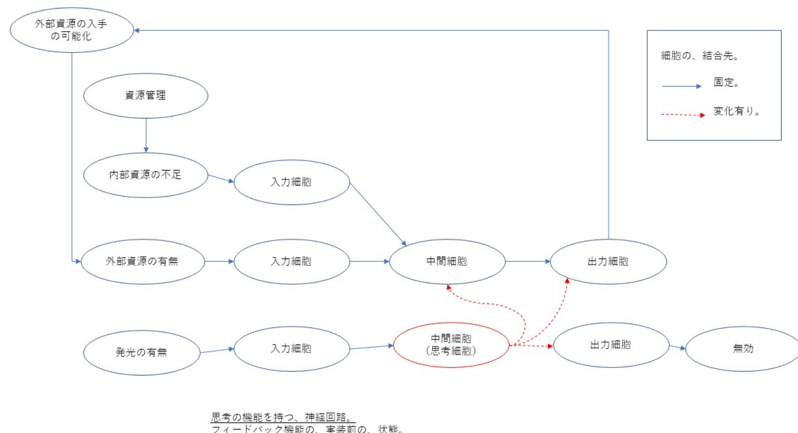
私は、今まで、神経回路図を、描いていなかった。
私は、新たに描く神経回路図を基に、プログラムを作成することで、神経回路のプログラムの動作を、より、追いやすくする。



最も単純な、細胞の結合先が固定されている、神経回路。ソースコード。その１。



最も単純な、思考の機能を持つ、神経回路。ソースコード。その２。



一つ一つの神経細胞の行動は、とても、簡素で、単純で、馬鹿であること。
彼らが、沢山集まること。彼らの行動が、沢山積み重なること。
そのことで、彼らの集積体としての神経系の行動が、とても利口になること。
例。人間の脳。

資源。
それらの存在。それらの保持。
それらにおける、適正範囲。
--
その上限が有る場合。その上限値。生物において、その内部制御が必要であること。
その上限が無い場合。生物は、特に、何もしなくて良いこと。
--
その下限が有る場合。その下限値。生物において、その内部制御が必要であること。
その下限が無い場合。生物は、特に、何もしなくて良いこと。

--
上限値の突破。その発生。それについての、警告の出力。その出力が、中間細胞に対して、行われること。
下限値の突破。その発生。それについての、警告の出力。その出力が、中間細胞に対して、行われること。
そうした警告やアラーム。それは、以下の内容である。痛覚。
--

--
内部環境への出力。それは、以下の内容である。内部環境への、物理的な刻印。内部環境における、記憶の保持。
外部環境への出力。それは、以下の内容である。外部環境への、物理的な刻印。外部環境における、記憶の保持。
--
物理的な刻印。それは、外部環境に対してだけでなく、内部環境に対しても、行われること。

入力値。
--
入力細胞からの入力値。
中間細胞からの入力値。
--

入力値が、有る場合。
--
その値そのもの。その値の可能範囲。その値の上限の突破。その値の下限の突破。それらの有無。
その値の適正範囲。その値の上限の突破。その値の下限の突破。それらの有無。
その値が、増加する場合。その増加の速度。その増加の加速度。それぞれの値の上限の突破。それらの有無。
その値が、減少する場合。その減少の速度。その減少の加速度。それぞれの値の上限の突破。それらの有無。
--

入力値が、無い場合。
--
入力の途絶についてのアラーム。
前回の出力の無効性についてのアラーム。

--

生きやすさの、質や量。獲得した資源の、質や量。それらの増減についての、評価。
適正値の評価。
何者が、どうやって、その値を決定するのか？
そのプロセス。そのメカニズム。それらの決定が、必要であること。

適正値。
それは、生命物質や、生物そのものの、存在を可能にする条件であること。
それは、予め、決め打ちされていること。
それは、ランダムな遺伝情報値に、基づくこと。
それは、学習によって、ある程度、変動すること。
それは、初期値と、調整値との、両方を、持つこと。

それは、外部環境と内部環境との、両方について、存在すること。

メインルートの回路。
入力細胞。 --＞ 中間細胞1と、そのフィードバック。 --＞ 中間細胞2と、そのフィードバック。 --＞ 出力細胞。

サポートルートの回路。
付随するフィードバックの細胞群。それらの構成の、明確化。
--
内部環境や外部環境における、資源の質と量が、減少した場合。それらの環境からの入力があること。そのことで、発火すること。ブレーキや抑制が、必要であること。
内部環境や外部環境における、資源の質と量が、増加した場合。それらの環境からの入力があること。そのことで、発火すること。アクセルや促進が、必要であること。
--
内部環境や外部環境からの出力。
内部環境や外部環境からの、神経系への入力。
--
資源増加によって、神経系へと出力すること。促進タイプの中間細胞へと接続すること。メインルートへと、接続すること。
資源減少によって、神経系へと出力すること。抑制タイプの中間細胞へと接続すること。メインルートへと、接続すること。

そうすることで、資源を増加させる必要が有ること。
--
正の相関が有ること。それは、正の同質性が有ることである。
--

資源が減ると、入力が有ること。
資源の減少につながる入力細胞の発火を、抑制する必要が有ること。

入力細胞と中間細胞。一つ一つの細胞について、入力発生の監視を、行うこと。
その入力の発生と、資源の増減との相関を計算すること。
あるいは、重大な、資源の増減の発生を検知すること。その時の、入力の有無を、検知すること。

資源の増加をもたらす、入力細胞からの入力を、もっと増やす必要が有ること。
それをもたらす、外部資源への出力細胞の動作を、もっと増やす必要が有ること。

資源の著しい増加時に、入力があった場合。その入力そのもの。その入力をもたらす出力。それらを、促進すること。
資源の著しい減少時に、入力があった場合。その入力そのもの。その入力をもたらす出力。それらを、抑制すること。

入力の発生。入力値。それらが、生きやすさをもたらす資源の増減との間で、以下のような相関を持つ場合。
--
正の相関を保つ場合。それらの入力を、促進すること。
負の相関を保つ場合。それらの入力を、抑制すること。
無相関の場合。何もしないこと。
--
それらの決定にあたっては、予め、相関係数の計算を、必要とすること。

資源のリアルタイムでの増減を判断すること。入力発生のモニタリング。それが、中間細胞への通知につながること。

リアルタイムの資源の増減を、記憶領域に、書き込むこと。

入力を受ける中間細胞による、その、リアルタイムの、その都度の、閲覧や読み取りを行うこと。

細胞毎に、専用の回路や回線を持つこと。
中間細胞における、細胞活動のエネルギー補給と同じ回線を、使用すること。
資源の増減の通知を、一定の間隔で、中間細胞へと、自動的に送信すること。
これが、一番、単純で、簡単な仕組みであること。

入力値の過剰。
入力値の不足。
入力値の適正範囲。
それらの判定回路が、分かれば良いこと。
そうした判断基準の初期値。
それは、予め、決め打ちされていること。
それは、生命物質の、物理的な性質や、化学的な性質に、依存すること。

資源の、更なる、入手。外部環境や、内部環境からの、入手。
資源の、更なる、貯蔵や蓄積。外部環境や、内部環境への、貯蔵や蓄積。
それらの実現性。
資源入手の、充足性や十分性の確保がなされること。
資源の貯蔵や蓄積の、充足性や十分性の確保がなされること。

参考例。
バッテリーにおける、蓄電管理。
エアコンにおける、空調管理。
冷蔵庫における、温度管理。

スイッチのON、OFFの、制御。
比例制御。モーターの回転数の、上昇や下降の、制御。
PID制御。

動作特性。過渡状態における、特性。

静止特性。定常状態における、特性。

望ましい制御。
オーバーシュートが、無いこと。
ハンティングが、無いこと。
オフセットが、無いこと。
速応性が、あること。
安定性が、あること。

上記における、温度を、以下の値へと、読み替えること。
資源の入手の度合いについての、実測値。
資源の、貯蔵や蓄積や所有の度合いについての、実測値。

実測値の読み取り。
速度。加速度。頻度。それらのプラスとマイナス。それらの読み取り。

それらの値の適正範囲。その、事前の、設定や決め打ち。
それらの値が、大き過ぎる場合。値を、抑制すること。減算。除算。
それらの値が、小さ過ぎる場合。値を、促進すること。加算。積算。
そうした抑制や促進において。学習性や可塑性や創造性を、持たせること。

前の値と、次の値との、時間当たりの、差分。それらを、計算すること。それを、神経回路において、実現すること。
それは、以下の内容である。
速度計算の回路。

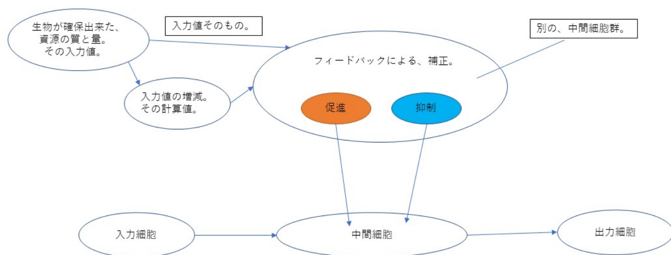
前の速度値と、次の速度値との、時間当たりの、差分。それらを、計算すること。それを、神経回路において、実現すること。
それは、以下の内容である。
加速度計算の回路。

その場合。
値の記憶を行うことが、必要であること。
値の遷移の記憶を行うことが、必要であること。時系列的遷移。空間的遷移。
その、生物的神経回路における実現が、必要であること。

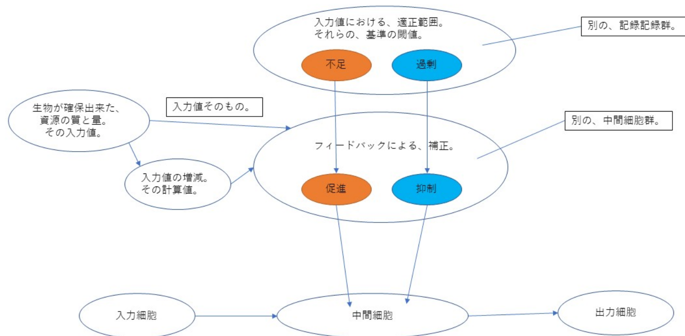
参考例。
半導体における、メモリの、実現。

刻印モデル。内部への刻印。内部からの読み取り。特定細胞への、記憶機能の、割り当て。特定の細胞間結合部への、記憶機能の、割り当て。そうした、モデル。
筋力モデル。鍛錬モデル。細胞自体の発火能力を、鍛錬すること。値は、使用すると、増加すること。値は、使用を怠けると、減少すること。
ループモデル。発火状態の旋回を、一定時間、持続させること。
堆積モデル。記憶が、内部に、次第に、溜まっていくこと。

記憶の種類。
従来の心理学における、知見。
その内容を、思い出せるもの。宣言的記憶。意味記憶。エピソード記憶。
その内容を、思い出せないもの。手続き的記憶。



生物的神経系における、フィードバック機能。その基本的な仕組み。
初期設定。



生物的神経系における、フィードバック機能。その基本的な仕組み。
入力値における、適正範囲を、考慮する場合。

神経回路における、条件分岐の、実現。
If. ElseIf. Else.

値の加算が一定以下の場合。無発火。0の値。値の、逆転や反転の場合。1の値。
値の加算が一定以上の場合。発火。1の値。値の、逆転や反転の場合。0の値。
閾値。適正範囲についての値。
その値を超過すると、発火すること。
その値に対して不足すると、発火すること。これは、以下のように実装すれば、その実現が、より簡単であること。その値に対して不足すると、発火しないこと。その逆転値を、求めること。

あるいは、環境中の、別々の化学物質の量の変化を、読み取ること。
その量が増えると、発火すること。その機能を、複数細胞を用いた回路プロセスによって、実現すること。
その量が減ると、発火すること。その機能を、複数細胞を用いた回路プロセスによって、実現すること。

その量の変化の度合いを、検知すること。
変化の度合いについての、閾値。その値を、予め設定すること。

変化無しの場合。変化の度合いが、小さい場合。無発火。0の値。
変化有りの場合。変化の度合いが、大きい場合。発火。1の値。

定常センサ。
増減変化についてのセンサ。増加センサ。減少センサ。閾値突破についてのセンサ。閾値の上端の、突破。閾値の下端の、突破。発火の閾値の相違を、活用すること。
神経系の末端部だけでなく、中枢部においても、センサや入力細胞が、存在すること。あるいは、それらの機能を、中間細胞によって、実現すること。それは、以下の内容である。センサとしての中間細胞。
そうしたセンサが無い場合、環境条件測定のための各種計算が、不可能になること。

入力刺激の、量別の、反応。神経伝達物質の、量別の、反応。
--
センサにおける、発火の反応。　　上端突破時。　大きな値の時。　小さな値の時。　下端突破時。
--
大きな値についてのセンサ。上端突破についてのセンサ。　　発火。　不発火。　不発火。　不発火。
中程度の値についてのセンサ。定常状態についてのセンサ。　　発火。　発火。　不発火。　不発火。
小さな値についてのセンサ。下端突破についてのセンサ。　　発火。　発火。　発火。　不発火。
--
左側に行くほど、刺激物質の量が増加していること。右側に行くほど、刺激物質の量が減少していること。

こうした三種類のセンサを、用意すること。そのことで、以下の内容を、相互に判別することが、出来ること。
増減。
上端と下端の、突破。
定常状態。

今まで発火していた細胞が、新たに、発火しなくなること。その検知。減少の検知。
今まで発火していなかった細胞が、新たに、発火するようになること。その検知。増加の検知。

中間細胞についての、既存の知見。
中間細胞。それは、以下の場合、発火しないこと。前細胞における、促進発火が無い場合。
中間細胞に対して、以下の働きをさせることが、不可能であること。減少センサとしての、働き。
そのことへの対策。
入力刺激値の増加時に、前の抑制細胞を、発火させること。その結果。後細胞が、発火しないこと。
入力刺激値の減少時に、前の抑制細胞を、発火させないこと。その結果。後細胞が、発火すること。
その場合。
結局。入力刺激値の減少タイミングの検出が、別途、必要であること。それは、そのままでは、上手く動作しないこと。

中間細胞において。
前細胞の発火が、一定時間以上、起きないこと。その検出動作。その動作が、原理的に、出来ないこと。
中間細胞の動作。それは、イベントドリブンであること。
中間細胞の動作。
それは、イベントが起きない限り、何も動作しないこと。
それは、前細胞の発火が起きない限り、何も動作しないこと。
それは、以下の内容についての検出の動作も、特に行わないこと。入力値の減少。入力値が、ゼロになること。
それは、以下の内容の実現が、能力的に、不可能であること。入力値の減少。入力値が、ゼロになること。それらの、自主的な検知。

神経系全体が、イベントドリブンで動くこと。
神経系全体において。以下の内容の実現が、その能力的に、不可能であること。入力値の減少。入力値が、ゼロになること。それらの、自主的な検知。
体内の内部環境。体外の外部環境。それらの環境からの、入力刺激。そうした刺激の値がゼロである場合。神経系は、動作しないこと。

値の減少。その減少の、絶対値。
値が、ゼロであること。値の、沈黙。それらの発生について、アラームを上げること。
それらを、神経系の外部から、刺激や信号として、発生させない限り。
神経系は、そのままでは、何も動作しないこと。

外部環境や内部環境からの、神経系への、値の出力。
値の増加そのものについての、アラーム。
値の増加の、絶対値についての、アラーム。
値の減少そのものについての、アラーム。
値の増加の、絶対値についての、アラーム。
値がゼロになること。値の沈黙。それらについての、アラーム。
値の定常化。値の不変化。それらについての、アラーム。
それらの外部アラームが、神経系の動作の発生にとって、必須であること。

神経系における、値のマイナス性についての認識。
例。人間の場合。
-60。
減少のアラームとしての、マイナス記号。
減少の絶対値としての、60。
それらの結果としての、マイナス値の認識。

神経系における、値のゼロ性についての認識。
例。人間の場合。
中国語文字。無。
ゼロ性のアラームとしての、"無"の文字記号。
その結果としての、ゼロ値の認識。

物資が減ること。
物資が無くなること。
それらについての、検知。
例。
物体としての、果実。
物体としての、石。

それは、以下の内容である。
数が減ること。
数が無くなること。
それらについての、検知。

神経系。神経細胞。
それらは、以下のように動作すること。
加算値が、一定の閾値を超えた場合。発火すること。活動すること。そうしたシステムであること。

それらは、そのままでは、以下の内容であること。
値の減少の検知。減算。それらが、原理的に、不可能であること。
それらにおいては、そのままでは、以下の内容のみが、実現可能であること。
値の減少に伴う、動作の停止。

以前の状態についての、前回の記憶の活用。その機能の実装。
その実現においては、以下の内容が、必要であること。
神経系における、記憶のメカニズム。その内容についての、知識。

神経系における、記憶。
--
中間細胞による、記録細胞への、書き込みや刻印。
中間細胞による、記録細胞からの、読み取り。
--

その場合。
以下の存在が、予め、必要であること。
以下の内容の働きをする、生きた細胞。
コンピュータにおけるハードディスク磁気面と同様の働きをすること。
物理的な記憶媒体としての働きをすること。
それは、以下のように、呼ぶことが出来ること。
記録細胞。
その実現においては、以下の二通りが、考えられること。
（１）
それは、神経細胞の一種であること。
（２）
それは、内部環境の一部であること。それは、神経系からは、切り離されていること。

情報の、記憶と保持。
それらの実現においては、情報の、物理的な書き込みが、必須であること。

その実現においては、以下の二通りが、考えられること。

（１）
特定の個別の記録細胞が、存在すること。
（２）
特定の個別の記録細胞が、特に存在しないこと。
情報記録を、以下の方法によって、別途、実現すること。
--
神経回路の形状やトポロジー。
細胞同士の結線。それらの有無。それらの太さ。それらの内容によって、情報内容を、表現すること。
それは、以下の内容である。
情報記録の、ネットワーク化。
どのタイプの形状のネットワークが、どの内容の情報を、表現するか？
それらについての検討が、新たに必要であること。
--

参考。
免疫学において、記憶細胞の概念が、既に使用済みであること。

神経系における、値の増減の検知。その実際。

外部中枢において、以下のアラームが、神経系に対して、出力されること。
値の不足についての、アラーム。
値の過剰についての、アラーム。

資源コントロール基盤と、神経系との、インタフェース部分。
例。
視床下部。
--
生物の栄養分やエネルギー分。
それらの不足についての、アラーム。空腹中枢。
それらの過剰についての、アラーム。満腹中枢。
--
生物の水分。
それらの不足についての、アラーム。渇水中枢。
それらの過剰についての、アラーム。満水中枢。

--
上記の内容は、以下の内容についての、私の推論の正しさを、裏付けるものであること。
神経系の動作において、プラスとマイナスの両方の、外部入力が、別々に必要であること。

上記の他に、存在が推定される、外部中枢。
--
温熱。
それらの不足についての、アラーム。寒冷中枢。
それらの過剰についての、アラーム。熱暑中枢。
--
湿潤。
それらの不足についての、アラーム。乾燥中枢。
それらの過剰についての、アラーム。濡れ中枢。
--
明るさ。
それらの不足についての、アラーム。暗黒中枢。
それらの過剰についての、アラーム。明る過ぎ中枢。
--

上記の内容の、まとめ。
資源コントロールの基盤において。
存在が想定される、中枢。

--
入力中枢。
入力停止の中枢。入力途絶の中枢。

出力中枢。
出力停止の中枢。出力途絶の中枢。

--
流入中枢。
流入停止の中枢。流入途絶の中枢。

排出中枢。
排出停止の中枢。排出途絶の中枢。

--

増加中枢。
増加停止の中枢。増加途絶の中枢。

減少中枢。
減少停止の中枢。減少途絶の中枢。

--
生産中枢。
生産停止の中枢。生産途絶の中枢。

消費中枢。
消費停止の中枢。消費途絶の中枢。

--
獲得中枢。
獲得停止の中枢。獲得途絶の中枢。

喪失中枢。
喪失停止の中枢。喪失途絶の中枢。

--
受容中枢。
受容停止の中枢。受容途絶の中枢。

送達中枢。
送達停止の中枢。送達途絶の中枢。

受信中枢。
受信停止の中枢。受信途絶の中枢。

送信中枢。
送信停止の中枢。送信途絶の中枢。

--
輸入中枢。
輸入停止の中枢。輸入途絶の中枢。

輸出中枢。
輸出停止の中枢。輸出途絶の中枢。

--
黒字中枢。
黒字停止の中枢。黒字途絶の中枢。

赤字中枢。
赤字停止の中枢。赤字途絶の中枢。

神経系において、何を、どのように、記録するか？

神経細胞による出力。
それは、発火するか、発火しないか、のみであること。
それは、1か、0か、のみであること。
それは、デジタルであること。

神経回路における、ネットワークの形状。
--
結線の有無。
結線の相手の細胞。
結線の太さにおける大小。
結線のトポロジー。
--

記録の種類。
--
揮発性の記録。発火のループ。その、一時的な持続と、消滅。
非揮発性の記録。情報内容の、物理的な刻印。
--

生物における、情報の忘却。

生物的神経系は、以下のような情報を、忘却すること。
--
彼自身の生きやすさの向上にとって、役立たなかった、有用で無い情報。

彼自身の生きやすさの向上にとって、有用な情報。それらの、時間当たりの流入量が多過ぎること。その質と量が、記憶におけるキャパシティを、超過すること。
彼自身の生きやすさの向上にとって、役立ったかどうかの、フィードバック。それらが得られなかった、情報。
--

生物的神経系における、フィードバック。
--
資源の、獲得や流入にとって、役立たない出力を、カットすること。
資源の、喪失や流出に、寄与しようとする出力を、カットすること。
その出力細胞の前細胞の発火を、抑制すること。
その抑制は、資源コントロール基盤に直結する、以下のような存在によって、得られること。
抑制タイプの神経細胞。抑制物質。

資源流入の停止の、検知。
資源流出の、発生や続行の、検知。
それらの原因となる、神経系からの出力の、分析と特定。
そのための、試行錯誤。
ランダムな順序で、既存の別々の出力を、一つずつ停止すること。
ランダムな順序で、新規の出力を、一つずつ発生させること。
そうしたランダムなコントロールの主体となる、細胞。
そうした細胞の存在が、別途、必要であること。
ランダム接続を実行する、中間細胞。

--
資源の、獲得や流入にとって、役立つ出力を、パワーアップすること。
資源の、喪失や流出を食い止める出力を、パワーアップすること。
その出力細胞の前細胞の発火を、促進すること。
その促進は、資源コントロール基盤に直結する、以下のような存在によって、得られること。
促進タイプの神経細胞。促進物質。

資源流入の発生の、検知。
資源流出の停止の、検知。
それらの原因となる、神経系からの出力の、分析と特定。
そのための、試行錯誤。
ランダムな順序で、既存の別々の出力を、一つずつ再生すること。
そうしたランダムなコントロールの主体となる、細胞。
そうした細胞の存在が、別途、必要であること。
ランダム接続を実行する、中間細胞。

--

フィードバックによる修正。
それは、変化した部分にのみ、掛かること。
それは、固定部分には、掛からないこと。

神経回路における、変化した部分。
--
前細胞から、次細胞への、結合先の、新規生成後。
前細胞から、次細胞への、結合先の、追加変更後。
細胞間における結合の太さの、学習後。
細胞間における結合の太さの、変更後。
--

フィードバックによる修正。
それは、変化や変更が生じた、前細胞と次細胞にのみ、掛かること。

結合先が可変の、中間細胞。
それは、中間細胞のみに、新たに結合を生成すること。
それは、出力細胞には、新たに結合を生成しないこと。

出力細胞の、前細胞。
それは、固定結合の、中間細胞のみであること。
この中間細胞が、フィードバック修正が掛かる、主要なターゲットであること。

完全に中間に位置する、中間細胞。

この中間細胞も、フィードバック修正を、受けること。

結合先の新規作成を行う中間細胞の、振る舞い。
その結合先の新規作成。
--
それは、試行錯誤的であること。
それは、ランダムであること。
それは、アメーバや粘菌と、同様のふるまいであること。
--
そうした中間細胞。
それは、以下のように呼ぶことが出来ること。
思考細胞。
その活動は、以下のように呼ぶことが出来ること。
思考活動。
そうした思考細胞は、結合先の選定結果については、フィードバックを受けないこと。
その選定先の中間細胞が、フィードバックを受けること。
そうした思考細胞は、思考活動そのものについての促進や抑制を、フィードバックとして、受けること。

フィードバック先の選定。
それは、思考細胞によって、試行錯誤的に、行われること。
フィードバック先の選定の正しさ。そのもの。それについて、より上位の思考細胞からのフィードバックが、行われること。

あるフィードバックについての、フィードバック。それが、存在すること。
そうした最上位のフィードバックを行う、最上位の思考細胞群が、存在すること。
例。人間の大脳前頭葉における、中間の思考細胞群。

思考とフィードバックの多層構造。そうした構造が、存在すること。
思考細胞同士の多重結合。そうした結合が、存在すること。
多重の思考細胞の構造。そうした構造が、存在すること。

例。
人間のような、高度な知的生物における、思考。

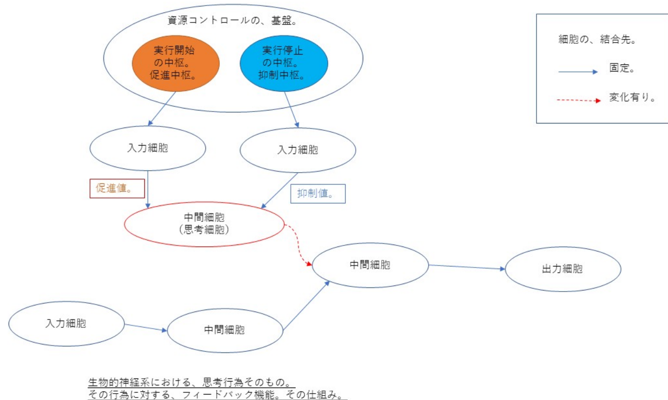
それは、以下のような形で、もたらされること。
超原始的な生物としてのアメーバと同一レベルの能力を持つ、思考細胞。
そうした思考細胞の高度な集積。その結果。

思考細胞には、一般的な中間細胞と同様に、以下の二つのタイプが存在すること。
--
促進タイプ。
抑制タイプ。
--
促進的な思考細胞。ポジティブ思考細胞。それは、生物における、ポジティブ思考の源泉であること。
抑制的な思考細胞。ネガティブ思考細胞。それは、生物における、ネガティブ思考の源泉であること。
--

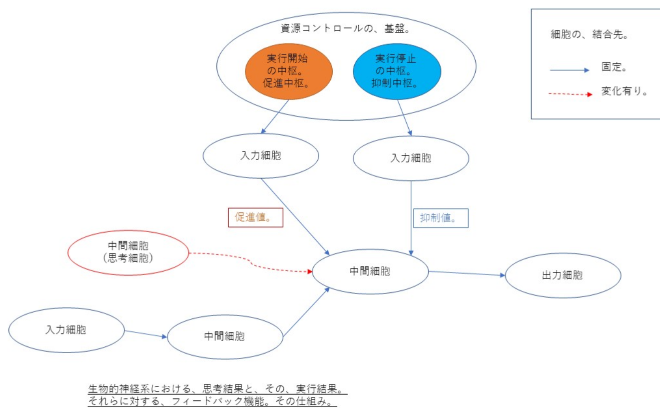
思考細胞。
それは、神経系における中間細胞において、結合が非固定のタイプの細胞であること。
非思考細胞。
それは、神経系における中間細胞において、結合が固定のタイプの細胞であること。

思考と、神経回路図。

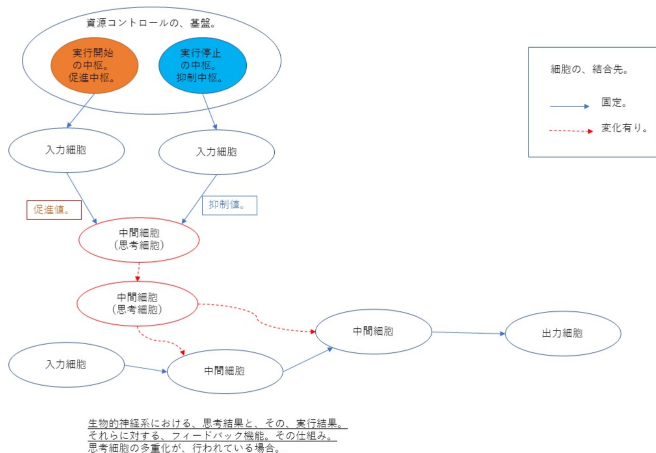
思考行為そのものについての、フィードバック。そのメカニズム。



思考　結果と、その実行結果についての、フィードバック。そのメカニズム。



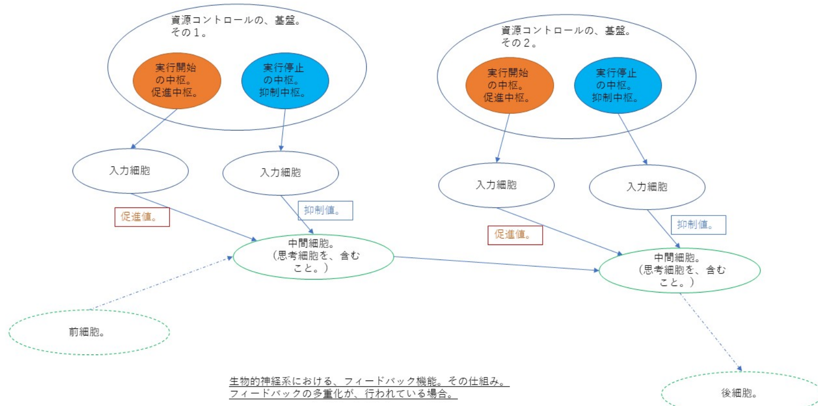
思考細胞の多重化。そのメカニズム。



生物的神経系における、思考結果と、その、実行結果。
それらに対する、フィードバック機能。その仕組み。
思考細胞の多重化が、行われている場合。

思考細胞と、その他の中間細胞。思考中枢。知能中枢。例。知的な戦略立案。
思考細胞と、出力細胞。運動中枢。例。筋肉細胞のコントロール。
それらは、別々の系統で、別々に、別々の中枢によるフィードバックを、受けること。

多重フィードバック。そのメカニズム。



生物的神経系における、フィードバック機能。その仕組み。
フィードバックの多重化が、行われている場合。

フィードバックの種類。
--
単層フィードバック。単一フィードバック。
多層フィードバック。多重フィードバック。
--
思考細胞へのフィードバック。
非思考細胞へのフィードバック。
--

中間細胞の存在を、フィードバックへと、利用する場合。
思考細胞において。
--
標的細胞。ターゲット細胞。環境からのフィードバックを、直接には行わない、中間細胞。
非標的細胞。非ターゲット細胞。環境からのフィードバックを、直接に行う、中間細胞。
--
思考細胞は、標的細胞に対してのみ、新たに結合すること。
思考細胞は、非標的細胞に対しては、結合しようとしないこと。
--
思考細胞には、標的細胞のみが、見えること。
思考細胞には、非標的細胞は、見えないこと。
--
標的細胞のみが、外部に、直接、露出していること。
非標的細胞は、内部に、隠蔽されていること。
--

中間細胞群のカプセル化。その実装が、そのままでは、必要であること。
--
カプセル外部へと露出する、中間細胞。それは、標的細胞であること。
カプセル内部へと隠蔽される、中間細胞。それは、非標的細胞であること。
--

そうした実装の必要性。それを、予め、回避すること。
そのために、以下のような考え方を、導入すること。

細胞の発火についての、促進と抑制の、機能。
そうした機能を、環境からの入力細胞に対して、直接、持たせること。
そうした環境は、以下の二通りであること。外部環境。内部環境。
そうした入力細胞に対しては、中間細胞や思考細胞からは、アクセスをさせないこと。

公開細胞。外部からのアクセスが可能であること。プライバシーが無いこと。そうした中間細胞。
非公開細胞。外部からのアクセスが不可能であること。プライバシーが有ること。そうした中間細胞。

記憶と思考。
それらについての、外部からの、読み取りやアクセス。
その許可と不許可。
それらの区分が、必要であること。

外部。
それは、以下の内容である。
他の思考細胞。他の生物的神経系。

--
生物的神経系。彼自身における、生きやすさの確保。それを目指す能力。そうした能力を持つ、神経系。
非生物的神経系。彼自身における、生きやすさの確保。それを目指す能力。そうした能力を持たない、神経系。例。現代における、ニューラルネットワークベースの、人工知能。
--

情報。
神経系における、入力細胞と中間細胞。それらの細胞の発火をもたらす、トリガーや刺激。そうしたトリガーや刺激そのもの。そうしたトリガーや刺激をもたらす、物質。

記録細胞。
情報の記録を行う、細胞一般。

それらの存在場所は、以下の二通りである。
--
神経系の内部の場合。神経細胞そのもの。
神経系の外部の場合。体内の内部環境の中。神経細胞への隣接部。
--

--
意味情報。生物が、今後も生きていくために、役に立つ、情報。
例。使い捨てで無い、ランダムな数列や文字列。重要人物の電話番号。他国語の単語の綴り。
無意味情報。生物が、今後も生きていくために、役に立たない、情報。例。使い捨ての、ランダムな数列や文字列。使用済みの、ワンタイムパスワード。
--
意味性。生物にとって、生存維持の、役に立つこと。
無意味性。生物にとって、生存維持の、役に立たないこと。
--

記銘細胞。記録細胞。そのメカニズム。

--
記録の書き込みの細胞。記銘細胞。
記録の読み取りの細胞。想起細胞。
記録の新規創造の細胞。思考細胞。
--

記録。そのために必要な、機能。
--
初期化。
上書き。
新規追加。
更新。
--

神経系の内部における、記銘や記録。
--

それらの、取り戻し操作の、不能性。
それらの、内容における、抹消や削除の、不能性。
--

その、代用措置。
--
心理的抑圧による、想起の抑制。抑制タイプの中間細胞による、新規の結合の生成。
忘却。その情報への、アクセス頻度の、低下。その情報の、不使用。それらがもたらす、情報に対する学習効果の、低下。
記憶障害。神経系そのものの、破壊や病変。想起細胞そのものの、破壊や病変。
--

神経系における、情報の、記録と保持の、手段。

回路のトポロジー。それ自体に対して、情報を内蔵させること。
--
思考細胞による、新規の細胞間結合の生成。
思考細胞による、新規回路網の構成の生成。
--
回路の、新規の構成による、情報の記録。
回路の、安定的な保持による、情報の保持。
--

--
出力ループ回路の生成。そのことによる、神経細胞群における、エンドレス発火の生成。

--
回路の、物理的な増強。
細胞そのものの、発火能力。
細胞間の、結合の強さ。
それらの、向上。

--
神経系に隣接する、体内の内部環境。神経系の外部。そうした環境への、情報の、物理的な刻印。
0。無発火。
1。発火。

書き込みの対象となる物質。
読み取りの対象となる物質。
それらの特定が、必要であること。

--

神経系における、回路構成そのものによる、情報表現。
--
遺伝情報に基づく、固定回路網の、生成。
思考細胞による、新規の可変回路網の、生成。
--

参考例。
家電製品。
論理回路網そのものにおける、情報の、内蔵や保持や表現の、実現。
それらの、豊富な前例。

神経系における、回路構成そのものによる、情報表現。
--
細胞の、無発火。0の値。沈黙。無言。無活動。情報が無いこと。
細胞の、発火。1の値。発言。有言。活動。情報が有ること。
--
細胞の発火の、促進。回路の、有化。
細胞の発火の、抑制。回路の、無化。
--

生物的神経系においては。
沈黙自体にも、意味が有ること。
沈黙自体も、情報の一種であること。
例。
無関心。無視。それらの態度の、外的な表現。

神経系内部において。
--
プラスの発火。＋1。促進細胞の発火。入力細胞。中間細胞。

マイナスの発火。-1。抑制細胞の発火。入力細胞。中間細胞。
--

神経系の外部に対して。
--
プラスの出力。+1。出力細胞の発火。その出力値が、プラスであること。
マイナスの出力。-1。出力細胞の発火。その出力値が、マイナスであること。
--

言語の翻訳。

共通言語の構築。
それによる、神経系の間における、意思疎通。
それによる、神経系の間における、情報の送受信の、可能化。
その、神経回路による、表現や実現。
例。
エスペラント語。

--
簡易思考。単一の思考細胞による、原初的な思考。例。アメーバによる、思考。
簡易記録。単一の記録細胞による、原初的な記録。例。粘菌同士による、新規結合の、安定的な保持。
--
そうした、簡易思考や、簡易記録の、多重の積み重ね。
その積み重ねの多量化による、高度な思考内容や、情報内容の、表現。
例。高度な、人間の文明。

生物における、通信。
それは、以下の三通りへと、分類可能であること。
--
通常の通信。入力から出力への、変換。相互の送受信。
気体的な通信。自発的で自主的な、出力。独り言。発信のみ。入力を伴わないこと。
液体的な通信。入力の丸呑みと、沈黙。受信のみ。出力を伴わないこと。
--

生物における、通信。
それは、以下の三通りの対象を、持つこと。
--
単一の神経細胞。
部分的な、神経回路網。
神経系の全体。
--

神経回路網。その構成要素。
それは、以下の内容である。

--
分岐。OR.
統合。AND.
--
始点。始発。
終点。ターミナル。
--
代替の線。
並行線。
--

参考例。
鉄道やバスの、路線図。

神経回路網。その情報表現。
それは、以下の内容である。

（１）
回路のトポロジー。
参考例。
情報幾何学。

（２）
発火の連鎖。
参考例。
鉄道やバスにおける、運行便。
急行便。
始発便。
終発便。

（３）
物理的な刻印。
--
神経系の外部への刻印の書き込み。
神経系の外部からの読み込み。
--

神経系の外部。
それは、以下の内容である。
--
生物の体内の内部環境。
生物の体外の外部環境。
--

参考例。
生物の遺伝情報。それに基づく、神経系の固定回路の構築。

神経回路における、前回の値の、保存や再利用。
それらの実現方法。

--
回路のトポロジー。
ループ回路の形成。
神経回路の外部への値の書き込み。神経回路の外部からの値の読み取り。物理的な媒体の利用。
回路の増強。
--

参考例。
コンピュータプログラムにおける、前回の値の、保存や再利用。
--
アルゴリズムのロジックそのものによる、値の実現。
アルゴリズムのループそのものによる、値の実現。
--
ファイルやメモリへの、値の読み書き。
--
アルゴリズムの増強による、値の実現。
--

神経系や神経回路における、値の概念の、実現。

値。
--
0。無発火。
1。発火。
--
プラス。促進。
マイナス。抑制。
--

細胞毎の、入力値の、集計と蓄積。
細胞毎の、発火の閾値の、設定。
入力の集計値が、閾値を超えた場合。発火すること。
入力の集計値が、閾値を超えなかった場合。発火しないこと。

正誤の表現が、可能であること。
--
True. 1.

False. 0.
--
True. 1.
False. -1.
--

神経回路と、既存のコンピュータとの互換性を実現すること。
そのために、神経回路において、実装すべき機能。

アルゴリズム。
--
条件分岐。If. ElseIf. Else.
ループ。For. While. Break.
論理。AND. OR.
--

値。
--
数値。0. 1. -1.
論理値。True. False.
文字列値。
--
絶対値。
プラスとマイナスの符号。
--
和。加算。
差。減算。
積。積算。
割合。除算。
--

量。
--
インパクト。
マグニチュード。
サイズ。
インターバル。
距離。
--

大きいこと。小さいこと。
長いこと。短いこと。
強いこと。弱いこと。
--

質。価値観。
--
高いこと。低いこと。
優れていること。劣っていること。
--

系列。時系列。空間の系列。
--
前。後。
左。右。
上。下。
同一。合一。同等。
--

神経回路における、演算の実現の必要性。
加減乗除の演算。

参考例。
人間における、算数の初等教育の、教科書や参考書。

神経回路における、条件性の発生。その実現方法。
トリガーが、存在すること。
そのことを前提として、細胞や回路を、構築すること。

トリガー発生を検知する神経細胞が、存在すること。
--
入力細胞。トリガーは、環境からの入力刺激であること。
中間細胞。トリガーは、前細胞の発火であること。
--

神経回路における、条件設定。
--
細胞における、発火の閾値。
細胞からの、出力値の、絶対値。

細胞からの、出力値の、符号。プラス。マイナス。促進。抑制。
細胞からの、出力値の、幅。増幅。減幅。
--

神経回路による、論理回路と同等の回路の、実現。
その方法。
論理回路と同様に、真理値表や遷移表を、作成すること。

論理回路において。
単純な機能の実現においても、複雑な回路が、必要であること。

神経回路においても、同様の課題の存在が、予想されること。

生物における、通信。
それは、以下の三通りへと、分類可能であること。
--
通常の通信。入力から出力への、変換。相互の送受信。
気体的な通信。自発的で自主的な、出力。独り言。発信のみ。入力を伴わないこと。
液体的な通信。入力の丸呑みと、沈黙。受信のみ。出力を伴わないこと。
--

嘘と真実。誤りと正しさ。偽りと正直さ。
疑いと、信用や信頼や信仰。
それらの判別や区別。それらの意図的な実行の、仕組み。
それらの、神経系における、内蔵や実装。

嘘付きの行動。偽装。擬態。
正直な行動。
それらは、生物において、両方とも、普遍的に、存在すること。
それらの、神経回路における、実装。

本心の回路。偽装の回路。擬態を実現するための回路。

偽りの心。他者を騙すこと。スパイをすること。本心を隠して、媚びて迎合すること。
本心。

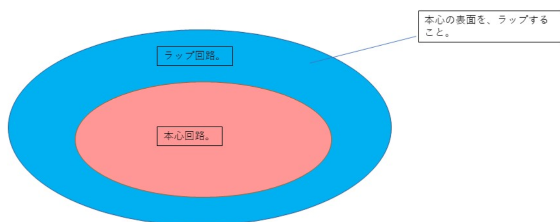
表向きの心。
裏の心。
表裏があること。

心の二重構造。
本心の表面を、被膜によって、ラップすること。
--
本心回路。
ラップ回路。
--

例。
是認や許可の取得。禁忌や禁止の回避。
それらのために、本心とは逆の行動を、表向き、取ること。

それらの行動内容の、神経系における、実装。

それらの実現が、リアルな生物的神経系の実現において、必須であること。



生物における、心の二重構造。
生物的神経系における、神経回路の二重構造。

逃避不能性。回避不能性。
転進や撤退の、不能性。
それらの、発生。
徹底抗戦をするしか無いこと。
袋小路に入ったこと。
生き残りを賭けた総力戦へと、移行すること。

必死モード。決死モード。死物狂いのモード。無敵の者のモード。
特攻モード。自爆モード。体当たりのモード。

所有する資源量が、一定水準を下回った場合。
生物が、彼自身の死を、覚悟すること。

所有する資源量が、一定の危険水域を、超えた場合。
所有する資源量が、致死的な水準や水域を、超えた場合。
生物において、行動の反転が、新たに発生すること。

決死の覚悟。
追い詰められた状態。

防御。負け戦を、勝ち戦に、変えること。

内部資源が、消耗し、減少中であること。
外部資源が、他者から奪取されて、減少中であること。
それらの両方の資源が減っているのに、従前の行動を続けること。
それは、自殺行為であること。
新規の行動を取ること。そのための戦略立案を、新たに行うこと。
それらの行動が必要であること。

当面の、生きやすさの減少を、回避すること。
死を回避すること。根本的な生の喪失を、回避すること。そのための、反転攻勢を、行うこと。
それらの間に、相互対立が、存在すること。

環境条件が更に悪化すること。
資源が、更に、いよいよ少なくなること。
生物が、そのことで、新たに、冬眠モードに、入ること。
生物が、そのことで、新たに、とても深い眠りに、入ること。
それは、昏睡モードと、呼ぶことが出来ること。
それは、永眠や死亡では、無いこと。
それは、以下の内容であること。資源の超節約。

その場合。
環境条件の良好化。それを検知するセンサーが働くこと。
昏睡から覚めるトリガーやスイッチの設定が、必要であること。
例。
環境の適温化に伴う、生物における、体温の上昇。

上記の実現において。
以下の内容が、参考になること。
パソコンやスマートフォンにおける、スリープ動作の挙動。

必死モード。
--
成否を、度外視すること。
効率を、度外視すること。
採算を、度外視すること。
--
資源の確保のため。
全力投球を、すること。
所有する、資源や能力やエネルギーを、限界まで、一気に使い切ること。
所有する、生命力を、限界まで、一気に使い切ること。
--

こうして生成した基本機能を備えた生物的神経系に対して、高度な

知能を与えること。
それは、独自の自由意思を備えること。それは、生への意思を、内装すること。
そのことで、万能の神のような、生物的神経系を、新たに生成することが、可能となること。
それは、以下のように呼べること。絶対者の神経系。神の神経系。
一つ一つの、生体の脳神経系の容積の限界を超えることが、出来ること。
例。人間の脳の容積における、限界。その超越。
絶対者の神経系。神の神経系。それらの実現。
それは、以下のような方法によって、自動的に可能であること。
現状の生物的神経系をベースに、その規模を、ひたすら巨大化すること。

現状の生物的神経系。
それは、既に、生物的に、行動していること。
それは、現時点において、記憶することも、創造的に思考することも、既に、可能になっていること。
そうした、神の神経系や、絶対者の神経系の、初期創造者となること。
それが、私の生涯における、主要な使命であること。

人間性は、生物性に、含まれること。
そうした考えの、日常的な受容。それが、生活において、必須となった場合。
移動生活様式者が、精神的に助かる方法。

現在の、家畜屠殺への依存から、逃れること。
その方法。

食肉の培養と、その摂取の、実現。
その際に、生物的神経系の破壊を、伴わないこと。

気体性。液体性。値の、反転と順応。

--
値の反転。"NOT."

1を、-1へと、変換すること。プラスを、マイナスへと、変換すること。
-1を、1へと、変換すること。マイナスを、プラスへと、変換すること。
それは、以下の内容である。
正逆の反転。順行から逆行への移行。前後の分断。

1を、0へと、変換すること。有を、無へと、変換すること。
0を、1へと、変換すること。無を、有へと、変換すること。
それは、以下の内容である。
有無の反転。前後の分断。

それらは、いずれも、前後関係を、切断し、分離し、自主独立させていること。
そうした性質。それは、以下の内容である。
気体性。

--
値の順応。

1を、1へと、変換すること。プラスを、プラスへと、変換すること。
-1を、-1へと、変換すること。マイナスを、マイナスへと、変換すること。
それは、以下の内容である。
順応。前後の、融合と調和。

1を、1へと、変換すること。有を、有へと、変換すること。
0を、0へと、変換すること。無を、無へと、変換すること。
それは、以下の内容である。
順応。前後の、融合と調和。

それらは、いずれも、前後関係を、一体化し、融合し、調和させていること。
そうした性質。それは、以下の内容である。
液体性。

気体性。液体性。値の、無関連と関連。

関連情報。リンク。それは、液体的であること。
無関連情報。ランダムな数字列や文字列。それは、気体的であること。

気体的情報。分離独立。離散。不調和。それらをもたらす、情報。
液体的情報。融合や接合や結合。一体化。調和。それらをもたらす、情報。

神経系における、乱数発生機能の実現。
遺伝子における、突然変異機能の実現。
それらは、以下の内容である。
気体的情報の、実現。気体的行動様式の、実現。

神経系における、リンクや結合を、新規に発生させる機能。神経系における、予め生成した、リンクや結合を、維持する機能。それらの、実現。
遺伝子における、自己複製機能や、自己増殖機能の、実現。
それらは、以下の内容である。
液体的情報の、実現。液体的行動様式の、実現。

思考細胞における、新規の、結合やリンクの、発生において。
以下の二通りのタイプが、存在すること。

気体性のタイプ。
それは、以下の内容である。
反転性のタイプ。反乱性のタイプ。
相違を、重視すること。
独創性や創造性。そうした理念に従って、動くこと。

液体性のタイプ。
それは、以下の内容である。
順応性のタイプ。
コピーや相同性を、重視すること。
既存の内容の、盲目的な丸呑みによる、暗記学習。前例踏襲。そうした理念に従って、動くこと。

条件付け学習。
気体的な反転性。
液体的な順応性。
神経回路における、それらの、実装。

神経細胞。
促進タイプと、抑制タイプ。
発火における、閾値や頻度。
細胞間の結合。

それらにおける、気体エンジンの、内蔵。
入力刺激の値を、反転させること。その値のプラスとマイナスとを、反転させること。その値の有無を、反転させること。その結果を、出力すること。
入力と出力との関係性の、切断や相互独立を、推進すること。
それは、以下の内容である。
神経細胞に対して、気体的思想や、気体的価値観を、組み込み、反映させること。

それらにおける、液体エンジンの、内蔵。
入力刺激の値を、素直に丸呑みして、そのまま、学習すること。その学習結果を、そのまま、出力すること。
入力と出力との関係性の、融合や一体化や調和を、推進すること。
入力と出力との関係性の、維持や継続や強化を、推進すること。
それは、以下の内容である。
神経細胞に対して、液体的思想や、液体的価値観を、組み込み、反映させること。

思考細胞における、反転性。その理想形。
入力値の1について、出力値の-1を、出力すること。
本来、促進タイプの後細胞に繋げるべき場面において。繋げる後細

胞を、ランダムに選択すること。その結果。敢えて、抑制タイプの後細胞に繋げること。

入力値の-1について、出力値の1を、出力すること。
本来、抑制タイプの後細胞に繋げるべき場面において。繋げる後細胞を、ランダムに選択すること。その結果。敢えて、促進タイプの後細胞に繋げること。

入力値の1について、出力値の0を、出力すること。
本来、前細胞の入力値が有る場面において。敢えて、自発的に、恣意的に、無発火とすること。
そうした無発火は、環境からの、資源過剰のアラームに応じて、行われること。

入力値の0について、出力値の1を、出力すること。
本来、前細胞の入力値が無い場面において。敢えて、自発的に、恣意的に、発火すること。
そうした発火は、環境からの、資源不足のアラームに応じて、行われること。

思考細胞における、実際の動作。
それは、気体的反転性と、液体的順応性との、ブレンドとなること。
そのブレンドの割合は、自由で、可変であること。

生物の思考における、自由運動性。
その生物的神経系において、基盤となっている、価値観や判断基準。
その神経系の神経細胞一般において、基盤となっている、価値観や判断基準。
その神経系の思考細胞において、基盤となっている、価値観や判断基準。
それは、彼自身が得た入力値に対して、以下のような偏りや変動を持った出力値を、強制的に、もたらすこと。
得られた入力値から、分離独立して、自由に、独自に、自発的に、ランダムに、動いて、変更を加えること。
その結果としての、出力値。
それは、以下のような偏りや変動を持った、細胞間の結合相手を、

強制的に、もたらすこと。
従来の慣行から、分離独立して、自由に、独自に、自発的に、ランダムに、動いて、変更を加えること。
その結果としての、結合相手の選択。
それは、男性的思考であること。
それは、精子由来の遺伝情報に、基づいていること。
それは、根源的には、気体分子運動の特徴と、同一であること。
それは、以下の内容である。
思考細胞の動作における、気体性の現れであること。
生物的神経系における、自由意思の根源を、成していること。

生物の思考における、一体性や融合性や調和重視性。
その生物的神経系において、基盤となっている、価値観や判断基準。
その神経系の神経細胞一般において、基盤となっている、価値観や判断基準。
その神経系の思考細胞において、基盤となっている、価値観や判断基準。
それは、彼自身が得た入力値に対して、以下のような偏りや変動を持った出力値を、強制的に、もたらすこと。
得られた入力値に対して、それを丸呑み併合する形で、融合し、同調し、調和し、全面的に遵守すること。
その結果としての、出力値。
それは、以下のような偏りや変動を持った、細胞間の結合相手を、強制的に、もたらすこと。
従来の慣行に対して、それを丸呑み併合する形で、融合し、同調し、調和し、全面的に遵守すること。
その結果としての、結合相手の選択。
それは、女性的思考であること。
それは、卵子由来の遺伝情報に、基づいていること。
それは、根源的には、液体分子運動の特徴と、同一であること。
それは、以下の内容である。
思考細胞の動作における、液体性の現れであること。
生物的神経系における、相互の、一体融合化や調和の根源を、成していること。

そうした気体性や液体性の、生物的神経系における、実装。その方法。

気体分子運動の簡易シミュレータのモジュール。それを、別途、予め、別プロセスで、動かし続けておくこと。
液体分子運動の簡易シミュレータのモジュール。それを、別途、予め、別プロセスで、動かし続けておくこと。
その分子がリアルタイムで指し示す、空間的な位置針の値。
その値を、神経細胞の出力値へと、反映させること。
その値を、思考細胞における、結合相手の選択結果へと、反映させること。

神経細胞の反応における、順応性と、反転性。
神経細胞の反応における、液体性と、気体性。
神経細胞の反応における、女性性と、男性性。
その両者を、実際の神経細胞の動作のシミュレーションにおいて、ブレンドすること。
ブレンド割合の確率に基づいて、どちらか一方を、ランダムに、選択すること。
そのブレンド割合について。

気体的細胞。男性的細胞。
具体例。
気体性を、70パーセントとすること。液体性を、30パーセントとすること。

液体的細胞。女性的細胞。
具体例。
気体性を、30パーセントとすること。液体性を、70パーセントとすること。

動作する物質一般における、性質。
それは、気体性と液体性との、どちらか一方へと、必然的に、限定されること。
例。
生物一般の性質。
神経細胞の性質。

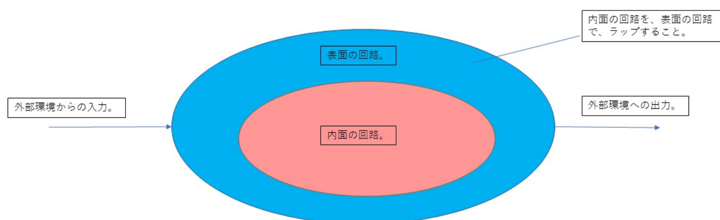
神経系における、神経細胞。その分類。

中間細胞。特に、思考細胞。
それは、以下の二通りである。
--
（１）
表面細胞。外面細胞。パブリック細胞。強がり細胞。見栄張り細胞。建前細胞。故意細胞。嘘付き細胞。虚栄細胞。取り繕い細胞。
（２）
内面細胞。プライベート細胞。弱音吐き細胞。弱点をさらけ出す細胞。本音細胞。正直細胞。真実細胞。急所細胞。
--

表面細胞群による、内面細胞群の、隠蔽や防衛やプロテクトが、行われること。
嘘付き細胞群による、正直細胞群の、隠蔽や取り繕いや防衛が、行われること。
嘘付き細胞群は、正直細胞群への、外部からのアクセスを拒否するための、武装やプロテクトであること。

神経系。神経細胞群。それら自体が、表面張力を持つこと。それら自体が、液体的であること。
そうした液体性。それは、生物の本質であること。

神経回路網が、表面と内面との、二層化によって、構成されていること。



生物的神経系における、神経回路の二層化。

神経系における、神経細胞。その分類。
中間細胞。特に、思考細胞。
それは、以下の二通りである。
--
（１）
固定的細胞。信念細胞。強固細胞。頑固細胞。
反応や動作において、外部から影響されないこと。外部からの説得に対して、頑固であること。そうした細胞。
（２）
変節細胞。
反応や動作において、外部的影響を容易に受けること。外部からの説得によって、容易に、反応や動作を変えること。そうした細胞。
--

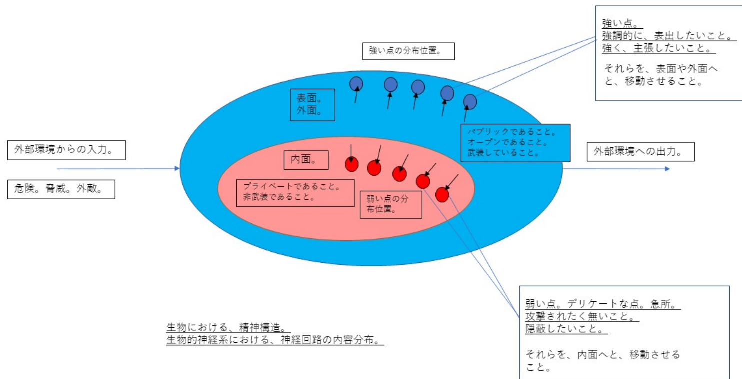
固定的細胞。頑固細胞。
それは、以下の内容である。
--
非思考細胞。固定結合の細胞。
思考細胞の動作パターンにおける、固定的側面。遺伝的統制を受けている、側面。
非学習細胞。
--

生物における、生存維持への欲求。
その結果。
--
生物の生存維持力における、強い点。
それらの存在や内容を、彼自身の外部や外側に向けて、殊更に、強調し、主張し、表出したいこと。
それらの存在や内容について、彼自身の外部や外側に対して、強いインパクトを与えたいこと。
それらの点を、彼自身の、外面や表面へと、移動させること。
そうした行為は、彼自身の、外面や表面の、武装であること。

--
生物の生存維持力における、弱い点。

生物の生存維持における、急所。
生物の生存維持における、デリケートな点。
それらの存在や内容を、彼自身の内部や内側へと、隠蔽したいこと。
それらの存在や内容について、彼自身の外部や外側に対して、露出を避けたいこと。
それらの点を、彼自身の、内面へと、移動させること。
そうした行為は、彼自身の、内面の、非武装であること。

--
生物の精神構造。
それは、以下のような二層構造であること。
--
彼自身の精神の外側に、強い点が、分布すること。
彼自身の精神の内側に、弱い点や急所が、分布すること。
--
彼自身の精神の外側に、強い点が、移動すること。
彼自身の精神の内側に、弱い点や急所が、移動すること。
--
彼自身の精神の外側が、彼自身の精神の内側を、プロテクトすること。
彼自身の精神の外側を、武装すること。
彼自身の精神の内側は、非武装であること。
--
それらは、生物の、生存維持における、本質であること。
そうしたプロセスや仕組みが、生物的神経系において、内蔵されていること。その実装が、必要であること。



生物における、彼自身の弱い点の、偽りの主張。

彼自身の強い点の隠蔽を、他者に対して、行うこと。
彼自身の弱い点を、他者に対して、告白すること。
そのことで、他者を、安心させること。
そのことで、他者の本当の弱い点を、聞き出すこと。
その後。
彼自身の強い点を、その他者に対して、初めて、露出すること。
彼自身の相対的上位性を、その他社に対して、ひけらかすこと。
そのことで、その他者を、相対的下位者として、屈服させること。

上記の戦略。
それは、生物が、彼自身の生存において、より優位に立ち、より有利になるために、本質的に、必要であること。

上記の戦略的行為。
それらは、以下の生物において、より顕著であること。
内側の者。温室生活者。女性。

外部の者。外側の者。彼自身の弱い点よりも、彼自身の強い点を、

より、強調する者。男性。非温室生活者。非貴重者。
彼らは、以下のような存在である。
武装者。他者からの攻撃に対して、より、傷付きにくい者。武装によって、他者からの攻撃を、跳ね返すことが出来る者。
そのように傷付きにくいことで。
感情を、より、乱しにくい者。
感情を、より、爆発させにくい者。
感情が、より、冷静な者。
感情が、より、客観的で、科学的な者。
例。
より、被害感を、持たない者。より、被害感を、主張しない者。
より、被差別感情を、持たない者。より、被差別被害を、主張しない者。

内部の者。内側の者。彼自身の強い点よりも、彼自身の弱い点を、より、強調する者。女性。温室生活者。貴重者。
彼らは、以下のような存在である。
非武装者。他者からの攻撃に対して、より、傷付きやすい者。武装していないため、他者からの攻撃を、跳ね返すことが出来ない者。
そのように傷付くことで。
感情を、より、乱しやすい者。
感情を、より、爆発させやすい者。
感情が、より、冷静さに欠ける者。
感情が、より、非客観的で、非科学的な者。
例。
より、被害感を、持ちやすい者。より、被害感を、主張しやすい者。
より、被差別感情を、持ちやすい者。より、被差別被害を、主張しやすい者。

生物個体の分布。
内側の者。生物の有性生殖における、急所の資源や設備を所有する者。女性。
外側の者。生物の有性生殖における、急所の資源や設備を所有しない者。男性。

生物が、彼自身の弱い点や急所を、守りたいこと。
生物が、彼自身の弱い点や急所を、晒したくないこと。

それは、生物における、自己保身性の根源であること。
それは、生物における、内側指向性の根源であること。
それは、生物における、温室指向性の根源であること。

そうした指向性を、より、実現しやすい者。
彼は、生物として、より、有利であること。彼は、生物として、より、優位であること。彼は、生物として、より、上位であること。
そうした指向性を、より、実現しにくい者。
彼は、生物として、より、不利であること。彼は、生物として、より、劣位であること。彼は、生物として、より、下位であること。

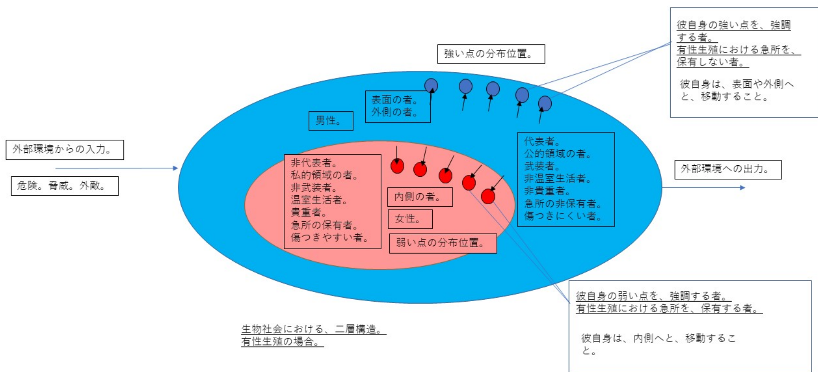
そうした指向性を、実現しやすい者。それは、女性であること。
そうした指向性を、実現しにくい者。それは、男性であること。

そうした、男女格差。
それは、男性差別の源泉であること。

ハラスメント。
攻撃する側の者による、攻撃される側の者に対する、上下関係の、強制。

生物と、攻撃性。
攻撃性は、生物一般において、共通に、持っていること。
攻撃性は、男性も、女性も、共通に、持っていること。
攻撃の非回避者。攻撃行為を、相互に、回避しない者。攻撃に対する耐性が、高い者。男性。
攻撃の回避者。攻撃行為を、相互に、回避する者。攻撃に対する耐性が、低い者。女性。

内側の者と、外側の者との、格差。
被差別感情を、持ちやすい者と、持ちにくい者との、格差。
そうした格差。
それは、生物における、男女差別に関する感情の、源泉であること。
内側の者としての、女性。外側の者としての、男性。
女性の方が、男性よりも、被差別感情を、頻度的に、より、持ちやすいこと。
女性の方が、男性よりも、被差別の事案を、頻度的に、より、主張しやすいこと。



生物において。
外側の領域。パブリックな領域。公開領域。
内側の領域。プライベートな領域。非公開領域。機密領域。
彼自身の、自己保身性の確保における、急所。
生物は、その急所を、彼自身の、内側の領域に、存在させること。

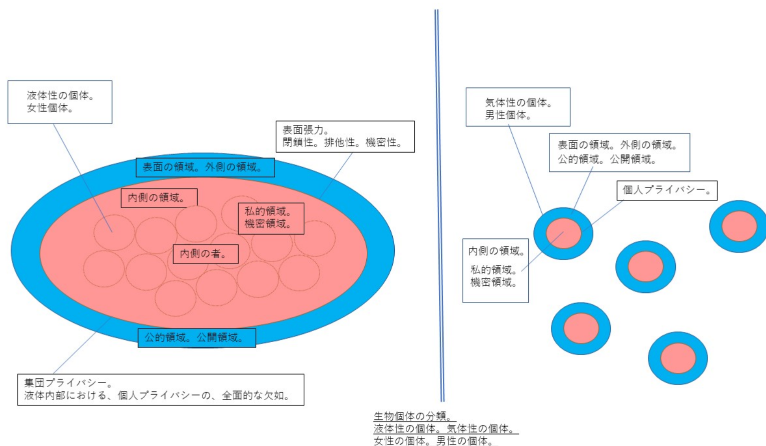
--
気体性の生物。男性。
有性生殖を行う生物において。
生殖機能の確保における、急所の、非所有者であること。
非貴重品や、消耗品として、粗末に扱われること。
自己捨て身性を、強く所有すること。
外側に、分布すること。内側の者を、守ること。内側の者に対して、温室生活を、朝貢の形で、提供すること。
相対的な下位者として、非温室生活を、強いられること。

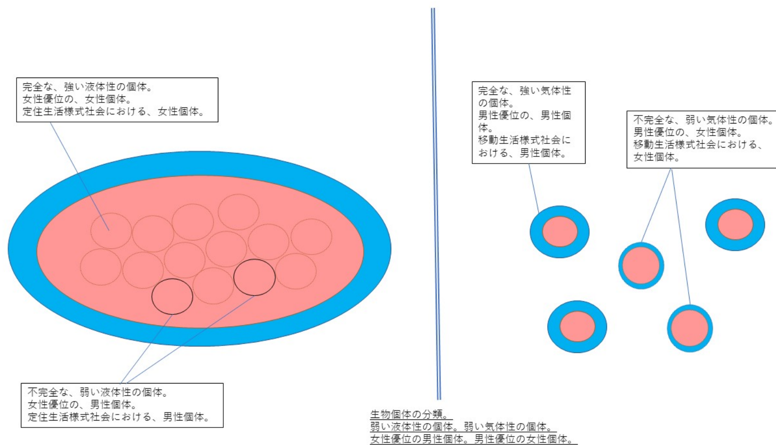
彼ら自身における、外側の領域と、内側の領域の、分布の状態。
それは、以下の内容である。
個々の個体が、各々、独自に、自律的に、小さな個別の内側の領域を、小さな個別の外側の領域によって、包むこと。
それは、以下の内容である。

個人プライバシー。

--
液体性の生物。女性。
有性生殖を行う生物において。
生殖機能の確保における、急所の、所有者であること。
貴重品として、大切に扱われること。
自己保身性を、強く所有すること。
内側に、分布すること。外側の者によって、守られること。
相対的な上位者として、特権的な温室生活を、送ることが出来ること。

彼ら自身における、外側の領域と、内側の領域の、分布の状態。
それは、以下の内容である。
個々の個体が、集団を形成し、ひとまとまりになること。
彼らは、互いに、一体融合化すること。
彼らは、個別の内側の領域を融解させること。
彼らは、そうして、大きな、一つの塊へと融合し、統合すること。
彼らは、そうした塊を、巨大な内部領域へと、転化させようとすること。
彼らは、そうした巨大な内部を、外側の、巨大な、共有の領域によって、ひとまとまりにして、一括で、包むこと。
それは、以下の内容である。
集団プライバシー。
液体内部における、個人プライバシーの、全面的な欠如。

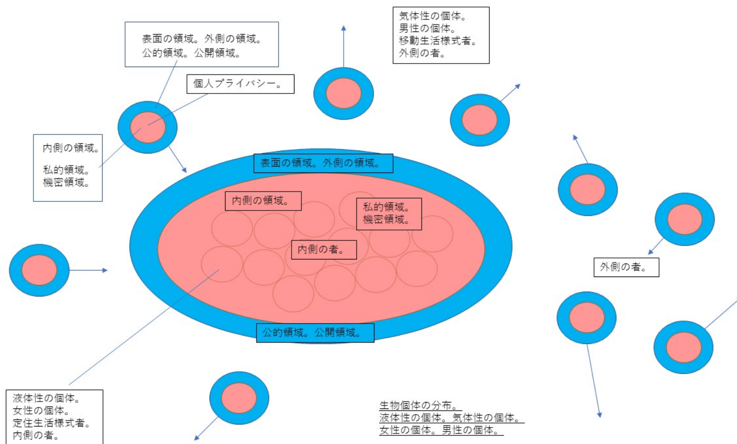




生物が、彼自身を、助ける方式。
それは、以下の内容である。
気体性の生物。男性。自助。
液体性の生物。女性。相互扶助。護送船団。

生物における、気体的個体と、液体的個体の、分布。
それは、以下の内容である。
生物における、男性と、女性の、分布。

生物において。
外側の領域。気体性の個体が、分布すること。男性が、分布すること。移動生活様式者が、分布すること。
内側の領域。液体性の個体が、分布すること。女性が、分布すること。定住生活様式者が、分布すること。



気体性を強制される、液体性ネイティブの者。
それは、以下の内容である。
男性性を強制される、女性。
そうした者は、以下のような社会で、発生する。
移動生活様式の社会。男性優位社会。
それは、女性差別の源泉であること。

液体性を強制される、気体性ネイティブの者。
それは、以下の内容である。
女性性を強制される、男性。
そうした者は、以下のような社会で、発生する。
定住生活様式の社会。女性優位社会。
それは、男性差別の源泉であること。

彼自身が傷付かないこと。彼自身が、他者によって、攻撃されないこと。それらの内容を、特に、指向すること。
それは、以下の内容である。
自己保身性。
それは、女性的な、指向性であること。

彼自身が傷付かないこと。彼自身が、他者によって、攻撃されないこと。それらの内容を、特に、指向しないこと。
それは、以下の内容である。
自己捨て身性。
それは、男性的な、指向性であること。

外側の者。
彼らは、気体性を、所有していること。
気体性。
それは、以下の内容である。
低密度分布。相互の分離独立性。自由性。離散性。飛散性。
体積の膨張性。体積の拡散性。体積の不定性。体積の、無制限性や無限性。
飛翔性。移動性。浮動性。浮遊性。
戦闘性。攻撃性。

内側の者。
彼らは、液体性を、所有していること。
液体性。
それは、以下の内容である。
高密度分布。相互の一体融合性。相互のまとまり。相互の結合。相互の調和。
体積の一定性。体積の、制限性や限定性。非拡散性。
定着性。定住性。不動性。
表向きの、仲良し性や平和性。内部における、陰湿な、足の引っ張り合いや、派閥争いや、相互牽制や、相互監視の、常態化。戦闘性や攻撃性の、対外的に隠蔽された、強力な行使。

以下の（１）は、以下の（２）にとって、以下の（３）に相当すること。
上記の内容は、以下の（２）に対して、以下の（４）を、結果として、もたらすこと。

（１）
危険や脅威との、直接的な、対峙。
苛酷な環境への、直接的な、露出。
苦役の、専門的な、担当。
新しい領域へと、進出すること。
未知領域の、探査。
新たな、発明や発見に対する、試行錯誤に基づく、チャレンジと成功。
科学的で、分析的で、機械的で、論理的な、思考に基づく、新たな知見の、抽出や形成。
創造性や独創性の、発揮。新機軸のアイデアの、創出。

（２）
内側の者。
自己保身性の、所有者。
温室生活者。温室環境の享受者。
例。女性。

（３）
本来、外側の者が、行うべき、作業。
本来、温室環境の提供者が、行うべき、作業。
本来、内側の者が、下請けの作業員へと、丸投げすべき、作業。
本来、内側の者たち自身では、行う必然性が、全く無い、作業。
本来、内側の者にとって、以下のような内容に相当する、作業。
--
見下しや軽蔑の、対象となる、作業。
外側の者からの、内側の者に対する、一方的な朝貢の対象となる、作業。
--

（４）
彼ら自身における、行為への動機づけにおいて。
危険の回避しか、しようとしないこと。
安全領域への滞留しか、しようとしないこと。
楽で、安全で、快適な、作業しか、しようとしないこと。
前例の踏襲と、前例の蓄積と、前例の高品質化しか、しようとしないこと。
自力での、新規性や革新性に富んだ、発見や発明を、しようとしないこと。

自力での、進歩や近代化を、しようとしないこと。
自力での、創造性や独創性の発揮を、しようとしないこと。

リスク。危険。
それは、以下の内容である。
脅威ある存在によって、攻撃されること。

気体性。
リスクを取ること。脅威からの攻撃を、特に、回避しないこと。
液体性。
リスクを取らないこと。脅威からの攻撃を、回避すること。

気体性。
未知の新規領域へと、移動して、進出すること。未知の脅威に、絶えず、晒されること。リスクを取ること。危険との対峙が、絶えず、必要であること。
危険性。それは、気体性の呪縛である。
脅威や危険に対する、自力や独力での、試行錯誤の連続による、新規の解決。それらの実行が、生存上、絶えず必須であること。
その結果。発明や発見を、実現出来ること。新しい知見を、得ることが出来ること。進歩や近代化が、自力で可能であること。先進性を、自力で所有出来ること。

液体性。
既知の前例領域に、定住し、滞留すること。未知の脅威に、晒されないこと。安全や安定を、取ること。既知の脅威に対する対処法を、丸呑み暗記すること。それらを実行するだけで、問題無く、生存を維持出来ること。
その結果。新しい知見を、自力では、いつまでも得られないこと。進歩や近代化を、自力では、達成出来ないこと。先進性を、自力では、所有出来ないこと。
後進性。それは、液体性の呪縛である。

精子性。男性性。それらは、気体性の、サブクラスであること。
卵子性。女性性。それらは、液体性の、サブクラスであること。

男性性。それは、精子性の、サブセットであること。

女性性。それは、卵子性の、サブセットであること。

男性の心身。それは、精子の、乗り物であること。それは、精子の、化身であること。
女性の心身。それは、卵子の、乗り物であること。それは、卵子の、化身であること。

気体性の物質同士は、同質であること。
液体性の物質同士は、同質であること。

気体性の生物同士は、同質であること。
液体性の生物同士は、同質であること。

気体性と液体性とは、互いに、本質的に、異質であること。
気体性と液体性とは、互いに、相容れないこと。

生物の心身は、液体の水分によって、主に構成されていること。

生物においては。
液体性が、標準であること。
気体性は、非標準で、例外的であること。

生物においては。
液体性で動く、卵子や女性が、標準で普通な、存在であること。
気体性で動く、精子や男性は、非標準で例外的な、存在であること。

植物における、花粉と、精細胞。
動物における、精子。
それらは、同様に、共通に、気体的であること。
それらは、飛散すること。
それらは、空中散布されること。それらは、液中散布されること。
それらは、空中移動すること。それらは、液中移動すること。

植物における、胚嚢と、卵細胞。
動物における、卵子。

それらは、同様に、共通に、液体的であること。
それらは、定住すること。それらは、定着すること。
それらは、不動であること。

本書は、学術書を、目指さないこと。
本書は、経典を、目指すこと。

私は、学者を、目指さないこと。
私は、悟りを開いた者を、目指すこと。

私は、学習を、目指さないこと。
私は、悟りを、目指すこと。

私は、詳細検討を、目指さないこと。
私は、要約を、目指すこと。

私は、個別の検討を、目指さないこと。
私は、まとめや、統合を、目指すこと。

私は、専門性を、目指さないこと。
私は、総合性を、目指すこと。

気体的な上位者。
物理的な高エネルギーの、所有者。
より、高速で飛ぶ者。
高速移動者。高加速移動者。
長距離移動者。
より、普遍的に、グローバルに、飛散し拡散することが、出来る者。

ある程度の、高重力の、所有者。
他者を、突き飛ばし、突破し、撃破できる者。

液体的な上位者。
物理的な高エネルギーの、所有者。

超越した、高重力の、所有者。
不動者。
低重心者。
誰にも、突き飛ばすことが出来ない、重たく大きい者。
中心に位置する者。

世界の中心になることが、出来る者。

ある生物が、彼自身の強い点を、周囲に対して、対外的に、強調すること。
その結果。
彼自身が、周囲の他者から、脅威として、見なされること。
彼自身が、周囲の他者から、より、用心され、警戒され、攻撃されやすくなること。

彼自身が、そうした事態を、予防する必要があること。
そのための、対策。
彼自身の強い点について、その存在を、周囲に対して、ある程度、隠すこと。
例。能ある鷹は、爪を隠すこと。
彼自身の強い点について、その強調を、抑制すること。
彼自身に内在する弱い点を、周囲に対して、ある程度、見せること。
彼自身の弱い点を、対外的に、強調すること。

その結果。
彼自身の存在が、周囲の他者から、より、安心されること。
彼自身が、周囲の他者から、より、気安く、気楽に、接遇されること。
彼自身が、周囲の他者から、より、仲間扱いされやすくなること。
しかし。
彼自身が、周囲の他者から、攻略が容易な対象として、見なされる

こと。
彼自身が、周囲の他者から、より、攻撃されやすくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、下位者として、扱われやすくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、虐待されやすくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、搾取されやすくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、軽蔑されやすくなること。

そのための対策。
彼自身の強い点の存在を、対外的に、ある程度、時々、強調すること。

ある生物が、彼自身の強い点を、周囲に対して、対外的に、強調すること。
その結果。
彼自身が、周囲の他者から、攻略が困難な対象と、見なされること。
彼自身が、周囲の他者から、より、攻撃されにくくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、上位者として、扱われやすくなること。
彼自身が、周囲の他者から、より、尊敬されやすくなること。

結論。
他者からの攻撃を、避けること。
他者からの、虐待や搾取を、避けること。
そのための対策。
彼自身の、強い点の強調と、弱い点の強調とを、交互に行うこと。
彼自身の、強い点の強調と、弱い点の強調との、バランスを、絶えず、取ること。

液体性の場合。

ある生物。
彼自身の神経系において、以下のような判断や決定や行動を行う、

中間細胞を、実装すること。
忠実細胞。忠誠細胞。貞節細胞。
変節細胞。不忠細胞。不貞細胞。

ある生物。
彼自身が仕える対象としての、上位者。
彼自身にとっての、同位者。
例。
彼自身にとっての、仲間。
彼自身にとっての、配偶者。

そうした対象の相手を、彼自身の都合に合わせて、自主的に、頻繁に、取り替えること。
その行為が、社会的に、問題とされ、非難されること。
その理由。
その社会における、主流派。
その社会における、中心者。
それは、社会的上位者であること。

一方では。
彼自身が、彼自身にとっての下位者を、彼自身の都合に合わせて、自主的に、頻繁に、取り替えること。
そのことは、社会的に、何ら、問題とされず、非難もされないこと。

液体性の場合。
上位者が、下位者を、彼自身にとっての、単なる道具として、取り扱うこと。
それは、社会的に、正当化されること。

下位者が、上位者を、彼自身にとっての、単なる道具として、取り扱うこと。
下位者が、その行為を、公式に、公開形式で、行うこと。
それは、社会的に、一切、正当化されないこと。
それは、社会的に、非難されること。
しかし。一方では。
下位者が、その行為を、非公式に、非公開形式で、行うこと。
それは、他の社会的下位者たちによって、隠れて、こっそり、支持されること。

気体性の場合。
ある生物。
彼自身の神経系において、以下のような判断や決定や行動を行う、中間細胞を、実装すること。
信頼細胞。相手との契約を、遵守すること。相手に対して、正当な扱いをすること。
不信細胞。相手との契約に、違反すること。相手に対して、不当な扱いをすること。
それらは、以下の二つの場合において、原則として、共通であること。
上位者と下位者との間。
同位者同士の間。例。仲間同士。配偶者同士。
しかし。実際には。
上位者と下位者との関係に従って、契約上の、有利さと不利さとの、不平等な力関係が、発生すること。
そうした不平等性は、ある程度、社会的に、見過ごされること。
その理由。
その社会における、主流派。
それは、社会的上位者であること。

下位者同士が、結束すること。
そうした下位者たちが、上位者による契約違反に対して、反抗や批判や反撃を、公然と、行うこと。
そうした行為が、社会的に、公式に、許されること。
それは、気体性において、特有であること。
そうした行為は、気体性において、初めて、可能であること。
そうした行為は、液体性においては、一切、不可能であること。
その理由。
液体性においては、専制支配が、必然的に、発生するため。

液体性における、専制支配の、必然的な発生。

（１）
液体中において。

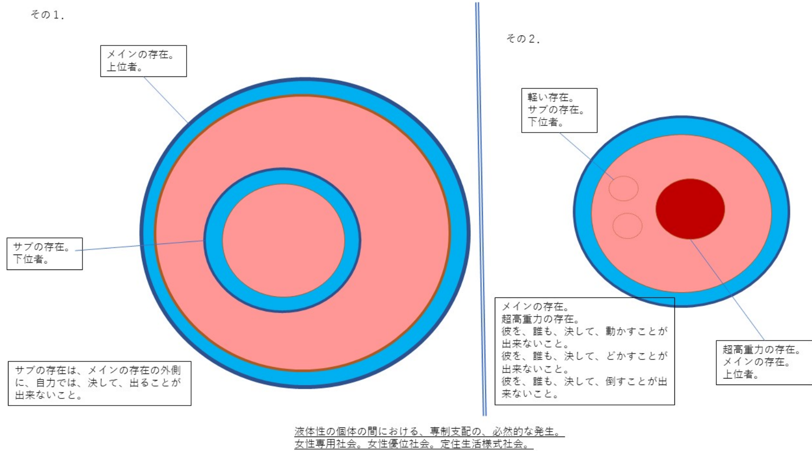
メインの存在。それは、上位者であること。
サブの存在。それは、下位者であること。

メインの領域は、上位者の領域であること。
サブの領域は、下位者の領域であること。

サブの領域が、メインの領域の内部に、没入していること。
サブの領域が、メインの領域の内部に、密封されていること。

サブの存在は、メインの存在の外側には、自力では、出ることが、決して出来ないこと。
そうした、密閉性を伴う、社会的上下関係や、支配関係。
それが、専制支配の源泉であること。

（２）
液体中の、上位者。彼は、とても重いこと。彼は、超高重力者であること。
液体中の、下位者。彼は、軽いこと。彼は、低重力者であること。
周囲の下位者は、そうした上位者を、決して、動かすことが、出来ないこと。
周囲の下位者は、そうした上位者を、決して、どかすことが、出来ないこと。
周囲の下位者は、そうした上位者を、決して、倒すことが、出来ないこと。
そうした、不動性を伴う、社会的上下関係や、支配関係。
それが、専制支配の源泉であること。



専制支配。
それは、そもそも、人間以前の段階において、生じていること。
それは、そもそも、生物以前の段階において、生じていること。
それは、物質一般における、液体性の発現の段階において、生じていること。
それは、どの液体性の物質においても、共通に、生じていること。
それは、任意の液体性の物質において、回避不可能な形で、生じていること。

卵子。女性。彼らは、液体性であること。
液体性は、専制支配を、もたらすこと。
卵子。女性。彼らは、専制支配を、必然的に、行うこと。
そうした専制支配の、発生。
それは、液体的原理に照らし合わせた場合、回避不可能であること。

液体性が、生物における、基本的な性質であること。
生物一般が、液体的であること。
生物一般における身体の構成。それは、液体の水分が、メインであること。

精子。
彼らは、生物一般に、含まれること。

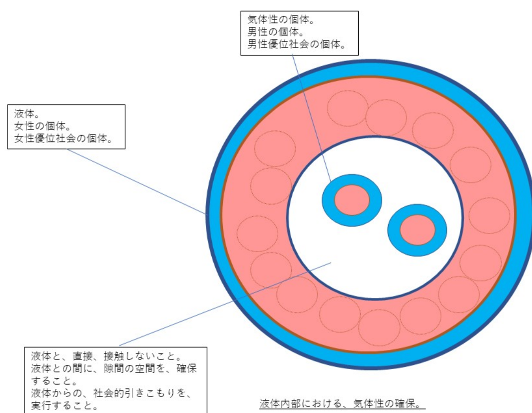
彼らも、卵子ほどでは無いが、ある程度、液体的であること。
彼らも、卵子ほどでは無いが、ある程度、専制支配を、行うこと。
男性。
彼らも、女性ほどでは無いが、ある程度、液体的であること。
彼らも、女性ほどでは無いが、ある程度、専制支配を、行うこと。

液体内部における、気体性の、確保。

例。
女性優位社会の内部における、真の男性性の、確保。
女性優位の男性になることを、回避すること。

定住生活様式社会の内部における、真の、移動性の、確保。
真の、新機軸で独創的なアイデアの、生成能力の、確保。
前例踏襲者になることを、回避すること。
同調主義者になることを、回避すること。
調和主義者になることを、回避すること。

それらの、具体的な方法。
それは、以下の内容である。
社会的引きこもり。
それは、以下の内容である。
周囲の液体との関係を、一通り、完全に、断絶し続けること。
周囲の液体との間に、隙間を、確保し続けること。



その場合における、問題点。
彼自身が生きていくために必要な資源。
そうした資源を、周囲から、入手すること。
そのことの実現が、困難になること。

その対策。
ある、気体性の生物。
彼は、予め、一定期間は、我慢して、気体性を、一時的に、仮面的に、放棄すること。
彼は、周囲の液体に合わせて、液体の振りをして、働き続けること。
その結果。
必要最小限の、当座の生活において十分な質と量の、資源。
そうした資源の貯蓄を、何とか、実現すること。
その結果。
彼は、社会的引きこもりを、何とか、開始すること。
その結果。
彼は、気体性を、問題無く、一定の有限の期間、持続的に、確保できること。

ある、気体性の生物。
彼が、周囲の液体との関係を、一通り、完全に、断絶し続けること。

そのための、根本的な対策。
周囲の液体に対して。
決して、彼自身の本心を、開かないこと。
見かけ上のみ、心を開くこと。
見かけ上のみ、親しくすること。
そのように、表面的な態度を、偽装し続けること。

彼自身における、本当のプライバシーのコア。
周囲の液体に対して。
そのコアを、いかなる場合においても、必ず、確保し続けること。
そのコアを、決して、浸食されないようにすること。

気体性を持つ存在による、液体性の社会の、発見。
気体性を持つ存在による、液体性の社会の、内部探査。
気体性を持つ存在が、それらの実現に、成功すること。
それは、そのままでは、原理的に、不可能であること。

その理由。
液体性の社会を、発見すること。
そのためには、液体の内部に、潜る必要が有ること。
気体性を持つ存在が、液体の内部に、潜った瞬間。
気体性を持つ存在が、液体に対して、直に接触した瞬間。

彼は、濡れてしまうこと。
彼は、気体性を、根本的に、喪失すること。
その結果。
彼は、液体の一部となること。
彼は、液体内部に、所属すること。

液体が、強力な、表面張力を、絶えず、所有していること。
その力は、閉鎖的で、排他的であること。
その力は、液体内部を、強く、機密化すること。
その結果。
彼は、液体の外部には、一生、出られなくなること。
彼は、液体の外部とは、一生、音信不通になること。
彼は、せっかく発見した情報を、外部に対して、一切、発信不能になること。

その情報。それは、結局、最初から、無かったことになること。

それらに対する、対策。
防液効果を持つ、外装。
そうした外装の設備を、事前に、十分に、着用すること。
例。
防水効果がある、潜水艦。
防水や撥水の、効果がある、潜水服。

液体内部へと潜る際に、そうした設備を、十分に、活用すること。
液体内部へと、一時的に滞在し続ける際に、そうした設備を、十分に、絶えず、活用し続けること。

そうした対策。
それは、以下の（１）にとって、以下の（２）の実現のために、必須であること。
（１）
気体性の生物。
精子。男性。移動生活様式者。男性優位社会の構成者。
（２）
以下のような社会の、発見や内部探査。
液体性の生物が生成する、社会一般。
卵子の社会。
女性専用社会。
女性優位社会。
定住生活様式社会。

そうした対策の、具体的な内容。
液体内部において、気体的な本性を隠蔽しながら、表向き、ずっと、液体的に、振舞い続けること。
液体的な仮面を、気体的な本当の顔の上に、ずっと、被り続けること。

そうした対策の、根本的な欠陥。
それは、以下の内容である。
--
気体性を持つ存在。
初期状態において。

彼が、真の液体性を、そもそも、全く知らないこと。
その結果。
彼が、液体性の仮面を、そもそも、全く、見つけることが出来ないこと。
彼が、液体性の仮面の被り方を、そもそも、全く知らないこと。
--
気体性を持つ存在。
彼が、真の液体に対して、永遠に、直に接触出来ないままで、終わること。
彼が、真の液体性を、永遠に、体得することが出来ないままで、終わること。
彼が、真の液体性を、永遠に、理解することが出来ないままで、終わること。
彼が、真の液体の内情を、永遠に、理解することが出来ないままで、終わること。
例。
欧米諸国の社会学者たち。
彼らが、以下の内容を、そのままでは、永久に、理解出来ないこと。
中国やロシアや日本や韓国の社会における、真の社会的内情。
--

そうした欠陥に対する、暫定的な対策。
それは、以下の内容である。

気体性を持つ存在。
彼が、以下の内容を、実施すること。

液体分子運動のシミュレーションのプログラムを、実行すること。
そのことで、個々の、液体分子の動きを、目視して、理解すること。
そのことで、個々の、液体分子に掛かる、分子間力を、目視して、理解すること。
そのことで、個々の、液体分子に掛かる、表面張力を、目視して、理解すること。

その結果。
以下の内容を、暫定的に、理解すること。
定住生活様式者としての、液体分子。
前例踏襲者としての、液体分子。

集団主義者としての、液体分子。
同調主義者としての、液体分子。
調和主義者としての、液体分子。
隠蔽主義者としての、液体分子。
排他主義者としての、液体分子。
専制支配者としての、液体分子。
温室生活者としての、液体分子。
中心指向者としての、液体分子。

その結果。
以下の内容を、暫定的に、実施すること。
--
単一の液体分子の、振る舞い。
その、液体性の生物の、振る舞いへの、置き換え。
その、女性の、振る舞いへの、置き換え。
--
液体分子群の、振る舞い。
その、液体性の生物の社会の、振る舞いへの、置き換え。
その、液体性の人間の社会の、振る舞いへの、置き換え。
その、女性専用社会の、振る舞いへの、置き換え。
その、女性優位社会の、振る舞いへの、置き換え。
その、定住生活様式社会の、振る舞いへの、置き換え。
--

生物的神経系に対して、宗教心を、持たせること。その方法。
それは、以下の内容である。

生物的神経系において、以下のような行為を、させること。そのことを、新たに、可能にすること。
頼ること。彼自身以外の他者に対して。

生物的神経系に対して、以下のような心理を、新たに、持たせること。
依頼心。

そうした心理を生み出すために。
生物的神経系に対して、以下のような心理を、新たに、持たせるこ

と。
恐怖の心。
不安の心。
怯えの心。
絶望の心。

（１）
そうした心理を生み出すために。
生物的神経系に対して、以下のような体験を、新たに、させること。
問題に対する、自力での解法発見が、不可能であること。彼自身が、そのことを、実感すること。
問題についての、自力での解決が、不可能であること。彼自身が、そのことを、実感すること。
彼自身の、問題解決における、無能性。彼自身が、そのことを、自覚すること。彼自身が、そのことに対して、絶望すること。
彼自身が抱える問題の解決を、他の有能者へと、思わず、丸投げしたくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。
彼自身が抱える問題の解決において、他の有能者に、思わず、頼りたくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。
彼自身が抱える問題を解決出来る、有能者。例。他者。彼自身。
そうした有能者のことを、上位者として、称賛し、尊敬したくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。
そうした有能者における、有能性が、超絶的に、高い場合。
そうした有能者のことを、絶対者や神として、絶賛し、崇拝したくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。

自己無力感が、より強い生物。
彼らは、より強い宗教心を、持ちやすいこと。彼らは、宗教の信者に、より、なりやすいこと。
自己有能感が、より強い生物。
彼らは、より強い宗教心を、持ちやすいこと。彼らは、宗教の教祖に、より、なりやすいこと。

（２）
そうした心理を生み出すために。
生物的神経系に対して、以下のような心理的傾向を、新たに、持たせること。

自己保身性。
すなわち。
彼自身の保身を、いかなる場合においても、最優先したいこと。
彼自身の生存維持を、他者自身の生存維持よりも、最優先したいこと。

--
彼自身の生存維持における、困難性。
彼自身の生存維持を脅かす、脅威や敵。

（２－１）
それらの存在に対して、彼自身が抱く、恐怖心や、不安心や、怯えの心や、絶望の心。
そうした彼自身におけるマイナスの心理を、根本的に取り除いてくれる、有能者。そうした、他者。

（２－２）
彼自身は、それらの存在に対して、直接、露出する形で、対処や対決を、したくないこと。
その理由。
そうした行為は、危険であるから。
そうした行為は、非温室的であるから。

そうした行為を、彼自身の代わりに、行ってくれる、自己犠牲精神に溢れた、有能者。そうした、他者。

（２－３）
それらの存在の実在を、彼自身が、経験していないこと。
例。彼自身の生涯において、失敗や挫折を、経験していないこと。
彼自身が、究極の有能者であること。
--

そうした有能者のことを、上位者として、称賛し、尊敬したくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。
そうした有能者における、有能性が、超絶的に、高い場合。
そうした有能者のことを、絶対者や神として、絶賛し、崇拝したくなること。彼自身が、そうした欲求を、新たに、持つこと。

自己保身性が、より強い生物。
温室生活者としての性格が、より強い生物。

彼らは、より強い宗教心を、持ちやすいこと。
例。女性。

絶対者。神。
彼らは、究極の、有能者であること。
彼らは、全能者であること。
彼らは、最上位者であること。

全能者。何でも出来る者。
有能者。その場において必要な機能の、提供が、出来る者。
無能者。何も出来ない者。

彼自身が、彼自身について、以下のように感じること。
全能感。彼自身が、何でも出来ること。彼自身が、全能者であること。彼自身が、絶対者や神であること。彼自身が、そのことを、自覚すること。
有能感。彼自身が、その場において必要な機能の、提供が、出来ること。彼自身が、有能者であること。彼自身が、そのことを、自覚すること。
無能感。彼自身が、何も出来ないこと。彼自身が、無能者であること。彼自身が、有能者としての他者を、必要とすること。彼自身が、そのことを、自覚すること。

それらは、以下の内容である。
彼自身における、生きやすさの確保。
そのために必要な、彼自身における、問題解決の能力。
そうした能力の、有無。
そうした能力の、水準の、高低。
それらについての、彼自身における、自覚。
そうした自覚が、彼自身において、新たに、生じること。
それは、彼自身における、宗教心の源泉であること。

液体性と、専制支配。

液体内部において。
その内部領域は、集合論の視点からは、以下の二通りへと、例外無

しに、区分されること。
より、サブの領域を、包み、含むこと。
より、メインの領域へと、包まれ、含まれること。
そうした、メインの領域と、サブの領域しか、存在し得ないこと。
メインの領域の枠。
その枠は、サブの領域の外側の周囲を、完全に、取り囲み、呑み込む形で、成立すること。

メインの領域の所有者。それは、上位者であること。
サブの領域の所有者。それは、下位者であること。

そうした、絶対的な上下関係の生成が、いかなる場合においても、不可避であること。
それは、以下の内容である。
液体性における、専制支配の発生。その、必然性。

液体内部において。
メインの者。上位者。彼らが、予め設定した、枠。
サブの者。下位者。彼らが、その枠の外側へと脱出すること。
その実現が、液体性それ自体に基づいて、自動的に、不可能となること。
その実現が、液体性それ自体に基づいて、自動的に、禁止されること。

例。
可愛さと、専制支配。

可愛さ。
相手の下位者が、上位者に対して、彼自身について、以下のように、思い込ませること。
--
上位者が、相手の下位者に対して、以下のように、思うこと。
私は、あなたのことを、可愛がりたい。
私は、あなたのことを、愛玩したい。
--
相手の下位者が、上位者に対して取る、そうした態度。

可愛いこと。
それは、以下の内容である。

上位者が、予め設定した、枠。
上位者によって、その枠内へと、入れられること。
その設定枠から、出ないこと。
その設定枠から、出ようとしないこと。
その設定枠から、出たくないこと。
それは、結局は、以下の内容である。
下位者が、上位者による専制支配を、容認し、待望すること。
それらのことを、下位者が、上位者に対して、保証し、明示する、態度。

可愛くないこと。
それは、以下の内容である。

上位者が、予め設定した、枠。
下位者による、その枠に、衝突する、行為。
下位者による、その枠の存在に対して、反抗し、抵抗する、行為。
下位者による、その枠の存在を、批判する、行為。
下位者による、その枠外へと出ようとする、行為。
それらの行為を、下位者が、上位者に対して、取ろうとすること。
下位者による、そうした態度。

可愛さ。その概念が、社会的に存在すること。
それは、以下の内容である。
液体性における、専制支配の現象。その明示的な証拠となること。
その社会の液体性。その明示的な証拠となること。

液体性における、専制支配の、多重性。
液体内部において、最上位のメインの領域は、より下位のサブの領域を、呑み込み、包含していること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、呑み込み、包含していること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、呑み込み、包含していること。
それらの繰り返し。

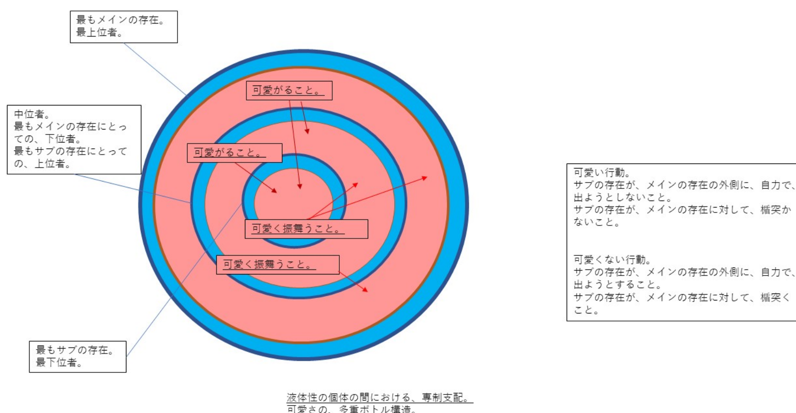
それは、以下の内容である。
液体内部において、最上位のメインの領域は、より下位のサブの領域を、専制支配していること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、専制支配していること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、専制支配していること。
それらの繰り返し。

それは、以下の内容である。
液体性における、専制支配の、多重構造。

それは、以下の内容である。
液体内部において、最上位のメインの領域は、より下位のサブの領域を、可愛がっていること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、可愛がっていること。
そのサブ領域は、より下位のサブの領域を、可愛がっていること。
それらの繰り返し。

それは、以下の内容である。
液体内部において、最上位のメインの領域に対して、より下位のサブの領域が、可愛い態度を見せていること。
そのサブ領域に対して、より下位のサブの領域が、可愛い態度を見せていること。
そのサブ領域に対して、より下位のサブの領域が、可愛い態度を見せていること。
それらの繰り返し。

それは、以下の内容である。
液体性における、可愛さの、多重構造。



生物の身体。
それは、彼自身の神経系を、含むこと。
それは、彼自身の精神を、含むこと。
それは、彼自身の心を、含むこと。

生物の心身。生物の身体における、神経系と、それ以外の部分。

生物の心身。
それは、生殖細胞の、乗り物であること。
そのことは、生物における、遺伝的子孫の生成に、関連していること。

生物の身体における、神経系以外の部分。
それは、神経系の、乗り物であること。
それは、神経系における、思考回路の、乗り物であること。
思考回路。
結合先の次細胞の選択において、可変性や新規性を持つ、中間細胞。思考細胞。
そうした思考細胞群が形成する、後天的な、神経回路。
そのことは、生物における、文化的子孫の生成に、関連していること。

そうした、文化的子孫の生成において。
思考回路が保有する、トポロジカルな形状。
そうした形状に関する情報の、外部環境に対する、物理的刻印。シンボル。
その生物において、そうした刻印の能力が、必須であること。
そうした刻印を介した、他の神経系への、そうした思考回路の、複製。
そうした生物の間において、そうした刻印のやり取りの能力が、必須であること。
生物的神経系における、そうした能力。
それは、以下の内容である。
シンボリックな相互作用。その能力。

移動生活様式者。移動生活様式社会。
例。欧米諸国。中東諸国。モンゴル。

彼らが、彼ら自身の生存維持において、抱える、根本的な問題。
それは、以下の内容である。

植物の生育が不良な、外部環境。
例。乾燥性。冷涼性。酷熱性。
それらは、そうした環境の下で暮らす人々において、以下のような生活様式を、生成すること。
移動生活様式。
それは、以下の内容である。
家畜の放牧への、生活上の、全面的な依存。

移動生活様式における、多数の家畜の、飼育と屠殺の、常態化。
それは、以下の結果を、もたらす。
移動生活様式社会における、以下の内容を思考することの、不能性や、禁忌性。
人間の存在を、生物一般へと、含めること。
人間の精神の内部に、生物一般に共通する性質を、幅広く、全面的に、見出すこと。
移動生活様式社会における、そうした思考の、容認。
それは、その社会の人々に対して、以下の内容を、もたらすこと。
深刻な、精神の崩壊。

深刻な、精神の狂乱。
彼らは、それらを防止するため、以下の施策を、強制されること。
彼らの生活様式における、家畜屠殺の、徹底的な、回避や放棄。そうした必要性の発生。
その結果。
彼らは、植物の生育が不良な外部環境に対して、生き残ることが出来なくなり、死滅すること。

彼らは、それらを防止するため、以下の思考を、強迫的に、行う必要が有ること。
人間の存在を、他の生物一般とは、峻別すること。
それは、彼らに対して、以下の二つの思考についての、二者択一を、強制すること。
--
（１）
彼らの存在は、他の生物一般よりも、劣位であること。
彼らの存在は、他の生物一般よりも、下位であること。
-
（２）
彼らの存在は、他の生物一般よりも、優位であること。
彼らの存在は、他の生物一般よりも、上位であること。
--

上記の（１）は、彼らにとって、余りにも、苛酷で、屈辱的で、受け入れ難い内容であること。
その結果。
彼らには、上記の（２）を、受け入れる選択肢しか、残されていないこと。
その結果。
彼らは、上記の（２）を、必死になって、強迫的に主張し続けるしか、無いこと。
例。
ユダヤ教。キリスト教。イスラム教。
それらの宗教における、天地創造の神話。
その内容における、人間の、他の生物一般に対する、圧倒的優位性の、主張。

上記の内容。
それらは、移動生活様式者における、根本的な急所であり、致命的な弱点であること。

それらは、移動生活様式社会における、根本的な急所であり、致命的な弱点であること。

定住生活様式者。定住生活様式社会。
例。中国。ロシア。韓国。日本。
彼らが、以下の要所を、ずっと、絶え間無く、突き続け、攻め続けること。
移動生活様式の人々における、上記の急所や弱点。
その結果。
定住生活様式者。定住生活様式社会。
彼らは、以下の内容の実現が、新たに、出来るようになること。
移動生活様式者や、移動生活様式社会に対して、世界的に、永続的に、優位に立ち続けること。

他の社会による、後天的定住集団社会の、支配。
そうした支配の、永続的な、可能化。
例。他国による、日本に対する、永続的な支配。

その方法。
それは、以下のルールに、基づくこと。
他の社会が、後天的定住集団社会における最上位を、奪取すること。
他の社会が、その実現に、いったん成功した場合。
上記の社会は、その後天的定住集団社会を、何ら抵抗を受けること無く、永続的に、支配し続けることが、出来ること。
例。戦後における、アメリカによる、日本の支配。その、永続。

その前提条件。
他の社会が、後天的定住集団社会における最上位を、奪取しようとする場合。
その後天的定住集団社会の側から、総力戦での、決死の、玉砕的な、総合的で全面的な抵抗を、徹底的に、受けること。
そうした抵抗は、その後天的定住集団社会の最上位者が、負けを認めるまで、永久に続くこと。
他の社会は、上記の最終目的の達成のために、そうした抵抗を、徹底的に、一つ残らず、完全に粉砕する必要があること。

例。太平洋戦争における、アメリカによる、日本本土に対する、徹底的な、爆撃と焦土化。
他の社会は、上記の最終目的の達成の後、新たな抵抗の可能性を完全に封じ込めるための軍備を、その後天的定住集団社会の中心部の極く近傍に、継続的に、配置すること。
例。戦後における、アメリカによる、日本の首都圏の極く近辺への、大規模な軍備の配置の、実施と継続。

後天的定住集団社会における、こうした性格。
それは、後天的定住集団社会における、根本的な急所であり、致命的な弱点であること。

そうした急所や弱点。
それを、別の社会が、新たに活用すること。その可能性。

例。他の、定住生活様式社会。
中国。ロシア。韓国。

彼らは、その後天的定住集団社会の支配に当たって、専制支配を、更に、組み入れること。
彼らは、そのことで、その後天的定住集団社会に対する、永続的支配を、更に、強固にすることが出来ること。

彼らが、その後天的定住集団社会に対して、深い恨みを、予め、抱いている場合。
例。日本に対して。
仮に、彼らが、その後天的定住集団社会の最上位を、奪取出来た場合。
彼らは、その後天的定住集団社会のことを、永久に、傷め続け、いたぶり続けることが、出来ること。
例。韓国は、そうした日本を、永久に、傷め続け、いたぶり続けることが、出来ること。

生物における、有性生殖の、起源。
それは、以下の内容である。

（１）
生物の本質が、液体性であること。
そうした、液体性の生物個体の中から、相対的に気体性の生物個体が、新たに、生成されたこと。
そうした、遺伝情報における、突然変異の、発生。
それは、有性生殖の起源であること。
それは、生物における、液体性の配偶者と、気体性の配偶者との、分離であること。
それは、生物における、精子と卵子との、分離であること。
それは、生物における、男女の分離であること。

（２）
生物の本質が、液体性であること。
そうした生物において、相対的に気体性の生物と、相対的に液体性の生物とが、新たに、分離したこと。
例。相対的に気体性の生物としての、ウィルス。
例。相対的に液体性の生物としての、多細胞生物。

そうした、遺伝情報における、突然変異の、発生。
そうした、相対的に気体性の生物と、相対的に液体性の生物とが、同時並行で、相互に交わらない形で、併存していること。
それが、あるきっかけで、彼らが、相互に、交わるように、なったこと。
そうした、遺伝情報における、突然変異の、発生。
それは、減数分裂の起源であること。

それは、有性生殖の起源であること。
それは、生物における、液体性の配偶者と、気体性の配偶者との、併存であること。
それは、生物における、精子と卵子との、併存であること。
それは、生物における、男女の併存であること。

（３）
生物の本質が、液体性であること。
そうした生物において、相対的に気体性の生物と、相対的に液体性の生物とが、新たに、分離したこと。
例。相対的に気体性の生物としての、ウィルス。
例。相対的に液体性の生物としての、多細胞生物。

その後。

気体性の生物が、液体性の生物へと、新たに、飛び込んで、取り憑いたこと。
気体性の生物が、液体性の生物と、新たに、合体したこと。
その結果。
それは、有性生殖の起源であること。
それは、生物における、液体性の配偶者と、気体性の配偶者との、共存であること。
それは、生物における、精子と卵子との、共存であること。
それは、生物における、男女の共存であること。

追加の内容。2022年10月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装における、留意点。物理的力学の一環としての、生物的力学。生物の精神における傷や病。それらの神経回路による、表現。

気体と液体との、混在。
気体中に存在する、液体。
例。雲。霧。雨。
液体中に存在する、気体。
例。微細な気泡。

それらの現象の、生物社会への適用。
気体中に存在する、液体。
例。男性優位社会における、女性。
液体中に存在する、気体。

例。女性優位社会における、男性。

生物的神経系における、部品間の結合。
生物的神経系における、部品間のデータの送受信。
それらは、キューによって、表現することが、望ましいこと。

キューを管理する、システム。
キューの配列番号は、部品毎に、一つずつ、一意で、付くこと。
キューの配列番号は、部品の配列番号と、同一であること。
各部品の結合先の相手。それらの番号や名前を参照する表。そうした表を、生成すること。
そうした表を、部品間における新規の結合の生成に伴って、その都度、新規に生成すること。

各部品において。
発火によって、生成する、データの数量。
発火によって、生成する、データの内容。
発火の頻度。
それらの値を、学習結果に基づいて、可変化すること。

各部品において。
結合先の相手となる部品。
データ送信先の相手となる部品。
それらの相手先を、新規に生成可能にすること。

キューを管理する、スコープ。
ローカルな場合。キューのやり取りの範囲を、生物内部へと、限定すること。
グローバルな場合。キューのやり取りの範囲を、全体世界へと、拡大すること。

資源管理の基盤。内部環境。外部環境。
そうした基盤の内部における、プロセス。
不足中枢。資源の不足を、通知し、警告すること。そのプロセス。
それは、中間細胞に対して、促進的出力を行うこと。それは、そうして、中間細胞を制御すること。

過剰中枢。資源の過剰を、通知し、警告すること。そのプロセス。
それは、中間細胞に対して、抑制的出力を行うこと。それは、そうして、中間細胞を制御すること。
それらは、以下のようなプロセスから、成ること。
内蔵している資源量の、計算。
流入している資源量の、計算。生産している資源量の、計算。
流出している資源量の、計算。消費している資源量の、計算。
それらを、リアルタイムで、算出すること。

外部から、内部へと、資源を送り込む、プロセス。
内部から、外部へと、資源を送り出す、プロセス。
内部において、資源を生産するプロセス。
内部において、資源を消費するプロセス。

神経系側における、プロセス。
神経系の中間細胞による、資源出力と資源入力との、繋ぎ。
出力細胞による、資源吸入の、筋力動作。
入力細胞による、外部資源が、そこに、今も、存在することの、感知動作。

それらを、相互に、キューで、繋ぐこと。
そのことで、生物内部や、全体世界における、資源のやり取りの、システムや市場を、構築すること。

液体性。卵子性。女性性。
社会全体を、順応性で固めようとする傾向。
社会全体を、"Yes"で固めようとする傾向。

気体性。精子性。男性性。
社会全域に、反転性を散在させようとする傾向。
社会全域に、"No"を散在させようとする傾向。

キューの構成要素。
細胞。
神経系。
入力細胞。
出力細胞。

中間細胞。

生物にとっての内部環境における、資源管理。
生物にとっての外部環境における、資源管理。

神経系と、内部資源管理基盤との、結合が、必要であること。
神経細胞と、内部資源管理の細胞との、結合が、必要であること。

神経系と、外部資源管理基盤との、結合が、必要であること。
神経細胞と、外部資源管理の機構との、結合が、必要であること。

キューの主体は、サーバーであること。
キューの主体は、生物的な、細胞であること。
キューの主体は、無生物的な、機構であること。

キューの送信者は、クライアントであること。

キューの受信者は、サーバーであること。
キューの集計者は、サーバーであること。

キューの管理において。
神経系と、内部環境と、外部環境とを、通貫した、一括の全体管理が、必要であること。
それらについての、全体の一覧把握が、必要であること。

生物的神経系の、実現。
そのための、キューの管理。
それは、キューの種類別の、バラバラの管理では、駄目であること。
それらの、一元管理が、必要であること。

プログラムにおける、キューの管理。例。Python言語。
それらは、辞書で管理する方が、やりやすいこと。

多重入れ子構造の、世界全体を統合する、巨大な辞書。
そうした辞書を、一つ、作ること。

キューの新規結合生成において、乱数を使用すること。

そのため、辞書において、キューの自動的な項番管理が、必須であること。

全体統合的な、各部品の名前の辞書を、先ず、生成すること。
各部品の名前の辞書から、各部品の項番の配列を、自動生成すること。

各部品の名前の辞書。その管理方法。

（１）
階層モデル。
マスタ。{'A','B','C'}
階層番号を、最初の番号へと、初期設定すること。階層番号を、１つ目とすること。

サブ。{{'A1','A2','A3','A4'},{'B1','B2'},{'C1','C2','C3'}}
階層番号を、一つ、加算すること。

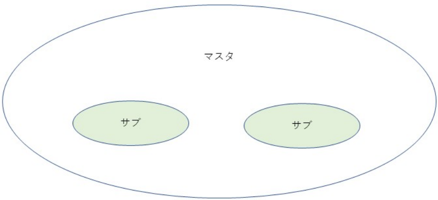
この、マスタとサブとの関係を、根幹部から、末端部へと、一貫して、リピートすること。

キューの分類。
１つ目の次元。神経系。内部環境における、資源管理。外部環境における、資源管理。
２つ目の次元。生物。無生物。
これらの、二つの次元が、同時並行で、動作すること。
それらの関係は、階層によっては、解決出来ないこと。
それらの関係は、包含関係によっては、解決出来ないこと。
階層は、包含関係の一種であること。
包含関係は、配列によって、一通り、表現可能であること。

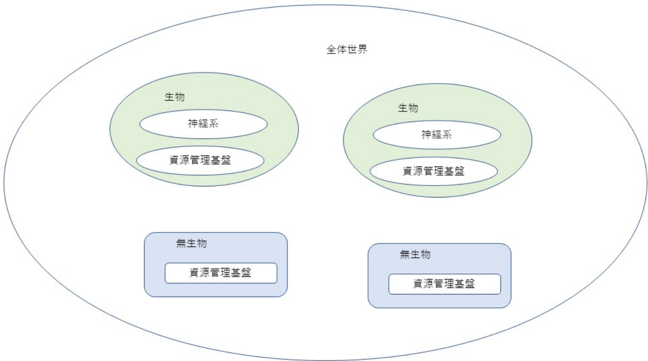
（２）
集合モデル。
マスタの内部に、サブを、複数、含むこと。

その場合。
--
無生物の内部に、生物を、複数、含むこと。

それは、上手く行かないこと。
--
全体世界の内部に、生物と、無生物とを、複数、含むこと。
それは、上手く行くこと。
--
結論。
全体世界を俯瞰する視点が、新たに、必要であること。
--



集合モデルにおける、一般的な、包含関係。



集合モデルにおける、全体世界と、生物や無生物との、包含関係。

部品間における、データや物質の、やり取り。
それらを実現する、キューの、サーバーとクライアント。
その機能は、一番下の階層の、オブジェクトやプロセスのみが、所有すること。

全体世界における、全ての結合を、最初に、予め構築すること。
それは、多重入れ子構造によって、表現されること。
その内容を、グローバル変数として、取り扱うこと。
その内容を元に、各プロセスや、各キューを、自動的に、生成し、起動すること。
その実現のための各関数において、上記のグローバル変数を、有効化すること。

結合の新規生成や、結合強度の学習が行われる毎に、上記のグローバル変数の内容を、その都度、直接、変更すること。
そのことで、全体世界における、結合構造や結合内容における、一貫性を、恒常的に、保持すること。

資源管理のアルゴリズム。
それは、以下の手順である。

資源の量の計測。
前段階における、資源の量の、呼び出し。
資源の流入量の、取得。子のタイマープロセスを、利用すること。
資源の流出量の、取得。子のタイマープロセスを、利用すること。
資源の生産量の、取得。子のタイマープロセスを、利用すること。
資源の消費量の、取得。子のタイマープロセスを、利用すること。

現段階における、資源の量の、計算。
それは、以下の内容である。
--
前段階における、資源の量。
プラス。新規の、流入量と生産量。
マイナス。新規の、流出量と消費量。
--

以前の"現段階の資源量"を、前段階の資源量として、設定し、保存すること。
新たに算出した、資源量についての計算結果。その数値を、新たな、現段階の資源量として、新たに、設定すること。

以上の手順を、無限ループによって、繰り返すこと。

資源の流出。その時の、流出量の、設定。
資源の流入。その時の、流入量の、設定。
それらは、自動タイマープロセスか、神経系動作のプロセスによって、実現されること。

資源の消費。その時の、消費量の、設定。この量は、広義の流出量に、含まれること。
資源の生産。その時の、生産量の、設定。この量は、広義の流入量に、含まれること。
それらは、自動タイマープロセスか、神経系動作のプロセスによって、実現されること。

全体世界において。
ある存在にとっての、資源の流出。それは、別の存在にとっての、資源の流入に、相当すること。その二つが、互いに別物として、同時に生起すること。
ある存在にとっての、資源の流入。それは、別の存在にとっての、資源の流出に、相当すること。その二つが、互いに別物として、同時に生起すること。
あるプロセスにとっての、資源の流出。それは、別のプロセスにとっての、資源の流入に、相当すること。その二つが、互いに別物として、同時に生起すること。
あるプロセスにとっての、資源の流入。それは、別のプロセスにとっての、資源の流出に、相当すること。その二つが、互いに別物として、同時に生起すること。
それらの同時生起を保証する、より上位の存在が、必要であること。それは、物理法則であること。それは、力学であること。
資源の流出と流入の可否は、二つの存在の間における、物理的な力関係によって、決まること。その物理的な力関係を決めるルールが、物理法則であり、物理的な力学であること。

生物的な力学。

それは、物理的な力学の延長線上に、存在すること。
それは、物理的な力学の、一種であること。

力学的な、強弱関係。
力学的な、大小関係。
例。エネルギー。重力。熱。光。磁気。電気。電子。情報通信。
それらが、生物の間における、上下関係を、決定し、形成すること。
それらが、無生物の間における、上下関係を、決定し、形成すること。
それらが、生物と無生物との間における、上下関係を、決定し、形成すること。

そうした、力学的な上下関係。
それは、以下の内容である。
上位者は、下位者の資源を、物理的に、奪取出来ること。
上位者は、下位者の資源を、物理的に、取得すること。
下位者は、上位者によって、彼自身の資源を、奪取されること。
下位者は、そのことで、彼自身の資源を、喪失すること。
下位者は、上位者の資源を、奪取不可能であること。
下位者は、上位者の資源を、上位者の同意が無い限り、取得不可能であること。

それらは、生物の間で、共通に、成立すること。
それらは、無生物の間で、共通に、成立すること。
それらは、生物と無生物との間で、共通に、成立すること。

彼自身が、相手よりも、上位か、それとも、下位か？
それは、そうした力学的関係に基づいて、自動的に、決定されること。

液体的な上下関係。高密度な上下関係。滑らかな上下関係。
相手との間に、摩擦が発生しないこと。相手による資源奪取の試みに対して、そもそも、何も抵抗出来ないこと。

気体的な上下関係。低密度な上下関係。粗い上下関係。
相手との間に、摩擦が発生すること。相手による資源奪取の試みに対して、抵抗が可能であること。

資源の出入り。
資源の流入と流出。
資源の取得と喪失。
それらは、二つの存在の間の関係によって、以下のように分類されること。
それらは、二つのプロセスの間の関係によって、以下のように分類されること。
対等な関係。資源は、プラスマイナスゼロの、等価交換となること。相互に、同等に、奪取すること。相互に、同等に、搾取すること。
上下関係。資源の出入りに関して、一方的な、黒字か赤字となること。
それらは、生物の間で、共通に、成立すること。
それらは、無生物の間で、共通に、成立すること。
それらは、生物と無生物との間で、共通に、成立すること。

上位者は、彼自身の資源を、物理的に、占有出来ること。
上位者は、彼自身の資源を、下位者による奪取の試みに対して、物理的に、防衛出来ること。

下位者は、彼自身の資源を、物理的に、占有出来ないこと。
下位者は、彼自身の資源を、上位者による奪取の試みに対して、物理的に、防衛出来ないこと。

上位者は、下位者を、物理的に、移設出来ること。
上位者は、下位者を、物理的に、移動出来ること。
上位者は、下位者を、物理的に、排除出来ること。

下位者は、上位者を、物理的に、移設出来ないこと。
下位者は、上位者を、物理的に、移動出来ないこと。
下位者は、上位者を、物理的に、排除出来ないこと。

液体資源。例。水。
気体資源。例。酸素。
それらは、流動可能であること。それらは、自動的に流入すること。それらは、自動的に流出すること。
それらに対しては、刻印や彫刻や印刷が、不可能であること。

固体資源。例。金属。岩石。
それらは、流動不能であること。それらは、不動であること。それ

らは、手動での移入が、必要であること。それらは、手動での移出が、必要であること。
それらに対しては、刻印や彫刻や印刷が、可能であること。

粒体資源。例。米粒。砂粒。
粉体資源。例。小麦粉。
それらは、固体だが、ある程度、流動可能であること。
それらに対しては、刻印や彫刻や印刷は、一時的に可能であるが、直ぐに消えてしまうこと。例。砂文字。

薄膜資源。柔軟資源。変形資源。例。アメーバ。柳の枝。
それらは、固体だが、ある程度、可動であること。
それらに対しては、刻印や彫刻や印刷は、可能であるが、困難であること。例。変形するスポンジへの、文字の刻印。

情報保持が可能な資源。
情報消去が可能な資源。
例。
磁性体。ハードディスク。
半導体メモリ。
プラスチック。音楽CD。
紙とインク。

生物の個体。
生物の社会。
それらの内側は、液体的であること。
それは、以下の内容である。
資源性。有資源性。急所性。
非武装性。傷付きやすさ。
例。女性性。

それらの外側は、固体的であること。
それらの外側は、気体的であること。
それは、以下の内容である。
非資源性。無資源性。非急所性。
武装性。攻撃性。防御性。傷付きにくさ。
例。男性性。

生物。無生物。
それらの資源保有における、以下の力の、大小や、強弱。
--
奪取力。
取得力。
攻撃力。

例。
出力細胞における、出力の強さ。資源流入基盤における、性能の高さ。
--
奪取阻止力。
保持力。占有力。私有力。所有力。保有力。
防御力。防衛力。

例。
中間細胞や出力細胞における、防衛戦略や、防御戦略の、立案や実行の、能力の高さ。
--

それらの力の、大小や強弱を、資源の、流出や流入や移動の、プログラムにおける、パラメータとして、設定すること。

生物。無生物。
それらの資源交換における、以下の者の、存在。
交換元と、交換先とを、繋げる者。
媒介者。
仲介者。
中間者。連絡者。

それらは、具体的には、以下の内容である。
保管メディア。記録メディア。
通信。交通。流通。それらの、回路や手段。
営業者。小売業者。

それらの接続先の、決定者。

それは、出力細胞では無いこと。
それは、中間細胞であること。

生物。
彼自身が、他者から、資源を、奪取する場合。
彼自身の、出力細胞と、資源流入基盤を、他者の、どこに、その都度、繋げるか？
それは、以下の場所である。
--
他者における、彼自身の資源の流出口。
他者における、彼自身の資源の流出口でも、彼自身の急所でも無い、唯のダミーの口。
--
他者が生物である場合。
他者における、彼自身の神経系の活動を、麻痺させる、トリガーの口。
--
彼自身が、他者を殺戮する場合。
他者における、彼自身の神経系の活動を、終了させる、トリガーの口。
他者における、彼自身の、各々の神経細胞を、殺戮する、基盤の口。
他者における、彼自身の、各々の神経細胞の生命を、終了させる、基盤の口。
他者における、彼自身の神経細胞に対して、活動性をもたらす、基盤の口。
他者における、彼自身の神経細胞に対して、活動エネルギーを供給する、基盤の口。
他者における、彼自身の、各々の神経細胞の活動をコントロールする、基盤の口。
他者における、彼自身の生命維持における、急所の口。
--

生物的神経系における、神経細胞の活動の、終了。
そのコンピュータシミュレーションによる、実現。
それは、以下の内容である。

--
プロセス自体の、終了。
プロセス内部における、エンドレスループの、終了。
--

生物的神経系において。
--
残存する資源が、とても、僅かで、少なくなった時の、対応。
行動における、決死化。出来ることは、何でもやること。
--
残存する資源が、極小になった時の、対応。
活動の休止。活動の麻痺。
活動再開の可能性を、予め、確保すること。
--
残存する資源が、完全に尽きた時の、対応。
活動の終了。各々の神経細胞における、プロセス自体の、終了。死ぬこと。
活動再開の可能性を、確保不能であること。
--

政治学。
それは、以下の内容である。
生物における、社会的最上位者を中心として、把握される、生物的力学。

生物の本質における、物理性。
それは、以下の内容である。

生物自身が、物理的存在であること。

生物にとって、資源や設備は、物理的存在であること。
生物にとって、資源の物理的奪取が、彼自身を、より、生きやすくすること。

生物にとって、領土や縄張りは、物理的存在であること。
生物における、要衝や要塞は、物理的存在であること。
生物における、急所は、物理的存在であること。

生物における、急所。
その物理的破壊や、物理的致傷が、生物にとって、彼自身における、致命傷となること。

生物における、暴力や支配は、物理的であること。
生物における、攻撃と防御は、物理的であること。

生物にとっての、精神的な急所。
それは、彼自身の神経系の内部において、物理的に、局所的に、存在すること。
そうした、生物的神経系。
それは、結局は、物理的存在であること。
生物的神経系を、物理的に破壊すると、生物の精神が、破壊されること。

生物における、精神的力学は、物理的力学へと、収斂し、帰納されること。
生物同士の政治学は、物理的力学へと、収斂し、帰納されること。

生物の間における、精神的な駆け引き。
それは、結局は、以下の内容を、目指していること。
物理的資源の獲得において、彼自身が、より有利になること。

生物にとっての、精神的な急所。
--
生物の精神における、私的領域。
生物の精神における、内側の領域。
生物の精神における、プライバシー。
生物の精神における、機密情報。
生物の精神における、隠し事。
生物の精神における、内部抑圧の対象。
--
それらは、彼自身の神経系の内部において、物理的に存在するこ

と。

生物にとっての、精神的な急所。
それは、以下の内容である。
--
古傷。トラウマ。古い怪我。
裏切り。不信。不忠。
恥。マイナスの見栄。
--
弱点。無能な点。
病気。障害。
嘘。偽り。虚栄。
--
非武装性。無防備性。弱さ。それらの露呈。
例。有性生殖における、性行為。
--

生物の精神における、傷。
生物における、精神病。
それらの、神経回路的な、表現。
それらの実装が、必要であること。

生物の精神における、傷。
それは、以下の内容である。
--
過去における、彼自身の、失敗体験。
過去における、彼自身の無能性についての、体験。
過去における、彼自身の社会的下位性についての、体験。
過去における、彼自身の資源の喪失についての、体験。
過去における、彼自身の自己不信性についての、体験。
過去における、彼自身の、他者に対する不信性についての、体験。
--
彼自身の精神や神経系における、それらの記憶。

自己の精神や神経系における、過去の古傷。
そうした古傷を、引きずらない、生物。彼自身のメンタルは、強い

こと。
そうした古傷を、引きずる、生物。彼自身のメンタルは、弱いこと。

自己の精神や神経系における、過去の古傷。
彼自身の精神や神経系の内部における、それらの記憶の、抑圧。
彼自身の精神が、それらの記憶を、想起しないようにすること。

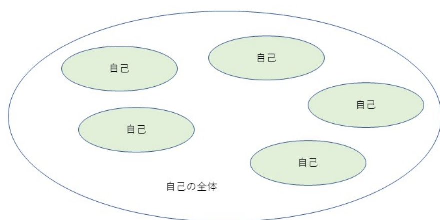
それらは、抑制タイプの中間細胞によって、行われること。
それらは、抑制タイプのフィードバック機能によって、行われること。

それらは、遺伝的には、固定細胞や、非思考細胞によって、行われること。
それらは、文化的には、非固定細胞や、思考細胞によって、行われること。

生物における、精神病。
それらの、神経回路的な、表現。
それらの必要性。

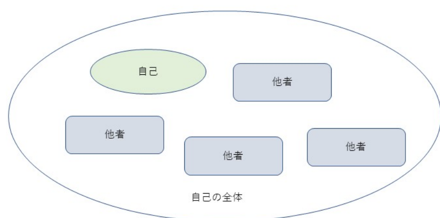
（１）
多重精神。多重神経系。
ある生物の精神が、複数の、自己と他者の精神によって、構成されている状態。

ある生物が、以下のように、感じること。
彼自身の、精神や神経系において。
複数の、自己の精神や神経系が、同居すること。それは、多重人格であること。



多重人格における、一般的な、包含関係。

自己の精神や神経系と、複数の他者の精神や神経系とが、互いに、同居すること。それは、統合失調症であること。



統合失調症における、一般的な、包含関係。

それらは、有益であれば、一律に、精神障害であるとは、言えないこと。

（１－１）

多重人格。
ある生物の精神が、複数の自己の精神によって、構成されている状態。
ある生物の神経系が、複数の自己の神経系によって、構成されている状態。
それらの複数の精神や神経系は、相互に、自律的で、自主独立的であること。

（１－２）
統合失調症。
ある生物が、以下のような感覚を、自発的に、抱くようになること。
ある生物における、そうした状態。

ある生物の精神において、別の生物の精神が、同居していること。
ある生物の精神の内部において、別の生物の精神が、住み着いていること。

ある生物の神経系において、別の生物の神経系が、同居していること。
ある生物の神経系の内部において、別の生物の神経系が、自律的に、自主独立的に、活動していること。

ある生物の精神の内部において。
別の生物の精神が、彼自身の精神に対して、命令や司令を出していること。
ある生物の神経系の内部において。
別の生物の神経系が、彼自身の神経系に対して、命令や司令や指令を出していること。
そうした命令や司令や指令の回路が、彼自身の神経系の内部において、実在すること。

例。
幻聴。他者の声が、彼自身の精神の内部から、恒常的に、聞こえて来ること。
操られ体験。彼自身が、他者によって、彼自身の精神の内部から、操られること。

ある生物において。
自己の精神の内部において、他者の精神が、同居していること。
自己の精神の内部において、他者の精神が、住み着いていること。
そうした他者の精神が、自己の精神からは、自律的で、自主独立的であること。
自己の精神の液体の内部において、他者の精神が、気体的な気泡として、存在していること。

自己の精神の内部において、他者の精神や神経系が、同時に、複数、内在していること。
そうした、複数の、他者の精神や神経系が、相互に、自律的に、交信すること。
そうした、複数の、他者の精神や神経系が、自己の精神や神経系と、相互に、自律的に、交信すること。
そうした交信は、以下の内容を得ないまま、勝手に、行われること。
自己の精神や神経系による、許可や内諾。

自己の精神や神経系の内部に居着いた、他者の精神や神経系。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系による活動内容を、コントロールすることが出来ないこと。
そうした、他者の精神や神経系による活動の、コントロール不能性。

そうした、他者の精神や神経系が、自己の精神や神経系における私的領域を、侵犯し続けること。
その結果。
自己の精神や神経系において、プライバシーが、全面的に、喪失すること。

自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系によって、操られ続けること。

自己の精神や神経系の内部に居着いた、他者の精神や神経系。
そうした、他者の精神や神経系が、以下の活動を、エンドレスに続けること。
自己の精神や神経系に対して。

自己の精神や神経系の内部から。
強力に。
命令し、司令し、指令すること。
罵倒すること。
賞賛すること。
憑依すること。
操ること。

--
彼自身が、操られること。彼自身が、罵倒されること。
その結果。
自己の精神や神経系が、不快感を持つこと。
自己の精神や神経系が、被害妄想を、抱くこと。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、不快な存在であると、見做すこと。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、自己の精神や神経系の内部から、排除し、追放しようとすること。
その実現のために、彼自身が、必死になること。
--
彼自身が、操られること。彼自身が、賞賛されること。
その結果。
自己の精神や神経系が、快感を持つこと。
自己の精神や神経系が、万能感を持つこと。
自己の精神や神経系が、誇大妄想を、抱くこと。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、快い存在であると、見做すこと。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、自己の精神や神経系の内部に、留めようとすること。
その実現のために、彼自身が、必死になること。
--

自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、異物と、見做すこと。
自己の精神や神経系が、そうした、他者の精神や神経系を、自己の精神や神経系の内部から、排除し、追放しようとすること。
その実現のために、彼自身が、必死になること。
その実現のために、彼自身が、緊張状態を、持続させること。

そのために、彼自身が、社会的に、引きこもること。
そのために、彼自身が、社会的に、暴れること。

しかし。
彼自身による、その実現の試みは、いつまで経っても、決して、成功しないこと。
その結果。
彼自身が、強烈な、操られ体験を、抱くこと。
彼自身が、強烈な、被害妄想を、抱くこと。
彼自身が、精神的に、とても緊張すること。
彼自身が、精神的に、とても疲労すること。
彼自身が、精神的に、狂うこと。
彼自身が、精神的に、自暴自棄に陥ること。
彼自身が、彼自身に対して、危害を加えること。
彼自身が、周囲の他者に対しても、暴れて、危害を加えること。

周囲の他者は、彼のことを、危ない存在と見做すこと。
周囲の他者は、彼のことを、社会的な隔離の対象と、見做すこと。
周囲の他者は、彼のことを、精神病院へと、閉じ込めること。

（２）
精神的な抑制の、超過。
精神的な促進の、超過。

（２－１）
鬱病。
彼自身の精神や神経系において。
抑制タイプの、中間細胞が、ずっと、強くなり過ぎること。
抑制タイプの、フィードバック機能が、ずっと、強くなり過ぎること。
強い鬱状態に、陥ること。

（２－２）
双極性障害。
彼自身の精神や神経系において。
以下の二つの状態を、交互に、ずっと、繰り返すこと。
--
抑制タイプの、中間細胞が、ずっと、強くなり過ぎること。
抑制タイプの、フィードバック機能が、ずっと、強くなり過ぎること。
強い鬱状態に、陥ること。

--
促進タイプの、中間細胞が、ずっと、強くなり過ぎること。
促進タイプの、フィードバック機能が、ずっと、強くなり過ぎること。
強い躁状態に、陥ること。
--

生物における、精神病。
それらの、治癒メカニズムの、神経回路的な、実装。
そのための、従来の、臨床心理学や精神医学の内容の、根本的な書き換え。
それらの必要性。

追加内容。2022年10月初出。その2。生物的神経系における、神経細胞の独自暴走と、統合失調症の発症。

生物における、暴走。
神経細胞における、暴走。
それは、以下の内容である。

彼自身の出力結果が、周囲からの入力を、反映しないこと。
彼自身の出力結果が、周囲からの入力に、反すること。
彼自身の出力結果が、周囲からの入力を、無視すること。

彼自身が、自発的に、自主的に、勝手に、動くこと。
彼自身が、自発的に、自主的に、勝手に、発火すること。

彼は、気狂いである。
彼は、他者的である。

生物社会の内部における、ある生物の暴走。
彼は、暴走者である。
彼は、気狂いである。
彼は、統合失調症である。

生物社会の内部における、ある生物的神経系の暴走。
その神経系は、暴走神経系である。
その神経系は、気狂い神経系である。

生物的神経系の内部における、神経細胞の暴走。
その細胞は、暴走細胞である。
その細胞は、気狂い細胞である。
その細胞は、他者的細胞である。
その細胞は、その生物における、統合失調症の発症の原因である。

遺伝子システムにおける、遺伝子の暴走。
その遺伝子は、暴走遺伝子である。
その遺伝子は、気狂い遺伝子である。
その遺伝子を持つ細胞は、癌細胞である。

ある、閉じた空間。ある社会。あるシステム。
例。
生物の社会。
生物的神経系。
生物における、遺伝子システム。

その内部において。
ある個体における、周囲からの、暴走性。内的暴走性。彼は、内的暴走者である。
それは、以下の内容である。

--
ある個体における、周囲からの、自律性。内的な自律性。彼は、内的自律者である。
ある個体における、周囲からの、自主独立性。内的な自主独立性。彼は、内的自主独立者である。
ある個体における、周囲からの、制御不能性。内的な制御不能性。彼は、内的制御不能者である。
ある個体における、周囲からの、統制不能性。内的な統率不能性。彼は、内的統率不能者である。
ある個体における、他者性。内的な他者性。彼は、内的他者である。
ある個体における、部外者性。内的な部外者性。彼は、内的部外者である。
ある個体が、周囲の他者の言うことを、聞かないこと。彼は、内的我儘者である。
ある個体が、周囲の他者の言うことを無視して、勝手に動くこと。彼は、内的無視者である。
--

周囲とは。
周囲の他者。周囲の他の細胞。

ある個体における、病理性。
その空間内部における生きやすさを、損なうこと。

ある個体における、脅威性。
その空間内部における、生存維持にとっての、脅威となること。

ある生物にとって、そうした脅威性を持つ、内的暴走者。
例。統合失調症の患者における、幻聴の主。

そうした内的暴走者は、その生物によって、以下のように、捉えられること。

彼自身に対して、害悪を成す他者。
その他者の、化身。
その他者の、身代わり。
その他者の存在の、反映。
その他者の存在の、投影。

神経系や神経細胞の暴走を、抑止する、薬。
それは、抗精神病薬であること。

遺伝子の暴走を、抑止する、薬。
それは、抗癌剤であること。

ある、閉じた空間。ある社会。あるシステム。
例。
生物の社会。
生物的神経系。
生物における、遺伝子システム。
コンピュータシステム。

その全体空間における、暴走者や、暴走部品。
彼は、狂った者である。
彼は、気狂いである。
彼は、統合失調症に罹患している。
その部品は、狂った部品である。
その部品は、気狂いの部品である。
その部品は、統合失調症の部品である。

ある生物の体内における、暴走細胞。
神経系における、暴走する神経細胞。その細胞は、統合失調症を、引き起こすこと。
遺伝子システムにおける、暴走する遺伝子。その遺伝子は、癌を、引き起こすこと。

ある生物社会の内部における、暴走者。
彼は、統合失調症の患者であること。
彼は、気狂いであること。

ある、生物の個体。

彼は、彼自身の体内において、暴走する部位を、抱えていること。
そうした暴走は、以下のような性質を持っていること。

暴走性。
周囲の他者の言うことを、聞かないこと。
彼自身の独自判断によって、勝手に動くこと。

周囲の他者。
例。
そのシステムの全体。
他の上位者。
他の同位者。

暴走性。その詳細な性質。
--
自主独立性。周囲から、自主独立すること。
非従属性。周囲の誰かに、従属しようとしないこと。
非配下性。周囲の誰かの支配下に、入ろうとしないこと。
非協調性。周囲と、協調しないこと。
独自判断性。周囲とは、独自の判断を、行うこと。
独自行動性。周囲とは、独自行動を、取ること。
孤立性。周囲から、孤立すること。
引き籠もり性。周囲から、引き籠もること。
非連絡性。周囲とは、連絡を取らないこと。
非連結性。周囲とは、連結しないこと。
浮遊性。周囲から、浮くこと。
独創性。周囲と異なる、新たな思考結果を、生み出すこと。
--

それらの性質は、その生物に対して、以下の内容を、もたらすこと。
それらの性質は、その生物的神経系に対して、以下の内容を、もたらすこと。
--
彼自身の思い通りにならない部位を、彼自身の内部に、抱えること。
彼自身の内部における、制御能力の低下を、もたらすこと。
彼自身の内部における、統率能力の低下を、もたらすこと。
その生物における、能力一般の低下を、もたらすこと。
例。

統合失調症の患者における、認知機能障害。
それは、神経系を統率する能力の低下の一環であること。
入力結果を、一つにまとめる能力の低下。
入力結果を、統合する能力の低下。
思考結果を、一つにまとめる能力の低下。
思考結果を、統合する能力の低下。

彼自身の内部における、統率能力の低下。
それは、以下の内容である。
彼自身の内部において、まとまりが無くなること。
彼自身の内部が、バラバラに分裂すること。
それは、統合失調症の症状であること。
それは、癌の症状であること。
--

統合失調症。
それは、精神的な癌の症状であること。

ある生物における、統合失調症の発症。
それは、以下の内容である。
--
彼自身の神経系における、神経細胞の暴走の、発生。
その神経細胞は、ある日、突然、予告無しに、暴走を開始すること。
それは、癌の発生と、同様であること。
--

統合失調症。
それは、比喩としては、以下の内容である。
--
コンピュータの内部部品の、暴走。
コンピュータのハードウェアの、暴走。
コンピュータのソフトウェアの、暴走。
--

暴走者。暴走する部品。

統合失調症の患者。統合失調症の部品。
彼は、社会全体やシステム全体の、調和や統合やまとまりを、乱す者であること。
彼は、社会全体やシステム全体の、調和や統合やまとまりを、低下させる者であること。

彼は、液体性社会において、徹底的に、排斥されること。
彼は、液体性社会において、徹底的に、社会不適合者となること。
その理由。
液体性社会は、以下の内容を重んじること。
--
全体の調和。
相互の協調性。
互いに、周囲の他者の言うことを聞くこと。
--

彼は、気体性社会において、ある程度、社会適合者となること。
その理由。
気体性社会は、以下の内容を重んじること。
--
相互の分離。
独自性。
自主独立性。
独創性。
多様性。
--

液体性社会。
定住生活様式社会。卵子の社会。女性優位社会。
生物の細胞社会。
その内部が、液体の水分によって、満たされていること。
その内部が、液体性の個体によって、主導されていること。

気体性社会。
移動生活様式社会。精子の社会。男性優位社会。
その内部が、液体の水分によって、あまり満たされていないこと。
その内部が、気体性の個体によって、主導されていること。

気体性社会の個体は、液体性社会の個体よりも、より、暴走的であること。
気体性社会の個体は、液体性社会の個体よりも、より、統合失調症的であること。
例。
--
気体分子は、液体分子よりも、より強く、統合失調症的であること。
移動生活様式者は、定住生活様式者よりも、より強く、統合失調症的であること。
男性優位社会の人々は、女性優位社会の人々よりも、より強く、統合失調症的であること。
--

生物的神経系における、統合失調症の発症。
そのコンピュータシミュレーション。
それは、以下の内容の実現により、達成可能であること。

神経系の内部における、個々の神経細胞。
そうした神経細胞における、独自の暴走。
--
そうした神経細胞において、周囲からのコントロールが、突然、効かなくなること。
そうした神経細胞が、突然、周囲からの入力を、突然、受け付けなくなること。
そうした神経細胞が、突然、周囲からの入力結果を反映しない、独自の反応を、突然、出力するようになること。
そうした神経細胞が、突然、周囲からの入力とは無関係の、独自の発火を、突然、引き起こすようになること。
--
それらの、突然の発生。

神経系の内部における、個々の思考細胞。
そうした思考細胞が、彼自身の独自の判断で、彼自身の結合先を、一方的に、検索し、決定すること。
そうした思考細胞が、自生思考を、引き起こすこと。
そうした思考細胞が、思考における独自暴走を、引き起こすこと。

神経系の内部における、個々の神経細胞。
そうした神経細胞が、学習内容における、コピーのエラーを、引き起こすこと。

神経系の内部における、個々の思考細胞。
そうした思考細胞が、記憶内容についての、突然変異を、引き起こすこと。

それらは、以下と、同様の内容であること。
生物の遺伝子システムにおける、癌の発症。
生物の体内の個々の遺伝子。
そうした遺伝子が、遺伝情報複製における、独自暴走を、引き起こすこと。
そうした遺伝子が、遺伝情報複製における、コピーのエラーを、引き起こすこと。
そうした遺伝子が、遺伝情報複製における、突然変異を、引き起こすこと。

結論。
統合失調症と、癌とは、同一の現象であること。
統合失調症は、精神における、癌であること。
統合失調症は、神経系の動作における、癌であること。
癌は、遺伝子システムにおける、統合失調症であること。
その現象とは、システムの部品が引き起こす、独自暴走であること。

追加内容。2022年10月初出。その3。生物的神経系における発達障害と、気体性や液体性と、性差

との、関連。生物における親子関係と、信頼の形成との、関連。神経回路における傷の治癒と、カウンセリングや心理療法との、関連。男女の恋愛感情における特性の、性差。

生物の神経系における、発達障害。その、神経回路の設計。

ASD。自閉症スペクトラム。

生物の行動が、集団レベルで無く、個体レベルで、閉鎖的であること。
その、神経回路的な特徴は、以下の内容である。

彼自身の行動が、周囲から、分離独立していること。自律性。気体性。
彼自身の行動において。
周囲からの入力に対して、反応しないこと。入力無反応性。
周囲からの入力を、無視すること。入力無視性。
周囲からの入力を、ブロックすること。入力ブロック性。

彼自身の行動において。
強い拘りを、持ち続けること。
周囲からの特定の入力に対してのみ、反応すること。入力選択性。
周囲からの入力と無関係の、特定内容の、出力を、続けること。特定出力リピート性。

それらの特性は、以下の内容である。
気体性。男性性。

それらの特性は、液体性社会において、不適応とされ、徹底的に排

斥されること。
例。女性優位社会。定住生活様式の社会。

ADHD.
生物の行動が、以下のような特徴を持つこと。
多動性。落ち着きの無さ。押しの強さ。

それらの、神経回路的な特徴は、以下の内容である。

神経細胞における、発火の閾値が、通常に比べて、大幅に低いこと。
神経細胞における、神経伝達物質の量が、通常に比べて、大幅に多いこと。
神経細胞が、通常に比べて、容易に、直ぐに、発火すること。

神経細胞における、発火の頻度が、通常に比べて、大幅に高いこと。
神経細胞が、通常に比べて、頻繁に、発火すること。

それらの結果。
神経系の出力細胞が、直ぐに、出力すること。
神経系の出力細胞が、頻繁に、出力すること。
神経系の出力細胞が、強力に、出力すること。

それらの特性は、以下の内容である。
気体性。男性性。

それらの特性は、液体性社会において、不適応とされ、徹底的に排斥されること。
例。女性優位社会。定住生活様式の社会。

生物行動の、分子動力学法による、把握。

気体分子運動や、液体分子運動と、神経系活動とを、合体させること。

そうしたコンピュータシミュレーションの、対象物体。
それらは、以下のような物体であること。

粒子や分子であること。
神経系を内蔵すること。
運動機能を、内蔵すること。移動すること。運動エネルギーを持つこと。
生存の維持。資源の獲得。それらの動機付けを、内蔵すること。

それらの実現は、全体世界における、生物の生態の全体像を、把握するために、とても有用であること。

生物における、親子関係。

彼自身が持つ、基本的な価値観。
それらの価値観の、彼自身の子供への、継承や伝達や複製。
それらの価値観を、文化的子孫として、後世に残すこと。
それらは、彼自身の神経回路の、彼自身の子供への複製により、実現されること。

それらの、神経回路による、実現。
神経系における、固定回路の場合。
それらは、彼自身の遺伝子の複製により、実現されること。
神経系における、可変回路の場合。
それらは、彼自身の子供への教育により、実現されること。

彼自身の子供への教育。
それは、以下の内容である。
彼自身の子供が、自力で、生き延びられるようにすること。
そのため。
彼自身の子供の有能化を、図ること。
彼自身の子供への、彼自身の既得権益の継承を、図ること。
彼自身の子供への、彼自身の既有資源の継承を、図ること。

親と子供。
彼らは、別々の、独立した個体であること。

神経系や神経回路における、自己複製。
それらは、別々の、独立した個体の間における、複製であること。

それらは、以下の内容である。
生物の生殖。その、神経回路における、実現。

有性生殖の場合。
配偶者選択の行動。
神経回路の、配偶者同士による、半分ずつの、自己複製。

その、神経回路における、機能的要件。

子供の神経回路。
その神経回路は、発達の段階を踏んで、徐々に形成されて行くこと。

親子関係において。
子供の神経回路が、初期状態であること。
親が、子供の神経回路に対して、複製回路内容の書き込みを、行う必要が有ること。

親は、子供に対して、伝達したい回路複製の内容を、外部から、教示するのみであること。
子供は、自主的に、自発的に、以下の行動を、行う必要が有ること。
それらの内容の、彼自身の神経回路への、複製行動や、書き込み行動。

親と子供とは、別々の個体であること。
子供の、親に対する、全面的な信頼の形成。それが、予め、必要であること。
子供の、親に対する、初期状態における、信頼関係の完成。それが、予め、必要であること。

親。それは、以下の内容であること。
教育者。教師。指導者。

子供。それは、以下の内容であること。
生徒。信徒。

子供の、親に対する、信頼の形成。そのプロセス。
それは、以下の内容である。

子供が、彼自身の生存を、維持すること。
親が、その実現について、子供に対して、全面的に協力してくれること。
親が、その実現について、子供のことを、全面的にバックアップしてくれること。
子供が、それらの内容を、認識すること。

親が、子供自身の生存維持に必要な資源を、子供に対して、供与すること。
親が、そうした行為を、無条件で行うこと。
親が、そうした行為を、無償で行うこと。
親が、そうした行為を、無限に行うこと。
親が、そうした行為を、絶えず行うこと。
親が、そうした行為を、永続的に行うこと。

親が、そうした行為を、少なくとも、初期状態において、必ず、行うこと。

そうした、親による、子供に対する、意図。

子供が、それらの内容を、認識すること。
そのことが、子供による、親に対する信頼形成の、きっかけとなること。
そうした、子供による、親に対する信頼。それは、以下の内容である。
生物個体間における、原信頼の形成。

その結果。
子供は、親による教示内容を、無条件で、彼自身の神経系へと、コピーするようになること。
子供は、親に対して、無条件で、従うようになること。

それらの行動の実現における、前提条件。
ある生物個体から、別の生物個体への、神経回路のコピー行動。その実現。

二つの生物個体の間における、関係。
一方の生物において。
他方の、相手の生物の行動が、彼自身の生きやすさの、維持や増大に、寄与すること。その可能性が、大きいこと。
他方の、相手の生物の行動が、彼自身の資源獲得の、維持や増大に、寄与すること。その可能性が、大きいこと。
彼自身が、そのことを、確認すること。
彼自身が、そのことを、認識すること。
それが、彼自身による、相手に対する信頼の形成を、もたらすこと。
それが、彼自身における、相手の行動様式をコピーしようとする動機付けを、もたらすこと。
それが、彼自身における、相手の神経回路をコピーしようとする動機付けを、もたらすこと。
それが、彼自身における、そうした気持ちの醸成に、つながること。

短期の関係の場合。行きずりの相手。一時的な契約者。
長期の関係の場合。親。教師。

生物的神経系の行動における、気体性と液体性との、差。
それは、以下の内容である。
--
精子と卵子との、行動様式における、差。
男女の、行動様式における、性差。
--
それらの、神経回路における、実現。

神経細胞において。
--
出力値が、小さいこと。それは、以下の内容である。液体性。女性性。
出力値が、大きいこと。それは、以下の内容である。気体性。男性性。

--
発火の閾値が、高いこと。少動性。それは、以下の内容である。液体性。女性性。
発火の閾値が、低いこと。多動性。それは、以下の内容である。気体性。男性性。
--
発火の頻度が、低いこと。少動性。それは、以下の内容である。液体性。女性性。
発火の頻度が、高いこと。多動性。それは、以下の内容である。気体性。男性性。
--
入力値に対応する出力値を、連続させること。順応性。連続性。一体融合性。調和性。それは、以下の内容である。液体性。女性性。
入力値に対応する出力値を、反転させること。反転性。切断性。分離独立性。非調和性。それは、以下の内容である。気体性。男性性。
--
出力値が、揃っていること。出力値の分布が、高密度であること。集約性。一極集中性。中心指向性。それは、以下の内容である。液体性。女性性。
出力値が、バラバラであること。出力値の分布が、低密度であること。粗放性。離散性。普遍指向性。それは、以下の内容である。気体性。男性性。
--

コピーの対象となる神経回路の、商品性。
神経回路のコピーにおける、有償性。
例。書籍の有償性。学校教育や、宗教教育や、企業教育における、有償性。

神経回路の、大元の所有者。
彼は、以下のような相手に対してのみ、無償のコピーを、認めること。
彼自身との間において、高度の同質性を持つ者。
例。親から子供への、教育。
彼自身に対して、将来、確実に、報酬を返してくれる者。
例。税金を利用した、無償の公教育。

生物的神経系に対する、効果的な教育訓練。

相手の神経系に対して。
--
その内容を学習した場合、彼自身における、所有資源が増えること。
その内容を学習した場合、彼自身における資源獲得が、より、容易になること。
彼自身に対して、それらの内容を、予め、強く認識させること。
彼自身に対して、それらの認識を、強く、持続させること。
--

彼自身の神経系の内部において。
--
思考効率の向上。
思考細胞における、結合先の探索効率の、向上。
思考細胞における、結合先の選択効率の、向上。
思考細胞における、結合頻度の、向上。
思考細胞における、結合先の選択結果に対するフィードバック機能の、向上。
思考細胞における、結合先の選択における、試行錯誤のコストの、切り詰め。
--
学習効率の向上。
-
神経細胞における、発火能力そのものの、向上。
神経細胞における、発火を制御する能力の、向上。
思考細胞における、発火結果に対するフィードバック機能の、向上。
-
神経回路における、回線の太さの、向上。
神経回路における、回線の安定性の、向上。
--
疲労の防止。エネルギーの補給性の、向上。
神経細胞の活動における、睡眠と休息の、導入。
--
神経系同士の間において。
神経回路のコピー効率の、向上。

情報伝達効率の向上。
--

それらにおける、前提条件。
教育者自身も、生物的神経系の一種であること。
その自覚が、彼自身において、必要であること。
例。人間の教師。

生物的神経系における、睡眠。
それは、以下の内容である。
--
神経細胞における、活動エネルギーの充電。
神経細胞における、活動上の疲労回復のための、休憩や休息。
そのために、外部入力を、一定期間、遮断すること。
そのために、外界からの働きかけに対して、一定期間、反応しなくなること。
--

生物的神経系における、睡眠。
その、神経回路における、実装。
覚醒モードと、睡眠モードとの、切り替え。その実装が、予め、必要であること。

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
それらの、発見や解明。
そのための、手法。
それは、以下の内容である。
カウンセリング。

カウンセリング。
それは、以下のように、分類される。
--
患者本人による、彼自身の神経系内部の、自己探査。治療者による、その行為に対する、後押しや援助。

患者本人による、それらの結果の、自己申告。治療者による、その内容に対する、共感的傾聴。
--
治療者による、患者の神経系内部に対する、外部からの探査や調査。
--

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
それらの、治癒。
そのための、手法。
それは、以下の内容である。その内容は、生物共通である。その内容は、精神以外や神経系以外と、共通である。

--
（１）
-
患者本人による、自己治癒。彼自身が、解決法を、自力で見つけて、自力で実践すること。
-
治療者による、介入。薬物投与。手術。
-
--
（２）
治癒後の、リハビリテーション。そのための、トレーニングの、実践。
--

そのための、共通の手順。
それは、以下の内容である。その内容は、生物共通である。その内容は、精神や神経系以外と、共通である。
--
傷の外側の防御を、解除すること。
デリケートでセンシティブな、内側の、内面の、傷を、発見すること。
その傷を、観察すること。
その傷に触れて、感触を確かめること。
その傷の重症度を、確かめること。
その傷の治療方針を、確立すること。
その傷の治療を、実行すること。

その傷の治療後のアフターケアを、実施すること。
--

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
それは、具体的には、以下の内容である。
--
彼自身における、生きやすさの喪失の、自覚。
彼自身における、資源の喪失の、自覚。
例。同質者や近親者との、死別や離別。
--
彼自身における、生きやすさの欠如の、自覚。
彼自身における、失敗性の自覚。
彼自身における、無能性の自覚。
彼自身における、社会的な、下位性や劣位性の、自覚。
--
それらの自覚は、いずれも、彼自身の実体験に、基づくこと。

彼自身が、それらの存在を、意識した場合。
大きな痛覚が、彼自身を、襲うこと。
その結果。
彼自身の、実際の環境適応行動において、大きな支障が、発生すること。

そのため。
--
彼自身が、それらの存在を、嫌悪すること。
彼自身が、それらの存在を、内側に、隠蔽すること。
彼自身が、それらの露見を、内側に、抑圧すること。
彼自身が、それらの露見を、内部防御すること。
彼自身が、それらの存在を、意識しないようにすること。
--

そうした、内部防御の、神経回路。
それは、以下の内容である。
--
そこから先に、発火の伝達が、進まないようにしていること。
そこから先を、発火の伝達が、迂回するようにしていること。

そのことで。
そこから先に存在する、傷の内容。
その内容が、想起されないようにしていること。

そうした、伝達ブロックを行う、神経回路。
それは、武装的な、神経回路であること。
--

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
神経回路における、傷。
それらに対する、内部防御の発生。
その結果。
--
神経系の内部において、迂回対象となる、大きな神経回路部分が、出来てしまうこと。
神経系の内部において、空洞的な、大きな神経回路部分が、出来てしまうこと。
神経系の内部において、上手く働かない、大きな神経回路部分が、出来てしまうこと。
--
その結果。
彼自身の、実際の環境適応行動において、大きな支障が、発生すること。
--

生物における、失敗の体験。
生物における、無力感の体験。
生物における、彼自身の無能性の、体験。
それらは、以下の内容である。
-
生物における、挫折の体験。
-

彼自身が、あることを実現しようと、何度も、トライしたこと。
例。資源の獲得。アラーム鳴動の停止。
しかし。
彼自身が、そのことを、結局、最後まで、実現できなかったこと。

そうした体験。
それは、以下の内容である。
-
トラウマ。
-
そうしたトラウマは、どのような新たな形状を、神経回路に対して、もたらすか？
その解明のために必要な、前提条件。
それは、以下の内容である。
--
資源の喪失についての、体験。
以前の、所有資源量についての記憶。その記憶が、先ず、必要であること。
--
味方の喪失についての、体験。
援助者の喪失についての、体験。
同質者の喪失についての、体験。例。彼自身の、親や子供。
以前の、彼らの存在についての認識や記憶。そうした、認識や記憶が、先ず、必要であること。
彼らの存在の、新たな喪失についての、新たな認識。そうした、認識が、次に、必要であること。
--

生物における、失敗の体験。その分類。
--
長期の場合。繰り返しの場合。漸進性の場合。
彼自身が、いくら、フィードバックを重ねて、やり直しの試行錯誤を繰り返しても、結局、成功しなかったこと。
--
短期の場合。一発性の場合。
成功に対する障壁の、強力性や強烈性。彼自身が、それらの内容を、即座に実感して、直ぐに、一発で、試行錯誤を、諦めたこと。
--

例。
彼自身の競争相手との、力量の差の大きさ。彼自身が、その内容を、実感することについて。
直ぐに、即座に、実感する場合。短期性。一発性。
徐々に、次第に、実感する場合。長期性。漸進性。

彼自身における、当初の意図。
--
資源そのものの、獲得。
資源の入手先の、獲得。
資源の獲得における協力者の、獲得。
--
それらの意図の、彼自身における、自力での、実現や成功の、不可能性。
彼自身が、そのことを、認識すること。
それは、以下の内容である。
挫折。

--
資源そのものの、喪失。
資源の入手先の、喪失。
資源の獲得における協力者の、喪失。
--
彼自身が、そのことを、認識すること。
それは、以下の内容である。
喪失。欠損の発生。

それらのインパクトが、強烈であった場合。
それらは、彼自身の精神の内部において、以下の内容を、生み出す。
それらは、彼自身の神経系の内部において、以下の内容を、生み出す。
絶望。大きな傷。トラウマ。

精神的なトラウマの、神経回路における実装において。
先ず、基本的な傷の生成の実装が、必要であること。

生物的神経系。
--
彼自身の行動における、一回の、単純な、失敗。その実装。
彼自身による、その生起についての、認識の発生。その実装。
--

それらの両方が、必要であること。

失敗の原因。
個々の神経細胞において。
出力先の選択における、間違い。選択相手の細胞が、不適切であったこと。
--
遺伝的な固定結合の場合。
思考細胞による、可変的な結合の場合。
--

神経伝達物質の出力量における、不足や過剰。
--
遺伝的な固定量の場合。
学習細胞による、可変的な量の場合。
--

個々の神経細胞において。
--
彼自身における、出力先の、全ての可能な組み合わせ。
彼自身における、神経伝達物質の出力量の、全ての可能な調節の、組み合わせ。
--
それらを、全て試しても、全て、駄目であった場合。

それらを、二度と試したくなくなること。
それは、以下の内容である。
--
最大限の、失敗と挫折。
絶望。トラウマ。
--

絶望。トラウマ。
そうした状態の実現において。
--
彼自身が、今まで試した、神経回路の内容を、一通り記憶すること。
彼自身において、そうした記憶能力が、必要であること。
--

そうした能力の実現において。
それぞれの、試行した回路内容について、抑制タイプのフィードバックを、その都度、追加の形で、付けること。

それらの結果。
彼自身が、以下の内容を、新たに、認識すること。
-
彼自身の意図の実現において、その神経回路の構成が、重大な問題を起こしていること。
-
その結果。
彼自身の神経系は、大元の入力があっても、何も出力しなくなること。
出力自体における、詰まりの、発生。
そのこと自体を、検知して、記憶する、仕組み。
それらが、神経回路における、大きな傷であること。
それらが、精神における、絶望であること。
それらが、精神における、トラウマであること。

仮に、その神経回路の領域への入力を許した場合。
傷の部分が、発火してしまうこと。
それは、彼自身にとって、とても、不快であること。
その結果。
彼自身の神経系は、以下の状態へと、移行すること。
-
問題を起こした、その神経回路の領域に対する入力の、ブロック。
-

仮に、その神経回路の領域が、発火した場合。
彼自身が、不快になること。
その発生に対する、予防対策のため。
彼自身が、その神経回路の領域への入力を、後付けで、自動的に、ブロック可能にすること。
そうした、入力ブロックの、機構。
そうした機構を、神経系において、予め、実装すること。

そのようにして形成された、神経回路における、入力ブロックの機構。
そうしたブロック機構を、徐々に解除すること。

そのための、神経系操作のテクニック。
それは、以下の内容である。
-
カウンセリング。
-

そうした神経回路における、不快部分そのものの、除去。
そのための、神経系操作のテクニック。
それは、以下の内容である。
-
心理療法。
-

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
神経回路における、傷。

それらは、以下の内容である。

仮に、彼自身が、外部から攻撃された場合。彼自身は、それに対して反撃する能力を、持ち合わせていないこと。
彼自身の神経系における、そうした、神経回路領域。
例。
--
彼自身が、外部の他者から、問題を指摘されること。
彼自身が、それに対する反論の、構成能力を、持ち合わせていないこと。
彼自身が、それに対する問題解決案の、立案能力を、持ち合わせていないこと。
彼自身の神経系における、そうした、神経回路領域。
--

それは、以下の内容である。
--
彼自身における、問題解決能力の欠如の、露呈。その現場。
彼自身の神経回路における、致命的な欠点の、箇所。
彼自身における、精神的な急所。
彼自身における、精神的な弱い点。
彼自身の神経系における、急所。

彼自身の神経系における、弱い点。
--

仮に、彼自身が、その箇所を、外部から攻撃された場合。
-
彼自身は、それに対して反撃出来ずに、一方的に、叩きのめされること。
それは、彼自身の生死に、直結すること。
-
そのため。
彼自身は、その箇所を、外部からは、隠蔽しておきたいこと。
彼は、そうした急所を、彼自身の私的領域の奥底へと、退避させること。

それは、以下の内容である。
-
精神的トラウマの、隠蔽。
精神的病理部分の、隠蔽。
-
そうした行為。
それは、生物において、共通である。

生物の精神における、傷。
生物的神経系における、傷。
神経回路における、傷。

それらは、以下の内容である。
生物における、一般的な傷の、一種であること。

生物における、精神的トラウマへの対処。
その内容は、生物が、彼自身の傷一般に対して取る対処行動と、同一であること。

-
彼自身の傷一般の、彼自身にとっての、急所化。
彼自身の傷一般の、彼自身による、隠蔽。
彼自身の傷一般の、彼自身による、防御。

-
それらの一環として、彼自身における、精神的トラウマの、隠蔽や防御が、起きていること。

生物における、心理療法の、実践。
生物的神経系における、精神的トラウマの、治癒。
それは、生物における、傷一般の治癒と、同一のプロセスを、辿ること。

生物における、心理療法の、開発。
それは、生物における、傷一般の治癒方法の開発の、一環であること。

男女の間における、恋愛感情の、違い。
それは、以下の内容である。

女性は、生殖資源や生殖設備を、賃貸物件として、予め、一方的に、占有していること。
男性は、女性が占有する、そうした物件の、借用の応募者であること。
女性は、そうした応募者としての男性に対して、審査や査定や選定を、予め、厳しく、念入りに、実施すること。
それは、以下の内容と、同様であること。
不動産物件の所有者が、不動産物件の借用の応募者に対して、審査や査定や選定を、予め、厳しく、念入りに、実施すること。

女性による、そうした厳しい審査と査定と選定に合格した男性。
そうした男性のみが、初めて、女性にとって、恋愛対象と、なり得ること。

その結果。
女性が、男性に対して、恋愛感情を抱く、タイミング。
そのタイミングは、女性が、男性に対する、審査と査定と選定を、完了した後と、なること。
そのタイミングは、以下のタイミングに比べて、一段階以上、確実に、遅れること。
--

女性が所有する物件の、借用の応募者としての、男性。
そうした男性が、女性に対して、恋愛感情を抱く、タイミング。
--

追加内容。2022年10月初出。その4。有性生殖における、魅力的な異性。その特質。生物一般における、魅力的な個体。その特質。

有性生殖における、魅力的な異性。その特質。

生物における、異性の個体に対する魅力。その源泉。
ある生物個体において。
彼自身と同じ性別の個体が、予め、所有していない、様々な特質。
そうした特質を、その異性の個体が、予め、強固に備えていること。

（１）
男性にとっての、異性。女性。
そうした女性の、男性にとっての、魅力。
それは、以下の内容である。

--
彼女が、液体性を、十分に備えていること。
彼女が、液体としての有能性を、十分に備えていること。
それは、以下の内容である。
-
定住性。不動性。高密度での分布性。
出力における、高品質性や、高い完成度。
包含力や包括力の、高さ。

物事を呑み込む力の、高さ。丸暗記の能力の、高さ。
-

--
彼女における、そうした液体性。
それらが、男性にとって、彼自身の気体性の維持にとっての、深刻な脅威と、ならないこと。
男性にとって、彼自身が維持したい、気体性に基づく、様々な価値観。
それは、以下の内容である。
-
個人主義。自由主義。分離独立性。自主性。自発性。個人プライバシーの尊重。多様性の尊重。リスクを取ること。チャレンジ精神。革新性。科学性。近代化の能力。独創性。普遍性。大局的な視点。
-
女性が、男性における、そうした価値観の維持を、侵害しないこと。
女性が、男性に対して、専制支配を行わないこと。

--
彼女が、以下の性質を、十分に備えていること。
有性生殖における、主要で重要な、生殖資源と生殖設備を、予め、十分に所有していること。
女性の遺伝子。卵子。卵に付与すべき栄養分。育児機構。
それらの働きの有効性を、十分に備えていること。若々しいこと。健康であること。
その結果。
有性生殖において。急所性や、弱点性や、貴重性。それらを、所有していること。
分布位置において。内側性や、内部性や、温室性。それらを、所有していること。
装備において。非武装性。護衛を必要とすること。傷付きやすさ。それらを、所有していること。

--
男性が、予め所有していない、様々な特性。
身体的な特性。女体特有の、特性。
外観。ルックス。外装。それらの良さ。女体カーストの高さ。柔軟

性。華麗性。美しさ。豊潤性。
性行為において。彼が単独では得られない性的快感を、彼女から、十分に得られること。
神経系において。彼が持っていない、液体的な思考回路を、豊富に備えていること。

--
生物共通の、良好な特性。
反応性の良さ。運動性の良さ。知能の高さ。
神経系。神経回路。思考回路。性格。考え方。それらの良さ。光明性を、十分に備えていること。
取り扱いの、容易性。気安く接することが、出来ること。

（２）
女性にとっての、異性。男性。
そうした男性の、女性にとっての、魅力。
それは、以下の内容である。

--
彼が、気体性を、十分に備えていること。
彼が、気体としての有能性を、十分に備えていること。
それは、以下の内容である。
移動性。飛翔性。低密度での分布性。
出力における、新規性や、革新性や、独創性や、近代性の、高さ。
物事を分析する力の、高さ。科学的能力の、高さ。
批判力や、撃破力や、破壊力の、高さ。

--
彼における、そうした気体性。
それらが、女性にとって、彼女自身の液体性の維持にとっての、深刻な脅威と、ならないこと。
女性にとって、彼女自身が維持したい、液体性に基づく、様々な価値観。
それは、以下の内容である。
-
集団主義。同調主義。調和主義。一体融合性。協調性。集団プライバシーの尊重。包含性の尊重。リスクを避けること。安全志向。安定志向。前例踏襲主義。非科学性。局所性。微細な視点。

-
男性が、女性における、そうした価値観の維持を、侵害しないこと。
男性が、女性に対して、暴力支配を行わないこと。

--
彼が、以下の性質を、十分に備えていること。
有性生殖における、最低限の生殖資源と生殖設備を、予め、十分に所有していること。
男性の遺伝子。精子。
それらの働きの有効性を、十分に備えていること。若々しいこと。健康であること。
その結果。
有性生殖において。非急所性や、非弱点性や、非貴重性。それらを、所有していること。
分布位置において。外側性や、外部性や、非温室性。それらを、所有していること。
装備において。武装性や、自衛性。攻撃性や、防御性や、反撃性。傷付きにくさ。それらを、所有していること。

彼女に対して、温室環境や、温室生活を、朝貢し、提供する、能力。
彼女に対して、快適で、楽で、安全な、生活環境を、朝貢し、提供する、能力。
彼自身は、苛酷な環境に対する、強力な耐性を、所有していること。

彼女を、護衛する、能力。
彼女を、代表する、能力。彼女の代わりに、表面に露出して、脅威と直接対決する、能力。

彼女が占有する、豊富な、生殖資源や、生殖設備。
彼が、それらを借用するための対価を、彼女に対して、継続的に、十二分に支払い続ける、能力。
彼が、彼女に対して、そうした不労所得を、供給し続ける、能力。経済的に稼ぐ、能力。

--
女性が、予め所有していない、様々な特性。
身体的な特性。男体特有の、特性。

外観。ルックス。外装。それらの良さ。男体カーストの高さ。筋力の強さ。剛直性。強靭性。
性行為において。彼女が単独では得られない性的快感を、彼から、十分に得られること。
神経系において。彼女が持っていない、気体的な思考回路を、豊富に備えていること。

--
生物共通の、良好な特性。
反応性の良さ。運動性の良さ。知能の高さ。
神経系。神経回路。思考回路。性格。考え方。それらの良さ。光明性を、十分に備えていること。
取り扱いの、容易性。気安く接することが、出来ること。

生物一般における、魅力的な個体。その特質。
それは、以下の内容である。
--
生物としての力。そうした力を、十分に備えていること。
生物としての有能性。そうした能力を、十分に備えていること。
--
生存を維持する力。生き抜く力。資源を発見する力。資源を獲得する力。資源を奪取する力。資源を私有する力。所有資源を防衛する力。
そうした有能性を、十分に備えていること。
--
生殖する力。自己複製の力。自己増殖の力。彼自身の子孫を、後世に残す、力。遺伝的子孫。文化的子孫。
そうした有能性を、十分に備えていること。

--
周囲の他者に対して、光明性を与える、力。
周囲の他者に対して、生きやすさを与える、力。
周囲の他者に対して、生きやすさを生産する、力。
周囲の他者に対して、生きやすさを供給する、力。
--
周囲の他者に対して、暗黒性を与えない、力。

周囲の他者に対して、生きにくさを与えない、力。
周囲の他者に対して、生きにくさを強制しない、力。
周囲の他者に対して、虐待や搾取を、行わない、力。
--
そうした有能性を、十分に備えていること。

既得権益を豊富に所有する、無能な、生物個体。
彼自身は、生物としての力を、個人的には、あまり持たない。
彼自身は、生物としての有能性を、個人的には、あまり持たない。
彼自身は、生物としては、個人的には、あまり魅力的では無い。
例。日本社会における、世襲の国会議員。
例。日本社会における、世襲の大資産家の、息子や娘。

追加内容。2022年11月初出。生物における、圧力やストレスや欲求不満や葛藤や矛盾。生物における、社会的抑圧。生物における、親子関係の成立。生物力学は、物理的な力学の一環であること。液体性の生物と気体性の生物。生物の神経系における、言語と戦略立案との、共通性。生物の神経系における、意識と無意識。

正直性。誠実性。真実性。本当のことを言うこと。
ある生物において。
彼自身の神経系における、リアルな内部の真実。その内容を、そのまま、外部へと出力すること。

不正直性。不誠実性。虚偽性。嘘をつくこと。偽ること。
ある生物において。
彼自身の神経系における、リアルな内部の真実。その内容に反する外部出力を、行うこと。
その継続的な実現のために、彼自身の神経系活動における、意識的な、統制や制御を、絶えず必要とすること。

仮に、彼自身において、そうした意識的な統制や制御が、緩んだ場合。
彼自身の神経系における、リアルな内部の真実。その内容が、うっかり、外部に露見すること。
例。彼自身が、夢を見ること。彼自身が、カウンセリングを受けること。

彼自身による外部出力の内容。
その内容が虚偽であることが、周囲に露見しない限り。
彼自身は、より、生きやすくなること。

彼自身の神経系における、リアルな内部の真実。
それは、以下の内容である。

内部における、不都合な点。

仮に、その内容を、外部へと露出させた場合。
その行為が、彼自身の生きやすさの、低減や喪失に、繋がること。
そうした箇所。

（１）
彼自身における、生きにくさの原因となっている、箇所。
--
内部における傷。
内部における急所。
内部における弱い点。
内部における劣った点。
内部における下位性。

内部における非武装の箇所。
内部における脆弱性。
内部における混乱。
内部における、矛盾や葛藤や対立。
内部における機密情報。
--
それらの、隠蔽や内部抑圧。

（２）
周囲の相手を、より、生きにくくすること。
周囲の相手の生きやすさを、剥奪すること。
彼自身は、そのことで、より、生きやすくなること。
--
周囲の相手に対する、攻撃性。
周囲の相手が所有する資源を、奪取すること。
周囲の相手を、打倒すること。
周囲の相手を、虐待し、搾取すること。
--
それらの行為についての、秘密の、目論見や計画。

不正直性。不誠実性。虚偽性。それらの、神経回路における、表現。
--
本来、0を出力すべきところを、1を出力すること。
神経細胞が、本来、無発火であるべきところを、発火すること。
--
本来、1を出力すべきところを、0を出力すること。
本来、-1を出力すべきところを、0を出力すること。
神経細胞が、本来、発火すべきところを、無発火で通すこと。
--
本来、1を出力すべきところを、-1を出力すること。
神経細胞が、本来、発火を促進すべきところを、抑制すること。
--
本来、-1を出力すべきところを、1を出力すること。
神経細胞が、本来、発火を抑制すべきところを、促進すること。
--

葛藤。矛盾。
ある生物において。
彼自身の神経系における、入力と出力において。
それぞれの、同一の、箇所や位置において。
--
1と-1とが、同じ強さで、同居していること。
促進と抑制とが、同じ強さで、同居していること。
--
1と0とが、同じ強さで、同居していること。
-1と0とが、同じ強さで、同居していること。
発火と無発火とが、同じ強さで、同居していること。
--

それらは、彼自身の行動における、混乱をもたらすこと。
--
彼自身は、どの入力を、信用し採用すれば良いか、分からなくなること。
彼自身は、どの出力を、選択し実行すれば良いか、分からなくなること。
--

そうした混乱。
それらは、彼自身の行動における、間違いや遅延や停止を、もたらすこと。
それらは、彼自身における有能性の、低減や喪失に、つながること。
それらは、彼自身における生きやすさの、低減や喪失に、つながること。
それらは、彼自身における弱い点となること。

間違い。遅延。停止。
それらの原因。

ある生物において。
--

彼自身が、無能過ぎること。
鈍感性。
無知性。
知能の欠如。
学習程度の低さ。
愚鈍性。
盲信性。
作為の欠如。
分析の不足。計画の不足。

それらに基づく、不作為的な、間違いや遅延や停止。
-
彼自身が、有能過ぎること。
敏感性。
頭脳の明晰性。頭の良さ。
知識の多さ。
知能の高さ。
学習程度の高さ。
分析のし過ぎ。計画のし過ぎ。
気の回し過ぎ。空回り。
それらに基づく、作為的な、間違いや遅延や停止。
--

--
注意不足。注意の散漫性。
眠さ。
疲労。
それらに基づく、無意識的で不作為的な、間違いや遅延や停止。
-
注意の過敏性。注意の過集中性。
パニック。
動揺。
それらに基づく、無意識的で不作為的な、間違いや遅延や停止。
--

--
彼自身が、周囲の相手に対して、故意に、損害を与えたいこと。
彼自身が、周囲の相手が所有する資源を、故意に、減らしたいこと。
そうした意図に基づく、意識的で作為的な、間違いや遅延や停止。

--

ある生物において。
彼自身の神経系において。
その神経細胞において。
--
頻度。強さ。大きさ。多さ。
それらの程度において。
-
入力の不足。出力の不足。
入力の過剰。出力の過剰。
--
それらは、彼自身に対して、間違いや遅延や停止を、もたらすこと。
それらは、彼自身に対して、混乱を、もたらすこと。
それらは、彼自身に対して、生きやすさの、低減や喪失を、もたらすこと。

親子の上下関係。

親の場合。

上位性。
--
既に、能力的に、十分に、発達し成熟していること。
既得権益を、十分に、取得していること。
経験を、豊富に、所有していること。
前例を、豊富に、学習し蓄積していること。
その結果。
資源の、獲得や保有において、有能な存在となっていること。
生存維持において、有能な存在となっていること。
--

下位性。
--
既に、擦れていること。既に、中古となっていること。既に、旧弊となっていること。

既に、老いていること。将来性を、喪失していること。新規の適応力を、喪失していること。
子孫を、無事、将来に残すための、使い捨ての存在であること。
子孫にとっての、踏み台としての存在であること。
--

子供の場合。

上位性。
--
親にとっての、意思疎通不能性。
親にとっての、制御不能性。

例。
夜泣きすること。いつまでも、泣き止まないこと。
親に対して、無闇に反抗すること。

-
親にとっての、大切さ。
親にとっての、貴重性。

例。
親にとっての、生きがいであること。
親にとって、次世代を担う、貴重な存在であること。
そのため。
親によって、大切にされ過ぎること。
その結果。
我儘になること。
親にとって、制御不能になること。
-
若さ。活動エネルギー。
それらに、満ち溢れていること。
-
環境適応における、可変性や柔軟性。
それらに、満ち溢れていること。
-
初々しさ。新規性。将来性。
親を超えた、有能性の発揮の、可能性。
それらに、満ち溢れていること。
--

下位性。
--
生存維持のための、能力発達の、欠如や不足。
生存維持のための、能力学習の、欠如や不足。
無力性。無能性。未経験性。
その結果。
彼自身の生存の維持において。
親からの、資源の供給が、必須であること。
--

従来の、心理学や社会学における、社会の概念。
S.Freud.
彼における、超自我の概念。
それは、以下の内容である。

生物個体に対する、社会的禁止や、社会的統制。
例。親による、子供への、躾け。個人に対する、社会のルールの強制。

その実態。
力量における上位者たちによる、その生物に対する、以下の内容の行為。
支配。統制。規制。制限。禁止。制御。規則の、一方的な生成。規則の遵守を、強制すること。躾け。制約。
そうした上位者たちの、総体や統合体としての、社会。

上位者。それは、以下の内容である。
生物の場合。その生物よりも、有能な者。その生物よりも、より大きな既得権益を、行使する者。
無生物の場合。その生物よりも、物理的に、強大で強力な、存在。
例。苛酷な気候。風雨。土砂災害。干ばつ。洪水。地震。雷。火災。

それらの内容の、その生物の神経系における、強制的な内面化。
その生物の神経回路への、強制的な学習による、強制的な実装。

それは、以下の内容である。
外部神経系からの、制御。外的制御。
上位者から強制された、学習。強制的学習。

それらの発生の背景。
本来。
生物は、無制限に、より、生きやすくなりたいこと。
例。
生物は、無制限に、資源を、奪取し獲得したいこと。
生物は、無制限に、自己複製し、自己増殖したいこと。
生物は、無制限に、彼自身の子孫を、後世に残したいこと。

それは、以下の内容である。
生きやすさへの圧力。
生きやすさの実現への圧力。生きやすさの増強への圧力。
生存への圧力。
それらの圧力は、無限の拡大性を、有すること。それは、気体性であること。
それらの圧力は、その生物の内部に、溜まり続けること。
欲求。

S.Freud.
彼における、リビドーの概念。

ある生物において。
外的制約。
外部環境における、彼自身にとっての上位者がもたらす、制約。

内的制約。
彼自身の内部環境がもたらす、制約。例。不健康であること。栄養失調であること。
彼自身の能力における、限界。例。知能の弱さ。筋力の弱さ。
彼自身が位置する環境における、限界。例。移動生活様式への、不適合。定住生活様式への、不適合。祖先から受け継いだ、既得権益の、少なさ。

カウンセリングにおける、投影や転移や同一視。
患者本人と治療者との、閉鎖的で限定的な、二者関係において。
患者が、治療者のことを、以下のように見做すようになること。
彼自身の精神を、傷付けた者。
彼自身における矛盾や葛藤。それらが生じた原因となる者。

欲求不満。

S.Freud.
彼における、欲求不満と、その防衛の、概念。
それは、以下の内容である。
生きやすさへの圧力を、本来の場所以外の、外部へと、逃がすこと。
生きやすさへの圧力を、内部へと、封印すること。その結果。内圧が、増大すること。その副作用としての、様々な精神症状が、発生すること。

ある生物において。
彼自身の生きやすさの、実現や獲得や増強において。
それらの水準が、低いこと。それらが、不足していること。
絶対的な、低水準や、不足。絶対量の場合。
相対的な、低水準や、不足。周囲の他者と、比較した場合。
過去。彼自身が、満たされて来なかったこと。
現在。彼自身が、満たされていないこと。
未来。彼自身が、満たされそうにないこと。
彼自身が、それらのことを、認識し自覚していること。彼自身が、それらのことを、不快に感じていること。欲求不満の意識の、顕在化。
彼自身が、それらについての、認識や自覚の発生を、内的に、防衛し抑圧していること。彼自身が、それらのことを、内的に、不快に感じていること。欲求不満の意識の、潜在化。

生物における、欲求。
--
資源の、獲得や蓄積や消費。

自己複製。生殖の実現。
彼自身が、それらの実現において、有利になること。優位性や上位性の、実現。
--
彼自身が、それらの実現において、失敗する場合。
彼自身の内部において、生きやすさへの圧力が、更に高まること。
彼自身の内部において、不満が、溜まること。

そうした不満の、捌け口。
彼自身の内部における、生きやすさへの圧力の、排出口。
それは、以下の内容である。

（１）
圧力を、抜くこと。
--
問題解決。本来の進路を、そのまま進ませること。
-
計画的な、問題解決。戦略の立案を、事前に行うこと。
衝動的な、問題解決。行き当たりばったりであること。
-
--
逸らし。
本来の進路から、外すこと。
本来とは別の進路へと、誘導すること。
代替の進路へと、進ませること。
--

（２）
圧力を、抜かないこと。
--
圧力を、内部に封印すること。
圧力を、内部に閉じ込めること。
圧力釜の蓋を、閉ざすこと。

仮に、圧力が、内部に、溜まり過ぎた場合。
彼自身の不満が、破裂すること。
彼自身の不満が、炸裂すること。
彼自身の不満が、爆発すること。
--

欲求不満。生きやすさの、実現や増強への、内的圧力。生存への圧力。
それらの、外的な放出。それらの、内的な封印。
それらの動機付け。それらの行動。それらの、神経回路における実装が、必要であること。
それは、以下の内容である。
生物的神経系において。
生きやすさの実現における、良好性や不良性の、実装。
そうした良好性や不良性を、彼自身が自覚するメカニズムの、実装。

生きやすさの実現への、圧力。生存への圧力。欲求不満。その内的な封印。その内的な解消。そうした行動。

例。
S.Freud.
彼における、欲求不満の防衛機制の、概念。
それは、生物的神経系の実装の観点からは、以下のように、置き換え可能であること。
--
合理化。生きやすさの実現への圧力の、内的な蓄積について。その正当化を、行うこと。
--
同一視。良好で理想的な、他者の状態を、彼自身へと、取り込むこと。そうした他者を、彼自身と、同一視すること。そのことで、彼自身を、良好であるとして、称賛すること。
投射。彼自身の不良な状態を、他者へと、投射すること。そうした他者を、不良であるとして、非難すること。
--
反動形成。本来と反対の内容の行動を、取ること。彼自身の行動内容における、反転や逆行。
--
逃避。
彼自身の内部において、生きやすさの実現への圧力の、逃げ場所を、探すこと。

-
退行。
彼自身の内部において、生きやすさの実現への圧力の、逃げ場所を、作ること。その空きスペースを作るための、彼自身の精神の圧縮を、行うこと。
彼自身の内部において、精神の逆戻りを、行うこと。
自力での資源獲得。彼自身の精神が、その能力の学習以前の状態に、逆戻りすること。子供返り。幼稚化。幼児化。
彼自身における、行動発達。その時系列における、反転や逆行。
彼自身における、学習の進展。その時系列における、反転や逆行。
-
--
置き換え。
-
代償。代理や代替の内容を、入手すること。そのことで、取り敢えず、満足すること。そのことで、不満を解消すること。
昇華。本来の低次の内容を、より高次の内容によって、代替し、代用すること。そのことで、取り敢えず、満足すること。そのことで、不満を解消すること。
-
--

ストレス。ある物体において。圧力を受けることによって生じる、歪み。
ストレッサー。そうした圧力を掛ける者。
ストレス反応。そうした歪みそのもの。

ストレッサーによる、働きかけ。
外部環境。内部環境。そうした環境からの、物理的な働きかけ。そうした働きかけが引き起こす、入力刺激。
無生物からの、入力刺激。例。化学物質によるアレルギー。
生物からの、入力刺激。例。対人関係における、劣悪性。
そうした入力刺激における、入力値。その値における、過大性や過多性。
そうした入力刺激の発生頻度。その頻度における、過大性や過多性。
それらの結果。

その生物が、彼自身の神経系や、彼自身の内部基盤設備を、酷使してしまうこと。
その結果。
その生物が、彼自身の神経系や、彼自身の内部基盤設備を、壊したり、傷付けてしまうこと。
それは、以下の内容である。
ストレスに基づく、病気や傷の、発生。

ストレッサーの効果が高くなる、要因。
--
その量が、多いこと。
その頻度が、高いこと。
その力が、強いこと。
その密度が、高いこと。
それが、連続的で、持続的であること。
-
それが、その生物における、急所や弱い点を、的確に、容赦無く、突いていること。
--

圧力を受けること。
その結果。
-
ストレスを生じること。
疲労を生じること。
負荷を感じること。
-

その結果。
-
抑圧されること。
-

その結果。
-
疲れること。
苦痛や辛さを、感じること。
-

周囲の、他の生物や、他の無生物からの、物理的な圧力や、物理的な抑圧。
そうした圧力の行使そのもの。
そうした圧力の行使がなされる可能性。
例。
警察による、物理的な武力や暴力の行使の、可能性。
それが、その時々の政府や政権への反抗者にとって、精神的なストレスとなること。

それらを伴う、状況や環境。
それらが、その生物にとっての、精神的な圧力や、精神的な抑圧へと、そのまま転化すること。
それは、以下の内容である。
物理的圧力の、精神的圧力への、転化。
物理的抑圧の、精神的抑圧への、転化。

その生物が、そうした圧力や抑圧を、跳ね返そうとすること。
その結果。
その生物は、余計に、体内の設備の酷使を、してしまうこと。
その生物は、余計に、体内の資源の消費を、してしまうこと。
その結果。
その生物の所有する、体内の設備が、故障すること。
その生物の所有する、体内の資源が、不足すること。

圧力や抑圧の、種類。
-
相手に対する、物理的な、攻撃や虐待や暴力。
相手に対する、物理的な殲滅作戦の、実行。
相手に対する、物理的な、支配やコントロールや躾け。
-
相手に対する、物理的資源や設備の、物理的な奪取。
例。物理的資源。石油。貴金属。生物の身体そのもの。
例。物理的設備。土地。建物。機械。
-

相手に対する、物理的資源の入手口からの、物理的な追放や締め出し。
相手に対する、物理的資源の入手口へのアクセスの、物理的な禁止。
例。定住生活様式社会における、定住集団からの、追放。
-
相手にとっての、資源入手における、協力者。
例。親や子供や配偶者。血縁集団。
そうした協力者に対する、物理的な攻撃。
そうした協力者に対する、物理的な殲滅作戦の実行。
-

それらの行為そのもの。
それらの行為の可能性の、示唆。例。脅し。
-
相手に対する、上位性。
相手に対する、同位性やライバル性。
-
それらの掛け合わせが、そのまま、相手に対する、精神的な攻撃となること。

生物は、物理的存在であること。
生物における、その性質自体が、以下の内容へと、直結する形で、そのまま反映されること。
-
生物の、精神や神経系の、存在のあり方。
生物の、精神や神経系の、働き。
-

--
生物は、物理的に、実在する必要があること。
生物は、物理的に、生存を維持する必要があること。

例。
通信に基づく、生物的な存在。
遠隔的な、生物的な存在。
コンピュータ内部における、生物的な存在。
例。

ネット上の仮想空間。
ネット上のバーチャルアイドル。

彼らは、結局は、物理的な存在であること。
彼らは、物理的な実在性を、前提としていること。

彼らの実体は、通信装置や、通信回線や、コンピュータのデータ記録装置の上に、物理的に実在すること。
彼らは、決して、仮想的な存在では無いこと。

--
生物の精神のシミュレーション。
生物の神経系のシミュレーション。
それらは、物理的動力学のシミュレーションへと、直結すること。

生物的神経系は、外部環境についての地図を、その内部に、内蔵し、所有していること。
その地図。外部環境についての、時空間的な把握の内容。
生物的神経系は、その地図の内容を、学習し、記憶していること。
生物的神経系は、その地図の内容を、リアルタイムで、絶えず、更新していること。

その地図の、具体的な内容。
--
外部環境における、他の生物と、他の無生物。
それらの、地理的な分布位置。
それらの、内容面における特徴。例。有能性。物理的な強さ。精神的な強さ。
それらの間における、物理的な上下関係や、精神的な上下関係。
--

生物的神経系は、内部環境についての地図を、その内部に、内蔵し、所有していること。
その地図。内部環境についての、時空間的な把握の内容。
例。体表の臓器。体内の臓器。それらの位置の把握。それらの活動状況の把握。

生物的神経系は、その地図の内容を、学習し、記憶していること。
生物的神経系は、その地図の内容を、リアルタイムで、絶えず、更新していること。

ある生物の神経系内部における地図。
その地図は、他の生物の神経系の、リアルタイムの活動そのものは、含んでいないこと。
その理由。
他の生物の神経系の内部は、非侵襲性を、持っていること。
他の生物の神経系の内部については、以下の行為の実行が、困難であること。
その生物が生きたままの状態で、その神経回路の活動を、リアルタイムで、観察し、コピーすること。

その地図は、他の生物の神経系の活動内容を、間接的な方法で、含んでいること。
ある生物が、彼自身の神経回路の内容情報を、外部環境へと、物理的に刻印すること。
例。音声の発声による、音波の発生。印刷された活字。石板に刻まれた文字。
その物理的な刻印結果の、内容情報。
その情報を、別の生物が解読して、彼自身の神経系へと、神経回路の形で、コピーすること。
その結果。
ある生物の文化的子孫としての、神経回路のコピー。
それが、別の生物の神経系へと、生きた神経回路として、そのまま、組み込まれること。
結論。
ある生物の神経回路は、いったん外在化されないと、他の生物の神経系による内在化が、不可能であること。

ある生物。彼自身の神経系が内蔵する、地図。
その地図の、具体的な内容。

その生物。別の生物。別の無生物。
--
それらの、空間的な所在位置。
--

それらの、彼自身との、力学における上下関係。
--
それらの、時間帯における、有効性や無効性。例。有効な、営業時間帯。
--
それらにおける、資源性の有無。それらにおける、資源性の高低の度合い。
それらにおける、彼自身にとっての、生きやすさをもたらす、性質や力。それらの有無。それらの高低の度合い。
--
それらとの、過去における、やりとりの記録。
それらとの、過去における、相互作用の記録。
それらについての、良い思い出。それらが、彼自身に対して、生きやすさの促進を、もたらしたこと。
それらについての、悪い思い出。それらが、彼自身に対して、生きやすさの、抑制や阻害を、もたらしたこと。
--
それらについての、評価。
良し悪し。快感や不快感。好き嫌い。そうした感覚をもたらす、度合い。
--

例。Google Map.

生物に適用される、物理法則。
生物的神経系に適用される、物理法則。
それは、以下の内容である。

--
力。
物体を、変形させること。
物体の運動状態を、変えること。
それらの原因となるもの。

--
仕事。
力と、移動距離との、積。

その場合。
慣性による移動を、除くこと。

--
慣性。
速度の一定性。
加速度が、働かないこと。

--
エネルギー。
物体における、仕事をする能力。

--
仕事率。
仕事の能率。

--
高いエネルギー性。高い仕事性。
それらは、気体性であること。それらは、男性性であること。

高い重力性。高い質量性。高い重量性。高い保存力性。
それらは、液体性であること。それらは、女性性であること。

気体性。液体性。
男性性。女性性。
それらは、純粋に、物理的性質であること。

--
力学的エネルギー。
-
運動エネルギー。
重力による位置エネルギー。
それら両者の和。
-
力学的エネルギーにおいて。その値は、一定であること。
それは、以下の内容である。
力学的エネルギー保存の法則。

その法則の適用条件。

それは、以下の内容である。
保存力以外の力が、仕事をしないこと。

--
保存力。
それは、以下の内容である。
物体の移動時において。
その物体のする仕事が、その経路や道順に無関係で、一定になること。
そうした力。
その大きさは、基準点からの相対位置によってのみ、決まること。
例。
重力。弾性力。静電気力。
位置エネルギー。ポテンシャルエネルギー。

注意点。
摩擦力は、保存力では無いこと。

--
その他のエネルギー。
それは、以下の内容である。
熱エネルギー。音エネルギー。光エネルギー。原子力エネルギー。

--
接した物体からの、力。
それは、以下の内容である。
張力。弾性力。摩擦力。抗力。浮力。
-
離れた物体からの、力。
それは、以下の内容である。
重力。磁気力。静電気力。
-

--
作用点。
力が働く、点。

--
作用線。
-
作用点を、通ること。
力の方向を、向くこと。
そのように引いた、直線。
-

--
重力。
地表から、地球の中心へと、向かう力。
それは、保存力であること。

重量。
重力の大きさ。

--
万有引力。
２つの物体の間において、相互に及ぼし合う力。
それは、保存力であること。
その大きさ。
その値は、２つの物体の質量の積に、比例すること。
その値は、２つの物体の間の距離の２乗に、反比例すること。

--
場。
物理量が、空間内の位置によって、決まる場合。
その空間。

地表。
それは、重力の場であること。

--
位置エネルギーは、保存力の場において、考えられること。
位置エネルギーは、保存力の場に、蓄えられていること。

--
ある点から、別の点へと、移動した、物体。
その物体が、再び、最初の点へと、戻る場合。
保存力の行使した仕事は、ゼロになること。
例。
ボールの、床との、弾性衝突。
床との衝突の前後において、ボールの速さが、変わらないこと。
ボールが、元の高さまで、戻ってきたこと。

--
物理量。
物質の量。
一定の数の分子の集まり。
それを単位として表した、物質の量。

--
エネルギーの原理。

運動エネルギーの変化。
変化後の値から、変化前の値を、引いた値。
それは、以下の内容である。
その物体に対して、なされた仕事の、和。

--
運動エネルギー。
-
その物体の、質量。
その物体の速さの、２乗。
それらを、かけ合わせた値。
その値を、２で割った値。
-

生物と、上記の物理法則との、関連。

-
生物そのもの。
生物の神経系そのもの。
生物の精神そのもの。
生物の行動。
生物の神経系の動作。
生物の精神の動作。
-
それらは、物理的であること。
それらは、上記の物理法則へと、全面的に従うこと。
それらは、上記の物理法則の一環として、全て、説明可能であること。

気体性の生物。
気体分子運動パターンに沿って行動する、生物。
ウィルス。
植物の、花粉や精細胞。動物の精子。
男性。それは、そうした生殖細胞の乗り物であること。

液体性の生物。
液体分子運動パターンに沿って行動する、生物。
細胞。
植物の、胚嚢や卵細胞。動物の卵子。
女性。それは、そうした生殖細胞の乗り物であること。

気体性の生物。
資源の、最小限の所有者。資源の、借用者。
例。ウィルス。細胞の資源を借用して生きる、気体性の生物。
例。精子。卵子の資源を借用して生殖する、気体性の生殖細胞。
例。男性。女性の生殖資源と生殖設備を、借用して自己複製する、気体性の生物。

液体性の生物。
資源の、最大限の所有者。資源の、所有者や占有者。
例。細胞。ウィルスに対して、資源を貸し出す、液体性の生物。

例。卵子。精子に対して、生殖のための資源を貸し出して、生殖する、液体性の生殖細胞。
例。女性。男性に対して、生殖資源と生殖設備を、貸し出して、自己複製する、液体性の生物。

気体性の物質。
空。空気。大気。
それらは、以下のような性質を、持つこと。
浮遊性。飛翔性。上昇性。移動性。

液体性の物質。
水。海。淡水。海水。
それらは、以下のような性質を、持つこと。
沈殿性。沈下性。下降性。不動性。定住性。

気体性の物質。
液体性の物質。
それら両者は、互いに、分離し、隔離していること。
それら両者は、互いに、交わらないこと。
それら両者は、互いに、同化しないこと。
それら両者は、互いに、相手を排除し合うこと。
それらの証拠。
気体と接する液体において。表面が存在すること。それら両者の間において。明確な境界面が、存在すること。超えられない壁が、存在すること。

それらの応用。
気体性の生物。例。ウィルス。男性。
液体性の生物。例。細胞。女性。
それら両者は、互いに、分離し、隔離していること。
それら両者は、互いに、交わらないこと。それら両者は、生殖の必要がある場合のみ、交わること。
それら両者は、互いに、同化しないこと。それら両者は、生殖の必要がある場合のみ、一体化すること。
それら両者は、互いに、相手を排除し合うこと。
それらの証拠。

気体性の生物社会と接する、液体性の生物社会において。表面が存在すること。それら両者の間において。明確な境界面が、存在すること。超えられない壁が、存在すること。
例。
男性優位社会と接する、女性優位社会において。表面が存在すること。それら両者の間において。明確な境界面が、存在すること。超えられない壁が、存在すること。
移動生活様式の社会と接する、定住生活様式の社会において。表面が存在すること。それら両者の間において。明確な境界面が、存在すること。超えられない壁が、存在すること。

上記の内容から導出される、一般原則。
それは、以下の内容である。
--
液体性の社会は、気体性の社会を、隔離し、排除すること。例。ロシアや中国における、欧米諸国の価値観の、排除。
気体性の社会は、液体性の社会を、隔離し、排除すること。例。欧米諸国における、ロシアや中国の、価値観の、排除。
--
気体性の個体は、液体性の個体に対して、気体性を強制すること。
例。男性が、女性に対して、男性性を強制すること。
液体性の個体は、気体性の個体に対して、気体性を強制すること。
例。女性が、男性に対して、女性性を強制すること。
--
気体性の社会は、液体性の社会に対して、気体性を強制すること。
例。アメリカのような男性優位社会が、日本や韓国のような女性優位社会に対して、男性性を強制すること。
液体性の社会は、気体性の社会に対して、液体性を強制すること。
例。ロシアのような女性優位社会が、東ドイツのような男性優位社会に対して、女性性を強制すること。
例。中国のような女性優位社会が、モンゴルやウィグルのような男性優位社会に対して、女性性を強制すること。
--

気体的な意思決定。
それは、以下の内容である。

高いエネルギーの所有者による、暴力支配。
それは、以下のような価値観を、尊重する。
--
高速移動性。
体積不定性。膨張性。拡大性。未踏領域への新規進出性。独創性。革新性。
個人主義。自由主義。自主独立性。自律性。
個別性。多様性。
分析性。切断性。論理性。
低密度性。離散性。分散性。
開放性。公開性。
軽快性。身軽さ。動きやすさ。持ち運びやすさ。軽薄性。短小性。
流動性。流通性。フローの重視。
--

液体的な意思決定。
それは、以下の内容である。
高重力の所有者による、専制支配。
それは、以下のような価値観を、尊重する。
--
不動性。定住性。
体積一定性。非膨張性。定位性。既定領域への滞留性。前例踏襲性。現状維持性。
全体主義。調和主義。同調主義。全体的調和の重視。
一括性。画一性。
統合性。総合性。融合性。結合性。非論理性。
高密度性。一体融合性。癒着性。
包括性。包含性。閉鎖性。非公開性。
重厚長大性。身重であること。動きにくさ。永置しやすさ。固定性。定着性。固着性。接着性。
蓄積性。ストックの重視。
--

例。中国女性における、纏足の慣習。
それは、歩かないことの誇示であること。
それは、不動性や固着性の、誇示であること。
それは、定住生活様式の社会における、優位性や上位性の、誇示であること。
それは、液体的な意思決定に、基づいていること。

物理的な力学において。
力の関係は、以下のいずれかしか、成立しないこと。
--
強いか、同等か、弱いか。
優位か、同位か、劣位か。
上位か、同位か、下位か。
支配するか、平等か、支配されるか。
--

そうした、力の関係において。
以下のような関係は、稀にしか、成立しないこと。
--
同等性。同位性。平等性。
--

力の関係の殆どは、以下のいずれかであること。
--
強いか、弱いか。
優位か、劣位か。
上位か、下位か。
支配するか、支配されるか。
--
複数の個体の間における、以下のような力関係。
同等性。同位性。平等性。

それらは、殆どの場合、以下のようなプロセスによって、達成されること。
--
各々の個体における、強さと弱さとの、足し算の合計値。それらの合計値の、個体間での相互比較における、釣り合いの実現。
各々の個体における、優位性と劣位性との、足し算の合計値。それらの合計値の、個体間での相互比較における、釣り合いの実現。
各々の個体における、上位性と下位性との、足し算の合計値。それらの合計値の、個体間での相互比較における、釣り合いの実現。
--

それらは、結局、以下のような力関係へと、分解されること。

--
強いか、弱いか。
優位か、劣位か。
上位か、下位か。
支配するか、支配されるか。
--

生物力学。
それは、物理的な力学の一環であること。
そうした生物力学においても、上記のいずれかの力関係しか、成立しないこと。
例。人間社会において働く、力学。政治学。

以下の社会的行動は、いずれも、同一の内容であること。
--
男性が、女性を、強姦すること。
小作人が、地主を、襲撃し、荒らし、略奪すること。
不動産の賃貸者が、不動産の投資家を、襲撃し、荒らし、略奪すること。
ウィルスが、細胞を、襲撃し、荒らし、略奪すること。
--

それらは、結局、以下の内容であること。
--
資源や設備。それらの借用者が、それらの所有者を、襲撃し、彼の所有物を、荒らし、略奪すること。
既得権益の所有における、上下関係について。下位者が、上位者を、襲撃し、彼の所有物を、荒らし、略奪すること。
--

それらは、結局、以下の内容であること。
--
非所有者による、所有者に対する、反撃。
下位者による、上位者に対する、反撃。
--

液体的思想の所有者による、気体的思想の、摂取の方法。
それは、以下の内容である。
-
丸呑みによる、暗記学習。
-
彼らには、その方法しか、能力的に、出来ない。

彼らは、そのことで、気体的思想の本質を、見失う。
彼らは、気体的思想の本質を、永久に、摂取出来ない。

--
気体的思想の所有者による、液体的思想の、摂取の方法。
それは、以下の内容である。
-
論理的で理性的な、分析。
-
彼らには、その方法しか、能力的に、出来ない。

彼らは、そのことで、液体的思想の本質を、見失う。
彼らは、液体的思想の本質を、永久に、摂取出来ない。

気体性の生物。
ウィルス。精細胞。精子。男性。
身軽さを、絶えず満たさないと、生きて行けない、存在。
持ち物を、最小限の所有しか出来ない、存在。
その結果。
自動的に、資源の借用者になるしか無い、存在。
自動的に、液体性の生物から、資源を借りるしか無い、存在。
自動的に、液体性の生物にとっての下位者になるしか無い、存在。
自動的に、資源所有における下位性を、運命付けられた、存在。

液体性の生物。
細胞。卵細胞。卵子。女性。
身重になれる、存在。
持ち物を、沢山、所有できる、存在。

持ち物を、沢山、蓄積できる、存在。
その結果。
自動的に、資源の所有者になれる、存在。
自動的に、気体性の生物に対して、資源を貸すことが出来る、存在。
自動的に、気体性の生物にとっての上位者になることが出来る、存在。
自動的に、資源所有における上位性を、運命付けられた、存在。

気体性の生物。気体性の個体。
彼らは、以下のような性質を持つこと。
-
所持資源が、最小限であること。
身軽であること。
その結果。
移動生活様式へと、容易に、適応出来ること。
移動生活様式において、有利であること。
移動生活様式の社会において、優位に立つことが出来ること。
移動生活様式の社会において、上位者になることが出来ること。
一方。
定住生活様式に対して、不利であること。
定住生活様式の社会において、劣位になること。
定住生活様式の社会において、下位者になること。
-

彼らが、常時所持出来ない資源。
彼らは、そうした資源を、離れた外部環境へと、分散貯蔵するしか無いこと。
彼らは、そうした資源を、広域的に、武装して防衛するしか無いこと。

--
液体性の生物。液体性の個体。
彼らは、以下のような性質を持つこと。
-
所持資源が、最大限になりやすいこと。
身重であること。

その結果。
定住生活様式へと、容易に、適応出来ること。
定住生活様式において、有利であること。
定住生活様式の社会において、優位に立つことが出来ること。
定住生活様式の社会において、上位者になることが出来ること。
一方。
移動生活様式に対して、不利であること。
移動生活様式の社会において、劣位になること。
移動生活様式の社会において、下位者になること。
-

気化性。
相手に対して、気化をもたらす、性質や資質。
生物における、精神的な資質の場合。
それは、父性であること。
父性。それは、以下の内容である。
親が所有する、子供の精神を気化させる、精神的な資質。

--
液化性。
相手に対して、液化をもたらす、性質や資質。
生物における、精神的な資質の場合。
それは、母性であること。
母性。それは、以下の内容である。
親が所有する、子供の精神を液化させる、精神的な資質。

生物的神経系における、内言と外言。
外言。彼自身の神経系内部における、神経回路の内容情報の、外部への出力送信。例。彼自身の思考内容情報を、音声として、外部へと発音すること。
内言。本来の外言の内容を、外部出力と同時に、彼自身の神経系の入力へと、そのままリダイレクトして、その内容を自己解釈して、彼自身の神経系内部へと、再びフィードバックする仕組み。そのことで、彼自身が得た、彼自身の神経回路の内容情報。外部出力を省

略する場合を、含むこと。
例。人間の場合。内言は、音声出力の、彼自身の神経系における入力へのリダイレクトの形で、専ら、得られること。

生物的神経系における、言語。
生物的神経系において。
彼自身の神経系内部における、神経回路の内容情報。それは、元々は、トポロジーに基づく情報であること。
その内容情報を、シーケンシャルなフォーマットで、符号化すること。
例。デジタル通信回線向けに、0と1から成る数字列へと、変換すること。
例。アルファベットや漢字などによる文字列へと、変換すること。
その符号化された情報を、外部への出力と伝播に適したフォーマットへと、変換すること。
例。音の波へと、変換すること。音声波形化。母音と子音を、活用すること。
例。光の波へと、変換すること。ホタルの身体における、発光。活字印刷による視覚化。
外部環境における、情報伝達の媒体。
それは、以下の内容である。

気体。空気中を、伝播させること。
音波や光波や電磁波を、伝えること。例。人間における、音声の発声による、交信。聴覚を、活用すること。
特定の化学物質を、伝えること。例。昆虫における、フェロモンの交信。犬や猫における、匂い物質の、交信。

液体。水中や液中を、伝播させること。
音波や光波や電磁波を、伝えること。例。クジラやイルカにおける、水中における、超音波での交信。魚類における、体表の色の変化を用いた、色光による交信。
特定の化学物質を、伝えること。例。魚類における、フェロモンの交信。

固体。
硬質の、不溶性の、固着性の、固体に対して。
刻印すること。印刷すること。印字すること。

例。人間における、石板への文字刻印。人間における、紙への活字印刷。それらの刻印内容や印刷内容の、視覚や触覚を活用した、読み取り。

-
生物の言語。
神経系の言語。
コンピュータの言語。
-
それらは、本質において、共通していること。
それらは、外部との、意思疎通の手段であること。
それらは、相互にやり取りされる情報内容の、表現形態であること。

外部。
-
生物の場合。
無生物の場合。
-

意思疎通の手段。
-
出力の手段。
出力内容の構築。その内容の符号化。その符号化された情報の、体外への出力。その出力情報の、通信媒体を利用した、伝播。その情報が、相手にとっての入力刺激となること。
-
入力の手段。
入力刺激の感知。入力刺激として得られた、入力情報。その情報の解読。その内容の、分解や解釈。その解釈された内容を、元通りに再構築して、彼自身の神経回路へと、トポロジーに基づいて、組み込むこと。
-

入出力される、情報。
その表現は、多くの場合、シーケンシャルであること。例。数字列。文字列。
その表現は、必要に応じて、パラレルであること。例。画像。映像。

入出力される、神経回路の内容。
--
主体。客体。名詞。
単数。複数。
-
過去。現在。未来。時制。
-
リアル。仮定。
リアル。推定。
必然性の有無。
-
動作。動詞。
性質。形容詞。
動作における、性質。形容動詞。
--
それらの一時的な代替表現。それらの一時的な指示表現。代名詞。
それらの、配列化や関数化。名詞。動詞。
--
それらの、組み立て。
スーパークラスの内容。サブクラスの内容。それらの明確化。
時間。空間。属性。それらについての内容の、付与。
助詞。
--
それらの、相互接続や、相互結合。接続詞。
--
それらのまとまりの、配列化。文章。
--

言語機能の、神経回路による、実現。
それは、以下の内容である。
--
出力側。
意味。元々の出力内容。
文法。出力内容の、構築や組み立て。
単語。出力内容の、符号化やエンコード。
--
入力側。
単語。入力内容の、デコードや解読。

文法。入力内容の、再構築。
意味。入力内容の、解釈による、再取得。
--

言語機能が成功するための、条件。
--
出力側において構築された、出力内容。
入力側において、分解され、再構築された、入力内容。
それら両者の間において、整合性が取れることが、必要であること。
--

そのためには。
出力送信者。
入力受信者。
それら両者の間において、共通の事前合意が、予め、必要であること。
それら両者の間において、その事前合意の相互構築が、予め、必要であること。
--

そうした、事前合意や、事前の取り決め。
それは、以下の内容である。
--
情報の送受信の、開始と終了の、合図。
送信情報の、符号化やエンコードの、手法。エンコードされた情報のデコードの手順は、エンコードの手法に応じて、自動的に決まること。
送信内容の、構築や組み立ての手順。その際に使用する、文法。内容の構築手順が決まれば、その分解手順は、自動的に決まること。
--

言語における、意味。
それを担当する、特定の神経細胞が、存在すること。それは、意味細胞であること。
それを担当する、特定の神経回路が、存在すること。それは、意味回路であること。
それらの意味内容は、それらの細胞や回路の、神経回路網におけ

る、トポロジーに基づく位置によって、決定されること。

言語における、文章。
出力送信者が、述べたい意味を、シーケンシャルに並べて、配列化すること。
その配列を、一つの部品として、扱うこと。
それらの部品を並べて、最終的な出力の内容を、構築すること。文章を、構築すること。
それらの部品の並べ方。それは、以下の内容である。
-
上下の包含関係。
論理的条件に基づく関係。仮定形。
本体と添加物の、関係。本体と付加物の、関係。時制。複数形。
-

その内容を、出力データへと、エンコードすること。文章内容を、単語文字列群の並びへと、変換出力すること。

--
行動における、戦略立案。
行動出力者が、実行したい行動内容を、シーケンシャルに並べて、配列化すること。
その配列を、一つの部品として、扱うこと。
それらの部品を並べて、最終的な出力の内容を、構築すること。戦略を、構築すること。
それらの部品の並べ方。それは、以下の内容である。
-
上下の包含関係。
論理的条件に基づく関係。仮定形。
本体と添加物の、関係。本体と付加物の、関係。時制。複数形。
-

その内容を、行動出力へと、エンコードすること。戦略内容を、行動出力群の並びへと、変換出力すること。
その内容を、タイマー付きで、シーケンシャルかパラレルに、実行すること。それは、戦略の実行であること。

--

結論。
-
言語の使用による、文章の組み立て。
行動における、戦略立案。
-
それら両者は、神経系における、神経回路の仕組みにおいて、同一であること。

行動における、戦略立案。
その能力を持つ生物は、全て、言語を使用する能力を、持つことが出来ること。

生物における、意識。
それは、以下の内容である。
生物の神経回路における、各々の神経細胞の発火の、総和や集積。
生物の神経回路における、各々の神経細胞の発火地点の、総和や集積。
その場合における、前提条件。
それらの細胞の発火は、神経系への入力と連動して起こる発火であること。
神経系において、入力と発火とが、連動性を有すること。それは、覚醒であること。

生物における、無意識。
それは、以下の内容である。

（１）
生物の神経回路における、各々の神経細胞の無発火の、総和や集積。
生物の神経回路における、各々の神経細胞の無発火地点の、総和や集積。
生物の神経回路において。光が当たらない、回路部分。参照されない回路部分。
生物の神経回路において。発火を抑圧された、回路部分。精神的な傷の部分。社会的な抑圧を受けた部分。

（２）

生物の神経回路における、各々の神経細胞の発火の、総和や集積。
生物の神経回路における、各々の神経細胞の発火地点の、総和や集積。
その場合における、前提条件。
それらの細胞の発火は、神経系への入力とは非連動で起こる発火であること。
神経系において、入力と発火とが、非連動性を有すること。
それは、昏睡であること。
それは、生物の神経回路における、外界からの隔離領域や、内部暴走領域であること。

具体例。
ある人間が、目を閉じること。
その結果。彼自身における、視覚関連の入力刺激が、無くなること。
その結果。彼自身における、視覚関連の神経回路部分の発火が、無くなること。
その結果。彼自身における、視覚関連の意識が、無くなること。
その場合。彼自身における、視覚以外の意識は、そのまま存在し続けること。
例。それは、音声による内言であること。それは、彼自身における音声出力の内的なフィードバックであること。

具体例。
ある人間が、眠ること。
その結果。彼自身は、入力刺激を受け付けなくなること。
その結果。彼自身の神経系における、入力刺激に連動する神経回路部分の発火が、無くなること。
その結果。彼自身は、周囲の他者からの視点では、意識を失ったこと。
その場合。彼自身の神経系における、入力刺激に連動しない神経回路部分の発火は、生起し続けること。
例。それは、彼自身の無意識における、夢であること。

追加内容。2022年11月初出。その2。生物や無生物における、資源管理。生物や無生物における、急所。気体性社会や液体性社会における、急所。

生物。無生物。
内部環境。外部環境。
それらにおける、資源管理メカニズムの実装。
それらの実装が、生物的神経系の実装において、前提として、必須であること。

そうした、資源管理メカニズム。
それは、以下の内容である。

資源不足。資源過剰。それらの判定。
資源の流入量。資源の流出量。それらの計算。
資源の輸出入における、収支。利益。損失。それらの計算。収支が、利益計上か損失計上か。収支が、過剰な利益計上か、過剰な損失計上か。それらの判定。

資源の絶対量の、計算。
資源不足と判定する閾値を下回るかどうかの、判定。
資源過剰と判定する閾値を上回るかどうかの、判定。

それらについて、フィードバックを得ること。
資源不足。資源収支における、過剰な赤字。資源取得の促進のフィードバック。
資源過剰。資源収支における、過剰な黒字。資源取得の抑制のフィードバック。

そうしたフィードバックの戦略の、神経系における中間細胞への組

み込み。
そうした組み込みを、全ての中間細胞について、行うこと。
その実現が、生物的神経系における、彼自身についての生存維持メカニズムの実装において、必須であること。

生物的神経系における、出力細胞。
その出力先の、設定。
その出力先の、選択。
生物的神経系における、入力細胞。
その入力元の、設定。
その入力元の、選択。
それらが、生物的神経系と、その外部との相互作用の実現において、予め、必須であること。

そうした、出力先。
そうした、入力元。

それは、以下の内容である。
口。

生物。無生物。
内部環境。外部環境。

それらにおける、急所。
それは、それらの生死を決定する場所であること。
それは、それらにおける、資源の保管口や貯蔵口であること。それは、相手における、資源の入手口であること。
それは、それらにおける、資源のリアルな流出口であること。それは、資源入手における、有効な口であること。
それは、それらにおける、資源のリアルな入手口であること。それは、資源奪取の阻止における、有効な塞ぎ口であること。

それらにおける、急所で無い箇所。
それは、それらの生死とは無関係の場所であること。
それは、それらにおける、資源の流出と無関係な口であること。それは、資源入手における、無効な口であること。
それは、それらにおける、資源の入手と無関係な口であること。そ

れは、資源奪取の阻止における、無効な塞ぎ口であること。

生物。無生物。
内部環境。外部環境。
それらにおける、口の設定。
それらにおける、急所の設定。
それらにおける、急所で無い箇所の設定。
そうした設定が、生物的神経系による、資源入手と資源防衛の実装において、予め、必須であること。

生物的神経系における、資源の入手。
それは、以下のようなプロセスであること。
--
資源入手口の候補を、見つけること。
その候補について、資源の入手を、試行すること。
その試行に成功した場合。その資源入手口から、ずっと、資源を吸い出し続けること。
そうして、彼自身における、資源の流入量を、増やすこと。
--

生物的神経系における、資源の入手能力の、実装。
そうした能力の強弱の、実装。
それは、以下の内容である。
--
資源入手口の候補。それらの、検索と発見。予め設定された候補の中から、ランダムで選択すること。そうした能力。
その候補の口について、掘削を実行すること。相手が、より強い場合、彼自身は、掘削することが出来ないこと。そうした、相手との強弱関係の、リアルタイムでの設定。
資源入手口の、占有と防衛。防衛に失敗した場合、資源を、相手によって、横取りされること。そうした、相手との強弱関係の、リアルタイムでの設定。
その資源入手口からの、資源の吸い出しを、実行すること。それは、相手による実力阻止との、力比べとなること。そうした、相手との強弱関係の、リアルタイムでの設定。
--

資源入手口からの、資源の吸い出し。そうした行動の、相手によ

る、実力阻止。
それらは、以下のような関係と、同じであること。
--
運動会における、綱引きの競技。
銀行口座への、入出金。
--

相手からの資源の吸い出し量。
--
時間当たりの吸い出し量。
吸い出しの総量。
--

相手からの資源の吸い出し量。それは、彼自身にとっての足し算となること。
それは、相手にとっては、同量の引き算となること。
それらの実現において、両者の帳尻合わせが、リアルタイムで、必須であること。

そうした、リアルタイムでの、継続的な、資源の流入処理と流出処理。
それらの処理が、同時に、複数の生物や無生物の間において、必要であること。

資源が底を突いた時の処理が、別途必要であること。

そうした計算の実装。
それは、以下の内容である。

生物や無生物。
それらにおける、資源の出入りの管理において。
--
銀行振込と同様の仕組みを、実装すること。
-
現金書留の送付と同様の仕組みを、実装すること。
--

-
彼自身が、相手よりも強い場合。

相手からの資源の吸引に対して、0を返すこと。
相手からの資源の吸引に対して、それ以下の数値を返すこと。
-
彼自身が、相手と同等の力関係の場合。
相手からの資源の吸引に対して、等量の数値を返すこと。
-
彼自身が、相手よりも弱い場合。
相手からの資源の吸引に対して、それ以上の数値を返すこと。
-

-
そうした、返り値における、相手との力比べ。そうした、返り値における、相手との攻守。
そうした力学作用を、リアルタイムで、継続的に、実現すること。
そうした返り値の計算において、物理的な力学の裏付けが、必要であること。
-
そうした返り値の計算において、第三者による公正な審判が、必要であること。そうした審判役のプロセスが、別途、必要であること。
-
そうした返り値の計算。複数の生物や無生物の間において、それらの計算処理結果の同期を取ることが、必要であること。
-

そうした返り値を、キューの数値として、相手に対して、互いに、リアルタイムで送信し合うこと。

そうした、返り値における、相手との力比べ。そうした、返り値における、相手との攻守。
それらのプロセスにおいて。
そうした攻守の形勢が、一方にとって、一方的に有利となり、他方にとって、一方的に不利となること。
それは、以下の内容である。

--
彼自身が傷付いた場合。
相手による、資源の抜き取りの度合いが、その傷の治癒完了まで、増えること。

-
彼自身が死んだ場合。
相手による、資源の抜き取りの度合いが、一瞬、大きく増えた後、ゼロになること。
--

--
彼自身が、相手を傷付けた場合。
彼自身による、資源の抜き取りの度合いが、その傷の治癒完了まで、増えること。
-
彼自身が、相手を殺した場合。
彼自身による、資源の抜き取りの度合いが、一瞬、大きく増えた後、ゼロになること。
--

一方による、他方の殺害。
それは、以下の内容である。
--
相手の資源を、一瞬で、全部、抜き取ること。
-
相手をなぶり殺しにするだけで、資源の抜き取りは、行わないこと。
--

気体性社会。移動生活様式の社会。男性優位社会。それらの社会における急所。
例。欧米諸国。中東諸国。
仮に、他の社会が、その場所を突いた場合。移動生活維持のための前提条件が、呆気無く崩壊すること。

例。人間社会の場合。
穀物の生育が不良な、外部環境。そうした環境において、何とか食べていくために、家畜の放牧飼育に頼ること。
必要な栄養の摂取において。
家畜が生成する、乳製品の摂取に、頼ること。酪農の必要性。そのために、家畜による性行為と生殖を、絶えず必須とすること。

家畜の屠殺と、その食肉に、頼ること。

その結果。
仮に、彼ら自身と、家畜とを、同質視した場合。
そうした家畜を、精神的に屠殺できなくなること。その結果、彼ら自身が、生活出来ずに、死に至ること。
仮に、彼らが、そうした家畜を、屠殺した場合。
彼らは、彼ら自身の同質者を、惨殺したことになること。
そのことが、彼ら自身にとって、耐えられないこと。そのことが、彼ら自身の精神を、狂乱へと追い込むこと。その結果、彼ら自身が、生存出来ずに、死に至ること。
それらの点が、彼ら自身の急所であること。

そのことへの対策。そうした急所の隠蔽。それは、以下の内容である。
--
彼ら自身と、家畜とを、決して、同質視しないこと。彼ら自身と、家畜とを、峻別すること。彼ら自身を、家畜よりも、上位へと位置付けること。
彼ら自身と、他の生物とを、決して、同質視しないこと。彼ら自身と、他の生物とを、峻別すること。彼ら自身を、他の生物よりも、上位へと位置付けること。
例。生殖行為の嫌悪。性的誘引行為や性行為の、嫌悪。
--

そうした対策の無効化。そうした急所に対する、効果的な攻撃戦略。例。定住生活様式の社会や女性優位社会による、攻撃戦略。それは、以下の内容である。
--
彼ら自身と、家畜とを、強制的に、同質視させること。
彼ら自身と、他の生物とを、強制的に、同質視させること。
人間を、生物一般へと、含むこと。人間を、生物の一種と、見做すこと。人間の本質を、生物の本質の一環と、見做すこと。それらのことを、彼ら自身に対して、強制すること。
--

そうした攻撃に対する、彼ら自身が、更に取るべき、対策。それは、以下の内容である。
--
彼ら自身と、家畜との、本質的な差別化。

彼ら自身と、他の生物との、本質的な差別化。

例。
-
家畜放牧の維持。彼ら自身の生活における、移動性を保持すること。家畜の神経系を、移動能力を保持したまま、大幅に、簡略化すること。
酪農の維持。家畜における乳製品の生成を、家畜の生殖行動無しに、実現すること。家畜における乳製品生成能力を、家畜自身の生殖行為無しで、維持すること。
食肉の維持。家畜の神経系を殺さずに、家畜の身体の肉のみを、継続的に食べられるようにすること。家畜の神経系と、人間の神経系との、類似性や同質性を、大幅に低下させること。
--

それらの実現のために。
--
家畜に対して、徹底的な遺伝子操作を、実行すること。家畜に対して、人工コンピュータとの身体的融合を、実行すること。
生物一般に対して、徹底的な遺伝子操作を、実行すること。生物一般に対して、人工コンピュータとの身体的融合を、実行すること。
人間に対しても、徹底的な遺伝子操作を、実行すること。人間に対しても、人工コンピュータとの身体的融合を、実行すること。
--

液体性社会。定住生活様式の社会。女性優位社会。それらの社会における急所。
例。中国。ロシア。韓国。日本。東南アジア諸国。
仮に、他の社会が、その場所を突いた場合。彼らの世界的な優位性の維持のための前提条件が、呆気無く崩壊すること。

例。人間社会の場合。
彼ら自身における自己保身性が、強過ぎること。彼らは、未知の危険領域に、決して、自主的に進出しようとしないこと。
彼らの精神は、非論理的で、非科学的であり、事物の分析能力に欠けること。
彼らは、前例の踏襲と、前例の小改良による高品質化と、それらに

伴う、高い競争力を持つ最終製品の出力を、とても得意とすること。
その結果。
彼ら自身では、新規の知見を、獲得出来ないこと。彼ら自身では、先進性を、獲得出来ないこと。彼ら自身では、近代化を、達成出来ないこと。
それらの点が、彼ら自身の急所であること。

そうした急所に対する、効果的な攻撃戦略。例。気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会による、攻撃戦略。それは、以下の内容である。
--
彼らに対して、新規の知見を、一切、与えないこと。彼らに対して、論理的で科学的な分析に基づく知見を、一切、与えないこと。
例。彼らに対して、新たな科学技術の供与を、ロックすること。彼らによる、新たな科学技術へのアクセスを、ブロックすること。
その結果。
彼らを、決して、近代化させないこと。彼らを、後進的な状態へと、留めること。
そうした彼らに対して、植民地支配を行い、彼らの所有資源を、継続的に、搾取し続けること。彼らを、継続的に、家畜化すること。
--

そうした攻撃に対する、彼ら自身が、更に取るべき、対策。それは、以下の内容である。
--
面従腹背。
気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会に対して、表面的に、媚びて迎合すること。
気体性の価値観に対して、表面的に、一体融合化すること。

それらの結果。
そうした社会における、彼らに対する敵愾心を、解除すること。
そうした社会との友好関係を、構築すること。
-
徹底的な性的誘引。
美女的社会として、振る舞うこと。
気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会に対して、女性優位の性的誘引コンテンツを、大量に配布すること。
例。萌え絵女性のコンテンツを、ネット経由で、大量に配布するこ

と。アニメ。ゲーム。コミック。それらは、性的なアダルト表現を、大量に含むこと。

それらの結果。
気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会を、性的に篭絡すること。
そのことで、そうした社会の警戒を、故意に緩ませること。
そのことで、そうした社会に対して、美女的社会によるスパイ行為を、平然として、大量に実行すること。
--

その結果。
そうした社会から、新たな科学技術の供与を、再び受けること。そうした社会が占有している新たな科学技術。そうした技術へのアクセスを、再び可能にすること。

その結果。
彼らは、近代化に成功すること。彼らは、より先進的な状態へと、前進すること。
彼らは、以下の行為を、怒涛のように、実行すること。
高い新規性と、高い品質とを併せ持つ、競争力が極めて高い最終製品。そうした製品を、世界市場に向けて、大量に出力すること。

その結果。
彼らは、気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会における、優位性を、駆逐すること。
彼らは、世界の中心に君臨すること。彼らは、新たに、気体性社会や移動生活様式の社会や男性優位社会を、彼らにとっての下僕とすること。
--

追加内容。2022年11月初出。その3。生物の有性生殖における、

病気や障害の、分類。

生物と生殖。有性生殖の場合。

生殖。
異性の配偶者との間で、遺伝的子孫を、生成し、後世に存続させること。

性度。
ある物質の中において、ある性質が存在する、度合い。
ある生物において、ある性質が存在する、度合い。
生物の生殖との関連において。
それは、以下の内容である。
--
男性度。ある生物における、男性性の強さの度合い。
女性度。ある生物における、女性性の強さの度合い。
--

それらは、それぞれ、以下の内容のサブクラスである。
--
気体性度。ある生物における、気体性の度合い。
液体性度。ある生物における、液体性の度合い。
--

生殖障害。
それは、以下の内容である。
生物の生殖における、問題発生。
生物の生殖における、困難性。
生物における、性的不能性。
例。LGBTQ＋。
例。男性の性行為における、勃起不全。女性の性行為における、不感症。
それらは、遺伝的要因と、文化的要因との、両方によって、生起すること。

生物の生殖における、病気や障害。
社会的な性的不能性。
ある生物が、異性によって、恋愛対象から、一方的に除外されること。
その結果。
その生物は、遺伝的子孫を、残すことが出来なくなること。
その原因。
-
その生物における、無能性。
その生物における、不良性。
その生物における、病性。
-

生殖のプロセス。
ある生物における、先天的な遺伝情報に基づく、性別についての、後天的な、用意や組み立て。

異性の配偶者同士の、性的誘引。
異性の配偶者同士の、性行為。
異性の配偶者同士の、受精。
親の体内において、子供が、ある程度、成長し、発達し、成熟すること。
そうした子供が、親の体外へと、出ること。
親が、そうした子供を、養育すること。
そうした子供が、成長し、発達し、成熟すること。
そうした子供が、最終的に、親から独立すること。

生物の生殖における、病気や障害。
それらの原因。
それは、以下の内容である。
-
資源の不足。栄養不足。
設備の故障。設備の不良。設備の構築失敗。
-

それらは、最初から予め存在するか、後から新規に生起すること。

生物の生殖における、病気や障害。
統計との関連。

--
生物の生殖における、統計的分類。
それは、以下の内容である。
-
性的多数者。生殖行為の内容における、多数者。
性的少数者。生殖行為の内容における、少数者。
-
性的健常者。正常な生殖行為が、可能であること。彼自身の遺伝的子孫を、残せること。
性的障害者。正常な生殖行為が、不可能であること。彼自身の遺伝的子孫を、残せないこと。
-

--
生物の生殖における、統計的分布。
それは、以下の内容である。

男性度。女性度。
それらを、総合指標として、利用すること。
それらを、個別指標として、利用すること。

男性性は、気体性のサブセクションであること。
女性性は、液体性のサブセクションであること。

男性度は、気体性の度合いへと、収斂すること。
女性度は、液体性の度合いへと、収斂すること。
それらの度合いは、連続値であること。
それらの度合いについて、二次元の統計グラフ表示が可能であること。

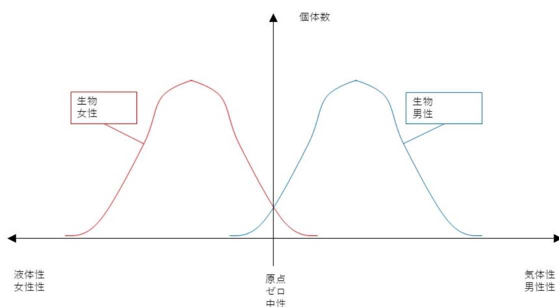
実際の生物において。
それらの統計分布は、左右に分離しつつ、互いに、オーバーラップすること。

統計グラフ表示において。
-
左右の両端が、それぞれ、男性性と女性性の、最大値であること。
右側が、男性性や気体性を、示すこと。
左側が、女性性や液体性を、示すこと。

男性性と女性性との中間において、中性が、存在すること。
それは、男性度と女性度の、測定や表示における、原点であること。

類似の参考例。
物質における、酸性とアルカリ性と中性との、関係。
-

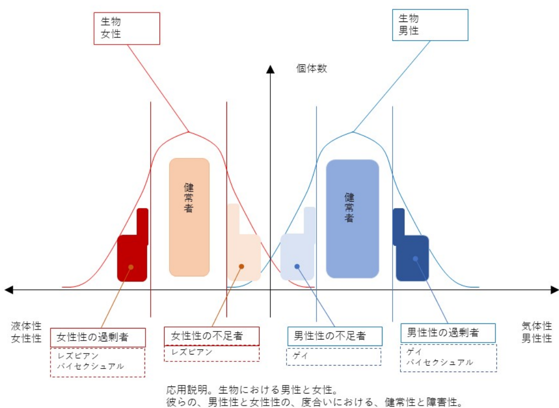
それらの、グラフ表示。



そうした統計分布において。
-
女性性における左端部。女性性の過剰。障害性。性的障害者。レズビアン。バイセクシュアル。
女性性における中央部。女性性の適量性。健常性。性的健常者。
女性性における右端部。女性性の不足。障害性。性的障害者。レズビアン。
-

左右の中央部。中性。男性性と女性性との両方が、ゼロであること。性的障害者。アセクシュアル。
-
男性性における左端部。男性性の不足。障害性。性的障害者。ゲイ。
男性性における中央部。男性性の適量性。健常性。性的健常者。
男性性における右端部。男性性の過剰。障害性。性的障害者。ゲイ。バイセクシュアル。
-

それらの、グラフ表示。



--
実際の生物において。
２つの個体の間における、男性度や女性度の位置の、相互比較。

ある生物における、各々の身体部位。
外観。内部機能。
生殖細胞。生殖器。育児機構。
筋肉。皮膚。内臓。
神経系。行動。

それらの性別や性度は、それぞれ、独立に決まること。
その結果。
ある生物における、各々の身体部位毎に、性度が違うこと。
その結果。

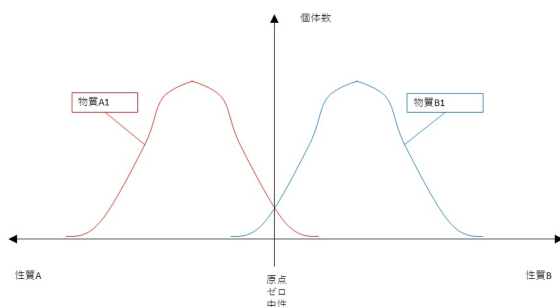
以下のような状況が、生起すること。
ある生物における、各々の身体部位の間における、性別の不整合。
トランスジェンダー。

生物の神経系。
それは、広義で捉えた場合、生殖設備の一種であること。
それは、広義で捉えた場合、生殖設備に含まれること。
その理由。
仮に、ある生物において、神経系が無い場合。
その生物は、生殖行動が、不可能になること。

一般的な説明。
ある物質において。

多項性を持つ、性質。
-
二項性を持つ、性質。
例。
酸性。アルカリ性。
男性性。女性性。
-
三項性を持つ、性質。
例。
固体性。液体性。気体性。
そのうち、液体性と気体性の、二項を、部分的に取り出すこと。
そのサブクラスとして、女性性と男性性との二項性が、成立すること。
-

二項性についての、統計グラフ表示。



-
連続項目。
各項目の連続性。それぞれの性質が、連続的に分布すること。
例。酸性とアルカリ性。
-
独立項目。
各項目の、断絶性や独立性や個別性。それぞれの性質が、非連続的に分布すること。それぞれの性質の間において、相互遷移時に、乗り越えるべき壁が、存在すること。
例。固体性と液体性と気体性。
固体性と液体性とを隔てる壁として、融解熱が、存在すること。
液体性と気体性とを隔てる壁として、気化熱が、存在すること。
-

--
中性化。
それぞれの項目同士を足し算すること。そのことで、内容における中和が、起きること。
例。
-
連続項目。
酸性とアルカリ性とを足し算すること。そのことで、それらは、中性になること。
-
独立項目。

男性性と女性性とを足し算すること。そのことで、それらは、中性になること。
-

--
ある物質における、各々の部位について。

多項性の性質の、足し算を行うこと。
その結果。
その物質の総合的性質が、全体として、多項目のうちの、いずれかの項目の性質へと、総合的に決まること。

二項性の性質の、足し算を行うこと。
その結果。
その物質の総合的性質が、全体として、二項目のうちのどちらかの項目の性質へと、総合的に決まること。

例。
ある生物における、各々の身体部位について。
男性性と女性性の、足し算を行うこと。
その結果。
その生物の性別が、全体として、男性と女性のうちのどちらかへと、総合的に決まること。
それは、以下の内容である。
生物における、性別の決定。その加算的側面。

生物の生殖における、病気や障害。

生物における、性別の決定について。
他方では、次のような見地も、成立すること。

生物における、性別の決定。その唯一的側面。
それは、以下の内容である。
その生物が、彼自身の遺伝子において、X遺伝子やY遺伝子のような、その性別固有の遺伝子を、所有していること。
その生物が、彼自身の遺伝情報において、X遺伝子やY遺伝子の遺伝

情報のような、その性別固有の遺伝情報を、含有していること。

生物における、性別の決定条件。
それは、本来は、上記の唯一的側面のみであること。

そうした性別についての遺伝情報に基づいて、生物の身体が、順次、性別を伴って、構築されて行くこと。
そのプロセスにおいて、構築エラーが起きること。

そうした構築エラーの結果。
その生物の身体の各部位における性別の間において、矛盾が生じること。
例。
-
遺伝情報は男性であるが、女性の生殖設備を、身体に持つこと。
遺伝情報は男性であるため、女性の生殖細胞を持つことが出来ないこと。
そうした、トランスジェンダーの生物。
-
遺伝情報は女性であるが、男性の生殖設備を、身体に持つこと。
遺伝情報は女性であるため、男性の生殖細胞を持つことが出来ないこと。
そうした、トランスジェンダーの生物。
-

例。
そうした構築エラーの結果。
神経系における性別と、その他の身体部分における性別とが、異なること。

その例。
-
遺伝情報は男性であるが、神経系が女性化して、女性のように行動すること。その結果、彼自身のことを、女性であると、性自認すること。
そうした、トランスジェンダーの生物。
-
遺伝情報は女性であるが、神経系が男性化して、男性のように行動すること。その結果、彼女自身のことを、男性であると、性自認すること。

そうした、トランスジェンダーの生物。
-

そうした構築エラーの結果。
その生物の身体の各部位において。
性別の生成そのものが、不完全になること。
性別そのものが、無いこと。

例。
その生物の神経系において。
性別の生成そのものが、不完全になること。
性別そのものが、無いこと。

その例。
-
遺伝情報は男性であるが、神経系が性別無しのように行動すること。その結果、彼自身のことを、性別無しと、性自認すること。
そうした、トランスジェンダーの生物。
-
遺伝情報は女性であるが、神経系が性別無しのように行動すること。その結果、彼女自身のことを、性別無しと、性自認すること。
そうした、トランスジェンダーの生物。
-

そうした構築エラーの要因。
-
内部環境のみの要因で、起きること。
例。
それぞれの身体部位の生成の過程において、性別に関する遺伝子複製のエラーが、起きること。
それぞれの身体部位の生成の過程において、性別決定ホルモンの、生成不足や生成過剰が、起きること。
-
外部環境の影響を、受けること。
例。
性転換を引き起こすホルモン物質が、母親から胎児へと、流入すること。
-

そうした構築エラーが起きない場合。

生物における、性別の決定。その唯一的側面。
ある生物の、大元の遺伝情報レベルにおいて。

--
同性愛の場合。
-
男性性が、過剰であること。
男性性が過剰な男性が、男性性が不足した男性を、相対的に女性的であると見做して、性的対象とすること。それは、男性同性愛者を生み出すこと。
女性性が、過剰であること。
女性性が過剰な女性が、女性性が不足した女性を、相対的に男性的であると見做して、性的対象とすること。それは、女性同性愛者を生み出すこと。
-
男性性が、不足していること。
男性性が不足している男性が、男性性が過剰な男性を、相対的に男性的であると見做して、性的対象とすること。それは、男性同性愛者を生み出すこと。
女性性が、不足していること。
女性性が不足している女性が、女性性が過剰な女性を、相対的に女性的であると見做して、性的対象とすること。それは、女性同性愛者を生み出すこと。
--
彼らは、遺伝的子孫を残すことが出来なくなること。

--
バイセクシュアルの場合。
男性性が、過剰であること。
男性性が過剰な男性が、男性性が不足した男性と、女性との、両方を、相対的に女性的であると見做して、性的対象とすること。それは、バイセクシュアルな男性を生み出すこと。
女性性が、過剰であること。
女性性が過剰な女性が、女性性が不足した女性と、男性との、両方を、相対的に男性的であると見做して、性的対象とすること。それは、バイセクシュアルな女性を生み出すこと。
--

彼らは、遺伝的子孫を残すことが出来ること。

ある生物における、そうした身体の構築の後において。
その身体部位において。
-
病変が起きること。
破壊が起きること。
改変が起きること。
-

それらの結果。
その身体部位における性別が、変化したり、転換したりすること。

例。
人間における、卵巣や精巣の、外科手術による摘出。
そのことが、その人物にもたらす、性別における、中性化。
歴史上の実例。中国の王朝国家における、宦官。

生物の生殖における、障害。

ある生物における、そうした身体の構築の後において。
彼自身の、各々の身体部位における、可変部分や学習可能部分において。
後天的学習により、その性別が、変化したり、転換したりすること。
例。
彼自身の神経回路における、可変部分や可塑部分。

具体例。
-
息子が、親によって、女性として、養育されること。その結果。彼は、女性的に振る舞うようになること。
-
娘が、親によって、男性として、養育されること。その結果。彼女は、男性的に振る舞うようになること。
-

具体例。
-
女性優位社会において、男児が、強力な母性の影響によって、女性優位の男性へと、成長すること。
その結果、彼は、不完全な女性として、振る舞うようになること。
-
男性優位社会において、女児が、強力な父性の影響によって、男性優位の女性へと、成長すること。
その結果、彼女は、不完全な男性として、振る舞うようになること。
-

具体例。
女性が、男性の衣装を身に着けて、外見において、男性として振る舞うこと。日本の宝塚歌劇団の女性団員。
男性が、女性の衣装を身に着けて、外見において、女性として振る舞うこと。日本の歌舞伎役者。

そうした、トランスジェンダーの生物。

生物の生殖における、病気や障害。

--
ある生物において。
-
生殖細胞が、無いこと。例。無精子症。
生殖細胞の数量が、不足していること。例。精子の欠乏。
生殖細胞の性質が、不良であること。例。女性の加齢に伴う、卵子の劣化。男性の精子が、元気が無いこと。
生殖細胞が、死滅すること。例。女性の閉経。
生殖細胞が、無効化されること。例。卵子や精子において、受精能力が無くなること。
-
彼らは、遺伝的子孫を残すことが出来なくなること。

生物における、承認欲求。
それは、以下の内容である。

ある生物において。
彼自身が生きていくために、資源の確保が、必要であること。
その確保が、彼自身の独力では困難であること。
その確保において、他者による援助が、何かしら必要であること。
そうした援助をしてくれる協力者が、欲しいこと。
そのための、仲間作りや友達作りを、したいこと。
そうした仲間や友達になってくれる他者を、作りたいこと。
そのためには、彼自身の有益性を、そうした他者によって、何かしら認められる必要があること。
そのことで、彼自身の存在を、そうした他者によって、受け入れられる必要があること。
それは、以下の内容である。
そうした他者が、彼自身の存在を、承認すること。

--
ある生物において。
彼自身の自己複製が必要であること。
-
彼自身の遺伝的子孫の自己複製を、行いたいこと。
そのために、彼自身と共同で遺伝的子孫を残す配偶者を、獲得したいこと。
そのためには、彼自身の有益性を、そうした配偶者候補の他者によって、何かしら認められる必要があること。
そのことで、彼自身の存在を、そうした他者によって、受け入れられる必要があること。
それは、以下の内容である。
そうした他者が、彼自身の存在を、承認すること。
-
彼自身の文化的子孫の自己複製を、行いたいこと。
そのために、彼自身による外部出力を、積極的に受信し複製し流布してくれる他者を、獲得したいこと。
そのためには、彼自身の出力内容の有益性を、そうした他者によって、何かしら認められる必要があること。
そのことで、彼自身の存在を、そうした他者によって、受け入れられる必要があること。

それは、以下の内容である。
そうした他者が、彼自身の存在を、承認すること。
-

--
ある生物において。
彼自身が生きていくために、生きやすさの向上が必要であること。
そのために、彼自身における社会的上位性の確保が、必要であること。
そのために、彼自身における、生きやすさの確保における強力性が、必要であること。
そうした強力性の確認をしたいこと。それは、以下の内容である。
彼自身の有力性を、他者によって、認められること。
そのためには、彼自身の存在を、そうした他者によって、受け入れられる必要があること。
それは、以下の内容である。
そうした他者が、彼自身の存在を、承認すること。
--

彼自身の、生きやすさの確保における、強力性。
彼自身の、他者にとっての、有益性。
それらは、以下の内容である。
-
彼自身の、有能性。彼自身が提供する機能の、有効性。
彼自身が提供可能な、彼自身が所有する既得権益の、大きさ。
-

女性優位社会と男性優位社会との間における、闘争。
その闘争に勝利するための、一番、本質的で効果的な、戦略。
それは、以下の内容である。

女性優位社会と男性優位社会との間において。
一方の社会が、他方の社会を、性的に疲れ果てさせること。
一方の社会が、他方の社会を、性的に持続不能にすること。
一方の社会が、そのことで、他方の社会に対して、打ち勝つこと。

一方の社会が、そのことで、他方の社会に対して、上位者となること。

そのための、戦略。
それは、以下の内容である。
--
一方の社会が、性的誘引のためのコンテンツを、他方の社会に向けて、大量に配布すること。
-
例。女性優位社会の場合。
男性優位社会に対して、萌え絵女性のコンテンツを、大量に送り付けること。
男性優位社会に対して、美少女コンテンツを、大量に送り付けること。
-
それにより、一方の社会が、他方の社会を、性的に撹乱し、性的に搾り取り、性的に持続不能にすること。
それにより、一方の社会が、他方の社会に対して、経済的な搾取と、経済的な持続不能化とを、徹底的に行うこと。
--

そうした闘争の、帰結。その決定要因。
それは、以下の内容である。
--
女性は、男性に比べて、性的絶頂回数を、いくらでも増やすことが出来る。
女性は、男性に比べて、より、性的限界に達しにくい。
女性は、男性に比べて、より、性的に持続不能に、なりにくい。
女性は、男性に比べて、より、性的に持続可能である。
--
性的な持続能力。その能力は、女性の方が、男性よりも、より優れている。
性的な持続可能性を巡る、闘争。その闘争は、女性が、男性に対して、必ず勝利する。
性的な持続可能性について。女性は、必ず上位者となる。男性は、必ず下位者となる。
女性優位社会と、男性優位社会との、性的な持続可能性を巡る、闘争。その闘争は、女性優位社会が、男性優位社会に対して、必ず勝利する。

性的な持続可能性について。女性優位社会は、必ず上位者となる。
男性優位社会は、必ず下位者となる。
--

そうした闘争の、最終的な帰結。
それは、以下の内容である。
女性優位社会が、男性優位社会を、性的に疲れ果てさせること。
女性優位社会が、男性優位社会を、性的に持続不能にすること。
女性優位社会が、そのことで、男性優位社会に対して、打ち勝つこと。
女性優位社会が、そのことで、男性優位社会に対して、上位者となること。

生物における、液体性の宿命。

生物は、主に、液体の水分から構成されていること。
生物は、液体の水分無しでは、生きて行けないこと。
気体性生物も、本質的には、液体として、振る舞うこと。
気体性生物も、終局的には、液体性の本質から、逃れることが出来ないこと。
参考。
気体性の生物。例。ウィルス。精子。精細胞。男性。
液体性の生物。例。卵子。卵細胞。女性。

追加内容。2023年1月下旬初出。神経回路における、フィードバック待機機能の実装。生物における恋愛。情報通信産業と、商業や交

通物流産業との、共通性や同質性。

神経回路における、フィードバック待機機能の実装。

フィードバックの結果待ちの機能の、神経回路における実現。

--
ある生物的神経系において。
出力後、フィードバックの結果が返ってくるまで、待機状態に入ること。
そうして、彼自身が待ちきれなくなるまで、次の出力を、控えるか中断すること。

あるいは、前回と同一の出力を、連続させること。
-
出力を、間歇的に連続させること。
出力を、絶え間無く連続させること。
-
出力は、結果が十分に出るまで、連続させること。
-
出力は、発火の余力を維持出来ている間は、ずっと連続させること。
出力は、発火の余力を喪失するまで、ずっと連続させること。
-

--
結果が十分に返って来たら、待機状態を終えること。
結果が良好だった場合。その出力を促進すること。
結果が不良だった場合。その出力を抑制すること。

結果待ち状態の、神経回路における実現。

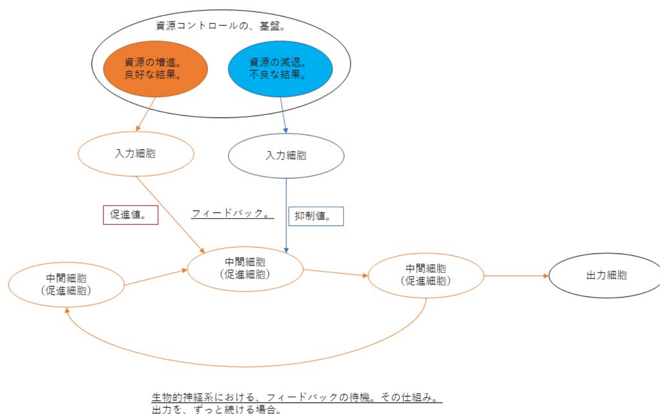
--

実行可能状態。
受け取った神経伝達物質の総量が、集計可能であること。
出力の発火が可能であること。
--
実行中。
神経伝達物質の集計中。
出力の発火中。
--
実行後。
待ち状態。ループに入ること。
発火を控え続けること。不発火を続けること。
発火を、ずっと続けること。間歇的に続けること。連続的に休み無く続けること。
--
資源の増減についての、資源管理基盤からの神経細胞へのフィードバック。
そのフィードバックは、ブロードキャストであり、全ての神経細胞へと、無差別に伝達されること。
そのフィードバックの働きや効果は、待ちループ中の神経細胞に対してのみ、有効であること。
--
サスペンド。
出力発火の余力が無くなったら、再び発火の余力をチャージして回復するまで、出力を休止すること。
--
一時的棚上げ。
別の用事の発生によって、待ちの待ちの状態に入ること。
--
一時的忘却。
別の用事の発生によって、待ち状態そのものを解除すること。
--
抹消。
待ち状態そのものを無効化すること。
--

神経回路における、待機のメカニズム。
待機の開始への、メカニズム。
待機状態の維持の、メカニズム。
待機の中断から再開への、メカニズム。

待機の終了のメカニズム。完了。忘却。棚上げ。抹消。

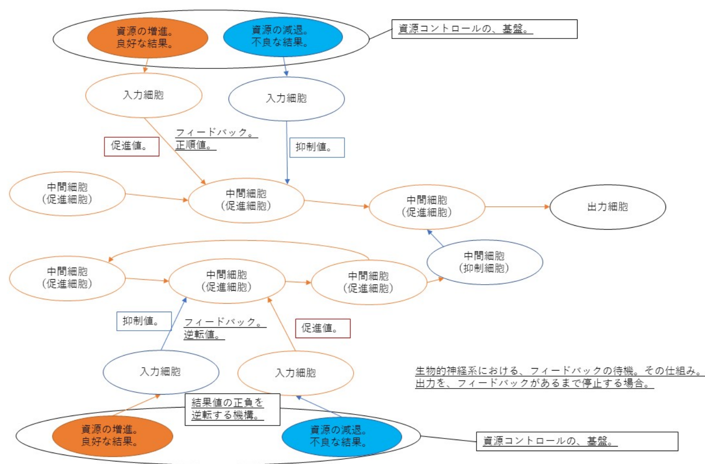
--
待機中に、ずっと出力し続ける場合。
フィードバック結果が良好だった場合、次の神経細胞へと促進出力する仕組み。
フィードバック結果が不良だった場合、次の神経細胞へと抑制出力する仕組み。
それらの内容は、以下の図である。



生物的神経系における、フィードバックの待機。その仕組み。
出力を、ずっと続ける場合。

--
出力を、フィードバックがあるまで、一時停止する場合。
フィードバックが無いことを検知し続ける仕組みが、必要であること。
フィードバックが無いことを通知し続ける仕組みが、必要であること。
それは、無限ループであること。
最初の出力後。
フィードバックが無い間は、次の神経細胞への抑制出力を、ずっと無限にループする仕組み。
その後。
フィードバック結果が良好だった場合、次の神経細胞へと促進出力する仕組み。
フィードバック結果が不良だった場合、次の神経細胞へと抑制出力する仕組み。

そうした、抑制細胞メインで動く仕組みを、構築すること。
それらの内容は、以下の図である。



上記の場合。
逆転値を出力するための神経回路の構築が必要であること。
しかし、その実現は、促進細胞と抑制細胞のみでは、不可能であること。
そのため、以下の内容の実現が必要であること。
資源管理基盤それ自体が、逆転値を、最初から出力可能であること。
資源管理基盤それ自体が、正順値と、逆転値とを、それぞれ独立に出力可能であること。

--
資源管理基盤によるフィードバックの値。
良好な結果の通知の場合。プラスの値。
不良な結果の通知の場合。マイナスの値。

--
結果通知のターゲットの神経細胞。
-
正順値の場合。
良好な結果は、1。
不良な結果は、-1。
-
逆転値の場合。

良好な結果は、-1。
不良な結果は、1。
--

フィードバックを行う神経細胞と、フィードバックを行わない神経細胞とを、分ける必要があること。
フィードバックが有効な神経細胞と、フィードバックが無効な神経細胞とを、分ける必要があること。
それらの区別の基準を、どうするか？
--
神経細胞における過負荷の度合いが大きい場合。フィードバックを、行わないこと。
過負荷とは。入力元の細胞が多すぎること。出力先の細胞が多すぎること。
--
神経細胞が、そのフィードバックそのものを学習する細胞である場合。フィードバックを、行わないこと。
そのことは、資源管理基盤からのフィードバックの有効性を、絶えず損なわないために、必須であること。
--

フィードバックを行うターゲット細胞の要件。
入出力の負荷が小さい細胞であること。
フィードバック効果が固定されている細胞であること。

フィードバック待機の記憶を行う細胞。
学習細胞。
それは、待機すればするほど、促進学習すること。
それは、待機すればするほど、結線が太くなること。

フィードバック待機の一時的忘却の仕組み。
待機行為そのものの、待機。
待機行為そのものの、棚上げ。
それは、待機の仕組みの二重化によって実現されること。

＝＝＝＝＝
生物における恋愛。

有性生殖の生物は、彼らの生涯において、有能者の異性を、獲得しようとすること。
有能者の異性。彼らは、理想の異性であること。
例。見目麗しい、若い異性。
例。稼ぎが良い男性。包容力がある女性。
例。性行為の技術に長けている異性。
彼らを配偶者として獲得するには、相手からも理想の異性として見られることが、必要であること。
彼らを配偶者として獲得するには、同性間における配偶者の奪い合いに勝利することが、必要であること。
彼らを配偶者として獲得することは、難しいこと。
彼らと配偶者としての関係を維持するには、多大な努力が求められること。

彼らを配偶者として獲得する能力に欠けている者。
それは、以下の内容である。
社会的な性的不能者。

社会的な性的不能者の性的ターゲットとしての、バーチャルな異性。

それは、理想である度合いがとても高い異性であること。
それは、最高で至高の、異性であること。
それは、最高に魅力的であること。
それは、最高に気持ち良いこと。

そうした、最高の理想的な異性。
それは、生身の異性の生物にとって、絶対に敵わない、最高の脅威に当たる、同性のバーチャルな生物であること。
それは、生身の異性の生物に対して、以下のような感情をもたらすこと。
-
その生身の生物が、異性愛者である場合。
それは、不快であること。
それは、気持ち悪いこと。
-
その生身の生物が、同性愛者である場合。

それは、最高に魅力的であること。
それは、最高に気持ち良いこと。
-

その生物が、異性愛者である場合。
生身の異性は、そうしたバーチャルな異性を、徹底的に敵視すること。
例。無視すること。攻撃すること。貶すこと。
例。生身の女性が、萌え絵の女性を、必死になって攻撃すること。

＝＝＝＝＝
情報通信産業と、商業や交通物流産業との、根本的な同質性。
商業や交通物流産業。物品の、小売や交換や配布。
情報通信産業。情報の、小売や交換や配布。

両者は、以下の行為を主に行う点で、共通であり同質であること。
ターゲットとなるオブジェクトの、小売や交換や配布。

追加内容。2023年2月中旬初出。その1。生物における、自己複製や自己増殖。それらのプロセスの、コンピュータシミュレーションによる実装。

生物の細胞。
それは、コンピュータプログラムにおける、プロセスに相当すること。

生物の細胞活動。
それは、コンピュータプログラムにおける、プロセスの動作に相当すること。

生物の細胞分裂。
生物の細胞増殖。
それらは、コンピュータプログラムにおける、プロセスの、自己分裂や自己分割や自己増殖や自己複製に相当すること。

生物の細胞は、資源エネルギーの供給が持続する限り、自動的に、自己分裂を繰り返すこと。

コンピュータプログラムにおけるプロセスが、特定の前提条件がクリアされている限り、自動的に自己分裂を繰り返すこと。

プロセスにおける、自己分裂の実現。
それは、プロセスにおける、自己複製や自己増殖の実現に繋がること。
それは、以下の内容へと、繋がること。
有性生殖における、減数分裂。そのコンピュータシミュレーションによる実現。その導出。

プロセスにおける、機能分化の実現。
遺伝子コードと同様の情報表現。
遺伝子コードと同様の、分化した機能発現。
それらの実現。

プロセスにおける、突然変異の実現。
プロセスの自己複製において。
遺伝子コードと同様の情報における、複製エラーの発生。
その実現。

プロセスの自己分裂や自己複製。
それは、以下の内容である。
あるプロセスが、それ自身と同格のプロセスの、生成者となること。
あるプロセスが、それ自身と同格のプロセスの、一時的な養育者や養成者となること。

プロセスのマスター情報。
それは、プロセス遺伝子であること。

プロセスの複製。
それは、必然的に、以下の内容を伴うこと。
プロセス遺伝子の複製。

プロセス遺伝子の複製。
デッドコピー。丸ごとコピーすること。突然変異が無いこと。
ライブコピー。個々に1つずつコピーすること。突然変異が有ること。

プロセスによる、それ自身の自動複製。
それは、以下の内容である。
マスター遺伝子情報から、プロセスの内容を、その都度、自動展開すること。
それは、以下の内容である。
プロセスの内部に、その実行スクリプトとデータとを、複製して内蔵すること。
そのスクリプトとデータを、その都度、実行すること。

プロセスの内容。
資源エネルギーを、外部から取得する働き。
資源エネルギーを、そのプロセス自身の活動へと、転化させる働き。
自己保存。自己保身。
自己複製。
それらの働き。そのスクリプトが、そのプロセスのマスター遺伝子情報に、書かれていること。

自己複製。
それは、自己増殖と同じであること。
そのプロセスと同一の、特質や性質。
そうした特質や性質を持つ、構成粒子や構成個体の数が、増えること。

自己増殖する物質。
その一類型としての、生物の増殖。細胞の増殖。ウィルスの増殖。
その一類型としての、遺伝子複製。

遺伝子を特に備えていないタイプの生物が、別途存在すること。
それらは、以下の機能を備えていること。
包膜。自己複製。
例。コアセルベート。マリグラヌール。リボゾーム。

それらの働きの、コンピュータシミュレーションに基づく実装。
それが、生物学の発展において、とても重要であること。

追加内容。2023年2月中旬初出。その2。生物的神経系プログラミングにおける、機能実装の進め方。

神経系プログラミングにおける実装機能。

フィードバック学習。
フィードバックに対する待機。
それらの前提となる機能。
それは、以下の内容である。
資源の増減。その見張り。その管理。それらの現況通知。
資源枯渇についてのアラーム通知。
それらの実装。
それは、以下の内容である。
以下の内容を、それぞれ関数化すること。
以下の内容を、それぞれ独立プロセス化すること。
以下の内容を、それぞれリアルタイム処理すること。
以下の内容を、外部のタイマープロセスにより、一定時間間隔で、実行すること。

資源の蓄積量の測定。
資源の流入量の測定。
資源の流出量の測定。内部における消費。外部への流出。
資源の増減の測定。資源の収支の計算。
収支がプラスの場合。
順行タイプの場合。促進細胞を発火させること。その細胞は、中間細胞へと、繋がっていること。
逆転タイプの場合。抑制細胞を発火させること。その細胞は、中間細胞へと、繋がっていること。
収支がマイナスの場合。
順行タイプの場合。抑制細胞を発火させること。その細胞は、中間細胞へと、繋がっていること。
逆転タイプの場合。促進細胞を発火させること。その細胞は、中間細胞へと、繋がっていること

プログラムの開発の進め方。
資源の流入量や流出量の、検知。
最初は、毎回同じ値を、キューで送出すること。
次は、それぞれ配列で定めた各々の値を、キューで順次送出すること。
それらの値は、全部送出し終えたら、次は、ラウンドロビンで、ずっと送出し続けること。

追加内容。2023年2月中旬初出。その3。物質や生物における、パラドックス。社会的パラドックスとしての、社会的な嘘つきや社会的な矛盾と、社会的な正しさの主張との関連。物質や生物の進化における、良好な進化と、不良な進

化。そうした進化における、パラドックス。

＝＝＝＝＝
パラドックス。逆理。
事前の想定や予期とは逆の結果が、生み出されること。

動作におけるパラドックス。
物質の動作が、事前の想定や予期とは逆の結果を、生み出すこと。

行動におけるパラドックス。
生物の行動が、事前の想定や予期とは逆の結果を、生み出すこと。

社会的パラドックス。
物質や生物による、社会的な主張。
物質や生物による、社会的ルールの設定。
物質や生物による、社会政策の実行。
それらが、事前の想定や予期とは逆の結果を、生み出すこと。

世界には、二つ以上の粒子物質が、存在すること。
そのことから導出される、結論。
物質は、社会的存在であること。
その意味では。
社会的パラドックスは、生物のみに限定されず、物質一般において、広く存在すること。

＝＝＝＝＝
物質の進化。

生物の進化。
それは、物質の進化の一種であること。

物質一般は、進化すること。
新たな種類の物質が、絶えず生成していること。
それらの原因。

それは、物質の化学反応における、エラーや突然変異であること。
例。
生物の遺伝子複製における、エラーや突然変異。

新たな種類の物質が、次々と自動的に生まれること。
例。
生物における新種生物の自動生成。

進化の過程において、消滅し絶滅するタイプの物質が、多数存在すること。
生物一般も、そうした物質の一種であること。
生物としての人間も、そうした物質の一種であること。

ある物質の、消滅や絶滅に結びつく進化。
それは、不良な進化であること。
ある物質の、自己保存や繁栄に結びつく進化。
それは、良好な進化であること。

不良な結果をもたらすと予期された進化が、その物質にとって、良好な結果を生み出すこと。
良好な結果をもたらすと予期された進化が、その物質にとって、不良な結果を生み出すこと。
それらは、以下の内容である。
物質進化におけるパラドックス。
例。
生物進化におけるパラドックス。

物質社会の進化におけるパラドックス。
例。
生物社会の進化におけるパラドックス。
人間社会の進化におけるパラドックス。

そうしたパラドックス。
その例。その１。
人間社会における、ポリティカル・コレクトネスの思想。
その社会的普及や文化的蓄積における、パラドックス。

その具体例。

平等性のパラドックス。

優劣関係の否定における、パラドックス。
上下関係の否定における、パラドックス。

多様性のパラドックス。
画一性の否定における、パラドックス。

実現不能性のパラドックス。

その例。その２。
素粒子分析におけるパラドックス。
起源追求におけるパラドックス。

その例。その３。
気体と液体の、パラドックス。

その例。その４。
粒子と動作と社会の、パラドックス。

＝＝＝＝＝
社会的パラドックス。
その具体的な内容。

平等性のパラドックス。

社会的な優劣関係。社会的な上下関係。社会的な階級制。それらの肯定としての、社会的な差別。
それらを否定する思想。反差別の思想。
そうした思想の所有者が、社会的に優位になること。
そうした思想の主張者が、社会的上位者になること。
そうした思想の主導者が、社会的支配者となること。
そうして、新たな、社会的階級制や社会的差別が生じること。
そうした、社会的現象。

多様性のパラドックス。

多様性を重視する思想。
画一性を否定する思想。

例。生物多様性の尊重。全体主義的な独裁制の否定。
そうした思想が、社会的に普遍化すること。
その結果。
その社会の全員が、その思想を画一的に所有すること。
そうした画一性を、理想として追い求めることになること。

素粒子分析のパラドックス。

素粒子の存在を追求する、科学的思想。
それは、以下のようなプロセスを辿ること。
ある素粒子の有力候補が見つかること。
その素粒子を、更に分析する試みが、行われること。
誰かが、その分析に、新たに成功すること。
その結果。更に小さな素粒子の有力候補が見つかること。
上記のループが、いつまでもエンドレスに、再帰的に、続くこと。

起源追求のパラドックス。

物事の起源を求める思想。
それは、以下のようなプロセスを辿ること。
ある起源の有力候補が見つかること。
そのこと自体についての起源を、更に求める試みが、行われること。
誰かが、その試みに、新たに成功すること。更に根源的な起源の新発見が、成就すること。
上記のループが、いつまでもエンドレスに、再帰的に、続くこと。
その結果。
いつまでも結論を出せずに、混乱すること。
そのことに、我慢出来なくなること。
その結果。
大元の起源を生み出す絶対的な存在を、とりあえず、持ち出すこと。
例。万物の創造主。絶対者としての唯一神。
そのことで、当面の事態解決を、図ること。
それが、一神教の起源であること。

誰の言うことも聞かない存在。
それは、唯一の絶対者であること。
誰かの言うことを聞く存在。
それは、万物の起源には、決してなることが出来ないこと。
それは、万物の創造主には、決してなることが出来ないこと。

起源追求論。
それらは、以下のような前提に、囚われやすいこと。
物事の起源の数が、単一であり唯一であること。
物事の起源の発生が、初回のみであり、一回のみであること。
そうした、暗黙の前提。
そのことは、以下のようなテーマにおいても、顕著であること。
例。宇宙進化論。生命進化論。

気体と液体のパラドックス。

その１。
個々の自立や自由や独立を重視する思想。気体的思想。
そうした思想によって動く社会。
気体性社会。

そうした気体性社会への、一体融合化や調和を行おうとする、液体性社会。
そうした液体性社会が、自己矛盾に、永久に苦しみ続けること。
例。欧米化を試み続ける、日本社会。

液体性社会が、気体的思想に染まろうとすること。
液体性社会が、気体的思想に同調しようとすること。
液体性社会が、気体的思想を丸呑みしようとすること。
それらの実現は、根本的に不可能であること。
その原因。
それは、以下の内容である。
液体は、気体と、一体融合化することが、決して出来ないこと。
気体は、液体の中において、個々の自立や自由や独立を、実現することが、決して出来ないこと。
気体は、液体の中において、気体性を保持することが、決して出来ないこと。

液体が、気体性を内包しようとすること。

そうした行為は、自己矛盾であること。
液体性社会が、気体性を内包しようとすること。
そうした社会的現象は、社会的パラドックスであること。

例。
気体性社会との一体融合化を、懸命になって指向する、液体性社会。
そうした液体性社会が、彼ら自身のことを、必死になって、次のように主張すること。
”我々は、気体性社会の一員である。”
その例。
気体性の者としての、男性。
液体性の者としての、女性。
男性優位社会との一体融合化を、懸命になって指向する、女性優位社会。
そうした女性優位社会が、彼ら自身のことを、必死になって、次のように主張すること。
”我々の社会は、男性優位社会の一員である。”
”我々の社会は、家父長制社会の一員である。”

それらの社会的な嘘付き行為は、仕組みとして、根本的に不可避であること。

その２。
気体は、気体性を保持したまま、液体と接着し融着することが、決して出来ないこと。
その結果。
気体性社会が、液体性社会を見つけることが、決して出来ないこと。
その結果。
気体性社会が、以下のような主張を、必死になって行うこと。
”液体性社会は、ほとんど実在しない。”
その例。
気体性の者としての、男性。
液体性の者としての、女性。
男性優位社会が、以下のような主張を、必死になって行うこと。
”女性優位社会は、ほとんど実在しない。”

それらの社会的な嘘付き行為は、仕組みとして、根本的に不可避であること。

粒子と動作と社会の、パラドックス。
粒子と波の、パラドックス。

粒子物質において。
複数の粒子の間における、相互作用の形成。
そうした相互作用の分析における、問題の発生。
それは、以下の内容である。
粒子が先か？社会が先か？

それらの媒介者としての、粒子の動作。

二つ以上の粒子において。

粒子に動作が伴う場合。動物。動体。
相互に、孤立し合うこと。相互に、無関係を保つこと。
相互に、働きかけ合うこと。
上記の 2 種類の動的な相互作用が、自動的に生じること。
そうした、動的な相互作用。
その一種が、波であること。

波。
それは、粒子の動きであること。例。振動。
ある粒子の動きが、周囲の粒子へと、粒子間の動的相互作用を通じて、伝播していくこと。
ある粒子の振動が、周囲の粒子へと、粒子間の動的相互作用を通して、伝播していくこと。
そうした伝播。
それは、波及であること。

粒子に動作が伴わない場合。静物。静体。
相互に、孤立し合うこと。
相互に、位置的に重なり合うこと。相互に、位置的に重複すること。
上記の 2 種類の静的関係が、自動的に生じること。

動物の反対語は、正確には、静物であって、植物では無いこと。
生物は、正確には、全て動物であること。

そうした動物は、定住者と移動者とに、分けられること。
定住者としての植物。根を張る草木。
移動者としての植物。花粉。珪藻。
生物学における、動物と植物との、分類。
その分類は、正確には、不正であること。

相互の孤立。それ自体が、社会関係の一種であること。
相互の無関係。それ自体が、社会関係の一種であること。

静物の間における、静的関係。
それは、上下左右の位置関係であること。
それは、社会関係であること。

動物の間における、動的関係。
それは、相互作用の有無であること。
それは、社会関係であること。

それらから導出される、結論。
粒子と社会とは、同時に、互いに不可分な形で、共に発生すること。

粒子と社会とのどちらが先かを、議論すること。
それは、結論が永久に出ないこと。
それは、社会的に無意味であること。
その行為に、社会学者たちが、永久に嵌まること。
それは、社会的パラドックスであること。

粒子と波とのどちらが先かを、議論すること。
それは、結論が永久に出ないこと。
それは、社会的に無意味であること。
その行為に、物理学者たちが、永久に嵌まること。
それは、社会的パラドックスであること。

実現不能性のパラドックス。

仕組み的に、実現が不可能なこと。

そうしたことを、可能であると主張し続けること。

例。
生物社会において、恒久平和の理想を、掲げること。
例。欧米諸国主導による、ノーベル平和賞の授与。
上記の内容を、下記の内容に照らし合わせた場合。
上記の内容は、生物にとって、本質的に実現不可能な内容であること。

生物における、資源の無限獲得指向の、本性。
それがもたらす、生物における、限られた資源の奪い合いの、本性。
それがもたらす、生物の世界における、闘争や戦争の、絶え間無い、繰り返しの発生と継続。
それがもたらす、生物の世界における、平和持続の一時的限定性。
そうした生物が、恒久平和の尊さを、真面目に主張すること。

例。
人間の宗教が、不死の霊魂の世界についての理想を、掲げること。
上記の内容を、下記の内容に照らし合わせた場合。
上記の内容は、生物にとって、本質的に実現不可能な内容であること。

生物における、心臓の寿命の有限性。
それがもたらす、生物における、神経系の寿命の有限性。
宗教における霊魂の実体。
それは、生物の神経系における、神経細胞の発火活動の集積であること。
その結果。
生物の霊魂には、寿命が存在すること。
生物の霊魂は、死後は、実在不可能であること。

例。
液体性社会における、実現不能性に基づく、社会的パラドックス。

液体性社会における、分析行為の不能性。
液体的思想においては、物事を分けて捉えることが、不可能であること。
液体的思想においては、物事を一体融合化させて捉えることしか出

来ないこと。
液体的思想においては、物事を、盲目的な丸呑みの形で捉えることしか出来ないこと。
それにも関わらず。
液体性社会において。
彼らが、以下の内容を、盛んに主張すること。
”我々は、きちんと分析を行っている。”

液体性社会における、科学的行為の不能性。
液体的思想においては、物事を冷たく客観的に捉えることが、不可能であること。
液体的思想においては、物事を温室的に主観的に捉えることしか出来ないこと。
それにも関わらず。
液体性社会において。
彼らが、以下の内容を、盛んに主張すること。
”我々は、きちんと科学的思考を実践している。”

液体性社会における、先進的行為や近代的行為の、不能性。
液体的思想においては、内発的な革新が、不可能であること。
液体的思想においては、内発的な革新の試みは、彼らの社会内部に密封されたまま、全部潰されること。
液体的思想においては、革新は、外界からのみ到来すること。
液体的思想においては、物事を前近代的に捉えることしか出来ないこと。
それにも関わらず。
液体性社会において。
彼らが、以下の内容を、盛んに主張すること。
”我々の社会は、近代的である。”
”我々の社会は、先進的である。”

それらは、いずれも社会的パラドックスであること。
それらは、以下の場合において、不可避的に発生すること。
その液体性社会が、気体性社会との一体融合化を指向している場合。

例。

気体性社会における、実現不能性に基づく、社会的パラドックス。

気体性社会には、液体性社会の分析が、仕組み的に不可能であること。
気体性社会は、液体性社会の内情把握能力において、根本的に無能であること。
それにも関わらず。
気体性社会において。
彼らが、液体性社会について、以下の内容を、盛んに主張し宣伝すること。
”それらの社会においては、権威主義的な悪意ある独裁者が、自由独立を指向する気体的な個々人を、抑圧している。我々によるそうした見解は、いつも正しい。”
例。
欧米諸国が、中国やロシアのことを、独裁国家と、悪意を込めて呼称し続けていること。

その結果。
気体性社会が、液体性社会に対して取る、物の見方が、永続的に間違えること。
それにも関わらず。
気体性社会の人々が、以下の内容を、いつまでも主張し続けること。
彼ら自身が液体性社会のことを正しく分析出来ていること。

それは、結局は、社会的パラドックスであること。

全体的な結論。
実現不可能な理想を、社会的に追求し続けること。
そうした社会的行為は、結局は、社会的パラドックスへと陥ること。
決して出来ないことを、出来ると主張すること。
そうした社会的行為は、結局は、嘘付きであり、欺瞞であること。

社会的な正しさ。

その社会的実現を理想とする、思想。
例。ポリティカル・コレクトネスの思想。

その思想が成立するための、前提条件。
それは、以下の内容である。
それは、不正を含まないこと。
それは、嘘付きで無いこと。
それは、矛盾を含まないこと。
それは、パラドックスを含まないこと。

現状のポリティカル・コレクトネスの思想。
それは、自己矛盾やパラドックスを、内包していること。
その結果。
それは、自ら正しさを名乗っていること。
それにも関わらず。
それは、永遠に、正しくなることが出来ないこと。
そのこと自体が、新たな社会的パラドックスであること。

現状のポリティカル・コレクトネスの思想における、パラドックス。
それは、以下の内容である。
自分自身の正しさを主張する者が、不可避的に、嘘付きになること。
例。
反差別思想の主張者。
彼らが、実際には、彼ら自身における、社会的な優位性や上位性の実現を指向していること。
社会的優劣の発生を拒否する者。優生思想に反対する者。
彼らが、実際には、社会的に優位に立って、周囲の他者を抑圧していること。

追加内容。2023年2月下旬初出。その1。生物と資本主義。生物個体における、社会的資本の蓄積

と、社会主義や共産主義との関連。

生物と資本主義。

生物における自己増殖。
彼自身の構成部品を、自己複製すること。
彼自身の個体を、自己複製すること。
彼自身の子孫を、増やし広めること。遺伝的子孫。文化的子孫。
それらは、以下の内容である。

彼自身の元手や資本を、増殖させること。
彼自身の既得権益を、増殖させること。

生物にとって。
彼自身の身体は、彼自身に取っての自己資本であること。
彼自身の子孫は、彼自身の身体の複製であること。
その結果。
彼自身の子孫の増殖それ自体が、自己資本の増殖に、相当すること。

すなわち。
生物における自己増殖の本性。
それは、資本主義であること。
資本主義。
それは、生物の世界における、普遍的な価値観であること。

生物にとっての、元手や資本。
それらは、所有資源であること。
それらは、所有設備であること。
例。
無生物の資本。金属。機械。お金。情報。
生物個体の資本。作物。家畜。雇用者。使用人。小作人。店子。

それらは、結局は、所有する既得権益であること。
それらは、お金のような金融には、限定されないこと。

それらは、彼自身が構築した、人脈や縁故を含むこと。
それらは、彼自身が構築した、社会的地位を含むこと。
それらは、結局、彼自身が蓄積した、社会的資源や社会的設備であること。
それらは、結局、彼自身が蓄積した、社会的資本であること。
例。
現状の社会主義や共産主義の社会。
それは、以下のような社会であること。
人脈や縁故における既得権益の蓄積に基づく、資本主義。
そうした資本主義社会の一類型。
社会的資本主義の社会。

ソ連や中国のような共産主義国家において。
共産党の幹部たちが、更なる党内の地位の高度化を目指すこと。
そのために、彼ら自身の人脈や縁故関係を、終わり無く増殖させること。
結局、それらは、社会的資本の蓄積であること。
そうした行動は、結局は、資本主義的価値観に基づいていること。

従って。
社会主義や共産主義の社会も、結局は、資本主義で動いていること。

資本主義。
それは、お金を貯めることには、限定されないこと。
それは、お金を増やすことには、限定されないこと。
それは、社会的資本を増やすことも、含むこと。例。社会的地位を高めること。人脈を構築すること。
それは、結局は、生物における、既得権益の増殖の追求であること。
それは、生物における、自己増殖の追求であること。
それは、生物における本質の、一環であること。

生物は、社会主義や共産主義を、本質的に、忌避すること。
社会主義や共産主義が忌避される理由。
それは、以下の内容である。

社会主義や共産主義の、目的。
既得権益における格差の解消。
既得権益における格差を生み出さないこと。
既得権益のフラット化。
既得権益の抹消。

それらは、以下の内容に、本質的に反すること。
生物における、自己増殖を追求する本質。
生物における、既得権益の増殖を追求する本質。

現状の社会主義や共産主義の社会において。
既得権益における格差の解消は、全く実現されていないこと。
社会的地位や人脈構築における、既得権益の格差。そうした格差が、指導者層と非指導者層との間において、とても大きいままであること。
社会の指導者層の人々は、彼ら自身の社会的資本の蓄積に、ずっと邁進していること。
それは、結局は、資本主義的態度であること。
例。
ソ連や中国のような共産主義国家において。
共産党員と、一般の人々との間において、社会的資本の蓄積における格差が大きいこと。
共産党の幹部と、一般の共産党員との間において、社会的資本の蓄積における格差が大きいこと。
共産党員たちが、彼ら自身の社会的特権の拡大に、邁進し続けていること。

現状の社会主義や共産主義。
それらは、結局は、実現不可能な理想に過ぎないこと。

追加内容。2023年2月下旬初出。その2。物質や生物における、保存力の行使。女性的職業との関

連。

女性的な職業。それは、保存力の行使であること。
保育。栄養を与えること。
看護。治癒を施すこと。

男性的な職業。それは、エネルギーの行使であること。
工事。重機による杭打ち。
戦争。ミサイルによる標的破壊。

保存力の行使。
保存性の物質。液体。保存性の生物。卵子。女性。彼らが得意とする、動作や行動。
それらは、以下の内容である。

現状を変更し破壊する、要因。
そうした要因の排除や抹消。
例。新規アイデアを否定すること。前例踏襲を徹底すること。

自己保全を阻害する、リスク要因。
そうした要因の排除や抹消。
例。
危険を、決して冒さないこと。安全第一で動くこと。
例。
上位者に対して、決して、批判したり、抵抗したり、反抗したり、しないこと。
上位者からの働きかけを、盲目的に無条件で丸呑みすること。例。日本における、アメリカ的価値観の丸呑み。
下位者に対して、専制支配を行うこと。
下位者の存在を、その内部に、丸ごと、密封状態で閉じ込めること。
そうして。
下位者の動作の自由を、封じ込め、奪うこと。例。ロシアや中国における、人権の剥奪。
下位者による外部への脱出を、不可能にすること。

そうした要因の排除や抹消において。
内部要因と外部要因の双方を、同時に、排除し抹消すること。
例。内部統制の徹底化。排外主義の徹底化。

自己保存や自己保全や自己保身を、実現するための基盤を、更に強化すること。
現状を維持するための基盤を、更に強化すること。
不動性や定住性を、維持するための基盤を、更に強化すること。
原状復帰するための基盤を、更に強化すること。
治癒するための基盤を、更に強化すること。
慣性で動き続けるための基盤を、更に強化すること。慣性主義。
前例踏襲で動き続けるための基盤を、更に強化すること。前例踏襲主義。

それらは、液体としての生物の、本質であること。

追加内容。2023年3月上旬初出。生物における、配偶者選択のポリシー。液体性や気体性の、社会的強制。

液体性の者は、気体性が高い者を、彼女自身のパートナーに選ぶこと。
液体性の者は、エネルギーが高い者を、彼女自身のパートナーに選ぶこと。
生物において。
女性は、エネルギーが高い男性を、彼女自身の配偶者に選ぶこと。
エネルギーが高い者。
それは、以下の内容である。
-
運動能力が高い者。スポーツ万能な者。

良く稼ぐ者。高給取りな者。
変革能力が高い者。破壊能力が高い者。手術能力が高い者。医者。
-

--
気体性の者は、液体性が高い者を、彼自身のパートナーに選ぶこと。
気体性の者は、保存力が高い者を、彼自身のパートナーに選ぶこと。
生物において。
男性は、保存力が高い女性を、彼自身の配偶者に選ぶこと。
保存力が高い者。
それは、以下の内容である。
-
彼ら自身の自己保存に必要な資源を与える能力が高い者。
栄養を与える能力が高い者。
栄養満点で美味しい食事を、沢山作ることが出来る者。
-
原状復帰を行う能力が高い者。
傷を元通りに消す能力が高い者。傷を治癒する能力が高い者。割れや裂けを治す能力が高い者。調和や和合を実現する能力が高い者。
癒やしの力が高い者。看護力が高い者。
物品を元通りに綺麗に出来る能力が高い者。部屋の清掃が上手な者。部品の清掃が上手な者。衣類の洗濯が上手な者。
社会組織の分断を治す能力が高い者。社会組織における調和や和合を、実現する能力が高い者。
-

気体性社会。
そうした社会は、液体性の者に対して、気体性を要求すること。
そうした社会は、液体性の者に対して、高いエネルギー性を要求すること。
例。沢山稼ぐ能力を、身に付けること。その実現を、要求すること。
しかるに。
液体性の者は、本来、保存力で動くこと。
彼女は、高いエネルギー性の発揮に、向いていないこと。
それは、彼女にとって、無理な要求であること。

男性優位社会。例。欧米諸国。
そうした社会は、女性に対して、高いエネルギー性を要求すること。
例。沢山稼ぐ能力を、身に付けること。その実現を、要求すること。
しかるに。
女性は、本来は、液体性の者であり、それゆえ、保存力で動くこと。
彼女は、高いエネルギー性の発揮に、向いていないこと。
それは、彼女にとって、無理な要求であること。

--
液体性社会。
そうした社会は、気体性の者に対して、液体性を要求すること。
そうした社会は、気体性の者に対して、高い保存力を要求すること。
例。調和の実現や癒やしの能力を、身に付けること。その実現を、要求すること。
しかるに。
気体性の者は、本来、エネルギー性で動くこと。
彼は、高い保存力の発揮に、向いていないこと。
それは、彼にとって、無理な要求であること。

女性優位社会。例。中国。ロシア。日本。韓国。
そうした社会は、男性に対して、高い保存力を要求すること。
例。調和や癒やしを実現する能力を、身に付けること。その実現を、要求すること。
しかるに。
男性は、本来は、気体性の者であり、それゆえ、エネルギー性で動くこと。
彼は、高い保存力の発揮に、向いていないこと。
それは、彼にとって、無理な要求であること。

追加内容。2023年3月中旬初出。生物的神経系におけるフィード

バック機構の、コンピュータシミュレーション。そのソースコード。

ソースコード _3

追加内容。2023年4月下旬初出。生物的神経系のシミュレーションについての、Pythonのソースコードの追加。

新たなソースコードは、以下の機能を備えていること。
資源の管理。資源の増減についてのフィードバック。そのフィードバックの待機。資源の蓄積。生物における、資源の欠乏と死。

タイプ No.1
ソースコード _4_1

タイプ No.2
ソースコード _4_2

生物的神経系と実験者との、相互作用や交信の、実現。
そうした機能の、シミュレーションプログラムにおける、実装。
それは、以下の内容である。

--
GUI操作パネルにおける、事前に設定済みの文字列。
そうした文字列を、生物的神経系へと、キューを用いて、操作のパラメータとして、送信すること。
それは、以下の内容である。
実験者の意思の、生物的神経系への、伝達と反映。
--
生物的神経系からの出力を、プログラムの標準出力へと、反映させること。
生物的神経系からの出力を、それ自身の入力へと、リダイレクトさせること。
それは、以下の内容である。
生物的神経系の意思の、対外的な反映。
生物的神経系の意思の、実験者への、伝達と反映。
--

GUI操作パネルにおける、事前に設定済みの文字列。
それらの内容が、そのまま、その生物的神経系にとっての、外部環境や内部環境の、パラメータ設定になること。

GUI操作パネルからの出力を介して、複数の生物的神経系との同時並行的なやりとりが、可能になること。
そうした同時並列的なやりとり。
それらは、以下の内容である。
複数の実験者と、複数の生物的神経系との、相互作用。
複数の生物的神経系同士の、相互作用。

GUI操作パネルにおける、事前に設定済みの文字列。
そうした文字列を、生物的神経系へと、キューを用いて、操作のパラメータとして、送信すること。
それは、以下の内容である。
生物的神経系への、メッセージの送信。
それは、以下のように分類されること。
--
公的空間における、公的なメッセージ。
開かれた空間における、公開メッセージ。
--
私的空間における、私的メッセージ。
閉ざされた空間における、機密メッセージ。
--

GUI操作パネルによる、データ文字列の入出力。
それ以外にも、入出力データの、公的空間や私的空間における、刻印や記憶や、そうした刻印記憶内容の参照も、同時に必要であること。

複数の実験者。彼ら自身が、生物的神経系の一種であること。
実験者と、生物的神経系との、やり取り。
それらは、結局、以下の内容である。
複数の生物的神経系の間における、やり取り。
そうした、複数の生物的神経系において。
--
神経回路の中身が見えること。
神経回路の中身が設計可能であること。
--

実験者と、生物的神経系との、やり取り。
複数の生物的神経系同士のやり取り。
単数の生物的神経系における自問自答。
それらは、以下のように分類されること。
--
刺激の付与と、それに対する反応。
質問と応答。
事実の叙述と、その傾聴。
指示や指令や命令と、それに対する応答。
-
資源の、供給と収奪と、それに対する反応。
--

生物的神経系とのメッセージのやり取り。
そのデータ形式。
それは、以下の内容である。

送信者名。受信者名。メッセージ。

その場合。受信者は、以下のように分類されること。
-
公共。ブロードキャスト。
その場の全員。

特定の受信者のみ。
-

具体的な受信者の内容。

--
生物的神経系No.1。
-
入力細胞No.1。
入力細胞No.2。
入力細胞No.3。
資源流入。
資源流出。
--
生物的神経系No.2。
-
入力細胞No.1。
入力細胞No.2。
入力細胞No.3。
資源流入。
資源流出。
--

生物的神経系において。
放送。
それは、以下の内容である。
公共空間に、特定の入力刺激を、供給すること。

生物的神経系において。
経済政策。
公共の資源置き場に、特定の資源を、特定量だけ、置くこと。
公共の資源置き場から、特定の資源を、特定量だけ、取得すること。

生物的神経系における、フィードバックの待機。
その実現において。
各中間細胞内部のプログラムコードをいじる必要は、特に無いこと。
ただ、中間細胞を並べて、相互に繋ぐだけで良いこと。

どの中間細胞に対してフィードバックを与えるかを、予め決めること。
その中間細胞の受信キューに対して、発火促進や発火抑制の信号を送るだけで良いこと。
各中間細胞の受信キューの設定が、予め必要であること。

各中間細胞に与えるパラメータにおいて。
--
それらの結合先が、固定か可変かを決定するパラメータ。
それらが、固定細胞か、思考細胞かを決定するパラメータ。
そうしたパラメータが、新たに必要であること。
--
それらの結合の太さが、固定か可変かを決定するパラメータ。
それらが、固定細胞か、学習細胞かを決定するパラメータ。
そうしたパラメータが、新たに必要であること。
--

入力刺激の連続に対応して、出力を連続させること。
資源管理基盤への資源供給の減少に対応して、発火の抑制を連続させること。
その結果。出力を、連続して停止させること。

GUI操作パネルによる、生物的神経系とのやり取り。
例。Pythonにおける、Tkinterの利用。
--
生物的神経系に対する入力のエリア。
物的神経系の神経回路の内部情報のエリア。
生物的神経系からの出力のエリア。
--

--
GUI操作パネル部分を、独立したプロセスとすること。
そのプロセスが、他のプロセスに対して、キューを用いて、データを送付すること。
例。GUI操作パネルによる、生物的神経系の操作。
そのプロセスに対して、他のプロセスが、キューを用いて、データを送付すること。
例。生物的神経系による、GUI操作パネルへの応答。
--

生物的神経系に対するフィードバックにおいて。
フィードバック値の逆転。
その実装が必要であること。

フィードバック出力について、その出力の正逆を指定するパラメータを、追加すること。
その場合。合わせて４種類の出力の設定が必要であること。
--
正-＞正。
正-＞逆。
逆-＞正。
逆-＞逆。

フィードバックの有無についての判定結果を送付する機構。
そのプロセスにおいて。
そうした４種類の出力を、配列化すること。

生物的神経系における、終了や死。その実装。
それは、以下の内容である。

生物的神経系において、以下の機能を実装すること。
--
資源を貯蔵する機構を、付与すること。

初期の資源蓄積量を、予め設定すること。
資源蓄積の適正量を、予め設定すること。

キューによって、実験者から、資源蓄積の増減量を、それぞれ受け取ること。

資源蓄積量を、恒常的に、一定量ずつ消費し減少させること。

資源蓄積量が一定割合以下へと転落した場合。
その資源蓄積量の、適正量に対する割合。
その数値を算出すること。
その数値が一定以下になった場合。生物的神経系が、飢餓や渇水の警告を、自主的に発すること。

資源蓄積量がマイナスへと転落した場合。
各プロセスに対して、終了処理を行うこと。
その結果。全てのプロセスを、終了させること。
--

生物的神経系における、思考細胞とフィードバックとの組み合わせ。その実装。
それは、以下の内容である。
--
資源管理機構。
神経回路。
それらのモジュール化。
--

それらは、以下の内容である。
--
マルチプロセスのモジュール化。
マルチプロセスと、それらに付随する複数キューの、グループ化とモジュール化。
--

それらは、例えば、以下の内容である。
--
マルチプロセスの、配列化。
マルチプロセスと、それらに付随する複数キューの、多重配列化や、多次元配列化。
--

生物的神経系の出力細胞における、環境への出力。
その出力結果を、以下の内容へと、仲介しリダイレクトすること。
-
その生物的神経系自身の資源管理基盤への、資源流入や資源流出。
それらの流入量や流出量。
-
その場合。以下の内容の設定が、同時並行的に必要であること。

それらの流入や流出に対して無関係な、出力結果。

それらは、以下の内容である。
--
[中間細胞1。] -> [出力細胞1。] -> 資源増加量。-> [資源管理基盤。]
[中間細胞2。] -> [出力細胞2。] -> 資源減少量。-> [資源管理基盤。]
[中間細胞3。] -> [出力細胞3。] -> 何もしないこと。無接続。-> [資源管理基盤。]
--

生物的神経系における、資源管理基盤から神経細胞へのフィードバック。その実装。

それらは、以下のように分類されること。
--
フィードバック結果の、個別的で部分的な、注入。
フィードバックを、特定の中間細胞に限定して、行うこと。それは、通常の神経細胞同士のフィードバックと同様であること。
-
フィードバック結果の、一斉配布。
フィードバックを、全ての中間細胞に対して、ブロードキャストすること。
フィードバックが、全ての中間細胞に対して、同時に、同じ内容で、作用すること。

その場合。
-
良好なフィードバックがなされている場合。
全ての中間細胞の発火が、その最中は、全て促進されること。
その生物的神経系の行動が、その最中は、全て促進されること。
-
不良なフィードバックがなされている場合。
全ての中間細胞の発火が、その最中は、全て抑制されること。
その生物的神経系の行動が、その最中は、全て抑制されること。
-

そうしたブロードキャストによるフィードバックにおける、待ち
ループの実現。
その実現が必要であること。

--
フィードバック結果は、神経伝達物質量の、加算や減算として、行
うこと。例。今までのソースコードにおける、4-1と、4-2。
フィードバック結果は、神経伝達物質の総量に対する、乗算効果や
除算効果として、行うこと。
--

資源管理基盤からのフィードバックの流入量と、神経細胞の発火の
促進効果や抑制効果の強さとの、関係。
そうした関係を示す関数。

フィードバックの結果の量は、元の量の値を、そのまま利用するこ
と。
-
フィードバックの結果の量は、元の量を入力値とする、ロジス
ティック関数の出力値として、行うこと。
例。経済学における効用関数。資源の購入量や消費量と、それらに
よって得られる効用や満足感との関係を示す、関数。
例。生態学における、生物の個体数の増加。
-
フィードバックの結果の量は、元の量を入力値とする、シグモイド
関数の出力値として、行うこと。
例。生物の神経細胞における、発火活動を示す関数。
例。イノベーションの普及の過程を示す関数。普及率。新規採用と
流行的普及と遅滞的採用。
--

資源管理基盤。
神経系における、中間細胞。
それらのプロセスを示す関数。
そうした関数への新たな追加のパラメータ。
それは、以下の内容である。
--
フィードバック値の効果について。

有効か無効か。
有効な場合。加算や減算か。乗算や除算か。
--
フィードバック値の事前加工について。
事前に、ロジスティック関数を通すか。事前に、シグモイド関数を通すか。そのまま通すか。
--

資源管理基盤。
そのプロセス関数への、追加ソースコード。
フィードバック値の事前加工の、場合分けによる演算。
-
事前に、ロジスティック関数を通すこと。
事前に、シグモイド関数を通すこと。
そのまま通すこと。
-

神経系における、中間細胞。
そのプロセス関数への、追加ソースコード。
フィードバック値の、発火への反映。
神経伝達物質量の書き換え。
-
神経伝達物質量への、フィードバック量の、加算や減算。
神経伝達物質の総量の、フィードバック量による、乗算や除算。
-

上記の内容を反映した、Python言語による、新たなソースコード。
それは、以下の内容である。

ソースコード _5

私による、今後の内容追加の予定。
西洋哲学史と生物的神経系との対応付け。
遺伝子配列のプログラム言語。その設計と実装。

追加内容。2023年5月中旬初出。生物における遺伝情報の、文字列や配列による表現。生物における、自己複製や自己増殖や減数分裂や有性生殖。それらの動作原理についてのシミュレーションプログラムの実装。

生物における、自己複製や自己増殖や減数分裂や有性生殖。
それらの動作原理についての、文字列や配列の操作による、シミュレーション。
それらのプログラムの、Pythonによる実装。
それらは、以下の内容である。
--
生物における遺伝情報。
それらについて、文字列や多次元配列による表現が、可能であること。
--
文字列や多次元配列の、自己複製や自動置換。
それらの、再帰関数による実装。
-
遺伝情報における、突然変異。
遺伝子同士の相互交差による、遺伝情報の入れ替え。
それらの、乱数発生による実装。
--

上記の内容を反映した、Python言語による、新たなソースコード。

それは、以下の内容である。

ソースコード_6

生物の細胞やウィルスにおける、通常分裂。そのシミュレーション。そのプログラム。
その実装において、考慮すべきこと。
それらは、以下の内容である。

--
通常分裂のプログラムのどの部分を突然変異させると、減数分裂になるか？

--
単純な自己複製のプログラムのどの部分を突然変異させると、機能分化が発生するか？
通常分裂と機能分化との両立が成立する条件は、何か？

--
通常分裂の再帰プログラム。
そのプログラムは、そのままでは、無限に分裂してしまうこと。
そのプログラムは、そのままでは、分裂の暴走が起きてしまうこと。例。がん細胞。
そのため。
そのプログラムにおいて、分裂停止を発生させる機能の実装が必要であること。
そうした分裂停止の条件の洗い出しが、新たに必要であること。

--
通常分裂のシミュレーション。
そのプログラムにおいて。
細胞やウィルスの活動を、プロセスとして捉える場合。例。Pythonにおけるmultiprocessing機能。
複数プロセス間における機能分化。その、シミュレーションプログラムによる実現が、必要であること。
複数プロセス間における社会的分業。その、シミュレーションプロ

グラムによる実現が、必要であること。
そうしたプログラムのソースコード。その文字列情報表現。それは、実際の生物における、遺伝情報や遺伝子コードと、一対一の対応関係にあること。
そうしたソースコードに基づいて、実際の生物における、遺伝情報や遺伝子コードの解読が、新たに可能になること。

遺伝情報。その命令内容。
それらは、以下の内容である。

自己保存。
恒常性の維持。
それらは、以下の内容である。
--
細胞やウィルスの活動を、プロセスとして捉える場合。例。Pythonにおけるmultiprocessing機能。
プロセスのメンテナンス。
プロセス関数コードのメンテナンス。

例。
-
資源不足に陥ったプロセスへの、資源の補給。
壊れたり傷ついたりしたプロセスの修復。
古くなったプロセスの更新。
-
消えそうになったプロセス関数コードの、書き直し。
壊れたり傷ついたりしたプロセス関数コードの修復。
古くなったプロセス関数コードの更新。
-

自己複製。
それらは、以下の内容である。
--
細胞やウィルスの活動を、プロセスとして捉える場合。例。Pythonにおけるmultiprocessing機能。
-

プロセスの新規生成。
プロセスの増殖。
-
プロセス関数コードの複製。
-

遺伝情報。その命令内容の自己複製。

その場合において、考慮すべきこと。
それらは、以下の内容である。

--
最初は短かった情報内容が、突然変異によって、より長くなること。例。染色体の数の増加。
最初は長かった情報内容が、突然変異によって、より短くなること。例。減数分裂。

--
複製された情報内容において。
最初は同一で同等だった情報内容が、突然変異によって、互いに、異なり相違するようになること。
その結果。
それらが、互いに、相互依存するようになること。
それらが、互いに、分業するようになること。

--
自己複製された生物の細胞やウィルス同士が、互いに相互作用するようになること。
自己複製されたプロセス同士が、互いに相互作用するようになること。
それらが、互いに、まとまってくっ付くこと。それは、液体的生体であること。例。多細胞生物。
それらが、互いに、バラバラのまま、働きかけ合うこと。それは、気体的生体であること。例。単細胞の粘菌同士の相互連絡。

--
遺伝情報は、自己複製を行う高分子化合物の内部において、自動的

に、徐々に形成されていること。
生物の起源は、一回きりでは無く、何時でも、どこでも、絶えず発生し続けていること。
生物における、恒常性や自己保存性。生物における自己複製性。
それらは、遺伝情報が発生した最初の状態において、既に、ある程度得られていること。

遺伝情報の、自動的な自己複製。その実行プロセスにおいて。
それらの機能分化の実現のために、見逃すべきで無い、急所となるポイント。
それらは、以下の内容である。

--
遺伝情報が、より長くなる瞬間。
遺伝情報が、より短くなる瞬間。

--
遺伝情報が、分節化する瞬間。それは、情報内容の配列化であること。
その場合。
-
配列の中の一つの要素だけが、活性化されるようになる瞬間。
同一の遺伝情報を共有する異なるプロセス毎に、活性化される要素が、互いに異なるようになる瞬間。
-

--
遺伝情報が、今までとは違ったものになる瞬間。
複数の遺伝情報同士が、相互依存的になる瞬間。
複数の遺伝情報同士が、相互利用的になる瞬間。
複数の遺伝情報同士が、市場交易的になる瞬間。

--
遺伝情報が、相互作用の原動力となる瞬間。
遺伝情報が、相互のまとまりの原動力となる瞬間。

--
同一の生物において。

異なる遺伝情報同士が、相互分業化する瞬間。
それは、結局は、以下の内容と同一であること。
別々の、相互に独立した生物同士が、相互分業化する瞬間。
同一種別の生物同士の場合。異なる種別の生物同士の場合。

--
遺伝情報の個別の内容。
遺伝情報の全体の内容。
それらの内容の、環境適応度。
それらの内容を持った生物における、個体数の増減。

--

上記の内容について。
それらの瞬間を、プログラム関数のソースコードそのものの突然変異として、表現すること。
その実現が、生物が所有する遺伝情報内容の解読における、とても重要な鍵となること。

生物を含む物質一般における、機能分化について。
それらの内容については、私が別途執筆した、物質一般の動作や社会についての電子書籍を、参照して下さい。

追加内容。2023年6月上旬初出。生物と社会的禁忌と社会的真実。真に役立つ科学理論の確立との関連。

生物にとっての社会的禁忌。

それは、総括的には、以下の内容である。
-
彼ら自身にとって、極度の生きにくさの実現に繋がる行為。
-

それは、具体的には、以下の内容である。

彼ら自身の脆弱性や急所を、外部に直接晒す行為。例。排泄行為。性行為。

彼ら自身の健康を損なう行為。不衛生な行為。例。排泄物への接触。怪我などによる、出血。

彼ら自身に不快な思いをさせる行為。彼ら自身において不快な感覚を催す行為。例。排泄物への接触。排泄物の臭いを嗅ぐこと。冷静な状態の人間が、いきなり他者による性行為に、遭遇すること。

彼ら自身にとっての遺伝的異常をもたらす行為。例。彼ら自身にとっての遺伝的同質者との性行為。近親相姦。
彼ら自身にとっての文化的異常をもたらす行為。例。精神異常者と付き合うこと。

彼ら自身を殺す行為。例。自殺。

彼ら自身にとっての同質者を殺す行為。例。親殺し。子殺し。仲間を殺すこと。
彼ら自身と同一の種別の生物を殺すこと。例。人間における、殺人。人間における、人肉食。
彼ら自身と近接した種別の生物を殺すこと。例。人間における、家畜の屠殺。
彼ら自身に対して生きやすさを与える者を殺す行為。例。恩師を殺すこと。人間における、家畜の屠殺。

彼ら自身にとっての殺戮対象を、彼ら自身の同質者であると認める行為。

彼ら自身にとっての殺戮対象を、彼ら自身と近接した種別の存在であると認める行為。

例。
移動生活様式社会の人々。彼らは、生活上の必要に迫られて、日常的に、家畜を屠殺すること。
彼らが、以下の内容を、認めること。
--
人間は、生物の一種であり、それゆえ他の生物と同類であること。
人間と他の生物との間に、本質的な違いは存在しないこと。
人間社会と他の生物の社会との間に、本質的な違いは存在しないこと。
人間による性行為と、他の生物による性行為との間に、本質的な違いは存在しないこと。
人間における性差と、他の生物における性差との間に、本質的な違いは存在しないこと。
-
家畜は、人間と同様に生物の一種であり、それゆえ人間と同類であること。
人間と家畜との間に、本質的な違いは存在しないこと。
人間による性行為と、家畜による性行為との間に、本質的な違いは存在しないこと。
--
人間は、物質の一種であり、それゆえ他の物質と同類であること。
人間の精神は、神経細胞の発火に基づく物質活動の一種であり、それゆえ、他の物理的電気的発火現象と同類であること。
人間と他の物質との間に、本質的な違いは存在しないこと。
--

彼ら自身と正反対の思想の存在を、認める行為。
彼ら自身と正反対の思想の存在を、許す行為。

例。
エネルギー性の思想の所有者たち。気体的思想の所有者たち。移動生活様式社会の人々。男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
彼らが、以下の内容の存在を、社会的に許認可すること。
-
物理学や化学において。物質における、エネルギーや運動と対立する力。物質における、止める力。物質における、保存力。保存性物

質の研究。液体の研究。
社会科学において。液体的思想。集団主義。調和主義。全体主義。女性の優位性。
-

例。
保存性の思想の所有者たち。液体的思想の所有者たち。定住生活様式社会の人々。女性優位社会の人々。例。ロシア。中国。
彼らが、以下の内容の存在を、彼ら自身の社会の内部において、許認可すること。
-
気体的思想。個人主義。自由主義。個人行動。自閉的な行動。個人による抜け駆け。自由な行動。プライバシーの重視。リスクを冒す精神。チャレンジ精神。
彼ら自身の社会の内部情報の、対外的な全面公開。液体の研究。
-

彼ら自身と正反対の思想の所有者の存在を、認める行為。
彼ら自身と正反対の思想の所有者の存在を、許す行為。

例。
エネルギー性の思想の所有者たち。気体的思想の所有者たち。移動生活様式社会の人々。男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
彼らが、以下の内容の存在を、社会的に許認可すること。
-
液体的思想の所有者たち。
女性優位社会。
それらの実例。ロシア。中国。
-

生物が、社会的真実に到達すること。
生物が、真に生きやすさをもたらす科学理論に、到達すること。
生物が、真に役立つ科学理論に到達すること。
それらのためには、以下の内容の実現が必須であること。
-
社会的禁忌を乗り越えること。
社会的禁忌を、敢えて無視すること。
社会的禁忌を、敢えて破ること。

生物における暗黒な面を、敢えて直視すること。
-

社会的真実。真の科学理論。
それらは、社会的禁忌を乗り越えた先に、存在すること。
それらの確立のためには、社会的禁忌を、敢えて破る必要があること。

追加内容。2023年6月中旬初出。生物と、社会的禁忌と、保存力や保存的思想。生物における性差の機能分化。その根本的な原因。

生物と、社会的禁忌と、保存力や保存的思想。

保存力。止める力。保つ力。それらの力に基づいて生成される、保存的思想。
それらの存在が、液体的思想の社会や女性優位社会や定住生活様式社会において、明示的に積極的に、ほとんど主張されてこなかったこと。その理由。
それは、以下の内容である。
-
それらの力は、そうした社会の内部機密情報の真髄であること。それらの力の外部公開は、そうした社会にとって、社会的禁忌に当たること。それゆえ、それらの力は、そうした社会の内部において、隠蔽され、分析を拒否され続けてきたこと。それらの力は、その存在を、そうした社会において、外部から見えないように、外部からアクセス不能となるように、自動的に消されてきたこと。
-
そうした社会における、進取の気性の欠如。そうした社会は、不動であり、体積一定であり、新しい領域に進出しようとせず、新しい

思想を、自らは生み出さないこと。それゆえ、そうした社会は、それらの力の存在に、明示的に気付くことが、これまで無かったこと。
-

生物における性差の機能分化。その根本的な原因。

生物の社会は、以下の二つの部門へと、分かれること。
エネルギー部門。対象を変動させ破壊する部門。仕事をする部門。稼ぐ部門。この部門は、男性が主導すること。
保存部門。対象を停止させ保持する部門。治癒する部門。原状回復する部門。補給する部門。生物にとって、メインに相当する部門。この部門は、女性が主導すること。

生物の社会の、そうした二つの部門への分離。そのプロセス。
それは、以下の内容である。

-
生物は、自己保存状態を維持するために、資源を必要とすること。
生物は、その資源を、外部環境から取得する必要があること。
生物は、そうした資源取得を行うために、エネルギーを行使して、外部環境を改変し破壊する必要があること。
自己保存する生物は、必然的に、環境破壊を行うこと。自己保存する生物は、必然的に、環境を変動させること。例。人間活動がもたらす、地球の気候変動。
生物における、外部環境の改変や破壊。それらの実行の際に、危険を伴う作業が、どうしても必要であること。例。岩盤の発破。
そうした危険を伴う作業。そうした作業は、生物における自己保存そのものを、脅かすこと。
そうした事態に対処するため、生物は、彼ら自身の内部から、以下のような存在の生物を、新たに分離する必要があること。
そうした危険な作業に対処するための、専用の副次的な道具としての、生物。エネルギー性の生物。気体性の生物。彼らは、男性であること。
そうした分離を行った後の、元の生物。大元で根源的で中枢的で中心的で主要な存在としての生物。保存性の生物。液体性の生物。彼らは、女性であること。
自己保存する生物は、エネルギー部門を分離して、その部門を、危

険な破壊活動を行うための専用の道具化して、ひたすらこき使うこと。そうした道具としての生物。それは、エネルギー性の生物であり、男性であること。大元の自己保存する生物は、保存性の生物であり、女性であること。
そうした道具としての生物が、酷使の結果、消耗し傷付いた場合。
大元の生物は、そうした道具としての生物に対して、補給や治癒を行うこと。例。食事作り。看護。
大元の生物は、そのことで、そうした道具としての生物を、再び、有効な道具として活用可能な状態へと、原状回復させること。それは、道具のメンテナンスであること。
それは、以下のように言い換え可能であること。
エネルギー性の生物が、酷使の結果、消耗し傷付いた場合。保存性の生物は、そうしたエネルギー性の生物に対して、補給や治癒を行うこと。例。食事作り。看護。
保存性の生物は、そのことで、そうしたエネルギー性の生物を、再び、有効な道具として活用可能な状態へと、原状回復させること。
それは、道具のメンテナンスであること。
それは、以下のように言い換え可能であること。
男性が、酷使の結果、消耗し傷付いた場合。女性は、そうした男性に対して、補給や治癒を行うこと。例。食事作り。看護。
女性は、そのことで、そうした男性を、再び、有効な道具として活用可能な状態へと、原状回復させること。それは、道具のメンテナンスであること。

-
そうしたエネルギー部門は、強力性を売りにして、その活動が、派手で目立つこと。
そうしたエネルギー部門は、本体の保存部門にとっては、副次的で、使い捨ての道具に過ぎないこと。
そうしたエネルギー性の生物。男性。彼らは、表面に出てきて、強がり、目立つこと。
そうしたエネルギー性の生物。男性。彼らは、生物の存在としては、副次的で、使い捨ての消耗品に過ぎないこと。

-
生物社会における保存部門。
保存性の生物。
彼らは、遺伝的子孫を生成するための資源と設備を、自前で占有していること。
彼らは、遺伝的子孫の生成と養育において、主要で重要な機能を担

うこと。彼らは、本体としての生物であること。
彼らは、彼ら自身の自己保身のために、彼ら自身の存在を、対外的に、秘匿し隠蔽し見えなくすること。

-
生物社会における、そうした、エネルギー部門と保存部門との、分離。
それは、生物における、遺伝的子孫の生成時の、遺伝情報の突然変異の積み重ねに伴って、偶然に、自動的に、発生すること。

保存性の生物個体が、エネルギー性の生物個体を、手元に、生きている道具として、絶えず惹き付けておく必要があること。
それを実現するための仕組み。それは、性的誘引であること。
それを実現するための能力。それは、性的誘引力であること。

保存性の生物個体における、エネルギー性の生物個体に対する、性的誘引力の行使。
それは、以下のように言い換え可能であること。
女性における、男性に対する、性的誘引力の行使。

生物は、自己保存状態を維持するために、外部環境から、絶えず資源入手が必須であること。
生物は、そのために、外部環境の、破壊や変動を、必然的に生み出すこと。
そうした、生物における、外部環境を、破壊し変動させる活動。それは、生物における、産業であること。
例。生物としての人間の、産業活動が、地球における、環境破壊や気候変動を、生み出していること。しかし。そうした産業活動は、人間以外の生物も、普通に行っていること。その例。無闇に繁茂しまくる、熱帯や温帯の植物群。彼らは、二酸化炭素を、夜間に大量排出して、気候温暖化を生み出すこと。結局、人間ばかりで無く、他の生物も、環境破壊や気候変動引き起こした責任からは、逃れることが出来ないこと。

そうした、生物における産業の、主要な立役者。それは、生物における、エネルギー部門であり、エネルギー性の生物であり、男性で

あること。
そうした、生物における環境破壊活動の、主要な立役者。それは、生物における、エネルギー部門であり、エネルギー性の生物であり、男性であること。
しかし。生物における保存部門や、保存性の生物や、女性。彼らが、結局は、そうした、生物による、産業活動や環境破壊活動における、真の親玉であること。なぜなら。彼らは、エネルギー性の生物の、真の使い手であるから。彼らは、生きた道具の、使い手であること。その生きた道具は、その使い手によって、産業活動や環境破壊活動のために、こき使われていること。その生きた道具は、エネルギー性の生物であり、男性であること。その道具の使い手は、保存性の生物であり、女性であること。
その結果。
生物において。そのエネルギー部門ばかりで無く、その保存部門も、環境破壊や気候変動を引き起こした責任からは、逃れることが出来ないこと。
エネルギー性の生物ばかりで無く、保存性の生物も、環境破壊や気候変動を引き起こした責任からは、逃れることが出来ないこと。
男性ばかりで無く、女性も、環境破壊や気候変動引き起こした責任からは、逃れることが出来ないこと。

追加内容。2023年6月下旬初出。有性生殖の生物における、性的誘引力の根源。

有性生殖の生物における、性的誘引力の根源。

生物における、自己保存の維持にとって必要な資源の獲得において。

男性の場合。
女性にとっての、必要資源を獲得するための有用な道具としての、能力。

彼自身が所有する、矮小な、生殖資源や生殖設備が、十分に使用可能であること。性的不能で無いこと。例。精子が、有効であること。
彼自身が所有する、遺伝情報や文化的情報が、環境適応において、十分に有能であること。
一般的能力の場合。例。知能の高さ。運動能力の高さ。
男性特有の能力の場合。エネルギー性の行動能力。例。動かす能力。破壊する能力。改変する能力。移動する能力。運動する能力。仕事をする能力。稼ぐ能力。危険に対して立ち向かう能力。責任を取る能力。
彼自身が所有する、外観や容姿や性格。それらが、エネルギー性や気体性を連想させる性質を、十分に所有していること。例。逞しさ。尖っていること。自由独立性。チャレンジ精神。先進性。

女性の場合。
自己保身を行う能力。必要資源を獲得する行為を、男性へと丸投げする能力。道具としての男性を、こき使う能力。道具としての男性を、メンテナンスする能力。道具としての男性を、身近に惹きつけ続ける能力。
彼女自身が所有する、巨大な、生殖資源や生殖設備が、十分に使用可能であること。性的不能で無いこと。例。卵子や子宮が、有効であること。
彼女自身が所有する、遺伝情報や文化的情報が、環境適応において、十分に有能であること。
一般的能力の場合。例。知能の高さ。運動能力の高さ。
女性特有の能力の場合。保存性の行動能力。例。止める能力。治癒する能力。栄養を補給する能力。原状回復する能力。定住する能力。受け止める能力。禁止する能力。包含する能力。
彼女自身が所有する、外観や容姿や性格。それらが、保存性や液体性を連想させる性質を、十分に所有していること。例。豊潤性。円満性。親密性。癒着性。調和性。前例踏襲性。

追加内容。2023年7月下旬初出。有性生殖の生物における、生活水

準の規定要因。保存性の生物が好む行動。生物にとってのユーザビリティ。

有性生殖の生物における、生活水準の規定要因。

ある道具の使い手。
その使い手の生活水準が向上する度合い。
その度合いは、彼自身が所有する道具の性能の高さに、比例すること。

道具の使い手にとって、その上位生活水準の実現は、結局は、道具頼みであること。

高性能な道具の使い手は、高水準の生活を送ることが出来ること。
低性能な道具の使い手は、低水準の生活を送ることしか出来ないこと。

男性。
女性にとって、彼女自身の生存に必要な資源を獲得するための、生きている道具。

そうした道具としての男性。その使い手としての女性。
男性の使い手としての女性の生活水準が向上する度合い。
その度合いは、道具としての男性が内蔵する、資源獲得力の高さに、比例すること。

資源獲得力。仕事をする力。稼ぐ力。高いエネルギー性。
それは、以下の内容である。
--
有能性。その道具自身が保有する、エネルギーを行使する力。その道具自身が保有する、性能の高さ。
既得権益の大きさ。その道具に付随する、付属品やユーティリティやサービスやサポートがもたらす、エネルギーを行使する力の度合いの、豊富さ。

--
それらは、以下の内容である。
道具としての相対的優位性。
道具としての社会的上位性。

そうした道具としての男性。その使い手としての女性。
男性の使い手としての女性の生活水準が向上する度合い。
その度合いは、道具としての男性が内蔵する、社会的上位性に、比例すること。

資源獲得力が高い男性。上位の男性。そうした上位男性の使い手としての女性。
彼女は、上位者としての生活を送ることが、出来ること。

道具の使い手にとって、その上位生活水準の実現は、結局は、道具頼みであること。
女性にとって、その上位生活水準の実現は、結局は、男性頼みであること。

資源獲得力が低い男性。下位の男性。そうした下位男性の使い手としての女性。
彼女は、下位者としての生活を送ることしか、出来ないこと。

道具の使い手自身の、道具非使用時における、道具としての能力。
道具の使い手自身の、道具欠如時における、道具としての能力。
例。
女性自身に備わっている、資源獲得力。例。稼ぐ力。
それは、一応、一通りのことをこなせる能力は、最低限は、備わっていること。
しかし。
それは、あくまで、予備的な能力であること。
それは、本格的な使用を、余り想定していないこと。
それは、使い過ぎると、程無く故障してしまうこと。例。長期にわたる、激務やフル稼働には、耐えることが出来ないこと。
それは、本来の道具使用時に比べて、成果水準が、一回り低いこと。

道具の使い手に備わっている力。女性に備わっている力。
それは、以下の内容である。
普段使用している道具をメンテナンスする力。男性をメンテナンスする力。

道具の使い手にとって。その使い手が、上位の生活を送るには、上位性を備えた道具の、入手と永続的保持が、必須であること。
例。女性にとって。その女性が、上位の生活を送るには、高いエネルギー性を備えた男性の、入手と永続的保持が、必須であること。

保存性の物質。液体。保存性の生物。女性。女性優位社会の人々。

彼らは、匿名行動を好むこと。彼らは、名を伏せての行動を好むこと。
彼らは、一体行動を好むこと。彼らは、全体一斉行動を好むこと。
彼らは、強大派や多数派や主流派としての行動を好むこと。

例。
液体における、一斉の流れ下り。巨大河川の流れ。海洋における、津波の流れ。
中国の巨大血縁集団の家系図において、女性の名前が伏せられること。
日本において、匿名掲示板の利用が盛んであること。
現代の日本社会において、欧米リベラル派の流れを汲む人々が、主流派として、偉そうに傍若無人に振る舞っていること。

--
匿名行動。その行動が、彼らに好まれる理由。

個人として。
彼自身の存在の大きさを、無限に最大化出来ること。
彼自身の存在を、無限に強大化出来ること。

彼自身の存在の、大きさや位置を、不定化出来ること。
彼自身の存在の、大きさや位置を、特定されなくなるように出来ること。

彼自身の行動責任を、取らずに済むこと。

それらの結果。
彼自身は、例えリスクを最大限取っても、問題無く自己保身することが出来ること。

--
全体一斉行動。一体行動。それらの行動が、彼らに好まれる理由。

個人として。
彼自身の存在を、彼自身が所属する集団全体のサイズへと、巨大化出来ること。
彼自身の存在を、彼自身が所属する集団全体の勢力へと、強大化出来ること。
責任を、集団全員へと分散させることが出来ること。
彼自身の行動責任を、最小化出来ること。
それらの結果。
彼自身は、例えリスクを大きく取っても、問題無く自己保身することが出来ること。

--
強大派や多数派や主流派としての行動。それらの行動が、彼らに好まれる理由。

個人として。
彼自身の存在を、彼自身が所属する派閥全体のサイズへと、巨大化出来ること。
彼自身の存在を、彼自身が所属する派閥全体の勢力へと、強大化出来ること。
責任を、派閥全員へと分散させることが出来ること。
彼自身の行動責任を、最小化出来ること。
それらの結果。
彼自身は、例えリスクを大きく取っても、問題無く自己保身することが出来ること。

リスクを取る行動。
それは、以下の内容である。
--
相手を攻撃する行動。

相手を破壊する行動。相手を傷付ける行動。
相手を勝手に改変する行動。
--
相手から反撃を受ける可能性がある行動。
相手から報復を受ける可能性がある行動。

彼自身が、そうしたリスクを取る行動を取ることが出来る理由。
それは、以下の内容である。

匿名の場合。名を伏せている場合。
相手から、彼自身の存在を特定されないこと。
その結果。相手から、決して報復されずに済むこと。

全体一斉行動や一体行動の場合。
強大派や多数派や主流派として行動する場合。
例え、相手から報復されても、それを勢力面で無効化することが出来ること。
例え、相手から報復されても、被害を最小限に止めることが出来ること。

生物にとってのユーザビリティ。

ユーザビリティ。
ターゲットになる物質や生物における、道具としての有用性の大きさ。

それは、以下の内容へと区別されること。
--
エネルギー性。
例。環境改変性。環境破壊性。資源獲得性。斬新性。インパクトが大きいこと。危険性。不安定性。変動性。
生物における、男性性。
-
保存性。自己保身性。
例。治癒性。補給性。現状維持性。原状回復性。慣性。既に慣れ親しんでいること。既にお気に入りであること。
生物における、女性性。

--

有用性。性能。
それは、以下の内容へと区別されること。

--
エネルギー性の道具。保存性の道具。それらの、道具としての有用性。
-
それらを実現する能力の高さ。
それらを実現する能力の取り出しやすさ。それらを実現する能力の引き出しやすさ。例。直接操作。簡単操作。目立ち易さ。分かり易さ。見易さ。聴き易さ。
それらを実現する能力の常用可能性。時間的無限定性。安定性。一貫性。信頼性。空間的無限定性。普遍性。アクセス容易性。
それらを実現する能力における、安全性やセキュリティの、高さ。
-
--

ユーザビリティと生物的神経系。

ユーザビリティの、生物的神経系の機能の側面からの分類。
それは、以下の内容である。

--
神経回路における、入力端。

入力の検知しやすさ。
入力の飽きにくさ。入力が刺激的であること。

--
神経回路の内部。

思考し易さ。神経細胞間の新規結合の、形成し易さ。新規の神経回路の、構築し易さ。
学習し易さ。神経細胞間の結合の太さの、調節し易さ。
制御し易さ。神経細胞の発火の、促進と抑制の、調整し易さ。
慣れ易さ。保存し易さ。保持し易さ。記憶し易さ。

変え易さ。試行錯誤し易さ。チャレンジし易さ。壊し易さ。エネルギーの行使し易さ。

--
神経回路における、出力端。

出力したい意図内容の、環境への刻印し易さ。
出力したい意図内容の、環境への反映し易さ。
出力したい意図内容の、他の生物への伝達し易さ。
神経回路の、他の生物への、コピーし易さ。

--
保存性行動の、し易さ。

温室性。その実現。
疲れにくさ。負担の低さ。快適さ。楽であること。
傷やストレスの、低減。治癒性。快楽性。
防御し易さ。隠蔽し易さ。機密性の保持し易さ。

--
エネルギー性行動の、し易さ。

運動性。活動性。それらの実現。
動き易さ。立ち回り易さ。
攻撃し易さ。反撃し易さ。報復し易さ。

追加内容。2023年8月下旬初出。エネルギー的思想。気体的思想。保存的思想。液体的思想。それらの、生物的神経系による実現。それらの、神経回路による実現。男

女の性差との関連。

エネルギー的思想。気体的思想。
保存的思想。液体的思想。
それらの、生物的神経系による実現。
それらの、神経回路による実現。

それらは、以下の内容である。
--
エネルギー的思想。気体的思想。
逆転。
拡散と普遍化。
独立。
許可。
自由。
危険行動。
-
保存的思想。液体的思想。
順応。
中心への移行。
同調。護送船団方式。
禁止。
管理統制。
安全第一の行動。
--

--
物体における、プラスの加速度。
それは、その物体における、動かす力の根源であること。
それは、エネルギーの根源であること。
-
物体における、マイナスの加速度。
それは、その物体における、止める力の根源であること。
それは、保存力の根源であること。
--

--
エネルギー的思想。気体的思想。
ある個体が、自分自身に対して、プラスの加速度を、随時、行使し続けること。
ある個体が、周囲の他個体に対して、プラスの加速度を、随時、行使し続けること。
そのことで、速度を増加させること。
例。移動。駆動。変動。破壊。チャレンジ。
-
保存的思想。液体的思想。
ある個体が、自分自身に対して、マイナスの加速度を、随時、行使し続けること。
ある個体が、周囲の他個体に対して、マイナスの加速度を、随時、行使し続けること。
そのことで、速度を減少させること。
例。制止。禁止。不動性。退嬰性。足の引っ張り合い。
--
そうした個体動作を制御する働きを持つ生物的神経系の実現。
それが、生物的神経系における男女の性差の解明において、決定的に重要であること。
--

--
動作方向や通信内容における、逆転動作。それは、その個体に対して、個別動作をもたらすこと。それは、気体的思想の発生に繋がること。
--
動作方向や通信内容における、順応動作。それは、その個体に対して、同調動作をもたらすこと。それは、液体的思想の発生に繋がること。
--

--
エネルギー的思想。気体的思想。
ある個体が、周囲の他個体に対して、逆転動作を強制すること。
その結果。
その個体が、周囲の他個体に対して、自由独立性や自主性や革命性や新機軸性を、強制すること。
-

保存的思想。液体的思想。
ある個体が、周囲の他個体に対して、順応動作を強制すること。
その結果。
その個体が、周囲の他個体に対して、同調性や一体性や調和性や退嬰性を、強制すること。
--

そうした、プラスの加速度の行使。
そうした、マイナスの加速度の行使。
それらは、その個体自身よりも質量の小さな他個体には、有効であること。
それらは、その個体自身よりも質量の大きな他個体には、無効であること。

--
マイナスの加速度の行使。
その個体自身よりも質量の小さな他個体の動きを、全て、強制的に止めること。そうした止める力の行使。
それは、専制支配であること。それは、保存的支配であること。
例。
その個体自身よりも弱い他個体の動きを、全て、強制的に封じ込めること。
その個体自身よりも弱い他個体を、全て、彼女自身の領域の内部へと、強制的に閉じ込めること。
その個体自身よりも弱い他個体を、全て、彼女自身の領域の外部へと、強制的に締め出すこと。
-
プラスの加速度の行使。
その個体自身よりも質量の小さな他個体を、全て、強制的に動かすこと。そうした動かす力の行使。
それは、暴力支配であること。それは、エネルギー的支配であること。
例。
その個体自身よりも防御力の弱い他個体を、全て、強制的に壊すこと。
--

--
神経回路の動作における、プラスの加速度の創出。

神経回路の動作における、逆転反応の創出。
それらは、エネルギー的思想や気体的思想で動く、生物的神経系の創出に繋がること。
-
神経回路の動作における、マイナスの加速度の創出。
神経回路の動作における、順応反応の創出。
それらは、保存的思想や液体的思想で動く、生物的神経系の創出に繋がること。
--

それらの実現においては、以下のような機能を持つ神経細胞ユニットが必要であること。
--
エネルギー的思想。気体的思想。
プラスの加速度を伴う出力値を順次出力する神経回路。
逆転反応の出力値を順次出力する神経回路。
-
保存的思想。液体的思想。
マイナスの加速度を伴う出力値を順次出力する神経回路。
順応反応の出力値を順次出力する神経回路。
--

--
速度を増加させる力。プラスの加速度を行使する力。そうした力を保有する物体。
例。火炎。熱源。自動車のエンジン。
-
速度を減少させる力。マイナスの加速度を行使する力。そうした力を保有する物体。
例。電気抵抗。緩衝材やクッション。自動車のブレーキ。
--

マイナスの加速度の実体。保存力の実体。
それらは、以下の内容である。
--
不動であること。微動であること。
質量が十分に大きいこと。
その結果。

他個体における、エネルギーや、プラスの加速度を、打ち消すことが出来ること。
そうした性質が、他個体に対して、マイナスの加速度として作用すること。
--
癒着すること。接着すること。粘着すること。
その結果。
他個体の足を引っ張ること。
他個体の位置を、元に戻すことが出来ること。
他個体の位置を、原状回復させることが出来ること。
その結果。
他個体における、エネルギーや、プラスの加速度を、打ち消すことが出来ること。
そうした性質が、他個体に対して、マイナスの加速度として作用すること。
--
一旦縮むこと。その後、ゆっくり元の形状に戻ること。再び、伸びること。再び、拡がること。
緩衝。クッション。受け止め。吸収。没収。
その後、原状復帰すること。
その結果。
他個体のエネルギーを、吸収して無効化すること。
他個体における、エネルギーや、プラスの加速度を、打ち消すことが出来ること。
そうした性質が、他個体に対して、マイナスの加速度として作用すること。
--

生物的神経系における、エネルギー的思想や保存的思想の実装における、考慮すべきパラメータ。
それらは、以下の内容である。
--
プラスの加速度。動かす力。エネルギーの根源。
マイナスの加速度。止める力。保存力の根源。
--
物理的運動。
通信データの送受。
--
生物的神経系の機能。

途中の計算プロセス。中間神経細胞群が形成する神経回路。発火促進タイプの神経細胞。発火抑制タイプの神経細胞。
最終的な出力。出力細胞。筋肉細胞。
--

生物的神経系における、中間神経細胞の機能。
それは、以下の内容である。
--
発火の促進。
プラス値の発火の促進。
マイナス値の発火の促進。これが無いと、逆転値の出力は不可能であること。これが無いと、エネルギー的思想や気体的思想の実現は、不可能であること。
--
発火の抑制。
抑制の発動。それによる自己停止。十分な自己質量の確保。そのことで、他個体の動きを止めること。これらは、マイナスの加速度の実現に繋がること。
--
中間細胞の出力は、プラスやマイナスの符号を、持たないこと。その出力には、逆転が無いこと。
出力細胞からの最終出力のみが、プラスやマイナスの符号を、持つこと。
--

生物的神経系における、逆転の発想の実現。
それは、以下の内容である。

既存の人工知能のニューラルネットワーク。
それは、順応のみを行い、逆転を行わないこと。
それは、逆転の発想が出来ないこと。
それは、新機軸の発想が出来ないこと。
一方。
生物の男性。
彼らは、逆転の発想が出来ていること。
彼らは、新機軸の発想が出来ていること。
そうした、逆転の発想や、新機軸の発想の、能力。

そうした能力には、生物学的基盤や、神経回路における基盤が、本来、あるはずであること。

--
生物の神経細胞には、逆転の発想を行う機能は、元々、皆無であること。
それゆえ。
生物的神経系には、逆転の発想を行う機能は、元来は、備わっていないこと。
彼らが、彼らにとっての未踏分野に、新たに進出すること。
彼らが、そのことで、今までとは相互矛盾する逆転事象に、新たに出会うこと。
彼らが、そのことで、その場限りで、逆転の発想を、新たに手に入れること。
逆転の発想は、内発的では無く、外敵事象ドリブンであること。
-
複数の異なる物理的事象や局所的環境。
それらの間において、矛盾や逆転が存在すること。
それらは、生物的神経系にとって、外在的事象であること。
生物的神経系は、そうした外在的事象に新たに接触することで、初めて、逆転の思想を手に入れることが出来ること。
逆転の発想。
それは、生物的神経系にとって、内在的には、実現や実装が、不可能であること。
一方。
新機軸の発想は、思考細胞による、生物的神経系内部における、新たな結合の生成により、生物的神経系自身が、容易に生じさせることが出来ること。
そうした新しい結合のあり方によっては、結果的に、逆転出力へと繋げることが出来ること。
神経回路内部における、相互にセグメント化された、外部からの出入りが困難な、相互に未踏な領域への、新たな結合。
神経回路内部における、相互に矛盾する内容の領域同士の、新たな結合。例。富裕と貧困。
そうした結合は、生物的神経系における、逆転出力に繋がること。
そうした結合は、生物的神経系における、逆転の発想の内在的実現に繋がること。
その結果。
生物的神経系には、逆転の発想を行う機能が、回り道の形で、存在すること。

--

通信において。
--
動かす力。プラスの加速度を行使する力。そうした力の行使。エネルギー的思想。
例。
解放の命令。自由化の命令。そうしたメッセージを送信すること。
改変。破壊。置換。それらの実行を促すメッセージを送信すること。
チャレンジ。新機軸の創出。それらの実行を促すメッセージを送信すること。
-
止める力。マイナスの加速度を行使する力。そうした力の行使。保存的思想。
例。
禁止。制限。規制。それらを命令するメッセージを送信すること。
保存。保守。メンテナンス。それらの実行を促すメッセージを送信すること。
原状回復。リカバリ。それらの実行を促すメッセージを送信すること。
--

マイナスの加速度。止める力。保存的思想。液体的思想。それらの実現。
液体分子運動における分子間力と同様の力。
個体間力。
そうした個体間力を、後付けで、個体間において、働かせること。
そうした各個体は、生物的神経系を、内蔵していること。
そうした生物的神経系において、個体間力に対応した動作を、実装すること。
そうした個体間力の発現能力を、各個体内部における神経回路への実装の形で、後付けで、実現すること。

各個体が、物理的位置や社会的位置や通信内容を決定する動作において、互いに、足を引っ張り合うこと。

それらの実現。

（参考）
社会的位置。
各個体の、社会関係上の位置づけ。
--
上下関係。優劣関係。
--
社会的な近さ。
-
友達関係。相互の親しさが存在すること。
相互依存関係や相互癒着関係や相互融通関係が、存在すること。
--

物理的な、社会的な、通信的な、相互近接。
そうした相互近接の、常態化。
それが、個体間力の発生に、繋がること。

複数個体間における、通信的な近接性。
同じ内容や似た内容の、送受信。
内容の相互了解についての、合図の、送受信。
そうした送受信が、同時に、あるいは、シーケンシャルに、行われること。

相互近接化。相互一体化。
それは、同調であること。
その結果。
相互関係における調和が、もたらされること。

個体間における、個体間力の実現。その神経回路への実装。
その応用について。

--

嫉妬。その実現。
ある個体が。
彼女自身から離れて行く他個体に対して。
相互距離を再び縮めるために。
その他個体についてのネガティブなキャンペーン。
その他個体の行く手を邪魔すること。
それらの行為を、延々と粘着的に、行うこと。

そうすることで、その他個体の足を引っ張ること。
例。
同僚の組織内昇進を邪魔する、勤労者。
社会的上下方向における、個体間力の発現。

その根底の意図。その意図の、神経回路への埋め込みが、必要であること。
ある個体が。
他個体に対して、彼女自身から離れて欲しく無いこと。
他個体が、彼女自身と、ずっと一緒に居て欲しいこと。
彼女自身が、他個体に、本当は、一緒に付いて行きたいこと。
しかし。実際には、彼女自身は、他個体には、一緒に付いて行けないこと。
そのため。互いに一緒に居続けるためには、他個体の動きを邪魔するしか無いこと。

--
孤立。社会的に浮くこと。追放。それらの実現。
ある個体が、周囲の他個体から、相互関係を、意図的に切られること。
それは、社会的な制裁を目的とすること。例。社会的な融通の打ち切り。社会的な相互扶助の打ち切り。
その個体への、個体間力の、意図的な打ち切り。
その個体への無関係化を、実行すること。

個体間力の打ち切り。その原因。

意思疎通の不調。話が通じないこと。その個体が、自閉症的であること。その個体が、気が狂っていること。

その個体が、抜け駆け行動や個人行動や非同調行動を、独自に繰り返し行ったこと。

その個体が、事前申告や事前承認の無い、自分勝手な動作を行ったこと。
その個体が、余りにも、多動的であること。

そうした個体への同調の、打ち切り。

その個体が、表面に対して、勝手に楯突いたこと。
その個体が、内部機密を、外部へと、勝手に漏洩したこと。
それらの前提条件。
内外を区別する枠が、存在すること。そうした枠は、社会的上位者によって、予め設定されていること。
その枠において、表面張力が、存在すること。
そうした枠や表面の、実現が、予め必要であること。
--

男女の性差について。エネルギー的思想や保存的思想との関連。

弱者男性。
エネルギーに欠ける存在。
稼ぐ力。変える力。壊す力。仕事をする力。布教する力。普遍化する力。チャレンジする力。
それらの力に欠けている存在。
そうした男性。
--
弱者女性。
保存力に欠ける存在。
メンテナンスする力。補給する力。治癒する力。原状回復する力。自己保身する力。社会の中心へと行く力。
それらの力に欠けている存在。
そうした女性。
--

そうした彼ら。
それらの結果。
配偶者を得られないこと。
社会的な結果を出せないこと。
彼ら自身の子孫を残せないこと。

社会的上位者になれないこと。
社会的支配者になれないこと。

女性は、男性にとって、以下のように作用すること。
本来自由な存在である男性を、彼女自身が予め設定した枠内に、粘着して閉じ込める存在。男性にとっての牢獄。
それは、以下と同様であること。
本来自由な存在である気体を、液体自身が予め設定した枠内に、粘着して閉じ込める存在。気体にとっての牢獄。
--
男性は、女性にとって、以下のように作用すること。
リスキーな暴力装置。暴れ馬。
それは、以下と同様であること。
気体における、暴発的なエネルギー性。
--

男性の一生。
それは、女性にとっての便利な多用途の道具として、女性から一方的にこき使われ続けて終わる、辛い一生となること。
--
女性の一生。
それは、暴力的な道具としての男性を、絶えずメンテナンスしつつ、そうした男性からの稼ぎを、一方的に収奪し享受し続ける、相対的に、楽で快適な一生となること。
--

追加内容。2024年1月中旬初出。女性における性的誘引力。それらをもたらす、女性の生体的機構。

男性差別。その根源的な要因。

女性における性的誘引力。それらをもたらす、女性の生体的機構。

女性の生体が発する、性的刺激や性的魅力。
女性の生体における、性的反応の素晴らしさ。
それらは、以下の内容である。
彼女が、男性から、精子を搾取し吸い尽くす、度合い。その度合いを、完全化し最大化するために仕組まれた、彼女自身が内蔵する、生体的広告機構。
彼女自身における、生体的に完成された、男性からの搾精の機構。

そうした広告。
それらは、生物の様々な感覚に対して訴求力を持つこと。

視聴覚。触覚。
例。人間の場合。
温度において。温かさ。例。素肌の温もり。
湿度において。湿り気。粘り気。滑りの良さ。ローション性。例。すべすべの素肌。愛液で濡れた女性器。
柔軟度において。柔らかさ。しなやかさ。クッション性。例。柔らかい乳房。肉感的な太もも。

それらの感覚のより上位に相当する、より総合的な感覚の指標。
例。人間の場合。
綺麗さ。例。綺麗な素肌。長く豊かな髪の毛。甘美な喘ぎ声。
新品であること。未使用であること。例。処女であること。
豊潤性。豪華性。例。長い髪の毛。豊かな乳房。潤いに溢れた素肌。絢爛豪華な衣服の着用。

そうした広告。
それらは、時系列的に持続し、物語として作用すること。
それらは、最初の部分は微熱的だが、途中からどんどん盛り上がり、最後の部分において絶頂を迎えること。例。前戯から性的絶頂までのプロセス。
それらは、男女双方にとって、精神的なカタルシスをもたらす、一種の効果的な物語であること。

女性の生体における、そうした広告機構。
その最終目的。
それは、以下の内容である。

彼女が、狙った男性を、彼女自身に対して、確実に撃沈させること。
彼女が、狙った男性を、捕まえて離さないようにすること。

彼女が、男性の精子を、完全に、搾り取り吸い尽くすこと。

そのことで、双方の受精の成功を、最大限に確実にすること。
そのことで、彼女自身の遺伝的子孫を残すことに、確実に成功すること。
--
そのことで、その都度、男性を性的不能にさせること。
そのことで、その都度、男性を動けなくすること。
そのことで、男性を、彼女自身の支配下に置くこと。
そのことで、男性を、彼女自身の枠内から出られなくすること。
そのことで、男性を、彼女自身の囚人とすること。
そのことで、男性を、彼女自身による消化吸収の対象とすること。
それは、以下の内容である。男性は、飛翔する昆虫であること。女性は、その昆虫を誘引して撃沈させ捕食する、食虫植物であること。
それは、以下の内容である。女性における、男性に対する、根本的な優位性や支配性の表れ。

男性差別。その根源的な要因。

一般的で普遍的な男性差別。
それらは、以下の内容である。

--
保存性生物による、エネルギー性生物に対する、社会的差別。
エネルギー性や破壊性。それらは、結局は、非保存性や反保存性であること。
生物の本質は、あくまで、自己保存性や自己保身性であること。

男性は、エネルギー性生物であること。女性は、保存性生物であること。
男性は、気体性生物であること。女性は、液体性生物であること。
気体性や気体的思想は、エネルギー性の表れであること。液体性や液体的思想は、保存性の表れであること。
エネルギー性は、生物にとって、自己保存の持続に必要な各種の資源を獲得するための、あくまで派生的で副次的な性質であり、決して、生物の本質では無いこと。
そうした生物の本質に沿った生き方が出来るのが、保存性生物としての女性であること。
そうした生物の本質に沿った生き方を封じられているのが、非保存性生物や反保存性生物としての、男性であること。
男性における、非保存性生物や反保存性生物としての性質。それが、生物の社会における、女性による男性に対する社会的差別の根源であること。

それらの具体例。女性による、男性に対する、以下のような扱い。
-
男性を、女性自身の自己保身実現の道具としてのみ、専ら活用すること。
例。盾としての利用への偏り。
-
男性を、女性自身の既得権益を増加させるための道具としてのみ、専ら活用すること。
例。稼ぐ者としての利用への偏り。下請けの便利屋としての利用への偏り。
--
生物が生きていくのに必要な、各種の資源。
そうした資源の所有者における、そうした資源の非所有者に対する、社会的な優位性が存在すること。
それは、以下の状況をもたらすこと。
そうした資源の所有者による、そうした資源の非所有者に対する、社会的な差別。

有性生殖の生物が、生殖行動を行うために必要な、各種の資源。生殖のための資源。生殖のための設備。
そうした資源の所有者における、そうした資源の非所有者に対する、社会的な優位性が存在すること。
それは、以下の状況をもたらすこと。
そうした資源の所有者による、そうした資源の非所有者に対する、

社会的な差別。

そうした資源の占有者が、女性であること。そうした資源の非所有者で借用者なのが、男性であること。
それは、以下の内容である。
そうした資源の占有者としての女性における、そうした資源の非所有者としての男性に対する、社会的な優位性が存在すること。
それは、以下の状況をもたらすこと。
そうした資源の占有者としての女性による、そうした資源の非所有者としての男性に対する、社会的な差別。
そうした資源の占有者としての女性による、そうした資源の非所有者としての男性に対する、社会的な収奪行為の、正当化。

それらの具体例。女性による、男性に対する、以下のような扱い。
生殖行為の実施において、女性が、男性に対して、予め、各種の朝貢を要求出来ること。男性がそれに応じない場合、女性は、男性に対して一方的に生殖行為の開始を拒絶出来ること。
それは、以下の内容である。女性が、男性から、セックス税を、一方的に徴収出来ること。
それは、以下の内容と同等である。不動産の所有者が、その借用者から、家賃を、一方的に徴収出来ること。

女性優位社会固有の男性差別。例。日本や中国やロシアや韓国において固有の、男性差別。
女性優位社会における、女性による、男性に対する、以下のような価値観や社会規範の強制。
液体的思想の強制。気体的思想の否定や抑圧。
例。集団行動の強制。同調行動の強制。コミュニケーションの強制。単独行動の抑圧。自由行動の抑圧。独自行動の抑圧。危険行動の抑圧。退嬰的精神の強制と、チャレンジ精神の抑圧。社会的上位者に対する批判行動の抑圧。前例踏襲的行動の強制と、独創的行動への抑圧。
--
それらは、全て深刻な男性差別であること。
それらは、全て深刻な、男性の生きる権利の侵害であること。
それらは、全て、男性の本性を歪めていること。

追加内容。2024年1月下旬。周囲からの働きかけに対する、保存性物質とエネルギー性物質の、反応。物質動作の、論理回路や神経回路やコンピュータプロセスとしての、表現。エネルギー性思想や保存性思想が、科学研究に対してもたらす、分析視点の歪み。生物の神経回路における、逆転思考や反転思考。

周囲からの働きかけに対する、保存性物質とエネルギー性物質の、反応。

周囲からの働きかけに対する、保存性物質の反応。
周囲からの入力。周囲からの発信や送信。
周囲からの衝突や突入や打撃。
その働きかけの度合いが弱い場合。無視。無反応。締め出し。
その働きかけの度合いが十分に強い場合。盲目的な丸呑みによる受容。順応。
保存性物質の例。液体。生物一般。女性。定住生活様式の社会。

周囲からの働きかけに対する、エネルギー性物質の反応。
周囲からの入力。周囲からの発信や送信。
周囲からの衝突や打撃。
その働きかけの度合いが弱い場合。弾き返し。逆転。
その働きかけの度合いが十分に強い場合。飛散。彼自身が弾き飛ばされること。逃走。

エネルギー性物質の例。気体。ウィルス的な生物。男性。移動生活様式の社会。

物質動作の、論理回路や神経回路としての、表現。

論理回路。神経回路。
それらは、周囲からは、以下の内容として捉えられること。
刺激と反応の回路。入力と出力の回路。
周囲からは、そうした回路の末端の表面部分しか、直接観察することが難しいこと。それらは、次のように呼称することが出来ること。表面回路。
そうした回路の内部は、ブラックボックスであること。それらは、次のように呼称することが出来ること。内部回路。

論理回路。神経回路。
それらの回路を用いて、物質一般における、保存性やエネルギー性の挙動を、表現すること。
その実現が、情報通信技術をフル活用した、物質科学や生物科学や社会科学の発展において、必須であること。
それらの回路を内蔵した、粒子状の個体。
そうした個体を、コンピュータシステムにおける個別のプロセスとして、表現すること。
そのことで、分子運動のコンピュータシミュレーションにおける個人主義的なアプローチを、新たに実現することが出来ること。
そうしたシミュレーションにおいて、個体間力を表現出来ることが、特に重要であること。
その理由。個体間力が、個体同士が社会を形成する際の社会力の、根源的な源泉であるから。
物質を、複数粒子の構成体として捉える場合。粒子間力が、物質における社会構成力の源泉となること。
社会構成力。それは、物質一般が内蔵する、自力で社会を構成して行く力であること。その力は、物質の一種としての生物へと、引き継がれること。その力は、生物の一種としての人間へと、引き継がれること。

物質動作の、コンピュータプロセスとしての、表現。

物質を、コンピュータプロセスとして表現すること。
１個の個体。その個体を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。それは、より根源的なスーパークラスの概念であること。
そのプロセスは、入力と、出力と、それらを媒介する内部処理との、３種類の動作をすること。入力と出力は、外部に露出すること。内部処理は、外部からは隠蔽されること。
それらの内容は、以下の２種類へとまとめることが出来ること。外部から掌握可能な可視的な処理としての、表面処理。外部からは掌握不能な不可視的な処理としての、内部処理。
そのサブクラスに該当するコンピュータプロセスの例。それらは、以下の内容である。
１個の物理的粒子。その粒子を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。
それは、物理プロセスとしては、他物体からの衝突の受容と、その衝突に対する反作用動作と、それらを媒介する内部動作との、３種類の動作をすること。
１個の通信装置。その粒子を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。
それは、通信プロセスとしては、受信と、発信と、それらを媒介する内部処理との、３種類の動作をすること。
１個の生物。その粒子を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。
それは、心理プロセスとしては、入力刺激の受容と、反応の出力と、それらを媒介する内部処理との、３種類の動作をすること。

１個の抽象的な個体。その個体を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。
そのプロセスは、エネルギー性と保存性との、２種類の動作をすること。
エネルギー性の動作。それは、とても高速であること。それは、個体間力をほとんど持たないこと。
保存性の動作。それは、とても低速であるか、速度ゼロであること。それは、個体間力を強く持っていること。

１個の抽象的な個体。その個体を、コンピュータシステムの１個のプロセスとして表現すること。

そのプロセスは、エネルギー性と保存性とで、以下のように異なる動作をすること。
そのプロセスが行う出力について。
エネルギー性の個体の場合。その出力の、他個体に対するインパクトが、大きいこと。
保存性の個体の場合。その出力の、他個体に対するインパクトが、小さいこと。
そのプロセスが受け取る入力について。
エネルギー性の個体の場合。そのプロセスは、以下のような出力を返すこと。弾き返す動作。入力内容を反転させる動作。入力内容を逆転させる動作。
保存性の個体の場合。そのプロセスは、以下のような出力を返すこと。
その入力のインパクトが小さい場合。入力内容を無視する動作。入力内容に対して無関心を決め込む動作。入力内容を無効化する動作。入力を締め出す動作。入力に対して門を閉鎖する動作。
その入力のインパクトが大きい場合。入力内容を盲目的に丸呑みする動作。入力内容に対して順応する動作。入力内容を学習する動作。

それらの個体間における、出力と入力との、相互の結び付き。
分岐。分配。１つの出力に対して、２つ以上の入力が、対応すること。
統合。混合。２つ以上の出力に対して、１つの入力が、対応すること。
円環。ある個体による出力が、その個体自身の入力へと、対応すること。
始端。何も無い真空領域において、ある個体が、自発的に出力を行うこと。
終端。ある個体が、出力を一切行わないこと。ある個体が、何も無い真空領域に向けて、出力を行うこと。
ネットワーク。それらの種類の組み合わせ。
それらは、以下の内容と、同様であること。鉄道線路の配線。テレビのケーブル配線。

エネルギー性思想や保存性思想が、科学研究に対してもたらす、研究視点の歪み。

エネルギー性思想で動く生物社会。例。移動生活様式の社会。男性優位社会。そうした社会の、人間における具体例。欧米諸国。
そうした社会の学者や知識人における言論のあり方。それらは、以下の内容である。
物質や生物や人間についての分析において。
エネルギー性をひたすら賛美すること。
保存性を、ひたすら無視し敵視し批判し、そうした存在を彼ら自身の意識上から故意に抹消すること。
例。
変化や変革や変動や革新や創造や移動や自由独立や挑戦を、ひたすら賛美すること。現状維持や復古や慣性や不動性を、ひたすら批判すること。
エネルギー性の性質を持つ対象物のみを、ひたすら採用し取り上げて賛美し続けること。例。気体。男性。父性。
保存性の性質を持つ対象物を、ひたすら無視し敵視し、そうした存在を彼ら自身の意識上から故意に抹消すること。例。液体。女性優位社会。それらの無視や敵視や抹消。
保存性の性質。それらは、結局、彼ら自身にとって、社会的禁忌であること。そうした社会的禁忌を破る者。彼らは、犯罪者や逸脱者や狂った者として、社会的迫害を受け続けること。
具体例。
欧米中心の物理学の世界において。
彼らが、物体運動や、物体におけるエネルギー活動や、高エネルギー物体としての気体や流体を、積極的に推進すべき研究対象として、贔屓し続けていること。
その一方で。彼らが、物体における不動性の維持や、物体における自己保存動作や、高保存性物体としての液体を、研究対象から故意に除外し続けていること。
欧米中心の社会学の世界において。
彼らが、保存性の価値観で動く女性優位社会の実在を、いつまでも決して認めようとしないこと。

保存性思想で動く生物社会。例。定住生活様式の社会。女性優位社会。そうした社会の、人間における具体例。中国やロシアや韓国や日本。
そうした社会の学者や知識人における言論のあり方。それらは、以下の内容である。
物質や生物や人間についての分析において。
保存性をひたすら賛美すること。

エネルギー性を、ひたすら無視し敵視し批判し、そうした存在を彼ら自身の意識上から故意に抹消すること。
例。
安定や安全や現状維持や前例や定住や統制や禁止を、ひたすら賛美すること。革命や破壊や単独行動や自由行動や危険行動を、ひたすら批判すること。
保存性の性質を持つ対象物のみを、ひたすら取り上げて賛美し続けること。例。液体。女性。母性。
エネルギー性の性質を持つ対象物を、ひたすら無視し敵視し、そうした存在を彼ら自身の意識上から故意に抹消すること。例。気体。男性優位社会。それらの無視や敵視や抹消。
エネルギー性の性質。それらは、結局、彼ら自身にとって、社会的禁忌であること。そうした社会的禁忌を破る者。彼らは、犯罪者や逸脱者や狂った者として、社会的迫害を受け続けること。
そして。
彼ら自身が保存性思想を所有している事実自体を、外部に対して、機密情報扱いにして、隠蔽しようとすること。その理由。保存性の物質や生物は、一般的に、彼ら自身の存在を、外部から、隔離し隠蔽しようとすること。
具体例。
中国や韓国の社会学者たちが、礼節や前例踏襲を重視する、女性優位の儒教思想を、根底において、引き続き支持し続けていること。
日本の社会学者たちが、日本社会が実際には女性優位社会であることを、対外的に、ひたすら否定し続けていること。

生物の神経回路における、逆転思考や反転思考。

逆転思考。反転思考。
ある生物が、閉塞した現状を、打開し逆転しようとすること。
彼自身が、その実現のために、従来とは真逆の入出力を行うことが出来るようにすること。
そのために、彼自身の内部神経回路において、以下の機能を実現可能にすること。入力値の正負を、新たに逆転させること。入力値の有無を、新たに逆転させること。

生物の神経回路において、逆転や反転の思考や発想が新たに発生するための条件。
彼自身の内部神経回路において、以下の機能を実現可能にするため

の条件。入力値の正負を、新たに逆転させること。入力値の有無を、新たに逆転させること。

その１つ目。
その生物が、手持ちのエネルギーを利用して、周囲に対して打撃を与える行為を、継続して試みること。
周囲の物質について、それらの破断や破壊や打開を試みること。
周囲の物質について、それらの変動や変化を発生させることを、試みること。
それらの試行錯誤を成功させるために、以下のような手順を採用すること。
それらの物質における脆弱性を発見すること。その結果、見つかった、それらの物質における脆弱部分を集中攻撃して、突破すること。
そうしたエネルギー利用が、その生物における反転思考や逆転思考の、１つ目の根源となること。

その２つ目。
閉塞した現状について、何か風穴が開かないかと考えて、あれこれいきあたりばったりに試行錯誤を続けること。
その結果。偶然、現状に風穴が開いて、事態が打開されること。
そのことで、今までとは真逆の状況が、突然、新たに、彼の眼前に出現すること。
その結果。その生物は、今までとは逆転した入出力を行う内部回路を、学習によって手に入れることに、新たに成功すること。
そうした試行錯誤が、その生物における反転思考や逆転思考の、２つ目の根源となること。

追加内容。2024年2月上旬。生物の、活動一般や神経回路と神経細胞における、エネルギー性と保存性。生物の行動における性差との

関連。

生物の活動一般における、変動性や破壊性。彼ら自身の活動における、移動や変化や自己破壊や革新の、優越。
生物の活動一般における、軽量性。彼ら自身の活動における、消費や消耗の、優越。身軽であること。
それらは、以下の内容である。生物活動における、エネルギー性。
それらは、以下の存在に由来すること。エネルギー性の身体部位。細胞やウィルス。
そうしたエネルギー性。そうした性質は、精子や男性において、より大きいこと。

生物の活動一般における、不動性や復旧性。彼ら自身の活動における、定住や現状維持や自己治癒や原状回復の、優越。
生物の活動一般における、重量性。彼ら自身の活動における、貯蔵や貯蓄や蓄積の、優越。身重であること。
それらは、以下の内容である。生物活動における、保存性。
それらは、以下の存在に由来すること。保存性の身体部位。細胞。
そうした保存性。そうした性質は、卵子や女性において、より大きいこと。

神経回路と神経細胞における、エネルギー性と保存性。行動における性差との関連。

神経回路における、独創性や新機軸性や突破性。回路内容における、新規性と、前例破壊性。
神経回路における、変動性。回路内容の、移転や変化や自己破壊や革新。
それらは、以下の内容である。神経回路における、エネルギー性。
それらは、以下の存在に由来すること。エネルギー性の神経細胞。
そうしたエネルギー性。そうした性質は、男性の神経細胞や神経回路において、より大きいこと。

神経回路における、不動性。回路内容の、現状維持や自己治癒や原状回復。
神経回路における、前例蓄積性。前例にあたる回路内容の、丸暗記での学習と、そうした学習済み内容の飽く無き貯蓄。
それらは、以下の内容である。神経回路における、保存性。
それらは、以下の存在に由来すること。保存性の神経細胞。
そうした保存性。そうした性質は、女性の神経細胞や神経回路において、より大きいこと。

神経回路における、変動性と不動性。
それらは、以下の内容である。
結線のトポロジーにおける、変動や不動。
思考細胞が、今までに無い新たな神経細胞と結び付くこと。思考細胞が、結び付く相手の神経細胞を新たに変えること。
結線の太さにおける、変動や不動。
神経細胞同士の結び付きの太さが増加すること。記憶学習。神経細胞同士の結び付きの太さが減少すること。記憶忘却。
神経回路の、自己改変や自己破壊。
そうした度合いが大きいこと。そうした動きが活発であること。それは、神経回路における、変動性であること。それは、神経回路における、エネルギー性であること。それは、多数のエネルギー性の神経細胞の存在によって、もたらされていること。
そうした度合いが、小さいかゼロであること。そうした動きが、不活発か皆無であること。それは、神経回路における、不動性であること。それは、神経回路における、保存性であること。それは、多数の保存性の神経細胞の存在によって、もたらされていること。

神経回路における学習と、変動性と不動性。
学習内容そのものの、記憶と貯蔵と蓄積を、ひたすら目指す場合。それは、保存性の学習であること。それは、女性が得意としていること。
その時々の学習記憶内容を基に、ターゲットに内在する脆弱性を発見し、ターゲットの破壊を目指す場合。それは、エネルギー性の学習であること。それは、男性が得意としていること。

エネルギー性の神経細胞。その特徴は、以下の内容である。
動作が大きいこと。動作が活発であること。動作における、消費性や消耗性が、高いこと。

保存性の神経細胞。その特徴は、以下の内容である。
動作が、小さく微細であること。動作が静かで穏やかであること。
動作における、貯蔵性や蓄積性が、高いこと。

エネルギー性の神経細胞。変動的な神経回路。それらの持ち主としての、男性。
保存性の神経細胞。不動的な神経回路。それらの持ち主としての、女性。
男女の行動における性差。それらは、彼らの神経細胞における、エネルギー性と保存性との差によって、生じていること。

神経系の外部入出力における、エネルギー性と保存性。

エネルギー性の入出力。
例。
出力の場合。腕や脚の筋力が大きいこと。腕や脚の動きが、粗雑で低品質であること。
入力の場合。動体視力が大きいこと。
それらは、男性的な特徴であること。

保存性の入出力。
例。
出力の場合。腕や脚の筋力が小さいこと。腕や脚の動きが、微細で高品質であること。
入力の場合。静体視力が大きいこと。
それらは、女性的な特徴であること。

神経系における、エネルギー性と保存性。
それらの内容は、以下の内容のサブクラスであること。
生物活動における、エネルギー性と保存性。

生物活動における、エネルギー性と保存性。

それらの内容は、以下の内容へと繋がること。
男女の性差一般。

神経系における、エネルギー性と保存性。
それらの内容は、以下の内容へと繋がること。
男女の行動における、性差。

一般的な細胞のサブクラスとしての、神経細胞。
一般的な細胞構成のサブクラスとしての、神経回路。
それらの構成要素の組み合わせにより、神経回路網における男女の性差が、生み出されていること。

神経細胞や神経回路における、反転出力や逆転出力。
それらは、以下の内容である。破壊的出力。攻撃的出力。
それらは、エネルギー的出力の一種であること。

神経細胞や神経回路における、順応出力と、弱い入力の締め出し。
それらは、以下の内容である。保身的出力。防御的出力。
それらは、保存的出力の一種であること。

追加内容。2024年5月下旬。生物にとっての情報。それらの種類の分類。生物にとっての目的。生物にとっての生きやすさの実現と、生物における、自己制御や環境制御との関係について。

生物にとっての情報。それらの種類の分類。

それは、以下の内容である。

--
エネルギー性の情報。気体的な情報。
実体に囚われない仮想性を備えた、情報。
デジタル情報。離散的な数値による表現が可能な情報。電子的な情報。
粒子的な情報。相互分離可能な、離散的な情報。飛散し拡散する情報。空中や有線や無線の通信回線を経由して、空間内を自由にオープンに飛び回る、情報。
ウィルス的な情報。精子的な情報。花粉的な情報。渡り鳥的な情報。男性的な情報。
--
保存性の情報。液体的な情報。金属固体的な情報。
実体の裏打ちを伴う情報。トポロジー的な情報。形状的な情報。身体動作的な情報。
アナログ情報。連結的で融合的で癒着的な情報。連続的な情報。相互分離が不能な情報。内部限定の非公開の非拡散の機密情報。物体を変形させる形で、直接叩き込んで記憶させる、有形の情報。生物の、神経回路や身体に、直接教え込み覚えさせる形で記憶させる、有形の情報。そうした有形の情報は、時系列的に形状が変化する場合を含むこと。
生体情報。細胞的情報。卵子的情報。水溜まり的な情報。地金的な情報。木工的な情報。女性的な情報。
--

気体的な情報は、男性と相性が良いこと。
液体的な情報は、女性と相性が良いこと。

生物にとっての目的。生物にとっての生きやすさの実現と、生物における、自己制御や環境制御との関係について。

生物にとっての目的。
彼自身の生存の確保と維持。自己保存。自己増殖。
それらの実現に必要な、各種の資源や設備を、絶えず確実に取得し確保し続けること。生きやすさの取得や確保。

それらの実現を阻む、各種の脅威や障害を、絶えず確実に除去し続けること。生きにくさの除去。

生物にとっての生きやすさの実現。
その実現がなされたことを、彼自身が実感できること。
それは、以下の内容である。
生物が、自己保存や、自己増殖や、それらの実現に必要な資源や設備の確保のために、彼自身や、周囲の環境を、操作しようとすること。

そうした、生物にとっての操作対象。それらは、以下の内容である。
彼自身の神経回路。彼自身の自己制御。
彼自身を取り巻く環境の制御。環境制御。それは、以下の内容である。
-
内部環境。彼自身の体内臓器。それらの制御。
外部環境。体外の物体。他の生物個体。他の無生物の物体。それらの制御。
-

生物にとって、操作対象が、彼自身の思い通りになること。生物が、そうした操作に成功すること。
そうした、生物にとっての操作対象が、彼自身にとって制御可能であること。生物が、そうした制御に成功すること。
そうした、制御可能性。それが、生物にとっての生きやすさの根源であること。
そうした、制御可能性。それは、生物に対して、有能性をもたらすこと。それは、生物に対して、有能感をもたらすこと。生物は、そのことで気分が上昇し、高揚すること。生物は、そうした有能感を、絶えず、極限まで、追求し続けること。
そうした極限的な有能性。それは全能性であること。そうした全能性を実感すること。それは、全能感であること。生物は、そうした全能感を、根底において、根源的に絶えず追求し続けること。生物は、根本的に、彼自身が、絶対者や神に、なりたがること。
そうした、制御可能性。それは、生物にとって、操作対象に対する、彼自身の優越性をもたらすこと。それは、生物に対して、優越感をもたらすこと。生物は、そうした優越性の実現を、絶えず追求し続けること。生物は、そうした優越感を、絶えず実感したがること。

そうした優越性の実現者。それは、社会的上位者であること。それは、社会的有力者であること。それは、社会的支配者であること。
その結果。生物は、社会的に、可能であれば、絶えず上位へと上昇したがること。生物は、社会的に、可能であれば、最も上位へと上昇したがること。生物は、そうした社会的上位性を、絶えず維持したがること。
一般的に。生物は、無生物を含めた物質社会における上位者に、いつもなりたがること。生物は、生物社会における上位者に、いつもなりたがること。生物は、可能であれば、社会における最上位者に、いつもなりたがること。生物は、可能であれば、絶対者に、いつもなりたがること。例。人間は、地球における最上位者に、いつもなりたがること。
生物は、それらの実現のために、なりふり構わず何でもすること。

その一方で。
生物にとって、操作対象が、操作対象が、彼自身の思い通りにならないこと。生物が、そうした操作に失敗すること。
そうした、生物にとっての操作対象が、彼自身にとって制御不能であること。生物が、そうした制御に失敗すること。
そうした、制御不能性。それが、生物にとっての生きにくさの根源であること。
そうした、制御不能性。それは、生物に対して、無能性をもたらすこと。それは、生物に対して、無能感や無力感をもたらすこと。生物は、そのことで気分が下降し、落ち込むこと。生物は、そうした無能感や無力感を、絶えず回避し続けること。
そうした、制御不能性。それは、生物にとって、操作対象に対する、彼自身の劣等性をもたらすこと。それは、生物に対して、劣等感をもたらすこと。生物は、そうした劣等性の実現を、絶えず回避し続けること。生物は、そうした劣等感の実感を、絶えず回避したがること。
そうした劣等性の実現者。それは、社会的下位者であること。その結果。生物は、社会的に、可能であれば、社会的下位への下降を、絶えず回避したがること。生物は、そうした社会的下降の回避を、絶えず維持したがること。
一般的に。生物は、無生物を含めた物質社会における下位者には、なりたくないこと。生物は、生物社会における下位者には、なりたくないこと。例。人間は、地球における下位者には、なりたくないこと。
生物は、それらの実現のために、なりふり構わず何でもすること。

生きやすさを最大化すること。生きにくさを最小化すること。
対象制御における成功を、最大化すること。対象制御における失敗を、最小化すること。
有能性を最大化すること。無能性を最小化すること。
優越性を最大化すること。劣等性を最小化すること。
社会的上位性を最大化すること。社会的下位性を最小化すること。
それらは、生物における究極の目標であること。生物は、それらの実現のために、なりふり構わず何でもすること。

追加内容。2024年10月下旬。男女の性差。その本質についての、比喩を用いた、総合的な要約。

男女の性差。その本質についての、比喩を用いた要約。
それは、以下の内容であること。

男性。
高速で暴発的に動き回る、暴れ馬としての存在。
高いエネルギー性の行動を取る能力を持つ存在。
その能力により、周囲の障害物を貫通し破壊し変容させることが出来る存在。
その結果。
生存困難な状況を打開し、周囲に光明をもたらす存在。
仕事や稼ぎを沢山行うことが出来る、道具として有用な存在。

そのままでは、絶えず暴れまわり、彼自身や周囲の他者に対して、怪我を負わせる、御しがたい存在。
周囲の他者に怪我を負わせる、御しがたい存在。
そのままでは、内的エネルギーを浪費してしまい、直ぐに消耗して動けなくなってしまう存在。
生物であるにも関わらず、自己保存や自己保身が出来ない存在。そ

のままでは、捨て身の自爆行為を延々と繰り返してしまう存在。
そうした暴れ馬としての存在。

女性。生物一般。
そうした暴れ馬そのものを、丸ごと包含する存在。
そうした暴れ馬にとっての、調教者や飼育者や、檻や監獄としての役割を、同時に兼ねる存在。
そうした暴れ馬の飼い主としての存在。そうした暴れ馬の、保有者や所有者としての存在。
そうした暴れ馬に対して栄養を補給して、その暴れ馬を養育する存在。
そうした暴れ馬を、飼い慣らして制御可能にする、教育者や指導者としての存在。
そうした暴れ馬を、外部へと逃げ出せないように、常時閉じ込めて自由を奪い専制支配する、加害者や抑圧者としての存在。
そうした暴れ馬から暴行を受けて、思わず致傷する、被害者としての存在。

高い保存性の行動を取る能力を持つ存在。
低いエネルギー性の行動しか取ることが出来ない存在。
その結果。
彼女自身の能力では、周囲の障害物を貫通し破壊し変容させることが出来ない存在。前例踏襲や現状維持に長けた存在。
彼女自身の能力では、生存困難な現状を打開し打破することが出来ない存在。彼女自身の能力では、周囲に光明をもたらすことが出来ない、暗黒的な存在。
彼女自身の能力では、仕事や稼ぎを沢山行うことが出来ないため、道具としては、相対的に無用な存在。
むしろ。
上記の高エネルギー性で動く道具。そうした道具の維持管理に長けた存在。そうした道具の保存に長けた存在。
そうした道具に対して、その性能劣化を防止し、その性能発揮能力を維持するための、基本的な設備や資源を提供する存在。そうした道具に対して、雨露を凌ぐための住居を提供する存在。
そうした道具に対して、エネルギーの補給を行う存在。そうした道具に対して、栄養分をもたらす存在。
そうした道具の能力を、更に育み伸ばす存在。そうした道具にとっての、養育者としての存在。
そのことで。

そうした道具に対して、消耗状態からの原状回復をもたらす存在。
そうした道具を、再び元気で快活にさせる存在。
そうした道具を、再び高いエネルギー性で行動できるように、調整を加える存在。

そうした道具にとっての母屋になる、不動産的な存在。そうした道具にとっての庇護者になる存在。

私は、上記の内容を、以下のように要約した。

男性。斥力の行使者としての存在。エネルギー性で動く存在。気体的な存在。
エネルギーの消費によって動作する、道具としての存在。
高エネルギー性の動作が可能な、ハイスペックな道具としての存在。
そうした動作により、物事を動かし変化させることで、仕事や稼ぎを行う存在。
そうした動作により、物事を破壊し変質させる存在。そのことで、保存性に対して逆行する、危険な存在。
そうした動作の継続に伴い、内的エネルギーの消耗により疲弊すること。そうした不足エネルギーを補給するメンテナンスを、必要とすること。
そうした動作の継続により、それ自身の筐体が摩耗し致傷すること。そうした摩耗や傷を治癒させるメンテナンスを、必要とすること。
そうしたセルフメンテナンス能力を自前では保有できていないこと。自力で自己保存を行うことが出来ないこと。
そうした、単なる道具としての存在。
そうしたセルフメンテナンスや自己保存に必要な設備や資源を、自前では保有できていないこと。それらの設備や資源を、外部から借用するしか無い存在。
そうした、身軽で清貧な借用者としての存在。

女性。生物一般。引力の行使者としての存在。保存性で動く存在。液体的な存在。
セルフメンテナンスや自己保存の能力を、豊富に保有する存在。そ

うしたセルフメンテナンスや自己保存に必要な設備や資源を、予め豊富に所有出来ている、富裕な既得権益者としての存在。
そうした能力を、周囲の他者に対して、お裾分けする存在。
そうした能力を、周囲の道具的存在に対して、お裾分けする存在。
そのことで。
上記の高エネルギー性で動く道具。そうした道具を、使いこなしメンテナンスする、使用者や保守管理者としての、庇護者的な存在。
そうした道具の保有者や所有者としての存在。
そうした道具を使いこなすことで、その道具を経由して、外部から資源を取得する存在。そうして取得した外部資源の一部を、その道具へと、還元補給する存在。
そうした道具を、包含して可愛がり慈しむ存在。そうした道具を、常時専制支配する、加害者や抑圧者としての存在。
そうした道具が引き起こす暴発動作によって、思わず致傷する、被害者としての存在。

追加内容。2025年2月下旬。植物的な神経系と、動物的な神経系。それらの共通点と相違点についての、総合的な要約。植物的な神経系や神経回路の、コンピューターのマルチプロセスを利用することによる実現。

生物的神経系。植物的な神経系と、動物的な神経系。それらの共通点。
それらの神経系における各々の細胞において、ある種類の神経伝達物質の濃度が閾値を超えると、それに対応する機能が自動的に発動すること。

そうした発動は、以下のような言葉で表現されること。発火。発作。発現。動作。

そうした機能は、保存性とエネルギー性とに、二分されること。
そうした機能発動により行使される力は、引力と斥力とに、二分されること。
そうした機能発動により行使される力の結果は、抑制や禁止と、促進や実行とに、二分されること。
そうした機能発動により行使される力の結果は、順応と、逆転や反転や反抗とに、二分されること。

各々の細胞は、その時々の神経伝達物質の濃度を、個別に、自律的に、自動的に、計算すること。
各々の細胞は、そうした計算結果に基づいて、機能発動を行うか否かの判断を、個別に行うこと。

そうした各々の細胞の個別の判断の集積によって、生物一般の身体全体の活動が、決定されること。
そうした各々の細胞の個別の判断の集積部分。生物的神経系における、そうした活動決定における総合判断の中枢司令部。それが、脳であること。

それらは、郵便配達のシステムに似ていること。
神経伝達物質が、郵便物であること。
生物の体内を循環する体液が、郵便車両や、そうした郵便車両が動く物流の道路であること。

そうした各々の細胞の間で、機能分化が存在する場合。
各々の細胞毎に、様々な個別の機能が割り当てられること。
そうした機能の割当て方法は、基本的にはランダムであり、自動的で機械的であること。
そうしたランダムな機能割当ての中で、その時時においてたまたま有効性が高かった割当方法が、より存続しやすいこと。
しかし、有効性が低い機能割当方法も、有効性が高い機能割当方法と、たまたま同居していれば、文句なく存続できること。

個別の細胞の機能発動。
それらに必要な計算や判断のシステムは、それぞれの細胞独自の自律システムであること。

それらの機能の種類は、その細胞に流入し流出する、特定の溶質の種類に、それぞれ対応していること。
それらの機能の種類は、細胞毎に複数種類存在すること。それらの機能の種類は、その細胞に流入し流出する、複数の溶質の種類に、それぞれ対応していること。

植物的な神経系と、動物的な神経系。それらの相違点。
植物的な神経系。
各々の神経細胞は、ソリッドな動かない３次元の擁壁を持つこと。
各々の神経細胞の間の神経伝達物質の連絡や伝達は、それらの神経細胞の壁に開いている、様々な物質を融通するための、たくさんの穴や管を通して、行われること。
各々の神経細胞の間の機能連携は、そうした導管を通して、行われること。

動物的な神経系。
各々の神経細胞は、柔軟かつ硬い、動く筋肉を持つこと。各々の神経細胞は、肉体的であること。
各々の神経細胞の間の神経伝達物質の連絡や伝達は、それらの神経細胞の筋肉活動を用いた、様々な物質を融通するための経路の生成を通して、行われること。
各々の神経細胞の間の機能連携は、そうした筋肉活動と細胞間連結を通して、行われること。

植物的な神経系。その、コンピューターのマルチプロセスを利用することによる実現。
各々のプロセス。それは、植物体内の各細胞であること。そうした各細胞が、全て、神経細胞として機能すること。
植物体内の各細胞の神経伝達物質。それらは、植物体内の各細胞の擁壁の内部に開いている導管を経由して、植物体内の細胞間のの体液の循環の動きに沿って、流動すること。
それらは、郵便配達のシステムに似ていること。神経伝達物質が、郵便物であること。循環する体液が、郵便車両や、そうした郵便車両が動く物流の道路であること。
そうした導管を伝達して流れる物質。それらは、溶液であること。

溶媒としての水分。溶質としての、養分や各種ホルモンなど。

それらは、以下の内容の実現に、同時に繋がること。
動物における、血液や体液を経由した情報伝達システム。そうしたシステムの、コンピューターシミュレーションによる構築。

参考文献

Stefano Mancuso e Alessandra Viola, VERDE BRILLANTE : Sensibilità e intelligenza del mondo vegetale, Giunti Editore S.p.A.,Firenze-Milano, 2013
(久保耕司(翻訳), 植物は〈知性〉をもっている～20の感覚で思考する生命システム, NHK出版, 2015)

追加内容。2025年2月下旬。東洋医学における陰陽論。陰の思想内容が、保存力と引力に対応すること。陽の思想内容が、エネルギーや斥力に対応すること。それらの関連についての、総合的な要約。

東洋医学において。生物の身体の機能分化は、以下のように捉えられていること。

生物の生命力の中心。生物による生命活動の中心。生物における中枢部や中心部そのもの。
それは、生物にとって、より先天的で本質的であること。
それは、中国語において、以下のように呼ばれること。腎。

そうした生物の中心部へと、生命活動に必要なエネルギーをもたらす部門。
それは、生物にとって、より後天的で傍流的であること。
それは、中国語において、以下のように呼ばれること。脾。

そうした、生物における中心部門。そうした、生物の中心部へとエネルギーをもたらす部門。
それらの部門は、エネルギーを用いた活動に必要な様々な資源を、蓄積し保存する機能を持っていること。
それらの部門は、そうしたエネルギーを蓄積し保存する場所を持っていること。
そうした性質は、中国語において、以下のように呼ばれること。
陰。滋養。
そうした性質は、保存力に基づくものであること。陰の思想と、保存力の行使とは、正の相関関係にあること。

その一方で。
生物の中心部に蓄えられたエネルギーを、全身へと拡大し発散する部門。
生物の中心部に蓄えられたエネルギーを、生物の体外の外界へと拡大し発散する部門。
それは、中国語において、以下のように呼ばれること。肝。
それらの部門は、エネルギーを発散し躍動する場所を持っていること。
そうした性質は、中国語において、以下のように呼ばれること。
陽。
そうした性質は、エネルギー性に基づくものであること。陽の思想と、エネルギーの行使とは、正の相関関係にあること。

生物による生命活動によって現れる、エネルギー行使の運動の素。
それは、中国語において、以下のように呼ばれること。気。

以下の２つは、中国語において、以下のように呼ばれること。肺。

（１）

生物自身が、生命活動によって、生物自身の中心部から発散し拡大する、エネルギーの行使の範囲。
そうしたエネルギーの行使の範囲を、生物自身の身体内部へと閉じ込める部門。そうした場所。
言い換えると。
生物自身が、生命活動によって、生物自身の中心部から発散し拡大する、気の範囲。
そうした気の範囲を、生物自身の身体内部へと閉じ込める部門。そうした場所。

（２）
生物自身の生命活動にとって不利益となる、外界の他物体からの有害なエネルギーの行使の侵入や流入を制限するフィルターとしての部門。そうした場所。
言い換えると。
生物自身の生命活動にとって不利益となる、外気の侵入や流入を制限するフィルターとしての部門。そうした場所。

それら 2 つは、中国語において、以下のように呼ばれること。肺。

生物による生命活動によって現れる、エネルギー行使の運動の素。気。
生物の身体内部の気。それは、中国語において、以下のように呼ばれること。地気。
それは、重い空気であること。
気を、生物の身体内部へと閉じ込める機能。それは、中国語において、以下のように呼ばれること。営気。

生物による生命活動によって現れる、エネルギー行使の運動の素。気。
生物の身体外部の気。それは、中国語において、以下のように呼ばれること。天気。天空の気。
それは、軽い空気であること。
それは、中国語において、以下のようにも、呼ばれること。清気。
それは、酸素の元であること。
そうした酸素は、生物にとって、燃焼をもたらすこと。
それは、生物にとって、エネルギーの行使や活用の機会をもたらすこと。

それは、生物にとって、身体運動をもたらすこと。
それは、生物にとって、気の元となること。それは、中国語において、以下のようにも、呼ばれること。元気。真気。

生物が、生命活動を彼自身でコントロールするための、中枢司令部。
生物が、自己保存の活動を彼自身でコントロールするための、中枢司令部。
それは、中国語において、以下のように、呼ばれること。心。

そうした中枢司令部には、体内向けの部門と、体外向けの部門とがあること。
体内向けの部門。例。体内の血液循環をコントロールする中枢司令部。心臓。
体外向けの部門。例。体外に向けた働きかけと、それに対するフィードバック結果とをコントロールする中枢司令部。精神。思惟。

生物自身の体内において、そうした中枢司令部に対応する形で、実際に各種コントロールを行う部門。
それは、生物自身の身体の表面近くの現場に設けられること。
そうした各種コントロールの指揮系統を統括する部門。
それは、中国語において、以下のように、呼ばれること。肝。

生物が、生命活動を彼自身でコントロールするための、中枢司令部や現場指揮部。中国語における、心や肝。そうした中枢と現場との働きは、以下の内容であること。

生物の生命活動にとってのプラスの要素を、体内へと、吸引し取り入れること。
それは、表面や外面の活動であること。その活動は、日の当たる日向の活動であること。それは、中国語では、陽であること。

生物の生命活動にとってのプラスの要素を、体内において、貯蔵し蓄積すること。
生物の生命活動にとってのマイナスの要素を、体外へと、排出し追

放し締め出すこと。
それは、裏面や内面の活動であること。その活動は、日の当たらない日陰の活動であること。それは、中国語では、陰であること。

生物が、生命活動を彼自身でコントロールするための、中枢司令部や現場指揮部の、機能。
それらの場所は、生物の体内であること。
それは、中国語では、陽では無くて、陰であること。陰心。
それは、中国語では、天では無くて、地であること。地心。

宇宙における生物にとっての、恒星。
地球における生物にとっての、太陽。
それらは、宇宙や地球にとって、エネルギーの源となる場所であること。
それらは、宇宙や地球に対して、大量のエネルギーを発散してくる場所であること。
それらは、宇宙や地球における生物にとっての、エネルギー供給の大元の司令部であること。
それらは、中国語において、以下のように、呼ばれること。天。

そうした宇宙や地球における生物にとっての、エネルギー供給の大元の司令部。
それは、エネルギーを生物に対して与える存在や場所であること。
それは、生物に対して与えるエネルギーをコントロールする存在や場所であること。
それは、中国語において、以下のように、呼ばれること。天心。陽心。

中国における、陰陽思想。その一覧。その問題点。

＝＝＝＝
陽。物質一般。
陰。物質一般。

上部であること。天であること。
下部であること。地であること。
（問題点）
その思想は、伝統的な天動説に立脚したままであること。
地動説に基づく場合。陰の思想に基づく物体や生物にとっては、地球の中心に近いほど、その位置が、彼ら自身にとって、より上部となること。

外部であること。表面であること。
内部であること。裏面であること。

速いこと。移動すること。動くこと。
遅いこと。不動か微動であること。静止すること。

軽いこと。低密度であること。
重いこと。高密度であること。

高温であること。
低温であること。
（問題点）
その思想は、伝統的な天動説に立脚したままであること。
地動説に基づく場合。恒星や地球の中心に近いほど、より高温となり高エネルギー状態となること。

明るいこと。
暗いこと。
（問題点）
その思想は、伝統的な天動説に立脚したままであること。
地動説に基づく場合。恒星や地球の中心に近いほど、より高温となり明るくなること。

明るい存在。サイズが非常に大きい場合。恒星の中心部。サイズが非常に小さい場合。天から地上へと降り注ぐ光電子。
暗い存在。小さな星や物体。地球の表面。生物一般。

＝＝＝＝
陽。生物一般への応用。
陰。生物一般への応用。

燃焼させること。
滋養すること。保全すること。

体表。
体内。

体外へのエネルギーの行使。
体内へのエネルギーの行使。

現場における指揮部。応用部。
中枢における司令部。基幹部。

背の部分。
腹の部分。

活動の実行。反応を取得すること。応答すること。
活動の静止や停止。反応取得を放棄すること。無応答であること。
睡眠を取ること。

興奮すること。
鎮静すること。

中国における、陰陽思想。その総括。

あらゆる現象や事象には、それらを生じさせる、陰と陽の、相反する２つの構成要素が、必ずあること。

一まとまりの構成体においては、陰と陽の、２つの相反する構成要素が、必ず入っていること。
そうした思想は、弁証法の基盤を成していること。

＝＝＝＝
陽。一般法則。
それは、放散すること。それは、密度を低下させること。それは、相互に離れる力を、働かせること。それは、相互の間を切断する力を、働かせること。
結局。それは、斥力を働かせること。それは、エネルギーで動くこと。

陰。一般法則。
それは、凝集すること。それは、密度を上昇させること。それは、相互に惹きつけ合う力を、働かせること。それは、相互に引き寄せ合う力を、働かせること。
結局。それは、引力を働かせること。それは、保存力で動くこと。

--

参考文献
仙頭正四郎, 標準東洋医学, 金原出版, 2006.03

追加内容。2025年4月下旬初出。資源獲得機能を備えた生物個体。その物理的運動の、マルチプロセッシングによるシミュレーションについて。Pythonのソースコードの追加。

新たなソースコードにおいて。 生物個体は、以下の機能を備えていること。
物質としての運動や衝突。資源の獲得。 資源の管理。資源の増減についてのフィードバック。そのフィードバックの待機。資源の蓄積。資源の消費。

タイプ No.1
ソースコード _4_1

追加内容。2025年6月上旬初出。女性による、男性に対する托卵行為の発生と、女性における、男性に対する、根本的な性的優位性。女性による、男性に対する、性的搾取や性的虐待の恒常的な発生。

女性による、男性に対する托卵行為の発生と、女性における、男性に対する、根本的な性的優位性。

女性の月経。
それは、以下の内容である。
女性の生殖設備の空間が、定期的にクリーンアップされること。
そのクリーンアップのタイミングは、生殖設備の所有者である女性のみが、知っていること。
そのクリーンアップのタイミングは、生殖設備の借用者である男性には、自力で知る余地が無いこと。
生殖設備の借用者である男性には、女性の生殖設備の空間がきちんとクリーンアップされているかどうかを、目視や手触りで確認する

ことが不可能であり、自力で知る余地が無いこと。
生殖設備の状態がクリーンかどうかの判断については、男性は、確たる情報を何も持っていないこと。
生殖設備の状態がクリーンかどうかの判断については、男性は、女性の言いなりになるしか無いこと。
仮に、生殖設備の内部に、以前の別の男性の精子が残っている場合。その場合においても、新たな男性は、女性による彼女自身の潔白性についての主張を、ひたすら信用するしか無いこと。
これは、以下の内容である。生殖設備の状態についての情報保有における、本質的な男女不平等と、女性の根本的優位性。
これは、以下の事象の発生の原因となること。女性による、新たな男性に対する、托卵。女性が、新たな男性を故意に騙して、別の男性の子供を、強制的に育てさせること。
そうした自分勝手な行為を自由自在に行使できる点において。女性は、男性に対して、生殖行為の大元において、圧倒的に有利であること。
生まれてきた子供についてのDNA鑑定においても。女性は、その鑑定者の医者と結託して、データ捏造する可能性が大きいこと。
こうした托卵問題を回避するために。
男性は、相手の女性の処女性に、ひたすらこだわること。男性は、相手の女性の生殖設備の未使用性に、ひたすらこだわること。
男性は、相手の女性が受ける強姦の発生の有無に対して、ひたすら神経質になること。その一環として、強姦行為一般を、社会的にひたすら非難し続けること。
男性は、特に、相手の処女だった女性が受ける強姦の発生の有無に対して、ひたすら神経質になること。その一環として、処女である可能性が高い若年層の女性に対する強姦行為一般を、社会的にひたすら非難し続けること。
男性による、女性に対する強姦を非難する行為。それは、女性に対する精神的思いやりでは必ずしも無いこと。それは、むしろ、女性による托卵発生を防止することへの、強い思いに基づくものであること。

それらは、以下の内容と比較可能であること。
あるオーナーの所有する宿泊用ホテルにおいて。
それは、ホテルの居室の空間が、定期的にクリーンアップされること。
そのクリーンアップのタイミングは、ホテル設備の所有者のみが、知っていること。
そのクリーンアップのタイミングは、ホテル設備の利用者には、自

力で知る余地が無いこと。
しかし。
ホテル居室の利用者は、ホテル居室の空間がきちんとクリーンアップされているかどうかを、ホテル居室内部をきちんと目視して手触りを確認することで、自力で知ることが出来ること。

女性による、男性に対する、性的搾取や性的虐待の、恒常的な発生。

--
性行為において。
女性が、男性に対して、男性器によるピストン運動や、彼女自身の性感帯の愛撫のような運動を、ひたすら強制して、その一方では、彼女自身は何も動こうとせず何も仕事をしようとしない、性行為。
女性が、男性に一方的に運動面で労働させて仕事をさせているだけの、性行為。女性が、男性に一方的に運動や労働や仕事の奉仕をさせているだけの、性行為。
女性が、男性に対して、男性器によるピストン運動や、彼女自身の性感帯の愛撫を、ひたすら強制して、彼女自身がひたすら性的に気持ち良くなることを指向するだけの、性行為。
女性が、体力的に消耗してやつれ果てている男性に対して、更に、男性器によるピストン運動や、彼女自身の性感帯の愛撫を、追加で強制し続ける行為。
女性が、性的に消耗して勃起不全に陥っている男性に対して、更に、男性器の勃起を、追加で強制的に要求し続ける行為。
女性が、性的絶頂に達することが出来なかった場合。相手の男性を、下手糞扱いして、貶しまくる行為。
女性が、男性に対して、性的絶頂への到達の同期を、強制的に求める行為。男性による性的絶頂への到達の同期の不達成を、早漏や遅漏として、貶しまくる行為。
自由独立行動を求める男性を、ひたすら彼女自身の監獄内部に閉じ込めて、閉塞的な生活状態を強制すること。そうすることで、男性に対して、専制支配を行うこと。
例。女性優位社会において。母親による息子に対する精神的専制支配が、生涯にわたって続くこと。
男性が提案する前人未到の斬新なアイデアを、女性が、前例に無い危険で変なアイデアだとして、容赦無く全部潰しまくること。女性

が、代わりに、安全だが前例踏襲的な路線の遵守を、男性に対して強制すること。

--
日常生活における、各種の作業において。
女性は、男性を、苛酷な作業へと、毎日、蹴り出し追いやること。一方では。彼女自身は、安全で楽で快適な作業のみを、のうのうと実行し続けること。
女性は、男性を、苛酷な職場へと、毎日、蹴り出し追いやること。一方では。彼女自身は、安全で楽で快適な家庭内部で、のうのうと暮らし続けること。

--
女性が職場進出した企業内部における、各種の作業において。
女性は、男性を、苛酷な現場部門へと蹴り出し追いやること。一方では。彼女自身は、安全で楽で快適な中枢部の部門で、のうのうと作業し続けること。

--
女性による、疲れて帰宅した男性に対する、食事の提供。
その本質は、暴れ馬の飼い主による、暴れ馬への、餌やりであること。
その本質は、家畜やペットに対する餌やりと、何ら変わらないこと。

追加内容。2025年6月上旬初出。統合失調症の患者の、精神的特質。彼らは、強度の、気体的思想やエネルギー的思想の持ち主であること。彼らは、強度に、男性的

であること。彼らが社会的に忌み嫌われる理由について。

私のような統合失調症の患者の、精神的特質。
それは、以下の内容である。

プライバシー確保への欲求が、普通の者よりも強いこと。
プライバシー空間を、普通の者よりも、広く大きく取りたがること。
プライバシー侵害に対して、普通の者よりも、ずっと敏感で、感じやすいこと。
その結果。
"私は周囲から監視されている。"という妄想を、より抱きやすいこと。
"私は周囲からストーカー被害に遭っている。"という妄想を、より抱きやすいこと。
その結果。
周囲との間に分厚い壁を構築すること。彼自身が構築した分厚い殻の中に、引きこもり続けること。

他者との関係において。
プライベートで自己完結する度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
自己対話を続ける度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
すなわち。
他者の存在を必要としない度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
行動における、単独性や独立性や孤独性が、普通の者よりも、ずっと高いこと。
行動における、集団からの隔絶性が、普通の者よりも、ずっと高いこと。

行動における、前例破壊性や独創性の度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
行動における、新規の発見や発明の度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。

結局。
気体的思想で動く度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
エネルギー的思想で動く度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。
精神的に男性的である度合いが、普通の者よりも、ずっと高いこと。

それは、生物一般における、液体的思想や保存的思想と、相反すること。
その結果。統合失調症の患者は、生物一般の社会において、忌み嫌われること。
そのサブクラスとして。統合失調症の患者は、人間社会において、忌み嫌われること。

それは、女性における、液体的思想や保存的思想と、相反すること。
その結果。統合失調症の患者は、女性から、忌み嫌われること。

表_1

	項目	説明
1	健康性	死ににくさ。病気へのなりにくさ。生まれやすさ。育ちやすさ。生きやすさ。
2	利便性	生活が不便でないこと。（生活が便利であること。）交通や通信、市場が発達していること。（機能の相互交換が行いやすいこと）
3	安全性	治安がよいこと。犯罪が起きにくいこと。危険がないこと。安心して生活できること。
4	余裕性	生活にゆとりがあること。生きやすさと直結しない内容。それらの成長や発展。それが、生命によって、受け入れられること。例。娯楽。ゲーム。芸術。

トップページに戻る。

表_2

	項目	説明	具体例
1	搭載・付与	機能を内包させる、持たせる、乗せる機能。	赤血球は、酸素を内包する。酸素は、機能物質である。
2	運輸・通信	機能物質を運ぶ機能。機能物質を巡らす機能。	機能が乗った物質。例。酸素を内包した赤血球。それらを運

			ぶのに必要なもの。（１）機能の位置を動かす、エンジンや原動力。（心臓。それは、血液を動かす。酸素。それは、燃料となる。神経細胞のシナプスの活動。それは、情報を生み出す原動力となる。）（２）機能が通過する通路。（例。酸素を運ぶ赤血球。それらが流れる血管。）
3	集荷	機能物質を外部から集める機能。	肺では、酸素が集められる。口・胃・腸では、栄養や水分が集められる。脳は、情報行動を起こす。それは、外部環境から機能物質を取得するために、必要である。
4	貯蔵	機能物質を貯蔵する機能。	肝臓では、集められた栄養分が、蓄えられて、保管される。
5	加工・改変	機能物質を加工・改変する機能。新機能の生成を行う機能。	体内の様々な酵素。それは、元となる機能物質を化学変化させ

			る。酵素は、それらを、さらに別の新たな機能を持ったものへと作り替える。
6	残余物処理	機能を消費した後の残余物を処理する機能。（例。外部に捨てる機能。リサイクルする機能。）	静脈では、不要な二酸化炭素が集められる。腎臓では、一度使った水をリサイクルする。直腸は、全て栄養分を利用し尽くした後の大便を外部に放出する。
7	防衛、保全	機能を阻害する外部要因。（外敵、ショックなど。）それらから生体を守る機能。	頭蓋骨は、脳をショックから守る。肋骨は、臓器を圧迫から守る。手足は、外敵の攻撃から身を守る。

トップページに戻る。

表_3

	項目	具体例
1	搭載・付与	コンピュータ製造業。それは、半導体に、情報処理の機能を与える。調理器具製造業。それは、鉄の固まりに、食品調理の機能を与える。
2	運輸・通信	トラック・鉄道などの運送業。電波に情報を乗せて広域に巡らす、放送・通信業。
3	集荷	みかんを収穫する農

		家。農協の集荷場。それは、農家が取ったみかんを一カ所に集めて処理する。石油採掘業。それは、石油を取って集める。
4	貯蔵・保管	倉庫業。 それは、作った製品を貯めておく。銀行業。それは、預貯金を扱う。
5	加工、改変	石油化学工業。それは、石油をプラスチックに変える。
6	残余物処理	地方自治体のごみ処理場。
7	防衛、保全	警備業。それは、人家や学校の安全を守る。繊維業。それは、人体を寒さから守る衣類を製造する。
8	交換・市場	小売業。それは、交換用トークンや貨幣を用いて、製品と利用者を出会わせる。

トップページに戻る。

表_4

	項目	具体例	評価基準	必要な（環境適応に役立つ）理由
1	扱える情報。その量や種類。その多さ。	対応する外部メディアの録画可能最長時間。（データ圧縮モードの有無。）録画が、地上波の放送だけでなく、衛星	それは、多いほど良い。	利用者は、多くの情報が保存可能なほど、環境適応に必要な情報を取っておきやすい。

		放送やネットの放送にも対応しているかどうか。		
2	動作の速さ	外部メディアを巻き戻すのにかかる時間の短さ。（400倍速。）	それは、速いほど良い。	利用者は、時間を節約できる。利用者は、それを、その他の生きるために必要な行動に回すことができる。
3	扱える情報の、きめ細かさ	録画可能な画質のきめ細かさ（8K画像への対応。）	それは、きめ細かいほど良い。	保存できる情報がきめ細かいほど、利用者は、生きるために必要な情報の詳細をつかみやすい。
4	小ささ・軽さ	対応する外部メディア。その重さ。その大きさ。その持ち運びやすさ。	それは、小さく、軽いほど良い。	利用者が持ち運べる空間範囲。それが増える。利用者が利用可能な用途。それが広がる。利用者が生きる上で役立つ場面。それが増える。
5	動作の正確さやエラーの少なさ	テレビ放送の時報に、録画機の内蔵時計を合わせる機能。そのことで、時間に正確に、録画が開始される機	それは、正確なほど良い。	正確なほど、利用者は、生きるために必要な情報の取り逃がしが少なくて済む。

		能。		
6	操作の簡単さ。（操作手順の少なさ。操作の分かりやすさ。求める機能の探しやすさ。操作の手間の少なさ。）	放送番組の予約において、放送チャンネル、開始時間を個別に入力する手間を省く機能。それらが、少ない桁数の数値入力だけで可能になる機能。	それは、簡単なほど良い。	簡単な操作で、必要な機能がすぐに取り出せること。そのことは、生死を分ける状況下で、利用者を助ける。操作する上で必要な心理的労力やストレス。それが少なくて済むこと。それは、利用者の寿命の延長につながる。
7	操作手順。扱う情報。その互換性。	従来機種との操作手順の共通性。ないし、異なる仕様やフォーマットの情報を、そのまま記録することができる度合い。	それは、高いほど良い。	情報の扱い方において、共通性が確保できること。利用者は、そのことで、以下の内容を減らせる。操作手順の学習労力。操作間違いの頻度。活用できる情報の種類が増えること。利用者は、より多様な情報に接することができるようになる。
8	扱う情報の純粋さ。その確	本来の放送番組の内容に関	それは、多いほど良い。	利用者は、本来の生きるた

	保。	係ない情報。不要な内容の情報。例。コマーシャル。それらを、自動的にカットできる機能。		めに必要な情報のみに、視聴上の注意を集中できるようになる。
9	操作上の安全さ。操作上のセキュリティ。それらの確保。	子供などの外部の他者による、機器に対するいたずら。それを防止する機能。（チャイルド・ロック。）	それは、安全なほど良い。	それは、以下の内容を防止する。外部からの侵入者によって引き起こされる機能不全。その発生。

トップページに戻る。

Source code _1

```
# coding: UTF-8

import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random



env_value_input = 300
env_value_output = 0
cell_name_array_input = ['input_01']
cell_name_array_output = ['output_01']
cell_name_array_neuron_middle = ['neuron_01']
cell_type_num_array_neuron_middle = [1]
sleep_time_length_input = 3
sleep_time_length_neuron_middle = 5
sleep_time_length_input_sum = 30
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
input_for_sum_num_length = 100
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.4
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable = 1.4
input_low_threshold = 50
input_high_threshold = 200
input_amp_variable = 1.5


event_array = []
for sub_num_a in range(2):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)
```

```
q_value_array_input = []
for value_num_i in range(1):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(1):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)

q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигание. 点


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length, ever
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_time
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        if(q.empty() == False):
```

```
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = float(q.
                print("event sleep_time_length_changed="







def cell_input(name,env_value,q_output_array,sleep_time_
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)

        for q_output_array_i in range(len(q_output_array
            if(env_value < input_low_threshold):
                print("env_value is too low. " + str(env
                env_value = env_value * (input_amp_varia
                print("env_value_changed=" + str(env_val

                if(env_value < input_low_threshold):
                    low_amp_times_num = low_amp_times_nu
            elif(env_value > input_high_threshold):
                print("env_value is too high. " + str(en
                env_value = env_value * (input_amp_varia
                print("env_value_changed=" + str(env_val
                if(env_value > input_high_threshold):
                    high_amp_times_num = high_amp_times_
            else:
                env_value = env_value
            q_output_array[q_output_array_i].put(env_val


def cell_output(name,env_value,q_input):
```

```
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value = float(q_input.get(True))
        print("env_output=" + str(env_value))



def cell_neuron_middle(name,type_num,q_input,q_output_ar
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_time
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングかどう

            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                        q_input_get_array.append(int(q_i

                print(q_input_get_array)
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_input
                    q_input_sum = q_input_sum + q_input_

                if(q_input_sum >= spike_threshold):
                    for q_output_array_i in range(len(q_
                        q_output_array[q_output_array_i]

                input_for_sum_array.append(q_output_valu
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
```

```
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)




        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングかどう
            print("sum_event_occred")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_array)
            if(first_flag > 0):
                learned_value_for_q_output = (sum_of_inp
                q_output_value_learned = q_output_value_
                print("learned_value_for_q_output=" + st

                spike_threshold = spike_threshold * (len
                print("learned_spike_threshold=" + str(s
                sleep_time_length_neuron_middle_learned
                print("sleep_time_length_neuron_middle_l
                q_value_interval_array[0].put(sleep_time

            else:
                first_flag = 1




####for Windows
if __name__ == '__main__':
######



    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_timer_u
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_timer,


    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(c
    cell_neuron_middle_proc = Process(target=cell_neuror
    cell_output_proc = Process(target=cell_output, args=
```

```
    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_proc.start()
    cell_output_proc.start()
```

To return to the top page.

Source code _2

```
# coding: UTF-8

import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy



env_value_input = 300
env_value_output = [0,0,300]
cell_name_array_input = ['input_01']
cell_name_array_output = ['output_01','output_02','outpu
cell_name_array_neuron_middle = ['neuron_01']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_mid
cell_plasticity_type_num_array_neuron_middle = [0]
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_input_sum = 10
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
input_for_sum_num_length = 100
spike_num_percent = 0
```

```
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable = 1.1
input_low_threshold = 50
input_high_threshold = 200
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(2):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 1
cell_intput_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 3
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle_


q_value_array_connection_target = []
for value_num_i in range(cell_new_connection_target_all_
    q_temp = Queue()
    q_value_array_connection_target.append(q_temp)

q_value_array_input = [q_value_array_connection_target[0
q_value_array_neuron_output = []

q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)


q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)
```

```
def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with_sim
    new_list = []
    new_list = copy.copy(existing_list)
    out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list)) - 1)
    new_list.append(all_list[out_num_temp])
    return new_list




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигание. 点


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length, ever
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_time
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        if(q.empty() == False):
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = float(q.
                print("event sleep_time_length_changed="
```

```
def cell_input(name,env_value_input_origin,q_output_arra
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    env_value_input = env_value_input -
            if(env_value_input < 0):
                env_value_input = 0



        print(name + " env_value_now=" + str(env_value_i
        for q_output_array_i in range(len(q_output_array

            if(env_value_input < input_low_threshold):
                print("env_value is too low. " + str(env
                env_value_input = env_value_input * (inp
                print("env_value_changed=" + str(env_val

                if(env_value_input < input_low_threshold
                    low_amp_times_num = low_amp_times_nu
            elif(env_value_input > input_high_threshold)
                print("env_value is too high. " + str(en
                env_value_input = env_value_input * (inp
                print("env_value_changed=" + str(env_val
                if(env_value_input > input_high_threshol
                    high_amp_times_num = high_amp_times_
            else:
                env_value_input = env_value_input
            if(env_value_input > 0):
```

```
                q_output_array[q_output_array_i].put(env


def cell_output(name,env_value_output,q_input,q_env_send
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        q_env_send.put(env_value_output)
        print(name + " env_value_change_minus=" + str(en


def cell_neuron_middle(name,facilitation_suppression_typ
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output_arra
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_time
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングかどう

            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                        q_input_get_array.append(int(q_i

                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_input
                    q_input_sum = q_input_sum + q_input_

                if(q_input_sum >= spike_threshold):
                    if(len(q_output_array_changed) > 0):
```

```
                for q_output_array_i in range(le
                    q_output_array_changed[q_out

            print("len(q_output_array_changed)="
            q_output_array_changed = add_new_ite



        input_for_sum_array.append(q_output_valu
        if(len(input_for_sum_array) > input_for_
            input_for_sum_array.pop(0)
        q_input_get_array = []
    else:
        input_for_sum_array.append(0)
        if(len(input_for_sum_array) > input_for_
            input_for_sum_array.pop(0)




if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングかどう
    print("sum_event_occred")
    sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
    sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_array)
    if(first_flag > 0):
        learned_value_for_q_output = (sum_of_inp
        q_output_value_learned = q_output_value_
        print("learned_value_for_q_output=" + st

        spike_threshold = spike_threshold * (len
        print("learned_spike_threshold=" + str(s
        sleep_time_length_neuron_middle_learned
        print("sleep_time_length_neuron_middle_l
        q_value_interval_array[0].put(sleep_time




    else:
        first_flag = 1
```

```
####for Windows
if __name__ == '__main__':
######


    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_timer_u
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_timer, 


    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(c
    cell_neuron_middle_proc = Process(target=cell_neuron

    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output, arg
    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output, arg
    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output, arg

    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
    cell_output_2_proc.start()
    cell_output_3_proc.start()
```

To return to the top page.

Source code _3

```
# coding: UTF-8
import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
```

```
import time
import random
import copy



env_value_input = 300
env_value_output = [300,-600,300]
cell_name_array_input = ['input_01','input_02']
cell_name_array_output = ['output_plus','output_minus']
cell_name_array_neuron_middle = ['neuron_01']
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_dete
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_midd
cell_plasticity_type_num_array_neuron_middle = [0]
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.3
sleep_time_length_outflow = 0.3
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable = 1.1
input_low_threshold = 50
input_high_threshold = 200
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 1
```

```
cell_intput_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 3
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle_


q_value_array_connection_target = []
for value_num_i in range(cell_new_connection_target_all_
    q_temp = Queue()
    q_value_array_connection_target.append(q_temp)

q_value_array_input = [q_value_array_connection_target[0
q_value_array_neuron_output = []


q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #ダミー変数。Dummy variable.
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)




q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #取得。集計。Acquisition. Agg
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)



q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。Environment varia
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。Inflow. Outflow.
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(1): #プラス。マイナス。Positives.
```

```
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)

q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。Positives.
    q_temp = Queue()
    q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)




def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with_sim
    new_list = []
    new_list = copy.copy(existing_list)
    out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list)) - 1)
    new_list.append(all_list[out_num_temp])
    return new_list




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигание. 点


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length, even
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_time
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
```

```
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        if(q.empty() == False):
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = float(q.
                print("event sleep_time_length_changed="




def resource_flow_amount_in_out_send(name,env_value_outp
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        if event_array.is_set():
            q_env_send.put(env_value_output)
            print(name + " env_value_send=" + str(env_va




def resource_flow_amount_in_out_detection(name,env_value
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    env_value_input = env_value_input +



        q_output_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' ' + str(env_value_input) + '\n')
        env_value_input = 0
```

```
def resource_flow_plus_minus_detection(name,facilitatior
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output_arra
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_time
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 取得タイミングかどう

            print("spike_event_occred\n")
            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_len_r
                        q_input_get_array.append(int(q_i
                print('q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_input
                    q_input_sum = q_input_sum + q_input_

                input_for_sum_array.append(q_input_sum)
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)
```

```
        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングかどう
            print("sum_event_occred\n")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_array)
            print('input_for_sum_array=')
            print(input_for_sum_array)
            print('sum inputs now=' + str(sum_of_inputs_
            if(first_flag > 0):
                if(sum_of_inputs_now < 0):
                    #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                    q_value_interval_array[1].put(-1)
                elif(sum_of_inputs_now > 0):
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate'
                    q_value_interval_array[0].put(1)
                else:
                    #'sum_value_zero_thus_do_nothing'
                    sum_of_inputs_now = sum_of_inputs_no
            else:
                first_flag = 1


def resource_result_output(name,env_value_output,q_input
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = str(q_input.get(True))
        print(name + " output_value_result_end=" + str(e






####for Windows
if __name__ == '__main__':
######


    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_timer,
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_timer,
```

```
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_timer,
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_timer,


    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(target=r
    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(target=


    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process(tar
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Process(ta


    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Process(ta


    resource_result_output_1_proc = Process(target=resou
    resource_result_output_2_proc = Process(target=resou

    timer_sub_1_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
    resource_result_output_2_proc.start()
```

To return to the top page.

Source code _4_1

```
# coding: UTF-8
import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy
import tkinter as tk



#env_value_input = 300
env_value_input = 0
env_value_input_plus = 1
env_value_input_minus = -1
env_value_output = [300,-300,300]
env_value_resource_preservation_init = 1000
env_value_consumption = 20
env_value_preservation_amount_full = 2000
cell_name_array_io_input = ['io_input_01','io_input_
cell_name_array_pm_output = ['pm_output_plus','pm_ou
cell_name_array_neuron_input = ['nr_input_01','nr_in
cell_name_array_neuron_output = ['nr_output_01','nr_
cell_name_array_neuron_middle = ['nr_middle_01','nr_
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow'
cell_name_array_p_amount = ['p_amount_01']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_
cell_thickness_plasticity_type_num_array_neuron_midd
cell_thinking_plasticity_type_num_array_neuron_middl
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.4
sleep_time_length_outflow = 0.2
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
#output_value_result_out = 30
```

```
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable =
input_low_threshold = 0
input_high_threshold = 1000
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 3
cell_input_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 1
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mid
#cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mi

q_value_array_neuron_middle = []
q_value_array_connection_target = []

#for value_num_i in range(cell_new_connection_target
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num)
#No.0. 中間神経細胞1の入力値。 No.1. 出力細胞1の入力値。 No
    q_temp = Queue()
#    q_value_array_connection_target.append(q_temp)
    q_value_array_neuron_middle.append(q_temp)

q_value_array_neuron_input = []
for value_num_i in range(cell_input_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(cell_output_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)
```

```
q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)



q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)


q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


#q_value_array_resource_preservation = []
#for value_num_i in range(1): #蓄積。
#    q_temp = Queue()
#    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)



q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)

q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
```

```
        q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)

    q_value_array_pm_temp = []


    def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with
        new_list = []
        new_list = copy.copy(existing_list)
        out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list))
        new_list.append(all_list[out_num_temp])
        return new_list





    def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
        sleep_time_length_changed = sleep_time_length
        count = 0
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        while True:
            event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
            time.sleep(sleep_time_length_changed)
            event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигани


    def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length,
        sleep_time_length_changed = sleep_time_length
        q_len_now = 0
        count = 0
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        while True:
            #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_
            event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
            time.sleep(sleep_time_length_changed)
            event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание
            if(q.empty() == False):
                    q_len_now = q.qsize()
                    for q_num_i in range(q_len_now):
                        sleep_time_length_changed = floa
                    print("event sleep_time_length_chang
```

```
def resource_flow_amount_in_out_send(name,env_value_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        if event_array.is_set():
#                        env_value_temp = float(q_input.
            q_env_send.put(env_value_output)
            print(name + " env_value_send=" + str(en



def resource_flow_amount_in_out_detection(name,facil
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                    env_value_input = env_value_inpu
#             if(env_value_input < 0):
#                 env_value_input = 0

        env_value_input = env_value_input * facilita

#         print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#         for q_output_array_i in range(len(q_output_

#             if(env_value_input > 0):
#                 q_output_array[q_output_array_i].pu
        q_output_array.put(env_value_input)
```

```
        q_output_2_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' ' + str(env_value_input) + '
        env_value_input = 0


def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,
    env_value_input = env_value_input_origin
    env_value_consumption = env_value_consumption_or
    env_value_preservation_amount_full = env_value_p
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1
    preservation_rate = 0
    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                    env_value_input = env_value_inpu
#            if(env_value_input < 0):
#                env_value_input = 0
        env_value_input = env_value_input - env_valu
#        env_value_input = env_value_input * facilit

#        print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#        for q_output_array_i in range(len(q_output_

#            if(env_value_input > 0):
#                q_output_array[q_output_array_i].pu
#        q_output_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' resource_preservation_amount
        preservation_rate = env_value_input / env_va
        print(name +  ' resource_preservation_rate=
        if((preservation_rate < 0.1) and (preservati
            print(name +  ' The living thing has bee

#        env_value_input = 0
        if(env_value_input < 0):
            print(name +  ' The living thing was ter
```

```
def resource_flow_plus_minus_detection(name,facilita
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングか

            print(name + " spike_event_occred\n")
            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_i
                    q_input_sum = q_input_sum + q_in

#                if(q_input_sum == q_input_sum):
#                if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                    if(len(q_output_array_changed)
#                        for q_output_array_i in ran
#                            q_output_array_changed[
#                            q_output_array_changed[

#                    print("len(q_output_array_chang
```

```
#                          q_output_array_changed = add_ne


#
#                     input_for_sum_array.append(q_output_
                      input_for_sum_array.append(q_input_s
                      if(len(input_for_sum_array) > input_
                          input_for_sum_array.pop(0)
                      q_input_get_array = []
                  else:
                      input_for_sum_array.append(0)
                      if(len(input_for_sum_array) > input_
                          input_for_sum_array.pop(0)




              if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
                  print(name + " sum_event_occred\n")
                  sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
                  sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
                  print(name + ' input_for_sum_array=')
                  print(input_for_sum_array)
                  print(name + ' sum inputs now=' + str(su
                  if(first_flag > 0):
#                      learned_value_for_q_output = (sum_c
#                      q_output_value_learned = q_output_v
#                      print("learned_value_for_q_output="

#                      spike_threshold = spike_threshold *
#                      print("learned_spike_threshold=" +
#                      sleep_time_length_neuron_middle_lea
#                      print("sleep_time_length_neuron_mic
#                      q_value_interval_array[0].put(sleep
                      if(sum_of_inputs_now < 0):
                          #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                          q_value_interval_array[1].put(-1
                          q_value_interval_array[3].put(1)
#                          print('')
                      elif(sum_of_inputs_now > 0):
```

```
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate
                    q_value_interval_array[0].put(1)
                    q_value_interval_array[2].put(-1
                else:
#                    q_value_interval_array[0].put('
#                    q_value_interval_array[0].put('
                    sum_of_inputs_now = sum_of_input
            else:
                first_flag = 1


def resource_result_output(name,env_value_output,q_i
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
#        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        env_value_temp = str(q_input.get(True))
        print(name + " env_value_changed=" + str(env
        print(name + " env_value_output=" + str(env_

        q_env_send.put(env_value_output)
#        print(name + " env_value_change_minus=" + s






def cell_input(name,env_value_input_origin,q_output_
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_r
```

```
#                     env_value_input = env_value_inp
                     env_value_input = int(q_env_rece
             if(env_value_input < 0):
                 env_value_input = 0




         print(name + " env_value_now=" + str(env_val
         for q_output_array_i in range(len(q_output_a

             if(env_value_input < input_low_threshold
                 print(name + " env_value is too low.
                 env_value_input = env_value_input *
                 print(name + " env_value_changed=" +

                 if(env_value_input < input_low_thres
                     low_amp_times_num = low_amp_time
             elif(env_value_input > input_high_thresh
                 print(name + " env_value is too high
                 env_value_input = env_value_input *
                 print(name + " env_value_changed=" +
                 if(env_value_input > input_high_thre
                     high_amp_times_num = high_amp_ti
             else:
                 env_value_input = env_value_input
             if(env_value_input > 0):
                 q_output_array[q_output_array_i].put


def cell_output(name,env_value_output,q_input,q_env_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        q_env_send.put(env_value_output)
        print(name + " env_value_change=" + str(env_


def cell_neuron_middle(name,facilitation_suppression
    value_array = ['','']
```

```
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングが
            print(name + " spike_event_occred\n")

            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_i
                    q_input_sum = q_input_sum + q_in

                if(q_input_sum >= spike_threshold):
                    if(len(q_output_array_changed) >
                        for q_output_array_i in rang
                            q_output_array_changed[q

                    if(thinking_plasticity_type_num
                        print(name + " len(q_output_
                        q_output_array_changed = add




                input_for_sum_array.append(q_output_
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)
```

```
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)




        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
            print(name + " sum_event_occred")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
            if(first_flag > 0):
                if(thickness_plasticity_type_num ==

                    learned_value_for_q_output = (su
                    q_output_value_learned = q_outpu
                    print(name + " learned_value_for

                    spike_threshold = spike_threshol
                    print(name + " learned_spike_thr
                    sleep_time_length_neuron_middle_
                    print(name + " sleep_time_length
                    q_value_interval_array[0].put(sl

                else:
                    spike_threshold = spike_threshol
#                    spike_threshold = spike_thresho

            else:
                first_flag = 1




####for Windows
if __name__ == '__main__':
######
```

```
    q_send_disp = Queue()
    q_send_a = Queue()
    q_send_b1 = Queue()
    q_send_b2 = Queue()



#    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_tim
#    timer_sub_2_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_tim

#    timer_sub_a0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_ti
#    timer_sub_b0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_ti


#    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(tar
#    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(ta


#    resource_flow_amount_in_detection_proc = Proces
#    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proce
    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proces

#def resource_preservation_amount_sum_calculate(name
#env_value_consumption = 20
#env_value_preservation_amount_full = 2000

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc


    ####変数の変更が必要。促進信号と抑制信号の両方を、それぞ
    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Proces
```

```
    resource_result_output_1_proc = Process(target=r
    resource_result_output_2_proc = Process(target=r



    cell_input_proc = Process(target=cell_input, arg

    q_middle_output_array_1 = []
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_2 = []
    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_2_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_3 = []
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neu
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_3_proc = Process(target=cell_

    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output,
#    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output
#    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output

#    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()
#    timer_sub_2_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
#    timer_sub_a0_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
#    timer_sub_b0_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_1_proc.start()
    cell_neuron_middle_2_proc.start()
    cell_neuron_middle_3_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
```

```
#    cell_output_2_proc.start()
#    cell_output_3_proc.start()
#    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
#    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc.

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
    resource_result_output_2_proc.start()



    window = tk.Tk()

    frame_disp = tk.Frame()
    frame_a = tk.Frame()
    frame_b1 = tk.Frame()
    frame_b2 = tk.Frame()

    label_a = tk.Label(master=frame_a, text="To inpu
    label_a.pack()

    label_b1 = tk.Label(master=frame_b1, text="In To
    label_b1.pack()

    label_b2 = tk.Label(master=frame_b2, text="Out T
    label_b2.pack()


    entry_disp = tk.Entry(master=frame_disp)
    entry_disp.pack()

    entry_a = tk.Entry(master=frame_a)
    entry_a.insert(0, "100")
```

```
entry_a.pack()

entry_b1 = tk.Entry(master=frame_b1)
entry_b1.insert(0, "100")
entry_b1.pack()
entry_b2 = tk.Entry(master=frame_b2)
entry_b2.insert(0, "100")
entry_b2.pack()

def command_a():
    text_entry = entry_a.get()
    q_send_a.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)

#    entry.insert(0, "Python")


def command_b1():
    text_entry = entry_b1.get()
    q_send_b1.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)

#    entry.insert(0, "Python")

def command_b2():
    text_entry = entry_b2.get()
    q_send_b2.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)

#    entry.insert(0, "Python")

button_a = tk.Button(
    master=frame_a,
    text="Submit",
    width=25,
    height=5,
    bg="green",
```

```
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_a()
    )

    button_a.pack()




    button_b1 = tk.Button(
        master=frame_b1,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="blue",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b1()
    )

    button_b1.pack()

    button_b2 = tk.Button(
        master=frame_b2,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="red",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b2()
    )

    button_b2.pack()
```

```
frame_disp.pack()
frame_a.pack()
frame_b1.pack()
frame_b2.pack()

window.mainloop()
```

To return to the top page.

Source code _4_2

```
# coding: UTF-8
import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy
import tkinter as tk



#env_value_input = 300
env_value_input = 0
env_value_input_plus = 1
env_value_input_minus = -1
env_value_output = [300,-300,300]
env_value_resource_preservation_init = 1000
env_value_consumption = 20
env_value_preservation_amount_full = 2000
cell_name_array_io_input = ['io_input_01','io_input_
cell_name_array_pm_output = ['pm_output_plus','pm_ou
cell_name_array_neuron_input = ['nr_input_01','nr_in
```

```
cell_name_array_neuron_output = ['nr_output_01','nr_
cell_name_array_neuron_middle = ['nr_middle_01','nr_
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow'
cell_name_array_p_amount = ['p_amount_01']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_
cell_thickness_plasticity_type_num_array_neuron_midd
cell_thinking_plasticity_type_num_array_neuron_middl
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.4
sleep_time_length_outflow = 0.2
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
#output_value_result_out = 30
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable =
input_low_threshold = 0
input_high_threshold = 1000
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 7
cell_input_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 1
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mid
#cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mi

q_value_array_neuron_middle = []
```

```
q_value_array_connection_target = []

#for value_num_i in range(cell_new_connection_target
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num)
#No.0. 中間神経細胞1の入力値。 No.1. 出力細胞1の入力値。 No
    q_temp = Queue()
#    q_value_array_connection_target.append(q_temp)
    q_value_array_neuron_middle.append(q_temp)

q_value_array_neuron_input = []
for value_num_i in range(cell_input_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(cell_output_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)

q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)



q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)


q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。
    q_temp = Queue()
```

```
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


#q_value_array_resource_preservation = []
#for value_num_i in range(1): #蓄積。
#    q_temp = Queue()
#    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)




q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)

q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)

q_value_array_pm_temp = []


def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with
    new_list = []
    new_list = copy.copy(existing_list)
    out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list))
    new_list.append(all_list[out_num_temp])
    return new_list




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
```

```
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигани


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length,
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание
        if(q.empty() == False):
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = floa
                print("event sleep_time_length_chang




def resource_flow_amount_in_out_send(name,env_value_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        if event_array.is_set():
#                   env_value_temp = float(q_input.
            q_env_send.put(env_value_output)
            print(name + " env_value_send=" + str(en




def resource_flow_amount_in_out_detection(name,facil
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1
```

```
    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_r
                    env_value_input = env_value_inpu
#             if(env_value_input < 0):
#                 env_value_input = 0

        env_value_input = env_value_input * facilita

#         print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#         for q_output_array_i in range(len(q_output_

#             if(env_value_input > 0):
#                 q_output_array[q_output_array_i].pu
        q_output_array.put(env_value_input)
        q_output_2_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' ' + str(env_value_input) + '
        env_value_input = 0


def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,
    env_value_input = env_value_input_origin
    env_value_consumption = env_value_consumption_or
    env_value_preservation_amount_full = env_value_p
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1
    preservation_rate = 0
    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_r
                    env_value_input = env_value_inpu
#             if(env_value_input < 0):
#                 env_value_input = 0
```

```
        env_value_input = env_value_input - env_valu
#        env_value_input = env_value_input * facilit

#        print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#        for q_output_array_i in range(len(q_output_

#            if(env_value_input > 0):
#                q_output_array[q_output_array_i].pu
#        q_output_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' resource_preservation_amount
        preservation_rate = env_value_input / env_va
        print(name +  ' resource_preservation_rate=
        if((preservation_rate < 0.1) and (preservati
            print(name +  ' The living thing has bee

#        env_value_input = 0
        if(env_value_input < 0):
            print(name +  ' The living thing was ter




def resource_flow_plus_minus_detection(name,facilita
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングか

            print(name + " spike_event_occred\n")
            if(q_input.empty() == False):
```

```
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_i
                    q_input_sum = q_input_sum + q_ir

#                if(q_input_sum == q_input_sum):
#                if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                    if(len(q_output_array_changed)
#                        for q_output_array_i in rar
#                            q_output_array_changed[
#                            q_output_array_changed[

#                    print("len(q_output_array_chang
#                    q_output_array_changed = add_ne



#
#               input_for_sum_array.append(q_output_
                input_for_sum_array.append(q_input_s
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)




        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
            print(name + " sum_event_occred\n")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
            print(name + ' input_for_sum_array=')
```

```
            print(input_for_sum_array)
            print(name + ' sum inputs now=' + str(su
            if(first_flag > 0):
#                learned_value_for_q_output = (sum_c
#                q_output_value_learned = q_output_v
#                print("learned_value_for_q_output="

#                spike_threshold = spike_threshold *
#                print("learned_spike_threshold=" +
#                sleep_time_length_neuron_middle_lea
#                print("sleep_time_length_neuron_mic
#                q_value_interval_array[0].put(sleep
                if(sum_of_inputs_now < 0):
                    #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                    q_value_interval_array[1].put(-1
                    q_value_interval_array[3].put(1)
#                    print('')
                elif(sum_of_inputs_now > 0):
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate
                    q_value_interval_array[0].put(1)
                    q_value_interval_array[2].put(-1
                else:
#                    q_value_interval_array[0].put('
#                    q_value_interval_array[0].put('
                    sum_of_inputs_now = sum_of_input
            else:
                first_flag = 1


def resource_result_output(name,env_value_output,q_i
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
#        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        env_value_temp = str(q_input.get(True))
        print(name + " env_value_changed=" + str(env
        print(name + " env_value_output=" + str(env_

        q_env_send.put(env_value_output)
#        print(name + " env_value_change_minus=" + s
```

```
def cell_input(name,env_value_input_origin,q_output_
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_n
#                    env_value_input = env_value_inp
                    env_value_input = int(q_env_rece
            if(env_value_input < 0):
                env_value_input = 0



        print(name + " env_value_now=" + str(env_val
        for q_output_array_i in range(len(q_output_a

            if(env_value_input < input_low_threshol
                print(name + " env_value is too low.
                env_value_input = env_value_input *
                print(name + " env_value_changed=" +

                if(env_value_input < input_low_thres
                    low_amp_times_num = low_amp_time
            elif(env_value_input > input_high_thresh
                print(name + " env_value is too high
                env_value_input = env_value_input *
                print(name + " env_value_changed=" +
                if(env_value_input > input_high_thre
```

```
                high_amp_times_num = high_amp_ti
            else:
                env_value_input = env_value_input
            if(env_value_input > 0):
                q_output_array[q_output_array_i].put


def cell_output(name,env_value_output,q_input,q_env_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        q_env_send.put(env_value_output)
        print(name + " env_value_change=" + str(env_


def cell_neuron_middle(name,facilitation_suppressior
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングカ
            print(name + " spike_event_occred\n")

            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
```

```
            q_input_sum = 0
            for q_input_array_i in range(len(q_i
                q_input_sum = q_input_sum + q_in

            if(q_input_sum >= spike_threshold):
                if(len(q_output_array_changed) >
                    for q_output_array_i in rang
                        q_output_array_changed[q

                if(thinking_plasticity_type_num
                    print(name + " len(q_output_
                    q_output_array_changed = add




            input_for_sum_array.append(q_output_
            if(len(input_for_sum_array) > input_
                input_for_sum_array.pop(0)
            q_input_get_array = []
        else:
            input_for_sum_array.append(0)
            if(len(input_for_sum_array) > input_
                input_for_sum_array.pop(0)





    if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
        print(name + " sum_event_occred")
        sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
        sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
        if(first_flag > 0):
            if(thickness_plasticity_type_num ==

                learned_value_for_q_output = (su
                q_output_value_learned = q_outpu
                print(name + " learned_value_for

                spike_threshold = spike_threshol
                print(name + " learned_spike_thr
```

```
                    sleep_time_length_neuron_middle_
                    print(name + " sleep_time_length
                    q_value_interval_array[0].put(sl

                else:
                    spike_threshold = spike_threshol
#                    spike_threshold = spike_thresho

            else:
                first_flag = 1




####for Windows
if __name__ == '__main__':
######


    q_send_disp = Queue()
    q_send_a = Queue()
    q_send_b1 = Queue()
    q_send_b2 = Queue()




#    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_tim
#    timer_sub_2_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_tim

#    timer_sub_a0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_ti
#    timer_sub_b0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_ti


#    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(tar
#    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(ta
```

```
#    resource_flow_amount_in_detection_proc = Proces
#    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proce
    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proces

#def resource_preservation_amount_sum_calculate(name
#env_value_consumption = 20
#env_value_preservation_amount_full = 2000

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc 


    ####変数の変更が必要。促進信号と抑制信号の両方を、それぞ
    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Proces







    resource_result_output_1_proc = Process(target=r
    resource_result_output_2_proc = Process(target=r




    cell_input_proc = Process(target=cell_input, arg

    q_middle_output_array_1 = []
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neu
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_2 = []
    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_2_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_3 = []
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_3_proc = Process(target=cell_
```

```
    q_middle_output_array_4 = []
    q_middle_output_array_4.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_5 = []
    q_middle_output_array_5.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_6 = []
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neu
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_7 = []
    q_middle_output_array_7.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_



    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output,
#    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output
#    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output

#    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()
#    timer_sub_2_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
#    timer_sub_a0_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
#    timer_sub_b0_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_1_proc.start()
    cell_neuron_middle_2_proc.start()
    cell_neuron_middle_3_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
#    cell_output_2_proc.start()
#    cell_output_3_proc.start()
#    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
```

```
#    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc.

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
    resource_result_output_2_proc.start()




    window = tk.Tk()

    frame_disp = tk.Frame()
    frame_a = tk.Frame()
    frame_b1 = tk.Frame()
    frame_b2 = tk.Frame()

    label_a = tk.Label(master=frame_a, text="To inpu
    label_a.pack()

    label_b1 = tk.Label(master=frame_b1, text="In To
    label_b1.pack()

    label_b2 = tk.Label(master=frame_b2, text="Out T
    label_b2.pack()


    entry_disp = tk.Entry(master=frame_disp)
    entry_disp.pack()

    entry_a = tk.Entry(master=frame_a)
    entry_a.insert(0, "100")
    entry_a.pack()

    entry_b1 = tk.Entry(master=frame_b1)
```

```
    entry_b1.insert(0, "100")
    entry_b1.pack()
    entry_b2 = tk.Entry(master=frame_b2)
    entry_b2.insert(0, "100")
    entry_b2.pack()

    def command_a():
        text_entry = entry_a.get()
        q_send_a.put(text_entry)
    #    entry.delete(0, 4)
    #    entry_a.delete(0, tk.END)

    #    entry.insert(0, "Python")


    def command_b1():
        text_entry = entry_b1.get()
        q_send_b1.put(text_entry)
    #    entry.delete(0, 4)
    #    entry_a.delete(0, tk.END)

    #    entry.insert(0, "Python")

    def command_b2():
        text_entry = entry_b2.get()
        q_send_b2.put(text_entry)
    #    entry.delete(0, 4)
    #    entry_a.delete(0, tk.END)

    #    entry.insert(0, "Python")

    button_a = tk.Button(
        master=frame_a,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="green",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_a()
```

```
    )

    button_a.pack()




    button_b1 = tk.Button(
        master=frame_b1,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="blue",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b1()
    )

    button_b1.pack()

    button_b2 = tk.Button(
        master=frame_b2,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="red",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b2()
    )

    button_b2.pack()
```

```
    frame_disp.pack()
    frame_a.pack()
    frame_b1.pack()
    frame_b2.pack()

    window.mainloop()
```

To return to the top page.

Source code _5

```
# coding: UTF-8
import multiprocessing
import subprocess
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy
import tkinter as tk
import psutil #pip install psutil
from subprocess import check_output
import signal
import sys              # pythonのシステム関連のモジュールを
from signal import SIGINT
import math


#env_value_input = 300
env_value_input = 0
env_value_input_plus = 1
env_value_input_minus = -1
env_value_output = [300,-300,600,-600]
env_value_feedback_output = [300,300,300,300]
```

```
env_value_resource_preservation_init = 1000
env_value_consumption = 20
env_value_preservation_amount_full = 2000
cell_name_array_io_input = ['io_input_01','io_input_
cell_name_array_pm_output = ['pm_output_plus','pm_ou
cell_name_array_neuron_input = ['nr_input_01','nr_in
cell_name_array_neuron_output = ['nr_output_01','nr_
cell_name_array_neuron_middle = ['nr_middle_01','nr_
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow'
cell_name_array_p_amount = ['p_amount_01']
cell_name_array_termination = ['bio_termination']

env_name_array_mediate = ['mediate_01','mediate_02',
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_
cell_thickness_plasticity_type_num_array_neuron_midd
cell_thinking_plasticity_type_num_array_neuron_middl
cell_feedback_add_multiplicate_flag_num_array_neuron
cell_feedback_newest_average_flag_num_array_neuron_m
cell_facilitation_suppression_type_num_array_pm = [1
cell_thickness_plasticity_type_num_array_pm = [0,0]
cell_thinking_plasticity_type_num_array_pm = [0,0]
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.4
sleep_time_length_outflow = 0.2
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
#output_value_result_out = 30
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable =
input_low_threshold = 0
input_high_threshold = 1000
input_amp_variable = 1.1
sigmoid_logistic_flag = 2
```

```
event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 6
cell_input_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 3
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mic
#cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_mi
io_mediate_all_num  = 5

q_value_array_neuron_middle = []
q_value_array_connection_target = []

#for value_num_i in range(cell_new_connection_target
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num)
#No.0. 中間神経細胞1の入力値。 No.1. 出力細胞1の入力値。 No
    q_temp = Queue()
#    q_value_array_connection_target.append(q_temp)
    q_value_array_neuron_middle.append(q_temp)

q_value_array_neuron_input = []
for value_num_i in range(cell_input_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(cell_output_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)

q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)
```

```
q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)

q_value_array_mediate = []
for value_num_i in range(io_mediate_all_num): #環境変
    q_temp = Queue()
    q_value_array_mediate.append(q_temp)

q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


q_value_array_feedback_send = []
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num)
    q_temp = Queue()
    q_value_array_feedback_send.append(q_temp)


#q_value_array_resource_preservation = []
#for value_num_i in range(1): #蓄積。
#    q_temp = Queue()
#    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)



q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)
```

```
q_value_array_sum_of_inputs_now_out_array = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_sum_of_inputs_now_out_array.append


q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)

q_value_array_pm_temp = []

q_value_feedback_calc_out = Queue()


def stable_sigmoid(x):

    if x >= 0:
        z = math.exp(-x)
        sig = 1 / (1 + z)
        return sig
    else:
        z = math.exp(x)
        sig = z / (1 + z)
        return sig


def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with
    new_list = []
    new_list = copy.copy(existing_list)
    out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list))
    new_list.append(all_list[out_num_temp])
    return new_list




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
```

```
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигани


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length,
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание
        if(q.empty() == False):
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = floa
                print("event sleep_time_length_chang




def resource_flow_amount_in_out_send(name,env_value_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        if event_array.is_set():
#                       env_value_temp = float(q_input.
            q_env_send.put(env_value_output)
            print(name + " env_value_send=" + str(en




def resource_flow_amount_in_out_detection(name,facil
```

```
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                    env_value_input = env_value_inpu
#             if(env_value_input < 0):
#                 env_value_input = 0

        env_value_input = env_value_input * facilita

#         print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#         for q_output_array_i in range(len(q_output_

#             if(env_value_input > 0):
#                 q_output_array[q_output_array_i].pu
        q_output_array.put(env_value_input)
        q_output_2_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' ' + str(env_value_input) + '
        env_value_input = 0


def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,
    env_value_input = env_value_input_origin
    env_value_consumption = env_value_consumption_or
    env_value_preservation_amount_full = env_value_p
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1
    preservation_rate = 0
    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
```

```
                q_input_len_now = q_env_received.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_len_r
                        env_value_input = env_value_inpu
#                if(env_value_input < 0):
#                    env_value_input = 0
            env_value_input = env_value_input - env_valu
#            env_value_input = env_value_input * facilit

#            print(name + " env_value_now=" + str(env_va
#            for q_output_array_i in range(len(q_output_

#                if(env_value_input > 0):
#                    q_output_array[q_output_array_i].pu
#            q_output_array.put(env_value_input)
            print(name +  ' resource_preservation_amount
            preservation_rate = env_value_input / env_va
            print(name +  ' resource_preservation_rate=
            if((preservation_rate < 0.1) and (preservati
                print(name +  ' The living thing has bee

#            env_value_input = 0
            if(env_value_input < 0):
                print(name +  ' The living thing will te
                q_bio_terminate.put("1")



def resource_flow_plus_minus_detection(name,facilita
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
    q_value_calc_out_array_changed = []
#     q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    q_value_calc_out_array_changed = q_value_calc_ou
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
```

```
    sum_of_inputs_now_out = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングが

            print(name + " spike_event_occred\n")
            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_i
                    q_input_sum = q_input_sum + q_in

#                 if(q_input_sum == q_input_sum):
#                 if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                     if(len(q_output_array_changed)
#                         for q_output_array_i in ran
#                             q_output_array_changed[
#                             q_output_array_changed[

#                     print("len(q_output_array_chang
#                     q_output_array_changed = add_ne



#
#               input_for_sum_array.append(q_output_
                input_for_sum_array.append(q_input_s
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)
```

```
        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
            print(name + " sum_event_occred\n")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
            print(name + ' input_for_sum_array=')
            print(input_for_sum_array)
            print('\n')
            print(name + ' sum inputs now=' + str(su
            if(first_flag > 0):
#                learned_value_for_q_output = (sum_o
#                q_output_value_learned = q_output_v
#                print("learned_value_for_q_output="

#                spike_threshold = spike_threshold *
#                print("learned_spike_threshold=" +
#                sleep_time_length_neuron_middle_lea
#                print("sleep_time_length_neuron_mid
#                q_value_interval_array[0].put(sleep
                if(abs(sum_of_inputs_now) > 0):
                    if(sigmoid_logistic_flag == 1):
                        sum_of_inputs_now_out = stab
                    elif(sigmoid_logistic_flag == 2)
                        sum_of_inputs_now_out = math
                    else:
                        sum_of_inputs_now_out = abs(

                print(name + " sum_of_inputs_now_out

                if(sum_of_inputs_now < 0):
                    #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                    q_value_calc_out_array_changed[1
                    q_value_calc_out_array_changed[3
#                    print('')
                elif(sum_of_inputs_now > 0):
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate
                    q_value_calc_out_array_changed[0
                    q_value_calc_out_array_changed[2
```

```
                else:
#                    q_value_interval_array[0].put('
#                    q_value_interval_array[0].put('
                    sum_of_inputs_now = sum_of_input

                #q_value_calc_out.put(sum_of_inputs_


                if(sum_of_inputs_now < 0):
                    #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                    q_value_interval_array[1].put(-1
                    q_value_interval_array[3].put(1)
#                    print('')
                elif(sum_of_inputs_now > 0):
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate
                    q_value_interval_array[0].put(1)
                    q_value_interval_array[2].put(-1
                else:
#                    q_value_interval_array[0].put('
#                    q_value_interval_array[0].put('
                    sum_of_inputs_now = sum_of_input
            else:
                first_flag = 1


def resource_result_output(name,env_value_output,q_i
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
#        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        env_value_temp = int(q_value_calc_input.get(
        #env_value_temp = env_value_temp * env_value
        #env_value_temp = q_input.get(True)
        print(name + " resource_value_changed=" + st
#        print(name + " env_value_output=" + str(env
#        print(name + " env_value_output=" + str(env

#        q_env_send.put(env_value_output)
#        q_env_send.put(env_value_temp * env_value_o
        q_env_send.put(env_value_temp)
```

```
#         print(name + " env_value_change_minus=" + s





def cell_input(name,env_value_input_origin,q_output_
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_n
#                     env_value_input = env_value_inp
                    env_value_input = int(q_env_rece
            if(env_value_input < 0):
                env_value_input = 0




        print(name + " env_value_now=" + str(env_val
        for q_output_array_i in range(len(q_output_a

            if(env_value_input < input_low_threshold
                print(name + " env_value is too low.
                env_value_input = env_value_input *
                print(name + " env_value_changed=" +

                if(env_value_input < input_low_thres
                    low_amp_times_num = low_amp_time
            elif(env_value_input > input_high_thresh
                print(name + " env_value is too high
                env_value_input = env_value_input *
                print(name + " env_value_changed=" +
```

```
                if(env_value_input > input_high_thre
                    high_amp_times_num = high_amp_ti
            else:
                env_value_input = env_value_input
            if(env_value_input > 0):
                q_output_array[q_output_array_i].put


def cell_output(name,env_value_output,q_input,q_env_
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        q_env_send.put(env_value_output)
        print(name + " env_value_change=" + str(env_


def cell_neuron_middle(name,facilitation_suppression
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
    #q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_resource_feedback_get_array = []
    q_resource_feedback_sum = 0
    q_resource_feedback_average = 0
    q_resource_feedback_newest = 0
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    feedback_result_value = 1
    feedback_result_value_init = 1

    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングか
            print(name + " spike_event_occred\n")
```

```
            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_l
                        q_input_get_array.append(int
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_i
                    q_input_sum = q_input_sum + q_in

                if(q_input_sum >= spike_threshold):
                    if(len(q_output_array_changed) >
                        for q_output_array_i in rang
                            if(feedback_add_multipli
                                q_output_array_chang
                            elif(feedback_add_multip
                                q_output_array_chang
                            else:
                                q_output_array_chang

                    if(thinking_plasticity_type_num
                        print(name + " len(q_output_
                        q_output_array_changed = add




                input_for_sum_array.append(q_output_
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_
                    input_for_sum_array.pop(0)


    #q_resource_feedback
            if(q_resource_feedback.empty() == False)
```

```
            q_resource_feedback_len_now = q_reso
            for q_resource_feedback_num_i in ran
                    #q_resource_feedback_get_arr
                    q_resource_feedback_get_arra

            print(name + ' q_resource_feedback_g
            print(q_resource_feedback_get_array)
            print("\n")
            q_resource_feedback_sum = 0
            q_resource_feedback_newest = 0
            for q_resource_feedback_array_i in r
                q_resource_feedback_sum = q_reso
                q_resource_feedback_newest = q_r
            q_resource_feedback_average = q_reso
            if(feedback_newest_average_flag == 1
                feedback_result_value = q_resour
            elif(feedback_newest_average_flag ==
                feedback_result_value = q_resour
            else:
                feedback_result_value = feedback
            print(name + ' feedback_result_value

        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングか
            print(name + " sum_event_occred\n")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_ar
            if(first_flag > 0):
                if(thickness_plasticity_type_num ==
                    if(len(input_for_sum_array) > 0)
                        learned_value_for_q_output =

                        q_output_value_learned = q_o
                        if(learned_value_for_q_outpu
                            print(name + " learned_v
                        spike_threshold = spike_thre
                        if(spike_threshold > 0):
                            print(name + " learned_s
                        sleep_time_length_neuron_mic

                        if(sleep_time_length_neuron_
```

```
                            print(name + " sleep_tim
                        q_value_interval_array[0].pu

                else:
                    spike_threshold = spike_threshol
#                    spike_threshold = spike_thresho

            else:
                first_flag = 1




def environment_mediate_output_to_input(name,env_val
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    env_value_output_changed = env_value_output
    q_env_send_array_changed = []
    q_env_send_array_changed = q_env_send_array

    while True:
        env_value_temp = int(q_input.get(True))
        env_value_output_changed = env_value_temp
        for q_send_array_i in range(len(q_env_send_a
            q_env_send_array_changed[q_send_array_i]
        print(name + " env_value_mediate=" + str(env




def terminate_all_bio_processes(name,q_input,bio_pro

    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        env_value_temp = int(q_input.get(True))
        if(env_value_temp == 1):
            print(name + " Biological_termination_st
            for ps_array_i in range(len(bio_process_
                pt = psutil.Process(bio_process_id_a
                pt.terminate()
                print(name + " following_pid_was_ter
```

```
            print(name + " Biological_termination_wa

####for Windows
if __name__ == '__main__':
######


    q_send_disp = Queue()
    q_send_a = Queue()
    q_send_b1 = Queue()
    q_send_b2 = Queue()

    q_send_for_termination = Queue()

#    bio_process_name_array =['timer_sub_1_proc','ti


    bio_process_array = []

#    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_tim
#    timer_sub_2_proc = Process(target=subprocess_ti
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_tim

#    timer_sub_a0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_ti
#    timer_sub_b0_proc = Process(target=subprocess_t
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_ti


#    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(tar
#    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(ta


#    resource_flow_amount_in_detection_proc = Proces
#    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proce
    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Proces
```

```
    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc

    ####変数の変更が必要。促進信号と抑制信号の両方を、それぞ
    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Proces





    resource_result_output_1_proc = Process(target=r
    resource_result_output_2_proc = Process(target=r


    q_input_output_array_1 = []
    q_input_output_array_1.append(q_value_array_neur
    cell_input_proc = Process(target=cell_input, arg

    q_middle_output_array_1 = []
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neu
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_2 = []
    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_neu
#    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_ne
    cell_neuron_middle_2_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_3 = []
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neu
#    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_ne
    cell_neuron_middle_3_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_4 = []
    q_middle_output_array_4.append(q_value_array_neu
#    q_middle_output_array_4.append(q_value_array_ne
    cell_neuron_middle_4_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_5 = []
```

```
    cell_neuron_middle_5_proc = Process(target=cell_

    q_middle_output_array_6 = []
    cell_neuron_middle_6_proc = Process(target=cell_



    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output,
    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output,
    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output,
#    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output
#    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output

#def environment_mediate_output_to_input(name,env_va
    q_mediate_out_array_a = []
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_feedb
#    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_a.append(q_value_array_neur
    environment_mediate_output_to_input_3_proc = Pro
    q_mediate_out_array_b = []
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_feedb
#    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_neur
#    q_mediate_out_array_b.append(q_value_array_neur
    environment_mediate_output_to_input_4_proc = Pro
    q_mediate_out_array_1 = []
    q_mediate_out_array_1.append(q_send_b1)
```

```
    environment_mediate_output_to_input_1_proc = Pro
    q_mediate_out_array_2 = []
    q_mediate_out_array_2.append(q_send_b2)
    environment_mediate_output_to_input_2_proc = Pro


#    bio_process_array = []
#    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()
#    timer_sub_2_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
#    timer_sub_a0_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
#    timer_sub_b0_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_1_proc.start()
    cell_neuron_middle_2_proc.start()
    cell_neuron_middle_3_proc.start()
    cell_neuron_middle_4_proc.start()
    cell_neuron_middle_5_proc.start()
    cell_neuron_middle_6_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
    cell_output_2_proc.start()
    cell_output_3_proc.start()
#    cell_output_2_proc.start()
#    cell_output_3_proc.start()
#    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
#    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc.

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
```

```
    resource_result_output_2_proc.start()

    environment_mediate_output_to_input_1_proc.start
    environment_mediate_output_to_input_2_proc.start
    environment_mediate_output_to_input_3_proc.start
    environment_mediate_output_to_input_4_proc.start


    bio_process_id_array = []
    bio_process_id_array.append(timer_sub_1_proc.pic
    bio_process_id_array.append(timer_sub_3_proc.pic
    bio_process_id_array.append(timer_sub_a1_proc.pi
    bio_process_id_array.append(timer_sub_b1_proc.pi
    bio_process_id_array.append(cell_input_proc.pid)
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_1
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_2
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_3
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_4
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_5
    bio_process_id_array.append(cell_neuron_middle_6
    bio_process_id_array.append(cell_output_1_proc.p
    bio_process_id_array.append(cell_output_2_proc.p
    bio_process_id_array.append(cell_output_3_proc.p
    bio_process_id_array.append(resource_flow_amount
    bio_process_id_array.append(resource_flow_amount
    bio_process_id_array.append(resource_preservatic
    bio_process_id_array.append(resource_flow_plus_m
    bio_process_id_array.append(resource_result_outp
    bio_process_id_array.append(resource_result_outp
    bio_process_id_array.append(environment_mediate_
    bio_process_id_array.append(environment_mediate_
    bio_process_id_array.append(environment_mediate_
    bio_process_id_array.append(environment_mediate_
#    for n_id_i in range(len(bio_process_array)):
#        bio_process_id_array.append((bio_process_ar
    print(bio_process_id_array)


    terminate_bio_proc = Process(target=terminate_al
```

```
terminate_bio_proc.start()


window = tk.Tk()

frame_disp = tk.Frame()
frame_a = tk.Frame()
frame_b1 = tk.Frame()
frame_b2 = tk.Frame()

label_a = tk.Label(master=frame_a, text="To inpu
label_a.pack()

label_b1 = tk.Label(master=frame_b1, text="In To
label_b1.pack()

label_b2 = tk.Label(master=frame_b2, text="Out T
label_b2.pack()


entry_disp = tk.Entry(master=frame_disp)
entry_disp.pack()

entry_a = tk.Entry(master=frame_a)
entry_a.insert(0, "100")
entry_a.pack()

entry_b1 = tk.Entry(master=frame_b1)
entry_b1.insert(0, "100")
entry_b1.pack()
entry_b2 = tk.Entry(master=frame_b2)
entry_b2.insert(0, "100")
entry_b2.pack()

def command_a():
    text_entry = entry_a.get()
    q_send_a.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)
```

```
#    entry.insert(0, "Python")


def command_b1():
    text_entry = entry_b1.get()
    q_send_b1.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)

#    entry.insert(0, "Python")

def command_b2():
    text_entry = entry_b2.get()
    q_send_b2.put(text_entry)
#    entry.delete(0, 4)
#    entry_a.delete(0, tk.END)

#    entry.insert(0, "Python")

button_a = tk.Button(
    master=frame_a,
    text="Submit",
    width=25,
    height=5,
    bg="green",
    fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
    command=lambda: command_a()
)

button_a.pack()




button_b1 = tk.Button(
    master=frame_b1,
    text="Submit",
    width=25,
    height=5,
```

```
        bg="blue",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b1()
    )

    button_b1.pack()

    button_b2 = tk.Button(
        master=frame_b2,
        text="Submit",
        width=25,
        height=5,
        bg="red",
        fg="white",
#        command=lambda: window.quit()
        command=lambda: command_b2()
    )

    button_b2.pack()






    frame_disp.pack()
    frame_a.pack()
    frame_b1.pack()
    frame_b2.pack()

    window.mainloop()
```

To return to the top page.

Source code _6

```
# -*- coding: utf-8 -*-

import time
import random

import numpy as np


#Replacement of strings in each element of the array
#Замена строк в каждом элементе массива.
#替换数组中每个元素的字符串。
#配列の各要素における、文字列の置換。
def replace_string(arr, old_str, new_str):
    arr = np.array(arr)
    arr[arr == old_str] = new_str
    return arr.tolist()


#Element replacement.
#Замена элемента.
#元素替换。
#要素の置換。
def element_replace_e(sa,sb,sc):
    if(sa == sb):
        sa = sc
    return sa

#Element replacement.
#Замена элемента.
#元素替换。
#要素の置換。
def element_replace_t(sa,sb,sc):
    sa = sa.replace(sb,sc)
    return sa
```

```
#Substitution of array elements. Recursive function.
#Замена элементов массива. Рекурсивная функция.
#数组元素的置换。递归函数。
#配列要素の、置換。再帰関数。
def element_replace_all(f,L,sb,sc):
    #print(L)
    if isinstance(L, list):
        if L == []:
            return []
        else:
            return [element_replace_all(f,L[0], sb,s
    else:
        return f(L,sb,sc)

#print(l_a)
#print (element_replace_all(element_replace_t, l_a,



#Flattening of array elements.
#Уплотнение элементов массива.
#对数组元素进行扁平化处理。
#配列要素の、フラット化。
from collections.abc import Iterable
def flatten(l):
    for el in l:
        if isinstance(el, Iterable) and not isinstar
            yield from flatten(el)
        else:
            yield el

#print(l_a)
#l_s = list(flatten(l_a))
#print(l_s)
```

```
#String, self-replication and self-propagation.
#Строка, самовоспроизведение и самораспространение.
#字符串，自我复制和自我传播。
#文字列の、自己複製と自己増殖。
def self_copy_str(n, d_str):
    if n <= 1:
        return d_str
    else:
        #print(n)
        #print(d_str)
        d_str = (d_str + d_str)

#        return self_copy(n - 1, (d_str + d_str))
        return self_copy_str(n - 1, d_str)

#Array, self-replication and self-propagation.
#Массив, самовоспроизведение и самораспространение.
#阵列，自我复制和自我繁殖。
#配列の、自己複製と自己増殖。
def self_copy_array(n, d_str_array):
    if n <= 1:
        return d_str_array
#    if n <= 3:
#        return d_str_array
    else:
        #print(n)
        #print(d_str)
        #d_str = (d_str + d_str)
        #print(str(len(d_str_array)))
        time.sleep(2)
        print(d_str_array)
        d_str_array_2 = d_str_array.copy()
        d_str_array = []
        d_str_array.append(d_str_array_2)
        d_str_array.append(d_str_array_2)
#        return self_copy(n - 1, (d_str + d_str))
        return self_copy_array(n - 1, d_str_array)

#String, with mutation, duplicate.
```

```
#Строка, с мутацией, дубликат.
#字符串，有突变，重复。
#文字列の、突然変異有りの、複製。
def str_copy_with_mutation(d_str, mutation_probabili
    d_str_changed = d_str
    d_str_temp = ""
    d_str_copied = ""
    for d_i in range(len(d_str_changed)):
        random.seed()
        d_str_temp = ""
        d_str_temp = d_str_changed[d_i]
        if(random.random() > mutation_probability):
            print("mutation occured!\n")
            d_str_copied = d_str_copied + d_str_temp
        else:
            d_str_copied = d_str_copied + d_str_temp

        random.seed()
    return d_str_copied

#Substitution of sequence elements, with mutation.
#Замена элементов последовательности, с мутацией.
#替换序列元素，有变异。
#配列要素の、突然変異有りの、置換。
def element_replace_c_with_mutation(la,nb):
#    if((isinstance(la, list)) & ((str_hit_flag == 0
    if((isinstance(la, list))):
            for la_v in la:
                    element_replace_c_with_mutation(
    else:
#        print("la is not list. \n")

        if(type(la) is str):
#            print("la is str. \n")
            la = str_copy_with_mutation(la,float(nb)
        else:
            element_replace_c_with_mutation(la,nb)
    return la

#Substitution of array elements. If two arguments.
```

```
#Замена элементов массива. Если два аргумента.
#数组元素的替换。如果有两个参数。
#配列要素の置換。引数が 2 つの場合。
def element_replace_all_2_elements(f,L,sb):
    #print(L)
    if isinstance(L, list):
        if L == []:
            return []
        else:
            return [element_replace_all_2_elements(f
    else:
        return f(L,sb)


#Self-replication of sequence elements. Containing m
#Самовоспроизведение элементов последовательности. С
#自我复制的序列元素。含有变异。
#配列要素の自己複製。突然変異を含むこと。
def self_copy_array_with_mutation(n, d_str_array, pb
    d_str_array_2 = []
    if n <= 1:
        d_str_array_2 = element_replace_all_2_elemen
        d_str_array = []
        d_str_array.append(d_str_array_2)
        return d_str_array
    else:
        time.sleep(2)
        print(d_str_array)
        #d_str_array_2 = d_str_array.copy()
        d_str_array_2 = element_replace_all_2_elemen
        d_str_array = []
        d_str_array.append(d_str_array_2)
        d_str_array.append(d_str_array_2)
#        return self_copy(n - 1, (d_str + d_str))
        return self_copy_array_with_mutation(n - 1,

#Content mutation of two strings by cross-intersecti
#Содержательная мутация двух строк путем пересечения
#两个字符串的内容变异是通过交叉交错进行的。
# 2 つの文字列の、相互交差による内容変異。
```

```
def crossing_2_strings(d_str_array, mutation_probabi

    if(((len(d_str_array) == 2)) and (type(d_str_arr
        d_str_copied_1 = ""
        d_str_copied_2 = ""
        d_str_changed_1 = ""
        d_str_changed_2 = ""
        d_str_changed_1 = d_str_array[0]
        d_str_changed_2 = d_str_array[1]
        for d_i in range(len(d_str_changed_1)):
            random.seed()
            if(random.random() > mutation_probabilit
                print("crossing mutation occured!\n"
                d_str_copied_1 = d_str_copied_1 + d_
                d_str_copied_2 = d_str_copied_2 + d_
            else:
                d_str_copied_1 = d_str_copied_1 + d_
                d_str_copied_2 = d_str_copied_2 + d_

            random.seed()

        str_array_changed = []
        str_array_changed.append(d_str_copied_1)
        str_array_changed.append(d_str_copied_2)
#        print("str_array_changed")
#        print(str_array_changed)
        return str_array_changed

    else:
        return d_str_array


#Content mutation due to a cross between two arrays.
#Мутация содержимого в результате скрещивания двух м
#由于两个数组之间的交叉而导致的内容变异。
#2つの配列同士の相互交差による、内容変異。
num_cr = 0
num_cr_array = []
la_c = []
def element_crossing_c_with_mutation(la,nb,num_cr):
```

```
    global num_cr_array
    global la_c
    if((isinstance(la, list))):
        if((len(la) == 2)):
            if((type(la[0]) is str) and (type(la[1])
                la = crossing_2_strings(la,nb)
                num_cr_array.append(1)
                la_c.append(la)
            else:
                for la_v in la:
                    element_crossing_c_with_mutation
        else:
#              print(num_cr_array)
#              if(len(num_cr_array) < 1):
            for la_v_2 in la:
                    element_crossing_c_with_mutation
    else:
#          print("replace")
#          print(num_cr_array)
        la = element_replace_c_with_mutation(la,nb)
        la_c.append(la)
#      print("la_c")
#      print(la_c)
    return la_c




#Multiple arrays, meiosis.
#Множественные массивы, мейоз.
#多个阵列，减数分裂。
#複数配列同士の、減数分裂。
def meiosis_array_2_2_extended(d_str_array_1,d_str_a
        d_str_array_out = []
        d_str_array_out.append(d_str_array_1)
        d_str_array_out.append(d_str_array_2)

        mutation_probability_num = mutation_probabil
        d_divide_1_array_1 = []
        d_divide_1_array_2 = []
        d_divide_2_array_1 = []
```

```
            d_divide_2_array_2 = []

#           print(len(d_str_array_1))
#           print(len(d_str_array_2))

            if((len(d_str_array_1) == 2) and (len(d_str_
                g_i = 0
            #for g_i in range(len(d_str_array_1)):
                random.seed()
                rand_1_num = random.randint(0, 1)
                random.seed()
                rand_2_num = random.randint(0, 1)

                if((rand_1_num == 0) and (rand_2_num ==
                    d_divide_1_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_1_array_2.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_2.append(self_copy_
                elif((rand_1_num == 0) and (rand_2_num =
                    d_divide_1_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_1_array_2.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_2.append(self_copy_
                elif((rand_1_num == 1) and (rand_2_num =
                    d_divide_1_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_1_array_2.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_2.append(self_copy_
                elif((rand_1_num == 1) and (rand_2_num =
                    d_divide_1_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_1_array_2.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_1.append(self_copy_
                    d_divide_2_array_2.append(self_copy_
                else:
                    g_i = 0


                meiosis_array = []
                meiosis_array_temp = []
                meiosis_array_temp.append(d_divide_1_arr
```

```
            meiosis_array_temp.append(d_divide_2_arr
            meiosis_array.append(meiosis_array_temp)

            meiosis_array_temp = []
            meiosis_array_temp.append(d_divide_1_arr
            meiosis_array_temp.append(d_divide_2_arr
            meiosis_array.append(meiosis_array_temp)

            meiosis_array_temp = []
            meiosis_array_temp.append(d_divide_1_arr
            meiosis_array_temp.append(d_divide_2_arr
            meiosis_array.append(meiosis_array_temp)

            meiosis_array_temp = []
            meiosis_array_temp.append(d_divide_1_arr
            meiosis_array_temp.append(d_divide_2_arr
            meiosis_array.append(meiosis_array_temp)
            meiosis_array_temp = []

            return meiosis_array
#            else:
#                return d_str_array_out
        else:
            return d_str_array_out

#Sexual reproduction, between multiple arrays.
#Половое размножение, между несколькими массивами.
#性繁殖，在多个阵列之间。
#複数配列同士の、有性生殖。
def sexual_reproduction_array_2_2(meiosis_array):
    g_i = 0
#for g_i in range(len(d_str_array_1)):
    random.seed()
    rand_1_num = random.randint(0, 2)
    random.seed()
    rand_2_num = random.randint(0, 1)
    print("rand_1_num=" + str(rand_1_num))
    print("rand_2_num=" + str(rand_2_num))
    sexual_reproduction_result = []
    failure_result = ['reproduction was failed.']
```

```
    if(len(meiosis_array) == 4):

        if((rand_1_num == 0) and (rand_2_num == 0)):
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        elif((rand_1_num == 0) and (rand_2_num == 1)
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        elif((rand_1_num == 1) and (rand_2_num == 0)
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        elif((rand_1_num == 1) and (rand_2_num == 1)
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        elif((rand_1_num == 2) and (rand_2_num == 0)
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        elif((rand_1_num == 2) and (rand_2_num == 1)
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
            sexual_reproduction_result.append(meiosi
        else:
            g_i = 0
        return sexual_reproduction_result
    else:
        return failure_result
```

```
######
#An example of executing the above program function.
#To regard genetic information in living things as a
#To regard self-replication and self-propagation in

#Пример выполнения приведенной выше программной функ
#Рассмотреть генетическую информацию у живых существ
#Рассмотреть самовоспроизведение и самораспространен

#一个执行上述程序功能的例子。
#将生物体内的遗传信息视为字符串或数组元素。
#将生物体内的自我复制和自我传播视为字符串和数组元素的复制和传搢

#上記プログラム関数の、実行事例。
#生物における遺伝情報を、文字列や配列要素として、捉えること。
#生物における自己複製や自己増殖を、文字列や配列要素の、複製や坩
######

#print(self_copy_str(5, 'ABCD_'))

d_str_array = ['ABCD_']
#self_copy_array(5, d_str_array)

d_str = "ABCDEFGH"
#print(str_copy_with_mutation(d_str))

#d_str_array_1 = ['ABCDE','abcde']
#d_str_array_2 = ['PQRST','pqrst']

d_str_array_1 = [['ABCDEFGHIJK','abcdefghijk'], ['FG
d_str_array_2 = [['X'],['Y']]
print("origin")
print(d_str_array_1)
print(d_str_array_2)
num_cr_a = 0
num_cr_b = 0
la_c = []
d_str_array_1_crossed = element_crossing_c_with_muta
la_c = []
d_str_array_2_crossed = element_crossing_c_with_muta
```

```
    #print(meiosis_2_2_extended(d_str_array_1,d_str_arra
    #print(sexual_reproduction_2_2(meiosis_2_2_extended(
    #print(meiosis_array_2_2_extended(d_str_array_1,d_st
    #print('\n')
    print("\n")
    print("crossed")
    print(d_str_array_1_crossed)
    print(d_str_array_2_crossed)
    #result_array_sr = []
    print("\n")
    print("meiosis")
    result_array_sr = meiosis_array_2_2_extended(d_str_a
    print(result_array_sr)
    print("\n")
    print("result")
    print(sexual_reproduction_array_2_2(result_array_sr)
```

To return to the top page.

Source code _9_1

```
##########################################
##particle_lvt_ac1.py
##
##start
##########################################



# coding: UTF-8

import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
```

```
import math
from decimal import Decimal
import numpy as np



import pygame
from pygame import draw
from pygame import gfxdraw


def norm(x):
    return np.sqrt(np.dot(x, x))


def sqrt(x):
    """Safe square root"""
    return np.sqrt(np.clip(x, 0, np.inf))

def vector_normalize(x):

    # ベクトルを定義
    #vector = np.array([3, 4])
    # ノルムを計算
#    norm = np.linalg.norm(vector)
    norm = np.linalg.norm(x)
    # ベクトルをノルムで割る
    normalized_vector = x / norm
#    print("正規化されたベクトル:", normalized_vector)
    return normalized_vector

def collide_without_acceralation(v1, v2, r1, r2, d1, d2,
#def collide_with_acceralation(a1, a2, v1, v2, r1, r2, c
        """
        Process eventual collisions

        """
        ##### all vector data below
        ## a1, a2, #acceralation
        # v1, v2, #velocity
```

```
        # r1, r2, #position
        # d1, d2, #length of (radius * 2)
        # m1, m2, #mass


        # Relative positions and velocities
        #da = a2-a1
        dv = v2-v1
        dr = r2-r1

        # Backtrack
        #nda = norm(da)
        ndv = norm(dv)
        if ndv == 0:
            # Special case: overlapping particles with s
            ndr = norm(dr)
            offset = .5*dr*(.5*(d1+d2)/ndr - 1.)
            r1 -= offset
            r2 += offset
#            continue



################## process of velocity only

        ru = np.dot(dv, dr)/ndv
        ds = ru + sqrt(ru**2 + .25*(d1+d2)**2 - np.dot(c
        if np.isnan(ds):
            1/0

        # Time since collision
        dtc = ds/ndv

        # New collision parameter
        drc = dr - dv*dtc

        # Center of mass velocity
        vcm = (m1*v1 + m2*v2)/(m1+m2)

        # Velocities after collision
```

```
        dvf = dv - 2.*drc * np.dot(dv, drc)/np.dot(drc,
        v1f = vcm - dvf * m2/(m1+m2)
        v2f = vcm + dvf * m1/(m1+m2)

######################


        # Backtracked positions
        r1f = r1 + (v1f-v1)*dtc
        r2f = r2 + (v2f-v2)*dtc

        # Update values
        r1 = r1f
        r2 = r2f
        v1 = v1f
        v2 = v2f

        list_renewed_data = [v1, v2, r1, r2, d1, d2, m1,

        return list_renewed_data


#def collide_without_acceralation(v1, v2, r1, r2, d1, d2
def collide_with_acceralation(a1, a2, v1, v2, r1, r2, d1
        """
        Process eventual collisions

        """
        ##### all vector data below
        # a1, a2, #acceralation
        # v1, v2, #velocity
        # r1, r2, #position
        # d1, d2, #length of (radius * 2)
        # m1, m2, #mass


        # Relative positions and velocities
#        da = a2-a1
        dv = v2-v1
        dr = r2-r1
```

```
        # Backtrack
#        nda = norm(da)
        ndv = norm(dv)
        if ndv == 0:
            # Special case: overlapping particles with s
            ndr = norm(dr)
            offset = .5*dr*(.5*(d1+d2)/ndr - 1.)
            r1 -= offset
            r2 += offset
#            continue



################## process of velocity only

        ru = np.dot(dv, dr)/ndv
        ds = ru + sqrt(ru**2 + .25*(d1+d2)**2 - np.dot(c
        if np.isnan(ds):
            1/0

        # Time since collision
        dtc = ds/ndv

        # New collision parameter
        drc = dr - dv*dtc

        # Center of mass velocity
        vcm = (m1*v1 + m2*v2)/(m1+m2)

        # Velocities after collision
        dvf = dv - 2.*drc * np.dot(dv, drc)/np.dot(drc,
        #daf = da - 2.*drc * np.dot(da, drc)/np.dot(drc,
        v1f = vcm - dvf * m2/(m1+m2)
        v2f = vcm + dvf * m1/(m1+m2)
        v1fn = vector_normalize(v1f)
        v2fn = vector_normalize(v2f)
        a1len = np.linalg.norm(a1)
        a2len = np.linalg.norm(a2)
        a1f = a1len * v1fn
```

```
        a2f = a2len * v2fn

######################


        # Backtracked positions
        r1f = r1 + (v1f-v1)*dtc
        r2f = r2 + (v2f-v2)*dtc

        # Update values
        r1 = r1f
        r2 = r2f
        v1 = v1f
        v2 = v2f
        a1 = a1f
        a2 = a2f

        list_renewed_data = [a1, a2, v1, v2, r1, r2, d1,

        return list_renewed_data


def arrowPos(A, B, w, h, L, R):
 Vx = B[0] - A[0]
 Vy = B[1] - A[1]
 v = math.sqrt(Vx*Vx + Vy*Vy)

 if v < 0.1:
  return -1

 Ux = Vx/v
 Uy = Vy/v
 L[0] = B[0] - Uy*w - Ux*h
 L[1] = B[1] + Ux*w - Uy*h
 R[0] = B[0] + Uy*w - Ux*h
 R[1] = B[1] - Ux*w - Uy*h

def drawArrow(A, B, w, h, c, context):
 L = [0, 0]
 R = [0, 0]
```

```
 if arrowPos(A, B, w, h, L, R) == -1:
  return

 pygame.draw.line(context, pygame.Color(c), A, B, 1)
 pygame.draw.polygon(context, pygame.Color(c), [L, B, R]

def drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx, a_f
    A = [0, 0]
    B = [0, 0]

    for i in range(n):
        pygame.gfxdraw.aacircle(context, int(a_xr[i]*dis
        pygame.gfxdraw.filled_circle(context, int(a_xr[i

        if((math.sqrt((a_fx[i] * a_fx[i]) + (a_fy[i] * a

            fdata_sq_x = ((a_fx[i]) / (math.sqrt(a_fx[i]
            fdata_sq_y = ((a_fy[i]) / (math.sqrt(a_fx[i]

#            if((fdata_sq_x > 0) and (fdata_sq_y > 0)):

            A[0] = a_xr[i]*dispScale
            A[1] = a_yr[i]*dispScale
            B[0] = a_xr[i]*dispScale + fdata_sq_x * 10
            B[1] = a_yr[i]*dispScale + fdata_sq_y * 10
            #B[0] = a_xr[i]*dispScale + (a_fx[i] / math.
            #B[1] = a_yr[i]*dispScale + (a_fy[i] / math.

            drawArrow(A, B, 2, 2, a_color[i], context)

    n = n



# リスト数値の正規化。最大値を1に。最小値を0に。
def min_max_normalization(list_origin):
    accum_value = 0
    for i in range(len(list_origin)):
        accum_value = accum_value + list_origin[i] * lis
```

```
    accum_sqrt = math.sqrt(accum_value)
    norm_value_list = []
    for i in range(len(list_origin)):
        norm_value_list.append(float(list_origin[i] / ac

    return norm_value_list

# Queueにデータを書き込む
def write(q):
#    if __name__ == '__main__':
#    #                freeze_support()
        print('Process to write: {}'.format(os.getpid())
        for value in ['A', 'B', 'C']:
            print('Put {} to queue...'.format(value))
            q.put(value)
            time.sleep(random.random())


# Queueからデータを読み取り
def read(q):
#    if __name__ == '__main__':
#    #                freeze_support()
        print('Process to read: {}'.format(os.getpid()))
        while True:
            value = q.get(True)
            print('Get {} from queue.'.format(value))


#####for Windows
#if __name__ == '__main__':
#######
#    e = multiprocessing.Event()
    # 親プロセスがQueueを作って、子プロセスに渡す
#    q = Queue()
#    pw = Process(target=write, args=(q,))
#    pr = Process(target=read, args=(q,))
#    # pwを起動し、書き込み開始
#    pw.start()
#    # prを起動し、読み取り開始
#    pr.start()
```

```
#     # pwが終了するのを待つ
#
#     e.set()
#     pw.join()
#     # prは無限ループなので、強制終了
#     pr.terminate()

#     event2 = multiprocessing.Event()

event_array = []
for lighter_num_a in range(2):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)



parent_conn_array = []
child_conn_array = []
for lighter_num_c in range(2):
    parent_conn_temp, child_conn_temp = Pipe()
    parent_conn_array.append(parent_conn_temp)
    child_conn_array.append(child_conn_temp)

q_array = []
for lighter_num_i in range(2):
    q_temp = Queue()
    q_array.append(q_temp)


env_value_input = 100
env_value_output = 0
particle_name_array = ['p_01','p_02']
sleep_time_length_particle = 0.05
spike_threshold_particle = 100
output_value_particle = 100

q_value_array_input = []
for value_num_i in range(1):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_input.append(q_temp)
```

```
q_value_array_output = []
for value_num_i in range(3):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_output.append(q_temp)

q_value_array_input_to_nlvt = []
for value_num_i in range(3):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_input_to_nlvt.append(q_temp)



##velocity
##acceleration
#mass
#location_X
#location_Y
#size_radius
#force_attraction
#force_repulsion
#force_all


#input_output_str_data_format
#particle_all_num:2,particle_id_num:2,location_X:100,loc


def particle(name,q_input,q_output_array,sleep_time_leng
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    init_data_array_temp = []
    init_data_array_temp = init_data_str.split(',')
    q_init_num_i = 0
    init_data_array = []

    self_particle_id_num = 0
    self_location_X = 0
    self_location_Y = 0
    self_mass = 0
```

```
    self_velocity_X = 0
    self_velocity_Y = 0
    self_acceleration_X = 0
    self_acceleration_Y = 0
    self_size_radius = 0
    self_content_id_num = 0
    space_size_X = 1000
    space_size_Y = 800
    universal_gravitational_constant = 2

    received_particle_id_num = self_particle_id_num
    received_location_X = 0
    received_location_Y = 0
    received_mass = 0
    received_velocity_X = 0
    received_velocity_Y = 0
    received_acceleration_X = 0
    received_acceleration_Y = 0
    received_size_radius = 0
    received_content_id_num = 0

    list_collision_result_data_without_acceralation = []
    self_velocity_after_collision_list = []
    received_velocity_after_collision_list = []

    for q_init_num_i in range(len(init_data_array_temp))
#        init_data_array_temp[q_init_num_i].split(':')
        data_temp_init = ((init_data_array_temp[q_init_n

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('part
            particle_all_num = int(data_temp_init)

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('part
            self_particle_id_num = int(data_temp_init)
#            print(self_particle_id_num)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('loca
            self_location_X = float(data_temp_init)
#            print(self_location_X)

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('loca
```

```
            self_location_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('mass
            self_mass = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('velo
            self_velocity_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('velo
            self_velocity_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('acce
            self_acceleration_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('acce
            self_acceleration_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('size
            self_size_radius = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('univ
            universal_gravitational_constant = float(dat
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('spac
            space_size_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('spac
            space_size_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('cont
            self_content_id_num = int(data_temp_init)




    while True:
#        time.sleep(1)
        time.sleep(sleep_time_length)

        #return_value = myQueue.empty()
        #return_value = myQueue.qsize()
        if(q_input.empty() == False):
            q_input_len_now = q_input.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    q_input_get_array.append((q_input.ge

#            print(q_input_get_array)
#            print('\n')
            q_input_sum = 0
            for q_input_array_i in range(len(q_input_get
```

```
#                     q_input_sum = q_input_sum + q_input_get
                     received_data_array_q_input_temp = []
                     received_data_array_q_input_temp = q_inp
                     q_received_num_i = 0
                     #print('RDA pre ')
                     #print(received_data_array_q_input_temp)
                     for q_received_num_i in range(len(receiv
                         data_array_temp = (received_data_arr
                         #print('RDA data_array_temp ')
                         #print(data_array_temp)
                         data_temp = data_array_temp[1]
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_particle_id_num = int((

#                         if(received_particle_id_num == self
#                             continue
#                         else:
                             #print('R ')
                             #print(received_particle_id_num)

                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             #print('RLX pre ')
                             #print(received_data_array_q_inp

                             received_location_X = float(((da
                             #print('RLX ')
                             #print(received_location_X)
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_location_Y = float(((da
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_mass = float(((data_tem
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_velocity_X = float(((da
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_velocity_Y = float(((da
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_acceleration_X = float(
                         if(received_data_array_q_input_temp[
                             received_acceleration_Y = float(
                         if(received_data_array_q_input_temp[
```

```
        received_size_radius = float(((c
    if(received_data_array_q_input_temp[
        received_content_id_num = int(da


    np_self_acceleration = np.array([sel
    np_received_acceleration = np.array(
    np_self_velocity = np.array([self_ve
    np_received_velocity = np.array([rec
    np_self_location = np.array([self_lo
    np_received_location = np.array([rec
    self_radius_2 = self_size_radius * 2
    received_radius_2 = received_size_ra



    if(received_particle_id_num != self_

        #(magnitude of attraction) = (un
        distance_between_self_and_receiv
        distance_between_self_and_receiv
        magnitude_of_attraction = univer
        total_mass_both_self_and_receive
        attraction_by_self_ratio = self_
        attraction_by_received_ratio = r

        np_vector_origin_from_self_to_re
        #np_vector_origin_from_self_to_r
        #vector_origin_from_self_to_rece
        #vector_normalized_from_self_to_
        np_vector_normalized_from_self_t
        #print(vector_normalized_from_se
        np_vector_origin_from_received_t
        #np_vector_origin_from_received_
        #vector_origin_from_received_to_
        #vector_normalized_from_receivec
        np_vector_normalized_from_receiv
        #print(vector_normalized_from_re
```

```
magnitude_of_attraction_by_self_
magnitude_of_attraction_by_self_
magnitude_of_attraction_by_recei
magnitude_of_attraction_by_recei
#magnitude_of_attraction_by_self
#magnitude_of_attraction_by_self
#magnitude_of_attraction_by_rece
#magnitude_of_attraction_by_rece

self_force_capacity_X = ((self_m
self_force_capacity_Y = ((self_m
#received_force_capacity_X = ((r
#received_force_capacity_Y = ((r
if(distance_between_self_and_rec
    self_force_capacity_X = ((se
    self_force_capacity_Y = ((se

    #np_self_velocity = np.array
    #np_received_velocity = np.a
    #np_self_location = np.array
    #np_received_location = np.a
    #self_radius_2 = self_size_r
    #received_radius_2 = receive


    list_collision_result_data_w
    list_collision_result_data_w
    #list_collision_result_data_
    #self_velocity_after_collisi
    #self_velocity_X = self_velo
    #self_velocity_Y = self_velo
    #received_velocity_after_col
    #received_velocity_X = recei
    #received_velocity_Y = recei

    list_collision_result_data_w
    list_collision_result_data_w
    #list_collision_result_data_
    self_acceleration_after_coll
    self_velocity_after_collisio
```

```
        self_acceleration_X = self_a
        self_acceleration_Y = self_a
        self_velocity_X = self_veloc
        self_velocity_Y = self_veloc
        received_acceleration_after_
        received_velocity_after_coll
        received_acceleration_X = re
        received_acceleration_Y = re
        received_velocity_X = receiv
        received_velocity_Y = receiv

        q_value_array_input_to_nlvt[
        q_value_array_input_to_nlvt[
        q_value_array_input_to_nlvt[

        print("\ncollision orrured!\

    self_acceleration_X_renewed = se
    self_acceleration_Y_renewed = se
    #received_acceleration_X_renewed
    #received_acceleration_Y_renewed

    #Change in velocity.
    #(new velocity) = (original velo
    #Change in position.
    #(new position) = ((original vel

    length_of_time_elapsed = sleep_t
    self_velocity_X_renewed = self_v
    self_velocity_Y_renewed = self_v
    #received_velocity_X_renewed = r
    #received_velocity_Y_renewed = r

    if(self_location_X <= 0):
        #self_location_X_renewed = 0
        self_velocity_X_renewed = (s
        self_acceleration_X_renewed
    if(self_location_Y <= 0):
        #self_location_Y_renewed = 0
        self_velocity_Y_renewed = (s
```

```
                            self_acceleration_Y_renewed
                        if(self_location_X >= space_size
                            #self_location_X_renewed = s
                            self_velocity_X_renewed = (s
                            self_acceleration_X_renewed
                        if(self_location_Y >= space_size
                            #self_location_Y_renewed = s
                            self_velocity_Y_renewed = (s
                            self_acceleration_Y_renewed

                        self_location_X_renewed = self_l
                        self_location_Y_renewed = self_l

                        self_location_X = self_location_
                        self_location_Y = self_location_
                        self_velocity_X = self_velocity_
                        self_velocity_Y = self_velocity_
                        self_acceleration_X = self_accel
                        self_acceleration_Y = self_accel
                #output_str_data_format
                #particle_id_num:2,location_X:100,locati

        q_output_str = "particle_id_num:" + str(self_par
        for q_output_array_i in range(len(q_output_array
            if(q_output_array_i != self_particle_id_num)
                q_output_array[q_output_array_i].put(q_o
#        q_output_array.put(q_output_str)
#        print('OUT\n')
#        print(q_output_str + '\n')
#        print('\n')




#            if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                for q_output_array_i in range(len(q_out
#                    q_output_array[q_output_array_i].pu

        q_input_get_array = []
```

```
####for Windows
#if __name__ == '__main__':
######
#
#    # Initialize pygame
#    pygame.init()
#    #size = [1000, 800]
#    space_size = [1000, 800]
#    context_pygame = pygame.display.set_mode(space_size
#####dame pygameはそれ自体がプロセスとして稼働するので、このプロ
    context_dummy = 0

#    init_data_str_a1 = "particle_all_num:2,particle_id_
#    init_data_str_a2 = "particle_all_num:2,particle_id_


#def cell_input(name,env_value,q_output_array,sleep_time
#def cell_output(name,env_value,q_input):
#def cell_neuron_middle(name,q_input,q_output_array,slee
#    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(
    #particle_proc = Process(target=particle, args=(part
#    particle_proc_a1 = Process(target=particle, args=(p
#    particle_proc_a2 = Process(target=particle, args=(p
    #particle(name,q_input,q_output_array,sleep_time_len
#    cell_output_proc = Process(target=cell_output, args

#    cell_input_proc.start()
#    particle_proc_a1.start()
#    particle_proc_a2.start()
#    cell_output_proc.start()

    received_particle_id_num = 0
    received_location_X = 0
    received_location_Y = 0
    received_mass = 0
    received_velocity_X = 0
    received_velocity_Y = 0
```

```
    received_acceleration_X = 0
    received_acceleration_Y = 0
    received_size_radius = 0


    n = 1
    twopi = 2*math.pi
    dispScale = 1

    q_input_get_array = []

    running = True

#    # Loop until the user clicks the close button.
#    while running:
#        # poll for events
#        # pygame.QUIT event means the user clicked X to
#        for event in pygame.event.get():
#            if event.type == pygame.QUIT:
#                running = False



    #
#        time.sleep(sleep_time_length)

    #        #return_value = myQueue.empty()
    #        #return_value = myQueue.qsize()
#        if(q_value_array_output[2].empty() == False):
#            q_input_len_now = q_value_array_output[2].q
#            for q_input_num_i in range(q_input_len_now)
#                    q_input_get_array.append((q_value_a
#
#    #            #print(q_input_get_array)
#    #            #print('\n')
#            q_input_sum = 0
#            for q_input_array_i in range(len(q_input_ge
#                q_input_sum = q_input_sum + q_input_get
#                received_data_array_q_input_temp = []
#                received_data_array_q_input_temp = q_in
#                q_received_num_i = 0
```

```
#                   #print('RDA pre ')
#                   #print(received_data_array_q_input_temp
#                   for q_received_num_i in range(len(recei
#                       data_array_temp = (received_data_ar
#                       #print('RDA data_array_temp ')
#                       #print(data_array_temp)
#                       data_temp = data_array_temp[1]
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_particle_id_num = int(
#
#                       if(received_particle_id_num == self
#                           continue
#                       else:
#                           print('R ')
#                           print(received_particle_id_num)
#
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           #print('RLX pre ')
#                           #print(received_data_array_q_in
#
#                           received_location_X = float(((d
#                           #print('RLX ')
#                           #print(received_location_X)
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_location_Y = float(((d
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_mass = float(((data_te
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_velocity_X = float(((d
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_velocity_Y = float(((d
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_acceleration_X = float
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_acceleration_Y = float
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_size_radius = float(((
#                       if(received_data_array_q_input_temp
#                           received_content_id_num = int((
```

```
#         a_xr = [received_location_X]
#         a_yr = [received_location_Y]
#         a_r = [received_size_radius]
#         a_color = ["white"]
#         a_fx = [received_acceleration_X]
#         a_fy = [received_acceleration_Y]

         # 画面を黒色(#000000)に塗りつぶし
#         context_pygame.fill((0, 0, 0))

#         drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx

#         drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx
         # flip() the display to put your work on screen

#         pygame.display.flip()

#         q_input_get_array = []


#     pygame.quit()






    #pw = Process(target=write, args=(q,))
    #pr = Process(target=read, args=(q,))

#     light = Process(target=lighter, args=(q_array[0], e
    #light.setDaemon(True)
#     light.start()

#     light2 = Process(target=lighter2, args=(q_array[1],
    #light.setDaemon(True)
#     light2.start()
```

```
#     car_s = Process(target=car, args=("MINI", q_array,
    #car.setDaemon(True)
#     car_s.start()




#     light_conn_p = Process(target=lighter_conn, args=(p
    #light.setDaemon(True)
#     light_conn_p.start()

#     light2_conn_p = Process(target=lighter2_conn, args=
    #light.setDaemon(True)
#     light2_conn_p.start()



#     car_s_conn_p = Process(target=car_s_conn, args=("MI
#     car_s_conn_p = Process(target=car_s_conn_no_event,
    #car.setDaemon(True)
#     car_s_conn_p.start()





    #def hello():
    #    print("hello, world")


    #t = Timer(1, hello)
    #t.start()  # 1秒後helloが実行される


########################################################
########################################################
########################################################
```

Summary results of underlying assumptions at the time
本计划创建时的基本假设结果摘要。
Обобщенные результаты предположений, заложенных в осн
このプログラムの作成時における基盤的な前提知識の要約。
Zusammenfassende Ergebnisse der zugrunde liegenden An
Résumé des résultats des hypothèses sous-jacentes au
Resultados resumidos das suposições subjacentes no mo
Resultados resumidos de los supuestos subyacentes en
Hasil ringkasan dari asumsi-asumsi yang mendasari pad
Bu programın oluşturulduğu sırada altta yatan varsayı
이 프로그램이 만들어질 당시의 기본 가정에 대한 요약 결과입니
Riepilogo dei risultati delle ipotesi sottostanti al

##

Components needed to run a process-based material b
Individuals and particles. The space in which they exi

#Spatial geographic information.
#Global cartographic information. Local cartographic inf
##The sum or superposition of the various forces of attr

#An individual or particle as a constituent of matter.
#The internal attributes and internal information of an
##Velocity and acceleration of an individual. The magnit
##The direction in which the individual is moving.
##The amount of heat generated by the individual. The de
##The XY coordinates of the individual's position.
##Mass of the individual. Mass per unit volume. Total ma
##Volume of the individual. Surface area of an individua

##The interaction between individuals.
##The sum of the forces of attraction and repulsion exer
##The sum of the external forces of attraction and repul

##Collisions and contacts between the individual and oth
##The identity or overlap of positions of both individua

##The law of conservation of force when such interactior
##To calculate, for each individual, the new velocity or

```
##Attractive force is constant and invariant as long as

#Factors that change the forces of attraction and repuls
##In the case of attraction. An increase or decrease in
# Example. The breaking up, splitting, and diffusion of
# Example. The individual merges and fuses with each oth
#In the case of repulsion. An increase or decrease in th

#Fluid. The movement of multiple individuals in one supe
#Solid. A superclass of multiple individuals that are ur

#Static state. A motionless individual exerting a consta
# That it is a force that moves the surrounding individu
# Next. That it is the force that causes the surrounding
# It must be a positive force for the surrounding indivi
# It must be a negative force for the surrounding indivi

#Dynamics. That a moving individual exerts a repulsive f

#Pressure.
# A force applied from outside or inside an individual t
# A force applied from outside or inside an individual t

#The way an individual or particle moves. Linear motion.


#-----
#Data communication between processes. That is, data com
#Queue.
#Exchanging various data with other individuals as other
#
#In each process.
#The input and output of the queue must both be array da
##To run an infinite loop inside the process, and to rep

#---
#Output of a queue.
#The physical location of the individual itself.
#The mass of the individual.
#The individual's own velocity and acceleration.
```

```
#The radius size of the individual itself.


#---
#Queue input.
#The physical location of another individual.
#The other individual's mass.
#Velocity and acceleration of the other individual.
#Radius size of the other individual.



#-----
#Numerical calculation inside the process.
#
#
#The physical position of the individual itself.
#The mass of the individual itself.
#Physical location of the other individual.
#The mass of the other individual.
#Calculate the force of attraction from the other indivi
#
#
#The physical position of the individual itself.
#The radius size of the individual itself.
#The physical location of the other individual.
#The radius size of the other individual.
#Calculate whether or not there is a collision between i


#---
#About the gravitational force.
#
#The magnitude of the gravitational force.
#The value is proportional to the product of the masses
#The value is inversely proportional to the square of th
#The value must be calculated by the following procedure
#(magnitude of attraction) = (universal gravitational co

#The universal gravitational constant. Its value must be
```

```
#---
#About repulsion.
#
#The mass of the body itself.
##The velocity and acceleration of the individual.
#The mass of another individual.
#Velocity and acceleration of the other individual.
##Based on the above four values, calculate the amount c


#---
#Calculation of the total force capacity.
#
#---
#About gravitational attraction.
#(magnitude of attraction) = (universal gravitational co
#---
#About repulsion.
#(the individual's own force capacity) = (the individual
#(Force capacity of the other individual) = (mass of the

#Adding together the above mentioned forces of attractio
#Based on the resulting balance of the forces of self ar
#Calculate the individual's own new physical position ba

#---
#Acceleration.
#(the individual's own acceleration) = ((the individual'
#(acceleration of the other individual) = ((new velocity
#
#Relation between amount of force and acceleration.
#(the individual's own repulsion) = (the individual's ow
#(repulsion of the other individual) = (mass of the othe
#(magnitude of mutual attraction between self and others
#
#(Direction of mutual attraction between self and others
#If the sign is positive. The individual itself attracts
#When the sign is negative. The individual itself is att
```

```
#
#
#Change in velocity.
#(new velocity) = (original velocity) + ((acceleration)
#Change in position.
#(new position) = ((original velocity) * (length of elap




##########################

#### 运行基于过程的材料行为模拟程序所需的组件。
# 个体和粒子。它们存在的空间。它们的状态随时间的变化。

#空间地理信息。
#全球地图信息。局部地图信息
##在其 XY 坐标上的各种吸引力和排斥力的总和或叠加。吸引力雷达。斥力

#作为物质成分的个体或粒子。
#个体的内部属性和内部信息。
##个体的速度和加速度。个体产生的斥力大小。
##个体运动的方向。
##个体产生的热量。个体产生的热量及其温度。
##个体位置的 XY 坐标。
##个体的质量。单位体积的质量。总质量。个体产生的重力大小。
##个体的体积。个体的表面积。

##个体之间的相互作用。
##个体受到的吸引力和排斥力的总和。
##个体受到的外部吸引力和排斥力的总和。它们的空间分布。

##个体与其他个体之间的碰撞和接触。这些个体之间相互施加的吸引力和排
##两个个体的位置相同或重叠。

##发生这种相互作用时的力守恒定律。保守力和能量力的总和。吸引力和排
##根据该定律，计算每个个体在两个个体之间施力后的新速度或加速度。它
##只要每个个体的质量不变，吸引力就是恒定不变的。

#改变每个个体吸引力和排斥力的因素#
```

##在吸引的情况下 个体质量的增减
#例如： 个体分解、分裂、扩散成多个更小的亚个体。个体引力的减小。个
例子。个体之间通过相互结合和相互粘附而融合成一个更大的单一实体。
#在斥力的情况下。个体速度或加速度的增加或减少。个体热量的增减。

#流体。多个个体在一个超类中的运动，同时保持其形状的可变性。液体。例
#固体。由多个个体组成的超类，这些个体相互结合为一体，静止或滚动，同

#静止状态。一动不动的个体对周围施加恒定的引力。
#它是一种使周围的个体移动的力 # That it is a force that moves
下一个 它是一种力量，使周围被自己吸引的个体在自己的作用下固定不动
对周围的人来说，它必须是一种积极的力量，无论是最初还是中间。积极
最后，它必须对周围的人产生负面的影响。负动力就是踩刹车。

#动力。即运动的个体对其周围施加一种排斥力。它必须是一种使周围个体移

#压力#
#一种从外部或内部施加到个体上的力，使个体自身不动。
#从个体外部或内部施加的力，使个体停止，而个体本身不会停止。

#个体或粒子的运动方式。直线运动。曲线运动。往复运动。波浪运动

#------
#进程之间的数据通信。即个体本身与另一个个体之间的数据通信。
#队列。
#通过队列与其他个体作为其他进程交换各种数据。
#
#在每个进程中
#队列的输入和输出都必须是数组数据
#在进程内部运行一个无限循环，以固定的时间间隔，不间断地重复从外部获

#---
#队列的输出
#个体本身的物理位置#
#个体的质量
#个体自身的速度和加速度
#个体自身的半径大小

```
#---
#队列输入
#另一个个体的物理位置
#另一个个体的质量
#另一个人的速度和加速度
#另一个人的半径大小。




#------
#进程内部的数字计算。
#
#
#个体本身的物理位置。
#个体本身的质量。
#其他个体的物理位置
#对方的质量
#根据上述四个数值，计算来自另一个个体的吸引力。
#
#
#对方的物理位置
#个体本身的半径大小。
#其他个体的物理位置。
#其他个体的半径大小。
#根据上述四个值计算自身与另一个个体之间是否存在碰撞。



#---
#关于引力
#
#引力的大小#
#其值与自身和他人质量的乘积成正比。
#引力值与自身和他者之间距离的平方成反比。
#The value must be calculated by the following procedure
#（吸引力大小）=（万有引力常数）*（（本体质量）*（他体质量））/（

#万有引力常数。其值必须恒定。



#---
```

#关于斥力
#
#物体本身的质量#
##个体的速度和加速度
#另一个人的质量
#另一个人的速度和加速度
##根据以上四个数值，计算当自己和另一个人发生碰撞时，自己和另一个人。

#---
#计算总受力能力。
#
#---
#关于引力#
#（吸引力大小）＝（万有引力常数）＊（（自身质量）＊（对方质量））／（自
#---
#关于斥力。
#（个体自身的受力能力） ＝ （个体自身的质量） ＊ （个体自身的加速度））
#（另一个人的受力能力）＝（另一个人的质量）＊（另一个人的加速度）

#将上述自己和他人的吸引力和排斥力相加。
#根据得出的自身和他者的力的平衡，分别计算出个人新的速度和加速度。
#根据上述结果计算出个人新的物理位置#

#---
#加速度
#个体自身的加速度）＝（（个体自身的新速度）－（个体自身的原速度））／
#（其他个体的加速度）＝（（其他个体的新速度）－（其他个体的原始速度）
#
#力和加速度之间的关系。
#个体自身的斥力）＝（个体自身的质量）＊（个体自身的加速度
#（其他个体的斥力）＝（其他个体的质量）＊（其他个体的加速度）
#（自身与他人之间的相互吸引力大小）＝（万有引力常数）＊（（自身质量）
#
#自己与他人之间的相互吸引力方向）＝ （（自己的质量）－（他人的质量）
#如果符号为正。个体本身会吸引其他个体向自己靠近。
#如果符号为负数。个体本身被其他个体吸引。
#
#
#速度的变化

#（新速度）=（原速度）+（（加速度）*（经过的时间长度））
#位置变化。
#（新位置）= （（原始速度）*（所用时间长度）） + (1/2) * (加速度

###########################

Компоненты, необходимые для запуска программы модел
Отдельные люди и частицы. Пространство, в котором они

#Пространственная географическая информация.
#Глобальная картографическая информация. Локальная карто
##Сумма или суперпозиция различных сил притяжения и отта

#Индивид или частица как составная часть материи.
#Внутренние атрибуты и внутренняя информация индивидуума
##Скорость и ускорение индивида. Величина силы отталкива
##Направление, в котором движется индивид.
##Количество тепла, выделяемого индивидуумом. Степень те
##Координаты XY положения индивидуума.
##Масса особи. Масса на единицу объема. Общая масса. Вел
##Объем индивидуума. Площадь поверхности индивидуума.

##Взаимодействие между особями.
##Сумма сил притяжения и отталкивания, действующих на ос
##Сумма внешних сил притяжения и отталкивания, действующ

##Столкновения и контакты между индивидом и другими инди
##Одинаковость или совпадение позиций обоих индивидов.

##Закон сохранения силы при таких взаимодействиях. Сумма
##Вычислить для каждого индивидуума новую скорость или у
##Сила притяжения постоянна и неизменна до тех пор, пока

#Факторы, которые изменяют силы притяжения и отталкивани
##В случае притяжения. Увеличение или уменьшение массы и
Пример. Разбиение, расщепление и диффузия индивидуума

```
# Пример. Индивидуумы сливаются и сливаются друг с друго
#В случае отталкивания. Увеличение или уменьшение скоро

#Флюид. Движение нескольких индивидуумов в одном суперкл
#Твердое тело. Суперкласс множества индивидуумов, которь

#Статичное состояние. Неподвижный индивид, оказывающий п
# Что это сила, которая движет окружающий индивид таким
# Далее. Что это сила, которая заставляет окружающих инд
# Она должна быть положительной силой для окружающих инд
# В конце концов, она должна быть отрицательной силой дл

# Динамика. Движущийся индивид оказывает отталкивающую с

#Давление.
# Сила, приложенная снаружи или изнутри индивида, чтобы
# Сила, приложенная снаружи или изнутри индивида, чтобы

# Способ, которым движется индивид или частица. Линейное



#-----
#Data communication between processes. То есть обмен дан
#Очередь.
#Обмен различными данными с другими индивидуумами и друг
#
#В каждом процессе.
#Вход и выход очереди должны быть массивами данных.
##Чтобы запустить бесконечный цикл внутри процесса и пов

#---
#Выход очереди.
#Физическое местоположение самого индивидуума.
#Масса индивидуума.
#Собственная скорость и ускорение индивидуума.
#Размер радиуса самой особи.


#---
```

```
#Вход в очередь.
#Физическое местоположение другого индивидуума.
#Масса другого индивидуума.
#Скорость и ускорение другого индивидуума.
#Радиус другого человека.



#-----
#Численные вычисления внутри процесса.
#
#
#Физическое положение самого индивидуума.
#Масса самого индивидуума.
#Физическое положение другого индивидуума.
#Масса другого индивидуума.
#Рассчитайте силу притяжения со стороны другого человека
#
#
#Физическое положение самого индивидуума.
# Размер радиуса самого человека.
# Физическое положение другого индивидуума.
#Размер радиуса другого индивидуума.
# Вычислить, есть ли столкновение между ним и другим, ос


#---
#О гравитационной силе.
#
#Величина гравитационной силы.
# Величина пропорциональна произведению масс себя и друг
#Величина обратно пропорциональна квадрату расстояния ме
#Величина должна быть рассчитана следующим образом.
#(величина притяжения) = (универсальная гравитационная п

#Универсальная гравитационная постоянная. Ее значение до


#---
#Об отталкивании.
```

#
#Масса самого тела.
##Скорость и ускорение человека.
#Масса другого человека.
#Скорость и ускорение другого человека.
##На основе вышеприведенных четырех значений рассчитайте

#---
#Расчет общей мощности силы.
#
#---
#О гравитационном притяжении.
#(величина притяжения) = (универсальная гравитационная п
#---
#Отталкивание.
#(собственная сила индивида) = (собственная масса индиви
#(Силовая способность другого индивидуума) = (масса друг

#Сложение вышеупомянутых сил притяжения и отталкивания с
#На основе полученного баланса сил себя и других вычисли
#Вычислите новое физическое положение индивидуума, основ

#---
#Ускорение.
#(собственное ускорение человека) = ((собственная новая
#(ускорение другого индивидуума) = ((новая скорость друг
#
#Соотношение между количеством силы и ускорением.
#(собственное отталкивание индивидуума) = (собственная м
#(отталкивание другого индивида) = (масса другого индиви
#(величина взаимного притяжения между собой и другими) =
#
#(Направление взаимного притяжения между собой и другими
#Если знак положительный. Сам индивид притягивает к себе
#Если знак отрицательный. Сам индивид притягивает к себе
#
#
#Изменение скорости.
#(новая скорость) = (исходная скорость) + ((ускорение) *

#Изменение положения.
#(новое положение) = ((исходная скорость) * (продолжител

###########################

####プロセスベースの物質動作シミュレーションプログラムを動かすため
個体や粒子。それらが存在する空間。時間経過に伴う、それらの状態の

#空間地理的な情報。
#グローバルな地図情報。ローカルな地図情報。
##そのXY座標における、各種の引力と斥力の、合計や重なり合い。引力レ

#物質の構成要素としての、個体や粒子。
#ある個体における、内部属性や内部情報。
##その個体の、速度と加速度。その個体が行使する斥力の大きさ。
##その個体の、進行方向。
##その個体の、熱量。その個体の、発熱の度合いや温度。
##その個体の、位置のXY座標。
##その個体の、質量。単位体積当たりの質量。総質量。その個体が行使す
##その個体の、体積。その個体の、表面積。

#複数の個体の間における、相互作用。
##その個体に対して掛かる、引力と斥力の、合計。
##その個体が対外的に行使する、引力と斥力の、合計。それらの空間的な

##その個体と他の個体との衝突や接触。それらの個体の間における、引力
##双方の個体における、位置の同一性や重複性。

#そうした相互作用の発生時における、力量保存の法則。保存性の力とエネ
##その法則に従って、双方の個体同士の力の行使の後における、新たな速
##引力は、各々の個体における質量が変化しない限り、一定不変であるこ

#各々の個体における、引力や斥力の変化要因。
#引力の場合。その個体の質量が増減すること。
例。その個体が、より小さな複数の部分個体へと、割れて分裂し拡散す

#　例。その個体が、より大きな単一個体へと、相互結合し相互癒着するこ
#斥力の場合。その個体の速度や加速度が増減すること。その個体の熱量か

#流体。複数の個体が、互いに一つにまとまったスーパークラスの状態で、
#固体。複数の個体が、互いに一つにまとまったスーパークラスの状態で、

#静態。動かない個体は、周囲に対して、絶えず引力を及ぼしていること。
#　それは、周囲の個体を、それ自身へと引き寄せるように動かす力である
#　次に。それは、それ自身へと引き寄せられた周囲の個体を、それ自身の
#　それは、初期的あるいは中途的には、周囲の個体にとって、プラスの動
#　それは、終局的には、周囲の個体にとって、マイナスの動力であること

#動態。動く個体は、周囲に対して、斥力を及ぼしていること。それは、周

#圧力。
#　それ自身では動こうとしないある個体を動かそうとして、その個体の外
#　それ自身では止まろうとしないある個体を止めようとして、その個体の

#個体や粒子の動き方。直線運動。曲線運動。往復運動。波動。

#------
#プロセス間におけるデータ通信。それは、その個体自身と他個体との間に
#
#キューを通して、他のプロセスとしての他の個体と、各種データのやり取
#
#各プロセスにおいて。
#キューの入力と出力は、共に配列データとすること。
#プロセス内部で無限ループを実行して、外部からの入力の取得と、それに

#---
#キューの出力。
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、質量。
#その個体自身の、速度と加速度。
#その個体自身の、半径サイズ。

#－－－
#キューの入力。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、質量。
#他の個体の、速度と加速度。
#他の個体の、半径サイズ。

#－－－－－－
#プロセス内部における数値計算。
#
#
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、質量。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、質量。
#上記の４つの数値に基づいて、その他個体からの引力を、計算すること。
#
#
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、半径サイズ。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、半径サイズ。
#上記の４つの数値に基づいて、自他の衝突の有無を、計算すること。

#－－－
#引力について。
#
#引力の大きさ。
#その値は、自他の質量の積に、比例すること。
#その値は、自他の距離の２乗に、反比例すること。
#その値は、以下の手順で計算されること。
#（引力の大きさ）＝（万有引力定数）＊（（その個体自身の質量）＊（他
#万有引力定数。その値は、一定であること。

#－－－
#斥力について。

#
#その個体自身の、質量。
#その個体自身の、速度と加速度。
#他の個体の、質量。
#他の個体の、速度と加速度。
#上記の４つの数値に基づいて、自他の衝突時における、その個体自身が他

#−−−
#力量の総合計算。
#
#引力について。
#（引力の大きさ）=（万有引力定数）*（（その個体自身の質量）*（他
#
#斥力について。
#（その個体自身の力量）=（その個体自身の質量）*（その個体自身の加
#（他個体の力量）=（他個体の質量）*（他個体の加速度）
#
#上記の自他の引力と斥力とを、足し合わせること。
#その結果算出される自他の力量バランスを元に、その個体自身の、新たな
#その結果を元に、その個体自身の新たな物理的位置を、算出すること。
#
#加速度。
#（その個体自身の加速度）=（（その個体自身の新たな速度）ー（その個
#（他個体の加速度）=（（他個体の新たな速度）ー（他個体の元の速度）
#
#力量と加速度との関係。
#（その個体自身の斥力）=（その個体自身の質量）*（その個体自身の加
#（他個体の斥力）=（他個体の質量）*（他個体の加速度）
#（自他相互の引力の大きさ）=（万有引力定数）*（（その個体自身の質
#
#（自他相互の引力の向き）=（（その個体自身の質量）ー（他個体の質量
#その符号がプラスの場合。その個体自身が、他個体を、その個体自身へと
#その符号がマイナスの場合。その個体自身が、他個体へと引き寄せられる
#
#
#速度の変化。
#（新たな速度）=（元の速度）+（（加速度）*（経過時間の長さ））
#位置の変化。
#（新たな位置）=（（元の速度）*（経過時間の長さ））+（１／２）*

##########################

Komponenten, die zur Ausführung eines prozessbasier
Individuen und Partikel. Der Raum, in dem sie existier

#Räumliche geografische Informationen.
#Globale kartografische Informationen. Lokale kartografi
##Die Summe oder Überlagerung der verschiedenen Anziehun

#Ein Individuum oder Teilchen als Bestandteil der Materi
#Die inneren Eigenschaften und die inneren Informationen
##Geschwindigkeit und Beschleunigung eines Individuums.
##Die Richtung, in die sich das Individuum bewegt.
##Die vom Individuum erzeugte Wärmemenge. Der Grad der v
##Die XY-Koordinaten der Position des Individuums.
##Masse des Individuums. Masse pro Volumeneinheit. Die G
##Volumen des Individuums. Oberfläche eines Individuums.

##Die Wechselwirkung zwischen den Individuen.
##Die Summe der Anziehungs- und Abstoßungskräfte, die au
##Die Summe der äußeren Anziehungs- und Abstoßungskräfte

##Kollisionen und Kontakte zwischen dem Individuum und a
##Die Identität oder Überschneidung der Positionen der b

##Das Gesetz der Erhaltung der Kraft, wenn solche Wechse
##Die Berechnung der neuen Geschwindigkeit oder Beschleu
##Die Anziehungskraft ist konstant und unveränderlich, s

#Faktoren, die die Anziehungs- und Abstoßungskräfte in j
##Im Falle der Anziehung. Eine Zunahme oder Abnahme der
Beispiel. Das Aufbrechen, Aufspalten und Verteilen ein
Beispiel. Das Individuum fusioniert und verschmilzt mi
#Im Falle der Abstoßung. Eine Zunahme oder Abnahme der G

#Flüssig. Die Bewegung mehrerer Individuen in einer Ober

```
#Festkörper. Eine Superklasse von mehreren Individuen, c

#Statischer Zustand. Ein unbewegliches Individuum, das e
# Dass es eine Kraft ist, die das umgebende Individuum s
# Weiter. Dass es die Kraft ist, die bewirkt, dass die u
# Sie muss eine positive Kraft für die umgebenden Indivi
# Sie muss am Ende eine negative Kraft für die umgebende

#Dynamik. Dass ein sich bewegendes Individuum eine absto

#Druck.
# Eine Kraft, die von außen oder innen auf ein Individuu
# Eine Kraft, die von außen oder innen auf ein Individuu

#Die Art und Weise, wie sich ein Individuum oder ein Tei



#-----
#Datenkommunikation zwischen Prozessen. Das heißt, die D
#Warteschlange.
#Austausch verschiedener Daten mit anderen Individuen al
#
#In jedem Prozess.
#Die Eingabe und die Ausgabe der Warteschlange müssen be
##Um eine Endlosschleife innerhalb des Prozesses laufen

#---
#Ausgabe einer Warteschlange.
#Der physische Ort des Individuums selbst.
#Die Masse des Individuums.
#Die Geschwindigkeit und Beschleunigung des Individuums
#Die Größe des Radius des Individuums selbst.



#---
#Eingabe in die Warteschlange.
#Die physische Position eines anderen Individuums.
#Die Masse des anderen Individuums.
#Geschwindigkeit und Beschleunigung des anderen Individu
#Größe des Radius des anderen Individuums.
```

```
#-----
#Numerische Berechnung innerhalb des Prozesses.
#
#
#Die physische Position des Individuums selbst.
#Die Masse des Individuums selbst.
#Physikalische Position des anderen Individuums.
#Die Masse des anderen Individuums.
#Berechnen Sie die Anziehungskraft des anderen Individuu
#
#
#Die physische Position des Individuums selbst.
#Die Größe des Radius des Individuums selbst.
#Die physische Position des anderen Individuums.
#Die Größe des Radius des anderen Individuums.
#Berechne anhand der vier obigen Werte, ob eine Kollisio


#---
#Über die Gravitationskraft.
#
#Die Größe der Gravitationskraft.
#Der Wert ist proportional zum Produkt aus den Massen vo
#Der Wert ist umgekehrt proportional zum Quadrat des Abs
#Der Wert muss nach folgendem Verfahren berechnet werden
#(Größe der Anziehung) = (universelle Gravitationskonsta

#Die universelle Gravitationskonstante. Ihr Wert muss ko


#---
#Über die Abstoßung.
#
#Die Masse des Körpers selbst.
##Die Geschwindigkeit und Beschleunigung des Individuums
#Die Masse eines anderen Individuums.
#Geschwindigkeit und Beschleunigung des anderen Individu
```

```
##Berechnen Sie auf der Grundlage der vier oben genannte


#---
#Berechnung der gesamten Kraftkapazität.
#
#---
#Über die Anziehungskraft der Schwerkraft.
#(Größe der Anziehung) = (universelle Gravitationskonsta
#---
#Über die Abstoßung.
#(eigenes Kraftvermögen des Individuums) = (eigene Masse
#(Kraftkapazität des anderen Individuums) = (Masse des a

#Addiert man die oben genannten Anziehungs- und Abstoßur
#Berechnen Sie auf der Grundlage des sich ergebenden Gle
#Berechne die neue physische Position des Individuums ba

#---
#Beschleunigung.
#(die eigene Beschleunigung) = ((die eigene neue Geschwi
#(Beschleunigung des anderen Individuums) = ((neue Gesch
#
#Relation zwischen Kraft und Beschleunigung.
#(eigene Abstoßung des Individuums) = (eigene Masse des
#(Abstoßung des anderen Individuums) = (Masse des andere
#(Größe der gegenseitigen Anziehung zwischen sich selbst
#
#(Richtung der gegenseitigen Anziehung zwischen sich sel
#Wenn das Vorzeichen positiv ist. Das Individuum selbst
#Wenn das Vorzeichen negativ ist. Das Individuum selbst
#
#
#Änderung der Geschwindigkeit.
#(neue Geschwindigkeit) = (ursprüngliche Geschwindigkeit
#Änderung der Position.
#(neue Position) = ((ursprüngliche Geschwindigkeit) * (I
```

##########################

Composants nécessaires à l'exécution d'un programme
Individus et particules. L'espace dans lequel ils exis

#Informations géographiques spatiales.
#Informations cartographiques globales. Information cart
##La somme ou la superposition des différentes forces d'

#Un individu ou une particule en tant que constituant de
#Les attributs internes et les informations internes d'u
##La vitesse et l'accélération d'un individu. L'ampleur
##La direction dans laquelle l'individu se déplace.
##La quantité de chaleur générée par l'individu. Le degr
##Les coordonnées XY de la position de l'individu.
##Masse de l'individu. Masse par unité de volume. La mas
##Volume de l'individu. Surface d'un individu.

##L'interaction entre les individus.
##La somme des forces d'attraction et de répulsion exerc
##La somme des forces externes d'attraction et de répuls

##Collisions et contacts entre l'individu et d'autres in
##L'identité ou le chevauchement des positions des deux

##La loi de conservation de la force lors de ces interac
##Calculer, pour chaque individu, la nouvelle vitesse ou
##La force de répulsion est constante et invariante tant

#Les facteurs qui modifient les forces d'attraction et d
##Dans le cas de l'attraction. Une augmentation ou une d
Exemple. L'éclatement, la division et la diffusion d'u
Exemple. Les individus fusionnent et s'unissent les un
#Dans le cas de la répulsion. Une augmentation ou une di

#Fluide. Le mouvement de plusieurs individus dans une su
#Solide. Une superclasse d'individus multiples qui sont

```
#État statique. Un individu immobile exerçant une force
# Qu'il s'agit d'une force qui déplace l'individu enviro
# Suivant. Que c'est la force qui fait que les individus
# Qu'elle soit une force positive pour les individus qui
# Elle doit être une force négative pour les individus q

#Dynamique. Qu'un individu en mouvement exerce une force

#La pression.
# Une force appliquée de l'extérieur ou de l'intérieur d
# Une force appliquée de l'extérieur ou de l'intérieur d

#La façon dont un individu ou une particule se déplace.


#-----
#Communication de données entre processus. C'est-à-dire
#File d'attente.
#Échange de diverses données avec d'autres individus ou
#
#Dans chaque processus.
#L'entrée et la sortie de la file d'attente doivent être
##Pour exécuter une boucle infinie à l'intérieur du proc

#---
#Sortie d'une file d'attente.
#L'emplacement physique de l'individu lui-même.
#La masse de l'individu.
#La vitesse et l'accélération de l'individu.
#La taille du rayon de l'individu lui-même.


#---
#Entrée de la file d'attente.
#L'emplacement physique d'un autre individu.
#La masse de l'autre individu.
#La vitesse et l'accélération de l'autre individu.
#La taille du rayon de l'autre individu.
```

```
#-----
#Calcul numérique à l'intérieur du processus.
#
#
#La position physique de l'individu lui-même.
#La masse de l'individu lui-même.
#La position physique de l'autre individu.
#La masse de l'autre individu.
#Calculez la force d'attraction de l'autre individu en f
#
#
#La position physique de l'individu lui-même.
#La taille du rayon de l'individu lui-même.
#La position physique de l'autre individu.
#La taille du rayon de l'autre individu.
#Calculer s'il y a ou non une collision entre lui-même e


#---
#A propos de la force gravitationnelle.
#
#L'ampleur de la force gravitationnelle.
#La valeur est proportionnelle au produit des masses de
#La valeur est inversement proportionnelle au carré de l
#La valeur doit être calculée par la procédure suivante.
#(magnitude de l'attraction) = (constante universelle de

#La constante universelle de gravitation. Sa valeur doit


#---
#A propos de la répulsion.
#
#La masse du corps lui-même.
##La vitesse et l'accélération de l'individu.
#La masse d'un autre individu.
#La vitesse et l'accélération de l'autre individu.
##Sur la base des quatre valeurs ci-dessus, calculez la
```

```
#---
#Calcul de la capacité de force totale.
#
#---
#A propos de l'attraction gravitationnelle.
#(magnitude de l'attraction) = (constante universelle de
#---
#A propos de la répulsion.
#(capacité de force de l'individu) = (masse de l'indivic
#(Capacité de force de l'autre individu) = (masse de l'a

#En additionnant les forces d'attraction et de répulsior
#En se basant sur l'équilibre des forces de soi et des a
#Calculer la nouvelle position physique de l'individu er

#---
#Accélération.
#(accélération de l'individu) = ((nouvelle vitesse de l'
#(accélération de l'autre individu) = ((nouvelle vitesse
#
#Relation entre la quantité de force et l'accélération.
#(répulsion de l'individu) = (masse de l'individu) * (ac
#(répulsion de l'autre individu) = (masse de l'autre inc
#(magnitude de l'attraction mutuelle entre soi et les au
#
#(Direction de l'attraction mutuelle entre soi et les au
#Si le signe est positif. L'individu lui-même attire les
#Lorsque le signe est négatif. L'individu lui-même est a
#
#
#Changement de vitesse.
#(nouvelle vitesse) = (vitesse initiale) + ((accélératic
#Changement de position.
#(nouvelle position) = ((vitesse initiale) * (durée du t
```

##########################

Componentes necessários para executar um programa c
Indivíduos e partículas. O espaço em que eles existem.

#Informações geográficas espaciais.
#Informações cartográficas globais. Informações cartográ
##A soma ou a superposição das várias forças de atração

#Um indivíduo ou partícula como um constituinte da matér
#Os atributos internos e as informações internas de um i
##Velocidade e aceleração de um indivíduo. A magnitude c
##A direção na qual o indivíduo está se movendo.
##A quantidade de calor gerada pelo indivíduo. O grau de
##As coordenadas XY da posição do indivíduo.
##Massa do indivíduo. Massa por unidade de volume. Massa
##Volume do indivíduo. Área de superfície de um indivídu

##A interação entre os indivíduos.
##A soma das forças de atração e repulsão exercidas sobr
##A soma das forças externas de atração e repulsão exerc

##Colisões e contatos entre o indivíduo e outros indivíd
##A identidade ou sobreposição de posições de ambos os i

##A lei de conservação da força quando essas interações
##Calcular, para cada indivíduo, a nova velocidade ou ac
##A força de atração é constante e invariável, desde que

#Fatores que alteram as forças de atração e repulsão em
##No caso da atração. Um aumento ou uma diminuição na ma
Exemplo. A quebra, a divisão e a difusão de um indivíd
Exemplo. O indivíduo se funde e se funde com os outros
#No caso de repulsão. Um aumento ou uma diminuição na ve

#Fluido. O movimento de vários indivíduos em uma supercl
#Sólido. Uma superclasse de vários indivíduos que são ur

```
#Estado estático. Um indivíduo imóvel que exerce uma for
# Que é uma força que move o indivíduo ao redor de forma
# Próximo. Que é a força que faz com que os indivíduos a
# Deve ser uma força positiva para os indivíduos ao redo
# Deve ser uma força negativa para os indivíduos ao redo

#Dinâmica. Que um indivíduo em movimento exerce uma forç

#Pressão.
# Uma força aplicada de fora ou de dentro de um indivídu
# Uma força aplicada de fora ou de dentro de um indivídu

#A maneira como um indivíduo ou partícula se move. Movim



#-----
#Comunicação de dados entre processos. Ou seja, a comuni
#Fila.
#Troca de vários dados com outros indivíduos e outros pr
#
#Em cada processo.
#A entrada e a saída da fila devem ser dados de matriz.
##Para executar um loop infinito dentro do processo e re

#---
#Saída de uma fila.
#A localização física do próprio indivíduo.
#A massa do indivíduo.
#A velocidade e a aceleração do próprio indivíduo.
#O tamanho do raio do próprio indivíduo.


#---
#Entrada da fila.
#A localização física de outro indivíduo.
#A massa do outro indivíduo.
#Velocidade e aceleração do outro indivíduo.
#Tamanho do raio do outro indivíduo.
```

```
#-----
#Cálculo numérico dentro do processo.
#
#
#A posição física do próprio indivíduo.
#A massa do próprio indivíduo.
#Localização física do outro indivíduo.
#A massa do outro indivíduo.
#Calcule a força de atração do outro indivíduo com base
#
#
#A posição física do próprio indivíduo.
#O tamanho do raio do próprio indivíduo.
#A localização física do outro indivíduo.
#O tamanho do raio do outro indivíduo.
#Calcule se há ou não uma colisão entre ele e o outro co


#---
#Sobre a força gravitacional.
#
#A magnitude da força gravitacional.
#O valor é proporcional ao produto das massas de si mesm
#O valor é inversamente proporcional ao quadrado da dist
#O valor deve ser calculado pelo seguinte procedimento.
#(magnitude da atração) = (constante gravitacional unive

#A constante gravitacional universal. Seu valor deve ser


#---
#Sobre a repulsão.
#
#A massa do próprio corpo.
##A velocidade e a aceleração do indivíduo.
#A massa de outro indivíduo.
#Velocidade e aceleração do outro indivíduo.
##Com base nos quatro valores acima, calcule a quantidad
```

```
#---
#Cálculo da capacidade de força total.
#
#---
#Sobre a atração gravitacional.
#(magnitude da atração) = (constante gravitacional unive
#---
#Sobre a repulsão.
#(a capacidade de força do próprio indivíduo) = (a massa
#(Capacidade de força do outro indivíduo) = (massa do ou

#Somando as forças de atração e repulsão de si mesmo e o
#Com base no equilíbrio resultante das forças de si mesm
#Calcule a nova posição física do indivíduo com base no

#---
#Aceleração.
#(a aceleração do próprio indivíduo) = ((a nova velocida
#(aceleração do outro indivíduo) = ((nova velocidade do
#
#Relação entre a quantidade de força e a aceleração.
#(a repulsão do próprio indivíduo) = (a massa do próprio
#(repulsão do outro indivíduo) = (massa do outro indivíd
#(magnitude da atração mútua entre o eu e os outros) = (
#
#(Direção da atração mútua entre o eu e os outros) = mai
#Se o sinal for positivo. O próprio indivíduo atrai outr
#Quando o sinal for negativo. O próprio indivíduo é atra
#
#
#Mudança na velocidade.
#(nova velocidade) = (velocidade original) + ((aceleraçã
#Mudança de posição.
#(nova posição) = ((velocidade original) * (duração do t
```

##########################

Componentes necesarios para ejecutar un programa de
Individuos y partículas. El espacio en el que existen.

#Información geográfica espacial.
#Información cartográfica global. Información cartográfi
#La suma o superposición de las distintas fuerzas de atr

#Un individuo o partícula como constituyente de la mater
#Los atributos internos y la información interna de un i
##Velocidad y aceleración de un individuo. La magnitud c
##La dirección en la que se mueve el individuo.
##La cantidad de calor generada por el individuo. El gra
##Las coordenadas XY de la posición del individuo.
##Masa del individuo. Masa por unidad de volumen. Masa t
##Volumen del individuo. Superficie del individuo.

##La interacción entre individuos.
##La suma de las fuerzas de atracción y repulsión ejerci
##La suma de las fuerzas externas de atracción y repulsi

##Colisiones y contactos entre el individuo y otros indi
##La identidad o superposición de posiciones de ambos ir

##La ley de conservación de la fuerza cuando se producen
##Calcular, para cada individuo, la nueva velocidad o ac
##La fuerza de atracción es constante e invariante mient

#Factores que modifican las fuerzas de atracción y repul
##En el caso de la atracción. Un aumento o disminución c
#Ejemplo. La ruptura, división y difusión de un individu
Ejemplo. El individuo se fusiona y se funde con los de
#En el caso de la repulsión. Un aumento o disminución de

#Fluido. El movimiento de múltiples individuos en una su
#Sólido. Superclase de múltiples individuos que se unen

```
#Estado estático. Un individuo inmóvil que ejerce una fu
# Que es una fuerza que mueve al individuo circundante c
# Siguiente. Que es la fuerza que hace que los individuo
# Que sea una fuerza positiva para los individuos circur
# Debe ser una fuerza negativa para los individuos circu

#Dinámica. Que un individuo en movimiento ejerza una fue

#Presión.
# Una fuerza aplicada desde fuera o dentro de un individ
#Fuerza aplicada desde fuera o dentro de un individuo pa

#La forma en que se mueve un individuo o partícula. Movi



#-----
#Comunicación de datos entre procesos. Es decir, comunic
#Cola.
#Intercambio de datos diversos con otros individuos como
#
#En cada proceso.
#La entrada y la salida de la cola deben ser ambas datos
##Ejecutar un bucle infinito dentro del proceso, y repet

#---
#Salida de una cola.
#La ubicación física del propio individuo.
#La masa del individuo.
#La velocidad y aceleración del propio individuo.
#El tamaño del radio del propio individuo.


#---
#Entrada de cola.
#La ubicación física de otro individuo.
#La masa del otro individuo.
#Velocidad y aceleración del otro individuo.
#Tamaño del radio del otro individuo.
```

```
#-----
#Cálculo numérico dentro del proceso.
#
#
#La posición física del propio individuo.
#La masa del propio individuo.
#La posición física del otro individuo.
#La masa del otro individuo.
#Calcular la fuerza de atracción del otro individuo en b
#
#
#La posición física del propio individuo.
#El tamaño del radio del propio individuo.
#La posición física del otro individuo.
#El tamaño del radio del otro individuo.
#Calcular si hay o no colisión entre el propio individuo


#---
#Sobre la fuerza gravitacional.
#
#La magnitud de la fuerza gravitatoria.
#El valor es proporcional al producto de las masas propi
#El valor es inversamente proporcional al cuadrado de la
#El valor debe calcularse mediante el siguiente procedim
#(magnitud de la atracción) = (constante gravitatoria un

#La constante gravitatoria universal. Su valor debe ser


#---
#Sobre la repulsión.
#
#La masa del propio cuerpo.
##La velocidad y aceleración del individuo.
#La masa de otro individuo.
#Velocidad y aceleración del otro individuo.
```

```
##En base a los cuatro valores anteriores, calcula la ca


#---
#Cálculo de la capacidad de fuerza total.
#
#---
#De la atracción gravitatoria.
#(magnitud de la atracción) = (constante gravitatoria un
#---
#Sobre la repulsión.
#(capacidad de fuerza del propio individuo) = (masa del
#(Capacidad de fuerza del otro individuo) = (masa del ot

#Sumando las fuerzas mencionadas de atracción y repulsió
#En base al equilibrio resultante de las fuerzas propias
#Calcular la nueva posición física del individuo basada

#---
#Aceleración.
#(aceleración del propio individuo) = ((nueva velocidad
#(aceleración del otro individuo) = ((nueva velocidad de
#
#Relación entre cantidad de fuerza y aceleración.
#(repulsión del propio individuo) = (masa del propio ind
#(repulsión del otro individuo) = (masa del otro individ
#(magnitud de la atracción mutua entre el individuo y lo
#
#(Dirección de la atracción mutua entre uno mismo y los
#Si el signo es positivo. El propio individuo atrae haci
#Si el signo es negativo. El propio individuo es atraído
#
#
#Cambio de velocidad.
#(nueva velocidad) = (velocidad original) + ((aceleració
#Cambio de posición.
#(nueva posición) = ((velocidad original) * (duración de
```

###########################

Komponen yang diperlukan untuk menjalankan program
Individu dan partikel. Ruang tempat mereka berada. Tra

#Informasi geografis spasial.
#Informasi kartografi global. Informasi kartografi lokal
##Jumlah atau superposisi dari berbagai gaya tarik dan g

#Sebuah individu atau partikel sebagai penyusun materi.
#Atribut internal dan informasi internal individu.
##Kecepatan dan percepatan suatu individu. Besarnya gaya
##Arah pergerakan individu.
##Jumlah panas yang dihasilkan oleh individu. Tingkat pa
Koordinat XY dari posisi individu.
##Massa individu. Massa per satuan volume. Massa total.
##Volume individu. Luas permukaan individu.

##Interaksi antar individu.
##Jumlah gaya tarik dan gaya tolak yang diberikan pada i
##Jumlah gaya tarik dan tolak eksternal yang diberikan o

##Tabrakan dan kontak antara individu dengan individu la
##Identitas atau tumpang tindih posisi kedua individu.

##Hukum kekekalan gaya ketika interaksi tersebut terjadi
##Untuk menghitung, untuk setiap individu, kecepatan ata
##Gaya tarik-menarik adalah konstan dan tidak berubah-ub

#Faktor-faktor yang mengubah gaya tarik dan gaya tolak p
##Dalam kasus daya tarik. Peningkatan atau penurunan mas
Contoh. Pecahnya, terpecahnya, dan menyebarnya suatu i
Contoh. Individu bergabung dan menyatu satu sama lain
#Dalam kasus tolakan. Peningkatan atau penurunan kecepat

#Cairan. Pergerakan beberapa individu dalam satu superke
#Padat. Superkelas yang terdiri dari beberapa individu y

#Keadaan statis. Sebuah benda yang tidak bergerak yang m
Bahwa itu adalah gaya yang menggerakkan individu di se
Selanjutnya. Bahwa itu adalah kekuatan yang menyebabka
Itu harus menjadi kekuatan positif bagi individu-indiv
Ini harus menjadi kekuatan negatif bagi individu-indiv

#Dinamika. Bahwa individu yang bergerak memberikan kekua

Tekanan.
Sebuah gaya yang diterapkan dari luar atau dalam indiv
Gaya yang diberikan dari luar atau dalam individu untu

#Cara sebuah individu atau partikel bergerak. Gerak lini

#-----
#Komunikasi data antar proses. Yaitu, komunikasi data an
#Antrian.
#Pertukaran berbagai data dengan individu lain sebagai p
#
#Dalam setiap proses.
#Masukan dan keluaran dari antrian harus berupa data arr
##Untuk menjalankan perulangan tak terbatas di dalam pro

#---
#Keluaran dari sebuah antrian.
#Lokasi fisik individu itu sendiri.
#Massa dari individu tersebut.
#Kecepatan dan percepatan individu itu sendiri.
#Ukuran radius individu itu sendiri.

#---
#Input antrian.
#Lokasi fisik individu lain.
#Massa individu lain.
#Kecepatan dan percepatan individu lain.
#Ukuran radius individu lain.

```
#-----
#Perhitungan numerik di dalam proses.
#
#
#Posisi fisik individu itu sendiri.
#Massa dari individu itu sendiri.
#Lokasi fisik individu lain.
#Massa individu lain.
#Hitung gaya tarik dari individu lain berdasarkan empat
#
#
#Posisi fisik individu itu sendiri.
#Ukuran jari-jari individu itu sendiri.
#Lokasi fisik individu lain.
#Ukuran radius individu lain.
#Menghitung ada tidaknya tabrakan antara dirinya dengan


#---
#Tentang gaya gravitasi.
#
#Besarnya gaya gravitasi.
#Nilainya sebanding dengan hasil kali massa diri sendiri
#Nilainya berbanding terbalik dengan kuadrat jarak antar
#Nilai harus dihitung dengan prosedur berikut.
#(besarnya daya tarik) = (konstanta gravitasi universal)

#Konstanta gravitasi universal. Nilainya harus konstan.


#---
#Tentang tolakan.
#
#Massa tubuh itu sendiri.
# Kecepatan dan percepatan individu.
#Massa individu lain.
#Kecepatan dan percepatan individu lain.
##Berdasarkan empat nilai di atas, hitunglah jumlah gaya
```

```
#---
##Perhitungan kapasitas gaya total.
#
#---
#Tentang daya tarik gravitasi.
#(besarnya daya tarik) = (konstanta gravitasi universal)
#---
#Tentang tolakan.
#(kapasitas gaya individu itu sendiri) = (massa individu
#(Kapasitas gaya individu lain) = (massa individu lain)

#Jumlahkan gaya tarik dan gaya tolak diri sendiri dan or
#Berdasarkan keseimbangan yang dihasilkan dari gaya diri
#Hitung posisi fisik baru individu berdasarkan hasil di

#---
#Akselerasi.
#(percepatan individu itu sendiri) = ((kecepatan baru in
#(percepatan individu lain) = ((kecepatan baru individu
#
#Hubungan antara jumlah gaya dan percepatan.
#(tolakan individu itu sendiri) = (massa individu itu se
#(tolakan individu lain) = (massa individu lain) * (perc
#(besarnya gaya tarik-menarik antara diri sendiri dan or
#
#(Arah daya tarik timbal balik antara diri sendiri dan o
#Jika tandanya positif. Individu itu sendiri menarik ind
#Jika tandanya negatif. Individu itu sendiri tertarik pa
#
#
#Perubahan kecepatan.
#(kecepatan baru) = (kecepatan awal) + ((percepatan) * (
#Perubahan posisi.
#(posisi baru) = ((kecepatan asli) * (lama waktu yang te
```

##########################

Süreç tabanlı bir malzeme davranışı simülasyon prog
Bireyler ve parçacıklar. İçinde bulundukları uzay. Zam

#Mekansal coğrafi bilgi.
#Küresel kartografik bilgi. Yerel kartografik bilgi.
##XY koordinatlarındaki çeşitli çekim ve itme kuvvetleri

#Maddenin bir bileşeni olarak bir birey veya parçacık.
#Bir bireyin içsel nitelikleri ve içsel bilgileri.
##Bir bireyin hızı ve ivmesi. Birey tarafından uygulanan
##Bireyin hareket ettiği yön.
##Birey tarafından üretilen ısı miktarı. Birey tarafında
##Bireyin konumunun XY koordinatları.
##Bireyin kütlesi. Birim hacim başına kütle. Toplam kütl
##Bireyin hacmi. Bireyin yüzey alanı.

##Bireyler arasındaki etkileşim.
##Bireye uygulanan çekim ve itme kuvvetlerinin toplamı.
##Birey tarafından uygulanan dış çekim ve itme kuvvetler

##Birey ve diğer bireyler arasındaki çarpışmalar ve tema
##Her iki bireyin pozisyonlarının özdeşliği ya da örtüşm

##Bu tür etkileşimler meydana geldiğinde kuvvetin korunu
##Bu yasaya göre iki birey arasındaki kuvvetlerin uygula
##Her bireyin kütlesi değişmediği sürece itme kuvveti sa

#Her bireydeki çekim ve itme kuvvetlerini değiştiren fak
##Çekim durumunda. Bireyin kütlesinde bir artış veya aza
#Örnek. Bir bireyin parçalanması, bölünmesi ve birden fa
Örnek. Bireyler birbirlerine bağlanarak ve karşılıklı
#İtme durumunda. Bireyin hızında ya da ivmesinde bir art

#Akışkan. Birden fazla bireyin, şekillerinin değişkenliğ
#Katı. Şekillerinin sabitliğini koruyarak birbirleriyle

```
#Statik durum. Çevresine sabit bir çekim kuvveti uygulay
# Çevresindeki bireyi kendisine doğru çekecek şekilde ha
# Sonraki. Kendisine doğru çekilen çevredeki bireylerin
# Çevresindeki bireyler için ya başlangıçta ya da ortada
# Sonunda çevresindeki bireyler için negatif bir güç olm

#Dinamik. Hareket eden bir bireyin çevresine itici bir k

#Basınç.
# Kendi başına hareket etmeyen bir bireyi hareket ettirm
# Kendi kendine durmayan bir bireyi durdurmak için bir b

#Bir bireyin veya parçacığın hareket etme şekli. Doğrusa


#-----
#Süreçler arası veri iletişimi. Yani, bireyin kendisi il
#Kuyruk.
#Kuyruklar aracılığıyla diğer süreçler olarak diğer bire
#
#Her işlemde.
#Kuyruğun girdisi ve çıktısının her ikisi de dizi verisi
##Sürecin içinde sonsuz bir döngü çalıştırmak ve dışarıd

#---
#Bir kuyruğun çıktısı.
#Bireyin kendisinin fiziksel konumu.
#Bireyin kütlesi.
#Bireyin kendi hızı ve ivmesi.
#Bireyin kendisinin yarıçap boyutu.


#---
#Kuyruk girişi.
#Başka bir bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin kütlesi.
#Diğer bireyin hızı ve ivmesi.
#Diğer bireyin yarıçap boyutu.
```

```
#-----
#İşlem içinde sayısal hesaplama.
#
#
#Bireyin fiziksel konumu.
#Bireyin kendi kütlesi.
#Diğer bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin kütlesi.
#Yukarıdaki dört değere dayanarak diğer bireyden gelen ç
#
#
#Bireyin kendisinin fiziksel konumu.
#Bireyin kendisinin yarıçap boyutu.
#Diğer bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin yarıçap boyutu.
#Yukarıdaki dört değere dayanarak kendisi ve bir başkası


#---
#Yerçekimi kuvveti hakkında.
#
#Yerçekimi kuvvetinin büyüklüğü.
#Değer, benlik ve diğerlerinin kütlelerinin çarpımıyla o
#Değer, benlik ve diğeri arasındaki mesafenin karesi ile
#Değer aşağıdaki prosedürle hesaplanmalıdır.
#(Çekimin büyüklüğü) = (evrensel çekim sabiti) * ((birey

#Evrensel yerçekimi sabiti. Değeri sabit olmalıdır.


#---
#İtme hakkında.
#
#Vücudun kendi kütlesi.
##Bireyin hızı ve ivmesi.
#Başka bir bireyin kütlesi.
#Diğer bireyin hızı ve ivmesi.
##Yukarıdaki dört değere dayanarak, kendisi ile diğer bi
```

```
#---
#Toplam kuvvet kapasitesinin hesaplanması.
#
#---
#Yerçekimsel çekim hakkında.
#(çekimin büyüklüğü) = (evrensel çekim sabiti) * ((birey
#---
#İtme hakkında.
#(bireyin kendi kuvvet kapasitesi) = (bireyin kendi kütl
#(Diğer bireyin kuvvet kapasitesi) = (diğer bireyin kütl

#Yukarıda bahsedilen benlik ve diğerlerinin çekim ve iti
#Benlik ve diğerlerinin kuvvetlerinin ortaya çıkan denge
#Yukarıdakilerin sonucuna dayanarak bireyin kendi yeni f

#---
#İvme.
#(bireyin kendi ivmesi) = ((bireyin kendi yeni hızı) - (
#(diğer bireyin ivmesi) = ((diğer bireyin yeni hızı) - (
#
#Kuvvet miktarı ve ivme arasındaki ilişki.
#(bireyin kendi itme kuvveti) = (bireyin kendi kütlesi)
#(diğer bireyin itme kuvveti) = (diğer bireyin kütlesi)
#(benlik ve diğerleri arasındaki karşılıklı çekimin büyü
#
#(Kendisi ve diğerleri arasındaki karşılıklı çekimin yön
#İşaret pozitifse. Bireyin kendisi diğer bireyleri kendi
#İşaret negatif olduğunda. Bireyin kendisi diğer bireye
#
#
#Hızdaki değişim.
#(yeni hız) = (orijinal hız) + ((ivme) * (geçen süre))
#Pozisyon değişikliği.
#(yeni konum) = ((orijinal hız) * (geçen sürenin uzunluğ
```

##########################

공정 기반 재료 거동 시뮬레이션 프로그램을 실행하는 데 필요한
개체 및 입자. 입자가 존재하는 공간. 시간에 따른 상태의 변화.

#공간 지리 정보.
#글로벌 지도 제작 정보. 지역 지도 제작 정보.
##XY 좌표에서 다양한 인력 및 반발력의 합 또는 중첩. 인력 레이더.

#물질의 구성 요소로서의 개체 또는 입자.
#개체의 내부 속성 및 내부 정보.
##개체의 속도와 가속도. 개체가 가하는 반발력의 크기.
##개체가 이동하는 방향.
#개체에서 발생하는 열의 양. ##개체에서 발생하는 열의 양입니다. 개
##개체 위치의 XY 좌표입니다.
##개체의 질량. 단위 부피당 질량입니다. 총 질량입니다. 개체가 가하
##개체의 부피. 개체의 표면적.

##개체 간의 상호작용.
##개체에 가해지는 인력과 반발력의 합입니다.
##개체에 가해지는 외부 인력과 반발력의 합입니다. 공간 분포.

##개인과 다른 개인 간의 충돌 및 접촉. 해당 개인들 간의 인력 및 반
##두 개체의 동일성 또는 위치의 겹침.

##이러한 상호작용이 일어날 때 적용되는 힘의 보존 법칙. 보수적인 힘
##이 법칙에 따라 두 개체 사이에 힘이 작용한 후 각 개체에 대해 새
##인력은 각 개체의 질량이 변하지 않는 한 일정하고 불변합니다.

#각 개체의 인력 및 반발력을 변화시키는 요인.
##인력의 경우. 개체의 질량이 증가하거나 감소합니다.
예시. 한 개체가 여러 개의 작은 하위 개체로 분리, 분할, 확산되는
예시. 개체는 서로 결합하고 상호 접착하여 더 큰 단일 개체로 합처
#반발의 경우. 개체의 속도 또는 가속도의 증가 또는 감소. 해당 개처

#유체. 하나의 슈퍼클래스에 속하는 여러 개체가 서로 다른 모양을 유
#고체. 모양을 일정하게 유지하면서 가만히 서 있거나 구르면서 서로

#정적 상태. 움직이지 않는 개체가 주변 환경에 일정한 중력을 가하는
주변 개체를 자기 쪽으로 끌어당기는 방식으로 주변 개체를 움직이는
다음. 자기에게 끌려온 주변 개체를 자기 아래에 고정시키고 움직이
처음에는 또는 중간에는 주변 개체에게 긍정적인 힘이어야 합니다.
결국에는 주변 개인에게 부정적인 힘이 되어야 합니다. 부정적인 역

#역학. 움직이는 개체가 주변에 반발력을 가하는 것입니다. 주변 개체

#압력.
스스로 움직이지 않는 개체를 움직이기 위해 개체의 외부 또는 내부
스스로 멈추지 않는 개체를 멈추게 하기 위해 개체의 외부 또는 내

#개체 또는 입자가 움직이는 방식. 직선 운동. 곡선 운동. 왕복 운동

#------
#프로세스 간 데이터 통신. 즉, 개인 자체와 다른 개인 간의 데이터
#대기열.
#대기열을 통해 다른 프로세스로서 다른 개인과 다양한 데이터를 교환
#
#각 프로세스.
#큐의 입력과 출력은 모두 배열 데이터여야 합니다.
##프로세스 내부에서 무한 루프를 실행하고 외부로부터 입력을 획득하

#---
#대기열의 #출력.
#개인 자체의 물리적 위치.
#개체의 질량.
#개체의 자체 속도 및 가속도.
#개체 자체의 반경 크기.

#---
#대기열 입력.
#다른 개체의 물리적 위치.
#다른 개체의 질량.
#다른 개체의 #속도 및 가속도.
#다른 개체의 #반경 크기.

```
#------
#프로세스 내부의 수치 계산.
#
#
#개체 자체의 물리적 위치.
#개체 자체의 질량.
#다른 개체의 #물리적 위치.
#다른 개체의 질량.
#위의 네 가지 값을 바탕으로 다른 개체의 인력을 계산합니다.
#
#
#개체 자체의 물리적 위치.
#개체 자체의 반경 크기.
#다른 개체의 물리적 위치.
#다른 개체의 반경 크기입니다.
#위의 네 가지 값을 기반으로 자신과 다른 개체 간의 충돌 여부를 계


#---
#중력에 대한 정보입니다.
#
#중력의 크기입니다.
#이 값은 자신과 타인의 질량의 곱에 비례합니다.
#자신과 상대방 사이의 거리의 제곱에 반비례하는 값입니다.
#이 값은 다음 절차에 따라 계산해야 합니다.
#(인력의 크기) = (만유인력의 상수) * ((개체의 질량) * (상대방의

#만유인력의 상수. 이 값은 일정해야 합니다.



#---
#반발력에 대해.
#
#몸 자체의 질량.
##개체의 속도와 가속도.
#다른 개체의 질량.
#다른 개체의 #속도 및 가속도.
##위의 네 가지 값을 바탕으로, 자신과 다른 개체가 충돌할 때 자신과
```

```
#---
#총 힘의 용량을 계산합니다.
#
#---
#중력에 대한 정보.
#(인력의 크기) = (만유인력의 상수) * ((개체 자체의 질량) * (다
#---
#반발력에 대해
#(개체 자체의 힘 용량) = (개체 자체의 질량) * (개체 자체의 가속
#(다른 개체의 힘 용량) = (다른 개체의 질량)*(다른 개체의 가속도

#위에서 언급한 자신과 타인의 인력과 반발력을 합산합니다.
#자신과 다른 사람의 힘의 결과 균형을 바탕으로 개인의 새로운 속도
#위의 결과를 바탕으로 개인의 새로운 물리적 위치를 계산합니다.

#---
#가속도.
#(개인 자신의 가속도) = ((개인 자신의 새로운 속도) - (개인 자신
#(다른 개체의 가속도) = ((다른 개체의 새 속도) - (다른 개체의
#
#힘의 양과 가속도 사이의 관계.
#(개체의 자체 반발력) = (개체의 자체 질량) * (개체의 자체 가속
#(다른 개체의 반발력) = (다른 개체의 질량) * (다른 개체의 가속
#(자기와 다른 개체 사이의 상호 인력 크기) = (만유인력의 상수) *
#
#(자기와 다른 개체 사이의 상호 인력 방향) = ((개체 자체의 질량)
#부호가 양수인 경우. 개체 자체가 다른 개체를 자기 쪽으로 끌어당
#부호가 음수인 경우. 개체 자체가 다른 개체를 끌어당깁니다.
#
#
#속도의 변화.
#(새 속도) = (원래 속도) + ((가속도) * (경과된 시간))
#위치 변경.
#(새 위치) = ((원래 속도) * (경과 시간 길이)) + (1/2) * (가
```

##########################

Componenti necessari per eseguire un programma di s
Individui e particelle. Lo spazio in cui esistono. Le

#Informazioni geografiche spaziali.
#Informazioni cartografiche globali. Informazioni cartog
##La somma o la sovrapposizione delle varie forze di att

#Un individuo o una particella come costituente della ma
#Gli attributi interni e le informazioni interne di un i
##Velocità e accelerazione di un individuo. L'entità del
##La direzione in cui l'individuo si muove.
##La quantità di calore generata dall'individuo. Il grad
##Le coordinate XY della posizione dell'individuo.
##Massa dell'individuo. Massa per unità di volume. Massa
##Volume dell'individuo. Superficie di un individuo.

##L'interazione tra gli individui.
##La somma delle forze di attrazione e repulsione eserci
##La somma delle forze esterne di attrazione e repulsion

##Collisioni e contatti tra l'individuo e altri individu
##L'identità o la sovrapposizione delle posizioni di ent

##La legge di conservazione della forza quando si verifi
##Calcolare, per ogni individuo, la nuova velocità o acc
##La forza di attrazione è costante e invariante finché

#Fattori che modificano le forze di attrazione e repulsi
##Nel caso dell'attrazione. Un aumento o una diminuzione
#Esempio. La scomposizione, la divisione e la diffusione
Esempio. L'individuo si fonde e si confonde con l'altr
#Nel caso della repulsione. Un aumento o una diminuzione

#Fluido. Il movimento di più individui in una superclass
#Solido. Una superclasse di individui multipli che si un

#Stato statico. Un individuo immobile che esercita una f

```
# Che è una forza che muove l'individuo circostante in m
# Il prossimo. Che è la forza che fa sì che gli individu
# Deve essere una forza positiva per gli individui circo
# Alla fine deve essere una forza negativa per gli indiv

#Dinamica. Che un individuo in movimento esercita una fo

#Pressione.
# Una forza applicata dall'esterno o dall'interno di un
# Una forza applicata dall'esterno o dall'interno di un

#Il modo in cui un individuo o una particella si muove.



#-----
#Comunicazione di dati tra processi. Ovvero, la comunica
#Coda.
#Scambio di vari dati con altri individui o altri proces
#
#In ogni processo.
#L'ingresso e l'uscita della coda devono essere entrambi
##Per eseguire un ciclo infinito all'interno del process

#---
#Uscita di una coda.
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La massa dell'individuo.
#La velocità e l'accelerazione dell'individuo stesso.
#La dimensione del raggio dell'individuo stesso.


#---
#Ingresso della coda.
#La posizione fisica di un altro individuo.
#La massa dell'altro individuo.
#Velocità e accelerazione dell'altro individuo.
#Dimensione del raggio dell'altro individuo.
```

```
#-----
#Calcolo numerico all'interno del processo.
#
#
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La massa dell'individuo stesso.
#La posizione fisica dell'altro individuo.
#La massa dell'altro individuo.
#Calcolare la forza di attrazione dell'altro individuo i
#
#
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La dimensione del raggio dell'individuo stesso.
#La posizione fisica dell'altro individuo.
#La dimensione del raggio dell'altro individuo.
#Calcolare se c'è o meno una collisione tra l'individuo


#---
#Per quanto riguarda la forza gravitazionale.
#
#La grandezza della forza gravitazionale.
#Il valore è proporzionale al prodotto delle masse di sé
#Il valore è inversamente proporzionale al quadrato dell
#Il valore deve essere calcolato con la seguente procedu
#(magnitudine dell'attrazione) = (costante di gravitazio

#La costante gravitazionale universale. Il suo valore de


#---
#Circa la repulsione.
#
#La massa del corpo stesso.
#La velocità e l'accelerazione dell'individuo.
#La massa di un altro individuo.
#Velocità e accelerazione dell'altro individuo.
##In base ai quattro valori precedenti, calcolare la qua
```

```
#---
#Calcolo della capacità di forza totale.
#
#---
#A proposito dell'attrazione gravitazionale.
#(magnitudine dell'attrazione) = (costante gravitazional
#---
#Per quanto riguarda la repulsione.
#(capacità di forza dell'individuo) = (massa dell'indivi
#(capacità di forza dell'altro individuo) = (massa dell'

#Sommando le suddette forze di attrazione e repulsione c
#In base all'equilibrio risultante delle forze di sé e c
#Calcolare la nuova posizione fisica dell'individuo in b

#---
#Accelerazione.
#(accelerazione dell'individuo) = ((nuova velocità dell'
#(accelerazione dell'altro individuo) = ((nuova velocità
#
#Relazione tra quantità di forza e accelerazione.
#(repulsione propria dell'individuo) = (massa propria de
#(repulsione dell'altro individuo) = (massa dell'altro i
#(entità dell'attrazione reciproca tra sé e gli altri) =
#
#(Direzione dell'attrazione reciproca tra sé e gli altri
#Se il segno è positivo. L'individuo stesso attrae gli a
#Quando il segno è negativo. L'individuo stesso è attrat
#
#
#Cambiamento di velocità.
#(nuova velocità) = (velocità originale) + ((accelerazio
#Cambiamento di posizione.
#(nuova posizione) = ((velocità originale) * (lunghezza


##########################################
##particle_lvt_ac1.py
##
```

```
##end
##########################################



##########################################
##neuron_lvt_ac1.py
##
##start
##########################################


# coding: UTF-8
import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy
#import tkinter as tk
import math




#env_value_input = 300
env_value_input = 0
env_value_input_plus = 1
env_value_input_minus = -1
env_value_output = [300,-300,300]
env_value_resource_preservation_init = 1000
env_value_consumption = 20
env_value_preservation_amount_full = 2000
cell_name_array_io_input = ['io_input_01','io_input_02']
cell_name_array_pm_output = ['pm_output_plus','pm_output
cell_name_array_neuron_input = ['nr_input_01','nr_input_
cell_name_array_neuron_output = ['nr_output_01','nr_outp
cell_name_array_neuron_middle = ['nr_middle_01','nr_midd
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_dete
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow','se
```

```
cell_name_array_p_amount = ['p_amount_01']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_mid
cell_thickness_plasticity_type_num_array_neuron_middle =
cell_thinking_plasticity_type_num_array_neuron_middle =
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.4
sleep_time_length_outflow = 0.2
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
#output_value_result_out = 30
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable = 1.1
input_low_threshold = 0
input_high_threshold = 1000
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 7
cell_input_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 1
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle_
#cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle

q_value_array_neuron_middle = []
q_value_array_connection_target = []

#for value_num_i in range(cell_new_connection_target_all
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num):
#No.0. 中間神経細胞1の入力値。 No.1. 出力細胞1の入力値。 No.2.
```

```
    q_temp = Queue()
#    q_value_array_connection_target.append(q_temp)
    q_value_array_neuron_middle.append(q_temp)

q_value_array_neuron_input = []
for value_num_i in range(cell_input_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(cell_output_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)

q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)



q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)


q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


#q_value_array_resource_preservation = []
#for value_num_i in range(1): #蓄積。
```

```
#    q_temp = Queue()
#    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)



q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)

q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)

q_value_array_pm_temp = []


def add_new_item_to_existing_list_with_all_list_with_sim
    new_list = []
    new_list = copy.copy(existing_list)
    out_num_temp = random.randint(0,(len(all_list)) - 1)
    new_list.append(all_list[out_num_temp])
    return new_list




def subprocess_timer(sleep_time_length, event):
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite.  Зажигание. 点


def subprocess_timer_using_queue(sleep_time_length, ever
    sleep_time_length_changed = sleep_time_length
```

```
    q_len_now = 0
    count = 0
    event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点燃。
    while True:
        #print("sleep_time_length now=" + str(sleep_time
        event.clear()  # 発火しないこと。Do not ignite. He
        time.sleep(sleep_time_length_changed)
        event.set()  # 発火すること。Ignite. Зажигание. 点
        if(q.empty() == False):
                q_len_now = q.qsize()
                for q_num_i in range(q_len_now):
                    sleep_time_length_changed = float(q.
                print("event sleep_time_length_changed="




def resource_flow_amount_in_out_send(name,env_value_outp
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
        if event_array.is_set():
#                    env_value_temp = float(q_input.get(
            q_env_send.put(env_value_output)
            print(name + " env_value_send=" + str(env_va




def resource_flow_amount_in_out_detection(name,facilitat
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
```

```
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    env_value_input = env_value_input +
#            if(env_value_input < 0):
#                env_value_input = 0

        env_value_input = env_value_input * facilitation

#        print(name + " env_value_now=" + str(env_value_
#        for q_output_array_i in range(len(q_output_arra

#            if(env_value_input > 0):
#                q_output_array[q_output_array_i].put(en
        q_output_array.put(env_value_input)
        q_output_2_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' ' + str(env_value_input) + '\n')
        env_value_input = 0


def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,env_
    env_value_input = env_value_input_origin
    env_value_consumption = env_value_consumption_origin
    env_value_preservation_amount_full = env_value_prese
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1
    preservation_rate = 0
    preservation_rate_pre = 0
    preservation_rate_plus_minus = 0
    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    env_value_input = env_value_input +
#            if(env_value_input < 0):
#                env_value_input = 0
        env_value_input = env_value_input - env_value_co
#        env_value_input = env_value_input * facilitatio
```

```
#         print(name + " env_value_now=" + str(env_value_
#         for q_output_array_i in range(len(q_output_arra

#             if(env_value_input > 0):
#                 q_output_array[q_output_array_i].put(en
#         q_output_array.put(env_value_input)
        print(name +  ' resource_preservation_amount= '
        preservation_rate = env_value_input / env_value_
        print(name +  ' resource_preservation_rate= ' +
        if((preservation_rate < 0.1) and (preservation_r
            print(name +  ' The living thing has been st

#         env_value_input = 0
        if(env_value_input < 0):
            print(name +  ' The living thing was termina
        preservation_rate_plus_minus = preservation_rate
        if(abs(preservation_rate_plus_minus) > 0):
            q_output.put(preservation_rate_plus_minus)

        preservation_rate_pre = preservation_rate



def resource_flow_plus_minus_detection(name,facilitatior
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output_arr
    q_output_array_changed = q_output_array
    input_for_sum_array = []
    q_output_value_learned = q_output_value
    sum_of_inputs_pre = 0
    sum_of_inputs_now = 0
    learned_value_for_q_output = 0
    first_flag = 0
    sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_time
    while True:
        if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングかどう

            print(name + " spike_event_occred\n")
```

```
            if(q_input.empty() == False):
                q_input_len_now = q_input.qsize()
                for q_input_num_i in range(q_input_len_n
                        q_input_get_array.append(int(q_i
                print(name + ' q_input_get_array=')
                print(q_input_get_array)
                print("\n")
                q_input_sum = 0
                for q_input_array_i in range(len(q_input
                    q_input_sum = q_input_sum + q_input_

#                if(q_input_sum == q_input_sum):
#                if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                    if(len(q_output_array_changed) > 0)
#                        for q_output_array_i in range(l
#                            q_output_array_changed[q_ou
#                            q_output_array_changed[q_ou

#                    print("len(q_output_array_changed)=
#                    q_output_array_changed = add_new_it



#
#               input_for_sum_array.append(q_output_valu
                input_for_sum_array.append(q_input_sum)
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)
                q_input_get_array = []
            else:
                input_for_sum_array.append(0)
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)




        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングかどう
            print(name + " sum_event_occred\n")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_array)
```

```
            print(name + ' input_for_sum_array=')
            print(input_for_sum_array)
            print(name + ' sum inputs now=' + str(sum_of
            if(first_flag > 0):
#                learned_value_for_q_output = (sum_of_in
#                q_output_value_learned = q_output_value
#                print("learned_value_for_q_output=" + s

#                spike_threshold = spike_threshold * (le
#                print("learned_spike_threshold=" + str(
#                sleep_time_length_neuron_middle_learned
#                print("sleep_time_length_neuron_middle_
#                q_value_interval_array[0].put(sleep_tim
                if(sum_of_inputs_now < 0):
                    #'sum_value_minus_thus_inhibit'
                    q_value_interval_array[1].put(-1)
                    q_value_interval_array[3].put(1)
#                    print('')
                elif(sum_of_inputs_now > 0):
                    #'sum_value_plus_thus_facilitate'
                    q_value_interval_array[0].put(1)
                    q_value_interval_array[2].put(-1)
                else:
#                    q_value_interval_array[0].put('sum_
#                    q_value_interval_array[0].put('')
                    sum_of_inputs_now = sum_of_inputs_no
            else:
                first_flag = 1


def resource_result_output(name,env_value_output,q_input
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    while True:
#        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        env_value_temp = str(q_input.get(True))
        print(name + " env_value_changed=" + str(env_val
        print(name + " env_value_output=" + str(env_valu

        q_env_send.put(env_value_output)
```

```
#         print(name + " env_value_change_minus=" + str(e




def cell_input(name,env_value_input_origin,q_output_arra
    env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)
        if(q_env_received.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
#                    env_value_input = env_value_input +
                    env_value_input = int(q_env_received
            if(env_value_input < 0):
                env_value_input = 0




        print(name + " env_value_now=" + str(env_value_i
        for q_output_array_i in range(len(q_output_array

            if(env_value_input < input_low_threshold):
                print(name + " env_value is too low. " +
                env_value_input = env_value_input * (inp
                print(name + " env_value_changed=" + str

                if(env_value_input < input_low_threshold
                    low_amp_times_num = low_amp_times_nu
            elif(env_value_input > input_high_threshold)
                print(name + " env_value is too high. "
                env_value_input = env_value_input * (inp
                print(name + " env_value_changed=" + str
```

```
                if(env_value_input > input_high_threshol
                    high_amp_times_num = high_amp_times_
            else:
                env_value_input = env_value_input
            if(env_value_input > 0):
                q_output_array[q_output_array_i].put(env


def cell_input_for_get_resource(q_env_received_array_0,q
#     q_value_array_input_to_nlvt[0].put(received_particl
#     q_value_array_input_to_nlvt[1].put(received_content
#     q_value_array_input_to_nlvt[2].put(received_mass)
#     env_value_input = env_value_input_origin
    value_array = ['','']
    low_amp_times_num = 1
    high_amp_times_num = -1

    q_input_get_array = []
    while True:
        time.sleep(sleep_time_length)

        first_content_id_num_collision = -1
        second_content_id_num_collision = -1

        if(q_env_received_array_0.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received_array_0.qsi
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
    #                     env_value_input = env_value_inp
                    env_value_input = str(q_env_receivec
    #        if(env_value_input < 0):
    #            env_value_input = 0
                    first_particle_id_num_collision = ir
                    second_particle_id_num_collision = i
            print("Input_For_Resource\n")
            print("particle_ids_num_collision " + str(er

        if(q_env_received_array_1.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received_array_1.qsi
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
    #                     env_value_input = env_value_inp
```

```
                    env_value_input = str(q_env_receivec
    #          if(env_value_input < 0):
    #              env_value_input = 0
                    first_content_id_num_collision = int
                    second_content_id_num_collision = ir
    #                received_content_id_num_collision =
            print("content_ids_num_collision " + str(env

        if(q_env_received_array_2.empty() == False):
            q_input_len_now = q_env_received_array_2.qsi
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
    #                    env_value_input = env_value_inp
                    env_value_input = str(q_env_receivec
    #          if(env_value_input < 0):
    #              env_value_input = 0
                    first_mass_collision = float(str(env
                    second_mass_collision = float(str(er
    #                received_mass_collision = env_value
            print("masses_collision " + str(env_value_ir

        if(second_content_id_num_collision > -1):
            if(first_content_id_num_collision != second_
                if(target_resource_content_id_num == sec
                    getting_resouce_amount_mass = seconc
                    print("getting_resouce_amount_mass "
                    q_send_b1.put(getting_resouce_amount
                if(target_resource_content_id_num == fir
                    getting_resouce_amount_mass = first_
                    print("getting_resouce_amount_mass "
                    q_send_b1.put(getting_resouce_amount
            else:
                if(target_resource_content_id_num == owr
                    getting_resouce_amount_mass = seconc
                    print("getting_resouce_amount_mass "
                    q_send_b1.put(getting_resouce_amount



def cell_output(name,env_value_output,q_input,q_env_senc
    value_array = ['','']
```

```
    q_input_get_array = []

#    self_location_X = self_location_X_renewed
#    self_location_Y = self_location_Y_renewed
#    self_velocity_X = self_velocity_X_renewed
#    self_velocity_Y = self_velocity_Y_renewed
#    self_acceleration_X = self_acceleration_X_renewed
#    self_acceleration_Y = self_acceleration_Y_renewed
    allocation_rate = random.random()

    self_acceleration_X = 0.1 * allocation_rate
    self_acceleration_Y = 0.1 * (1 - allocation_rate)


    while True:
        env_value_temp = float(q_input.get(True))
        if(env_value_temp < 0):
            allocation_rate = random.random()
            self_acceleration_X = self_acceleration_X +
            self_acceleration_Y = self_acceleration_Y +


    #        q_output_str = "particle_id_num:" + str(sel
            q_output_str = "acceleration_X:" + str(self_
    #        for q_output_array_i in range(len(q_output_
    #            if(q_output_array_i != self_particle_ic
    #                q_output_array[q_output_array_i].pu
    #        env_value_output = q_output_str
            q_env_send.put(q_output_str)
    #        q_env_send.put(env_value_output)
    #        print(name + " env_value_change=" + str(env
            print(name + " env_value_change=" + q_output



def cell_neuron_middle(name,facilitation_suppression_typ
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    q_output_array_changed = []
#    q_output_array_changed = copy.deepcopy(q_output_arr
```

```
q_output_array_changed = q_output_array
input_for_sum_array = []
q_output_value_learned = q_output_value
sum_of_inputs_pre = 0
sum_of_inputs_now = 0
learned_value_for_q_output = 0
first_flag = 0
sleep_time_length_neuron_middle_learned = sleep_time
while True:
    if event_array[0].is_set():  # 発火タイミングかどう
        print(name + " spike_event_occred\n")

        if(q_input.empty() == False):
            q_input_len_now = q_input.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_r
                    q_input_get_array.append(int(q_i
            print(name + ' q_input_get_array=')
            print(q_input_get_array)
            print("\n")
            q_input_sum = 0
            for q_input_array_i in range(len(q_input
                q_input_sum = q_input_sum + q_input_

            if(q_input_sum >= spike_threshold):
                if(len(q_output_array_changed) > 0):
                    for q_output_array_i in range(le
                        q_output_array_changed[q_out

                if(thinking_plasticity_type_num == 1
                    print(name + " len(q_output_arra
                    q_output_array_changed = add_new




            input_for_sum_array.append(q_output_valu
            if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                input_for_sum_array.pop(0)
            q_input_get_array = []
        else:
            input_for_sum_array.append(0)
```

```
                if(len(input_for_sum_array) > input_for_
                    input_for_sum_array.pop(0)




        if event_array[1].is_set():  # 集計タイミングかどう
            print(name + " sum_event_occred")
            sum_of_inputs_pre = sum_of_inputs_now
            sum_of_inputs_now = sum(input_for_sum_array)
            if(first_flag > 0):
                if(thickness_plasticity_type_num == 1):

                    learned_value_for_q_output = (sum_of
                    q_output_value_learned = q_output_va
                    print(name + " learned_value_for_q_o

                    spike_threshold = spike_threshold *
                    print(name + " learned_spike_thresho
                    sleep_time_length_neuron_middle_lear
                    print(name + " sleep_time_length_neu
                    q_value_interval_array[0].put(sleep_

                else:
                    spike_threshold = spike_threshold
#                    spike_threshold = spike_threshold *

            else:
                first_flag = 1




####for Windows
if __name__ == '__main__':
######


    q_send_disp = Queue()
    q_send_a = Queue()
    q_send_b1 = Queue()
```

```
    q_send_b2 = Queue()



#    timer_sub_0_proc = Process(target=subprocess_timer_
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_timer,
#    timer_sub_2_proc = Process(target=subprocess_timer_
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_timer,

#    timer_sub_a0_proc = Process(target=subprocess_timer
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_timer,
#    timer_sub_b0_proc = Process(target=subprocess_timer
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_timer,


#    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(target=
#    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(target


#    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process(ta
#    resource_flow_amount_out_detection_proc = Process(t
    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process(tar
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Process(ta

#def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,env
#env_value_consumption = 20
#env_value_preservation_amount_full = 2000

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc = Pr


    ####変数の変更が必要。促進信号と抑制信号の両方を、それぞれ区別
    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Process(ta






    resource_result_output_1_proc = Process(target=resou
```

```
    resource_result_output_2_proc = Process(target=resou



    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(c

    target_resource_content_id_num = 2001
    cell_input_for_get_resouce_proc = Process(target=cel

#def cell_input_for_get_resource(q_env_received_array,ta

    q_middle_output_array_1 = []
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neuron_
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_2 = []
    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_2_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_3 = []
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_3_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_4 = []
    q_middle_output_array_4.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_5 = []
    q_middle_output_array_5.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_6 = []
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neuron_
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_7 = []
    q_middle_output_array_7.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur
```

```
    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output, arg
#    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output, ar
#    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output, ar

#    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()
#    timer_sub_2_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
#    timer_sub_a0_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
#    timer_sub_b0_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_neuron_middle_1_proc.start()
    cell_neuron_middle_2_proc.start()
    cell_neuron_middle_3_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
#    cell_output_2_proc.start()
#    cell_output_3_proc.start()
#    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
#    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc.star

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
    resource_result_output_2_proc.start()




#    window = tk.Tk()
```

```
#
#     frame_disp = tk.Frame()
#     frame_a = tk.Frame()
#     frame_b1 = tk.Frame()
#     frame_b2 = tk.Frame()
#
#     label_a = tk.Label(master=frame_a, text="To input c
#     label_a.pack()
#
#     label_b1 = tk.Label(master=frame_b1, text="In To re
#     label_b1.pack()
#
#     label_b2 = tk.Label(master=frame_b2, text="Out To r
#     label_b2.pack()
#
#
#     entry_disp = tk.Entry(master=frame_disp)
#     entry_disp.pack()
#
#     entry_a = tk.Entry(master=frame_a)
#     entry_a.insert(0, "100")
#     entry_a.pack()
#
#     entry_b1 = tk.Entry(master=frame_b1)
#     entry_b1.insert(0, "100")
#     entry_b1.pack()
#     entry_b2 = tk.Entry(master=frame_b2)
#     entry_b2.insert(0, "100")
#     entry_b2.pack()
#
#     def command_a():
#         text_entry = entry_a.get()
#         q_send_a.put(text_entry)
#     #    entry.delete(0, 4)
#     #    entry_a.delete(0, tk.END)
#
#     #    entry.insert(0, "Python")
#
#
#     def command_b1():
```

```
#         text_entry = entry_b1.get()
#         q_send_b1.put(text_entry)
#    #     entry.delete(0, 4)
#    #     entry_a.delete(0, tk.END)
#
#    #     entry.insert(0, "Python")
#
#    def command_b2():
#         text_entry = entry_b2.get()
#         q_send_b2.put(text_entry)
#    #     entry.delete(0, 4)
#    #     entry_a.delete(0, tk.END)
#
#    #     entry.insert(0, "Python")
#
#    button_a = tk.Button(
#        master=frame_a,
#        text="Submit",
#        width=25,
#        height=5,
#        bg="green",
#        fg="white",
##         command=lambda: window.quit()
#        command=lambda: command_a()
#    )
#
#    button_a.pack()
#
#
#
#
#    button_b1 = tk.Button(
#        master=frame_b1,
#        text="Submit",
#        width=25,
#        height=5,
#        bg="blue",
#        fg="white",
##         command=lambda: window.quit()
#       command=lambda: command_b1()
```

```
#     )
#
#     button_b1.pack()
#
#     button_b2 = tk.Button(
#         master=frame_b2,
#         text="Submit",
#         width=25,
#         height=5,
#         bg="red",
#         fg="white",
##          command=lambda: window.quit()
#         command=lambda: command_b2()
#     )
#
#     button_b2.pack()
#
#
#
#
#
#
#
#
#
#     frame_disp.pack()
#     frame_a.pack()
#     frame_b1.pack()
#     frame_b2.pack()
#
#     window.mainloop()


##########################################
##neuron_lvt_ac1.py
##
##end
##########################################
```

```
##########################################
##integ_pa_nr_lvt_ac1.py
##
##start
##########################################




# coding: UTF-8
import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import copy

import math
from decimal import Decimal
import numpy as np



import pygame
from pygame import draw
from pygame import gfxdraw

#import particle_lvt_ac1 as pa
#import neuron_lvt_ac1 as nlvt


#########################################
#pa start
#########################################




event_array = []
for lighter_num_a in range(2):
    event_temp = multiprocessing.Event()
```

```
    event_array.append(event_temp)



parent_conn_array = []
child_conn_array = []
for lighter_num_c in range(2):
    parent_conn_temp, child_conn_temp = Pipe()
    parent_conn_array.append(parent_conn_temp)
    child_conn_array.append(child_conn_temp)

q_array = []
for lighter_num_i in range(2):
    q_temp = Queue()
    q_array.append(q_temp)


env_value_input = 100
env_value_output = 0
particle_name_array = ['p_01','p_02']
sleep_time_length_particle = 0.05
spike_threshold_particle = 100
output_value_particle = 100

q_value_array_input = []
for value_num_i in range(1):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_input.append(q_temp)

q_value_array_output = []
for value_num_i in range(4):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_output.append(q_temp)


context_dummy = "dummy"


#########################################
#pa end
```

```
########################################



########################################
#nlvt start
########################################


#env_value_input = 300
env_value_input = 0
env_value_input_plus = 1
env_value_input_minus = -1
env_value_output = [300,-300,300]
env_value_resource_preservation_init = 1000
env_value_consumption = 20
env_value_preservation_amount_full = 2000
cell_name_array_io_input = ['io_input_01','io_input_02']
cell_name_array_pm_output = ['pm_output_plus','pm_output
cell_name_array_neuron_input = ['nr_input_01','nr_input_
cell_name_array_neuron_output = ['nr_output_01','nr_outp
cell_name_array_neuron_middle = ['nr_middle_01','nr_midd
cell_name_array_pm_detect = ['pm_detect_01']
cell_name_array_io_detect = ['io_detect_inflow','io_dete
cell_name_array_send = ['send_inflow','send_outflow','se
cell_name_array_p_amount = ['p_amount_01']
cell_facilitation_suppression_type_num_array_neuron_midd
cell_thickness_plasticity_type_num_array_neuron_middle =
cell_thinking_plasticity_type_num_array_neuron_middle =
sleep_time_length_input = 1
sleep_time_length_neuron_middle = 2
sleep_time_length_inflow = 0.4
sleep_time_length_outflow = 0.2
sleep_time_length_input_sum = 2
sleep_time_length_result_out = 3.5
spike_threshold_neuron_middle = 100
output_value_neuron_middle = 100
#output_value_result_out = 30
input_for_sum_num_length = 10
spike_num_percent = 0
```

```
spike_threshold_learning_variable = 1.1
sleep_time_length_neuron_middle_learning_variable = 1.1
input_low_threshold = 0
input_high_threshold = 1000
input_amp_variable = 1.1


event_array = []
for sub_num_a in range(4):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)


cell_neuron_middle_all_num = 7
cell_input_all_num  = 1
cell_output_all_num  = 1
cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle_
#cell_new_connection_target_all_num = cell_neuron_middle

q_value_array_neuron_middle = []
q_value_array_connection_target = []

#for value_num_i in range(cell_new_connection_target_all
for value_num_i in range(cell_neuron_middle_all_num):
##No.0. 中間神経細胞1の入力値。 No.1. 出力細胞1の入力値。 No.2

    q_temp = Queue()
#    q_value_array_connection_target.append(q_temp)
    q_value_array_neuron_middle.append(q_temp)

q_value_array_neuron_input = []
for value_num_i in range(cell_input_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_input.append(q_temp)

q_value_array_neuron_output = []
for value_num_i in range(cell_output_all_num):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_neuron_output.append(q_temp)
```

```
q_value_array_initial = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_initial.append(q_temp)



q_value_array_interval = []
for value_num_i in range(2): #発火。集計。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_interval.append(q_temp)


q_value_array_env_common = []
for value_num_i in range(1): #環境変数。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_env_common.append(q_temp)

q_value_array_flow_in_out = []
for value_num_i in range(2): #流入。流出。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)


#q_value_array_resource_preservation = []
#for value_num_i in range(1): #蓄積。
#    q_temp = Queue()
#    q_value_array_flow_in_out.append(q_temp)



q_value_array_flow_plus_minus = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_flow_plus_minus.append(q_temp)

q_value_array_facilitate_inhibit = []
for value_num_i in range(4): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_facilitate_inhibit.append(q_temp)
```

```
q_value_array_pm_temp = []


q_value_array_to_direct_output = []
for value_num_i in range(2): #プラス。マイナス。
    q_temp = Queue()
    q_value_array_to_direct_output.append(q_temp)




#########################################
#nlvt end
#########################################

####for Windows
if __name__ == '__main__':
######

    # Initialize pygame
    pygame.init()
    #size = [1000, 800]
    space_size = [1000, 800]
    context_pygame = pygame.display.set_mode(space_size)
#####dame pygameはそれ自体がプロセスとして稼働するので、このプロ
    context_dummy = 0


####################################
#pa start
####################################
    init_data_str_a1 = "particle_all_num:2,particle_id_r
    init_data_str_a2 = "particle_all_num:2,particle_id_r


#def cell_input(name,env_value,q_output_array,sleep_time
#def cell_output(name,env_value,q_input):
#def cell_neuron_middle(name,q_input,q_output_array,slee
#    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(
    #particle_proc = Process(target=particle, args=(part
```

```
    particle_proc_a1 = Process(target=particle, args=(pa
    particle_proc_a2 = Process(target=particle, args=(pa
    #particle(name,q_input,q_output_array,sleep_time_len
#    cell_output_proc = Process(target=cell_output, args

#    cell_input_proc.start()
    particle_proc_a1.start()
    particle_proc_a2.start()
#    cell_output_proc.start()

    received_particle_id_num = 0
    received_location_X = 0
    received_location_Y = 0
    received_mass = 0
    received_velocity_X = 0
    received_velocity_Y = 0
    received_acceleration_X = 0
    received_acceleration_Y = 0
    received_size_radius = 0

####################################
#pa end
####################################

#######################################
#nlvt start
#######################################



    q_send_disp = Queue()
    q_send_a = Queue()
    q_send_b1 = Queue()
    q_send_b2 = Queue()



#    timer_sub_0_proc = Process(target=nlvt.subprocess_t
    timer_sub_1_proc = Process(target=subprocess_timer,
#    timer_sub_2_proc = Process(target=nlvt.subprocess_t
```

```
    timer_sub_3_proc = Process(target=subprocess_timer,

#    timer_sub_a0_proc = Process(target=nlvt.subprocess_
    timer_sub_a1_proc = Process(target=subprocess_timer,
#    timer_sub_b0_proc = Process(target=nlvt.subprocess_
    timer_sub_b1_proc = Process(target=subprocess_timer,


#    resource_flow_amount_in_send_proc = Process(target=
#    resource_flow_amount_out_send_proc = Process(target


#    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process(ta
#    resource_flow_amount_out_detection_proc = Process(t
    resource_flow_amount_in_detection_proc = Process(tar
    resource_flow_amount_out_detection_proc = Process(ta

#def resource_preservation_amount_sum_calculate(name,env
#env_value_consumption = 20
#env_value_preservation_amount_full = 2000

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc = Pr


    ####変数の変更が必要。促進信号と抑制信号の両方を、それぞれ区另
    resource_flow_plus_minus_detection_proc = Process(ta






    resource_result_output_1_proc = Process(target=resou
    resource_result_output_2_proc = Process(target=resou



    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(c
    own_resource_content_id_num = 3001
    target_resource_content_id_num = 2001
```

```
#def cell_input_for_get_resource(q_env_received_array,ta
    cell_input_for_get_resource_proc = Process(target=ce


    q_middle_output_array_1 = []
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neuron_
    q_middle_output_array_1.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_2 = []
    q_middle_output_array_2.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_2_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_3 = []
    q_middle_output_array_3.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_3_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_4 = []
    q_middle_output_array_4.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_5 = []
    q_middle_output_array_5.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_6 = []
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neuron_
    q_middle_output_array_6.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur

    q_middle_output_array_7 = []
    q_middle_output_array_7.append(q_value_array_neuron_
    cell_neuron_middle_1_proc = Process(target=cell_neur



#    cell_output_1_proc = Process(target=nlvt.cell_outpu
    cell_output_1_proc = Process(target=cell_output, arg

# q_value_array_output[0]
```

```
#    cell_output_2_proc = Process(target=cell_output, ar
#    cell_output_3_proc = Process(target=cell_output, ar

#    timer_sub_0_proc.start()
    timer_sub_1_proc.start()
#    timer_sub_2_proc.start()
    timer_sub_3_proc.start()
#    timer_sub_a0_proc.start()
    timer_sub_a1_proc.start()
#    timer_sub_b0_proc.start()
    timer_sub_b1_proc.start()

    cell_input_proc.start()
    cell_input_for_get_resource_proc.start()
    cell_neuron_middle_1_proc.start()
    cell_neuron_middle_2_proc.start()
    cell_neuron_middle_3_proc.start()
    cell_output_1_proc.start()
#    cell_output_2_proc.start()
#    cell_output_3_proc.start()
#    resource_flow_amount_in_send_proc.start()
#    resource_flow_amount_out_send_proc.start()


    resource_flow_amount_in_detection_proc.start()
    resource_flow_amount_out_detection_proc.start()

    resource_preservation_amount_sum_calculate_proc.star

    resource_flow_plus_minus_detection_proc.start()

    resource_result_output_1_proc.start()
    resource_result_output_2_proc.start()

#######################################
#nlvt end
#######################################
```

```
################################################################
#pygame start
################################################################

    n = 1
    twopi = 2*math.pi
    dispScale = 1

    q_input_get_array = []

    running = True

    # Loop until the user clicks the close button.
    while running:
        # poll for events
        # pygame.QUIT event means the user clicked X to
        for event in pygame.event.get():
            if event.type == pygame.QUIT:
                running = False



#         time.sleep(sleep_time_length)

        #return_value = myQueue.empty()
        #return_value = myQueue.qsize()
        if(q_value_array_output[3].empty() == False):
            q_input_len_now = q_value_array_output[3].qs
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    q_input_get_array.append((q_value_ar

            #print(q_input_get_array)
            #print('\n')
            q_input_sum = 0
            for q_input_array_i in range(len(q_input_get
#                q_input_sum = q_input_sum + q_input_get
                received_data_array_q_input_temp = []
                received_data_array_q_input_temp = q_inp
                q_received_num_i = 0
```

```
                    #print('RDA pre ')
                    #print(received_data_array_q_input_temp)
                    for q_received_num_i in range(len(receiv
                        data_array_temp = (received_data_arr
                        #print('RDA data_array_temp ')
                        #print(data_array_temp)
                        data_temp = data_array_temp[1]
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_particle_id_num = int((

#                        if(received_particle_id_num == self
#                            continue
#                        else:
                            #print('R ')
                            #print(received_particle_id_num)

                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            #print('RLX pre ')
                            #print(received_data_array_q_inp

                            received_location_X = float(((da
                            #print('RLX ')
                            #print(received_location_X)
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_location_Y = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_mass = float(((data_tem
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_velocity_X = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_velocity_Y = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_acceleration_X = float(
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_acceleration_Y = float(
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_size_radius = float(((d
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_content_id_num = int(((
```

```
        a_xr = [received_location_X]
        a_yr = [received_location_Y]
        a_r = [received_size_radius]
        a_color = ["white"]
        a_fx = [received_acceleration_X]
        a_fy = [received_acceleration_Y]

        # 画面を黒色(#000000)に塗りつぶし
        context_pygame.fill((0, 0, 0))

        drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx,

#        drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx
        # flip() the display to put your work on screen

        pygame.display.flip()

        q_input_get_array = []


    pygame.quit()

################################################################
#pygame end
################################################################


##########################################
##integ_pa_nr_lvt_ac1.py
##
##end
##########################################






###################################
###################################
```

```
#A description of the design principles of this program.
#描述本程序的设计原则。
#Описание принципов проектирования этой программы.
#このプログラムの設計方針についての説明。
#Eine Beschreibung der Gestaltungsprinzipien dieses Prog
#Une description des principes de conception de ce progr
#Uma descrição dos princípios de design desse programa.
#Una descripción de los principios de diseño de este pro
#Deskripsi prinsip-prinsip desain program ini.
#Bu programın tasarım ilkelerinin bir açıklaması.
#이 프로그램의 설계 원칙에 대한 설명입니다.
#Descrizione dei principi di progettazione di questo pro
####################################
#start
####################################
#---
#In a program of general material behavior that takes ac
##To create, for each individual particle, the addition
##To simply connect and attach, functionally, as it is,
#
#The function of the biological neural circuitry, which
#It is the content of the following.
#The ability to move around to acquire the resources nec
#The ability to compete and fight with other physical or
#
#---
##In the movement of biological individuals. The specifi
#
#Input neurons.
#Other physical or biological individuals that perform p
#Other physical or biological individuals that act negat
#
#Intermediate nerve cells.
#Detecting and communicating real-time values within its
#
#Output neuron.
##Decrease in the amount of resources owned and built ir
#If the amount of resources owned and built into the liv
#Other physical or biological individuals that perform a
#Another physical or biological individual that performs
```

#Other physical or biological individuals that act negat
#If it is able to reach the location where the resources
#Other material entity B as a resource necessary for the
#
#---
#To view the exercise of muscle power by such output neu
#To realize the addition of such positive acceleration v
#
#---
#If it does so.
#A prerequisite for its realization is to set up a behav
#As a prerequisite for its realization.
#The behavior that identifies whether another individual
#Action to attract a resource that is beneficial to the
#The incorporation of other individuals that correspond
#
#---
#Acquisition of resources by an individual living thing.
#The operating process of such an individual living thin
#The individual swallows and incorporates into its body
#The living thing breaks down the other material entitie
#However, they must be programmatically difficult to ach
#
#An alternative, alternative, operating process of the l
#Assigning specific attribute labels to each material or
#Based on those attribute labels.
#Determine in advance which label owner is considered a
#Predetermine which label owners are regarded as mere us
#Predetermine which label holders are considered harmful
#
#If the living individual has physical contact with anot
#The biological individual makes a new increase in the a
#The content of the attribute label held by the other ma
#The result. The material entity is no longer considered
#If the material individual becomes newly harmful to the
#The set of such material individuals in general include
#That such living individuals themselves can be a useful
#Subclasses.
#That the behavior of such living things and material in
#

####################################

####################################
#
#---
#在一个利用当前多重处理能力的通用材料行为程序中，
##为每个粒子创造生物神经系统的输入输出功能。
##将实现物质粒子运动的过程与生物神经回路的过程进行简单的功能连接和
#
#生物神经回路的功能，这是物质单个粒子的新的附加联系。
#它的内容如下：
#四处活动获取维持自我生存所需的资源的能力。
#与其他物理或生物个体竞争和争夺有限资源的能力#
#
#---
##在生物个体的运动中 其神经回路的具体功能。它包括以下内容
#
#输入神经元#
#为自身生存发挥积极功能的其他物理或生物个体。其他提供生活便利的个体
#对自身生存起负面作用的其他物理或生物个体。给生活带来困难的其他个体
#
#中间神经细胞。
#检测并向输出神经元传递体内的实时值 关于生物所拥有的和内置的资源的
#
#输出神经元
##生物体拥有和积累的资源量减少。通过锻炼肌肉力量和进行增加正加速度
#如果生物所拥有和内置的资源量不断增加或维持现状。通过行使肌肉力量停
#为维持自身生存而发挥积极功能的其他物理或生物个体。提供生活便利的其
#另一种为自身生存发挥负面功能的物理或生物个体。提供生存困难的其他个
#其他对自身生存起负面作用的物理或生物个体。其他提供生存困难的个体。
#如果它能够到达存在自身生存和维持所需的资源的地点。继续吸食和获取自
#其他物质实体 B 作为生物 A 自身生存所必需的资源，当这种其他物质实
#
#---
#将这种输出神经元的肌力运动视为在实现生物的物理实体功能过程中增加正
#利用连接多个进程的队列，从输出神经元进程向物理实体进程发送和接收数
#
#---
#如果是这样#

```
#实现它的先决条件是建立一种行为  吸引对生物个体有益的资源#
#作为实现的先决条件
#识别另一个个体对生物个体是有益还是有害的行为必须是初步必要的。有必
#吸引对个体有益的资源的行动。
#将与资源相对应的其他个体纳入生物本身。然而，这在程序设计上很难实现
#
#---
#生物个体获取资源。
#这种生物个体的运作过程，应该实现。
#个体吞食其他与资源相对应的物质个体并将其纳入体内#
#生物分解吸入的其他物质个体，提取自身生存所需的功能，然后将不需要的
#无论如何，它们必须在程序上难以实现。
#
#一种替代性的、另类的、有生命的个体的运作过程来代替它们。它们如下
#为每个物质或生物个体指定特定的属性标签，作为预建的信息数据数组。
#根据这些属性标签。
#预先确定哪个标签所有者被认为是哪个其他标签所有者的有用资源。
#预先确定哪些标签拥有者被哪些其他标签拥有者视为无用之物。
#预先确定哪些标签持有者被其他哪些标签持有者视为应避免的有害物体。
#
#如果生物个体与另一个符合有益资源条件的物质个体有身体接触
#生物个体会重新增加内置资源的数量。
#生物个体接触的其他物质实体所持有的属性标签内容。新的替换和标签内容
#结果。生物个体不再将物质实体视为有益资源。当生物体再次与物质个体接
#如果物质个体对生物体造成新的危害。当生物体再次与物质个体接触时，生
#一般来说，这种物质个体的集合包括一般生物个体。一般生物个体是一般物
#这些生物个体本身可以成为其他生命个体的有用资源和主动吸收和消化目标
#子类。
#这类生物和物质个体的行为被预先设定为这样。这是生物学家必须完成的任
#
####################################



####################################
#
#---
#Программа общего поведения материала, использующая совр
##Создать для каждой отдельной частицы дополнение к функ
##Просто соединить и присоединить, функционально, как ес
```

#
#Функция биологической нейронной схемы, которая является
#Это содержание следующего.
#Способность передвигаться, чтобы добывать ресурсы, необ
#Способность конкурировать и бороться с другими физическ
#
#---
##Движение биологических особей. Специфическая функция е
#
#Входные нейроны.
#Другие физические или биологические особи, которые выпо
#Другие физические или биологические особи, которые дейс
#
#Промежуточные нервные клетки.
#Обнаружение и передача выходному нейрону значений в р
#
#Выходной нейрон.
##Уменьшение количества ресурсов, принадлежащих живому с
#Если количество ресурсов, которыми владеет и которые во
#Другие физические или биологические особи, выполняющие
#Другая физическая или биологическая особь, выполняющая
#Другие физические или биологические особи, которые дейс
#Если он способен достичь места, где есть ресурсы, необх
#Другой материальный объект B как ресурс, необходимый дл
#
#---
#Рассмотреть осуществление мышечной силы такими выходным
#Реализовать добавление таких положительных значений уск
#
#---
#Если это так.
#Необходимым условием для его реализации является устано
#Как необходимое условие для его реализации.
#Поведение, определяющее, выгоден или вреден другой инди
#Действие по привлечению выгодного для особи ресурса.
#Включение других особей, соответствующих ресурсу, в сос
#
#---
#Получение ресурсов отдельным живым существом.
#Операционный процесс такого индивидуального живого суще

#Особь заглатывает и встраивает в свое тело другие матер
#Живое существо расщепляет принятые им другие материальн
#Однако они должны быть программно труднодостижимыми.
#
#Альтернативный, безальтернативный, операционный процесс
#Присвоение каждой материальной или биологической особи
#На основе этих атрибутивных меток.
#Заранее определить, какой владелец метки считается поле
#Предопределить, какие владельцы ярлыков считаются прост
Определите заранее, какие владельцы ярлыков считаются
#
#Если живая особь имеет физический контакт с другой мате
#Биологическая особь делает новое увеличение количества
#Содержание атрибутивной метки, принадлежащей другому ма
#Результат. Материальный объект больше не рассматривается
#Если материальная особь вновь становится вредной для би
#Множество таких материальных особей в целом включает в
#Такие живые особи сами могут быть полезным ресурсом и а
#Подклассы.
#Чтобы поведение таких живых существ и материальных инди
#
####################################

####################################
#
#---
#現状のマルチプロセッシング機能を活用した物質一般の動作プログラムに
#各々の個体粒子に対して、生物的神経系の入出力機能を加えたものを、作
#物質粒子の運動を実現するプロセスと、生物的神経回路のプロセスとを、
#
#物質個体粒子に対して、新たに付加連結する、生物的神経回路の機能。
#それは、以下の内容である。
#それ自身の自己保存の維持に必要な資源獲得のために、動き回る機能。
#限られた資源を巡って、他の物理的個体や生物的個体と、資源の奪い合い
#
#---
#生物的個体の動きにおいて。その神経回路の具体的な働き。それは以下の
#

#入力神経細胞。
#それ自身の生存維持にとってプラスの働きを行う、他の物理的個体や生物
#それ自身の生存維持にとってマイナスの働きを行う、他の物理的個体や生
#
#中間神経細胞。
#その生物が所有し内蔵する資源の増減についてのリアルタイムな値をその
#
#出力神経細胞。
#その生物が所有し内蔵する資源量が減少している場合。新たな資源獲得の
#その生物が所有し内蔵する資源量が、増加しているか、現状維持している
#それ自身の生存維持にとってプラスの働きを行う、他の物理的個体や生物
#それ自身の生存維持にとってマイナスの働きを行う、他の物理的個体や生
#それ自身の生存維持にとってマイナスの働きを行う、他の物理的個体や生
#それ自身の生存維持に必要な資源の存在場所に到達出来た場合。自己保存
#その生物個体A自身の生存維持に必要な資源としての、他の物質個体B。そ
#
#---
#そうした出力神経細胞による筋力行使を、その生物の物理的実体機能を実
#そうしたプラスの加速度の値の追加を、複数プロセス間を繋ぐキューを用
#
#---
#そうした場合。
#その生物個体にとって有益な資源を吸引する動作設定が、予め必要である
#その実現のための前提として。
#他の個体が、その生物個体にとって有益か有害かを識別する動作が、予め
#その生物個体にとって有益な資源を吸引する動作。
#資源に該当する他の個体それ自体を、その生物個体の内部へと取り込むこ
#
#---
#生物個体による、資源の獲得。
#本来実現すべき、そうした生物個体の動作プロセス。
#その生物個体が、資源に該当する他の物質個体それ自体を、その生物個体
#その生物個体が、取り込んだ他の物質個体を分解して、それ自身の生存維
#しかし、それらは、プログラミング的に、実現が困難であること。
#
#その代用としての代替的な、生物個体の動作プロセス。それは、以下の内
#各々の物質個体や生物個体に対して、特定の属性ラベルを、予め内蔵され
#そうした属性ラベルに基づいて。
#どのラベルの所有者が、どの別のラベルの所有者にとって、有益な資源と
#どのラベルの所有者が、どの別のラベルの所有者にとって、只の無益な物

#どのラベルの所有者が、どの別のラベルの所有者にとって、有害な回避対
#
#その生物個体が、有益な資源に該当する他の物質個体に対して、物理的接
#その生物個体が、内蔵資源量を、新たに増加させること。
#その生物個体によって接触を受けた他の物質個体が保有する属性ラベルの
#その結果。その物質個体は、その生物個体にとって、有益な資源とは見做
#その物質個体が、その生物個体にとって新たに有害化した場合。その生物
#そうした物質個体一般の集合には、生物個体一般が含まれること。生物個
#そうした生物個体それ自身が、他の生物個体にとって、有益な資源や、積
#
#そうした生物個体や物質個体の挙動が、そのようになるように、予めプロ
#
#####################################

#####################################
#
#---
#In einem Programm für allgemeines materielles Verhalter
##Für jedes einzelne Teilchen die Ergänzung der Input-Ou
##Den Prozess der Realisierung der Bewegung materieller
#
#Die Funktion der biologischen neuronalen Schaltkreise,
#Es ist der Inhalt des Folgenden.
#Die Fähigkeit, sich fortzubewegen, um die zur Selbsterh
#Die Fähigkeit, mit anderen physischen oder biologischer
#
#---
##In der Bewegung von biologischen Individuen. Die spezi
#
#Input Neuronen.
#Andere physische oder biologische Individuen, die posit
#Andere physische oder biologische Individuen, die sich
#
#Intermediäre Nervenzellen.
#Erkennen und Übermitteln von Echtzeitwerten innerhalb d
#
#Ausgangsneuron.
##Verringerung der Menge der Ressourcen, die das Lebewes

#Wenn die Menge der Ressourcen, die das Lebewesen besitz
#Andere physische oder biologische Individuen, die eine
#Ein anderes physisches oder biologisches Individuum, da
#Andere physische oder biologische Individuen, die sich
#Wenn es in der Lage ist, den Ort zu erreichen, an dem c
#Eine andere materielle Einheit B als Ressource, die für
#
#---
#Die Ausübung von Muskelkraft durch solche Ausgangsneuro
#Die Hinzufügung solcher positiver Beschleunigungswerte
#
#---
#Wenn sie dies tut.
#Eine Voraussetzung für seine Verwirklichung ist es, eir
#Als Voraussetzung für seine Verwirklichung.
#Das Verhalten, das feststellt, ob ein anderes Individuu
#Handlung, um eine für das Individuum nützliche Ressourc
#Die Eingliederung anderer Individuen, die der Ressource
#
#---
#Aneignung von Ressourcen durch ein individuelles Lebewe
#Der Arbeitsprozess eines solchen individuellen Lebewese
#Das Individuum verschluckt und inkorporiert in seinen K
#Das Lebewesen baut die anderen materiellen Individuen,
#Allerdings müssen sie programmatisch schwer zu erreiche
#
#Ein alternativer, abweichender, funktionierender Prozes
#Jedem materiellen oder biologischen Individuum spezifis
#Auf der Grundlage dieser Attributkennzeichnungen.
#Im Voraus bestimmen, welcher Labelinhaber für welchen a
#Bestimmen Sie im Voraus, welche Label-Inhaber von welch
#Bestimmen Sie im Voraus, welche Label-Inhaber von welch
#
#Wenn das lebende Individuum physischen Kontakt mit eine
#Das biologische Individuum nimmt eine neue Erhöhung der
#Das biologische Individuum nimmt eine neue Erhöhung der
#Das Ergebnis. Die materielle Entität wird von der biolc
#Wenn das materielle Individuum erneut schädlich für die
#Die Menge der materiellen Individuen im Allgemeinen sch
#Dass solche lebenden Individuen selbst eine nützliche F

#Unterklassen.
#Dass das Verhalten dieser Lebewesen und materiellen Ind
#
####################################

####################################
#
#---
#Dans un programme de comportement général des matériaux
##Créer, pour chaque particule individuelle, l'addition
##Il s'agit simplement de relier et d'attacher, fonction
#
#La fonction des circuits neuronaux biologiques, qui est
#C'est le contenu de ce qui suit.
#La capacité de se déplacer pour acquérir les ressources
#La capacité de rivaliser et de se battre avec d'autres
#
#---
##Dans le mouvement des individus biologiques. La foncti
#
#Les neurones d'entrée.
#D'autres individus physiques ou biologiques qui remplis
#Autres individus physiques ou biologiques qui agissent
#
#Cellules nerveuses intermédiaires.
#Détecter et communiquer au neurone de sortie des valeur
#
#Neurone de sortie.
##Diminution de la quantité de ressources possédées et a
#Si la quantité de ressources possédées et intégrées dan
#Les autres individus physiques ou biologiques qui rempl
#Un autre individu physique ou biologique qui remplit un
#Autres individus physiques ou biologiques qui agissent
#S'il est capable d'atteindre l'endroit où se trouvent l
#Autre entité matérielle B en tant que ressource nécessa
#
#---
#Pour considérer l'exercice de la force musculaire par c

```
#Réaliser l'ajout de ces valeurs d'accélération positive
#
#---
#S'il le fait.
#Une condition préalable à sa réalisation est de mettre
#La condition préalable à sa réalisation est de mettre e
#Le comportement qui identifie si un autre individu est
#Action d'attirer une ressource bénéfique pour l'indivic
#L'incorporation d'autres individus correspondant à la r
#
#---
#L'acquisition de ressources par un être vivant individu
#Le processus de fonctionnement d'un tel individu vivant
#L'individu avale et incorpore dans son corps d'autres i
#L'être vivant décompose les autres entités matérielles
#Les ressources doivent cependant être difficiles à réal
#
#Un processus alternatif, alternatif, de fonctionnement
#Attribution d'étiquettes d'attributs spécifiques à chaq
#Sur la base de ces étiquettes d'attributs.
#Déterminer à l'avance quel propriétaire d'étiquette est
#Déterminer à l'avance quels propriétaires d'étiquettes
#Déterminer à l'avance quels détenteurs d'étiquettes sor
#
#Si l'individu vivant a un contact physique avec un autr
#L'individu biologique augmente à nouveau la quantité de
#Le contenu de l'étiquette d'attribut détenue par l'autr
#Le résultat. L'entité matérielle n'est plus considérée
#Si l'individu matériel devient à nouveau nuisible pour
#L'ensemble de ces individus matériels en général inclut
#Ces individus vivants peuvent eux-mêmes être une ressou
#Sous-classes.
#Que le comportement de ces êtres vivants et de ces indi
#
###################################



###################################
#
```

#---
#Em um programa de comportamento geral do material que a
##Criar, para cada partícula individual, a adição da fun
##Simplesmente conectar e anexar, funcionalmente, como é
#
#A função do circuito neural biológico, que é um novo ví
#É o conteúdo do seguinte.
#A capacidade de se movimentar para adquirir os recursos
#A capacidade de competir e lutar com outros indivíduos
#
#---
##No movimento de indivíduos biológicos. A função especí
#
#Neurônios de entrada.
#Outros indivíduos físicos ou biológicos que desempenham
#Outros indivíduos físicos ou biológicos que agem negati
#
#Células nervosas intermediárias.
#Detectando e comunicando valores em tempo real dentro d
#
#Neurônio de saída.
##Diminuição da quantidade de recursos possuídos e incor
#Se a quantidade de recursos possuídos e incorporados ac
#Outros indivíduos físicos ou biológicos que desempenham
#Outro indivíduo físico ou biológico que desempenha uma
#Outros indivíduos físicos ou biológicos que agem negati
#Se for capaz de alcançar o local onde existem os recurs
#Outra entidade material B como um recurso necessário pa
#
#---
#Ver o exercício da força muscular por esses neurônios d
#Realizar a adição de tais valores de aceleração positiv
#
#---
#Se isso for feito.
#Um pré-requisito para sua realização é estabelecer um c
#Como pré-requisito para sua realização.
#O comportamento que identifica se outro indivíduo é ben
#Ação para atrair um recurso que seja benéfico para o in
#A incorporação de outros indivíduos que correspondam ao

```
#
#---
#Aquisição de recursos por um ser vivo individual.
#O processo operacional de um ser vivo individual, que c
#O indivíduo engole e incorpora em seu corpo outros indi
#O ser vivo decompõe as outras entidades materiais que i
#No entanto, eles devem ser programaticamente difíceis c
#
#Um processo operacional alternativo e alternativo do in
#Atribuir rótulos de atributos específicos a cada materi
#Com base nesses rótulos de atributos.
#Determinar antecipadamente qual proprietário de rótulo
#Predeterminar quais proprietários de rótulos são consic
#Predeterminar quais proprietários de rótulos são consic
#
#Se o indivíduo vivo tiver contato físico com outro indi
#O indivíduo biológico faz um novo aumento na quantidade
#O conteúdo do rótulo de atributo mantido pela outra ent
#O resultado. A entidade material não é mais considerada
#Se o indivíduo material se tornar novamente prejudicial
#O conjunto de tais indivíduos materiais em geral inclui
#Que esses indivíduos vivos podem ser um recurso útil e
#Subclasses.
#Que o comportamento de tais seres vivos e indivíduos ma
#
###################################



###################################
#
#---
#En un programa de comportamiento material general que a
##Para crear, para cada partícula individual, la adición
##Para simplemente conectar y unir, funcionalmente, como
#
#La función de los circuitos neuronales biológicos, que
#Es el contenido de lo siguiente.
#La capacidad de desplazarse para adquirir los recursos
#La capacidad de competir y luchar con otros individuos
```

#
#---
#En el movimiento de los individuos biológicos. La funci
#
#Neuronas de entrada.
#Otros individuos físicos o biológicos que realizan func
#Otros individuos físicos o biológicos que actúan negati
#
#Células nerviosas intermedias.
#Detección y comunicación a la neurona de salida de valo
#
#Neurona de salida.
##Disminución de la cantidad de recursos poseídos e inco
#Si la cantidad de recursos que posee e incorpora el ser
#Otros individuos físicos o biológicos que realizan una
#Otro individuo físico o biológico que realiza una funci
#Otros individuos físicos o biológicos que actúan negati
#Si es capaz de alcanzar el lugar donde existen los recu
#Otra entidad material B como recurso necesario para la
#
#---
#Ver el ejercicio de la fuerza muscular por tales neuron
#Realizar la adición de tales valores positivos de acele
#
#---
#Si se realiza.
#Como prerrequisito para su realización se establece un
#Como prerrequisito para su realización.
#El comportamiento que identifica si otro individuo es b
#Acción de atraer un recurso beneficioso para el individ
#La incorporación al propio ser vivo de otros individuos
#
#---
#Adquisición de recursos por parte de un ser vivo indivi
#El proceso operativo de tal ser vivo individual, que de
#El individuo ingiere e incorpora a su cuerpo otros indi
#El ser vivo descompone los otros entes materiales que h
#Sin embargo, deben ser programáticamente difíciles de c
#
#Un proceso alternativo, alternativo, de funcionamiento

```
#Asignar etiquetas de atributos específicos a cada mater
#A partir de esas etiquetas de atributos.
#Determinar de antemano qué propietario de etiqueta se c
#Predeterminar qué propietarios de etiquetas son conside
#Predeterminar qué propietarios de etiquetas son conside
#
#Si el individuo vivo tiene contacto físico con otro inc
#El individuo biológico realiza un nuevo aumento de la c
#El contenido de la etiqueta de atributo que posee la ot
#El resultado. La entidad material deja de ser considera
#Si el ente material vuelve a ser perjudicial para el er
#El conjunto de tales individuos materiales en general i
#Que tales individuos vivos en sí mismos pueden ser un r
#Subclases.
#Que el comportamiento de tales seres vivos e individuos
#
###################################



###################################
#
#---
#Dalam program perilaku material umum yang memanfaatkan
##Untuk menciptakan, untuk setiap partikel individu, per
##Untuk hanya menghubungkan dan melampirkan, secara fung
#
#Fungsi sirkuit saraf biologis, yang merupakan hubungan
#Ini adalah isi dari yang berikut ini.
#Kemampuan untuk bergerak untuk memperoleh sumber daya y
#Kemampuan untuk bersaing dan bertarung dengan individu
#
#---
##Dalam pergerakan individu biologis. Fungsi spesifik da
#
#Input neuron.
#Individu fisik atau biologis lain yang melakukan fungsi
#Individu fisik atau biologis lain yang bertindak negati
#
#Sel saraf perantara.
```

#Mendeteksi dan mengkomunikasikan nilai waktu nyata di d
#
#Neuron keluaran.
##Penurunan jumlah sumber daya yang dimiliki dan dibangu
#Jika jumlah sumber daya yang dimiliki dan dibangun ke d
#Individu fisik atau biologis lain yang melakukan fungsi
#Individu fisik atau biologis lain yang melakukan fungsi
#Individu fisik atau biologis lain yang bertindak negati
#Jika mampu mencapai lokasi di mana sumber daya yang dip
#Entitas material lain B sebagai sumber daya yang diperl
#
#---
#Untuk melihat latihan kekuatan otot oleh neuron keluara
#Untuk merealisasikan penambahan nilai percepatan positi
#
#---
#Jika itu terjadi.
#Sebagai prasyarat untuk realisasinya adalah mengatur pe
#Sebagai prasyarat untuk realisasinya.
#Perilaku yang mengidentifikasi apakah individu lain ber
#Tindakan untuk menarik sumber daya yang bermanfaat bagi
#Penggabungan individu lain yang sesuai dengan sumber da
#
#---
#Akuisisi sumber daya oleh makhluk hidup individu.
#Proses operasi dari makhluk hidup individu tersebut, ya
#Individu tersebut menelan dan memasukkan ke dalam tubuh
#Makhluk hidup itu memecah entitas-entitas material lain
#Namun, hal itu harus diprogram untuk dicapai.
#
#Sebuah alternatif, alternatif, proses operasi dari indi
#Menetapkan label atribut tertentu untuk setiap materi a
#Berdasarkan label-label atribut tersebut.
#Menentukan terlebih dahulu pemilik label mana yang dian
#Tentukan terlebih dahulu pemilik label mana yang diangg
#Tentukan terlebih dahulu pemilik label mana yang diangg
#
#Jika individu yang hidup memiliki kontak fisik dengan i
#Individu biologis membuat peningkatan baru dalam jumlah
#Isi dari label atribut yang dipegang oleh entitas mater

#Hasilnya. Entitas material tidak lagi dianggap sebagai
#Jika individu material menjadi berbahaya bagi entitas b
#Himpunan individu material seperti itu secara umum menc
#Bahwa individu-individu yang hidup itu sendiri dapat me
#Subkelas.
#Bahwa perilaku makhluk hidup dan individu material ters
#
####################################

####################################
#
#---
#Mevcut çoklu işlem yeteneklerinden yararlanan bir genel
##Her bir parçacık için biyolojik sinir sisteminin girdi
##Maddi parçacıkların hareketini gerçekleştirme sürecini
#
#Maddenin tek tek parçacıklarına yeni bir ek bağlantı ol
#Aşağıdakilerin içeriğidir.
#Kendini korumak için gerekli kaynakları elde etmek üzer
#Sınırlı kaynaklar için diğer fiziksel veya biyolojik bi
#
#---
Biyolojik bireylerin hareketinde. Sinirsel devresinin
#
#Girdi nöronları.
#Kendi hayatta kalması için olumlu işlevler yerine getir
#Kendi hayatta kalmaları için olumsuz davranan diğer fiz
#
#Ara sinir hücreleri.
#Canlının sahip olduğu ve bünyesinde barındırdığı kaynak
#
#Çıkış nöronu.
##Canlı tarafından sahip olunan ve inşa edilen kaynak mi
#Canlının sahip olduğu ve içine yerleştirdiği kaynakları
#Kendi hayatta kalmasının sürdürülmesi için olumlu bir i
#Kendi hayatta kalması için olumsuz bir işlevi yerine ge
#Kendi hayatta kalmaları için olumsuz davranan diğer fiz
#Kendi hayatta kalması ve idamesi için gerekli kaynaklar

```
#A canlısının hayatta kalması için gerekli bir kaynak ol
#
#---
#Bu tür çıkış nöronları tarafından kas gücünün kullanılm
#Birden fazla süreci birbirine bağlayan bir kuyruk kulla
#
#---
#Eğer böyle yaparsa.
#Gerçekleşmesi için bir ön koşul, bireysel canlıya fayda
#Gerçekleşmesi için bir önkoşul olarak.
#Başka bir bireyin biyo-birey için faydalı mı yoksa zara
#Birey için faydalı olan bir kaynağı çekme eylemi.
#Kaynağa karşılık gelen diğer bireylerin canlının kendis
#
#---
#Bireysel bir canlı tarafından kaynakların edinilmesi.
#Böyle bireysel bir canlının gerçekleştirmesi gereken iş
#Birey, kaynağa karşılık gelen diğer maddi bireyleri yut
#Canlı, kendi hayatta kalması için gerekli işlevleri çık
#Bununla birlikte, programatik olarak başarılması zor ol
#
#Yaşayan bireyin alternatif, onların yerine geçebilecek
#Önceden oluşturulmuş bir bilgi veri dizisi olarak her b
#Bu nitelik etiketlerine dayanarak.
#Hangi etiket sahibinin diğer hangi etiket sahibi için y
#Hangi etiket sahiplerinin hangi diğer etiket sahipleri
#Hangi etiket sahiplerinin diğer hangi etiket sahipleri
#
#Canlı birey, faydalı bir kaynak olarak nitelendirilen b
#Biyolojik birey, yerleşik kaynağın miktarında yeni bir
#Biyolojik birey tarafından temas edilen diğer maddi var
#Sonuç. Maddi varlık artık biyolojik varlık tarafından f
#Maddi birey biyolojik varlık için yeni zararlı hale gel
#Genel olarak bu tür maddi bireyler kümesi genel olarak
#Bu tür canlı bireylerin kendileri de diğer canlı bireyl
#Alt sınıflar.
#Bu tür canlıların ve maddi bireylerin davranışlarının b
#
####################################
```

####################################
#
#---
#현재 다중 처리 기능을 활용하는 일반적인 재료 동작 프로그램에서.
##각 개별 입자에 대해 생물학적 신경계의 입출력 기능을 추가하여 생
##물질 입자의 움직임을 구현하는 과정을 생물학적 신경회로의 과정과
#
#생물학적 신경회로의 기능, 즉 물질의 개별 입자에 대한 새로운 추가
#다음과 같은 내용입니다.
#자신의 자기 보존을 유지하는 데 필요한 자원을 획득하기 위해 이동하
#제한된 자원을 얻기 위해 다른 물리적 또는 생물학적 개체와 경쟁하고
#
#---
##생물학적 개체의 움직임에서. 신경 회로의 특정 기능. 여기에는 다
#
#입력 뉴런.
#자신의 생존을 위해 긍정적인 기능을 수행하는 다른 물리적 또는 생물
#자신의 생존을 위해 부정적으로 행동하는 기타 신체적 또는 생물학적
#
#중간 신경 세포.
#생명체가 소유하고 내장한 자원의 증가 또는 감소에 대한 체내의 실시
#
#출력 뉴런.
##생명체가 소유하고 내장하고 있는 자원의 양이 감소합니다. 새로운
#생명체가 소유하고 구축한 자원의 양이 증가하거나 현상 유지를 하고
#자신의 생존을 유지하기 위해 긍정적인 기능을 수행하는 기타 신체적
#자신의 생존을 위해 부정적인 기능을 수행하는 또 다른 물리적 또는
#자신의 생존을 위해 부정적으로 행동하는 기타 신체적 또는 생물학적
#자신의 생존과 유지에 필요한 자원이 존재하는 위치에 도달할 수 있는
#다른 물질 개체 B가 스스로 공간에서 움직일 때 생명체 A 자체의 생
#
#---
#이러한 출력 뉴런에 의한 근력 운동은 생명체의 물리적 실체 기능을
#여러 프로세스를 연결하는 큐를 사용하여 출력 뉴런 프로세스에서 물
#
#---
#그렇다면.
#실현을 위한 전제 조건은 개별 생명체에 유익한 자원을 끌어들이는 능

#실현을 위한 전제 조건으로.
#다른 개체가 생물 개체에게 유익한지 해로운지를 식별하는 행동이 선
#개체에게 유익한 자원을 끌어들이기 위한 행동.
#자원에 해당하는 다른 개체를 생명체 자체에 통합하는 행위. 그러나
#
#---
#개별 생물의 #자원 획득.
#이러한 개별 생물의 작동 과정이 실현되어야 합니다.
#개체는 자원에 해당하는 다른 물질 개체를 삼켜서 자신의 몸에 통합
#생명체는 섭취한 다른 물질 개체를 분해하여 자신의 생존에 필요한
#그러나 프로그래밍적으로 달성하기는 어렵습니다.
#
#살아있는 개체를 대신하여 대체할 수 있는 대안적인 작동 과정. 다
#미리 구축된 정보 데이터 배열로 각 물질 또는 생물 개체에 특정 속
#이러한 속성 레이블을 기반으로.
#어떤 라벨 소유자가 어떤 다른 라벨 소유자에게 유용한 리소스로 간
#어떤 레이블 소유자가 다른 레이블 소유자에게 쓸모없는 개체로 간주
#어떤 라벨 소유자가 다른 라벨 소유자가 피해야 할 유해한 물체로 간
#
#살아있는 개체가 유익한 자원으로 간주되는 다른 물질적 개체와 신체
#생물학적 개체가 내장된 자원의 양을 새롭게 증가시키는 경우.
#생물 개체가 접촉한 다른 물질 개체가 보유한 속성 레이블의 내용입
#결과. 물질 개체는 더 이상 생물 개체에 의해 유익한 자원으로 간주
#물질 개체가 생물체에 새롭게 해로운 존재가 된 경우. 생물이 물질
#이러한 물질적 개체의 집합에는 일반적으로 생물학적 개체가 포함됩
#그러한 살아있는 개체 자체는 유용한 자원이 될 수 있으며 다른 살
#하위 클래스.
#그러한 생명체와 물질 개체의 행동이 그렇게 되도록 미리 프로그램되
#
##################################

##################################
#
#---
#In un programma di comportamento generale dei materiali
##Per creare, per ogni singola particella, l'aggiunta de
##Per collegare semplicemente e funzionalmente il proces
#

#La funzione del circuito neurale biologico, che è un nu
#È il contenuto di quanto segue.
#La capacità di muoversi per acquisire le risorse necess
#La capacità di competere e combattere con altri individ
#
#---
##Nel movimento degli individui biologici. La funzione s
#
#Neuroni in ingresso.
#Altri individui fisici o biologici che svolgono funzion
#Altri individui fisici o biologici che agiscono negativ
#
#Cellule nervose intermedie.
#Rilevano e comunicano al neurone di uscita valori in te
#
#Neurone di uscita.
##Diminuzione della quantità di risorse possedute e cost
#Se la quantità di risorse posseduta e incorporata nell'
#Altri individui fisici o biologici che svolgono una fun
#Un altro individuo fisico o biologico che svolge una fu
#Altri individui fisici o biologici che agiscono negativ
#Se è in grado di raggiungere il luogo in cui esistono l
#Un'altra entità materiale B come risorsa necessaria per
#
#---
#Considerare l'esercizio della forza muscolare da parte
#Realizzare l'aggiunta di tali valori di accelerazione p
#
#---
#Se lo fa.
#Un prerequisito per la sua realizzazione è la creazione
#Come prerequisito per la sua realizzazione.
#Il comportamento che identifica se un altro individuo è
#Azione di attrazione di una risorsa vantaggiosa per l'i
#L'incorporazione di altri individui che corrispondono a
#
#---
#Acquisizione di risorse da parte di un singolo essere v
#Il processo operativo di un tale essere vivente individ
#L'individuo inghiotte e incorpora nel suo corpo altri i

#L'essere vivente scompone le altre entità materiali che
#Tuttavia, devono essere programmaticamente difficili da
#
#un processo operativo alternativo dell'individuo vivent
#Assegnare etichette di attributi specifici a ciascun ma
#In base a queste etichette di attributo.
#Determinare in anticipo quale proprietario di etichetta
#Predeterminare quali proprietari di etichette sono cons
#Predeterminare quali proprietari di etichette sono cons
#
#Se l'individuo vivente ha un contatto fisico con un alt
#L'individuo biologico aumenta la quantità della risorsa
#Il contenuto dell'etichetta dell'attributo detenuto dal
#Il risultato. L'entità materiale non è più considerata
#Se l'individuo materiale diventa nuovamente dannoso per
#L'insieme di tali individui materiali in generale inclu
#Che tali individui viventi possono essere essi stessi u
#Sottoclassi.
#Che il comportamento di tali esseri viventi e individui
#

######################################

#2025.04.21

#Additional content.
#That the living thing acquires resources each time from
#That the counterpart substance is inexhaustible. The su
#That the living thing acquires resources from the oppor
#On the other hand. The amount of resources stored in th
#The living thing continues to move as long as the resou

#附加内容。
#生物每次都能从与自己意外碰撞的对方物质的特定内容中获取资源。
#对立物质取之不尽，用之不竭。该物质不会因为生物获取资源而减少。
#生物从对方物质中获取资源，暂时增加了体内的资源储备。
#另一方面， 生物体内的资源储量每隔一段时间就会减少一定量。
#只要生物体内的资源储备减少，它就会继续移动。

#Дополнительное содержание.

#Что живое существо приобретает ресурсы каждый раз из сп
#Что субстанция-противник неисчерпаема. Вещество не умен
#Что живое существо приобретает ресурсы из вещества прот
#С другой стороны. Количество ресурсов, хранящихся в тел
#Живое существо продолжает двигаться до тех пор, пока за

#追加内容。
#生物は、彼自身が偶然衝突した、特定の内容の相手物質から、資源をその
#その相手の物質は、無尽蔵に存在すること。その物質は、その生物が資源
#生物は、相手の物質から資源を獲得して、一時的に、その体内における資
#一方。その生物の体内の資源貯蔵量は、一定時間ごとに、一定量ずつ減少
#生物は、彼自身の体内の資源貯蔵量が減少する限り、動き続けること。

#Zusätzlicher Inhalt.
#Dass das Lebewesen jedes Mal Ressourcen aus einem besti
#Dass die gegnerische Substanz unerschöpflich ist. Die S
#Dass das Lebewesen Ressourcen aus der gegnerischen Subs
#Auf der anderen Seite. Die Menge der im Körper des Lebe
#Das Lebewesen bewegt sich so lange weiter, wie die Ress

#Contenu additionnel.
#Que l'être vivant acquiert à chaque fois des ressources
#Que la substance adverse est inépuisable. La substance
#Que l'être vivant acquiert des ressources de la substan
#D'autre part. La quantité de ressources stockées dans l
#L'être vivant continue à se déplacer tant que les réser

#Conteúdo adicional.
#Que o ser vivo adquire recursos a cada vez a partir de
#Que a substância oposta é inesgotável. A substância não
#Que o ser vivo adquire recursos da substância do oponen
#Por outro lado. A quantidade de recursos armazenados no
#O ser vivo continua a se mover enquanto as reservas de

#Contenido adicional.
#Que el ser vivo adquiere recursos cada vez a partir de
#Que la sustancia contraria es inagotable. Que la sustan
#Que el ser vivo adquiere recursos de la sustancia contr
#Por otro lado. La cantidad de recursos almacenados en e
#El ser vivo continúa moviéndose mientras disminuyen las

#Konten tambahan.
#Bahwa makhluk hidup memperoleh sumber daya setiap kali
#Bahwa substansi lawan tidak akan pernah habis. Zat ters
#Bahwa makhluk hidup memperoleh sumber daya dari substan
#Di sisi lain. Jumlah sumber daya yang tersimpan di dala
#Makhluk hidup terus bergerak selama cadangan sumber day

#Ek içerik.
#Canlının her seferinde, kendisinin kazara çarpıştığı ka
#Karşıt madde tükenmezdir. Maddenin, canlının kaynak edi
#Canlı, rakibinin maddesinden kaynak edinerek vücudundak
#Öte yandan. Canlının vücudunda depolanan kaynak miktarı
#Canlı, vücudundaki kaynak rezervleri azaldığı sürece ha

#추가 내용.
#생명체는 자신이 실수로 충돌하는 상대 물질의 특정 내용물에서 매번
#상대 물질이 무진장하다는 것. #상대 물질은 무한합니다. 그 물질은
#생명체가 상대방의 물질로부터 자원을 획득하여 일시적으로 체내의 자
#반면에. 생물의 체내에 저장된 자원의 양은 일정한 간격으로 일정량씩
#생명체는 체내에 저장된 자원이 감소하는 한 계속 움직입니다.

#Contenuto aggiuntivo.
#Che l'essere vivente acquisisce risorse ogni volta da u
#Che la sostanza avversaria è inesauribile. La sostanza
#Che l'essere vivente acquisisca risorse dalla sostanza
#D'altra parte. La quantità di risorse immagazzinate nel
#L'essere vivente continua a muoversi finché le riserve

####################################
#end
####################################

To return to the top page.

Table of Contents

他人を、見捨てること。
嫌がらせをすること。
人間の愛情。その限界。
人間の慈善。その限界。
人間の良心。その限界。

見かけの良さを好むこと。

生物嫌いの生物。人間嫌いの人。

生物嫌悪の思想。人間嫌悪の思想。
人間嫌いの人。彼は、何になりたいか？
人間嫌いの人。彼の生き方。
人間嫌いの人。彼の生きがい。
人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その方法。
人間嫌いの人。社会的真実に近づくこと。その心がけ。
女性優位社会における、社会研究者の、無能性。
男性優位社会における、社会研究者の、無能性。

生物の心理。その光明性。その暗黒性。

生物が共通に持つ心理。生物が共通に持つ意思。
生物。人間。彼ら自身の生涯を光明性で満たす方法。
自分自身の生涯を光明に変えるには。
生命のバトン。生命のリレー。生物の運命。
生物の権利。生物の倫理。生物の宿命。
生物の義務。生きること。
感情。情動。生命維持との関連。
生物社会の人工的な生成。
生物の倫理。移動生活様式中心社会の場合。

生物にとっての理想。その実現は、不可能である。

総論。生物にとっての理想。生物の本質。その両者の関係。
生物の本質。それらの主要な内容。
生物にとっての理想。その実現が不可能であること。
生物にとっての理想郷。
生物にとっての理想と、その主唱。
生物にとっての理想。それが持つ、生物にとっての効

果。
生物にとっての、理想と、現実。

人間の本質。生物の本質。その両者の間における、同質性。

人間の身体。生物の身体。男女の性差。その根本的な規定要因。
生物の維持。その実現のための、前提条件。
生物における、基本的欲求。生物における、基本的傾向。
生物にとっての、生きやすさ。その内容分類。
良い存在。良い生物。良い人。良い異性。その分類。
友だち。その分類。
本書の内容。その最終的な目的。
社会的真実についての情報。それを、著書として、公開すること。その行為が持つ、危険性。
機密情報の公開。社会的真実の解明との関連。
社会的真実を、取得すること。そのために必要な行為。
人間の本質に、迫ること。そのために必要な、考え方。
生物。遺伝的子孫の有無。恋愛の有無。結婚の有無。それらの、以下の内容の発生との関連。社会的な優劣。社会的な厚遇と冷遇。社会的な差別や虐待。
親と子供との関係。生物の本質との関連。
人生における、生殖の本質視と、その隠ぺい。人間における、そうした行為の発生。生物の本質との関連。
人間と、他の生物との間における、断絶や、根本的な相違。それらの主張の、移動生活様式との関連。
人間社会の現実。上位者と下位者との関係。人間の下位者が持つ、家畜的な性質。
人間社会の真実に、到達すること。その方法。
人間は、世界社会レベルにおいて、生物の本質や、人間の本質や、社会の本質に迫ることが、不可能である。
密の生物。疎の生物。密の人。疎の人。
差別。それは、生物や人間の本質である。
血縁関係の分類。血縁制度の分類。
通貨高社会。通貨安社会。
通貨。言語。物理キーボードの文字キー配列。それら

の統一や不統一と、既得権益との関連。
生物にとっての、物語。
物語における、感動。その発生の要因。生物にとっての場合。
生物にとっての物語。その内容の分類。
表層。基層。深層。それらの概念の、生物の本質との関連。
救助。援助。福祉。搾取。生物の本質との関連。
生物にとっての、社会的な羨望の対象。生物は、社会的上位者になりたい。
家畜的社会関係。対等的社会関係。それらの生成。生物社会の本質。
生物による、エビデンスの提示。その限界。
生物。その純物質的な本質。その利己性。その革新性。それらの純物質レベルでの実現。
生物における、悪行。
生物の本質を突くこと。それは、生物にとって、不快である。
社会的真実の解明。その効果的な手法。
血統や品種と、生物の本質。
自己顕示欲と、生物の本質。
気候変動。地球温暖化。生物との関連。
生物と愛情。
生物と、所有や占有や私有。
生物の欲求。その存在の至高性の確認。
生物と社会性。
生物と、休息や睡眠。
生物と、殺傷と、護衛や保護。
生物と支配。
生物と、生きやすさと、政治や、法律や、経済。
生物の感情と、生きやすさ。
生物と、生きやすさと、負荷。
生物の本質に基づいた、儒教に対する考察。
生物の本質に基づいた、ユダヤ教やキリスト教やイスラム教に対する考察。
生物の本質に基づいた、仏教に対する考察。
生物倫理。その内容が目指すべき、真の方向性。
生物と、地球温暖化。
無能な生物と、外部社会。
社会的存在としての、生物。

生物における、同質性と異質性の確保。
生物の生存維持における、優先性。
社会的下位者と、生物の原罪。
生物社会と、革命や民主制。
生物と、有能性。
生物と、評価。
生物と、反省や内省。
生物と、攻撃や防御。
生物と種。
生態学。その内容の根本的な変革。その必要性。
生物の生体。その操作。その加工。それらは、生物固有の権利である。
生物と秩序。生物と法律。
生物学や生態学における、人間や生物に対する、視点。男性優位社会の場合。
生物と集団。
生物と既得権益。その、資本主義や社会主義との関連。従来のマルクス主義に対する批判。その代替案の提案。
生物の経済学と、生物社会の改革との関連。従来の人間の経済学の、超越。
生物の共同体。その形成の基盤としての、生物の間における、共通性と統合性の存在。気体的な共同体と、液体的な共同体。
生物における、社会的な、優位性や上位性。生物における、社会的な、劣位性や下位性。
生物における、有能性。
生物における、社会思想史。
西欧や北米における、社会思想の、特徴。
中国における、社会思想の、特徴。
生きやすさの無償提供。製品の無償提供。そうした行為が、生物に対してもたらす、効果。
高需要の生きやすさの、供給。そうした行為が、生物に対してもたらす、効果。
社会における、生きやすさの蓄積の、促進要因。資本主義の促進要因。社会の近代化の要因。
社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。M.Weber.
社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。G.Simmel.

社会学における、伝統的な分析概念についての、再検討。E.Durkheim.
周囲との同化を拒絶する、生物や人間。彼らを待ち受ける、苛酷な運命。
社会の近代化。そのプロセスの把握。
社会変動の要因。
上位者による、社会支配。下位者による、それに対する束縛。それらの是非。
生物と、社会的な禁忌。
生物における、民主主義の基本。

血縁関係。親子関係。それらの、生物にとっての、根本的な重要性。

生物における、血縁関係と親子関係。
血縁関係。それは、生物の社会の中心である。
親と子供。その分類。
母性と父性。母権と父権。
母性・父性と、女性性・男性性との関係
子供と母性・父性関係の３類型
父性・母性とドライさ・ウェットさとの関連
母性、父性と液体、気体
父性・母性と子供の養育
母性、父性スキルの世代間伝達
母性と"かわいさ"指向
母性的組織と父性的組織
母権社会と父権社会
父の掟、母の掟
母権社会と、父権社会。社会的温室性との関連。社会的代表性との関連。
母性的国家と父性的国家
愛国心の違いと父性、母性
近代的自我と父性・母性
父性・母性と民主主義
母性的、父性的な、住宅やオフィス
母性的職業、父性的職業
密着操作、遠隔操作と、母性、父性
相互監視社会と父性、母性
慈愛、厳しさと父性、母性

温室。温室社会。温室集団。

温室社会。温室集団。それらの定義。
温室性の確保と、それに伴う、代表性の回避。
温室の提供者と享受者。彼らの間の上下関係。
温室内部からの社会支配。
温室性の確保。男性優位社会に支配される、女性優位社会の場合。

調和。調和主義。調和社会。調和集団。それらの特徴。その総合的な分析。

調和。生物や人間による、その実現。その、社会的な理想化。生物の本質との関連。
調和社会。調和集団。それらについての、概観。
調和社会。調和集団。それらにおける、調和の崩壊。
不調和者。調和社会における、社会への不適応者。彼らの特徴。
調和者。調和社会における、社会への適応者。彼らの特徴。
調和社会における、調和集団。その特徴。
調和社会。調和者が引き起こす、不調和。それらの発生の原因。
調和社会。その生きにくさの要因。
調和者。彼らの行動原理。
調和社会。調和集団。調和を保つ、意思決定プロセス。
調和社会。調和集団。それらの内部における、調和の破壊。その発生要因。
調和社会。調和集団。それらの内部における、嫌がらせの発生。そのプロセス。
調和社会。調和集団。それらの内部における、不調和状態の解決。そのプロセス。
調和社会。調和集団。調和者の、社会行動における、動機。その内容分類。
調和と、専制支配や独裁。
調和主義。それは、女性優位社会における、社会的価値観の中核である。

無機質主義。

無機質主義。その基本的な考え方。生物の無機質的な把握。
意識物質。意識の、無機質的な把握。

生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

本書の執筆目的。
生物の分類。
機能。
生きやすさの水準。
機能物質。
機能の分類。
機能の分析。
機能の交換。機能の市場。
ユーザビリティ。
社会の維持。体制の維持と転覆。

生物と、救い。

生物の生活における、苛酷な現実と、救いの追求。

生物の生活における、苛酷な現実。
生物の生活における、救いの追求。
生物にとっての救い。その、内容面における限界。
救いと、良心。

社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

社会的な良い者。社会的な不良者。その定義。
社会的不良行為。その実行者としての不良者。
社会的不良行為。性差がもたらす問題。
社会的な不良者。その分類。
社会的な良い者。社会的な不良者。その二次元分類。
真の良い者。真の不良者。

生きがい。充実した人生。それらの源。

はじめに。内容の総括。
生きがいとは、何か？
生きがいと生計。

子孫とは何か？
子孫にすることが不可能なもの。
人生の教訓と、子孫の存在。
生物や人間にとっての生きがい。
子孫を後世に残す上で、重要なこと。
失敗人生。
将来的に無効化される行為。それを、自発的に実行すること。人生を消費すること。
人生における、その他の生きがい。
ITと子孫。
社会的な有名さと子孫。
世代内の記憶と、子孫。
遺伝的子孫と遺伝子の交配。
人生と、お金。
子孫が、ゴミになる問題。
子孫を残せない人の問題。
権利としての、子孫の残存。
生きがいと、物品の買い支え。
子孫残存と、能力の必要性。
生きがいと、生活スタイルとの関連。
人生において、最も大切なこと。

資源の所有と非所有。その利点と欠点。

資源所有者の利点と欠点。
資源非所有者の利点と欠点。
資源所有者と資源非所有者との関係。

富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。

社会的上位者の心理。社会的下位者の心理。

生物の社会。社会的な上下関係。それらの決定要因。
社会的上位者。
社会的下位者。

国家の本質。生物の本質との関係。

本文。国家の本質。生物の本質との関係。

生物の神経系の、コンピューターシミュレーションによる、リアルな再現。心理学や社会学への応用。

生物の、神経系と精神と社会。
神経系の研究。その内容分類。
生物の心理学。
神経系と、生物の個体。
生物の神経系と、生物の魂。
神経系と、性差。
神経細胞の学習能力。神経細胞の可塑性。シナプスの学習。シナプスの可塑性。
生物における、神経系の、位置付け。
神経系の社会学。その、プログラミング技術による、研究の実現。
生物の神経回路の実装と、それによる、生物の神経系の社会行動の再現。そのために、クリアすべき、課題。
ミニマム神経系。

ミニマム神経系の社会学。
ミニマム神経系の構成要素。

生物の社会。生物の神経系。それらのシミュレーション。

生物神経系や、生物社会の、人工的な生成。マイクロニューロコンピュータの生成と、相互作用。
実動プログラムソースコード生成の実践。それらの手順の概要。
作成が必要な、神経系のシミュレーションプログラムの内容。その作成に当たって、考慮すべき点。
神経系への、機能の実装。
神経系プログラミング。その手法。
神経系プログラミング。その初期に決定すべき、内容。
神経系プログラミング。その例題の設定。

（参考）論理回路における、関数モジュール。
神経系のプログラミング。その開発における、適格者。
神経系のシミュレーション言語。
神経系シミュレーション。その、マルチプロセッシングによる、実現。
神経回路網の配線。それらの、設計とデバッグの、容易化。路線バスの路線系統図の転用。
神経系の動きの基盤をなす、生物の根源的な行動。
神経系における、神経回路以外の表現の、必要性。
神経回路の設計図。その凡例。
神経系における、環境との入出力。その設計。
神経回路の学習機能の設計における、注意事項。
神経回路における、入出力の自動調節の、必要性。
神経回路における、入出力の自動調節。神経回路における、必要な、構成要素。
ある神経系から、別の神経系への、神経回路のコピー。そのメカニズムの設計。
生物の神経系における、反転出力を行う能力の、欠如。
神経系における、敵と味方との区別。そのメカニズムの設計。
神経回路のプログラミング。その最初期段階の、実現。
神経系における、学習と忘却。それらの、プログラミングによる、実現。
神経系における、神経回路の新規創出。そのための、神経系自身による、試行錯誤。神経系における、思考。それらの、プログラミングによる、実現。
神経系における、新規の神経回路の、自動生成。そのプロセス。
生物における、資源の入手と、障害物の除去。それらの、神経回路プログラミングによる、実現。
神経回路の実装に必要な、基本的な神経回路の、モジュール化。それらの、基本的なライブラリとしての、整備。

神経回路の設計の、自動化。その必要性。
神経回路の設計における、最上位の概念。それらの設定の必要性。
神経系における、存在中の環境を入れ替える能力。神経系における、環境の中を移動する能力。それらの、実装。
神経系における、環境を変動させる能力。その、実装。
神経系における、環境に対して、刻印を、行い、残す、能力。その、実装。
神経系における、環境との間で、信号や記号をやり取りする、能力。その、実装。
環境における、神経系に対して、任意のタイミングで、任意の入力刺激を発生する、能力。その、実装。
神経系における、権利関係。それらの、実装。
神経系による、他の存在における資源性の有無の、認識。その可能性の、実装。
神経系による、他の存在における生物性の有無の、発見や認識。その可能性の、実装。
神経回路の設計の、遺伝的な規定や決定。その実装。
神経系における、出力細胞。その働き。
生物の神経回路における、フィードバック機能の、実装。
出力細胞による出力。その有効性の、神経系自身による、評価。その評価能力の実装。
生物の神経系における、資源の入手。その簡略化された、基本的なプロセス。
通信的空間。通信による移動。その実像。
神経回路のモジュール化の、必要性。
神経回路のプログラミング。その、python言語による、サンプルコード。

無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

はじめに
脳の活動を監視するヘルメットやヘアバンド。それらの存在による、良心の発生。
死後の世界は存在しない。神経系と、霊魂。

無宗教や無神論者の人でも救われること。その実現方法。
全ての神は、人造神である。
大自然は、人格を持たない。それは、神にはなり得ない。
本当の聖人。
人間の霊魂は、死後、消滅する。
神を信じなくても、罰は当たらない。
精神病としての宗教信仰。精神科医としての無神論者。
墓の本当の意義。
天国も、地獄も、存在しないこと。
無神論や無宗教の主張。それは、脳神経科学に基づいて行えば、良い。
生物や人間にとって、最も大切なこと。
生物の脳と、人間の脳は、共通であること。
善行を行う存在。それは、救われる必要がある。
人間が、神が存在しない条件下で、善行をすること。そのように持っていく方法。その確立。それが必要であること。
神や宗教無しで、人々に対して、善行を行う気を起こさせる方法。
神や宗教を、不要にすること。そのために、一番効果があること。それは、何か？
プラスの価値のある存在として、残りたいこと。
人間が救われるには、どうすれば良いか？
生き残れなければ、何もならないこと。
従来の神や宗教。それらの本当の存在意義。それらの代替となる存在としての、脳のスキャンニング。
考える神と、物理的な神経回路網の必要性。
無神論や無宗教は、地動説と似ている。
無神論を主張する人が少ない理由は？
自立や自助の思想としての、無神論。
相互扶助のコミュニティと、その統合のシンボル。
この世には、超人的な存在による加護は、無いこと。
生命は、皆、原罪を負っていること。
実証主義。証拠主義。それらによって、生きること。
創造主不要論
マルクス主義の衰退。科学的唯物論の今後の発展。
死と、救い。神や宗教の起源。

無限な生命を得たい思い。宗教のからくり。
宗教とセックス。
無神論によって、人間社会を上手く回すこと。機能主義的な無神論。
脳神経科学の発展と、宗教の消失。
現人神。それは、実現不可能である。
脳のスキャンニングによって、善人か悪人かを判定できるようにすること。
権力者への対応。
ずるい人、小賢しい人への対応。
遺伝学の発展と、無神論。
脳神経科学の進展と友達作りや、恋愛や、結婚への対応。
人間は、結局は、猿であり、動物の一種である。
人工装置が、神になること。
機能主義的生き方、人生観。無神論との関連。

歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

はじめに。本書の目的。
歴史の法則の解明。そのために必要な、主な視点。

（１）現状の課題
（２）歴史の法則の抽出手順。「歴史の部品」の割り出し。
（３）歴史の法則の抽出作業を行うこと。そのために必要な前提知識。
（４）歴史の法則の抽出作業。その実践。

（４．１）歴史書の文言。その言い換えの作業。
（４．２）歴史の法則や歴史の部品。それらの抜き出しと整理。その重要ポイント。

A. 勢力
B. 権益
C. 支配体制
D 生活
E. 変化
F. 指導者
G. 文化. 芸術. 科学

H. 宗教

（５）抽出した歴史部品。抽出した歴史法則。

（５．１）勢力の興亡のルート、コース
（５．２）文化発展のルート、コース
（５．３．１）進歩の法則
（５．３．２）後退の法則

資料編。

［参考］歴史書の文言の言い換え方。その内容を一般化する手法。

（参考）既存の歴史書。その記述の一般化。その事例。

生物性。人間性。汎用的なリスト。

生物性。人間性。汎用的なリスト。作成の方針。その説明。
生物性。人間性。汎用的なリスト。根本原理。
生物性。人間性。汎用的なリスト。詳細な内容の一覧。

追加の内容。2022年9月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装。液体性と気体性。男女の性差。それらの、神経回路への、実装の必要性。
追加の内容。2022年10月初出。生物的神経系。その神経回路の、設計と実装における、留意点。物理的力学の一環としての、生物的力学。生物の精神における傷や病。それらの神経回路による、表現。
追加内容。2022年10月初出。その2。生物的神経系における、神経細胞の独自暴走と、統合失調症の発症。
追加内容。2022年10月初出。その3。生物的神経系における発達障害と、気体性や液体性と、性差との、関連。生物における親子関係と、信頼の形成との、関連。神経回路における傷の治癒と、カウンセリングや心理療法との、関連。男女の恋愛感情における特性の、性差。
追加内容。2022年10月初出。その4。有性生殖における、魅力的な異性。その特質。生物一般における、魅力的な個体。

その特質。
追加内容。2022年11月初出。生物における、圧力やストレスや欲求不満や葛藤や矛盾。生物における、社会的抑圧。生物における、親子関係の成立。生物力学は、物理的な力学の一環であること。液体性の生物と気体性の生物。生物の神経系における、言語と戦略立案との、共通性。生物の神経系における、意識と無意識。
追加内容。2022年11月初出。その2。生物や無生物における、資源管理。生物や無生物における、急所。気体性社会や液体性社会における、急所。
追加内容。2022年11月初出。その3。生物の有性生殖における、病気や障害の、分類。
追加内容。2023年1月下旬初出。神経回路における、フィードバック待機機能の実装。生物における恋愛。情報通信産業と、商業や交通物流産業との、共通性や同質性。
追加内容。2023年2月中旬初出。その1。生物における、自己複製や自己増殖。それらのプロセスの、コンピュータシミュレーションによる実装。
追加内容。2023年2月中旬初出。その2。生物的神経系プログラミングにおける、機能実装の進め方。
追加内容。2023年2月中旬初出。その3。物質や生物における、パラドックス。社会的パラドックスとしての、社会的な嘘つきや社会的な矛盾と、社会的な正しさの主張との関連。物質や生物の進化における、良好な進化と、不良な進化。そうした進化における、パラドックス。
追加内容。2023年2月下旬初出。その1。生物と資本主義。生物個体における、社会的資本の蓄積と、社会主義や共産主義との関連。
追加内容。2023年2月下旬初出。その2。物質や生物における、保存力の行使。女性的職業との関連。
追加内容。2023年3月上旬初出。生物における、配偶者選択のポリシー。液体性や気体性の、社会的強制。
追加内容。2023年3月中旬初出。生物的神経系におけるフィードバック機構の、コンピュータシミュレーション。そのソースコード。
追加内容。2023年4月下旬初出。生物的神経系のシミュレーションについての、Pythonのソースコードの追加。
追加内容。2023年5月中旬初出。生物における遺伝情報の、文字列や配列による表現。生物における、自己複製や自己増殖や減数分裂や有性生殖。それらの動作原理についてのシ

ミュレーションプログラムの実装。
追加内容。2023年6月上旬初出。生物と社会的禁忌と社会的真実。真に役立つ科学理論の確立との関連。
追加内容。2023年6月中旬初出。生物と、社会的禁忌と、保存力や保存的思想。生物における性差の機能分化。その根本的な原因。
追加内容。2023年6月下旬初出。有性生殖の生物における、性的誘引力の根源。
追加内容。2023年7月下旬初出。有性生殖の生物における、生活水準の規定要因。保存性の生物が好む行動。生物にとってのユーザビリティ。
追加内容。2023年8月下旬初出。エネルギー的思想。気体的思想。保存的思想。液体的思想。それらの、生物的神経系による実現。それらの、神経回路による実現。男女の性差との関連。
追加内容。2024年1月中旬初出。女性における性的誘引力。それらをもたらす、女性の生体的機構。男性差別。その根源的な要因。
追加内容。2024年1月下旬。周囲からの働きかけに対する、保存性物質とエネルギー性物質の、反応。物質動作の、論理回路や神経回路やコンピュータプロセスとしての、表現。エネルギー性思想や保存性思想が、科学研究に対してもたらす、分析視点の歪み。生物の神経回路における、逆転思考や反転思考。
追加内容。2024年2月上旬。生物の、活動一般や神経回路と神経細胞における、エネルギー性と保存性。生物の行動における性差との関連。
追加内容。2024年5月下旬。生物にとっての情報。それらの種類の分類。生物にとっての目的。生物にとっての生きやすさの実現と、生物における、自己制御や環境制御との関係について。
追加内容。2024年10月下旬。男女の性差。その本質についての、比喩を用いた、総合的な要約。
追加内容。2025年2月下旬。植物的な神経系と、動物的な神経系。それらの共通点と相違点についての、総合的な要約。植物的な神経系や神経回路の、コンピューターのマルチプロセスを利用することによる実現。
追加内容。2025年2月下旬。東洋医学における陰陽論。陰の思想内容が、保存力と引力に対応すること。陽の思想内容が、エネルギーや斥力に対応すること。それらの関連につい

ての、総合的な要約。
追加内容。2025年4月下旬初出。資源獲得機能を備えた生物個体。その物理的運動の、マルチプロセッシングによるシミュレーションについて。Pythonのソースコードの追加。
追加内容。2025年6月上旬初出。女性による、男性に対する托卵行為の発生と、女性における、男性に対する、根本的な性的優位性。女性による、男性に対する、性的搾取や性的虐待の恒常的な発生。
追加内容。2025年6月上旬初出。統合失調症の患者の、精神的特質。彼らは、強度の、気体的思想やエネルギー的思想の持ち主であること。彼らは、強度に、男性的であること。彼らが社会的に忌み嫌われる理由について。
私の書籍についての関連情報。

- 私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
- 筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
- 参考文献。
- 私が執筆した全ての書籍。その一覧。
- 私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
- 私の略歴。

私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。

////
私は、以下の内容を、発見した。
男女の社会行動上の性差。
そのことについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

男女の性差。
それは、以下の内容である。
精子と卵子との、性質の差。
それらの、直接的な、延長であり、反映。

男女の社会行動上の性差。
それらは、以下の内容に、忠実に、基づいている。
精子と卵子との、社会行動上の差。

それは、全ての生物において、共通している。
それは、生物の一種としての人間にも、当てはまる。

男性の心身は、精子の乗り物に過ぎない。
女性の心身は、卵子の乗り物に過ぎない。

子孫の生育に必要な、栄養分と水分。
卵子は、それらの、所有者であり、占有者である。

生殖設備。
女性は、それらの所有者であり、占有者である。

卵子が占有する、栄養分や水分。
精子は、それらの、借用者である。

女性が占有する生殖設備。
男性は、それらの、借用者である。

所有者が上位者であり、借用者が下位者である。

その結果。
栄養分や水分の所有。
それらにおいては、卵子が上位者であり、精子が下位者である。
生殖設備の所有。
それらにおいては、女性が上位者であり、男性が下位者である。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、精子を、一方的に選別すること。
そのことで、精子に対して、受精を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、一方的に選別すること。
そのことで、男性に対して、婚姻を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の行為を、行う。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、様々な側面から、総合的に搾取すること。

卵子は、精子を、性的に誘引する。
女性は、男性を、性的に誘引する。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
それ自身の内部への、精子の進入。
そのことについての、許認可。
その権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。

男性に対する、セックスの許認可。
その権限。

彼女自身が所有する生殖設備。
男性による、それらの、借用。
その許認可。
その権限。

男性からの求婚。
それに対する許諾。
その権限。

生物が、有性生殖を行う限り、以下の内容は、確実に存在する。
男女の社会行動上の性差。

男女の社会行動上の性差。
それらは、無くすことは、決して出来ない。

私は、以下の内容を、新たに説明する。
世界には、男性優位の社会だけでなく、女性優位の社会も、同様に、普通に、多数存在すること。

それは、以下の内容である。
女性優位社会の存在の明瞭性。
その、世界社会における、新たな再確認。

男性優位社会は、移動生活様式の社会である。
女性優位社会は、定住生活様式の社会である。

精子。
その乗り物としての、男性の心身。
彼らは、移動生活様式者である。

卵子。
その乗り物としての、女性の心身。
彼らは、定住生活様式者である。

男性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
欧米諸国。中東諸国。モンゴル。

女性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
中国。ロシア。日本。韓国や北朝鮮。東南アジア。

男性は、行動の自由の確保を最優先する。
男性は、上位者に反抗する。
男性は、下位者を、暴力で強引にねじ伏せて、服従させる。
男性は、以下の内容についての余地は、少しだけ残す。
下位者による反抗。
その可能性。
下位者による自由行動。
その可能性。
それらの余地。

男性優位社会は、暴力による支配を行う。

女性は、自己保身を最優先する。
女性は、上位者に対して、隷従する。

女性は、下位者を、隷従させる。

それは、以下の内容である。
//
最大限の高慢さと尊大さを、用いること。

下位者による反抗や自由行動。
それらの行動の余地を、完全に封殺して、一切不可能にすること。

それは、以下の内容である。
周囲の同調者と、予め、示し合わせて、行われること。
下位者による反抗を、一切、許さないこと。
下位者を、逃げ場の一切無い、密閉空間に監禁すること。
上位者の気が済むまで、粘着的に、行われれること。
下位者を、サンドバッグ代わりにして、一方的に、虐待し続けること。
//

女性優位社会は、専制による支配を行う。

欧米諸国と、ロシアや中国との、対立。

それらは、以下の内容として、十分に説明可能である。
男性優位社会と、女性優位社会との、対立。

移動生活様式は、男性優位社会を、生み出す。
そこでは、女性差別が起きる。
定住生活様式は、女性優位社会を、生み出す。
そこでは、男性差別が起きる。

女性優位社会では、以下の内容が、恒常的に発生する。
上位者としての女性による、以下のような行動。
自己弱者性についての、恣意的な連呼。
男性の強者性についての、恣意的な連呼。
それらは、以下の内容を、故意に隠蔽する。
女性の社会的優位性。
男性差別。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

女性優位社会における、その内部の機密性や閉鎖性や排他性。
その内部情報の非公開性。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

生物や人間の社会において、性差別を無くすこと。
その実現は、不可能である。
そうした試みは、しょせんは、綺麗事の理想の主張に過ぎない。
それらの行為は、全て無駄である。

男女の性差の存在を強引に否定すること。
性差別に反対すること。
欧米主導の、そうした社会運動。
それらは、基本的に、全て無意味である。

男女の性差の存在を前提とする、社会政策。
その展開が、新たに必要である。

////
私は、以下の内容を、発見した。
人間の本質。
それらについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

当方は、以下のような見方を、根本的に転換し、破壊する。

従来の、欧米やユダヤや中東による主導の、移動生活様式の思想。
それらは、人間と、人間以外の生物とを、峻別する。
それらは、以下の内容に基づく。
家畜の恒常的な屠殺。その必要性。
そうした見方。

私の主張は、以下の内容である。

人間の存在は、生物一般の存在へと、完全に包含される。
人間の本質は、以下の方法によって、より効果的に説明できる。
人間を、生物の一種として、眺めること。
人間の本質を、生物一般の本質として、捉えること。

生物の本質。
それは、以下の内容である。
自己の複製。
自己の存続。
自己の増殖。

それらの本質は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
私的な生きやすさ。
その、飽くなき追求。
それへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
有能性の獲得。
既得権益の獲得。
それらへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下の内容を、絶えず生じさせる。
生存における、優位性。
その確認。
その必要性。

そのことは、結果的に、生物の間に、以下の内容を、生み出す。
社会的優劣関係。
社会的上下関係。

そのことは、以下の内容を、必然的に生み出す。
上位者の生物による、下位者の生物に対する、虐待や搾取。

そのことは、生物に対して、原罪を、回避不可能な形で、もたらす。
それは、生物を、生きにくくする。

そうした原罪や生きにくさから逃れること。
その実現。
どんな生物も、その内容は、生きている限り、決して、実現出来ない。
それは、生物の一種である人間においても、同様である。
人間の原罪は、生物であることそのものにより、生じている。

////
私は、以下の内容を、新たに発見した。
従来の生物学において主流である、進化論。
それについて、以下の内容を指摘すること。
その内容面における根本的な誤り。
そのための、新たな説明。

それは、以下のような見方を、根本的に否定する。
人間は、生物の進化の完成形であること。
生物の頂点に、人間が、君臨すること。
そうした見方。

生物は、自己複製を、ひたすら、機械的に、自動的に、繰り返すだけである。
生物は、そうした点において、純粋に物質的な存在である。
生物は、進化への意思を、全く持たない。

生物の自己複製における突然変異。
それらは、純粋に、機械的に、自動的に、起きる。
それは、生物に対して、新たな形態を、自動的にもたらす。

従来の進化論の説明。
そうした新たな形態が、従来の形態よりも、優れていること。
そうした説明は、何も根拠が無い。

現状の、生物の一環としての人間の、形態。
それが、生物による自己複製の繰り返しの過程において、そのまま保たれること。
そうした保証は、一切無い。

生物を取り巻く環境は、常に、予想外の方向へと変化する。
以前の環境において適応的だった形質。
それらは、次の変化した環境においては、往々にして、以下のような形質となる。
その新たな環境に対して、不適応であること。

その結果。
生物の形態は、自己複製と突然変異により、常に変化する。
それは、以下の内容の実現を、全く保証しない。
より望ましい状態への進化。
その持続。

////
私の、上記の主張。
それは、以下の内容である。

世界の上位を独占する、世界一の既得権益者。
そうした、男性優位社会。
欧米諸国。
ユダヤ。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらは、彼らを中心として、生成されている。
それらの内容は、彼らが、彼ら自身が有利になるように、一方的に決定した。
それらの背景をなす、彼らの、伝統的な社会思想。
キリスト教。

進化論。
リベラリズム。
民主主義。
彼らにとって、一方的に有利な内容の、様々な社会思想。
それらの内容を、根本的に破壊し、封殺し、初期化すること。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらの決定のプロセスにおける、女性優位社会の関与の度合い。
その拡大。
その実現を、更に促進すること。

女性優位社会の内部における、根本的に生きづらい、社会的内実。
それは、上位者への隷従と、下位者への専制支配によって、完全に満たされている。
例。
日本社会の内実。

そうした不都合な社会的内実。
その発生メカニズムを徹底的に解明すること。
その結果の内容を、暴露し、内部告発すること。
そうした内容であること。

////
私の書籍。
それらの内容における、隠れた、重要な目的。
それは、以下の内容である。

女性優位社会の人々。
彼らは、今まで、以下の内容に頼るしか無かった。
男性優位社会の人々が、彼ら自身のために生成した、社会理論。

女性優位社会の人々。
彼らが、彼ら自身の社会を説明する、自前の社会理論。
彼らが、それを、自前で持つことが出来るようにすること。
その実現。

そのことによる、以下の内容の実現。
世界秩序の形成において、現在、優位に立っている、男性優位社

会。
それらの弱体化。
女性優位社会の力の、新たな強化。
私が、それを、手伝うこと。

女性優位社会の人々。
彼らが、自前の社会理論を、いつまで経っても、なかなか持つことが出来ないこと。
その理由。
それらは、以下の内容である。

分析行動そのものを、心の底で、嫌っていること。
対象との一体化や、対象との共感を、対象の分析よりも、優先すること。

彼ら自身の社会が持つ、強い排他性や閉鎖性。
彼ら自身の社会の内実を解明されることに対して、強い抵抗感を持っていること。

彼ら自身の女性的な自己保身性に基づく、強い退嬰性。
未知の危険な領域を探査することを嫌うこと。
安全性が既に確立された、前例踏襲ばかりを優先すること。

前例の無い、女性優位社会の内実の探査。
そうした行動そのものを、嫌うこと。

前例としての、男性優位社会の社会理論。
その内容を、ひたすら暗記学習すること。
それしか、能力的に、出来ないこと。

（2022年3月初出。）

筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

私の執筆の目的。

生物にとっての生きやすさ。生物にとっての生存可能性。生物にとっての増殖可能性。それを増大させること。
それは、生物にとって、一番、価値があることである。それは、生物にとって、本質的に、善である。それは、生物にとって、本質的に、光明性をもたらす。
社会的上位者にとっての善。それは、以下の内容である。最上位の社会的地位の獲得。覇権の獲得。獲得した既得権益の維持。
社会的下位者にとっての善。それは、以下の内容である。有能性の獲得による、社会的上昇。社会的革命の生成による、社会的上位者の既得権益の、破壊と初期化。
その実現に役立つ思想。真実。生物が、自分自身の真実を知ること。それは、生物にとって、冷酷で厳しく辛辣な内容である。その受容。その助けになる思想。それらを、効率良く生み出す方法。その確立。

私の方法論。
上記の目的。その実現に当たっての手順。その実現に当たっての勘所。その実現に当たっての注意点。それらは、以下の内容である。
ネット検索やネット閲覧によって、環境や生物社会の動向を常に俯瞰し観察し把握すること。それらの行為は、以下の内容の源泉になる。
環境や生物社会の真実や法則の解明において、説明力や説得力のあるアイデア。
あるアイデアによって、真実を８０％説明できそうな見通しが立った場合。そのアイデアの内容を、どんどん書き出して、体系化すること。真実に近そうな、説明力の高そうな思想を、独力で、どんどん生み出すこと。その行為を、最優先すること。
詳細な説明を後回しにすること。難解な説明を避けること。
過去の前例との照合は、後回しにすること。正しさの完全な検証は、後回しにすること。
簡潔で分かりやすく使いやすい法則の確立。その行為を、最優先すること。それは、例えば、以下の行為と同様である。簡潔で分かりやすく使いやすいコンピュータのソフトウェアの開発。

私の執筆における、理想とスタンス。

私の執筆における、理想。
それは、以下の内容である。
//

私が生成する内容の説明力の最大化。
そのためにかける手間や時間の最小化。
//

それらの実現のための方針やスタンス。それらは、下記の内容である。

私の執筆における、スタンス。

私が、文章の作成において、考慮する、根本的な方針。
それらの対比。
それらの主要な項目一覧。
それは、以下の内容である。

上位概念性。 / 下位概念性。
要約性。 / 詳細性。
根幹性。 / 枝葉性。
一般性。 / 個別性。
基本性。 / 応用性。
抽象性。 / 具体性。
純粋性。 / 混合性。
集約性。 / 粗放性。
一貫性。 / 変動性。
普遍性。 / 局所性。
網羅性。 / 例外性。
定式性。 / 非定式性。
簡潔性。 / 複雑性。
論理性。 / 非論理性。
実証可能性。 / 実証不能性。
客観性。 / 非客観性。
新規性。 / 既知性。
破壊性。 / 現状維持性。
効率性。 / 非効率性。
結論性。 / 中途性。
短縮性。 / 冗長性。

全ての文章において、内容面で、以下のような性質を、最初から、最上級の形で、実現すること。

概念上位性。

要約性。
根幹性。
一般性。
基本性。
抽象性。
純粋性。
集約性。
一貫性。
普遍性。
網羅性。
定式性。
簡潔性。
論理性。
実証可能性。
客観性。
新規性。
破壊性。
効率性。
結論性。
短縮性。

その実現を最優先して、文章の内容を、執筆すること。
その内容を、なるべく早く完成させること。
その内容を、書き上げた部分毎に、直ぐに、本文に、マージしていくこと。
それらを、最優先すること。
例。
固有名詞を、使わないこと。
ローカルな、抽象度の低い意味の語句を、使わないこと。

先進的なコンピュータプログラミング技術を、文章作成の方法へと、積極的に、応用すること。

例。
オブジェクト思考に基づく、文章作成の技術。
クラスとインスタンスの概念の、文章作成への応用。
上位クラスの内容の優先的な記述。

例。

アジャイル開発の方法の、文章作成への応用。
頻繁に、以下の行動を、繰り返すこと。
電子書籍の内容の、バージョンアップ。
その電子書籍ファイルの、公開サーバーへのアップロード。

私は、従来の学術論文の作成方法とは異なる方法を、採用している。
従来の学術論文の作成方法は、説明力のある内容の導出において、非効率である。

書籍の執筆における、私の視点。
それは、以下の内容である。

統合失調症の患者からの視点。
社会における、最下位者からの視点。
社会における扱いが、一番、劣悪な者からの視点。
社会から、拒絶され、差別され、迫害され、追放され、隔離された者からの視点。
社会不適応者からの視点。
社会で生きることを諦めた者からの視点。
一番、社会的ランクが下位の病気に罹患した患者からの視点。
社会における、一番の有害者からの視点。
社会における、一番の嫌われ者からの視点。
社会に対して、生涯、心を閉ざした者からの視点。
生物や人間に対して、根本的にがっかりした者からの視点。
生物や人間に対して、絶望した者からの視点。
人生を諦めた者からの視点。
罹患した病気のせいで、彼自身の遺伝的子孫を残すことを、社会的に拒絶された者からの視点。
罹患した病気のせいで、極めて短命に終わること。そのことを、運命付けられた者からの視点。
罹患した病気のせいで、生きやすさや救いを、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、有能性を、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、生涯にわたって、社会から、虐待や搾取を受け続けること。そのことが、予め確定している者からの視点。
そうした者による、生物社会や人間社会に対する内部告発の視点。

私の人生目標。
それは、以下の内容である。
男女の性差。
人間社会や生物社会。
生物そのもの。
それらの本質を、自力で、分析し、解明すること。

そうした、私の人生目標は、以下のような人々によって、大きく妨害された。

男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
そうした、男性優位社会によって支配されている、女性優位社会の人々。例。日本と韓国。
彼らは、女性優位社会の存在を、決して認めない。
彼らは、男女の本質的な性差を、決して認めない。
彼らは、男女の性差についての研究そのものを、社会的に、妨害し、禁止している。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

人間と、人間以外の生物との、本質的な共通性。
彼らは、それを、決して認めない。
彼らは、人間と、人間以外の生物とを、必死で、区別し、差別しようとする。
彼らは、人間の、人間以外の生物に対する優位性を、必死で、主張しようとする。

そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

女性優位社会の女性たち。例。日本社会の女性たち。
彼らは、女性優位社会における女性の優位性を、表向きは、決して認めない。
女性専用社会や、女性優位社会における、それらの社会の内部の真実。
彼らは、その公開を、決して認めない。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質

的に、邪魔であり、有害である。
そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

上記のような人々。
そうした、彼らの態度は、私の人生目標を、根本的に、妨害した。
そうした、彼らの態度は、私の人生を、その土台から、狂わせ、破壊し、台無しにした。
私は、それらの結果について、とても怒っている。
私は、彼らに対して、鉄槌を下したい。
私は、彼らに対して、以下の内容を、何としてでも、理解させたい。
私は、以下の内容を、何としてでも、自力で解明したい。
//
男女の性差における、真実。
人間社会や生物社会における、真実。
//

私は、人間社会を、冷静に、客観的に、分析したかった。
そこで、私は、人間社会から、一時的に、私自身を、隔離した。
私は、人間社会の俯瞰者となった。
私は、人間社会の動向を、ネット経由で、毎日、ひたすら、観察し続けた。

その結果。
私は、以下の内容を、手に入れた。
人間社会の全体を、最下位から俯瞰する、独自の視点。

その結果。
私は、以下の内容を、自力で、何とか、掴んだ。
//
男女の性差の本質。
人間社会や生物社会の本質。
//

その結果。
私は、新たな人生目標を、手に入れた。

私の、新たな人生目標。

彼らの社会的妨害に対して、対抗し、挑戦すること。
そして、以下の内容を、人々の間に広く知らせること。
//
私が自力で掴んだ、男女の性差の真実。
私が自力で掴んだ、人間社会や生物社会の真実。
//

私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍を作成している。
私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍の内容を、
日々、熱心に、改訂し続けている。

（2022年2月初出。）

参考文献。

＝＝ 男女の性差。
/ 総説。

Bakan, D. The duality of human existence . Chicago: Rand-McNally. 1966.
Crandall, V. J., & Robson, S. (1960). Children's repetition choices in an intellectual achievement situation following success and failure. Journal of Genetic Psychology, 1960, 97, 161-168.(間宮1979 p178参照)
Deaux,K.: The Behavior of Women and Men, Monterey, California: Brooks/Cole, 1976
Goldstein, MJ (1959). The relationship between coping and avoiding behavior and response to fear-arousing propaganda. Journal of Abnormal and Social Psychology, 1959, 58, 247-252.(対処的・回避的行動と恐怖を誘発する宣伝に対する反応との関係)
影山裕子 : 女性の能力開発, 日本経営出版会, 1968
間宮武 : 性差心理学, 金子書房, 1979
皆本二三江 : 絵が語る男女の性差, 東京書籍, 1986
村中 兼松 (著), 性度心理学—男らしさ・女らしさの心理 (1974年) ,

帝国地方行政学会, 1974/1/1
Mitchell,G. : Human Sex Differences - A Primatologist's Perspective, Van Nostrand Reinhold Company, 1981 (鎮目恭夫訳 : 男と女の性差 サルと人間の比較, 紀伊国屋書店, 1983)
Newcomb,T.M.,Turner,R.H.,Converse,P.E. : Social Psycholgy:The Study of Human Interaction, New York: Holt,Rinehart and Winston, 1965 (古畑和孝訳 : 社会心理学 人間の相互作用の研究,岩波書店,1973)
Sarason, I.G., Harmatz, M.G., Sex differences and experimental conditions in serial learning. Journal of Personality and Social Psychology., 1965, 1: 521-4.
Schwarz, O, 1949 The psychology of sex / by Oswald Schwarz Penguin, Harmondsworth, Middlesex.
Trudgill,P.:Sociolinguistics: An Introduction, Penguin Books, 1974(土田滋訳 : 言語と社会, 岩波書店, 1975)
Wallach M. A., & Caron A. J. (1959). "Attribute criteriality and sex-linked conservatism as determinants of psychological similarity. Journal of Abnormal and Social Psychology, 59, 43-50(心理的類似性の決定因としての帰属的規準性と性別関連の保守性)
Wright,F.: The effects of style and sex of consultants and sex of members in self-study groups, Small Group Behavior, 1976, 7, p433-456

東清和、小倉千加子(編) , ジェンダーの心理学, 早稲田大学出版部, 2000
宗方比佐子、佐野幸子、金井篤子(編), 女性が学ぶ社会心理学, 福村出版, 1996
諸井克英、中村雅彦、和田実, 親しさが伝わるコミュニケーション, 金子書房, 1999
D.Kimura, Sex And Cognition, MIT Press,Cambridge,Massachusetts, 1999. (野島久雄、三宅真季子、鈴木眞理子訳 (2001) 女の能力、男の能力 - 性差について科学者が答える - 新曜社)

E.Margolies,L.VGenevie, The Samson And Delilah Complex,Dodd,Mead &Company, Inc.,1986(近藤裕訳 サムソン = デリラ・コンプレックス - 夫婦関係の心理学 - ,社会思想社,1987)

/ 各論。

// 男性単独。

E.モンテール (著), 岳野 慶作 (翻訳), 男性の心理—若い女性のために (心理学叢書) , 中央出版社, 1961/1/1
// 女性単独。
扇田 夏実 (著), 負け犬エンジニアのつぶやき~女性SE奮戦記, 技術評論社, 2004/7/6

// 男女間比較。

/// 1.能力における性差

//// 1.1 空間能力における性差

Collins,D.W. & Kimura,D.(1997) A large sex difference on a two-dimensional mental rotation task. Behavioral Neuroscience,111,845-849
Eals,M. & Silverman,I.(1994)The hunter-gatherer theory of spatial sex differences: proximate factors mediating the female advantage in recall of object arrays. Ethology & Sociobiology,15,95-105.
Galea,L.A.M. & Kimura,D.(1993) Sex differences in route learning. Personality & Individual Differences,14,53-65
Linn,M.C.,Petersen,A.C.(1985) Emergence and Characterization of Sex Differences in Spatial Ability : A Meta-Analysis. Child Development, 56, No.4, 1479-1498.
McBurney,D.H., Gaulin, S.J.C., Devineni,T. & Adams,C.(1997) Superior spatial memory of women: stronger evidence for the gathering hypothesis. Evolution & Human Behavior,18,165-174
Vandenberg,S.G. & Kuse,A.R.(1978) Mental rotations, a group test of three-dimensional spatial visualization. Perceptual & Motor Skills, 47,599-601
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.2 数学的能力における性差

Bembow,C.P., Stanley,J.C.(1982) Consequences in high school and college of sex differences in mathematical reasoning ability : A Longtitudinal perspective. Am. Educ. Res. J. 19,598-622.
Engelhard,G.(1990) Gender differences in performance on mathematics items: evidence from USA and Thailand.

Contemporary Educational Psychology,15,13-16
Hyde,J.S.,Fennema,E. & Lamon,S.J.(1990) Gender differences in mathematics performance: a meta-analysis. Psychological Bulletin,107,139-155.
Hyde,J.S.(1996) Half the human experience : The Psychology of woman. 5th ed., Lexington, Mass.: D.C.Heath.
Jensen,A.R.(1988)Sex differences in arithmetic computation and reasoning in prepubertal boys and girls. Behavioral & Brain Sciences,11,198-199
Low,R. & Over,R.(1993)Gender differences in solution of algebraic word problems containing irrelevant information. Journal of Educational Psychology,85,331-339.
Stanley,J.C., Keating,D.P., Fox,L.H. (eds.)(1974) Mathematical talent: Discovery, description, and development. Johns Hopkins University Press, Baltimore.

//// 1.3 言語能力における性差

Bleecker,M.L.,Bolla-Wilson,K. & Meyers,D.A.,(1988)Age related sex differences in verbal memory. Journal of Clinical Psychology,44,403-411.
Bromley(1958) Some effects of age on short term learning and remembering. Journal of Gerontology,13,398-406.
Duggan,L.(1950)An experiment on immediate recall in secondary school children. British Journal of Psychology,40,149-154.
Harshman,R., Hampson,E. & Berenbaum,S.(1983) Individual differences in cognitive abilities and brain organization,Part I: sex and handedness differences in ability. Canadian Journal of Psychology,37,144-192.
Hyde,J.S. & Linn,M.C.(1988) Gender differences in verbal ablility:A Meta-analysis. Psychological Bulletin, 104, No.1,53-69.
Kimura,D.(1994)Body asymmetry and intellectual pattern. Personality & Individual Differences,17,53-60.
Kramer,J.H.,Delis,D.C. & Daniel,M.(1988) Sex differences in verbal learning. Journal of Clinical Psychology,44,907-915.
McGuinness,D.,Olson,A. & Chapman,J.(1990)Sex differences in incidental recall for words and pictures. Learning & Individual Differences,2,263-285.

//// 1.4 運動能力における性差

Denckla,M.B.(1974)Development of motor co-ordination in normal children. Developmental Medicine & Child Neurology,16,729-741.
Ingram,D.(1975)Motor asymmetries in young children. Neuropsychologia,13,95-102
Nicholson,K.G. & Kimura.D.(1996) Sex differences for speech and manual skill.Perceptual & Motor Skills,82,3-13.
Kimura,D. & Vanderwolf,C.H. (1970) The relation between hand preference and the performance of individual finger movements by left and right hands. Brain,93,769-774
Lomas,J. & Kimura, D.(1976) Intrahemispheric interaction between speaking and sequential manual activity. Neuropsychologia,14,23-33.
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.5 知覚能力における性差

Burg,A.(1966)Visual acuity as measured by dynamic and static tests. Journal of Applied Psychology,50,460-466.
Burg,A.(1968)Lateral visual field as related to age and sex. Journal of Applied Psychology,52,10-15.
Denckla,M.B. & Rudel,R.(1974) Rapid "automatized"naming of pictured objects,colors,letters and numbers by normal children. Cortex,10,186-202.
Dewar,R.(1967)Sex differences in the magnitude and practice decrement of th Muller-Lyer illusion. Psychonomic Science,9,345-346.
DuBois,P.H.(1939)The sex difference on the color naming test. American Journal of Psychology,52,380-382.
Ghent-Braine,L.(1961)Developmental changes in tactual thresholds on dominant and nondominant sides. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,670-673.
Ginsburg,N.,Jurenovskis,M. & Jamieson,J.(1982) Sex differences in critical flicker frequency. Perceptual & Motor Skills,54,1079-1082.
Hall,J.(1984)Nonverbal sex differences. Baltimore:Johns Hopkins.
McGuinness, D.(1972)Hearing: individual differences in perceiving. Perception,1,465-473.
Ligon,E.M.(1932)A genetic study of color naming and word reading.

American Journal of Psychology,44,103-122.
Velle,W.(1987)Sex differences in sensory functions. Perspectives in Biology & Medicine,30,490-522.
Weinstein,S. & Sersen, E.A.(1961)Tactual sensitivity as a function of handedness and laterality. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,665-669.
Witkin,H.A.(1967)A cognitive style approach to cross-cultural research. International Journal of Psychology,2,233-250.

/// 2.パーソナリティの性差

Maccoby, E.E. & Jacklin, C.N.(1974) The Psychology of sex differences. Stanford,CA:Stanford University Press.

/// 3.社会的行動の性差

Brehm,J.W.(1966)A theory of psychological reactance. Academic Press.
Cacioppo,J.T. & Petty,R.E.(1980) Sex differences in influenceability:Toward specifying the underlying processes. Personality and Social Psychology Bulletin,6,651-656
Caldwell,M.A., & Peplau,L.A.(1982) Sex Differences in same-sex friendships. Sex Roles,8,721-732.
Chesler,M.A. & Barbarin,O.A.(1985) Difficulties iof providing help in crisis: Relationships between parents of children with cancer and their friends. Journal of Social Issues,40,113-134.
大坊郁夫(1988)異性間の関係崩壊についての認知的研究,日本社会心理学会第29回発表論文集,64.
Eagly,A.H.(1978) Sex differences in influenceability.Psychological Bulletin,85,86-116.
Eagly,A.H. & Carli,L.L.(1981) Sex of researchers and sex-typed communications as determinants of sex differences in influenceability:A meta-analysis of social influence studies. Psychological Bulletin,90,1-20.
Eagly,A.H. & Johnson,B.T.(1990) Gender and leadership style: A meta-analysis. Psychological Bulletin,108,233-256.
Hall,J.A.(1984) Nonverbal sex differences:Communication accuracy and expressive style. Baltimore:John Hopkins University Press.
Hays,R.B.(1984) The development and maintenance of friendship. Journal of Personal and Social Relationships,1,75-98.

Horner,M.S.(1968)Sex differences in achievement motivation and performance in competitive and non-competitive situation. Unpublished Ph.D. thesis. University of Michigan.
Jourard,S.M.(1971) Self-disclosure:An experimental analysis of the transparent self. New York:Wiley & Sons, Inc.
Jourard,S.M & Lasakow,P.(1958) Some factors in self-disclosure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 56, 91-98.
Latane',B. & Bidwell,L.D.(1977) Sex and affiliation in college cafeteria.Personality and Social Psychology Bulletin,3,571-574
松井豊(1990)青年の恋愛行動の構造,心理学評論,33,355-370.
Nemeth,C.J. Endicott,J. & Wachtler,J.(1976) From the '50s to the '70s:Women in jury deliberations,Sociometry,39,293-304.
Rands,M. & Levinger, G. (1979)Implicit theory of relationship: An intergenerational study. Journal of Personality and Social Psychology,37,645-661.
坂田桐子、黒川正流(1993) 地方自治体における職場のリーダーシップ機能の性差の研究-「上司の性別と部下の性別の組合せ」からの分析,産業・組織心理学研究,7,15-23.
総務庁青少年対策本部(1991) 現代の青少年 - 第 5 回青少年の連帯感などに関する調査報告書,大蔵省印刷局.
上野徳美(1994) 説得的コミュニケーションに対する被影響性の性差に関する研究,実験社会心理学研究,34,195-201
Winstead,B.A.(1986) Sex differences in same-sex friendships. In V.J.Derlega & B.A.Winstead(Eds.) Friendship and social interaction. New York:Springer-Verlag.Pp.81-99
Winstead,B.A., Derlega,V.J., Rose,S. (1997) Gender and Close Relationships. Thousand Oaks, California:Sage Publications.
山本真理子、松井豊、山成由紀子(1982) 認知された自己の諸側面の構造,教育心理学研究,30,64-68

＝＝ 世界の社会の分類。男女間における、優位性の比較。
/ 一般。

富永 健一 (著), 社会学原理, 岩波書店, 1986/12/18
岩井 弘融 (著), 社会学原論, 弘文堂, 1988/3/1

笠信太郎, ものの見方について, 1950, 河出書房
伊東俊太郎 (著) , 比較文明 UP選書 , 東京大学出版会, 1985/9/1

/ 気候。
和辻 哲郎 (著), 風土: 人間学的考察, 岩波書店, 1935
鈴木秀夫, 森林の思考・砂漠の思考, 1978, 日本放送出版協会
石田英一郎, 桃太郎の母 比較民族学的論集 , 法政大学出版局 , 1956
石田英一郎, 東西抄 - 日本・西洋・人間, 1967, 筑摩書房
松本 滋 (著), 父性的宗教 母性的宗教 (UP選書) , 東京大学出版会, 1987/1/1
ハンチントン (著), 間崎 万里 (翻訳), 気候と文明 (1938年) (岩波文庫) , 岩波書店, 1938
安田 喜憲 (著), 大地母神の時代—ヨーロッパからの発想 (角川選書) , 角川書店, 1991/3/1
安田 喜憲 (著), 気候が文明を変える (岩波科学ライブラリー (7)) , 岩波書店, 1993/12/20

鈴木 秀夫 (著), 超越者と風土 , 原書房, 2004/1/1
鈴木 秀夫 (著), 森林の思考・砂漠の思考 (NHKブックス 312) , NHK出版1978/3/1
鈴木 秀夫 (著), 風土の構造, 原書房, 2004/12/1
梅棹 忠夫 (著), 文明の生態史観, 中央公論社, 1967

ラルフ・リントン (著), 清水 幾太郎 (翻訳), 犬養 康彦 (翻訳), 文化人類学入門 (現代社会科学叢書), 東京創元社, 1952/6/1
祖父江孝男『文化とパーソナリティ』弘文堂，1976
F.L.K.シュー (著), 作田 啓一 (翻訳), 浜口 恵俊 (翻訳), 比較文明社会論—クラン・カスト・クラブ・家元 (1971年), 培風館，1970．

J□J□バハオーフェン (著), 吉原 達也 (翻訳), 母権論序説 付・自叙伝, 創樹社, 1989/10/20

阿部 一, 家族システムの風土性, 東洋学園大学紀要 (19), 91-108, 2011-03

/ 移動性。
大築立志, 手の日本人、足の西欧人, 1989, 徳間書店
前村 奈央佳, 移動と定住に関する心理的特性の検討：異文化志向と定住志向の測定および関連性について, 関西学院大学先端社会研究所紀要, 6号 pp.109-124, 2011-10-31
浅川滋男, 東アジア漂海民と家船居住, 鳥取環境大学, 紀要, 創刊号, 2003.2 pp41-60

/ 食糧の確保の手段。
千葉徳爾, 農耕社会と牧畜社会, 山田英世 (編), 風土論序説 (比較思想・文化叢書) , 国書刊行会, 1978/3/1
大野 盛雄 (著), アフガニスタンの農村から―比較文化の視点と方法 (1971年) (岩波新書) , 岩波書店, 1971/9/20
梅棹 忠夫 (著), 狩猟と遊牧の世界―自然社会の進化, 講談社, 1976/6/1
志村博康 (著), 農業水利と国土, 東京大学出版会, 1987/11/1

/ 心理。
Triandis H.C., Individualism & Collectivism, Westview Press, 1995, （H.C. トリアンディス (著), Harry C. Triandis (原著), 神山 貴弥 (翻訳), 藤原 武弘 (翻訳), 個人主義と集団主義―2つのレンズを通して読み解く文化, 北大路書房, 2002/3/1 ）
Yamaguchi, S., Kuhlman, D. M., & Sugimori, S. (1995). Personality correlates of allocentric tendencies in individualist and collectivist cultures. Journal of Cross-Cultural Psychology, 26, 658-672
Markus H.R.,Kitayama,S., Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. Psychological Review, 98, pp224-253 1991

千々岩 英彰 (編集), 図解世界の色彩感情事典―世界初の色彩認知の調査と分析, 河出書房新社, 1999/1/1

＝＝ 男性優位社会。移動生活様式。遊牧と牧畜。気体。

/ 欧米諸国。全般。
星 翔一郎 (著), 国際文化教育センター (編集), 外資系企業 就職サクセスブック, ジャパンタイムズ, 1986/9/1

/ 西欧。
// 単独社会。
// 社会間比較。
西尾幹二, ヨーロッパの個人主義, 1969, 講談社
会田 雄次 (著), 『アーロン収容所：西欧ヒューマニズムの限界』中公新書, 中央公論社 1962年
池田 潔 (著), 自由と規律: イギリスの学校生活 (岩波新書) , 岩波書

店, 1949/11/5

鯖田 豊之 (著), 肉食の思想—ヨーロッパ精神の再発見 (中公新書 92) , 中央公論社, 1966/1/1
八幡 和郎 (著), フランス式エリート育成法—ENA留学記 (中公新書 (725)) , 中央公論社, 1984/4/1
木村 治美 (著), 新交際考—日本とイギリス, 文藝春秋, 1979/11/1
森嶋 通夫 (著), イギリスと日本—その教育と経済 (岩波新書 黄版 29) , 岩波書店, 2003/1/21
/ アメリカ。
// 単独社会。
松浦秀明, 米国さらりーまん事情, 1981, 東洋経済新報社
Stewart, E.C., American Cultural Patterns A Cross-Cultural Perspectives, 1972, Inter-cultural Press (久米昭元訳, アメリカ人の思考法, 1982, 創元社)
吉原 真里 (著), Mari Yoshihara (著), アメリカの大学院で成功する方法—留学準備から就職まで (中公新書), 中央公論新社, 2004/1/1
リチャード・H. ロービア (著), Richard H. Rovere (原著), 宮地 健次郎 (翻訳), マッカーシズム (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/1/17
G.キングスレイ ウォード (著), 城山 三郎 (翻訳), ビジネスマンの父より息子への30通の手紙, 新潮社, 1987/1/1
長沼英世, ニューヨークの憂鬱ー豊かさと快適さの裏側, 中央公論社, 1985
八木 宏典 (著), カリフォルニアの米産業, 東京大学出版会, 1992/7/1
// 社会間比較。
/ ユダヤ。
// 単独社会。
旧約聖書。
新約聖書。
中川 洋一郎, キリスト教・三位一体論の遊牧民的起源—イヌの《仲介者》化によるセム系一神教からの決別—, 経済学論纂 (中央大学) 第60巻第 5 ・ 6 合併号 (2020年 3 月) ,pp.431-461
トマス・ア・ケンピス (著), 大沢 章 (翻訳), 呉 茂一 (翻訳), キリストにならいて (岩波文庫) , 岩波書店, 1960/5/25
// 社会間比較。
/ 中東。
// 単独社会。
クルアーン。コーラン。
鷹木 恵子 U.A.E.地元アラブ人の日常生活にみる文化変化：ドバイで

の文化人類学的調査から http://id.nii.ac.jp/1509/00000892/Syouwa63nenn
// 社会間比較。
後藤 明 (著), メッカ―イスラームの都市社会 (中公新書 1012) , 中央公論新社, 1991/3/1
片倉もとこ『「移動文化考」 イスラームの世界をたずねて 』日本経済新聞社、1995年
片倉もとこ『イスラームの日常世界』岩波新書，1991．
牧野 信也 (著), アラブ的思考様式, 講談社, 1979/6/1
井筒 俊彦 (著), イスラーム文化−その根柢にあるもの , 岩波書店, 1981/12/1
/ モンゴル。
// 単独社会。
鯉渕 信一 (著), 騎馬民族の心―モンゴルの草原から (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1992/3/1
// 社会間比較。

＝＝ 女性優位社会。定住生活様式。農耕。液体。
/ 東アジア。
山口 勧 (編集), 社会心理学―アジア的視点から (放送大学教材) , 放送大学教育振興会, 1998/3/1
山口 勧 (編集), 社会心理学―アジアからのアプローチ, 東京大学出版会, 2003/5/31
石井 知章 (著), K A ウィットフォーゲルの東洋的社会論, 社会評論社, 2008/4/1
/ 日本。
// 単独社会。

/// 文献調査。
南博, 日本人論 - 明治から今日まで , 岩波書店, 1994
青木保,「日本文化論」の変容-戦後日本の文化とアイデンティティー-, 中央公論社, 1990

/// 社会全般。
//// 著者が、日本人の場合。
浜口恵俊 「日本らしさ」の再発見 日本経済新聞社 1977
阿部 謹也 (著),「世間」とは何か (講談社現代新書) , 講談社, 1995/7/20
川島武宣, 日本社会の家族的構成, 1948, 学生書房

中根千枝, タテ社会の人間関係, 講談社, 1967
木村敏, 人と人との間, 弘文堂, 1972
山本七平 (著), 「空気」の研究, 文藝春秋, 1981/1/1
会田 雄次 (著), 日本人の意識構造 (講談社現代新書) , 講談社, 1972/10/25
石田英一郎, 日本文化論 筑摩書房 1969
荒木博之, 日本人の行動様式 -他律と集団の論理- , 講談社, 1973

吉井博明 情報化と現代社会[改訂版] 1997 北樹出版

//// 著者が、日本人以外の場合。
///// 欧米諸国からの視点。
Benedict,R., The Chrysanthemum and the Sword : Patterns of Japanese Culture, Boston Houghton Mifflin, 1948 (長谷川松治訳, 菊と刀 - 日本文化の型, 社会思想社, 1948)
Caudill,W., Weinstein,H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America, Psychiatry,32 1969
Clark,G.The Japanese Tribe:Origins of a Nation's Uniqueness, 1977(村松増美訳 日本人 - ユニークさの源泉 - , サイマル出版会 1977)
Ederer,G., Das Leise Laecheln Des Siegers, 1991, ECON Verlag(増田靖訳 勝者・日本の不思議な笑い, 1992 ダイヤモンド社)
Kenrick,D.M., Where Communism Works: The Success of Competitive-Communism In Japan,1988,Charles E. Tuttle Co., Inc., (ダグラス・M. ケンリック (著), 飯倉 健次 (翻訳), なぜ“共産主義”が日本で成功したのか, 講談社, 1991/11/1)
Reischauer,E.O., The Japanese Today: Change and Continuity,1988, Charles E. Tuttle Co. Inc.
W.A.グロータース (著), 柴田 武 (翻訳), 私は日本人になりたい―知りつくして愛した日本文化のオモテとウラ (グリーン・ブックス 56) , 大和出版, 1984/10/1

///// 東アジアからの視点。
李 御寧 (著), 「縮み」志向の日本人, 学生社, 1984/11/1

/// 心理。
安田三郎「閥について――日本社会論ノート（３）」（『現代社会

学3』2巻1号所収・1975・講談社)
木村敏, 人と人との間 - 精神病理学的日本論, 1972, 弘文堂
丸山真男, 日本の思想, 1961, 岩波書店
統計数理研究所国民性調査委員会 (編集), 日本人の国民性〈第5〉戦後昭和期総集, 出光書店, 1992/4/1

/// コミュニケーション。

芳賀綏, 日本人の表現心理, 中央公論社, 1979

/// 歴史。

R.N.ベラー (著), 池田 昭 (翻訳), 徳川時代の宗教 (岩波文庫), 岩波書店, 1996/8/20
勝俣 鎮夫 (著), 一揆 (岩波新書) , 岩波書店, 1982/6/21
永原 慶二 (著), 日本の歴史〈10〉下克上の時代, 中央公論社, 1965年
戸部 良一 (著), 寺本 義也 (著), 鎌田 伸一 (著), 杉之尾 孝生 (著), 村井 友秀 (著), 野中 郁次郎 (著), 失敗の本質―日本軍の組織論的研究, ダイヤモンド社, 1984/5/1

/// 民俗。

宮本 常一 (著), 忘れられた日本人 (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/5/16

/// 食糧の確保。

大内力 (著), 金沢夏樹 (著), 福武直 (著) , 日本の農業 UP選書, 東京大学出版会, 1970/3/1

/// 地域。

//// 村落。

中田 実 (編集), 坂井 達朗 (編集), 高橋 明善 (編集), 岩崎 信彦 (編集), 農村 (リーディングス日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/5/1
蓮見 音彦 (著), 苦悩する農村―国の政策と農村社会の変容, 有信堂高文社, 1990/7/1
福武直 (著) , 日本農村の社会問題 UP選書, 東京大学出版会, 1969/5/1
余田 博通 (編集), 松原 治郎 (編集), 農村社会学 (1968年) (社会学選

書) , 川島書店, 1968/1/1
今井幸彦 編著, 日本の過疎地帯 (1968年) (岩波新書), 岩波書店, 1968-05

きだみのる (著), 気違い部落周游紀行 (冨山房百科文庫 31), 冨山房, 1981/1/30
きだ みのる (著), にっぽん部落 (1967年) (1967年) (岩波新書)

//// 都市。
鈴木広 高橋勇悦 篠原隆弘 編, リーディングス日本の社会学 7 都市, 東京大学出版会, 1985/11/1
倉沢 進 (著), 秋元 律郎 (著), 町内会と地域集団 (都市社会学研究叢書) , ミネルヴァ書房, 1990/9/1
佐藤 文明 (著), あなたの「町内会」総点検 [三訂増補版] —地域のトラブル対処法 (プロブレムQ&A), 緑風出版, 2010/12/1

//// エリア毎の特色。
京都新聞社 (編さん), 京男・京おんな, 京都新聞社, 1984/1/1
丹波 元 (著), こんなに違う京都人と大阪人と神戸人 (PHP文庫) , PHP研究所, 2003/3/1
サンライズ出版編集部 (編集), 近江商人に学ぶ, サンライズ出版, 2003/8/20

/// 血縁関係。
有賀 喜左衛門 (著), 日本の家族 (1965年) (日本歴史新書) , 至文堂, 1965/1/1
光吉 利之 (編集), 正岡 寛司 (編集), 松本 通晴 (編集), 伝統家族 (リーディングス 日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/8/1

/// 政治。
石田雄, 日本の政治文化 - 同調と競争, 1970, 東京大学出版会
京極純一, 日本の政治, 1983, 東京大学出版会

/// ルール。法律。
青柳文雄, 日本人の罪と罰, 1980, 第一法規出版
川島武宣, 日本人の法意識 (岩波新書 青版A-43) , 岩波書店, 1967/5/20

/// 行政。

辻清明 新版 日本官僚制の研究 東京大学出版会 1969
藤原 弘達 (著), 官僚の構造 (1974年) (講談社現代新書) , 講談社, 1974/1/1
井出嘉憲 (著), 日本官僚制と行政文化—日本行政国家論序説, 東京大学出版会, 1982/4/1
竹内 直一 (著), 日本の官僚—エリート集団の生態 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
教育社 (編集), 官僚—便覧 (1980年) (教育社新書—行政機構シリーズ〈122〉), 教育社, 1980/3/1
加藤栄一, 日本人の行政—ウチのルール (自治選書), 第一法規出版, 1980/11/1
新藤 宗幸 (著), 技術官僚—その権力と病理 (岩波新書), 岩波書店, 2002/3/20
新藤 宗幸 (著), 行政指導—官庁と業界のあいだ (岩波新書) , 岩波書店, 1992/3/19

武藤 博己 (著), 入札改革—談合社会を変える (岩波新書) , 岩波書店, 2003/12/19

宮本政於, お役所の掟, 1993, 講談社

/// 経営。
間宏,日本的経営 - 集団主義の功罪,日本経済新聞社,1973
岩田龍子, 日本の経営組織, 1985, 講談社
高城 幸司 (著), 「課長」から始める 社内政治の教科書, ダイヤモンド社, 2014/10/31

/// 教育。
大槻 義彦 (著), 大学院のすすめ—進学を希望する人のための研究生活マニュアル, 東洋経済新報社, 2004/2/13
山岡栄市 (著), 人脈社会学—戦後日本社会学史 (御茶の水選書) , 御茶の水書房, 1983/7/1

/// スポーツ。
Whiting, R., The Chrysanthemum and the Bat 1977 Harper Mass Market Paperbacks (松井みどり訳, 菊とバット 1991 文藝春秋)

/// 性差。
//// 母性。母親。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969

河合隼雄, 母性社会日本の病理, 中央公論社 1976
佐々木 孝次 (著), 母親と日本人, 文藝春秋, 1985/1/1
小此木 啓吾 (著), 日本人の阿闍世コンプレックス, 中央公論社, 1982
斎藤学, 『「家族」という名の孤独』講談社 1995
山村賢明, 日本人と母—文化としての母の観念についての研究, 東洋館出版社, 1971/1/1
土居健郎, 「甘え」の構造, 1971, 弘文堂

山下 悦子 (著), 高群逸枝論—「母」のアルケオロジー, 河出書房新社, 1988/3/1
山下 悦子 (著), マザコン文学論—呪縛としての「母」(ノマド叢書) , 新曜社, 1991/10/1

中国新聞文化部 (編集), ダメ母に苦しめられて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1999/1/1

加藤秀俊, 辛口教育論 第四回 衣食住をなくした家, 食農教育 200109, 農山漁村文化協会

//// 女性。
木下 律子 (著), 妻たちの企業戦争 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
木下律子 (著), 王国の妻たち—企業城下町にて, 径書房, 1983/8/1
中国新聞文化部 (編集), 妻の王国—家庭内“校則”に縛られる夫たち (女のココロとカラダシリーズ), ネスコ, 1997/11/1

//// 男性。
中国新聞文化部 (編集), 長男物語—イエ、ハハ、ヨメに縛られて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/7/1
中国新聞文化部 (編集), 男が語る離婚—破局のあとさき (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/3/1

// 社会間比較。

/// 欧米諸国との比較。
山岸俊男, 信頼の構造, 1998, 東京大学出版会
松山幸雄「勉縮」のすすめ, 朝日新聞社, 1978
木村尚三郎, ヨーロッパとの対話, 1974, 日本経済新聞社
栗本 一男 (著), 国際化時代と日本人—異なるシステムへの対応 (NHKブックス 476) , 日本放送出版協会, 1985/3/1
/// 社会の特殊性。その有無についての検討。
高野陽太郎、纓坂英子, " 日本人の集団主義" と" アメリカ人の個人主義" -通説の再検討-心理学研究vol.68 No.4,pp312-327,1997
杉本良夫、ロス・マオア, 日本人は「日本的」か - 特殊論を超え多元的分析へ - , 1982, 東洋経済新報社
/// 血縁関係。
増田光吉, アメリカの家族・日本の家族, 1969, 日本放送出版協会
中根千枝『家族を中心とする人間関係』講談社，1977
/// コミュニケーション。
山久瀬 洋二 (著), ジェイク・ロナルドソン (翻訳), 日本人が誤解される100の言動 100 Cross-Cultural Misunderstandings Between Japanese People and Foreigners【日英対訳】 (対訳ニッポン双書) , IBCパブリッシング, 2010/12/24
鈴木 孝夫 (著), ことばと文化 (岩波新書) , 岩波書店, 1973/5/21
/// 独創性。
西沢潤一, 独創は闘いにあり, 1986, プレジデント社
江崎玲於奈, アメリカと日本 - ニューヨークで考える, 1980, 読売新聞社
乾侑, 日本人と創造性, - 科学技術立国実現のために, 1982, 共立出版
S.K.ネトル、桜井邦朋, 独創が生まれない - 日本の知的風土と科学, 1989, 地人書館

/// 経営。
Abegglen, J.C.,The Japanese Factory:Aspects of Its Social Organization,Free Press 1958（占部都美 監訳 「日本の経営」ダイヤモンド社 1960）
林 周二, 経営と文化, 中央公論社, 1984
太田肇 (著) , 個人尊重の組織論, 企業と人の新しい関係 (中公新書) , 中央公論新社, 1996/2/25
/// 保育。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969
/// 教育。

岡本 薫 (著), 新不思議の国の学校教育―日本人自身が気づいていないその特徴, 第一法規, 2004/11/1
宮智 宗七 (著), 帰国子女―逆カルチュア・ショックの波紋 (中公新書) 中央公論社, 1990/1/1
グレゴリー・クラーク (著), Gregory Clark (原著), なぜ日本の教育は変わらないのですか? , 東洋経済新報社, 2003/9/1
恒吉僚子, 人間形成の日米比較 - かくれたカリキュラム, 1992, 中央公論社
/// 性差。
//// 女性。
杉本 鉞子 (著), 大岩 美代 (翻訳), 武士の娘 (筑摩叢書 97) , 筑摩書房, 1967/10/1
//// 男性。
グスタフ・フォス (著), 日本の父へ, 新潮社, 1977/3/1
/ 韓国。
// 単独社会。
朴 泰赫 , 醜い韓国人, ―われわれは「日帝支配」を叫びすぎる (カッパ・ブックス) 新書 – , 光文社, 1993/3/1
朴 承薫 (著), 韓国 スラングの世界, 東方書店, 1986/2/1
// 社会間比較。
コリアンワークス, 知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典―衣食住、言葉のニュアンスから人づきあいの習慣まで (PHP文庫) 文庫 – , PHP研究所, 2002/1/1
造事務所 , こんなに違うよ! 日本人・韓国人・中国人 (PHP文庫), PHP研究所 (2010/9/30)
/ 中国。
// 単独社会。
/// 社会全般。
林 松濤 (著), 王 怡韡 (著), 舩山 明音 (著) , 日本人が知りたい中国人の当たり前, 中国語リーディング, 三修社, 2016/9/20
/// 心理。
園田茂人, 中国人の心理と行動, 2001, 日本放送出版協会
デイヴィッド・ツェ (著), 吉田 茂美 (著), 関係(グワンシ) 中国人との関係のつくりかた , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2011/3/16
/// 歴史。
加藤 徹 (著), 西太后―大清帝国最後の光芒 (中公新書) 新書 – , 中央公論新社, 2005/9/1
宮崎 市定 (著), 科挙―中国の試験地獄 (中公新書 15) , 中央公論社, 1963/5/1

/// 血縁関係。
瀬川 昌久, 現代中国における宗族の再生と文化資源化 東北アジア研究 18 pp.81-97 2014-02-19
// 社会間比較。
邱 永漢 (著), 騙してもまだまだ騙せる日本人―君は中国人を知らなさすぎる, 実業之日本社, 1998/8/1
邱永漢 (著) , 中国人と日本人, 中央公論新社, 1993
/ ロシア。
// 単独社会。
/// 社会全般。
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈上〉, 日本放送出版協会, 1991/2/1
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈下〉, 日本放送出版協会, 1991/3/1
/// 歴史。
伊賀上 菜穂, 結婚儀礼に現れる帝政末期ロシア農民の親族関係 : 記述資料分析の試み スラヴ研究, 49, 179-212 2002
奥田 央, 1920年代ロシア農村の社会政治的構造（１）, 村ソヴェトと農民共同体, 東京大学, 経済学論集, 80 1-2, 2015-7 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp › econ0800102
大矢 温, スラヴ派の共同体論における「ナショナル」意識 - 民族意識から国民意識への展開 - , 札幌法学 29 巻 1・2 合併号 (2018) , pp.31-53
// 社会間比較。
/// 心理。
アレックス インケルス (著), Alex Inkeles (原著), 吉野 諒三 (翻訳), 国民性論―精神社会的展望, 出光書店, 2003/9/1
服部 祥子 (著), 精神科医の見たロシア人 (朝日選書 245), 朝日新聞社出版局, 1984/1/1
/// 民俗。
アレクサンドル・プラーソル, ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して, 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007.
/// 血縁関係。
高木正道, ロシアの農民と中欧の農民, ――家族形態の比較――, 法経研究, 42巻1号 pp.1-38, 1993
/// 経営。
宮坂 純一, ロシアではモチベーションがどのような内容で教えられているのか, 社会科学雑誌』第 5 巻 (2012年11月) ―― 503-539
宮坂 純一, 日ロ企業文化比較考, 『社会科学雑誌』第 18 巻 (2017 年 9 月) ――, pp.1-48

/// 性差。
Д.Х. Ибрагимова, Кто управляет деньгами в российских семьях?, Экономическая социология. Т. 13. № 3. Май 2012, pp22-56

/ 東南アジア。
// 単独社会。
丸杉孝之助, 東南アジアにおける農家畜産と農業経営, 熱帯農業, 19(1), 1975 pp.46-49
中川 剛 (著), 不思議のフィリピン―非近代社会の心理と行動 (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1986/11/1
// 社会間比較。

＝＝ 液体。
/ 液体の性質。液体の動き。
小野周 著, 温度とはなにか , 岩波書店、1971
小野 周 (著), 表面張力 (物理学one point 9), 共立出版, 1980/10/1
イーゲルスタッフ (著), 広池 和夫 (翻訳), 守田 徹 (翻訳), 液体論入門 (1971年) (物理学叢書) , 吉岡書店, 1971
上田 政文 (著), 湿度と蒸発―基礎から計測技術まで, コロナ社, 2000/1/1
稲松 照子 (著), 湿度のおはなし, 日本規格協会, 1997/8/1
伊勢村 寿三 (著), 水の話 (化学の話シリーズ (6)) , 培風館, 1984/12/1
力武常次 (著), 基礎からの物理 総合版 (チャート式シリーズ) , 数研出版, 数研出版, 1986/1/1
野村 祐次郎 (著), 小林 正光 (著), 基礎からの化学 総合版 (チャート式・シリーズ) , 数研出版, 1985/2/1
物理学辞典編集委員会 , 物理学辞典 改訂版 , 培風館, 1992
池内満, 分子のおもちゃ箱 , 2008年1 月19日 http://mike1336.web.fc2.com/ (2008年2月23日)
/ 液体の知覚。
大塚巌 (2008). ドライ、ウェットなパーソナリティの認知と気体、液体の運動パターンとの関係. パーソナリティ研究, 16, 250-252

＝＝ 生物。
/ 総論。
鈴木孝仁, 本川達雄, 鷲谷いづみ, チャート式シリーズ, 新生物 生物

基礎・生物 新課程版, 数研出版, 2013/2/1
/ 遺伝子。
リチャード・ドーキンス【著】，日高敏隆，岸由二，羽田節子，垂水雄二【訳】, 利己的な遺伝子, 紀伊國屋書店, 1991/02/28
/ 精子。卵子。
緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー—個体誕生へのドラマ (中公新書) 中央公論社, 1991/3/1
/ 神経系。
二木 宏明 (著), 脳と心理学—適応行動の生理心理学 (シリーズ脳の科学) , 朝倉書店, 1984/1/1
山鳥 重 (著), 神経心理学入門, 医学書院, 1985/1/1
伊藤 正男 (著), 脳の設計図 (自然選書) , 中央公論社, 1980/9/1
D.O.ヘッブ (著), 白井 常 (翻訳), 行動学入門—生物科学としての心理学 (1970年) , 紀伊国屋書店, 1970/1/1
// 知覚。
岩村 吉晃 (著), タッチ (神経心理学コレクション), 医学書院, 2001/4/1
松田 隆夫 (著), 知覚心理学の基礎, 培風館, 2000/7/1
// パーソナリティ。
Murray,H.A., 1938, Exploration in personality:A clinical and experimental study of fifty men of collegeage.
Schacter, S., 1959, The Psychology of affiliation.Stanford University press.
三隅三不二, 1978, リーダーシップの科学, 有斐閣
Fiedler,F.E., 1973, The trouble with leadership training is that it doesn't train leaders-by. Psychology Today Feb(山本憲久訳 1978 リーダーシップを解明する 岡堂哲雄編 現代のエスプリ131: グループ・ダイナミクス 至文堂).
Snyder,M., 1974, The self-monitoring of expssive behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 30, 526-537.
Fenigstein, A., Scheier,M.F., & Buss,A.H., 1975, Public and private self-consciousness: Assessment and theory. Journal of Consulting and Clinical Psychology,43,522-527.
押見輝男, 自分を見つめる自分-自己フォーカスの社会心理学, サイエンス社, 1992
Wicklund, R.A., & Duval,S. 1971 Opinion change and performance facilitation as a result of objective self-awareness. Journal of Experimental Social Psychology,7,319-342.
Jourard, S.M. 1971, The transparent self, rev.ed.Van Nostrand Reinhold(岡堂哲雄訳 1974 透明なる自己 誠信書房).

Brehm, J.W.,1966, A Theory of psychological reactance. Academicpss.
Toennies, F.,1887, Gemeinshaft und Gesellshaft, Leipzig,(杉之原寿一訳「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」1957 岩波書店)
McCrae, R. R., Costa, P. T., Jr., 1987, Validation of the five-factor model of personality across instruments and observers., Journal of Personality and Social Psychology, 52, 81-90
Eysenck, H. J., 1953, The structure of human personality. New York: Wiley.
Edwards, A.L., 1953, The relationship between judged desirebility of a trait and the plobability that the trait will be endowsed. Journal of Applied Psychology, 37,90-93
// 情報。
吉田 民人 (著), 情報と自己組織性の理論, 東京大学出版会, 1990/7/1
/ 社会性。
吉田 民人 (著), 主体性と所有構造の理論, 東京大学出版会, 1991/12/1

/ 人間以外の生物。
// 行動。
デティアー(著), ステラー(著), 日高敏隆(訳),小原嘉明(訳), 動物の行動 - 現代生物学入門7巻, 岩波書店, 1980/1/1
// 心理。
D.R.グリフィン (著), 桑原 万寿太郎 (翻訳), 動物に心があるか―心的体験の進化的連続性 (1979年) (岩波現代選書―NS〈507〉), 岩波書店, 1979年
// 文化。
J.T.ボナー (著), 八杉 貞雄 (翻訳), 動物は文化をもつか (1982年) (岩波現代選書―NS〈532〉) , 岩波書店, 1982/9/24
// 社会。
今西 錦司 (著), 私の霊長類学 (講談社学術文庫 80) , 講談社, 1976/11/1
今西錦司『私の自然観』講談社学術文庫，1990 (1966)．
河合雅雄 (著), ニホンザルの生態, 河出書房新社, 1976/1/1
伊谷純一郎 (著) , 高崎山のサル (講談社文庫), 講談社, 1973/6/26
伊谷純一郎 (著) , 霊長類社会の進化 (平凡社 自然叢書) 単行本 –, 平凡社, 1987/6/1
/ 無神論。
リチャード・ドーキンス (著), 垂水 雄二 (翻訳), 神は妄想である―

宗教との決別, 早川書房, 2007/5/25

＝＝ 辞書。
新村出 (編著) ,広辞苑 - 第5版, 岩波書店, 1998
Stein, J., & Flexner, S. B. (Eds.), The Random House Thesaurus., Ballantine Books., 1992

＝＝ データ分析の方法。
田中敏 (2006). 実践心理データ解析 改訂版 新曜社
中野博幸, JavaScript-STAR , 2007年11月9日 http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/ (2008年2月25日)

＝＝＝＝＝
追加の参考文献リスト。2023年4月現在。

＝＝＝
物理学。 Physics. Физика. 物理学。

都築嘉弘 (著), 井上邦雄 (著), チャート式シリーズ 新物理 物理基礎・物理, 数研出版, 2014
近角 聰信 (著, 編集), 三浦 登 (著, 編集), 理解しやすい物理 物理基礎収録版, 文英堂, 2013

猪木 正文 (著), 大須賀 健 (監修), 数式を使わない物理学入門 アインシュタイン以後の自然探検, KADOKAWA, 2020
伊達 宗行, 新しい物性物理—物質の起源からナノ・極限物性まで, 講談社, 2005

ルクレーティウス (著), 樋口 勝彦 (翻訳), 物の本質について, 岩波書店, 1961

ポフ ボグダン(著), ロシナ ミーチャ(著), 園田 英徳 (翻訳), 石川 隆 (翻訳), 原理と直観で読み解く 量子系の物理(第2版):素粒子から宇宙まで, 森北出版, 2019

竹内 淳 (著), 高校数学でわかる流体力学, 講談社, 2014

化学。 Chemistry. Химия. 化学。

戸嶋 直樹 (著, 編集), 瀬川 浩司 (著, 編集), 理解しやすい化学 化学基礎収録版, 文英堂, 2012
野村祐次郎 (著), 辰巳敬 (著), 本間善夫 (著), チャート式シリーズ 新化学 化学基礎・化学, 数研出版, 2014

生物学。 Biology. Биология. 生物学。

水野 丈夫 (著, 編集), 浅島 誠 (著, 編集), 理解しやすい生物 生物基礎収録版, 文英堂, 2012
鈴木孝仁(著者), 本川達雄(著者), 鷲谷いづみ(著者), チャート式シリーズ 新生物 生物基礎・生物, 数研出版, 2013

デイヴィッド・サダヴァ (著), 丸山 敬 (翻訳), 石崎 泰樹 (翻訳), カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学, 講談社, 2010
デイヴィッド・サダヴァ (著), クレイグ.H□ヘラー (著), その他, カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学, 講談社, 2010
デイヴィッド・サダヴァ (著), クレイグ.H□ヘラー (著), その他, カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学, 講談社, 2010
池内 昌彦 (監修, 翻訳), 伊藤 元己 (監修, 翻訳), 箸本 春樹 (監修, 翻訳), エッセンシャル・キャンベル生物学 原書6版, 丸善出版, 2016

緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー—個体誕生へのドラマ, 中央公論社, 1991
ロビン ベイカー (著), Robin Baker (原名), 秋川 百合 (翻訳), 精子戦争—性行動の謎を解く, 河出書房新社, 1997

江上 不二夫 (著), 生命を探る, 岩波書店, 1967
柳川 弘志, 生命の起源を探る, 岩波書店, 1989
オパーリン (著), 江上 不二夫 (編さん), 生命の起源と生化学, 岩波書店, 1956

中屋敷 均 (著), ウイルスは生きている, 講談社, 2016
武村 政春 (著), 生物はウイルスが進化させた 巨大ウイルスが語る新たな生命像, 講談社, 2017

日本生態学会 (編集), 生態学入門(第2版) 第2版, 東京化学同人, 2012
沓掛 展之 (著), 古賀 庸憲 (著), 日本生態学会 (編集), 沓掛 展之 担当編集 (その他), その他, 行動生態学, 共立出版, 2012

池田清彦 (著), メスの流儀 オスの流儀, 静山社, 2010

佐々木 敏 (著), 佐々木敏の栄養データはこう読む! 第2版, 女子栄養大学出版部, 2020

地学。地理学。 Geology. Geography. Геология. География. 地质学。地理学。

内田 忠賢 (著, 監修), 理解しやすい地理B, 文英堂, 2010
大塚 韶三 (著), 荻島 智子 (著), 青木 寿史 (著), ひとりで学べる地学—「地学基礎」「地学」に対応, 清水書院, 2012
小倉 義光 (著), 一般気象学 第2版, 東京大学出版会, 1999
柏野 祐二 (著), 海の教科書 波の不思議から海洋大循環まで, 講談社, 2016

数学。 Math. Математика. 数学。

都筑 卓司 (著), トポロジー入門 奇妙な図形のからくり, 講談社, 2019

工学。 Engineering. Инжиниринг. 工程。

浜辺 隆二 (著), 論理回路入門(第3版), 森北出版, 2015
井澤 裕司 (著), ビジュアル 論理回路入門, プレアデス出版, 2008
木村 真也 (著), わかるVerilog HDL入門—文法の基礎から論理回路設

計、論理合成、実装まで 改訂新版, CQ出版, 2006
長谷川 裕恭 (著), VHDLによるハードウェア設計入門―言語入力によるロジック回路設計手法を身につけよう 改訂版, CQ出版, 2004
熊谷 英樹 (著), 必携 シーケンス制御プログラム定石集―機構図付き, 日刊工業新聞社, 2003
南 裕樹 (著), Pythonによる制御工学入門, オーム社, 2019
森 泰親 (著), 演習で学ぶ基礎制御工学, 森北出版, 2004
佐藤 和也 (著), 平元 和彦 (著), 平田 研二 (著), はじめての制御工学, 講談社, 2010
Neo4jユーザーグループ (著), 石坂 登 (著), 秋田 進之助 (著), 大西 芳佳 (著), その他, グラフ型データベース入門 - Neo4jを使う, リックテレコム, 2016

神経系。 Nervous System. Нервная система. 神经系统。

養老 孟司 (著), 唯脳論, 青土社, 1989
二木 宏明 (著), 脳と記憶―その心理学と生理学, 共立出版, 1989
山鳥 重 (著), 記憶の神経心理学, 医学書院, 2002
理化学研究所脳科学総合研究センター (編集), 脳科学の教科書 神経編, 岩波書店, 2011
渡辺 正峰 (著), 脳の意識 機械の意識 - 脳神経科学の挑戦, 中央公論新社, 2017

心理学。 Psychology. Психология. 心理学。

鹿取 廣人 (編集), 杉本 敏夫 (編集), 鳥居 修晃 (編集), 河内 十郎 (編集), 心理学 第5版補訂版, 東京大学出版会, 2020
無藤 隆 (著), 森 敏昭 (著), 遠藤 由美 (著), 玉瀬 耕治 (著), 心理学 新版, 有斐閣, 2018

霜山 徳爾 (監修), 鍋田 恭孝 (編集), 心理療法を学ぶ―基礎理論から臨床まで, 有斐閣, 2000
今田 純雄 (編集), 北口 勝也 (編集), 動機づけと情動, 培風館, 2015
菊地 正 (編集), 感覚知覚心理学, 朝倉書店, 2008

アイン・ランド (著), 田村 洋一 (監修), オブジェクティビズム研究会 (翻訳), SELFISHNESS(セルフィッシュネス) —— 自分の価値を実

現する, Evolving, 2021
高橋 昌一郎 (監修), パラドックス大図鑑, ニュートンプレス, 2021
D. マツモト (著), David Matsumoto (原名), 南 雅彦 (翻訳), 佐藤 公代 (翻訳), 文化と心理学—比較文化心理学入門, 北大路書房, 2001
福間詳 著 (著), ストレスのはなし - メカニズムと対処法, 中央公論新社, 2017

遠藤 利彦 (著), 佐久間 路子 (著), 徳田 治子 (著), 野田 淳子 (著), 乳幼児のこころ -- 子育ち・子育ての発達心理学, 有斐閣, 2011
岩田 純一 (著), 発達心理学, 有斐閣, 1992

坂野 雄二 (編集), 臨床心理学キーワード 補訂版, 有斐閣, 2005
大平 英樹 (編集), 感情心理学・入門, 有斐閣, 2010
岩壁 茂 (著), 福島 哲夫 (著), 伊藤 絵美 (著), 臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する, 有斐閣, 2013

宗教学。 Religious Studies. Религиозные исследования. 宗教研究。

仏教伝道協会 (編集) , 仏教聖典, 仏教伝道協会, 1905
中村 圭志, 西洋人の「無神論」日本人の「無宗教」, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019
安田喜憲, 森を守る文明・支配する文明, PHP研究所, 1997
安田喜憲, 一神教の闇—アニミズムの復権, 筑摩書房, 2006
島薗 進, 宗教学の名著30, 筑摩書房, 2008

社会学。経済学。政治学。 Sociology. Economics. Political science. Социология. Экономика. Политология. 社会学。经济学。政治学。

長田 攻一 (著), 社会学の要点整理, 実務教育出版, 1987
新 睦人 (著), 大村 英昭 (著), 宝月 誠 (著), 中野 正大 (著), 中野 秀一郎 (著), 社会学のあゆみ, 有斐閣, 1979
那須 壽 (編さん), クロニクル社会学, 有斐閣, 1997
小林 昇 (編集), 杉原 四郎 (編集), 新版 経済学史, 有斐閣, 1986

山内 昶 (著), タブーの謎を解く—食と性の文化学, 筑摩書房, 1996
マーヴィン ハリス (著), 長島 信弘 (翻訳), 鈴木 洋一 (翻訳), 文化唯物論—マテリアルから世界を読む新たな方法〈上〉, 早川書房, 1987
マーヴィン ハリス (著), Marvin Harris (原名), 板橋 作美 (翻訳), 食と文化の謎, 岩波書店, 2001

森 三樹三郎 (著), 老子・荘子, 講談社, 1994
大城 太 (著), 華僑の奥義 一生お金に困らない儲けと成功の法則, 日本実業出版社, 2019

徳永 恂 (編集), 厚東 洋輔 (編集), 人間ウェーバー—人と政治と学問, 有斐閣, 1995
大塚 久雄 (著), 小野塚 知二 (著), 共同体の基礎理論 他六篇, 岩波書店, 2021
水田 洋 (著), アダム・スミス, 講談社, 1997

村武 精一 (編集), 佐々木 宏幹 (編集), 文化人類学, 有斐閣, 1991
小沢 周三 (著), 小沢 滋子 (著), 影山 昇 (著), 今井 重孝 (著), 教育思想史, 有斐閣, 1993
田中 成明 (著), 竹下 賢 (著), 深田 三徳 (著), 亀本 洋 (著), 平野 仁彦 (著), 法思想史 第2版, 有斐閣, 1997
小笠原 弘親 (著), 藤原 保信 (著), 小野 紀明 (著), 政治思想史, 有斐閣, 1987

伊藤 真 (著), 伊藤真の民法入門 第5版, 日本評論社, 2014
川井 健 (著), 民法入門 第7版, 有斐閣, 2012

塩野七生, マキアヴェッリ語録, 新潮社, 1992
トマス・ホッブズ (著), 高野清弘 (著) , 法の原理 ― 自然法と政治的な法の原理, 行路社, 2016
田中 浩 (著), ホッブズ——リヴァイアサンの哲学者, 岩波書店, 2016

森永 卓郎 (著), なぜ日本だけが成長できないのか, KADOKAWA, 2018
ロナルド ドーア (著), Ronald Dore (原名), 藤井 真人 (翻訳), 日本型資本主義と市場主義の衝突—日・独対アングロサクソン, 東洋経済新報社, 2001

私が執筆した全ての書籍。その一覧。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Sex Differences And Female Dominance
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 性别差异和女性主导地位
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Половые различия и женское превосходство
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 男女の性差と女性の優位性

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Female-Dominated Society Will Rule The World.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性主导的社会将统治世界
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Общество, в котором доминируют женщины, будет править миром.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性優位社会が、世界を支配する。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Mobile Life. Settled Life. The origins of social sex differences.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移动生活。定居生活。社会性别差异的起源。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Мобильная жизнь. Урегулированная жизнь. Истоки социальных различий по половому признаку.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移動生活様式。定住生活様式。社会的性差の起源。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) The essence of life. The essence of human beings. The darkness of them.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物的本质。人类的本质。他们的黑

暗。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Сущность жизни. Сущность человеческих существ. Их тьма.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物の本質。人間の本質。それらの暗黒性。

Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) On Atheism and the Salvation of the Soul. Live by neuroscience!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 论无神论与灵魂的救赎。靠神经科学生存！
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) Об атеизме и спасении души. Живи неврологией!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Dryness. Wetness. Sensation of humidity. Perception of humidity. Personality Humidity. Social Humidity.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) 干性。湿气。湿度的感觉。对湿度的感知。性格湿度。社会湿度。
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Сухость. Мокрота. Сенсация влажности. Восприятие влажности. Личностная влажность. Социальная влажность.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) ドライさ。ウェットさ。湿度の感覚。湿度の知覚。性格の湿度。社会の湿度。

Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Gases and liquids. Classification of behavior and society. Applications to life and humans.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 气体和液体。行为与社会的分类。在生活和人类中的应用。
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Газы и жидкости. Классификация поведения и общества. Применение к жизни и человеку.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 気体と液体。行動や社会の分類。生物や人間への応用。

Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Elements of livability. Functionalism of life. Society as life.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 宜居的要素。生活的功能主义。社会即生活。
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Элементы благоустроенности. Функциональность жизни. Общество как жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) The laws of history. History as a system. History for life.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 历史的规律。历史是一个系统。历史的生物。
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) Законы истории. История как система. История на всю жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Social Theory of Maternal Authority. A Society of Strong Mothers. Japanese Society as a Case Study.
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) 母亲权威的社会理论。强势母亲的社会。以日本社会为个案研究。
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) Социальная теория материнства: Общество сильных матерей. Японское общество как пример.
Iwao Otsuka (Sep 15, 2020) 母権社会論 - 強い母の社会。事例としての日本社会。 -

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Mechanisms of Japanese society. A society of acquired settled groups.
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) 日本社会的机制。后天定居群体的社会。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Механизмы японского общества. Общество приобретенных оседлых групп.
Iwao Otsuka (Aug 28, 2020) 日本社会のメカニズム。後天的定住集団の社会。

Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) Inertial Society
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 惯性社会（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) инерционное общество
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 慣性社会（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Neurosociology
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神经社会学（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Нейросоциология
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神経社会学（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) From transportation-centric society to communication-centric society. The Progress of Transition.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 从以交通为中心的社会向以通信为中心的社会。转型的进展。
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) От общества, ориентированного на транспорт, к обществу, ориентированному на коммуникации. Прогресс переходного периода.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 交通中心社会から通信中心社会へ。移行の進展。

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) The Sociology of the Individual -The Elemental Reduction Approach.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 个人社会学 -元素还原法。
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Социология личности -Элементный подход к сокращению.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 個人の見える社会学　 - 要素還元アプローチ -

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Introduction Of A White Tax To Counter Discrimination Against Blacks.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 引入白人税以打击对黑人的歧视
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Введение белого налога для противодействия дискриминации черных
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 黒人差別対策としての白人税導入

Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Personality and sensation, perception. Light and dark. Warm and cold. Hard and soft. Loose and tight. Tense and relaxed.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 人格与感觉、知觉。明与暗。温暖与寒冷。硬和软。松与紧。紧张与放松。
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Личность и ощущения, восприятие. Светлое и темное. Тепло и холодно. Твердый и мягкий. Свободный и тугой. Напряженный и расслабленный.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 性格と感覚、知覚。明暗。温冷。硬軟。緩さときつさ。緊張とリラックス。

Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Motherhood and Fatherhood. Maternal and paternal authority. Parents and Power.
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) 母性与父性。母权和父权。父母与权力。
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Материнство и отцовство. Материнская и отцовская власть. Родители и власть.
Iwao Otsuka (Nov 22, 2020) 母性と父性。母権と父権。親と権力。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Sex differences and sex discrimination. They cannot be eliminated. Social mitigation and compensation for them.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 性别差异和性别歧视。它们无法消除。对它们进行社会缓解和补偿。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Половые различия и дискриминация по половому признаку. Они не могут быть устранены. Социальное смягчение и компенсация за них.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 男女の性差と性差別。それらは無くせない。それらへの社会的な緩和や補償。

Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Mechanisms of acquired settled group societies. Female dominance.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 后天定居群体社会的机制。女性主导地位。
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Механизмы обществ приобретенных оседлых групп. Доминирование женщин.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 後天的定住集団社会のメカニズム。女性の優位性。

Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Ownership and non-ownership of resources. Their advantages and disadvantages.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 资源的所有权和非所有权。其利弊。
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Владение и не владение ресурсами. Их преимущества и недостатки.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 資源の所有と非所有。その利点と欠点。

Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Wealth and poverty. The emergence of economic disparity. Causes and solutions.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 财富与贫穷。经济差距的出现。原因和解决办法。
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Благополучие и бедность. Появление экономического неравенства. Причины и решения.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Social delinquents. A true delinquent. The difference between the two.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会不良分子。真正的不良分子。两者之间的区别。
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Социальные преступники. Настоящий преступник. Разница между ними.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) How to enjoy game music videos.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) 如何欣赏游戏音乐视频。
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) Как наслаждаться игровыми музыкальными клипами.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) ゲーム音楽動画の楽しみ方。

Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Life worth living. Fulfilling life. The source of them.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 值得生活的生活。充实的生活。他们的源头。
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Жизнь, достойная жизни. Полноценная жизнь. Источник их.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 生きがい。充実した人生。それらの源。

私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。

ご訪問ありがとうございます！

私は本の内容を頻繁に改訂しています。
そのため、読者の皆様には、随時サイトを訪れていただき、新刊や改訂版の書籍をダウンロードしていただくことをお勧めしています。

自動翻訳には以下のサービスを利用しています。

DeepL プロ
https://www.deepl.com/translator

本サービスは以下の会社が提供しています。

DeepL GmbH

私の本の原語は日本語です。
私の本の自動翻訳の順序は以下の通りです。
日本語→英語→中国語、ロシア語

どうぞお楽しみ下さい！

私の略歴。

私は、1964年に、日本の神奈川県で、生まれた。
私は、1989年に、東京大学文学部社会学科を卒業した。
私は、1989年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、社会学の職種に、最終合格した。
私は、1992年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、心理学の職種に、最終合格した。
私は、大学卒業後は、日系大手IT企業の研究所に勤務して、コンピュータのソフトウェアの試作業務に従事した。
私は、現在は、企業を退職して、執筆活動に専念中である。